

2014年度放送大学学部開設予定授業科目講義内容

2013年11月発行

第 31 版

放送大学学園
学務部教務課

目 次

1. 基礎科目

		頁	メディア	単位
番号				
1	健康と社会（'11）	1	R	2
2	運動と健康（'13）	4	TV	2
3	市民のための健康情報学入門（'13）	7	R	2
4	教育と心理の巨人たち（'10）	10	R	2
5	心理と教育を学ぶために（'12）	13	R	2
6	市民と社会を生きるために（'09）-実践のすすめ-	17	R	2
7	市民と社会を知るために（'08）-名著に触れよう-	21	R	2
8	市民と社会を考えるために（'11）	25	R	2
9	問題解決の進め方（'12）	29	TV	2
10	国際理解のために（'13）	32	R	2
11	情報の世界（'10）	35	TV	2
12	遠隔学習のためのパソコン活用（'13）	38	TV	2
13	哲学への誘い（'14）	42	R	2
14	歴史と人間（'14）	45	TV	2
15	日本語からたどる文化（'11）	48	TV	2
16	アジアと漢字文化（'09）	51	TV	2
17	世界の名作を読む（'11）	54	R	2
18	「ひと学」への招待（'12）-人類の文化と自然-	57	R	2
19	自然を理解するために（'12）-現代の自然科学概論-	60	TV	2
20	科学的探究の方法（'11）	64	TV	2
21	初歩からの生物学（'14）	67	TV	2
22	初歩からの物理学（'12）-物理へようこそ-	70	TV	2
23	初歩からの化学（'12）	73	TV	2
24	身近な気象学（'10）	76	TV	2
25	初歩からの数学（'12）	79	TV	2
26	身近な統計（'12）	82	TV	2

2. 基礎科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
27	英文法AtoZ（'13）	85	R	2
28	発音をめぐる冒険（'12）	88	TV	2

3. 共通科目（一般科目）

		頁	メディア	単位
	(人文系)			
29	教育入門（'11）-文献で読み解く教育の社会的基盤-	91	R	2
30	教育史入門（'12）	96	R	2
31	教育と社会（'11）	99	TV	2
32	心理学概論（'12）	102	TV	2
33	発達心理学概論（'11）	105	R	2
34	教育心理学概論（'14）	108	R	2
	(2014年度開設科目)			
35	人格心理学（'09）	111	R	2
36	西洋哲学の誕生（'10）	114	R	2
37	近代哲学の人間像（'12）	117	R	2
38	芸術史と芸術理論（'10）	120	TV	2
39	日本近現代史（'09）	123	R	2
40	地中海世界の歴史（'09）-古代から近世-	126	TV	2
41	日本文学概論（'12）	129	R	2
42	日本の近代文学（'09）	132	R	2
43	言葉と発想（'11）	135	R	2
44	グローバル化時代の人文地理学（'12）	139	TV	2
45	博物館概論（'11）	142	TV	2
	(社会系)			
46	生活経済学（'12）	145	R	2
47	社会福祉入門（'12）	148	TV	2
48	現代の生活問題（'11）	152	R	2
49	生活者のための不動産学入門（'13）	156	TV	2
50	社会調査（'09）	159	TV	2
51	社会統計学入門（'12）	162	R	2
52	社会学入門（'10）	165	TV	2
53	経済学入門（'13）	168	R	2
54	市民社会と法（'12）	171	R	2
55	事例から学ぶ日本国憲法（'13）	174	TV	2
56	政治学入門（'12）	177	R	2
57	経営学入門（'12）	180	R	2
58	社会のなかの会計（'12）	183	TV	2
59	多様化時代の労働（'10）	186	R	2
60	技術者倫理（'09）	189	TV	2
61	技術経営の考え方（'11）	192	R	2

		頁	メディア	単位
	(自然系)			
62	疾病の成立と回復促進 (' 1 1)	195	TV	2
63	人体の構造と機能 (' 1 2)	198	TV	2
64	疾病の回復を促進する薬 (' 1 3)	201	TV	2
65	睡眠と健康 (' 1 3)	204	R	2
66	生物圏の科学 (' 1 2) -生物集団と地球環境-	207	TV	2
67	物理の世界 (' 1 1)	210	TV	2
68	基礎化学 (' 1 1)	213	TV	2
69	宇宙を読み解く (' 1 3)	217	TV	2
70	惑星地球の進化 (' 1 3)	220	TV	2
71	入門線型代数 (' 1 4) (2 0 1 4 年度開設科目) ..	224	TV	2
72	微分と積分 (' 1 0)	227	TV	2
73	解析入門 (' 1 4) (2 0 1 4 年度開設科目) ..	230	R	2
74	計算事始め (' 1 3)	233	TV	2
75	デジタル情報と符号の理論 (' 1 3)	236	TV	2
76	日常生活のデジタルメディア (' 1 4) (2 0 1 4 年度開設科目) ..	239	TV	2
77	情報ネットワーク (' 1 4) (2 0 1 4 年度開設科目) ..	242	R	2
78	情報社会の法と倫理 (' 1 4) (2 0 1 4 年度開設科目) ..	245	R	2

4. 共通科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
	（英語）			
79	英語圏の言語と文化（'11）.....	248	R	2
80	英語の軌跡をたどる旅（'13）-The Adventure of Englishを読む-.....	251	R	2
81	英語で描いた日本（'14）.....（2014年度開設科目）...	254	TV	2
	（ドイツ語）			
82	ドイツ語入門Ⅰ（'11）.....	257	TV	2
83	ドイツ語入門Ⅱ（'11）.....	260	R	2
	（フランス語）			
84	フランス語入門Ⅰ（'12）.....	263	TV	2
85	フランス語入門Ⅱ（'12）.....	266	R	2
	（中国語）			
86	中国語Ⅰ（'14）-北京のふたり-.....（2014年度開設科目）...	269	TV	2
87	中国語Ⅱ（'14）-汪曾祺「我的母親」他-.....（2014年度開設科目）...	273	R	2
	（スペイン語）			
88	初歩のスペイン語（'13）.....	276	R	2
	（韓国語）			
89	韓国語入門Ⅰ（'12）.....	279	TV	2
90	韓国語入門Ⅱ（'12）.....	282	R	2
	（アラビア語）			
91	初歩のアラビア語（'11）.....	285	TV	2

5. 専門科目

生活と福祉コース		頁	メディア	単位
(生活)				
92	生活知と科学知（'09） ^①	289	TV	2
93	リスク社会のライフデザイン（'14）－変わりゆく家族をみすえて－ ^① （2014年度開設科目）..	292	R	2
94	人口減少社会のライフスタイル（'11） ^①	295	TV	2
95	ものとして、心としての衣服（'11） ^①	298	R	2
96	食と健康（'12） ^①	301	TV	2
97	食安全性学（'14） ^①	305	TV	2
98	住まい論（'10） ^①	308	TV	2
99	新しい住宅の世界（'13） ^①	312	TV	2
100	臨床家族社会学（'14） ^①	316	R	2
(健康)				
101	公衆衛生（'09） ^①	319	R	2
102	循環器病の健康科学（'11） ^①	323	TV	2
103	感染症と生体防御（'14） ^①	327	R	2
104	リハビリテーション（'13） ^①	330	R	2
105	今日のメンタルヘルス（'11） ^①	333	R	2
106	看護学概説（'10） ^①	336	R	2
107	基礎看護学（'10） ^①	339	TV	2
108	在宅看護論（'11） ^①	342	TV	2
109	災害看護学・国際看護学（'14） ^①	345	TV	2
(福祉)				
110	子どもの生活と児童福祉（'11） ^①	348	R	2
111	高齢者の生活保障（'11） ^①	351	TV	2
112	障がいのある生活を支援する（'13） ^①	354	TV	2
113	地域福祉の展開（'14） ^①	357	TV	2
114	社会保険の現代的課題（'12） ^①	360	R	2
115	アジアの社会福祉と国際協力（'14） ^①	363	R	2
116	欧米の社会福祉の歴史と展望（'11） ^①	366	TV	2

①：旧カリキュラム「生活と福祉専攻」の科目です。

心理と教育コース

頁

メディア

単位

	(教育)			
117	現代の生涯学習（'12） 発	369	R	2
118	地域社会の教育的再編（'12） 発	373	TV	2
119	家庭教育論（'12） 発	376	R	2
120	児童・生徒指導の理論と実践（'11） 発	379	TV	2
121	乳幼児の保育と教育（'11）-子どもの最善の利益を求めて- 発	382	R	2
122	学校と法（'12） 発	385	R	2
123	子ども・若者の文化と教育（'11） 発	388	R	2
124	授業研究と学習過程（'10） 発	391	R	2
125	道徳教育論（'09） 発	394	R	2
126	肢体不自由児の教育（'14） 発	397	TV	2
		(2014年度開設科目)		
127	特別支援教育基礎論（'11） 発	400	R	2
128	特別支援教育総論（'11） 発	403	R	2
129	知的障害教育総論（'10） 発	406	TV	2
	(心理)			
130	認知神経科学（'12） 発	409	TV	2
131	錯覚の科学（'14） 発	412	TV	2
		(2014年度開設科目)		
132	認知心理学（'13） 発	415	TV	2
133	乳幼児心理学（'12） 発	418	TV	2
134	交通心理学（'12） 発	422	TV	2
135	心理統計法（'11） 発	425	TV	2
136	比較行動学（'11）-ヒト観の再構築- 発	428	R	2
137	心理学史（'10） 発	431	TV	2
138	心理学研究法（'14） 発	434	R	2
		(2014年度開設科目)		
139	社会心理学（'14） 発	437	R	2
		(2014年度開設科目)		
140	学力と学習支援の心理学（'14） 発	440	TV	2
	(臨床心理)			
141	心理臨床の基礎（'14） 発	443	R	2
		(2014年度開設科目)		
142	心理カウンセリング序説（'09） 発	446	R	2
143	精神分析とユング心理学（'11） 発	449	R	2
144	認知行動療法（'14） 発	452	TV	2
		(2014年度開設科目)		
145	心理臨床とイメージ（'10） 発	455	TV	2
146	スクールカウンセリング（'10） 発	458	TV	2
147	乳幼児・児童の心理臨床（'11） 発	462	TV	2
148	思春期・青年期の心理臨床（'13） 発	465	R	2
149	中高年の心理臨床（'14） 発	468	R	2
		(2014年度開設科目)		

発：旧カリキュラム「発達と教育専攻」の科目です。

社会と産業コース

頁

メディア

単位

(社会・経済)

150	都市社会の社会学（'12）	社	471	R	2
151	現代都市とコミュニティ（'10）	社	474	TV	2
152	社会と銀行（'14）	社	477	TV	2
153	現代経済学（'13）	社	480	TV	2
154	労働経済（'12）	社	483	TV	2
155	日本経済史（'12）	社	486	R	2

(法律・政治)

156	市民生活と裁判（'12）	社	489	TV	2
157	現代の犯罪と刑罰（'09）	社	493	R	2
158	民法（'13）	社	496	R	2
159	行政法（'12）	社	499	R	2
160	現代環境法の諸相（'13）	社	502	TV	2
161	企業・消費者・政府と法（'11）-消費生活と法-	社	505	R	2
162	国際法（'14）	社	508	R	2
163	著作権法概論（'14）	社	511	R	2
164	西洋政治理論の伝統（'09）	社	514	R	2
165	現代日本の政治（'11）	社	517	TV	2
166	日本政治外交史（'13）	社	520	TV	2
167	現代行政学（'12）	社	523	R	2
168	現代の国際政治（'13）	社	526	TV	2
169	現代東アジアの政治と社会（'10）	社	529	R	2
170	現代南アジアの政治（'12）	社	533	TV	2

(産業・経営)

171	マーケティング（'13）	産	536	TV	2
172	国際経営（'13）	産	539	R	2
173	管理会計（'14）	産	542	R	2
174	初級簿記（'10）	産	545	R	2
175	ファイナンス入門（'12）	産	548	TV	2
176	ケースで学ぶ現代経営学（'12）	産	551	TV	2
177	組織運営と内部監査（'13）	産	554	TV	2
178	NPOマネジメント（'11）	産	557	R	2
179	大学マネジメント論（'14）	産	560	R	2
180	アグリビジネスと日本農業（'14）	産	563	R	2
181	グローバル化と日本のものづくり（'11）	産	566	TV	2

(社会技術)

182	社会技術概論（'12）	産	569	TV	2
183	物質・材料工学と社会（'11）	産	572	TV	2
184	バイオテクノロジーと社会（'09）	産	575	TV	2
185	産業とデザイン（'12）	産	579	TV	2
186	環境デザイン論（'09）	産	582	TV	2
187	都市・建築の環境とエネルギー（'14）	産	585	TV	2

社：旧カリキュラム「社会と経済専攻」の科目です。

産：旧カリキュラム「産業と技術専攻」の科目です。

人間と文化コース		頁	メディア	単位
(哲学・芸術)				
188	実存と現象学の哲学（'09） 人	589	R	2
189	功利主義と分析哲学（'10）-経験論哲学入門- 人	594	R	2
190	現代哲学への挑戦（'11） 人	597	R	2
191	ドイツ哲学の系譜（'14） 人(2014年度開設科目)...	600	R	2
192	仏教と儒教（'13）-日本人の心を形成してきたもの- 人	603	R	2
193	日本美術史（'14） 人(2014年度開設科目)...	606	TV	2
194	西洋音楽史（'13） 人	609	R	2
195	舞台芸術への招待（'11） 人	612	TV	2
(歴史・地域文化)				
196	日本古代中世史（'11） 人	615	TV	2
197	日本近世史（'13） 人	619	R	2
198	北東アジアの歴史と朝鮮半島（'09） 人	622	R	2
199	歴史からみる中国（'13） 人	625	TV	2
200	イスラーム世界の歴史的展開（'11） 人	628	TV	2
201	ヨーロッパの歴史と文化（'09）-中世から近代- 人	631	TV	2
202	南北アメリカの歴史（'14） 人(2014年度開設科目)...	634	TV	2
(文学・言語文化)				
203	日本文学の読み方（'09） 人	637	R	2
204	和歌文学の世界（'14） 人(2014年度開設科目)...	640	TV	2
205	日本の物語文学（'13） 人	643	R	2
206	ヨーロッパ文学の読み方-古典篇（'14） 人(2014年度開設科目)...	646	R	2
(人類学・比較文化)				
207	文化人類学（'14） 人(2014年度開設科目)...	649	TV	2
208	グローバリゼーションの人類学（'11）-争いと和解の諸相- 人	652	TV	2
209	博物館教育論（'12） 人	655	R	2
210	博物館資料論（'12） 人	658	TV	2
211	博物館資料保存論（'12） 人	661	TV	2
212	博物館展示論（'12） 人	664	TV	2
213	博物館情報・メディア論（'13） 人	667	TV	2
214	博物館経営論（'13） 人	670	R	2

人：旧カリキュラム「人間の探究専攻」の科目です。

情報コース ※2013年度新設コース

		頁	メディア	単位
215	問題解決の数理（'13）	673	TV	2
216	コンピュータと人間の接点（'13）	676	TV	2
217	メディアと学校教育（'13）	679	TV	2
218	データ構造とプログラミング（'13）	682	TV	2
219	コンピュータの動作と管理（'13）	685	TV	2
220	コンピュータのしくみ（'14）	688	TV	2
221	ソフトウェアのしくみ（'14）	691	TV	2
222	ネットワークとサービス（'12）	694	TV	2
223	データからの知識発見（'12）	697	TV	2
224	情報機器利用者の調査法（'12）	700	TV	2
225	映像メディアとCGの基礎（'12）	703	TV	2
226	デジタル情報の処理と認識（'12）	706	TV	2
227	記号論理学（'14）	709	TV	2
228	情報社会のユニバーサルデザイン（'14）	712	TV	2
229	情報のセキュリティと倫理（'14）	715	TV	2
230	通信概論（'14）	718	R	2
231	数値の処理と数値解析（'14）	721	R	2
232	情報化社会と教育（'14）	724	R	2

自然と環境コース		頁	メディア	単位
(生命・生態)				
233	生命分子と細胞の科学 (' 1 3) (自)	727	TV	2
234	生物界の変遷 (' 1 1) ー進化生物学入門ー (自)	730	TV	2
235	植物の科学 (' 0 9) (自)	733	TV	2
236	動物の科学 (' 0 9) (自)	736	TV	2
(物質・エネルギー)				
237	力と運動の物理 (' 1 3) (自)	740	TV	2
238	場と時間空間の物理 (' 1 4) ー電気、磁気、重力と相対性理論ー (自) (2 0 1 4 年度開設科目) ...	743	TV	2
239	量子物理 (' 0 9) (自)	746	TV	2
240	量子化学 (' 0 9) (自)	750	TV	2
241	生活と化学 (' 1 4) (自)(2 0 1 4 年度開設科目) ...	753	R	2
242	現代化学 (' 1 3) (自)	756	TV	2
(宇宙・地球)				
243	進化する宇宙 (' 1 1) (自)	759	TV	2
244	太陽系の科学 (' 1 4) (自)(2 0 1 4 年度開設科目) ...	762	TV	2
245	地球のダイナミックス (' 1 0) (自)	766	TV	2
(数理)				
246	代数の考え方 (' 1 0) (自)	770	R	2
247	空間とベクトル (' 0 9) (自)	773	TV	2
248	微分方程式への誘い (' 1 1) (自)	776	TV	2
249	統計学 (' 1 3) (自)	779	R	2
250	数学の歴史 (' 1 3) (自)	782	TV	2

(自): 旧カリキュラム「自然の理解専攻」の科目です。

6. 総合科目

		頁	メディア	単位
251	安全・安心と地域マネジメント（'14）.....（2014年度開設科目）..	785	TV	2
252	死生学入門（'14）.....（2014年度開設科目）..	790	R	2
253	社会福祉と権利擁護（'12）.....	794	R	2
254	格差社会と新自由主義（'11）.....	797	TV	2
255	消費者と証券投資（'11）.....	801	TV	2
256	世界の中の日本（'09）.....	804	TV	2
257	Political Economy of Japan（'10） -Growth, Challenges and Prospects for a Well-Being Nation-	807	TV	2
258	進化する情報社会（'11）.....	812	TV	2
259	観光の新しい潮流と地域（'11）.....	815	TV	2
260	環境と社会（'09）.....	818	R	2
261	エネルギーと社会（'11）.....	821	TV	2
262	色を探究する（'13）.....	824	TV	2
263	文学のエコロジー（'13）.....	827	R	2
264	社会の中の芸術（'10）.....	830	TV	2
265	途上国を考える（'14）.....（2014年度開設科目）..	833	TV	2
266	国際ボランティアの世紀（'14）.....（2014年度開設科目）..	836	TV	2
267	技術マネジメントの法システム（'14）.....（2014年度開設科目）..	840	R	2

7. 夏季集中科目

司書教諭資格取得に資する科目		頁	メディア	単位
268	学校経営と学校図書館（'13）.....	843	R	2
269	学校図書館メディアの構成（'12）.....	846	R	2
270	学習指導と学校図書館（'10）.....	849	TV	2
271	読書と豊かな人間性（'09）.....	852	R	2
272	情報メディアの活用（'10）.....	855	TV	2

看護師資格取得に資する科目				
273	成人看護学（'14）.....（2014年度開設科目）...	858	R	2
274	老年看護学（'13）.....	861	R	2
275	小児看護学（'10）.....	864	TV	2
276	母性看護学（'14）.....（2014年度開設科目）...	867	TV	2
277	精神看護学（'09）.....	870	R	2
278	看護管理と医療安全（'12）.....	873	R	2

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1224115	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 健康と社会 （'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：井上洋士（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山崎喜比古（日本福祉大学客員教授）〕

講義概要

健康についての学問はこれまで「健康状態や病気についての生物医学」が主流であり、疾病や健康状態そのものの知識や理解が中心である。しかし今後は「健康への力」を身につけていくことが求められるようになるだろう。このような時代の「健康への科学」は、行動科学、社会科学など社会諸科学がリンクしたものでなくてはならない。そして、保健医療の専門家でなく市民・住民の立場であっても、保健医療の主体者、または賢いユーザー、良識のある社会人として考え行動していく力を身につけることが必要となる。本講義では、そうした健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、一社会人として健康や病気への積極的に対峙する力を育む内容とする。

この講義では、私たちの健康や生活を取りまくさまざまな社会状況について取り上げながら、納得のいく医療を受け、社会や環境を健康的によりよく変えていくための視点、考え方、行動、スキルについて、学生らが自分自身の問題として習得することを狙いとする。

授業の目標

健康・病気と保健・医療の問題を、市民・住民の問題として社会的にみること、あるいは社会的に対応することの重要性の一端を理解する。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	健康とは何か	健康の定義は様々である。歴史とともに健康や病気、疾患のとらえ方が変わってきている。しかしながら近年では一定の動向が見受けられる。本講義では「健康」とは何か、「社会」とは何かについて、その概略を紹介し、健康と社会とのかかわりについて考える機会としたい。あわせて、2回目以降の授業において、どのように学んでいったらいいのかについて、その一端を紹介する。 【キーワード】 健康、権利、病気、疾患	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)
2	病いの経験と患者の生活の質	人々は病気になると、様々な苦痛を感じるようになる。たとえば、社会とのかかわりが切れてしまうといった出来事も起こりうる。こうした病いとともに生きていく経験は、時として生活の質を低下させることにもつながりかねない。本章では、病気になるとはどういうことなのか、どういった障害を伴うものなのかについて整理していく。 【キーワード】 生活の質、病いの経験、病の問題、ナラティブ、説明モデル	戸ヶ里 泰典 (放送大学准教授)	戸ヶ里 泰典 (放送大学准教授)
3	社会によりもたらされる健康と病気	健康や病気は、個人の努力や日々の積み重ねによってもたらされるが、それと同時に社会構造によってもたらされる側面もある。個人では解決しにくい病気や、健康の獲得について、薬害HIV感染事件を例にあげつつ、具体的に紹介する。患者参加型の医療についても取り上げる。 【キーワード】 社会構造、ヘルスプロモーション、協働、個人、薬害	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授) ゲスト・スピーカー：大平勝美(社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	健康で明るく元気に働き続けられる労働・職場の条件	近年、企業などが被雇用者に対して「上手な働かせ方」をさせることが重要と指摘されている。働く人たちの健康維持・増進にとって理にかなった労働・職場とはどういうもの、どういふところなのか、その実現のためにはどういふ進め方が重要なのかについて明確にする。 【キーワード】 上手な「働かせ方」、疲労・ストレス、健康職場	山崎 喜比古 (日本福祉大学客員教授)	山崎 喜比古 (日本福祉大学客員教授) ゲストスピーカー カー:河合薫 (キャスター・気象予報士・健康社会学者)
5	健康とワーク・ライフ・バランス	21世紀に入り、ワーク・ライフ・バランスの必要性が大きくクローズアップされている。働く人々の暮らしや人生を豊かで充実させる「働き方」はどのようなものなのか、ワーク・ライフ・バランスの実現を可能にするために社会に求められる取り組みはどうあるべきなのかについて、調査研究結果などをもとに具体的に考えていく。 【キーワード】 働き方、ワーク・ライフ・バランス、長時間労働、余暇、家事・育児	山崎 喜比古 (日本福祉大学客員教授)	山崎 喜比古 (日本福祉大学客員教授)
6	賢い医療消費者になるには	人は誰でも一度は医療と接する機会がある。その国々の社会保障システムの中でヘルスケア・サービスは提供されており、我が国においては公費負担医療や医療扶助などを除けば、基本的には一部自己負担によりサービスが提供される。市場の中でヘルスケア・サービスは提供され、基本的に市民はサービスを購入することになる。賢い医療消費者になることは、よりよく生き抜くために重要なことであることを理解する。 【キーワード】 医療消費者(ヘルスケア・コンシューマー)、医療法、医療保障制度、ヘルスケアシステム、コンシューマー・オリエンティッド	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授)	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授)
7	患者の権利と医療の質	患者には病状や治療内容など自らの身体に関する情報について真実を伝えられる権利や、自らの身体になされる侵襲行為について危険性など知らされる権利がある。また、医療の質を高めるためにはどのようなことが重要であるかを理解しておくことが必要である。さらに、患者安全や医療事故については、これまで患者の立場に立ち、薬害エイズ、ハンセン病、薬害肝炎などを含む多くの医療過誤訴訟に携わってきた弁護士でもあるゲスト・スピーカーの鈴木利廣先生とともに考察する。 【キーワード】 患者の権利、医療情報の開示、医療の質、医療評価、患者安全、医療事故	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授)	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授) ゲスト・スピーカー 鈴木利廣(弁護士・医療問題弁護団 代表)
8	医療倫理をめぐる今日的課題	医療の目的は究極的には、「人間の幸福にどれだけ貢献可能であるか」ということができる。科学技術のめざましい進歩によりさまざまな人間の生命に関するアプローチが可能となってきた。ここで重要なことは、個々人の幸福の追求と人類全体としての発展が調和され、社会的倫理観が形成されていくことである。医療倫理をめぐる具体的な今日的課題ごとに検討する。 【キーワード】 医療倫理、医療者－患者関係、「生」に関する倫理、「死」に関する倫理、自己決定、先端医療	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授)	一戸 真子 (埼玉学園大学大学院教授)
9	「医療と情報提供」	医療に関する情報は、人々が病いと向き合ったり医療と付き合ったりする際に重要な資源となり得る。がん診療連携拠点病院内には相談支援センターがあり、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する情報提供体制を整えている。このセンターを例として、医療と情報提供のあり方について考える。 【キーワード】 がん診療連携拠点病院、相談支援、ヘルスリテラシー、情報提供の仕組み	高山 智子 (国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長)	高山 智子 (国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	医療システムの未来 ーともに創る医療	医療システムの未来を考えると、これまでチーム医療など でしばしば語られる「患者中心型」のみではなく、また、しば しば医療者を批判的に捉えがちな「医療者ー患者関係」と いう概念だけではなく、患者と医療者とが相互に良好な関 係を保ち協働でつくりだす医療システムが求められる。そこ で、そうした例について、がん医療の現場を例に紹介する。 【キーワード】 患者ー医療者コミュニケーション、患者ー医療者関係、ピ ア・サポート、帰属集団、パートナーシップ	高山 智子 (国立がんセ ンター がん対 策情報セン ター がん情 報・統計部 室 長)	高山 智子 (国立がんセ ンター がん対 策情報セン ター がん情 報・統計部 室 長) ゲス ト・スピーカー 佐々木佐久 子(特定非営 利活動法人 広島がんサ ポート 理事)
11	感染症と人権問題	感染症は、間もなくなくなると言われてからすでに長期間が 経過した。その間、新たな感染症が次々と登場し、パンデ ミックを引き起こし、リスクマネジメントの問題が浮きあがり 、感染症に対する恐れや感染者への偏見の問題がクロー ズアップされてきている。こうした感染症と人権問題につい て説明する。あわせてマスメディアでの感染症の取り扱いに ついて、その一端を概観する。 【キーワード】 感染症、人権、差別、偏見、スティグマ、マスメディア	井上 洋士 (放送大学教 授)	井上 洋士 (放送大学教 授)
12	セクシュアリティと健 康	セクシュアリティについての問題は今日複雑になりつつあ る。そして、新たな秩序の模索(あるいは、秩序すら必要な いという議論)や、ジェンダーの視点から健康やケアを考 える試みも少なからずされている。そこで、ジェンダーとは何 か、セクシュアリティとは何かなどについて説明するととも に、それらに関連した健康問題のいくつかを紹介する。 【キーワード】 性、セクシュアリティ、ジェンダー	井上 洋士 (放送大学教 授)	井上 洋士 (放送大学教 授) ゲス ト・スピー カー 池上千 寿子(特定非 営利活動法 人ふれいす 東京 代表)
13	ストレスに向き合い つつ健康に生きる	生きるということは、ストレスと上手に向かうことともいえる。す なわち、ストレスに向き合ったとき、ソーシャル・サポート など周囲の資源を活用しながら健康を守るだけでなく、そう したストレスを成長の糧にすることも、よりよく生きるた めには重要なことと言えよう。そこで、そうしたストレスーとの 向き合い方について考える。 【キーワード】 ストレス、ストレスプロセス、ストレス対処、首尾一貫感 覚、ストレス関連成長	戸ヶ里 泰典 (放送大学准 教授)	戸ヶ里 泰典 (放送大学准 教授)
14	健康と格差	健康の格差がしばしば話題になる。その格差は物的・経済 的あるいは文化的・行動的な差によるものだけでない。 人々が持つ信頼関係や人間関係(社会的ネットワーク)、す なわちソーシャル・キャピタルの差もかかわってくる。健康の 格差にはどのようなものがあり、それらはどう生じてくるの か、その一端について説明する。 【キーワード】 社会経済的地位、社会格差、健康の不平等、ソーシャル キャピタル	戸ヶ里 泰典 (放送大学准 教授)	戸ヶ里 泰典 (放送大学准 教授)
15	健康を社会的に見る とはー健康と社会の 新しい見方・考え方	健康・病気と保健・医療を市民・住民の問題として社会的に 見ること・社会的に対応することの重要性は何だといえるだ ろうか。これまでの14回分の授業をまとめることを通じて、そ の答を発展的に模索する契機とする。また、同様のテーマ でさらに学びを深めたい方々のために、健康社会学などの 学問分野についても紹介する。 【キーワード】 社会、個人、地域、患者、医療従事者、健康不安、健康社 会学	井上 洋士 山崎 喜比古 高山 智子 戸ヶ里 泰典 一戸 真子	井上 洋士 山崎 喜比古 高山 智子 戸ヶ里 泰典 一戸 真子

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234099	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 運動と健康 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 臼井永男（放送大学・教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】【

講義概要

近年、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進を目的とした、スポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。本講義では、からだを動かすことの重要性について述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示する。

授業の目標

この講義によって、運動の重要性に関する知識を修得するに留まることなく、スポーツを始めるきっかけもつかんでいただけることを目標としている。

履修上の留意点

本学では、「保健体育」という科目名の教材を開講していない。当科目は、その保健体育科目に該当するものであり、これによって保健体育科目を履修したものとみなされる。したがって、「保健体育」の単位を取得する必要がある場合には、この科目を履修することをお奨めする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ヒトのからだ	ヒトは、直立・二足歩行という特有の移動様式を呈する。宇宙の歴史からみると、人類の歴史は極めて短い、からだのかたちや仕組みには、二足歩行に都合よくできている箇所がいくつか観察される。本章では、このようなヒトのからだの特徴について概説する。 【キーワード】 人類の歴史、直立・二足歩行	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
2	神経系の構造と働き	神経系は、構造上から中枢神経系と末梢神経系とに区分される。また、その働きから、運動神経系、知覚神経系ならびに自律神経系に区分される。本章では、からだの各器官を連結し、制御する神経系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 ニューロン、シナプス、統合、制御	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
3	呼吸・循環系の構造と働き	ヒトは、栄養素の分解に必要な酸素を取り入れ、その分解によって生じた二酸化炭素を排出している。本章では、これらのガス交換と、その運搬に関わっている呼吸器系ならびに循環器系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 肺、心臓、血管、ガス交換	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	運動器の構造と働き	骨格筋のほとんどが、関節を介して2つ以上の骨に付着している。中枢からからの運動神経を介して刺激を受けると筋は収縮し、運動が励起される。本章では、運動に携わっている骨、関節、筋肉の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 骨、関節、筋線維、筋収縮	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
5	運動のエネルギー	筋収縮に必要な直接のエネルギーは、アデノシン三リン酸である。この物質を再合成するためにはエネルギーが必要である。本章では、運動に必要なエネルギー供給機構ならびに栄養摂取について概説する。 【キーワード】 エネルギー供給機構、無酸素性作業閾値	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
6	基礎的な動作の発達	複雑な応用動作を獲得する前に、立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的な動作を身につけなければならない。本章では、誕生から成人と同様な歩行を獲得するまでの運動発達の様相について概説する。 【キーワード】 幼児期、運動発達、デンバースケール	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
7	成長期の体力	体力が、からだの外部に働きかける能力として捉えられ、巧みさ、ねばり強さ、力強さに分類されることがある。これらの体力要素は、その発達時期が異なることが知られている。本章では、内臓、筋線維の発達、ならびに身長の間年発育量の変化と体力の発達の関係について概説する。 【キーワード】 体力、身長の間年発育量	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
8	巧みさの向上	体力のなかで、技術に関連した構成要素として、敏捷性、バランス、協調、瞬発力、反応時間、スピードなどがあげられる。本章では、いわゆる「うまい」と称される巧みさの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 スキル、運動制御、神経系	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
9	ねばり強さの向上	ねばり強さは、部分的な筋持久力と全身持久力として評価される。それは、ねばり強さのトレーニングによって向上する。本章では、ねばり強さの向上に必要な要素とその方法について概説する。 【キーワード】 持久力、呼吸・循環系、タイプⅠの筋線維	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
10	力強さの向上	筋線維を構成しているたんぱく質が破壊されると、新しいものに作り変えられる。活動している筋肉は、破壊が大きいと修復も大きくなる。トレーニングによって傷ついた筋線維は、修復によってさらに大きくなる。本章では、力強さの向上に必要な要素とその方法について概説する。 【キーワード】 筋力、筋の可塑性、筋肥大、タイプⅡの筋線維	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	加齢による体力の変化	体力は、20歳代をピークにして、その後は加齢にしたがって低下傾向を示す。しかし、その様相は体力要素によって異なる。本章では、体力の加齢現象と、体力低下を軽減するための、中高年者に推奨される運動について概説する。 【キーワード】 体力、加齢	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
12	リハビリテーション体育	運動は、怪我や病気から復帰するために極めて有効な手法であることが知られている。本章では、怪我や病気の治療を目的に実施される体育・スポーツ、さらに、障害者が人生をより豊かにするために実施しているスポーツについて概説する。 【キーワード】 リハビリテーション、障害者スポーツ	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
13	トレーニングの基礎原理	からだには多様な機能があり、その適応能力は、性、年齢、健康・体力状態などによって異なる。本章では、安全で有効なトレーニングを行うために留意しなければならない、基本的な考え方について概説する。 【キーワード】 オーバートレーニング、オーバーロードの原理	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
14	スポーツの文化	スポーツは、人間らしさを表現したり、味わったりすることができる重要な文化のひとつでもある。大きく、競技志向型スポーツと健康志向型スポーツに区分されることがある。本章では、人間とスポーツの関わりについて、またスポーツは人類に何をもたらしたのかについて概説する。 【キーワード】 スポーツ人類学	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)
15	生涯スポーツへの誘い	不活動による弊害、運動不足の影響については、すでに周知されているところである。本章では、生活習慣病の予防と改善、生活の質のさらなる向上が期待されるスポーツを、日常生活に取り入れることの重要性や課題について概説する。 【キーワード】 HQOL、生涯スポーツ、廃用症候群	臼井永男(放送大学教授)	臼井永男(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234102	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 市民のための健康情報学入門 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：戸ヶ里泰典（放送大学准教授）〕
 〔主任講師（現職名）：中山和弘（聖路加看護大学教授）〕
 【本学担当専任教員：】

講義概要

私たちが健康的な生活を進めていくうえで、「情報」は必要不可欠なものとなっている。生活を送る上で私たちは様々な選択に迫られるが、こうした選択（意思決定）を助けてくれるのが情報である。かつて健康に関する情報は一部の専門家の手に握られており、私たち市民の手に渡るのは新聞やテレビや雑誌などを通じてしか手に入れることができなかった。しかし昨今はインターネットの発達によって大量の健康に関する情報を手に入れることができるようになり、よりよい意思決定に結び付けられるべく情報を見極めなければならなくなった。その一方で、私たち市民は保健医療のサービスを受ける際も、主体性を求められ、かつてのように医師をはじめとした専門家の判断に任せるのではなく、賢いサービスユーザー、良識ある一個の社会人として判断し行動することが求められるようになっている。この授業では、受講者が一社会人として健康に関する情報を探し、理解し、活用する力として近年脚光を浴びているヘルスリテラシーを身につけるべく、換言すれば「健康を決める力」をつけるべく、「情報」から「保健医療」さらに「コミュニティ（共同体）」にいたるまで健康にかかわる意思決定に役立つ知識やものの見方・考え方、そしてスキルを習得することをねらいとする。

授業の目標

この授業では、受講者が、自身の健康を決める力を身につけ、健康にかかわる問題が起きて選択にせまられた時に、こうした力を活用しよりよい生活を送れるようになることを最終目標とする。

履修上の留意点

本授業内容は放送授業「健康と社会（'11）」における学習内容の生活実践的な側面も含む。併せて受講することをお勧めする。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	健康における情報と意思決定	メディアにあふれる健康や医療の情報から、適切な情報を探し、理解し、活用する力が自らの健康を決定していることを学習する。わたしたちのふだんの行動が健康に影響しているからで、その影響の大きさについて知る。また、医療は不確実なものであるために、どのような情報が信頼できるものなのか、情報とリスクについても概説する。 【キーワード】 情報、コミュニケーション、ヘルスリテラシー、意思決定、健康を決める力、ライフスタイルと健康、EBM、確率とリスク	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)
2	より良い意思決定とは何か	健康や医療においては情報に基づく意思決定が重要である。本章では、まず情報とは何かについて、データや知識との違いや知識の持つ重要性などから解説する。その情報を用いて、その人に合ったよりよい意思決定をするために、どのような意思決定の方法があるのか、そのとき必要になること、葛藤やジレンマ、支援の必要性について学習する。 【キーワード】 データと情報と知識、選択肢、意思決定、ベネフィットとリスク、期待価値と期待効用、意思決定支援	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)
3	信頼できる情報とは ①エビデンスに基づいた情報	治療から健康法にいたるまで、保健医療サービスはエビデンスと呼ばれる科学的根拠に基づいて行われている。エビデンスには、低いランクから高いランクまでレベルが存在している。情報がどのランクなのかを踏まえることでより良い意思決定に近づくことができる。エビデンスはどこを探せば出てくるのか、ランクはどのように見抜けば良いのか、そしてエビデンスを利用する際にどのような注意点があるのか、具体例を交えながら説明していく 【キーワード】 科学的根拠（エビデンス）、エビデンスレベル、EBM、有意確率	戸ヶ里泰典 (放送大学・准教授)	戸ヶ里泰典 (放送大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	信頼できる情報とは ②ナラティブ情報	患者やその家族が経験を語ることをナラティブ(Narrative)と呼ばれている。かつてナラティブは医療を混乱させるものとして、排除される傾向にあった。しかし近年ではナラティブに光が当てられてきている。ナラティブに基づいた医療(Narative Based Medicine)と言われる用語も出現してきている。ここでは、ナラティブとは何かに始まり、ナラティブがなぜ医療者・患者・市民にとって重要であるのか、どのように活用するのか説明する。 【キーワード】 ナラティブ、闘病記、闘病ブログ、ナラティブに基づいた医療	戸ヶ里泰典 (放送大学・准教授)	戸ヶ里泰典 (放送大学・准教授) ゲストスピーカー: 星野史雄 (元東京家政大学・非常勤講師)
5	インターネット上の保健医療情報の見方探し方	インターネットは私たちの生活の中で欠かせないものとなってきている。インターネットを利用することは、健康につながっていることも示されている。その一方でインターネットには様々な情報があふれ、信頼できない情報を提供するサイトもまた多く存在している。こうしたインターネット上の健康情報の見方や情報の手に入れ方については様々な注意が必要である。いかにして注意し、いかにしてうまく利用するかを説明する。 【キーワード】 インターネット、ソーシャルメディア、ソーシャルサポート、ICT、情報格差、健康格差、アクセシビリティ、ユーザビリティ	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)	中山和弘 (聖路加看護大学・教授)
6	医療の質を評価する視点	質の高い医療とはどのようなものであろうか？。個人の健康や満足度を高めることが医療の目的だとすると、医療の結果としての個人の健康や満足度を測定すればよいのかもしれない。しかし、その過程で適切とはいえない治療が行われていたら、それは質の高い医療と言えるだろうか？。本章では、医療の質を評価する視点について、また、医療技術が開発される段階で、医療技術の有効性をいかに評価するか、その方法論を検討する。 【キーワード】 医療の質、無作為化比較試験、第三者評価、クリティカル・パス	山本武志(札幌医科大学・講師)	山本武志(札幌医科大学・講師) ゲストスピーカー: 緒方泰子 (東京医科歯科大学・教授)
7	健康情報のコミュニケーションとヘルスリテラシー	前章まで、主に情報の見方や探し方について述べてきたが、情報は集めるだけでなく、知識として理解し、自分や周囲の人々の健康の維持・改善のために活用できなければ意味がない。健康や医療に関する情報を集め、理解して活用するためのスキルや能力を、ヘルスリテラシーと呼ぶ。この章では、本講義のキーワードの1つでもあるヘルスリテラシーとは何か、ヘルスリテラシーが高いとどのような良いことがあるのか、低いとどんな問題があるのかを解説する。 【キーワード】 ヘルスコミュニケーション、ヘルスリテラシー、Healthy People	石川ひろの(東京大学大学院・准教授)	石川ひろの(東京大学大学院・准教授)
8	患者・医療者関係の変化と協働の医療	医療というサービスや職業としての特殊性から、医療における対人関係、特に患者と医師との関係は、古くから議論されてきた。近年、その関係が大きく変化している。患者中心の医療や協働の医療などのモデルが提唱され、患者-医療者間での情報や意思決定の共有が重視されるようになった。本章では、古典的な患者-医療者関係のモデルと特徴を紹介した上で、こうした変化について情報とコミュニケーションという観点から解説する。 【キーワード】 患者-医師関係、協働の医療、父権主義、インフォームド・コンセント、事前指示	石川ひろの(東京大学大学院・准教授)	石川ひろの(東京大学大学院・准教授)
9	専門家とのコミュニケーション実践法	近年、診療ガイドラインの公開やクリニカルパスの使用など、患者が医療者と協働して治療のプロセスに積極的に参加することのできる機会が増えてきている。本章では、診療ガイドラインおよびクリニカルパスとは何か、患者や市民にとってどのような意義をもつかにについて解説する。その上で、このような医療者との情報共有のための新しいツールの利用を含め、医療機関において、医療者とうまくコミュニケーションをとっていくために、私たちはどのようなことができるか考える。 【キーワード】 診療ガイドライン、クリニカルパス、患者医師間コミュニケーション、Shared Decision Making	石川ひろの(東京大学大学院・准教授)	石川ひろの(東京大学大学院・准教授) ゲストスピーカー: 山口育子(NPO法人ささえあい医療人権センターCOML)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	医療安全とコミュニケーション	医療は人々の健康を守り、寿命の延長の一助となる役割を果たしてきた。その一方で臨床的医原病といわれるように、医療そのものが害を及ぼす可能性を孕んでいる。リスクを伴う治療法の意味決定には、正確でわかりやすい情報提供が必要だが、医療専門職はコミュニケーションのための十分な教育を受けていない。安全な医療が提供されるために教育や医療の現場で取り組まれている様々な方略について提示し、議論する。 【キーワード】 医療コミュニケーション、医療安全、臨床的医原病、意思決定	山本武志(札幌医科大学・講師)	山本武志(札幌医科大学・講師) ゲストスピーカー: 橋本廸生(横浜国立大学・教授)
11	代替医療・健康食品との付き合い方	現代医療ではなく、民間療法やサプリメントなどの健康食品を使用したり、併用する人が増えている。例えばがん患者の約半数はこうした補完代替医療を行っていると言われている。しかしそのほとんどは有効性と安全性の検証は十分に行われていない。一方で、病だけでなく心身を含め人間を包括的に診る医療が期待されており、代替医療への注目も高まっている。こうした代替医療や健康食品とはどのようにすればうまく付き合っていくことができるのか、わかりやすく説明する。 【キーワード】 代替医療、健康食品、がん、民間療法、統合医療、全人的医療	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教) ゲストスピーカー: 本江朝美(人間総合大学・教授)
12	ヘルスプロモーションと地域づくり	健康とは身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態を言い、単に疾病あるいは病弱でないということではないと言われている。どうすれば病気にならずに済むのかだけでなく、どうすれば健康になれるのかを考えることも重要である。こうした中ヘルスプロモーションと呼ばれる世界的な健康づくりの戦略が提示されている。このヘルスプロモーションと、その骨子である個人の能力の向上と、地域環境づくりの重要性について説明する。 【キーワード】 ヘルスプロモーション、ヘルシーシティ、ヘルシーピープル、エンパワメント、健康生成論	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)
13	生活習慣と環境を変える方法	より健康的な生活を送るために、例えば、食べ過ぎ、運動不足、喫煙、飲酒といった病気になりやすい生活習慣を修正していく必要がある。あるいは、より健康的なライフスタイルや考え方にシフトさせていく必要がある。こうした変化は病院に行き薬をもらうことでは生じない。エビデンスに基づいたりナラティブに基づく情報も重要であるし、心がけも重要である。どのようにすればライフスタイル、さらには身の回りの環境も変化させることができるのかを説明する。 【キーワード】 ライフスタイル、健康行動、セルフケア、行動変容、自己効力感、行動の意思決定理論	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)	津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)
14	人と人とのつながりと健康	人と人とのつながりが広いほど健康で長生きであることが分かっている。また、信頼関係が強かったり、お互いに助け合う(ソーシャルキャピタルが高い) 地域で生活するほどその住民は健康になると言われている。さらに、こうした地域＝コミュニティは物理的な地域を超えweb上にもある。特にソーシャルメディアを通じての情報交換や支援関係は健康に関する側面においても新たな展開を迎えており、その可能性と注意点について解説していく。 【キーワード】 ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル、ソーシャルネットワークサービス(SNS)	中山和弘(聖路加看護大学・教授) 戸ヶ里泰典(放送大学・准教授)	中山和弘(聖路加看護大学・教授) 戸ヶ里泰典(放送大学・准教授)
15	健康を決める力とは	健康につなげていくための知識と見識を身につけるべく、情報を探し、理解し、活用するスキルであり力であるヘルスリテラシーを軸に保健・医療にかかわるミクロからマクロまでの様々なトピックを14回にわたって扱ってきた。最終回では、私たちの健康を決める力とは何かについてこれまでの講義内容を俯瞰したうえで改めて考えていきたい。 【キーワード】 健康、情報、意思決定、ヘルスリテラシー、医療安全、ソーシャルキャピタル	戸ヶ里泰典(放送大学・准教授) 中山和弘(聖路加看護大学・教授) 石川ひろの(東京大学・准教授) 山本武志(札幌医科大学・講師) 津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)	戸ヶ里泰典(放送大学・准教授) 中山和弘(聖路加看護大学・教授) 石川ひろの(東京大学・准教授) 山本武志(札幌医科大学・講師) 津野陽子(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1110306	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 教育と心理の巨人たち （'10）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：岩永 雅也（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：星 薫（放送大学准教授）〕

講義概要

ともに発達科学に属する教育学と心理学には、専門的な学習へと進むにあたって必要となる基礎的知識に関して共通する部分が極めて多い。そうしたいわば学習の土台となる考え方や知識のエッセンスは、その多くがそれぞれの学の歴史に一時代を画す“巨人たち”の業績の中に凝集されている。それらは現代でもなお輝きを失わず、われわれに多くの重要な示唆を与えてくれる。本科目では、ジェームズやフロイト、ルソーやベスタロッチなどといった教育学と心理学の先達を各回で取り上げ、その代表作の概略を解説した上で、学史上の意義とそれぞれの学問分野への貢献、そして今日的意味等をわかりやすく講義する。

授業の目標

今日、社会生活のあらゆる局面で著しい文字離れが指摘されている。ネット上の手軽な情報で十分理解できたような気になっていることも決して少なくない。しかし、そうした時代だからこそ、大学教育には本物の知識、本物の学問体系の提供が求められているのである。本科目では、“巨人たち”の著作の精読を通して、教育学と心理学に共通する基礎中の基礎を理解していくことを目標とする。教育と心理に関心を持つすべての学習者の履修を期待したい。

履修上の留意点

科目としての性格上、教育学あるいは心理学の各専門科目を学習するための基礎として本科目の履修を強く希望する。さらに、教育学や心理学と同様に、広く人間とその生に関わる学問分野、例えば哲学、精神医学、生活科学、社会福祉論といった諸分野の学習を志す場合にも、本授業の履修が理解の一助となるはずである。広く履修を勧めたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	巨人たちの系譜	行為としての教育は人類の歴史とともに古い。それは社会的存在としての人間の宿命でもあった。当初自然発生的であった教育に学校が成立したことにより制度としての教育を考察する教育学が成立した。一方、教育の最大の課題である精神の変容に関しては、その重要な前提としての心の理解が不可欠であった。心のありようをめぐる科学、心理学の成立である。ここではまずその二つの学問分野に関わる重要な業績の系譜を俯瞰して、その全体像を理解する。 【キーワード】教育 心理 子ども 発達 社会と国家 科学	岩永雅也 星 薫	岩永雅也 星 薫
2	古代世界の教育	いまだ近代的な意味での教育学が成立していなかった古代社会にあっても、教育という営為それ自体はもちろん広く存在していた。そうした教育実践を踏まえ、多くの哲人や思想家が、教育に対する考えや理念を書き残している。そうした教育学成立以前の古代の教育論に触れながら、巨人たちの足跡をたどる。 【キーワード】プラトン アリストテレス 孟子 荀子	岩永雅也	岩永雅也
3	コメニウス	近代的な意味での教育学を体系づけた巨人としてコメニウスを取り上げ、彼の主著『大教授学』の中に、彼の教育観、つまり、自然の尊重、神学世界からの脱却、学校教育の体系化といった基本的な思想を読み取っていく。 【キーワード】神学世界からの脱却 自然 近代教育学の父	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ルソー	ルソーは「教育者」あるいは「教育学者」という枠で捉えるにはあまりに巨大でかつ多様な業績を持つ思想家であるが、その教育に関する主著『エミール』には、当時の社会的教育観をはるかに超え、現代にも通ずる示唆が溢れている。教育学における「人と自然」をじっくり読んでいきたい。 【キーワード】 子どもの発見 自然人 自然主義教育 消極教育 青年	岩永雅也	岩永雅也
5	ペスタロッチ	ルソーの影響を強く受けながらも、ルソーのなしえなかった民衆教育の実践に生涯を捧げた近代教育学の確立者、ペスタロッチを取り上げる。彼は、画一的な知識一辺倒の学校教育を批判し、個性と労作を重んずる自助教育を主唱しつつ、貧民の子女や孤児の教育に実践的に関わった教育学者であった。その思いを主著『隠者の夕暮れ』と『シュタンツだより』の中に読み取っていく。 【キーワード】『隠者の夕暮れ』 下層階級 ノイホーフ 模倣 自助教育 労作	岩永雅也	岩永雅也
6	フレーベル	ペスタロッチの強い影響を受けて教育の道へ進み、幼児教育の分野においてルソーと同様「自然主義」を打ち立てたフレーベルの思想を、その主著『人間の教育』の中に見出していく。また、彼が教育実践の中で考案し、創設した「幼稚園」にも目を向けていく。 【キーワード】教育の時代 画一教授からの脱却 自助への助け 幼児教育 遊び 恩物	岩永雅也	岩永雅也
7	ヘルバルト	教育実践に基づく単なる「教育論」ではなく、初めての本格的な「教育学」を体系的に展開したのがヘルバルトである。今日では誰もが教育には不可欠のものと信じている哲学（倫理学）を理念とし、心理学も含めた教授・訓練・管理を方法とする学の体系がヘルバルト教育学である。ドイツ国内のみならず、近代国家における教育学の体系化を目指したすべての国の教育に多大の影響を与えた主著『一般教育学』を、現代の目で読んでいく。 【キーワード】品性の陶冶 「自然」からの脱却 教授 訓練 管理 国民教育	岩永雅也	岩永雅也
8	デューイ	デューイは、アメリカにおいて今なお最大級の敬意を払われ続ける教育学の泰斗である。彼の「子ども中心主義」あるいは社会と教育との関わり的重要性への思いは、その実践性と併せ、教育学の一つの到達点をなしていると言っても決して過言ではない。ここでは、その著作『学校と社会』から、彼の教育への強い思いを読み解いていく。 【キーワード】道具(実験)主義 子ども中心主義 成長と社会との調和 オキュペイション 民主主義	岡崎友典	岡崎友典
9	ジェームズ	短い心理学の歴史の中では、古い時代に属するW.ジェームズだが、彼の著作『心理学原理』は、いまでも現代の心理学発展に寄与したものと高く評価されている。ここでは、『心理学原理』の短縮版である『心理学』(上)(下)の中から、特に特徴的な章をいくつか取り上げ、ジェームズ心理学の思想とその独自性を見ていく。 【キーワード】意識の流れ、習慣、自己、ジェームズーラング説、機能主義	森 津太子	森 津太子
10	フロイト	精神分析学の祖であるS.フロイトを心理学者と見るべきかどうかは、意見の分かれるところかもしれない。しかし、フロイトによる“無意識の発見”は、その後の心理学に多大なる影響を与えたと言えるだろう。ここでは、フロイトが無意識を発見する上で、重要な役割を担った夢の分析について、彼の初期の著作『夢判断』から読みとることで、彼の精神分析学の原点を探っていくことにする。 【キーワード】精神分析学、無意識、夢分析、夢の作業、心の構造	森 津太子	森 津太子

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	桐原葆見	製糸工場で女工たちが劣悪な環境での過重労働を強いられていた時代に設立された大原労働科学研究所にあって、現場で起こる現実の中にこそ、心理学の問題があるという姿勢を貫いた桐原の心理学は、日本でもあまり知られていない。彼のエッセイをまとめた『労働の生産性』を読んで、日本生まれの桐原の心理学を学ぶ。 【キーワード】 労働科学、ヒューマニズム、現場主義、技術教育、教養教育、職場における精神衛生	星 薫	星 薫
12	ヴィゴツキー	J.ピアジェと同年生まれの、ロシアの発達心理学者、ヴィゴツキーは、近年その発達心理学理論が高く評価され始めている。彼の主著『思考と言語』を読む中で、彼の思想に触れてみたい。 【キーワード】 ピアジェ、発達の最近接領域、協同学習、道具、言語、内言、科学的概念、生活的概念	星 薫	星 薫
13	オールポート	G. W. オールポートは、人間行動の法則解明に力が注がれ、それを形作っているはずの人間ひとりひとりの心の働きは省みられなくなっていた時代にあって、敢えて「パーソナリティ」という難題に目を向けた稀有の存在である。彼の代表作『パーソナリティー心理学的解釈』を読む中で、オールポートが人という存在をどのようにとらえていたのか、読みとっていきたい。 【キーワード】 パーソナリティ、特性論と類型論、共通特性と個別特性	森 津太子	森 津太子
14	エリクソン	彼が提唱した自我同一性概念およびそれを基礎とした、発達漸成論は、心理学や臨床心理学の中で、今なお大きな影響力を持っている。『幼児期と社会』を読みながら、彼の自我同一性の考え方に触れる。 【キーワード】 精神分析、自我心理学、自我同一性、民族的同一性、国家的同一性、心理社会的発達論	星 薫	星 薫
15	スキナー	ワトソンを祖とする行動主義心理学の後継者と目されるスキナーは、心理学を心の科学でなく行動の科学であるべきとして、観察可能な行動をこそ心理学は研究すべきであると考えた。『科学と人間行動』をもとに、スキナー心理学を学ぶ。 【キーワード】 行動分析、オペラント条件付け、強化、コントロール	星 薫	星 薫

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1118021	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理と教育を学ぶために （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：小川 正人（放送大学 教授）〕
 〔主任講師（現職名）：森 津太子（放送大学 准教授）〕
 〔主任講師（現職名）：山口 義枝（日本大学 准教授）〕
 【本学担当専任教員：】

講義概要

心理と教育コースに入学した学生を対象にして、コース全体のガイダンスと教育学、心理学、臨床心理学の三領域の基礎知識を学ぶ。三領域それぞれの研究的意義、研究方法、研究対象を学ぶとともに、三領域に共通する考え方、重なる部分を知ることによって教育と心理について複合的な思考方法や視点を身につける。

授業の目標

心理と教育コースに入学した学生がコース全体の学問体系を見通しながら、教育学、心理学、臨床心理学の三領域の基礎知識を学べるようにする。三領域それぞれの研究的意義、研究方法、研究対象を学ぶとともに、三領域に共通する考え方、重なる部分を知ることによって教育と心理について複合的な思考方法や視点を身につける。

履修上の留意点

関連の基礎科目「教育と心理の巨人たち（'10）」、共通科目として、「教育入門（'11）」、「心理学概論（'12）」、専門科目として「心理臨床の基礎（'14）」などを履修することが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	心理と教育：三領域の 違いと交流を学ぶ	教育学、心理学、臨床心理学は、人間の発達とそれを通して社会の有様を考える点では共通した学問的基盤を有するが、三領域それぞれの研究意義、研究方法、研究対象がどのようなものかを解説し、「心理と教育」を学習する今日的意義を考える。 【キーワード】 教育学、心理学、臨床心理学、研究対象、研究方法	放送大学 教授 小川正人 准教授 森 津太子 日本大学 准教授 山口義枝	放送大学 教授 小川正人 准教授 森 津太子 日本大学 准教授 山口義枝
2	教育：教育学って 何？	教育研究(教育学)の基本的な特徴を確認しながら、教育研究が、狭義の教育学としての教授学(pedagogyペダゴジー)から教育事象を経験科学的に研究しようとする教育科学として展開したこと、そして、教育研究の多様な研究分野(教育〇〇学)について理解をする。また、各研究分野における教育研究の多様な接近の仕方、研究方法などを通して、教育事象を理解し分析する複眼的な研究方法の大切さを学ぶ。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 教育学、教授学(ペダゴジー)、教育科学、教育研究分野、仮説発見(析出)型アプローチ、仮説検証型アプローチ、定量的研究、定性的研究、理論研究	放送大学 教授 小川正人	放送大学 教授 小川正人

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	教育:発達するということー教育はなぜ必要かー	教育の目標を確立し、教育の過程を進めていくためには発達の過程を十分に捉えておかなければならない。では発達と教育はどう違うのか。そして人間はどのような過程を経て発達していくのか。また教育はなぜ必要なのかについて考察する。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 発達、学習、教育、文化、社会的適応、発達課題	放送大学 教授 住田正樹	放送大学 教授 住田正樹
4	教育:集団のなかで育つ	人間が実際に発達していくのは社会集団のなかの人間関係を通してである。人間は生まれてから構造と機能を異にするさまざまな社会集団に所属し、多様な方向に形成されていく。どのような社会集団に所属し、どのように方向づけられていくのか。最後に本コース所属の教員紹介として岡崎友典准教授からお話を伺う。 【キーワード】 発達、社会化、教育、人間関係、社会集団、通過集団、準拠集団、第一次集団	放送大学 教授 住田正樹	放送大学 教授 住田正樹 教員紹介ゲスト岡崎友典 (放送大学准教授)
5	教育:教育の社会的機能と教育の統制・管理	教育は、個人の成長・発達を促すとともに社会化の機能を有するが、そうした教育の社会化機能は、教育を現実の社会、経済、政治に深く結びつける。戦後日本の社会と教育の関わりを学び、教育と社会の間のダイナミズムとその関係の在り方について考える。 最後に本コース所属の教員紹介として岩永雅也教授からお話を伺う。 【キーワード】 教育、発達の機能、社会的分化・選別機能、後発効果、日本的経営、学校体系、教育統制・管理	放送大学 教授 小川正人	放送大学 教授 小川正人 教員紹介ゲスト岩永雅也 (放送大学教授)
6	心理:心理学って何?	心理学という学問に対して持たれているイメージと、実際の心理学との違いを足がかりにして、心理学の学問的特徴と心理学が目指すものについて考えていく。また、心理学の基礎資格である「認定心理士」の分類を参考に、心理学の諸領域にはどのようなものを理解する。最後に本コース所属の教員紹介として星薫准教授からお話を伺う。 【キーワード】 心理学史、素朴な心理学者、科学としての心理学、心理学の諸分野、認定心理士	放送大学 准教授 森 津太子	放送大学 准教授 森 津太子 教員紹介ゲスト星 薫(放送大学准教授)
7	心理:心の不思議を探究する	現代の心理学は実証性を重んじている。その実証性を保証するために、心理学ではどのような研究法が用いられるかを理解する。目に見えない心を科学的に検証するとはどういうことか、特に因果関係の検証に利用される実験研究に重きを置きつつ、各研究法を学んでいく。さらに、心理学で統計学が必要とされる理由についても理解する。最後に本コース所属の教員紹介として三宅芳雄教授からお話を伺う。 【キーワード】 観察法、面接法、質問紙調査法、実験法、記述統計と推測統計	放送大学 准教授 森 津太子	放送大学 准教授 森 津太子 教員紹介ゲスト三宅芳雄 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	心理:心の鏡に映るもの	私たちの心に映し出される世界は、私たちの知識、経験、欲求などに彩られた主観的世界であり、各々が主観的に解釈した世界によって、私たちの思考、感情、行動は左右される。それはごく低次な知覚から高次の認知過程に至るまで、すべてにあてはまる。数ある心理学の知見の中でも特に重要と思われる、このような心理機能について、具体的な事例をもとに理解する。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 心の主観性、盲点、スキーマ、確証バイアス	放送大学 准教授 森 津太子	放送大学 准教授 森 津太子
9	心理:社会の中に生きる人	人の思考、感情、行動は周辺環境によっても大きく影響を受け、時にそれは、個人の意思をも上回る。なかでも他者の存在は、ひとの行動を左右する重要な環境要因であり、「人間は社会的動物である」と言われる所以でもある。他者の存在は、私たちにどのような影響を与えるのか、具体的な研究をもとに学ぶ。また、心理学実験をめぐる倫理的問題についても理解を深める。最後に本コース所属の教員紹介として大場登教授からお話を伺う。 【キーワード】 人間は社会的動物、 $B=f(P \cdot E)$ 、状況の力、倫理的問題	放送大学 准教授 森 津太子	放送大学 准教授 森 津太子 教員紹介ゲスト 大場 登(放送大学教授)
10	臨床心理:臨床心理学ってなに？	臨床心理学は、人のこころの成長を援助していこうとする、実践が中心にある学問である。この臨床心理学の発展について、個人差測定の流れと力動的心理学の流れの歴史から考える。最後に本コース所属の教員紹介として佐藤仁美准教授からお話を伺う。 【キーワード】 臨床心理学、心理臨床、実践の学	日本大学 准教授 山口義枝	日本大学 准教授 山口義枝 教員紹介ゲスト 佐藤仁美(放送大学准教授)
11	臨床心理:臨床心理の対象	臨床心理学の中核には実践がある。そこで、実践の場としてはどのような領域があるのかを紹介する。また、臨床心理学の活動である、アセスメント、援助、研究についての概要を学ぶ。最後に本コース所属の教員紹介として小林真理子准教授からお話を伺う。 【キーワード】 実践の場、アセスメント、援助、研究	日本大学 准教授 山口義枝	日本大学 准教授 山口義枝 教員紹介ゲスト 小林真理子(放送大学准教授)
12	臨床心理:こころの病とは	こころの病は、直接に見ることも触れることもできない。そのような対象に対して、比喻を用いて理解する感覚を、例をあげて説明する。そして、正常と異常の区分基準、発達課題とこころの危機について理解する。最後に本コース所属の教員紹介として齋藤高雅教授からお話を伺う。 【キーワード】 こころの病への想像力、正常・異常の基準、発達課題	日本大学 准教授 山口義枝	日本大学 准教授 山口義枝 教員紹介ゲスト 齋藤高雅(放送大学教授)
13	臨床心理:カウンセリングで性格が変わるのか	カウンセリングの理論には様々なものがあるが、多くの学派に共通すると思われるカウンセラーの姿勢と、カウンセリングの原理について学ぶ。そして実際のカウンセリングの流れについて理解する。最後に本コース所属の教員紹介として小野けい子教授からお話を伺う。 【キーワード】 カウンセリング、成長の可能性、変化のプラス面とマイナス面	日本大学 准教授 山口義枝	日本大学 准教授 山口義枝 教員紹介ゲスト 小野けい子(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	臨床心理:心理検査とは	心理検査は、質問や作業を課し、人はどのような反応をするのかのデータを蓄積し、あるところの状態に関して、その人はどのような特徴を持っているのか把握しようとするものである。心理検査には様々な種類がある。心理検査にはどのようなものがあり、どのように作られたかについて学ぶ。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 心理検査、信頼性、妥当性、知能検査、人格検査	放送大学 教授 小川俊樹	放送大学 教授 小川俊樹
15	心理と教育:学習の展望	14回までの学習を踏まえ、「心理と教育」に関して今後どのような学習を進めていけばよいかを論じ考えていく。 【キーワード】 教育学、心理学、臨床心理学、研究対象、研究方法	放送大学 教授 小川正人 准教授 森 津太子 日本大学 准教授 山口義枝	放送大学 教授 小川正人 准教授 森 津太子 日本大学 准教授 山口義枝

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1223615	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 市民と社会を生きるために（'09）＝（R）
－実践のすすめ－

〔主任講師（現職名）： 高橋和夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 坂井素思（放送大学教授）〕

講義概要

私たちが現代社会のなかで生きるためには、社会の実践に関わらなければならない。先の見えない混沌とした現実のなかで、生き方を模索しなければならない。社会に現れる人間の実践は、つねに不確実でリスクを負ったものである。だからこそ、社会を生き抜くには、企業に勤めていても社会的視点をもつ戦略が必要であり、情報を集めて戦術を立てなければならない。グローバル化の進む社会のなかでもローカルな発想が必要とされる。国境を越えた思想や、正義を考慮した根本的な思考が重要となる。広く総合的な視点を持つと同時に、緻密で技術的な表現方法も身につけなければならない。知は力なりであると同時に、実践は知を生み出してきた。この科目では、実践的な人物や社会的な生き方を提示しながら、「社会のなかでの表現技術」や「社会生活の実践」について考えていきたい。

授業の目標

この科目は、現代社会を基礎的なところで学んでいただくための社会科学シリーズの第3弾である。政治学・法学・経済学・社会学について、学生の方がたの関心を引き起こすために制作されてきた「市民と社会を考えるために（'07）」と「市民と社会を知るために（'08）」に続く、「市民と社会」シリーズ最後の完結を目指した科目である。私たちは、これまでの科目で現代社会の現実を考え、その考え方を考える意義を見てきた。もちろん、これらの科目はそれぞれ独立しているので、履修の順番は問わない。この講義では、私たちの実践活動が現代社会といかに関わっているのかについて考えることを目標にしている。講義内容は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察されている。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
I 実践編				
1	社会のなかの実践とは？	この講義は、社会科学の内容をなす政治学・法学・経済学・社会学につき、学生諸氏の関心を高めてもらうために、これまで行われてきた「市民と社会を考えるために」（'07）ならびに「市民と社会を知るために」（'08）という講義に続く第3弾として位置づけられる。われわれは、すでに社会科学を「考え」、それを「知る」ことの意義を学習してきた。第3弾としてのこの講義は、いよいよそれらを「実践」に移す段階を学ぶ。講義は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察される。技術編では実践のための方法論を提供する。それは、具体的には資料検索の手順や、読書の仕方、さらに自分の思考の成果の論文、あるいは口頭発表という形式での発信の方法を包括している。 【キーワード】 社会科学、実践、技術、生き方、社会	高橋和夫(放送大学教授)、坂井素思(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)、坂井素思(放送大学教授)
2	企業の友愛的実践	企業は利潤を上げることを目的に、NGOは何らかの社会的貢献をすることを目的に、それぞれ設立される組織であるが、その両者を合体したような組織が現れ始め、社会的企業と呼ばれるようになった。なぜ、このような組織が現れ、注目されるようになってきたのか。競争が激化し経済合理的行動に徹しないと、企業の存続は危うくなるという味気ない社会の中で、人は自己を見つめ直し、新たな生き方を模索しようとしているのではないだろうか。ここでは、社会的企業に焦点を当て、更なる展開が期待できるのか考えてみたい。 【キーワード】 企業、社会的貢献、NGO・NPO、社会関係資本、社会的企業	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	情報をいかに扱うか	私たちは、日々情報実践を行って、生活を成り立たせている。検索を行って知識を探ったり、テレビや新聞を使ってニュースを得たりしている。情報をいかに受け入れるのか、あるいは情報をいかに操作するのか、さらに情報操作はいかにあるべきかが問われている。このことを考えたメディア論のマクルーハンの人物像を振り返りながら、このような情報生活と実践との関係について、この章では考えてみたい。 【キーワード】 情報メディア、情報検索、データベース、オートメーション生活	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
4	経済のグローバリゼーションを生き抜く	さぬきうどんの原産地はオーストラリア、携帯電話にも、自動車にも必ず外国産の材料や技術が使われている。反対に、米国の財務省証券を最も多く保有している国は日本、日本の自動車とオタク文化は世界を席卷している。このような日本の中に世界が入り込み、世界の中に日本が入り込むグローバリゼーションの時代に、私たちは消費者として、勤労者として、企業人として、そして市民としてどう生きていけばよいのだろうか。激化する国際競争と高齢社会の大波の中で、私たちは市民としてどのようにすれば安心できる暮らしを築いていけるのだろうか。(アナウンサーとの対話形式を想定) 【キーワード】 グローバリゼーション、国際競争、安心・安全、市場経済	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授)
5	国境を越えて生きる	人々は一つの国内にだけ生きているわけではない。近代日本の初期には外国からお雇い外国人が日本の発展を助け、国内からも国際的活躍をする人材も生み出された。国内のエリートのほかにも、国内の事情で外国への移民も数多く出てきた。これら国境を越えて生きた人々の役割を考える。 【キーワード】 お雇い外国人、近代化、移民	天川晃(放送大学客員教授)	天川晃(放送大学客員教授)
6	正義の実現性	正義の問題は、とすると主に理想のみに関わるように思われるが、正義の要求は深刻な仕方で現実的な意味をもつ。なぜ正義が問題になるのか、どのような具体的な問題が正義に関わるのか、ということ、主としてアリストテレスとJ.ロールズの議論を紹介しながら、明らかにする。その上で、一見、理想に過ぎないようなテーマが現実の社会の構成・運用に与える影響を考察する。 【キーワード】 正義、配分、安定性、共生	山岡龍一(放送大学教授)	山岡龍一(放送大学教授)
7	コミュニティづくりにむけて	コミュニティが現在かかえている問題(育児、介護、安全・安心など)に対応して、どのようなコミュニティづくりが可能なのかについて考えます。そのために、コミュニティの現状と課題を明らかにし、それにかかわる集団・組織そして個人の役割を検討し、「住みよいまちの条件」を具体的に考察し、そこから新しいコミュニティの生活、文化、コミュニケーションのあり方などについて考えていきたいと思います。 【キーワード】 コミュニティづくり、住みよいまちの条件	船津衛(放送大学客員教授)	船津衛(放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	法の実践	19世紀後半に、ドイツ生まれの法学者であるRv.イエーリングは、『権利＝法のための闘争は、権利者の自分自身に対する義務である』『誰もが、社会の利益のために権利＝法を主張すべき生まれながらの戦士なのだ』と説いた。この言葉は、市民と社会における実践の重要性を法的側面から指摘したものといつてよい。それでは、「法の実践」とはどういうことか 【キーワード】 法の実現、裁判規範、行為規範、権利と義務	原島良成(熊本大学准教授)	原島良成(熊本大学准教授)
Ⅱ 技術編				
9	政府の活動を調査する	企業活動、国際政治の動き、コミュニティの実態等、市民と社会に関する情報調査が今回のテーマである。新聞、テレビ放送、インターネットと情報の媒体は多種多様であるが、ここでは、社会の仕組みと政治を考える上で要となる「政府の活動」に焦点を絞り、情報を収集し活用するテクニックを紹介する。このような情報調査手法を学ぶことは、単に技術を身につけて役立てることを目指しているのではない。「政府活動の透明性」や、社会における「確かな情報へのアクセス」の重要性を認識することにこそ、講義の目的がある。 【キーワード】 情報公開、公聴会、パブリック・コメント、透明性、住民訴訟	原島良成(熊本大学准教授)	原島良成(熊本大学准教授)
10	社会調査の技法	社会調査の技法について、コミュニティ・メディアの現状と課題を明らかにすることを例にして考えてみます。調査の企画、関係者および住民への聴き取り調査、調査票の作成、調査対象者の決定、調査の実施(面接、郵送、集合、電話、インターネットなど)、回収・集計・分析、報告書の作成、および報告会の開催などについて具体的に検討していきたいと思ひます。 【キーワード】 社会調査、調査の技法、コミュニティ・メディア調査	船津衛(放送大学客員教授)	船津衛(放送大学客員教授)
11	実践的読書術	読書生活の実践について考える。社会活動を行うなかで、読書の実践的な意味と重要性について考える。図書館を利用する技術、本を読む技術、知識を縮減する技術などのような、社会を考察する上での「読書術」のあり方について整理検討したい。 【キーワード】 活字文化、ネットワーク、知識のレポジトリ、教養文化	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
12	論文の書き方	論文とは人類の知識に新しい何かを付け加える壮大な行為である。その壮大な企てに必要な方法を論じる。具体的にはテーマの選択、議論の展開、注の付け方、そして文章作法について解説する。さらには論文と「研究」との違いなどを指摘し、テーマを絞りに絞り込む重要性を強調する。筆者の経験に基づいての体験的な論文論である。 【キーワード】 論文と「研究」、小さいことは良いことだ、的は撃ってから描け	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションとは何だろうか。いかにすればプレゼンテーションは成功するのだろうか。プレゼンテーションに関する技術論と精神論を語る。強調するポイントは、事前準備の大切さ、パワーポイントの功罪、場を読む視点などである。筆者の経験を踏まえた体験的なプレゼン論である。 【キーワード】 場を読む、ストップ・ウォッチ、パワー・ポイント	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
Ⅲ総合編				
14	現代社会に生きる :まとめ(1)	21世紀の展望を得るために、20世紀を振り返る。20世紀を特徴づけるものとして特に、戦争と全体主義に着目し、それを、世界史的な視点と日本史的な視点から概観する。これを背景として人権や平和のような価値の意義を検討し、それらの価値がこれからの我々の生活に対してもつ意味、そしてそれらの価値の実現に関する展望を語る。その上で、普通の市民に何ができるのかを考えてみたい。 【キーワード】 戦争、全体主義、人権、平和	天川晃(放送大学客員教授)、山岡龍一(放送大学教授)	天川晃(放送大学客員教授)、山岡龍一(放送大学教授)
15	現代社会に生きる :まとめ(2)	かつてケインズは1932年大恐慌のどん底で、「われわれの孫たちのための経済的可能性」を展望した。今度は未来に立って今を考えてみよう。50年後私たちの次の世代はどのような社会に暮らしているだろう。そこに立って21世紀初頭を振り返ってみれば、何が見えるだろうか。21世紀の不安、グローバル化の光と影、齢をとることは「問題」か、働くことの意味、地球環境、安全安心社会はどうなっているだろう。市民と社会は今よりも幸せになっているだろうか。 【キーワード】 未来からの回顧、現在の選択、将来の選択肢	林敏彦(大阪大学名誉教授)、高木保興(放送大学教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授)、高木保興(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1120301	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 市民と社会を知るために （'08）＝ （R）
－名著に触れよう－

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：林敏彦（大阪大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：原島良成（熊本大学准教授）〕

講義概要

最初の11回分で社会科学に接近するための「素材」を学生に提供する。学生は、各素材を担当講師がどう調理するかを迫体験し、学問の醍醐味に触れる。素材は、学生の興味を引き易いものから順に並べる（物語・エッセイ→各分野の古典素材・純理論的素材）。

残りの4回では、テキストと学問体系との間の架橋という方法論の問題を「～学のある本・こんな本」として取り上げ（放送教材は座談形式もあり）、古典の読み方との対比で鮮明に印象付ける。また、自著を語るとい形態で執筆の苦労話なども披露する。

授業の目標

「市民と社会を考えるために（'11）」は、社会における身近な現象と社会科学との密接な結びつきをややカジュアルな形で提示しつつ、学生の興味関心を引き出すものであった。本講義は、その一歩先の段階として（必ずしも「市民と社会を考えるために」の履修を前提とはしないが）、冒険物語から本格的な研究書まで多様なジャンルの著作を取り上げ、社会科学の問題関心を浮かび上がらせ、学問との架橋を図る。最終的には、様々な問題意識と方法による社会科学のカタログを学生に示すことで、各専門科目を学習する際の導きの糸となることを目指している。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	市民と社会を知るとは一著者に聞いてみよう	日常的に観察されるさまざまな社会現象を、いざ学問的に切り分けて体系的知識として整理するとしたら、何を手がかりにすればよいのか。社会科学の諸分野から、理論化を目指した書物が著されているが、最初から難解な専門書にひたすら当たるのは苦痛である。親しみやすい物語・エッセイから入って、研究論文を読み解く各講師の職人芸に触れ、テキストを味わう学習方法を体験してみよう。 【キーワード】 社会科学の学習方法、文献解題	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授) 山岡龍一(放送大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
2	『ハジババの冒険』—文学と政治	19世紀に英外交官がイラン人をかたって出版した本書は、やがてペルシア語に翻訳され、当時の腐敗した政治を批判する道具とされた。また本書のストーリーの背景は19世紀における欧州列強の中東をめぐる対抗関係であった。文学が当時の国際政治や国内政治の雰囲気への追体験を可能にする場合がある。本書は、そうした例である。つまり、ハジババは文学が政治に影響を与えた例であり、同時に文学から政治に接近する道筋を示唆している。 【キーワード】 文学、政治、「翻訳」、国際関係、社会	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
3	『ロビンソン・クルーソー』と近代の生活	社会のなかで、ひとりの生活とふたり以上の生活と、どのように異なるのだろうか。近代のヨーロッパ人は、自分たちの世界がグローバルな規模に拡大していくときに、まず自分の生活が気になった。孤島でのひとりの生活との比較を通じて、近代の社会生活というものの特徴を考えてみたい。また、ちょうど英国では、バブル騒動が起きつつあるときに、この本が出版されている。本の内容と時代背景との関連についても考察してみたい。 【キーワード】 冒険、労働、経済人、近代、他者	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	我妻栄『法律における理窟と人情』	「法律」というものの評判は、古今東西あまり芳しいものではない。古くから、「法律は世間の不合理を合理化しようとする」、「良き法律家は悪しき隣人である」などの誹りを受けてきた。これは、一体どういうことか。法律を学ぼうとする者は、その意味を解明しなければならない。結論をいえば、これらは、とりもなおさず法律の社会的存在価値を示しているのである。そして、それらの格言は、法律を学び、法律を取り扱う者の「謙虚さ」を求めたものでもあろう。今回学ぶ名著の著者の我妻栄博士は、紛れもなく、日本の法学史上第一等の法学者であった。そして謙虚な方であつたらしい。その第一人者が本著の冒頭に「追うべき兎は二匹いる」と恐るべきことをいわれた。不遜の故であろうか。いや、そうではないのだということを学んでみよう。法律の出发点(そして多分終着点)もここにある。 【キーワード】 追うべき兎は二匹いる、嘘の効用、法律論と常識論、綺麗な理窟と常識的結論、謙抑主義と介入主義	中嶋士元也 (放送大学客員教授)	中嶋士元也 (放送大学客員教授)
5	成果を左右する組織—堺屋太一『組織の盛衰』	新技術導入や制度変更はこれまでの組織を非効率にすることが多いが、組織を新たな状況に応じて適切に作り直すことは至難の業である。ある目的遂行のために作られた組織は、作られたときから組織を拡大し強化しようとするそれ自体の目的を持つようになり、本来の目的が軽視されるということも起こりうる。堺屋太一氏の組織論を参考にして、現代の問題点を探ってみたい。 【キーワード】 組織、共同体、機能体、成功体験	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授) ゲスト:原島良成(熊本大学准教授)
6	政治家のあり方—岡義武『近代日本の政治家』	政治リーダーが時代を作り、時代がリーダーを求める。近代日本を作ったのはどのような人物だったのだろうか。本書は、伊藤博文、大隈重信、原敬、犬養毅、西園寺公望という5人の政治家の生涯をたどりながら、政治家の性格や個性がその政策や経歴にどのように関係するか、日本の政治の発展の中で彼らはどのような役割を果たしたのか、を冷静に分析する。今日の政治と政治家のあり方を考える上にも示唆するところが多いだろう。 【キーワード】 リーダーシップ、政治家、伝記	天川晃(放送大学客員教授)	天川晃(放送大学客員教授)
7	民主政治のゆきすぎを警戒した先人—『ザ・フェデラリスト』	市民の生命財産を守り社会の安寧を確保するためには、権力を集約し政府を組織することが欠かせない。その政府権力は当然、民主的にコントロールされなければならないが、民主的であれば安心、というわけにもいかないようである。アメリカ連邦政府の結成過程で、建国の父たちは法(正しきこと、権利)の擁護にも意を尽くした。そのことは、彼らが市民に向けて語りかけた新聞紙上連載から窺い知ることができる。 【キーワード】 権力分立、連邦制、法の支配	原島良成(熊本大学准教授)	原島良成(熊本大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	マキアヴェッリ『君主論』	「政治家は信義を護るべきなのか」「目的は手段を正当化するのか」「支配者は被支配者に愛されるべきなのか」、16世紀イタリアの思想家が発した問いは、現代の我々にとっても興味深いものだといえよう。『君主論』においてマキアヴェッリが「統治＝支配」や「権力」について語ったことの現代的な意義を、本講ではその著作が書かれた時代の考察を通じて明らかにしたい。『君主論』は単に〈政治〉のみならず、〈人間〉や〈人間関係のあり方〉に興味のある人々にも、魅力的な著作であることを示したい。 【キーワード】 新しい君主、人文主義、政治的道德、政治的自由	山岡龍一(放送大学教授)	山岡龍一(放送大学教授)
9	『三民主義』と中国革命	孫文と彼が主張した三民主義は、大陸中国と台湾双方から支持されている。中国革命における国民党と共産党との激しい対立にもかかわらず、なぜ三民主義が両者によって尊重されているのか。ここに、現代中国を理解する鍵がある。 【キーワード】 孫文、三民主義、中国革命	山田辰雄(慶応義塾大学名誉教授)	山田辰雄(慶応義塾大学名誉教授)
10	社会的自我論の古典－『精神・自我・社会』	自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成される。この自我の社会的形成について論じた本書は、G・H・ミード(1863-1931)のシカゴ大学での講義を受講した学生のノートを編集したものである。したがって、内容的にあいまいであるとか、一貫していないとか、また、むずかしいといわれてきている。しかし、丁寧に読んでいくと、時代を先取りしたミードの見識の広さと深さに大きく圧倒されてしまうことになる。 【キーワード】 ミード、自我、コミュニケーション	船津衛(放送大学客員教授)	船津衛(放送大学客員教授)
11	冷静な頭脳と温かい心情－『経済学原理』	120年前ケンブリッジ大学に経済学研究を確立したマーシャルの名著を通して、冷静な頭脳の学問としての経済学と、温かい心情の実践としての社会的苦難との格闘について考えてみたい。同時代の問題とのマーシャルの戦から、今日の私たちは、何を学ぶことができるのだろうか。私たちは、マーシャルの意に反して、温かい頭と冷静な心を持てしまったのではないだろうか。現代の私たちが取り戻すべきマーシャルの精神とは何だろうか。 【キーワード】 経済学原理 理論と現実 経済学と生物学 有機的成長、新古典派、需要と供給	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授)
12	法律学のあんな本、こんな本	法律学の学習においては、条文や判決文に直接あたるのが求められる。しかし闇雲に法律を頭から読み下すのでは学習効果は薄く、その背景にある法的思考にまで触れることはできないであろう。今回は、具体的な裁判事例を実際に取り上げて読み解く中で、条文や判決文を読む際の作法を学ぶ。さらに、身近なトラブルと法律とのかかわり、その法的解決を引き受ける裁判官の悩みにまで接近し、学説を整理した体系書・教科書類の参照についても一言したい。 【キーワード】 裁判、六法、条文	原島良成(熊本大学准教授)	中嶋士元也(放送大学客員教授) 原島良成(熊本大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	政治学のあるな本, こんな本	放送大学の印刷教材も含めた、政治学関係の著作への接近方法を考える。政治学を学習するうえでのコツをふまえて、政治学の著作や資料を読んでいく際に必要だと思える心得を紹介する。いくつかの具体例を挙げながら、本や資料の選択・利用の方法、知識のまとめ方等について、アドバイスをしたい。 【キーワード】 学問の体系性、方法的多様性、古典、市民のための政治学、友と敵、ラディカル・デモクラシー	山岡龍一(放送大学教授)	山岡龍一(放送大学教授)
14	社会学のあるな本, こんな本	社会学はととてもとりつきやすい学問であるといわれる。しかし、少し学んでいくと、とたんにわかりにくくなる。それは研究対象である社会現象の変化が急速であることともに、それを取り取り扱う社会学の見方が多様であり、ときには対立することもあることが、その大きな理由と思われる。そこで、ここでは、そのような社会学的見方を理解するために役に立つ文献をいくつか紹介していくことにしたい。 【キーワード】 社会学的想像力、リアリティ・コンストラクション、自我の社会学	船津衛(放送大学客員教授)	船津衛(放送大学客員教授)
15	経済学のあるな本, こんな本	一人の経済学者が出会った本を通じて、出会いの必然と偶然、さらに学問と社会との格闘の一端を紹介したい。取り上げるのは、学部・大学院時代に出会ったあるな本を4点と、著者となって世に送ったあるな本の3点である。最後に、主任講師3人で、本を読むことは社会を知るための著者との対話だということの意味について、考える。 【キーワード】 サムエルソン経済学、ヒックス価値と資本、熊谷尚夫経済政策原理、ミクロ経済学、需要と供給の世界、大恐慌のアメリカ	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1223712	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 市民と社会を考えるために（'11）＝（R）

※この科目は「市民と社会を考えるために（'07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1, 2, 3, 5, 8, 12, 15回です。

〔主任講師（現職名）：高木保興（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：天川 晃（放送大学客員教授）〕

講義概要

本講義は「基礎科目」であり、「専門科目」への架橋を目指すという位置づけにある。そのために、講義は第1部「社会的な関心・興味を養う講義」と第2部「社会科学の各分野によって異なる基本テーマを取り上げる講義」という2部構成とした。第1部においては、①具体的な社会現象を取り上げ、現象の推移などについて簡単に紹介した上で、②その社会現象を理解するために必要な専門用語やアプローチの方法などについて概説し、③さらに理解を深めるために必要な文献や研究方法などについて説明する、という授業構成とした。第2部については、各分野・領域における基本的なテーマを取り上げ、専門科目への橋渡しを目指した。

授業の目標

本講義の目的は、社会科学の勉学に対する関心と意欲を引き出し、政治学・法学・経済学・社会学の各専門科目について、勉強してみたいという気持ちに導くことにある。したがって、学習の目標は、本講義受講後に、受講者自身が、自ら学びたい専門領域を自覚し、自らの力で学習の指針を構想できるようになることとなる。

履修上の留意点

回	テ マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	市民と社会を考える (※改訂回)	この科目のねらいを明らかにするとともに、講義全体の概要を説明する。新聞やテレビ・ラジオなどを通じて接する社会の問題に関心を向けるところからはじまり、さまざまな社会的現象を社会科学の概念や理論と関連づけて理解することに至るまでの間に出てくる諸問題について説明をする。 【キーワード】観察、比較、因果関係、仮説、社会科学	天川 晃(放送大学・客員教授)	天川 晃(放送大学・客員教授) 高木保興 西村成雄 来生 新 森岡 清志(放送大学・教授)
2	秩序の形成と変動(1) －新しい政権の誕生 (※改訂回)	近代社会の発展過程において多くの国民国家が誕生し、その潮流は今日においても続いている。新しい政権が誕生した時、われわれはどのような観点からそれを見るのか、そこには共通した要素が存在している。この講義は、中華人民共和国の成立過程とその後の鄧小平時代への移行過程を例にとりながらこの問題を論じる。政権成立の歴史、反対勢力の排除と権力の浸透、イデオロギー的方向性、制度化、国際的地位の確立などの要素が検討される。 【キーワード】中国改革・開放政権、経済発展と市民社会、権利擁護運動、NGO	西村成雄(放送大学・教授)	西村成雄(放送大学・教授)
3	秩序の形成と変動(2) －経済秩序の形成と変動 (※改訂回)	権力と市場の関係は、一方で相互に支えあい他方のサポートがなければ自らの機能をよりよく発揮できない補完的な関係であるが、他方で相互にその影響から自由に活動することを欲し、その介入を嫌う関係にある。市民社会成立後の近・現代に焦点を当てて、今日に至るまでの経済秩序の形成と変動の歴史を総論的に論じ、戦後日本の歴史を各論的に検討する。 【キーワード】秩序、経済秩序、economic system、交換、権力、市場、政府、支配のレントの最大化、取引費用の低減、財産権の内容規定、市場開設の特許、市場の平和、市場法、商人法、法人、ギルド、特許会社、夜警国家、行政国家、ケインズ政策、社会主義、財政赤字、小さな政府への回帰、財閥解体、独禁法、経済憲法、経済安定本部、外貨割り当て、自由化、行財政改革	来生 新(放送大学・副学長)	来生 新(放送大学・副学長)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	秩序の形成と変動(3) ーメディアと社会	イラク戦争報道を題材にメディアが社会で果たす役割を検討する。ポイントの第一はメディアの変化である。カタールのアルジャジーラに代表されるような衛星放送局の多様化である。CNNやBBCなどの英語メディアによる寡占状況は過去のものとなった。またインターネットに代表される新しいメディアがジャーナリズムの風景を確実に変貌させてきた。第二は日本の大手メディアに見られる戦争報道の特徴である。具体的には大手メディア各社は協定によってイラク戦争開戦前に自社の社員をイラクから撤退させた。代わりにフリーのジャーナリストたちが危険を冒して大メディアのために現地から報道するという日本的なジャーナリズムの形が成立した。第三に「ワイドショー」と呼ばれる形態のテレビ番組の報道の特徴と人気の理由を考える。最後にメディアの問題を社会学者がいかに見つめてきたかを代表的な文献に言及しながら紹介する。 【キーワード】アルジャジーラ、インターネット、衛星テレビ、CNN、フリー・ペーパー、BBC、ニュー・メディア、ナロー・キャスティング	高橋和夫(放送大学・教授)	高橋和夫 船津 衛(放送大学・客員教授)
5	成長と環境(1) ー豊かさと市民 (※改訂回)	私たちは、「豊かさ」を求めて経済成長を遂げた。所得は増大し、労働時間は減り、余暇が増えた。ところが、現実には「失業」問題や、「過労とストレス」の問題が起きている。市民として生活する上で、豊かさとはいったい何なのだろうか。豊かさの基本的な要件としての「働くこと」について、法学と経済学の観点から考える。特に、雇用関係のなかでの「過労死・過労自殺」という現代社会のトピックに注目にして、市民と社会に関する「豊かさ」のあり方と考え方を探究したい。 【キーワード】成長と環境、幸福のパラドックス、豊かさのパラドックス、シティズンシップ、雇用、失業、疲れとストレス、過労死	坂井素思(放送大学・教授)	坂井素思
6	成長と環境(2) ー先進国と途上国	途上国の環境問題としてダム開発(インドのナルマダ・ダム)、森林破壊、大気汚染を採り上げ、異なった角度から見直すことでいろいろな解釈が可能であることを明らかにする。そして、途上国は特にひどいことをしているわけではなく、貧困から脱出しようとする工業化が環境悪化の主要原因となり、国際社会の一員として先進国や国際機関の勧告に従った政策が却って環境を悪化させていることがある点を指摘する。 【キーワード】国際的NGO、森林破壊、大気汚染、ダム開発	高木保興	高木保興 河合明宣(放送大学・教授)
7	成長と環境(3) ーなぜ今でも成長か	産業革命以来経済成長を至上命題としてきた先進国経済は、これまでも幾度か資源の限界や環境の制約に直面してきたが、その都度科学技術の発展とその応用で乗り越えてきた。しかし、経済発展が多数の国や地域に及び、世界全体として人口の拡大に歯止めがかからないいま、世界経済は改めて地球環境の制約のもとで持続的な発展の道を求めている。これからも成長は可能なのか。成長に代わる新たな目標はあるのだろうか。 【キーワード】経済成長、資源の限界、水システム、物質サイクル、エコロジカル・フットプリント、持続可能な開発、価値観の転換	林 敏彦(大阪大学・名誉教授)	林 敏彦 丹保憲仁(放送大学・前学長)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	自己と他者(1)―社会的ネットワーク (※改訂回)	人は、他者とのつながりの中で、そのつながりに影響され、そのつながりを気にしながら、同時にそのつながりを選択し統御して生きる存在である。つながりには集団内部のつながりもあるが、産業化・都市化の進展とともに、集団を形成しないつながりが多くなってきた。そのようなつながりを社会的ネットワークと呼ぶ。社会的ネットワークに注目した興味深い研究の成果を分かりやすく説明しながら、社会的ネットワークという考え方の特色や意義について検討する。 【キーワード】 社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、夫婦役割関係、密度、友人ネットワーク、第一次の関係	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志
9	自己と他者(2)―「市民」と「市民社会」	日本の近代化において、社会科学、特に政治学のなかに現れてきた人間観をたどることで、さまざまな領域で現在注目されている「市民」や「市民社会」といった言葉の意味を検討する。「臣民」「社会」「民衆」「階級」「民族」「大衆」といった言葉の意味を歴史的に解明することで、「人間」の見方が社会や歴史に規定されていることの意味と、「社会」の認識にとって人間論を提起することの意義を確認したい。 【キーワード】臣民、社会、民衆、階級、民族、人民、大衆(社会)、市民(社会)	山岡龍一	山岡龍一 船津 衛
10	自己と他者(3)―グローバル化とローカル化	「グローバル化」「情報化」「ローカル化」などの言葉を、近年よく耳にする。これらは、どのような現象であり、相互にどのように関連しているのでしょうか。これらについて、日常生活における具体的な例を通して、まずは考えてみる。次に、概念の整理を行い、それらの現象を捉えるための社会学的アプローチについて紹介する。最後に「グローバル化」した社会が抱えている問題を指摘し、それを乗り越えるための方途を、「ローカル化」というキーワードとともに検討する。 【キーワード】情報化、脱工業型社会、社会調査、モノグラフ	浅川達人(明治学院大学・教授)	浅川達人 船津 衛
11	需要と供給の世界	「官から民へ」あるいは「政府から市場へ」は、政治的な新保守主義と軌を一にして、2000年代日本の合い言葉となった。確かに、市場機構は人類最大の発明と呼ばれることもある。しかし、自由契約を基本とする市場経済は万能ではない。もう一度、需要と供給の世界で達成できることと達成できないことについて思いをめぐらし、市場制度を支え、それを補完するソーシャルキャピタルについて考えてみよう。 【キーワード】新古典派と制度学派、規制緩和、民営化、政府の失敗、自由放任主義と積極的介入主義、価格機構、贈与経済、倫理・道徳、ソーシャル・キャピタル	林 敏彦	林 敏彦
12	住民力とコミュニティ形成 (※改訂回)	都市生活を営む上で発生する共通・共同の諸問題の多くは、行政サービスや商業サービスによって解決・処理されている。このために、行政サービスへの過度の依存が生じ、住民自治の空洞化をもたらす要因の一つとなっている。地域社会の問題処理システムを改革し、住民の関与を高めるためには、住民の側も、そのための資源を保有してゆく必要がある。住民の有する社会関係的資源(ソーシャル・キャピタル)を「住民力」と名づけ、この住民力とコミュニティ形成の関連について検討する。 【キーワード】 コミュニティ形成、問題処理システム、都市的生活様式、専門処理、住民力、パーソナル・ネットワーク	森岡 清志	森岡 清志

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	日常と人生の法 — 医者と法律はない ほうが…	法・法学・法学者の価値に対する評判は、古今東西必ずしもはかばかしいものではない。しかし、「われわれが社会生活をいとなむことが価値あることであるならば、これを合理的に規律しようとする学問が無価値なはずはない」(山田晟『法学[新版]』6頁)と信じよう。信ずるだけではない。手始めに、日常(「起きてから寝るまで」と人生(「生まれるときから天に召されるまで」)において、法がいかにそれらと隣り合わせて存在し、社会生活上有価値なものであるかを検証し、法のあるべき姿を考えてみよう。 【キーワード】契約自由の原則、民法、行為規範、責任規範、公共の福祉、政府(の役割)、法律による行政、基本権保障、権力分立	中嶋士元也 (放送大学・ 客員教授) 原島良成(熊 本大学・准教 授)	中嶋士元也 原島良成(熊 本大学・准教 授)
14	グローバル化と国際 政治の新しい主役た ち	国境を越えて活動するコストの低下が引き起こす様々な現象をグローバル化と定義すると、その影響は国際政治の面でも顕著である。これまで国家によって独占されてきた国際政治に、民間が、NGOが、地方自治体が参入している。たとえば2001年にアメリカで同時多発テロを行ったアル・カーエダは政府でも国家でもない、民間人の組織である。またイラクでは、アメリカやイギリスは民間軍事会社と契約を結び、その多数の「社員」が、施設の警備、要人の警護、警察の訓練などに当たっている。実質上、戦争が民営化されている。あるいはイスラエル軍と戦うヘズボラというレバノンの組織は、国家ではない。国家以外の組織が団体が個人が、国際政治に直接に関与する時代が到来している。こうした「国」際政治という言葉が表しきれなくなった状況を語ろう。 【キーワード】アルカーエダ、インターネット、NGO、お団子主義、グローバル化、戦争の民営化、多国籍企業、民間軍事会社、ヘズボラー	高橋和夫	高橋和夫
15	日常生活と社会科学 (※改訂回)	この講義から伝えたいメッセージを明らかにし、各章がそれぞれどのような役割を果たしているかをまとめるとともに、社会科学に興味をもつ読者に、今後考えられる展開について、いくつかの選択肢を提供する。 【キーワード】社会科学、多数の意見、学融合	高木保興	天川 晃 高木保興 坂井素思 山岡龍一

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1128221	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 問題解決の進め方 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：柴山 盛生（放送大学 客員准教授）〕

〔主任講師（現職名）：遠山 紘司（放送大学 客員教授）〕

【本学担当専任教員：岡田 光正（放送大学 教授）】

講義概要

問題とは何かを考え、問題の発見、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を提供する。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題発見と解決の具体的な事例を集めて紹介する。

授業の目標

大学に入学後に、学習を進める上での基本的な方法を学ぶ。また、社会や産業の仕組みを理解し、仕事や生活に活用できることを目標として、ものの見方、考え方とともに実践的な知識を習得する。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	問題とは何か	問題解決を進めるにあたって最初に「問題とは何か」について定義しておく必要がある。問題には、易しいものから難しいものまでレベルの違いがあるし、起こった時期によっても種類分けすることが出来る。今回はこれらについて述べた後、全15章の構成を概説するとともに、もう一つの教材であるテレビを使った放送授業の見方について触れる。 【キーワード】 問題とは、問題のレベル、問題の種類	遠山紘司 放送大学客員教授	遠山紘司 放送大学客員教授
2	問題を見つける	前章で問題を定義した。それでは問題をどのようにして見つけるのであろうか。漫然と暮らし、日々の仕事をこなしているだけでは問題は見えてこない。問題が見つければ全てが解決するのだろうか。また、問題は一つとは限らず、同時に複数生じることがある。どのような対応が必要になるのだろうか。 【キーワード】 見えない問題、現状の把握、「不」のつく字	遠山紘司 放送大学客員教授	遠山紘司 放送大学客員教授
3	目標を設定する	解決する問題が把握できたら、次は目標の設定である。目標は到達水準を示したものである。問題を解決するために何故、目標を設定する必要があるのか。どのようなことに注意しながら目標を設定すればよいのか。目標は問題の解決の度合い、すなわち達成度を評価する目安にもなる。 【キーワード】 目標の条件、優先順位、制約条件、現状分析	遠山紘司 放送大学客員教授	遠山紘司 放送大学客員教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	解決への手順を決める	これまでに、問題とは何かを定義し、問題のを見つけ方、それを解決するための目標設定について説明してきた。いかにすばらしい目標を設定したとしても、それを実現しなければ意味がない。この章では解決にいたる全体像を概観したのち、目標に向けて実行に移すための解決策の立て方について述べる。 【キーワード】 解決への全体像、問題の確定、解決案の立案	遠山紘司 放送大学客員教授	遠山紘司 放送大学客員教授
5	解決への姿勢	この章では、解決の姿勢として問題の解決策を立てる上で必要な考え方を取り上げて学ぶ。問題を解決するという行為は、自分のあるいは属する組織の経営すなわちマネジメントという行為の大事な部分である。そこで、マネジメントにおける姿勢を参考に問題解決の姿勢を考える。そして問題解決において大切なこととして、これまでの復習も含めて、解決への姿勢を具体的にすることを学ぶ。 【キーワード】 マネジメント、ドラッカーの名言・格言、アイデアの可視化、意志の力、外部の力の活用	東 千秋 放送大学名誉教授	東 千秋 放送大学名誉教授 遠山紘司 放送大学客員教授
6	情報を収集し整理する	問題解決においては、関連する情報を探して集めそれらを整理することが必要である。情報の収集では収集の目的、情報の作成方法、外部資料の収集について、情報の検索においては、図書検索、インターネット検索について、情報の整理では、整理の考え方・方法、集めた情報の検討などについて学習する。 【キーワード】 情報収集、外部資料の収集、情報検索、情報整理	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授
7	グラフを活用する	数値情報はグラフにして示すと視覚的にわかり易く、問題の発見と解決に役立つ。この章では基本的なグラフである、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散点グラフの4つについて述べた後で、その他、質的な違いを分かり易く示すレーダーチャートや内訳を表す帯グラフなどについても説明する。 【キーワード】 グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散点グラフ	大林康二 北里大学特任教授	大林康二 北里大学特任教授
8	数値情報を扱う	アンケートによる市場調査や工場における品質管理等などで集められる数値情報を解析すると、問題の発見と解決に役立つ特徴を導き出すことができる。これらの数値情報はばらつきのあるデータであることが多く、数値統計の方法で解析する。統計的データの代表値、記述統計、推測統計、推定、検定、要因分析などについて説明する。 【キーワード】 記述統計、推測統計、正規分布、要因分析	大林康二 北里大学特任教授	大林康二 北里大学特任教授 遠山紘司 放送大学客員教授
9	図解化して見る	問題を解決する過程で有効な表現方法の一つに図解がある。図解により問題の全体像や全体の中での位置関係が分かる。また、自分が考えた内容を短時間で他人に理解してもらうこともできる。口頭で説明したり文章化したりするのが難しいものでも図解化するならば一目で理解できるものが多い。その考え方、進め方を学習する。 【キーワード】 図解の基礎、図解のパターン、図解の進め方	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授
10	分析的に考える	問題解決においては、様々な事柄を分析してある目標に向けた解決手順を考える。そのために必要な考え方である演繹的推論、帰納的推論、確率判断、意思決定による進め方などを学習する。さらに、物事を選択するため、ゼロベースの視点からの議論を行ったりブレークスルーを発見したりする意思決定を進めながら考える方法を考える。 【キーワード】 推論、確率、ゼロベース、ブレイクスルー	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
11	発想を広げる	分析的に進める方法とは異なる発想のアプローチを考える。問題の解決策を導く上で、アイデアを出すために物事を発散的に考えたり、通常の関係とは異なる結びつきを考えたりすることを繰り返して発想を広げる方法を学ぶ。ここでは発想に関して、概念、知識、連想などについて説明し、それを基礎とした発想を広げる手法を紹介する。 【キーワード】 概念、知識、連想、推理	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授
12	コミュニケーションの取り方	効果的なコミュニケーションはどうあればよいのか、ここではコミュニケーションの取り方についてコミュニケーションの仕組みと能力、コミュニケーションにおける問題の発生と対策、さらに情報の送り手の言葉によるプレゼンテーションについて事例を通して学ぶ。 【キーワード】 コミュニケーションの構造と要素、プレゼンテーション、コミュニケーションにおける問題の発生と対策	東 千秋 放送大学名誉教授	東 千秋 放送大学名誉教授 遠山紘司 放送大学客員教授
13	個人と組織での進め方	問題には個人で処理するものと、組織的に取り組むものがある。最初に個人が問題を発見し解決に至る過程を効果的にする方法を考える。次に意見、考え方の異なる人の集まるグループや組織における進め方を考える。また、組織は個人の集合体でもある。組織の中での個人のあり方を合わせて学ぶ。 【キーワード】 PDCAサイクル、事務局、「2・6・2の法則」	遠山紘司 放送大学客員教授	遠山紘司 放送大学客員教授
14	解決策を実行する	問題解決に向けて、解決策を実行する。開始にあたって、役割分担、スケジュールの策定など実施計画を検討する。また、実行している途中での計画の進捗状況を調べる方法や、途中での評価、新たに生じた問題への対処などについて考える。ここでは、効果的な問題解決策の進め方を学ぶ。 【キーワード】 計画の実行の吟味、代替手段と優先順位の検討	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授
15	評価する	問題は解決できたのか、またどの程度目標が達成したのかを判断するための評価方法を学習する。ここでは、評価の対象や種類およびいくつかの数値的でない評価方法や数値的な評価法などの理論と手順について説明するとともに、それらに対応した例を考える。最後にこの科目のまとめをおこなう。 【キーワード】 評価、目標値との比較、まとめ	柴山盛生 放送大学客員准教授	柴山盛生 放送大学客員准教授

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1128299	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 国際理解のために （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：高橋和夫（放送大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：】

講義概要

高校までに世界史を勉強しなかった層を対象とする。国際理解のための基本知識を内容としている。二部構成で第一部は世界の宗教を語る。具体的にはユダヤ教、キリスト教、イスラム教、そしてゾロアスター教を紹介する。こうした宗教のつながりを強調する。さらに、それぞれが、どのような世界観を教え、どのような生活規範を求めているかを論じる。その宗教の信徒に敬意と理解をもって接触できるようにするためである。
 第二部では、東アジアの国際情勢を紹介する。そして領土問題とは、何なのか、なぜ発生するのか。そうした、領土問題理解の前提となる知識を提供した後に、日本の抱える領土問題について論じる。ここでも、対立する議論の優劣ではなく、どのような主張が展開されているのかを、淡々と述べる。第二部が、全体として世界の中で日本の置かれた地位を理解する背景知識となれば幸いである。

授業の目標

国際理解のための基礎知識の習得が目標である。異なる視点を、それぞれの立場から理解する姿勢を学び取る。

履修上の留意点

批判的な目で日ごろから宗教や国際問題の報道に触れていただきたい。この科目の履修後に、隣接の歴史、国際政治などの分野の学習へと進んでいただきたい。特に外国語の習得に力を入れていただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の位置関係	イスラム教は、キリスト教とユダヤ教の延長線上に位置している。キリスト教はユダヤ教を踏まえて誕生した。つまりユダヤ教、キリスト教、イスラム教は兄弟宗教と見ることができる。 【キーワード】 預言者、一神教、旧約聖書、新約聖書、コーラン	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
2	ユダヤ教	ユダヤ教はキリスト教に先行する一神教である。ユダヤ教は、キリスト教やイスラム教と違い宣教の宗教ではない。つまり、他の宗教の信徒をユダヤ教へ改宗させようとはしない。ユダヤ教には、さまざまな戒律がある。どのくらい厳格に戒律を守るかには、個人差がある。 【キーワード】 キリスト教に先行する宗教、シャバト、安息日、コシェル、ユダヤ人迫害、コーファックス	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
3	イスラム教	イスラム世界は、イスラム教一色ではなく多様な宗教の共存するシステムある。イスラム教はアラブ世界を越え世界に広がっている。イスラム教徒の習慣を紹介する。 【キーワード】 経典(聖典)の民、オスマン帝国、ハラール、ハラーム	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	光と闇の戦い、ゾロアスター教	ゾロアスター教は、二元論、終末論、救済論を説く。出自や富ではなく、善行の積み重ねによって救済を得られるとの教えは、その後の宗教に大きな影響を与えた。 【キーワード】 アフラ・マズダ、アーリマン、二元論、終末論、救済論、部族神、普遍神、善思・善言・善行	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
5	ペルシア帝国とユダヤ教徒	アケメネス朝ペルシア帝国を建国したキュロス大王は、バビロンに囚われていたユダヤ人を解放した。ユダヤ人はゾロアスター教を信奉する王の支配したペルシア帝国の臣民であった。支配者の宗教から大きな影響を受けた。 【キーワード】 キュロス大王、キュロス革命、バビロン捕囚、ユダヤ教徒の解放、バビロンのユダヤ教徒	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
6	「三博士」の贈り物	ゾロアスター教の研究者は、同教がユダヤ教、キリスト教、イスラム教に影響を与えたと考えている。その具体例として、二元論、終末論、救済論、そして天国や地獄の概念が上げられる。さらにゾロアスター教の影響を仏教にも見る研究者は少なくない。 【キーワード】 サオシュヤント、メシア、メサイア、マフディー救世主、火焰仏、シンクレティズム	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
7	ゾロアスター教的世界の広がり	ゾロアスター教徒は、中国に、そして朝鮮半島にも来ていると推測される。日本にゾロアスター教が伝わっていたかに関しては議論がある。ゾロアスター教は生きた宗教である。インドの同教徒はパールシーと呼ばれ、経済界で大きな役割を担っている。 【キーワード】 祆教、新羅の傭兵、パールシー、タタ	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
8	東アジアの国際情勢 / 日中関係の構造	東アジア情勢を規定する大きな要因は日中関係である。東アジア情勢の難しさは、日本という経済大国が既に存在する地域で、中国という新たな大国が登場してきたという事実である。二つの大国の関係は通常管理が難しいものである。日中関係に関しては、20世紀に両国が戦争を戦ったという負の遺産もあり、さらに難しい。 【キーワード】 近所づきあい、歴史、二つの大国、シルクロード	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
9	領土問題とは何か？	テクノロジーの進歩が領土問題を起こりやすくしており、民族主義が領土問題の解決を困難にしている。 【キーワード】 民族主義、テクノロジー、地球温暖化と北極での領有権争い	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
10	なぜ領土問題が起こるのか？	領土問題の発生の背景には、国境線と民族分布の不一致、複数の民族による同じ土地の奪い合いなどがある。戦争は、領土問題を解決しない。 【キーワード】 オスマン帝国、イラク、クルド人、旧ユーゴスラビア、パレスチナ問題	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	日本の領土問題	海上で他国と国境を接する日本の領土問題は、領海問題の側面を強く持っている。海洋国際法と海底資源の問題に注意を払いつつ、広大な排他的経済水域を持つ海洋国家としての日本という視点を提示する。 【キーワード】 北方領土、竹島、尖閣諸島、沖ノ鳥島、領海、接続水域、排他的経済水域	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
12	北方領土問題	移り変わる日露間の力のバランスの中で展開されてきた北方領土をめぐる交渉と議論を振り返る。 【キーワード】 国後(クナシリ)、択捉(エトロフ)、歯舞(ハボマイ)、色丹(シコタン)、二島返還論	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
13	竹島問題	日本列島と朝鮮半島の不幸な関係という歴史を背景におきながら、対立する双方の立場を論じる。 【キーワード】 日清戦争、日韓併合、竹島、独島	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
14	尖閣列島	日本と中国の双方の主張を歴史的な文脈を振り返りながら紹介する。 【キーワード】 天然ガス、石油、沖縄返還	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
15	沖ノ鳥島	島に関する海洋法を理解する。また沖ノ鳥島の持つ軍事的な意味と経済的な価値を考える。 【キーワード】 国連海洋法条約、島か岩か、大陸棚、コバルト・リッチ・クラスト	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1110411	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 情報の世界 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：川合 慧（放送大学教授）〕

講義概要

我々がそのただ中に暮らしている情報社会では、自動機械であるコンピュータと物理的距離を克服するネットワークの両者の超高速化によって、これまで我々が持っていた基本的な概念や常識が通用しなくなるほどの変化が日々進行している。これらの変化は社会自体の変容ともなっていて表れてきているが、一般的には「便利になった」程度の認識しか持たれていないことが多い。この講義では、そもそもの情報の記号表現、記号化された情報の処理の様子、情報システムの実態、そして情報系と社会ルールとしての法との関係などを学び、情報社会の一員として持つべき情報の実態についての基本的な理解と認識とを身につける。

授業の目標

情報社会では、非常に多くの局面や段階において「情報」がさまざまな役割を果たしているが、それらを網羅的に把握し理解することは不可能であるのが実情である。この講義では「情報」に関する基本的な軸をいくつか設定し、それらに沿った基本的理解を身につけることによって、情報社会全体を把握する方法を学ぶことを目標とする。具体的な軸としては、情報の記号表現の方法とその本質、情報を処理するやり方の基本、情報社会を支える情報システムの実態とその開発の様子、情報社会における法の役割、社会を動かす情報メディアの特質、の5項目を設定し、それぞれについての具体的な理解を目指す。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報社会とその本質	私たちは情報社会のただ中にあり、様々な情報に接しそれらを使いこなしていると考えているが、情報そのものについて考えることはほとんどない。ここではまず、社会における情報の広まりについて考えたあと、情報の基本的な性質とその受け止め方を理解し、情報社会で生きてゆくための基本を認識する。 【キーワード】 情報社会、情報ネットワーク、コンピュータ、ソフトウェア、表現	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
2	情報と記号	情報は抽象概念であり、そのままでは扱うことができないので、人間や機械が何らかの方法で認知できる形式で表現する必要がある。これを一般に記号と呼ぶ。人にとっての情報の性質を考えることは記号の性質を考えることに通じている。 【キーワード】 情報の性質、記号、分節、関係の視点	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)
3	情報環境と記号論	記号論の観点から描き出される情報の性質を学習する。情報を読み取る人を取り巻き、その人が読み取る情報に影響を及ぼす環境をここでは情報環境と呼ぶ。ここでは人にとっての情報の発生に関与する「コード」と「コンテキスト」という二条件に注目しながら情報環境のあり方を議論する。 【キーワード】 情報環境、コードとコンテキスト、コミュニケーション、文化	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	計算のモデル化	問題解決に際して、解答を求めるために行なうことすべてを計算と呼ぶ。本章では、計算の概念やその表現方法を見るときともに、計算のやり方を類型化した体系である計算モデルについて学ぶ。 【キーワード】 計算、繰返し、判断、変数、関数、再帰、計算モデル	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
5	計算とプログラム	記号化された情報は、さまざまな方式で処理されるが、その実態は計算のモデルに用意された基本的な処理の積み重ねである。必要な処理の指定であるプログラムについて、その基本的な性質と限界とを学ぶ。 【キーワード】 段階的洗練化、モジュール化、プログラム、代入、探索、並替え	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
6	計算の手順と計算量	基本的な計算モデルの機能と実際に必要とされる情報処理機能との間には、おもに量的な面で非常に大きな差がある。実際のプログラム例を学ぶことにより、この差の存在とその克服方法の概略とを理解する。アルゴリズム及び計算量という概念にも触れる。 【キーワード】 アルゴリズム、計算の手間、計算量、計算量のオーダー	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
7	ソフトウェアと情報システム	プログラムは必要とされる情報処理機能に従って集積され、現実に使用されるソフトウェアとなり、さらに情報システムとして構築される。ここでは、ソフトウェアとして要求される性質と、ソフトウェアから情報システムを構成する様子を学び、いくつかの情報システムの例を見る。 【キーワード】 プログラムの正当性・信頼性、情報システムの構築	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
8	情報システムの開発	情報社会では、多種多様なニーズを満たす情報システムを開発する必要に迫られている。ここではシステム開発に関する基礎事項、開発のための方法論、開発支援のためのシステム、などを学ぶ。また情報システム開発には、実際の開発で注意すべき事柄も多い。システム開発で行われている工夫の様子を実環境から学ぶ。 【キーワード】 ソフトウェアの仕様、要求仕様、開発ライフサイクル、開発支援ツール	中谷多哉子 (筑波大学大学院准教授)	中谷多哉子 (筑波大学大学院准教授)
9	情報システムの開発管理	情報システムの開発は、通常、多くの関係者が関わるプロジェクトとして組織的に行われる。多くの人が一つの目標に向かって働くことから、作業内容を決め、役割分担を効果的に行うことが重要となる。ここでは、情報システムを開発するためのマネジメントについて学ぶ。 【キーワード】 情報システム開発、スケジューリング、リスクマネジメント	木野泰伸 (筑波大学大学院准教授)	木野泰伸 (筑波大学大学院准教授)
10	人とシステムのインタフェース	私たちが現代社会で直接に触れる情報システムは数多いが、そのようなシステムでは、人間という利用者とのスムーズな情報交換が重要である。ここでは、ユーザインタフェースと呼ばれる情報交換系についての基本事項とその注意点について理解する。 【キーワード】 ユーザインタフェース、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン	木野泰伸 (筑波大学大学院准教授)	木野泰伸 (筑波大学大学院准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	社会基盤としての情報システム	情報システムの中には、社会基盤を支えているものも少なくない。そのようなシステムは、安定的な運用、安全性に対する配慮が極めて重要である。ここでは、利用者が誤らないための配慮、運用上の管理の様子を、種々の分野における実例を通じて理解する。 【キーワード】 社会基盤, リスク回避	中谷多哉子 (筑波大学大学院准教授)	中谷多哉子 (筑波大学大学院准教授)
12	人間社会と法	「社会あるところに法あり」という法格言に見られるように、法と社会とは切り離すことのできない関係にある。ここでは、その両者の関係について、基本的な事項を理解する。これは変化の激しい情報社会における法の理解にとって重要な事項である。 【キーワード】 法, 法の存在形式, 法の解釈, 社会と法の変動	福島力洋 (関西大学准教授)	福島力洋 (関西大学准教授)
13	情報活動と法環境	社会の情報化は、情報化を前提としていなかった法状況に変化を迫ることとなる。ここでは、情報流通から生ずる法的問題とそれに対する法的対応について、具体例を参照しつつ理解する。 【キーワード】 情報社会の光と影, 既存法の適用, 新規立法, 法改正, メディアの融合と規制枠組の転換	福島力洋 (関西大学准教授)	福島力洋 (関西大学准教授)
14	情報社会と主体性	情報社会において主体的に生きる可能性を探るために、私たちの意識とメディアとの関係を切り口にしながら主体性の成立する条件を考察する。「主体的に生きること」は情報社会における教育上の主題としてしばしば語られる。ここでは「主体性」という言葉の意味を吟味するところから出発し、個々人の主体性の成立に対するメディアの関わりを中心に議論を進める。 【キーワード】 情報社会, 主体性, メディア, 価値観	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)	斎藤俊則 (日本教育大学院大学准教授)
15	情報の世界	情報社会では様々な要素が複雑に絡み合いながら物事が進行している。そのすべてを詳細に理解することは困難であるが、かと言ってごく一部の様子だけを知っていればよいというものでもなく、全体をバランスよく把握することが大切である。本章ではこの全般的な理解のための着目事項を示す。 【キーワード】 デジタルとアナログ, 問題解決, モデル化, 表現, ソフトウェア	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234110	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 遠隔学習のためのパソコン活用 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：三輪眞木子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：秋光淳生（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

放送大学の学生が家や職場で学習するうえで役立つパソコンやインターネットの活用方法を基礎から学ぶ。この授業を受講することで、キャンパスネットワーク、システムWAKABA、図書館の電子情報源等の学内情報通信システムを活用できるようになる。また、パソコンソフトを駆使して図表の作成、文書作成、プレゼンテーションをできるようになる。その結果、レポートや発表の質向上が期待できる。基本的なパソコン操作とソフトウェア活用技法、情報検索技法を習得すると、日常生活でもパソコンを活用できるようになる。この授業の通信指導については、郵送を用いず、問題の掲載と提出ともWebを用いて行うこととするため、基本的なパソコン操作を身につけることが必要となる。

授業の目標

パソコンを使って、図表、レポート、プレゼンテーションを作成できる。放送大学附属図書館の電子情報源を活用できる。インターネット上で信頼できる情報を探ることができる。レポートを執筆する際の参考文献の調べ方がわかる。放送大学のシステムWAKABAとキャンパスネットワークを使いこなせる。生涯にわたる学習を豊かにするためのパソコンの活用方法を習得する。

履修上の留意点

この授業を受講する学生は、学習センターまたは自宅のパソコンを使ってインターネットにアクセスする方法を学んでおいてください。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学習に役立つパソコン活用	情報通信技術の急速な発展により、社会は大きく変貌している。パソコンとインターネットの普及により、私たちの生活や仕事や学習がどのように変化したのかを振り返り、現代社会に生きる私たちにとって必要な情報リテラシーを考える。 【キーワード】 パソコン、インターネット、情報リテラシー、オフィススイート	三輪眞木子 (放送大学教授)	三輪眞木子 (放送大学教授) 秋光淳生 (放送大学准教授)
2	パソコンの基本操作	パソコンを活用して学習方法を変えるには、パソコンの基本的な知識と技術を学ぶことが大切である。パソコンのしくみ、ソフトウェアの起動と終了、文字入力、ファイルの保存とコピーといったパソコンの基本操作について説明する。 【キーワード】 ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、ファイル、フォルダー、拡張子	秋光淳生 (放送大学准教授)	秋光淳生 (放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
3	インターネットのしくみとWebの活用	Webを利用することで、世界中の情報にアクセスして学習に活用することができる。ここでは、家庭からインターネットに接続し、Webを利用する際において必要となる知識について説明し、Webの利用の仕方について述べる。 【キーワード】 IPアドレス, DNS, HTML, Web	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
4	インターネットを利用した学習	インターネットを利用することで、サービスの提供者と利用者との間の双方向性を高めることができる。それによって、単にWebサイトを閲覧するだけでなく、多くのサービスを享受できるようになった。こうしたWebを利用したサービスについて、主に放送大学の在学生向けのICT活用を紹介しながら説明する。 【キーワード】 学習管理システム, UPO-NET, シングルサインオン, Web会議システム, Wikipedia	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
5	電子メールのしくみと利用	電子メールを利用すると、特定の相手にメッセージやファイルを送ることができる。ここでは、まず電子メールの動作のしくみについて簡単に説明し、あわせて電子メールの構成要素や機能、さらには利用の上で気をつけるべき事柄について説明する。 【キーワード】 電子メール, メールアドレス, Webメール, SMTP, POP	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
6	セキュリティとマナー	インターネットには色々な長所がある一方で、コンピューターウイルスなどの不安要素も存在する。ここでは、コンピューターを利用する上で必要なセキュリティに関する知識や身につけておくべき利用のマナーについて説明する。 【キーワード】 コンピューターウイルス, ボット, 脆弱性, アップデート, クッキー	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
7	図書館の利用方法	レポートや卒業研究で必要となる先行研究調査のために、図書館で学術文献を探す方法を学ぶ。図書館サービスの種類と、公共図書館、大学図書館、専門図書館の特徴を理解する。さらに、電子目録(OPAC)を使って図書館の蔵書を検索する方法を学ぶ。 【キーワード】 先行研究, 文献調査, 図書館, 電子図書目録, OPAC	三輪眞木子(放送大学教授)	三輪眞木子(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
8	電子情報源の利用方法	先行研究調査のために役立つ電子情報源の使い方を学ぶ。文献検索の基礎知識を踏まえて、放送大学附属図書館が提供する電子情報源の利用方法を学ぶ。さらに、学術情報の検索に役立つインターネット上の情報源を紹介する。 【キーワード】 電子ジャーナル, 電子ブック, データベース, ポータルサイト	三輪眞木子 (放送大学教授)	三輪眞木子 (放送大学教授)
9	表計算の基本	表計算ソフトウェアを用いると、多くの情報を効率的に整理することができる。そこで、MS-Excelを使いながら表の作成やデータの集計や計算の仕方について述べる。 【キーワード】 表計算, セル, 関数, 参照, オートフィル	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
10	図表作成の技法	グラフを作成し視覚的に表現すると、データの持つ特徴をより明確に把握することができる。本構ではまずグラフの種類について説明し、次に表計算ソフトウェア(MS-Excel)を利用したグラフの作成の仕方について説明する。 【キーワード】 円グラフ, 棒グラフ, 折れ線グラフ, 散布図, グラフの構成要素	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
11	文書作成の基本	さまざまな機会に提出を求められるレポートについて、文書作成ソフトウェア(MS-Word)を使いながら、基本的な構成、まとめ方、作成上の注意点や作法を学ぶ。他人の意見と自分の意見とを区別して剽窃・盗用を避ける方法や、著作権に配慮した参考文献の適切な引用の仕方を、実例を通して身につける。 【キーワード】 レポート, 文書作成ソフトウェア, 引用	仁科エミ(放送大学教授)	仁科エミ(放送大学教授)
12	文書作成の技法	わかりやすく魅力的なレポートを書くためには、図表や画像を活用したり、読みやすく書式を整えることも大切になる。そこで、文書作成ソフトウェアや表計算ソフトウェアの基本的な機能を活用して、図表や画像の組み込み、目次や索引の作成、脚注など書式を整える技法について具体的に学ぶ。 【キーワード】 レポート, 図表, 画像, 目次	仁科エミ(放送大学教授)	仁科エミ(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	プレゼンテーションの 基本	プレゼンテーションの目的と考え方を踏まえて、大学生にとって身近なプレゼンテーションの形態を考える。プレゼンテーションの準備から実行に至る作業の手順および配慮すべき点を学ぶ。 【キーワード】 プレゼンテーション, 口頭発表, ポスター発表, 自己紹介	三輪眞木子 (放送大学教授)	三輪眞木子 (放送大学教授)
14	プレゼンテーションの 技法	プレゼンテーションソフトウェア (MS-PowerPoint) を利用して、口頭発表の資料を作成する手順と方法, 作成した資料を搭載したパソコンを使って口頭発表をする技法を, 具体的な事例を通して学ぶ。 【キーワード】 プレゼンテーションソフトウェア, 口頭発表, 配布資料	三輪眞木子 (放送大学教授)	三輪眞木子 (放送大学教授)
15	パソコンを今後の学 習にどう生かすか	この授業で学んだパソコンの様々な活用法を日常の学習に組み入れることで, 生涯にわたる学習を自ら制御し発展させていくことができる。パソコンをうまく活用することで学習がどう変わるかを考える。 【キーワード】 生涯学習, 学習スタイル, 学習記録, 振り返り	三輪眞木子 (放送大学教授)	三輪眞木子 (放送大学教授) 秋光淳生(放 送大学准教 授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234242	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 哲学への誘い （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [An Invitation to Philosophy ('14)]

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

哲学が敬遠される理由の一つとして、その用語や思考法がいわゆる哲学専門のものであって、一般の人々の理解を拒んでいるかのように見えるということがあげられると思う。しかし、哲学的な考え方に対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。そこで、基礎科目に属するこの授業では、普通哲学の問題とされている題材だけではなく、普通は哲学という学問には属さないと思われる題材も取り上げ、そこに哲学的な見方を導入するという方針を取ることにした。それは、個人の人生の問題から社会の問題や芸術の問題に至るまでの多岐にわたる。それによって、これまで哲学に触れることがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えられればと思う。

授業の目標

大きく分けて三つのテーマが扱われる。最初は、哲学の源流でもある古代ギリシアの文化を、歴史、演劇、恋愛の三つの側面から取り上げ、それとギリシア哲学との関連を考える。二番目には、近代国家に生きる私たちの現実の問題を、哲学という観点から捉える。題材として、ヘーゲルの『法の哲学』が取り上げられるが、あわせて東西の国家論、経済理論も取り上げられる。最後には、文芸の問題として文学と絵画とが取り上げられ、それぞれが哲学観点からどのように捉えられるかが検討される。哲学主張が比較的わかりやすい文学だけではなく、その関係が一見わかりにくい絵画、彫刻の持つ哲学的意味について考える。

履修上の留意点

この科目は、同名の『哲学への誘い('08)』の授業内容を基本的には受け継ぎながらも、変更も加え、新しい側面も加えたものである。基礎科目である以上、わかり易さを第一に心がけてはいるが、すでに哲学に馴染んでいる学生にも興味のあるテーマが選ばれている。しかし、すでに行われた、『哲学への誘い('08)』とは、多くの箇所で重なる内容であることに注意して欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	第Ⅰ部 古代ギリシアの知恵 ヘロドトスの『ヒストリア』	ペルシア戦争の記述を行った、歴史の父ヘロドトスの『ヒストリア』の検討をする。そのためには、古代ギリシア最盛期の成立にいたるまでの歴史をホメロスの昔に遡って検討する。また、古代ギリシア人のヒュブリスについての考え方を理解する。 【キーワード】 ホメロス、トロイア戦争、ヒストリア、ペルシア戦争、ヒュブリスの諷刺	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
2	第Ⅰ部 古代ギリシアの知恵 トウキュディデスとペロポネソス戦争(上)	アテネとスパルタとの間におこったペロポネソス戦争の記述を行ったトウキュディデスの『戦史』を検討する。その歴史記述は、ヘロドトスとは異なって悲劇的なものであるが、最盛期ギリシアの最高の知性の産物であるとも言える。 【キーワード】 ペロポネソス戦争、ロゴス、エルゴン、因果性、価値判断からの自由	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
3	第Ⅰ部 古代ギリシアの知恵 トウキュディデスとペロポネソス戦争(下)	『戦史』の内容の深さを示す、ペリクレスの追悼演説や、メロス事件、シシリー遠征の記述を通して、デモクラシーを初めギリシャ文化の特質について考える。 【キーワード】 ペリクレス、デモクラシー、正義、メロス事件、シシリー遠征	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	第Ⅰ部 古代ギリシアの知恵 ギリシア悲劇	古代ギリシアの生み出した文化遺産のなかでも最も魅力的なものの一つであるギリシア悲劇は、アリストテレス、ヘーゲル、ニーチェ等の哲学者によって様々に論じられてきた。アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスの代表作を検討するとともに、哲学との関係を探る。 【キーワード】 トラゴイディア、ディオニュソス、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデス	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
5	第Ⅰ部 古代ギリシアの知恵 恋愛小説としてのプラトン	プラトンの対話篇にはエロスについての議論がしばしば登場する。『パイドロス』、『饗宴』などは、恋愛小説として読めるほどである。イデア論とエロス論との関係について検討する。 【キーワード】 エロス、球状人間、ソクラテス、恋の狂気、プラトニックラブ	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
6	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 ヘーゲル『法の哲学』の位置と抽象法(『法の哲学』第一部)	近代国家論として高い評価を受けているヘーゲルの『法の哲学』を検討する。始めは、法についての原理論である。まず、その始めのところにある契約説にもとづく国家論を検討し、それとヘーゲルの法論や国家論との関係を見る。 【キーワード】 モダン、社会契約説、国民国家、自然法、実定法	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
7	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 道徳(『法の哲学』第二部)と家族(『法の哲学』第三部人倫①)	ヘーゲルの『法の哲学』の特徴は、法の枠を超えた心の問題や人間関係の問題も扱っているところにある。ここでは、その例として道徳と家族について扱う。 【キーワード】 主観性、動機、意図、良心、家族、愛、婚姻	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
8	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 市民社会(『法の哲学』第三部人倫②)	『法の哲学』のなかでも高い評価を受けている市民社会論を、スミス、マルクス、ウェーバーとの比較のもとで扱う。経済学と国家論との関係が主題となる。 【キーワード】 資本主義、欲求の体系、司法、行政、職業団体	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
9	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 国家(『法の哲学』第三部人倫③)	国家を、君主、議会、官僚制の側面から検討するとともに、戦争と外交の関係について考える。 【キーワード】 国家、有機体、君主、統治、議会、戦争、世界史	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
10	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 日本の近代国家	明治期における、福沢、明治憲法、教育勅語の思想を検討した上で、和辻哲郎の国家論について考える。 【キーワード】 福沢諭吉、教育勅語、社会主義、キリスト教、和辻倫理学	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	第Ⅲ部 文芸と哲学 ドストエフスキーの文学と哲学	哲学関心を持つ人々の間でもドストエフスキーの存在は大きなものである。彼の『地下生活者の手記』、『カラマーゾフの兄弟』から哲学的主題を引き出してみる。 【キーワード】 ロシア文学、ドストエフスキー、極限状態、シベリア、自由な信仰	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
12	第Ⅲ部 文芸と哲学 日本近代文学と哲学	ドイツ哲学からも大きな影響を受けた森鷗外や、フランス文学のみならず哲学からも影響を受けた小林秀雄を通じて、哲学を専門としなかった人々の哲学的発言について考える。 【キーワード】 傍観者、空車、史伝、実践、理論	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
13	第Ⅲ部 文芸と哲学 絵画と哲学(1)様式の基礎	20世紀の彫刻家、画家であるジャコモッティの言葉を手がかりに絵画の様式に関する考察を通して、視覚をめぐる哲学的主題を展開する。 【キーワード】 ミメシス、イデア、様式、プラトン、ジャコモッティ	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
14	第Ⅲ部 文芸と哲学 絵画と哲学(2)遠近法の諸問題①	絵画の奥行表現としての遠近法をめぐる、絵画と哲学の問題を考える。 【キーワード】 古代遠近法、ルネッサンス、視覚のピラミッド、3/4斜角デッサン、幾何学的遠近法	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)
15	第Ⅲ部 文芸と哲学 絵画と哲学(3)遠近法の諸問題②	遠近法と哲学の関係を、遠近法の解体期の近代絵画に即して検討すること。ことに現象学派の哲学の視覚の理論を検討する。 【キーワード】 相対性理論、アフォーダンス、セザンヌ、現象学、始源的奥行き	佐藤康邦 (放送大学教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234226	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 歴史と人間 （'14）＝ （TV）
 英文名＝ [People in History ('14)]
 [主任講師（現職名）：吉田光男（放送大学副学長）]
 [主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学教授）]
 【本学担当専任教員：】

講義概要

本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える基礎科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、日本史および世界史においてさまざまな人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。

授業の目標

歴史については中学・高校と学習してきており、特に高校では世界史が必修となっているという現状を踏まえるならば、大学の基礎科目として何がふさわしいのかが問題となる。そこで本科目では、歴史的なものの見方を養うことに重点をおくが、その際に歴史が人間の諸活動の所産であることから、具体的な人物を通して人間が歴史にどう関わっていたのかを探ってゆくものとする。こうした学習をとおして、専門科目を学ぶ前提としての基礎的な知識や方法を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

本科目は、歴史学分野では唯一の基礎科目である。日本史・アジア史・西洋史という地域の枠組み、古代から近代までという時代の枠組みに捉われず、幅広い視点から歴史について考えることを目的としている。歴史学分野の共通科目および専門科目を履修する際には、本科目を併せて履修していただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	歴史と人間－本科目のねらい－	本科目は、5名の講師がそれぞれ2～3回ずつを担当し、各回では基本的に一人(組)の人物を取り上げている。各講師が専門とする地域や時代はさまざまであるため、取り上げられている人物もまたさまざまである。そこで第1回では、5名の講師がそれぞれどのような視点でこれらの人物を取り上げ、歴史と人間について論じようとしているのか、またそこにはどのようなねらいがあるのかなどについて述べる。 【キーワード】 日本の政治と文化、伝統、近代、儒教、記憶、記録、歴史のなかの民衆、歴史記述、森鷗外、歴史小説、『渋江抽斎』	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)
2	天武天皇と持統天皇－日本という国家の成立－	日本という国家のあり方がどう築かれたのかを、天武天皇と持統天皇を通じて考える。中国から律令制を導入し、国家体制を整え、外交関係を樹立する道筋について、所謂「大化の改新」事件から壬申の乱を経て迎える政治の動きから捉える。これにより天武天皇と持統天皇の政治がいかなるものであり、その後の政治や社会にどのような影響を与えたのかを探る。 【キーワード】 律令国家、日本の国号、天智天皇、天武天皇、持統天皇、壬申の乱	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
3	西行と定家－日本の文化－	日本の文化の形成と発展について、これに大きな役割を果たした二人の歌人の活動を通じて探る。和歌は西行を通じて自然と社会との関係を色濃く表現するようになり、定家を通じて、芸術の域に高められるようになった。この二人の活動は単に和歌のみでなく、日本人の生き方に大きく影響を与えるようになったが、その理由や影響とを探る。 【キーワード】 西行、藤原定家、和歌文化、『新古今和歌集』、日本人の生き方	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	北条泰時－武士と政権－	武家独自の法を制定し、武家政権の定着に寄与した北条泰時の動きから、朝廷と幕府のあり方や武家社会の意義について考えるとともに、日本における法意識がいかに生まれたのか、泰時の制定した御成敗式目が後世にいかに関与を与えようになったのかを探る。 【キーワード】 武家法、武家政権、源頼朝、北条泰時、法意識、徳政、『御成敗式目』	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
5	李退溪－朝鮮儒学の大成者－	儒学者李退溪(李滉)(1501-70)は、元代の中国から伝えられた朱子の教えを発展させて朝鮮儒学を大成し、その門下からは多くの思想家・学者・政治家が輩出して、江戸期日本の儒学にも影響を与えたと言われる。彼の思想と行動を通じて、近世朝鮮社会の歴史的特質について考察する。 【キーワード】 儒学、朱子学、士大夫、理と気	吉田光男(放送大学副学長)	吉田光男(放送大学副学長)
6	ルイス・フロイス－16世紀の日本を記録したポルトガル人－	ルイス・フロイス(1532-97)は、ポルトガル人のイエズス会司祭である。1563(永禄6)年に来日して以来、30数年間にわたり日本に滞在し、イエズス会の報告書や書簡、そして日本における布教史である『日本史』を執筆した。フロイスの人生とその著作を通して、16世紀後期における日本とヨーロッパの交流の歴史、さらに『日本史』の執筆とその日本語訳注本出版の意義などについて考える。 【キーワード】 イエズス会、フランシスコ・ザビエル、横瀬浦、長崎、『日本史』、松田毅一、川崎桃太	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)
7	豊臣秀吉－神になった天下人－	豊臣秀吉(1537-98)は、日本史上最も著名な人物の一人である。しかし、秀吉は死後に豊国大明神という神となり、その後の歴史の中で翻弄され続けたことは、あまり知られていない。この回では、周知の天下人として活躍した秀吉ではなく、死後の秀吉に焦点を絞り、天下人が神として祀られること、さらに後世において与えられた評価や扱いとその転換などについて考える。 【キーワード】 豊国大明神、豊国社、東照大権現、『太閤記』、豊国神社、豊太閤三百年祭	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)
8	モンテーニュとマリー・ド・グルネー－『エッセー』の作者と「義理の娘」－	裁判官をやめて田舎領主として隠遁し、「自己」を描くという試みをヨーロッパで最初におこなったのがモンテーニュである。その『エッセー』という作品に惚れ込んだグルネー嬢は、やがて『エッセー』死後版の編者となっていく。モンテーニュの生き方と作品について、一女性読者の貢献をまからませながら、考えてみる。 【キーワード】 乱世と隠遁、自己を語る、「エッセイ」と「エッセー」、フェミニズム	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
9	マルタン・ゲール、メノッキオ、そしてピナゴヘー－民衆の生きざまを掘り起こす－	「人物史」のアキレス腱は、記録の残っていない人間を取り扱えないことにある。そして民衆は、生きた痕跡をほとんど残すことなく、忘れ去られていく。だが、そうでない例外的なケースも存在する。ここでは、16世紀南仏の農民マルタン・ゲール、北イタリアの粉屋のメノッキオ、そして19世紀フランスの田舎の木靴職人ピナゴヘーといった人物を採り上げる。超一流の歴史家が、いかにして無名の人物を歴史に組み入れたかを紹介して、歴史学の方法論について考える。 【キーワード】 歴史と記録、民衆文化、ナタリー・デーヴィス、カルロ・ギンズブルグ、アラン・コルバン	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	メアリ・ウルストンクラフトー女性解放運動の先駆者ー	メアリ・ウルストンクラフトは女性解放の歴史のなかでもひとときわ輝く先駆者の一人と考えられている。何故彼女の思想が今日に至るまで多大な影響を与えてきたのか、そしてそれはどのような歴史的な背景のなかで生まれたのか、女性の権利を主張するということによってどのような問題を提起しえたのか、など人類史において女性と男性との関係を根底的に再考することを促したウルストンクラフトの生涯と作品を概観する。 【キーワード】 啓蒙思想、理性、美德、感情、女性解放、フェミニズム、教育、パーク、ルソー、プライス、ゴドウィン、消費社会	草光俊雄(放送大学教授)	草光俊雄(放送大学教授)
11	ラスキンとモリスー中世主義と近代ー	19世紀は歴史の時代であった。人びとは自分たちの生きている時代をそれ以前の時代と対比しながら、何が良くて何が悪くなったのか、自問し始めた。そうした時代に大きな影響もたらした人びとのなかにラスキン、モリスといった大きな足跡を残した人物がいた。この回では彼らの思想を中心に、歴史を考えるひとつの見方の誕生を考えてみることにする。 【キーワード】 歴史主義、中世主義、ラスキン、ピュージーン、モリス、産業主義、芸術と社会	草光俊雄(放送大学教授)	草光俊雄(放送大学教授)
12	津田梅子ー明治初年の女子留学生ー	津田梅子(1864-1929)は、明治4(1871)年に開拓使がアメリカに派遣した日本最初の女子留学生の一人である。帰国後は女子教育に尽力し、明治33(1900)年には自らの教育理念を実現すべく女子英学塾(津田塾大学の前身)を創立した。津田梅子の人生、そしてともに留学した山川(大山)捨松、永井(瓜生)繁子の人生を通して、日本の近代化と、この時代を生きた女性と社会との関係について考える。 【キーワード】 女子留学生、女子教育、女子英学塾、山川(大山)捨松、永井(瓜生)繁子、津田塾大学	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)
13	孫文ー東アジアの革新者ー	20世紀初頭、中国国民党を創始し、辛亥革命で新中国建設を指導した孫文は、中国の国父と呼ばれる。彼が中国の近代化を目指して提唱した三民主義は、日本をはじめアジアの人々の心をとらえ、協力してヨーロッパ勢力と対抗して「近代化」を実現しようとした。その動きの歴史的意義とアジアとの連帯について「民族」の概念をカギに検討する。 【キーワード】 三民主義、革命、アジア、連帯、民族	吉田光男(放送大学副学長)	吉田光男(放送大学副学長)
14	歴史学としての人物史	第2回～第13回では、5名の講師がそれぞれ2～3回ずつを担当し、各回では基本的に一人(組)の人物を取り上げてきた。これに続く第14回では、個別の人物を取り上げることからは離れて、人物史そのものについて考えることとする。5名の講師それぞれが、人物史とは何か、その意義、さらに方法や課題などについて述べる。 【キーワード】 人物史、時期区分、史料、『エッセー』、伝記	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)
15	歴史のなかの人間ー全体のまとめー	第15回では、5名の講師それぞれが、本科目のまとめを行う。歴史と人間を考えることの意義や面白さ、その一方で方法上の問題点や限界が存在すること、歴史学研究者はそれを自覚しており克服する方法を模索していることなどが指摘されよう。これらのまとめを押さえた上で、改めて個別の人物を取り上げた第2回～第13回を振り返り、歴史と人間について考える。 【キーワード】 名もなき人、歌謡、戸籍、民衆、歴史家	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)・吉田光男(放送大学副学長)・杉森哲也(放送大学教授)・宮下志朗(放送大学教授)・草光俊雄(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1219243	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本語からたどる文化 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：ダニエル・ロング（首都大学東京教授）〕

講義概要

現代の日本の様々な側面に焦点を当てながら、言語的・文化的側面からそれらを捉え、理論的な考察を加えると共に、これまでに意識しなかった様々な点を意識化することによって、「日本」に対する「外からの視点」を提供する。

授業の目標

日本語を切り口にしてものの見方・考え方、社会、行動、等々の様々な局面を取り上げることを通して、社会言語学とコミュニケーション論の視点から「日本語」や「日本文化」に改めて自覚的になり、自らの言語・コミュニケーション・文化を相対化し、見つめ直す視点を獲得することを目指す。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「日本語文化論」ことはじめ	授業の概要や取り上げるテーマとその意義などを説明すると共に、「言語」について予備知識として知っておいてほしいことを説明する。また、「コミュニケーション」の特徴のいくつかについて説明し、この科目での「文化」の捉え方について説明する。更に、「見える文化と見えない文化」の概念を説明し、外部からの視点を取り入れることによって日本文化に対して客観的な視点を獲得することを説明する。 【キーワード】 言語、コミュニケーション、文化、日本語文化論	ダニエル・ロング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
2	名前	名前にまつわる様々な論点を紹介し、日本における名前の捉え方と外国での名前の捉え方を比較する。 【キーワード】 姓、名、名前、愛称、敬称	ダニエル・ロング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
3	地名	地名にまつわる様々な話題を提供しながら、征服者と被征服者の関係や政治的力学の影響についても言及する。 【キーワード】 人名、地名、自称、他称、通称	ダニエル・ロング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	食物	調理方法に関する言葉を比べることを通して言語決定説・言語相対説について説明すると共に、茶の普及を例に取り、ものの普及について説明する。 【キーワード】 料理法の語彙、言語決定説と言語相対説、ものの普及	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
5	空間	メッセージの種類を整理し、非言語コミュニケーションの機能を説明すると共に、対人距離や住居にまつわる話題を提供しつつ、日本での「ウチ」と「ソト」の捉え方を考える。 【キーワード】 メッセージの分類、非言語メッセージの機能、対人距離、環境要因、「ウチ」と「ソト」	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
6	身体	身体の一部を使った比喩的表現を比較言語学的に取り上げると共に、身体を使った様々な表現について考える。 【キーワード】 比喩、身体動作、身体接触	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
7	服装	服装に関する比喩的な表現を紹介しつつ、服装から読み取れるメッセージや服を着ることで発信しているメッセージなどを考える。 【キーワード】 印象形成、制服、服装の選択	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
8	時間	時に関する表現からメタファーについて考えると共に、時間に関する考え方・捉え方の文化差について考える。 【キーワード】 メタファー、時間の捉え方、モノクロニック文化とポリクロニック文化	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
9	物品	コミュニケーションについての基本的特徴の残りを説明した上で、自分の所持品や贈り物などの人工物から読み取れるメッセージについて考える。 【キーワード】 コミュニケーションの特徴、基本的価値志向、所持品、贈り物	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)
10	タブーと婉曲表現	婉曲語法を概念を紹介しつつ、タブーの概念の文化差や人種差別の時代的変遷などを紹介する。 【キーワード】 婉曲語法、忌み言葉、避けるべき話題の文化差	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東 京教授) 大橋理枝 (放送大学准 教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	人間関係	日本における上下関係の捉え方、その言語的な表現、丁寧さを表現する方法などを取り上げながら、人間関係が発達する過程を検討する。 【キーワード】 垂直性、場の論理と資格の論理、敬語、ジョハリの窓、自己開示	大橋理枝 (放送大学准教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
12	言語接触	二つの言語を話す人々が接触するとき、社会と個人の二つのレベルにおいて言語接触が起こる。社会全体レベルの「マクロ的」にみられる現象として、借用語(外来語)を取り上げ、個人レベルの現象とに言語併用や場面による使い分けなどについて考える。 【キーワード】 生活言語、二言語併用、母語、コードスイッチング	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
13	アイデンティティ	方言と標準語の概念を踏まえて、方言使用と個人のアイデンティティ密接な係わり合いなどを取り上げつつ、観光資源としての方言の在り方などについて考える。 【キーワード】 方言、標準語、アイデンティティ、方言の観光資源化	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
14	言語習得	言語を習得するというのはどういうことか、日本の言語教育の在り方や外国語学習に対する態度について考える。 【キーワード】 習得、学習、中間言語、言語教育	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)
15	変化するコミュニケーション文化	近年急速に変化してきたといわれるコミュニケーションの世界を、新しい文法(ら抜きことば)、新しい敬語(二重敬語)、新しい文体(電子メール)、そして新しい応用方法(方言の観光資源化)のそれぞれの観点から日本語のコミュニケーション文化の現状と未来を考える。 【キーワード】 ら抜きことば、二重敬語、電子メール文体、方言の観光資源化	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授)	ダニエル・ロ ング (首都大学東京教授) 大橋理枝 (放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1110101	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ アジアと漢字文化 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：宮本 徹（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：大西 克也（東京大学大学院教授）〕

講義概要

東アジアから東南アジアにかけての広い地域に対して、中国文明は過去から現在に亘り深甚なる影響を与え続けてきた。その文明の優位性を保証していたのが書記体系としての漢字である。本科目は、中国における漢字の成立と歴史的展開を軸としつつ、あわせて周縁地域に対する漢字の諸方面における影響を俯瞰することを通じ、我々が生きるアジアにおいて漢字文化が果たしてきた役割とその将来についていま一度考え直す視点を提供する。

授業の目標

漢字についての基本的知識の習得を図ると同時に、その歴史的展開について理解を深める。さらに、アジアにおいてインド系・アラビア系文字と並んで広く使用される漢字を例にとり、言語と文字の関係及び文字を共有する文化圏の歴史的意味を考察するとともに、この文化圏の一員である私たちに与えられた今日の課題を解決する視座を獲得することを目指す。

履修上の留意点

履修に際して特に前提とされる知識はないが、中国史についてのごく基礎的な知識があればなおよい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	漢字の誕生——骨と甲羅に刻まれた文字——	古代中国語の表記体系としての漢字の基本的性質を理解した上で、現在確認される最古の漢字である甲骨文字について概説する。甲骨の作成方法や文章の読み方についても言及する。 【キーワード】 字体、書体、表語文字、甲骨文字、占卜、殷、殷墟	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也(東京大学大学院教授) 松丸道雄(東京大学名誉教授) 平勢隆郎(東京大学東洋文化研究所教授)
2	漢字の起源——甲骨文字のしくみと陶文——	甲骨文字は中国語をどのように可視化したかという観点から、甲骨文字の成り立ちと特徴とを考察する。甲骨文字以前から見られる新石器時代の土器に記された符号や文様と漢字の起源との関わりについても考える。 【キーワード】 甲骨文字、解読、表意文字、表音文字、陶文	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授)
3	青銅器に鑄込まれた漢字——金文の誕生と展開——	殷周時代の青銅器に鑄込まれた金文について、器の製作方法をふまえた上で、甲骨文と比較しつつその特徴を解説する。 【キーワード】 金文、青銅器、陶模法、皮型	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授) 松丸道雄 (東京大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	多様化する漢字—— 戦国時代の文字——	分裂の時代を背景に多様化した戦国時代の文字について、現地ロケをふまえた豊富な資料を基に解説する。多様化の諸相とその要因について考える。 【キーワード】 戦国文字、多様化、正字、俗字	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授)
5	屈原の書いた漢字—— 戦国時代の楚の言語表記システムと国ごとの違い——	楚簡に記された筆写文字に基づき、戦国時代の楚の国における漢字の諸相を考察する。他の国の文字と比較し、国毎にどのような相違があったのか考える。 【キーワード】 戦国文字、楚簡、俗字、周圏分布	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授)
6	隸書の誕生と文字統一—— 古代文字の終焉——	隸書の誕生によって、象形的な古代文字が画一的な筆画によって構成される近代的な漢字に変貌する様を考察する。秦始皇によって成し遂げられた文字統一の歴史的意義とその実際を、湖南省や湖北省の出土資料を基に解説する。 【キーワード】 隸書、隸変、文字統一、秦始皇、馬王堆帛書	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授) 横田恭三 (跡見学園女子大学教授)
7	漢字の完成—— 楷書の誕生と規範化——	今日我々が用いている書体がいかにして成立したかを、漢代の簡牘や南北朝時代から唐代の碑文や墓誌などに基づいて解説する。 【キーワード】 草書、行書、楷書、碑文、墓誌、石経、印刷用書体	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授)
8	字書の変遷—— 漢字史からみた字書——	字書の起源とその変遷を漢字の書体の歴史から解説する。 【キーワード】 字書、『説文解字』、六書、部首、楷書、『玉篇』、『字彙』、『康熙字典』	大西克也 (東京大学大学院教授)	大西克也 (東京大学大学院教授)
9	漢字と漢字音	文字としての漢字が周縁諸民族に受容されたとき、その読音である漢字音がどのような変化を遂げたかを、原音と日本漢字音との関係を中心に解説する。 【キーワード】 反切、韻書、中古音、漢字音、呉音・漢音・唐音	宮本徹 (放送大学准教授)	宮本徹 (放送大学准教授)
10	漢字と近代化	国民国家の成立と近代化の時代、中国で行われた漢字を巡る様々な議論と文字改革の運動について、漢字の標音化と簡略化を中心に解説する。 【キーワード】 近代化、文字改革、標音化、簡化字	宮本徹 (放送大学准教授)	宮本徹 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	漢字と「漢字系文字」	漢字はその周縁部においてさまざまな「漢字系文字」を生み出したが、その特徴について、中国西北部を中心に见られる「擬似漢字」と中国東南部を中心に见られる「派生漢字」との違いを中心に解説する。 【キーワード】 漢字系文字、西夏文字、チュノム(字喃)	岩月純一 (東京大学大学院准教授)	岩月純一 (東京大学大学院准教授)
12	韓国・朝鮮の漢字	韓国・朝鮮における漢字の受容と歴史的展開について、現在における文字状況も含め説明する。 【キーワード】 韓国木簡、金石文、吏読、ハングル	福井玲 (東京大学大学院教授)	福井玲 (東京大学大学院教授)
13	日本語と漢字(1)	日本における漢字の伝来と吸収について、単に文字の受容という観点のみならず、日本語における漢語の存在という側面からも漢字文化について考察を加える。(漢字の伝来と吸収／万葉仮名／日本漢字の特徴／国字・方言字) 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛 (成城大学教授)	陳力衛 (成城大学教授)
14	日本語と漢字(2)	第13回の続き。 (日本語における漢語／近代における日中の語彙交流) 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛 (成城大学教授)	陳力衛 (成城大学教授)
15	アジアの言語と漢字——漢字の受容によるアジア諸言語の変容——	漢字文化をめぐる座談会。①漢字が東アジアで果たした役割、②文字と言語の相関関係、③漢字文化の将来。 【キーワード】 東アジア／漢字文化圏／文字と言語	宮本徹 (放送大学准教授)	大西克也 宮本徹 岩月純一 福井玲 陳力衛

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1219200	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 世界の名作を読む （'11）＝（R）

※この科目は「世界の名作を読む（'07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第3, 4, 5, 10, 11, 12, 15回です。

〔主任講師（現職名）： 工藤 庸子（東京大学名誉教授） 〕

【本学担当専任教員： 井口 篤 （放送大学准教授） 】【

講義概要

文学講義の入門編。だれでもタイトルは知っているけれど、いきなり読むのは荷が重いという超大作から、はかりしれぬ含蓄のある珠玉の短篇小説まで、それぞれの講師が、自分自身の読書経験に照らして作家と作品の魅力を語ります。「世界の名作を読む」（'07）の教材7回分を改訂し、昔話や少年文学など、親しみやすい作品を導入しました（再履修可）。MP3の朗読CD付き。

授業の目標

講義で取りあげられた作品を、履修者が自力で積極的に読むことが第一の目標です。学校教育の「感想文」とは異なる「文学の読み方・語り方」とはいかなるものか、講師はその具体例を提案します。良質の翻訳文学に親しみ、日本語の力をつけましょう。

履修上の留意点

評価は記述式の問題で行います。通信指導問題は、それぞれの解答に即した個別的なコメントと形式にかかわる一般的な判定を記入して返却します。単位認定試験の準備に活用してください。日本語の表現力は一朝一夕で身につくものではありませんが、とにかく挑戦してみることが大切です。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	セルバンテス『ドン・キホーテ』	・はじめに — 文学作品を耳で愉しむ。 ・音読か黙読か — 物語文学と翻訳の問題。 ・講談バージョンで聴く「風車の冒険」 — あまりにも有名なエピソードのどこが面白いのか。 ・アラビア人の原作者シデ・ハメテ・ベネンヘリと謎の「第二の作者」。 【キーワード】 声に出して読む物語、冒険、書物	工藤庸子	工藤庸子
2	同	・『ドン・キホーテ』後篇を読む — 錯綜する幻想と現実。 ・村の知識人サンソン・カラスコと従者サンチョ・パンサ。 ・講談バージョンで聴く「森の騎士との決闘」。 ・狂気の終わりと主人公の死と物語の幕切れ。 【キーワード】 アンチ・ヒーロー、幻想、物語の結末	同	同
3	昔話：ペローとグリム兄弟	・「赤頭巾」と「灰かぶり」の独仏バージョンを比較する。 ・「昔話」は誰のために語られ、何を教えようとしているか。 ・生成するヨーロッパ。17世紀フランスの宮廷文化（ペロー）と19世紀ドイツの市民社会（グリム兄弟）を背景において、口承文学を考える。 ・いわゆる「グリムの残酷さ」について。 【キーワード】 文芸サロン、児童文学、昔話の編纂	同	同

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ダニエル・デフォー 『ロビンソン・クルーソー』	・無人島はサヴァイヴァル・ゲームの舞台だろうか？ ・島の「経営者」のような経済人ロビンソン。 ・カリブ海をめぐる食人幻想とフライデイ。 ・オリノコ川の河口近くの無人島というトポスをいかに読み解くか。 【キーワード】 読解の視点と方法、ポストコロニアル批評	同	同
5	シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア』	・「恋愛小説」のヒロインとは？ ・女性作家の一人称小説。 ・カリブ海幻想(狂気の妻)と土地の精霊(ケルトの妖精のような恋人)という構図。 ・「結婚」というハッピー・エンディング 【キーワード】 ジェンダー、一人称の語り、女性の自由と自立	同	同
6	ドストエフスキー 『罪と罰』	・ドストエフスキーの日本でのこれまでの読まれ方。 ・「犯罪小説」であると同時に、形而上的観念の小説でもある『罪と罰』。ドストエフスキーの独自のリアリズムと幻想。 ・ペテルブルクを舞台とした都市小説。 ・繊細な言葉の芸術としてのテキスト。 【キーワード】 選ばれた人間、聖書、「踏み越える」こと	沼野 充義 (東京大学教授)	沼野 充義 (東京大学教授)
7	チェーホフ 『ワーニカ』 『可愛い女』 『犬を連れた奥さん』	・チェーホフの短編のうち特に『ワーニカ』『可愛い女』『犬を連れた奥さん』の3篇を取り上げ、その魅力と現代的意義について考える。 ・「手紙は届かない」「可愛い女は本当に可愛いか？」「愛はいつ始まるのか？」 ・チェーホフは人情味豊かなユーモアとペーソスの作家だったのか？ 【キーワード】 コミュニケーション、本当の生活	沼野 充義 (東京大学教授)	沼野 充義 (東京大学教授)
8	メルヴィル 『バートルビー』	・アメリカ精神の陰面。 ・バートルビーとは何者か。 ・壁・墓場の意味。 ・語り手の(そして我々の)中で何が変わるか？ 【キーワード】 アイデンティティ、アメリカ的自己、一人称の語り、大都市の誕生	柴田 元幸 (東京大学教授)	柴田 元幸 (東京大学教授)
9	マーク・トウェイン 『ハックルベリー・フィンの冒険』	・南北戦争後のアメリカ — 郷愁の発生。 ・トム・ソーヤーとハック・フィンの違い。 ・文体の新しさ・重要性。 ・ユーモアとメランコリー。 【キーワード】 口語的語り、ユーモア、自然と文明、奴隷制	柴田 元幸 (東京大学教授)	柴田 元幸 (東京大学教授)
10	ジュール・ヴェルヌ 『八十日間世界一周』	・生中継のような新聞連載というメディア戦略。 ・インドの「サティ」(妻の殉死)と「文明化の使命」 ・メディシン・ボーの吊り橋 — 小説が荒唐無稽であることを許されるとき。 ・賭の勝敗と24時間の謎。 【キーワード】 文明化の使命、国民性、語りのトリック	工藤庸子	工藤庸子

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	フローベール『ボヴァリー夫人』	・「姦通小説」とは何か？ ・新婚生活の幻滅と「ボヴァリスム」 ・恋愛感情の芽生えをいかに描くか？ ・官能の陶醉をいかに描くか？ ・「宗教感情」とヒロインの自死。 【キーワード】 ジェンダー、自由間接話法、新しい女	同	同
12	フローベール『純な心』	・フェリシテはヒロインか？ ・「初聖体拝領」と宗教というテーマ。 ・鸚鵡の剥製は「キッシュ」である。 ・老いた女中の臨終と聖者の昇天 【キーワード】 表題、宗教感情、信仰、死	同	同
13	カフカ『変身』	・無名のサラリーマン作家としての生涯。 ・平凡な営業マンの日常におきた「変身」という事件。 ・虫男のおかしさー変身ぶりの不思議と当人が不思議に思わぬことの不思議。 ・身近なテーマとしての「変身」。 【キーワード】 物語の時間、閉じこもり、現代性	池内 紀 (ドイツ文学者)	池内 紀 (ドイツ文学者)
14	カフカ『断食芸人』	・実在した「断食芸」ー何もしない、食べることすらしないという芸。 ・なぜ断食は40日なのか。 ・カフカの笑い。 ・断食芸人の死と作者の死。 【キーワード】 見世物、聖書、餓死	池内 紀 (ドイツ文学者)	池内 紀 (ドイツ文学者)
15	女性と文学:ヴァージニア・ウルフとコレット	・同時代に生きた英仏の女性作家を読みくらべる。 ・「家庭の天使」と職業としての作家。 ・ウルフのシャーロット・ブロンテ批判。 ・ヒロインは「コcott」(高級娼婦)。 ・自由と自立と離婚について。 【キーワード】 ジェンダー、女性の視点、ユーモア、エスプリ	工藤庸子	工藤庸子

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1118030	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 「ひと学」への招待 （'12）＝ （R）
－人類の文化と自然－

〔主任講師（現職名）：内堀基光（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：〕
【本学担当専任教員：】

講義概要

私たち人間とはどのような存在なのだろう。人文科学、社会科学はすべて、そして自然科学もその一部は、それぞれの視点からこの問いに答えようとしている。この講義では、人間という存在がほかの生物と比べて、どんなところにその特徴があるかということに焦点を当てる。われわれにいちばん近い動物である霊長類を視野に入れながら、人間社会の特質、人間文化と呼ばれるものの特異性を示し、その特質・特異性の現れである多様性について語ってゆく。自然にもとづく人間の文化というのが、その基本的な視点である。これを抽象的な思考にとどめることなく、できるだけ具体的・実証的に語る。

授業の目標

「ひと学」とは新しい表現だが、ここでは人文社会系の人類学を中軸にすえながら、生物系の人類学や霊長類学へのまなざしをもつものと理解しておきたい。地球上に住むわれわれ人類という生物の文化とその自然的基礎を学ぼうとするものである。これにより、高校教育での地歴科、生物といった垣根を越えて、大学では、新たな発想のもとで広い視野での学習が可能になる、ということを学べばよいと考えている。同時に、具体的な事柄のなかから一般的な理論に至る思考の筋道のあり方にも慣れるようにしたい。

履修上の留意点

印刷教材では基本的な思考の材料を提供し、ラジオによる放送教材では、それに基づいて思考を深めたり、広げたりするように編成するので、両者を注意深く比較しながら履修すること。基礎科目としての性格上、高校での科目配置を乗り越えることを目標の一つとする。したがって、新鮮な気持ちをもって履修に向かってほしい。本科目の履修後に「文化人類学('14)」を履修すると、人類の文化の現在をどう観るか、についての理解が深まるだろう。あるいは、「文化人類学('14)」をすでに履修した後でも、本科目によって人類文化の進化上の位置づけについて、あらたな知見を得ることが期待できよう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「ひと学」とは何だろうか	「ひと学」とは人間の生活の基にある文化的な特質と、自然的な基礎について、総合的な観点から語ってゆこうとする学問である。これを高校教育から大学教育への架け橋という位置づけで講義する。第1章では、生物、社会、地歴科といった教科のなかに見られる人間についての高校までの知識を確認するとともに、それをより深く考えなおすことの意義からはじめる。 【キーワード】 「ひと」のイメージ、ホモ・サピエンス、霊長類、ヒト化、直立二足歩行	内堀基光 (放送大学・教授)	内堀基光 (放送大学・教授)
2	「ひと」の文化	人間(人類)は文化をもつ動物であると言われる。だが、文化とはなにかと問われると、なかなか簡単には言い表せない。それは、道具を作ることでもあるし、互いにコミュニケーションをとるのに言語を使うということでもある。人間が作り出してきたものから文化を語ることもできるし、世界を観る見方そのものが文化なのだと考えることもできる。この章では、捉えがたいところのある「人間の文化」という考え方について、その基礎となるところをみてゆく。 【キーワード】 文化という言葉、普遍性と個別性、文化相対主義、異文化と多文化、グローバリゼーション	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
3	感情の起源	人間は日常生活のなかでさまざまな感情を抱く。ある意味では感情こそが、人が生きている証でもある。感情は「ここ」のはたらきであるという表現もなされるが、この場合の「ここ」とは何なのだろうか。理性的な思考に対して、感情は人間の存在や社会的あり方をどのように基礎づけるものなのだろうか。感情と生存の関係を軸に考えてゆく。 【キーワード】 身体性と表情、感覚と感情、社会的感情、共感、コミュニタス	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	「ひと」の集まり方	人間は社会的存在であるとも言われる。さまざまな社会科学は人間のこの側面をそれぞれの観点から解き明かそうとするものである。法学、経済学、社会学などを代表的なものとして思い浮かべることができるだろう。これらの学問の多くは、近代現代における人間社会のあり方を探ることをその中心的な課題としている。「ひと学」では、「家族」をはじめとして、社会のもっとも基礎的、原初的なあり方をさぐってゆく。 【キーワード】 家族、再生産、親族、ネットワーク、協働	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
5	性という関係	性は人間の生物学的基礎にある関係のあり方である。性は社会を基礎づける要件であり、生殖行為によって人の世代的再生産がなされる。多くの人間社会では夫婦という関係が制度的に認められた性関係のペアを形成する。異性の魅力や性愛関係は、人類の進化の過程のなかで獲得されてきた特質でもある。生物性と社会性を同時に体現する性について考える。 【キーワード】 基盤としての再生産、インセストとその禁止、性愛、性差、男のボンド	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
6	男女の社会的役割	社会の中で男としてあること、女としてあることは、単純に生得の差異にもとづくのではない。出産はともかくとしても、育児のような母性にもとづくと思われがちな役割も、社会的に形成されたものという面もある。人類に特殊のだと思われる父性についても同様である。こうした議論を通じて、一般にジェンダーと呼ばれる社会的な性別の意義づけについて語ってゆく。 【キーワード】 第二の性、フェミニズム、男女の分業、家内と外、母権制論	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
7	病と老いること	個体としての人は時間に限られた存在であり、生物的に老いてゆくことも必然である。その間に人はしばしば病に冒されもする。病と老いはまた文化的な意味を与えられ、病人や老人は社会によって異なる扱いを受ける。風土病や流行病は人類の生物学的な生存そのものを考えるための、有効な手がかりになる。 【キーワード】 医療と呪医、シャマニズム、ジェロントクラシー、寿命と延命、文化結合症候群	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
8	死ぬことと死	人は死ぬ。宗教の基本には、死というこの必然(宿命)に向けて、どのように対処していけば良いのかという教義があり、さらにその奥には死とは何かについての観念がある。問題としての死には他者の死と自己の死のあいだに相の違いがあり、またそれを乗り越える仕方には、死後の生や、社会的に執り行われる儀礼などがある。ここから死の文化的現れとは何かを考えてゆく。 【キーワード】 他者の死、私の死、遺体の処理、死者という存在、不死	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
9	食べるものを作る	人はどのようなものを、どのようにして食べるかを語ってゆく。食料を獲得する方法には狩猟・採集活動から、農耕、牧畜などの生産活動がありあが、さらに料理という過程を経て、はじめて食料は食べ物になる。食べるに当たっては作法があり、社会によってはさまざまなタブーが存在する。食べられるものと食べられないものの区別は自然的な区別と同時に文化的な区別である。 【キーワード】 食べられるものと食べられないもの、食事の作法、生のものと火を通したもの、雑食性、狩猟仮説と被捕食者	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	遊び、考えること	人は遊ぶ存在である。ここでは遊びを広い意味で捉え、美術や音楽を含む芸術活動、服飾や装身具をつける習俗なども遊びと考える。子供の遊びにも見られる社会的な要素が、人間の本质とどう関わるか。チンパンジーの遊びなどにも触れ、人類の社会性の進化における遊びの意義を考える。 【キーワード】 同調と感応、心の理論、芸術の誕生、言語と象徴化、想像力	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
11	道具を作り使う動物	人類の特質のうち道具に焦点を当てて、身体の延長という観点から、世界と人間の関わりについて論じる。石器製作という人類の技術の大きな第一歩の意義を見きわめ、道具の社会性、武器という特殊な道具、製作にあたっての模倣能力の意味などを語ってゆく。チンパンジーの道具使用が、人間性を検討するための重要な比較対象となる 【キーワード】 ホモ・ファベル、身体の延長、世界の操作、呪術、在来知	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
12	「ひと」類似のもの	人は生物的存在だが、高度な知能、精密なはたらきを可能にする手、二足歩行など、身体的にきわめて特色のある生物である。道具を作る技術の極限に、サイボーグあるいはロボットと呼ばれる人間類似の人工物が作り出されている。人間の作り出すロボットは、逆に人間とは何かを考えるための絶好の「よすが」になる。 【キーワード】 ヒューマノイド、ヒトとロボットの社会関係、ロボット工学3原則、主体性、臓器移植	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
13	約束事の世界	人間の社会は小さな規模の居住共同体から、国家、さらには国際社会に至るまで、なんらかの約束事の上に成り立っている。こうした社会の中での約束事には、贈与や交換といった物のやり取り、物の所有についての公認の考えなどが含まれている。これらの全体がそれぞれの社会に固有の制度を形づくる。こうしたところから経済や法といったものの生成について考えてゆく。 【キーワード】 社会的知性、規則、制度、価値の社会性、交換と交易	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
14	支配すること	人類史の長い期間を通じて、狩猟や採集によって生活してきた人間社会は平等的なものであったが、農耕革命以降、そこに富の不平等な配分や、支配と被支配という人間関係が発生してくる。都市や国家、王権の形成はこれらの不平等と不可分のものであり、これが過去数千年の人間社会を特色づけることになる。社会における支配と、それへの抵抗という問題を考えよう。 【キーワード】 身分制、王権、祭司王、暴力と社会、国家に抗する社会	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)
15	「ひと」の過去と未来	この回(章)では、『「ひと学」への招待』全体を振り返りつつ、生物種としてのヒトの過去を考えると同時に、未来というものの意味を探ってみる。進化上の種の絶滅はどのように現われるか。また現在の動向から見て、「ひと」のあり方、すなわち社会における公正や権利はどのように変化すると考えられるのだろうか。現生人類が単一種であることの意味を考える。 【キーワード】 未来、民族と人種、グローバリゼーション、地球社会、文化的多様性	内堀基光 (放送大学)	内堀基光 (放送大学)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1237217	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 自然を理解するために（'12）＝（TV）
－現代の自然科学概論－

〔主任講師（現職名）：海部宣男（国立天文台名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：星元紀（放送大学客員教授）〕

【本学担当専任教員：濱田嘉昭（放送大学教授）】

講義概要

本講義は、現代の地球市民が持つことが望ましい基本的な教養としての自然科学について、その全体像を、人間と自然という視点から総合的に示すものである。人間はこの広大で奥深い自然をどのようにして認識し、理解してきたか。現在、自然の理解はどこまで進んでいるのだろうか。さらに、どんな問題を設定し、どのような方法で答えようとするのだろうか。そして自然科学と社会とは、どのように関わっているのか。前半では、歴史的理解から現代社会における自然科学の考え方、全体的な構造と方法までを概観する。ついで、自然科学の各分野それぞれの成り立ちや体系、解明をめざす問題、学問としての特徴、自然科学全体や社会とのかかわりなどについて、それぞれの専門の立場から述べる。最後に、自然科学が社会にもたらすものは何かを包括的に見直し、現代の自然科学のあるべき姿や未来への展望を考えてみたい。

授業の目標

人間は、「自然を理解すること」によって生きる道を広げ、氷期後の温暖な地球の上で文明社会を築いて繁栄してきた特殊な動物である。特に19世紀以降、めざましい科学革命を経て科学・技術文明を発展させた。いまや私たちの日々の生活は、科学を抜きにして考えられない。しかしその一方、環境変動や未来社会への不安の中で、自然や科学についての理解と判断の力を社会の一人ひとりが磨く必要性が高まっている。私たちの周りには、一見科学を装った似非商品や過剰宣伝もあふれている。現代社会の複雑な現象にどう対応し、未来に何を見出してゆくか。自然科学の幅広い基礎は、そのような試練に直面するこれからの地球市民が持つべき基本的教養である。本講義は自然科学全体を概観し、人間が科学を通じて自然の理解をどう積み上げてきたのかを学び、受講者一人ひとりが未来の社会に向けて自分自身の科学的判断と考える力を涵養することを目指す。

履修上の留意点

文系、理系などのバックグラウンドを問わず、自然科学への入門、あるいは再入門として、広く学んでほしい。前提として学んでおくべき科目や、逆に履修制限をすべき既習科目はない。

	テーマ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	はじめに －自然とは何か・ 自然科学とは何か	ヒトは38億年にわたる生命進化の歴史の中で育まれてきた新参者だが、その恵まれた知能を駆使することによって、繁栄を謳歌するに至った。自然を知り・理解する「科学」という営みとその利用は、人工物に囲まれた「豊かな」現代社会をもたらししたが、一方で私たちと自然との関係、また社会と自然科学との関係は、どのような展開を迎えているだろうか。この講義の導入として、私たちと自然、そして自然科学への期待と危惧を中心に、自然科学者と人文科学者の鼎談で考えてゆく。 【キーワード】自然、科学、自然科学、技術、産業	星元紀 (放送大学客員教授)	星元紀 (放送大学客員教授) 海部宣男 (国立天文台名誉教授) ゲスト:大橋理枝 (放送大学・准教授)
2	自然の認識から科学へ －自然科学の歩んだ道	人間はどのように自然を認識し、その理解を深め、自然にひそむ法則性を掴み取ってきたのか。自然を理解したいと思う人間の欲求に支えられて積み上げられた観察と認識は、やがて科学として体系化され、実験、測定、観測や数学的分析を磨き上げて、法則に基礎を置いた近代科学として確立した。科学革命を通して統一的な自然認識と多彩な技術・産業の基礎を築いた、人間の自然理解の歴史を概観する。 【キーワード】自然観、科学、自然科学の歩み、技術、科学革命	星元紀 (放送大学客員教授)	星元紀 (放送大学客員教授)
3	自然科学が対象とする世界	自然科学の対象には、自然界のすべて、すなわち極微の素粒子から極大の膨張宇宙までが含まれる。ただそれはあくまで、私たち人間という存在から見ての極微であり極大である。自然科学はまた、極低温から超高温、宇宙の真空から中性子星などの超高密度、あるいは原子構造から複雑な生物組織、一瞬の時から宇宙史的時間、そして多様な生態系システムまでを取り扱う。それら全体を通じての共通性(普遍性)、そして法則が、自然の多様性や広大なシステムを生み出していることを把握する。 【キーワード】自然界、要素とシステム、普遍性(共通性)と多様性	星元紀 (放送大学客員教授)	星元紀 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	自然科学の基盤 ――見ること・測ること	自然の観察から発展して近代的科学の基本的な手段になった観測・分析・実験の手法は、技術の発展とともに飛躍してきた。科学の進歩はまた、新しい技術の発展を進める。現代の自然科学はそうした手段を駆使して、宇宙・地球・物質・生物など自然のすべての面にわたって革命的な発見を重ね、人間自然の新しい概念や新しい世界を獲得し、広げてきた。その積み重ねの結果として、人間にとっての自然は格段に大きく深いものとして再認識されるに至っている。そうした科学と技術が果たしてきた役割を述べ、自然を深く探求する現代の自然科学の基盤について、概説する。 【キーワード】 科学と技術、見えない世界、望遠鏡、顕微鏡、X線回折、地震波トモグラフィ	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
5	自然科学の方法――考え方の発展	私たちが自然を論理的に理解できるのは、なぜだろうか。この章では、人間は自然を理解する上でどのように問題をとらえ、どのような科学の方法として展開してきたのかを、抽象的哲学論ではなく、できる限り科学研究の実際に即して考えよう。もちろん、科学の方法は最初からあったのではない。科学の進歩とともに実践され、積み重ねられて発展してきたものである。そこで、まず帰納と演繹というよく知られた二つの方法を軸として科学を振り返り、二つの方法の相互作用を考える。ついで演繹的方法としての性格が強い数学の発達、いっぽう帰納的方法の一つとして近世以降に急速な発展を見た実験について、具体的な事例をいくつか取り上げてみたい。さらにコンピュータモデルなど、新しく発展している自然科学の手法と思考法についても触れよう。 【キーワード】 帰納と演繹、自然と数学、自然の論理、実験、仮説、仮説演繹法、モデル	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
6	生物科学の世界	まず生物学の成立と発展を概観するとともに、その意味付けを述べ、ついで現代の生物科学の問題意識と課題、考え方、新しい挑戦を取り上げる。具体的には、生きているということ、生命の歴史と進化、多様にして一様な生物の世界、ヒトという生物、など。最後に、現代社会における生物科学の課題と展望に触れる。 【キーワード】 生命と生物、生物学の誕生と発展、生物の世界、ヒトという動物	星 元紀 (放送大学客員教授)	星 元紀 (放送大学客員教授)
7	天文学・地球科学の世界	まず、人間がどのように大地と天空の現象を認識し科学として発展させてきたかを述べる。ついで現代の天文学・宇宙物理学・地球惑星科学が私たちの住むこの世界をどのように・どこまで理解しているかを概観し、宇宙と地球の科学的探求について、基本的理解を深める。最後に、膨張宇宙の歴史と物質世界の成立、宇宙の惑星と生命、地球とその上の生物・文明など科学の新しい挑戦と将来の展望にも触れる。 【キーワード】 膨張宇宙、物質と時空、物質の進化、太陽系外惑星、地球、宇宙の生命	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
8	化学の世界	まず化学の成立と発展の概観を行うことで、マクロとミクロの両方の視点をもつ化学の特徴を説明する。具体的には水をとり上げ、水の示す様々な性質および自然現象が、分子の構造、化学結合の特徴でどのように解釈できるかを説明する。 化学が自然現象だけでなく、われわれの日常生活、生命現象にも深くかかわっていることを学び、また、化学の面白さと重要性についても考える。 【キーワード】 物質、原子、分子、化学反応、生命と物質、文明と物質、水	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所　属・職　名)	放　送　担　当 講　師　名 (所　属・職　名)
9	物理学の世界—ようこそ物理へ	物理学は、大は宇宙の大きさ(約10の26乗m)から、小はプランク長さ(約10の35乗分の1m)という広い範囲にわたる世界を対象とする。こんな広大な世界の自然観を、物理学がどのように探求しているのかを見て行こう。自然界に見られる現象を、なぜ、どうして起こるのかと問題提起しながら、身近にある物を使って実験を行いながら、物理の考え方が、どうやって作り出され、日常にどう生きているかを示す。そして、現在までに到達した物理の世界の自然観の柱を共に見て行こう。 【キーワード】 ものとはなぜ落ちるか、力と運動、仕事とエネルギー、コマはなぜ倒れないか、対称性と保存則、対称性の自発的破れ、自然は何かから出来ているか、力の起源は何か	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授) ゲスト: 米谷民明(放送大学教授)
10	数学の世界	数学の特質と有り様を幾何学を例に考察する。ギリシャ時代のユークリッドの「原論」の成立以前を簡単に概観し、原論における公理的記述と平行線の公理(第5公準)が数学でどのように扱われ、19世紀の非ユークリッド幾何学の誕生に至ったかを解説する。ユークリッド幾何学と非ユークリッド幾何学はやがてリーマンの深い洞察によって、リーマン幾何学の特別な形として特徴づけられた。リーマンは物理学にも精通していたが、純粋に思考の産物であるリーマン幾何学はアインシュタインの一般相対性理論の構築にその基礎空間として利用されることとなる。純粋に論理的に考えた数学が、後になって思わぬ場面で自然科学に応用されることしばしば起こっている。自然科学、社会科学との交流が数学に幅と深みを加え現代も活発に発展し続けている。 【キーワード】 数、図形、空間、ユークリッド空間と非ユークリッド空間、公理的数学、リーマン幾何学、一般相対性理論	熊原啓作 (放送大学名誉教授)	熊原啓作 (放送大学名誉教授)
11	自然科学の研究はどのように進められるのか	昔、科学者とは哲学者のことだった。「科学者」の発生と成立を歴史的に概観し、近代の制度としての自然科学、職業としての自然科学者、自然科学の研究を進める大学などの組織、そしてそれらを支える経済機構について述べる。研究費の制度、自然科学者の養成、自然科学の教育、日本と世界の自然科学についても概観して、自然科学がどのような人々により、どのように進められているかについて理解を深める。 【キーワード】 科学者の養成、研究者数と研究活動の動向、研究を支える経済基盤、国際比較	星 元紀 (放送大学客員教授)	星 元紀 (放送大学客員教授)
12	自然科学の光と影	どんなものにも、光と影の二つの側面がある。光が強ければ、相対的に影の部分も深くなる。近代社会において自然科学は技術とともに大きく発展し、結果として私たちの暮らしを大きく変えてきた。いま人間社会は科学・技術が生み出した成果を享受するいっぽうで、科学・技術が新たにもたらした影にも脅かされている。投下から半世紀近くを経た核兵器をはじめ、環境汚染、遺伝子操作への危惧、さらに先行き不透明な情報化社会など新たな状況は、人間に何をもちたらし、科学自身は其中でどんな役輪を果たせるのだろうか。科学の光と影について、産業の役割も視野に入れながら順次取り上げて考察する。結論はまだなくとも、方向性は存在するだろう。 【キーワード】 戦争、核兵器、人口、寿命、環境汚染、情報、ロボット、人工生命、産業	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	自然科学の周辺――似非科学や迷信をめぐって	現代社会にも一見科学的な装いをまとった宣伝や偽商品、トンデモ本が日常にあふれ、似非科学に多くの人々がひきつけられている。一方、最も古い科学とされる天文学が発達した背景には占いの要求が極めて大きかったし、化学は錬金術から発達した。人間が希求するものと自然の事実を追い求める自然科学との間には、常に緊張関係が存在したのである。現代の権威ある宗教も進化論の否定から脱しきれていないのは、なぜか。科学における真実とはなにか。自然科学と似非科学について、広い立場から考える。 【キーワード】科学の確からしさ、検証可能性、合理性と反証性、似非(疑似)科学、進化論の忌避	星 元紀 (放送大学客員教授)	星 元紀 (放送大学客員教授) 海部宣男 (国立天文台名誉教授) ゲスト: 安井 至 (製品評価技術基盤機構理事長・東京大学名誉教授)
14	自然科学と社会	現代は、自然科学にとっても大きな転換期である、とりわけデジタル技術・コンピュータ・インターネットの発展により、急速な情報の増加と共有化、グローバル化が進んでおり、社会や社会の営みである科学にも、大きな影響が及ぼざるを得ない。そのなかでさまざまな困難に直面しつつある地球社会の市民には、科学に基づく判断力と倫理、そして科学を理解し読み解く力すなわち科学リテラシーが重要になっている。科学と技術、文化と芸術、バーチャルな世界などにも触れながら、現代社会の中の自然科学について考察する。 【キーワード】科学、技術、芸術、環境倫理、情報、科学リテラシー	星 元紀 (放送大学客員教授)	星 元紀 (放送大学客員教授)
15	まとめ――自然科学はどこまで行けるか	空間と物質の起源や、地球と生物の生態系を含めたシステムとしての理解、新しい物質がつくる新しい社会――自然科学はまだその進歩の速度を落としてはいないが、では人間の自然理解はどこまで進むのだろうか。現代の人間と社会が展望する自然科学は、どのようなものであるべきなのだろうか。望ましい社会のありかたも念頭におきながら、再び自然科学者と人文科学者の鼎談で、人間と自然科学とを考える。 【キーワード】科学と社会、人類の資産としての科学、人類の将来と科学	星 元紀 (放送大学客員教授)	星 元紀 (放送大学客員教授) 海部宣男 (国立天文台名誉教授) ゲスト:大橋理枝(放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1233912	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 科学的探究の方法 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：濱田 嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

科学は人間の行う知的活動の一つであり、現実には生起している現象を観察に基づく経験や実験によって得られた結果を整理し、複雑な現象の中から一定の規則を見出し、それらを総合して法則や原理を導き出し、さらにそれらを統合してより基本的な法則を見出そうとする。このようにして得られた法則からは、物質世界あるいは社会現象の予測が可能になる。特に自然科学を技術と結びつけば、新しい性質を示す物質や装置を創造することもできるようになる。一方では、現象の整理の仕方を間違えたり相応しくない方法を適用すると、間違った結論を導き出す可能性もある。本講義では自然科学を中心として科学の考え方、観察や実験を行う際の基本的に重要な項目について考えることにする。また、情報を収集し、論文にまとめ、発表する方法についても考える。最後に科学は専門家のものだけではなく、すべての人々が関心をもつべき事柄であることを強調したい。これによって、現在の私たちが直面する環境問題などに正しく対処できるようになると考えるからである。

授業の目標

実験や観察は自然・社会現象を探究する重要な方法であり、理論的考察と合わせて科学の両輪になっている。最近では、計算機によるシミュレーションも科学的探究に欠かせないツールになってきた。これらの基本的な理解あるいは使用に関する一般的な注意事項を知る。それにより、得られる結果に対する正しい評価ができ、正しい判断が下せることになる。すべての実験法や観察法、およびそれらの操作法を紹介することはせず、それらに共通する事柄を学ぶことを目標とする。

履修上の留意点

実験や観察は自然科学の手法に止まらず、人文・社会系の研究あるいは学習にも共通する事柄である。したがって、分野を問わず履修していただきたい。なるべく、広範な事例を紹介することに努めるが、講師の専門性もあり、自然科学の例が多くなることは了解しておいてほしい。ただし、自然科学の内容自身の理解を求めることが本意ではなく、広い分野に応用してもらうことを前提にしている。気楽に受講してほしい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	科学とは何か	科学は人が行う文化的な活動とどこがどのように違うのか。歴史的な発展を振り返ることで科学の特徴を考えて見たい。科学というと一般的には、自然科学を思い浮かべるが、人文科学や社会科学とはどのような特徴があり、それぞれにどのような違いがあるのかを考える。 【キーワード】 自然科学、人文科学、社会科学、客観性、再現性	濱田嘉昭 (放送大学・教授) 青木久美子 (放送大学・教授)	濱田嘉昭 (放送大学・教授) 青木久美子 (放送大学・教授) 三輪眞木子 (放送大学・教授)
2	科学における用語と表現	科学は厳密に定義された専門用語を用いる。多くの科学者が共通の基盤に立って、情報を交換し、議論を進める上で必要なことである。一方で、このことが日常生活で用いられる言葉使いや、話の進め方と乖離しているため、専門家と非専門家との間の意志疎通の原因あるいは専門・学術用語への不信にもつながる可能性がある。専門・学術用語について考える。 【キーワード】 専門(学術)用語、単位と標準、物理量と表記法	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
3	何を問題にするのか	科学では何を問題にするのか。どのように問題を設定するのかなどについて考える。何が未解決の問題であるのかをどのようにして調べるのかについて学ぶ。卒業研究や大学院修士課程での課題設定において、どのようなテーマにすべきかについても話す。 【キーワード】 科学の語源、問題の発見、先行研究	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	研究の準備	科学研究は人が行う文化活動の一つであるから、それら始めるに際する心構えや準備の必要性は科学に特別なものではない。しかし、科学研究に特有の準備もある。一方、研究結果が自己満足だけではなく、人の文化にとって意味あるものとなるには、研究を始めるに際して、いくつかの考えておかなければならないことがある。本章では研究テーマの決め方、先行研究を確認することの意味を考えてみたい。 【キーワード】 研究実行条件、結果公表の可不可、プライバシー、先行研究	濱田嘉昭 青木久美子 三輪眞木子	濱田嘉昭 青木久美子 三輪眞木子
5	研究のプロセス	どのような研究も、実際のプロセスは単純ではなく、試行錯誤の連続、あるいは初期のテーマとは異なる方向へ進む場合もある。どのようなプロセスで研究が進むはずであるかについて考察する。 【キーワード】 要素分解と統合、帰納と演繹、仮説の発見、偶然の幸運とは	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
6	領域の拡大	自然現象はヒトの五感をはるかに越えた領域で生起している。あるいはわれわれが五感で感じられるのは自然現象のほんの一部であることを知ることは重要である。一方で、五感を越える検出器や観測装置を考案し、利用することはわれわれの認識の範囲を拡大することに繋がる。これらについて論じる。 【キーワード】 五感の範囲、検出限界、分解能、1桁の実験	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
7	自然(社会)に働きかける	自然現象や社会現象は観察するだけでは、その現象が起こっている原因あるいは法則性を見出すことができない場合がある。そのような場合の実験的な方法が、何らかの方法による介入的な観察である。どのような観察・観測があり、その結果をどのように取り扱うべきかを考える。 【キーワード】 (非)破壊分析、定性分析、定量分析、個人情報保護、雑音(ノイズ)	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
8	データの整理	観測した結果がデータであるが、これはそのまま、求めるべき情報をそのまま反映したものであろうか。実際のデータはさまざまな理由により、真実の情報とは異なっている。多くのデータを処理する場合の基本的な注意点を考える。 【キーワード】 偶然誤差、系統誤差、装置の校正、正規分布、標準偏差、t検定	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
9	原因と結果	自然(社会)現象はさまざまな要因と相互作用をしている。それらの関連を解明することが現象の正しい理解となる。観察・測定の結果の信頼性の評価に加え、他の現象との関連・相関を考察することも重要である。この場合、解析を誤ると、原因と結果の関係も誤ることにも繋がる。これらのことについて考察する。 【キーワード】 因果律、散布図、相関	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
10	分類と法則の表現	実験・観察によって信頼できるデータが集まったなら、それらを整理する。整理の仕方によっては生のデータの集合だけでは見えなかった新たな発見があるかもしれない。整理・分類の仕方が研究の質を決めるとも言える。自然科学の研究ではより一般的で本質的な法則を求め、できるだけ数理的な言葉に置き換えることを目指している。一方、そのようにして得た法則を具体的な現象に適用する上では適用範囲に関して注意が必要である。 【キーワード】 分類法、数式化、適用範囲	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	視野の拡大	科学の営みは、結局として、自然あるいは社会をより広い立場で観ることであると言い直すこともできる。井の中の蛙(かわず)が外へ飛び出して、それまで見えなかった世界を知りたいという願望を叶える活動であったわけである。一方、井の中にあっても、知識を集め、合理的に考えることで、井の外に出なくてもある程度は理解できるようにもなれる。広い立場でものが見えるとはどのようなことなのかを考えよう。 【キーワード】 空間・時間スケール、矛盾概念から対立概念へ、ミクロとマクロの視点	濱田嘉昭 三輪眞木子	濱田嘉昭 三輪眞木子
12	研究成果の利用	科学研究は、過去の研究の蓄積の上に、新たな知識を積み重ねていくことで発展してきた。新たな研究に取り組む際には、その領域で過去に積み上げられてきた科学知識を俯瞰して、定説や既に分かっていること、まだ解明されていないことを明らかにし、そのギャップを埋めるためにどんな研究にどのように取り組むべきかを考えることから出発する。過去の研究を知るためには、研究成果がどのように流通しているのかを知り、そうした研究成果を探し出す方法を学ぶことが必要である。 【キーワード】 科学情報の流通、科学情報の収集、科学情報の評価	三輪眞木子	三輪眞木子
13	論文の書き方	研究の成果をまとめて世に問う最終形態が論文である。研究によって発見した現象、新しい考え方などを人類の知的財産として付け加えるものと言える。したがって、著者以外に理解できる文章と筋立てがなければならない。論文といっても、専門分野の学術誌への投稿論文から一般誌の解説記事など様々あるが、ここでは主に大学院や学部での研究論文であり日本語で書く場合を想定して考えることにする。 【キーワード】 主語と述語、正しい日本語表記、起承転結、章立て	濱田嘉昭	濱田嘉昭
14	研究成果の発表と討論	研究成果をまとめて世に問う最終形態は論文であるが、その成果を口頭発表という形で人前で公表する機会も研究者には多々ある。論文による発表は印刷媒体または電子媒体の形で残るものであるが、口頭発表は一過性のものであり、その目的は成果の公表のみならず、他の研究者からのフィードバックを得ることにもある。口頭発表には、授業の課題としての発表から、学会や研究会による発表、及び、学位論文取得のための口頭発表・口頭試問、と様々である。ここでは、主に、学会・研究会における発表を中心に考えることにする。 【キーワード】 学会発表、質疑応答、プレゼンテーション	青木久美子	青木久美子
15	科学の使命	現代の科学や技術の多くの研究は個人の趣味で行うものから、社会が支え社会に還元されるものとして行われている。研究体制、人員、資金は社会構成員の協働で成立しているのである。研究の結果は迅速で、しかも大きな影響を社会に与える場合が多い。したがって、科学の研究方向、結果の受容に社会構成すべてが責任をもつことになる。そのためには、科学研究の意味を理解できる基本的な知識を社会構成員が広くもつ必要がある。 【キーワード】 科学者倫理、科学リテラシー、自然・人文・社会科学の統合	濱田嘉昭 三輪眞木子	濱田嘉昭 青木久美子 三輪眞木子

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234234	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初歩からの生物学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Introduction to Biology ('14)]

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：二河成男（放送大学・教授）〕

※この科目は「初歩からの生物学（'08）」を一部改訂した科目です。

改訂回は第 1, 2, 8, 9, 10, 15回です。

講義概要

生物とはいかなるものかという課題について、大学レベルにおける基礎から講義する。さらに、人々が日常生活を行っていく上で関係する生物学上の知識を講義する。

授業の目標

生涯教育の場における学生にとっては、最近の生物学の進歩は著しいので、過去の教育で受けた内容が古くなっていることが多い。そこで、本科目では、生物学を基本から解きほぐすことを目標とする。取り上げる題材はできるだけ日常生活と関係する事柄にするが、さらに、現在における先端的研究でのトピックスも、できるだけやさしく講義したい。

履修上の留意点

生物学に関する過去の知識を前提としないで理解できるよう、できるだけ分かり易い講義にしたいが、もし、分からない事柄が出て来た場合には、世の中には種々の啓蒙書があるので、それらを積極的にひもといて学習をしてほしい。また、インターネットによる知識収集も大いに役立つので利用して欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生物学を学ぶ意義 ※改訂回	本章は全体の序章として、生物学とはいかなるものか、そして学ぶ意義について考える。そのために、生物学とはどのような学問構造をしているか、また、どのような研究課題があるかの大筋を学ぶ。 【キーワード】 生物学、生命科学、科学と技術、生命倫理、方法論	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
2	生物の特性 ※改訂回	生物には、他の物体には見られない顕著な特徴がある。この章では”生命・生物の世界”が、”非生命・非生物の世界”とどのように異なるのかを学ぶ。そのためには、地球の40億年前に、生命体がいかなる場所で、どのようにして誕生したかについて、また、宇宙全体での生命体の存在可能性についての考えを及ぼす必要がある。 【キーワード】 生物圏、非生物圏、生命、非生命、生命体の誕生、宇宙生命体	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
3	生物の誕生と歴史	太古の地球において最初の生物が誕生し、長い年月をかけて世代交代を繰り返しながら徐々に変化し、現在のような多種多様な生物たちが共存する世界が形成されるにいたった。このような生物の歴史と、生物の時間的な変化、すなわち進化のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 生物の誕生、進化	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	多様な生物の世界 (1)	現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、大分類について説明する。2回にわたるが、この回では単細胞生物に関して、その栄養獲得様式と、生活型について説明する。また、多細胞生物では、光合成生物、従属栄養生物などにふれる。 【キーワード】 単細胞生物、栄養獲得、生活型、多細胞生物、光合成	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
5	多様な生物の世界 (2)	前回に引き続いて、現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、特に動物についてその栄養獲得様式と生活型について説明する。さらに動物の形態、生理、生態などいろいろな側面から説明する。 【キーワード】 動物、栄養獲得、生活型、適応放散	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
6	細胞:生命の最小単位	私たちの体も、他の生物と同様に細胞からできている。細胞といっても多種多様なものが存在する。その一方で、細胞全般に共通するしくみもたくさんある。このような相違点と共通点について、細胞のかたちや中身といった物理的な特徴と、移動や分裂といった機能的な特徴から考える。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、細胞核、細胞骨格、細胞分裂	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
7	生命活動を支える物質	生物は細胞からできている。では、細胞は何から構成されているのであろうか。細胞も、われわれの身の回りにある物と同様に分子から構成されている。細胞を構成する分子には非生物世界を構成する分子とは違った特徴があること、さらに地球上のすべての細胞は基本的には共通の分子を利用して共通のしくみで活動していることを学ぶ。 【キーワード】 分子、水、タンパク質、糖、脂質、核酸	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
8	生体内の化学反応 ※改訂回	様々な生命活動は、体内で合成される物質や、物質を分解することによって得られるエネルギーによって支えられている。このような物質の合成や分解は、代謝とよばれ、その実体は良く制御された化学反応の連鎖である。生物が営む化学反応の特徴と、主な代謝の反応経路について学ぶ。 【キーワード】 酵素、代謝、光合成、呼吸	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
9	個体の統合と恒常性 ※改訂回	多細胞体制をとる生物の体は、細胞、組織、器官、器官系、個体といった階層化された構造からなる。各構造の働きをほどよく調節することによって、個体としての統一性が保たれている。ここでは、個体にみられる細胞を基盤とした階層構造と、統一性を支える生体内の調節機構について学ぶ。 【キーワード】 組織、器官、内部環境、恒常性	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
10	個体の再生産 ※改訂回	生物は、自己とほとんど同じものを産生することによって、増殖する。ここではその個体の再生産を、生殖、発生、成長、繁殖、老化といった、多細胞体制を捕る生物に一般的に見られる個体のライフサイクルに沿って解説する。 【キーワード】 生殖、性、受精、発生、成長、繁殖、老化	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	世代を越えた情報の伝達	子は親に似る。このことはすべての生物に共通に見られる現象である。これは遺伝情報を担ってるDNAが親から子に受け渡されるためである。この遺伝のしくみと、DNAの情報を細胞がどのようにして読み取るかについて学ぶ。 【キーワード】 遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
12	情報の交換(1) 個体内の情報伝達	細胞は、さまざまな物質を利用してお互いの間での情報伝達を行っている。その結果、われわれの体全体の細胞が協調して働くことができたり、子孫の細胞に遺伝情報を伝達することができる。ここでは、いくつかの代表的な体の中の情報伝達について学ぶ。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、神経細胞	二河成男(放送大学・教授)	二河成男(放送大学・教授)
13	情報の交換(2) 個体間の情報伝達	生物は個体間でさまざまな手段を使って情報交換を行っているが、その様相を同種間の場合、異種間の場合で説明する。そして、それらの情報交換の機能や進化的由来について考察する。 【キーワード】 情報伝達、情報交換、同種間、異種間	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
14	生物群集の成り立ち	生物は多数の種が競争、共生、寄生、捕食などの関係をもって同所的に存在して群集を構成している。そして、群集はさらにそれぞれのおかれた地域環境とともに、生態系をなしている。この回では、おもに沖縄県の八重山諸島を例にとり、そこでの生物群集の様相、そしてその生物群集の保全活動について説明する。 【キーワード】 群集、生態系、八重山諸島	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
15	生き物としての人間 ※改訂回	いうまでもなく人類も生き物であり、哺乳類の霊長類の仲間である。しかし、人類は他の霊長類に見られない特別な進化をとげた。人類は他の霊長類からどのような経緯で進化したのだろうか。今や人類は世界拡散をとげ、著しく個体数が増大し、すべての他生物に多大な影響を与えているが、その様相を環境生物学の視点から見ることにする。 【キーワード】 霊長類、類人猿、人類の特徴、二足歩行、ヒト、人口爆発、野生生物の減少、人間、ケニア、マダガスカル	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234056	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初歩からの物理学 （'12）＝（TV）
－物理へようこそ－

〔主任講師（現職名）：米谷 民明（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：生井澤 寛（放送大学・客員教授）〕

※この科目は「初歩からの物理学（'08）」の一部改訂科目です。
改訂回は第5, 6, 7, 10, 11, 12, 13回です。

講義概要

物理によって私たちは、原子・分子やもっと小さな世界から宇宙のような大きい世界まで、長さの違いが60桁以上も違う範囲の自然の様子を理解することが出来るようになった。皆さんが日常的に使う携帯電話の仕掛けや、飛行機が飛ぶ理由、脳の働きや遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。世界は物理であふれているといってもよい。そこでこの科目では、物理に関するいろいろな謎を出していき、それらの謎がどう解かれていくかを見ながら、皆さんを物理の世界へ誘いたい。また、物理の基礎的概念を、単にその内容だけでなく、何故必要とされたか、どう発展していったかを含め、皆さんと一緒に理解して行くつもりである。そのために、身の回りの物で出来る実験を紹介したり、課題を出して行く。是非自分の力でやって欲しい。安全にかかわることについて、物理がいかに大切な働きをするかも見てゆこう。

授業の目標

高校から大学へ進む人たちが物理を学ぶときに感ずるギャップを埋めたり、物理を学んだことはない人や物理を知りたいが後込みしている人たちを、物理の世界に誘う招待状になること、および物理の楽しみ、面白さを味わうことを目標にする。内容としては、高校までで学ぶことになっている物理を、広い範囲で紹介しさらに深めるとともに、現代物理の柱となる相対論や量子の論理に触れる。

履修上の留意

身の回りに起こる現象を、観察し、なぜ、という問いかけをする習慣を身に着けよう。必要なら実験して、自ら確かめ、何がどうして起こるかを探求しよう。もっと物理を学習したくなったら、「物理の世界('11)」へ進もう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	物理は生きている	物理とはなんだろう。Q&A形式と身近にあるもので皆さんも出来る実験をやりながら、日ごろ接するものや現象の中から、特に安全にかかわる事柄を取り上げ、物理がいろいろなところでいかに生き生きと活躍しているかを見てゆこう。たとえば音をとって考えよう。音とはなんだろうと考え、出来る範囲で実験してみる。物や現象について、なんだろう、なぜ、どうしてと問うのが物理の考え方なのである。記号や数式を怖がらずに物理と仲良くなろう。 【キーワード】物理を知って安全な暮らしを、物理の考え方、音とは何だろう	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
2	力とはなんだろう	力の作用のうち、支える(つりあい)、動かす(運動)、形を変える(変形)の3つについて考える。つりあいを見ると、力には大きさと方向が大事な要素であること(力はベクトル)、広がりのある物体に作用するときは、作用点があること(力のモーメント)、作用が面を通してのときは、面積あたりの力(圧力)が重要なことを、実験しながら見て行く。次に運動に移る。力は運動の何を変えるのだろうか。この疑問を突き詰めると、ニュートンに迫ることができ、運動の基本法則に行き着く。運動の例として、等加速度運動、等速円運動を考え、重力と落下の謎を解こう。 【キーワード】力、つりあい、運動、変形、ベクトル、作用点、支点、力のモーメント、圧力、パスカルの原理、速度、加速度、ボール回し(等速円運動)、等速直線運動、運動の基本法則、等加速度運動、重力、落下	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	力はいつも仕事をするか	実感に基づいて仕事の定義を与え、前回解いた落下運動を分析すると、自然に位置エネルギーと運動エネルギーという概念が出て、全エネルギーの保存則に導かれる。キャッチボールをやりながら、運動するものを受け取る際の衝撃が、運動量という概念でうまく表せることを見よう。運動量が保存することを体験するとともに、運動量保存則が第3法則によることを示す。ロケットがなぜ飛ぶかも理解できる。 【キーワード】 仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則、ロケット	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
4	まわるコマはなぜ倒れないか	コマを作って回してみよう。安定してまわるコマは、どうやれば出来るのだろうか。コマを手で倒そうとしてもなかなか倒れない。なぜかを考えると、自然と角運動量という量に行き着き、角運動量の保存則に導かれる。惑星の運動の経験法則(ケプラーの法則)、運動の基本法則と第2回のボール回し(等速円運動)で学んだ事柄を使うと、万有引力の法則を導くことが出来、ニュートンに行き着く。こうして落下の原因が判る。 【キーワード】コマ、角運動量、角運動量保存則、惑星の運動、ケプラーの法則、万有引力、重力加速度、遠心力、慣性力	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
5	温度って何だろう、熱って何だろう ※改訂回	種としての人を他の種から飛躍させた一つの要因が、人が火を恐れず、使いこなしたことにあるという。私たちは、火を主に熱として利用する。熱を加えとか、熱をとるなどといって、熱を物のようにあつかう。風邪を引いたら熱があるといい、体温を測る。では、熱とはなんだろう。また温度とはなんだろう。これらの謎をつきとめていって、熱と温度の正体を明らかにしてゆこう。 【キーワード】熱、熱平衡、比熱、熱とエネルギー、理想気体、経験温度と絶対温度、熱エネルギー、等分配則	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
6	自動車の燃費はどこまであげられるか ※改訂回	仕事(力学的エネルギー)は、すべてを熱に変えることが出来るが、車の燃費でわかるとおり、熱を全部仕事に変えることは出来ない。なぜか。どこまで熱を仕事に変換できるのか。じつは、これらが、温度と密接にかかわることを見るだろう。そして、エントロピーという概念に行き着くだろう。こうして熱の物理の体系がわかってくる。熱機関の応用としてエアコンなどの使われるヒートポンプを考える。 【キーワード】熱機関、可逆・不可逆、クラウジウスの不等式、エントロピー、熱力学の基本法則、低温の比熱、ヒートポンプ	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
7	物はなぜ温度で姿を変える ※改訂回	物は、なぜ温度によって固体、液体、気体と姿(相)を変えるのだろうか。温度は、分子の運動エネルギーの目安だったから、温度を分子の間の相互作用のポテンシャルエネルギーと比較すればよさそうである。相が違えば密度が変わり、分子間の平均距離も変わることに注目して、温度と相の変化を見て行こう。水の不思議な性質や、磁石、超流動・超伝導などの不思議な相についても見て行く。 【キーワード】 相、相転移、分子間相互作用、密度、対称性、相図 3重点、臨界点、水素結合、磁気相転移、超流動・超伝導	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
8	波を見て場を知ろう	音でも光(電波)でも、情報伝達の主役は波である。では波とは何か、実験をしながら見てゆこう。池の真ん中に石を落とすと、円く波が広がって進むが、水面の小さな木の葉は上下に振動するだけで、波と一緒に進むことはない。媒質の場所ごとの振動が、次々に広がるのが波なのである。振動と波の基本的な性質を見て行こう。振動と波にかかわる現象の中で、安全に必要なことにも触れる。 【キーワード】 振動、波、振動数、波長、波の速度、重ねあわせ 回折、干渉、うなり、反射、屈折、ドップラー効果、固有振動、共鳴	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)
9	光の正体は何か	普通に見る光は、直進し、物に影を作り、水やレンズで曲げられる。まず光のこの粒子的な局面を取り上げ、レンズやカメラの作用を考える。一方、シャボン玉や光ディスクのきれいな色模様は、前回見た干渉によるから、光は波でもある。実は光は、波長のごく短い波(電磁波)なのである。波なら、私たちは光を音と同じように感ずるのだろうか。遠い星の光まで見えるのはなぜか。この疑問は、量子の世界にかかわる。答は第14回(章)までまとう。 【キーワード】 屈折率、レンズ、幾何光学、全反射、にじ 薄膜、偏光、回折格子、光速度、視覚	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)	生井澤 寛 (放送大学・客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	電気ってなんだろう ※改訂回	電気は私たちの日常生活に欠かせないものだが、そもそもどういうものなのか考えてみたことがあるだろうか。静電気の実験から、電気の本性とは何なのか探求を始めよう。電気は便利に利用できるというだけではなく、電気こそ私たちの体を含む宇宙のすべての物質をつくる力なのだ。その理解のために重要な電場の考え方について学ぶ。 【キーワード】 静電気、電荷の保存、電気力線、電場、クーロンの法則、ガウスの法則	米谷民明(放送大学・教授)	米谷民明(放送大学・教授)
11	電気と磁気の切っても切れない関係 ※改訂回	電気と磁気が密接に関係することを知ってるだろうか。まず、磁石の磁場について調べ、磁気と電気の似ているところ、違うところは何なのか考察する。それから、電流によって磁気が生じること、磁場によって電気に働く力について調べる。さらに、磁場の変化が電場を生んだり、電場の変化が磁場を生み出す場の法則について学ぶと、電磁波の起源が分かってくる。 【キーワード】 磁力線、磁場、ローレンツの力、アンペールの法則、電磁誘導、電磁波	米谷民明(放送大学・教授)	米谷民明(放送大学・教授)
12	電気磁気は電子の世界を読み解く鍵 ※改訂回	電気と磁気は、原子を構成する電子自体が電気と磁気を帯びていることから説明できるが、その証拠をもっと追求してみよう。日常親しんでいる電池の原理からもその証拠が見えてくる。さらに電子がどう発見されたのか、電子の認識が新しい物理法則とどう結ぶつのか、その入り口まで進もう。 【キーワード】 電池、電気分解、ファラデーの法則、熱電効果、磁気回転効果、トムソンの実験	米谷民明(放送大学・教授)	米谷民明(放送大学・教授)
13	電磁波とアインシュタイン ※改訂回	電磁波の本性を深く調べてゆくと、私たちが日常経験から育んで来た常識では理解できない不思議な性質がわかってくる。アインシュタインがこの問題にどう取り組んだのか、そして、彼が切り開いた相対性理論とはどんなものかを紹介しよう。ここには物理学の考え方の精髓がある。先入観を捨て、粘り強く考えて理解に努めよう。 【キーワード】 光速不変の原理、ローレンツ変換、時間の遅れ、長さの収縮、固有時間、特殊相対性理論、一般相対性理論、等価原理	米谷民明(放送大学・教授)	米谷民明(放送大学・教授)
14	量子ってなに	電気分解やイオンの存在から、物質を作るのは電気力らしい。ではその源の電荷は何か。その主役が電子であり、原子が電子と重い核(原子核)から出来ることがわかって、ミクロの世界が開けた。では、原子はどうやって出来るか。この謎は、古典物理では解けなかった謎(原子からのとびとびの光、低温で0となる比熱、光電効果、熱放射)と合わせて、ミクロの世界ではエネルギーがとびとび(エネルギー量子)であることで解けることを見よう。量子の世界は、電子が波のように振る舞ったり、光が粒子のように振る舞ったりする不思議な世界である。 【キーワード】 電子、原子、原子核、とびとびの光、低温比熱、光電効果、温度と色、エネルギー量子、光子、ボーアの原子模型、電子スピン、周期表、ドブロイ波、電子の波動性、不確定原理、磁性の起源	生井澤 寛(放送大学・客員教授)	生井澤 寛(放送大学・客員教授)
15	世界はなにで出来ているか	原子がなにから出来ているかは判ったが、では原子核はなにから出来るのか。この疑問を、どんどん小さな世界にぶつけて行って得た現在までの結果を示そう。逆に、目を大きい世界に向けると、太陽を初めとする恒星がなぜ燃えるか、宇宙がどうやって出来たかなど、いくらかでも疑問が出る。これらに対する物理の理解も示そう。鉄より重い元素が出来たのも、爆発や衝突を繰り返す星と銀河の歴史の産物であることが判る。私たちの体にもある重い元素が、いつ、どの星で出来たのかを想像するのも物理の楽しみ方のひとつである。 【キーワード】 核子、中間子、素粒子、基本的相互作用、複合模型、クォーク、重力子、核融合、恒星、銀河、宇宙、元素の起源	生井澤 寛(放送大学・客員教授)	生井澤 寛(放送大学・客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234021	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初歩からの化学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：高柳正夫（東京農工大学・教授）〕

【本学担当専任教員：濱田嘉昭（放送大学・教授）】

講義概要

物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、高分子化学など化学のさまざまな分野について、基礎的・基本的な事項を講義する。身近に用いられている物質や反応などを例として用いたり、簡単な実験を見せたりすることにより、化学が我々の生活に密着した学問分野であることを実感してもらう。

授業の目標

化学を全く学んだことがない、わずかししか学んでいない、あるいは以前に学んだがほとんど忘れてしまったという受講者を主な対象とする。化学がどんな学問分野であるかを理解して、専門的な勉強を始めるためのきっかけの知識を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

限られた時間で化学の主な分野を概観する講義となっているので、各分野についてさらに詳しく勉強をしたい場合には、本講義を履修後に、化学系のさらに進んだ講義を履修することを薦める。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	化学の世界	身近な物品(例えば電化製品や自動車)に使われている化学製品や化学反応を紹介する。また、身の回りで起きている化学的な現象を紹介する。これらを通じて化学が身近で重要な学問分野であることを理解する。化学がどんな細目分野(物理化学、有機化学、分析化学など)から成り立っているのか、それぞれの分野がどんな内容を扱い、まためざしているのかについても述べる。 【キーワード】 身近な化学、生活と環境、材料、反応、化学の細目分野	高柳	高柳
2	空気は何からできている?—物質の成り立ち	物質を混合物と純物質に、純物質を化合物と単体に分類し、物質の成り立ちを考える。元素とは何か、どのように発見されて周期表として整理されたのかについて述べる。原子や分子の実在がどのように確かめられて、どのような意味があるのかについても述べる。 【キーワード】 混合物と純物質、化合物と単体、元素、原子と分子、周期表	高柳	高柳
3	物質を構成する粒子 I —原子の構造と周期律	原子の構造について述べる。原子は、原子核とその周囲を運動する電子から成る。殻や軌道への電子の配置の原理と、最外殻の電子(価電子)が原子核から受ける力を検討することにより、原子の性質や周期表の仕組みが理解できることを説明する。 【キーワード】 原子の構造、原子核、電子、殻と軌道、周期律	高柳	高柳

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	物質を構成する粒子 Ⅱ－分子の成り立ち	原子と原子が結合を作る原理について述べる。閉殻構造の完成による結合形成の考え方と、分子軌道への電子収容に伴うエネルギー低下による結合形成の考え方について述べる。 σ 結合と π 結合の定義とそれらの違いや、異なる種類の原子の間の結合における結合のイオン性についても述べる。 【キーワード】 化学結合、分子軌道、共有結合、 σ 結合と π 結合、結合のイオン性	高柳	高柳
5	金属と非金属	元素を、単体の示す性質や原子の電子構造にしたがってさまざまなに分類する。特に、金属元素の単体の性質や遷移元素について、電子構造と関係づけながら説明する。また、無機化合物の成り立ちについて述べる。 【キーワード】 金属元素と非金属元素、元素の単体、遷移元素、無機化合物、配位結合	高柳	高柳
6	酸性雨の化学－酸と塩基	環境問題となっている酸性雨の発生機構と被害を引き起こす機構に対する理解を深めることを目指し、物質の基本的な性質である酸性と塩基性について、定義、性質、中和反応について述べる。酸や塩基が示す反応の一つで、重要な物質変化の過程でもある酸化と還元についても述べる。 【キーワード】 酸性雨、酸と塩基、中和反応、酸化と還元、イオン化傾向	高柳	高柳
7	炭素がつくる化合物－有機化合物の構造	有機化合物とは何かを定義する。身近にさまざまな有機化合物が使われていることを認識する。有機化合物の多様性の原因について述べる。有機化合物の基本骨格をなす炭素－炭素結合の仕組みについて述べる。基本骨格と官能基により有機化合物を体系的に整理する方法を概説する。 【キーワード】 有機化合物、炭化水素、混成軌道、官能基、異性体	高柳	高柳
8	薬や染料をつくる－有機化合物の反応	生活の中で使われる多種多様の有機化合物を合成するために、様々な反応が用いられている。ここでは、有機反応を分類し、代表的な有機反応の機構を理解する。薬や染料の具体的な合成法を示し、簡単な有機合成反応の実験手順について述べる。 【キーワード】 有機反応機構、置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応	高柳	高柳
9	プラスチックと繊維－高分子化学	身近に用いられているプラスチックや合成繊維を紹介しながら、高分子化合物の定義や特徴について述べる。代表的なプラスチックと合成繊維の構造と合成方法を述べる。石油を原料として作られるプラスチックや合成繊維が、資源問題や環境問題とどのように関わるかを考える。 【キーワード】 高分子化合物、プラスチック、合成繊維、重合反応、連鎖反応	高柳	高柳
10	固体と液体－分子間相互作用	分子間に働く力である分子間相互作用を理解しながら、固体と液体の特徴をまとめる。固体の中で構成粒子(原子や分子)がどのように集まっているのかを、結晶構造や粒子間に働く力から理解する。分子間相互作用の働きで形成される高次の構造や機能を持った分子集合体について述べる。 【キーワード】 固体、液体、分子間相互作用、結晶、超分子	高柳	高柳

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	物質の三態とその変化ー物質の状態	物質の三態(固体, 液体, 気体)および三態間の変化を, 構成粒子(原子や分子)が持つエネルギー, 運動の激しさと関係付けながら解説する. 気体の圧力, 体積, 温度の間にある関係について述べ, その関係を構成粒子の運動やエネルギーの立場から解説する. 【キーワード】 物質の三態, 状態変化, 状態図, 気体の状態方程式, 理想気体と実在気体	高柳	高柳
12	エネルギーの利用ーエネルギーの保存と収支	身近に使っているエネルギーがどのように作り出されているのかを考えながら, エネルギー保存則(熱力学第一法則)について述べる. 化学反応に伴うエネルギーの収支の見積もり方と, その意味を解説する. エネルギーを与えたり奪ったりしたときに気体(理想気体)が示す挙動を通じて, エネルギーと熱と仕事の関係を考える. 【キーワード】 エネルギー, エネルギー保存則, 化学反応のエネルギー収支, 熱と仕事, 理想気体の状態変化	高柳	高柳
13	変化が進む方向ーエントロピーと自由エネルギー	物質の変化が起こる方向が, エネルギーと, 乱雑さの指標であるエントロピーにより決まることを説明する. エネルギーとエントロピーの双方を考慮した自由エネルギーにより, 変化の起こる方向が決まることを説明する. 平衡状態と自由エネルギーの関係や, 物質の変化に伴い放出あるいは吸収されるエネルギーと自由エネルギーの関係について述べる. 【キーワード】 変化の方向, エントロピー(乱雑さ), 熱力学第二法則, 自由エネルギー, 平衡	高柳	高柳
14	安心・安全を守るⅠー分析化学の基礎	我々の生活の安心・安全を守るために分析化学が果たしている役割を考える. 分析化学の方法を分類し, 目的に合わせた方法の選択が必要であることを説明する. 基本的な定性分析および定量分析について, 実例を挙げながら述べる. 【キーワード】 分析化学, 定性分析と定量分析, 非破壊分析, 重量分析, 容量分析	高柳	高柳
15	安心・安全を守るⅡー機器分析	身近で行われている分析を題材として, 機器分析による定量分析の原理を理解する. 分光分析, 質量分析, クロマトグラフィーを概観し, それぞれがどのように用いられているのかについて述べる. 現在の分析化学で主流となっている機器分析の長所と短所を概説する. 【キーワード】 機器分析, ランベルト・ベールの法則, 分光分析, 質量分析法, クロマトグラフィー	高柳	高柳

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1130102	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 身近な気象学 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：木村龍治（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：新野 宏（東京大学大気海洋研究所教授）〕

【本学担当専任教員：吉岡 一男（放送大学教授）】

講義概要

私達はその一生を大気の中で暮らし、絶えず大気の影響を受けて過ごしている。気象のしくみを知ることは、様々な気象災害から身を守る上でも、地球環境問題を自分自身で考えていく上でも、また日々快適な環境で生活していく上でも重要である。しかしながら、大気はあまりにも身近にあるために、日々身の回りで起きている気象がどのようなしくみで、なぜ起きているかについて注意を払うことは意外と少ないように思われる。本講義では、身近なところで起きている日々の気象をきっかけとして、地域スケールから全球スケールをカバーする様々な気象のしくみを学ぶ。

授業の目標

私達をとりまく大気環境やその大気の中で起きる様々な気象がどのようなしくみで形成されているかについて正しい知識を身につけ、日々の生活や防災、地球環境の保全に役立てていただくことを目標とする。

履修上の留意点

本科目は、基礎科目であり、専門的知識はあまり要求しない。しかし、物理学の知識に乏しい場合は、基礎科目の「初歩からの物理学('12)」を履修してから本科目を履修すると理解しやすいであろう。また、本科目の履修後に、共通科目の「惑星地球の進化('13)」や専門科目の「地球のダイナミクス('10)」を履修すると地球科学分野の理解が深まるだろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	大気の生い立ち－空気はどこから来た？	私達人間を含む多くの動植物が生きていくために必要不可欠な空気。酸素を20%含む現在の大気が地球の誕生からどのような変遷を経て作られてきたかを学び、地球環境の貴重さを知る。 【キーワード】 地球環境、大気の歴史、地球の誕生、海、植物、光合成	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
2	気温はどうやって決まる	私達が暮らす地球の平均気温はなぜ摂氏18度くらいになるのか？気温を決める上で重要な、放射・対流などの熱の伝わり方について学ぶと共に、おおまかな気温は太陽からの放射と地球が宇宙に向かって出す放射の釣り合いで決まることを学ぶ。また、その応用として気温の南北分布・鉛直分布が決まることを学ぶ。 【キーワード】 熱の伝わり方、放射、対流、気温の南北分布、大気の温度構造、温室効果	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
3	空気の流れ－風はなぜ吹く？	水平方向に気温の違いがあると、地面近くでは冷たい側から暖かい側へと向かう流れ(風)が作られる。海陸風や季節風などはこのようにしてできた風の例である。ここでは、重力流の実験を利用して、風の生ずるしくみについて学ぶ。 【キーワード】 海陸風、季節風	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	地球の回転	地球の回転は1日に1回と非常にゆっくりしているが、大気の流れには非常に大きな影響を与えている。地球の回転によるコリオリの力を気象研究所の回転実験台でのボール投げなどを通して理解し、航空機の燃費にも大きな影響を与えるジェット気流の仕組みを学ぶ。 【キーワード】 地球回転、コリオリの力、フーコーの振り子、ジェット気流	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
5	天気の変化－天気はなぜ変わる？	私たちの住む中緯度の天気変化を生ずる温帯低気圧と移動性高気圧の起きるしくみと低気圧に伴う寒冷前線・温暖前線などの構造と性質について、回転水槽実験も用いながら学ぶ。 【キーワード】 温帯低気圧、高気圧、寒冷前線、温暖前線	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
6	雲と降水	空には様々な種類の雲があり、あるものは雨や雪を降らせる。雲や雨・雪はどのようにして作られるのか、雨や雪はどのような形をしているのかを、鉛直風洞による雨の形の実験やペットボトルによる雲の生成の実験などを通して学ぶ。 【キーワード】 雲、雨、雪、凝結核、氷晶核、過冷却水滴、氷晶、十種雲形	東京大学名誉教授 木村龍治	東京大学名誉教授 木村龍治
7	積乱雲のしくみ－集中豪雨はなぜ起きる？	積乱雲は大気中における激しい対流である。積乱雲はどのように作られ、発達し、どのような一生を送るのか？また積乱雲が組織化され長続きしたときに生ずる集中豪雨のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 積乱雲、対流、集中豪雨	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
8	積乱雲の起こす嵐－竜巻・ダウンバースト・雷	積乱雲は、竜巻・ダウンバーストなどの突風による被害、落雷による被害も生ずる。ここでは、これらの現象のしくみと被害に遭わないための対策について学ぶ。 【キーワード】 積乱雲、対流、竜巻、ダウンバースト、突風、雷	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
9	台風－熱帯からやってくる嵐	台風は熱帯の海洋上で発生する大気の渦巻きである。夏から秋にかけて北上し、しばしば日本列島の接近して、大雨、強風の災害をもたらす。それと同時に、日本の重要な水資源になっている。この講義では、発生から消滅までの台風の一生の過程を、衛星画像、室内実験などによって学習する。 【キーワード】 熱帯低気圧、台風、ハリケーン、サイクロン	東京大学名誉教授 木村龍治	東京大学名誉教授 木村龍治

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	寒波－大雪のしくみ	冬季、東の海上に低気圧、西の大陸上に高気圧がある、いわゆる西高東低の気圧配置になると、大陸から乾燥した冷たい空気が日本海上に吹き出してくる。このようにして吹き出した空気は、暖かい日本海から温められると共に水蒸気の補給を受けて日本列島に達し、日本海側で雪を降らせる。一方、太平洋側では乾燥した天気が続く。ここでは、このような冬の気象のしくみを学ぶ。 【キーワード】 寒気、対流、筋状雲	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
11	天気予報	天気予報は昔から行われてきたが、時代によって、天気予報の原理が変化してきた。晴雨計などの道具を使う天気予報から、天気図による天気予報の時代になり、20世紀後半からは数値予報が実用化されるようになった。この講義では、天気予報の歴史を振り返り、天気変化をもたらす自然の仕組みを学習する。 【キーワード】 天気予報、数値予報、天気図、カオス	東京大学名誉教授 木村龍治	東京大学名誉教授 木村龍治
12	レジャーと気象	アウトドアスポーツは私たちの生活に楽しみを与えてくれるが、登山、水泳など、自然を相手とするレジャーは、思わぬ事故が起こることがある。自然の変化をよく知ることが安全なレジャーのために必要である。この講義では、熱気球とヨットを取り上げ、風を読むことがいかに大切か学習する。 【キーワード】 レジャー、熱気球、ヨット、コロンブス、高層大気、ピカール	東京大学名誉教授 木村龍治	東京大学名誉教授 木村龍治
13	都市化と気象－ヒートアイランド現象	都市域は、人為的な作用で地表面が大規模に改変された場所であり、集中した人間の営みにより、熱や物質が大気中に放出される。その結果、都市独特の気候が形成されている。その中でも、平均気温の上昇に見られるヒートアイランド現象が注目されている。この講義では、都市気候のメカニズムと、ヒートアイランドの研究の現状を学習する。 【キーワード】 都市気候、ヒートアイランド、顕熱、潜熱、大気境界層	東京大学名誉教授 木村龍治	東京大学名誉教授 木村龍治
14	全球でつながる気象－遠くの気象が身近な気象を変える	大気は全球を覆ってつながっている。このため、はるか遠くで起きたことが、大気の中を伝わってきて、身近な気象に大きな影響を与えることがある。例えば、太平洋の熱帯地方では大気と海洋に大きな影響を与えるエルニーニョという現象があるが、この現象は北米や日本の天気にも大きな影響を与えると考えられている。ここでは、エルニーニョとこれが中緯度に影響を与えるしくみについて学ぶ。 【キーワード】 エルニーニョ、テレコネクション	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
15	地球の未来－地球環境問題とは	近年、地球温暖化やオゾンホールなど、人間活動が原因となっているとされる様々な現象が大気中で起こりつつある。これらの現象の実際とそのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 地球温暖化、オゾンホール、地球環境問題	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234030	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初歩からの数学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 隈部正博（放送大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）： 〕
 【本学担当専任教員： 】【 〕

講義概要

これから数理系の科目を受講するにあたって必要となる数学を解説する。講義の内容は、高等学校までに学ぶ数学であるが、それをできるだけ体系立てて解説していく。数学の分野におけるさまざまな基本概念を理解することに重点をおき、数学的な考え方を学ぶ科目として講義する。特に初学者にとって分かりづらいつとされる分野を丁寧に解説したい。

授業の目標

高等学校までに学ぶ数学の内容を、一から学び直す。これにより数学の知識を、整理し再確認する。基礎的な計算技法はある程度必要であるが、それを必要最小限に押さえたい。公式を記憶する事にこだわらず、数学の基本概念をしっかりと理解することが目標である。

履修上の留意点

予備知識は仮定しない。今まで数学を（試験の直前以外）勉強したことがない人、勉強した覚えはあるが忘れてしまった人、そして数学は苦手だがもう一度学習してみたいという人も履修できるように配慮し、文字通り初歩から数学を解説する。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	数の概念	人が数学に接する最初で最も身近な概念は、数の概念であろう。自然数や整数について解説し、演算規則を学ぶ。 【キーワード】 自然数、整数、加法、乗法、演算規則	隈部正博	隈部正博
2	式と計算	数は分かるが文字式になると分かりにくく感じる人が多い。数と文字について学び、式について考える。式を展開したり、因数分解することを解説する。 【キーワード】 数、文字、式、展開、因数分解	隈部正博	隈部正博
3	有理数	有理数とはどういうものかを学び、それらの演算規則を解説する。また指数法則を負の数に拡張する事について考える。 【キーワード】 分数、有理数、演算規則、指数法則	隈部正博	隈部正博

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	実数	実数について解説する。また指数と対数について学ぶ。そしてこれらの持つ諸性質を考える。 【キーワード】 実数、稠密性、背理法、指数法則、対数法則	隈部正博	隈部正博
5	方程式と不等式	複素数とはどういうものかを考える。また方程式と不等式についてその意味を学ぶ。また解を求める方法を解説する。 【キーワード】 複素数、方程式、不等式、解	隈部正博	隈部正博
6	図形の性質	今後の学習に必要な図形の基本性質を解説する。特に三角形や円の持つ性質を学ぶ。 【キーワード】 角度、三角形、合同、相似、円周角、三平方の定理	隈部正博	隈部正博
7	関係と関数	関数の概念も分かったようで分からないと思われる分野の1つである。まず、関係について説明し、その後、関数とはどういうものか丁寧に解説する。 【キーワード】 関係、写像、関数、グラフ	隈部正博	隈部正博
8	関数の性質	関数の基本性質を学ぶ。座標平面を導入し、簡単な関数のグラフを描く事を考える。関数を移動させたとき、どのような式で表されるか考える。 【キーワード】 合成関数、平行移動、対称移動、座標平面、1次関数	隈部正博	隈部正博
9	様々な関数	様々な関数とそのグラフについて解説する。2次関数、指数、対数関数等のグラフを描いてその特色を理解する。また関数と方程式とを関連づける。また次章への準備として三角比を考える。 【キーワード】 2次関数、指数、対数関数、関数と方程式、三角比、弧度法	隈部正博	隈部正博
10	三角関数	三角関数の概念も、わかりづらいと思われる一つである。これについて、前回から引き続いて丁寧に解説する。サイン、コサイン等の意味を理解し、それらの持つ性質を学ぶ。最後に三角関数とそのグラフを描く。 【キーワード】 サイン、コサイン、正弦定理、余弦定理、加法定理	隈部正博	隈部正博

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	場合の数	場合の数とはどういうものか学ぶ。ある事柄の起こりうる数が何通りあるか、その数え方を理解する。また数学的帰納法についても解説する。 【キーワード】 場合の数、順列、組み合わせ、二項定理、数学的帰納法	隈部正博	隈部正博
12	数列	数列とはどういうものかを解説する。代表的な数列として、等差数列、等比数列、階差数列について解説する。また数列の和の求め方を学ぶ。 【キーワード】 数列、等差数列、等比数列、階差数列、数列の和	隈部正博	隈部正博
13	極限	極限とはどういうものか、その考え方を学ぶ。数列の極限から始まり、関数値の極限、そして関数の連続性について解説する。 【キーワード】 極限、収束、級数、連続	隈部正博	隈部正博
14	微分	微分とはどういうものかを解説する。速度の求め方を通して、微分することの意味を学ぶ。また導関数の求め方を理解する。 【キーワード】 微分、平均変化率、微分係数、接線、導関数	隈部正博	隈部正博
15	積分	最初に導関数の諸性質を解説する。次に不定積分とは何か解説する。曲線で囲まれた部分の面積をどう求めるかという問題を通して、定積分の考え方を理解する。最後に微分積分学の基本定理を解説する。 【キーワード】 不定積分、定積分、リーマン和、微分積分学の基本定理	隈部正博	隈部正博

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1234048	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 身近な統計 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：熊原 啓作（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：渡辺 美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）〕

【担当専任教員：石崎 克也（放送大学教授）】

講義概要

私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では、統計の基本的な考え方、データの統計的活用理論と方法を解説するとともに、諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例（VTR映像）で紹介し、また、更に具体的な理解を深め運用方法を身につけるため、身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。

授業の目標

統計の考え方と記述統計・推測統計の基礎を、理論に加え、具体的にそれらが社会で活用されている事例の実務家のショートレクチャーを含めた現場のVTR映像や表計算ソフトを活用した分析操作を通して学びます。とくに、諸種の統計グラフや統計数字に関して、具体的な意味を知り、そこから正しく情報を読み取ることができるようになることを目標とします。

履修上の留意点

この講義は「身近な統計（'07）」の改訂版ですから、同科目を既に履修し単位を取得したものには単位は認められません。キャンパスネット上に展開する「身近な統計」版では理解が深まるよう教材が用意されていますのご利用下さい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	論より数字、 勘より統計 ～私たちの 身近で活躍する 統計情報～	スーパーの棚割の決定から新薬の認定、政府の行政施策、コンピュータウイルス・不正アクセス等の検出、プロスポーツの戦略分析、企業活動を支える品質管理活動など、社会で活用される統計の役割を紹介し、統計の一般的な定義と機能、Fact ControlやEvidence Based Practiceの考え方、情報化と統計環境の変化、統計分析とコンピュータソフトウェアの関係を解説し、科目の全体構成を説明します。 【キーワード】 統計、データ、統計的意志決定、品質管理、マーケティング、政府統計、記述統計学、推測統計学	熊原啓作(放送大学名誉教授) 渡辺美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 渡辺美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授)
2	データのばらつきを 表やグラフで要約する (質的データの場合) ～度数分布表とパ レート図～	統計データの特徴と分布の意味、質的データに対する度数分布表とそのグラフ(パレート図)の作り方と読み方を解説します。とくに、ばらつきのあるデータをまとめることと、分布という視点を持てるようになることを目指します。 【キーワード】 度数分布表(質的データ)、ケースと変数、データのばらつきと分布、質的データと量的データ、度数分布表と相対度数・累積度数、パレート図	同上	同上
3	データのばらつきを 表やグラフで要約する (量的データの場合) ～度数分布表とヒスト グラム～	量的データに対してそのデータのばらつき(分布)を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説します。具体的には、量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法、ヒストグラムの形状の特徴などを説明します。 【キーワード】 度数分布表(量的データ)、階級・階級値・階級	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	データのばらつきを 数字でまとめる ～平均値・中央値と 箱ひげ図～	分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し、代表値としての平均値、中央値、最頻値の特徴を説明します。この回では、それらを目的やデータの状況に応じて、使い分けができるようになることを目指します。また、簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介します。 【キーワード】 基本統計、平均値と中央値、四分位数、箱ひげ図	同上	同上
5	ばらつきの大きさを測る ～シグマ(標準 偏差)の活用～	ばらつきの大きさの尺度である。分散と標準偏差を解説し、とくに、標準偏差の活用として、正規分布と1シグマ2シグマ3シグマの法則との関係、標準得点(zスコア)、偏差値を説明します。 【キーワード】 偏差、分散、標準偏差、標本分散(不偏分散)、偏差値、1シグマ2シグマ3シグマの法則	同上	同上
6	格差を測る ～ローレンツ曲線とジ ニ係数～	分布の形状を測る基本統計量として、歪度と尖度を紹介します。また、ばらつきの大きさを評価する指標として変動係数を解説し、とくに格差の尺度としても使用されるジニ係数やローレンツ曲線などを解説します。 【キーワード】 歪度、尖度、変動係数、ジニ係数、ローレンツ曲線	同上	同上
7	不確実な出来事を確 率で考える ～2項分布～	確率の定義と身近な確率の使われ方、確率変数の定義とその期待値の意味を解説します。次に、理論分布としての2項分布を解説し、具体的な確率計算と適用場面を紹介します。 【キーワード】 確率 大数の法則 確率変数 期待値 2項確率 2項分布	同上	同上
8	不確実な出来事を確 率で考える ～正規分布～	確率分布モデルとしての正規分布を解説し、正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説します。 【キーワード】 正規分布 標準正規分布 上側(下側)確率 両側確率 統計数値表、 NORMDIST関数	同上	同上
9	統計を作る一部分か ら全体を知る ～標本調査～	母集団と標本、全数調査と標本調査、標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説します。 【キーワード】 母集団と標本(サンプル)、無作為標本(ランダムサンプル)、無作為標本抽出(ランダムサンプリング)、乱数	同上	同上
10	調査結果の誤差を知 る ～推定値と標本誤差 ～	標本調査における誤差の評価の仕組みを解説します。具体的に、標本分布と標準誤差の関係を説明し、比率の調査、平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習します。 【キーワード】 標本分布、標準誤差、標本誤差、母比率、母平均	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	標本から仮説の 真偽を判断する ～統計的仮説検定の 考え方～	母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説 検定のロジックを解説します。とくに、帰無仮説と対立仮説 の違い、検定の方向性、検定統計量と棄却域、有意水準な どの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学 習します。 【キーワード】 統計的検定、帰無仮説、対立仮説、2種類の過誤、有意水 準、危険率、有意確率	同上	同上
12	データから関係を探 る ～クロス集計表の読 み方～	2変数の間の関係をデータから記述する方法として、とくに 質的変数に対して、クロス表の読み方、列効果と行効果、 交互作用効果の意味を解説し、独立性の検定としてカイ2 乗検定の方法を説明します。 【キーワード】 連関、クロス集計表、行(列)比率、特化係数、独立性、期 待度数	同上	同上
13	関係の傾向を読む ～相関関係と傾向線 ～	量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読 み方を説明し、とくに相関関係と相関係数を解説します。ま た、傾向線としての単回帰直線を学習します。 【キーワード】 散布図、相関関係、相関係数、傾向線、単回帰直線	同上	同上
14	時系列データの分析 ～変化の記述と将来 の予測～	時間に依存して取られるデータの記述の方法として、時系 列グラフの描き方と読み方、時系列データの構成要素を説 明します。また、傾向や変化の大きさをつかむための加工 系列として、指数、(成長率と寄与度 削除)、移動平均を 学習し、移動平均を利用した季節調整の考え方を学びま す。 【キーワード】 時系列データ、時系列グラフ、トレンド、季節変動、移動平 均、季節調整(寄与度 削除)	同上	同上
15	知識創造社会を支え る統計 ～全体のまとめ	高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型 の社会の中で、既に私たちの身近な生活と深く関わってい る統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して、再 度、学習します。また、問題練習を通して全体の講義の要 点を復習します。	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1118102	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 英文法 A to Z （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：井口 篤（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

英語文法を基本から解説する。中等教育において英語に力を入れなかった人、英語を学ぶ機会のなかった人などを対象とする。全15回の講義の各章において、重要な文法事項を導入し、練習問題を解きながら英文法を習得する。放送授業においては、東京大学准教授のロジャー・グレン・ロビンズ氏にゲストとして参加していただき、例文の朗読や文法の説明をしていただく。

授業の目標

英文法の基礎について一通りの知識を習得することを目標とする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	今を生きる: 現在形と現在進行形	現在形と現在進行形について学ぶ。 【キーワード】 現在形、現在進行形	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ(東京大学准教授)
2	過去へのまなざし: 過去形と過去進行形	過去形と過去進行形について学ぶ。 いわゆる「不規則動詞」についても学習する。 【キーワード】 過去形、過去進行形	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ(東京大学准教授)
3	過去から今へ: 現在完了形と現在完了進行形	現在完了形と現在完了進行形について学ぶ。 現在完了形と過去形の違いについても触れる。 【キーワード】 現在完了形、現在完了進行形	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ(東京大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	過去を背負って: 過去完了形と過去完了進行形	過去完了形と過去完了進行形 【キーワード】 過去完了形、過去完了進行形	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
5	一寸先は闇: 未来形	未来形の様々な用法 (will, be going to, be -ing など) について学ぶ。 【キーワード】 未来形	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
6	受け身はしっかり: 受動態	受動態の文章の作り方について練習する。 【キーワード】 受動態	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
7	微妙な味付け: 助動詞 (1)	助動詞 (can, could, may, might など) の使い方について学ぶ。 【キーワード】 助動詞	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
8	微妙な味付け: 助動詞 (2)	助動詞 (have to, must, should, had better など) の使い方について学ぶ。 【キーワード】 助動詞	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
9	たまには妄想: 仮定法過去と仮定法過去完了	仮定法過去と仮定法過去完了の文章の基本的概念を理解する。 【キーワード】 仮定法過去、仮定法過去完了	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)
10	比べるのは人の性: 比較級	比較級の様々な表現について学ぶ。 【キーワード】 比較級	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、ゲスト: ロジャー・グレン・ロビンズ (東京大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	比べるのは人の性: 最上級	最上級の様々な表現について学ぶ。 【キーワード】 最上級	井口篤(放 送大学准教 授)	井口篤(放 送大学准教 授)、ゲスト:ロ ジャー・グレ ン・ロビンス (東京大学准 教授)
12	つなぐ技術: 関係節 (1)	主格と目的格の関係代名詞について学ぶ。 【キーワード】 関係代名詞	井口篤(放 送大学准教 授)	井口篤(放 送大学准教 授)、ゲスト:ロ ジャー・グレ ン・ロビンス (東京大学准 教授)
13	つなぐ技術: 関係節 (2)	所有格の関係代名詞および関係副詞について学ぶ。 関係代名詞の非制限用法についても触れる。 【キーワード】 関係代名詞	井口篤(放 送大学准教 授)	井口篤(放 送大学准教 授)、ゲスト:ロ ジャー・グレ ン・ロビンス (東京大学准 教授)
14	動詞の森へ (1): -ing と to 不定詞	「動詞 + -ing」および「動詞 + to 不定詞」という構文について学ぶ。 【キーワード】 動詞 + -ing、動詞 + to 不定詞	井口篤(放 送大学准教 授)	井口篤(放 送大学准教 授)、ゲスト:ロ ジャー・グレ ン・ロビンス (東京大学准 教授)
15	動詞の森へ (2): to 不定詞の様々な用法	「to 不定詞」の様々な用法について学ぶ。 【キーワード】 to 不定詞	井口篤(放 送大学准教 授)	井口篤(放 送大学准教 授)、ゲスト:ロ ジャー・グレ ン・ロビンス (東京大学准 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	基礎科目	科目 コード	1118048	履修 制限	無	単位 数	2

科目名(メディア) = 発音をめぐる冒険 ('12) = (TV)

〔主任講師(現職名): 井口 篤(放送大学准教授) 〕

〔主任講師(現職名): ステュウット・ヴァーナム・アットキン(客員教授) 〕

【本学担当専任教員: 〕

講義概要

本科目は、英語学習の初心者には英語発音を徹底的に反復練習させることを目的としている。

授業の各回においては、英語の非母語話者が区別しにくい発音項目をテーマに据え、異なった音素・単語が実際の会話の中でどのように聞こえるか、そしてそれらを発音する際にどのようなことに注意すればよいかなどに関して情報を提供していく。さらに、聞き取り練習、書き取り練習なども積極的に取り入れる。また、「標準的な」英語のみならず、世界各国のなまりのある英語も紹介する。番組の企画や発音のデモンストレーション及び教材の執筆には、イギリス人の Stuart Varnam-Atkin 氏に客員主任講師として協力していただく予定である。

授業の目標

英語学習の初心者、または英語を上達させたいと思っはいるが発音や聞き取りに自信がない学習者などの苦手意識を少しでも払拭することを目標とする。授業の最終回までには、自分の英語を「分かってもらえる」ためにはどのように発話すればよいのかに関して、基本的な技術を習熟していることを目指す。

履修上の留意点

本科目は初級～中級レベルの学習者を対象としているが、重点はあくまで英語の音声的な側面(聞き取り及び発音)であるため、英文法や読解、そして英作文などにはあまり時間を割くことができない。また、回を重ねるにつれ(文法的・音声的・内容的に)高度な内容を段階的に扱うことになる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	発音のススメ The Way We Speak	英語の発音を上達させることの重要性を簡単なスキットをと おして指摘し、フォニックス・アルファベット(Phonetic Alphabet)、IPA(International Phonetic Alphabet)など本講 義において重要な項目について紹介する。 【キーワード】 英語の発音、聞き取り、分かりやすさ	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)
2	まずは母音から始め よう The Five Pillars of Pronunciation	短母音、とくに /æ/, /e/, /v/, /a/, /ʌ/ を集中的に練習す る。 【キーワード】 短母音	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)
3	神出鬼没の曖昧母音 The Humble Schwa	いわゆる曖昧母音 /ə/ を練習する。 【キーワード】 曖昧母音	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)	井口篤(放送 大学准教 授)、Stuart Varnam- Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、 翻訳家)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	長母音の秘訣 The Long and the Short	5つの長母音 /A:/, /i:/, /u:/, /B:/, /3:/ を練習する。 【キーワード】 長母音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
5	二重母音のよろこび Dear, Delightful Diphthongs!	二重母音のうち /av/, /ev/, /və/, /uə/ を集中的に練習する。 【キーワード】 二重母音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
6	二重母音の使用説明書 How to Enjoy Fair Diphthongs!	二重母音 /Bv/, /εə/, /au/, /əu/ を集中的に練習する。 【キーワード】 二重母音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
7	Review Session (1) 多才なるもの、汝の名は母音 The Versatility of Vowels	Lessons 2-6 の復習 【キーワード】 母音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
8	子音をなめたらいかんぜよ (1) The Vowels Need Us!	子音、とくに /p/, /b/, /k/, /g/, /t/, /d/, /s/, /z/ を練習する。 【キーワード】 子音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
9	子音をなめたらいかんぜよ (2) The Vowels Need Us, Too!	子音、とくに /f/, /v/, /ʃ/, /s/, /tʃ/, /ds/, /j/, /i/ を練習する。 【キーワード】 子音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
10	R/L なんかに怖くない Red Lorry, Yellow Lorry	子音、とくに /m/, /n/, /v/, /l/, /r/, /w/, /j/, /h/ を練習する。日本人が苦手とする /r/ と /l/ の区別にはとりわけ重点を置く。 【キーワード】 子音、/r/ と /l/、音素と異音	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤(放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	雄弁な子音、沈黙の子音 The Sound of Silence and the Clatter of Clusters	‘structure’, ‘complete’, ‘rivalry’ など厄介な子音群が現れる単語を練習する。また、‘doubt’ の ‘b’ や ‘knock’ の ‘k’ など、発音しない子音についても学ぶ。 【キーワード】 連続子音 (子音群)、黙子音	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
12	Review Session (2) 子音の制覇を目指して Consolidating Consonants	Lessons 8-11 の復習 【キーワード】 子音	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
13	気ままに、歌うように (<i>Capricioso, cantabile</i>) The Legacy of Liaison	英語を聞き、発音するにはリズムとイントネーション (抑揚) を正しく捉え、語と語をつなぐ「連音 (リエゾン)」を意識することが重要であることを学ぶ。 【キーワード】 抑揚、連音	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
14	二つの国、一つの言語 Divided by a Common Language	英語の二大方言とも言えるイギリス英語とアメリカ英語の主な違いについて学ぶ。 【キーワード】 イギリス英語、アメリカ英語	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)
15	発音で遊ぼう Playful Pronunciation	発音を楽しみながら練習する一つの方法として、リメリック (limerick) という詩の形式に慣れ親しむ。 【キーワード】 リメリック、ナンセンス詩、エドワード・リア	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)	井口篤 (放送大学准教授)、Stuart Varnam-Atkin (Birmingham Brains Trust, 俳優、作家、翻訳家)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1118013	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 教育入門 (' 1 1) = (R)

－ 文献で読み解く教育の社会的基盤 －

〔主任講師 (現職名) : 岩木 秀夫 (日本女子大学教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 大淀 昇一 (前東洋大学教授) 〕
 【 本学担当専任教員 : 岡崎 友典 (放送大学准教授) 】

講義概要

教育基本法は旧法(47年法)も新法(06年法)もその第一条において教育は人格の完成をめざして行われると定義している。法に定める教育とは、人間一人一人の知・情・意が一定のまとまり、つまり人格を為すように働きかける国家の統治作用である。このまとまりの望ましいあり方は歴史的・社会的に異なるが、新旧の教育基本法がめざしてきたのは「心身ともに健康な国民(旧法、新法)」である。人間一人一人が「心身ともに健康な国民」になる過程は、学校だけでなくそれに関わる家庭・地域社会(学校の家庭・地域インフラ)や雇用労働の諸慣行・制度(学校の雇用・労働インフラ)の支えのなかで進行する。本講義では、手がかりとなる文献の購読をとおして、「心身ともに健康な国民」の形成において、学校教育の支えとなるインフラストラクチャー(社会的基盤)について考える。

授業の目標

15回の授業は各回ごとに1～2点の論文・著書を取り上げ、読書案内の形式で進める。20世紀後半の日本は急激な勢いで産業構造高度化(二次化、三次化)と都市化を遂げた。21世紀を超えた現在、その近代化の負の遺産を抱え込んだまま、市場原理、競争原理を強化して更なる超近代化に突入しようとしている。その負の遺産の克服に取り組んだ論考・実践への読書案内をし、「人格完成」の社会的基盤を考えてもらうのが授業の目標である。第1部:理論編では学校の家庭・地域インフラと雇用・労働インフラについて全体的な視点を学び、第2部:実践編では家庭・地域インフラと雇用・労働インフラの保全や構築に取り組んだ具体的な実践例に触れる。

履修上の留意点

第1部理論編、第2部実践編という構成にしましたが、極めて大事な歴史編については、各回の基本文献を解説するなかで必要に応じて補足して文献・資料の紹介をするかたちで組み込みます。そのときどきの経済社会の課題に応じて設定された教育理念・目標は、その成果・産物が次の時点の経済社会と教育にとって制約条件となります。そのような循環の一端を、15回の講義をつうじて感じ取って下さい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
第1部 理論編				
1	学校の家庭・地域インフラの機能(1):学びの土台を捉え直し、編み直す視点	(目標&ポイント)学校教育が教育基本法に定められた「心身ともに健康な国民」の育成という目的を達成するためには、家庭・地域・社会保障インフラと雇用・労働・社会保障インフラの支えが前提である。この回では、岩川直樹・伊田広行編著『貧困と学力;未来への学力と日本の教育8』(明石書店、2007年)他を手がかりに、「人格の完成」プロセスの基本メカニズムに関する理解を得、それを望ましい方向に変える視点をさぐる。 【キーワード】 教育の目的、学びの土台、アイデンティティ・漸成論	岩木 秀夫	岩木 秀夫
2	学校の家庭・地域インフラの機能(2):学力の土壌としてのコミュニティ	《目標&ポイント》2000年初めころから児童・生徒の「学力低下論争」がおおきな社会的関心をよぶようになった。この問題の本質をたしかめるべくいくつかの「学力調査」を踏まえて、学力とはなにか、学力をそだてるにはどうすればよいのかについての考察をまとめた著作が志水宏吉『学力を育てる』(岩波新書・2005年)である。本書の第5章「学力の樹」をどう育てるか―地域の役割―を中心に学校の地域・家庭インフラとしてのコミュニティについての考察を進めてみることにしたい。 【キーワード】 2つのコミュニティ・スクール	大淀昇一	大淀昇一

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	学校の家庭・地域インフラの変動(1): 地方に人がいなくなる(限界集落)	(目標&ポイント) 子どもの人格の独立性や知的発達を支える家庭・地域インフラは、近年、大きく損なわれつつある。戦後の日本はめざましい経済成長と都市化を遂げた。しかしその裏で、地方においては限界集落問題が深刻化している。限界集落問題は、単に山村の老人の生活問題、医療・福祉問題にとどまらず、環境保全、国土保全問題である。それを招いた戦後の産業・国土政策、教育政策について、松谷明彦編著『人口流動の地方再生学』(日本経済新聞社、2009年)および、大野晃『限界集落と地域再生』(京都新聞出版センター、2008年)を手がかりに考えてみる。 【キーワード】 限界集落、傾斜生産方式、三大都市、単線型学校制度	岩木秀夫	岩木秀夫
4	学校の家庭・地域インフラの変動(2): 平成の市町村大合併が校区コミュニティを変える	《ポイント》今日われわれがなじんでいる町村は、自然村・地縁共同体が1889(明治22)年の市町村制施行直前に遂行された「明治の大合併」によって行政単位に再編成され、さらに1953(昭和28)年～1961(昭和36)年の「昭和の大合併」を経て形成されてきた。それらは1999(平成11)年～2006(平成18)年にかけての「平成の大合併」でもってもう一段変化を遂げようとしている。「明治の大合併」は全国に有償ではあるが義務制の小学校教育を展開する行政単位を設営するために、そして「昭和の大合併」は公立新制中学校の設置・維持のために行われたわけであるが、「平成の大合併」は現在いずれ計900兆円、1000兆円にも及ぶと予想されている累積債務をかかえた国と地方の財政再建を目標としている。財政の合理化をめざした市町村合併がこれまでの伝統的校区コミュニティにいかなる影響を及ぼすか見守ってゆく必要がある。この回ではその問題を自治・分権ジャーナリストの会『この国のかたちが変わるー平成の市町村大合併ー』(日本評論社、2002年)としてまとめられている現場取材記者たちの報告から読み取ってみることにしたい。 【キーワード】 平成の大合併	大淀昇一	大淀昇一
5	学校の家庭・地域インフラの変動(3): 学校五日制、生涯学習産業振興による生育環境悪化	《目標&ポイント》 学校五日制は、内需拡大・産業構造転換を図る経済政策の流れの中で、生涯学習体系への移行政策と一体で導入されたのである。それは都市部における内需・個人消費拡大と生涯学習産業振興をベースにしながら地域の実情を無視して全国一律に実施された。過疎・過密に拍車をかけた地域教育計画とあいまって、子どもの生育環境を悪化させている実情について、教育行政学が専門である小島善孝氏の『教育改革のわすれものー子どもにとつての学校と公共性ー』(つな出版、2006年)の「第3部子どもと地域」を中心に考察を進めることにしたい。 【キーワード】 学校週五日制、消費社会、経済同友会、生きる力、ゆとり	大淀昇一	大淀昇一
6	学校の雇用・労働インフラの“日本的”原像: 新規学卒採用	《目標&ポイント》 学校教育を支える社会的基盤としては、学校を卒業してからどのような場＝職場にでてゆくのか、その職場も大きなものの一つである。この問題について考えてみると、労働・職業能力は学校教育を終えて職業につき身体化するものであり一朝一夕にできるものではない。職業選択、職場・労働移動にかかわる諸制度、慣行をここで学校の雇用・労働インフラとよぶ。日本の企業社会では新規学卒採用、長期雇用慣行、企業内教育がそうしたインフラであったが、バブル崩壊後の長期不況状況の過程で崩れつつある。その状況について学び、問題点を考える。なぜなら学校教育は常にこのような雇用・労働インフラからその意義と内容が問われているからなのである。この回では、依光正哲・石水喜夫『現代雇用政策の論理』(新評論、1999年)という文献を中心にこの問題に迫ってみることにしたい。 【キーワード】 雇用の流動化、規制緩和、新規学卒者、技術・技能の蓄積	大淀 昇一	大淀 昇一

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	学校の雇用・労働インフラの変動(1):フリーター、ニート発生のメカニズムとその社会問題化	(目標&ポイント)高等教育ユニバーサル化のなかで、大学・短大卒の正社員就職率は低下した。これは平成不況に伴う新規学卒採用抑制の結果であったが、'05年～'06年には若者論の文脈でフリーター、ニート問題が論じられ、若者の人間力育成が問題解決の鍵だとする世論が形成された。その経過を、後藤和智『「言説」―「ニート」論を検証する』本田由紀・内藤朝雄・後藤和智『「ニート」って言うな!』(光文社新書、2006年)を手がかりにみる。 【キーワード】 フリーター・ニートの発生メカニズム、若者論・教育論としての世論形成	岩木 秀夫	岩木 秀夫
8	学校の雇用・労働インフラの変動(2):新規学卒採用慣行のゆくえ	(目標&ポイント)第7回でみたフリーター、ニート増加の一つの背景は財界団体から95年から05年にかけて相次いで提案されたような日本的雇用の改革の流れであった。対応して政府は「若者自立・挑戦プラン」を発表し、学校、大学をとおしてのキャリア教育の充実をめざし始めている。しかし、久本憲夫『正社員ルネサンス―多様な雇用から多様な正社員へ』(中公新書、2003年)や、海老原嗣生『「若者はかわいそう」論のウソーデータで暴く「雇用不安」の正体―』(扶桑社新書、2010年)のように、日本的雇用や新規学卒採用の現実には言われるほどの変化はないという議論もある。新規学卒採用慣行が今後どうなるか、また新たに重要施策として登場したキャリア教育がどのような役割を果たすことになるのか、今後とも注意深い観察が必要である。 【キーワード】 雇用ポートフォリオ、コーポレートガバナンス、キャリア教育	岩木 秀夫	岩木 秀夫
9	学校の雇用・労働インフラの変動(3):高卒就職指導慣行、守るべき点、改善すべき点	(目標&ポイント)職業安定所との連携による「出口指導」は、高卒労働力を地方から組織的・安定的に工業地帯に移動させて経済成長を支えてきた(石田浩「教育と労働市場―新規学卒者の就職と職安・学校―」東京大学社会科学研究所編『20世紀システム3―経済成長Ⅱ:受容と抵抗―』(東京大学出版会、1998年)。2010年に向けて大卒者の求人状況が改善する一方、高卒者の求人状況は悪化し続けている。そのなかで、自由応募制への移行という主張も出てきているが、安田雪『働きたいのに……高校生就職難の社会的構造』(勁草書房、2003年)は、従来の慣行の守るべき点も指摘している。 【キーワード】 高卒就職指導慣行、製造業空洞化、学業レリバンس	岩木 秀夫	岩木 秀夫
10	学校の雇用・労働インフラの変動(4):フリーター問題の人間の側面	《目標&ポイント》非正規雇用の増加とともに25歳頃までに正社員に落ち着かなければという年齢規範も薄れる気配がある。学校を出て就職というのは単に収入の問題だけではない。仕事を通じて人間関係がひろがり、若者は「大人」へ成長してゆくのである。そうした人間関係ネットワークが非正規雇用の広がりとともに限定的になり、そのことがまた相談出来る人間関係の希薄化をまねき、若者の晩婚化・未婚化に拍車をかけつつある状況について、若者の進路問題の専門家である堀有喜衣(編)『フリーターに滞留する若者達』(勁草書房、2007年)の第3章ひろがらない世界―若者の相談ネットワーク・就業・意識(執筆・久木元真吾)を中心について考え、学ぶことにしたい。 【キーワード】 若者の移行問題、フリーター、若者のソーシャル・ネットワーク、青少年育成問題、若者の自立問題	大淀 昇一	大淀 昇一

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
第2部 実践編				
11	学校の雇用・労働インフラの再構築(1): 職場に出会い若者が変わるインターンシップ	<目標&ポイント> 2000(平成12)年に(財)日立地区産業支援センターは、地域中小企業活性化支援事業の一環として、高萩工業高校と日立工業高校の生徒を日立市、高萩市の7つの企業に受け入れてもらい、「ものづくり技術再考事業—インターンシップモデル事業」を実施した。高萩工業高校を訪問調査した安田雪は、財団報告書に書かれたプログラム内容と参加生徒の感想文を検討し、さらに担当教員にインタビューを行った。そこから、たとえ短時間ではあれ、大人と若者が共同作業をし感情を共有することは、若者にとって生産者としての大人を理解する大事な機会になっているとともに、中高年が若者を理解する機会にもなっているという洞察を引き出している。今回の講義では工業高校とものづくり企業との今日の関係状況そしてそこからひきだされた洞察について安田雪『働きたい野に・・・高校生就職難の社会構造』(勁草書房、2003年)の「第4章教育は進学を保証せず、学歴は就職を保証しない」という文献を中心に学んでみることにしたい。 【キーワード】 インターンシップ	大淀 昇一	大淀 昇一
12	学校の家庭・地域インフラの再構築(1): 教育機会の経済的基盤を守る	(目標ポイント) 困窮家庭に対し学用品費、学校給食費などを援助する就学援助制度は1956年に開始されたが、2005年には国庫援助を「要保護者(生活保護受給者)」対象部分に限定し、「準要保護者(生活保護受給に準ずる程度に困窮している者)」対象部分は地方交付税に移譲(一般財源化)した。その結果、自治体によっては家計の困窮化に反比例して受給率が悪化している。この章では、義務教育は無償であるという憲法的原則は、政府の授業料を徴収しないことが無償であるという解釈のもとで、満たされないまま放置され、また高校教育からも排除される子どもたちの状況を、岩川直樹・伊田広行編『貧困と学力(未来への学力と日本の教育⑧)』(明石書店、2007年)の第1章奪われる教育の機会・排除される子どもたち という文献を中心にケースワーカー、小・中・高の学校事務職員、私立学校教職員組合員たちの目をどうして窺い、教育機会の経済的基盤の実情について学び考察することにした。 【キーワード】 私学助成、生活保護世帯、就学援助制度、高校・大学の無償化	大淀 昇一	大淀 昇一
13	学校の雇用・労働インフラの再構築(2): 地域再生と学業レバンス(勉強の意味)の回復	(目標&ポイント) 学卒者の雇用・労働インフラの保全には、学校での学業と職場での職能形成の連関(学業レバンス)の回復が鍵である。この学業レバンスは社会的に構築される暗黙の信頼であり、その回復は、経済・産業計画と教育計画の連携に懸かっている。21世紀に入って経済産業省から新産業創造戦略や新成長戦略が出され、文科省若手官僚集団から長期の政策提案が出されているが、とりわけ高卒者の雇用・労働インフラとして重要な地域経済活性化と教育の関連は未検討である。他方で、若者の農山村ボランティアや青年帰農は小規模ではあるが着実に増えつつある。農文協の雑誌『現代農業』他の文献をもとに考えてみる。 【キーワード】 地域産業活性化、帰農、農山村ボランティア	岩木 秀夫	岩木 秀夫
14	学校の家庭・地域インフラの再構築(2): 地域の活性化への学校の貢献	(目標&ポイント) 中央政府レベルでは、国際競争力強化(資源生産性分野)と地方活性化を柱とする構想が打ち出されているが、地方の疲弊を視野に入れた経済・産業政策と教育政策のすり合わせは緒についていない。しかし、地方レベルでは、子ども農山漁村交流プロジェクトや、コミュニティスクール制度などが農山漁村の活性化につながる兆候が出始めている。そのことを、金子郁容『日本で「一番いい」学校—地域連携のイノベーション—』(岩波書店、2009年)や、佐藤真弓『都市農村交流と学校教育』(農林統計出版、2010年)を通して学ぶことにする。 【キーワード】 コミュニティスクール、子ども農山漁村交流プロジェクト	岩木 秀夫	岩木 秀夫

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	学校の地域・労働インフラの再構築:フラッシュ・バック、「生産学校」	(目標&ポイント) 前回は、地方活性化と教育の関わりが中央政府レベルでは未検討だが、地方レベルでは現実が動き始めていることをみた。この回では、新制中学校が発足時から高度経済成長開始直前の時期までの5, 6年の短期間ではあったが、「職業・家庭科」を舞台にして地域の農林漁業の振興・近代化への関わりを様々なかたちで真剣に模索していた史実を、清原道寿『昭和技術教育史』(農文協、1998年)をもとに振り返る。今後の高等学校や地域高等教育と農山漁村の活性化との関わりを考えるヒントをさぐってみる。 【キーワード】 職業・家庭科、生産教育論、生産主義教育論、全村学校的生産教育論	岩木 秀夫	岩木 秀夫

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目	科目 コード	1118056	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 教育史入門 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：森川輝紀（福山市立大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：小玉重夫（東京大学教授）〕
 【本学担当専任教員：岩永雅也（放送大学教授）】

講義概要

教育という営為は、広義に捉えれば、人類の歴史とともに古いとも言うことができる。その教育の歴史を、西洋と日本という二つの視点から、それぞれ概観する。教育学や教育史についての深く専門的な知見を学ぶ前提として必要な、教育に関する歴史的考え方の基礎を身に付ける。第1回から第6回までは西洋教育史を中心に、第7回から第14回までは日本教育史を中心に扱う。第15回は今日の世界と日本の教育を扱うとともに、全体のまとめを行う。

授業の目標

日本教育史および西洋教育史の基礎知識を学び、教育を歴史的に理解する際の基本的姿勢を身に付ける。

履修上の留意点

教育学の各専門科目を学習するための入門として、本科目の履修が強く望まれる。さらに、心理学や哲学、社会福祉論、政治学、歴史学といった、広く人間と社会に関わる人文社会諸科学の学習を志す場合にも、本授業の履修が理解の一助となるはずである。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	古典古代の教育	この科目の概要を述べ、主任講師の紹介をした後に、近代教育の原型となった古代の教育について概説する。古代ギリシアのソフィストたちとソクラテスとの論争を軸に、ソクラテスの後継者であるプラトンについても説明を行う。また、古代ローマやキリスト教の意義についても考える。 【キーワード】 ポリス、ソフィスト、ソクラテス、助産術、プラトン、アカデメイア、アリストテレス、キケロ、クインティリアヌス、アウグスティヌス	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)
2	近代以前の共同体における子育て	中世から初期近代までのヨーロッパ社会でどのような教育、子育てが行われていたのかを、近代以降の教育との対比を念頭におきながら明らかにしていく。あわせて、近代社会を生み出す原動力の一つとなった宗教改革についても説明を行う。 【キーワード】 教会、中世の大学、自由七科、ギルド、徒弟制、ルネサンス、マキャベリ、宗教改革、ルター	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)
3	近代市民革命と国民国家の形成	17世紀から18世紀の近代市民革命とそれに続く19世紀の国民国家形成は、それまでとは異なる新しい近代教育を生み出した。その特徴を概観するとともに、それが現代の教育に直接的に大きな影響を与えていることを確認する。 【キーワード】 社団国家、コメニウス、ハリントン、社会契約、ホッブズ、ロック、コンドルセ、ルペルティエ、カント、ドイツ国民に告ぐ	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	子どもの発見と近代家族	近代教育の特徴を、大人とは異なる存在としての「子ども」の誕生と、子どもを教育する場としての近代家族の成立という視点から明らかにし、その意味について考えていく。 【キーワード】 アリエス、エミール、社会の秩序と自然の秩序、抽象的な人間、マルサス主義、生－権力、ドンスロ	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)
5	近代学校と義務教育	近代学校にもとづく義務教育制度の成立について、18世紀から19世紀の産業革命との関連をふまえて説明する。その際特に、なぜ無償の義務教育が発展していったのかという点について考えていきたい。 【キーワード】 産業革命、ジュール・フェリー、ヘルバルト、ホーレス・マン、アガンベン、フーコー、規律訓練、パノプティコン、一斉教授、ギャラリー方式	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)
6	子どもの世紀	近代学校が拡大普及していく20世紀は、近代教育や近代学校の様々な問題点が顕在化し、改革が試みられていく時代でもあった。そうした改革を主導した新教育運動と、そこに影響を与えた子ども中心主義やマルクス主義の特徴について述べ、その意味を考える。 【キーワード】 エレン・ケイ、マルクス主義、進歩主義、子ども中心主義、デューイ、統一学校運動、ブラウン判決、補償教育	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)
7	近世社会における人間形成	近世社会において、「子ども」はどのようにして育てられ、どのようにして「一人前」の「大人」になりえたのかを、通過儀礼などの社会の慣習やしきたりを主な対象として考察する。そのことを通して、変容しつつも現代にいたるまで日本社会の底流にあった子育て文化の特徴をさぐる。 【キーワード】 子捨て・子殺し 通過儀礼 一人前 奉公 女大学	木村政伸(新潟大学教授)	木村政伸(新潟大学教授)
8	近世社会と学びの文化	近世社会に文字文化が普及した背景には、文字学習の機会の拡大がある。それは手習いから漢学を代表とする学問まで、多様な段階と分野を形成しながら実現した。そうした文字学習の拡大の動態とその要因、さらにはそれがもたらした社会的影響について述べる。 【キーワード】 識字 文字文化 手習塾(寺子屋) 漢学 俳諧 私塾	木村政伸(新潟大学教授)	木村政伸(新潟大学教授)
9	近代学校の出発	日本の教育近代化には、西洋の教育情報が大きな役割を果たしていた。西洋教育情報の組織的・体系的な摂取が進められる中で、近代学校が成立・普及していく過程を概観し、長い間大陸文化の影響下で培ってきた教育慣行や子どもの生活がどのように変化したのかを理解する。 【キーワード】 学制、立身出世、御雇教師、就学率、就学督促	橋本美保(東京学芸大学教授)	橋本美保(東京学芸大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	明治公教育と教育勅語	西洋モデルの近代化をめざす、明治国家にとっての教育上の難問は、徳性に裏づけられた知性の形成にかかわって、いかなる徳性をいかなる方法によって形成・教育するかであった。その一つの解答が教育勅語であった。教育勅語とは何であったのかを考える。 【キーワード】 徳育論争、教学聖旨、教育議、元田 永孚、井上毅	森川輝紀(福山市立大学教授)	森川輝紀(福山市立大学教授)
11	教育学の受容と新教育	西洋の近代教育思想家たちによって提示された教育理念や教育学説は、日本に受容され、学校や子どもの学びに大きな影響を与えた。特にヘルバルトによる教育学の成立以降、西洋から輸入されたさまざまな教授理論は、多くの学校現場で研究・試行された。こうした受容のプロセスと、その結果展開された「新教育」という実践の特質を考える。 【キーワード】 ヘルバルト、ヘルバルト主義、新教育運動、八大教育主張、及川平治	橋本美保(東京学芸大学教授)	橋本美保(東京学芸大学教授)
12	戦時下の学校・教育	外形的な「立憲体制」との整合性の下に確立する明治公教育体制は、1930年代以降、「教学刷新」の名の下に再編されていく。総力戦に対応した「平準化」「合理化」と「非合理」な国体明徴運動にともなって展開する戦時下の学校・教育について考える。 【キーワード】 国体明徴運動、教学刷新、皇国民錬成、国民学校	森川輝紀(福山市立大学教授)	森川輝紀(福山市立大学教授)
13	戦後の教育改革	1945年の敗戦を契機とする戦後教育改革は、教育の理念・制度・内容(カリキュラム)に大きな変化をもたらした。敗戦から1960年までの教育の展開を整理・検討することで戦後教育改革が何を達成し、いかなる課題を残したのかについて考える。 【キーワード】 第一次米国教育使節団、教育勅語、6・3・3制、教育基本法、学習指導要領、社会科	貝塚茂樹(武蔵野大学教授)	貝塚茂樹(武蔵野大学教授)
14	経済成長と教育	1960年以降の高度経済成長は、社会的なシステムを抜本的に変革し、国民意識を大きく変容させていった。本章では、高度経済成長が戦後の教育に及ぼした影響と帰結について検討し、併せて1970年代までの教育の展開と検証することで、1980年代以降の教育改革へと連続する教育課題についても考える。 【キーワード】 高度経済成長、集団就職、教育内容の現代化、大学紛争、「期待される人間像」、「四六答申」、「教育荒廃」、「ゆとり」	貝塚茂樹(武蔵野大学教授)	貝塚茂樹(武蔵野大学教授)
15	ポストモダンの教育	今日の世界と日本の教育の特徴を、近代(モダン)からポスト近代(ポストモダン)への移行という歴史的展開のなかに位置づけて考える。 【キーワード】 冷戦構造の崩壊、グローバリゼーション、多文化主義、ポストコロニアリズム、公共性、シティズンシップ	小玉重夫(東京大学教授)	小玉重夫(東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1117912	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 教育と社会 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：岩永 雅也（放送大学教授）〕

講義概要

人は生まれながらにして人間であるわけではない。家族という基礎的な小集団の中に生まれ、親密な人間関係を通じて自我の基礎を形成し、やがて一般化された人間関係が縦横に展開する社会集団との接触を通してその社会の文化と規範を内面化して身に付けることにより、一個の自律的な人間となるのである。その意味で人間はすぐれて社会的な存在であるといえる。本講義は、人々が生まれ、育ち、学び、働き、家庭を作り、さらに自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスを縦糸とし、人々がそのプロセスの各段階で関わっていくさまざまな教育の在りようを横糸として、社会的な営みとしての教育の意味と本質を理解していくことを目的としている。あわせて最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望についても検討する。

授業の目標

今日ほど子どもの教育に社会的関心が集まったことはかつてなかったといえるかもしれない。それほど現代の教育は、数多くの問題に直面しているといえる。この科目は、先行する『教育社会学('07)』の内容にさらに多くの社会的視点を加え、現代的教育課題の理解と検討に多くの時間を割いて構成されるものである。教員、教育管理者などの教育関係者だけでなく、子どもを育てている(育てた)母親、父親、日本の教育のありかたに強い関心を持つ人たち、企業内教育に関わる人たち等にも履修を勧めたい。

履修上の留意点

本講義は、教育学に関わる専門科目である。そのため、教育学関連の基礎的な関連科目、例えば、『教育と心理の巨人たち('10)』といった科目を履修している、もしくは併せて履修することが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育と社会の関わり	教育は、何か特別な聖なる営みではなく、生産活動や商取引、余暇活動、(極論すれば犯罪行為など)とも同様の、数ある人間の社会的行為の中の一つである。したがって、そこには、行為の主体と客体、目的、手段、機能、そして社会的影響などのファクターを見出すことができる。教育を社会の中で理解するということは、そうしたファクターを合理的かつ客観的に見出していくことにほかならない。講義の最初にあたって、教育という営みを社会事象として捉えていくことの本質を見ていく。 【キーワード】 教育 社会 教育の社会学 実証主義 行為の意味	岩永雅也(放送大学教授)	岩永雅也
2	社会の実証的な見方	教育を社会事象として、つまり社会の側面から実証的に把握するためには、恣意的、感覚的でない、客観的な視点と方法が必要とされる。社会学、経済学、政治学、そして場合によっては心理学の枠組みと方法が、その把握の手助けとなる。とりわけ、19世紀に生まれた新しい学問体系である社会学は、教育の社会的把握に最も重要な視座と方法を提供している。ここでは、その社会学を中心に、教育を社会事象として理解するにあたっての実証的方法論を学ぶ。 【キーワード】 社会事象 社会学 パラダイム 質的調査 量的調査 意味解釈 データ解析	岩永雅也	岩永雅也
3	人間形成の始点	ヒトは、生まれながらに人間であるわけではない。生物としてのヒトは、集団の中で社会化されることによって初めて社会的存在としての人間となる。誕生後の人間としての歩みの始点を、社会化という観点から検討していく。 【キーワード】 ヒト タブラ・ラサ 社会化 自己同一化 模倣	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	家族と社会化	家族は、最も基本的な社会化のための集団である。ここでは、家族の本質とその成り立ちを理解した上で、そこにおける社会化のあり方の基本的な形について詳細に見ていく。 【キーワード】 家族 生殖家族 定位家族 重要な他者 I とme	岩永雅也	岩永雅也
5	子ども集団	幼児期を迎えた子どもは、家族以外の他者と関わる機会を日常的に持つようになる。その最初は“ピア”である。子どもがピアとともにどのように行動し、どのような社会化を体験し、どう発達していくのか、集団の中での自我形成という視点から詳細に検討する。 【キーワード】 ピア 公園デビュー 一般化された他者 内的葛藤 内的コミュニケーション 幼稚園 保育所	岩永雅也	岩永雅也
6	学校との出会い	近代社会における子どもは、学齢に達すると、ほぼ例外なく学校、特に初等教育の学校というシステムの中に入っていく。学校教育との初めての出会いが子どもたちにとって、また社会にとってどのような意味を持つものであるのか、小学校教育を中心に、集団と規範という観点からつぶさに検討する。 【キーワード】 学校 規範 学級文化 隠れたカリキュラム 学校適応 小学校	岩永雅也	岩永雅也
7	中等教育という分岐点	初等教育に続く中等教育は、社会化機能の上からも、発達段階においても、また社会的階層分化という点から考えても、あらゆる意味で「分岐点」というに相応しい存在である。ここではその構造と機能を体系的に考察する。 【キーワード】 中等教育 中一ギャップ 発達段階 社会階層 分岐点	岩永雅也	岩永雅也
8	現代の高等教育	初等・中等の学校システムとは異なる背景のもと、職業的専門性との関わりの中で形成されてきた高等教育は、現在著しい大衆化の圧力にさらされている。そのことが高等教育機関を多様なものにし、また大学改革を促進する大きな要因ともなっている。ここでは、現代における大学大衆化とそれをうけた大学改革、および大学の現状について考える。 【キーワード】 大学 大衆化 大学行政 大衆化 大綱化 アドミッション 大学全入時代	岩永雅也	岩永雅也
9	教育臨床の社会学	現代の学校システムには、さまざまな形の逸脱状況が見られる。その中には、制度そのものに要因を持つ構造的な逸脱も、特殊な状況の下での特殊時代的な逸脱もある。それを典型的に整理しつつ、今日の教育的病理現象を考える。 【キーワード】 逸脱 非行 ニート いじめ 不登校 学級崩壊 規範意識の薄弱化 自殺	岩永雅也	岩永雅也
10	教師とその養成	現代の教育に関する主要なテーマの一つとして教師の問題がある。教師の専門性、社会的位置づけ、その機能、そして教員養成の今日的な課題等、教師に関わる問題を広範に見ていく。 【キーワード】 教師 学級王国 教育指導要領 評価 管理体制 教員養成 教員免許制度	岩永雅也	岩永雅也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	教育と政治	1980年代中葉以来、教育の問題は非常に強く政治状況と関わるようになった。戦後民主主義から新自由主義、そしてその見直しといった政治状況の変化の中で、教育はどのようなものと考えられ、どのように扱われてきたのか、教育と政治の問題について考察する。 【キーワード】 四六答申 臨時教育審議会 教育改革 教育基本法改正 ゆとりの教育 新指導要領	岩永雅也	岩永雅也
12	教育と社会階層	近代社会におけるフォーマルな学校教育は、雇用市場への人材の提供を主要な機能の一つにしてきた。それは、親のさまざまな社会階層に出自を持つ子どもたちを、教育的価値によって選別し、再び職業階層のヒエラルキーの中に位置づけていく営為でもある。学校システムの成立以来絶えることなく続けられてきたその営為の社会的意味と近年の変質について検討する。 【キーワード】 社会階層 職業 階層間移動 ジニ係数 不平等 経済格差 階層の固定化	岩永雅也	岩永雅也
13	教育とメディア	現代社会を解く鍵の一つが広義のメディアである。教育という領域もその例外ではない。メディアと学校教育は現在どのように関わっているのか、それが現代の教育のあり方にどのような影響を与えているのか、また、今後その関係はどう変化していくのか、といった点について、特にマスメディア、インターネット、ゲーム、携帯等に焦点を当て、実証的に論じていく。 【キーワード】メディア マスメディア 放送 コミュニケーション ICT インターネット ゲーム脳	岩永雅也	岩永雅也
14	生涯学習の現状	学習社会は、あらゆる学習機会を統合し、有機的に結合することによって実現することができるとされている。現在の日本は、どのような生涯学習状況にあるのかを理解し、理念としての学習社会はどのように実現可能なのか、そこに至るまでにはどのような問題点を解決し、課題を克服していく必要があるのかといった点についても、総体的な視点から展望する。 【キーワード】 生涯学習 余暇 学習社会 リカレント教育 社会教育 成人学習者 カルチャービジネス 資格	岩永雅也	岩永雅也
15	現代社会と教育課題	今日の学校および教育そのものが直面する具体的な問題を実態に即して取り上げながら、その背景と解決への糸口を探る。あわせて今後わが国の教育がどのように展開していくのか、その近未来像を展望する。 【キーワード】 教育問題 グローバリゼーション 学力格差 未来への展望	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	認知についての心理学	人が何かを学ぶためには理解すること、理解内容を記憶しておくことなどが不可欠である。人間の理解、記憶、思考といった、教育の基本になる、人の認知の働きについて考える 【キーワード】 記憶、理解、思考	星 薫	星 薫 ゲスト:伊東裕司(慶応義塾大学)
5	学習についての心理学	人が学ぶという時には、どういう環境でどのように学ぶかが重要になってくる。より効率よく学ぶには、どういう工夫があるのだろうか。応用行動分析の視点から考えてみる 【キーワード】 応用行動分析、強化、罰、消去	星 薫	星 薫 ゲスト:山本淳一(慶応義塾大学)
6	犯罪についての心理学	「犯罪」という現象の周辺にも多くの心理学的問題がある。極端な形態とはいえ、罪をおかすのは人間であり、犯罪もまた人間の行為だからである。そのために、「犯罪心理学」という分野は、人間の行動を心理学的に考える意味を明確にしてくれる。 【キーワード】 犯罪心理学、犯罪原因論、捜査心理学	森 津太子	森 津太子 ゲスト:越智啓太(法政大学)
7	性格についての心理学	凶悪な犯罪に手を染める人は、「残酷な性格である」といった具合に、私たちは他者の行動を見て、その背景に性格を推測する。しかし、そもそも性格とは何だろうか。そして、性格とはどのようにとらえるのだろうか。人の性格について今日の心理学はどのように考えているのかを概観する。 【キーワード】 パーソナリティ、類型論と特性論、人—状況論争	森 津太子	森 津太子 ゲスト:小塩真司(中部大学)
8	臨床心理学	臨床心理学は、一般には、精神的な不調を訴える人に対してカウンセリング行為を行う領域ととらえられているが、臨床心理学の適用範囲は広く、犯罪に走った者の臨床的な理解や、彼らの矯正教育、犯罪被害者の支援などにも、臨床心理学は大きく関わっている。司法場面における心理臨床の活動を手がかりにしながら、臨床心理学とはどのような学問なのかを考える。 【キーワード】 心理臨床、カウンセリング、アセスメント	森 津太子	森 津太子 ゲスト:田中奈緒子(昭和女子大学)
9	判断と意思決定の心理学	裁判員制度が導入され、一般市民が罪の重さを判断するようになった。一見、特殊な判断であるが、それは私たちが日々行っている判断の延長線上にあるもので、そこには多くの特徴的な傾向が見られる。また、こうした判断は、他の裁判員や裁判官との合議によって結論が出される。裁判員裁判を手がかりに、判断と意思決定の問題を考える。 【キーワード】 原因帰属、責任性の判断、同調、社会的勢力	森 津太子	森 津太子 ゲスト:外山みどり(学習院大学)
10	産業心理学	成人の生活の中で、働くことは大きなウェイトを占めている。仕事は成人の生活を経済的に安定させるだけでなく、彼らの成長や幸福感に影響したり、心身の病の原因になったりもする。仕事人が人に及ぼす悪影響をできるだけ取り去り、人の満足感を高めながら、同時に生産性も高めるためには、どのようなことを考える必要があるのだろうか。産業心理学の立場から考えてみる 【キーワード】 労働負担、生産性、職業能力	星 薫	星 薫 ゲスト:神作博(中京大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	組織心理学	現在社会においては、仕事の多くは組織を単位として行われる。生産性が高い組織には、円滑な組織内コミュニケーションや管理者による効果的なリーダーシップがあり、それによって組織内の葛藤がうまく解決されたり、スムーズな意志決定、創造的な問題解決が達成する。これらの問題について、組織心理学の観点から考える。 【キーワード】 組織コミュニケーション、リーダーシップ、チームワーク	森 津太子	森 津太子 ゲスト:山口裕幸(九州大学)
12	消費者行動と心理学	産業は、企業によって生み出された商品やサービスを、消費者が購入、消費することによって成り立っている。消費者はどのように購入する商品やサービスを選択しているのだろうか。また、消費者に購入されるには、どのようなマーケティングが有効なのだろうか。社会心理学や経済心理学の知見をもとに、消費者行動について考える。 【キーワード】 消費者行動、マーケティング、広告	森 津太子	森 津太子 ゲスト:田中知恵先生(明治学院大学)
13	心理学的測定	産業場面では、しばしば人の感覚や好みなどを数量的に知ることが必要になる場合がある。さらに、これに留まらず、人の性格特性、知能、感情状態などについても、測定が試みられている。人の内面を「測定する」という心理学的試みについて紹介する 【キーワード】 精神物理学的測定法、尺度構成	星 薫	星 薫 ゲスト:渡辺利夫(慶應義塾大学)
14	心理学研究法	ここまで我々の日常に密着した問題についての心理学的研究を見てきた。ここで、心理学の研究方法について概観しておきたい。 【キーワード】 実験法、質問紙法、面接法、質的研究	星 薫	星 薫
15	心理学の過去と短い歴史	人間のさまざまな側面について研究を行っている心理学は、ヨーロッパに誕生したのだが、その歴史は意外なほど短い。心理学誕生前史を含め、この心理学の短い歴史を概観してみよう。 【キーワード】 生理学、精神物理学、ヴェント、ジェームズ	星 薫	星 薫

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1118110	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 発達心理学概論 （'11）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：氏家達夫（名古屋大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：陳 省仁（光塩学園女子短期大学教授・北海道大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：星 薫（放送大学准教授）】

講義概要

日本の発達心理学は、欧米で生まれた理論や方法を取り入れることから始まった。しかし、さまざまな分野における発達心理学の貢献の可能性を考えると、単なる輸入学問ではなく、日本の発達心理学を構築していく必要がある。そのために、文化や歴史的背景を常に考慮しながら、主要な理論や方法論、研究領域の研究成果を概説する。日本の発達心理学の現状や新たな展開、実践への応用を展望する。その際、発達心理学の研究領域をできるだけ幅広くカバーするだけでなく、関連領域についても取り上げる。

授業の目標

本科目は、受講者が、発達心理学の主要な基礎理論や方法論、主要な知見や応用例についての知識を習得し、人間発達についての理解を深めることを目的とする。

履修上の留意点

「教育心理学概論」「心理学概論」の受講が望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	発達の理論	発達について、いろいろな理論が提唱されてきた。理論は、発達研究や発達実践をどのように行うかという問題と密接に関連している。主要な古典的発達理論と最近の理論的展開について紹介するとともに理論と実践との関係について解説する。 【キーワード】 古典的理論、ダイナミック・システムズ理論、実践、臨床	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学教授・北海道大学名誉教授)	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学教授・北海道大学名誉教授)
2	発達の基礎:発達と遺伝、脳、進化	人間発達の生物学的基盤について解説する。最近の行動遺伝学や脳科学、進化心理学や比較行動学の研究成果を紹介し、遺伝や脳、進化という視点から人間の発達を解説する。 【キーワード】 行動遺伝学、脳、進化論、比較行動学	氏家達夫 (名古屋大学大学院・教授)	氏家達夫 (名古屋大学大学院・教授)
3	発達の基礎:関係の中の発達	個人主義を強調する心理学において、心理機能を個体の中で完結するものと捉える傾向がある。しかし、心理機能の発達は個体内で成し遂げるのではなく、常に養育者(他者)の役割が欠かせない。本章は乳幼児期の発達における養育者との関係の重要性をいくつかの具体的な相互交渉の例で説明し、人間は関係の中で発達することを強調する。 【キーワード】 文化の中の発達、相互交渉と心の発達、乳幼児期の行動と意識の発達、共同注視	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学教授・北海道大学名誉教授)	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学教授・北海道大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	論理的思考の発達	人が年齢とともに、どのように思考の様式を変化させていくのかについて具体的に考える。ピアジェの発達理論などをもとに、発達段階と段階間の質的変化のメカニズム、発達の領域固有性と一般性、認知発達をとらえる方法論などについて考察する。 【キーワード】 発達段階、論理操作、質的変化、均衡化、領域一般性と固有性、臨床的面接法、マイクロジェネティックアプローチ	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)
5	ことばと概念の発達	他者とのコミュニケーションを通じて、人がどのように、ことばを獲得し、思考の道具としての概念を身につけていくかについて考える。ヴィゴツキーの発達理論をもとに、他者との相互作用を通じた、また文化や社会との関わりでの発達の様相について考察する。 【キーワード】 外言と内言、一次のことばと二次のことば、生活的概念と科学的概念、素朴概念、素朴理論、概念変化、社会的相互作用、臨界期仮説	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)
6	教育と発達	発達に対して学校教育が果たす役割について考える。ブルーナーやヴィゴツキーの発達理論をもとに、教育による発達の促進可能性、学校教育と個人の発達の関わり、現在の学校教育の問題と発達のアプローチによる解決の可能性などについて考察する。 【キーワード】 最近接発達領域、レディネス、学校教育、カリキュラム、日常的認知、路上算数、9歳の壁、学力、学習観	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)	藤村宣之 (東京大学大学院・教授)
7	対人関係の発達	人は、対人関係の中で誕生し成長する。養育者－子関係の成立過程やアタッチメントの発達、仲間関係の発達を中心に、人が対人関係をどのように発達させるのか、そして対人関係の中で人がどのように発達するのか、解説する。 【キーワード】 養育者、アタッチメント、仲間関係、親密性	氏家達夫 (名古屋大学大学院・教授)	氏家達夫 (名古屋大学大学院・教授)
8	社会的認知の発達	人の社会行動の発達は、他者の行動や自分自身の行動についての知識や情報処理プロセスの発達として理解することができる。社会情報処理モデルや社会－認知的領域理論などを題材に、人の社会行動の認知的基盤について解説する。 【キーワード】 社会的情報処理、社会－認知的領域理論、道徳的判断、権威概念	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)
9	社会的行動の発達	思いやり行動や攻撃行動を題材に、社会行動の発達を概観する。思いやり行動や攻撃行動の発達を、共感性や同情、罪悪感などと関連づけて解説する。 【キーワード】 思いやり、共感性、同情、視点取得、攻撃性、罪悪感	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)
10	個性の発達	人の個性はさまざまな側面で表わされる。この章では、個性の発達をアイデンティティやキャラクター、パーソナリティの側面から考える。また、知性や品性と関連づけて個性を捉える見方を紹介する。 【キーワード】 アイデンティティ、キャラクター、知性・品性・個性、パーソナリティ	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)	二宮克美 (愛知学院大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	養育性の発達	人の社会は若い人達の養育性を発達させる。養育性は、文化によって異なるし、歴史的にも変化してきた。この章では、養育性を比較文化の文脈で考えると同時に、その発達を複数の世代間で行われる具体的な養育行動や価値の伝達として考える。 【キーワード】 ニッチ、養育性、発達観、育児行動	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学 教授・北海道 大学名誉教授)	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学 教授・北海道 大学名誉教授)
12	発達としてのエイジング	加齢は、個人や個人と周囲の環境との関係にさまざまな変化をもたらす。そのような変化の様相を概観し、加齢を発達と捉える理論的枠組みを紹介する。老化の生物学的モデルやサクセスフル・エイジングについてもふれる。 【キーワード】 生涯発達、認知、ネットワーク、生物学的モデル、サクセスフル・エイジング	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)
13	発達の病理とレジリエンス	問題行動の発達プロセスにおいて、リスクとレジリエンス、防御要因を取り込んだモデルが提案されている。疫学的研究や縦断研究の研究成果や発達臨床についての最近の考え方を紹介する。 【キーワード】 リスク、レジリエンス、発達障害、問題行動、発達臨床	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)
14	発達心理学の方法論と発達概念の再検討	発達心理学研究は新しい知識の創造になるため、従来の輸入学問のやり方を改める必要がある。本章は日本の心理学・発達心理学の現状を検討し、心理学徒の学問に対する暗黙の態度や大学における専門教育の問題を指摘する。入門の際こそ自主性を持って輸入された学問にアプローチすることの重要性を認識してほしい。 【キーワード】 発達心理学史、輸入学問、理論とデータ、方法論	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学 教授・北海道 大学名誉教授)	陳 省仁 (光塩学園女子短期大学 教授・北海道 大学名誉教授)
15	発達心理学を学ぶ意義	この科目のまとめとして、発達心理学を学ぶ意義について考える。発達の理論や基礎研究の成果が、研究や教育実践、発達臨床とどのように関連づけられるのかについて議論する。 【キーワード】 レリバンス、応用可能性、研究、実践、臨床	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)	氏家達夫 (名古屋大学 大学院・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1118129	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 教育心理学概論 （'14）＝（R）

英文名＝ [An Introduction to Educational Psychology ('14)]

〔主任講師（現職名）：三宅 芳雄（放送大学 教授）〕

〔主任講師（現職名）：三宅 なほみ（東京大学 教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

人は、生まれ落ちたときからすぐ、身の回りを探索しながら少しずつ世の中の成り立ちを理解して行く。そう準備されて産まれて来るともいえる。やがて子どもは、自分一人で学んだことを、親や兄弟、回りの他人など他者との関わりの中で徐々に拮げて、今まで遭遇したことがない状況にも対応できるようになって行く。本講義では、こういう人が賢くなる根本的な原理を見直して、そこから人の学びを引出す仕組みとその効果について考えよう。あなたなら、誰に対してどういう学びの場をデザインしたいか、あなたなりの「教育心理学」を作り上げて欲しい。

授業の目標

この講義の目標は、あなたなりの「教育心理学」を育て、あなた自身が学び続ける社会の一員になることである。講義前半では人が賢くなる仕組みを扱う。その中からあなたが納得できるものを選び出し、それらを組み合わせて全体を理解しよう。そうした上で、後半で出て来る「人の賢さを育てる試み」に触れ、得られるヒントを組み合わせて学びの場を設計し、実際実践して理解の程度を確かめることを目指そう。そういうサイクルを回し続けることで、私たちは、一人ひとり、学びのモデルを作り変え続ける持続的な学び手になれるだろう。

履修上の留意点

心理と教育コースのカリキュラムを構成する中心的な科目の一つである。履修を前提とする関連科目はないが、他の共通科目とともに専門科目を履修するために履修しておくことが望ましい。この講義を履修して理論的研究者のものの考え方や、実践的研究者の目の付けどころそれぞれの強みを良く吟味しておく、より高度な実践研究に取り組むための、良い準備になるだろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	実践の科学としての教育心理学	教育心理学の基本には「人はいかに学ぶか」という問いがある。人が賢くなる仕組みがわかれば、私たちは今日の自分を昨日の自分より賢くすることができるからである。本講義では、人が生まれながら持っている自分自身を賢くする仕組みに立ち戻り、それらをどう理解し、活用するか、その具体的な方法を探る。本章では、本講義のねらいと構成を解説している。 【キーワード】 実践の科学 経験則 社会構成主義	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
2	活動の認知過程:学ぶことと分かること	この章では、人の学習の多様で複雑な姿を捉えるための理論的な枠組みを検討していく。人の学習は人の活動を通してそこに作り出される文化に影響をあたえるが、一方で人の学習もまた作り出された文化に影響される関係にある。ここでは、人の学習を文化というシステムの一環として捉えていくことを視野において、その理論的な枠組みを検討していく。 【キーワード】 活動 単位 構造 意図 目標 音声表象 視覚表象 認知的道具	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
3	人が自然に学ぶ仕組み	人は活動の中で学ぶということの意味と効果を探る。私たちは普段生活している中でいつも新しい「問題」に遭遇し、その問題を解きながら新しいことを学んでいる。人が日常的に「賢く」振舞ったり、「賢くな」かったりする例をいくつか見ながら、人の認知過程の特徴を整理し、人がどのようにしてうまく学び続けられるのか考えていこう。 【キーワード】 トップダウンの過程 ボトムアップの過程 スキーマ 制約 確証バイアス	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	小さい子どもの自然な学び	この章では、乳児、幼児の頃、既に起きている学びを扱う。小さな子どもの世界に戻って、彼らがそもそも身の回りで起きる様々な現象を捉える仕組みを持っていること、そういった仕組みを使って、世の中を一定の方向で捉えること、いわば「世界のモデル」を持って、これから起きることを予測しつつ「学びの土台」を作り上げる様子を探る。 【キーワード】 単純化へのバイアス 本質主義 表象書き換え理論	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
5	経験から作る素朴理論	人は、小さい時から身の回りで起こることを観察し、一定の規則性を捉えようとする。こういう、自分の経験に基づいて自分なりに作り上げて予測に使うわかり方を「経験則」、経験則が集まったものを「素朴理論」と呼ぶ。ここでは物理学、生物学、天文学などに関わる素朴理論が科学的概念にどのように変わるのか「概念変化」という研究の枠組みを問題にしていく。 【キーワード】 経験則 素朴理論 フレームワーク 断片的知識 領域固有性	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
6	対話で理解が深化する仕組み	人が問いを共有した時その問いへの答えとしてそれぞれが考える案を交換し合うこと、言い換えれば知的な解を求める対話の中で、自らの賢さの質を上げて学んで行く仕組みを建設的相互作用と呼ぶ。社会的構成主義の学習観を背景に、このような学習の仕組みを紹介し、それを活用した「協調的学習過程」を取り上げる。 【キーワード】 建設的相互作用 協調学習過程 機能と機構の階層	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)
7	遊びから学ぶ	人は、遊びながらでも学ぶ。この章ではそういう場面を作り出し、観察してそこで置けている事を分析した研究例を紹介しよう。そこで、自発的な創意工夫がどのような意味を持つのか、また、社会的な相互作用との関わりも視野に入れながら、学びと動機づけとの関係について考えてみよう。 【キーワード】 好奇心 内発的動機付け 外発的動機付け 社会的な相互作用	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
8	日常経験から学ぶ	人はもともと自分にとって意味のある生活や仕事の場の中でうまく学んでいく。これまで「学校的な学び」で考えられてきたよりずっと有能であり、かつ自らの有能さを育て続けることができる存在である。そのような日常生活の中での学習の実態を子供達の「路上計算」など文化人類学的な研究から紹介しよう。 【キーワード】 日常生活の中での学習 路上計算 文化人類学	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)
9	熟達する、職場で学ぶ	人が現実の生活の場面で必要とする専門的な力は「学校」で学ぶだけでは獲得できないことが普通である。学校はむしろそのような専門的な力を仕事の場で学んでいくための準備の場になっている。専門的な力は時間のかかる熟達の過程である。このような熟達の過程で何が起きているのか、また職場という現実社会の中で成立する学習について検討していこう。 【キーワード】 熟達化 専門家の研究 定型的熟達化 適応的熟達化	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
10	問題を見つけて、解きながら学ぶ	この章では、The Jasper Project という一連の教材の一つを紹介し、問題を見つけて、解きながら、何が学べるかを見て行く。学校で学ぶ課題はそのものも、場面をうまく設定すれば、子どもたち自身が見つけてその解き方を工夫し合っ、て、いろいろな答えの出し方をして、その答えの出し方をみんなで楽しむ授業が可能になる。 【キーワード】 The Jasper Project マイクロワールド Learning by Design	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	結果の予測を積み重ねて科学する	子どもの経験則は、新しく起きる現象の結果がどうなるか、予測する力を持っている。そのような子供の力に依拠し、「新しく遭遇する現象」について予測することを繰り返し行うことによって、教室の中で科学を学ぶ活動を引き起こす実践例を二つ取り上げ検討する。 【キーワード】 仮説実験授業 WISEプロジェクト	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)
12	知識を統合して新しい答えを作る	この章では、学習指導要領や教科書にある典型的な学校型の学びを対象に、対話で学ぶ原理を持ち込んで、一人ひとりの経験則や、教科書に説明してある一つひとつの断片的な知識を自分たちで集め統合して答えを作る活動に仕立て上げ、一人ひとりの主体的な学びを支援する「知識構成型ジグソー法」を紹介する。 【キーワード】 協調学習 建設的相互作用 知識構成型ジグソー法	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)
13	テクノロジーの時代の学習と教育	インターネットとコンピューターに代表される現代のテクノロジーは人の生活を大きく変えつつある。そのような社会の変化に伴い、人の活動も変わり、学習の姿も変わってくる。また、意図的な学習支援の場としての学校も変わらざるを得ない。これまで学校がはたしてきた役割と、今の時代に要請される学びのゴールについて、さまざまな角度から比較しながら検討する。 【キーワード】 徒弟制時代 訓練可能性 公教育制度時代 生涯学習時代 Alternative School	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
14	学びと評価を近づける	評価というと、どうしても「決められたゴールに到達したかをテストで測ること」と考えてしまう。しかし、今までに取り上げてきた教育実践は、いずれも従来のテストでは簡単に計れない学力や知力の獲得を目指している。この章ではまず評価とは何かを見直し、21世紀型と呼ばれる学力についての最近の考え方を基礎に、変革的な形成的評価を検討していく。 【キーワード】 評価の三角形 21世紀型スキル 形成的評価	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)
15	学習の実践的な研究のこれから—21世紀の学びにむけて	この章では学習、教育の主要な研究者の考え方を紹介しつつ、それに添って私たち二人の著者のコメントを加えて行く。そこから、あなた自身の取組みたい教育の実践、学習研究の具体像が生まれてくることを期待している。 【キーワード】	三宅芳雄 (放送大学・教授) 三宅なほみ (東京大学・教授)	三宅なほみ (東京大学・教授) 三宅芳雄 (放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1113003	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 人格心理学 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：大山泰宏（京都大学大学院准教授）〕

【担当専任教員：小野けい子（放送大学教授）】

講義概要

人格 (personality) は、臨床心理学のほか、発達心理学、社会心理学など、心理学の諸分野に深く関わる概念である。この講義では、心理学において「人格」という概念が、どのように指定され、どのように探求されているのか、また、その変容と生成に対してどのように関わっているのかを、総括的に論じる。

このように人格の緒理論に関して探求することを通して、心理学的な人間理解の発想や方法ということに関しても、深い理解を醸成していくことをめざしている。

授業の目標

1. 人格という概念に関する基本的な知識の習得と、この概念を生み出すに至った心理学の発想法を理解する
2. 人格の成立に関わるさまざまな事柄を、心理学的に理解する
3. 人格という概念をもとにした、心理学(とりわけ臨床心理学)の理論や技法について理解する
4. 私たちの日常生活の中での人格概念に関して自分なりに理解できるようになる

履修上の留意点

特になし

回	テ マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	人格心理学をはじめるにあたって	人格という概念が心理学で用いられるのはなぜか。20世紀以来、人格概念が重要となった経緯を論じる。あわせて、その流れの中で、本講座の目的を概観する。(1. 人格という概念の定義、2. 人格という概念の歴史的背景、3. この科目の目的と概観) 【キーワード】 人格、性格、気質、個人差心理学	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
2	人格を理解する観点と理論	人格というものに対して、私たちはどのように接近していくのか。人格を把握するための私たちの認識の特徴を省察することをもとに、類型論的発想、特性論的発想、力動論の特徴を明らかにする。(1. 人格理解の方法、2. 類型論と特性論、3. 力動論) 【キーワード】 類型論、特性論、力動論	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
3	人格を映し出すー心理査定	他者の人格を知るため、あるいは自己自身の人格を知るために、心理査定がおこなわれる。質問紙法、投映法のそれぞれの仕組みを知ること、心理学において人格がどのように考えられているのかをより深く理解する。あわせて、心理査定の意義と範囲について論じる。(1. 観察法、2. 質問紙法と投映法3. 人格は理解できるのか) 【キーワード】 観察法、質問紙法、投映法	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	人格理論の現在	近年の心理学は、人格に関してどのようなとらえ方をしているのか。自己組織システムとしての人格のとらえ方、脳科学での知見社会的構成としての人格の考え方などを紹介する。(1. システム論的な人格理解, 2. 脳科学から見た人格, 3. ジェンダーと人格) 【キーワード】 システム論、社会構成主義、ジェンダー	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
5	人格と関係性	人格は単独で存在するものではなく、必ず他者との関係の中にある。そうした対人関係の場において、人格はどのように現出し把握されるのか。またその関係性を支える次元とは何なのか。(1. 対人認知, 2. 態度形成自己, 3. 集団心理) 【キーワード】 印象形成、社会集団、対自と対他	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
6	人格のはじまり	ヒトが誕生して成長していくとき、どのような要因が人格形成に影響を与えているのであろうか。遺伝と環境をめぐるこれまでの研究、また、最近の乳幼児と養育者の交流の研究等を通して考察する。(1. 遺伝と環境, 2. 情動と調律, 3. 愛着の理論) 【キーワード】 双生児研究、情動調律、愛着	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
7	人格の育ち	やがて人は「わたし」という意識をもち、それを核として人格が形成されていく。その際、エディプス期での大きな人格変化、また、前思春期における「わたし」の目覚めなどを通して、私が「わたし」になっていくプロセスを考察する。(1. エディプスコンプレックス, 2. 自我体験と前思春期) 【キーワード】 エディプス期、エディプスコンプレックス、自我体験	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
8	人格が閉じるとき	人生の後半において、人は自分の人生をどのように閉じていくのかということが大きな課題となってくる。中年期の危機、そして老年期のテーマ等に関して述べるとともに、死に直面する人々の心のあり方について述べる。(1. 中年期の課題, 2. 老年期, 3. 死の準備) 【キーワード】 ライフサイクル、中年期の危機、老年期	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
9	人格とかたり	人は自分自身の物語をかたることで、自分の歴史を、あるいは自分自身を構成していく。そうした語られる内容ばかりでなく、私が「わたし」として語り出でることに、人格を構成する根本がある。発話に関する理論等を参考にしつつ、かたりの意義について述べる。(1. 語られる人格, 2. 発話行為としての人格, 3. 心理療法とかたり) 【キーワード】 ナラティヴ、かたり、発話、主体、反復	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	人格が病むということ、傷つき	人格のまとまりというものを崩し開いていく、さまざまな出来事。私たちの誰もが必ず多かれ少なかれ抱えたり直面したりする心の課題を、私たちはどう理解し、どのように取り組んでいくべきなのか、臨床心理学の観点から論じていく。(1. 欲求不満, 2. 神経症と精神疾患, 3. ト라우マ) 【キーワード】 欲求不満, 神経症, 精神病, PTSD	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
11	人格の探求と文化	人格を、そして自分自身を探求するために、臨床心理学ではどのような考え方が用いられるのか。自己認識の学としての、その手法や発想に関して、先人たちの仕事に言及しつつ論じていく。(1. 精神分析のはじまり, 2. 分析的心理学) 【キーワード】 ヒステリー, 精神分析, 夢, 元型	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
12	人格の変容	私の人格の今のあり方に行き詰まったとき、カウンセリングや心理療法がおこなわれることがある。こうした営みにおいては、人格はどのように捉えられ、またどのように変容や人格の十全な発現が促されていくのか。その理論ばかりでなく事例を引きつつ論じる。(1. カウンセリングと心理療法, 2. 心理療法の過程, 3. 非言語療法) 【キーワード】 カウンセリング, プレイセラピー, 表現療法	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
13	物語にみる人格の変容	人格の成長と変容は、誰もが体験することである。これまで先人たちが語り伝えたり創作したりした物語の中にも、そのテーマは多くみられる。いくつかの物語を臨床心理学的に読み解くことで、臨床心理学や心理療法における人格理解と変容に関して深めたい。(1. 教養, 2. 小説童話とファンタジー, 3. 神秘主義と錬金術) 【キーワード】 人格陶冶, 物語, ファンタジー, 錬金術	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
14	人格と存在	テロや戦争、ジェノサイド。人間自身によって人格が否定される不幸は、現代でもあとをたたない。その中で、人は人格の尊厳を保ち、祈りと希望を失わないでいることができるだろうか。実存主義的な人格理論を概観し、このことを論じたい。(1. 人格の否定と祈り, 2. 実存主義的人格, 3. 未来へ向かう人格) 【キーワード】 実存, 希望, 人間の尊厳	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)
15	人格心理学の展望	電子メディアに囲まれた現代社会において、人格のあり方は変わっていくのであろうか。それに対して心理学も、新たな視点と理論を持つべきなのだろうか。こうした問題に言及しつつ、本講義のこれまでの過程を、省察する。(1. 現代社会と人格, 2. 人格に関する私たちの課題, 3. 展望) 【キーワード】 電子メディア, 解離, 抑圧	大山泰宏(京都大学大学院准教授)	大山泰宏(京都大学大学院准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1112015	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 西洋哲学の誕生 (' 1 0) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 佐藤 康邦 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 三嶋 輝夫 (青山学院大学教授) 〕

講義概要

西洋哲学の源流という、ヘレニズムとヘブライズムがあげられる。本講義では、このうち、まずヘレニズム、すなわち古代ギリシア哲学の検討を行う。そこでは、ソクラテス以前の哲学からアリストテレスまでが検討される。次に、ヘブライズム、即ち旧約聖書の世界およびキリスト教の検討が行われる。その上で、キリスト教が世界宗教として、教義を確立する際に、ギリシア哲学との融合が行われたことを検討する。それが、教父の世界の検討である。その後、中世キリスト教の検討が行われる。これらの思想を、それぞれの専門家の講義によって学ぶ。

授業の目標

デカルト以降の西洋哲学に関しては、多くの日本人にとっても馴染みがあると言える。しかしそれらは、古代以来の長い思想、学問の歴史を経て成立したものであった。この講義では、この近世以降の西洋哲学の源流がいかなるものであったのかを、古代ギリシアの哲学、古代ユダヤの信仰、キリスト教の教義、さらに、中世の神学を通して学ぼうとするものである。

履修上の留意点

古代から近世直前にいたるまでの長い年月にわたる思想の歩みを、一つの講義で学ぶことには、それ相応の難しさがあるが、それによって、西洋思想の源流に関する、概観は得やすいとも言えるであろう。ギリシア哲学とユダヤ教というその隔たりは大きいのであるが、それがどのように結びつき、西洋の成立に寄与してきたか、大きな好奇心をもって、学んで欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	〔序〕 ギリシア哲学の全体像	西洋思想の源流として、ヘレニズムの思想とヘブライズムの思想とがあげられる。そのうち、まず、ヘレニズム、ギリシア哲学が取り扱われる。第一回目は、〔序〕に続いてギリシア哲学全体の展望をする。また〈哲学〉とは何かについて、タレスを例に考える。 【キーワード】 ヘレニズム、ヘブライズム、ソクラテス以前の哲学者たち、ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、哲学	三嶋輝夫 (青山学院教授)	佐藤康邦 (放送大学教授)、三嶋輝夫 (青山学院教授)
2	ソクラテス以前の哲学者たち	先ずタレス、アナクシマンドロス、アナクシメネスに代表されるイオニアの自然哲学を取りあげる。ついでクセノパネスとパルメニデスとピュタゴラスの宗教観、ヘラクレイトスとパルメニデスの存在論を中心に、ゼノンのパラドックスやデモクリトスの原子論と倫理説もあわせて学ぶ。 【キーワード】 ミレトス派、クセノパネス、ヘラクレイトス、エレア派	三嶋輝夫 (青山学院教授)	三嶋輝夫 (青山学院教授)
3	ソクラテス登場の意義	前5世紀のソフィストとソクラテスを扱う。プロタゴラスを始めとするソフィストは合理主義的思考によって迷信や偏見を打破することに貢献したが、同時に相対主義的、懐疑主義的風潮も生み出した。それに対して、一問一答を通じての無知の自覚を起点として、いかに生きるべきかを徹底的に追究したソクラテス登場の意義を考える。 【キーワード】 ソフィスト、弁論術、人間万物尺度論、ソクラテス、無知の自覚	三嶋輝夫 (青山学院教授)	三嶋輝夫 (青山学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	プラトンの『国家』(1)	プラトンの『国家』の第1巻から第4巻を取り上げ、正義を中心とする徳目について、どのように規定されているかを学ぶ。また第1巻におけるトラシュマコスとソクラテスの正義をめぐるやり取りとその終わり方に孕まれる問題性に注目し、第2巻以降の探求との関連を探索。 【キーワード】 強者の利益としての正義、グラウコンの挑戦、ギュゲスの指輪、守護者、魂の三部分説	三嶋輝夫(青山学院教授)	三嶋輝夫(青山学院教授)
5	プラトンの『国家』(2)	『国家』第5巻においてソクラテスによって提案される、「三つの大波」にも喩えられる大胆な提案、すなわち男女平等教育論、妻子共有論、哲人王の三つの改革案と、その中核を成す哲人王の理念を根拠づけるべきイデア論について、三つの比喩を手掛かりに考える。 【キーワード】 三つの大波、男女平等教育論、妻子共有論、哲人王、イデア論	三嶋輝夫(青山学院教授)	三嶋輝夫(青山学院教授)
6	アリストテレスの哲学	「万学の祖」とも言われるアリストテレスの哲学の特色を、師であるプラトンとの対比を通して浮かび上がらせることを目指す。特にイデア論に対するアリストテレスの批判を中心的に取り上げつつ、彼の存在論、倫理学、政治学の核心を成す思想をピックアップして検討する。 【キーワード】 イデア論批判、四原因説、不動の動者、幸福、エンドクサ、総和の理論	三嶋輝夫(青山学院教授)	三嶋輝夫(青山学院教授)
7	旧約聖書の概要／諸書から	7章から10章は、旧新約聖書の哲学的意義について学ぶ。本7章は先ず、ふつう宗教的信仰の書として扱われる聖書を哲学的理性の立場からどう読むかを確認した後、旧約聖書の成立と思想の中核について概観する。そして旧約聖書の諸書の部分から「コーヘレス書」を取り上げ、ニーチェ・ハイデッガーのニヒリズムの哲学との対比において、これを読み解く可能性を探索。 【キーワード】 旧約聖書、律法、預言者、諸書、コーヘレス、ニヒリズム、ニーチェ、ハイデッガー	関根清三(東京大学教授)	関根清三(東京大学教授)
8	旧約聖書・律法から：イサク献供物語の哲学的解釈	旧約聖書の律法の部分から、アブラハムによるイサク献供の物語を取り上げる。その粗筋をさらった上で、カント、キルケゴール、デリダ、西田幾多郎といった哲学者たちが、このテキストをどう解釈したか解釈史を洗う。それらの批判的検討を踏まえて、このテキストの哲学的射程と意義について考えたい。 【キーワード】 イサク献供の物語、創世記、アブラハム、カント、キルケゴール、デリダ、西田幾多郎、絶対矛盾の自己同一	関根清三(東京大学教授)	関根清三(東京大学教授)
9	旧約聖書・預言者から／新約聖書の概要	旧約聖書の預言者から、バビロン捕囚期の最高峰、第2イザヤの思想を学ぶ。ヴェーバーの神義論的観点からのこのテキストの読み解きを批判的に踏まえた上で、その贖罪思想の本質について考察する。そこから新約聖書に目を転じて、その成立と思想の概要について瞥見し、次章の考察へとつなげる。 【キーワード】 第二イザヤ、贖罪、苦難の神義論、福音書、歴史書、書簡、黙示文字	関根清三(東京大学教授)	関根清三(東京大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	新約聖書・福音書から	新約聖書の福音書から、姦淫をめぐるイエスの言行の核心について学ぶ。そこから倫理的律法を超えた福音の意味を確認する。それを踏まえて、イエスの十字架の死後、その贖罪の意味について弟子たちが解釈して行った経緯と帰趨を探り、それが生前のイエスの思想の核心と呼応することを確認する。しかし贖罪思想は爾後の思想史において、哲学者からの鋭い批判を浴びた。それへの応答の可能性を展望して、4つの章にわたって通覧してきた聖書の哲学的意味をめぐる考察を結ぶ。 【キーワード】 福音書、姦淫、イエス、十字架、贖罪、原始教団、アガペー、カント、ヘーゲル、ニーチェ、レヴィナス、西田幾多郎、ティリッヒ	関根清三(東京大学教授)	関根清三(東京大学教授)
11	ヘレニズムの哲学ー古代ギリシアの遺産の継承と変貌	古代ギリシアのソクラテス、プラトン、アリストテレスにおいて一つの完成に達した哲学の流れは、その後、そうした知的遺産を継承しつつ、独自の展開を遂げた。本章ではそのうち、特にストア派、エピクロス派、そして新プラトン主義について考察し、教父時代への影響についても言及する。 【キーワード】 ストア派、エピクロス派、懐疑派、新プラトン主義	谷隆一郎(九州大学名誉教授)	谷隆一郎((九州大学名誉教授)
12	東方・ギリシア教父、ビザンティンの伝統ー愛智(=哲学)としての神への道行き	東方ギリシア教父の伝統は、ラテン教父の伝統よりも早くにギリシア的諸伝統を摂取し、東洋における大乘仏典成立の歴史にも似て、西洋全体の大きな源泉となってゆく。本章ではその思想潮流の代表として、ニュッサのグレゴリオス及び証聖者マクシモスについて、その哲学(宗教哲学)を考察する。 【キーワード】 東方・ギリシア教父、ビザンティン、神、存在、自己、ニュッサのグレゴリオス、証聖者マクシモス	谷隆一郎(九州大学名誉教授)	谷隆一郎((九州大学名誉教授)
13	アウグスティヌスと西方・ラテン教父の伝統	新たに成立したキリスト教は、上に述べたように、古代ギリシア的伝統を摂取し、ある拮抗とともにそれらを超克しつつ、愛智(=哲学)としても大きな展開を成し遂げてゆく。本章では、ラテン教父の代表としてアウグスティヌスに即して、その哲学(魂の神への道行き)の基本線进行を考察する。アウグスティヌスが登場するまでの教父たちについても概観する。 【キーワード】 アウグスティヌス、西方・ラテン教父、神、人間、自由・意志、悪、時間、歴史	谷隆一郎(九州大学名誉教授)	谷隆一郎((九州大学名誉教授)
14	西欧中世哲学(スコラ哲学)	西欧においては9世紀のカロリングルネサンスに始まり、12世紀ルネサンスを経て13世紀スコラ学に結実してゆく。本章では特にアンセルムス、トマス・アキナス、エックハルトなどに即してその基本的流れを見定め、後期スコラから近代への移行の意味についても言及する。 【キーワード】 アンセルムス、12世紀ルネサンス、大学の成立、トマス・アキナス、後期スコラ哲学、エックハルト	谷隆一郎(九州大学名誉教授)	谷隆一郎((九州大学名誉教授)
15	総括(座談会)	西洋哲学の源泉をギリシア哲学、ユダヤ教、キリスト教に求めてきたが、これら古代、中世の思想がその後どのように受け継がれてきたか、そして、現代において、どのような意味を持つのかを、これまでの担当者による座談会形式で論じる。 【キーワード】 古代哲学、宗教、哲学	三嶋輝夫、谷隆一郎、関根清三、佐藤康邦	三嶋輝夫、谷隆一郎、関根清三、佐藤康邦

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目	科目 コード	1118072	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 近代哲学の人間像 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦(放送大学教授)〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

ルネッサンス以降の近代哲学について学ぶ。まず、ルネッサンス人文主義の哲学において近代的人間がどのように捉えられたかを見る。次にデカルトを中心に、近代科学と、近代的人間観の関係を見、さらにイギリス経験論、ドイツ観念論の哲学を検討する。そのように近代哲学の古典を検討することが本授業の主題であるが、そのことを踏まえた上で、今日にいたるまでの、実証主義的科学の興隆の時代における哲学の自己主張のありかたについて考える。

授業の目標

デカルト、ロック、カント、ヘーゲル、ベルクソンといった哲学者の名前は、良く知られた名前であろう。しかし、その思想内容となれば、何も知らないという方が多いのではないかと思う。しかし、近代社会、近代文化、近代科学という、日ごろ私たちが自明のものとして享受し対応しているものは、それを支える哲学あって成り立っているものである。自明の常識として受け取っているものの背後に広がる、広大な知性の世界について学ぶというのが、本授業の目標である。

履修上の留意点

本講義は、同講師の『現代を生きる哲学('07)』（閉講科目）を踏まえ、そのうち、近代の分を拡大したものという性格を持つが、人文主義や、ベルクソンについては、新たに付け加えられているものもある。その点に留意して、履修していただきたい。本科目の履修後あるいは前に「功利主義と分析哲学('10)」、あるいは「実存と現象学の哲学('09)」の履修が望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	近代の目覚め—ルネッサンスの人間像—	ルネッサンスというレオナルドやミケランジェロの造形芸術で有名であるが、哲学の方面でも新しい運動が起こった。それを代表するのが人文主義である。本章では人文主義者の、フィッチーノ、ピコ、ポンポナッチ等について考えてみる。またそれと並んで、『君主論』で名高いマキアヴェッリについても検討する。 【キーワード】 人文主義、プラトン、アリストテレス、君主論	佐藤康邦	佐藤康邦
2	近代科学の成立と哲学(1)—科学革命とベーコン—	古代ギリシアから近世初頭までの科学思想を回顧する。特に、アリストテレスのエンテレケイアという概念にこめられた意味を考えた上で、それが、近世初頭においていかに批判されたかを検討し、いわゆる科学革命の時代の自然観を明らかにする。 【キーワード】 エンテレケイア、目的因、ガリレオ、科学革命	佐藤康邦	佐藤康邦
3	近代科学の成立と哲学(2)—デカルトの哲学—	「われ思う、われあり」という言葉をめぐって、デカルトの哲学および、近代哲学全体の性格を展望する。そこで、デカルト流の機械論的自然観を支える人間観がいかなるものであるのかを明らかにする。さらに、彼の後継者としてスピノザを取り上げ、それが、デカルトの哲学をどのように展開したかを考える。 【キーワード】 懐疑、延長実体、思惟実体、決定論	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	近代科学の成立と哲学(3)―デカル哲学への批判―	デカルトと同じく17世紀に属しながら、彼に対して何らかの形で批判的であった哲学者達を取り上げる。ホッブズはデカルトの思惟実体の哲学を批判したが、機械論の立場は堅持した。パスカルは信仰の点でも、人間観の点でも、デカルトを鋭く批判しつつ独自の近代哲学の立場を示した。さらにライプニッツのモノアド論に近代の有機体論の源泉を見ることが出来る。 【キーワード】 唯物論、繊細な精神、気晴らし、モノアド	佐藤康邦	佐藤康邦
5	経験論の哲学	イギリスの哲学の伝統である経験論の立場を代表する二人の哲学者、ロックとヒュームを取り上げる。ロックには、主観・客観の二元論に基づく典型的な認識論の原型を認め、ヒュームには、それを打ち壊してしまうまでに徹底した懐疑論の持つ斬新な意義を認めて、それぞれ検討を加える。 【キーワード】 白紙、感覚、単純印象、因果性	佐藤康邦	佐藤康邦
6	アダム・スミスにおける倫理学と経済学	ヒュームと同じく感情を理性に優先させたスミスが、いかに「公平な観察者」の概念に基づく規範的な倫理学の体系を作りあげていったかを検討する。さらに、そこで、登場する、見えざる手の概念を手がかりにして、彼における倫理学と経済学のつながりについて考察を加える。 【キーワード】 共感、公平な観察者、見えざる手、経済学	佐藤康邦	佐藤康邦
7	カントの哲学(1)―『純粋理性批判』―	近代哲学を代表するカントの『純粋理性批判』を通じて、彼の認識論の基本を検討するとともに、また、形而上学、神学についての考え方を検討する。そこに、観念論と経験論との新たな統合の道を展望するとともに、一切を支える位置に置かれた超越論的主観性の意味を学ぶ。 【キーワード】 直観、悟性、理性、物自体	佐藤康邦	佐藤康邦
8	カントの哲学(2)―『実践理性批判』―	『実践理性批判』を通じて、カントの倫理学について学ぶ。そこで、自由と道徳とがどう結合しているのかを見、近代的自由の意義を知る。また、カントにおける哲学と宗教との関係を検討する。 【キーワード】 定言命令、仮言命令、自由、最高善	佐藤康邦	佐藤康邦
9	カントの哲学(3)―『判断力批判』―	『判断力批判』を通じて、カントの美についての思想と有機的生命についての思想を学ぶ。前者における構想力についての思想の斬新さ、後者の生命観の斬新さは、今日振り返ってみる価値のあるものである。 【キーワード】 構想力、反省的判断力、美、有機体	佐藤康邦	佐藤康邦
10	ヘーゲルの哲学(1)―ドイツ観念論とヘーゲル	『判断力批判』の後継者として、まずゲーテの自然観を彼の詩を通じて学ぶ。次に、シェリングの『超越論的観念論の体系』を通じて、彼の自然哲学や神話論について検討を加えた後、ヘーゲル初期の哲学的発展の歩みを辿る。 【キーワード】 合目的性、生命、美のイデー、神話	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ヘーゲルの哲学(2) —『精神現象学』の諸相—	ヘーゲルの哲学体系の生成の場所である『精神現象学』のなかから、いくつかの部分を選んで、彼の哲学の基本的特徴を理解する。そこでは、主観・客観同一の発想、循環、理論と実践の相互媒介の問題などが検討の対象となる。 【キーワード】 意識、自己意識、労働、循環	佐藤康邦	佐藤康邦
12	マルクスの哲学	近現代世界に多くの影響を与えてきたマルクス主義であるが、それを哲学という角度から見直してみる。まずヘーゲルの影響の色濃い疎外という概念の検討を行い、次に唯物弁証法の立場に立つ歴史観について検討を加える。 【キーワード】 疎外された労働、搾取、共産主義、唯物史観	佐藤康邦	佐藤康邦
13	実証主義的科学と哲学	かつて哲学が占めていた知的世界の多くの分野が、今日では実証主義的科学によって奪われているかのように見える。このような時代に、哲学はどのように自己主張ができるのか。それを、実証主義という言葉の確立者であるコント以来の学問状況を踏まえて検討する。 【キーワード】 実証主義、進化論、思惟経済主義、実存	佐藤康邦	佐藤康邦
14	マックス・ウェーバーと社会学	資本主義を解明するのに、ウェーバーはマルクスとは異なった方法を用いた。それを、彼の宗教社会学に見るとともに、彼の社会学のもう一つの柱である「支配の社会学」の検討も行う。その延長線上で、パーソンズとルーマンの社会学の検討も行うことによって、社会学への哲学的アプローチの道を探る。 【キーワード】 プロテスタンティズム、理解社会学、システム論、オートポイエーシス	佐藤康邦	佐藤康邦
15	生命概念のもとでの哲学の主張	フッサールとベルクソンという20世紀前半を代表する哲学者が自らの拠点とした生命概念の検討を通じて、哲学の新たな可能性を検討してみる。最後には、この二人との関係で、日本近代の哲学者である西田幾多郎に言及する。 【キーワード】 超越論的現象学、生の跳躍、創造的進化、純粹経験	佐藤康邦	佐藤康邦

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード*	1110918	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 芸術史と芸術理論 ('10) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 青山昌文 (放送大学教授) 〕

講義概要

芸術は、単に好き嫌いで話が済むような小さなものではありません。芸術は、感じ取ればいいだけの趣味の世界のものではないのです。芸術は、世界の様々な素晴らしいものが沢山詰まったものであり、世界の奥深いものが凝集しているものなのです。この講義は、芸術のこのような本質を、古代ギリシアから現代までの多くの傑作を現地に訪ねて現場で語りながら、分かりやすく語ります。文学や演劇についても言及しますが、テレビの長所を生かして、講義の軸は建築を含む美術とし、芸術のもっている深い意味を明らかにしてゆきます。

授業の目標

芸術が、好き嫌いのレベルを超え、感覚的な趣味のレベルを超えた、奥深いものであるということが分かるようになることが、この講義の第一の目標です。そのために、プラトンやアリストテレスの美学・芸術理論のあらましを述べ、古代から現代までの各時代の芸術が、いかに同時代の哲学・思想と根本的に結びついてきたか、ということ明らかにしてゆきます。講義でお見せする芸術作品は、ほとんど全てが人類の至宝というべき素晴らしい傑作であり、その傑作を傑作たらしめているものの根源が分かるようになることが、この講義の最終目的です。

履修上の留意点

「社会の中の芸術('10)」が、芸術と社会との深い関わりに力点を置いているのに対して、この講義は、芸術と哲学・思想との深い関わりに力点を置いています。2つの科目は、両者相まって芸術の様々な深い意味を明らかにしているのです。尚、この講義は、以前の「芸術の理論と歴史('02)」「芸術の理論と歴史('06)」においてお見せした貴重な海外ロケ映像の大部分を再利用しているためあって、これらの以前の講義と内容が重複しています。そのために、これらの以前の講義を単位取得された方は、再履修不可となっていますので、ご注意ください。

回	テーマ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	芸術とは何か-芸術の見方・味わい方-	芸術が、好き嫌いのレベルを超えたものであり、芸術には見方・味わい方があるということを、具体的な絵画作品や音楽作品を例にとり述べて後に、原始美術からギリシア美術までを概観して、その豊かな意味を作品を前にして具体的に考察します。 【キーワード】 趣味、主観、権力、宗教、政治、神話、思想	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
2	プラトン美学-文学の深い可能性-	哲学史に名高い詩人追放論を採り上げて、プラトンがなぜあれほどまでに芸術を攻撃したのかを明らかにし、その後で、プラトンの詩的靈感論に着目して、ギリシアにおける文学の社会的地位と、プラトン美学の真の意義を明らかにします。 【キーワード】 プラトン、詩人追放論、ホメロス、靈感、アイデア、ミーメシス	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
3	アリストテレス芸術哲学-演劇の哲学的普遍性-	芸術の全てを一貫する原理論としての、アリストテレスの芸術ミーメシス哲学を考察し、その深い意義を明らかにします。その後、アリストテレスの高名な悲劇の定義を採り上げて、カタルシスなどの演劇美学概念の意味を明らかにしてゆきます。 【キーワード】 アリストテレス、ミーメシス、世界、内在、カタルシス	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ロマネスク美術-超越 のプラトン主義-	ロマネスク美術の根底に、プラトン哲学的な超越性が存在していることを、シトー派のベルナルの哲学において明らかにし、そのことをシトー派ロマネスク美術の傑作であるル・トロネやセナンクの修道院建築の現場に立って具体的に解説します。 【キーワード】 ロマネスク美術、シトー派、ベルナル、ル・トロネ、セナンク	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
5	ロマネスク美術-輪廻 転生のプラトン主義-	ロマネスク美術には、異教的・土着的・民衆的な性格も見受けられます。シトー派とは全く異なるロマネスク教会の現場に立って、そのことを具体的に解説し、あわせてその土着的な輪廻転生観がプラトン哲学にも通底していることを明らかにします。 【キーワード】 ロマネスク美術、柱頭彫刻、輪廻転生、ショーヴィニー	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
6	ゴシック美術-内在の アリストテレス主義-	ゴシック美術の根底に、アリストテレス哲学的な内在性が存在していることを、シュジェールの宣言文書において明らかにし、そのことをゴシック美術の傑作であるアミアンやサンドニの教会の現場にたつて具体的に解説します。 【キーワード】 ゴシック美術、シュジェール、ステンド・グラス、アミアン、サンドニ	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
7	イタリア・ルネサンス 美術-ルネサンスの 新プラトン主義-	フィチーノの『プラトン『饗宴』注解』を読んで、ルネサンスの新プラトン主義美学を考察し、ボッティチェリの『春』と『ヴィーナスの誕生』がその新プラトン主義美学に見事に即していることを明らかにします。また、ミケランジェロの詩並びに美術作品における新プラトン主義についても考察します。 【キーワード】 フィチーノ、新プラトン主義、ボッティチェリ、ミケランジェロ	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
8	イタリア・ルネサンス 美術-ルネサンスの 政治思想-	ドナテッロ、ヴェロッキオ、ミケランジェロの三芸術家の『ダヴィデ』像などを採り上げて、彼らの政治思想が各々の作品にどのような性格をもたらしているのかを考察します。特に、ミケランジェロの『ダヴィデ』像のもっている強い意味について明らかにします。 【キーワード】 『ダヴィデ』、ミケランジェロ、メディチ家、シニョリーア広場	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
9	北方ルネサンス美術 -宗教改革と芸術-	ルターの図像論とカールシュタットの原理主義的図像否定論を考察し、ルターの親友クラナハの描いたルター肖像画の政治的意味や、クラナハ的女性裸体像の特質を明らかにしたあと、デューラーの美学と彼の作品について、その深い意義を考えてみます。 【キーワード】 ルター、カールシュタット、クラナハ、デューラー、自然模倣	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	バロック美術-対抗宗教改革の芸術戦略-	宗教改革に対抗してカトリック教会が定めた『聖人の取り次ぎと崇敬、遺物、聖画像についての教令』を読んで、対抗宗教改革の理念を確認し、その理念の代表的実践者であるベルニーニの『聖女テレサの法悦』などの作品のもっている情動的でベル・コンポスト的な性格を明らかにします。 【キーワード】 カトリック、聖画像、ベルニーニ、情動、ベル・コンポスト	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
11	ロココ美術-デイドロ美学と市民の芸術-	史上初の本格的な美術批評家であるデイドロの美学が、近代の主観主義を超える美学であって、今日的な意義をもっている美学であることを明らかにした後、彼の批評したシャルダンやフラゴナール、更にはヴァトーやブーシェ達の美術作品のもっている意味を、作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 デイドロ、美術批評、シャルダン、フラゴナール、ヴァトー、ブーシェ	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
12	19世紀美術-革命の時代の芸術-	古典的伝統的絵画の常識を徹底的に転倒させたクールベの『石を割る人々』や『オルナンの埋葬』などの作品がもっている芸術的革命的な、彼の『画家のアトリエ』の政治的理念について、作品を前にして具体的に考えてみます。また、マネの作品の芸術上の革命的なについても、作品を前にして具体的に考察します。 【キーワード】 クールベ、主題のヒエラルキー、マネ、平面性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
13	20世紀美術-戦争の世紀の芸術-	20世紀最大のアーティストであるピカソの最も有名な作品『ゲルニカ』について、その豊かな意味を考えてみます。また、シャガールの作品が持っている、20世紀的な深い意味についても作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 ピカソ、『ゲルニカ』、シャガール	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
14	現代の芸術-死の影の下での芸術-	第二次世界大戦後のアートシーンを代表するウォーホルの芸術が、単なる表層の戯れに止まるものではなくして、現代社会における死の遍在を鋭く見据えた深い意味をもっていることを明らかにし、あわせてキーファーやアバカノヴィッチのアートの深い現代性についても考えてみます。 【キーワード】 ウォーホル、個性、オリジナリティー、死、キーファー	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
15	今日の芸術-環境問題と芸術-	今日の地球のかかえる最大の課題の一つである環境破壊問題を見据えた芸術である環境芸術を採り上げ、スミソン、タレル、ロングの芸術のもっている意味を考察します。また、社会環境にかかわる芸術としてクリストの芸術についても考えてみます。 【キーワード】 環境、スミソン、タレル、ロング、クリスト	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1114000	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本近現代史 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：小風 秀雅（お茶の水女子大学教授）〕

【担当専任教員：五味 文彦（放送大学教授）】

講義概要

幕末開港から第二次大戦後の高度成長まで、日本の近・現代史の基本的な流れを、政治・経済・国際社会の視点から、概観する。歴史事実を並べるのではなく、歴史の変化の基本線を追いながら、日本の社会がどのように変化したのか、を構造的に理解できるように構成した。

授業の目標

近・現代史の各時期の特徴を概括的に把握した上で、基本的な変化を理解しつつ、歴史がどのように推移し、現在にいたっているのか、を理解できるようにする。

履修上の留意点

各回ごとに話題が独立しているように見えるが、密接に関係しつつ講義がすすめられるので、全体の構成をみわたしつつ受講してほしい。また、日本史の関連科目もあわせて学習することを希望する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	開国と開港	幕末の開国と不平等条約の締結は、日本が国際社会に従属的に組み込まれたとされてきたが、不平等条約の機能や、維新以後の国際関係の実態をみると、植民地化の危機があったとはいいいくいく状況がみえてくる。この論点を掘り下げる。 【キーワード】 不平等条約、開港、居留地、自由貿易、植民地化の危機	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)
2	近代化の構想－大久保利通と殖産興業－	東アジアの近代化は、歴史的実態としては、自由貿易の実現による世界市場への包摂であった。日本の近代化にとって、不平等条約の改正とともに経済的自立が最大の目標であった。その実態を、大久保の殖産興業の構想とともに解明する。 【キーワード】 近代化、殖産興業、大久保利通、交通網形成、東北開発	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)
3	憲法発布と条約改正	明治憲法の制定は、近代的法治国家であることを世界に示し、不平等条約の改正を実現するきっかけとなっただけでなく、日本における近代国家の確立の起点となった。憲法制定と条約改正の歴史的意義を考える。 【キーワード】 明治憲法、条約改正、領事裁判権、井上馨、大隈重信、青木周蔵	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日清戦争とアジア	日清戦争は、世界史的には、日本の勝利と言うよりは中国の敗戦によるアジアの国際秩序の解体というようそのほうが重要であった。日清戦争によって、アジアの国際関係がどのように変化したのかを考える。 【キーワード】 下関条約、三国干渉、中国分割、日英同盟	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)
5	日露戦争前後の日本外交	幕末以来の朝鮮半島確保という「目標」のため、日本は日露戦争にふみきった。しかし、日露戦後は韓国を保護国化、さらには併合をする一方、日本外交の焦点は満州(中国東北部)の問題に移っていく。その変化を見ていく。 【キーワード】 満韓交換論、日露戦争、満州(中国東北部)、多角的同盟・協商網、韓国併合	千葉功(学習院大学教授)	千葉功(学習院大学教授)
6	「帝国」日本の植民地政策	日本は日清戦争の結果、新たに台湾を領有し、また日露戦争の結果、大韓帝国を保護国化し、さらには併合するに至った。これら新たに「植民地」となった地域の問題を、日本はどのように扱おうとしたのかを見る。 【キーワード】 台湾、朝鮮、植民地、特別統治主義、内地延長主義	千葉功(学習院大学教授)	千葉功(学習院大学教授)
7	上昇期の政党勢力と政治	帝国議会の開設以後、政党(民党)が力をまし、反政党的な藩閥政府も提携せざるを得なかった。さらに、両者が縦断して提携する政党が誕生した。この流れを、自由党—立憲政友会系と改進黨—非立憲政友会系の相克から見てみる。 【キーワード】 藩閥政府、民党、縦断政党、立憲政友会、立憲同志会	千葉功(学習院大学教授)	千葉功(学習院大学教授)
8	対中政策の破綻と国際協調の受容	第一次世界大戦中における対中外交の極端から極端へのぶれは、大戦終了とともにその破綻を明らかにしていた。大戦後の日本政府はパリ講和会議・ワシントン会議において、どのように国際協調政策を受容して行ったかを見る。 【キーワード】 反袁政策、援段政策、パリ講和会議、ワシントン会議、国際協調	千葉功(学習院大学教授)	千葉功(学習院大学教授)
9	昭和初期の経済政策論争	第一次世界大戦後の慢性的な不況に対し、政治の主役に躍り出た政党はかつてないほど、自党の政策を国民に積極的にアピールした。それが立憲政友会の産業立国論と民政党の金解禁論である。この論戦の模様を紹介し意味を考える。 【キーワード】 政党内閣 金解禁 昭和恐慌 産業立国	季武嘉也(創価大学教授)	季武嘉也(創価大学教授)
10	「満州国」	満州事変が起こり、そして1932年「満州国」が建国を宣言した。世界注視の中、日本としては立派な国家を建設することが要求され、様々な方面で新たな試みがなされた。その試みと崩壊を検証する。 【キーワード】 満州 関東軍 石原莞爾 溥儀 協和会 新京	季武嘉也(創価大学教授)	季武嘉也(創価大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	選挙粛正と翼賛選挙	1925年から選挙粛正運動が展開された。この目的は買収など選挙違反を徹底的に防止することにあったが、実際は社会のあり方や国民生活を、行政が直接に掌握しようという意図も含まれていた。翼賛選挙につながるその展開過程を探る。 【キーワード】 選挙粛正 翼賛選挙 内務省 町内会 部落会	季武嘉也(創 価大学教授)	季武嘉也(創 価大学教授)
12	近衛文麿と昭和の戦争	若き日に「英米本位の平和主義を排す」を発表して多くの期待を集めた近衛文麿はその後も順調に政治家の道を歩み、ついには1937年に首相の座につき、以後困難な外交問題に立ち向かうことになった。その彼の軌跡を紹介する。 【キーワード】 近衛文麿 大政翼賛会 近衛上奏文 終戦工作 日米交渉	季武嘉也(創 価大学教授)	季武嘉也(創 価大学教授)
13	戦後文化とメディア	戦後文化とよばれるものには、ラジオ・映画・テレビなどのメディアを通じて広まったものが多い。各メディアの特徴と展開を踏まえながら、どのような文化が形成され、受容されたかを見る。 【キーワード】 ラジオ 映画 テレビ メディア 戦後文化	加藤厚子(映 画専門大学 院大学准教 授)	加藤厚子(映 画専門大学 院大学准教 授)
14	転換点としての安保改定問題	1951年サンフランシスコ講和会議で調印された日米安全保障条約は、岸信介首相の強い希望で1960年に改定された。その際に大規模な反対運動が起こったが、改定が決定した瞬間から運動は急速に衰えた。その転換の意味を考える。 【キーワード】 日米安全保障条約 安保闘争 岸信介	季武嘉也(創 価大学教授)	季武嘉也(創 価大学教授)
15	高度成長-源流からバブル経済まで-	昭和30年に始まる日本の高度成長は、世界でも突出した経済成長であったが、その原形は第二次大戦期の統制経済にあった。日本株式会社の源流を探るとともに高度成長以後の経過についてたどる。 【キーワード】 所得倍增計画、戦時経済、高度成長、石油ショック	小風秀雅(お 茶の水女子 大学教授)	小風秀雅(お 茶の水女子 大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1114115	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 地中海世界の歴史 (’09) = (TV)
—古代から近世—

〔主任講師 (現職名) : 本村 凌二 (東京大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 高山 博 (東京大学大学院教授) 〕

【担当専任教員 : 草光 俊雄 (放送大学教授) 】

講義概要

地中海世界は、古代から現代までヨーロッパのみならず西アジア・北アフリカをその中に取込み、独自の風土と文化、歴史を築いてきた。ギリシア、ローマ、エジプトやマケドニアなどの古代文明はその後のこの地域のみならず世界の歩みの中でも特色ある文明を支えてきたし、イスラムの成立以降はヨーロッパの歴史にも複合的な性格を与えてきた。A・ピレンヌの『シャルルマーニュとマホメット』、F・ブローデルの『地中海』などが明らかにしているように、地中海の歴史は世界史にとって魅力的で豊富な歴史研究の題材を提供してくれる。この講義は、こうした地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観する。

授業の目標

第一の目標は、地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観しながら、風土や文明が歴史の中に刻まれた足跡をたどり、歴史学の魅力を学生たちに伝えることである。第二の目標は、多様な文化的背景をもつ人びとが接触・交流・衝突してきた地中海の歴史を振り返ることにより、グローバル化する現代世界の異文化共存や衝突の問題を考察するための材料を提供し、自らが生きる世界の現在と未来を把握するための視座を提供することである。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	地中海世界と文明の創造力	地中海世界は人類の文明史にとって、とてつもない意味をもっている。そこで文字が生まれ、アルファベットが開発され、一神教信仰が誕生した。その影響は現代にいたるまで地球規模の影響をあたえている。この創造力豊かな地中海世界の国家・社会・文化の底流にひそむものをさぐってみたい。 【キーワード】 地中海、島 船、都市国家、オリーブ、ワイン	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授) 高山 博 (東京大学大学院教授)
2	オリエント世界	現代人の目から見れば、文明の誕生から2千年以上の間、人々は無意識のなかで生きていたという見解がある。この時代の人々には神々の声が聞こえ、ときにはその姿を見ることができたともいう。その痕跡は今日、どのような形で残っているのか。メソポタミアの「ギルガメッシュ叙事詩」やエジプトの「死者の書」などを手掛かりに、神々の世界に生きていた人々の心性にふれてみたい。 【キーワード】 楔形文字、ジグurat、ヒエログリフ、ピラミッド、心性	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)
3	東地中海世界の激動と波及	前2千年紀後半になると、メソポタミアとエジプトの狭間にあるシリア・パレスティナ地方は大きな混乱期をむかえる。そこに生きる人々にはもはや神々の声は失われつつあったという。だが、それとともに唯一神をあがめる信仰が生まれ、少数の文字で記述するアルファベットが誕生する。このころ人類は新しい意識に目覚めつつあったと言えようか。混迷の時代を克服する形で成立した世界帝国として、アッシリアやペルシアがあった。その周辺には、一神教のユダヤ人も海洋立国のフェニキア人もポリス成立期のギリシア人もいた。 【キーワード】 アルファベット、アクエイアテン、ハビル、海の民	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)

回		内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ギリシア世界	高度なオリエント文明の辺境に生まれたポリスはやがて独自の力をもつギリシア文明を築いた。古典期のギリシア世界は世界史のなかで特異であった。このポリス社会のなかで培われた民主政と普遍的・論理的思考は周辺地域に大きな影響をおよぼすようになる、それはヘレニズムとよばれる文明の推進力であった。 【キーワード】 ポリス、民主政、アレクサンドロス、シンクレティズム	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)
5	共和政期ローマ	西地中海のイタリア半島に成立したローマはいかにして地中海世界全域に覇権を築くことができたのか。前2世紀までのローマを共和政ファシズム国家としてとらえながら、やがてまごうことなき世界帝国となっていくローマの興隆史をたどる。 【キーワード】 S・P・Q・R、「父祖の遺風」、内乱の百年、カエサル	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)
6	ローマ帝国と多神教世界	ローマ興隆史の頂点で登場するカエサルという経験を通じて、ローマ人は何を学んだのだろうか。初代皇帝アウグストゥスがもたらした国家の在り方とは？ その後、二百年以上もつづく平和と繁栄の時代は人類史にとっても前例のない体験であった。それにもかかわらず、混乱と危機は忍びよっていた。 【キーワード】 権力と権威、「パンとサーカス」、多神教世界帝国	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)
7	一神教世界帝国と古代末期	3世紀の財政危機、経済危機、政治危機が重なり、社会不安が増幅するなかで、キリスト教信仰は飛躍的な成長期をむかえる。国政の再建はやがて一神教世界帝国という人類史上の新たな局面をむかえる。それは古典古代文明の変貌でもあった。この「古代末期」という時代は20世紀末以後の現代文明と酷似した一面をもっている。その現代史の意味も考える機会にしたい。 【キーワード】 「三世紀の危機」、グローバリズム、地域分裂	本村 凌二 (東京大学名誉教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授)
8	西地中海の新たな秩序 ～古代から中世へ？～	古代から中世への移行期は今や大きく書き換えられようとしている。それは文明の没落というよりも変質であった。グローバル化と地域細分化が同時に進むなかで、この時期に向けるまなざしは多種多様である。古代史家と中世史家とのそれぞれの目に映る時代相の異同を語りあう機会にしたい。 【キーワード】 地中海世界の東部と西部、古代末期、中世初期	本村 凌二 (東京大学名誉教授) 高山 博 (東京大学大学院教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授) 高山 博 (東京大学大学院教授)
9	東地中海の覇者 ～東ローマ帝国(ビザンツ帝国)の千年～	東ローマ帝国は、西ローマ帝国と異なり、ゲルマン諸族の大移動以後も滅亡することなく、一千年ものあいだ存続した。旧西ローマ帝国領の大半を再征服して東ローマ帝国の基礎を築いたと考えられているユスティニアヌス一世とその皇妃テオドラに焦点を当てて、その理由を考察する。 【キーワード】 東ローマ帝国、ビザンツ帝国、ユスティニアヌス、ギリシア正教	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	三つの文化圏	7～8世紀にイスラーム勢力が北アフリカとスペインを支配するようになると、地中海周辺地域は、ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏が鼎立した状態となる。これら三つの文化圏はどのような違いをもっていたのか。比較して、それぞれの特徴を考える。 【キーワード】 ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)
11	ノルマン人と地中海	北フランスのノルマンディから傭兵として南イタリアへやってきたノルマン人たちは、この地に定着して自分たちの国を築き、12世紀にはノルマン・シチリア王国が成立する。イスラーム文化、ビザンツ文化、ヨーロッパ文化が並存して栄えたこの王国の特徴を考える。 【キーワード】 ヴァイキング、ノルマン人、南イタリア征服、ノルマン・シチリア王国の成立	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)
12	シチリア王国 ～文明の交差点～	中世の地中海周辺地域では異文化に属する人びとの接触は広い範囲にわたって生じていたが、恒常的な接触・交流がなされた場所として注目すべきは、異なる文化圏の境界地域、とりわけ、イベリア半島とシチリア島である。ここでは、シチリア島に焦点を当てて、その異文化交流の実態にせまりたい。 【キーワード】 シチリア島、異文化交流	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)
13	地中海における文明 の衝突 ～十字軍～	地中海における文明の衝突として多くの人びとの脳裏に最初に浮かぶのは、十字軍だろう。この十字軍の歴史のなかで、唯一戦闘を交えず、交渉によって聖地エルサレムを取り戻した十字軍がある。神聖ローマ皇帝フリードリヒ二世の十字軍である。この十字軍に焦点を当てて、「文明の衝突」を考えてみたい。 【キーワード】 十字軍、フリードリヒ二世、文明の衝突	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)
14	地中海ネットワーク	ローマ帝国が地中海に君臨していたとき、ローマ人は地中海を「われらの海」と呼んだ。実際、彼らは地中海のほぼ全域を支配下におき、地中海全体の制海権を手に入っていた。しかし、西ローマ帝国が滅びた後、地中海は複数の政治勢力が相対立する場となった。この時期、人びとや商品の移動は、どのように変化したのだろうか。 【キーワード】 交易路、交易圏、制海権、商品、商人、旅人	高山 博 (東京大学大学院教授)	高山 博 (東京大学大学院教授)
15	地中海世界の歴史	現代世界は古代史家には「古代末期」と重なり、中世史家には「中世」的なものを潜ませた世界に映るという。地中海の歴史は、現代に生きる私たちに何を語り、何を教えてくれるのか。歴史家である二人の講師が、自らの研究と体験にもとづいて、それぞれの想いを語る。 【キーワード】 グローバル化、地中海史、地中海研究、時代区分、歴史	高山 博 (東京大学大学院教授)	本村 凌二 (東京大学名誉教授) 高山 博 (東京大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目	科目 コード	1118080	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本文学概論 （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 島内裕子（放送大学教授） 〕

講義概要

1300年以上にわたる長い射程を持つ日本文学を一望のもとに把握し、日本文学生成のダイナミズムを実感するための明確な視点を提供する。文学者と作品を絞り込んで、何が日本文学を力強く推進し、変容させる原動力となったかを見極める。これにより、日本文化における文学の広汎な影響力と、文学の果たした役割の大きさが再認識できる。それが、21世紀の日本文化を考える契機となる。従って、この「日本文学概論」では、刻々と新たに生まれ出る文学作品が、誰によってどのように集約され、再生されて、現代まで読み継がれてきたのかという具体的な視点に立って、「日本文学とは何か」という文学概論を展開する。

授業の目標

第一に、日本文学の生成と展開を、トータルに把握し、日本文学の全体像を明確に理解する。第二に、各時代における日本文学の新展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して、深く理解する。第三に、日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。本学における科目群履修認証制度の「日本の文化と社会」の重要構成科目とする。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目を、合わせて受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、それらの履修をぜひとも勧めたい。具体的には、「日本文学の読み方('09)」や「和歌文学の世界('14)」などである。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接的あるいは間接的に関わるので、これらの科目を広く学ぶことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	日本文学をどう捉えるか	日本文学を概観し、文学潮流に大きな足跡を残した文学者たちに注目することの意味や、日本文学にみる生成と展開の法則性などを考える。 【キーワード】 日本文学、文学史、文学概論、法則性	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
2	紀貫之ー文化基盤としての和歌と散文	『古今和歌集』や『土佐日記』などを通して、和歌と散文の双方を日本文学の基盤に据えた、紀貫之の役割を認識する。 【キーワード】 紀貫之、『古今和歌集』、仮名序、『大堰川行幸和歌』、『土佐日記』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
3	藤原公任ー傑出したアンソロジスト	和歌、漢詩、有職故実を視野に収めた、藤原公任の文化的役割と影響力を考える。 【キーワード】 藤原公任、『和漢朗詠集』、アンソロジー、『新撰髓脳』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	清少納言と紫式部――ライバル誕生	日本文学を代表する『枕草子』と『源氏物語』という二つの傑作が、同時代に出現したことの文化的意義を把握する。 【キーワード】 清少納言、『枕草子』、紫式部、『源氏物語』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
5	藤原定家――本歌取り文化圏の成立	藤原定家が、「本歌取り」という技法によって多様な文学世界を集約することに成功し、『小倉百人一首』によって膨大な和歌の世界を集約できたことを認識する。 【キーワード】 藤原定家、本歌取り、『詠歌之大概』、『新古今和歌集』、『小倉百人一首』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
6	兼好と頓阿――散文と和歌の再構築	「誰でも書ける散文」のスタイルを提起した兼好と、「誰でも詠める和歌」のスタイルを提起した頓阿が果たした、文化的意義を対比しつつ、把握する。 【キーワード】 兼好、『徒然草』、頓阿、『草庵集』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
7	転換期の文学(1)――その継承と変容	中世後期から近世初期にかけて、激動する時代の変化の中で、文学概念が継承と変容の両面性を保持してきたことを概観する。 【キーワード】 今川了俊、正徹、三条西実隆、細川幽斎、松永貞徳、北村季吟	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
8	松尾芭蕉――生き方としての文学	芭蕉の樹立した文学世界が、後世に広く浸透したのはなぜか。芭蕉が集約した文学観に着目して、再考する。 【キーワード】 松尾芭蕉、俳諧、俳文、『笈の小文』、『おくのほそ道』、『芭蕉七部集』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
9	上田秋成と大田南畝――言葉の活用	言葉を自在に操ることができることは、文学世界に何をもたらしたのか。上田秋成と大田南畝の二人を通して考える。 【キーワード】 上田秋成、『藤簍冊子』、『春雨物語』、大田南畝、『四方のあか』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
10	香川景樹と橘守部――和歌から短歌へ	香川景樹の歌学と、橘守部の歌論書『心の種』を中心に、近代への過渡期の韻文文芸を考察する。 【キーワード】 香川景樹、桂園派、橘守部、『心の種』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
11	転換期の文学(2) — 西欧文学との葛藤	森鷗外・夏目漱石・上田敏を中心に、西欧文学との出会いが、どのような新たな文学を生み出したかを考える。 【キーワード】 森鷗外、夏目漱石、上田敏、翻訳文学	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
12	幸田露伴 — 江戸と東京	幸田露伴の膨大な作品群を、日本文学史の中で位置づけ直すために有効な視点を考察する。 【キーワード】 幸田露伴、『普通文章論』、『文章講義』、『評釈芭蕉七部集』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
13	高浜虚子 — 近代俳句の確立	近代文学の中で、「俳句」というジャンルの地位を確定するのに重要な役割を果たした高浜虚子について、考察する。 【キーワード】 高浜虚子、花鳥諷詠、有季定型、『ホトギス』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
14	永井荷風と谷崎潤一郎 — 文体の創造	永井荷風と谷崎潤一郎の二人を、「古典と近代」、文体への意識などの視点から捉え直し、位置づけ直す。 【キーワード】 永井荷風、『珊瑚集』、『麻布襦記』、谷崎潤一郎、『細雪』、『夢の浮橋』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
15	日本文学の本質	外国文学の咀嚼と選択、同時代の文学者たちとの交流、時代を超えた文学精神の継承などを通して、日本文学の本質を考える。 【キーワード】 外国文学、移入と浸透、相互補完性、日本文学	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1114808	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 日本の近代文学 (' 0 9) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 島内 裕子 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 安藤 宏 (東京大学大学院教授) 〕

講義概要

明治から第二次大戦後までの日本の近代文学の流れを解説する。ただし必ずしも文学史の概説を目ざすのではなく、毎回、個別のテーマを設定し、具体的な文学表現を読み解きながら表現と時代との相互関係を考察していく。近代文学に関する主要な作家・作品の解説を適宜織り込んでいくが、その際、ジャンルを別々のものとして捉えるのではなく、社会状況、美術などとの関わりを視野に入れながら、総合的に「近代」という時代の特色を明らかにしていく。

授業の目標

①近代文学に関する基礎的な知識を習得する。②その際に個々の具体的な作品に触れ、表現に即した解釈を試みる。③具体的な表現の喚起する問題から、時代が共通して抱えていた課題へと問題意識を広げていく。④その際に小説・詩歌・戯曲など、従来個別に考えられていたジャンルが、互いに浸透し合う様相を理解する。⑤あわせて、「文学」の果たした役割を、近代という時代そのもののなかで捉え直してみる。⑥授業でとりあげた作品に実際に触れ、読書の幅を広げていく。

履修上の留意点

他の日本文学の科目も履修すると、幅広く学ぶことができる。なお、これらの科目の履修順序は特に定めていないので、まずは興味のある科目から順次履修するとよい。

日本文学全般にかかわる科目として、「日本文学概論('12)」。日本文学の名文・名場面を中心に学ぶ科目として、「日本文学の読み方('09)」。個別に日本文学を詳しく学ぶ科目として、「和歌文学の世界('14)」がある。

その他に、近代日本の歴史や社会を学ぶ科目なども、履修が望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	「小説」というジャンル	日本の近代小説の概要を、授業方針と共に概説する。その上で、明治期の戯作、西洋の翻訳小説などの流れをたどりながら、近代小説がどのような可能性を取捨選択しながら成立していったのかを考察する。 【キーワード】 坪内逍遙、『小説神髓』、森鷗外、没理想論争、二葉亭四迷、言文一致	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)
2	文学と「国家」	西洋列強に追従・対抗すべく、近代日本は国民国家の建設を急いだ。その弊害・歪みや、拡大する国家権力の危険性などの問題を視野に置き、近代国家の形成と文学との関係を具体的に考察する。 【キーワード】 政治小説、文学改良、社会主義、反近代、近代の超克	猪狩友一(白百合女子大学教授)	猪狩友一(白百合女子大学教授)
3	物語と小説のはざま	当該の時期に規範的な意味を持ち得ていた硯友社の小説の方法や文体、内容の特徴と限界を明らかにし、『舞姫』など同時代小説の比較を試みる。さらに日清戦後の変化を踏まえた史的展望を試みる。 【キーワード】 物語、写実、雅俗折衷体、趣向、民間伝承、観念小説	林廣親(成蹊大学教授)	林廣親(成蹊大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	女性による文学表現	長らく表舞台から姿を消していた女性の表現者たちが、男女同権が提唱された明治期に華々しく復活し、女性解放の流れとともに多彩な活躍を始める様相を、その歴史的背景とともに考察する。 【キーワード】 男女同権、短歌革新、『明星』、『青鞥』、新しい女	猪狩友一(白百合女子大学教授)	猪狩友一(白百合女子大学教授)
5	批評の近代	主として上田敏と岩野泡鳴を取り上げて、近代批評を概観する。その際に、西洋文化の受容としての翻訳と、それが近代の文学創造に果たした役割を考えたい。 【キーワード】 批評、翻訳、『海潮音』、『表象派の文学運動』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
6	〈美術〉と文学	明治初期、西洋から芸術概念が輸入され、〈美術〉という翻訳語が誕生した。絵画・彫刻・音楽等とともに〈美術〉として一括されることで、詩歌や小説に写生などの新しい表現意識が生まれていく過程を考察する。 【キーワード】 美術(芸術)、写実主義、浪漫主義、俳句革新、写生文	猪狩友一(白百合女子大学教授)	猪狩友一(白百合女子大学教授)
7	「明治」から「大正」へ	明治末は小説をめぐる意識が大きく変化し、現代と基本的に地続きの表現の地平が開かれた時代と見ることができる。鷗外や漱石の小説観や作品を視野に入れながら、新世代を象徴する白樺派の小説のありようを明らかにする。 【キーワード】 ゾライズム、美的生活論、自然主義、現実暴露の悲哀、白樺派	林廣親(成蹊大学教授)	林廣親(成蹊大学教授)
8	文壇と私小説	自然主義・反自然主義が対立する中で、「文壇」の存在が小説家たちにどのように意識され、またそれが創作にどのように影響していたのかを、特に日本独特の小説形態であるとも言われる「私小説」の問題として考察する。 【キーワード】 志賀直哉、私小説、自然主義、文壇	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)
9	近代詩の苦闘	西洋詩を範とした新体詩の提唱から近代詩の歩みは始まった。和歌・俳諧などの伝統詩歌も巻き込みながら展開した近代詩の歩みを概観するとともに、近代詩のもたらした「詩」とは何かという問題についても考える。 【キーワード】 新体詩、文語定型詩、象徴主義、口語自由詩、自由律、新傾向俳句	猪狩友一(白百合女子大学教授)	猪狩友一(白百合女子大学教授)
10	大正戯曲時代と小説表現	大正期には多くの小説家が戯曲を試みている。この流行は何によって促された現象なのか。谷崎、芥川、菊池寛、山本有三など『新思潮』から出発した作家を中心にこの問題を考え、小説表現への影響を論じる。 【キーワード】 近代劇、自由劇場、一幕物、菊五郎・吉右衛門、築地小劇場	猪狩友一(白百合女子大学教授)	猪狩友一(白百合女子大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	「大衆」と文学	大衆性という問題を文学史の視野に取り込むことを試みる。明治末に出現した新歌舞伎の表現を考察の契機として、演劇を主軸に大衆的なものに対する要求の流れと、それに応じて出現した表現の広がりを考察する。 【キーワード】 講談、落語、旧劇、大衆文学、探偵小説、通俗小説	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)
12	第一次大戦後の文学思潮	第一次大戦後の欧州の前衛芸術の流入と関東大震災の影響などから、文学状況が大きく変貌していく過程を考察する。大正期教養主義的な「人格」概念が崩壊し、文学概念が大きく変質していく様相に着目する。 【キーワード】 大正期教養主義、心境小説、新感覚派、ダダイズム、モダニズム	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)
13	文学と政治	現実の政治的要請の中で、近代文学がどのような苦闘を経てきたのかについて、プロレタリア文学の勃興、転向文学、戦中の国策文学、戦後の「政治と文学」論争などの経緯を明らかにしていく。 【キーワード】 プロレタリア文学、文芸戦線、戦旗、マルクス主義、転向文学、「政治と文学」論争	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)
14	批評の成熟	大正から昭和にいたる時代の流れの中で、批評がどのように成熟していったかを、小林秀雄・河上徹太郎・吉田健一を中心に概観する。吉田健一に底流する上田敏以来の批評意識の系譜を浮かび上がらせ、批評のゆくえについて展望する。 【キーワード】 小林秀雄、吉田健一、文学座談会、『批評』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
15	近代小説のゆくえ	「小説」というジャンルが表現方法としてどのような課題を抱えてきたのかを総括的に考察する。「描写」的性格と、「語り」の要素とがどのように対立し、妥協してきたのかを、志賀直哉と太宰治の文体を例に考察する。 【キーワード】 描写、自意識過剰の饒舌体、新劇作派、太宰治、高見順	安藤宏(東京大学大学院教授)	安藤宏(東京大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1117610	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 言葉と発想 (' 1 1) = (R)

[主任講師 (現職名) : 伊藤 笏康 (聖徳大学教授)]

講義概要

言葉の使い方をまとめたのが「文法」だ。しかし不思議なことに、国文法はネイティブであるわれわれによく分からず、英文法は必ずしもわれわれが英語を学習する助けになっていない。なぜそんなことが起きるのかという問題を出発点にして、「言葉を理解するとはどういうことか」を考えてみようと思う。

具体的には、「ものごとを指し示す言葉」「動作や状態を表す言葉」「話し手の気持ちを表す言葉」の三つの視点から、英語の発想が日本語とどのように違うかを明らかにし、「言葉によって世界の見方がどれほど違ってくるか」を考える契機を提供する。

授業の目標

言葉を用いて何かについて何かを言い表す、とはどういう行為なのだろうか？ この疑問は言葉の本質に関わる大きな問題であると言える。私たちは日常的に使っている日本語を知らず知らずモデルにして、英語も同じように物事を表現していると思っている。だから「訳し方が分かれば英語は分かる」という考えがはびこっている。だが本当にそうだろうか。それぞれの言葉にはそれぞれ表現のシステムがあるのだ。学生の皆さんがそれについて考え、「言葉が違えば世界が違う」ことに気づいてもらうのが本講義の目標である。

履修上の留意点

履修制限等は特には設けないが、受講者が日本語を母語とし、中学校程度の英語の基礎を身に付けていることを前提として講義を進める。

英語・日本語の文法事項の正確な理解が目的なのではなく、事例を通して言葉の持つ性質やその根本に目を向け考えてみる姿勢を持つことが目的であると考えて履修して欲しい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	言葉を見つめる目	言葉が分かるようになるとは、どのようなことだろう。それを考えるために、私たちが中学からずっと学んでいる英語を題材にして考えてみよう。しかしその前に本章では、現代の英語が私たちのイメージとずいぶんちがったものになっていることを指摘しよう。本章では、「国際語」「現地語」「仕事語」「生活語」など、さまざまな英語を紹介し、「言葉が分かる」ということにもいろいろな意味があることを、例を上げて解説する。 そして本講義全体の構成や進め方を概説し、本講義で「何を学んでほしいか」を示す。 【キーワード】 言葉、言語、言語学	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
2	英語をどうやって理解するか	英語を分かろうとする努力は、中学や高校を通じて皆してきたはずだ。しかしなぜ英語は「イマイチ」分からないのだろう。日本語で生活してきたわれわれが、今さら英語漬けで暮らすのは無理だ。そんなときにしばしば期待されるのが、1つはネイティブによる授業であり、もう1つが文法の訓練だ。しかしこれらはけっして、英語教育の切り札にはならない。それがなぜかを考えながら、英語が分かるようになるために真に必要なものは何かを考える。そして、英語の「発想」を知ることの重要性を指摘する。 【キーワード】 文法、技術の習得、科学と技能	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	‘cat’=「ネコ」でよいのか — 英語の名詞は日本語とまったく違う —	私たちが英語を学ぶ時、まず最初にするのは名詞を覚えることだろう。しかし英語の ‘cat’ は、本当に日本語の「ネコ」と同じことを意味しているのだろうか。というのは、英語の ‘cat’ という形はほとんど使われないからだ。普通使われるのは ‘a cat’, ‘the cat’, ‘cats’, ‘the cats’ などの形で、‘cat’ という「裸の単数形」はめったに使用されない。すると私たちが「ネコ」の意味だと思っている ‘cat’ は何を意味しているのだろうか。その問題を考えてゆく過程で、英語の普通名詞は「概念」を意味していることが分かる。 【キーワード】 名詞、概念、個体、内包、外延	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
4	普通名詞と固有名詞 — 日本語の普通名詞の便利さ —	日本語の普通名詞「ネコ」は、目の前のネコ個体も指せるし、ネコ概念も指せる。ところが、英語の普通名詞 ‘cat’ は概念を指すだけで、個体の cat を指すことはできない。名詞で個体を指せないと、日常生活はきわめて不便になってしまう。だから何とかして個体を指す名詞を手に入れないといけない。では ‘cat’ という普通名詞の代わりに、それぞれの猫の固有名を使ったらどうだろう。このような問題提起のもとに、普通名詞と固有名詞の違いを調べてみる。 【キーワード】 普通名詞、固有名詞、個体の指示	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
5	‘a’ を生み出す発想	日常生活の場面で、個体を指すのに便利なのはやはり普通名詞だ。しかし英語の普通名詞は、そのままの形では概念を指してしまうから、個体を指すことができない。ではどのようにしたら、英語の普通名詞で個体を指すことができるだろう。そこで考え出されたのが「冠詞」を使う方法だ。では冠詞は、どのようにして概念しか指せない普通名詞を個体も指せるようにしているのか。冠詞の根底にある発想と、英語にとって冠詞が必要な理由を調べ、不定冠詞 ‘a’ の基本的な働きを明らかにする。 【キーワード】 外延集合、決定詞、不定冠詞	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
6	‘a’ の意味・‘a’ の仲間	辞書には、不定冠詞の訳語が多く載せられている。しかし不定冠詞の発想を知れば、その訳語もわずかな種類に整理できることを指摘する。そして ‘cats’ のような「裸の複数形」がどのような発想をもとにした表現か、またその日本語訳はどのようにするのがよいかを調べる。また、私たち日本語人にとってよくわからない、‘some’, ‘any’ という語の発想を調べ、それらの意味の差を明らかにした上で、不定冠詞と ‘some’, ‘any’ のかわり、そしてそれらの区別を述べる。 【キーワード】 不定冠詞の意味、複数形の意味、‘one’, ‘some’, ‘any’ の意味	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
7	‘the’ のはたらきと意味	日本語に直すと、「その」となってしまう英語にはいくつかある。‘that’, ‘the’, ‘its’ などだ。しかしこれらの言葉は、根本の発想がまったく違う。本章では、これらの言葉を比較しながら定冠詞 ‘the’ の意味を調べてゆく。そして辞書に数多く載っている ‘the’ の意味も、その基本的な発想を押さえればずいぶん少ない類型に整理できることを示し、かつ不定冠詞 ‘a’ と定冠詞 ‘the’ がきわめて対照的なはたらきをもつことを述べる。文法書で言う、「the の特別用法」も何ら特別でないことが分かるだろう。 【キーワード】 指示代名詞、人称代名詞、定冠詞、定冠詞の基本的意味	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	進行形は「している」 でよいか	本章から、英語の動詞を考察することしよう。そのために先ず、ヨーロッパ語の「ご先祖様」のラテン語の動詞を説明する。そして日本の英語教育では、単純形を「～する」、進行形を「～している」、完了形を「～してしまった」と訳しているが、これが誤りであることを指摘する。なぜなら英語の単純形・進行形・完了形は、日本語の訳語にならない発想を下敷きにしているからだ。その発想を明らかにするため、本章では英語の進行形の根本的な発想を見ることにしたい。 【キーワード】 状態動詞と動作動詞、進行形の意味、作業グラフ	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
9	単純形のほんとうの 意味	単純形の動詞は、私たちが最初に習う動詞の形だ。しかしこの単純形の本当の意味を、「～する」という日本語で理解しているとしたら、英語の真意はまったく伝わっていないと言ってよかろう。動詞の単純形の訳し方は複雑だ。そのためにまず、状態動詞と動作動詞の区別を導入する。これらの動詞は、文法がまったく違っているからだ。その上で、英語動詞の単純形の発想を述べる。そしてその訳語は、学校文法で習ったものとはまったくちがうはずだ。 【キーワード】 状態動詞、動作動詞、単純形の意味	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
10	完了形は「してしまった」 でよいか	現在完了の意味を考える。私たちは完了形の意味を「してしまった」と教えられることが多い。しかし英語の現在完了は、こんな意味とは程遠い。しかも私たち日本語人は現在完了を分かりにくいと思っているが、じつは私たちが本当に分かっていないのは英語の過去形なのだ。そのことを念頭に置くと、英語の現在完了が何を言いたいか、つまり「現在完了の発想」は次第に明らかになってくる。完了形はヨーロッパの各言語で意味が微妙にちがう。英語独特の「完了の発想」を調べてみる。 【キーワード】 単純過去形、現在完了形、現在進行形	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
11	行動をまるごとおさえる － アオリスト －	これまで調べた単純形・進行形・完了形は、動作や状態がどのような段階にあるかを述べるものだった。しかしこのほかに、ヨーロッパ語の動詞には状態や動作の段階を無視して、状態や動作全体を俯瞰する「アオリスト」という見方がある。これは英語にも受け継がれていて、とくに過去形や未来形では重要な役割を果たしている。しかし英文法の本でこのことに触れているものは少ない。本章では、このアオリストの見方を英語の基本的な発想の1つとして調べてみよう。 【キーワード】 アオリスト、単純過去、永遠の真理、遂行動詞、現在完了の経験用法	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
12	話法の助動詞の発 想	私たちが中学校で習う‘can’, ‘may’, ‘must’, ‘should’, これらは「話法の助動詞」と言われている。しかし「話法」って何だろう。実はこれらの語は、ヨーロッパ語の文法で特別な位置を占める言葉なのだ。しかも私たちが考えているのとはまったくちがって、話し手の意見や、許諾や、命令を意味する、きわめて主観的な言葉なのだ。中学や高校では教えてもらえない、これらの助動詞の発想を明らかにしてみよう。これらの言葉を不用意に使うことがいかに「こわい」か分かるだろう。 【キーワード】 話法の助動詞、接続法	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
13	仮定法の発想	中学や高校で習って、今ひとつ分からないのが「仮定法」だ。「もし〜だったら、〜だろうに」などという訳文を習っても、その真意はピンと来なかった。それもそのはずで、仮定法はもともと客観的な事実を述べるためのものではない。だから12章に述べた、話法の助動詞と同じく、話し手が自分の意見や気持ちや態度を表現するためのものなのだ。この根本的な発想を押さえてしまえば、バラエティゆたかな仮定法をすっきりと見渡せるようになるだろう。 【キーワード】 仮定法、仮定法過去、話法の助動詞、個人的な態度	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
14	修飾語の発想	どんな言葉でも、語を組み合わせで「句」を作り、句の並びで「文」を作るという仕方は変わらない。日本語ではこの「語→句→文」の作り方はとても複雑だが、ヨーロッパ語にはとても簡単な規則がある。その代表が修飾だ。ヨーロッパ言語における修飾は、きわめて単純明快な規則を持っており、ネイティブもそれを体で分かっている。しかしその規則は、日本の英語教育で表立って教えられないことはない。このさい、ヨーロッパ語における修飾の感覚を身に付けてしまおう。 【キーワード】 修飾、名詞、動詞、形容詞、副詞、句の形成	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左
15	SVOCの発想とその限界	本講義の最後に、「英語ネイティブが体で知っていること」と「文法学者が作った理論」はちがうことを述べておこう。私たちが学校文法で習うSVOC理論は、じつはネイティブの大半が知らないことなのだ。にもかかわらず、中学や高校でこれが分からないために英語がいやになる生徒も多い。だがその発想はつまらないほど単純だ。だから最後に、ネイティブの発想ではなく、「文法学者の発想」を話題にしておこう。これは、「文法なんて難しく見えても、その発想を押さえれば簡単だ」というメッセージだ。 【キーワード】 主語、目的語、補語、5文型	伊藤笏康 (聖徳大学・教授)	同左

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目	科目 コード	1118099	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ グローバル化時代の人文地理学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 小林 茂（大阪大学・名誉教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院・准教授） 〕

【本学担当専任教員： 内堀 基光（放送大学・教授） 〕

講義概要

グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、グローバル化にともなう変動とそれに対するアプローチの視角を、今日の世界や日本の多彩な問題を例に、わかりやすく解説する。導入部分につづいて、まず環境や景観に関連するテーマをとりあげ、さらに都市と空間へのアプローチへと進む。その際、環境問題や情報化、福祉、ジェンダーといった現代的課題にも言及する。また多くの回で、近年急速に発展してきたGIS（地理情報システム）の考え方や応用例を紹介し、その現代社会における可能性を示す。

授業の目標

現代の人文地理学の理解に必要な知識を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的枠組みや手法について概観をえる。またこれらの理解の上に、現代的問題へのアプローチの方法に接することもめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。

履修上の留意点

「ひと学への招待('12)」、「現代都市とコミュニティー('10)」、「環境と社会('09)」も受講することが望ましい。「社会調査('09)」も合わせて履修するとよい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	グローバル化と人文地理学 —人文地理学とはどんな学問か—	グローバル化時代の今日、世界で大きな変動が起こっている。人文地理学の立場から、この変動にどうアプローチするか解説する。とくに「時間と空間の圧縮」といわれる人・物・資本・情報の移動の増大と高速化が、どのように私たちの生活を変化させるか検討する。 【キーワード】 グローバル化、時間と空間の圧縮、空間的制約、インフルエンス、拡散	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)
2	地理情報の整備と社会	人文地理学研究の基礎である地図は、古くから人間のコミュニケーション手段として意義をもち、今日のデジタル地図にいたるまで、精度を向上させながら整備されてきた。三角測量を主体とする近代地図以降のその発展と社会との関係を考える。 【キーワード】 地図、空中写真、衛星画像、測量技術、地図作製機関	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)
3	GIS革命と地理情報科学	1980年代後半に始まったGIS（地理情報システム）革命は、紙地図からデジタル地図へという変化にとどまらず、地理情報科学を展開させた。この進展を紹介し、GISとは何か、そして、それを支える空間的思考とは何かを解説する。また、新しいGISの展開としてインターネットGISなどについても言及する。 【キーワード】 GIS（地理情報システム）、地理情報科学、空間的思考、インターネットGIS	矢野桂司 (立命館大学・教授)	矢野桂司 (立命館大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	フィールドワークとGIS —環境研究へのアプローチ—	アフリカの焼畑を事例として、野外調査にGISを活用する方法を紹介し、地形図・空中写真・衛星画像などを用いた集落立地や植生の変遷の把握、時空間データへの定量的アプローチの有効性を示す。 【キーワード】 アフリカ、焼畑、森林、集落立地、土地被覆、環境動態	佐藤廉也 (九州大学大学院・准教授)	佐藤廉也 (九州大学大学院・准教授)
5	日本の森林とグローバル化	グローバル化と環境との関係は一般に直結するものではないと考えられているが、日本の森林の変化と海外からのさまざまな資源の輸入との関係を検討すると、両者が密接に関連していることがわかる。ここ100年間の両者の関係を追いながら、グローバル化とともに起こる環境変化について考える。 【キーワード】 里山、肥料、エネルギー、木材、土地利用変化	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)
6	グローバル化と環境問題 —黄土高原の退耕還林—	生態系回復をめざす中国の巨大なプロジェクトである退耕還林政策を例に、村落から国家、国際関係にいたるマルチスケールな観点から環境問題への取り組みの現状と問題点を理解する。 【キーワード】 中国、森林政策、造林、農村の変容、木材貿易	佐藤廉也 (九州大学大学院・准教授)	佐藤廉也 (九州大学大学院・准教授)
7	グローバル化と世界の森林	世界の森林の現状を把握するには、まだ不確定なことが多いことにくわえて、林産物の国際的移動が、世界各地の森林の動向に大きく関与していることを理解し、さらに森林に関する価値観の変化が進行していることを紹介する。 【キーワード】 森林資源評価、森林転換、木材貿易、植林、外来種	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)	小林 茂 (大阪大学・名誉教授)
8	グローバル化と人口移動	人文地理学では、個人の居住地選択のようなミクロな視点と、国内や国家間の人口移動といったマクロな視点から分析が行われてきた。日本全体や東京での外国人居住と、代表的な世界都市ロンドンでのマイノリティ・コミュニティや日本人居住をグローバルな視点から考える。 【キーワード】 国内人口移動、マイノリティ・コミュニティ、外国人居住、集住地区	矢野桂司 (立命館大学・教授)	矢野桂司 (立命館大学・教授)
9	都市システムと世界都市論	都市システムとは何かを考えながら、国際的な世界都市の特徴と、都市間の結合関係から世界都市システムをとらえる。世界都市論を紹介しながら、世界都市から、グローバルな経済システムの上に成り立ったグローバル都市への形成・変容について述べる。 【キーワード】 世界都市、グローバル都市、都市システム、グローバル化	矢野桂司 (立命館大学・教授)	矢野桂司 (立命館大学・教授)
10	都市の発展と都心空間の変容	都市は20世紀に入り飛躍的に発展した。しかし、発展のなかにも社会経済の変動や災害などのイベントの影響を受けて、都市には成長と衰退のダイナミクスがみられる。先進諸国の大都市を取り上げ、都心空間の変容に注目しながら都市発展の過程を説明する。 【キーワード】 都市の発展段階、都心空間、インナーシティ問題、都心再開発、災害リスク	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	情報化と現代空間	現代の高度に発達した情報通信手段は、私たちの生活のみならず経済活動や社会の仕組みに大きな影響を与えている。情報化がグローバル化の過程を通じて現代社会の空間編成に及ぼす影響について、産業の立地や都市空間の監視をテーマに取り上げて論じる。 【キーワード】 情報化、空間的分業、情報サービス業、電子監視システム、監視空間	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)
12	生活空間と福祉	人文地理学では福祉を考えるにあたり生活空間に注目する。グローバル化の圧力を受けて変化する現代社会の福祉を生活者視点で考えるためには人文地理学の視点や手法の援用が有効なことを具体例に基づいて説明する。 【キーワード】 福祉、生活空間、福祉国家、福祉サービス、バリアフリー	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)
13	ジェンダーと都市空間	社会的・文化的な性としてのジェンダーは、人文地理学が対象とする諸現象の理解においても重要である。都市空間におけるジェンダーのテーマとして女性の日常生活、仕事と子育ての両立、ライフスタイルの選択と居住地決定の関係について考える。 【キーワード】 ジェンダー、時間地理学、仕事と子育ての両立、居住地選択、都市空間	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)
14	都市郊外にみる現代社会の課題	経済成長とともに成長した郊外は、現在さまざまな問題を抱えている。郊外の発展を経済・社会の文脈と関連づけて説明するとともに、その変容過程からみえてくる現代社会の課題を論じる。これにより、人文地理学が高い社会性をもった学問分野であることを示す。 【キーワード】 郊外、都市空間、市民活動、ガバナンス、社会－空間弁証法	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学大学院・准教授)
15	人文地理学の発展とGIS	GISは、(電子)地図情報に関心を持つさまざまな学問分野の研究成果が融合してできあがっている。地理学からの貢献は、地理学固有の考え方や分析方法を顧みることによってあきらかになるであろう。それはGISを地理学史の中に位置づけるところみでもある。 【キーワード】 地理学史、立地分析、地図の重ね合わせ(オーバーレイ)、コンピュータマッピング、地図変換、計量革命	杉浦芳夫 (首都大学東京・教授)	杉浦芳夫 (首都大学東京・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (人文系)	科目 コード	1117815	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 博物館概論 (' 1 1) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 吉田 憲司 (国立民族学博物館教授) 〕

【本学担当専任教員 : 稲村 哲也 (放送大学教授) 】

講義概要

博物館は、単なる過去の遺物の貯蔵庫ではなく、過去と現在の知識と記憶を次代につなげ、未来を作り上げる装置でもある。社会と文化を構築する装置としての博物館の成り立ちとその問題点を検証したうえで、広く国内外に目をむけて現代における博物館の多様な活動のありかたを実践に即した形で把握し、さらにその将来に向けた可能性を展望する。

授業の目標

博物館は、学術研究の成果を広く社会と共有し、新たな社会を築きあげていくうえで、その最前線に位置する装置である。この授業は、博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を、理論、倫理、実践の各分野にわたって総合的に習得することを目標とする。博物館における営みの細部が、博物館の使命と可能性に直接結びついていることを具体例に即して示し、将来博物館の実務に従事する者には誇りをもってその作業に携わることのできる基礎が体得できることを、また知的関心から博物館を学ぼうとする者にはその現代文明における意義が簡明に理解できることをめざす。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	博物館・入門	日本の博物館関係法令について詳論し、それらの法令に基づく「博物館」の定義や、制度、分類、学芸員資格等を確認するとともに、その現在のありかたについて、国際的な視野から位置づけをおこなう。 【キーワード】 博物館法、ICOM(国際博物館会議)、学芸員(キュレーター)、倫理規定	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
2	博物館の歴史	諸外国ならびに日本の博物館の歴史と現状について論じる。具体的には、17世紀ヨーロッパの驚異の部屋から、公共博物館・美術館の成立、さらには近・現代の博物館・美術館の展開まで、世界と日本におけるミュージアムの歴史と現状を概観し、博物館・美術館におけるわたしたちの「経験」の成り立ちを考える。 【キーワード】 驚異の部屋、博物館、大英博物館、ルーヴル美術館、民族学博物館、近代美術館	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
3	博物館における収集	収集は、博物館にとってもっとも基礎的な作業である。と同時に、その行為は世界の切り取りに他ならない。したがってそこには、限界がともなうと同時に、倫理的な問題もまた常につきまとう。欧米と日本におけるコレクターとそのコレクションを点検するとともに、倫理的な視点から、コレクションの収集・返還の問題を検証し、さらには無形の文化遺産の収集方法としての映像記録の在り方を検討する。 【キーワード】 コレクション、権力、先住民族、収集のガイドライン、映像記録、資料の返還	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授) 久保正敏(国立民族学博物館教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	博物館における展示 Ⅰ—文化の表象の現在	現在、世界各地の博物館・美術館のあいだでは、従来の展示に潜む既成の価値観に縛られた表象の図式を掘り起こす作業が積極的に進められている。そして、その成果をふまえて新たな表象の様式を模索する試みも展開されつつある。それら、近年の取り組みを概観し、博物館・美術館展示の新たな可能性をさぐる。 【キーワード】 異文化、自文化、表象、モダニズム、共同作業	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
5	博物館における展示 Ⅱ—展示の技法	博物館や美術館は、単にものやそれにかかわる情報の保存・伝達の装置というだけでなく、新たな意味・情報を創出する装置でもある。そして、その意味の創出の最前線にあるのが、展示という行為にほかならない。ここでは、展示という営みのもつ、このような性格に配慮しながら、具体的な展示の技法について検討する。 【キーワード】 視線、動線、ハンズ・オン、ジオラマ、ホワイト・キューブコ、ユニバーサル・デザイン	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
6	博物館資料の整理と情報化	博物館は、モノとそれを取り巻く情報の集積庫である。博物館における情報をいかに蓄積し、整理し、発信に備えるか。データベースの実際を把握し、その今後の展開の指針を提示にする。 【キーワード】 データベース、アーカイヴズ、情報リテラシー、知的財産と倫理	久保正敏(国立民族学博物館教授)	久保正敏(国立民族学博物館教授) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
7	博物館資料の保存と活用Ⅰ—保存環境とIPM	貴重な資料・作品を次代に伝えることは、博物館の中核的使命である。そこには、保存と活用という、一見相反するかに見える作業の両立が求められる。保存科学の視点から、活用を前提にした資料の保存の実際を紹介する。 【キーワード】 保存環境、IPM(総合的有害生物管理)、修復	園田直子(国立民族学博物館教授)	園田直子(国立民族学博物館教授) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
8	博物館資料の保存と活用Ⅱ—取り扱い、収蔵と梱包	活用を前提にした保存のあり方を、取り扱いの基本とともに、収納、梱包の面から検討する。博物館・美術館における収蔵施設の現状を把握するとともに、日常的な資料管理から文化財輸送の現場まで点検し、そこに通底する技術と理念を明らかにする。 【キーワード】 資料の取り扱い、収蔵、点検、梱包、輸送	園田直子(国立民族学博物館教授)	園田直子(国立民族学博物館教授) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
9	博物館における教育 Ⅰ—学校教育との連携	博物館は、教育施設としての機能も備えている。博物館と学校教育の連携の現状と課題を、国内外の事例に基づきながら検討する。 【キーワード】 社会連係、学校教育、アウトリーチ、子供博物館	布谷知夫(三重県立博物館館長) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)	布谷知夫(三重県立博物館館長) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
10	博物館における教育 Ⅱ—生涯教育の展開	博物館は、学校教育ばかりでなく、生涯学習の機関としての重要性をますます高めている。子供博物館に始まり、年齢・興味の異なる多様な利用者の参加をもとに作り上げる博物館のありかたを考える。 【キーワード】 体験型博物館、参加型調査、ボランティア活動、ユニバーサルデザイン	布谷知夫(三重県立博物館館長)	布谷知夫(三重県立博物館館長) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	地域コミュニティと博物館	地域コミュニティに根差した活動を展開することにより、博物館は、その地域の人びとの誇りやアイデンティティの核となり、地域の活力の源泉となっていく。先駆的な活動例の紹介を通じて、博物館の可能性を再考する。 【キーワード】 地域コミュニティ、アイデンティティ、ローカル・ミュージアム、エコ・ミュージアム	布谷知夫(三重県立博物館館長) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)	布谷知夫(三重県立博物館館長) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
12	文化遺産と博物館	博物館は、有形の文化遺産の貯蔵庫であるばかりでなく、無形の文化遺産の集積と継承の装置でもある。UNESCOによる世界文化遺産指定の光と影が明らかになってきた今日、文化遺産の創造的継承の装置としての博物館の使命と課題を考える。 【キーワード】 世界遺産、有形文化遺産、無形文化遺産、UNESCO、伝統	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
13	記憶と博物館	歴史的な記憶をいかに次の世代に語り伝えるか、個人の記憶と集団の歴史認識とをいかに調停するのか。博物館は、こうした歴史記憶の伝承の装置としても重要な役割を担っている。国内外の事例の検討を通じて、歴史、記憶と博物館の新たな関係を考える。 【キーワード】 歴史、記憶、想起、伝承	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司(国立民族学博物館教授)
14	デジタル技術とミュージアム	デジタル技術の発展は、博物館における観覧車の経験のあり方に、新たな次元を付け加えつつある。「モノ」の集積に第一義的な価値を置く博物館が、デジタル技術をいかに取り込み、展開しうるのか。先導的な事例の検証をもとに、デジタル・ミュージアムの未来像を展望する。 【キーワード】 デジタル・ミュージアム、バーチャル・ミュージアム	久保正敏(国立民族学博物館教授)	久保正敏(国立民族学博物館教授) 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
15	フォーラムとしてのミュージアム—新たな時代の博物館にむけて	新たな時代の博物館像は、収集や展示の担い手である博物館関係者と、それら収集・展示の対象になっている文化の担い手、そしてその博物館の利用者という三者の出会いと相互啓発の場、すなわちフォーラムとしてのミュージアムに求められよう。博物館の現在を総括するとともに、フォーラムとしてのミュージアムに向けた具体的指針を提示する。 【キーワード】 フォーラム、出会い、対話、国際協力	吉田憲司(国立民族学博物館教授)	吉田憲司 久保正敏 園田直子(ともに国立民族学博物館教授) 布谷知夫(三重県立博物館館長)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128230	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 生活経済学 (' 1 2) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 大藪千穂(岐阜大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 奈良由美子(放送大学教授) 〕

講義概要

生活をしていくには、生まれてから死ぬまで、また死んでからもある程度のお金がかかる。国全体の経済学については学ぶことが多いが、個人の生活の経済については、これまで個人的なものとして、あまり学ぶことがなかった。しかし、人生にかかるお金と生活について学ぶことは、各人が生活をおくっていくにあたって極めて重要である。本講義では、生活経済の歴史、家計収支論、それぞれの世帯の家計、そして持続可能な社会のための生活のあり方について学び、自主的に生活を創造する知識を提供する。

授業の目標

人間が生活をするのに、どのライフステージでどれほどの費用がかかり、どのような計画をたてる必要があるかを受講生が自ら考え、実践できるための、知識の提供を行うことを目的としている。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生活経済の歴史	生活経済がどのような歴史的変化を遂げてきたのかを、古代社会、封建社会、近代社会、現代社会ごとに図で示し、理解する。また、生活(家計)と企業がいかに分離してきたかを学ぶ。 【キーワード】 古代社会、封建社会、近代社会、現代社会、家計、企業	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
2	戦後の経済変化と生活	第二次世界大戦後から現代までの経済の変化とそれに伴って、生活はどのような変化をしてきたかを、第二次世界大戦直後、高度経済成長期、バブル期、平成不況に分けて解説する。 【キーワード】 戦後、高度経済成長、バブル経済、平成不況、格差社会	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
3	海外の家計研究の歴史	家計研究で現在でも誰もが知っているのがエンゲル係数のエンゲルであるが、エンゲルが出てくるまでも、家計研究は進んでいた。海外における家計研究の歴史を、エンゲル以前、エンゲル、エンゲル以後に分けて解説する。 【キーワード】 エンゲル、デューペチオー、最低生活費研究	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	わが国の家計調査の歴史	海外の家計研究の影響を受け、わが国でも家計調査がされるようになり、現在では世界的にも継続性のある調査となっている。その歴史を、家計調査が成立するまで、統計的手法を用いた家計調査、戦後の家計調査に分けて解説する。 【キーワード】 政治算術、家計調査、生計費、家計	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
5	家計収支と家計簿記帳	家計は、収入と支出に分かれている。その内容とその対応関係について理解する。さらにそれぞれの費目と品目について理解し、家計簿記帳の基本を学ぶ。 【キーワード】 実収入、実支出、実収入以外の収入、実支出以外の支出	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
6	家計をめぐる法則	家計に関する法則では、エンゲル係数が有名であるが、その他、生活水準を測定するための消費者物価指数など、さまざまな法則について理解し、それを用いて家計分析ができるようにする。 【キーワード】 エンゲルの法則、シュワーベの法則、消費者物価指数	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
7	ライフサイクルと貯蓄・負債	人生にはそれぞれのライフステージがある。誕生、幼少時代、学校教育期間、就職、結婚、出産、熟年時代、退職、老後。人によって経験する出来事は異なるが、一般的に通過するステージとその時にかかる費用を紹介する。また、人生にかかる費用を準備する方法とそのための計画をたてるために、必要な貯蓄額と負債額の実際を理解する。 【キーワード】 ライフサイクル、ライフステージ、中位数、平均値、最頻値	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
8	単身世帯と2人以上の世帯の家計	単身世帯の家計内訳を理解し、その後、結婚して世帯人員数が増え、家計がどのように変化するかを理解する。また共働き世帯が増加しているが、共働き世帯と片働き世帯では、家計にどのような変化があるのかを理解する。 【キーワード】 単身世帯、単独世帯、勤労者世帯	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
9	子どもにかかる費用	子どもを産むだけでもお金はかかるが、出産後も、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院等、教育期間が長期化していることで、教育費が増大している。子どもを育てるにはどれほどの費用が必要かを明らかにする。 【キーワード】 子ども手当、学校教育費、学校外教育費、金融教育	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
10	離婚の経済とひとり親世帯の家計	離婚の現状と、離婚によって生活はどのように変化するか、また、一人親世帯として、母子世帯の家計についても明らかにする。 【キーワード】 共働き、要因的支出、経費的支出、片働き、母子世帯	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	高齢者世帯の家計と生活	高齢者の割合が高くなり、現在、日本は超高齢社会になっている。高齢者になった時に、家計はどのように変化するのか、また、高齢者でも、無職の場合と勤労者の場合によって変化する家計の特徴を理解する。 【キーワード】 高齢者世帯、高齢夫婦無職世帯、高齢単身無職世帯	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
12	社会保障と生活	生きていく上で社会保障とは切り離せない。一生、元気で過ごせればよいが、けがや病気、介護等、予期せぬ出来事が起こるものである。そのような時、どのような保障があるのかを、病気・けが、老齢、災害、介護等に分けて理解する。 【キーワード】 社会保険、生命保険、医療保険、介護保険	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
13	消費者問題と生活経済	現在、詐欺等の生活経済に関わる消費者問題が後をたたない。どのような被害があり、どのようにして被害を防ぎ、解決すればよいかを理解する。 【キーワード】 消費者問題、悪質商法、多重債務、自己破産、消費者教育	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
14	生活時間とエネルギー	家計のみではなく、生活をするには、時間とエネルギーが関係している。本章では、1日の生活時間の考え方と現状、活動別のエネルギー消費量と生活におけるバランスについて考える。 【キーワード】 生活時間、国民生活時間調査、社会生活基本調査、エネルギー	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)
15	持続可能な社会のための生活	資源やエネルギー問題は、家計と無関係ではない。21世紀を豊かに生きるため、そして豊かな時代にするために、私たち一人一人が価値観やライフスタイルを見直す必要がある。地域社会、そして地球規模の課題への生活者の在り方を考える。 【キーワード】 環境家計簿、エコロジー、アーミッシュ	大藪千穂(岐阜大学教授)	大藪千穂(岐阜大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128248	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 社会福祉入門 (' 1 2) = (T V)

〔主任講師 (現職名) : 大橋 謙策 (日本社会事業大学 大学院特任教授) 〕

【本学担当専任教員 : 松村 祥子 (放送大学教授) 】

※この科目は「社会福祉入門 (' 0 8) 」部分改訂科目。
改訂回は1、6、7、8、12、13、14回です。

講義概要

経済的貧困を救済することを主たる課題として発展してきた社会福祉は、21世紀に入り、それとは異なる社会生活上何らかの援助を必要とする人々の地域での自立生活を支援することを目的に、新たな理念、思想と社会福祉援助活動とが求められている。

人々の社会生活を安寧にするための方策としては、教育や住宅、雇用の保障に関わる社会サービス、医療保険や年金等の社会保険もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接な関わりももちつつ、それとは相対的に独立した、自立生活を送る上で困難を抱えている人々への対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである社会福祉を学ぶ。

授業の目標

社会福祉の目的は、生活上の様々な困難を抱えている人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図ることである。したがって、社会福祉の制度を学ぶだけではなく、それらの社会福祉制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについて学ぶ。また、社会福祉が求める社会哲学や福祉文化についても考察する。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	私たちの暮らしと社会福祉 [改訂回]	私たちの日常生活においても、また出生から死に至るまでのライフコースにおいても多様な事故に遭遇する危険を孕んでいる。人間はひとりでは生きていられない今日では、家族や地域の力だけでもそれらの事故に対応できず、生活の不安定さへの補強や万が一の生活上の事故に対する一種の保険として、「社会の制度」として多様な社会福祉サービスが作られている。この章では生活上に起きる事故とその対策としての「社会の制度」としての社会福祉との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 生活上の事故、家族機能、ライフコース、社会の制度	大橋 謙策 (日本社会事業大学院 特任教授)	大橋 謙策 (日本社会事業大学院 特任教授)
2	「社会の制度」としての救済制度の思想と社会哲学	人類の歴史において、「生老病死」「鰥寡孤独」(かんかこどく)は常に大きな課題であった。それらに対し、家族や村落共同体が有していた自然発生的な相互扶助機能では対応できなくなり、かつ個人的な慈善に頼ることもできず、「社会の制度」として社会福祉が確立されてくる。最近では、「介護の社会化」とよばれ、介護保険制度が作られてきたのもその1つである。人々が抱える自立生活上の困難な課題に対し、どのような「社会の制度」が確立してきたのか、その背景となる社会思想やこれから求められる社会哲学について学ぶ。 【キーワード】 社会装置、社会哲学、社会統制、共済活動	同上	同上
3	社会福祉の考え方と目的	社会福祉は何を目的としているのか、社会福祉の語源も探りながら、目的としている自立、自己実現について学ぶ。自立支援に必要な「社会の制度」が社会保険、公的扶助と分化発展する中で、対人援助としての社会福祉が目的とする6つの自立の捉え方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉の語源、6つの自立要件、社会サービス、社会保障制度審議会報告	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会福祉の歴史: 日本 の展開	近代以降の日本の社会福祉は精神性と物質性の間を揺れ動いた歴史である。戦前の井上友一と小河滋次郎の考え方の違い、積極的社会事業と消極的社会事業といった考え方や民間社会事業実践のミッションについて学ぶ。戦後は憲法第25条の理念から、入所型社会福祉施設の整備、市町村における在宅福祉サービスの整備を経て、今日では地域福祉がメインストリームになっていることを学ぶ。 【キーワード】 風化行政、第25条、入所型社会福祉施設、地域福祉	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)
5	社会福祉の歴史: 外国 のケース	社会福祉の歴史を学ぶにあたって、我が国以外でどの国の歴史を取り上げるかは大きな課題である。本章では、イギリス、アメリカの歴史を取り上げるとともに、我が国にとって社会福祉の発展との関わりの中で、思想的に大きな意味を持つ“プロイセン”における社会保険の歴史や考え方とデンマーク、スウェーデンを中心に発展したノーマライゼーション思想を取り上げることとしたい。なお、諸外国の歴史や考え方を取り上げるといっても、本章ではあくまでも日本の社会福祉の考え方や制度に影響を与えた事項に絞って述べるにとどめる。 【キーワード】 救貧法、慈善信託法、ベヴァリッジ報告、コミュニティケア	同上	同上
6	市町村社会福祉行政とソーシャルアドミニストレーション [改訂回]	これからの社会福祉は市町村を基盤として、行政と住民との協働が求められる。住民参加による地域福祉計画づくり、地方分権と福祉アクセシビリティ、福祉サービス供給組織の多元化の中でのソーシャルアドミニストレーションのあり方を学ぶ。 【キーワード】 地域福祉計画、ソーシャルガバナンス、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルアドミニストレーション	同上	同上
7	施設の社会化と在宅福祉サービス [改訂回]	日本の社会福祉は、1970年～1989年までいわば社会福祉施設整備の時代を迎える。これらの社会福祉施設を社会福祉のメインストリームになりつつあった地域福祉の観点からどう位置づけるかは大きな課題であった。「施設の社会化論」から在宅福祉サービスへの展開のプロセスを学ぶ。と同時に、入所型福祉施設への批判も含めて展開されてきた在宅福祉サービスの考え方、提供のあり方、サービス内容について学ぶ。 【キーワード】 施設の社会化、施設の地域化、必要即応の原則、在宅福祉サービスの構成要件	同上	同上
8	在宅福祉サービスのあり方と保健・医療・福祉の連携システム [改訂回]	地域で在宅で生活できるように支援するという目標は崇高である。しかしながら、それは単純に在宅福祉サービスの量を増やし質を高めるということだけでは対応できない。日本的家族観や生活観、あるいは近隣関係が、地域での自立生活支援にどのような影響をもたらしているのかを明らかにすると同時に介護家族の負担をどうしたら軽減できるかを学ぶ。と同時に、在宅での自立生活には多様な専門職種によるアプローチが必要となる。その課題についても学ぶ。 【キーワード】 家族介護の負担軽減、ICF(国際生活機能分類)、エンパワメント、チームアプローチ、保健・医療・福祉の連携、ワーカビリティ	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	地域自立生活支援と ソーシャルワーク	日本の社会福祉は地域自立生活を支援する地域福祉がメインストリームになった。そこでは、世界保健機関(WHO)の国際生活機能分類(ICF)の視点に基づき、ケアマネジメントを手段としたコミュニティソーシャルワークが重要になってきている。ICFの視点に基づくケアマネジメントの考え方をアセスメント、援助方針の立て方を中心に学ぶ。 【キーワード】 生活課題分析、援助方針の立案、求めと必要と合意、ICF、ケアマネジメント、インフォーマルケア、在宅福祉サービス	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)
10	社会福祉における ニーズの考え方と ソーシャルワークの実 践	社会福祉活動を展開していく上で、何が生活上の困難なことなのかを明らかにすることが大きな課題であり、かつそれを誰が、どのような基準で、どのような方法で把握、判断するかを考えることが社会福祉そのものを学ぶことであるといっても過言ではない。イギリスのブラッドショウのソーシャルニーズの類型を参考にしながら、社会福祉ニーズの考え方、とらえ方を学ぶ。その際には、日本的文化の背景も大きいのでそれも含めて考察する。 【キーワード】 社会福祉ニーズの分類、世間体、タテ社会、ニーズキャッチの方法	同上	同上
11	コミュニティソーシャ ルワークの考え方と 機能	地域自立生活支援を行う上では、コミュニティソーシャルワークという機能がもっと意識化される必要がある。コミュニティソーシャルワークという考え方は、1982年のイギリスの「バークレイ報告」で、打ち出されてきたが、その考え方の日本的展開について学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーク、バークレイ報告、ソーシャルサポートネットワーク、インフォーマルケア	同上	同上
12	生活支援に必要な社会 福祉の制度 [改訂回]	本章は対人援助としての社会福祉を展開するにあたって、どのような社会資源としての社会福祉制度が活用できるかという視点からまとめられている。その対人援助に必要な社会福祉の制度は急速に変わりつつある。制度改革の動向を学ぶ。 【キーワード】 生活保護制度、障害者自立支援法、児童福祉法、介護保険制度	同上	同上
13	ソーシャルケアサー ビス従事者の養成課 題と専門職制度およ び職業倫理 [改訂回]	対人援助としてのソーシャルケアサービス従事者にはソーシャルワーカーとしての社会福祉士、ケアワーカーとしての介護福祉士等がある。それらの専門職制度の内容とそれら専門職としての社会的評価、職業倫理、行動規範、養成教育のあり方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉士及び介護福祉士法、倫理綱領、行動規範	同上	同上
14	社会福祉における住 民参加と福祉コミュニ ティづくり [改訂回]	地域での自立生活を支援していくためには、専門職者だけでは対応できない。社会福祉の分権化と地域自立生活支援において、いかに住民参加が必要であることを学ぶ。と同時にそのことは自分の住んでいる地域を福祉コミュニティへと転換させる営みであり、それらの最もシンボリックなものが住民参加による地域福祉計画づくりであることを学ぶ。 【キーワード】 福祉コミュニティ、地域福祉計画、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルサポートネットワーク	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	国際的ヒューマンセキュリティと博愛の哲学	国際化が進んでいる時代にあって、「福祉国家」としての一国ソーシャルセキュリティだけを考えていけばいい時代ではなくなった。国連が提唱しているヒューマンセキュリティ(人間安全保障)を考えていくためにも、日本国民の福祉文化を見直し、博愛の哲学や寄付の文化の醸成をしていくことが必要である。福祉国家から福祉社会への転換と福祉社会づくりについて学ぶ。 【キーワード】 ヒューマンセキュリティ、博愛、寄付の文化	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)	大橋 謙策 (日本社会事業大大学院 特任教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128019	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 現代の生活問題 (' 1 1) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 中川 清 (同志社大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 大曾根 寛 (放送大学教授) 】

講義概要

現在われわれが直面している生活問題は、21世紀に入って突然引き起こされたわけではない。この講義では、これまでの日本の経験を振り返ることによって、現代の生活問題を3つの視点から考える。1つは、伝統的な貧困問題の系譜と現状である。貧困の捉え方や貧困をめぐる社会構図の変化に注目する。2つは、近代以降の激しい生活変動にともなう生活問題である。20世紀の生活モデルが成り立たなくなる事情を明らかにする。3つは、生活モデルの喪失にともなう新たな生活課題である。誕生から死にいたる生涯のいくつかの局面を手掛かりに検討する。

授業の目標

4つの点に心がけたい。①理論的な説明にとどまらず、具体的なデータや記述などをできるだけ駆使して生活問題の理解を深める。②ある生活問題が解決されることによって、また新たな課題が生み出される。生活問題を固定的ではなく、絶えず変化していく課題として把握する。③日本での生活問題に絞って論じるが、アジアの他の地域にも共通する経験や課題に注目する。④必要に応じて、生活問題と直接関係する社会政策や生活に関する政策にも言及する。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生活問題を構成する —日本の生活研究の 伝統—	生活という言葉は曖昧で未分化な用語だが、日本では、生活学や生活構造論、生活科学や生活福祉などの生活を冠した研究が積み重ねられてきた。生活問題という捉え方も、このような伝統の延長に位置している。生活研究の伝統を踏まえて、「日本の生活経験を振り返ることによって、現代にいたる生活問題を構成する」というテーマを設定する。その上で、講義を通して取り上げる3つの生活問題の流れを説明する。 【キーワード】 生活研究 生活問題 貧困問題 生活変動 社会問題	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ
2	異質な生活世界への 関心—貧困問題の系 譜(1)—	貧困という概念が形作られる以前、あたかも「未開社会」に向かうかのように、異質な生活世界への関心が喚起され、「貧民窟踏査」が実施された。19世紀末から20世紀初めの「貧民窟踏査」の記録をとおして、生活問題の初発の認識が、どのような経緯で近代の貧困概念に至るのかについて考える。貧困の把握が多様化した今日、「貧民窟踏査」に類似した質的調査法があらためて見直されているからでもある。 【キーワード】 「貧民窟」「貧民窟踏査」 横山源之助 貧困認識 内務省「細民調査」		
3	生活実態の変化と近代の 貧困概念—貧困 問題の系譜(2)—	19世紀末から20世紀にいたる貧困のあり方を振り返ると、大きく変化してきたという印象が強い。事実、都市下層(東京に代表される大都市の最下層は10%に該当)は、滞留し沈殿した固定的な層ではなく、その性格を急速に変化させてきた。しかも、その性格変化は、例外的で特殊なものではなく、一般社会生活の変化と密接に関係していた。このような貧困実態の変化をとおして、近代の貧困概念が形作られる様子も考える。 【キーワード】 都市下層 貧困調査 貧困概念 方面委員制度 社会行政と地域組織		

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	貧困への政策対応と 生活保護法—貧困 問題の系譜(3)—	日本の近代化の過程で、貧困政策は皆無に等しかった。まず、恤救(じゅっきゅう)規則(1874年)から救護法(1929年、実施は1932年)への動きを、都市下層の生活実態の変化を交えて説明する。日本の貧困政策は、戦後の占領下で大きく転換する。旧生活保護法(1946年)から新生活保護法(1950年の現行法)にいたる過程を、当時の生活全般の混乱状況を踏まえて検討する。 【キーワード】 恤救規則 救護法 旧生活保護法 現行生活保護法 最低生活の保障	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ
5	「中流社会」と貧困の 性格変化—貧困問 題の系譜(4)—	1950年代以降の「貧困からの大脱出」過程において、被保護世帯や都市下層のあり方がどのように変化したのかを、生活保護の実施や運営状況の変遷、貧困調査の結果や関心の推移などをとおして検討する。その上で、「中流社会」といわれる1970年代から80年代において、貧困の実態と認識が、それまでの貧困＝低所得階層という図式から次第に変化していく様子を明らかにする。 【キーワード】 生活扶助基準 保護率 貧困の捕捉率 被保護世帯 社会関係の希薄化		
6	多元化する貧困と社 会生活—貧困問題 の系譜(5)—	20世紀末から21世紀初めにかけて、貧困を取り囲む状況は大きく変化する。高齢単身者、ひとり親世帯、障害を抱える世帯、困難に直面する若者、ホームレスなど。現在の貧困が、低所得層という概念から溢れ出し、個別性や多様性を帯びて、社会関係からの孤立や排除と深く関わっている事情を考える。あわせて、貧困をめぐる新たな議論、相対的剥奪と社会的排除を、従来の貧困概念との関係で整理して紹介する。 【キーワード】 格差と貧困 貧困の多元化 相対的剥奪 社会的排除 一般社会生活		
7	生活構造の不安定さ —生活変動と生活問 題(1)—	20世紀前半の生活変動は、近代という新たな環境に緊張や無理をとめないながら、過剰に対応する過程であった。1950年頃までの家計データにおいて、しばしばエンゲル法則が妥当しなかった事実は、生活変動が構造的な不安定性をともなっていたことを示している。この不安定性こそ、当時の生活言説が貧困で彩られた背景であるが、それが、ミクロの生活場面とマクロの社会展開にどのように関係したのかも考えてみたい。 【キーワード】 エンゲル法則(の逆転) 家族形成 家計支持率 性別役割分業 主婦役割		
8	生活変動の転機と妊 娠中絶—生活変動と 生活問題(2)—	生活変動の転機として、1950年代における合計特殊出生率の半減、年間100万件におよぶ人工妊娠中絶を取り上げる。この時期を境に、生活課題はかつてのように社会的に外部化されるのではなく、生活の内部においても処理されるようになるからである。20世紀前半の生活構造の不安定性と、1960年代からの「よりよい」生活への変動とを切り結んだのは、1950年代の膨大な妊娠中絶であった。 【キーワード】 合計特殊出生率 人工妊娠中絶 優生保護法 「産児制限」 生活課題の内部化		

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	「よりよい」生活への自己組織化—生活変動と生活問題(3)—	1960年代からの「よりよい」生活がどのようにして実現されたのか、その過程で何が失われたのか、その結果どのような課題に直面するのかを検討する。20世紀後半の生活変動は、生活単位の規模を自らの手で縮小することで、「よりよい」生活を実現するという特徴をもっていた。そこでは、家族や世帯の多様性が失われ、生活を営む単位が標準化し純粋化する。このことは、家族のあり方や人々の生き方にも深く影響することになる。 【キーワード】 生活単位の自己組織化 消費支出の均質化 労働者階層の自己変容 消費社会 性別役割分業の揺らぎ	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ
10	生活モデルの揺らぎと生涯像の主題化—生活変動と生活問題(4)—	20世紀後半には、「よりよい」生活に向かっの自己組織化がすすめられるとともに、男性稼ぎ手家族を生活モデルとした社会政策が体系化されてきた。まず、この政策展開を振り返る。その上で、「よりよい」生活への対応が重ねられ、政策展開が重ねられるほど、かえって生活モデルから乖離した状況が生み出される事情を検討する。事実21世紀に入ると、趨勢的な人口の減少局面を迎え、未曾有の少子高齢社会に直面する。そこでは、生まれ育ち老い死んでいくという生涯の諸局面が、あらためて社会的な主題となる。 【キーワード】 社会政策の体系化 生活モデルの揺らぎ 「少子高齢社会」「人口減少社会」 生涯像の主題化		
11	産み育てることの変容と負荷—生涯像と生活課題(1)—	子供を産み育てることが、生涯の当然の出来事ではなくなり、これほど意識的に選べとられる事柄となった時代はない。その背景と意味について、ライフコースにおいて選択の対象となる出産、子供を持つことの関係の変化、産み育てることの負荷などの視点から検討するとともに、精神的かつ経済的な負荷という文脈からの離陸についても探してみたい。 ここでは、多くの場面で女性からの視点が想定されている。 【キーワード】 選択としての出産 ライフコースの多様化 子供が生まれる／子供を産む 産み育てる負荷 負荷からの離陸		
12	若者の「生きにくさ」と生涯デザイン—生涯像と生活課題(2)—	80年におよぶ長い生涯がますます確実になる一方で、これまでの生活モデルが揺らぎ不確かになっている。この乖離を最も鋭く感じているのが、今日の子供や若者ではないだろうか。しかも彼／彼女らは、かつてないほど「本当の自分らしさ」とを促されている。生涯というキャンパスに、個々人のデザインを描くことの自由と困難さは、今日、若者の「生きにくさ」として集中的に現れている。 【キーワード】 若者の誕生 消費文化 学校制度の揺らぎ 「フリーター」 非正規雇用 生涯デザイン		
13	近代家族の揺らぎと家族の関係のゆくえ—生涯像と生活課題(3)—	20世紀生活モデルの揺らぎは、21世紀の家族のあり方を大きく変容させる。近代家族という視点から20世紀家族の特徴を整理するとともに、近代家族としての特徴ゆえに引き起こされる課題について政策対応を交えて検討する。それとともに、何らかの形で家族的な関係は、人が生まれ育ち、ケアを受け与え、それぞれの生き方を模索する場として、これからも代替が困難である事情についても考えてみたい。 【キーワード】 近代家族 核家族世帯 単独世帯 家族機能 ケア関係 家族の関係		

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	高齢者の生活世界と社会的受容—生涯像と生活課題(4)—	未曾有の高齢化といわれる現状と将来について概観し、そこでの高齢者や高齢社会のイメージについて検討する。まず、様々な生活経験を積み重ねてきた高齢者の生活が、健康状態や社会的条件において、実に多様な性格を帯びていることを確認する。その上で、いくつかの記述によって、老いの生活世界を垣間見る。かつてない長い生涯を、21世紀社会がどのように受け容れるのか考えてみたい。 【キーワード】 高齢化 長寿化 高齢者像 高齢者生活の多様性 高齢者の生活世界	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ	中川 清 (同志社大学 教授) 以下、同じ
15	生活変動／貧困問題／生活課題—21世紀社会を考える—	20世紀の生活問題を理論的な視点から整理するとともに、21世紀に直面する生活課題を展望することによって、講義全体のまとめとする。まず、3世紀にわたって経験された日本の生活変動を、3つに時期区分して一つの仮説として提示する(第7章から第10章に該当)。そして、貧困問題の展開を、都市下層の性格変化として3つに整理する(第2章から第6章に該当)。最後に、「生涯像と生活課題」を21世紀社会の課題として展望してみたい(第11章から第14章に該当)。 【キーワード】 生活変動 過剰対応 自己変容 都市下層 生活課題 21世紀社会		

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128302	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 生活者のための不動産学入門 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 齊藤広子 明海大学不動産学部 教授 〕
 〔主任講師（現職名）： 中城康彦 明海大学不動産学部 教授 〕
 【本学担当専任教員： 宮本みち子 放送大学 教授 】

講義概要

わたしたちの生活は、不動産を基盤に支えられている。しかしながら、そのための学問を一般的には身につけていない。十分な不動産知識をもっていないがゆえに、例えば「住宅売買で失敗する」「賃貸住宅でトラブルになる」ことをはじめとし、「敷地分割して住宅を建てる」など、自分たちが知らないうちに不動産を巡る被害者になるとともに、加害者にもなっている。安心して居住できるすまい・まちの実現には国民一人一人が不動産学を身につける必要がある。生活者の視点から、生活に身近なテーマを、すまいを中心に据え上げて、不動産学の基礎を享受する。

授業の目標

不動産は、生活でもビジネスにも基本となる。本科目では、生活に必要な不動産学の基礎知識を学ぶ。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生活に身近な不動産学	不動産学とは何か、次回以降にとりあげる身近な事例をとりあげ、法学、経済学、工学といった単体の学問でとけないため、総合学としてのアプローチが必要であることを示す。 【キーワード】 不動産学、不動産	齊藤広子(明海大学教授)	齊藤広子(明海大学教授)
2	住まいを借りる	すまいを借りる際の基本的な知識を教授する。 【キーワード】 借地借家法、原状回復、敷金	齊藤広子(明海大学教授)	齊藤広子(明海大学教授)
3	住まいを探す	住宅の建築的なしくみ、建設業者と不動産業者の違いなど、住まいを購入する上での基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 耐震性、基礎、在来構法、注文住宅	中城康彦(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	住まい購入の契約をする	住まいを購入する際の契約についての基本的な知識を教授する。 【キーワード】 売買契約、重要事項説明、瑕疵担保責任	齊藤広子(明海大学教授)・小川清一郎(明海大学不動産学部教授)	齊藤広子(明海大学教授)
5	住まいを管理する	住まいの管理、とくに、区分所有のマンションの管理方法を教授する。 【キーワード】 マンション、区分所有、管理組合	齊藤広子(明海大学教授)	齊藤広子(明海大学教授)
6	住まいの環境を守る	すまいをとりまく環境、生活空間にはどのようなルールがあるのか。それにより環境がどのように変化する可能性があるのか、土地利用のルールそして居住地選択において必要な基本的な知識を教授する。 【キーワード】 土地利用のルール、用途地域、地区計画	阪本一郎(明海大学教授)	阪本一郎(明海大学教授)
7	住まいと環境をつくる	良い環境を持った住まいをどのようにつくるのか、そのために不動産会社はどのような働きをするのか、また、不十分な環境をどのように改善するのか、そのために住民や自治体はどのような働きをするかを学んでもらう。 【キーワード】 居住地選択、再開発、土地区画整理組合	阪本一郎(明海大学教授)	阪本一郎(明海大学教授)
8	住宅価格が決まる	住宅の価格がどのように構成されるのか、基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 住宅価格、分譲市場、流通市場、資本コスト、留保価格	前川俊一(明海大学教授)	前川俊一(明海大学教授)
9	住まいの資金計画をたてる	住宅購入・保有・売却に伴う資金計画の基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 住宅ローン、税金、資金計画	前川俊一(明海大学教授)	前川俊一(明海大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	不動産を相続する	相続のしくみはどうなっているのか、相続財産はどのように評価するのか、相続税はどのように計算するのか、不動産の相続について教授する。 【キーワード】 法定相続人、相続税、不動産鑑定評価、登記	中城康彦(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)
11	ストックを活用する	住宅の間取りと建物の改修について教授する。 【キーワード】 心々寸法、間取り、専用部分、改修	中城康彦(明海大学教授)・齊藤広子(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)
12	土地を活用する	土地利用を制約する要素と土地利用方策について教授する。 【キーワード】 所有と利用、私法と公法、借地借家法、用途制限	中城康彦(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)
13	不動産を分割・併合する	土地の分割のメカニズム、土地の併合利用による価値の創造について教授する。 【キーワード】 接道規定、土地価格、建物価格、コモンスペース	中城康彦(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)
14	不動産を経営する	持ち家資産の経営、賃貸用不動産の経営について教授する 【キーワード】 収支計画、アセットマネジメント、プロパティマネジメント	中城康彦(明海大学教授)	中城康彦(明海大学教授)
15	不動産の価値を上げる	住まいの環境である住環境の価値を、地域で上げる方法を教授する。 【キーワード】 住環境マネジメント、空き地や空き家	齊藤広子(明海大学教授)	齊藤広子(明海大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1121200	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 社会調査 ('09) = (TV)

※この科目は「社会調査('05)」を一部改訂した科目です。
改訂回は8・11・15回です。

〔主任講師 (現職名) : 原 純輔 (放送大学特任教授) 〕
〔主任講師 (現職名) : 浅川達人 (明治学院大学教授) 〕
【担当専任教員 : 森岡 清志 (放送大学教授) 】

講義概要

現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その進め方 (調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方) を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りからさまざまな情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

授業の目標

本科目を履修し社会調査の基本的な考え方を身につけると、これまで経験と勘を頼りに決めていたさまざまなことが、たとえば行政の政策、企業の経営方針や販売戦略、NPOの事業方針などを、実証的な基盤に立って決めることの大切さ、意義を理解することができるようになります。その点を理解しないままに、小手先だけの技術、たとえば多変量解析などの分析手法などを身につけても、それらの活用は困難となります。まずは、本科目で基本的な考え方を身につけましょう。

履修上の留意点

高度な数学の知識は必要ありません。とはいえ、Σを見るたびに冷や汗をかいていると、履修を続けるのが嫌になってしまうかもしれません。数学に関する苦手意識を多少なりとも緩和する努力をされるとよいかと思います。なお、この授業は基本的な考え方を身につけることを目標としています。実際に調査や分析をやろうとする場合に必要なさまざまな技法等については、専門書をみて下さい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	現代社会と社会調査	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その情報収集方法としての特質を、心理学実験や個人の耳目と比較しながら把握する。また、社会調査結果が、おおよそどのような手順で得られたものであるかを知る。 【キーワード】 社会調査の氾濫、統計集団、調査票調査、ホーソン効果	原 純輔 (放送大学特任教授)	原 純輔 (放送大学特任教授) 浅川達人 (明治学院大学教授)
2	社会調査の用途と歴史	社会調査をその用途によって行政調査、福祉調査、世論調査、市場調査、学術調査の5つに類別して、それぞれの歴史を学ぶとともに、初期の代表的な成果について知る。 【キーワード】 国勢調査、家計調査、模擬投票、シカゴ学派	同上	原 純輔
3	調査内容の決定(1)	調査票調査を中心にテーマの選び方、調査事象を項目として概念化する方法を学ぶ。また、調査データを用いた「説明」がどのような論理で行われるのかを知る。 【キーワード】 記述項目、説明項目、コントロール項目、基礎項目、作業仮説、因果関係と相関関係	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	調査内容の決定(2)	調査における質問と回答の役割と、質問文が備えるべき性質について知る。また、選択回答と自由回答を比較し、それぞれの長所と短所を把握する。調査における量的変数の作り方についても学ぶ。 【キーワード】 調査票の構成, 妥当性, 信頼性, 選択回答, 自由回答, 量的変数	原 純輔	原 純輔
5	調査対象の決定(1)	全数調査と比較しながら、統計調査における標本調査の重要性を知り、標本抽出の考え方、とくに無作為抽出の考え方と具体的方法を学ぶ。また、母集団と標本との関係を考察する。 【キーワード】 全数調査, 標本調査, 無作為抽出, 割当抽出, 系統抽出法, 多段抽出法, 層別抽出法, 母集団と標本	同上	同上
6	調査対象の決定(2)	無作為抽出によって得られる標本統計量のサンプリング分布の性質について知り、比率の差の統計的検定を例に、サンプリング分布理論を用いた統計的推測の考え方を学ぶ。項目間の独立性の検定についても学ぶ。 【キーワード】 母集団統計量, 標本統計量, サンプリング分布, 正規分布, 検定統計量, 危険率(有意水準), 独立性の検定, χ^2 分布	同上	同上
7	調査の実施と処理(1)	社会調査実施の具体的手順と、訪問面接調査、留置調査、郵送調査、電話調査、集合調査など、さまざまな実査方法および長所と短所を知る。とくに訪問面接調査の実際を知り、調査員の役割について考える。 【キーワード】 個別訪問面接調査, 調査員マニュアル, 調査場面のコントロール, 面接者の影響, 虚偽(ウソ)への対応	同上	同上
8	調査の実施と処理(2) (※改訂回)	調査終了後の点検、コーディング、データ・ファイルの作成、データ・クリーニング作業における留意点を知る。また、これらの作業や集計・分析において重要な役割を果たす、コンピュータ・ソフトについて紹介するとともに、テキストデータの統計的分析法についても研究事例を紹介する。 【キーワード】 コーディング, アフターコーディング, コードブック, データ入力, カテゴリーエラー, SPSS, テキストデータの統計的分析法	浅川達人	浅川達人
9	結果の集計と分析(1)	量的データと質的データのそれぞれについて、集計の方法、基本統計量(代表値, 分散, 相関係数)について知る。また、基本統計量とデータのタイプとの適合性、量的データと質的データの基本統計量間の関係について考える。 【キーワード】 柱状図, 散布図, 外れ値, 平均値, 中間値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 積率相関係数, 属性相関係数	原 純輔 浅川達人	原 純輔
10	結果の集計と分析(2)	クロス集計表のエラボレーションを例に、真の相関関係を発見して、因果分析を行ってゆく方法と問題点について把握する。また、量的変数に関する多変量解析法の考え方と実例を学ぶ。 【キーワード】 疑似相関関係, 第3変数のコントロール, 付加効果, 交互作用, 多変量解析法	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	聴取調査の方法 (※改訂回)	聴取調査の手順を知り、調査票を用いない非構造化面接の特質と意味について考える。また、聴取調査が社会調査として成立するためには、対象あるいはテーマが社会性をもつ必要のあることを学ぶ。 【キーワード】 聴取調査の手順、非構造化面接、調査結果の個別性、事例調査、テーマの社会性	原 純輔	原 純輔
12	調査報告をまとめる	調査報告書における、表やグラフの作り方、数値の扱い方の注意点を知る。また、調査結果を「報告する」ということが、調査者の主体的な認識行為としてしかありえないことを、実例を通して学ぶ。 【キーワード】 調査報告書の構成、統計図表の作成、比率の差の扱い、報告者の主張の展開、データの公開	同上	同上
13	さまざまな社会調査 (1)	社会の変化をとらえるためには継続調査が重要であること、その方法としての時系列調査とパネル調査の方法および実例を学ぶ。また、国際比較調査についても、その実施上の問題点と実例を学ぶ。 【キーワード】 世代効果、加齢効果、時系列調査、パネル調査、国際比較調査	同上	同上
14	さまざまな社会調査 (2)	さまざまな社会問題の告発と解明は、社会調査の起源の1つであったが、その役割は現代社会においても失われていない。社会問題についての代表的な調査研究の例と成果を知り、社会調査の社会的責務について考える。 【キーワード】 貧困、公害、少子高齢化、災害、水俣病、受益圏と受苦圏、災害コミュニティ	浅川達人	浅川達人
15	調査者と被調査者 (※改訂回)	近年の低回収率をもたらした背景について知るとともに、社会調査に対する人びとの反発を、調査者と被調査者との関係の中でとらえなおし、社会調査という活動が許される条件について考える。 【キーワード】 調査不能、協力拒否、プライバシー、個人情報保護法、社会調査士資格、調査者の特権、社会調査を支える信念	原 純輔	原 純輔 浅川達人

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128256	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 社会統計学入門 ('12) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 林拓也 (奈良女子大学准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 森岡 清志 (放送大学教授) 】【

講義概要

現代社会において、それぞれの社会の実態や人々の行動・意識を明らかにすることを目的とした社会調査が数多く行われ、それに基づく分析結果がさまざまなメディアを通して提示されている。本講義では、社会調査に基づく分析結果を読みとるために必要となる統計学の基礎的な知識とともに、自分で分析を行おうと考えている履修者に対する分析の実践的側面も考慮した基本的・応用的な分析手法を扱う。具体的には、データの基礎集計、標本に基づく推測統計、2変数間の関連分析、そして重回帰分析を中心として多変量解析の一部について解説していく。講義の中では、実際のデータや分析例を紹介しつつ、必要に応じて統計量の計算手順も紹介していく。

授業の目標

履修者が、社会調査に基づく分析結果を読み取るために必要な基礎知識を習得すること、およびいくつかの分析技法を学習することを通して、自らがデータ分析を行うときに、どのような方法や手順ですすめていくかの指針を得ることを目標とする。

履修上の留意点

本講義は、社会調査により得られたデータの分析を扱うので、「社会調査('09)」を学んでおくことが望ましい。また、講義の中では、実際のデータに基づいて計算を行うことも多いので、あらかじめ電卓(平方根√の計算ができるもの)を用意しておくこと。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会調査のデータと統計分析の考え方	社会調査に基づいて得られたデータを、統計分析にかけることによってどのようなことが明らかになるかについて、大まかなイメージをつかむ。また、本講義の構成と学習の指針について概説し、以降の各章の位置づけを確認する。 【キーワード】 社会調査、社会統計学、統計データ	林拓也 (奈良女子大学准教授)	林拓也 (奈良女子大学准教授)
2	データの基礎集計(1)	社会調査によって得られたデータは、それぞれを変数として分析に用いる。そこで、今回はまず、変数にはどのような性質があるのか学習する。それを踏まえ、それぞれの変数の分布状態を記述する方法を解説する。 【キーワード】 変数、度数分布表、グラフ、ヒストグラム	石田光規 (大妻女子大学・准教授)	石田光規 (大妻女子大学・准教授)
3	データの基礎集計(2)	度数分布を統計量を用いて記述する方法を学ぶ。まず、変数の分布の中心を表す代表値 (最頻値、中央値、平均値) について学習し、次に、分布の散らばり具合を表す多様性指数、分散、標準偏差について学習する。最後に、分布における固有の観測値の位置を表すz得点について理解する。 【キーワード】 代表値、最頻値、中央値、平均値、多様性指数、分散、標準偏差、z得点	石田光規 (大妻女子大学・准教授)	石田光規 (大妻女子大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	標本に基づく推測統計(1):統計的推定	標本調査から得られるデータに基づいて、標本の抽出元である母集団の値の推定についての考え方を学ぶ。標本統計量の標本分布を紹介した後、その分布形が近似する理論的な確率分布(正規分布など)と、標本分布の標準誤差について解説する。 【キーワード】 母集団と標本、推定、標本分布、確率分布、標準誤差	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
5	標本に基づく推測統計(2):統計的検定	標本調査データに基づく仮説検定の考え方について学ぶ。帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定などについて解説しつつ、検定の手順を確認していく。 【キーワード】 検定、帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
6	グループ間の平均の差の検定	標本調査データにおける2グループの間の平均値の差を検討する方法について学ぶ。まず、標準誤差が既知の場合および未知の場合の差の検定について学び、それから応用的手法について簡単に解説する。 【キーワード】 平均値の差の検定、t検定、比率の差の検定	石田光規(大妻女子大学・准教授)	石田光規(大妻女子大学・准教授)
7	離散変数間の関連(1):クロス集計表と独立性の検定	離散変数同士の関連を検討する際に用いられるクロス集計表の原理を理解するとともに、二つの離散変数の間の関連性の統計的検定や、その関連の強さを示す係数について学習する。 【キーワード】 クロス集計表、独立性の検定、クラマーのV係数	田辺俊介(早稲田大学・准教授)	田辺俊介(早稲田大学・准教授)
8	離散変数間の関連(2):変数の統制と多重クロス表	第3変数の値ごとにクロス集計表を作る多重クロス集計表の原理を知ることを通じて、変数を「統制」という考え方を学ぶ。また第3変数を用いたクロス集計表のエラボレーションによって、疑似関係や媒介関係などを発見する方法を学習する。 【キーワード】 統制、エラボレーション、疑似相関、交互作用効果	田辺俊介(早稲田大学・准教授)	田辺俊介(早稲田大学・准教授)
9	連続変数間の関連(1):ピアソンの積率相関係数	二つの連続変数の間の関連の検討方法を学ぶ。関連性の形を確認するための散布図と、直線的関連の強さを示すピアソンの積率相関係数について、その原理と検定方法について学ぶ。 【キーワード】 散布図、線形関係、共分散、積率相関係数	田辺俊介(早稲田大学・准教授)	田辺俊介(早稲田大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	連続変数間の関連 (2):回帰分析の基礎	2つの連続変数を扱いつつ、一方の変数からもう一方の変数を予測する手法である回帰分析について、その考え方と基礎を学ぶ。またデータの事例を用いて、予測のための回帰直線、それを推定する原理(最小二乗法)、回帰係数の検定について解説する。 【キーワード】 回帰直線、回帰式、回帰係数と定数、最小二乗法	田辺俊介(早稲田大学・准教授)	田辺俊介(早稲田大学・准教授)
11	回帰分析の応用(1): ダミー変数、重回帰分析	社会調査データに多く含まれる離散変数を、回帰分析において扱う際に利用されるダミー変数について学ぶ。加えて、複数の独立変数を同時に扱う重回帰分析について解説する。 【キーワード】 ダミー変数、重回帰分析	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
12	回帰分析の応用(2): 決定係数、分散分析とF検定	回帰分析における予測の精度を表す決定係数の考え方と、その検定方法としてのF検定について学ぶ。また、分散分析の応用の仕方について解説する。 【キーワード】 決定係数、F検定、分散分析、一般線形モデル	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
13	回帰分析の応用(3): 回帰分析の留意点	独立変数の効果やモデルの有効性を比較するための、応用的な係数について学ぶ。また、回帰推定に際して、残差の分布や独立変数間の関連に注意を払う必要性について解説する。 【キーワード】 標準化回帰係数、自由度調整済み決定係数、残差分析、多重共線性	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
14	離散的な従属変数の 回帰モデル:ロジスティック回帰分析	従属変数が離散変数である場合に用いるロジスティック回帰分析について学ぶ。線形的な回帰分析モデルとの違い、確率のロジット変換と係数の解釈、そして最尤法による推定と検定について解説する。 【キーワード】 ロジスティック回帰分析、オッズ、ロジット、最尤推定法	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)
15	講義のまとめと発展学習	これまでの学習内容をまとめつつ、社会調査データに基づき、どのような手順で分析をすすめていくかについて検討を加える。また、さらなる発展的な学習にあたって、いくつかの多変量解析の手法を紹介する。 【キーワード】 計量社会学、多変量解析	林拓也(奈良女子大学准教授)	林拓也(奈良女子大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1122312	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 社会学入門 ('10) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 森岡 清志 (放送大学 教授) 〕

講義概要

社会学の基礎的な概念と社会の基礎となる集団の特質についての理解を深めること、また、現代社会が直面する変動の諸相について正確な知識と理解を得ること、このことを目的として全15回にわたり講義を実施する。人間は、その成長に伴って、自己の属する集団を徐々に拡大させてゆくが、前半ではできるだけこの過程に即した説明をおこなう。後半では、日本の社会の変動に焦点を当て、また、社会学の中で重要な位置を占める社会調査についても講義する。

授業の目標

社会学の考え方や説明のしかたを学習し、現実の社会事象に関する理解を深めること、さらに自己と社会とのつながりについての考察を深めてゆくこと、この2点が講義の大きな目標である。人間の意識や行動は、その人自身のこれまでの社会とのつながりと現在の社会的地位に伴うつながり方によって大きく影響を受けている。このことを具体的な事象の中で、具体的に捉えられるようになってゆくことを、講義の第1の目標としたい。

履修上の留意点

参考になる印刷教材として、『現代都市とコミュニティ('10)』と『都市社会の社会学('12)』を挙げておく。この2つの教材はともに専門科目の教材であり、『社会学入門('10)』の学習をある程度進めてから読まれる方が良い。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会学の基礎概念	誕生から死に至るまで人間は様々な社会的地位につき、多くの場合、その地位に見合った適応をとげてゆく。この過程＝社会化の中で、人がどのように社会規範を内面化し、役割を取得し、役割期待にこたえる行動をとるようになってゆくのか、これらの点について説明する。 【キーワード】 社会化、社会規範、社会的地位＝役割、役割期待、重要な他者	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
2	家族の形態と機能	社会化の中でも、誕生から大人になるまでの社会化、一次的社会化は特に重要であり、一次的社会化に果たす家族の役割はきわめて大きなものがある。ここでは、家族に関する社会学の基本的成果を説明する。 【キーワード】 夫婦家族、直系家族、家族周期、「家」、核家族	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
3	ジェンダーとは何か	私たちの社会では、生物学的な性とは別に、社会的・文化的な性が存在する。社会科学では、これをジェンダーと言う。たとえば、「男らしさ」「女らしさ」「男の役割」「女の役割」などは、このような文化的・社会的性に基づいて言われていることが多い。ジェンダーが、私たちの社会・文化の中でどのように現れているかについて考えてみたい。 【キーワード】 ジェンダー、ジェンダー・アイデンティティ、性役割、性別役割分業	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	教育と職業、そして社会階層	社会階層は教育年数(学歴)、職業的地位に関する人びとの評価(職業威信)、収入の3つの要素から成立するが、この3つの要素は関連しあっている。しかも、本人の学歴は親の学歴・職業の影響を受ける。現代社会の格差が生じる基本的メカニズムについて説明する。 【キーワード】 不平等、職業威信、学歴、社会移動、世代間移動	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
5	都市と都市的生活様式	都市という居住地の特質とは何か、都市という居住地で営まれる生活に独自の営み方はどのようなものか、この点についての、社会学における様々な議論を紹介しながら、分かりやすく説明してゆく。 【キーワード】 結節機関、第一次的關係、第二次的關係、専門処理	森岡 清志 (放送大学・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
6	社会集団と組織	ここでは社会の分析の単位として、集団と組織について考える。集団とは、単なるネットワークではなく、何らかのメンバーシップが区別される集合体である。さらにこの集団が明確な目的や明文化された規約をもつようになると、それは組織とよばれる。ここではそれら社会学の基礎的な概念の紹介とその意義について説明する。 【キーワード】 集団、組織、インフォーマル、フォーマル	玉野和志(首都大学東京・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
7	国家と社会—制度としての権力	集団や組織よりもさらに大規模で複雑な存在として国家を考えることができる。実は国家は特別の意味をもつ組織体なのである。ここでは国家の特別な意味合いを明らかにすると同時に、国家と社会の關係について論じる。と同時に、国家と社会の關係にはさまざまなバリエーションがあつて、日本の社会にはどのような特徴があり、どのような課題を抱えているかについても検討してみたいと思う。 【キーワード】 国家、社会、制度、権力	玉野和志(首都大学東京・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
8	近代化と社会学	国家と社会の關係は、近代化とよばれる歴史的な変化によって、その意味合いを大きく変えることになった。そのことは現代においても、大きな歴史的課題となっている。そこで、ここでは近代化という歴史過程が、さまざまな国や地域において国家と社会の關係を変化させ、それぞれの課題を形成してきたこと、そこにおける社会学の意義と役割について考えてみたい。 【キーワード】 近代、近代化、近代社会	玉野和志(首都大学東京・教授)	森岡 清志 (放送大学・教授)
9	集団からネットワークへ	伝統的な社会学においては社会集団への所属として捉えられてきた社会構造を、ネットワークとして捉える視点が注目されるようになってきた。社会的ネットワーク論の視点をを使うと、現代社会のどのような新しい側面が見えてくるのかを解説する。 【キーワード】 社会的ネットワーク、強い紐帯／弱い紐帯、コミュニティ解放論、インターネット	野沢慎司(明治学院大学・教授)	野沢慎司(明治学院大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	産業化と家族・親族	産業化の進展した現代社会において家族や親族の絆はどのように変容したとみるべきか。社会学における代表的な学説を比較検討してみよう。さらに、高度経済成長期以降、日本の都市家族とその親族関係がどのように変動してきたかを検討する。 【キーワード】 産業化、核家族化、親族関係、修正拡大家族、高度経済成長	野沢慎司(明治学院大学・教授)	野沢慎司(明治学院大学・教授)
11	世代とライフコース	世代(コホート)という概念を使って時代と加齢の効果を明らかにするライフコース論の視点から、結婚・離婚・再婚、出産・子育てなどの家族形成上の出来事や就業などの職業的キャリア形成が、世代間でどのように変化してきたのかを論じる。 【キーワード】 世代／コホート、ライフコース、ライフイベント、キャリア、家族形成	野沢慎司(明治学院大学・教授)	野沢慎司(明治学院大学・教授)
12	少子・高齢化と日本の社会	現代日本社会は、少子・高齢社会と言われる。少子化、高齢化は、発生原因は異なるものの、密接に関連しながら進行する。日本では、少子化が急速に進行しているため、これまでの予測より速く世界トップの超高齢社会に突入すると考えられている。ここでは、少子・高齢化が進行する背景とその影響、および将来予測について説明する。 【キーワード】 少子・高齢化、未婚化・晩婚化、将来推計人口、合計特殊出生率	安河内 恵子(九州工業大学・准教授)	森岡 清志(放送大学・教授)
13	情報化・グローバル化の進展と今後の日本	情報化の進展は、コミュニケーション方法の変化など、社会生活のあり方や、働き方を大きく変えた。また、グローバル化の進展ともあいまって、世界の国々のつながり方をも大きく変化させてきた。ここでは、情報化・グローバル化の進展によって、日本の社会がどのように変化してきたのを考える。 【キーワード】 情報化、グローバル化、産業(工業)社会、脱産業化	安河内 恵子(九州工業大学・准教授)	安河内 恵子(九州工業大学・准教授)
14	社会の変動と統計的調査	社会学的研究の成果の多くは、社会調査に基づくものであるが、テーマや対象によって社会調査の方法は大きく2つに分かれる。その中で統計的標本調査と呼ばれる、最もよく実施されている調査法の特徴について説明する。 【キーワード】 標本調査、サンプリング、仮説、調査法、統計的検定	森岡 清志(放送大学・教授)	森岡 清志(放送大学・教授)
15	社会の変動と事例調査	社会調査のもう1つの柱である事例的調査について、その特徴を分かりやすく説明する。事例的調査の具体例を紹介し、変動過程や生活史等を明らかにするために不可欠な調査法であることを説明する。 【キーワード】 第一次資料、聴き取り調査、参与観察、生活史法	森岡 清志(放送大学・教授)	森岡 清志(放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128310	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 経済学入門 (' 1 3) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 西村 理 (同志社大学 教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【 本学担当専任教員 : 高木保興 (放送大学 教授)、坂井素思 (放送大学 教授) 】

講義概要

経済の基本は「分業」と「交換」です。分業は生産性を高めてくれます。しかし、生活の糧を得るために、いろいろな財・サービスと交換する必要があります。この交換する場が「市場」です。そこで、まず市場の機能や役割について説明します。ところが、市場が常に有効な働きをするとは限りません。これを市場の失敗と呼びますが、このような状況に陥ったとき、どのような解決策があるのか、また、政府の役割はなにかについて説明します。そして、新たに浮かび上がってきた環境問題や企業の社会的責任、さらには、「ゆたかな社会」を実現するために求められる要素について言及していきます。

授業の目標

経済学は数学のようにただ1つの正解しかない科目とは違います。たとえば、消費税率を何%にするかを決める場合、大きな政府を望むのか、あるいは、小さな政府を望むのかで税率が変わってきます。ただ、このような議論をするときに、経済学の「見方・考え方」について理解してもらうことを目標にします。

履修上の留意点

印刷教材と放送教材は相互に補完しています。そのため、放送教材を利用する際には、印刷教材で予習・復習して放送教材の内容を理解するようにしてください。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	はじめに～経済学とは？	“経済”の語源から話を始めて、アダム・スミス、ケインズ、そして現代の経済学までの系譜をたどりながら、どのようなテーマが主に論じられていたかを概観します。そして、『経済学入門』の全体像を簡単に解説します。 【キーワード】 経世済民、夜警国家、混合経済、ケインジアン、マネタリスト	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
2	市場取引の働きについて	市場で売買取引する理由は、取引が買い手にも売り手にも満足をもたらすからです。この満足感を最大にするのは、競争取引での需要量と供給量が等しくなる市場均衡です。これについて、相対取引と対比させながら明らかにします。 【キーワード】 留保価格、余剰、市場均衡、競争取引、相対取引	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
3	市場均衡への道	市場が売り切れや売れ残りの状態にあると、その不均衡を調整しようとする力が働きます。競売買や入札による価格調整と在庫や生産量による非価格調整です。この調整の違いが余剰にどのような影響を与えるかを説明します。 【キーワード】 模索過程、価格調整、オークション、入札、数量調整	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	非競争市場の功罪	取引者の人数が少なくなると、市場は非競争的になります。極端なケースが独占市場です。独占価格の設定が総余剰を減少させる社会的損失をもたらすことを明らかにします。これを回避する方法として、望ましい公共料金の価格設定を説明します。 【キーワード】 独占価格、社会的損失、差別価格、自然独占、公共料金	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
5	不揃いの情報	売り手と買い手が同じ情報を共有していない状態で取引すると、逆選択が生じます。何らかの対応策を採らないと、市場取引が行なわれなくなります。これを回避する方法として、シグナリングやスクリーニングの役割について説明します。 【キーワード】 レモン市場、逆選択、モラル・ハザード、シグナリング、スクリーニング	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
6	財・サービスもいろいろ	国防・外交などの国益に関わるモノは公共財で、民間レベルで供給されることはありません。また、民間の経済活動に伴って外部性を発生させるケースもあります。この場合には、過剰生産や過少生産になってしまいます。これらの現象について説明します。 【キーワード】 公共財、非排除性、非競合性、外部性、社会資本	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
7	経済力の表わし方	一国の経済力を表わすGDPについて述べた後、GDPの支出面を構成する民間消費や民間投資に影響を与える諸要因について説明します。そして、財政政策や金融政策の効果について投資の利子非対称性などと絡めながら説明します。 【キーワード】 GDP、インフレ・デフレ、経済成長、投資の利子非対称性、投資の二面性	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
8	金融のしくみ	企業の資金調達の方法について述べた後、金融仲介機関の役割とさまざまなリスクについて説明します。さらに、国際金融市場での為替レートがどのように決定されるかについて考えていきます。 【キーワード】 リスク、直接金融、間接金融、企業のバランス・シート、為替相場	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
9	財政のしくみ	政府の活動は税金を収入源として行政サービスを提供しますが、まず税金の内訳とその使い途について説明します。さらに、政府の赤字を公債発行でカバーする場合の経済的な意味についても言及します。 【キーワード】 公共政策、直接税、間接税、赤字公債、プライマリー・バランス	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
10	貿易大国から投資大国へ	日本の貿易構造は、かつて加工貿易を特徴としていました。しかし、日本経済が拡大すると同時に、世界がグローバル経済の方向に進展するに伴って、海外への直接投資による投資収益の割合が増えてきました。このような流れについて解説します。 【キーワード】 比較生産費、自由貿易、保護貿易、海外直接投資、国際収支	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	日本型企業の特徴と 行方	生産活動の場は企業です。そして、法人格が与えられた会社の花形が株式会社です。この会社のしくみを説明しながら、会社主義の日本型株式会社の特徴について説明した後、それが維持されにくくなってきた事情について考えていきます。 【キーワード】 労使協調、系列、企業集団、メイン・バンク、株式持ち合い	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
12	雇用市場の変貌	かつて日本経済の強さの源泉といわれた日本型雇用は、高度成長と非競争的市場のマクロ環境を条件としていました。ところが、経済のグローバル化が進むと共に、日本の労働市場も流動化せざるを得なくなった理由を説明します。 【キーワード】 終身雇用、年功序列、人的資本投資、非正規社員、労働観	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
13	企業の社会的責任	企業に企業市民としての経済活動が求められています。単なる利潤追求の組織ではなく、ステークホルダーとして企業に関連する人たちへの配慮です。そのためには、企業の統治能力が重要になってきます。そこで、企業のあるべき姿を考えていきます。 【キーワード】 企業の社会的責任、ステークホルダー、コーポレート・ガバナンス、企業コンプライアンス	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
14	環境マネジメント	グローバル化に伴いヒト・モノ・カネが自由に移動します。それによって、地球規模での新たな問題が生じてきました。たとえば、地球温暖化や地域紛争による自然遺産や文化遺産の荒廃です。これらの問題への対処について述べます。 【キーワード】 社会的共通資本、ピグー税、排出権取引、ボーモル病、企業メセナ	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)
15	おわりに～ゆたかな 社会を求めて	ゆたかな社会は成熟した経済、倫理・道徳の普及、自然・文化環境の充実が欠かせません。過去に、先哲たちが目指したゆたかな社会創りに照らし合わせて、ゆたかさの条件と経済学の役割を考えていくことにします。 【キーワード】 定常状態、絶対的欲求、相対的欲求、ユートピア、3E	西村 理 (同志社大学 教授)	西村 理 (同志社大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128264	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 市民社会と法 (' 1 2) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 道幸哲也 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 加藤智章 (北海道大学教授) 〕

講義概要

市民社会において発生する日常的法律問題を、法哲学、刑事法、民事法、労働法、社会保障法の観点から検討します。具体的には5人の講師が1人3章ずつ担当しています。3章のうち 1章は ある領域の全体的状況の説明を、あと2章は、一般の人が興味をもつテーマにつき法的な考え方がわかる個別的な論点を検討しています。

授業の目標

本講義は、初学者むけの法学入門です。その主要な目的は、①法学の基礎知識を教える、ことと②具体的なケースや問題を通じて法的なものの考え方を伝える、ことにあります。

市民生活において発生する身近な紛争をどうやって解決するか、紛争の背景にある利害状況はどういっているか、また解決の基準はなにかを考えます。

履修上の留意点

テキストをあらかじめ読み、関連する条文を調べておいてください。理解が深まります。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	法的な世界の成り立ち	特に18世紀以降近代法が成立して以来21世紀の現在に至るまで続いて来た法の発展と変容の歴史を辿りながら、今日の私たちを取り巻いている法的な世界の成り立ちと基本的な性格をまとめ、これから学んでゆく法的な世界の基本的な有り様について考えます。 【キーワード】法の網の目・法の支配・法と法律	長谷川 晃 (北海道大学・教授)	長谷川 晃 (北海道大学・教授)
2	法と権利保障	そのように成立してきた近現代の法的な世界の基軸となっているのが市民の権利保障であることに焦点を当て、特に憲法を中心とした権利保障の一般的な意義や様々な生活領域における個別具体的な法律を通じた権利保障のあり方について概観し、権利保障をめぐる法的な世界と私たちの生活との関係を考えます。 【キーワード】権利=法・権利保障・法文化	長谷川 晃 (北海道大学・教授)	長谷川 晃 (北海道大学・教授)
3	諸法の相互関係と法の解釈	政治・経済・社会関係の全般に亘る私たちの生活の複雑化に対応して様々に専門分化している現代法の全体を一瞥しながら、それを特に市民の視点からどのように総合的に展望し、各自の身近な生活の中に生かしてゆくべきかを考えます。 【キーワード】法体系・法理念・法解釈	長谷川 晃 (北海道大学・教授)	長谷川 晃 (北海道大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	「刑法」のある風景— 刑法の役割	成熟した近代社会では、社会で起きる様々な「紛争」について、解決のためのルールが前もって定められている。ルールの違反者には、法的制裁(サンクション)が課せられる。そのうち最も強力なのが刑罰であり、その要件と効果(刑罰)を定める法律が「刑法」であるが、犯罪成立要件は明確に定められていなければならない(罪刑法定主義)。これら刑法に固有の基本的な原則を、判例の事例などをおとして学習する。 【キーワード】 犯罪、刑罰、サンクション、法益、罪刑法定主義、類推解釈の禁止、遡及処罰の禁止、刑事手続	白取祐司 (北海道大学・教授)	白取祐司 (北海道大学・教授)
5	正当防衛と緊急避難	刑法の犯罪構成要件にあたる行為をした場合でも、それが緊急やむを得ないと認められるときは、刑法上「違法性」がないとされ、無罪になる。違法論は、何が犯罪かという本質にかかわる議論である。また、緊急避難は、緊急やむを得ない場合の行為について、違法性を否定する理論である。いずれも、違法性が否定される代表的な事由であり、この2つを具体的事例をおとして学習する。 【キーワード】 違法性阻却事由、正当防衛、防衛の意思、偶然防衛、挑発防衛、原因において違法な行為、緊急避難、カルネアデスの板	白取祐司 (北海道大学・教授)	白取祐司 (北海道大学・教授)
6	「情報」を盗むことの 刑法的意味	刑罰を科すのは、たんにルールに違反したからというより、刑法(法律)が守ろうとしている利益(法益)を侵害したからである。この法益は、時代によって変遷する。明治時代につくられた現行刑法では、「情報窃盗」を有罪にできない。法益保護を理由に解釈あるいは立法でこれを処罰すべきか。慎重な検討が必要になる。 【キーワード】 情報、秘密、営業秘密、電磁的記録、窃盗、使用窃盗、企業秘密漏示罪、不正アクセス罪	白取祐司 (北海道大学・教授)	白取祐司 (北海道大学・教授)
7	私たちの生活と民法	民法は、私たちの法律関係を規律するもっともは基本的な法律です。この民法の体系と概要、民法典の沿革、民法の基本原則、私権行使の原則を説明します。 【キーワード】 公法と私法、一般法、特別法、任意規定、強行規定、所有権絶対の原則、私的自治の原則、契約自由の原則、過失責任の原則、一般条項、信義則、権利濫用	松久三四彦 (北海道大学・教授)	松久三四彦 (北海道大学・教授)
8	売買をめぐる法律関係	私たちの日常生活においてもっとも頻繁におこなわれもっとも重要な役割をはたしている売買契約について、その基本的な仕組みと、生じやすい典型的な問題を説明します。 【キーワード】 手付、動産、不動産、即時取得、登記、対抗要件、対抗問題、数量指示売買、隠れた物の瑕疵、瑕疵担保責任	松久三四彦 (北海道大学・教授)	松久三四彦 (北海道大学・教授)
9	損害賠償義務—不法行為法の基本的な仕組み—	一般の不法行為の要件・効果を説明し、どのような場合に損害賠償義務が発生し、その賠償額はどのように算定されるかを理解していただきます。 【キーワード】 故意、過失、権利侵害、違法性、因果関係、過失相殺	松久三四彦 (北海道大学・教授)	松久三四彦 (北海道大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	労働条件はどのように決まっているか	非正規労働者やワーキングプア層の増大がどのような労働法上の問題を提起しているかとともに労働条件の決定の仕組みとして、労働契約、就業規則、労働協約との相互関係を検討する。特に、就業規則の法的効力について詳しく検討する。 【キーワード】 生存権、団結権、労働契約、労働協約、就業規則、労働基準法、労働契約法	道幸哲也 (放送大学・教授)	道幸哲也 (放送大学・教授)
11	新しい職場の人権 - 労働者人格権とプライバシー権	最近急増する、セクハラ・パワハラをめぐる裁判を素材にそれを制約する法理としての労働者人格権の内容を解説する。同時に、このようなハラスメントをしない、させない工夫や法的な解決の限界等についても考える。 【キーワード】 労働者人格権、プライバシー、セクハラ、パワハラ、職場いじめ、自己決定権、身体情報	道幸哲也 (放送大学・教授)	道幸哲也 (放送大学・教授)
12	雇用終了をめぐる法律問題	雇用終了のパターンとして、使用者の意思による解雇、労使双方の合意による合意解約、労働者の意思による辞職があり、それらの違いについて解説する。さらに、雇用期間満了に伴う更新拒否のケースについてもふれる。 【キーワード】 解雇、合意解約、辞職、退職強要、労働契約法、整理解雇、有期雇用、試用期間	道幸哲也 (放送大学・教授)	道幸哲也 (放送大学・教授)
13	社会保障のグランドデッサン	社会保障制度の全体像を理解するために、社会保障制度審議会勧告に基づく枠組、その後の歴史的な経緯の紹介に併せて、少子高齢化の進行、国民医療費の動向、消えた年金記録問題、貧困率などを取り上げる。 【キーワード】 社会保険から社会保障へ、50年勧告、皆年金皆保険、世帯単位・個人単位、95年勧告	加藤智章 (北海道大学・教授)	加藤智章 (北海道大学・教授)
14	医療保障のあり方 - 保険診療をめぐる当事者関係を中心に -	被保険者証を提出する意義を出発点として、保険診療をめぐる当事者関係を中心とした医療保険制度の検討する。これにくわえて、公費負担医療や生活保護法における医療扶助を概観し、医療需要の側面から、医療保障のあり方を検討する。 【キーワード】 療養の給付に要する費用、第三者支払方式、償還払い方式、代理受領方式、公費負担医療	加藤智章 (北海道大学・教授)	加藤智章 (北海道大学・教授)
15	業務上外の認定と障害者福祉	業務災害か否かは、給付の内容が大きく異なるうえに、労働法にも関連するひろがりのある問題である。特に、近年その重要性を増していると思われるメンタル不調について考察する。次に、障害者福祉という視点から、何らかの事故や疾病等により、障害を負うに至った場合、特に社会福祉の領域ではいかなる施策が実施されているかを検討する。 【キーワード】 業務災害、非災害性疾患、ストレス脆弱性理論、自立支援給付、雇用義務制度、障害者雇用納付金	加藤智章 (北海道大学・教授)	加藤智章 (北海道大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128329	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 事例から学ぶ日本国憲法 ('13) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 岡田信弘 (北海道大学大学院教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 〕
 【本学担当専任教員 : 来生新 (放送大学副学長) 】

講義概要

我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理論的な観点だけでなく、具体的な事例や設問にそくして検討する。たとえば、日本国憲法が第8章で定める「地方自治」については、「地方分権の一環として、広域行政に対応すべく『道州制』が主張されることがあるが、都道府県を統廃合して道州にすることに憲法上問題はないか」といった設問を立てて、この設問に対する解答を導き出すために必要な知識や議論を検討する形で講義を進める。ともすれば遠い存在と受けとめられがちな日本国憲法を身近なところで理解することを試みたい。

授業の目標

日本国憲法の基本構造、全体像および具体像に関する基礎的な理解が望まれるとともに、本授業の学習を通して「法的なものの考え方」とその表現の仕方の習得も目標となる。

履修上の留意点

市民生活と裁判、現代の犯罪と刑罰、現代環境法の諸相、企業・消費者・政府と法、現代日本の政治も履修するとよい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「憲法」とは何か	日本国憲法もその系譜に連なる近代立憲主義の基本原則として、どのようなものがあり、それが日本国憲法のなかにどのように組み込まれているのかについて検討する。 【キーワード】 立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源、権力分立	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)
2	象徴天皇制と平和主義	日本国憲法が定めている天皇制と平和主義の法的内容について検討する。具体的には、天皇の地位および権限、平和的生存権、戦争放棄などについて考察するが、その際、歴史的観点と国際的観点を視野に入れることによってより深い理解を試みる。 【キーワード】 国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権、戦争放棄	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)
3	選挙制度と政党	国民・市民と国の政治をつなぐ選挙制度や政党制度にはどのようなタイプが存在し、日本国憲法の下でそれらがどのように具体化されているのかについて検討する。具体的には、選挙制度の分類、現行の選挙制度、政党の憲法上の地位などについて考察する。 【キーワード】 多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家、党籍変更議員の失職制度	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)	岡田信弘 (北海道大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	国会	「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもある国会について、その地位・組織・権限を検討するとともに、議員の地位や立法過程などについても考察する。 【キーワード】 国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制、ねじれ国会	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
5	内閣	政府形態に関する類型論を踏まえて、日本国憲法が採用している議院内閣制のありようについて検討する。具体的には、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて考察し、議院内閣制の運用や実態に関する理解も試みる。 【キーワード】 議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣、衆議院の解散	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
6	裁判所	日本の裁判所システム、すなわち裁判所の組織と権限、裁判員制度などについて検討するとともに、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実態について考察する。 【キーワード】 警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所、裁判員裁判	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
7	地方自治	地方自治の本旨を基礎にした、日本国憲法における地方自治のあり方について検討する。具体的には、地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて考察する。 【キーワード】 地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例、住民投票条例	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
8	人権の概念	日本国憲法における人権保障のありようを理解する前提として、そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて検討する。具体的には、人権の歴史、人権の体系、人権の享有主体などについて考察する。 【キーワード】 1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権、未成年者の人権	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
9	人権の適用範囲と分類	憲法で保障されている人権は、どのような法的関係に適用されるのか、またその制限が認められるのは、いかなる根拠によっていかなる場合なのかについて検討する。 【キーワード】 私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動、人権の分類	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
10	幸福追求権と法の下 の平等	幸福追求権と平等権の法的含意や具体的な保障内容について検討する。最も裁判例の多い分野でもあり、具体的な事例にそくして保障の実態についても考察する。 【キーワード】 幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権、合理的区別	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	精神的自由権(1) ー内心の自由	精神的自由権の中の、いわゆる内心の自由に関わる諸自由について検討する。具体的には、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などについて考察する。 【キーワード】 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由、大学の自治	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
12	精神的自由権(2) ー表現の自由	心の中での精神活動の成果を外部に表現することに関わる精神的自由権、具体的には表現の自由、集会・結社の自由などについて検討する。 【キーワード】 集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止、名誉毀損	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
13	経済的自由権	福祉国家的理念を採用している日本国憲法の下で、経済活動に関わる様々な自由がどのように保障され、逆に制限されているのかについて検討する。具体的には、職業選択の自由と財産権の保障について考察する。 【キーワード】 職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障、正当な補償	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
14	社会権	福祉国家理念を基礎にした20世紀的人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討する。具体的には、生存権と教育を受ける権利について考察する。 【キーワード】 生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件、環境権	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)
15	参政権と国務請求権	国民・市民が、国家機能の一翼を担うことになる参政権と国家機能の発動を請求する国務請求権について検討する。具体的には、選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利などについて考察する。 【キーワード】 選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理、国務請求権	岡田信弘(北海道大学大学院教授)	岡田信弘(北海道大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128116	履修 制限	無	単位 数	2

科目名(メディア) = 政治学入門 ('12) = (R)

〔主任講師(現職名) : 辻中 豊 (筑波大学大学院教授) 〕

【本学担当専任教員 : 山岡 龍一 (放送大学教授) 】

講義概要

現代における政治の役割、その実態を市民ひとりひとりが自分の問題として考えるために、市民と比較の視点から政治学の基礎を講義します。講義では、各国との比較や講師の経験を交え、現代に生きる人間の公的決定として、政治を理解できるよう努めます。全体の講義は、第一部総論から第二部 公的決定のシステム、第三部公的決定の主体、第四部 公的決定の内容—日本政治の変遷、とになっています。1-2回は政治とは何かを考え、3-6回は公的決定のシステムとして構造的な側面を、7-12回は政治のさまざまな主体、有権者、マスメディア、社会集団、議員と政党、首相と大統領、官僚と司法、について、最後の3回で日本と150年の政治の流れを押さえ、多様な政治学のアプローチを用います。

授業の目標

政治とは、それぞれの集団のレベルでの公的な決定をめぐる現象です。地球レベルの政治から個々の自治体や組織のレベルの政治まで、政治は多様なレベルに存在し、それぞれのレベルで仕組みや動態は異なりますが、公的な決定としての共通の機能をもっています。本講義では市民が主体であり、自己決定と公的決定が効果的に関連するシステムとしての民主主義をいかに各レベルで生かすことができるか、という問題意識をもちながら、国のレベルを中心に、政治の構造や機能、決定の主体について、様々な概念を理解することを目標とします。

履修上の留意点

テキストは基礎をしっかりと押さえた解説や資料を含みます。講義は、講師による解説で進みます。講義で各回の切り口や問題意識をとらえ、その角度からテキストをしっかりと読み込むことで理解が自分のものとなります。また、講義自体は時事性を離れたやや一般的な内容ですが、受講者は、その時々の政治現象に関するニュース、資料などを切り抜き・コピーなどをしながら、現場感覚で講義を受けることが望ましいと思います。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	政治とは何か	政治学が解明を目指す政治現象とは何かを明らかにします。「現実」「理想」「調整」という3つの政治観を提示し、「調整」という側面の重要性をのべ、さらに「政治とは公的な決定である」と定義します。さらに現代政治の条件、特徴として「大衆社会」と「多層的なガバナンス」について述べます。 【キーワード】 公的決定、正統性、強制力、大衆社会、多層的ガバナンス	辻中 豊 (以下同じ)	辻中 豊 (以下同じ)
2	政治システムにおける公的決定と類型化	政治の「静態的な鳥瞰図」をえるために、政治システム論を参照して、公的決定が形成・実行されることによって社会が動き、次なる公的決定の形成に影響を与えることを確認します。次にミクロな観点から演繹的に、公的決定の4つのパターンと4つの政治の性格を提示します。システム論では合理的で静かに見える政治が実は、ダイナミックで多様であること、そして、そうした公的決定の方式の規定因(決め手)として構造、主体＝アクター、状況という3つを提示します。 【キーワード】 政治システム、過程機能、システム機能、決定主体、決定内容		
3	政治体制—その1 配置 全体の構成	公的決定の内容と主体の型を決めるマクロな構造、政治システムの様々な構造的パターンは政治体制と呼ばれています。政治体制は、政治システムの特定の型であり、個々のモデルはそれを見分けるための色のついたレンズのようなものです。本講義では、公的決定の主体と内容から、エリート主義、多元主義、闘争主義、協調(コーポラティズム)主義の4つに関連する各レベルでの体制について説明します。 【キーワード】 エリート主義、多元主義、闘争主義、協調(コーポラティズム)主義		

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	民主主義:政治体制 その2 体制の質	市民にとっては、体制の型だけでなく、質としての民主主義が重要です。民主主義にまつわる様々な謎、複雑さを解き明かし、そして現代において最も広く使われるようになった自由民主主義、ポリアーキーと呼ばれる民主主義の質について理解することに力点を置きます。一つの尺度としてフリーダムハウスの方式についても触れます。 【キーワード】 自由民主主義、社会主義、第3の波、ポリアーキー	辻中 豊 (以下同じ)	辻中 豊 (以下同じ)
5	制度—政府の構成	国家など政治システムは、様々な政治制度の組み合わせから成り立っています。本章ではその主要なものとして、選挙制度、議会制度、地方自治制度などを説明していきます。制度は、公的決定の「主体」を定義づけ、誰が政治システムの構成員かを規定します。また、制度は何を(どのように)決めるかを左右するからです。制度が決定の内容やその形にも影響を与えます。 【キーワード】 制度、国家、選挙制度、議会制度、地方自治制度		
6	規範—市民の構成	政治の主体は自らの内なる価値基準に基づいて決定すると考えられます。価値基準はほとんどが社会的なもので、社会規範と呼ばれるものや、文化、イデオロギーといわれるものです。ここでは世界価値観調査の結果から各国での政治的なもののイメージの違いを確認し、価値観、規範、文化、イデオロギーなどが公的決定にどのように関係するかを考えてみます。 【キーワード】 政治文化、規範、アイデンティティ、イデオロギー		
7	アクターと政策過程	公的決定の前後において、多様な主体が、決定の形成や執行・裁定をめぐる不可欠な役割を果たしています。舞台には、「主役」以外にもいろいろな登場人物が「敵役」「脇役」「裏方」「操り手」などとして存在するのです。新聞記事やアンケート調査によるデータをもとにして、政治に登場するアクターとは誰なのかを明らかにします。政策過程分析におけるいくつかのモデルを紹介しながら示します。 【キーワード】 アクター、政策過程、合理的行為者、組織過程、組織内政治、ゴミ缶モデル、政策の窓、紛争の拡大と転位		
8	有権者とマスメディア	主権者である市民が、有権者として、政治に参加し、影響力を行使することは、民主主義の質を発展させる基本です。日本では、投票以外は、他の国に比して高い水準ではないが、マスメディアの発達世界的に見ても特筆すべきものがあります。政治参加、投票行動からメディアの影響力について検討します。 【キーワード】 政治参加、投票行動、投票モデル、業績投票、フレーミング、全国紙体制		
9	社会集団	現代社会において、様々な「社会集団」は組織されることで「団体」と呼ばれますが、団体は2つの顔、利益団体の顔を市民社会の顔を持つことを説明します。政治システムにおいて、システム機能も過程機能ともに団体の活躍の場です。団体組織がいかに形成され、いかにアクターとして公的決定に関与しているか、それらを現代日本に注目しつつ、比較の中で説明してみたいと思います。 【キーワード】 利益団体、市民社会、NPO、利益表出		

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	議員と政党	民主主義において、公的決定のもっとも中心的な形は、内政的には法律の制定と予算の決定、国際的には条約締結や国際組織加盟などの批准(決定)です。その決定を行う制度が選挙で選ばれた代表(議員)からなる議会です。法案を提案し、修正し、可否を決定する、主体が、議員であり、議員の集団組織である政党です。 【キーワード】 立法過程、政党システム、党内集団、政治家リクルート	辻中 豊 (以下同じ)	辻中 豊 (以下同じ)
11	首相と大統領	行政部を通じてシステム全体を指揮する部分について説明します。首相や大統領など政治システムの指導者については、指導者の資質に着目する特性論があり、他方に指導者を取り巻く制度や組織に着目する視点があります。リーダーシップとは何か。制度によってどのような制約を受けているのか、なぜ日本の首相はすぐに変ってしまうのかについて考えます。 【キーワード】 執政府、リーダーシップ、PM理論、拒否点		
12	官僚と司法	政治家と異なり選挙を経ないアクターについて解説します。試験による資格が必要となる官僚と司法(裁判官、検察官、弁護士)は、「選挙による民主的正統性を持たない」にも関わらず、公的決定に大きな影響を及ぼしています。中央の官僚制度とその関連の諸制度、また中央と地方の関係、さらに司法制度は大きな変化を経ました。基本的な仕組みを理解するとともに、どのような変化が生じ、なぜそのような変化が生じたかを考えます。 【キーワード】 メリットシステム、政治的任用、最大動員、二重の駒形、司法制度改革		
13	1860年—1960年の 日本政治	近代日本の政治は、明治維新以降の近代化と自由化、憲政と政党の発展、大恐慌以後の権威主義化、そして戦後の民主化と55年政党体制、さらにポスト55年体制の連立政権期をへて、2009年の政権交代と、何度かの転換を経験してきました。まず日本において近代化が生じた100年間、1860年頃から1960年までを検討します。具体的には、近代日本における2つの二重構造とその解消までを、国家の体制構成政策とアクター間の権力構造を中心に考えて描いていくことにします。 【キーワード】 非西洋の近代化、憲政、戦前の政党政治、戦後の自由民主主義		
14	1960年—1990年の 日本政治	日本の政治を長く特徴づけたのは、1955年に形成された政権党としての自民党の強さ、一党優位政党制でした。自民党は、1960年の危機を、所得倍增政策など経済成長政策に大きく舵をきることで克服し、1970年代の以後、都市住民に利益政治の範囲を広げることで安定させます。しかし、そのつけとして社会福祉や税制などでの大きな政策転換はなく、政権交代のある政党政治も実現しませんでした。 【キーワード】 発展志向型国家、55年体制、産業別人口構成、政官関係、社会党の失敗、ブレーン政治		
15	1990年以降の日本政治	1990年に日本ではバブルの崩壊が始まり、前後して冷戦が終焉し、ソビエト連邦が崩壊しました。日本政治も1993年には非自民連立政権が誕生し、55年体制から連立政権の時代に変化しました。長い模索の時期を経て、2009年には民主党を中心とした政権に移行しました。高い期待を持って出発した新しい政権は内外の多く問題処理に悩み混乱する中、2011年3月には未曾有の東日本大震災が発生、公的決定への役割、政治体制が大きく問われることになりました。 【キーワード】 民主党、危機の政治、双系野党、財政危機、課題先進国日本		

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128280	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 経営学入門 ('12) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 小倉行雄 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 齊藤毅憲 (横浜市立大学名誉教授) 〕

【本学担当専任教員 : 】【

講義概要

基本的な経営課題について標準的な内容で説く。同時に、そこで提示する枠組みにより、受講者が今日の企業活動に対して自らの判断で評価を下せるようにする。このため、枠組みの背景となる考え方は丁寧に解説し、枠組みの応用となる実践的な問題も随時取り上げていく。

授業の目標

①初学者が興味をもって楽しく経営学を学べるような工夫に努める。②経営学の基本的な概念をわかりやすく具体的に説く。③経営学の全体像をつかむことで企業活動の理解度を増す。これにより、現代社会と企業に関する自分なりの把握の一助にする。

履修上の留意点

本講は、「ケースで学ぶ現代経営学('12)」他経営関係の科目を履修する上で、基礎となる科目である。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	経営学を大きくつかむ	経営学を大きく4つの側面からとらえることで、今日的な企業活動に関する一貫性ある説明を試みる。 【キーワード】 経営学の4側面、問題解決学、成果創出学、人と組織の行動学、構想と構造変革学、見えない問題への対応、目的性の追求、仕組み化の必要	小倉行雄(放送大学教授)	小倉行雄(放送大学教授)
2	経営学の方法と考え方の理解を深める	経営学史を振り返ることと、経済学との比較により、経営学の方法や考え方の特徴を浮かび上がらせる。 【キーワード】 問題解決学の潮流、成果創出学の潮流、管理過程論、組織論の潮流、経営戦略論の系譜、経営学の考え方の特徴	同上	同上
3	企業の理解	企業の機能を知るとともに、企業の分類や今日的にみた企業の意味について解説する。 【キーワード】 ビジネス化、生産的なシステム、創造的なシステム、オープンシステム観、目的志向性、投入と産出のシステム	齊藤毅憲(横浜市立大学名誉教授)	齊藤毅憲(横浜市立大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	企業の内部構造	個別企業の内部構造を明らかにする。所有(出資)、経営、労働、組織などをキーワードにして、小規模企業と大企業の内部構造のちがいを認識したい。 【キーワード】 所有、経営、労働の三位一体、統制の範囲、所有と経営の分離、経営内部の分化、システム(物的組織)、階層分化と職能分化、技術	齊藤毅憲(横浜市立大学 名誉教授)	齊藤毅憲(横浜市立大学 名誉教授)
5	経営者の役割とコーポレート・ガバナンス	経営者の役割と専門経営者の増大。会社の内外に納得できるコーポレート・ガバナンスづくりとはどのようなものか。 【キーワード】 経営者機能、専門経営者のコーポレート・ガバナンスの公平さのための方策	同上	同上
6	環境変化と企業の対応	今日の経営における環境変化の持つ意味と、環境変化に対応する経営について理解する。 【キーワード】 環境変化とその分類、環境への対応、緊急事態のもとでの人間と組織	同上	同上
7	企業経営と経営理念	現代経営においてなぜ経営理念が重視されるのか。 【キーワード】 経営理念の効果と意味、経営理念の曖昧性と一貫性に関する矛盾、企業文化の形成、経営理念と経営戦略	同上	同上
8	経営戦略とは何か	経営戦略とはどのようなものか。戦略の基本的構成要素、戦略の策定方法について検討し、経営戦略のこれからのあり方についても考察を加える。 【キーワード】 外部環境への能動的適応、将来像やビジョン、戦略の3層構造、成長マトリックス、競争戦略の基本類型	小倉行雄(放送大学教授)	小倉行雄(放送大学教授)
9	事業システムの理解	事業システムとは何か。事業システムはどう位置づけられてきたか。事業システムを構成する要素は何か。事業システムは全体としてどう調整されるか。事業システムの優劣評価や再構築の問題を検討する。 【キーワード】 事業システム、バリューチェーン・モデル、ビジネス・モデル、アウトソーシング、BPR、SCM、ポーターの3つの基本戦略	佐藤善信(関西学院大学 専門職大学院経営戦略 研究科教授)	佐藤善信(関西学院大学 専門職大学院経営戦略 研究科教授)
10	マーケティングの理解	マーケティングの基本を理解する。現代社会においては、なぜマーケティングの重要性が増すのか。マーケティングの手法にはどのようなものがあるか。 【キーワード】 マーケティング・コンセプト、4P、4C、事業ドメイン、顧客志向と顧客ニーズ、顧客起点の発想法	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	企業組織をどうつくるか	企業組織の基本構造や組織設計の基本原則とは、どのようなものか。企業の発展と大規模化に伴い、組織形態にどのような変化が出てきたか。主な組織形態をとりあげて解説する。 【キーワード】 単一事業組織、職能別組織、事業部制組織、SBU、マトリックス組織、ライン&スタッフ	原田順子(放送大学教授)	原田順子(放送大学教授)
12	組織のなかで人を動かす	組織において人材は重要な要素である。組織と人材の関わりについて学習する。人材に関する議論のなかから、日本企業における内部人材の重視、キャリア開発に焦点をあてて解説する。 【キーワード】 人的資源管理、内部昇進、リーダー人材、種まき型の人事、キャリア開発、自律的キャリア	同上	同上
13	財務・会計の役割を理解する	経営における財務・会計の基本的役割について理解する。企業の成績表と呼ばれる財務諸表には何があるか。どのような内容になっているのかについて学習する。また、財務諸表を分析する手法を紹介する。 【キーワード】 経営機能と財務・会計の役割、財務諸表分析、各種財務指標の意味、財務情報の読みとり	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)
14	企業評価	財務情報を企業評価に生かす。企業財務からみた企業の目的を理解し、企業価値評価の手法を学ぶ。また、企業価値を高めるための活動について検討する。 【キーワード】 企業価値、株主価値、キャッシュフロー、貨幣の時間価値、正味現在価値、市場付加価値、経済付加価値	同上	同上
15	企業の変化と新しい経営学	持続可能性という観点から新しい経営学のあるべき方向性を探る。自治体経営や非営利組織の経営の問題についても検討する。 【キーワード】 持続可能性、有限の時代、成長パラダイム、持続性パラダイム、3R、三方よし、自治体経営、非営利組織の経営	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128272	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会のなかの会計 （'12）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 齋藤正章（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 石川純治（駒澤大学教授） 〕

講義概要

会計が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計のグローバル化が社会経済に大きなインパクトを与えている。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。

授業の目標

個々の新しい会計基準を知ることよりも、大きく変容する現代の会計をトータルに理解することがより大切である。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか、変容する現実社会のなかで会計がどのように機能しているか、本講義をとおして変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見に役立つことを目標とする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	歴史のなかの簿記会計 ～温故知新～	講義のプロローグとして講義全体の視点(3つの視軸の相互関連)について説明したあと、会計を歴史の文脈で学習することの大切さを知っていただく。現代の会計を真に理解するには、過去の会計を知ることが大切だからである。 【キーワード】 複式簿記の起源と伝播、口別損益計算、期間損益計算、近代会計、現代会計、会計士会計学	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
2	簿記とは何か ～単式、複式、三式～	会計の基礎には複式簿記があり、複式簿記のない会計は考えられない。講義では簿記の常識・通念を根本的に問うことで現に存在する複式簿記を相対化する。 【キーワード】 単式簿記、複式簿記、複式簿記の内容と形式、展開表簿記、三式簿記	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
3	キャッシュフローの簿記会計 ～第3の基本財務表～	損益計算書、貸借対照表に次ぐ第3の基本財務表であるキャッシュフロー計算書を取り上げる。今回は、特にその記録計算の仕組み(構造)に焦点を当てる。 【キーワード】 キャッシュフロー計算書、直接法、間接法、キャッシュフロー経営、キャッシュフロー革命	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
4	損益計算とキャッシュフロー計算 ～同型性と相対性～	損益計算書とキャッシュフロー計算書はその計算目的を異にしている以上その会計形態を異にしているが、その形態の基底には相共通する構造が存在することを明らかにする。 【キーワード】 変動貸借対照表等式、財産法と損益法、間接法と直接法、複式仕訳、振替、同型と相対	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
5	複式簿記のサイエンス ～複式簿記とは何であり、何でありうるか～	これまでの議論をふまえて、複式簿記とは「何であったか」(過去)、「何であるか」(現在)だけでなく、さらに「何でありうるか」(未来)という問にも答えるために、複式簿記のサイエンスといった方法について議論する。 【キーワード】 構造と形態、同型と相対、技術性と歴史性、記録媒体と記録方式、複式簿記のスケルトン、複式簿記と数学	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
6	企業会計の基本的な考え方 ～「企業会計原則」の立脚点～	今日の企業会計の変容を考える際、議論の出発点をどこにおくかが極めて重要になる。そこで、その出発点をこれまでの会計ルール基礎にある「企業会計原則」、とりわけその立脚点(基本的考え方)に求めて議論を進める。 【キーワード】 企業会計原則、動態論、静態論、会計変容	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
7	時価会計の浸透(1) ～金融商品会計の論点～	資産の時価会計の代表格である金融商品会計を取り上げ、前回での「企業会計原則」の基本的考え方に照らして、それとの整合・非整合性の問題を考える。 【キーワード】 企業会計原則の変遷過程、実現主義、金融商品会計、会計の制度性、計算と開示	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
8	時価会計の浸透(2) ～退職給付会計の論点～	今回は退職給付会計を取り上げ、負債の時価会計について議論する。ここでも、この新たな会計基準が「企業会計原則」の部分修正の延長上にあるかどうか、とりわけ「発生」で説けるかが問われる。 【キーワード】 発生主義、退職給付会計、引当金、負債と費用、実態開示と損益計算	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
9	変容の全体をどう見る ～3つの見方～	従来の会計基準と新たな会計基準とからなる今日の企業会計の全体をどう見るか、その見方に大きくは3つあることを示す。そして、それが変容の度合いの見方の相違でもあることを明らかにする。 【キーワード】 ハイブリッド・アカウンティング、会計配分、CAAモデル、収益費用中心観、資産負債中心観	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
10	変容の形と方向 ～ハイブリッド性～	今日の企業会計の変容がどのような「形」になっているか、さらにその変容がいかなる「方向」(ベクトル)を向いているかを、その基礎から明らかにする。 【キーワード】 会計枠組み、配分と評価、記録と情報、計算と開示、企業価値	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	新たな会計秩序を求めて ～会計基準の「憲法」作り～	新たな会計秩序の構築に向けた概念フレームワーク作りを取り上げ、そこでの基本的な考え方をこれまでの考え方との比較において議論する。 【キーワード】 企業会計原則、日本版概念フレームワーク、2つの整合性問題	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
12	トライアングル体制の変容 ～規範と現実～	企業会計と密接にかかわっている商法(会社法)および税法の変容をみることで、企業会計、商法会計、税務会計のいわゆる「トライアングル体制」の今日的変容を取り上げる。 【キーワード】 企業会計、商法会計、税務会計、トライアングル体制	石川純治 (駒澤大学教授)	石川純治 (駒澤大学教授)
13	経済のグローバル化と会計	経済のグローバル化に応じて、会計もグローバル化する。そこで、企業会計の国際化の事例も交えて、会計国際化の問題を取り上げる。 【キーワード】 国際会計基準、国際会計基準審議会(IASB)、国際財務報告基準(IFRS)	齋藤正章 (放送大学准教授)	齋藤正章 (放送大学准教授)
14	中小会社と会計	株式会社の9割以上は中小の非公開会社である。公開大会社むけの企業会計が限りなく国際化するなか、それとは自ずと性格を異にする中小会社の会計を取り上げる。 【キーワード】 中小会社会計、非公開会社、ダブルスタンダードとシングルスタンダード、新会社法、会計参与	齋藤正章 (放送大学准教授)	齋藤正章 (放送大学准教授)
15	自治体と会計	今日、地方自治体の財政破綻が問題になっているが、東京都は発生主義など企業会計の手法を取り入れた新たな財務諸表を作成することにした。そこで、いくつかの事例をととして自治体行政に会計がどこまで役立ちうるかを検証してみたい。 【キーワード】 自治体、行政、公会計	齋藤正章 (放送大学准教授)	齋藤正章 (放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1124200	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 多様化時代の労働 (' 1 0) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 原田 順子 (放送大学教授) 〕

講義概要

現在、「労働の多様化」がいくつかの面から進んでいる。たとえば、パート、派遣など、雇用形態の多様化が進展している。また、雇用者の属性をみれば、女性、高齢者、外国人など、多彩な人々が職場に進出している。そして評価に関していえば、人の多様化に対応するように、集団主義的管理から個人成果の反映へと変化が広まってきた。この講義では、労働の多様化に関する主要な事柄をとりあげ、現代の雇用労働の状況と課題を学習する。

授業の目標

この科目の目標は履修者に現代の労働について重要と思われる問題について理論的知識と具体的な事例を提供することにある。この講義により履修者が労働について、雇用形態、属性、評価などの面で多様化が進んでいることを理解することを目標とする。

履修上の留意点

15回の講義を通じて履修者は、ラジオ放送の解説、説明を聴き、印刷教材を熟読し、参考文献も読むことを期待する。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	労働の多様化	あらゆる面で労働の多様化が進展しているといわれている。男性中心であった企業社会が変わり、高齢の労働者や外国人も増加した。雇用形態の多様化も進展し、パートタイマーや派遣労働者など非典型労働が社会を支えている。これらの課題について概観する。 【キーワード】 多様化、雇用形態、雇用者の属性、テレワーク	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
2	経営資源としての人材	経営資源として人材は重要な要素である。人材の管理についてフレームワークを学習する。日本企業はコア人材 (基幹人材) への投資を実践してきたが、コア人材を含む多彩な人材の活用について学習する。 【キーワード】 人事管理、OJT、Off-JT、コア人材、企業特殊的技能	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
3	ダイバーシティ・マネジメント	フルタイム正規雇用の日本人男性を主体とする組織運営がなされてきた。しかし近年、従来の主役ではなかった人々を含む多様な人材の管理 (ダイバーシティ・マネジメント) が注目されるようになった。アメリカのダイバーシティ・マネジメントの起源を学習したうえで、日本型ダイバーシティ・マネジメントの特徴を把握する。 【キーワード】 ダイバーシティ・マネジメント、公民権法第7編、日本型ダイバーシティ・マネジメント、CSR	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	女性の労働と雇用	人口の半分を占めながら管理職の1割を占めるに過ぎない女性、日本におけるダイバーシティ・マネジメントの主たる対象である。女性がどのように働き、企業がどのように女性を雇用しているのか、歴史的推移や国際比較を通して、見ていく。 【キーワード】 女性、労働力率、出生率、管理職比率、コース別雇用管理制度	関西学院大学大学院 准教授 大内章子	関西学院大学大学院 准教授 大内章子
5	大卒女性ホワイトカラーのキャリア形成と雇用管理	多様な女性の中でも大卒女性ホワイトカラーに焦点を当て、彼女らがどのように技能を形成し、どのようにワーク・ライフ・バランスをとってキャリアを形成しているのか、また企業はどのように彼女らを人材育成し、ワーク・ライフ・バランス施策などの支援をして雇用管理しているのか、を見ていく。 【キーワード】 大卒女性、キャリア形成、ワークキャリア、ライフキャリア、総合職、一般職、管理職、ワーク・ライフ・バランス	関西学院大学大学院 准教授 大内章子	関西学院大学大学院 准教授 大内章子
6	高年齢者と労働	少子高齢化と低成長の結果、高年齢者に対する社会保障が課題になっている。雇用者のためにも、そして企業のためにも高年齢者という存在を織り込んだ上で上手く回っていく仕組み作りが、今、求められている。高年齢者について、定年制を中心に解説する。 【キーワード】 定年制、結晶性知能、改正高年齢者雇用安定法	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
7	経済のグローバル化と人材	経済のグローバル化が進展している。先進工業国に比較して、新興工業国の経済成長が目覚ましい。世界各国が貿易依存度を高めており、経済のグローバル化と多極化が同時進行している。わが国の企業も、現地生産、現地販売、海外の市場間の輸出入に取り組み、優秀な人材を国内外に求めている。現状と課題を学ぶ。 【キーワード】 グローバル化、トランスナショナル組織モデル、海外子会社・孫会社、リーダー人材	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
8	日本の労使関係	日本的労使関係の特徴について学習する。そのうえで、労働組合組織率の低下と非正規雇用の増加について考える。また、労働者の多様化の例としてパートタイマーの増加をとりあげ、パートタイマーの組織化に関して解説する。 【キーワード】 企業別組合、労働組合組織率、非正規雇用	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
9	ヨーロッパにおける典型労働と非典型労働	ヨーロッパでは、非典型労働は増加しているのか。各国における臨時労働や派遣労働の比率を見たのち、その違いの背景となる典型労働や非典型労働に関する規制のあり方を探る。 【キーワード】 臨時労働、派遣労働、解雇規制、フレキシビリティ	亜細亜大学 教授 権丈英子	亜細亜大学 教授 権丈英子
10	パートタイム労働 I	日本とヨーロッパ諸国におけるパートタイム労働の特徴を概観する。日本のパートタイム労働法、EUにおけるパートタイムとフルタイムの均等待遇や労働時間延長短縮の権利保障などの取り組みを紹介する。 【キーワード】 パートタイム労働法、EUパートタイム労働指令、非自発的パート	亜細亜大学 教授 権丈英子	亜細亜大学 教授 権丈英子

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	パートタイム労働Ⅱ	先進国中最もパートタイム労働者の割合が高く、パートタイム労働者の活用や待遇改善が進んでいるオランダを取り上げる。オランダがなぜ現在のようなパートタイム社会になったのかを、1980年代以降の同国の社会経済的背景を 探ることから考える。 【キーワード】 パートタイム社会、オランダ、ワッセナー合意、均等待遇、労働時間選択の自由	亜細亜大学 教授 権丈英子	亜細亜大学 教授 権丈英子
12	戦後の賃金制度の変遷	第二次世界大戦後、わが国の正社員の賃金制度はどのように変化してきたのか。生活給思想に基づいた電産型賃金は、なぜ戦後の混乱期に受け入れられたのか。そして、合理的賃金として登場した職務給を経て、日本的賃金制度の標準型となった職能資格制度までを振り返る。 【キーワード】 生活給思想、電産型賃金、職務給、職能資格制度	放送大学 教授 原田順子	放送大学 教授 原田順子
13	評価と賃金の多様化	働き方の多様化は、その職務を担当する人材の評価と賃金のあり方に多様化をもたらしている。雇用形態に応じた組織への貢献度に基づき給与や賞与の支払ルールがどう変わってきているのか。さまざまな立場の社員が働く「モザイク職場」を前提としたこれからの評価と賃金のあり方を検討する。 【キーワード】 トータル人材マネジメント、複線型人事、キャリア・ラダー	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿
14	成果主義1:正しい成果主義の原理	年功主義から成果主義へのトレンドは、もはや不可逆的な流れである。一方で、成果主義がもたらした弊害も無視することはできない。組織と個人のパフォーマンスを適正に測定して社員の処遇に結びつけるポイントは何か？ここでは、成果主義の原理原則と内在している課題について検討する。 【キーワード】 パフォーマンス・マネジメント、コンピテンシー、モチベーション	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿
15	成果主義2:ミドルを覚醒させる人材マネジメント	機能する成果主義の実現のためには、制度のインフラ整備もさることながら、実際には、それを運用する現場の評価者としてのミドル・マネジメントの力量が問われてくる。ここでは、最近何かと批判も多いミドルを正しく覚醒させ、真のマネジメント人材を育成していくための条件を検討する。 【キーワード】 ミドルの復権、意識と行動の変革、学習する組織	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1122908	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) =

技術者倫理

(' 0 9) = (T V)

〔主任講師 (現職名) : 札野 順 (金沢工業大学教授) 〕

【担当専任教員 : 岡田 光正 (放送大学教授) 〕

講義概要

科学技術は、新しい「価値」を生み、社会と環境に大きな影響を与えます。それゆえ、技術を実践する「行為者」である技術者は社会に対して特別の責任を負っています。本科目では、技術者がその職務を遂行する上で、必要な新しい「倫理」について考察します。技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、スペースシャトルチャレンジャー号事故などの具体的な事例を通して紹介します。また、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学びます。特に、技術者が重視すべき「価値」(安全など)を、学協会の倫理綱領を通して検討します。これらの学習を踏まえ、21世紀の技術者に求められる倫理的な判断能力について考えます。

授業の目標

1. 科学技術の発展に伴い、人間の「行為」の領域が拡大したので、技術を実践する「行為者」である技術者には、新しい「倫理」が必要であることを理解できる。 2. 技術的解決の結果が、社会や環境に与える影響の範囲と大きさを理解できる。 3. 技術に関する意思決定を行う際に、考慮すべき種々の「価値」について認識できる。 4. 技術者が担う特別の責任について、その歴史的背景を含めて、理解できる。 5. 技術を実践する上で、発生し、技術者が直面する可能性のある倫理的問題を認識できる。 6. 倫理問題を分析する手法について理解すると共に、それらの手法を種々の事例に適用できる。 7. 倫理問題に唯一絶対的な解はなく、複数の視点が存在し得ることを理解する。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	技術者倫理とは何か 学習目標: 1. 科目概要:技術者倫理を学ぶ目的 2. 科目の学習・教育目標の理解 3. 技術者倫理の定義の理解	1. 技術倫理に関わる事例のフラッシュ映像の提示 2. 問いかけ「あなたが現場の技術者であるとしたらどのように行動しますか。」 3. 科目概要、科目の学習・教育目標の提示 4. 技術者倫理の定義の説明 5. 科学技術と価値 6. 技術者倫理の4つのレベル(メタ、マクロ、メゾ、ミクロ) 【キーワード】	札野 順 (金沢工業大学・教授)	札野 順 (金沢工業大学・教授) 大場恭子 (金沢工業大学・研究員)
2	技術者が意思決定を迫られる状況とは(1)	1. 技術者倫理における事例検討の重要性 2. 事例研究(スペースシャトル・チャレンジャー号に関する解説) 3.あなたが現場技術者ならいかに行動するか。 4. 現場の技術者の視点(ロジャー・ボジョリー氏に聞く) 【キーワード】	札野 順 (金沢工業大学・教授) 大場恭子 (金沢工業大学・研究員)	札野 順 (金沢工業大学・教授) 大場恭子 (金沢工業大学・研究員)
3	技術者が意思決定を迫られる状況とは(2) (事例を通した用語/概念などの解説)	1. 本事例におけるステークホルダーと価値 2. 本事例をメタ・マクロ・メゾ・ミクロの視点から考える 3. マクロ・レベル:科学技術と行為の拡大 4. メゾ・レベル:組織の問題、制度、権限の問題など 5. ミクロ・レベル:技術者はいかに行動すべきか:倫理的意思決定の方法 【キーワード】	札野 順 (金沢工業大学・教授) 柄内文彦 (金沢工業大学・准教授)	札野 順(金沢工業大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	なぜ今、技術者倫理か(1)	1. 科学技術の歴史、エンジニアリングの歴史、特質に関する解説 2. 科学技術の発展に起因する社会の変容 3. 近代科学の成立と「内なる自然(人間の本能など)」を理解し制御するものとしての新しい倫理学(義務論、功利主義など)の台頭 4. 職業としてのエンジニアリングの発達 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大学・准教授)
5	なぜ今、技術者倫理か(2)	1. 科学技術の進展による行為の拡大と新しい倫理の必要性 2. 科学技術と社会の新しい関係: 科学技術社会論の視点 3. 科学技術に関連する「価値」に関する議論 4. 環境倫理学、生命倫理学、情報倫理などが明らかにした事柄に関する議論 ゲスト: 加藤尚武氏(京都大学名誉教授) 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 柄内文彦 (金沢工業大学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 柄内文彦 (金沢工業大学・准教授)
6	技術者としていかに行動すべきか(1)	1. 倫理的問題とは何かージレンマ問題を手がかりに 2. 倫理的思考の特徴 3. 倫理原則と倫理問題の解決方法 4. 倫理と法の関係 【キーワード】	金光秀和 (金沢工業大学・准教授)	金光秀和 (金沢工業大学・准教授)
7	技術者としていかに行動すべきか(2)ー行為の設計と価値	1. 技術者が重視すべき価値とは何か 2. 「社会契約説」と倫理綱領 3. 倫理綱領の歴史 4. 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値 5. 設計問題と倫理問題 【キーワード】	金光秀和 (金沢工業大学・准教授)	金光秀和 (金沢工業大学・准教授)
8	技術者としていかに行動すべきか(3)ー倫理的意思決定の方法	1. 黄金律テスト、普遍化可能性テスト、その他倫理テストなどに関する解説 2. セブンスステップガイドの解説と応用 3. 倫理的判断を行う際に技術者が知っておくべき法律 4. 倫理的判断を妨げる要因と促進する要因 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 金光秀和 (金沢工業大学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 金光秀和 (金沢工業大学・准教授)
9	優れた意思決定がもたらすもの	1. 技術者の倫理的な意思決定が良い結果をもたらした事例に関する理解 2. 事例研究(ホンダCVCCエンジンの開発) 3. 事例研究(シティコープタワービルの危機) 4. 二人の技術者の比較 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 大場恭子 (金沢工業大学・研究員)	札幌 順 (金沢工業大学・教授) 大場恭子 (金沢工業大学・研究員)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	組織の中の技術者 (1)ー公益通報をめ ぐって	1. 事例紹介(ギルベイン・ゴールド簡略版) 2. 組織の中の技術者ーその責任と権利 3. 公益通報が倫理的に許される条件 4. 公益通報をめぐる諸問題 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大 学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大 学・准教授)
11	組織の中の技術者 (2)ー技術者倫理と 企業倫理	1. 事例研究(内部告発によって明らかになった事例の紹 介) 2. 倫理的な技術者が公益通報をしなくてもよいように企業 は何をすべきか。 3. 企業倫理プログラムとは何か 4. 優れた倫理プログラムに含まれる要素 ゲスト:梅津光弘氏 慶応義塾大学商学部 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 大場恭子 (金沢工業大 学・研究員)	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 大場恭子 (金沢工業大 学・研究員)
12	組織の中の技術者 (3)ーすぐれた取り組 み	1. 東京電力の取り組み 2. 日本テキサスインスツルメンツの取り組み 3. 雪印乳業の取り組み 4. 東芝の取り組み 5. 日立製作所の取り組み ゲスト:村松邦子氏(テキサス・インスツルメンツ) 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 大場恭子 (金沢工業大 学・研究員)	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 大場恭子 (金沢工業大 学・研究員)
13	高度技術社会におけ る技術者の新しい役 割	1. 科学技術とリスク 2. 個別技術(原子力技術、遺伝子組み換えなど)に関する 検討 3. リスクの不確実性と社会的意思決定 4. 社会とのコミュニケーション ゲスト:班目春樹(東京大学・教授)／小林傳司(大阪大学・ 教授) 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大 学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 夏目 賢一 (金沢工業大 学・准教授)
14	責任ある研究活動と は何か	1. 研究倫理の事例(ベル研論文捏造、韓国ES細胞、東大 事件)に関する考察(ゲスト:村松秀氏 NHK) 2. 「責任ある研究」に関する解説 3. 研究における価値の変容:なぜ、不正は起こるのか 4. 研究における不正行為:FFP(捏造、改竄、剽窃) 5. 責任ある研究を推進するためには 【キーワード】	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 柄内文彦 (金沢工業大 学・准教授)	札幌 順 (金沢工業大 学・教授) 柄内文彦 (金沢工業大 学・准教授)
15	技術者の新しい役 割:社会のなかの、社 会のための技術者: Philosopher-Engineer を目指して	1. 技術/技術者倫理の諸相 2. ミクロからマクロへ:宇宙の歴史を1年にたとえると 3. 高度技術社会における技術者倫理の重要性の解説 (Howの知識から、whatとwhyの知恵へ;総合的な問題解決 能力としての、「技術者倫理」の重要性) 4. Philosopher-Engineerを目指して:技術者の優れた意思 決定がもたらすもの(本田CVCC、ルメジャー、等) 【キーワード】	札幌 順 (金沢工大・ 教授) 大場恭子 (金沢工大・ 研究員)	札幌 順 (金沢工大・ 教授) 大場恭子 (金沢工大・ 研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (社会系)	科目 コード	1128213	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 技術経営の考え方 (' 1 1) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 柴山盛生 (放送大学客員准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 東 千秋 (放送大学名誉教授) 〕

【担 当 専 任 教 員 : 岡田 光正 (放送大学教授) 】【

講義概要

新しい技術の急速な展開で、技術を取込む経営への関心が高まっている。本科目は、初学者に必要な基礎的知識を提供することを目的としている。これまで、ビジネス系のMBAでは、人的資源管理など経営実務に必要な専門知識とビジネスリーダーとして活躍できる論理的思考力に力点を置いていた。また、最近の潮流である技術系のMOTは、最先端の技術をどのように経営に活かすかを実践的に考えることに力を入れている。ここでは、MBA とMOTの各々が置いてきた力点を考慮し、これらに共有される技術ノベーショを取込む上で不可欠な知識をまとめることによって、より高い経営能力を身につける専門への入り口となることを目指している。

授業の目標

この授業の目標は、いわゆるイノベーションを取込む経営・技術経営とは何か、どのような考え方をするのかなどを知るとともに、広い経営能力を身につけていくための基礎的な知識を獲得することにある。その概要は、①組織システムの運営②チームワークを良くするためのコミュニケーション能力③職業倫理と職業意識に基づく管理力④現代技術の潮流の理解⑤技術の社会受容性⑥イノベーションを取り込むマネジメント能力⑦技術社会システムの設計力などである。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	はじめに	技術経営は、イノベーションを起こし、それを組織に取り込んで組織の目的を永続的に達成することを意図している。開講に際し、授業の目標や科目の構成を解説するとともに、技術戦略、技術経営と組織変革、科学と科学技術、技術の社会連携といった様々な技術経営の視点を紹介する。 【キーワード】 技術経営、技術戦略、組織変革、科学技術、技術の社会連携	柴山盛生、東千秋、竹川勝雄、門奈哲也	柴山盛生、東千秋、竹川勝雄、門奈哲也
2	組織の成り立ちと要素	組織が機能するのは何故だろうか。ここでは、組織は職業によって組み立てられ、職業に課せられた職務によって様々な部門が統合され組織として機能していることを学ぶ。 【キーワード】 職業、個人の意思決定、組織の意思決定、権限の体系、経営計画、経営理念、組織構造、組織過程、秩序ある集団	竹川勝雄	竹川勝雄
3	組織の運営と意思決定	組織の特性、企業統治、また、組織の意思決定プロセスなど、組織運営の基本となっていることを学ぶとともに、環境変化に合わせて組織を変革する上での課題を取り上げる。 【キーワード】 人間集団、分化と効率化、専門化、高度化、標準化、組織の硬直性、企業統治、組織の均衡、イノベーション、ステークホルダー	竹川勝雄	竹川勝雄
4	職業倫理と組織変革	現代において組織は、永続性とともに行動には市民としての倫理性が求められる。それ故、組織は、絶えず社会の要請を反映する変革が求められる。職業倫理が組織変革に果たす役割を考える。 【キーワード】 社会規範、行動科学、経営計画と派生的影響、コンプライアンス、日常の論理、企業カプセル、イノベーション、時間軸概念	竹川勝雄	竹川勝雄

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	コミュニケーションとリーダーシップ	組織は、組織の様々な分野の職業人の価値観が統合され、結果として社会に財貨やサービスを産出する。組織がこうした機能を果たす上で重要なコミュニケーションとリーダーシップを取り上げる。加えて、全ての職業人には、組織を運営するという視点が欠かせない。 【キーワード】 行動特性、命令一元化原則、コーチング、ベクトル、不確実性、コンフリクション、形式知と暗黙知	竹川勝雄	竹川勝雄
6	企業文化	企業にはその企業の独特の社風がある。この社風すなわち企業文化はどのように生まれ、また、どのようにしてこの文化を作っていくのだろうか。経営の理念を基に企業目標の設定から社会的役割の達成に向けて、技術管理の視点を含めてどのような企業文化を考えていくのかを学習する。 【キーワード】 企業文化、企業理念	柴山盛生	柴山盛生
7	企業と社会責任	自由主義経済から、公共や福祉など社会的な視点が深く入り込んだ経済へと変換している。企業が社会に与える影響、企業の倫理性などを考え、さらに今日関心を集めている、企業統治や環境経営などについて考える。 【キーワード】 企業と社会、企業統治、企業の社会的責任、環境経営	柴山盛生	柴山盛生
8	技術開発の光と陰	科学技術の進歩が1700年代後半の産業革命以来急速になった陰に動力の開発にあることから、その動力開発と通信の基盤である半導体電子技術の功罪を考える。さらに、地球の人口は、今や60億人を超えているが、それを可能にしている農業とそこにおける肥料や農薬の功罪について考える。これらを通じて、科学とは異なる科学技術の進歩を考える。 【キーワード】 技術開発の光と陰、動力の開発、半導体電子技術、肥料や農薬の功罪、技術進化	東 千秋	東 千秋
9	これまでの技術のライフサイクル	科学と技術の違いを認識し、これまでの技術のライフサイクルを概観する。技術の普及には各段階とギャップがあり、その意味について知る。そして技術とその市場のありようを考え、イノベーションにおけるジレンマを知る。 【キーワード】 技術と科学、技術のライフサイクル、技術普及の段階とギャップ、キャズム、技術と市場、イノベーションのジレンマ	東 千秋	東 千秋
10	これからの技術の視点	これからの技術は、環境保全や資源の枯渇を防ぐなど、持続可能社会を前提とした社会に応える技術と自然科学主体ではなく自然科学、社会科学、人文科学と融合する科学を利用する人間の感性を考慮した技術が主なるものとなるといえよう。しかしながら、「もの作り」の視点は不可欠である。このことを踏まえて、これからの技術の視点を考える。 【キーワード】 これからの技術の視点、環境保全、持続可能社会、人間の感性	東 千秋	東 千秋
11	技術の社会連携	技術の社会需要の動向を予測し、その波及効果を測定しながら技術開発を行うには、技術の社会連携とそのプロセスの構築が必要である。ここでは、企業における商品開発を中心として、具体的事例を取り上げながら、技術と社会との連携について学習する。 【キーワード】 商品開発、バリューチェーン、源流管理、市場調査	門奈哲也	門奈哲也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	技術革新の歴史	技術経営の大きな目的の一つに、企業にイノベーションを起こし社会や経済の変革を促すことがある。まず、イノベーションについて考え、日本における技術革新の歴史的な過程を概観する。そして、海外から技術を導入した時代から最盛期を過ぎ経済が停滞した時代までを踏まえて、これからの技術革新を展望する。 【キーワード】 イノベーション、技術革新、科学技術政策	柴山盛生	柴山盛生
13	イノベーションとマネジメントの進化	大きな変革を乗り越えた時期の社史を教材として、イノベーションに対する企業の環境適応や競争への対応を観察し、イノベーションを取込む、或いは、イノベーションを促進する、さらに、職業人を創造的で主体的な生き方へと方向付けし組織へ取り込む、そうしたマネジメントの進化とも言える多様性を考察する。 【キーワード】 決断、目利き、不確実性への兆戦、ロードマップ、改善、品質保証制度、死の谷、社内取引、セル生産方式	竹川勝雄	竹川勝雄
14	企業の発展と技術	ここでは、日本の主要な産業を支えたものづくりにおける生産方式の推移を、自動車産業を中心にして分析する。また、その中で、製品の特性を示す製品アーキテクチャ、製品の価値を決める生産管理など生産システムを支える技術や、生産方法による技術戦略について技術的な視点から検討を行う。 【キーワード】 ものづくり、製品アーキテクチャ、生産管理、技術戦略	柴山盛生	柴山盛生
15	今後の経済社会と技術管理	技術経営を広く展開する組織における技術管理の進め方、技術管理者にとっての発想、意思決定の方法などをまとめる。そのための技術予測、国際動向、知的財産権などの最近関心が高い話題と技術管理者のあり方を探る。 【キーワード】 技術管理、技術動向、知的財産、技術戦略の展開	柴山盛生	柴山盛生

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1233718	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 疾病の成立と回復促進 (' 1 1) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 松尾 ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 大和谷 厚 (大阪大学名誉教授) 〕

【本学担当専任教員 : 田城 孝雄 (放送大学・教授) 】【

講義概要

疾病の原因、疾病がもたらす身体内部の変化と生活過程の変化、そして、疾病からの回復を促進させる過程について現象的、分析的に理解し、人間を生活者として全人的にみつめ、疾病をもつ人々への個別な看護を展開するために必要となる専門的な基礎知識を学ぶ。

授業の目標

さまざまな疾病について、健康から疾病に至る変化のプロセス、疾病がもたらす身体内部の変化、疾病の生存・生活機能別の特性、そして疾病からの回復促進についての基礎知識から、健康問題を抱える人々の生活を調整するための看護の役割を理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	疾病の成立と疾病からの回復	疾病は全人的な理解に基づいて捉えねばならない。健康から疾病にいたるプロセスを、生体の反応、疾病発現の要因、疾病と健康レベルの関係、日常生活への影響から理解し、生体の回復力と身体心理社会的因子、疾病の個人とその生活への影響について学び、回復過程での看護の機能と役割を考える。 【キーワード】 環境要因、遺伝要因、生活習慣、アセスメント、ホメオスタシス、回復力、個体差	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)
2	基本的な病変(1) 病理変化	健康状態と比較して疾病のある状態とはどのような状態か、細胞や組織の変化から疾病の成り立ちについて学ぶ。疾病に罹患したとき、からだの細胞や組織はどんな状態にあるのか、その異常事態に対して、からだはどんな変化を示すのかについて学ぶ。 【キーワード】 萎縮、変性、壊死、アポトーシス、修復、再生、適応、炎症、免疫、代謝異常、先天異常、腫瘍	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)
3	基本的な病変(2) 感染症と生体防御	人は微生物から多くの恩恵を受けており、人に感染症をおこすものはごく一部にすぎない。このような人と微生物のかかわりを正しく理解した上で、人に備わった微生物に対する防御のしくみと微生物がこれを突破して感染症をおこすメカニズム、さらに感染症を防ぐための手段について学ぶ。 【キーワード】 病原微生物、感染経路、潜伏期間、免疫、感染防止、薬剤耐性	岡田 忍 (千葉大学大学院・教授)	岡田 忍 (千葉大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
4	疾病に対する医療 (1) 診断と治療、予防	健康な状態からの変化を確認する診断過程と診断のための検査、看護の視点からのアセスメント、そして、その疾病を治療する方法と看護ケアについて学ぶ。さらに、疾病の予防についても考える。 【キーワード】 症状と徴候、診察、臨床検査、手術療法、薬物療法、放射線療法、リハビリテーション、第一次予防、第二次予防、第三次予防	三上 洋 (大阪大学名誉教授)	三上 洋 (大阪大学名誉教授)
5	疾病に対する医療 (2) 薬物療法と薬物の有害作用	疾病の治療に用いられる医薬品とその薬理作用について概説し、なぜ薬は病気(病態)に効くのか、また、安全かつ効果的に薬を効かせるにはどのように投与すれば良いかについて理解し、薬物療法における看護職者の役割について学ぶ。また、薬物による健康被害について考える。 【キーワード】 医薬品、主作用と副作用、有害作用、薬物の投与法、生体内薬物動態、薬物相互作用、コンプライアンス、服薬指導	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
6	神経機能の障害	中枢神経系(脳と脊髄)、末梢神経系(体性神経系と自律神経系)、および感覚器系(視覚、聴覚など)に障害を引き起こす主要疾患と生じる機能障害について学ぶ。 【キーワード】 脳血管障害、変性・脱髄疾患、脳腫瘍、脳炎、脊髄損傷、意識障害、麻痺、痙攣、認知症、末梢神経炎、視覚障害、聴覚障害	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
7	呼吸機能の障害と心臓機能の障害	呼吸機能、心臓機能のアセスメントについて解説し、主要な呼吸疾患と心臓疾患について学ぶ。また、生命の危機をもたらすショックや多臓器不全について、その発症メカニズムと経過を理解し、迅速な対応について学ぶ。 【キーワード】 呼吸器の炎症、閉塞性肺疾患、肺循環障害、肺腫瘍、先天性心疾患、心筋症、虚血性心疾患、不整脈、心不全、ショック	三上 洋 (大阪大学名誉教授)	三上 洋 (大阪大学名誉教授)
8	血管系機能の障害と造血機能の障害	全身の血管系、血管内を流れる血液、そして血液の成分である血球や血液凝固系などの主要疾患について学ぶ。 【キーワード】 動脈硬化症、高血圧、閉塞性動脈疾患、大動脈瘤、静脈瘤、貧血、出血と凝固、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	三上 洋 (大阪大学名誉教授)	三上 洋 (大阪大学名誉教授)
9	免疫機能の障害	人を感染症から護るべき免疫系の異常により発症する自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全について学ぶ。また、臓器移植に関わる免疫の問題についても考える。 【キーワード】 膠原病、花粉症、蕁麻疹、アナフィラキシー、AIDS、移植免疫	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害(1) 栄養バランス	栄養状態のアセスメントと栄養指導、栄養バランスの不均衡による疾患について学び、生活習慣を含めての生活の調整するための看護の役割について考える。 【キーワード】 高脂血症、痛風、糖尿病、メタボリックシンドローム、栄養素、肥満、やせ、摂食障害	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)
11	栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害(2) 消化器系の疾患	口腔から肛門に至る消化管および肝臓、胆嚢、膵臓からなる消化器系の主要疾患と生じる機能障害について学ぶ。 【キーワード】 悪心・嘔吐、腹痛、便秘と下痢、消化性潰瘍、消化器癌、イレウス、黄疸、肝炎、肝硬変、肝臓、肝不全、胆石、膵炎、膵腫瘍	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
12	排泄機能の障害	泌尿器(腎、尿路、膀胱)の疾患、排尿・排便の障害について解説し、排泄機能の看護アセスメントとケアについて考える。 【キーワード】 腎炎、腎腫瘍、膀胱癌、尿路通過障害、尿失禁、腎不全、便秘、下痢	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)
13	内部環境調節機能の障害	人体の内的環境は、微妙な変化を伴いながら維持されている。この変化は様々なメカニズムによってコントロールされている。この恒常性の維持という仕組みをつかさどる内分泌機能と自律神経機能とそれらの障害について学ぶ。 【キーワード】 内分泌系、自律神経系、ホルモン異常、水と電解質、酸塩基平衡	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)
14	生殖機能の障害	生命の連続性をつくりだすために用意されている仕組み、すなわち生殖という機能を成り立たせている条件と、それらの障害によりこれらの機能が十分に果たせなくなる場合のメカニズムについて学ぶ。 【キーワード】 出産、分娩、性成熟、更年期障害、受胎調節、勃起不全	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)	山内豊明 (名古屋大学大学院・教授)
15	運動機能の障害と皮膚の障害	骨、関節、筋肉の疾患について学び運動障害・制限への支援を考える。また、皮膚の疾患と皮膚の観察とアセスメントについて学ぶ。 最後にこの科目においての15回の講義を通じての学びについてまとめる。 【キーワード】 骨折、骨粗鬆症、骨腫瘍、変形性関節症、筋ジストロフィー、ALS、皮膚炎・湿疹、熱傷、凍瘡、褥瘡	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)	松尾ミヨ子 (聖マリア学院大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234080	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 人体の構造と機能 (' 1 2) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 大和谷 厚 (大阪大学名誉教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 佐伯 由香 (愛媛大学大学院教授) 〕
 【本学担当専任教員 : 田城 孝雄 (放送大学教授) 】

講義概要

私たちの体は両親からの遺伝情報を受け継いだ1個の受精卵が分裂を繰り返し増殖した約60兆個の細胞から成り立っている。それぞれの細胞は分化し、集団を形成して組織となり、組織が組み合わさって構成される器官(臓器)が有機的に連関して特定の機能をもった器官系を形成している。これら各器官系の構造と機能を学ぶとともに、人体の内部環境の恒常性を維持する営み、生体を防御するしくみ、生命を次代に繋ぐ生殖、そして個体の老化について学び、看護の対象である人間の身体で繰り広げられている生命活動を理解する。

授業の目標

日常生活を営むうえで、人体がどのような構造を持ち機能しているかについて理解し、疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習するための基礎とする。

履修上の留意点

特に必要な予備知識はありません。「疾病の成立と回復促進」を履修していただくと、人の体での生命活動をより深く学習できます。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	人体の基本構造と機能	人体を構成する最小単位である細胞の構造と機能について理解し、細胞が集って組織、器官、器官系を形成してできる人体の基本構造を概説する。また、人体の基礎的機能を植物機能と動物機能に分けて説明する。 【キーワード】 細胞、組織、器官、器官系、遺伝情報、情報伝達、身体の区分、植物機能、動物機能	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
2	恒常性の維持	多数の細胞からなる生体は細胞間で情報交換し、生命活動を行うのに最適な内部環境を整え、この恒常性を維持している。このことを体液の組成と量および体温の調節から説明する。また、生命活動には様々な周期での規則的な変動がありこの生体リズムについても解説する。 【キーワード】 生体の組成、体液、物質の移動、浸透圧、酸塩基平衡、体温、生体リズム	彼末一之 (早稲田大学・教授)	彼末一之 (早稲田大学・教授)
3	栄養と代謝	内部環境を維持し生命活動を営むため、私たちは外界より栄養素を取り入れ、人体にとって必要なものに代謝し、そして不必要なものを分解し外界へ排泄している。個々の栄養素について、この過程を説明する。 【キーワード】 栄養素、ビタミン、酵素、同化と異化、炭水化物、脂肪、蛋白質、核酸	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	生体の防御機構:免疫	自己と非自己を区別し、認識した非自己を排除するしくみが免疫である。免疫により外部からの病原微生物などから体を守る一方、アレルギー反応や自己免疫疾患など生体に不都合な状況を作り出してしまうこともある。この免疫のしくみについて解説する。 【キーワード】 自然免疫、獲得免疫、抗原、抗体、感染防御、アレルギー、自己免疫	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)
5	神経系の構成と機能	私たちの体の内外からの情報を集め、それを処理し、身体の機能をコントロールする神経系について、その構造と機能、情報伝達のしくみについて説明する。 【キーワード】 情報伝達機構、中枢神経系、脳循環、体性神経、自律神経	彼末一之 (早稲田大学・教授)	彼末一之 (早稲田大学・教授)
6	内分泌系のしくみと働き	内分泌臓器はそれぞれの特有のホルモンを合成し分泌して、内部環境の調節を神経系とともに担っている。これらのホルモンには、どのような種類があり、どのようなしくみで作用し、生命活動を調節しているかについて解説する。 【キーワード】 ホルモン、視床下部、下垂体、甲状腺、膵島、副腎、性腺	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)
7	血液の組成と機能	体中を流れ、物質や熱の運搬、内部環境の維持、感染防御、止血などの機能を持つ血液について、その成分と機能を解説し、また、血液型の概略と輸血について説明する。 【キーワード】 血液幹細胞、赤血球、白血球、血小板、血漿、血漿たんぱく、血液凝固、血液型、輸血	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
8	循環器系(1):心臓の構造と機能	循環器系の中心である心臓について、その構造、発生と心奇形、心筋収縮のメカニズムとその調節機構、そして、心臓を栄養する冠循環系について解説する。 【キーワード】 心室、心房、弁、固有心筋、刺激伝導、冠循環、心機能	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)
9	循環器系(2):血管系とリンパ系の構造と機能	心臓から送り出された血液は、血管の中を流れ、全身を灌流したのち心臓に戻ってくる。この血管の種類、構造、機能について説明し、個々の血管系、胎児期の循環、血圧の調節について解説する。また、組織液の循環を司るリンパ系についても解説する。 【キーワード】 動脈、静脈、門脈、毛細管、肺循環、体循環、胎児の血液循環、血圧、リンパ系	彼末一之 (早稲田大学・教授)	彼末一之 (早稲田大学・教授)
10	呼吸器系の構成と機能	細胞での物質代謝やエネルギー代謝に不可欠な酸素を取り入れ、生じた二酸化炭素を排出する呼吸器系について、その構成と機能、呼吸運動の調節について解説する。また、声帯での発声機構についても説明する。 【キーワード】 上気道、声帯、気管、気管支、肺、縦郭、呼吸機能、ガス交換、内呼吸、外呼吸	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	消化器系の構成と機能	食物を摂取し、消化し、栄養素を吸収するための全長9mに達する消化管と、その消化吸収に関わる付属器官としての肝臓、胆嚢、膵臓について、構造と機能を説明する。また、咀嚼、嚥下、排便についても解説する。 【キーワード】 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、消化と吸収、肝臓、胆嚢、膵臓、消化酵素、咀嚼、嚥下、排便	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)
12	尿の生成と排尿:泌尿器系の構成と機能	腎臓で生成された尿は、尿管を経て膀胱に溜め、尿道から排尿する。この泌尿器の構造、尿生成のメカニズム、蓄尿と排尿の調節機構について解説する。 【キーワード】 腎臓、糸球体、尿細管、尿生成、腎機能、尿管、膀胱、尿道、蓄尿、排尿	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)	佐伯由香 (愛媛大学大学院・教授)
13	運動器系の構成と運動のしくみ	骨格と骨格筋、関節の形態と構造、筋収縮の分子機構、そして姿勢や運動の制御のしくみについて解説する。 【キーワード】 骨、関節、骨格筋、筋収縮、運動、姿勢、錐体路、錐体外路	彼末一之 (早稲田大学・教授)	彼末一之 (早稲田大学・教授)
14	感覚器系の構造と機能	体の外の光、音、温度、圧力、重力や化学物質、あるいは体の中の運動感覚や臓器感覚(尿意、満腹感、内臓痛など)を認識している感覚器系について、構造とそれぞれの感覚の認識のしくみについて解説する。 【キーワード】 感覚、視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、体性感覚	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)	大和谷 厚 (大阪大学名誉教授)
15	生殖と老化	新しい個体を生み出す生殖について、その機能を担う生殖器の構造と働き、受精から分娩に至る経過について説明する。さらに、誕生した個体の成長と加齢による変化、そして寿命と死についても解説する。 【キーワード】 女性生殖器、性周期、男性生殖器、勃起と射精、妊娠、分娩、成長、老化	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)	内田さえ (東京都健康長寿医療センター・研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目	科目 コード	1234129	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 疾病の回復を促進する薬 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：福永 浩司（東北大学大学院教授）〕
 〔主任講師（現職名）：渡邊 泰男（昭和薬科大学教授）〕
 【本学担当専任教員：井上 洋士（放送大学教授）】

講義概要

病気によって身体の正常な機能が障害されてしまった場合に、治療の一つとして薬が使われる。薬はいろいろな作用機序によって薬効を発現し、疾病の回復を促進する。その一方、副作用として逆に身体に有害作用をもたらすこともある。この講義では、薬が効果を発現する仕組みを理解することに加えて、薬が医療の中でどのような役割を担っているか、また薬が有効にかつ安全に使われるために、医師・看護師・薬剤師などがどのように協力しているかを理解する。この授業は、看護師学校養成所2年課程（通信制）に対応可能な科目としても作成されている。

授業の目標

疾病からの回復を促進する薬について、その使用目的や作用機序に注目しながら、薬物についての一般的な知識と適切な使用法を学習する。また、そのために医療者が病院内でどのような働きをしているのかについても学ぶ。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	薬理学総論(1)	薬は病気の治療や予防、診断に用いられ、私たちの命を守るためだけでなく、人が健康に過ごすためにも欠かせないものとなっている。薬が効く仕組みを理解するためには、身体の仕組みや病気の成り立ちについて知る必要があり、その上にたって初めて病気の治療における薬の作用機序が理解される。薬理学は薬(薬物)と生体との相互作用を明らかにする学問である。薬とは何か、薬理学とは何かを理解し、薬が効果をあらわす仕組みについての基本的な考え方を学ぶ。また、薬に関する法律や基本的な分類などについても学ぶ。 【キーワード】 薬物受容体、セカンドメッセンジャー、用量-反応曲線、薬物依存	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)
2	薬理学総論(2)	薬物の作用は用量や患者の年齢・性別・体質、多剤の併用など様々な要因によって変化する。また、薬物は内服や注射など様々な方法によって適用されるが、投与された後に体内に吸収され、組織に分布されたのちに、代謝、排泄される。薬理作用に影響を与える因子について学び、薬物の体内動態について理解する。また、薬物の適用方法について学び、薬物を他剤や飲食物と併用した時にどのような副作用があらわれるのかについても学ぶ。 【キーワード】 初回通過効果、薬物動態、薬物相互作用、薬物-飲食物相互作用	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)
3	末梢神経に作用する薬(喘息治療薬を含む)	末梢神経は自律神経(交感神経と副交感神経)と体性神経(運動神経と知覚神経)より成り立つ。自律神経は循環、呼吸、消化のような不随意的機能を制御する。一方、運動神経の抑制薬は随意筋である骨格筋弛緩をもたらす、筋弛緩薬として外科的手術時に使われる。知覚神経の抑制薬は知覚消失につながり、局所麻酔薬として使われる。本講義では、末梢神経に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な興奮(作動)薬や遮断(拮抗)薬についてその基本知識を理解する。具体的例として気管支喘息の治療に使われる薬物について学ぶ。 【キーワード】 アドレナリン作動薬、コリン作動薬、骨格筋弛緩薬、局所麻酔薬	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	中枢神経に作用する薬(1)	神経系に作用する薬は薬物治療において非常に大切である。その理由は神経系は生命を維持するために必要な機能を巧みに調節しているからである。この神経系の情報は、神経伝達物質によって伝えられる。つまり神経伝達物質の生合成や分解および薬理的受容体に特異的に作用する薬物が生命維持機能調節薬になりうる。そこで、本講義では、神経機能を抑制することで作用する全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬および麻薬性鎮痛薬について学ぶ。 【キーワード】 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、ベンゾジアゼピン系薬物、オピオイド	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)
5	中枢神経に作用する薬(2)	中枢神経系は脳と脊髄からなり、生命維持に重要な情報の受け取りと記憶や学習を含む情報処理や判断を行うコントロールセンターである。本講義では、前回に引き続き、中枢神経に作用する薬として向精神薬については精神抑制的に作用する統合失調症治療薬や抗不安薬と精神賦活作用のある抗うつ薬について学ぶ。また、パーキンソン病および認知症に使用される薬物についても学ぶ。 【キーワード】 メジャートランキライザー、マイナートランキライザー、ドパミン仮説、脳内コリン	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)
6	循環器系に作用する薬	心血管系は循環系とも呼ばれ、心臓のポンプ機能により血液を全身に送り、組織に酸素や栄養素を供給する。ポンプ機能の異常や血液の通路ともいべき血管の異常は、心不全、狭心症、不整脈、高血圧をもたらす。本講義では、これらの疾患の病態生理とそれぞれの代表的治療薬(心不全治療薬、狭心症治療薬、不整脈治療薬、高血圧治療薬)を取り上げ、その薬理作用、機序、適応および副作用について学ぶ。また、動脈硬化治療薬として高脂血症治療薬についても学ぶ。 【キーワード】 強心薬、硝酸薬、頻脈性不整脈、レニン・アンギオテンシン系	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)	渡邊泰男(昭和薬科大学教授)
7	血液に作用する薬	血液は赤血球や白血球、血小板などの血球成分とそれ以外の血漿成分からなり、酸素や栄養分、代謝老廃物の運搬に加え、酸塩基平衡や水分均衡の維持、生体防御など生命の活動において極めて重要な役割を担っている。血管が損傷すると血小板や血漿成分が働き、損傷部位に血栓が形成され、これにより止血が起こり、血液の過剰な体外漏出が防がれる。ところが、この止血機構に障害が起こると、出血が止まらなくなり、死に至ることもある。また、血管内で異常な血栓が形成されると、心筋梗塞などの致死的な疾患を引き起こすことがある。止血薬や抗血栓薬、貧血治療薬を取り上げ、その薬理作用の仕組みを学ぶ。 【キーワード】 貧血、出血性疾患、血栓症	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)	守屋孝洋(東北大学大学院准教授)
8	内分泌系に作用する薬(1)	内分泌器官で産生されるホルモンは外部環境に対して、身体が恒常性(ホメオスタシス)を保つために必須である。ホルモンにはペプチド・蛋白質ホルモン、アミン系ホルモン、ステロイドホルモンなどがある。内分泌腺がんやホルモン分泌異常疾患に対する薬の使い方との副作用などの臨床上的注意事項について学ぶ。 【キーワード】 下垂体ホルモン、バセドウ氏病、性ホルモン、経口避妊薬、前立腺肥大症	福永浩司(東北大学大学院教授)	福永浩司(東北大学大学院教授)
9	内分泌系に作用する薬(2)	糖代謝にかかわるホルモンであるインスリン分泌異常による糖尿病と骨代謝異常による骨粗鬆症とその治療薬について学ぶ。腎臓の生理と病態について学び、利尿薬の作用機序、適応と副作用などの臨床上的注意事項について学ぶ。 【キーワード】 糖尿病、インスリン、経口血糖降下薬、骨粗鬆症、利尿薬	福永浩司(東北大学大学院教授)	福永浩司(東北大学大学院教授)
10	抗感染症薬と抗がん薬	人の身体に侵入した細菌・ウイルスが増殖して、身体の機能を障害する仕組みとがん細胞が増殖する仕組みについて学ぶ。また、細菌・ウイルスによる感染症およびがん疾患に対する化学療法剤の適応および副作用などの臨床上的注意事項について学ぶ。 【キーワード】 化学療法、抗生物質、抗菌スペクトル、薬剤耐性、院内感染	福永浩司(東北大学大学院教授)	福永浩司(東北大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	免疫治療薬と抗炎症薬	人の身体は体外から病原体が侵入すると身体を防御する免疫が働く。免疫応答を調節する薬について学ぶ。免疫応答が過度に起こり組織障害を起こす場合をアレルギー(過敏症)と言う。また、生体組織が損傷をうけると炎症性物質が遊離されて発赤、腫脹、痛み、発熱が起こる。ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬の適応および副作用などの臨床上の注意事項について学ぶ。 【キーワード】 能動免疫, 受動免疫, 自己免疫疾患, ワクチン, アレルギー, 関節リウマチ, 痛風	福永浩司(東北大学大学院教授)	福永浩司(東北大学大学院教授)
12	消毒薬と外用剤	主に身体の外表面に用いられる消毒薬, 外用剤を取り上げる。これらを皮膚科, 眼科, 耳鼻科, 整形外科など, 用いられる領域ごとに分類し, それぞれの薬理作用や副作用について学ぶ。また医療施設や介護施設, 在宅ケアなどの場での使用法, 注意事項などについて学ぶ。 【キーワード】 局所投与, 滅菌・洗浄・消毒, ステロイド薬, 抗菌薬, 鎮痛消炎薬, アレルギー	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)
13	精神科治療薬の安全な使用	精神科治療薬の使用には, 飲みすぎる問題(依存), 乱用, 過量服薬が社会問題になっている。また, 病気に対する正しい知識がないために, 飲まない問題(怠薬), 服薬中断, 離脱症状なども深刻な問題である。精神科薬物療法におけるほかと異なった特徴, 問題点を学ぶ。 【キーワード】 薬物依存, 薬物乱用, 服薬アドヒアランス, 離脱症状, 心理教育	安川節子(八代更生病院副院長)	安川節子(八代更生病院副院長)
14	薬の安全な使用(1) - 副作用の回避	薬を安全に使用するためにどのような対策がとられているのかを2回にわたり論じる。医薬品をめぐる問題には, 大別して医薬品そのものに起因する副作用と, 誤った使用に起因する事故があるが, まず前者の副作用について, 予防あるいは早期発見のための, 処方と疑義照会, 副作用モニター, 薬物動態解析などについて学ぶ。 【キーワード】 処方箋, 規制区分, 臨床薬理学, 個別化医療, 医薬品開発プロセス	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)
15	薬の安全な使用(2) - 薬がかかわる医療事故の回避	医薬品をめぐる問題のうち, 誤った使用に起因する事故の回避を中心に取り上げる。病院内の医薬品使用のプロセスと医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフの関わりや, 「要注意薬」について学び, 薬の安全な使用について考える。またセルフメディケーションと医薬品情報の利用についても触れる。 【キーワード】 要注意薬, インシデント, 医薬品の適正使用, 薬物療法上のセーフティーマネジメント	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)	村井ユリ子(東北大学大学院准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード*	1234137	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 睡眠と健康 (' 1 3) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 佐藤 尚武 (滋賀短期大学学長) 〕
 【 本 学 担 当 専 任 教 員 : 臼井 永男 (放送大学教授) 】

講義概要

睡眠と覚醒によるリズムは生命現象の基盤にあり、睡眠は栄養や運動と並んで、健康を支える重要な要素である。したがって、睡眠は健康の維持増進に関わるライフスタイルの改善に必須であるばかりでなく、労働環境の改善、疾病予防や事故防止にとっても重要であると考えられる。新しい学問体系として、2002年に睡眠学は日本学術会議から提唱され、認知されつつある。本科目では、健康に関わる睡眠について、眠りのメカニズム等に関わる科学的アプローチ、睡眠に関連した疾病等の医学的アプローチ、睡眠障害の社会に及ぼす課題等の社会的アプローチにより構成されている。

授業の目標

睡眠不足や睡眠の不規則性に伴う日中の眠気や作業能力の低下、あるいはストレスなどで眠れなくなる不眠は、誰しも日常的に遭遇する問題である。適切な睡眠を得ることは、身体にとって栄養補給と同じく不可欠である。本科目では、睡眠について科学的根拠にもとづいた知識を提供するとともに、ライフステージにおける睡眠の課題を明らかにすることによって、健康の維持増進に関わる自己管理能力を高めることをねらいとしている。

履修上の留意点

健康の維持増進を支える要素には、栄養、運動、休養(睡眠)がある。健康領域の科目として、基礎科目の「運動と健康(' 13)」を学んでいることが望ましい。また、専門科目にある「食と健康(' 12)」を履修することも望まれる。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	睡眠学への誘い	睡眠研究の歴史を概観し、日本学術会議で提唱された睡眠学を睡眠科学、睡眠医歯薬学、睡眠社会学の観点から概説する。 【キーワード】 24時間社会、睡眠学、睡眠科学、睡眠医歯薬学、睡眠社会学	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)
2	環境と身体の特性	健康に関連する身体特性をふまえ、外部環境の変化に対する身体の適応制御システムの理解のもとに、健康問題を把握する。また、地球環境の変化、特に自転と公転による生体リズムについて、代謝量の日内変動や季節変動を通して理解を深める。 【キーワード】 身体の開放系、身体の適応制御系、概日リズム(サーカディアンリズム)、代謝量の日内変動、代謝量の季節変動	佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)	佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)
3	睡眠の役割	睡眠の役割は、単なる休息といった消極的なものではなく、脳を創り、守り、修復することで、より良い活動ができるようにするための重要な生理機能を果たしている。睡眠の意義、必要性について解説する。 【キーワード】 レム睡眠、ノンレム睡眠、交感神経、副交感神経、成長ホルモン、メラトニン、コルチゾール	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	睡眠の構造	一夜の睡眠経過を通して、睡眠脳波や睡眠の深さ、ノンレム睡眠とレム睡眠の違いなど、睡眠の構造について解説する。 【キーワード】 睡眠脳波、睡眠ポリグラフ記録、睡眠段階、レム睡眠、ノンレム睡眠、睡眠経過	林 光緒 (広島大学教授)	林 光緒 (広島大学教授)
5	睡眠のメカニズム	睡眠覚醒の調節機構について、睡眠のタイミングと深さという二面的な視点から、体内時計がどのように機能しているのか、睡眠物質としてどのようなものがあるのか、睡眠物質が体内でどのように産生されて機能しているのかについて解説する。 【キーワード】 体内時計、メラトニン、睡眠物質、プロスタグランジン、アデノシン、オレキシン	勢井宏義 (徳島大学教授)	勢井宏義 (徳島大学教授)
6	睡眠と発達・性差	睡眠は加齢によって異なり、性差もみられる。乳幼児から高齢者にいたるまでの年齢による睡眠の特徴、男女による睡眠の違いについて解説する。 【キーワード】 加齢、子どもの睡眠、中高年の睡眠、女性の睡眠、月経リズム、更年期	林 光緒 (広島大学教授)	林 光緒 (広島大学教授)
7	睡眠と夢・記憶	なぜ夢をみるのか、夢の形成について解説するとともに、学習による知識や技能が睡眠中にどのように記憶されていくのかについて解説する。 【キーワード】 夢、入眠時心像、金縛り、宣言的記憶、手続き記憶	林 光緒 (広島大学教授)	林 光緒 (広島大学教授)
8	睡眠と環境	睡眠の質や量は環境条件による影響を受けている。生活環境における温度、光、騒音などが睡眠に及ぼす影響について解説する。 【キーワード】 体温、高温環境、低温環境、湿度、光、騒音	林 光緒 (広島大学教授)	林 光緒 (広島大学教授)
9	睡眠と社会	国内外の睡眠に関わる疫学的調査を通して、睡眠の実態について概観し、現代社会における睡眠の課題について概説する。 【キーワード】 疫学調査、睡眠習慣、睡眠休養充足度、心身症状、生活習慣病	林 光緒 (広島大学教授)	林 光緒 (広島大学教授)
10	睡眠と労働	眠気と体温の生理的リズムから、交通事故や産業事故の発生状況との関わりを明らかにするとともに、交代勤務者や夜勤就業者の睡眠問題をふまえ、身体にやさしいシフト勤務について解説する。 【キーワード】 生体リズム、眠気と事故、労働時間、交代勤務、勤務スケジュール	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	睡眠障害(1)	不眠などの睡眠障害は、不安、抑うつ等とならんで出現頻度が高く、生活習慣病の要因ともなることが明らかにされている。睡眠障害には多くの病態が含まれ、その原因や好発年齢、症状は多彩であるが、ここでは代表的な睡眠障害の病態と治療法について概説する。 【キーワード】 睡眠障害国際分類、不眠症、むずむず症候群、睡眠覚醒リズム障害、レム睡眠行動障害	伊藤 洋 (東京慈恵会医科大学教授)	伊藤 洋 (東京慈恵会医科大学教授)
12	睡眠障害(2)	睡眠障害のなかで頻度が多い睡眠呼吸障害を概観し、子どものいびき、成人の無呼吸について解説する。 【キーワード】 いびき、睡眠時無呼吸症候群、肥満、生活習慣病、アデノイド、扁桃肥大	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)
13	快眠への対処(1)	睡眠の個人差の多くは睡眠の量と位相によっているが、これらの睡眠の特徴について概観するとともに、快適な睡眠を得るために留意すべき事柄として、運動や入浴の睡眠への効果とともに、就眠儀式などの就床前の活動について解説する。 【キーワード】 短時間睡眠者、長時間睡眠者、朝型生活者、夜型生活者、運動、入浴、頭寒足熱、就眠儀式	佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)	佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)
14	快眠への対処(2)	嗜好品の睡眠に及ぼす影響について説明するとともに、日常生活における睡眠の評価法および昼間の眠気の評価法について解説する。 【キーワード】 カフェイン、ニコチン、アルコール、睡眠評価、睡眠日誌	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授)
15	睡眠障害の予防に向けて	より良い睡眠を得るために「睡眠障害対処12の指針」を取り上げ、睡眠障害の予防についてまとめる。また、睡眠に関わる今日的動向を紹介し、睡眠教育の充実に向けて考える。 【キーワード】 睡眠障害対処12の指針、早寝早起き朝ごはん運動、睡眠の日、睡眠健康週間、睡眠教育	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授) 佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)	宮崎総一郎 (滋賀医科大学特任教授) 佐藤尚武 (滋賀短期大学学長)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234064	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = **生物圏の科学** (' 1 2) = (T V)
 -生物集団と地球環境-

〔主任講師 (現職名) : 松本 忠夫 (放送大学・教授) 〕

※この科目は「生物集団と地球環境 (' 07) 」を一部改訂した科目です。
 改訂回は第2, 11, 12, 13, 14回です。

講義概要

自然界における生物の存在様式は、家族、群れ、群体、群落、個体群、群集などといったさまざまなレベルでとらえることができる。そして、そのような生物集団は、環境とさまざまな関係をもって存在している。本講義では、そのような生物集団の形成および地球環境との関連について解説するとともに、それらに対する人間活動の影響も解説する。

授業の目標

本講義は、地球環境における生物集団の影響の強さ、そして現在の地球では、生物集団の中でもとりわけヒトの影響が甚大であることを知ってもらうことを目標としている。中学程度以上の生物学の知識があれば理解できるように基礎的な事柄から講義を順次進めていく。また、野外ロケーションの映像を各所に取り入れていて、生物集団の影響の強さをできるだけ実感してもらう。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での基礎科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生物集団の形成	生物集団は、無機環境、食物環境そして他生物とどのような関係を持って生活し、子孫を残しているか？個体が集合して集団となった時、そこでの法則性にどのようなものがあるのか？そして、繁殖に関係した社会性の発達とはどのようなものか？などについて説明する。 【キーワード】 生物圏、種、個体、個体群、メタ個体群、種間関係	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
2	生物の社会 ※改訂回	生物はさまざまな社会を構築しているが、それらの様相について説明する。アリ類とシロアリ類のような真社会性の昆虫においては、カースト分化が顕著にみられ、特に熱帯域において大繁栄しているので、それらにおける社会の内容を知るとともに、高度の社会が成立するのは、いかなるゆえんであるかを説明する。 【キーワード】 生物社会、社会性昆虫、シロアリ、アリ、カースト、自己組織化、営巣、菌園、共生、ステイグマジー	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
3	様々な群集の成り立ち	群集は異なる種の個体群からなる生物集団であり、様々な種間関係がみられる。中でも食う・食われる関係は、エネルギーの流れを生み出し、群集構造を決める最も重要な関係である。また、限られた資源をめぐる競争もニッチ分化を通じてギルド構造を生み出している。ここでは、特に食物連鎖に沿ったエネルギーの流れを中心に、群集の遷移と構造について解説するとともに、近年、群集構造を決める上で重要とされている中規模攪乱説などの非平衡群集論についても言及する。 【キーワード】 群集、遷移、極相、ギャップ、食物連鎖、栄養段階、生産力、種間競争、ギルド、ニッチ、平衡群集論、中規模攪乱説	東 正剛(北海道大学名誉教授)	東 正剛(北海道大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
4	生物の地理的分布	世界の生物群集の地理的分布がどのようになっているのかを概観し、それを決めている要因、特に温度と降水量が重要であることをついて説明する。また、東アジアそして日本列島の生物相の特色はいかなるものか、さらに人間の影響がそれらの分布にどのような影響を与えているのかについても説明する。 【キーワード】 植物群系、ハワイ諸島、貿易風、東アジア、垂直分布、動物地理区	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
5	島における生物	周囲の環境から孤立した島における生物相は、そこへの生物の侵入と、そこでの消失のバランスの上に成り立っていること、また、島においては大陸とは異なった固有の生物が進化しやすいことを説明する。さらに、島における生物の生態の理解は、生息地が分断された場所における生物群集の保全に役立つ知識となることを説明する。 【キーワード】 島、大洋島、海洋島、種数-面積曲線、移入、定着、消失、固有種、ハワイ諸島	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
6	熱帯域の生物	一年中、高温で多湿な熱帯域は、地球上で最も生物の種数が多く、また生物の生産活動が盛んなところである。そのような豊かな生物相はどのような要因で形成されてきたのであろうか？ここでは、熱帯域における生物生産と進化について説明する。 【キーワード】熱帯雨林、生物多様性、ギルド、生物生産力	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
7	高山生態系のしくみと地球温暖化の影響	陸域生態系の末端部に位置している高山生態系の位置づけと構造について概説し、高山植物群落の成立要因や高山植物の環境適応と生活史特性について、主に積雪環境との関わりについて説明する。さらに、地球温暖化が高山生態系に及ぼす影響についても紹介する。 【キーワード】 高山植物、高山生態系、環境適応、地球温暖化、雪田植物、風衝地、雪解け	工藤 岳 (北海道大学大学院・助教授)	工藤 岳 (北海道大学大学院・准教授)
8	乾燥地の生物	現在の地球規模での砂漠化の現状を紹介する。高温で降雨量の少ない砂漠にも、多くの生物が生存していて、これらの生物は砂漠の厳しい環境に適応して特殊な外部形態及び生理学的な機能を持っている。ここでは、南アメリカとオーストラリアの砂漠を中心に、主として植物が極端な乾燥条件に適応している例を紹介し、それらがどのように環境と対応しているかを解説する。さらに、特殊な砂漠として、高山や高緯度にも砂漠が見られるため、それらの紹介も行なう。 【キーワード】 乾燥地、溶岩地、砂漠、CAM植物、乾性植物、季節草原、ロマス、ティランジア	増沢武弘(静岡大学・特任教授)	増沢武弘(静岡大学・特任教授)
9	淡水域の生物	陸地に焦点を当てた地球上での水循環を紹介する。陸上の淡水環境(湖沼、河川、湿原、地下水、氷河など)とその規模と分布、ならびに生物にとっての各々の環境の特徴、それぞれの淡水環境に分布する生物と生態系の特徴、魚類などの陸封現象や陸から海に運ばれた物質がサケなどの生物の回帰によって陸に戻される仕組みなども紹介する。自然度の高い四十十川とその流域の淡水環境を例にして取り上げる。 【キーワード】 淡水、河川、湖沼、地下水、湿原、自浄作用、栄養塩類、生活系、ブルーム、貧栄養、富栄養	高橋正征(東京大学・名誉教授)	高橋正征(東京大学・名誉教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執筆担当 講　師　名 (所属・職名)	放送担当 講　師　名 (所属・職名)
10	海洋域の生物	海水環境の特徴を淡水と比較、地球上での海洋環境の分布とその規模ならびに生物にとっての環境の特徴を紹介する。沿岸と外洋の海洋環境の特徴とそこに分布する生物ならびに生態系の特徴を説明。また、深海生物ならびに化学合成に依存する熱水生物群集についても紹介する。本担当者が参加して相模湾で行っている海域の肥沃化実験の例なども紹介する。 【キーワード】 海水、食物連鎖、生物ポンプ、湧昇流、水温躍層、海洋大循環、栄養塩類、熱水生態系	高橋正征(東京大学・名誉教授)	高橋正征(東京大学・名誉教授)
11	生物進化と地球環境への影響 ※改訂回	地球に生命が誕生した以後の約30億年間における生物は微生物のみであった。初期の微生物は海水中にすみ、海水の組成、そして大気の組成を徐々に変えていった。光合成による二酸化炭素／酸素濃度比の変化、ストロマトライトや縞状鉄鉱床の形成などを説明する。さらに過去約5億年間における多細胞の植物と動物の繁栄がもたらした地球環境の変化、たとえば石炭、サンゴ礁の形成などを説明する。 【キーワード】 生物進化、縞状鉄鉱床、ストロマトライト、光合成、オゾン層、石灰岩、サンゴ礁	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
12	生物圏に対する人間活動の影響(1) 地球的規模の生物絶滅 ※改訂回	近代の人間活動が原因となった世界各地の生物多様性喪失の様相を説明する。特に、南北アメリカ大陸、オーストラリア大陸などへの人類の侵入の影響、地球的規模での熱帯林消失の影響の様相に焦点を絞る。さらに太平洋島嶼での生物絶滅の事例としてハワイ諸島を取りあげる。 【キーワード】 生物絶滅、人間活動、世界拡散、マンモス、大型動物、過剰捕獲、気候変動、古気候、ハワイ諸島	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
13	生物圏に対する人間活動の影響(2) 日本での生物絶滅 ※改訂回	人間活動が盛んになって以後の、日本列島における生物種の絶滅の具体例を説明する。そして、顕著な例として離島域(南西諸島、小笠原諸島など)における生物の絶滅あるいは絶滅危惧の様相について詳しく取り上げる。 【キーワード】 日本風土、自然改変、生物絶滅、南西諸島、小笠原諸島	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
14	生物に対する人間活動の影響(3) 日本での生態系再生の例 ※改訂回	いったん絶滅の危惧に瀕したコウノトリ、トキ、アホウドリなどの繁殖地の再生の様相を説明する。また、小笠原諸島での外来樹、ヤギ、ネズミ、アノールトカゲなどの駆除対策を詳しく取りあげる。 【キーワード】 生態系再生、野生復帰、小笠原諸島、外来種、世界自然遺産	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
15	生態系のはたらきと保全	生物群集と、それを取り巻く土壌、水界、大気などの物理環境を含めたまとまりを生態系という。地球は閉じた生態系であり、生物を構成する窒素、リン、炭素などの栄養塩類は大気と水の流れに乗って地球生態系を循環している。近年における地球環境問題は、いずれも人間活動が地球生態系の物質循環を攪乱した結果発生したものである。ここでは、地球生態系における一次生産力の分布と物質循環について理解し、生態系機能の保全について考察する。 【キーワード】 生態系、物質循環、微生物ループ、集水域、大気循環、沈降循環、温室効果ガス、地球温暖化	東　正剛 (北海道大学 名誉教授)	東　正剛 (北海道大学 名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234013	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 物理の世界 (' 1 1) = (T V)

※この科目は「物理の世界 (' 07) 」を一部改訂した科目です。
改訂回は第4, 5, 6, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師 (現職名) : 米谷 民明 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 生井澤 寛 (放送大学客員教授) 〕

講義概要

物理の世界('11)の精神は、前回・前々回の物理の世界('07)('03)と変わらない。物理を、自然をとらえる「物語」として話を進めていく。自然の物語は壮大で、物理はそのひとつの章に過ぎないが、それでもその内容は、汲めども汲みつくせない。今でも未知の世界を拓く努力が続けられているからである。この科目では、物理の根幹を成す、力と運動、熱の物理、音や光などの振動・波動と場、電気・磁気、相対論、量子の世界の論理を紹介したい。そして、これまでに判ってきたこの世界の基本的あり方について触れたい。

授業の目標

物理を身近に感じ、理解を深めてほしいので、受け身な学習ではなく、普段から自然を良く観察し、なぜ、どうしてと問う姿勢を身に付けてもらうことが目標の一つである。数式の使用は必要最小限に努めるつもりだが、講義やテキストの流れの中に基本的な演習を組み込むので、自ら手を動かしノートをとって、論理の展開や数式の扱いを再現するにとどまらず、一歩先まで進んで欲しい。さらに、身の回りのものでやれる実験を用意するので、自分でやってほしい。そういう皆さんのなかから、自然の理解に新しい道を見いだす人が出るのが、我々の最大の目標であり、夢である。

履修上の留意点

「解析入門('14)」、「入門線型代数('14)」を並行して学べば、理解が容易になるだろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	物理は、何を相手にするか	物理は、自然科学の基礎といわれる。では、物理は一体何を相手にする科学なのだろうか。自然を相手にするとき、色々な切り口があるが、この講では、長さの尺度を変えていって、物理の世界を旅して見ていこう。もっとも小さい相手(素粒子)ともっとも大きい相手(宇宙)を比べると、10の後に何10個もの0がつくほどの違いがあることが判る。それほど大きな違いのある世界を、物理でどの程度理解できているかを、ざっと見て行こう。 【キーワード】 数値の表し方 単位系 長さを変えて見る ミクロとマクロの世界	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
2	力って何だろう	あの人は力持ちだとか、政界に力があるなどと、私たちは日常的に力という言葉を使う。では、物理でいう力とは何だろう。力は、物を結合させたり、動かしたり、仕事をする。物理の最も重要な目標は、自然界に存在する力(相互作用)が何かを探りその力の原因を追究することである。だから物理では、力についての定義は、きっちりと定められている。ここでは、力と運動について、もっとも基礎的なことを学ぶ。 【キーワード】 力の大きさ バネ 釣り合い 運動の第1・第3法則 力の方向 ベクトル 運動の記述 速度 加速度 微分	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
3	力は何を産み出すか: 運動と仕事	力が運動の何と結びつくかを、実験で体感しながらつきとめよう。こうすると、運動の第2法則が見えてくる。つぎに、力のする仕事を物理の言葉できっちりと定めると、エネルギーとその保存則という、物理でもっとも大切な概念に到達する。さらに、ニュートンによる力の基本法則とケプラーの惑星運動の観測結果から、万有引力の法則を導き、物体の落下の謎が解けることを見る。 【キーワード】 質点 質量 運動の第2法則 仕事 エネルギーとその保存則 万有引力	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	遊びから物理へ:運動量と角運動量 (※改訂回)	遊びで慣れ親しんできたキャッチボールやコマ回しからも重要な物理量を学び取れる。これらをよく分析すると、運動量と角運動量という概念に行き着き、運動の基本法則から、それらの保存則が出ることもわかる。ロケットがなぜ飛ぶかや、コマが倒れにくいわけも知れる。動く座標系と止まった座標系で運動の法則が、不変であるというガリレイ相対性を見て、アインシュタインの相対論の準備しよう。 【キーワード】 運動量 角運動量 外積 回転モーメント 慣性モーメント ガリレイ相対性	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
5	人は火を恐れない:熱とは何だろう (※改訂回)	人が文明を発展させた要因のひとつは、火＝熱を恐れずうまく操ったことであるといわれる。では、熱とは何だろう。そして熱と不可欠に結びつく温度とはなんだろう。じつは、熱は、エネルギーが移動する際のひとつの形であり、温度は、分子の平均運動エネルギーであることがわかる。さらに熱機関の仕事効率から、エントロピーという概念に行き着き、熱の物理の基本がわかる。エアコンなどのヒートポンプについても見よう。 【キーワード】 温度と熱 理想気体と絶対温度 熱と仕事 熱力学第1法則 熱機関の効率 可逆・不可逆 熱力学第2法則 エントロピー 熱力学第3法則	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
6	分子の眼で熱と水を見よう (※改訂回)	物質は、おびただしい数の分子から成る。では、熱の正体や熱現象は分子の世界からどう理解できるのだろうか。簡単なモデルで、分子の数の多さがどうかかわるかを見てゆこう。さらに、生命を育み大気圏の大循環を支える水について、相互作用と温度に注目して、水の持つ特異性と水の姿(蒸気、水、氷)がどう理解できるかも見よう。水の特異性が、大循環を支えることを見て、水と地球の未来に思いを寄せよう。 【キーワード】 統計的モデル 等重率 平均値 ゆらぎ 統計力学 エントロピーの定義 ボルツマン因子 相互作用と温度 相 水素結合 水の大循環	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
7	波は場だ	ひとつのバネの運動を解くと、振動が出る。振動の基本を学ぼう。バネをつないだら全体の運動はどうなるか。答えは、波である。波は、物体の形や性質を反映する固有の振動モードである。バネの長さをどんどん短くして行くと、系は連続な場となり、波は場の時空の振動となる。振動や波は、安定な状態を乱すと、必ず現れる普遍的な運動状態なのである。 【キーワード】 調和振動(単振動) 重ね合わせの原理 共鳴 うなり つながったバネ 固有振動 波 連続体極限 場 定在波 進行波 縦波横波	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
8	光も波	光は、レーザーペンライトのようにまっすぐ進むし、鏡にあたれば反射し、水に入ると曲がる。これらを実験で見て行くと、光は見えないが粒子のようだ。一方、シャボン玉や水面の油の膜が虹色に見えるのは干渉であり、光が波であることを示す。干渉、回折などの波の基本的性質を見ながら、光と音を中心に波の理解を深めよう。量子の世界への橋渡しとして、波長の異なる波を無数に重ね合わせて行くと、粒子のような存在が作れることも見て行く。 【キーワード】 反射 屈折 全反射 ホイヘンスの原理 干渉 回折 ドップラー効果 波束 群速度	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
9	物質をつくる力は何か (※改訂回)	物質はすべて原子からできている。原子から分子ができ、様々の複雑な物体や生物ができる。では、それらを作る力はどういうものか。それは電気の力である。体が電気を感じたり、物体の摩擦により電気が生じることなど、身近な現象から電気や電流の性質を調べながら、電気の世界を探ろう。電気とよく似た磁気についても考えよう。どちらも、「場」(電場、磁場)という考え方によってうまく理解できることが分かってくるだろう。 【キーワード】 静電気 箔検電器 静電誘導 電荷の保存 電気力線 磁力線 電流の磁気作用 電場と磁場 ローレンツの力 オームの法則 ジュール熱	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	電気と磁気はどういう法則に従っているか (※改訂回)	電気や磁気が満たす性質を、正確な法則としてまとめてみよう。そのことから「力の場」を扱うための考え方が学べる。電気力線と磁力線の考えにもとづき、電気と磁気を精密に理解する方法が次第に見えてくる。それにより電場と磁場が絡み合って振動し真空中を伝播する電磁波が説明できる。さらに進んで、物質の成り立ちを電気を帯びた粒子によって説明するための考え方を学ぼう。 【キーワード】 ガウスの法則 アンペールの法則 電磁誘導 変位電流 マックスウェルの方程式 電磁波 誘電体 磁性体 交流回路	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)
11	ニュートンを超えて (※改訂回)	近代物理学は、ニュートンの古典力学から始まったが、電磁場理論と原子の世界を追求して行くと、古典理論の限界が見えてくる。古典理論では、光の伝播や原子の存在を説明出来ない。何が問題か、どうしてそうなのか、どうしたら解決出来るのかと問題提起しながら、20世紀の前半、前者を解いた相対性理論、後者を解いた量子論について、それぞれの考え方の出発点を学ぼう。 【キーワード】 電磁場のストレスとエネルギー マイケルソン・モーリーの実験 光速不変の原理 プランクの公式 光量子仮説 ボーアの原子構造仮説 ド・ブロイの物質波動説	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)
12	光の速度は超えられない---相対性理論の世界 (※改訂回)	アインシュタインは、光の伝播の法則の理解には、時間と空間についての私たちの常識的概念を根本的に変える必要があることを示した。彼の相対性理論によって電場と磁場が正しく捉えられることを見よう。さらに、万有引力の法則も、時空の幾何学の立場から考え直さなければならない。こうして、宇宙の成り立ちを、時空の大局的な法則から理解するための基礎が得られる。 【キーワード】 同時性の相対性 ローレンツ変換 ローレンツ・フィッツジェラルド短縮 固有時間 ミンコフスキー空間 静止エネルギー 等価原理 ブラックホール	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)
13	量子の不思議な世界 (※改訂回)	原子が何故安定に存在できるかも、物体を何故暖めることができるのかも、量子論なしには理解できない。しかし、量子の世界の論理は、相対論にもまして常識とはかけ離れている。でも、それなしには、私たちの体も、身の周りの物質や生命も存在できないのだ。その論理である量子力学の基本的な考え方と、それによって初めて説明できる典型的な現象のいくつかについて学ぼう。 【キーワード】 演算子、固有関数 固有値 状態の重ね合わせ 不確定性関係 シュレーディンガー方程式 ゼロ点振動 2重スリット実験	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)
14	物質の構造はどこまで遡れるのか (※改訂回)	相対性理論と量子論によって、私たちはミクロの世界を説明し計算するための道具を手に入れた。それによって物質の本性はどこまで解明されたか、また、物質のミクロ構造はどこまで遡ることができているのか、その大筋を見てみよう。まず、原子や分子がどうできるのか、物質の電磁気的性質がどう説明できるのかを学ぶ。そして、さらにミクロの原子核の世界にまで踏み込むと、素粒子の世界が見えてくる。 【キーワード】 スピン 量子統計 ボース粒子 フェルミ粒子 パウリの排他原理 共有結合 バンド構造 超伝導 原子核 核力 中間子	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)
15	宇宙は「説明」できるだろうか---究極的な物理法則を求めて (※改訂回)	素粒子の世界は、およそ1兆分の1cm以下の世界だ。現在、粒子加速器で到達できる距離は、それからさらに100万分の1ほどである。一方、探り得る宇宙の最大距離は、1cmの1兆倍の1兆倍のさらに1万倍程度である。このような超極微から超極大の世界を包括する法則を、私たちはかなり手にしているが、まだまだ十分ではない。素粒子の世界の法則はどういうものか、それによって宇宙はどこまで理解できるのか。最後に、こうした研究の現状と課題は何かについて見てみよう。 【キーワード】 量子場 反粒子 強い相互作用 弱い相互作用 クォーク レプトン ゲージ理論 力の統一 宇宙膨張、量子重力 超弦理論	米谷 民明 (放送大学教授)	米谷 民明 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1233815	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア)

基礎化学

(' 1 1) = (T V)

〔主任講師 (現職名) : 濱田 嘉昭 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 齋藤 清機 (放送大学客員教授) 〕

講義概要

地球上の全ての物質が、人間のからだを含めて、原子で構成されていることに鑑み、原子の理解と原子から出来る分子の世界について系統的に学習することは、極めて重要な課題である。エネルギーの取り出し方から物質文明の隅々に至るまで、その中身を把握し、価値を認識し、人類の福祉のために何をなすべきかを考える作業は、化学の理解が無くては遂行することが出来ない。化学がありとあらゆる分野の基礎となっている現状を理解しながら、その学問的体系を出来るだけ簡潔に講義する。

授業の目標

本講義は、出来る限り身近な現象や物質から化学を学び、その知識を、先ずは、自分たちの生活環境の分子レベルで観測する眼力のために役立ててほしいと願うものである。確かに、かつて化学は暗記と目的がはっきりしない計算が中心となった分野であった。しかし、世界中の化学者の弛まない努力の結果、今や極めて論理的で体系的な学門に成長し、成熟した。化学の原理が私達の生活の質とレベルを変え、健康を維持するための物質を多く世に送り出してきた。これからも、エネルギー問題や環境問題の課題を解決する中心的な学門として揺るぎないものになってゆくであろう。化学を一人でも多くの人が理解することを願うものである。

履修上の留意点

本講義は、化学を初めて学ぶ者にとっても入門編として活用できるように考えられている。一度高校で化学を学んだ者にとっても、そのとき学習した知識のより明解な体系化が進むような講義の構成となっている。従って、放送授業は勿論のこと、印刷教材を繰り返し読まれることを強く勧める。化学は全ての内容が縦に横に密接に絡まっているので、全体をくまなく学習することが非常に大切である。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	化学の世界	化学は“物質の科学”と言われ、“ある形から別の形への変換に関する科学”である。何故私たちは化学を学び、関心をもつのか？化学は、私たちが呼吸している空気、飲料水の精製、ヒトの成長、食餌の消化、医薬品の製造、電池やプラスチック等望む機能を有する物質の製造等々に密接に関わっている。そういう視点で化学の本質を先ず学習する。 【キーワード】 化学物質、原子、分子、普遍性と多様性、マクロとミクロ	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授) 齋藤清機 (放送大学客員教授)
2	原子の理解	化学を学ぶためには、物質の基本的構成要素である原子を知ることから始める。私たちは各原子の内部構造が異なっていることを知っている。電子、中性子、陽子の発見と性質を学び、原子の性質を整理しながら学習する。 【キーワード】 物質質量とその表記、イオン化エネルギー、電子親和力、オクテット則、原子価軌道、最外殻電子、共有電子対、孤立電子対	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)
3	化合物とその表記法	化学者が行なう最も重要な事柄の一つは新しい化合物をつくることである。新しい化合物には従来の化合物には見られない、全く新しい性質が生まれる。従って、化学を理解するために先ず多種多様な化合物に関する約束ごと(命名、種類、表記法・等)を体系的に学習する。 【キーワード】 共有結合化合物、線構造、アルカン、2原子分子、イオン結合化合物、イオン、多原子イオン	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	反応物と生成物	化学の学習の中では化学反応を出来るだけ正確に理解することが重要である。そのためには数多くの反応をどのように纏めることが出来るかを学習し、化学反応式の表記法に習熟しなければならない。 【キーワード】 物理量, モル, 原子質量単位, ダルトン, 分子量, 式量, 化学反応式, 結合反応, 分解反応, 置換反応, 交換反応, 均衡化反応式	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)
5	化学反応	反応物がどのような機構で生成物に変換されるかを正確に把握することは、化学の学習の中で特に重要な点である。そのためには、化合物の化学的な性質に精通することが肝心である。ここでは、イオン反応、酸と塩基の反応、酸化還元反応に焦点を絞り、そのような視点での学習を進める。 【キーワード】 溶解度傾向, 完全イオン反応式, 正味のイオン反応式, 傍観イオン, 酸塩基反応, 酸, 塩基, 共役酸・塩基, ペーハー(pH), イオン解離(定数), 酸化還元反応, 酸化数, モル濃度	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)
6	化学反応とエネルギー	化学反応はエネルギーの移動を伴う。燃料が燃えると炭酸ガスと水に変換されるが、同時に熱が放出される。このエネルギーはどこからきたのか。反応の過程での熱の出入りを定量的に知ることは、反応の本質を学習することでもある。 【キーワード】 運動のエネルギー, 位置のエネルギー, エネルギー保存則, 系と外界, 内部エネルギー, 熱容量, エンタルピー, 熱化学方程式, ヘスの法則, ΔH°, ΔH°_f	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)
7	原子・分子の量子論	原子から分子が生成する時、結合が出来るが、その結合に関与する電子は、どのようなエネルギー準位の、どのような空間に存在するのか。その理解を出来るだけ現実に近いものにするためには、量子論的な扱いを避けては通れない。そんなための最低限の学習をする。 【キーワード】 原子軌道, 分子軌道, 量子数, 電子配置の構成原理, σ 結合, π 結合	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)
8	共有結合	非金属元素から分子が出来る時、共有結合を形成するが、その本質と最も簡単な共有結合分子表記法であるルイス構造の把握とその限界、再度オクテット則の適用と例外について学習する。更に、極性共有結合の概念と共鳴への展開について学習し、ルイス構造の限界その解決法としての分子軌道法の適用について学習する。 【キーワード】 核間距離, 共有結合, ルイス構造, 典型元素, 共有電子対, 非共有電子対, 不対電子, 極性共有結合, 電気陰性度, 形式電荷, オクテット則, 共鳴, 分子軌道論	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
9	分子の構造	三次元的な分子の形を予言するために用いられる原子化殻電子対反発法の扱いについて学習し、それを前提として分子の形状の多様性について把握する。さらに回転異性体、光学異性体、および二重結合の幾何異性体についてもその基本を学習し、あわせて分子が組織化され、機能を発揮するためには分子間結合が重要であることを学ぶ。 【キーワード】 原子価殻電子対反発法、電子対の配向、分子形状、混成軌道、σ結合、回転異性体、鏡像異性体、π結合、多重結合、幾何学的構造、非結合間相互作用、ロンドン力、双極子相互作用、水素結合	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)
10	気体と大気	気体の圧力、温度、及び量あるいは体積の間に成立する関係を学習する。その他、化学反応における気体の定量的な取り扱いについても学習し、あわせてオゾン層の化学について学習する。 【キーワード】 ボイル・シャルルの法則、気体反応の法則、原子説、分子説、アボガドロの法則、気体定数、理想気体の状態方程式、オゾン層	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)
11	液体、個体および溶液の化学	物質の三態を取り扱える基礎学問はやはり化学である。分子間相互作用と分子運動を基本とする取り扱いによって初めて物質の三態の相互の関連が理解される。ある物質が溶媒に溶けることの分子レベルでの理解の仕方や、気・液・固とは異なった状態の発現の仕方と、その利用についても学習する。 【キーワード】 物質の三態、状態図、三重点、潜熱、熱容量、溶液、溶媒、溶質、溶媒和、水和、濃度、溶解度、沸点上昇と蒸気圧降下、浸透圧	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)
12	有機化合物—燃料から高分子まで	人間の生活の質を変えた化石燃料および種々の有機化合物に焦点を当て、特に高分子化合物の製造に関する基礎反応について、分子レベルで学習するが、反応機構を詳細に紹介する。 【キーワード】 石油、石炭、天然ガス、石油精製、オクタン価、ポリマー、連鎖重合、ラジカル重合、カチオン重合、アニオン重合、逐次重合	齋藤清機 (放送大学客員教授)	齋藤清機 (放送大学客員教授)
13	反応速度と化学平衡	反応速度を扱う学問と平衡を扱う学問は、原理的には無関係である。しかし、化学反応の過程を理解するためには、これらの両方の概念と、実的な使い方を学習する必要がある。反応の速度を支配する因子と反応物と生成物のエネルギー差を支配する因子を学び、求める生成物を効率よく手にするための触媒の役割や反応速度を支配する因子について学習する。 【キーワード】 エントロピー、エントロピー増大の法則、Gibbs自由エネルギー、反応速度、一次反応、二次反応、素反応、律速段階、アレニウスの式、活性化エネルギー、触媒、反応系、生成系、動的平衡、ルシャトリエの原理	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	電子移動とエネルギー	酸化還元反応と電子の流れを考えると、化学エネルギーから電気エネルギーを取り出す方法が見えてくる。金属のイオン化は、その基礎となる現象であり、この分野は今や二次電池の開発という形で大きな流れになろうとしている。 【キーワード】 イオン化列、電池、電極、アノード、カソード、電極電位、一次電池、二次電池、電気分解	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授)
15	典型元素と遷移元素の化学	地球にある元素はどのようにして出来たか、自然界にある鉱石あるいは元素化合物からどのようにして純粋な元素を抽出するか、および抽出された元素の性質と用途について周期表と対応させながら学習する。 【キーワード】 典型元素、sブロック元素、pブロック元素、遷移元素、dブロック元素、二酸化ケイ素、ケイ酸塩、Al抽出、食塩溶融電気分解、食塩水の電気分解、Si抽出、鉄と鋼鉄、遷移金属錯体	齋藤清機 (放送大学客員教授)	濱田嘉昭 (放送大学教授) 齋藤清機 (放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234161	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝宇宙を読み解く（'13）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：吉岡一男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：海部宣男（国立天文台名誉教授）〕

※この科目は「宇宙を読み解く（'09）」の一部改訂科目です。
改訂回は第2, 6, 8, 9, 12, 14, 15回です。

講義概要

宇宙とは、私たちが住む世界そのものであり、人間存在の根源である。本講義は、理系・文系を問わず、宇宙というものの基本を理解してみたいという広い要望に応えるため、現代に生きる地球市民のための宇宙の教養・総合的な入門講座として組み立てた。人間と宇宙との古くからの関わりにはじまり、太陽系の新しいイメージ、天体物理学の基礎、宇宙という巨大なスケールの把握の仕方、現代の宇宙観測とそれが明らかにした多彩な天体の世界、謎のダークマターやダークエネルギー、膨張宇宙の直感的把握と理解の極限まで。人間は奥深い宇宙にどこまで分け入ったのか、また現代科学は宇宙をどこまで・どのように読み解いているかを、分かり易く講義する。

授業の目標

宇宙について現代の市民が教養として持つべき基本的な認識を、歴史的考察から現在の最先端のテーマまで、文系の受講生にも十分わかりやすい形で展開し把握してもらうことが目標である。個々の天体の具体的解説は専門科目に譲り、従来の宇宙の講義にはない切り口を工夫し、物語的要素を全体の縦糸として展開することで、宇宙の奥深さ、それを理解する楽しさを伝えたい。さらに、サイエンス・コーディネータにアシスタントとしてビデオ授業に毎回参加してもらい、変化のある楽しい講義とすることを目指す。

履修上の留意点

この講義では、専門的知識は前提としない。科学的探究が宇宙をどこまで追いついてきたか、それは人間が積み上げてきた知の冒険である。受講者もそれとともに体験し、それぞれに「自分の宇宙」を広げていただきたいと思う。だが個別のテーマをより深く理解したい受講者には、評論社で刊行中の『シリーズ・現代の天文学』が参考になるだろう。特に第一巻『人類の住む宇宙』は、宇宙の全体的概念をつかむのに良い。また放送大学の専門科目には、『進化する宇宙』、『太陽系の科学』などの講義とテキストがある。

回	テ　　マ	内　　　　　　容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	宇宙の認識と宇宙の広がり	本講義のイントロダクション。古代の人々の宇宙の認識、神としての天体や星座、5惑星の占星術から始まって、人間の科学的認識の発展をロケを交えて述べる。さらに、観測を重ね、望遠鏡の発展とともに広大に広がって膨張宇宙とその歴史にまで至った人間の宇宙認識を概観する。「宇宙」という果てしない存在と人間との係わり合いを、まず把握していただきたい。 【キーワード】 太陽信仰、惑星、星座、占星術、天文学、望遠鏡、宇宙膨張、宇宙観	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
2	新しい太陽系への展開 【改訂】	太陽系の理解は、観測の進歩と無人探査機の活躍により、急速に進んでいる。かつての太陽系のイメージは一変した。はるか遠方に無数の外縁天体が発見されて、冥王星の位置付けも大きく変化した。こうした太陽系の新しい観測を踏まえて、広がってゆく太陽系の構造と新たに展開しつつある太陽系の形成論を解説する。さらに1995年以来続く発見によって見えてきた驚くべき太陽系外惑星の世界と今後の展望を紹介し、宇宙の中での私たちの太陽系についても考える。 【キーワード】 冥王星、太陽系外縁天体、太陽系形成論、原始惑星系円盤、太陽系外惑星、ドップラー法	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
3	重力とは何か： ガリレオからアインシュタインへ	宇宙を支配する基本的な力は、重力である。初めて重力を明確に考察したガリレオから、その天体への応用・体系化によって力学的世界観を作ったニュートン、そして重力と空間構造の結びつきを見出したアインシュタインや原子の世界まで、重力と力についての認識の発展を追い、さらに重力という不思議な力の本質を展望する。 【キーワード】 慣性運動、落体の法則、ケプラーの三法則、万有引力、クーロン力、力の場、重力場	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)

一般科目(自然系)
共通科目

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	宇宙をつくる物質	宇宙や私たちの身体を構成する物質は原子や分子から成り、原子は原子核と電子から成る。さらに原子核は陽子や中性子などから成る。ここでは、これら物質の構成および光などの電磁波との相互作用を、ミクロの世界特有の性質の解説も含めて、ミクロの立場で説明する。これらの知識は、以後の章で述べる宇宙の現象を理解する上での基礎を与える。 【キーワード】 スペクトル、原子の構造、ミクロの世界の法則、温度、物質の3態	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
5	望遠鏡が広げた宇宙	宇宙は望遠鏡による観測で探られ、理論を併せて読み解かれてきた。ガリレオによって望遠鏡での観測が始まってから400年である。20世紀に入るまでは可視光用の望遠鏡だけで観測が行われたが、いまは電波やX線など電磁波のすべての波長で観測されている。望遠鏡による宇宙観測の発展を概観し、未来を展望する。 【キーワード】 光学望遠鏡、電波望遠鏡、X線望遠鏡、多波長での観測	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
6	星の進化が多様な星を生み出す 【改訂】	星には太陽よりもはるかに大きくはるかに明るいものから、はるかに小さくて暗いものまでいろいろある。また、星には太陽のような比較的静かなものから明るさを大きく変えたり、激しい爆発を起こすものまである。ここでは、太陽のエネルギーの源の話から始まって、星が中心部で核融合反応を続け、それにつれて構造も進化する結果として、多様な恒星の姿が生まれ観測されていることを述べる。 【キーワード】 太陽、恒星、核融合反応、HR図、恒星進化	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
7	宇宙のかたちを読み解く	宇宙には実にさまざまな天体があり、さまざまに美しい形がある。球、円盤からシェル、双極流、宇宙規模のジェット、膨張宇宙の網の目構造まで。そうした天体の多彩な形態から、宇宙で働く力、運動、つり合いなど、宇宙の壮大な現象を読み解くことができることを示そう。 【キーワード】 惑星の定義、力の釣り合い、太陽系円盤、銀河円盤、宇宙ジェット、双極分子流、宇宙の泡、大規模構造	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
8	宇宙空間から宇宙を観る 【改訂】	宇宙は、地上からだけではなく、人工衛星などにより宇宙空間からも観測されている。地球大気で吸収されて地上に届かない波長域で観測したり、地球大気による像のぼやけを受けない鮮明な天体像を得るためである。さらに、地球を遠く離れた探査機による観測も行われている。また、観測条件のよい月面からの観測も計画されている。 【キーワード】 ハッブル宇宙望遠鏡、大気の窓、観測衛星、光球、黒点、コロナ、探査機、月面での観測	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
9	宇宙の惑星と生命 【改訂】	宇宙人は、人間が思い描いてきた夢のひとつだった。その夢と空想は科学的研究と現実の前に一旦は崩れたが、いま「宇宙生命の探査」は、科学的可能性として新たに蘇えりつつある。「生命」を念頭に置きながら、太陽系外惑星と衛星の世界をしらべてゆこう。また発見が続く太陽系外惑星の中での「第二の地球」の探査の現状、未来をまとめ、さらに宇宙に文明をさがす具体的な可能性までを展望する。 【キーワード】 宇宙人、地球外生物、太陽系外惑星、第二の地球、宇宙文明	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
10	宇宙の巨大階層・銀河の世界	星々は、宇宙空間に一樣に分布しているわけではない。星の間の空間はまったくの真空ではなく非常に薄い星間物質で満たされ、これら星間物質と星が集まって、天の川銀河と呼ばれる大集団を成している。さらに、太陽系を含む天の川銀河の外側には、同等の規模の多数の銀河や、さらにスケールの大きな銀河団・超銀河団が存在する。それらの発見の歴史も含め、宇宙の巨大階層について学ぶ。 【キーワード】 星間物質、星団、天の川銀河、銀河、銀河団、超銀河団、宇宙の大規模構造、ボイド	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	銀河の活動・衝突・成長	銀河には我が天の川銀河のようにおとなしいものもあるが、中心部で激しい活動を起こしている銀河もある。活動的銀河の多くは中心に巨大なブラックホールが存在し、活動の源ともなっている。また、中心部で爆発的に星が生まれている銀河もある。我が天の川銀河にも中心に巨大ブラックホールがある。さらに、銀河同士は衝突・合体をくり返して進化したものと考えられている。天の川銀河も例外ではない。 【キーワード】 天の川銀河中心核、巨大ブラックホール、活動銀河中心核、スターバースト銀河、銀河の衝突・合体	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
12	宇宙の激しい現象を読み解く 超高エネルギー観測 【改訂】	宇宙は、宇宙線と呼ばれる光速に近い速さで運動する素粒子によっても読み解くことができる。宇宙線や高い光子エネルギーを持つガンマ線は、宇宙における非常に激しい活動や現象の情報を与えてくれる。一方、ニュートリノや未だ検出されていない重力波は、さらに激しい現象の情報源として期待されている。ここでは、宇宙の激しい現象を読み解くこれら超高エネルギーでの観測について述べる。 【キーワード】 宇宙線、ガンマ線、ガンマ線バースト、ニュートリノ、重力波	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
13	宇宙の膨張と宇宙の果て	宇宙が膨張していることがハッブルの観測で見出されたのは1929年、宇宙背景放射の発見によって膨張の中で素粒子も銀河も星も惑星も生まれたことが明確になったのは、1965年である。宇宙膨張の発見は、私たちのこの世界の根源的な成り立ちを明らかにする入り口だった。膨張宇宙の初期に起こったことを概観し、膨張宇宙論が提供する宇宙の大きさ、地平線問題、そして宇宙の果てについても考える。 【キーワード】 赤方偏移、空間の幾何学、宇宙背景放射、ビッグバン、インフレーション、宇宙の地平線問題、認識の果て	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
14	深まる謎：ダークマターと ダークエネルギー 【改訂】	宇宙を構成しているものは、私たちが知っている物質だけではなかった。星や銀河などなじみ深い物質はわずか数%に過ぎず、全体の4分の1は光でも電波でも見えないが質量を持つダークマターだった。さらにその3倍に達するダークエネルギーが存在し、宇宙の膨張を加速しているらしい。正体不明のダークマターとダークエネルギーの発見と、その宇宙のなかでの意味について述べ、それらの正体解明への道を探る。 【キーワード】 ミッシング・マス、ダークマター、CDM、宇宙膨張の加速、ダークエネルギー、宇宙項、超対称性粒子	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)
15	137億年を読み解く 【改訂】	137億年にわたる膨張宇宙の歴史のあらすじを、私たちはかなりの程度まで理解できるようになってきた。では、現代の天文学・宇宙物理学が読み解いた宇宙の137億年史とは、どういうものか。ひるがえって、そもそもこの宇宙はどうして生まれたのか。空間・時間・物質の起源にも迫る宇宙論の考察の最前線を垣間見るとともに、宇宙膨張の結果の一つとして生まれたこの地球と、その上で生まれた地球生命、そして私たち人間という存在について、改めて考えよう。 【キーワード】 4つの力、宇宙の進化、惑星地球、地球生物、人類、第4次生物	海部宣男 (国立天文台名誉教授)	海部宣男 (国立天文台名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234072	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 惑星地球の進化 (' 1 3) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 松本 良 (東京大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 田近 英一 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授) 〕

【本学担当専任教員 : 吉岡一男 (放送大学教授)】

※この科目は「惑星地球の進化 (' 0 7)」の一部改訂科目です。

改訂回は第1, 4, 7, 9, 10, 11, 15回です。

講義概要

地球は火星や金星などと同じ太陽系の一つの惑星ですが、豊かな水の存在と生命活動が他の惑星との違いを際立たせています。長い時間軸で見ると、地球環境はいつも穏やかだった訳ではありません。微粒子、微惑星の衝突合体によって形成された惑星地球は太陽エネルギーや潮汐・小天体の衝突などの外因的エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因的エネルギーによって駆動され進化・変動してきました。生命の出現と生物圏の発達により惑星地球の進化はさらにダイナミックなものとなりました。本講義では、ダイナミックな地球を理解する上で特に重要な項目について詳しく解説し、惑星地球の進化をたどります。

授業の目標

身近な露頭や崖の地層をどのように観察し、何を読み取るのか理解することを通して地球の観察法を学びます。地震や火山、地盤の隆起や沈降などの様々な地質現象をグローバルな視点から理解することを学びます。外因的エネルギーに関わる現象と内因的エネルギーに関わる現象の違いはどこにあるのか理解します。さらに”地球から人類への贈り物”である鉱物資源とエネルギー資源の形成が如何に地球惑星の進化に関わるか学びます。

履修上の留意点

本科目は共通科目であり、数式等をほとんど使われずに講義されている。本科目とともに専門科目の「太陽系の科学('14)」を履修すると相互の理解に役立つであろう。また、本科目の履修とともに基礎科目の「身近な気象学('10)」や専門科目の「地球のダイナミクス('10)」を履修すると地球科学分野の理解が深まるであろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	太陽系と惑星地球の形成 【改訂回】	はじめに講義全体の構成と各章の繋がりについて解説し、引き続き第1章に入る。地球と太陽系内の他の惑星との比較を通じ、それらの共通点や違いを明らかにすることによって、惑星地球の特徴を理解する。また、太陽系の形成過程を概観し、惑星地球の特徴を理解する。 【キーワード】 1 惑星としての地球 2 惑星形成論 3 地球システムの形成 4 初期地球の姿	田近 英一 (東京大学大学院教授)	松本 良(東京大学名誉教授) 田近 英一 (東京大学大学院教授)
2	固体地球の成立と分化	惑星地球は、主として内因的エネルギーによる熱、圧力、マグマ活動などさまざまな要因で成層構造を持ち分化して行く。また、大陸と海の区別ができ、地球の原型が形成される。そのような成層構造をいかにして調べるのか、大陸と海の違いは何かを紹介する。 【キーワード】 1 地球の成層構造 2 プレートテクトニクス 3 大陸地殻と海洋地殻	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
3	地球内部ダイナミクス	現在の固体地球は内因的エネルギーに支えられてダイナミックに活動している。現在の地球の営みを規定しているのはプレートテクトニクスで、この理論により、それまで分からなかったさまざまな現象を統一的に理解することが出来るようになった。 【キーワード】 1 地殻を構成している岩石 2 マグマを発生するプロセス 3 マグマの活動	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)
4	プレート沈み込み帯の変動と地形の進化 【改訂回】	海洋のプレートが沈み込むところでは、様々なタイプの造山運動が起こり、その結果としてマリアナのような弧状列島が形成されたり、アンデスのような大規模山脈が形成される。何故このような違いが生じるのかは未だ完全に理解されていない。日本列島は複雑な進化の歴史を経て現在に至っている。現在日本列島で起こっている地震や地殻変動を紹介し、沈み込み型造山帯の進化を考える。 【キーワード】 1 沈み込み帯とは 2 アンデス弧とマリアナ弧 3 アンデス型山脈の成長と解体 4 日本列島の進化 5 地震と津波	池田 安隆 (東京大学大学院准教授)	池田 安隆 (東京大学大学院准教授)
5	地球環境の形成と進化	地球環境は太陽からのエネルギーと大気温室効果によって支えられている。地球史を通じて温暖な地球環境が維持されるためには大気の進化が重要であった。大気中の酸素は生物起源であり、地球史半ばに酸素濃度が増加したらしい。これらのことを紹介する。 【キーワード】 1 地球環境の特徴 2 地球環境の成立と暗い太陽のパラドックス 3 炭素循環と地球環境 4 酸素濃度の増加	田近 英一 (東京大学大学院教授)	田近 英一 (東京大学大学院教授)
6	地球のサブシステムの成立	地球システム全体を考えた時、質量では固体地球が99%をしめるが、ものの“流れ”の大きさを比べると気圏、水圏、生物圏といったサブシステムの重要性が浮かび上がってくる。これらのサブシステム間の相互作用が、現在の地球を駆動している事を学ぶ。 【キーワード】 1 地球のサブシステム 2 気圏 3 水圏 4 海をめぐる元素循環 5 生物圏 6 変貌する生物圏の概念 7 岩石圏 8 人間圏	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)
7	堆積物と堆積環境 【改訂回】	固体地球の最外殻は堆積岩で覆われる。堆積岩は、河床やデルタ、大陸斜面から深海底と様々な環境で形成され、それぞれ特徴的は組織や組成を持つ。野外での観察を通じて堆積岩がどのような環境で形成されたか判定する手法を学ぶ。 【キーワード】 1 岩石サイクル 2 堆積物の形成: 風化侵食ー運搬ー堆積過程 3 堆積環境と堆積物	松本 良 (東京大学名誉教授)	松本 良 (東京大学名誉教授)
8	海洋環境と深海堆積物	氷床の発達による海水準の低下、深層水の循環、海洋の成層構造の発達など、海洋の物理的、化学的進化と変動は、地球環境を大きく変える。一方、地球表層環境の変動は深海堆積物によく記録される。深海掘削コアを例に、深海堆積物の特徴と海洋環境の変動について解説する。 【キーワード】 1 海底の構造と海の堆積場 2 海洋構造と海の酸化状態 3 海水準の変動 4 記録媒体としての深海堆積物	松本 良 (東京大学名誉教授)	松本 良 (東京大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	層序の組み立てと地球史編年 【改訂回】	地層・堆積岩は地球の歴史の記録媒体であり、その重なり方から過去の環境や地殻変動を復元し、さらにそれが何年前であったかという年代値を入れることができる。本講では秋田県男鹿半島で実際の露頭を訪ね日本海拡大期の連続的な環境変化が記録された地層を観察する。化石、古地磁気、放射性核種を用いた年代論についても紹介する。 【キーワード】 1 地質調査:層序ユニットと対比 2 地質時代の区分(男鹿半島の新第三系・代四系) 3 生層序ー古地磁気層序ー数値年代 4 最新層序表	松本 良 (東京大学名誉教授)	松本 良 (東京大学名誉教授)
10	生命の誕生と初期進化 【改訂回】	他の太陽系の惑星とは異なり、地球は生命をはぐくんでいる星である。そして地球表層環境は生命現象とは切っても切れない関係を持ちながら、共に変遷してきた。原始生命はどのような環境でどのようなステップを経て誕生したのか、そして生命は地球表層環境とどのように関わりながら進化してきたのかを解説する。 【キーワード】 1 生命の誕生 2 シアノバクテリア 3 原核生物と真核生物 4 細胞内共生 5 大酸化イベント	大路 樹生 (名古屋大学教授)	大路 樹生 (名古屋大学教授)
11	生物の進化と絶滅 【改訂回】	現在地球上に見られる多様な生物界はいつ、どのような変遷を経て形成されてきたのだろうか。生命進化を長いタイムスケールで概観すると、短期間の急速な進化・絶滅現象とその間の比較的安定した時代との繰り返しであることが理解できる。ここでは特に生命の進化史上の大事件であるカンブリア爆発と大量絶滅のいくつかについて解説する。 【キーワード】 1 カンブリア爆発 2 多細胞動物の出現 3 ベント生物群 4 多様度変遷 5 大量絶滅	大路 樹生 (名古屋大学教授)	大路 樹生 (名古屋大学教授)
12	地球表層環境の変動	地球史において、暖かい時代(温室期)と寒い時代(氷室期)が数億年の周期でくりかえされたことが堆積物に記録されている。こうした長期的な環境変動の要因について考察する。また、氷室期に見られる短周期の氷期ー間氷期サイクルを、炭酸塩の酸素同位体組成の変動から解説する。 【キーワード】 1 地球史における気候変動 2 顕生代の気候変動 3 新生代の気候変動 4 急激な気候変動	田近 英一 (東京大学大学院教授)	田近 英一 (東京大学大学院教授)
13	全球凍結イベントと地球環境の安定性	最近の研究によって、地球全体が凍結するという破局的な環境変動が過去に何度か生じたらしいことが分かってきた。この全球凍結(スノーボールアース)仮説について紹介し、地球環境の安定性について考える。 【キーワード】 1 原生代の氷河時代の証拠 2 スノーボールアース仮説 3 スノーボールアース仮説の問題点 4 生物進化との関係 5 地球環境の安定性	田近 英一 (東京大学大学院教授)	田近 英一 (東京大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	熱水活動と鉱物資源 の生成	プレートの大境界／収束境界に多くのマグマ活動が集中している。その熱は、地殻中に熱水循環を引き起こす。この熱水活動は、重金属で代表される鉱物資源の生成のほか、地下生物圏のエネルギー源となるなど、新たな地球像を見せようとしている。 【キーワード】 1 資源は地殻から 2 鉱床の種類 3 熱水の起源 4 海底熱水活動 5 島弧の熱水活動 6 陸上の熱水活動	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)	浦辺 徹郎 (東京大学名誉教授)
15	生物活動とエネルギー資源 【改訂回】	太陽光や風力のような再生可能な自然エネルギーが注目されているが、現実には石油、天然ガスが大きな供給源である。本講では、過去の生物遺骸である化石燃料が、地球表層環境の変動を反映してどのように形成されてきたか解説する。最後に、新しい天然ガス資源として注目される深海底のガスハイドレートについて紹介する。 【キーワード】 1 エネルギー資源と炭化水素鉱床 2 炭化水素鉱床の起源 3 炭化水素鉱床形成の時代 4 非在来型炭化水素鉱床 5 ガスハイドレート	松本 良 (東京大学名誉教授)	松本 良 (東京大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234218	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 入門線型代数 （'14）＝（TV）

英文名＝ [Introduction to Linear Algebra ('14)]

〔主任講師（現職名）： 隈部正博（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

※この科目は「入門線型代数（'09）」の一部改訂科目です。
改訂回は第1、2、3、4、5回です。

講義概要

線型代数を初めて学ぶ人向けの講義である。予備知識は特に仮定しない。平面や空間といった素朴な概念から初め、数ベクトル空間を定義する。その後行列の概念を導入する。このとき、連立方程式の解法といった親しみやすい事柄の復習を通して、行列の演算を解説する。そして行列式、逆行列の求め方を学ぶ。また空間から空間への線型写像、部分空間の種々の性質をみる。これらを通して、行列の階数、あるいは空間の基底、次元がどういうものか解説する。さらに固有値、固有ベクトルを定義し、基底の変換を解説する。いわゆる数ベクトル空間について講義し、抽象的、公理的な議論はなるべく避けるようにする。

授業の目標

平面や空間といった素朴な概念を、数ベクトル空間としてとらえることから始める。また連立方程式の解法を、行列を使って解く方法を学ぶ。また、行列式、逆行列の求め方を理解する。また、線型写像、線型空間とはどういうものか解説する。さらに、ベクトルの線型独立、そして空間を構成する基底を学び、さらに空間の大きさを測る次元とはどういうものか学ぶ。次に基底の変換を解説し、これにより、座標の表示がどのように変わるかを理解する。合わせて固有値、固有ベクトルを解説し、基底の変換に応用する。

履修上の留意点

この授業は初めて線型代数を学ぶ人向けの授業である。従って予備知識は特に要求しない。できれば数学にいくらかの親しみをもっていただければありがたい。より入門的な数学の講義、例えば初歩からの数学、をとっていただければなおさらいい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	数ベクトル空間 【改訂回】	我々が日常目にする平面や空間と行った概念を、数ベクトル空間としてとらえる。 【キーワード】 平面、空間、数ベクトル、数ベクトル空間	隈部正博	隈部正博
2	行列 【改訂回】	行列がどういうものか定義し、行列の和や積演算について解説する。 【キーワード】 行列、行列の型、行列の和、積	隈部正博	隈部正博
3	連立一次方程式の解法 【改訂回】	連立一次方程式の消去法による解法を復習し、その後、これを行列を使って掃き出し法によって解くことを学ぶ。 【キーワード】 連立一次方程式、掃き出し法、行基本変形	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	階数 【改訂回】	連立一次方程式の行列による解法を整理し、行基本変形、列基本変形、そして階段行列を定義する。さらに行列の階数を定義する。さらに逆行列の求め方を学ぶ。 【キーワード】 行列の基本変形、行列の階数、正則行列、逆行列	隈部正博	隈部正博
5	置換 【改訂回】	行列式を定義するにあたって、必要な準備として、置換について解説する。 【キーワード】 置換、互換、巡回置換、偶置換、奇置換、置換の符号	隈部正博	隈部正博
6	行列式	二次や三次の正方行列の行列式の求め方からはじめ、一般の場合について定義する。 【キーワード】 行列式	隈部正博	隈部正博
7	行列式の性質	前章で定義した行列式のもつ種々の性質について学び、また行列式を特色づけを行う。また行列式の求め方を実際に練習する。 【キーワード】 行列式の展開	隈部正博	隈部正博
8	行列式の展開	行列式を列や行で展開する方法を学び、幾つかの性質を理解する。これを使って、行列の逆行列の求め方を学び、さらに連立方程式の解法についても再考する。 【キーワード】 逆行列、余因子行列、クラメルの公式	隈部正博	隈部正博
9	独立と従属	幾つかのベクトルをを使って他のベクトルを書き表す、線型結合について学ぶ。また線型独立や線型従属の意味することを理解する。 【キーワード】 線型結合、線型独立、線型従属	隈部正博	隈部正博
10	部分空間	数ベクトル空間の部分集合で、部分空間とよばれるものの定義をする。 【キーワード】 部分空間、生成する空間、基底、部分空間の和、共通部分	隈部正博	隈部正博

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	線型写像	数ベクトル空間から数ベクトル空間への線型写像を定義し、行列がどのように関わっているか学ぶ。また線型写像の像や核について学ぶ。 【キーワード】 線型写像、行列表現、像、核	隈部正博	隈部正博
12	次元	行列の階数と基本変形との関連について、より一般的に解説する。次に空間の大きさを測る次元を定義する。さらに次元と階数との関係について述べる。 【キーワード】 階数、基底、次元、次元公式	隈部正博	隈部正博
13	基底の変換	線型空間の基底が与えられた時、基底を変えることによって、与えられたベクトルの成分表示がどのように変わるかを見る。また線型写像を表す行列がどのように変わるかもみる。 【キーワード】 基底の変換、座標変換、線型写像の行列表示	隈部正博	隈部正博
14	固有値と固有ベクトル	固有値や固有ベクトルを定義し、その意味について解説する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、固有方程式、不変部分空間、ケーリーハミルトンの定理	隈部正博	隈部正博
15	行列の対角化	固有値と固有ベクトルの求め方について幾つか練習する。またこれを使って、基底の変換を行い、線型変換の行列表示がどのように変わるかをみる。最後に授業のまとめをする。 【キーワード】 基底の変換、行列の対角化	隈部正博	隈部正博

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1131702	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 微分と積分 (’10) = (TV)

※この科目は「初歩からの微積分 (’06)」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1, 9, 15回です。

〔主任講師 (現職名) : 熊原啓作 (放送大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 押川元重 (放送大学客員教授) 〕

【担当専任教員 : 石崎克也 (放送大学教授) 〕

講義概要

世の中を理解し積極的に対応しようとするとき、時間、長さ、広さ、重さ、物の量、価格などいくつもの変量を認識することは不可欠である。さらに一つの変量の値が決まれば、他の変量の値が決まるという関数関係を認識することも避けることは出来ない。二つの変量の間に関数関係があれば、それらの変化量の割合を記述するものとして、導関数を考える。微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが、その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数、関数、変量の間の関係を表現する微分方程式を解くことによって、それらを規定する関数関係を導くことができる。この授業科目では、高校で微分積分を学んでいることを前提としないで、大学レベルの微分積分を展開する。

授業の目標

微分積分学の基本事項をできるだけ平易に説明することを目標とする。新しい概念を真に身につけるためにはその概念になじむことが必要であり、数学的な言い回し、数学記号も繰り返し使用することによって違和感もなくなり理解が速まる。基本事項をおろそかにせず丁寧に説明し積み上げることによって、長い歴史を持ち広い応用を持つ微分積分学の入門とする。

履修上の留意点

章末の演習問題の解答は次回の放送授業の中で行う。まず印刷教材を参照しながら解答し、放送授業によって正解と照らし合わせ理解の確認をされたい。この授業においてはあくまで1変数関数の微積分の入門部分に限っているので、是非引き続き解析学関係の勉学を進め、解析学、数学のすばらしさを学んでいただきたい。高校での微積分はUPO-netで復習できます。なお、演習問題の解答はキャンパスネットワーク学習参考情報にも掲載しています。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	第1部序 微積分前半 の概要 (※改訂回)	この回は微分積分学を学ぶにあたって、その概要を知り、効果的・効率的に学ぶための方法を考える。さらに、第1部(1章～7章)の概要をつかみ、そこに現れる用語や記号に慣れることを目標とする。 【キーワード】 基本的な関数、微分、導関数の計算	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
2	関数と逆関数	微積分を展開する準備として関数とは何かからはじめて基本事項を解説する。時間とともに変動する事象の多くが関数で表され、関数を理解することは数学に限らず数と量を扱うすべての分野で必要である。 【キーワード】 関数、定義域、値域、逆関数、実数の連続性、関数の極限值、数列の極限值	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
3	上限・下限、関数の極 限值	極限値の基本性質を解説し、連続関数を定義する。議論の基礎として実数の連続性について述べ、数集合の上限と下限、関数の最大値と最小値について解説する。 【キーワード】 極限、連続、上限、下限、最大値、最小値	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	指数関数と対数関数	基本的な関数であり日常生活にも密接な関係がある指数関数・対数関数の導入とその性質を解説する。 【キーワード】 有理数, 無理数, 指数関数, 対数関数, 指数関数的増加, 自然対数, 自然対数の底	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
5	三角関数と逆三角関数	基本的な関数である三角関数を複素数を用いて導入しその性質を解説する。一般角の三角関数を定義し, 複素数を用いて三角関数の性質を導く。その過程でオイラーの公式を解説する。また逆三角関数を定義する。 【キーワード】 複素数, 弧度法, 三角関数, 複素数, オイラーの公式, 逆三角関数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
6	導関数	関数の導関数を定義し, その意味を考える。さらにこれまで取り上げた関数の導関数の計算を解説する。 【キーワード】 微分係数, 微分可能, 変化率, 導関数, 逆関数の導関数, 指数関数の導関数, 逆三角関数の導関数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
7	関数の生成	扱える関数を増やすため, 関数の生成ということを解説する。基本になる関数x^n, e^x, $\log x$, $\sin x$, $\cos x$, $\tan x$, $\sin^{-1}x$, $\cos^{-1}x$, $\tan^{-1}x$の性質を調べ, それらの関数の和, 定数倍, 積, 商, 合成による関数の生成について述べる。 【キーワード】 関数の四則, 合成関数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
8	微分と2次導関数	導関数の性質と導関数の計算を解説する。その内容は, 関数の和と定数倍, 積, 商の導関数, 合成関数の導関数などを述べ, 2次導関数についても説明する。 【キーワード】 微分する, 合成関数の微分, 逆関数の微分, 対数微分法, 2次導関数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
9	第2部序 微積分後半の概要 (※改訂回)	この回は第2部(9章～13章)の概要をつかみ, そこに現れる用語や記号に慣れることを目標とする。 【キーワード】 高次導関数, 積分, 微分方程式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
10	平均値の定理とテーラーの定理	高次導関数を用いての関数の多項式による近似とその応用を解説する。そこでは平均値の定理とテイラーの定理が重要である。応用として関数の増加・減少についても述べる。 【キーワード】 高位の無限小, 1次近似, 2次近似, n次導関数, 平均値の定理, テイラーの定理, 増加, 減少, 上に凸, 下に凸	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	不定積分	微分の逆演算としての不定積分の計算法を解説する。速度と加速度について触れ、積分の応用としてボールの軌跡を求める。 【キーワード】 原始関数, 不定積分, 部分積分, 置換積分, 速度, 加速度	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
12	1階微分方程式	多くの現象が微分方程式を用いて記述されるが、その第1歩として1階微分方程式を解説する。微分方程式とは何かから始め、変数分離形, 同次形, 1階線形微分方程式を取り上げる。 【キーワード】 微分方程式, 解, 変数分離形, 一般解, 特殊解, 特異解, 斉次形, 1階線形	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
13	2階線形微分方程式	運動を記述する2階線形微分方程式の基本性質と解法を解説する。定数係数2階線形微分方程式の斉次形, 非斉次形の解を述べ, 共鳴現象について説明する。 【キーワード】 2階線形微分方程式, 付随する斉次方程式, 1次独立, 基本解, ロンスキアン, 爆発解と消滅解, 単振動, 振幅, 共鳴	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
14	定積分	面積・体積を求めるときに使われる定積分の定義と意味, 計算法を解説する。応用として面積を求める。 【キーワード】 定積分, 面積, 積分可能, 微分積分学の基本定理, 部分積分, 置換積分	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)
15	数列と級数 (※改訂回)	等差数列および等比数列の和の計算公式から始める。ついで、無限級数の和とは何かを理解し、正項無限級数を中心に、和をもつ(収束する)無限級数であるか否か(発散する)無限級数であるかの判定を行う。 【キーワード】 数列, 等差数列, 等比数列, 無限級数, 無限級数の和, 無限正項級数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 押川元重(放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234200	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 解析入門 (' 1 4) = (R)

英文名 = [Introduction to Real and Complex Analysis (' 14)]

〔主任講師 (現職名) : 河添 健 (慶應義塾大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【 本学担当専任教員 : 石崎 克也 (放送大学教授) 】

講義概要

1変数の実関数の微積分を学んだ次のステップとして、多変数の実関数の微積分および複素関数について学習します。多変数の実関数としては主として2変数関数を扱い、その可視化、微分、多項式近似、極値問題、積分、面積・体積の求め方などを考えます。次にその発展として複素関数の微積分を扱います。実変数を複素変数に変えるだけですが、複素関数は実関数にない不思議な性質もっています。それらの性質を調べるとともに、応用として留数の原理にもとづく定積分の計算を紹介します。全体に1変数の実関数の微積分を復習しつつ講義を進め、実際の応用例、計算方法、歴史的な背景などを交えて分かり易く解説します。

授業の目標

2変数関数に関する理解と計算力を養います。また発展として複素関数の不思議な性質を紹介します。全体に証明の理解よりは、概念の把握、計算力、応用への理解を目標とします。

履修上の留意点

1変数の実関数の微積分にも多くの面白さや応用がありましたが、それを多変数の実関数や複素関数に拡張することにより、さらなる面白さや応用が広がります。したがって「微分と積分(' 10)」で学んだ1変数の実関数についての微積分の基礎があることが必要です。しかし完璧に覚えている必要はありません。講義ではそれらを復習しつつ進めます。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	多変数関数の連続性	15回の講義を通して何を目的に勉強するかを紹介する。1変数の実関数の微積分を多変数の実関数や複素関数に拡張することの意義を紹介する。とくにこの章では多変数関数の可視化、切り口と等高線、連続と不連続について理解する。 【キーワード】 多変数関数、定義域、値域、切り口、等高線、連続、不連続	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
2	多変数関数の微分可能性	なめらかさを表す概念が微分である。1変数の微分概念－接線とその傾き－を多変数関数に拡張する。このとき2つの考え方があり、それらが偏微分と全微分になる。また幾何学的な意味として、勾配ベクトル、接平面、法線ベクトルなどにも注目する。 【キーワード】 偏微分、方向微分、全微分、接平面、勾配ベクトル、法線ベクトル	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
3	偏微分の計算	1変数関数の微分計算を復習するとともに、多変数関数の偏微分の計算方法を習得する。とくに多変数関数の合成関数の微分公式や高階の偏微分の公式を紹介する。また陰関数と呼ばれる新しい関数の表記を学び、その微分と偏微分との関係を理解する。 【キーワード】 合成関数とその微分、高階の偏微分、陰関数とその微分	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	テイラー展開	3章の高階の偏微分を用いて、多変数関数のテイラー展開を導く。誤差項が小さくなる場合はテイラー級数となる。テイラー展開から多変数関数の近似－線形近似や多項式近似－が得られることを理解する。 【キーワード】 テイラー展開、テイラー級数、線形近似	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
5	極値問題	4章のテイラー展開の応用として極値問題を扱う。すなわち多変数関数の1次近似(線形近似)や2次近似を用いて、多変数関数の極大点・極小点・停留点を探すことを考える。さらに応用のうえで重要な制約条件があるもとの極値問題も考える。 【キーワード】 極大・極小、停留点、鞍点、ヘシアン、条件付き極値問題	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
6	2変数関数の積分	1変数関数の定積分や微積分学の基本定理を復習する。リーマン和の概念を拡張し、長方形領域で定義された多変数関数の重積分を定義する。さらに一般の領域での重積分を考える。とくに定数関数1を積分することにより面積定義を与える。また重積分を計算する累次積分の方法を紹介する。 【キーワード】 微積分学の基本定理、リーマン和、重積分、面積確定、縦線・横線集合、累次積分	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
7	座標変換と面積・体積	1変数関数の置換積分－変数変換－の拡張として、多変数変換の置換積分を考える。とくに直交座標で書かれた関数の重積分を極座標や円柱座標に変換して積分する場合を取り上げる。また具体的な例を中心に、重積分を用いて面積や体積の計算を行う。 【キーワード】 変数変換、ヤコビアン、極座標、円柱座標、面積・体積	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
8	複素数	この章から複素数とそれを変数とする複素関数について考える。最初に複素数の四則演算や複素数と複素数平面との対応、複素数の極形式について学ぶ。 【キーワード】 複素数、複素数平面、極形式、ド・モアブルの定理	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
9	複素関数	複素数を変数とする複素関数について、その定義域や値域を理解する。多変数関数のときと同様に、連続な複素関数や微分可能な複素関数－正則関数－を定義することができる。さらにすべての正則関数が満たすコーシー・リーマンの微分方程式を紹介する。 【キーワード】 複素数列、収束、極限、連続、微分可能、正則、コーシー・リーマンの方程式	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
10	整級数	級数の基本的な性質を復習する。つぎに級数で定義される正則関数をいくつか紹介し、その一般化である整級数を定義する。整級数の収束半径の求め方や微分可能性などの基本的な性質を調べる。また実変数の対数関数や指数関数を複素変数に拡張する。 【キーワード】 整級数、収束半径、コーシー・アダマール公式、オイラーの公式、対数関数、指数関数	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	複素積分	複素関数の積分を考える。リーマン和の考え方を拡張して、複素関数を複素数平面上の曲線にそって積分する。この線積分を用いて原始関数の概念を導入する。また次章で使う2変数関数のグリーンの公式を紹介する。 【キーワード】 線積分、原始関数、グリーンの公式	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
12	コーシーの積分定理	正則関数の線積分に関するコーシーの積分定理を紹介し、前章で紹介したグリーンの定理を用いてその証明を行う。この定理より積分路の変形原理を紹介する。さらにコーシーの積分公式を導く。 【キーワード】 コーシーの積分定理、コーシーの積分公式	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
13	テイラー級数と正則関数	コーシーの積分公式に注目し、正則関数が常にテイラー級数展開できることが分かる。その結果として実関数では成り立たない一致の定理や最大値の原理を紹介する。 【キーワード】 テイラー級数、一致の定理、最大値の原理	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
14	ローラント級数と特異点	この章では正則でない複素関数を扱う。具体的な例を用いて正則でない関数に対するローラント級数展開を導入する。これにより極などの特異点の分類を行う。さらに留数を定義し、その計算の仕方や留数の原理を紹介する。 【キーワード】 ローラント級数、特異点、極、留数、留数の原理	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)
15	留数の原理とその応用	14章で得られた留数の原理を用いて1変数の実関数の定積分を計算する。実関数の定積分を求めるには、いろいろな積分公式や技術を要したが、ここではその計算が留数の原理を用いることにより簡単に得られることをいくつかの例を用いて紹介する。 【キーワード】 定積分の計算	河添 健(慶應義塾大学教授)	河添 健(慶應義塾大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234145	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 計算事始め ('13) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 川合慧 (放送大学教授) 〕

講義概要

情報の処理の基本は、抽象的な概念である情報の表現と、その表現に対する系統立った変換のやり方及びその性質の把握である。本科目では「計算」というキーワードでこれら全体をカバーする統一的な視点を学ぶことを目的とする。具体的な内容としては、数の概念、性質、扱い方、それに現実世界との対応などを学んだあと、様々な種類の計算について、その表し方や計算方法について調べる。とくに、情報概念についての人間の発達段階に応じた認識の様子や、計算手順の自然言語表現などについて詳しく学習する。人間の情報処理の基本原理に関する内容なので、特定のターゲットはなく、社会人が共通にもつべき素養を学習する。

授業の目標

コンピュータに偏ることのない、本質的な計算の概念とその性質とを理解し、具体的な問題解決に際して可能な限り広く応用できる力を身につける。とくに、日常生活に見られる種々の計算の性質や、自然言語で表現した計算についての性質、計算概念を身につけるための教育上のくふうなどに力点を置き、日常生活の中で見られる平易な場面設定をもととした理解を目指す。このことによって「計算」についての素養を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

情報の世界('10)が強く関連する科目である。

回	テ マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	人間の活動と計算	人間が意識的に行っている活動の中から、計算という要素を抽出することの意味を、数々の実例について考える。計算というものが、「数式」という極度に抽象化されたものに限られることは決してなく、人間の日頃の活動全般に渡ってあてはまるものであることを認識する。 【キーワード】 計算、式、数	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
2	数の数え方	人間の計算活動は、最も単純な正の小さな整数を扱うことから始まった。ここでは、図示した場合に一目で把握できる大きさの正の整数から始め、「数」の考え方と、その表記方法である数字の構成原理とを学ぶ。 【キーワード】 数の概念、図形的整理、数え上げ、数の大きさ、数字	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
3	読書きそろばん	身の回りに見出される「計算」について、いろいろな数の数え方を紹介する。文化による数え方の違いや、スポーツゲームの点数の数え方について調べてみる。数字については10進法に限らない表現方法、たとえば2進表現や16進表現について調べ、計算と数の表現との関係について学ぶ。 【キーワード】 計算、2進法、10進法、0から数える、1から数える	高岡詠子 (上智大学准教授)	高岡詠子 (上智大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	計算のしかけ	最も身近な計算である四則演算を「計算」という観点からとらえ直して理解する. 各種の暗算の手法についても紹介する. 古典的な計算補助器であるそろばんや計算尺による計算も紹介する. 【キーワード】 四則演算, 暗算, そろばん, 計算尺	高岡詠子 (上智大学准教授)	高岡詠子 (上智大学准教授)
5	数の性質と計算	現実社会で実行されている計算活動の重要性を, 情報伝達の誤りを検知する手法や簡単な暗号, さらに素因数分解の困難性に基づいた暗号化方式であるRSA暗号を題材に学ぶ. 【キーワード】 誤り検知, ISBN, 素数, 素因数分解, 暗号, RSA暗号鍵	高岡詠子 (上智大学准教授)	高岡詠子 (上智大学准教授)
6	絵と音を計算する	コンピュータは文章や数値データだけでなく, 画像や音声, 動画を表現することもできる. 私たちが普通に接している画像や音声がどう表現されているか, そして計算によってどのように変化していくかについて学ぶ. 【キーワード】 音声や画像の表現, ビットマップ, ベクタ, 色変換, 画像処理, 標準化, 量子化, 符号化	高岡詠子 (上智大学准教授)	高岡詠子 (上智大学准教授)
7	おはなしコンピュータ	コンピュータが計算を行う基本的な仕組みについて学ぶ. 電源を入れてからコンピュータが計算を始めるまでの行動や, コンピュータが命令をどう実行しているのかについて学ぶ. 次章で使う変数や反復などの概念の導入とする. 【キーワード】 変数, 反復, ブートストラップ, 命令の実行サイクル	高岡詠子 (上智大学准教授)	高岡詠子 (上智大学准教授)
8	コンピュータにおける式と手順	これまでに学んできた計算は, 一定の約束のもとでコンピュータ上で式の式として表わされる. ここでは, コンピュータ上で式を記述し, それを「手順化」してプログラムとすることを学ぶ. 【キーワード】 手順化, プログラム, プログラム言語, 制御構造	西田知博 (大阪学院大学准教授)	西田知博 (大阪学院大学准教授)
9	アルゴリズム	手順はより一般的にはアルゴリズムという形で表現できる. ここではアルゴリズムの定義とその表現方法を紹介する. また, その例を身近なテーマを交えて学ぶ. 【キーワード】 アルゴリズム, フローチャート, 配列, 貪欲法	西田知博 (大阪学院大学准教授)	西田知博 (大阪学院大学准教授)
10	問題解決とアルゴリズム	コンピュータを使用した問題解決では, 問題をモデル化し, 機械的手順で扱うことのできるデータによって表現し, それに基づいたアルゴリズムを作成する必要がある. ここではモデル化した問題のシミュレーションと, データを扱う統一的な形式であるデータ構造について学ぶ. 【キーワード】 問題解決, 問題のモデル化, データ構造, 配列, リスト	西田知博 (大阪学院大学准教授)	西田知博 (大阪学院大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	アルゴリズムと能率	特定の問題に対する解法は複数存在するのが普通で、しかもそれぞれ計算量が異なることが多い。ここでは計算手順に則した処理の手間に基づく能率の諸側面について探索アルゴリズムなどを通じて学ぶ。 【キーワード】 計算量, 計算量のオーダー, 探索	西田知博 (大阪学院大学 准教授)	西田知博 (大阪学院大学 准教授)
12	並び替えアルゴリズム	並び替え(ソート)は、多くのアルゴリズムの基本処理となり、コンピュータでのデータ処理において重要な役割を果たす。ここでは、複数のソートアルゴリズムを紹介し、それぞれの性質および、効率について説明する。 【キーワード】 ソート, 分割統治法, 再帰, 空間計算量	西田知博 (大阪学院大学 准教授)	西田知博 (大阪学院大学 准教授)
13	図形アルゴリズム	アルゴリズムのうち図形を扱うものは、現実的な応用としても重要である。ここでは図形の面積や地図情報の扱いなどを例として、図形を扱うアルゴリズムについて学ぶ。 【キーワード】 幾何アルゴリズム, グラフアルゴリズム, ボロノイ図, ダイクストラ法	西田知博 (大阪学院大学 准教授)	西田知博 (大阪学院大学 准教授)
14	逆問題と最適化	現実問題の中には、解法は分かったとしても、その実行には時間がかかりすぎるため実質的には解くことができない問題も存在する。ここでは、逆問題から始めて、与えられた条件の中で最適な解を求める問題である最適化問題と計算の難しさを説明する。 【キーワード】 逆問題, 方程式, 最適化問題	川合慧 (放送大学教 授)	川合慧 (放送大学教 授)
15	計算と人間の思考	計算というものは、それ自身が数学的に存在する独立事象であるとともに、それを構成し解釈する人間に依存する要素も大きい。ここでは計算の定義や性質を、人間の考え方と照らし合わせて議論する。 【キーワード】 計算と人間, パターン照合, 項置き換え, 関数	川合慧 (放送大学教 授)	川合慧 (放送大学教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	情報量	日常言語としての情報概念と、情報理論での情報概念の違いについて明らかにする。そして情報理論に基づき数学的に情報量を定義し、いくつかの具体的な事例で情報量の定義が直感ともうまく合致していることを確認する。次に、情報量の加法性について述べ、独立な事象ではない場合についての取り扱いについて解説する。 【キーワード】 情報、情報量、シャノン、対数、指数、確率、加法性	加藤浩(放送大学・教授)	加藤浩(放送大学・教授)
5	エントロピー	エントロピーという概念を導入し、それが情報源から得られる平均的な情報量という側面と確率分布の不確定さという側面を持っていることを解説する。さらに、熱力学でいうところのエントロピーとの関係についても述べる。次に、エントロピーの性質について解説し、条件付きエントロピー、相互情報量、カルバック・ライブラー情報量を定義する。 【キーワード】 エントロピー、不確定さ、条件付きエントロピー、相互情報量、カルバック・ライブラー情報量	加藤浩(放送大学・教授)	加藤浩(放送大学・教授)
6	ベイズの定理	ベイズの定理とその応用例について学ぶ。基本的なベイズの定理を導入し、例題を通してその使い方を理解する。また、例題を基にして、確率と情報量との関係をもう一度考える。ベイズの定理の応用例として、電子メールの自動分類や製品の不良率予測に関する問題を扱う。 【キーワード】 ベイズの定理、ベイズ更新、事前確率、事後確率、尤度	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
7	通信のモデル	通信のモデルについて学ぶ。情報のある場所から別の場所に伝達する情報伝達の基本モデルを考える。このモデルに含まれる情報源や通信路といった構成要素とその役割を説明する。また、通信路において伝達できる最大情報量としての通信路容量の概念、情報源の統計的表現を導入する。 【キーワード】 通信モデル、通信路、情報源、通信路容量、通信路符号化定理、状態遷移図、散布度	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
8	情報の圧縮	情報の圧縮について概要を学び、符号化の基本について理解する。まず、符号化の種類と役割を述べ、符号の種類と条件について説明する。符号の木を導入し、符号が成立するための条件を考える。次に、圧縮性能を表す平均符号長を導入し、符号化の限界について考える。基本的な符号化方式としてハフマン符号を紹介し、その構成法を示す。 【キーワード】 符号化、復号、符号、符号語、平均符号長、情報源符号化定理、ハフマン符号、符号の木	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
9	線形符号	通信路上で生じた雑音や誤りの影響を最小とするため、冗長度を与えて誤り検出と訂正を行う方法について、線形符号を取り上げ、ベクトル表現を使いながら、その生成法、誤り訂正の基礎を学ぶ。 【キーワード】 符号間距離、パリティ検査、線形符号、生成行列、シンドローム、ハミング符号	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	巡回符号と畳み込み符号	線形符号の一つである巡回符号について、その特徴を多項式表現を中心に学ぶ。また、時間的に区切らず符号化を行う畳み込み符号と最尤復号(さいゆうふくごう)について、符号化と復号法の基礎を学ぶ。 【キーワード】 巡回符号、生成多項式、シフトレジスタ、畳み込み符号、状態遷移図、トレリス図、ビタービ復号、最尤復号	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)
11	テキストの符号化	コンピュータ上で文字情報を扱う方法を解説する。文字集合と文字コードの概念を述べ、文字とその属性が独立していることを明らかにする。ラテン文字や基本的な記号を表現できる文字コード、日本語で使われる文字を表現できる文字コード、世界中の文字を表現できる文字コードを紹介する。 【キーワード】 文字集合、文字コード、ASCII、JIS X 0208、Unicode	森本容介(放送大学・准教授)	森本容介(放送大学・准教授)
12	音の符号化	コンピュータ上で音の情報がどのように符号化されているか解説する。音信号の表現方法について述べ、音データの圧縮技術を大まかに分類する。音の圧縮符号化方式として、音楽CDなどに使われる波形符号化、携帯電話などに使われる分析合成、音楽配信メディアなどに利用される聴覚心理符号化について理解する。 【キーワード】 音信号、波形符号化、PCM、分析合成、LPC、聴覚心理符号化、MP3	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
13	画像の符号化	コンピュータ上で画像情報がどのように符号化されているか解説する。画像の表現方法について述べ、画像とデータ量との関係を説明する。画像の圧縮符号化方式としてJPEGを扱い、その処理手順や圧縮技術を理解する。色情報を削減する手法や空間的な周波数を用いる手法を導入する。 【キーワード】 画素、画素値、三原色、離散コサイン変換、量子化、エントロピー符号化、JPEG	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
14	動画の符号化	コンピュータ上で動画情報がどのように符号化されているか解説する。動画の表現方法について述べ、動画の圧縮符号化方式を紹介する。動画データの圧縮技術として、フレーム間差分、動き補償予測の手法を理解する。また、MPEGの符号化処理およびフレーム構成について概要を説明する。 【キーワード】 フレーム、インタレース、プログレッシブ、フレーム間差分、動き補償予測、MPEG	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)	浅井紀久夫 (放送大学・准教授)
15	数列の利用	周波数拡散、暗号、データ検索などに使われている複雑な数字の列として、M系列、暗号、ハッシュ値について、生成の方法や、応用方法を見ながらこれらの考え方を学ぶ。 【キーワード】 M系列、疑似ランダム系列、暗号、DES暗号方式、RSA暗号方式、公開鍵、秘密鍵、ハッシュ値	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234170	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 日常生活のデジタルメディア ('14) = (TV)

英文名 = [Digital Media in Daily Lives ('14)]

[主任講師 (現職名) : 青木 久美子 (放送大学教授)]

[主任講師 (現職名) : 高橋 秀明 (放送大学准教授)]

【本学担当専任教員 : 】

講義概要

コンピュータをはじめとして、携帯電話、タブレット、電子書籍、デジタルカメラ、デジタルテレビ、ゲーム機器と、デジタルメディアも多様化している一方、クラウドコンピューティングに代表されるように、どれもインターネットに接続して情報が流通し、交換される、といった集約化も行われている。デジタル化された情報は、それが画像・音声・文字・動画といった中のどの形で表現されるものであろうとも、インターネットやコンピュータネットワーク上で流通可能であることが特徴である。こういったデジタルメディアの普及により、我々の日常生活がどのように変わってきているのか、変わりつつあるのか、また、変えていかなければいけないのか、この講義では、デジタルメディアの特性というものを理解しながら考えていく。

授業の目標

本科目は情報コースの共通科目であるため、より専門的な知識を身に付ける前に、又は、身に付けると同時に、日常的に触れている身の回りのデジタルメディアについての理解を深めることを目標とする。また、様々なデジタルメディアの仕組みを理解するのみならず、そういったメディアの活用がどのように個人の人々の生活や社会に影響を及ぼしているのかを考える枠組みを提供する。

履修上の留意点

この科目は学部の共通科目であるため、インターネット接続を必須としないが、デジタルメディアのより深い理解を得るためには、インターネット接続を推奨する。

回	テ マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報社会の機会と課題	情報というものが資源として流通促進される情報社会が到来したと云われて久しい。その中心を担っているのが、インターネットに代表されるデジタルな情報通信技術である。こういった情報通信技術 (ICT) が我々の日常生活の様々な場面に浸透し、大きな変化をもたらしてきている。第1回では、そういった変化について考える。 【キーワード】 情報社会、デジタル・デバイド、デジタルネイティブ、情報爆発	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
2	日常生活におけるデジタルメディアの活用	デジタルメディアは我々の日常生活にどのような影響を与えているのだろうか。第1回では広く情報社会とは何かについて、またデジタルメディアの特性について検討した。第2回では、日常生活を営む「主体」からデジタルメディアをどのように捉えることができるか、事例を交えながら考察する。その上で、メディアを活用する主体について振り返りながら、デジタルメディアがどのような特徴を持っているのかについて検討を加える。 【キーワード】 ライフイベント、ライフログ、生活時間、アクター、ストック、フロー、リニア、プッシュ型・プル型、ロボット	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
3	メディアのパーソナリゼーション	第2回で個人とデジタルメディアの関係性について触れたが、第3回のテーマである「パーソナリゼーション」は情報やメディアが一人ひとりの個人のためにカスタマイズされていることを指す。まず、パーソナリゼーションとは何かを考え、そもそもパーソナリティ (人格) とは何か、さらにパーソナリゼーションの諸側面について具体例を交えながら検討する。 【キーワード】 パーソナリゼーション、レコメンデーション、メディア等式、パーソナル・ファブリケーション、自己メディア	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	コミュニティとしてのメディア	ソーシャルメディアと呼ばれるネット上のツールで、現在様々なコミュニティが形成されている。地理的要件に縛られないコミュニティで、多様なトピックについて情報共有・交換がなされている。こういったバーチャルなコミュニティにおいて集合知、又は集団的知性と呼ばれるものが存在するという説もある。第4回では、時間や地理的制約を受けずに存在するコミュニティについて考え、その可能性を探る。 【キーワード】 オンラインコミュニティ、集合知、情報共有、ソーシャルメディア	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
5	モバイルメディア	携帯電話やスマートフォン、モバイル端末、タブレットPCなどモバイル機器は、現代の生活に欠かせないものとなってきている。コンピュータを使用しなくともインターネットに接続することで、いつでもどこでも情報収集・コミュニケーションが図れるモバイルメディアについて紹介する。 【キーワード】 携帯電話、ケータイ、スマートフォン、電子書籍、電子新聞、GPS	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
6	電子商取引	今や、デジタルメディアは、家庭の中にも浸透しつつある。交通機関や小売店における電子マネー決済が普及している一方、ネット上で、簡単にモノやサービスを売買できるようにもなっている。また、銀行口座の残高確認や振り込みを行うネットバンキング、ネット上で金融取引等についても紹介する。 【キーワード】 電子マネー、ネットショッピング、電子商取引、電子決済、ネットバンキング	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
7	ソーシャルメディアとビジネス	デジタルメディアは大企業はもちろんのこと、中小企業や個人がビジネスを行っていく上で大きな役割を担っている。また、デジタルメディアを活用することによって効率的・効果的にビジネスが行える、という側面もある。ソーシャルメディアをビジネスに活用したソーシャルコマースも一般化しつつある。第7回では、ソーシャルコマースを含むデジタルメディアのビジネスへの活用について考える。 【キーワード】 ソーシャルコマース、ソーシャルショッピング、エンゲージメント、ソーシャルグラフ、インタレストグラフ、キュレーション	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
8	学習とデジタルメディア	Eラーニングといった言葉で代表されるように、デジタルメディアを介した学習も一般化してきている。学校や大学といった正式な場以外でも、様々な形で学習をすることが可能になってきている。また、デジタルメディアを活用するためのスキルも重要になってきている。第8回では、そういった学習・教育の可能性について論じる。 【キーワード】 CAI、オープンコースウェア、教育資源のオープン化、反転授業、デジタルリテラシー、デジタルシチズンシップ、21世紀スキル	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
9	娯楽とデジタルメディア	娯楽とは、広く深い世界である。第9回では、まず日常生活における娯楽とは何かを考え、次に娯楽においてデジタルメディアがどのような形で利用されているかについて、事例を紹介しながら検討を加えていく。 【キーワード】 デジタル・アーカイブ、消費者生成メディアCGM、N次創作物	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	政治とデジタルメディア	政治とは、地域や近所の行事・会合への参加から、国政の政治まで、さまざまなレベルで考えることができる。デジタルメディアは、そのいずれのレベルの政治の在り方にも影響を及ぼしている。第10回では、このような政治におけるデジタルメディアの利活用について、事例を交えながら検討を加えていく。 【キーワード】 情報化政策、フラッシュモブ、電子政府、ネット選挙、電子投票、eデモクラシー	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
11	健康とデジタルメディア	第11回では、日常生活において必要不可欠な健康に関する行動のうち、食事、医療・育児・介護などとデジタルメディアとの関連について、具体例も交えつつ検討する。 【キーワード】 ヘルス・リテラシー、電子カルテ、遠隔医療、エデュテインメント、介護ロボット	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
12	危機とデジタルメディア	第12回では、まず危機とは何でありどのように捉えることができるのかを規定する。次に危機を知り、危機に備えるためにデジタルメディアをどのように利活用できるのかを検討する。危機の発生時、つまり緊急時にどのようにデジタルメディアが利活用されたかを、2011年3月11日の東日本大震災を事例に紹介する。 【キーワード】 経済危機、環境危機、国際危機、防災、3・11情報学、震災ビッグデータ	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
13	デジタルメディアと安全・安心、危険性	本科目は日常生活が普通に営まれていることを前提としている。では、安全・安心に普通の日常生活を営むこととデジタルメディアとの関係にはどのようなものがあるのだろうか。また、その逆にデジタルメディアの利活用に関連した危険性にはどのようなものがあるのだろうか。第13回では、これらについて具体例をあげながら検討してみたい。 【キーワード】 安心・安全、情報セキュリティ、防犯、メディアの危険性、メディアの効果	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
14	デジタルメディアの標準化	デジタルメディアの標準化には利点と欠点がある。第14回では、この利点と欠点を考察し、また、デジタルメディアの国際標準化動向について説明する。 【キーワード】 標準化、ネットワーク外部性、ネットワーク効果、クリティカル・マス、デファクト標準、デジュール標準、オープンスタンダード	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)
15	デジタルメディアと社会文化	これまで14回にわたって、デジタルメディアが我々の日常生活や社会にどのような影響を与えているのかを紹介、説明してきた。第15回では、本科目のまとめとして、デジタルメディアが従来の産業構造にどのような影響を与えているのか、また日常生活にどのような変化をもたらしているのかを論じる。 【キーワード】 メディアコンバージェンス、放送と通信の融合、ネットワーク社会、ブラックボックス化、メディア・コングロマリット、クロスメディア	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授) 高橋 秀明 (放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	通信プロトコルとOSI参照モデル	通信プロトコルについて理解するとともに、データ通信の階層モデルとしてOSI参照モデルについて理解する。 【キーワード】 通信プロトコル、アーキテクチャ、レイヤー、OSI参照モデル	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
5	TCP/IPモデルとパケット交換方式	インターネットの標準的アーキテクチャであるTCP/IPモデルについて理解する。その上でTCP/IPで採用されているパケット交換方式とカプセル化の概要を理解する。 【キーワード】 TCP/IP 回線交換方式 パケット交換方式	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
6	イーサネットとハブ	ネットワークインターフェース層の規格であるイーサネットと伝送媒体であるケーブルの規格およびLANケーブルの集線装置であるハブの機能について理解する。 【キーワード】 イーサネット ツイストペアケーブル ハブ リピータ	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
7	MACアドレスとスイッチ	MACアドレスとそれを利用した通信について理解する。その上でスイッチの果たす機能を理解する。 【キーワード】 MACアドレス フレーム スイッチ MACアドレステーブル	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
8	IPアドレスとサブネットマスク インターネット層(1)	インターネット層のプロトコルであるIPとIPアドレスについて理解する。その上で、サブネットマスクについて理解する。 【キーワード】 IPヘッダ IPアドレス サブネットマスク	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
9	ARPとルーティング インターネット層(2)	異なるネットワーク間の中継器であるルータとルータの機能であるルーティングとIPアドレスからMACアドレスを参照するARP、エラー情報を発信元に報告するICMPなどのIP以外のインターネット層のプロトコルについて理解する。 【キーワード】 ルータ ルーティング ARP、ICMP	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
10	ポート番号とTCP-トランスポート層-	ポート番号およびトランスポート層のプロトコルであるTCP、UDPのそれぞれの特徴について理解する。その上で、TCPによる通信が行われる手続きについて理解する。 【キーワード】 ポート番号、コネクション型通信、コネクションレス型通信、TCP、UDP	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ドメイン名とIPアドレス アプリケーション層	アプリケーション層の役割について理解する。その上で、アプリケーション層のプロトコルのうち、DNSとDHCPのそれぞれの特徴と名前解決やIPアドレスの配布の手順を理解する。 【キーワード】 DNS、ドメイン名、名前解決、ドメイン空間、ゾーン、DHCP、IPアドレス	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
12	WWWサービス	WWW、ハイパーテキスト、HTTPなどの基礎的な学習をし、WebブラウザにWebページが表示される仕組みを理解する。 【キーワード】 WWW、ハイパーテキスト、HTTP、Cookie、プロキシ	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
13	ネットワークと情報サービス	ゲーム、ショッピング、学習、コミュニケーションなど情報ネットワークのより私たちの日常生活における娯楽や仕事などが、どのように恩恵を受けているかについて、実例をあげて学習する。 【キーワード】 ネットゲーム、ネットショッピング、eラーニング、SNS、クラウド	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
14	インターネットへの 様々な接続方法	インターネットへの様々な接続方法として、ADSL、FTTH、CATV、アナログ電話回線、ISDNについて学習する。またLTEやWiMAXなどのモバイルネットワークや無線LANの規格について学習する。 【キーワード】 ADSL、FTTH、CATV、アナログ電話回線、ISDN、LTE、WiMAX	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)
15	情報ネットワークのセキュリティ	情報セキュリティの重要性、ネットワークに潜むリスクについて理解する。その上で、様々なセキュリティの方法について学習する。 【キーワード】 盗聴、不正アクセス、詐欺、コンピュータウイルス、暗号化、電子署名、認証局、セキュリティプロトコル、ファイアーウォール	芝崎順司 (放送大学・准教授)	芝崎順司 (放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (自然系)	科目 コード	1234196	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 情報社会の法と倫理 ('14) = (R)

英文名 = [Law and Ethics in the Information Society ('14)]

〔主任講師 (現職名) : 尾崎史郎 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 児玉晴男 (放送大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 〕

講義概要

インターネットの普及した今日の情報社会においては、画像、音声等の様々なコンテンツをはじめとする大量の情報を誰でも容易に発信できるようになっている。大量の情報発信が一部の専門家にゆだねられていた時代にはそれなりの秩序が保たれていたが、誰でも大量の情報発信が可能な時代を迎え、不適切な情報発信も数多く見受けられるようになっている。この講義では、コンテンツと密接に関係する著作権をはじめとする知的財産権や個人情報の保護等について学び、情報社会の一員として持つべき法と倫理についての基本的な理解と認識を身につける。

授業の目標

誰でも容易に大量の情報が発信できる情報社会において、それぞれの立場の者がどのような権利を有しているのかについて理解し、自己の権利を適切に守るとともに、適切な情報発信と情報活用ができるようにするための基本的な知識を身につける。

履修上の留意点

情報社会と情報技術(情報通信技術)との関わりからは、さらに「進化する情報社会('11)」、「情報のセキュリティと倫理('14)」を履修することが好ましい。この科目は、人文・社会科学系の履修者も対象としています。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	情報社会の法のしくみ	情報通信技術の発達・普及は、各種の情報に接する機会を増加させている。それら情報を合理的に利活用するうえで、各種の情報がどのように保護されているかを知っておく必要がある。本講は、情報の創造・保護・活用に関する著作権法と知的財産法および情報法に関する基本的な知識とそれらに関連する情報倫理について概観する。 【キーワード】 高度情報通信ネットワーク社会、著作権法、産業財産権法、不正競争防止法、情報公開法・個人情報保護法、不正アクセス禁止法、プロバイダ責任制限法、情報倫理	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
2	情報倫理	コンピュータ、インターネット、モバイル通信に関する規範と価値に関する考え方の変遷を中心にして、2010年代における情報技術の活用がもたらすライフスタイルとそれを律する価値と規範の特徴について概観する。 【キーワード】 新技術受容の4段階説、政策と概念の真空地帯、専門家の倫理、万人の情報倫理、著作権、プライバシー	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
3	コンテンツの保護1 (保護対象)	デジタル化、ネットワーク化の進展に伴い、様々なコンテンツが多様な形態で流通しているが、その多くは著作権法により保護を受ける著作物と考えられる。そのため、どのようなものが著作物で、誰がその著作物の権利主体である著作者となるかについて解説する。 【キーワード】 著作物、著作物の種類、編集著作物、二次的著作物、著作者、法人著作	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	コンテンツの保護2 (創作者の権利)	コンテンツ(著作物)の創作者である著作者は、自ら創作した著作物について、著作者の人格的利益を保護するための著作人格権と経済的利益を保護するための著作権を有している。なかでも著作権についてはコピーする権利、放送やインターネットで送信する権利等利用態様に応じ様々な権利が定められている。そのため、著作者の有する権利とその保護期間について解説する。 【キーワード】 著作人格権、著作権、無方式主義、複製権、公衆送信権、保護期間	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
5	コンテンツの伝達者の保護	著作権法では、コンテンツ(著作物)の伝達に重要な役割を果たす実演家、レコード製作者、放送事業者等にも、著作者に準じた権利が与えられている。実演家等の権利について、著作者の権利と比較しつつ解説する。 【キーワード】 実演、実演家、レコード、レコード製作者、放送、放送事業者、実演家人格権、著作隣接権	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
6	コンテンツ利用の許容範囲	著作物等を利用する場合は権利者の許諾を得るのが原則だが、著作権法では、一定の条件を満たす場合は、権利者の許諾なしに著作物等を利用することを認める規定が設けられている。そのため、どのような場合に権利者の許諾なしに著作物等を利用できるか解説する。 【キーワード】 著作権等の制限規定、私的使用のための複製、送信の障害の防止等のための複製、図書館等における複製、引用、教育機関における複製、営利を目的としない上演等	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
7	コンテンツの利用と管理	コンテンツ(著作物等)を利用する場合は、原則として権利者の許諾が必要となる。しかし、著作者等によっては、自由に利用することを認め、その旨を明示してコンテンツを公開する場合がある。また、著作物等は多様に利用されることから、個人で適切に管理することが困難な場合があるため、多数の権利者から権利を預かり管理する著作権等管理事業が発達している。そのため、コンテンツの利用と管理の観点から、利用する際の基本的な考え方、利用を容認するためのライセンス、著作権等管理事業について解説する。 【キーワード】 利用許諾、譲渡、裁定、GPL、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス、著作権等管理事業	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
8	肖像とパブリシティの保護	人はみだりに自己の容ぼう等を撮影・公表されない権利や、肖像や氏名のもつ顧客吸引力を利用する権利を有している。これらの権利は、法令上明記はされていないが判例上認められており、肖像権やパブリシティ権と呼ばれている。そのため、これまでの判例を中心に、これらの権利について解説する。 【キーワード】 肖像権、パブリシティ権	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
9	ソフトウェアの保護	ソフトウェアは、コンピュータ・プログラムの著作物として著作権法で保護される対象である。そのソフトウェアは、物の発明として特許法で保護される対象でもある。また、ソフトウェア特許としてビジネスモデル特許やシステム特許などがある。本講は、ソフトウェアの保護の変遷の経緯から、ソフトウェアが発明でどのように保護されているかについて概観する。 【キーワード】 発明、ネットワーク型特許、システム特許、ビジネスモデル特許、エコ・パテントコモンズ、特許法	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	デザインの保護	パソコンや携帯端末は、著作物や発明で保護されるソフトウェアを内蔵するハードウェアである。そして、発明として保護されるハードウェアの形態は、デザインとして意匠法で保護される対象になる。また、操作画面のデザインも意匠法の保護対象になる。本講は、情報端末自体とその操作画面、そしてそれらを形成する要素がデザインとしてどのように保護されるかを概観する。 【キーワード】 デザイン、審美性・機能性、意匠法、タイプフェイス、マスク面、半導体集積回路配置法	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
11	トレードマーク(サービスマーク)の保護	著作物や発明として保護されるソフトウェアまたは発明やデザインとして保護される情報関連機器は、現実の世界でも情報の世界でも、商品またはサービスとして商標(標章)が付されて流通している。その商標(標章)と商品またはサービスが一体となった形態は、商標法で保護される対象である。本講は、トレードマーク(サービスマーク)が登録商標としてどのように保護されているかを概観する。 【キーワード】 トレードマーク、サービスマーク、商品、役務(サービス)、登録商標、商標法	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
12	営業秘密の保護	営業秘密その他の事業活動に有用な技術上または営業上の情報は、著作権法と産業財産権法とは別な不正競争防止法で保護される。知的財産法の中で、営業秘密は公表・公開を前提としない保護の形態であり、また著作権法と産業財産権法で保護しえない対象も不正競争防止法の保護対象になる。本講は、営業秘密の保護と技術的保護(制限)手段など不正競争防止法に関する事項および独占禁止法との関わりについて考える。 【キーワード】 営業秘密、トレード・シークレット、ソースコード、オープンソース、技術的保護(制限)手段、不正競争防止法、独占禁止法	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
13	プロバイダの責任とセキュリティの保護	インターネットの普及に伴い、匿名性を利用した違法情報の発信や他人のID・パスワード等を悪用した不正なアクセスも増加している。そのため、プロバイダによる情報の削除や発信者情報の開示、不正アクセス行為の禁止について規定した法令が制定されている。これらは、今日のインターネット社会を象徴する法令であるため、その内容を概説する。 【キーワード】 プロバイダ責任制限法、不正アクセス禁止法	尾崎史郎(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授)
14	プライバシーの保護	高度情報通信社会における、個人情報とプライバシーの保護はどうあるべきか。民間部門を対象にする個人情報保護法、公的部門を対象にする行政機関個人情報保護法、住民基本台帳法に基づく住民基本台帳ネットワークシステム、さらに政府が検討中の「社会保障と税の共通番号制」などの内容について説明しながら、個人情報保護の過剰反応、プライバシーの権利の再構成についても、検討する。 【キーワード】 プライバシー、高度情報通信社会、個人情報、本人情報を知る権利、住基ネット、共通番号制、個人情報保護の過剰反応	三宅弘(獨協大学法科大学院特任教授)	三宅弘(獨協大学法科大学院特任教授)
15	情報社会の法と倫理を考える	情報通信技術が描く社会では、今日の法律の理解とは異なる見解が示されていた。倫理についても、情報ネットワークとネット環境において言語表記の一元化がすすむ一方で、文化的な多様性の保持が求められる。たとえば情報教育においては、著作権と情報倫理が主要なテーマになっている。本講は、情報教育における著作権と情報倫理との関わりから情報社会の法と倫理を考える。 【キーワード】 情報の所有、情報の共有、倫理、リテラシー、オラリティ	児玉晴男(放送大学教授)	尾崎史郎(放送大学教授) 児玉晴男(放送大学教授) 土屋俊(大学評価・学位授与機構教授) 三宅弘(獨協大学法科大学院特任教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1314718	履修 制限	無	単位 数	2

科目名(メディア) = 英語圏の言語と文化 ('11) = (R)

〔主任講師(現職名): 井口 篤(放送大学准教授) 〕

〔主任講師(現職名): 大橋 理枝(放送大学准教授) 〕

講義概要

英語と一口に言っても、話されている地域は多種多様にわたります。イギリス、アイルランド、アメリカ、カナダをはじめとして、インド、南アフリカ、オーストラリアなどの国で英語は公用語として話されています。さらに、英語は世界各国に散らばる非母語話者によって政治・経済・文化の様々なレベルで使用されています。このような英語文化の「多重奏」を深く理解するために、世界各地で書かれた英語の文学テキストに触れていきましょう。各回の講義においては、まずいろいろな地域出身の作家によって書かれた英文を読み、続けてポストコロニアル文学の専門家である東京大学准教授のバーナード・ウィルソン先生にお話をうかがいます。

授業の目標

本講義の目標は、英語文学とは「アメリカ文学」や「イギリス文学」だけではなく、世界中の母語話者と非母語話者が日々それぞれの伝統と葛藤・対話しつつ産み出し、変容させているダイナミックで複雑な現象であるという認識を深めることです。講義においては、取り上げる英文を文法的に理解するのみならず、それぞれのテキストが一体どのような政治的・社会的・歴史的問題に反応する形で書かれたについてもよりよく把握できるようになることを目指しています。

履修上の留意点

英語科目の中ではもっとも発展的な内容を扱うので、「英語で描いた日本('14)」を履修済みであるか、もしくは英文法の知識を持ち、英文を辞書を引きながら読めるくらいのレベルにあることが望ましいです。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	大西洋の両岸で Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (1)	テキスト: Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (2005) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 イギリス、多文化主義、Zadie Smith	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
2	大西洋の両岸で Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (2)	テキスト: Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、アフーマティブ・アクション、Zadie Smith	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
3	大西洋の両岸で: ゼ イディー・スミスと多文 化主義 (3)	テキスト: Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、アフーマティブ・アクション、Zadie Smith	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	大西洋の両岸で On Beauty (4)	テキスト: Zadie Smith, <i>On Beauty</i> (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、移民、Zadie Smith	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
5	狂気と正気のあいまいな関係 Ha Jin, <i>The Crazy</i> (1)	テキスト: Ha Jin, <i>The Crazy</i> (2004) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 中国、革命、文学、Ha Jin	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
6	狂気と正気のあいまいな関係 Ha Jin, <i>The Crazy</i> (2)	テキスト: Ha Jin, <i>The Crazy</i> (2004) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 中国、社会変革と文学、Ha Jin	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
7	狂気と正気のあいまいな関係 Ha Jin, <i>The Crazy</i> (3)	テキスト: Ha Jin, <i>The Crazy</i> (2004) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 中国と西洋文学、Ha Jin	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
8	隷従のトラウマ: ト ニ・モリスンと奴隷制 度 Toni Morrison, <i>Beloved</i>	テキスト: Toni Morrison, <i>Beloved</i> (1987) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、奴隷制度、暴力、Toni Morrison	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)
9	西洋との出会いーベ ナレスでフローベ ルを読む Pankaj Mishra, <i>The Romantics</i>	テキスト: Pankaj Mishra, <i>The Romantics</i> (2000) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 インド、コロニアリズム、西洋文学、Pankaj Mishra	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、 大橋理枝(放送大学准教授)、バー ナード・ウィル ソン(神奈川 大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	魅惑の故郷ーカリブ 海でインドを想像する V. S. Naipaul, Literary Occasions	テキスト: V. S. Naipaul, <i>Literary Occasions</i> (2004) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 カリブ海、トリニダード・トバゴ、インド、帰郷、V. S. Naipaul	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)
11	周縁からの欲望ー クツエーの南アフリ カ J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (1)	テキスト: J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (2002) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)
12	周縁からの欲望ー クツエーの南アフリ カ J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (2)	テキスト: J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (2002) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)
13	周縁からの欲望ー クツエーの南アフリ カ J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (3)	テキスト: J. M. Coetzee, <i>Youth</i> (2002) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)
14	英語で戦乱を語ると いうことー戦火のア フガニスタン Khaled Hosseini, <i>The Kite Runner</i>	テキスト: Khaled Hosseini, <i>The Kite Runner</i> (2003) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アフガニスタン内戦、記憶、語り、Khaled Hosseini	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)
15	私の知らないハル キー英訳される日本 文学 村上春樹、『ノルウェ イの森』	テキスト: Haruki Murakami, <i>Norwegian Wood</i> , trans. by Jay Rubin (2003) / 村上春樹、『ノルウェイの森』(1989) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 日本文学、翻訳、文化の受容と変遷、村上春樹	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教 授)、 大橋理枝(放 送大学准教 授)、バー ナード・ウィ ルソン(神奈川 大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1314726	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 英語の軌跡をたどる旅 （'13）＝（R）
 －The Adventure of Englishを読む－

〔主任講師（現職名）：井口 篤（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：寺澤 盾（東京大学大学院総合文化研究科教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

英語の歴史について書かれた文献をテキストにして、中級程度の英文の読解の練習をする。併せて、英語という言葉の歴史の変遷に関する知識も受講者に身につけてもらうことを目的とする。Melvyn Bragg, *The Adventure of English* (London: Sceptre, 2004) からの抜粋を使用する。

授業の目標

中級程度の英文が読めるようになること、および、英語が過去1500年余りの間にどのような歴史の変遷を経てきたかを知ること、受講者の英語に対する興味と知識を向上させること。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	日の沈まぬ言語	今日、世界語・国際語となった英語について述べた英文を読み、さらにそのような状況が歴史的にどのように生じたか考えていく。 【キーワード】 世界語・国際語としての英語、リングワ・フランカ、母語話者数、和製英語、グロービッシュ	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）
2	英語の始まり	現在世界に広く普及している英語は、もともとだれがどこで話していたのか。この点について解説した英文を読む。 【キーワード】 アングロ・サクソン、ゲルマン民族の大移動、ケルト人、古英語	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）
3	ヴァイキングと英語	8世紀以降ブリテン島に襲来した北欧のヴァイキングが英語にもたらした影響について説明した英文を読む。 【キーワード】 ヴァイキング、古ノルド語、デーンロー、‘they’の由来	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）
4	ノルマン・コンクwest（1066）と英語の運命	ノルマン・コンクwestが英語に及ぼした影響について解説した英文を読む。 【キーワード】 ウィリアム征服王、ノルマン・コンクwest、ノルマン人、フランス語	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）	寺澤盾（東京大学教授）、井口篤（放送大学准教授）

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
5	ジェフリー・チョーサー と英語の復興	ノルマン・コンクウェスト以降、イギリスではフランス語の優位が続く中、英語で『カンタベリ物語』を執筆した14世紀の詩人ジェフリー・チョーサー について学ぶ。 【キーワード】 中英語、ジェフリー・チョーサー、『カンタベリ物語』	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
6	神の言葉と人の言葉	イギリスの宗教改革者ジョン・ウィクリフについて書かれた英文を読みながら、聖書を英訳することが危険なことであった時代について考える。 【キーワード】 ラテン語聖書、ジョン・ウィクリフ、聖書翻訳、異端	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
7	方言の時代から標準語の時代へ	多様な方言が隆盛を極めていた中英語を経て、英語が徐々に標準化されていく様子を学ぶ。 【キーワード】 方言、正書法、標準化、大法官府、印刷術、ウィリアム・キャクストン	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
8	言葉の洪水	イギリスでは、16世紀以降文芸復興、いわゆるルネサンスが始まるが、この時期の英語がラテン語やギリシャ語といった古典語から多くの語を借用した様子をみる。 【キーワード】 ルネサンス、ラテン語、ギリシャ語、借用語、二重語	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
9	春爛漫: ウィリアム・シェイクスピア	16世紀から17世紀初めにかけて活躍した詩人・劇作家シェイクスピアがどのように近代英語の形成に貢献したのか、英文を読んで学ぶ。 【キーワード】 シェイクスピア、シェイクスピアに由来する英語表現、ゼロ派生	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
10	新天地へ: アメリカ英語の誕生	現在、世界を席卷しているアメリカ英語の誕生やその特徴について説明した英文を読む。 【キーワード】 巡礼父祖、アメリカ英語、イギリス英語、ノア・ウェブスター	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
11	正しい英語(1): 規範文法の産声	イギリスでは、18世紀以降英語辞書や英文法書が数多く出版され、「正しい英語」を確立しようとする動きが高まってきたが、その様子を英文で読んでいく。 【キーワード】 ジョンソン博士、ロバート・ラウス、規範文法、PC	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	正しい英語(2): 発音 の規範と多様性	近代イギリスにおいて、音声面での「正しい英語」がどのように形成されていったのかについて概説した英文を読む。 【キーワード】 「正しい」発音、訛り、コックニー、『マイ・フェア・レディ』	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
13	植民地主義と英語の 普及: カリブ海諸国	カリブ海諸国、とくにジャマイカで話されているクレオール英語について説明した英文を読む。 【キーワード】 植民地主義、ジャマイカ英語、ピジン、クレオール、国際色豊かな英語語彙	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
14	蒸気機関車と英語	産業革命期の一連の経済的・技術的發展がいかに英語に影響を及ぼしたかについて解説した英文を読む。 【キーワード】 産業革命、科学技術の英語、情報革命	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)
15	エピソード: 英語の 未来	英語の未来について論じた英文を読み、英語が将来どのような道をたどるのか考えてみる。 【キーワード】 英語の未来、シンガポール英語、英語の分裂	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)	寺澤盾(東京大学教授)、井口篤(放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1314734	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 英語で描いた日本 ('14) = (TV)

英文名 = [Talkin' about Japan ('14)]

[主任講師 (現職名) : 大橋理枝 (放送大学准教授)]

[主任講師 (現職名) : Jon Brokering (法政大学教授)]

【本学担当専任教員 : 】

講義概要

日本の文化や社会について書かれたエッセイや、日本とアメリカの社会を比較したエッセイを読み、日本のことを英語で述べる方法を学ぶと共に、活花・茶道・能などのいわゆる「日本的なもの」を実際に体験することを通して、それらをどのような英語で表現できるかを考える。

授業の目標

日本の社会や文化事象を表現した英語を学ぶことを通して、日本について英語で説明できるようになることを第一の目標とする。また、外部者の視点から日本について述べた内容を理解することを通して、日本に対する客観的な視点を得ることを第二の目標とする。さらに、アメリカ人が日本の文化を体験することを通して感じた疑問や納得した点を知ることにより、外国語の学習を通して新しい観方を拓くという本学における外国語教育の目的に最も近い形で学びを実現させることを第三の目標とする。

履修上の留意点

中級レベルの英語科目として構想されているので、「発音をめぐる冒険('12)」及び「英文法A to Z('13)」のレベルまでは履修済みであることが望ましい。「英語の軌跡をたどる旅('13)」や「英語圏の言語と文化('11)」も併せて履修すると、より理解が深まると思われる。

回	テーマ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
1	Lesson 1	日本がこれまで、かなり選り好みしながら一部の西洋文化を取り入れ、かつそれを変形させて定着させていったことを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が着付けを体験することで得られた理解や疑問を通して着物について英語で理解を深める。 【キーワード】 Valentine's Day, Auld Lang Syne, peace sign, improvements on non-Japanese things, 着物	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
2	Lesson 2	日本のマンガやアニメとはどのようなものか、また外国で受け入れられているものはいかに「日本的」ではないかについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が紙漉きと折り紙を体験することで得られた理解や疑問を通して和紙について英語で理解を深める。 【キーワード】 manga, anime, visual entertainment industry, fantasy world, lack of Japanese features, 和紙・折り紙	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
3	Lesson 3	ハリウッド映画で日本がこれまでどのように描かれてきたかを概観するエッセイを読むと共に、アメリカ人が剣道を体験することで得られた理解や疑問を通して剣道について英語で理解を深める。 【キーワード】 stereotypes, Japanese culture, idealized Japanese women, martial arts, enemy, history, comedy, 剣道	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	Lesson 4	伝統を失いつつあるとされる日本人が伝統的な事物に立ち返る例を挙げたエッセイを読むと共に、アメリカ人が義太夫三味線を体験することで得られた理解や疑問を通して義太夫三味線について英語で理解を深める。 【キーワード】 tradition, naming a child, Bon festival, New Year's Eve and New Year's Day, national holidays, 義太夫三味線	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
5	Lesson 5	日本人の自然志向が予想外のところで表れている例を挙げたエッセイを読むと共に、アメリカ人が茶道を体験することで得られた理解や疑問を通して茶道について英語で理解する。 【キーワード】 viewing cherry blossoms, "uglification" of Japan, the Japanese love of nature, balconies, seasonal food, 茶道	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
6	Lesson 6	日本での対人関係は内集団と外集団をはっきり区別するのに対し、アメリカでの対人関係では両者を余りはっきりと区別しないことを説明したエッセイを読むと共に、アメリカ人が座禅を体験することで得られた理解や疑問を通して禅の思想について英語で理解する。 【キーワード】 in-group, out-group, common experience, American social gatherings, 座禅	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
7	Lesson 7	日本での対人コミュニケーションが同質性の前提に基づいており、これが外国人のみならず日本人同士でも理解するのが難しい原因になっていることを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が和太鼓を体験することで得られた理解や疑問を通して和太鼓について英語で理解する。 【キーワード】 implicit meaning, complaint worded as compliment, similarity assumption, 和太鼓	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
8	Lesson 8	日本でのやりとりの多くが互いに共有された型にはまったものであり、外国では同様のやりとりが成り立たないことを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が蕎麦打ちを体験することで得られた理解や疑問を通して蕎麦について英語で理解する。 【キーワード】 ritualized exchange of words, prescribed dialogue, guest in an American home, declining an offer, 蕎麦打ち	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
9	Lesson 9	対人管理スタイルの5つの型の説明や、日本とアメリカでそれぞれ主に取られるスタイルと相手に対する誤解について述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が合気道を体験することで得られた理解や疑問を通して合気道について英語で理解する。 【キーワード】 conflict management styles, aggressive, accommodating, compromising, problem-solving, withdrawing, 合気道	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
10	Lesson 10	日本語の中での男言葉・女言葉や、女性上司による部下に対する言葉遣いの難しさについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が日本舞踊を体験することで得られた理解や疑問を通して日本舞踊について英語で理解する。 【キーワード】 men's language, women's language, female bosses, command vs. request, 日本舞踊	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
11	Lesson 11	日本における学歴競争の長所と短所を述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が囲碁を体験することで得られた理解や疑問を通して囲碁について英語で理解する。 【キーワード】 competition, teamwork, having no time to play, searching for a job instead of studying, global competitiveness, 囲碁	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
12	Lesson 12	日本社会にみられる画一性の好例やその圧力に対する日本人の対処法などについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が書道を体験することで得られた理解や疑問を通して書道について英語で理解する。 【キーワード】 conformity, collectivism, uniforms, radio calisthenics, pressure to conform, public face and private feelings, 書道	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
13	Lesson 13	日本とアメリカの教育方法を比較したエッセイを読むと共に、アメリカ人が活け花を体験することで得られた理解や疑問を通して活け花について英語で理解する。 【キーワード】 classroom layout, Show 'n' Tell, Morals, individual thinking, basic cognitive skills, 活け花	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
14	Lesson 14	日本のアメリカの勤労観の違いや、それを形成する要因となり得る学校行事の違いについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が能を体験することで得られた理解や疑問を通して能について英語で理解する。 【キーワード】 Protestant work ethic, group consciousness, shame, Talent Show, arts festival, 能	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)
15	Lesson 15	日本の将来について考察したエッセイを読むと共に、これまで体験してきた様々な「日本的なもの」を振り返りながら日本について英語で考える。 【キーワード】 evolving Japanese culture and society, worrying aspects, aging society, unclear future, 日本、まとめ	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)	大橋理枝 (放送大学准教授) Jon Brokering (法政大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1323946	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ドイツ語入門 I （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：清野 智昭（千葉大学准教授）〕

【本学担当専任教員：宮本 徹（放送大学准教授）】

講義概要

ドイツ語の発音、つづりの読み方から始め、毎回、動詞の人称変化、名詞の格変化などの基本的な文法事項を勉強していきます。最終的には、助動詞を使って意思や必要性などの表現まで学習します。日本人女子学生がドイツに留学するという設定のストーリーを中心に楽しくドイツ語を身につけていきます。

授業の目標

ドイツ語の基本的な文の構造を理解し、日常生活の簡単な表現ができるようになることが目標です。

履修上の留意点

全くの初学者を対象にしていますので、特にドイツ語の知識は必要ありません。ただし、新しい語学を身につけるには、日々の学習が欠かせません。授業以外に毎日20分でもいいので、ドイツ語の学習に時間を割いてください。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	挨拶とアルファベート	ドイツ語の簡単な挨拶を覚えた後、アルファベートといくつかのつづりの読み方を勉強します。ドイツ語はつづりと発音の関係が規則的ですから、決まりごとさえ覚えれば、ほぼすべての単語を読むことが出来るようになります。 【キーワード】挨拶、発音、つづり、アルファベート	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
2	つづりの読み方と数字	ドイツ語のつづりの読み方を完全に覚え、日本人にとって難しい発音を集中的に練習します。また、数字を覚え、時刻を言えるようにします。 【キーワード】つづり、発音、数字	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
3	動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語に応じて語尾が変化します。これを人称変化といいます。主語の代名詞とともに語尾を覚えましょう。 【キーワード】 現在人称変化、主語、動詞の語尾	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	seinとhaben	英語のbe動詞にあたるseinとhave動詞にあたるhabenはとても重要ですが、特殊な変化をします。この2つを覚えて表現の幅を一気に広げましょう。 【キーワード】 sein, haben,職業・国籍, 所有	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
5	名詞の性と格(1格と4格)	ドイツ語の名詞には男性, 中性, 女性という3つの性があり, それによって, 定冠詞などの形が異なります。また, 名詞は文中の役割に応じて4つの「格」を持ちます。今回は, その中で, 主語を表す1格と直接目的語を表す4格を勉強します。 【キーワード】 名詞の性と格, 主語, 直接目的語	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
6	不規則動詞と名詞の複数形	主語が2人称単数(du)と3人称単数のときに母音が変化する不規則動詞を勉強します。また, 名詞の複数形の作り方のパターンに触れます。 【キーワード】 不規則動詞, 名詞の複数形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
7	名詞の格(3格と2格)	名詞の格のうち, 主に間接目的語を表す3格と所有関係を表す2格を扱います。ここで, 1格から4格のすべての格が登場します。 【キーワード】 名詞の格, 3格, 2格	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
8	前置詞(1)	名詞の前に置かれて様々な意味関係を表す前置詞を扱います。前置詞の後には決まった格が来ます。これを「前置詞の格支配」と呼びます。この課では, 3格支配の前置詞と4格支配の前置詞を中心に勉強します。 【キーワード】 前置詞の格支配, 3格支配の前置詞, 4格支配の前置詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
9	前置詞(2)	空間の基本的な位置関係を表す9つの前置詞は, 表現されるものが静止している場所を表すときに3格と, 移動する到着点を表すときに4格と結びつきます。これらの3・4格支配の前置詞を勉強します。さらに, 前置詞と定冠詞の融合形についても扱います。 【キーワード】 3・4格支配の前置詞, 前置詞と定冠詞の融合形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
10	副文と命令形	従属接続詞から始まる副文では動詞が文末に置かれます。これまで勉強した主文とは動詞の位置が違うので, これをしっかりと勉強しましょう。また, 相手に命令したり依頼したりするときに用いる命令形を勉強して, コミュニケーションの幅を一層広げましょう。 【キーワード】 副文, 従属接続詞, 命令形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	人称代名詞と再帰動詞	人称代名詞も格に応じて形を変えます。この課では、1格以外の2～4格の形を覚えます。それと並んで、主語と同じものを指す再帰代名詞について学び、それが使われる再帰動詞を使えるようにします。 【キーワード】 人称代名詞, 格, 再帰代名詞, 再帰動詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
12	冠詞類	冠詞と同じように名詞の前に置かれ、性・数・格に応じて変化する冠詞類について学びます。冠詞類には、定冠詞に似た変化をする定冠詞類と、不定冠詞に似た変化をする不定冠詞類があります。不定冠詞類にはmein「私の」など所有冠詞と否定冠詞のkeinがあります。 【キーワード】 定冠詞類, 不定冠詞類, 所有冠詞, 否定冠詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
13	分離動詞	動詞と副詞的な成分が一つの意味を作り出す動詞は、主文であたかも二つの部分に分かれているように見えるので「分離動詞」と呼ばれます。文末には動詞と密接に結びつく成分が置かれ、「枠構造」を作るという仕組みを理解して、分離動詞を使いこなしましょう。 【キーワード】 zu不定詞, 分離動詞, 語順, 枠構造	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
14	話法の助動詞(1)	不定形の動詞に結びついて、可能、意思、必然などの意味を付け加える動詞を「話法の助動詞」と言います。これらはやや不規則な変化をします。ここでは語順と基本的な用法を覚えて、様々なニュアンスを表現してみましょう。 【キーワード】 話法の助動詞, 語順	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
15	話法の助動詞(2)	話法の助動詞の用法のうち、「主観的用法」と呼ばれるものを勉強します。これは主に可能性や推量を表します。また、werdenを使ったいわゆる「未来形」について勉強します。 【キーワード】 主観的用法, 未来形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1324020	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ドイツ語入門 II （' 1 1 ）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：清野 智昭（千葉大学准教授）〕

【本学担当専任教員：宮本 徹（放送大学准教授）】

講義概要

ドイツ語入門Ⅰに引き続き、過去形・現在完了形から接続法まで、初級文法の主立った項目をすべて扱います。また、文法の学習と並行して、読解力と表現力を養う練習を多くこなすことで、総合的なドイツ語の運用力を高めます。

授業の目標

日常的な表現を使いこなす、学術的な内容でも辞書を使って理解できることを目標にします。今後の学習の基礎となる運用力が身に付くようにします。

履修上の留意点

ドイツ語入門Ⅰを履修済み、もしくは、それと同等のドイツ語の知識があることを前提にします。定期的な学習の時間を確保するように心がけてください。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	語順のしくみ	ドイツ語の文を作るときは、不定句をもとに考えましょう。平叙文では定動詞は2番目の位置に置かれるので、その結果、動詞と一番結びつきの強い成分が文末に置かれます。このしくみを理解して、自然な語順を身につけることを目指します。 【キーワード】 語順、不定句、密接な成分	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
2	zu不定句と非分離動詞	動詞句に名詞の機能を持たせるのがzu不定句です。「...すること」に相当する表現を覚えましょう。また、アクセントのない前つづりを持つ非分離動詞についても触れます。 【キーワード】 zu不定句、非分離動詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
3	過去形	過去のことを表す場合、ドイツ語では過去形と現在完了形のどちらも同様に使われます。過去形は主に書き言葉で、現在完了形は主に話し言葉で使われますが、sein, haben, 話法の助動詞の過去形は話し言葉でもよく使われます。これらを中心に勉強します。 【キーワード】 過去形、三基本形、規則動詞、不規則動詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	現在完了形(1)	現在完了形は、「過去分詞＋habenまたはsein」の完了不定詞をもとに作ります。この課ではまず過去分詞の形を確かめ、habenを使った現在完了形の作り方を勉強します。 【キーワード】 現在完了形, 過去分詞, haben支配	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
5	現在完了形(2)	自動詞の中で「移動」や「状態変化」を表すものは、完了形の助動詞としてseinを取ります。これらいわゆる「sein支配」の動詞の現在完了形を勉強します。また、過去完了形にも簡単に触れます。 【キーワード】 現在完了形, 過去分詞, sein支配, 過去完了形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
6	受動態	ものごとを動作の受け手を主語にして「...される」と表現する受動態は「過去分詞＋werden」で作ります。この受動態の作り方と使い方を勉強します。また、助動詞としてseinを使う「状態受動」についても簡単に触れます。 【キーワード】 受動態, 動作受動, 状態受動	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
7	非人称構文	特定のものを指さないesを主語とする構文を非人称構文と言います。天候や時刻だけでなく、さまざまな慣用的な表現を学んでいきます。 【キーワード】 非人称構文, 天候, 時刻, 慣用表現	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
8	形容詞の格変化(1)	形容詞は名詞の前に置かれると格語尾が付きます。この語尾を覚えるのはなかなかやっかいなので、2回にわたってじっくり学習していきます。今回は、1格の形に絞って、強語尾と弱語尾のしくみを解説します。また、形容詞の名詞化についても触れます。 【キーワード】 形容詞, 格変化, 強語尾, 弱語尾, 形容詞の名詞化	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
9	形容詞の格変化(2)	形容詞の格変化の2回目です。まず、4格の形を見た後、2格と3格の形を学習します。これですべての形が使いこなせるようになります。 【キーワード】 形容詞, 格変化, 強語尾, 弱語尾, 形容詞の名詞化	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
10	比較級と最上級	2つのものを比べてどちらが「より...」ということを表す比較級と、3つ以上のものの中であるものが「一番...」ということを表す最上級の作り方と使い方を勉強します。色々な比較の仕方を覚えましょう。 【キーワード】 形容詞, 比較級, 最上級, 格変化	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	関係代名詞	名詞に修飾文を付けるときには関係代名詞を使います。英語とは違い、ドイツ語の関係代名詞は定冠詞と似た形をしており、性・数・格に応じて変化します。その使い方をしっかり身につけましょう。 【キーワード】 関係代名詞, 修飾文	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
12	接続法(1)	ある事柄を単に考えられたこと, 言われたこととして表す動詞の形を接続法と言います。接続法には第1式と第2式があります。今回はおもに非現実のことを表す接続法第2式の作り方と使い方を勉強します。 【キーワード】 接続法, 第2式, 非現実話法	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
13	接続法(2)	接続法第2式を使って過去のことに対する非現実話法を学びます。その後, 主に間接話法に使われる接続法第1式に触れます。 【キーワード】 接続法, 第2式, 非現実話法, 過去, 第1式, 間接話法	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
14	話法詞と心態詞	文全体に対する話し手の判断や評価を表す「話法詞」と, 話し手の気持ちを表し, 文にある種のニュアンスを付け加える「心態詞」について学びます。これらの語を使うことによって, ドイツ語としてとても自然な表現ができるようになります。 【キーワード】 話法詞, 心態詞, ニュアンス	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
15	総復習	これまで勉強したことの総復習として, 簡単なテキストを読み, かつ, 自分で文を作る練習をします。これで初級文法はばっちりです。 【キーワード】 総復習, 読解, 作文	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1333542	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = フランス語入門Ⅰ (' 1 2) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 原 和之 (東京大学准教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 山上 浩嗣 (大阪大学准教授) 〕
 〔分担協力講師 (現職名) : オディル・デュシュッド (早稲田大学教授) 〕
 〔分担協力講師 (現職名) : ヴェドレンヌ・ヴェロニック (大阪大学特任准教授) 〕
【本学担当専任教員 : 宮本 徹 (放送大学准教授) 】

講義概要

毎回、簡単な会話からなる2～3分のスケッチを題材に、フランス語の基礎を学ぶ。「フランス語入門Ⅰ」と「フランス語入門Ⅱ」を通じて、基礎的な文法事項の全体を習得することになる。スケッチの解説、発音の反復練習、文法事項の説明、練習問題、ディクテ(フランス語書き取り)などを通じて、各回の習得目標を無理なく達成できるように工夫してある。なお、各回の最後で前回の文法項目を簡単に復習する。「Le français en musique 歌のフランス語」「Regard français フランスの眼差し」のコーナーで、フランス語がとるさまざまな姿に触れると共に、フランスおよびフランス語圏の生活や文化についての理解を深めてゆく。

授業の目標

1. フランス語文法および発音の基礎を習得する。2. 簡単なフランス語会話ができるようになる。3. フランス文化およびフランス語圏文化の多様性を知る。

履修上の留意点

表現が自然に発声できるようになるまで、繰り返し放送を視聴することが望ましい。また、放送教材、印刷教材の学習に際して、つねに辞書を手元において参照すること。本科目を履修し終えたら、ぜひとも「フランス語入門Ⅱ」に進んでもらいたい。使用する辞書については、2000頁前後の中型の机上版学習辞典かそれに対応する電子辞書が望ましい。代表的な辞書としては、「クラウン仏和辞典」(三省堂)、「ディコ仏和辞典」(白水社)、「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)、「プログレッシブ仏和辞典」(小学館)、「ロワイヤル仏和中辞典」(旺文社) (以上五十音順) などがある。基本的に自分で使いやすいと思われるものを選んでいただければよいが、印刷教材の「学習にあたって」で述べたように、紙の辞書と電子辞書にはそれぞれ長所と短所があるので、それに留意して利用して欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	Deux euros (2ユーロ)	文法: アルファベ/フランス語のつづり字と発音 【キーワード】 アルファベ、複母音字、鼻母音、読み分け、綴り字記号	原 和之 (東京大学准教授)	原 和之 (東京大学准教授)、 オディル・デュシュッド (早稲田大学教授)
2	Au café (カフェにて)	文法: 名詞の性と数/冠詞(1); 不定冠詞・定冠詞/提示表現 【キーワード】 男性名詞、女性名詞、単数形、複数形、un, une, des, le, la, les、リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン	同上	同上
3	Promenade (散歩)	文法: 主語人称代名詞動詞/動詞 êtreの活用/形容詞の用法(1) 【キーワード】 主語人称代名詞、être、属詞、性数一致、直説法現在	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	Rendez-vous(デートの約束)	文法:第1群規則動詞(er動詞)／第2群規則動詞(ir動詞)／形容詞の用法(2):付加形容詞／時と場所の副詞表現／前置詞 【キーワード】 penser, finir, 冠詞のde、男性単数第二形、de, à, vers, dans, en, chez	同上	同上
5	Première sortie(はじめてのデート)	文法:動詞 avoir の活用／数の数え方(1):1～69／曜日・月・季節 【キーワード】 avoir, 数の数え方,曜日・月・季節の表現	同上	同上
6	Au restaurant(レストランにて)	文法:否定文／動詞の否定形／否定文中の部分冠詞・不定冠詞 【キーワード】 ne, pas, 否定のde	同上	同上
7	Une courte séparation(しばしのお別れ)	文法:動詞aller, venirの活用／近接未来・近接過去／前置詞と冠詞の縮約／動詞 partir の活用／国名とその形容詞形 【キーワード】 aller, venir, du, des, au, aux, partir	同上	同上
8	Un peu de toi(あなたの一部)	文法:準助動詞 pouvoir, vouloir, devoir の活用／指示形容詞／動詞 voir, offrir の活用 【キーワード】 準助動詞 pouvoir; vouloir, devoir、ce, cet, cette, ces, voir, offrir	同上	同上
9	Un dîner chez les voisins(隣人宅での夕食)	文法:疑問文の作り方／疑問副詞 【キーワード】 倒置, quand, où, comment, pourquoi, combien	山上浩嗣(大阪大学准教授)	山上浩嗣(大阪大学准教授)、 ヴェドレンヌ・ヴェロニック(大阪大学特任准教授)
10	Au Musée d'Orsay(オルセー美術館にて)	文法:さまざまな動詞(1)／所有形容詞 【キーワード】 faire, lire, écrire, attendre, recevoir	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	Le départ approche (帰国の日が近づく)	文法:さまざまな動詞(2)／疑問形容詞quel／数字(70～10000) 【キーワード】 prendre, tenir, savoir, connaître	同上	同上
12	Le bambou de Tanabata(七夕の笹)	文法:人称代名詞強勢形／疑問代名詞 【キーワード】 qui, qui est-ce qui, qu'est-ce qui, qui, qui est-ce que, que, qu'est-ce que, quoi	同上	同上
13	Départ en week-end (週末の旅行)	文法:非人称のil／時刻の表現 【キーワード】 falloir, 形式主語、不定詞	同上	同上
14	Une charmante manifestante (かわい いデモ隊員)	文法:形容詞・副詞の比較 【キーワード】 plus, moins, aussi, meilleur, mieux	同上	同上
15	A l'aéroport (空港に て)	文法:動詞の命令形／強調構文 【キーワード】 C'est... qui..., C'est... que...	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	コルシカを歩く	複合過去と半過去の使い分けを学ぶ コルシカの農家 コルシカの伝統的な歌「パジェラ」 羊飼い 【キーワード】 複合過去と半過去	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
5	ブルターニュを歩く	人称代名詞のうち、直接目的語の形と用法を学ぶ ケルトハーブ ブルターニュの伝統衣装 【キーワード】 人称代名詞(直接目的語)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
6	バスク地方を歩く	人称代名詞、間接目的語の形と用法、さらに強勢形について学ぶ バスク人とバスク語 バイヨンヌのお祭り 【キーワード】 人称代名詞(間接目的語、強勢形)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
7	アキテーヌ地方を歩く	代名動詞の形、意味あいと用法について、その分類を試みながら学ぶ ヴィノセラピー(ブドウ療法) 自然遊歩道 【キーワード】 代名動詞	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
8	フランス北部を歩く	基本的な関係代名詞 qui、queとその用法を学ぶ カーニバルの巨大な人形ジェアンランドセーリング 【キーワード】 関係代名詞 qui, que	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
9	フランスの海外領土を歩く:タヒチとニューカレドニア	関係代名詞 dont、前置詞+qui、oùとその用法を学ぶ タヒチの祭りヘイヴァ ニューカレドニア出身のサッカー選手 【キーワード】 関係代名詞 dont,前置詞+qui、où	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
10	アルザス地方を歩く	単純未来の形、意味あいと用法を学ぶ 旅回りの香具師 コウノトリ 【キーワード】 単純未来	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	アルプス山脈を歩く	中性代名詞 y、en、le の用法について学ぶ ストーリーテラー 冬の学級 【キーワード】 中性代名詞 y、en、le	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
12	ケベック州を歩く	条件法現在の形と意味あい、用法を学ぶ ケベックのラジオクイズ番組 カナダのシンボル、サトウカエデ 【キーワード】 条件法現在	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
13	地中海沿岸を歩く	「接続法」について、そのイメージをつかみ、形と用法を学ぶ 香水の町グラス ニースのカーニヴァル 【キーワード】 接続法現在	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
14	アフリカのフランコフォニー	現在分詞とジェロンディフの形と用法を学ぶ ベナンからの留学生 フランコフォニー国際機関 【キーワード】 ジェロンディフ	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)
15	ヴォージュ山脈とジュラ山脈を歩く	過去のさらに過去としての大過去について学ぶ ヴォージュ山脈の民宿 ジュラ山脈から見たジュネーヴ 【キーワード】 大過去	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)	宮下志朗(放送大学教授) 中井珠子(白百合女子大学教授)ジャニック・マーニュ(共立女子大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1356950	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 中国語Ⅰ （'14）＝ （TV）

－北京のふたり－

英文名＝ [ChineseⅠ（'14）]

〔主任講師（現職名）：木村 英樹（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮本 徹（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

平易な会話文を題材としながら、現代中国語の基礎を学習する。

講義では発音・基礎的語彙・基本的文法事項をバランスよく学習できるよう心がけるとともに、文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。

スキットは日本人学生が現地の友人の案内で北京を旅行するという親しみやすい内容になっており、現代中国を理解する一助となる。

授業の目標

現代中国語の発音の習得と、平易な現代中国語文の正確な読解。

履修上の留意点

(1) 本講義の印刷教材は他の一般的な中国語教科書と異なり、スキット部分における中国語文の漢字とピンイン（アルファベット式発音表記）の表記を完全に分離している。その意図の一つは、漢字を通して視覚的に中国語を理解することとまらず、中国語に対しピンインを媒介として音声的にアプローチすることにある。学習に際しては常に声を出し、放送番組や印刷教材付属CDを活用するなど、常に中国語の音声を意識しながら学習を進めていただきたい。

(2) どの外国語学習においても同じであろうが、学習の際には可能な限り辞書を傍らに置き、疑問点があればすぐに調べるよう習慣づけたい。以下、現在日本で刊行されている主な中日辞典を挙げる。なお、本講義あるいは「中国語Ⅱ」の学習には（小型ではなく）中型辞典が適当である。

伊地智善継編『中国語辞典』（白水社）、北京商務印書館・小学館編『中日辞典（第2版）』（小学館）、
相原茂編『中日辞典（第3版）』（講談社）、相原茂等編『東方中国語辞典』（東方書店）、
松岡栄志等編『クラウン中日辞典』（三省堂）、倉石武四郎著『岩波中国語辞典』（岩波書店）

(3) 「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を通じての目標は、辞書を引きながら標準的な現代中国語文を正確に読解することに置いている。本科目ではそのための基礎を学ぶことになるが、上記目標を達成するために引き続き「中国語Ⅱ」を学習することを強く勧めたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	北京欢迎你！	1.1 “普通話” 1.2 ピンインと声調記号 1.3 簡体字 1.4 声調(tone) 1.5 第3声の変調 1.6 単母音 1.7 人称代名詞(単数・複数) 1.8 動詞述語文 1.9 疑問文(1)——“吗”を用いる当否疑問文 (附) 姓名の尋ね方、名乗り方 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
2	参观首都博物馆	2.1 二重母音 2.2 軽声の発音 2.3 語気助詞“啊a”——増幅機能を果たす“啊” (附)“啊”の連声 2.4 形容詞述語文 2.5 指示詞(1)——場所を指し示す指示詞“这儿”“那儿” “哪儿” 2.6 “的”を用いる名詞句(1)——「名詞／代名詞＋“的”＋ 名詞」 2.7 副詞“很” 2.8 語気助詞“吧”(1)——推量・確認を表す“吧” 2.9 否定の副詞“不” (付)“不”の変調 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大 学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)	木村 英樹 (東京大学大 学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)
3	四合院	3.1 三重母音 3.2 子音(1) 3.3 指示詞(2)——人や事物を指す指示詞“这”“那”“哪” 3.4 “是”を用いる動詞述語文 3.5 名詞連接による名詞句(1)——「種類／属性＋人／事 物」 3.6 所在動詞“在” 3.7 代名詞からなる名詞句——「代名詞＋親族名称／所 属先」 3.8 名詞連接による名詞句(2)——「人／事物＋空間」 3.9 副詞“也” (附)数の表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大 学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)	宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)
4	去前门	4.1 子音(2) 4.2 疑問文(2)——疑問詞疑問文 4.3 語気助詞“吧”(2)——勧誘・提案を表す“吧” 4.4 数量詞からなる名詞句 4.5 “的”を用いる名詞句(2)——「形容詞＋“的”＋名詞」 4.6 能願動詞“想” 4.7 疑問詞“怎么”(1) 4.8 語気助詞“呢”(1)——疑念の提示 4.9 疑問数詞“几” (附)数の表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大 学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名 古屋大学特 任准教授)	宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)
5	逛大栅栏	5.1 鼻音を伴う母音 5.2 指示詞からなる名詞句——「指示詞＋数詞＋量詞＋ 名詞」 5.3 方位詞 5.4 存在動詞“有” 5.5 語気助詞“呢”(2)——現状確認 5.6 能願動詞“可以” 5.7 “的”を用いる名詞句(3)——「動詞＋“的”＋名詞」 (附)「名詞／代名詞／動詞／形容詞＋“的”」 5.8 疑問文(3)——“呢”を用いる省略疑問文 5.9 数詞「2」 (附)曜日・時刻の表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大 学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)	宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	一卡通	6.1 能願動詞“会”(1) 6.2 譲歩的認定を表す“～是～” 6.3 程度強調の“了” 6.4 能願動詞“能” 6.5 疑問詞“多少” 6.6 指示詞(3)——程度・度合いを指す指示詞“这么”“那么” 6.7 動詞の重ね型 6.8 前置詞“在” 6.9 結果補語 (附) 金銭の表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
7	地铁	7.1 様態補語 ——「動詞＋“得”＋形容詞(句)」 7.2 “的”構文 7.3 前置詞“比” 7.4 比較差を強調する“～多了” 7.5 新事態の出現を表す“了” 7.6 “～的时候” 7.7 疑問文(4)——選択疑問文 7.8 連動文 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
8	北京有条金融街	8.1 疑問詞“怎么”(2) 8.2 方向動詞 8.3 方向補語 8.4 疑問詞の不定称用法 8.5 完了を表す“了” 8.6 能願動詞“会”(2) 8.7 語気助詞“嘛” 8.8 概数を表す“～多” 8.9 “不是～吗?” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
9	北京有个什刹海	9.1 疑問詞“什么” 9.2 持続を表す“着” 9.3 兼語文 9.4 “有”を用いる連動文 9.5 前置詞“从” 9.6 前置詞“到” 9.7 前置詞“对” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
10	热情的北京人	10.1 使役構文 10.2 可能／不可能を表す動詞句構造 10.3 能願動詞“得” 10.4 結果補語の“在” 10.5 禁止を表す副詞“别” 10.6 疑問文(5)——正反疑問文 10.7 動作量と回数の表現 (附) 時間の表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	北京美食	11.1 経過時間の表現 11.2 能願動詞“该” 11.3 副詞“再” 11.4 経験を表す“过” 11.5 否定の副詞“没(有)” 11.6 名詞述語文 11.7 “没有”を用いる比較表現 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
12	北京烤鸭	12.1 能願動詞“要”(1) 12.2 “一会儿” 12.3 “把”構文 12.4 主題化構文 12.5 指示詞“这样”“那样”“怎(么)样” 12.6 副詞“挺” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
13	北京小吃	13.1 能願動詞“要”(2) 13.2 副詞“就” 13.3 疑問詞連鎖 13.4 前置詞“给” 13.5 存現文 13.6 試行を表す“～看” 13.7 二重目的語構文 13.8 積極性を表す“来” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
14	爬长城	14.1 副詞“有点儿” 14.2 “一点儿+都” 14.3 受け身構文 14.4 前置詞“跟” 14.5 “一”の省略 14.6 前置詞“用” 14.7 結果補語“给” 14.8 近接未来“了” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
15	北京印象	15.1 時間詞 15.2 方向補語“下来”の派生用法 15.3 方向補語“出”の派生用法 15.4 形容詞の重ね型 15.5 助詞“地” 15.6 基本構文の語順 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1356968	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 中国語Ⅱ （'14）＝ （R）

－汪曾祺「我的母親」他－

英文名 ＝ [Chinese Ⅱ ('14)]

〔主任講師（現職名）：木村 英樹（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮本 徹（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

比較的平易なエッセイ等を題材としながら、「中国語Ⅰ」に引き続いて現代中国語の基礎を学習する。
講義ではなぜそのように読めるのか、また読まねばならないのかということを常に念頭に置きつつ、現代中国語文の精読を試みる。「学習のポイント」は「中国語Ⅰ」で取りあげられなかったものを中心とするが、折に触れて「中国語Ⅰ」の復習を行い、現代中国語文法を体系的に把握できるように努めたい。

授業の目標

現代中国語の発音の定着と、現代中国語文の正確な読解。

履修上の留意点

(1) 本講義の印刷教材は他の一般的な中国語教科書と異なり、課文における中国語文の漢字とピンイン（アルファベット式発音表記）の表記を完全に分離している。その意図の一つは、漢字を通して視覚的に中国語を理解するにとどまらず、中国語に対しピンインを媒介として音声的にアプローチすることにある。学習に際しては常に声を出し、放送番組や印刷教材付属CDを活用するなど、常に中国語の音声を意識しながら学習を進めていただきたい。

(2) どの外国語学習においても同じであろうが、学習の際には可能な限り辞書を傍らに置き、疑問点があればすぐに調べるよう習慣づけたい。以下、現在日本で刊行されている主な中日辞典を挙げる。なお、本講義の学習には（小型ではなく）中型字典が適当である。

伊地智善継編『中国語辞典』（白水社）、北京商務印書館・小学館編『中日辞典（第2版）』（小学館）、
相原茂編『中日辞典（第3版）』（講談社）、相原茂等編『東方中国語辞典』（東方書店）、
松岡栄志等編『クラウン中日辞典』（三省堂）、倉石武二郎著『岩波中国語辞典』（岩波書店）

(3) 本科目は「中国語Ⅰ」の履修、あるいはそれと同等の中国語能力があることを前提とする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	《“小花”变了》 (1)	1.1 “一边…，一边…” 1.2 連用修飾語に用いる助詞“地” 1.3 集合体を表す接尾辞“们” 1.4 結果補語の“到” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放 送大学准教 授) 盧 建(名古 屋大学特任 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
2	《“小花”变了》 (2)	2.1 副詞“才”(1) 2.2 副詞“就”(1) 2.3 副詞“都” 2.4 確認要求の“是不是” 2.5 方向補語“起来”の派生用法 2.6 “别～了” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
3	《“小花”变了》 (3)	3.1 二重主語文 3.2 仮定を表す接続詞“如果” 3.3 文中に用いる“吧” 3.4 所有を表す動詞“有” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
4	《“小花”变了》 (4)	4.1 語気助詞“啊” 4.2 副詞“就”(2) 4.3 否定強調を表す“再” 4.4 指示詞がつなぐ名詞句 4.5 語気助詞の融合 4.6 前置詞“为” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
5	《“小花”变了》 (5)	5.1 “你…，他…” 5.2 方向補語“上”の派生用法 5.3 能願動詞“敢” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
6	陆定一《老山界》 (1)	6.1 兼語文を構成する“给” 6.2 副詞“才”(2) 6.3 “只见” 6.4 可能／不可能を表す動詞句構造 6.5 動詞接尾辞“过”の用法 6.6 能願動詞“好” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
7	陆定一《老山界》 (2)	7.1 「数詞＋量詞」の重ね型 7.2 副詞“就”(3) 7.3 “有”を用いる連動文 7.4 方向補語“下来”の派生用法 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
8	陆定一《老山界》 (3)	8.1 副詞“只” 8.2 “而且” 8.3 “因为” 8.4 方向補語“来”の派生用法 8.5 結果補語“着zháo” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	陆定一《老山界》 (4)	9.1 比喻・比況を表す“像～似的” 9.2 様態補語 9.3 “除～以外” 9.4 副詞“在” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
10	陆定一《老山界》 (5)	10.1 “说是…” 10.2 不定・匿名の“有人～” 10.3 兼語文で用いる“要” 10.4 副詞“再” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
11	汪曾祺《我的母亲》(1)	11.1 部分否定に用いる“不大” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
12	汪曾祺《我的母亲》(2)	12.1 “锁了起来” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
13	汪曾祺《我的母亲》(3)	13.1 属性詞 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
14	汪曾祺《我的母亲》(4)	14.1 「一」＋臨時量詞 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)
15	汪曾祺《我的母亲》(5)	15.1 “有些” 【キーワード】	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)	木村 英樹 (東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧 建(名古屋大学特任准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1363352	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア)

初歩のスペイン語

(' 1 3) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 竹村 文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 坂田 幸子 (慶応義塾大学文学部教授) 〕

【本学担当専任教員 : 宮本 徹 准教授】

講義概要

重要な文法事項にポイントを絞って、スペイン語文法の初歩を解説します。次いで、練習問題を解いたり、実際の場面で使えるオリジナルの会話文を学習したりしながら、文法知識の定着・応用をはかります。練習問題は、授業中に解いて説明を加える基本的なものと、余力のある人が各自で取りくむ自習用の2種類を用意し、同じく自習用として、リスニング練習も各回に付けました。さらに、スペイン語圏の国々の文化に親しんでもらうため、スペインやラテンアメリカの音楽をはじめとする文化を紹介するコーナーを設けます。

授業の目標

この授業のおもな目標は、次の3点にまとめられます。①スペイン語文法の初歩を習得すること。②掲示や説明文など、やさしいスペイン語の文章が理解できて、簡単な日常のやり取りをスペイン語圏の人々と交わせるようになること。③スペインとラテンアメリカの多彩な文化に親しむこと。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	やあ、おはよう。 (Hola, buenos días.)	スペイン語のアルファベット、発音規則(個々の子音の発音とアクセントの位置)について勉強します。スペイン語は発音が規則的なので、規則を覚えてしまえば初心者でも正しく発音することができます。 【キーワード】 アルファベット、文字と発音	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
2	ホテルの隣にはカフェテリアがあります。 (Al lado del hotel hay una cafetería.)	まず名詞の「性」(男性名詞と女性名詞)と「数」(複数形の作り方)について学び、冠詞(不定冠詞と定冠詞)についても勉強します。 hayは英語のthere is, there are(「～がある」)に相当し、日常生活でも大活躍する表現なので使いこなせるようにしましょう。あわせて1から15までの数字も覚えます。 【キーワード】 名詞の性・数、冠詞、数詞(1～15)、hay	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
3	彼は陽気で仕事熱心です。 (Es alegre y trabajador.)	この課ではまず形容詞を取り上げます。形容詞は、名詞にあわせて形が変化するので少し注意が必要です。 続いて、動詞の勉強をしますが、最初の数課においては「直説法現在」という時制の活用を学ぶことになります。最初はserという動詞です。英語でbe動詞(「～は～です」)が果たしている役割を、スペイン語ではserとestarというふたつの動詞が分担しています。この課ではserについて勉強し、簡単な文を作る練習をしましょう。また、「はい」、「いいえ」で答えるタイプの疑問文の作り方についても学びます。 【キーワード】 品質形容詞、地名形容詞、主格人称代名詞、ser動詞、疑問文の作り方-1(Sí, Noで答えるもの)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	オフィスは少し散らかっています。 (La oficina está un poco desordenada.)	第3課の続きです。estarという動詞について学んだのち、serとestarの使い分けについて勉強します。また、疑問文を用いるタイプの疑問文についても説明、練習します。 【キーワード】 estar動詞、serとestarの使い分け、指示形容詞、疑問文の作り方-2 (疑問詞を用いるもの)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
5	彼は英語とカタルーニャ語も話します。 (También habla inglés y catalán.)	第3課と第4課で学んだserとestarは、まったくの不規則活用でしたが、この課では「直説法現在」の規則活用を勉強します。スペイン語では動詞がこまかく活用するため、覚えるのが少し大変です。規則活用をきちんとマスターし、実用的で平易な表現などを使えるようにしましょう。 【キーワード】 直説法現在・規則活用 (-ar, -er, -ir動詞)、前置詞のa、曜日・月・季節の語彙、疑問詞を用いた疑問文の作り方についてのまとめ	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
6	メキシコのソムブレロがほしいかい？ (¿Quieres un sombrero mexicano?)	「直説法現在」には不規則活用が多くあります。覚えるのが大変かもしれませんが、不規則動詞のなかには、日常生活でも活躍する重要な動詞があります。この課では、「語根母音変化動詞」と言われるタイプの不規則動詞について勉強します。また、この課と次の課とで、所有を表す表現についても学びます。 【キーワード】 直説法現在・語根母音変化動詞、所有形容詞前置形	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
7	今度の土曜日は働かなくてはならない。 (El próximo sábado tengo que trabajar.)	第6課の続きとして、直説法現在時制のその他の不規則活用についても勉強します。こうした動詞を使えるようになると、表現の幅がぐっと広がるでしょう。16から100までの数字も覚ええます。 【キーワード】 直説法現在・その他の不規則動詞、数詞(16～100)、所有形容詞後置形	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
8	傘を貸してくれるかしら？ (¿Me dejas el paraguas?)	「直接目的語(～を)」と「間接目的語(～に)」の人称代名詞はスペイン語でどのような形になるのでしょうか？そして、文中のどの位置に置くのでしょうか？この課では目的語の代名詞についてじっくり勉強します。 【キーワード】 目的格人称代名詞(直接目的語と間接目的語)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	坂田幸子 (慶応義塾大学文学部教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
9	私は普通7時に起きます。 (Normalmente me levanto a las siete.)	「再帰動詞」とは、主語と同じ人・物を指す目的格の代名詞を伴って使われる動詞のことで、「自分自身を(に)～する」というのがその基本的な意味です。英語にはない文法事項ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、この動詞を使うと、「起きる」、「座る」、「服を着る」など、日常生活に不可欠な表現を言うことができます。 【キーワード】 直接再帰、間接再帰、相互再帰、強意・転意、再帰専用動詞、受動態、不定主語	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
10	ディエゴ・リベラの壁画も見ました。 (También he visto los murales de Diego Rivera.)	「直説法現在完了」は、完了した行為が現在とつながりを持つ場合に用いられる時制です。また、「私は～が好きだ」と言うときに使う gustar型の動詞も、この課で学びます。この種の動詞は、用法にすこし注意が必要です。 【キーワード】 直説法現在完了、前置詞格人称代名詞 gustar型動詞	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・パロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	休暇中にどんなことをしたの？ (¿Qué hiciste durante las vacaciones?)	過去の行為を表すのに、スペイン語には「直説法点過去」と「直説法線過去」のふたつの時制があります。この課では、そのうちの「直説法点過去」を学びます。 さらに、「今は～時です」とか、「私は～時に家を出ます」とか言うときに用いる時刻の表現も習得します。 【キーワード】 直説法点過去、時刻の表現	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
12	私はとても活発な女の子だったわ。 (Yo era una niña muy activa.)	もうひとつの過去時制、「直説法線過去」は、過去において継続中の行為や、過去の習慣を表すのに使われます。 「直説法点過去」と「直説法線過去」のふたつは、どう使い分ければよいのか、練習問題を解きながらくわしく説明します。 【キーワード】 直説法線過去、「点過去」と「線過去」の使い分け	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
13	あなたは彼女と結婚なさるでしょう。 (Usted se casará con ella.)	「直説法未来」は、言うまでもなく未来の行為を表す時制ですが、現在の行為の推量を表す用法もあります。 比較級(たとえば、「私は君よりも年下だ」)や最上級(「私はみんなの中で一番年下だ」)のつくり方も、この課で学びます。 【キーワード】 直説法未来、比較級・最上級	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
14	踊っている若い男性はカルロスです。 (El chico que está bailando es Carlos.)	関係代名詞のque(英語のthatに相当)や、関係副詞のdonde(英語のwhereに相当)の用法を解説します。 また、「今～している最中である」という意味を表す「現在進行形」のつくり方や、101から10,000までの数字もこの課で覚えます。 【キーワード】 関係詞、現在進行形、数詞(101～10,000)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)
15	君が元気であることを願っています。 (Espero que te encuentres bien.)	ここまで学んできた時制は、すべて「直説法」という体系に属していました。この最後の課では、これと対立するもうひとつの時制の体系、「接続法」について、そのもっとも基本的な考え方を説明します。「接続法」を知ると、「命令」や「願望」、「疑念」など、言い表せることの幅が格段に広がります。 【キーワード】 接続法現在、意志、否定・疑念、感情・主観的な判断、可能性・必要性	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)	竹村文彦 (東京大学大学院総合文化研究科准教授) アルトゥーロ・バロン・ロペス (神奈川大学外国語学部准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1357034	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 韓国語入門Ⅰ （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 浜之上幸（神田外語大学教授） 〕
 〔主任講師（現職名）： 〕
 【本学担当専任教員： 宮本徹（放送大学准教授） 〕

講義概要

- ・韓国語の文字と発音を学習する.
- ・簡単な会話文に基づき, 初級文法の前半部分を学習する.

授業の目標

- ・文字, 発音, 初級文法の前半部分(シラバス参照)を修得すること.
- ・簡単な会話によって, 韓国人とのコミュニケーションができること.

履修上の留意点

- ・韓国語は独特の文字ハングルと日本語者にとっては難しい発音があり, 初級レベルにおいて最大の難所であるので, 予習, 復習を欠かさずに履修していただきたい.

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ハングルを学ぶ(1) ー基本母音字, 一部の子音ー	韓国語の概観, 基本母音字10字, 日本語と同じ発音をする子音 【キーワード】	浜之上幸(神田外語大学教授)	浜之上幸(神田外語大学教授)
2	ハングルを学ぶ(2) ー平音, 激音, 濃音ー	弁別的な子音の種類である平音, 激音, 濃音を学ぶ 【キーワード】	同上	同上
3	ハングルを学ぶ(3) ー終声, 合成母音字ー	閉音節と, [w], [j]のつく合成母音字を学ぶ 【キーワード】	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	音の変化を学ぶ(1) ー終声の初声化, 濃音化, 鼻音化, 流音化, 激音化ー	終声の初声化, 濃音化, 鼻音化, 流音化, 激音化などの音の変化や同化現象を学ぶ 【キーワード】	浜之上幸(神田外語大学教授)	浜之上幸(神田外語大学教授)
5	音の変化を学ぶ(2) ー2文字の終声字とリエゾンー	7終声字以外の終声字や2文字の終声字とその発音, [n]が挿入されるリエゾンを学ぶ 【キーワード】	同上	同上
6	文法の基礎を学ぶ(1) ー疑問形, 否定形ー	名詞述語文と用言述語文の疑問形と否定形を学ぶ 【キーワード】	同上	同上
7	文法の基礎を学ぶ(2) ー語基という概念, 尊敬の接尾辞ー	用言の活用にあたる語基という概念を学び, 第Ⅱ語基の例としてⅡ-ス-を学ぶ 【キーワード】	同上	同上
8	文法の基礎を学ぶ(3) ー子音語幹の第Ⅲ語基と過去形(1)ー	第Ⅲ語基の作り方について, まず子音語幹の場合から学ぶ 【キーワード】	同上	同上
9	文法の基礎を学ぶ(4) ーㇿ語幹の第Ⅲ語基と過去形ー	ㇿ語幹の第Ⅲ語基の作り方と, 第Ⅰ語基, 第Ⅱ語基の場合のㇿの脱落について学ぶ 【キーワード】	同上	同上
10	文法の基礎を学ぶ(5) ー母音語幹の第Ⅲ語基と過去形(1)ー	母音語幹の第Ⅲ語基の作り方について, まず, 縮約が起こるものなどから学ぶ 【キーワード】	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	文法の基礎を学ぶ (6) ー母音語幹の第Ⅲ語 基と過去形(2)ー	母音語幹の第Ⅲ語基の作り方について、母音の右側に「」 を含み縮約が起こらないものを学ぶ 【キーワード】	浜之上幸(神 田外語大学 教授)	浜之上幸(神 田外語大学 教授)
12	文法の基礎を学ぶ (7) ー母音語幹の第Ⅲ語 基と過去形(3)ー	母音語幹のうち、いわゆるㇿ語幹と呼ばれるものを学ぶ 【キーワード】	同上	同上
13	数詞を学ぶ ー漢字語数詞と固有 語数詞ー	固有語の数詞と漢字語の数詞の2つの体系を学び、数詞に 付く名数詞についても学ぶ 【キーワード】	同上	同上
14	親しい上称形を学ぶ ーⅢ-ㇿで終わる文 章ー	話し言葉でよく用いられる親しい上称形について学ぶ 【キーワード】	同上	同上
15	まとめと復習	まとめと復習 【キーワード】	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1357042	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 韓国語入門Ⅱ (' 1 2) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 平 香織 (神田外語大学准教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 〕
 【 本 学 担 当 専 任 教 員 : 宮 本 徹 (放送大学准教授) 】

講義概要

- ・やや難度の上げた会話文を基に、初級文法の後半部を学習する。
- ・「韓国語入門Ⅰ」に引き続き、韓国語の正確な発音と基礎的な語彙の習得を図り、書きことばと話しことばの違いを理解する。
- ・スキットを通じて、朝鮮半島の文化に対する理解を深める。

授業の目標

初級段階で学習する文法の後半部を習得する。具体的には、(1)変格活用、連体形の習得、(2)終止形語尾、接続形語尾をはじめとする様々な文法形式を使った表現の理解、(3)半言を使用した会話、下称を使用した書きことば・話しことばに触れ、本授業で取り上げた半言・下称の形態を使用できるようになることを目指す。

なお、韓国語の発音は日本語母語話者にとって習得し難い項目の一つであるため、常に発音に注意を払いながら授業を進める。

履修上の留意点

「韓国語入門Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。なお、本講座では語基を用いるため「韓国語入門Ⅰ」を履修せずにこの講座を受講する場合は、第1回の「語基の復習」を必ず受講すること。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	韓国に来てどのくらい経ちましたか。 -語基の復習-	「韓国語入門Ⅰ」で学習した語基についての復習を行う。 その他、尊敬や否定の形、「～して」を表す-고, -서, 「～しながら」を表す-면서の使い方の復習をする。 【キーワード】	平 香織 (神田外語大学 准教授)	平 香織 (神田外語大学 准教授)
2	何番のバスに乗れば いいですか。 -話しことばの語形-	話しことばで起こる省略や縮約を学ぶ。その他、願望を表す-고 싶다, 相手の意志を尋ねる-으래요?, 義務を表す-야 되다などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
3	参鶏湯のお店は ここから近いですか。 -ㄹ 변格活用-	変格活用の一つであるㄹ変格の活用と使い方を学ぶ。また、語基の復習(2)を行う。その他、話し手の意志を表す-으게요, 話しことばで使用される助詞を扱う。 【キーワード】	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	韓国人の多い下宿が いいですね。 -形容詞・指定詞の 現在連体形-	形容詞と指定詞の現在連体形を学ぶ。その他, 話し手の 意図を表す-려고 하다, 「まだ～していません」を表す아직 +否定過去形, 未実現連体形-ㄴ다などを扱う。 【キーワード】	平 香織 (神田外語大学 准教授)	平 香織 (神田外語大学 准教授)
5	ハングルについて 知りたいのですが。 -動詞・存在詞の 現在連体形-	動詞と存在詞の現在連体形を学ぶ。その他, 体言形-ㄹ 「～すること」を使った形である「～する前に」や「～しはす る」という表現などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
6	韓国に来る前に本で 読みはしたのですが… -ㄹ을語幹末とした活用-	ㄹ을変格活用, ㄹ을変格活用を学ぶ。また, 語基の復習(3) を行う。その他, 「～について」「～についての」を表す-에 대해(서), -에 대한, 後に続く状況の前置きを表す-니까な どを扱う。 【キーワード】	同上	同上
7	海外旅行が初めて なので少し心配です。 -ㄴ을変格活用-	変格活用の一つであるㄴ을変格の活用と使い方を学ぶ。 その他, 体言に-요をつけて丁寧さを表す形や体言の後に 付いて「～なら」という仮定条件を表す形などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
8	ホームシックにかかっ たようですね。 -過去連体形-	動詞・形容詞・存在詞・指定詞の過去連体形を学ぶ。そ の他, 「～しておく」や「～してしまう」という補助動詞や推量 表現の一つである連体形 ㄴ다などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
9	奈緒さんが治ったら その時会いましょう。 -ㄴ을変格活用-	変格活用の一つであるㄴ을変格の活用と使い方を学ぶ。 その他, 「～してくれと言う」を表す달라고 하다, 「～しない でください」を表す-지 마세요などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
10	母にプレゼントを しようと思ひまして。 -ㄴ을変格活用-	変格活用の最後となるㄴ을変格を学習する。その他, 接続 語尾に-요が付いた形や話しことばでのみ使用される-거든 요, 主格助詞-가/-이の尊敬の形である-께서を扱う。 【キーワード】	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	先に行っていますから ゆっくり来てください。 -Ⅰ-고 있다, Ⅲ 있다-	日本語の「～している」に相当する二つの形式を学ぶ。その他、話し手が直接経験したことを聞き手に伝える形である -더라고요や「～するつもりだから、～するはずだから」を表す -ㄴ 테니까などを扱う。 【キーワード】	平 香織 (神田外語大学 准教授)	平 香織 (神田外語大学 准教授)
12	そろそろ敬語を使わ ないで話すのはどう ですか -半言-	同年齢同士や親しい間柄で、主に話しことばで使用される半言を学ぶ。その他、「～する途中で、～していて」を表す -다가, 「～するかと思って」を表す -ㄴ까 봐, 過去の出来事に対する話し手の後悔を表す -ㄴ 걸などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
13	奈緒の日記 -下称(1)-	書きことばと話しことばの両方で使用される下称を取り上げる。特に13課では、下称叙述形と下称勧誘形を中心に学習する。その他、動詞の過去連体形 -던, -ㄴ던, 推量を表す連体形 듯하다などを扱う。 【キーワード】	同上	同上
14	物語を読む -下称(2)-	第13課で学んだ下称の続きである。第14課では韓国の童話を用いて下称疑問形と下称命令形について学習する。その他、伝聞形式などを取り上げる。 【キーワード】	同上	同上
15	まとめと復習	これまで学んできた中で特に重要な項目(語基, 変格活用, 連体形, 丁寧さに関わる文末表現, 親しい上称形・半言形による様々な表現, 「～している」を表す二つの形式, 接続形)を復習する。 【キーワード】	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	共通科目 (外国語)	科目 コード	1357026	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初歩のアラビア語 （' 1 1）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 鷺見朗子（京都ノートルダム女子大学教授）〕

【本学担当専任教員： 高橋 和夫（放送大学教授）】

講義概要

アラビア語は中東・北アフリカを中心とする20以上の国と地域で話され、国連の公用語にもなっている世界の主要言語の1つです。また、世界人口の約5分の1が信徒であるイスラームの言語でもあります。第1回から第6回では、28文字からなるアラビア語のアルファベットをマスターします。同時に、簡単な会話表現も学習していきます。第7回から最終回までは、スキットに登場する基本フレーズを理解しながら、やさしいアラビア語の単語、表現、文法の学習を行います。練習問題にも挑戦して、応用力をつけていきます。毎回お送りする「サカーファ」（アラビア語で「文化」）のコーナーでは、アラブの人々の生活、宗教、歴史、芸術にかかわる文化のさまざまな側面を紹介します。

授業の目標

この科目のねらいは、アラビア語の読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら、楽しく習得することです。アラビア語学習に軸をおきながらも、アラブの人々の暮らしや文化事情が豊富に盛り込まれた映像とインタビューを通して、「生の」アラブ文化についても理解を深めていきます。前半は、初めてアラビア語の世界へ足を踏み入れた人でもアラビア文字を無理なく習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、文字に慣れていきます。文字に慣れた後は、ごく日常的な表現を学びながら、語彙力とともに読み書きを含めたコミュニケーション力を養います。豊富な例文により、名詞の性から動詞活用までの基本的な文法も理解していきます。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	こんにちは～アラビア文字を用いる他言語～	アラビア語の世界への扉を開く、文字と発音の第1回です。書き方(右から左へ)、28文字からなるアルファベット、文字同士の結合の仕方など、アラビア語の特色を学びます。 【サカーファ(アラブ文化)】アラビア文字を用いているのはアラビア語だけではなく、このアラビア文字の普及はイスラームという宗教の存在が大きく、イスラームとともに広まってきました。 【キーワード】 アラビア語、アラビア文字、補助記号	鷺見朗子(京都ノートルダム女子大学教授)、依田純和(大阪大学特任助教)、福田義昭(大阪大学非常勤講師)、森口明美(大阪大学非常勤講師)	鷺見朗子(京都ノートルダム女子大学教授)
2	おはよう～フスハーとアーンミーヤ～	アルファベットの最初から順に、発音、書き方、文字のつなげ方を学んでいきます。母音記号と無母音記号を導入します。また、「おはよう」の会話表現を学習します。 【サカーファ】アラビア語はフスハー「書きことば」とアーンミーヤ「話しことば」に分けられます。2つの違いは大きく、用途も異なります。 【キーワード】 アラビア文字、母音記号、無母音記号	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	こんばんは～アラブとは、中東とは、イスラームとは～	ひきつづき文字と発音を少しずつ確実に覚えていきます。文字ごとに発音、書き方、文字のつなげ方の練習をします。ハムザという記号、そして「こんばんは」という表現を学びます。 【サカーファ】アラブ、イスラーム、中東とはいったい何をさすことばなのかを学びます。イスラームの聖典クルアーンの朗読も聴いてみます。 【キーワード】 アラビア文字、文字のつなげ方、ハムザ	同上	同上
4	ようこそ～アラビア書道の芸術～	アラビア文字を正しい発音で読み、スムーズに書くことができるよう、繰り返し練習します。母音記号以外の補助記号の用法を学びます。初めて会ったときの会話表現も学習します。 【サカーファ】アラブ世界にも書道があり、国際的にも高い美的価値をもった芸術として認められています。書家のインタビューを通じてさまざまな書体や作品を見ます。 【キーワード】 アラビア文字、重子音記号	同上	同上
5	元気ですか～ベリーダンスの情熱～	文字と発音の第5回です。文字同士の結合の仕方と文字の発音をさらに練習します。「元気ですか」の表現を覚え、書く練習をします。アラブの街角のカラフルな看板も読んでみます。 【サカーファ】中東で生まれ、現在世界で人々に親しまれているベリーダンスがテーマです。国際的に有名なレバノン人ダンサーが登場します。 【キーワード】 アラビア文字、文字のつなげ方	同上	同上
6	アッサラーム・アライクム～アラブの青年ハーニーさんの生活～	文字と発音の仕上げです。定冠詞の書き方と発音の仕方、アルファベット以外の文字や記号について学びます。さらに今回は、アラブの国名を読む練習やクロスワードパズルにも挑戦します。「アッサラーム・アライクム」という表現も学びます。 【サカーファ】エジプトの首都カイロに住むハーニーさんの生活の一端をかいまみます。 【キーワード】 ワスラ記号、定冠詞、太陽文字	同上	同上
7	あなたの名前は？～アラブ人の名前～	いよいよスキットの始まりです。スキットに出てくる基本フレーズを通して、文の構造と単語を学習していきます。アラビア語には男性と女性の2つの性があります。この使い分けも学びます。 【サカーファ】アラブ人の名前の成り立ち、そして日本名の書き方を学びます。自分の名前をアラビア文字で書いてみます。 【キーワード】 名詞の性、疑問文	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	あなたはアラブ人で すか～アラブの音楽～	自分の出身を伝える表現を学びます。「○○人」という表現と独立人称代名詞を組み合わせて文章を作る練習をします。数字0～10とその読み方も学習します。 【サカーファ】アラブの人々の生活には音楽があふれています。アラブ人歌手のインタビューと歌を楽しみます。 【キーワード】 独立人称代名詞、ニスバ語尾、数字1～10	同上	同上
9	モスクはどこですか～ 日本のモスク～	「～はどこですか」という表現を学びます。定冠詞と形容詞の用法を理解し、定冠詞、名詞、形容詞で文を作る基本を学びます。 【サカーファ】日本のモスク(イスラームの礼拝場)について学び、日本人ムスリムの方に入信のきっかけなどをききます。 【キーワード】 定冠詞の用法、形容詞	同上	同上
10	これは私の父です～ 家族の絆～	接尾人称代名詞とともに家族を紹介する基本フレーズを学びます。さらに指示代名詞と「○○があります」の表現を学習します。 【サカーファ】アラブ社会は近親を含めた大家族制度が基盤となっており、家族員同士が多く面で支えあっています。 【キーワード】 接尾人称代名詞、指示代名詞、フナーカ	同上	同上
11	いつもみなさんがお 元気でありますように ～ラマダーン月～	「AのB」を表すイダーファの構造を学びます。前置詞を使った所有の表現と「お願いします」の表現も習います。 【サカーファ】ムスリムはイスラームの断食月であるラマダーンのあいだ、日の出から日没まで一切の飲食が禁止されます。 【キーワード】 イダーファ、前置詞を使った所有の表現	同上	同上
12	これらのお寺や神社 は素晴らしいです～ アルハンブラ宮殿と アラブ詩～	アラビア語の双数や複数を用いた文章表現を学びます。複数には語尾複数と語幹複数があります。反復練習でいろいろな単語の複数形を覚え、語彙力アップにも努めます。 【サカーファ】イベリア半島最後のイスラーム王朝が建てたアルハンブラ宮殿とその壁面に刻まれたアラブ詩句を読みます。 【キーワード】 単数、双数、複数	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	アラビア語を勉強しています～ヴェールとヘンナ装飾～	「アラビア語を勉強しています」という表現を学びます。動詞未完形活用を繰り返し練習し、「私は〇〇がほしい」という表現も学習します。 【サカーファ】ムスリム女性がかぶるヴェールと中東・アラブ地域の女性が手足の装飾に使う染料ヘンナについてです。 【キーワード】 動詞未完形、「私は〇〇がほしい」という表現	同上	同上
14	パレスチナ料理を食べましたか～料理ともてなしの心～	「〇〇をしましたか」などの動詞完了形を含んだ文を学習します。各人称に対応する動詞の活用を繰り返し練習します。アラビア語の語根についても学習します。 【サカーファ】アラブでは人を招き、ごちそうすることが徳の高い振る舞いであると考えられています。 【キーワード】 動詞完了形、語根と語形パターン	同上	同上
15	ジュハーが好きです～アラブの笑い～	スキットではジュハーというアラブの昔話に出てくるユーモラスな人物についての小話を紹介します。最終回は等位文の否定ライサを学び、復習をかねて疑問詞と自己紹介文を確認します。 【サカーファ】アラブ人は笑いやユーモアが大好きで、小話や笑話を語ることで「笑い」の民衆文化を形成してきました。 【キーワード】 等位文の否定ライサ、疑問詞、自己紹介	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1510118	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 生活知と科学知 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：奈良由美子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）〕

講義概要

科学知(科学的手法によって獲得される客観的な知)と生活知(生活のなかに埋め込まれてきた経験的な知)とはこれまで別々に扱われることが多かった。むしろ、これらを切り離して論じることは、教える側と教えられる側、専門家と一般市民、生産者と消費者といった立場の分離がより明確になることで発展した近代・現代社会になじむものであった。しかし今日顕在化する様々な問題の解決には、異なる立場間の価値観・意見そして知のコミュニケーションが求められるようになってきている。この授業では、生活知と科学知の観点から、生活および生活者の課題を論究するものである。

授業の目標

人間は誰しも生活する主体(＝生活者)である。本科目では、生活を主体的にデザインし構築するてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生活知と科学知によるコミュニケーションの時代の到来	科目全体の導入回として、生活知と科学知のコミュニケーションの意義についての問題提起と、科目(学習)の到達点の提示を行う。同時に主要概念の定義を示しておく。 【キーワード】 知、生活、生活の主体、専門家、科学、科学技術、生活知、科学知	奈良由美子 (放送大学教授) 伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	奈良由美子 (放送大学教授) 伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)
2	日常生活のなかの科学(1)	日常生活と科学は縁がないように感じられるだろうが、実は日々の家事、育児などは知らず知らずのうちに科学手知識、科学的思考法を駆使して行われているものである。生活者は上記のような科学に裏付けられた生活をしている、ということを家事、育児などの事例を交えて紹介する。 【キーワード】 日常生活、家事、育児、知恵、科学的知識、科学的思考	内田麻理香 (サイエンスコミュニケーター)	内田麻理香 (サイエンスコミュニケーター)
3	日常生活のなかの科学(2)	第2回では生活が科学に囲まれており、しかも生活することのひとつひとつが科学的思考そのものであることを説明した。この回では、科学リテラシーは多かれ少なかれ生活者である皆が持っているものだということを検討する。また、テレビというメディアを通じた発信の経験から、科学リテラシーの欠如がいかに身の危険に結びつくということを考えていく。 【キーワード】 リテラシー、PISA、科学リテラシー、日常生活、メディア	内田麻理香 (サイエンスコミュニケーター)	内田麻理香 (サイエンスコミュニケーター)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	日常生活のなかの批判的思考法	科学知の中でも健康に関する情報は日々の生活と密接な関係を持つが、その分科学的な装いをもったあやしい情報が多いことも確かである。第四回ではそうした事例を例にとりつつ、批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考といった思考のツールについて学ぶ。 【キーワード】 批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考、科学方法論	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)
5	生活のマネジメント	生活が科学的な側面を持つ営為であることを示すひとつの考え方として、「生活のマネジメント(生活経営)」について、その概念や手法を紹介する。さらに生活経営のなかでの知の位置づけについても考える。 【キーワード】 生活、マネジメント、生活経営の構造と要素、PDSサイクル、リスクマネジメント、生活認識、生活実践	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
6	社会技術と生活	この回では、科学が広範な社会のなかで活用され、ひいては生活のよりよさに貢献していることを「社会技術」という考え方をを用いて考えたい。まず社会技術の概念をおさえる。そのうえで社会技術の開発と実装の実例を見ていき、その開発・実装における課題を考察する。 【キーワード】 社会技術、社会の中の科学・社会のための科学、社会実装、社会問題、シーズとニーズ、協働	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
7	安全と安心をめぐる知	安全と安心について市民と技術者の双方から考える。技術者はこれまで安全を確保することは重視してきたが、安心を産み出すために何が必要かはあまり考えてこなかった。市民の側も、ただ不安だと言うだけでなくどうすれば安心できるのかを技術者と一緒に考えて行く必要があるだろう。本章では、安全、安心の定義について検討した後、安心を産み出すために必要な信頼をいかに醸成するためのコミュニケーションの在り方、また、市民に求められる科学リテラシーについて考察する。 【キーワード】 安全、安心、科学技術基本計画、技術者倫理、価値共有、リスク・コミュニケーション	札幌 順 (金沢工業大学教授)	札幌 順 (金沢工業大学教授)
8	科学技術コミュニケーション	近年世界的に盛んになっている科学技術コミュニケーションについて、その目的や方法論、歴史的・社会的背景、科学技術コミュニケーションの実践例と教育の現状を理解するとともに、生活者としての市民の科学技術との関わり方を考える。 【キーワード】 科学技術コミュニケーション、一般市民の科学理解、欠如モデル、啓蒙型と対話・参加型、サイエンスカフェ	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター准教授)	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター准教授)
9	生活における科学知の利用—サイエンスショップの取り組み—	日常生活や地域社会の問題解決に関する市民からの相談や依頼に基づいて、大学の学生や教員が調査・研究、専門的アドバイスをを行うサイエンスショップは、生活知と科学知が交流する対話・参加型の科学技術コミュニケーションの重要な一例である。その理念と歴史、実際の運営について、大阪大学など国内の事例も含めて紹介し、サイエンスショップを通じた市民と科学および大学との新しい関わり方の可能性について考える。 【キーワード】 市民科学、サイエンスショップ、市民と大学の新しい関係	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター准教授)	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	科学知に対する市民からの支援	科学研究が資金面でどのように支えられてきたのかという歴史的な変遷について学ぶとともに、基礎科学への市民の支援のありかたについて考える。新しい関わり方の提案として、「市民的パトロネージ」という考え方と名古屋大学における具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 大学、研究資金、市民的パトロネージ	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)
11	生活者による科学技術の評価	自分たちの生活にかかわる科学技術に対して、生活者が主体的な評価を行い選択することの実態と課題を考える。具体的な素材として商品テストと商品開発をとりあげる。 【キーワード】 商品評価、商品テスト、商品開発、消費者主導型商品開発	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
12	リスクガバナンスと生活知	不確実性と多様な価値観・利害のもとで、専門家、政策立案者、企業、市民・市民団体など多様な主体が相互作用しながら意思決定を行うリスクガバナンス。その基本的な考え方を紹介するとともに、市民がリスクガバナンスに主体的に関わり、生活知を活かしていくための方法論と、その可能性、課題について、生活者の視点から考える。 【キーワード】 リスクガバナンス、リスク分析、生活者の視点、市民参加の方法論	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)	平川秀幸 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)
13	ローカルな知識の活用	ローカルな知識という考え方に焦点をあて、ローカルな知識を科学知と対等な立場で問題解決に生かして行く可能性について、霞ヶ浦アサザプロジェクトなどの具体例を手がかりに考える。 【キーワード】 ローカルな知識、伝統的生態学的知識、自然再生事業	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)
14	文化・価値と科学	この講義で紹介してきたような科学知の捉え直しの背景には、科学哲学や科学社会学における科学のイメージの変化がある。今回は、そうした理論的背景について、特に文化や価値が科学にどう影響してきたか、そしてそれが科学の合理性とどうかかわるかについて考える。 【キーワード】 合理主義、科学のエートス、社会構成主義、社会認識論	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)
15	知のコミュニケーションと生活者の主体性	知のコミュニケーションをめぐる生活者と専門家の努力、とくに生活者の主体性という観点からこれまでの授業を総括する。 【キーワード】 知をめぐる努力、21世紀の科学者・技術者像、21世紀の生活者像、主体性、当事者意識、知識循環、交易圏	奈良由美子 (放送大学教授) 伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)	奈良由美子 (放送大学教授) 伊勢田哲治 (京都大学大学院准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518887	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ リスク社会のライフデザイン （'14）＝（R）
－変わりゆく家族をみすえて－

英文名 ＝ [Life Design in a Risk Society ('14) : Perspective from the Changing Families]

〔主任講師（現職名）：宮本みち子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：岩上真珠（聖心女子大学教授）〕

講義概要

仕事や結婚や親になることが自明ではなくなり、そこで生じる出来事にともなうリスクを経験する人が多くなるのが現代の特徴である。とくに、これまでの社会と暮らしを支えてきた家族的秩序やジェンダー関係が大きく変化しつつあるため、そこに生じる課題を解決し、変動のゆくえを展望することは、個人にとっても社会にとっても国にとっても大きなテーマである。そこで、この科目は家族への科学的アプローチ、家族の歴史的動態を理解し、現代家族と暮らしの諸相の意味するところを知り、そこに生起する諸課題に取り組むための基礎知識を学ぶことをめざして編成されている。

授業の目標

本学で開講する家族に関連する複数の科目のベースとなる家族社会学の骨格を示す。家族の基礎理論、歴史、親子関係、夫妻関係、ジェンダー、社会変動と家族、地域と家族、国家と家族など、家族を理解するうえで欠かせない主要な領域をできるだけカバーし、関連科目へと橋渡しすることを目指す。

履修上の留意点

開講科目の「臨床家族社会学('14)」は、家族問題の特にミクロレベルとメゾレベルにおいて、問題解決的、臨床的なテーマを扱っているため、この科目とセットで履修することで、家族に関する理解はいっそう深まるだろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	家族はどう変化しているか	社会経済環境の変動にともなう家族の変化は著しく、これまでの暮らしの前提となってきたものの見直しが必要となっている。そこで、家族の諸側面から変わる家族のすがたを見ていく。また、「人生のリスク化」という用語を使って現代の家族や暮らしの特徴を概観する。さいごに本書の概略を紹介する。 【キーワード】 家族、世帯、家族変動、少子高齢化、家族構成、婚姻率、出生率、リスク社会、人生のリスク化	宮本みち子 (放送大学教授)	宮本みち子 (放送大学教授)
2	多様化する家族の形	ひとり親家族、老親と成人未婚子の核家族、高齢者単身世帯の増加などの諸現象を紹介しつつ、「夫婦を中心とする核家族」幻想の揺らぎのなかで、いま日本社会で起きている家族現象を解説する。「標準型」におさまらない家族のカタチを示しつつ、あらためて「家族」への柔軟なアプローチの必要性を喚起する。 【キーワード】 家族のライフスタイル化、家族の脱制度化、新しい親密圏	岩上真珠 (聖心女子大学教授)	岩上真珠 (聖心女子大学教授)
3	近代家族から現代家族へ	近代から戦後までの家族の変化に関連づけて、重要な学説を紹介することを通して、理論的に家族を理解する諸方法を学ぶ。まず、家族をめぐる制度の変化から、家族が法律や慣習と深く関わる関係であることを学ぶ。次に、家族が果たす役割への着目、社会関係の1つとして家族をみる方法、最後に人々の主観を尊重した家族へのアプローチを学ぶ。 【キーワード】 歴史的変化、機能、ネットワーク、主観	田間泰子 (大阪府立大学教授)	田間泰子 (大阪府立大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	家族とジェンダー	家族は、ジェンダー(社会的文化的に形成される男女間の差異)によって大きく影響を受ける。本章では、婚姻前から婚姻中、離婚の過程にみられるジェンダーの日本の特徴と、それらがリスク社会においてどのような脆弱さをもたらすかを理解する。 【キーワード】 ジェンダー、ジェンダー統計、DV	田間泰子 (大阪府立大学 教授)	田間泰子 (大阪府立大学 教授)
5	企業社会と家族	男性の長期雇用を基礎とする日本の雇用慣行を軸に構築された企業社会は、家族に多大な影響を与えてきた。企業社会の形成過程をふり返りつつ、企業社会が家族生活に付与した諸問題を洗い出すことを中心的課題とする。それを踏まえて、若年層を中心とした変動方向を捉えるヒントを得る。 【キーワード】 日本型雇用慣行、企業社会、会社人間と専業主婦	木本喜美子 (一橋大学 大学院教授)	木本喜美子 (一橋大学 大学院教授)
6	女性の就業化と家族	戦後日本における女性の就業化動向をたどるなかから、出産・子育てと女性の雇用労働の「両立」問題が浮上してきた局面を把握する。企業社会において女性労働が受けた制約を見据え、この制約を克服するための発想の転換と両立支援策のもつ今日的意義を考える。 【キーワード】 女性の就業化、「女性の二つの役割」、男女の家族的責任、両立支援策	木本喜美子 (一橋大学 大学院教授)	木本喜美子 (一橋大学 大学院教授)
7	性・生殖と家族	性と生殖はそれ自体がリスクを抱えている。家族はそのリスクを軽減する役割を果たすが、現代の人々の生き方や家族の変容によって高まっているリスクもある。本章では、性と生殖にかかわる家族の現状と課題を、国際的動向もふまえて理解する。 【キーワード】 母子の死亡率、リプロダクティブ・ライツ、性的多様性	田間泰子 (大阪府立大学 教授)	田間泰子 (大阪府立大学 教授)
8	家族と親子関係	生涯にわたる親子関係の推移を軸に、教育期の「母親」の負担、「巣立ち」の遅い若者の問題、未婚期の長期化、高齢期の長期化と子どもとの関係など、現代的な課題を検討する。また、ステップファミリーなどによる新しい親子関係の出現、里親・里子や養親子などの「血のつながらない」親子関係など、新たに浮上してきたテーマを盛り込みながら、「親子」について考える。 【キーワード】 血のつながらない親子、子どもの最善の利益、高齢期の親子	岩上真珠 (聖心女子大学 教授)	岩上真珠 (聖心女子大学 教授)
9	家族とケア	親の扶養規範、娘による老親介護の実態と変容、老老介護、ケアのジェンダー化・グローバル化を視野に入れながら、主として高齢期のケアに関わる問題(ケアの担当者、ケアのスタイル、ケアされる側の論理、等)を扱う。また、ケアに関する国際比較研究も取り上げながら、少子高齢化社会の進展にともなって焦点化されると予測される今後の課題を提示する。 【キーワード】 家族ケア、ケアワーク、ケアの社会化、ケアのグローバル化	岩上真珠 (聖心女子大学 教授)	岩上真珠 (聖心女子大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	男性と家族	家族との関係において男性の生涯と生活の仕方をライフコースの視点でみる。とりわけ男性のジェンダー形成の視点から考える。少年・青年期の発達課題と男性性構築、若年層の結婚と就職の現実、中高年期の生き方、高齢男性の介護をめぐる現状等に焦点をあてた分析もおりまぜながら検討していく。 【キーワード】 ジェンダー形成、男性のライフコース、男性性、男性と介護	中村正(立命館大学教授)	中村正(立命館大学教授)
11	男性問題と現代社会	伝統的で主流となっている男性性は日常生活に否定的な陰を落としている。男性中心主義社会ではあるがそれはまた男性の自由な生活と労働をも拘束している。男性同士の格差もみられ、男性性は息苦しくもある。現代社会を男性と男性性から再把握してみる。他の諸章で検討されている諸課題と重ねて俯瞰してみる。 【キーワード】 男性中心社会、男性性	中村正(立命館大学教授)	中村正(立命館大学教授)
12	子どもの貧困化と家族	貧困化する家族の子育て問題は、21世紀の重大な課題になっている。グローバル経済化、脱工業化、脱近代化の趨勢は、家族の福祉追求機能を弱め、新たな課題を提示している。これらの現象は、家族の多様化・個人化・脱制度化とも関係している。それを、子どもの問題を中心にしてみる。 【キーワード】 貧困と家族、社会的排除と家族、子どもの貧困、家族政策	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
13	排除される人々と家族	家族にはしばしば社会の負の側面が刻まれる。たとえば貧困や障害や高齢という理由で、ある家族は社会から排除される。その一方で、家族の内部では、ある家族メンバーが家族から傷つけられたり、負担を集散的に押し付けられ疎外され排除されることもある。格差が拡大する社会では、社会から排除される家族、家族から排除される人々が増加しがちである。それらの実態をみる。 【キーワード】 リスクの多様化・階層化・普遍化、家族のケア機能、ケアラー、生活アセスメント、伴走型支援、セーフティ・ネット	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
14	地域コミュニティと家族	夫・妻・子から成る核家族が減少し、高齢者を中心に単身世帯が増加するなど、家族の個人化と多様化が進み、生活リスクに対処する力が弱まっている。多様化する生活課題に対して、行政サービスのみで解決を図るには限界がある。そこで市場や公的セクターとは異なる共助が期待され、地域コミュニティにおける人々の活動が新たな地平を築くことをみる。 【キーワード】 地域コミュニティ、ケア、高齢者介護、孤立死、地縁型組織、テーマ型組織	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)
15	現代社会の家族政策	グローバル経済競争の激化、雇用状況の流動化と不安定化、財政難にともなう福祉国家路線の後退が、人々の暮らしに影響を及ぼしている。個人の生活を守るためには、家族を社会に開き、公助と共助によって支えあう関係がこれまで以上に必要とされている。各国が新しい家族像を模索している状況にあることをみる。 【キーワード】 家族機能、生活保障、ワーク・ライフ・バランス、雇用レジーム、福祉レジーム、家族福祉、会社福祉、日本型生活保障	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518119	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 人口減少社会のライフスタイル （'11）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：宮本 みち子（放送大学教授）〕

講義概要

ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々のくらし、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会からゼロ成長またはマイナス成長社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを社会の諸相に及ぼしている。その実態を、とくに世代・家族・地域という切り口から明らかにし、これからの暮らしと社会の新しい地平を展望する。

授業の目標

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	日本の人口の長期的変動	「人口減少社会」の人口学的意味を理解するには、人口転換という概念の理解が必要である。人口転換とは多産多死から少産少死への人口動態の一大転換であるが、必然的に人口規模と人口年齢構造の変化(人口増加と高齢化)をもたらす。人口増加の時代が終わり人口減少社会を迎えたことは、人口転換が完了したことにはほかならない。しかし、日本をはじめとする先進諸国は、さらに超少子高齢化と人口減少という、新しい位相に入りつつあることを述べる。 【キーワード】 人口転換、人口ピラミッド、人口減少、人口ボーナス、人口オーナス、ポスト人口転換	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)
2	少子化と長寿化の要因	ここでは少子化(人口置換水準を下回る低出生力)と長寿化の原因について述べる。いずれも機序(メカニズム)と背景要因に分けて理解する必要がある。少子化の機序は主に結婚率低下と夫婦出生率低下であり、背景要因は経済学、社会学、医学生物学など多方面から探求されている。他方、長寿化(寿命伸長)は主に年齢別死亡パターンの変化と死因パターンの変化によって説明されることを示す。 【キーワード】 人口置換水準、少子化、長寿化、合計特殊出生率、平均寿命	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)
3	人口変動の影響と課題	21世紀の日本が超少子高齢化・人口減少に直面することはもはや不可避といえる。それは同時にライフコース、家族、地域社会に大きな変化が起こることでもある。政策対応としては、そのような事態に対応して社会・経済システムを見直すこと、低すぎる出生力を是正すること、外国から移民を受け入れることなどが考えられる。しかし、いずれも政策の実施は容易ではないことを述べる。 【キーワード】 人口高齢化、ライフコース、成人期への移行、健康寿命、出生力、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)	佐藤龍三郎(元国立社会保障院・人口問題研究所国際関係部長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	少子・高齢社会のライフコース	ライフコースとは、個人が生まれてから死ぬまでの人生の軌道である。人々が社会のなかでどのような役割を取得し、どのような出来事をたどって歩んでいるのかに着目した用語である。人の一生は長寿化し、ライフコースの多様化・個人化が進んでいる。ライフコースの実態からライフスタイルの変化をみていく。 【キーワード】 ライフコース、ライフステージ、ライフサイクル、生活設計、ライフコースの個人化、エリクソン	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)
5	変わる仕事の世界	人口構造の高齢化が進み、将来の深刻の労働力不足が予想されている。女性、高齢者の就業率を上げることは避けられない課題となっている。しかしその一方で、グローバル経済競争の激化、産業構造の転換を受けて、仕事の世界は激しく変化している。日本型経営が動揺し、終身雇用制の解体が進み、雇用の多様化・流動化が進んでいる。また、仕事の高度化と長時間化が進み、健康を維持し、仕事と家庭のバランスをどのようにとっていったら良いのかが大きな課題となっている。これらの実態を整理する。 【キーワード】 日本型雇用、失業、フリーター、賃金制度、ワーク・ライフ・バランス、オランダモデル、社会的企業	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)
6	変わる結婚と家族	人々の暮らしにとって、家族は重要な構成要素となっている。しかし家族の変化は著しく、これまでの暮らしの前提の見直しが必要とされている。そこで家族の実態とその歴史的变化を整理する。とくに、近年の労働力の女性化、非婚化、少子・高齢化、性役割構造の変化などを中心に、家族をめぐる状況変化を概観する。 【キーワード】 世帯、核家族、単独世帯、同居率、皆婚社会、家族の相対化・個人化	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)
7	若者期の光景	若者期とは、学校を卒業し、仕事に就き、社会人としての基礎を固め、やがて結婚して家庭をもつなど、親とは独立した生活の場をもつようになる時期である。現代では、伝統的な制約が衰退して自由が拡大している一方で、雇用の流動化が進み、若者に大きな影響を及ぼしている。晩婚化と非婚化も進んでいる。そこで、仕事と結婚に焦点をあてて若者期の実態と意識や行動の特徴を探り、そこでの問題や課題を考える。 【キーワード】 モラトリアム期、晩婚化、フリーター、新規学卒一括採用	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)
8	現役世代の光景	現役世代の生活は、職業人として経済活動を担い、社会人として社会の主要な役割を果たす時期である。一方、個人的には、生活の経済的基盤の確立と持続、住宅の確保、子どもの養育と教育、老親の介護、老後の準備などの課題をこなしていく時期である。社会経済構造の変化は個人生活に大きな影響を及ぼしている。また、家族の変容も顕著である。これらの変化が現役世代の光景を変貌させている。その実態や課題を探る。 【キーワード】 家族の変容、非婚化、ライフスタイル、性役割分業、働き方、家計構造	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)
9	高齢期の光景	長寿化にともなって年齢の意味が変化している。75歳までは高齢期ではなく熟年後期であり、高齢期は75歳以上とする認識へと変わりつつある。そこで、長寿化する高齢期の実態を、家族、雇用、社会保障、福祉と医療、社会活動等の切り口でみていく。多様なライフスタイルが可能な高齢期を実現するためには、年齢にとらわれないで活躍できる社会環境条件を整える必要があることを述べる。 【キーワード】 居住形態、ライフプラン、社会保障、介護保険制度、高齢期	宮本みち子(放送大学)	宮本みち子(放送大学)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	人口移動と地域	人口減少時代の変化の速度は地域間で違っている。人口移動は地域の出生率にどのように影響するのか。人口移動と地域人口の規模との関係はどうなっているのか。人はなぜ移動するのか。人口移動は地域の高齢化にどう影響しているのか。人口移動が地域人口に与える影響について概観する。 【キーワード】 人口増減、人口移動、労働市場の論理、地域社会の論理	吉田良生(椋山女学園大学)	吉田良生(椋山女学園大学)
11	過疎化のゆくえ	人口が減少する時代でも地域社会では人口が減少する地域と増加する地域がある。農山村地域と地方都市と大都市では、人口現象に違いがある。しかし、その底流には人口減少があり、そこから発生しているという点で共通性があることをみていく。そして、地域問題の解決にはこれまでの地域政策から発想の転換をはかる必要があることを説明する。 【キーワード】 地域社会、人口の「マタイ効果」、限界集落、中心市街地空洞化、都市内限界集落	吉田良生(椋山女学園大学)	吉田良生(椋山女学園大学)
12	グローバル化と多文化社会	経済のグローバル化にともなって国境を越えて人口移動が進んでいる。さらに、人口減少にともなって、これまで以上に移民の受け入れが進むだろう。多文化化する日本の現状と課題を整理し、多文化社会における社会システムのあり方を、多様な角度から検討する。 【キーワード】 外国人労働者、多文化社会、移民政策	吉田良生(椋山女学園大学)	吉田良生(椋山女学園大学)
13	変わる生活の質・生活の価値	生活の営みが、これまでの私的領域である個人・家族等で支える構造(自助)が希薄・喪失し、また公的領域である国家で支える構造(公助)が財政的に立ち行かなくなっている中でどのようにして人びとの生活の福祉(幸福)を追求していったらよいのかを考える。そのことを通して、今日の人びとの生活課題の究明とそれを支える考え方について探る。 【キーワード】 労働、生活、生活課題、社会的居場所、貧困、社会的排除、自律、自立、新しい公共	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)
14	人口減少社会における社会保障	人口減少社会に対する社会保障制度について検討する。まず、社会保障制度の前提となる人口・家族・労働の変化が国民・住民生活にどのように影響を及ぼすかを見る。次いで国民・住民の生活を保障する社会保障制度がどのような役割と機能を果たしているのか、そして最後に、生活課題に対し社会保障制度がどのように対応しているのか、その現状と課題について述べる。 【キーワード】 生活上のリスク、保険、扶助、福祉、広義の社会保障、狭義の社会保障、ヴァリッジ報告	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)
15	人口減少社会における社会政策	社会政策は、福祉国家の成立以降どのような展開をし、どのような政策課題に直面しているのかを見る。はじめに、国民の福祉を追求する福祉国家とは何か、またそこで行われる社会政策とは何を指すのか、また、福祉国家と福祉社会の関係について理解を図る。次いで、近年においては、急速な少子化・高齢化の進行や社会経済環境の変化等に対し福祉国家はどのような方向を目指す必要があるのか言及する。そして最後に、人口減少社会に対する社会政策の今後について述べる。 【キーワード】 福祉国家、社会政策、福祉社会、市民権、福祉レジャー、脱商品化、脱家族化、グローバリゼーション	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518011	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 物としての、心としての衣服 （'11）＝ （R）

【主任講師（現職名）：牛腸ヒロミ（実践女子大学教授）】

【本学担当専任教員：宮本みち子（放送大学教授）】

講義概要

人は物理的、生理的な快適さを求めて衣服を着用する。また意識的、無意識的に何かを表現している。まず着心地に関わる被服材料の基礎知識について学び、その物性値と官能評価値との関係を明らかにする。次に、衣服と人体生理との関係や色やファッションが人間の心に及ぼす影響について論じる。また、伝統的な衣生活の中から、藍染め、継ぎ、刺し子、パッチワークなどを取り上げ、その技術と心を解説する。さらに衣服やファッションが表現する意味についてヨーロッパ社会を中心に解説する。

授業の目標

物としての衣服に必要な被服材料の物理特性や染色加工の基礎を理解し、特に着心地に関わる被服材料の性能と人間の主観的評価との関係について、その測定方法とともに理解する。さらに色、衣服、ファッションが人間に、そして社会にどのような影響を与えるかを理解する。

履修上の留意点

この科目の内容は、被服材料学、染色加工学、被服衛生学、被服心理学、服飾史など自然科学、社会科学、人文科学と幅広い分野に及んでいるので、それぞれの領域の本を読んでおくとう理解しやすいであろう。

回	テーマ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	物としての、心としての衣服	私たちが衣服を着用する目的は大きく分けて二つある。一つは雨、風、日光、外からの圧力などから身を守るため、衣服は物としての機能している。二つ目は自己表現や社会慣習への順応のため、衣服は心を表している。講義内容を概観する。 【キーワード】 着装、機能、自然環境、社会環境、自己表現	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)
2	着心地に関わる被服材料の性質	着心地と密接に関わっている被服の肌触り・風合いには、被服を構成している布の力学特性(引張、曲げ、せん断、圧縮特性)と表面特性、また移動特性(熱・水分・空気)が関係している。これらの性質について概説するとともに、これらの性質に影響を及ぼす繊維・糸の性質についても述べる。 【キーワード】 着心地、被服材料、繊維、糸、織物、編物、力学的特性、表面特性、快適性、風合い	井上真理(神戸大学大学院・教授)	井上真理(神戸大学大学院・教授)
3	被服材料の改質と新しい被服材料	防縮加工や形態固定加工など、被服として着用する際の被服材料の欠点を改良する加工を紹介し、さらに、化学繊維に新しい機能を付与した新素材について、着心地に関わる性能を中心に解説する。 【キーワード】 改質、防縮、形態安定、機能加工、吸水・吸汗、蓄熱保温、抗菌防臭、ストレッチ	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
4	風合いの主観的評価と客観的評価	布の柔らかさ、なめらかさなどに対応するこし、ぬめり、ふくらみなどの風合いと、用途に応じた品質の良さを人が判断する評価方法、すなわち官能評価の方法について概説する。また、人が感覚として評価する肌触り・風合いを被服材料の物理特性から予測計算する方法とその例について述べる。 【キーワード】 風合い、主観的評価、客観的評価、力学的性質、表面特性	井上真理(神戸大学大学院・教授)	井上真理(神戸大学大学院・教授)
5	着心地の客観的評価	ものとしての衣服は、着装した人の感覚に影響を及ぼし、無意識的、意識的にかかわらず、人の体にも変化をもたらしている。衣服を着装したときの主観的な着心地評価と、その時に生じる生理的な変化の客観的評価との関係について、特に温熱的な要因について解説する。 【キーワード】 温冷感・重ね着・保温力・快適感・着心地・自律神経系	小柴朋子(文化学園大学・教授)	小柴朋子(文化学園大学・教授)
6	衣服の特性と人の形状・動作特性に関わる着心地の客観的評価	衣服の形やデザイン、着装状態は、人に物理的・生理的な影響を及ぼす。衣服のゆとりと人の動きやすさ、衣服圧と人体の構造など、着心地を左右する様々な衣服と人体の形状や動作特性との関係について述べる。 【キーワード】 動作性・ゆとり・衣服圧・触感・圧迫感・免疫系・自律神経系	小柴朋子(文化学園大学・教授)	小柴朋子(文化学園大学・教授)
7	ファッションが人の心に及ぼす影響	ファッションは、人に、高揚、平静、不快といった心の変化をもたらす、他人から受ける印象、あるいは自己の容姿に対する意識を、大きく左右する。ファッションが、人の心理・生理に及ぼす影響について検討し、その効果の有効利用を考える。 【キーワード】 情動性・色彩・視線・規範意識・自尊感情・ストレス・高齢者・ファッションセラピー	小柴朋子(文化学園大学・教授)	小柴朋子(文化学園大学・教授) 牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)
8	色が人の心に及ぼす影響	赤はインパクトが強く気分を高揚させ、青はクールで静のイメージを持ち、気持ちを沈静させる色と言われている。色がどのように人の心に影響を及ぼすのか、において、音も含め、実験結果をまじえて解説する。 【キーワード】 光、色、色彩心理、において、音、官能評価、SD法	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)
9	天然染料による染色	天然染料の色と構造について解説し、染色物の染色性や機能や染色堅牢度についての事例を報告し、堅牢性についても言及する。 【キーワード】 天然染料、植物染料、動物染料、構造、機能、変退色、堅牢度	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授)	牛腸ヒロミ(実践女子大学・教授) 小見山二郎(東京工業大学・名誉教授)
10	伝統的な衣生活から現在を考える(1) 染織	日常生活の中から生まれた伝統的な素材と染めについて、特に草木から得られる布と藍染など天然染色を中心に、その技術と心を解説する。 【キーワード】 麻、葛布、芭蕉布、藍染、草木染	清水裕子(宇都宮大学・教授)	清水裕子(宇都宮大学・教授) 山崎和樹(染織家、東北芸術工科大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	伝統的な衣生活から現在を考える(2) 縫い	有史以前からヒトは日常生活の中で文化を育んできた。生活から生まれた様々な衣服文化の中から「もったいない」が反映した衣服(継ぎ、刺し子、パッチワーク)について、その技術と心を解説する。 【キーワード】 もったいない、刺し継ぎ、刺し子、寄せ裂、和服	清水裕子(宇都宮大学・教授)	清水裕子(宇都宮大学・教授)
12	ユニバーサルウェア	老若男女、大人も子どもも誰にとっても着心地のよいウェアがユニバーサルウェアである。どのような人にも対応する衣服、心豊かに過ごすために衣服がどうあるべきかを述べる。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン、個人対応の衣服、体型、人体機能、心	清水裕子(宇都宮大学・教授)	清水裕子(宇都宮大学・教授)
13	身体呈示の社会性	衣服はひとの身体を社会化する。社会表象としての衣服の役割を、とくにジェンダーと子どもの観点で、ヨーロッパの歴史的事象を挙げて考える。 【キーワード】 ジェンダー、子ども服、下着、コルセット、異性装、羞恥心	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)
14	模倣とファッション	ファッションにおける模倣の問題を複眼的に考えてみる。異国の服飾文化の模倣が新たなファッションを生み出した事例や、過去のファッションが服飾デザインに引用された事例、あるいは模倣が生み出す流行という現象など、模倣の創造性を考える。 【キーワード】 異文化接触、レトロ趣味、コスプレ、流行、コピーとオリジナリティ	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)
15	現代モードと歴史の記憶	現代ファッションを歴史のなかに位置付け、その成立と特質を考える。今日的なモード規範が19～20世紀に誕生した経緯、また16世紀ヨーロッパの色彩倫理が市民社会の成立とともに今日まで及ぶ経緯を述べ、現代ファッションの文化的な厚みを考える。 【キーワード】 現代ファッション、簡素化、ダンディズム、黒服、色彩倫理	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)	徳井淑子(お茶の水女子大学大学院・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518828	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 食と健康 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：小城 勝相（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：清水 誠（東京大学大学院・特任教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

食品の栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能について、基礎から学ぶとともに、アレルギー等との関係で免疫、動脈硬化、ガン、糖尿病等の生活習慣病、さらには社会問題ともなっている食の安全性など、現代における食と健康をとりまく重要な問題について講義する。

授業の目標

調節された膨大な化学反応の集積体としての生命の成り立ちをよく理解した上で、食品の機能、安全性、病気の予防などについて理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

本講義の性質上、基礎的な化学の知識があることが望ましい。また、大学では当然のことであるが、受け身の姿勢ではなく、分らないことはまず第一に図書館等にある参考書や辞書を自分で調べる意欲、積極性が必要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	食品の機能とその理解のために	我々は食品の機能により生命を維持している。食品を栄養素に分解するのが消化であり、吸収して代謝するが、そのすべての過程は化学反応である。生命を正しく理解するためには化学、即ち分子についての知識が必須である。健康を考える上で避けて通れない基本的な分子の成り立ちや化学反応に関する講義を行う。 【キーワード】 食品機能、原子、分子、化学結合、化学反応、エネルギー	小城 勝相 (放送大学・教授)	小城 勝相 (放送大学・教授)
2	糖質	糖質(炭水化物)はヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素であり、主たるエネルギー供給源としても重要である。糖質は単糖類、少糖類(オリゴ糖)、多糖類に分類される。それぞれの構造と化学特性を解説するとともに、栄養素としての働き以外の機能についても述べる。 【キーワード】 糖質、単糖類、少糖類、オリゴ糖、多糖類、食物繊維	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)
3	脂質	脂質はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、有機溶媒に溶解する特徴をもつ。脂質には中性脂肪、リン脂質、糖脂質などがある。それらの構造と化学特性を解説するとともに、最近注目されている機能性や安全性に関する話題についても紹介する。 【キーワード】 脂質、中性脂肪、リン脂質、脂肪酸、脂質の酸化	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	タンパク質	タンパク質は20種類のアミノ酸がペプチド結合してできた鎖状の物質である。摂取されたタンパク質は分解されて最終的にアミノ酸になるので、その栄養価は構成するアミノ酸の種類によって決まるが、分解途中にできるペプチドにも固有の生理活性が報告されている。食品タンパク質にはさまざまな物性機能・加工特性を持つものもある。タンパク質の構造、各種アミノ酸の性質などを基盤に、食品タンパク質の栄養学的、食品学的な特性を決定する要因について解説する。 【キーワード】 アミノ酸、ペプチド、立体構造、タンパク質栄養、機能性ペプチド	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)
5	ビタミンとミネラル	ビタミンは体内では合成できず、食物から摂取する必要がある栄養素である。化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。 ミネラルは1日あたり100mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体内に1kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を説明する。 【キーワード】 水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、カルシウム、鉄	小城 勝相(放送大学・教授)	小城 勝相(放送大学・教授)
6	食品の嗜好成分	「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来の因子である嗜好成分、すなわち色素、呈味成分、香り成分の構造、化学特性、機能性について解説する。 【キーワード】 おいしさの決定因子、色素、呈味成分、香り成分	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)	菊崎 泰枝(奈良女子大学・教授)
7	消化・吸収・代謝系	経口摂取された食品成分は、消化管内で各種酵素により消化・分解される。分解産物であるブドウ糖、アミノ酸、ペプチド、脂肪酸などは主に小腸で吸収される。腸管におけるこれらの成分の輸送には多様な能動輸送系、受動輸送系が関わっている。吸収された成分は、腸管上皮や肝臓においてさまざまな代謝を受け、その後、各組織へ運ばれて利用されることになる。摂取された食品成分が体内でどのような変化をするか(動態変化)、その意義も含めて説明する。 【キーワード】 消化酵素、能動輸送、受動輸送、トランスポーター、代謝酵素	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)
8	食品と免疫	病原菌などの異物を認識し、それを排除する仕組みの一つが免疫系である。特に、腸管には「腸管免疫系」という特殊な免疫系がある。食中毒菌などの侵入に対しては、腸管免疫系がそれらを認識し、IgA抗体などの防御タンパク質を生産して生体を守る。一方、食品成分は人体にとっては異物なので、これを排除するために人体は過剰応答をすることがある。これが食物アレルギーである。腸管免疫系はこのような過剰反応を抑制する仕組みを持っている。このような腸管での免疫応答反応のメカニズムや食品によるその制御について解説する。 【キーワード】 感染防御、食物アレルギー、腸管免疫系、IgA、経口寛容	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)	清水 誠(東京大学大学院・特任教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	生体内酸化	地球上のほとんどの生物は酸素を用いる呼吸によってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は遺伝子やタンパク質を合成するとともに、高い秩序を維持することができる。体温、血液の浸透圧、カルシウム、ナトリウム、血糖値など色々な物質の濃度を一定に維持する、この「恒常性の維持」が我々の体を理解するうえでのキーワードである。恒常性維持のためには大きな秩序、ネットワーク、即ち、エネルギーが必要である。 さらに環境汚染物質などは酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌は酸素を使って殺す。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などの生活習慣病を引き起こすと考えられている。生命維持に必須の酸化と不都合な酸化、両方について化学的に解説する。 【キーワード】 酸素、恒常性、エネルギー、活性酸素、ATP、ミトコンドリア	小城 勝相 (放送大学・教授)	小城 勝相 (放送大学・教授)
10	生活習慣病と食生活 I 肥満とやせ・メタボリックシンドローム	食生活を中心とする生活習慣の乱れによって起こる肥満は、メタボリックシンドロームを始めとする様々な健康障害をもたらし、我々の健康長寿の大きな妨げとなる。一方、わが国の若年女性層では、逆にやせ過ぎも問題になっている。肥満とやせの予防とコントロールのための食生活について学ぶ。 【キーワード】 BMI、内臓脂肪、メタボリックシンドローム、小児肥満、食事療法、運動療法、胎内プログラミング	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)
11	生活習慣病と食生活 II 糖尿病	中年以降の国民3人に1人にみられる糖尿病は、食生活と極めて関連が深い生活習慣病である。糖尿病は自覚症状なく発症し多くの合併症により、我々の健康と寿命を大きく損なう。食事療法は、運動・薬物療法と並ぶ最も重要な治療であり、糖尿病の食事療法は、すべての生活習慣病予防・治療の基本となる。 【キーワード】 血糖値、インスリン、HbA1c、食品交換表、俵約遺伝子仮説、管理栄養士、健康食品	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)
12	生活習慣病と食生活 III 動脈硬化とその他の生活習慣病	日本人の死因の3分の1を占める、脳卒中や虚血性心疾患動脈硬化性疾患は、脂質異常症、高血圧、糖尿病などにより進行する。その過程には、コレステロールや塩分を始めとする多くの食事要因が関与している。これらを学びつつ、3回分のまとめとして、生活習慣病を克服する食生活についてまとめる。 【キーワード】 リスクファクター、コレステロール、中性脂肪、血圧、痛風、飲酒、食育	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)	曾根 博仁 (新潟大学大学院・教授)
13	食品安全とリスク分析	人間は、従属栄養動物であり、食べないと生きて行けない。過去から現在までの食生活から、科学的なリスクの管理が必要であることが認識されるようになった。我が国の食品安全行政にも取り入れられているリスク分析手法等について解説する。 【キーワード】 危害要因(ハザード)、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション、食品安全基本法	一色 賢司 (北海道大学大学院・教授)	一色 賢司 (北海道大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	食品衛生とフード チェーンアプローチ	食品衛生は、食生活の安全確保を達成する手段である。食料の一次生産から、加工製造、流通、販売および消費までのすべての過程(フードチェーン)における、連続した衛生管理の重要性を解説する。 【キーワード】 持続的食料調達、分業、食性病害、食中毒、国際食品規格委員会Codex、HACCP、食品衛生法	一色 賢司 (北海道大学 大学院・教 授)	一色 賢司 (北海道大学 大学院・教 授)
15	食品の技術開発と安 全性確保	人間は、食用生物を選抜し、可食部位や味の良い部位を増やしてきた。そのままでは食用にならないものは、調理加工して、安全で美味しいものに変えて食べてきた。新しい食べ方である特定保健用食品等の安全性確保についても解説する。 【キーワード】 食料調達、食文化、技術開発、安全性評価、新規食品 novel food、特定保健用食品、遺伝子組換え食品	一色 賢司 (北海道大学 大学院・教 授)	一色 賢司 (北海道大学 大学院・教 授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518879	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 食安全性学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Food Safety ('14)]

〔主任講師（現職名）：小城 勝相（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：一色 賢司（北海道大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

食の安全性への関心が高まっている。化学物質、例えば農薬、環境汚染物質、食品添加物、化学工業で使われる物質などの化学的病因による健康障害、牛海綿状脳症、古典的な食中毒、抗生物質耐性菌の発生などの生物学的病因、さらには各種健康食品や遺伝子組換え食品など新しい食品が持つ安全性の問題、温暖化や紛争による食糧自給率の問題などがあげられる。これらのリスクを評価し法律として政策を定める手続きや国際的なルールの確立など社会的にもさまざまな問題が山積しており、これらの食に関する安全性に関する問題を系統的に講義する。

授業の目標

化学物質や生物学的病因などの作用機構や毒性に関する基礎的な考え方を身につけるとともに、現代社会においてその知見を利用してどのような方策がとられているのかを理解する。

履修上の留意点

食に関する科目や基礎化学、生物学の知識を身につけている必要がある。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	現代における食の安全性 総論	この講義で行う内容についての総論。 【キーワード】 安全性、公害、環境汚染、risk-benefit評価	小城 勝相 (放送大学・教授)	小城 勝相 (放送大学・教授)
2	中毒学入門－毒性評価法	化学物質による生体障害の評価法について述べる。 【キーワード】 用量－反応関係、最大無作用量、急性毒性、慢性毒性	小城 勝相 (放送大学・教授)	小城 勝相 (放送大学・教授)
3	各種化学物質による健康障害と化学物質の代謝	これまで明らかになっている各種化学物質による健康障害と化学物質、特に有機物質の代謝について講義する。 【キーワード】 薬物代謝酵素、P450、Phase I反応、抱合反応、食品と医薬品の相互作用	小城 勝相 (放送大学・教授)	小城 勝相 (放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	化学物質の代謝II	化学物質、特に金属イオン等の無機物質が体内に入ったあとどのようなのか解毒機構を含めて講義する。 【キーワード】 メタロチオネイン、グルタチオン抱合、腸肝循環	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)
5	変異原、発がん物質、放射線	発ガン作用などについて解説する。 【キーワード】 イニシエーション、プロモーション、酸化的DNA損傷、アポトーシス	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)
6	食物アレルギー、免疫学入門	アレルギーについて免疫機構から解説する。 【キーワード】 アレルゲン、免疫寛容、腸管免疫、アナフラキシー	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)	香山 不二雄 教授(自治医科大学教授)
7	食性病害とその要因	食品に存在する有害物質について講義する。 【キーワード】 危害要因、リスク、耐容1日摂取量TDI、規格基準	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)
8	意図的にフードチェーンに使用する物質	農薬、添加物等の安全性確保対策について講義する。 【キーワード】 リスク分析、フードチェーンアプローチ、1日摂取許容量ADI、残留基準、使用基準	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)
9	遺伝子組換え等の新技術応用食品	食品に関連する技術の安全性確保の経緯や規制について講義する。 【キーワード】 新規食品novel food、遺伝子組換え食品、技術開発、安全性確保	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)
10	健康食品などの安全性	健康食品による健康障害や食品と医薬品との相互作用について講義する。 【キーワード】 健康食品、サプリメント、健康強調表示問題、薬事法、相互作用	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)	一色 賢司教 授(北海道大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	生物学的病因I(細菌)	食品に由来する細菌感染症について講義する。 【キーワード】 カンピロバクター、サルモネラ、下痢原性大腸菌、腸炎ビブリオ	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)
12	生物学的病因II(細菌・ウイルス)	食品内で毒素を産生する細菌や食品を介して感染するウイルスによる健康障害について講義する。 【キーワード】 黄色ブドウ球菌、セレウス、ボツリヌス、ウェルシュ菌、ノロウイルス、食品内毒素型、生体内毒素型	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)
13	生物学的病因III(寄生虫など)	寄生虫等、新興再興感染症による健康障害について講義する。 【キーワード】 原虫、粘液胞子虫、住肉胞子虫、ウシ海綿状脳症、薬剤耐性菌	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)	西川 禎一教授(大阪市立大学大学院教授)
14	食の安全問題の展開	食の消費・生産ならびに安全問題の展開過程を社会・経済的な観点から講義する。 【キーワード】 食安全性保障、フードシステム、食品偽装、食の信頼、リスクトレードオフ	中嶋 康博教授(東京大学大学院教授)	中嶋 康博教授(東京大学大学院教授)
15	食の安全性確保に関する政策	食品安全対策の法制度と運営に関する基本構造と国際的な枠組みを講義する。 【キーワード】 食品安全基本法、食品衛生法、WTO/SPS協定、BSE問題、トレーサビリティ	中嶋 康博教授(東京大学大学院教授)	中嶋 康博教授(東京大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1510614	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 住まい論 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：本間博文 放送大学名誉教授 〕

〔主任講師（現職名）：畑聰一 芝浦工業大学名誉教授 〕

講義概要

住まいは、市民の日常生活における安全、快適、利便性、そして健康に大きなかわりをもつ空間である。住まいのありようは単に工学的な側面にとどまらず、文化や伝統、あるいは家族や社会の紐帯と言った社会科学、人文科学など広範な側面において市民生活を規定している。その上、社会の進化・発展、技術の進歩によって住生活はより多面的で、かつ複雑になり、市民が自分達の住まいを適切に制御していくことが難しくなりつつある。結果として、何を受け継ぎ、何を後世に伝えていくべきか、その判断もつかずに無国籍な居住空間に置き換わってしまっている事態を考え直してみることも必要である。

この講義では生活の基盤である住まいについて、伝統、文化、集住、家族・地域社会、環境共生の5つの軸を設定して考察を行っている。

5人の講師がそれぞれ一つの軸(各3章ずつ)を担当し、市民にとって有用な知見を提示するが、単なる知識の習得に終わらずに、それぞれの立場からこれからの住まいのあり方への提案もおこなう。

授業の目標

5人の講師がそれぞれ3回ずつを担当し、それぞれ専門領域について分かり易く解説すると同時に、それが単なるオムニバスにならないように、相互の関連を重視し、他の講師が積極的に他の講師の放送教材に参加し、5つの軸相互を横に結びつけるような構成を考え、学習者が総体としての住まいのあり方を理解できるような教材作成造りを目指す。

履修上の留意点

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	乾燥地域の中庭を拠点にした住まい―外庭との対比で	講義の狙いを簡単に紹介し、3回の講義の中で様々な国の住文化を明らかにすることによって、日本の住文化を相対化して考える。第一回の講義ではチュニジアの「ダーラ・アラビ(アラブ式住居)」を例にとり、乾燥地域の風土や民族性とともに、中庭型住居の特徴や住まい方を解説し、中庭のもつ文化的な意味について考える。 【キーワード】 砂漠的思考、中庭型住居、炎暑、午睡、ダーラ・アラビー、ウォッスタダール	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一
2	東南アジアの開放的な住まい	ラオス、タイ、マレーシアにおける伝統的な高床の農村住居を例にとり、東南アジアのモンスーンの風土性、双系の社会構造を背景にした外庭型住居の特徴と住まい方を解説し、外庭のもつ文化的な意味について考える。 【キーワード】 森林的思考、外庭型住居、東南アジア、対人主義、高床式住居、ロングハウス	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	離島漁村の共同性と住まいかた	日本の住居と住まい方の事例として、伊勢湾離島の高密度漁村をあげ解説し、外庭型住居の集合性や共同体を維持するためのさまざまな知恵を紹介する。 【キーワード】 伊勢湾答志集落、セコミチ、キンジョ、シンセキ、ネヤコ、村内婚	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一
4	和風の住まいとは	第4回から3回の講義を通して和風の住まいの構成原理を学ぶ。第4回の講義では和風の住まいについてその変遷過程を通して基本的な空間構成原理について述べる。和風の住まいは単に襖や障子などの引き違い建具や、床の間、玄関、畳と言った和風の住まいに固有な部材で組み立てられているから和風なのではない。寝殿造りの空間構成概念を現地取材の映像を交えて説明し、その原理が書院造りに受け継がれ、さらに江戸後期に和風の住まいとして確立する過程を紹介する。 【キーワード】 寝殿造、書院造、舞台装置、室礼、履き替え、建具、床の間	放送大学 名誉教授 本間博文	放送大学 名誉教授 本間博文
5	中国・韓国の伝統の住まい	中国、韓国の伝統の住まいを紹介し、それぞれの住まいに対する基本的な考え方を学習する。中国では漢民族の代表的な住居形式である四合院住宅を通して不断に異民族の攻防が生活を脅かし、外に対して閉ざされた住まいが造られたこと。それに対して韓国では儒教や風水といった信仰が独特の居住形態を生み出したことを両班住宅を例に説明する。 【キーワード】 四合院、一明二暗、中庭住宅、両班住宅、風水、儒教	放送大学 名誉教授 本間博文	放送大学 名誉教授 本間博文
6	日中韓の伝統の住まいにおける空間構成	日中韓の伝統的な住まいの空間構成を比較し、それぞれ独自の居住空間を作り出してきたことを確認する。その結果、和風の住まいの空間構成上の特殊性を2つのキーワードで提示したい。一つは転用性であり、他方は基準化である。和風の住まいは、まるで舞台転換が行われるように空間の転用が室礼によって自在に行われる。一方、江戸時代の大阪では「裸貸し」という言葉に示されるように畳やふすまは完全に基準化され、引越し道具であり、どこにでも持ち運んで、どこにでもはめ込まれた。高い精度で組み立てられていたから可能になった慣習であり、工業化住宅といっても過言ではない。このように和風の住まいは他に例をみないきわめて独特の住まいであり、現代の住まいにもその空間概念は応用可能である。 【キーワード】 転用性、防衛、オンドルとカン、基準寸法	放送大学 名誉教授 本間博文	放送大学 名誉教授 本間博文
7	変容する血縁家族と住まい	第7回からは血縁家族や血縁を越えて共に住む多様な生活集団と住まいの関係を3回にわたって考える。ここでは、血縁家族に着眼して、封建的家族から近代家族、さらには現代家族といった家族像や家族関係の経時的変容、及び住まいや住まい方の変化との関係を紹介する。そのうえで、最も一般化している公私室型(nLDKタイプ)の平面計画を対象にして、家族型の多様化や家族関係における個人化など、血縁家族の今日的状況がもたらす住まいの計画課題について考えるとともに、それをふまえた新たな住まいの計画のあり方について展望する。 【キーワード】 集合住宅の変遷、同洵会、コモン、標準設計、スケルトンインフィル	大阪市立大学 教授 横山俊祐	大阪市立大学 教授 横山俊祐

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
8	地縁居住のカタチと住まい	血縁を越えてつながる生活集団の一つとして、地縁を手掛かりにした共に住むカタチとその住まいや住環境の特性、変容を紹介する。特に、社会構造の変化や地縁の希薄化とともに、血縁・地縁が重層、連続した住まい方から相互に完結、断絶したものに移行した結果、住まいから社会性が喪失していることや地域に対して閉鎖化していることの問題、さらにはそれが地域力の低下や地域景観の混乱などを引き起こしていることを明らかにする。そうした状況に対して、開かれた住まいづくりや地域居住、エコビレッジなど、新たな地縁づくりの可能性について考える。 【キーワード】 戸建て住宅、戸建て住宅地、共同と共用、	大阪市立大学 教授 横山俊祐	大阪市立大学 教授 横山俊祐
9	居住縁による「共同の住まい」	高齢化や障害、生活の合理化や経済化、生活価値の共有等をモメントとして非血縁関係ながらも共に住むこと(居住縁)が様々なカタチで進展している実態を紹介し、その今日的な意味を考える。共同居住の典型としてコレクティブリビングやグループリビング、シェアードハウスなどを取り上げ、住まい方には、血縁家族ではなし得ない共助をはじめとする様々な相互関係や協働、安心感、新しいライフスタイルの可能性が見出せることを学ぶ。血縁からはなれて暮らすことの有意性、及び住空間の特性や多様性について明らかにする。 【キーワード】 改修、建て替え、持続	大阪市立大学 教授 横山俊祐	大阪市立大学 教授 横山俊祐
10	集住計画の導入～都市と住まい 1～	個々の住まいが集まって形成される集合住宅地や住宅地を計画的に建設するための体系的考え方を「集住計画」と称し、それが日本の近代においてどのように近世の文化を下地に導入されてきたのかを紹介する。 【キーワード】 家父長制、近代家族、個室の肥大化、	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄
11	集住計画の普及～都市と住まい 2～	日本では、戦時中から集住計画を国家レベルで考える取り組みが始まり、それが戦後の高度経済成長時のハウジングの基礎だったが、その普及の経緯と到達点、そしてそれがもたらした現代的な結果について考察する。 【キーワード】 地域力、景観、遅延、血縁、地縁家族	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄
12	集住計画の現代的課題～都市と住まい 3～	ストックの時代と呼ばれる現代において、建築の領域では、新築することから、すでにある建築のつくり変えへと方向転換しつつあるが、少子高齢社会において新たな集住計画が取り組むべき現代的課題について考える。 【キーワード】 住縁家族、血縁家族、ライフスタイル	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	地球環境と住宅	20世紀後半、住宅における暖房や冷房、給湯、照明への依存は急激に増え、それに伴ってエネルギー消費も急増した。それは、住宅の作り方や住生活にも大きな変化をもたらしたが、その普及の経緯を考察し、その帰結でもある地球環境問題とのかかわりについて述べる。 【キーワード】 民生用エネルギー、断熱性・気密性	神戸芸工大教授 小玉祐一郎	神戸芸工大教授 小玉祐一郎
14	住まいの環境デザイン	低炭素社会をめざし、省エネルギー・省資源は緊急の課題である。環境負荷を削減し、自然環境と共生しながら快適な居住環境を作り出すためにはどのような工夫が必要なのか。その技術とデザイン手法について気候風土との関係に言及しながら、具体的に紹介する。 【キーワード】 高断熱高気密住宅、200年住宅、長寿命、遮熱、遮光	神戸芸工大教授 小玉祐一郎	神戸芸工大教授 小玉祐一郎
15	環境と共生するコミュニティと住宅	集合住宅、戸建て住宅について環境共生型住宅の内外の事例を紹介し、持続可能な社会の構築をめざす、環境共生型住宅のこれからのあり方を探る。 後半は15回の講義のまとめとして21世紀に求められる住宅像を提示する。	神戸芸工大教授 小玉祐一郎	神戸芸工大教授 小玉祐一郎 放送大学 名誉教授 本間博文 芝浦工業大学 名誉教授 畑聰一

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518844	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 新しい住宅の世界 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：難波和彦（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：川原靖弘（放送大学准教授）】

講義概要

一般の人びとを対象に、都市における一戸建ての住宅を中心的にとりあげながら、現代の住宅にまつわる問題を、建築家の目から多角的・総合的に紹介することを目標とする。近來、生活レベルの向上にともなって、住宅の性能も向上し、住宅において消費されるエネルギーは増大の一途を辿っている。このため、住宅における消費エネルギーが、地球環境に与える影響が問題視されるようになり、サステナブル（持続的）な住宅のあり方についても、広く議論されるようになってきている。とはいえ、近來の住宅をつくる技術や生産組織は、きわめて複雑多岐をきわめる上に、できあがった住宅に住む人々の家族構成やライフスタイルも、多種多様になっている。さらには、住まいの集合が生み出すコミュニティのあり方も変化に富んでいるため、サステナブルな住宅のあり方を理解するのは、それほど容易なことではない。しかしながら、サステナブルな住宅の成り立ちを総合的に把握し、これからの住宅のあり方を、住み手の立場から再編成することは、今や喫緊のテーマになっているように思われる。具体的には、現代の住宅が辿ってきた歴史、その中で建築家が果たしてきた役割、現代の住宅における家族や生活様式の変化、戸建住宅の集合化とコミュニティの関係、住宅を秩序づける寸法、プロポーシオン、装飾などの美学的な視点、住宅をつくる材料・構法・設備などの最近の状況、省エネルギーや長寿命などのサステナブル・デザインの考え方、住宅を供給する工務店やハウスメーカーの体制、住宅と風土や地域性との関係、住宅と街並の景観の関係など、さまざまな問題を解きほぐし、問題相互の関係を探りながら、現代における住宅の問題を、総合的に把握していく。とりわけ、2011年3月11日の東日本大震災は、これまでの住まいのあり方に対する考え方を大きく変えようとしている。震災後の仮設住宅や復興住宅についても考えながら、以上のような問題を再検討してみたい。

授業の目標

現代における都市住宅のあり方を、サステナブル・デザインの視点から総合的に理解し、住み手の立場から、新しい住宅のあり方について考えること。そのような学習を通して、住宅を供給するディベロッパーやハウスメーカーや、さらには住宅政策を策定する行政に対して、これからの住宅のあるべき姿に關する、住み手の立場からの提案できるような視点を持つこと。さらに、3.11がサステナブル・デザインの考え方にどのような影響を与えたかについても検討する。

履修上の留意点

サステナブルな住宅を考える上では、エネルギー設備や建築材料などの、住宅のハードウェアだけでなく、そこに住む家族やコミュニティといったソフトウェアの持続性も、重要な要素である。さらに東日本大震災からの復興とサステナブルな住宅との関係にも注目する。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	住宅の現在	本講座の目的を説明した後、建築家がデザインする住宅の特異性、アートとしての住宅とデザインとしての住宅、社会への問いかけと歴史意識など、個別の住宅の設計の中で一般的な問題を考えるというスタンスについて論じる。さらに3.11震災に関連づけて、現代住宅の課題テーマであるサステナブル・デザインと、その基礎理論である「建築の4層構造」について説明し、これにもとづいて、本講座のプログラムを紹介する。 【キーワード】 サステナブル・デザイン、東日本大震災、アートとデザイン、建築の4層構造	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
2	仮設住宅	東日本大震災の被災地に新たに計画された木造仮設住宅を通じて、今後の復興のための復興住宅の計画から、さらには近未来の住宅のあり方について考える。これまで、被災者のための仮設住宅は鉄骨造だったが、今回の震災では、仮設住宅の必要戸数がきわめて多数にのぼったため、新たに地域の工務店と建築家による木造の仮設住宅が建設されることになった。木造仮設住宅に対して地域の建築家がどのようにに関わり、それがどのようにに住まわれているかについても検証する。さらに、木造仮設住宅の経験から、後に必要となる復興住宅のあり方についても検証する。 【キーワード】 東日本震災、防災協定、物品としての仮設住宅、災害コミュニティ、地域社会圏、木造仮設住宅、地場産業、復興住宅	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
3	家族の変容	現代の住宅にとって、もっとも重要な課題のひとつが、多様化する家族形態に対する新しい住宅の提案である。これまでの住宅は、夫婦＋子供2人という平均的な核家族像に合わせて設計されてきた。いわゆるnLDK住宅である。しかし高齢化や少子化が進むにつれて、家族はますます多様な形態をとるようになった。さらに、ライフスタイルの多様化にともなう住宅の変化も重要なテーマのひとつである。一方で、社会状況の変化や長期化する景気の低迷から、持家を最終目的とする住宅政策にも翳りが見え始めている。こうした変化がもたらす、これからの住宅のあり方について考える。 【キーワード】 核家族、51C、nLDK、少子化、高齢化、ライフスタイル、個室、一室空間住居、持家と賃貸	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
4	集住体	集住体とは「集まって住む」ための、建築と人間集合の複合的なシステムである。最初に、現代における集住体の課題を「建築の4層構造」によって総合的に分析する。これによって、集住体の物理的な側面である建築的・空間的な構成や構法の問題、エネルギー的な側面である省エネルギーの問題、機能的な側面であるコミュニティや生活のあり方の問題、記号的な側面である都市環境や景観の問題などを明らかにする。そこから、これからの集住体のあり方の多様な可能性を引き出し、検証する。 【キーワード】 集住体、コミュニティ、スケルトン・インフィル、コーポラティブ・ハウス、環境共生住宅、コレクティブ・ハウス、シェアハウス、職住近接、地域社会圏、コンパクト・シティ	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
5	街の風景	日本の都市郊外の風景は、境界をはっきりした西欧の都市とは異なり、低層住宅が連続的に広がっている点に特徴がある。あるいは、日本の大都市の都心では、木造住宅の細やかなスケールと都市再開発による超高層の巨大スケールが併存している。そのような都市風景が生まれた要因を探りながら、住宅の集合によってつくられる、これからの街の風景のあり方について考える。 【キーワード】 かたちの自律性、風景、コンテクチュアリズム、町家、屋敷、郊外、宅地開発、田園都市、ニュータウン、超高層マンション、ヴォイド・メタボリズム	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
6	工業化と商品化	近代建築とともに始まった住宅の工業化は、住宅部品を工場生産し、現場で組立てることによって、高性能な住宅を大量に供給することをめざした。住宅の工業化にともなって、住宅は工業製品（プロダクト）の一種となり、耐久商品となった。現在では、ほとんどすべての建築部品が工業生産化され、商品化されている。今後、住宅の工業化と商品化はどのように展開し、どのような住宅を生みだしていくのか、という問題について考えてみたい。 【キーワード】 工業化、ハウジング、モダニズム、フォード・システム、商品化、部品化、高性能化、ハウスメーカー、消費社会、デザイナーズ・ブランド	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
7	リノベーション	サステナブル・デザインの時代においては、古い建物を改修し、プラン、性能、設備を現代の要求に合わせることによって、建物をできるだけ長く使い続けることが求められるようになっている。さらに、新しいものだけでなく、時間が積層した古い建物に、文化的な価値を見出すような視点も徐々に生まれてきた。建築のリノベーションは、そのような潮流を担うジャンルである。ここでは、最近注目されている住宅のリノベーションを、多面的な視点から考えてみたい。 【キーワード】 リノベーション、コンバージョン（用途変更）、スクラップ・アンド・ビルド、時間のデザイン、対話のデザイン、発見としてのデザイン、経年変化、熟成（aging）と風化（weathering）	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	エコハウス	東日本大震災の津波による福島第一原発の事故以降、エネルギー問題は今までとは異なる様相を呈するようになった。住宅に限らず、私たちの生活を支えている電気エネルギーが、原子力発電に大きく依存していることが明らかになったのである。こうして、自然エネルギーを最大限に活用しながら、省エネルギーで生活できるような住宅をつくるのが緊急の課題になった。本章では、そのためのさまざまな試みを紹介しながら、エネルギーという視点を通して、今後の住宅のあり方について考えてみる。 【キーワード】 エコロジー、省エネルギー、パッシブ、アクティブ	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
9	住宅のハードウェア	住宅の材料といえば、構造材、屋根材、外壁材、窓やドア、床材、内装材、家具材などが思い浮かぶが、現代の住宅に欠かすことができないのは、台所、浴室、トイレ、照明などの住宅設備である。そして現在では、住宅のハードウェアのほとんどが工業化され、部品化されている。本章では、現代の住宅をつくりあげている部品に焦点を当ててみたい。 【キーワード】 材料、自然素材、構法、工業生産化、部品化、住宅設備	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
10	住宅の供給	日本の住宅は、これまでは戸建住宅が中心だったが、都市部においては、徐々に集合住宅が中心になってきた。戦後、政府は住宅金融公庫制度を中心とする住宅政策を通して、核家族がそれぞれ自分の家を持つ持家政策を推進してきたが、人口の高齢化や少子化にともなって、標準的な核家族像は壊れ、家族の形態は多様化が急速に進行している。1990年代以降、政府は住宅供給を民営化し、市場化する方向へと政策を転換している。3.11以降、この趨勢はどのように推移し、住宅供給はどのように変わっていくかを探る。 【キーワード】 住宅公団、公営住宅、持家政策、賃貸住宅、工務店、ハウスメーカー、ディベロッパー、中古住宅、ストック活用	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
11	小さな家	震災時の仮設住宅の標準型は5.4m×5.4m (3間×3間) すなわち約30m² (9坪) である。この標準型は、生活のために必要な最小限の広さとして定められたものである。戦争や災害の後につくられる「小さな家」は、物資の不足や緊急性のから生まれた、やむを得ない便宜的な住宅だと考えられている。しかしながら、20世紀初頭のモダニズムデザイン運動において追求された「小さな家」は、もっとポジティブな意味を持っていた。ここでは「小さな家」の歴史を辿りながら、その可能性を探ってみる。 【キーワード】 仮設住宅、コンパクトシティ、家の原型、一室空間、始源の小屋、最小限住居、スペースユニット、限界デザイン、less is more、more with less	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
12	生きられる家	住宅は、建物ができ上がったときが完成ではない。住宅は、これまでの回でとり上げてきたさまざまな条件にもとづいて設計され、建設されるが、建物の完成は、最初のステップに過ぎない。住み手が入居し、そこに住み込むことによって、住宅が生活の一部となり、徐々に住み手の生活に影響を与えていくプロセスが、住宅のもっとも重要な要素である。したがって、住宅には完成というものはない。街や都市においても同様である。住宅にかぎらず、建築においては、時間という条件がもっとも重要なのである。この回では、住宅がどのように住み手に影響を与え、生活を変えていくかという問題について考えてみたい。 【キーワード】 未完成、住まいの時間、建築的無意識	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	住宅の寸法	住宅における寸法には、生活のための機能的な寸法、生産のための製作上の寸法、視覚的・美学的なサイズとプロポーション、という3つの側面がある。したがって、住宅の設計においては、この3つの寸法を調整することが、きわめて重要な作業となる。モダニズム建築運動においては、住宅の工業生産化の重要な条件として、さまざまな角度から寸法システム、すなわちモジュールの問題が検討された。しかしながら、最近では、寸法の問題はほとんど注目されることがない。それはなぜだろうか。本章では、現在の住宅においては、寸法はどのように扱われているのかを検討してみる。 【キーワード】 寸法、サイズ、スケール、プロポーション、モジュール、モジュラー・コーディネーション (MC)、モジュール、機能寸法、生産寸法、視覚寸法	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
14	住宅の戦後史	現在の日本の住宅の基礎は、第2次大戦後の復興期に形づくられ、今日までに大きく展開してきた。ここでは、終戦直後から今日までの日本の住宅の展開を「建築の4層構造」にもとづいて多面的に辿りながら、その中で、建築家は日本の住宅あり方に対してどのような提案を行い、その提案が社会に対してどのような影響を及ぼしてきたかを検証する。 【キーワード】 戦後モダニズム、大工と工務店、木造住宅、戸建住宅、近代化、民主化、核家族、婦人解放、オイルショック、サステイナブル・デザイン、スプロール、ニュータウン、郊外、コンパクトシティ	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)
15	建築家の役割	番組全体を通して検討してきた、日本の住宅産業における建築家の立位置と社会的な役割について問題点を整理する。その上で、ひとつのケーススタディとして「箱の家シリーズ」の試みを紹介しながら、3.11以降の「新しい住宅」のヴィジョンを展望する。 【キーワード】 地域社会圏、分譲と賃貸、コミュニティ、高齢化社会、部品化住宅、住宅の工業化	難波和彦 (東京大学 名誉教授)	難波和彦 (東京大学 名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518895	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 臨床家族社会学 （'14）＝（R）

英文名＝ [Invitation to Clinical Family Sociology（'14）]

〔主任講師（現職名）：清水新二（奈良女子大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：宮本みち子（放送大学教授）】

講義概要

いま多岐にわたる様々な家族問題の解決が期待されている。精神疾患や高齢者介護問題などの各種慢性疾患は言うに及ばず、児童虐待やドメスティック・バイオレンスなどの家族暴力、犯罪被害者家族や災害被災者家族あるいは自死遺族、非行・犯罪者の家族、いじめや引きこもりの子どもを抱えた家族等々、日々の生活の中で出会う各種の家族生活問題の解決に関心が寄せられている。問題解決志向性を強調する本科目では特に家族のストレスやメンタルヘルスに焦点をあわせるとともに、その背景としての現代の社会状況にも目配りをしながら、単に実態の把握にとどまらずミクロ・メゾ・マクロそれぞれのレベルにおける問題の解決に向けた支援をも視野に入れ、必要とされる社会的取り組みについて臨床家族社会学の視点から整理検討を加え、現実 に即した家族問題の理解を深める。

授業の目標

現代の家族生活のポジティブな面とネガティブな面の双方に目配りしつつ、日常的な家族生活で生じる具体的な家族問題について取り上げ、その実態の理解を深めるとともに問題への現実的な対処や支援に関する方法を検討する力を養う。

履修上の留意点

既開講科目の「現代の生活問題」、「在宅看護論」、「高齢者の生活保障」、「今日のメンタルヘルス」、「家族生活研究」、「リスク社会のライフデザイン」など、関連科目もあわせて学習することをすすめる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	臨床家族社会学をどう理解するか	臨床家族社会学の基本的特徴を問題解決志向性ならびに問題中心のアプローチから捉え、ミクロな事例的臨床とマクロな対策的臨床の二つの面から問題解決へ向けた総合的な社会的取り組み、対応の必要性とありようを概説する。事例的臨床における家族への対処支援においては対処の主体としての家族の位置付けを検討し、対策的臨床に関しては対策の枠組み構築にあたっての手掛かり、ヒントを示唆する。その上で、対策効果をどのように考えたらよいかの理解を深める。 【キーワード】 問題解決志向性、事例的臨床と対策的臨床、対処主体アプローチ、対策効果、ポピュレーション・アプローチとリスクグループ・アプローチ	清水新二(奈良女子大学名誉教授)	清水新二(奈良女子大学名誉教授)
2	臨床家族社会学の基本的視点とアプローチ法	家族問題の実態理解から社会的な対応法にわたるまで、問題解決に向けてどのように理解分析するかの基本視点により、またどのような対象を取り上げ問題とするかによって、その結ぶ像は異なってくる。家族に対する人々や社会からの期待と実際の家族生活の現実との間に横たわる亀裂や、＜ミウチ＞と＜タシャ＞との関連性をどう考えるのかなど、これらの基本問題について整理し学ぶ。 【キーワード】 家族ストレス、生活知と専門知、無知のアプローチ、近代家族、家族の他者性	清水新二(奈良女子大学名誉教授)	清水新二(奈良女子大学名誉教授)
3	臨床家族社会学と質的研究法	今日、家族の個人化・多様化などを背景に、一定の家族像からの逸脱に問題の原因をみるのではなく、家族の行為や解釈などその主観的経験に基点をおきながら「家族問題」に接近しようとする 質的研究が登場している。ここでは、その中から、主にナラティブアプローチなどに焦点をあて、その研究の背景や特徴について論ずる。 【キーワード】 家族問題、質的研究法、量的研究法、ナラティブアプローチ、無知の姿勢、研究倫理	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	学校臨床と家族	学校現場での問題行動として、不登校・いじめ・校内暴力を取り上げ、その現況を概説し、家庭との関わりを検討する。社会的取り組みのなかでも、児童・生徒の保護者への支援を中心に考察する。教職員に加えて、スクールカウンセラーの役割に注目し、家族支援の実際について理解する。 【キーワード】 不登校、いじめ、校内暴力、スクールカウンセラー、家族(保護者)支援	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)
5	非行臨床と家族	少年非行の動向、特に家庭内暴力を社会的観点から読み解く。「非行原因としての家族」から「立ち直りの手立てとしての家族」に視点を転換させる重要性を述べる。非行臨床における家族支援について、臨床家族社会学の知見を活かした、家族システム論、構築主義的アプローチ、講師自身の手法を解説する。 【キーワード】 少年非行、家庭内暴力、立ち直り、家族システム論、構築主義的アプローチ	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)
6	犯罪臨床と家族	犯罪臨床のシステムを概説し、家族内殺人など犯罪と家族との関連を考察する。家族支援が、再犯抑止をはじめとする犯罪対策に重要であることを解説する。また、加害者家族への取り組み、さらには、犯罪被害者の家族(遺族)への支援、自助組織の社会的活動も取り上げる。 【キーワード】 家族内殺人、加害者支援、再犯抑止、被害者支援、自助組織	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)	生島 浩(福島大学人間発達文化学類教授)
7	精神障がい者と家族	地域資源の脆弱性や家族扶養主義などを背景に、家族に対する精神障がい者の身近な支え手としての社会的期待は未だ大きい。しかし、家族の抱える生活上の困難やストレス、経過の長期化に伴う家族の高齢化、障がい者・家族間に葛藤などが生じやすいことなど、家族生活をめぐる課題が指摘されている。そこで、精神障がい者家族の生活実態についての概観をふまえながら、医療や福祉をめぐる政策的課題を検討する。 【キーワード】 隔離収容主義、社会的入院、精神障がい者の地域生活と社会復帰・社会参加、家族	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)
8	統合失調症と家族支援	統合失調症である人の家族に対する家族支援について、専門家の家族へのまなざしを基点にその歴史的変遷を検討する。そして、コミュニティケアが重要視されるようになった現在、リカバリー志向の家族支援が模索され始めているが、こうした近年の取り組みについて概観するとともに、今後の展開可能性や課題について理解を深めていく。 【キーワード】 家族の医療化一脱医療化、スティグマ、リカバリー、アウトリーチ、セルフヘルプグループ	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)	南山浩二(成城大学社会イノベーション学部教授)
9	高齢者と高齢期家族の生活	少子高齢化が家族集団に与える影響は大きく、様々な問題が生じてくることが考えられるが、これから高齢者と呼ばれるようになる人々には働き方や社会参加、地域における人々のつながりや生活、高齢期に向けた備え等、人生90年時代を前提としたものへの転換と超高齢社会を先導していく役割が期待されている。ここでは高齢者と家族の生活がどのように変化してきているか統計を基に理解し、わが国の高齢者のウェルビーイングにとって重要なのは何であるのかを社会的に考察する。 【キーワード】 少子高齢化社会、高齢期家族、老化の社会的側面、高齢社会対策大綱	高梨 薫(神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授)	高梨 薫(神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	要介護高齢者と家族	介護保険サービスの利用は、重度の者は施設サービス利用が半数を超えているが、重度でも著しい数の要介護高齢者が居宅サービスと家族による介護を受けていることが考えられる。介護を自分たちの手で何とかしたいと思っている家族は少なくないといわれ、また要介護高齢者にとっては、介護を家族に期待できるかということだけでなく、家族と良い関係を保っていられることが大切な場合も考えられる。要介護高齢者と家族の生活について理解を深める。 【キーワード】 要介護認定、自立の支援、介護充実感、社会情動的選択理論	高梨 薫(神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授)	高梨 薫(神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授)
11	自死遺族の困惑と苦境	生老病死は家族生活の歴史でもある。本章では家族生活にとって確実に訪れる永別、わけても自死と遺された家族の問題を取り上げ、臨床家族社会学的に自死の実態、自死遺族の直面する問題、自死による永別への対応、支援などについて「事例的臨床」の観点から学ぶ。 【キーワード】 封印された死、さよならのない別れ、自責感、わかちあいの会	清水新二(奈良女子大学名誉教授)	清水新二(奈良女子大学名誉教授)
12	自死遺族の社会的支援	自殺問題のなかでこれまで看過されてきた自死遺族支援の問題を正面からとりあげる。この章では「対策的臨床」の観点から、先ずマクロ的に近・現代社会が死について向き合わなくなってきた流れを説明する。次いでわが国の自死の実態を概観した上で、自死対策枠組みの中でも特に自死遺族支援に焦点をあて、自死遺族支援の課題について学び、その問題対処に向けた社会的取り組みの歴史と展開、支援の際の視点や留意点などについて理解を深める。 【キーワード】 自殺率、メント・モリ、自死遺族支援、自殺対策基本法、ポストヴェンション	清水新二(奈良女子大学名誉教授)	清水新二(奈良女子大学名誉教授)
13	家族生活とドメスティックバイオレンス	本章ではドメスティック・バイオレンスを中心に用語の置き換え効果について述べ、言葉が開く家族臨床課題の発見について考える。次いでその実態および対策枠組み的支援としての法制度の展開を見る。さらに、専門的科学知としての研究知見と経験的生活知としての支援現場から立ち上がる家族暴力の立像を対比させつつDV問題を考える際に注意すべき論点や研究知見・成果を紹介整理して、問題ならびに論議の複層性への理解を広げる。 【キーワード】 ドメスティック・バイオレンス、DV防止法、DV定義の外延的拡大、非対称性仮説、世代間連鎖仮説、学習性無力感	清水新二(奈良女子大学名誉教授)	清水新二(奈良女子大学名誉教授)
14	児童虐待問題へのもう1つのアプローチ	社会学的視点からの、被虐待児童とその家族への支援の基礎理論の学習を目指す。最初に伝統的ナラティブモデルの理論を説明し、その理論的問題点について論じる。そして新たな修正ナラティブモデルの理論的枠組みを示す。 【キーワード】 児童虐待、ナラティブモデル、生成的システムズ理論、修正ナラティブモデル	加茂陽(県立広島大学名誉教授)	加茂陽(県立広島大学名誉教授)
15	被虐待児童の家族支援の実践:修正ナラティブモデルによる支援とその課題	前章で示した修正ナラティブモデルについて、問題定義法、評定法、そして変容技法に関して詳細に論じ、事例分析によりそれらの使用の実際を示す。その上で、その有効性と問題点を明らかにする。 【キーワード】 被虐待児童の家族支援、修正ナラティブモデル、評定方法、変容手法	加茂陽(県立広島大学名誉教授)	加茂陽(県立広島大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1512609	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 公衆衛生 （'09）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：多田羅 浩三（日本公衆衛生協会会長） 〕

〔主任講師（現職名）：瀧澤 利行（茨城大学教授） 〕

講義概要

公衆衛生制度は、産業革命が進む中で都市への人口集中を背景として生まれた、不衛生と疾病、貧困の悪循環という状況に対し、人間の健康を守るという観点から求められた、社会の関与の方式として生まれたものである。結果として、公衆衛生制度はカバーする領域は極めて広く、その事業のほとんどは自治体によって担われている。本科目では、公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学び、健康日本21、特定健診・保健指導などが実施されることになったことの意義などについて学ぶ。

授業の目標

現代では、人々の生活、そして健康は、広く社会の制度に支えられていることは明らかである。公衆衛生は、社会の制度の中核をなすものである。しかし公衆衛生の歴史や体制、内容、そして今日の新しい展開の意義を学ぶことによって、社会に管理されるのではなく、社会に参加し、自ら生活や健康を守り、向上を図るという実践をすすめるための知恵を培って欲しい。

履修上の留意点

公衆衛生を学ぶことは、自ら生活する自治体や仕事をする職場、あるいは所属する団体が、それぞれ地域や職域の健康増進や環境保護にどのような役割を果たすことができるか、それに対し各人がどのように参加することができるか、ということ学ぶことであるということに留意して履修して欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	公衆衛生制度の誕生	公衆衛生制度は、不衛生と疾病と貧困の悪循環という課題に直面する社会環境の中にある人間の健康を守るという目的のために、自治体の機能を中核として多様な役割を果たしている。公衆衛生制度の母国であるイギリスにおけるあゆみを中心に、社会による防衛、予防の推進、福祉からの独立、衛生の規則と地方当局の規則などの点から、公衆衛生制度の成立、発展の系譜について考えてみたい。 【キーワード】 社会の関与、画一主義、公衆衛生法、国家医学、保健医官、自己制御という知恵	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)
2	わが国の公衆衛生	わが国の公衆衛生は、ヨーロッパ諸国の例に学び、非常に充実した体制を有している。そのことが世界一の平均寿命や世界一低い乳児死亡率の記録に現われている。そのような輝かしい記録を達成したわが国の公衆衛生あゆみについて、医制の公布、伝染病予防、保健所の誕生、国民健康づくり計画、市町村の保健事業、保健福祉施策の新しい展開などを中心に学ぶ。 【キーワード】 衛生制度、「医制」、医務取締、保健所、アルマ・アータ宣言、老人保健法、健康日本21	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)
3	健康水準・健康指標と衛生統計	公衆衛生を学ぶ者の基礎知識として、人口動態統計、人口動態統計(出生率、死亡率、再生産率など)、平均余命と平均寿命、将来人口、有病率、罹患率、国際疾病分類、国民の健康に関わる主要調査報告、衛生統計と疫学的方法の基礎について学ぶこととしたい。 【キーワード】 健康水準、健康指標、人口動態、衛生統計、疫学的研究	菊田文夫 (聖路加看護大学准教授)	菊田文夫 (聖路加看護大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	母子保健	わが国は今日、深刻な少子高齢化時代を迎えている。その中で働く女性の母性の保護をどのように確保していくか、子どもの健やかな成長をどのように保障していくか、重大な課題に直面している。それらの点をふまえ、母性の保護、乳幼児の保健、母子保健事業、エンゼルプラン、健やか親子21などの項目をもとに検討したい。 【キーワード】 発育発達、母子保健行政、母子保健サービス、健やか親子21	菊田文夫 (聖路加看護大学准教授)	菊田文夫 (聖路加看護大学准教授)
5	感染症	多数の人々の生命を奪ってきた感染症と人類の医学の闘いについて考えることから始め、今日の激動する国際情勢の中での感染症対策まで、包括的に感染症予防の概要を見ていくことにする。特に新興・再興感染症の国内への侵入対策は、重要な社会防衛上の課題になっている。また、結核、性感染症についても、その対策の強化が望まれている。これらの動向をふまえ感染症の種類、感染症対策、結核、性感染症、健康危機管理などの項目について考えたい。 【キーワード】 疫学、ジョン・スノー、感染成立の原則、新興感染症、再興感染症	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
6	成人保健と疾病予防・健康管理	わが国は平均寿命世界一の記録を達成しているが、生活習慣病による死亡率、罹患率は激増している。また後期高齢者人口が今後20年間に1100万人の増加が予想されている。そのような動向をふまえ、生活習慣病対策、循環器病対策、がん対策、糖尿病対策、歯科保健、こころの健康、要介護高齢者、認知症高齢者、市町村の保健事業などを考えたい。 【キーワード】 疾病予防の段階、生活習慣病、がん予防、メタボリック・シンドローム、特定健診、特定保健指導	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
7	学校保健	近年、次代を担う、学童の健康状態や就学状況について、肥満、あるいはやせ願望、情緒不安、暴力など、深刻な課題に直面していることは周知のとおりである。これらの課題を念頭におきつつ、学校保健の歴史、学校保健の構造と機能、学校保健管理、学校保健教育、学校保健組織活動等について学ぶ。 【キーワード】 学校保健管理、学校保健教育、学校保健組織活動、学校健康診断、学校環境衛生	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
8	産業保健	厳しい経済環境、日進月歩の技術開発、市場競争の激化の中で、働く人たちの健康状態について、とくにメンタルヘルス面における課題は、年々深刻になっている。これらの認識に立って、産業保健の歴史、働く人たちの健康状態、職業病、作業環境、労働安全衛生対策などについて学んでいきたい。 【キーワード】 労働安全衛生、職業性疾病、作業管理、作業環境管理、健康管理	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
9	環境保健	温暖化の進行、都市開発、住宅造成、公共事業の強行など環境破壊につながる状況が続く中で、環境保健の確保は、きわめて深刻な課題となっている。これらの理解のために、環境の概念、環境刺激と生体、物理的・化学的・生物的環境条件、環境管理、公害と地球環境問題とその対策について学びたい。 【キーワード】 恒常性、量－影響関係、量－反応関係、公害・地球環境問題	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
10	生活環境	食品の外国産材料への全面依存、ファーストフード、外食産業への依存、多様な建材の使用、甚大な生活廃棄物の発生など、国民の生活は厳しい環境に取り巻かれている。より良い生活環境の確保は、公衆衛生の原点であり、生活衛生と健康、衣服の改良、食品の安全、住居の安全、生活廃棄物の処理などを中心に検討を加えたい。 【キーワード】 環境決定論、食品衛生、衣服下気候、室内環境、リサイクル社会	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
11	高齢者の保健福祉と介護保険制度	高齢人口の急増に対し、展開されてきた高齢者を対象とした保健福祉制度の特徴について考えたい。老人保健制度および高齢者介護を福祉制度から独立させ、保険制度による運営に転換された介護保険制度について、制度制定の意義、制度の仕組み、介護保険事業計画、介護保険施設、施設サービス、居宅サービス、保健事業などの面から、制度のあり方、将来の展望などについて検討したい。 【キーワード】 高齢社会、認知症、要介護状態、介護保険法、ノーマライゼーション	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
12	地域保健体制	プライマリケア体制の構築という位置づけのもとに、最も古く、教訓に満ちた取り組みをすすめてきたのはイギリスである。この国でのあゆみから、何を学ぶことができるか、そのことを、最初に考えたい。わが国の地域保健体制について、中核を担ってきた保健所の推移と現状、保健事業の保健所から市町村への移管などの動向をふまえわが国の地域保健体制の特徴について、その課題、展望について考えたい。 【キーワード】 プライマリケア、国民保健サービス(NHS)、地域保健法、保健所、市町村保健センター	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)
13	医療制度	医療制度を担う専門職の中で、最も古い歴史を有しているのは医師であり、医師職の興隆の系譜と各国の医療制度のあり方は深い関連を有している。わが国では、医薬分業が行われてこなかったことが、わが国の医療制度を国際的にも、非常にユニークなものにしてきたという経過がある。これらの点をふまえ、わが国の医療制度について、医療法改正の推移、医療保険制度、医療施設、医療保健関係者、高齢者の保健と医療などの面から、その概要について学ぶ。 【キーワード】 フィジシャン、アポセカリー、医薬分業、医制、医療法改正、国民皆保険体制、老人保健法、高齢者医療確保法	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	健康日本21から特定 健診・保健指導へ	平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。人々の多様な健康状態、とくに生活習慣病による罹患、死亡の増加ということに対し、従来の医療保険制度や市町村の保健事業などへの制度依存型の対策では十分な成果をあげることが困難であることが、明らかになってきた。そして、国民を主役とする施策として実施されることになったのが、健康日本21である。さらに平成18年6月の高齢者医療確保法の制定にともない、20年4月に保険者による特定健診・保健指導が発足した。その推進には、大きな期待が寄せられている。こうして、健康日本21が発表され、特定健診・保健指導が実施されることになったことの意義を中心に考察したい。 【キーワード】 平均寿命、生活習慣病、市町村の保健事業、医療保険制度の限界、健康増進法、メタボリック・シンドローム	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三 (日本公衆衛生協会会長)
15	国際保健	国際交流の激増、開発途上国における政情不安、新興・再興感染症侵入の危険などの状況がある中で、WHO、平均寿命の国際比較、死亡率の国際比較、国際保健上注目すべき疾病、AIDSの現状、大都市の保健事情、医療費の国際比較などについて検討し、国際保健のあり方について考えたい。 【キーワード】 世界保健機関(WHO)・プライマリ・ヘルス・ケア・ヘルスプロモーション・赤十字活動・NGO・NPO	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)	瀧澤利行 (茨城大学教授・放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518410	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 循環器病の健康科学 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：多田羅浩三（日本公衆衛生協会会長）〕

〔主任講師（現職名）：吉川純一（西宮渡辺心臓・血管センター院長）〕

講義概要

最近の循環器病学の進歩は真にめざましく、一部のものは革命的ともいえるほどである。それに従いほとんどの心臓病や血管病による死亡は急速に減少してきた。一方、循環器病学ないし循環科学の進歩に伴い、医療側と患者側のより良好なコミュニケーションが求められている。患者側も循環器疾患の本態の理解に努め、医療側との議論に参加して欲しいものである。この授業では各々の循環器疾患の概念や診断法・治療法を解説し、とくに最近の進歩にも力点を置き循環器疾患を共有する素材を提供する。

授業の目標

種々の循環器疾患の概念、診断、治療を学習し、医学界における最前線の知識の獲得に努める。

履修上の留意点

医学、とくに循環器病学で使われる専門用語を学んでおくことが望ましい。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	心臓と血管の解剖と働き	心臓と血管の解剖と働きを解説するが、心エコー図を利用して動画像を供覧し人間の心臓機能を正しく理解する。血液の流れに関しては、ドプラ法を使用する。 【キーワード】 心臓の筋肉、弁膜、心室、心房、大動脈、乳頭筋、大動脈血流、僧帽弁通過血流、冠動脈血流	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
2	オーソドックスな循環器疾患診断法―特に問診と身体所見	循環器疾患の診断の基本はしっかりと問診と聴診・視診・触診からなるフィジカルイグザミネーションである。問診に関してはその要点を解説し、聴診に関しては実際の音を流しながら、そこから診断にいたる過程を説明する。 【キーワード】 呼吸困難、胸痛、動悸、心雑音、駆出性収縮期雑音、全収縮期雑音、拡張期雑音	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
3	心エコー図を中心とした循環器画像診断法	循環器病学の臨床面の進歩は、心エコー図やCT、磁気共鳴装置、核医学などの画像診断法に進歩によるところが多い。種々の循環器疾患の心エコー・ドプラ画像を供覧し、より正確な診断に迫る現場を紹介する。必要に応じて他の画像診断法を挿入する。 【キーワード】 心エコー図、ドプラ法、三次元心エコー図、経食道心エコー図	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	高血圧の実践的な診断と治療	高血圧は日本の成人において最も頻度の高い疾患であり、その的確な診断と治療は臨床的に極めて重要な課題である。血圧の測定は、医療施設で診察時に測定されてきた(随時血圧)。しかしながら、人の血圧は日内変動を示し、朝覚醒時に高値を示し睡眠時に低値を示し、昼間も朝よりは低値を示す。さらに、この法則に従わない人も多く、的確な判断は家庭血圧測定に委ねざるを得ない。この血圧値と日内変動のパターンに基づき、治療計画を立案する必要がある。 【キーワード】 外来血圧、家庭血圧、夜間血圧、早朝高血圧、白衣高血圧	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
5	冠動脈疾患の疾患概念(病態と分類)・診断・治療	本疾患の概念や診断、治療法は大きく変貌してきた。最近の最も重要なコンセプトは冠動脈にプラークが発生し症状が出現する状態(虚血)が狭心症であり、そのプラークが破裂(ないしはびらん)し血栓・プラーク内容物が冠動脈内に流出した状態が急性冠動脈症候群(不安定狭心症ないし心筋梗塞)である。本疾患の診断には、心エコー図やCTが注目され、さらに治療に関しては薬物療法が極めて重要な役割をはたしつつある。 【キーワード】 安定狭心症、不安定狭心症、心筋梗塞、血管内エコー	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
6	メタボリックシンドローム	現在ならではの循環器疾患コンセプトである。肥満が病態の中心をなし、糖尿病、脂質代謝異常、高血圧などが重なると、極めて重大な心臓血管系疾患を惹起する。この症候群は生活習慣と密接に関連しており、その治療には運動療法が必須であり、食事療法も極めて重要であることは当然である。 【キーワード】 内臓肥満、高トリグリセライド血症、低LDLコレステロール血症、空腹時高血糖	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
7	大動脈瘤と大動脈解離	真性大動脈瘤と大動脈解離は稀ならず見られるが、いずれも画像診断法の発展により診断が容易となり、治療法も急速に進歩してきた。本疾患をいかにスムーズに診断できるかどうかは医師としての能力を判断する基準の一つになりうる。 【キーワード】 真性大動脈瘤、大動脈解離	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
8	特発性心筋症	原因が不明で心筋に障害が発生する特発性心筋症には主に肥大型心筋症と拡張型心筋症がある。この両者に共通して認められる異常は拡張能の障害である。拡張能障害に着目すると、拘束性心筋症も検出される機会が増加する。二次性心筋症は何らかの異常があり、心臓拡大・収縮不全・拡張不全をきたしている訳であるから、その「何らかの異常」を正しく検出することが最大のポイントである。 【キーワード】 肥大型心筋症、肥大型閉塞性心筋症、心尖部肥大型心筋症、拡張型心筋症	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	心膜炎と心筋炎	心筋炎はウイルス感染によるものが多いが、薬物や放射線、免疫異常などによっても起こる。心筋炎は心筋とつながる心膜の炎症も合併することが多く、心膜・心筋炎として発症することも少なくない。心筋炎の診断は必ずしも容易でなく、本症を念頭に置いた対応が必要である。一方、心膜炎の診断も心エコー図によれば容易であるが、収縮性心膜炎の診断には心エコー図とドプラ法、呼吸曲線を駆使し、左室流入血が吸気により有意に低下するという現象(奇脈)を検出する必要がある。 【キーワード】 ウイルス性心筋炎、心膜・心筋炎、心膜炎、収縮性心膜炎	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
10	弁膜疾患	本邦におけるリウマチ熱の激減により僧帽弁狭窄を中心とするリウマチ性弁膜疾患はほとんど姿を消しつつある。替わって登場したのが非リウマチ性の大動脈弁狭窄と僧帽弁逆流である。これらのうち大動脈弁狭窄は動脈硬化を基盤として起こり、社会の高齢化によりどんどん増加している。僧帽弁逆流の主因は僧帽弁逸脱であり、本症も増加しつつある。弁膜疾患の合併症として注意すべきなのは感染性心内膜炎である。 【キーワード】 大動脈弁狭窄、大動脈二尖弁、僧帽弁逸脱、虚血性僧帽弁逆流、僧帽弁形成術	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
11	心不全	左室収縮性が低下し、心臓のポンプ機能の低下とそれに基づくうっ血・体液貯留をきたす状態と考えられてきたが、心不全例では収縮能が保たれ拡張能の低下(拡張不全)が主たる病態であることが少なくない。一方、心不全の診断にはやや古典的ながら症状と身体所見を中心とするフランク・スターリン基準が用いられてきたが、中心となるのはやはり心エコー図である。 【キーワード】 収縮不全、拡張不全、フランク・スターリン基準、心エコー図	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
12	脳血管障害(脳卒中)	脳血管障害は脳卒中と同義語である。脳卒中は脳出血、くも膜下出血、動静脈奇形よりの出血、脳梗塞に分類される。さらに脳梗塞はアテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞、ラクナ梗塞などに分類される。最近問題となっているのは脳梗塞であり、アテローム血栓性脳梗塞では、頸動脈の診察(聴診、エコー、MRI/CT)が鍵を握る。心原性脳梗塞では心臓内での血流のうっ滞ないし血栓が存在する。本症と心房細動との関係を解説し、心房細動に対する臨床的対応の重要性が増加していることを説明する。 【キーワード】 脳梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞、頸動脈、エコー	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一 (西宮渡辺心臓・血管センター院長)
13	日本人の循環器病	日本人の循環器病について、生活習慣病の死亡率(人口動態調査)、高血圧(国民栄養調査)、脳血管疾患(患者調査)、虚血性心疾患(患者調査)の罹患状況の推移から、その特徴について学ぶ。また、循環器病の予防に向けて、循環器病のリスクである、肥満、飲酒、喫煙などについて、すでに明らかにされている疫学知見について学ぶ。 【キーワード】 生活習慣病、高血圧、脳血管疾患、虚血性心疾患、循環器病のリスク、肥満、運動習慣、飲酒、喫煙	多田羅浩三(日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三(日本公衆衛生協会会長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
14	地域における循環器病への挑戦	わが国の地域における循環器病への挑戦について、厚労省の政策、地域における取り組み(八千穂村・沢内村など、大阪府立成人病センター集権部、久山町)、老人保健法による市町村の保健事業の成果などを振り返る。そして今日すすめられている、健康日本21、メタボリック・シンドローム対策、特定健診・保健指導の意義について考察する。また、外国における例として、イギリスのプライマリケアにおける循環器病対策の試みについて学ぶ。 【キーワード】 地域における取り組み、市町村の保健事業、健康日本21、メタボリック・シンドローム対策、特定健診・保健指導	多田羅浩三(日本公衆衛生協会会長)	多田羅浩三(日本公衆衛生協会会長)
15	動脈硬化に挑戦する	人の血管の終末像である動脈硬化に対する診断・治療の最近の進歩を紹介し、この動脈硬化により起こる心筋梗塞や狭心症、脳卒中、動脈瘤、下肢血管閉塞などの人の血管終末像に対していかに対処すべきかを解説する。続いて動脈硬化予防の重要性も強調したい。 【キーワード】 画像診断法、薬物治療、インターベンション治療、外科治療、フィジカルイグザミネーション	吉川純一(西宮渡辺心臓・血管センター院長)	吉川純一(西宮渡辺心臓・血管センター院長)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518917	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 感染症と生体防御 （'14）＝（R）

英文名＝ [Infectious Diseases and Host Defense ('14)]

〔主任講師（現職名）：田城 孝雄（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：北村 聖（東京大学・教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。

健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今話題であるHIV、結核、はもとよりSARS、新型インフルエンザなどの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。

授業の目標

交通機関の発達、生活様式の変化、そして医療技術の進歩や医療行為に伴い現代社会に脅威を及ぼしている感染症の特徴を正しく理解するとともに、これら感染症などに対処するためにヒトが有している免疫システムの特徴および多様性について理解を得るようにする。

履修上の留意点

公衆衛生も履修することが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ヒトと感染症の歴史	感染症は、人間社会の脅威となってきた。講義では人類に脅威を及ぼしてきた感染症の歴史について、代表的な感染症であるペスト、コレラ、インフルエンザ、結核、産褥熱を取り上げて、解説する。 【キーワード】 ペスト、コレラ、インフルエンザ、結核、産褥熱、ジョン・スノウ	田城孝雄(放送大学・教授)	田城孝雄(放送大学・教授)
2	免疫学総論	人体が細菌やウイルスなどの外敵から自分自身を守る機序・メカニズムについて学習する。人体が自分と他人・他者とを区別しているメカニズムについても学ぶ。 【キーワード】 自然抵抗性と獲得抵抗性、抗原、抗体、リンパ球、サイトカイン	北村 聖(東京大学・教授)	北村 聖(東京大学・教授)
3	細菌感染と免疫応答	微生物の中で、細菌感染における、宿主の免疫機序と、それから逃れようとする細菌の宿主の免疫機序からの回避方法について述べる。免疫機序は自然免疫と獲得免疫に分けられ、各々について解説する。 【キーワード】 自然免疫と獲得免疫、パターン認識受容体、補体、細菌感染、結核菌	北村 聖(東京大学・教授)	北村 聖(東京大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ウイルス感染と免疫応答	ウイルスの性質とウイルス感染症を学ぶ。ウイルス肝炎とウイルスによる発がんについても学ぶ。ウイルス感染に対する宿主の基本的な免疫応答についても概説する。 【キーワード】 ウイルス、感染経路、持続感染、ウイルス肝炎、子宮頸がん、新興再興感染症	北村義浩(国際医療福祉大学・教授)	北村義浩(国際医療福祉大学・教授)
5	市中感染症①	普段の社会生活を送っている中で罹患した感染症である市中感染症は最も一般的な感染症である。市中感染症に関して、その起因菌と診断について解説する。抗菌薬使用の基本を理解する。 【キーワード】 市中感染症、現象、臓器、微生物、抗菌薬	岩田健太郎(神戸大学・教授)	岩田健太郎(神戸大学・教授)
6	市中感染症②	基本的な風邪、肺炎と気管支炎の違いを理解する。尿路感染症、下痢症、腹痛を伴う感染症、中枢神経感染症、性感染症、不明熱等について、解説する。 【キーワード】 風邪、肺炎、気管支炎、尿路感染、下痢症、髄膜炎、皮膚軟部組織感染症、敗血症、不明熱	岩田健太郎(神戸大学・教授)	岩田健太郎(神戸大学・教授)
7	結核	結核の歴史、結核患者の特徴、結核に関する検査の特徴を理解する。結核の治療について解説する。また、現在の結核の問題点を解説する。 【キーワード】 抗酸菌、肺結核・排外結核、薬剤耐性	内藤俊夫(順天堂大学・准教授)	内藤俊夫(順天堂大学・准教授)
8	HIV感染症	HIV感染症の現状、HIV感染者の特徴、診断と治療について解説する。またHIV治療法のそれぞれの利点・欠点について解説する。 【キーワード】 HIV感染症、AIDS、抗ウイルス療法	内藤俊夫(順天堂大学・准教授)	内藤俊夫(順天堂大学・准教授)
9	真菌感染症	真菌には種々の種類がある。発酵食品の製造で役立つものもあるが、住居や食べ物に生えて人々を不快にするカビもある。ヒトの体にも、この真菌が感染し水虫、フケなどの病害を及ぼす。症状が無く、本人が感染に気が付かない不顕性感染もあるし、体の深部にも感染が広がり、時には重篤となる場合もある。真菌感染症を防ぐ日常生活の知識を紹介する。 【キーワード】 真菌症、日和見感染、カンジダ、クリプトコッカス、アスペルギルス	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)
10	寄生虫感染症	寄生虫感染症はウイルスや細菌などの感染症と比較して、生物学的、臨床的、また公衆衛生学的にも、興味深い側面を有している。病原体自身が高度に進化した動物であり、寄生適応にあたって、複雑な宿主-寄生虫相互作用を必要としている。感染の成立の条件を軸に、講義では、寄生虫感染がその地域の環境や文化に依存している例を挙げ、安全な海外旅行や食生活のための知識を紹介する。 【キーワード】 回虫、日本住血吸虫、マラリア原虫、赤痢アメーバ、トキソプラズマ	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	衛生動物による健康被害	衛生動物とは、人の健康に害を及ぼす有害な動物の総称である。健康害としては、アレルギー反応(ダニ、蜂、蚊、ムカデなど)、有毒物質(蛇、アオバアリガタハネカグシ)、病原体の媒介(蚊、ツェツェバエ、マダニ、鼠、犬など)などが知られている。特にアナフィラキシーショック、熱性疾患(マラリア、アフリカ睡眠病、紅斑熱、出血熱)、狂犬病などは、命に係わる重大関心事である。 【キーワード】 衛生動物、ダニ、ノミ、媒介、アレルギー	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)	高橋優三(岐阜大学・名誉教授、兵庫医科大学・客員教授)
12	医療関連感染症① (医療関連感染)	感染症は、大きく市中感染と医療関連感染に分類される。医療関連感染の代表的な感染症は、中心静脈カテーテル関連感染、尿路カテーテル関連感染、院内肺炎、手術部位感染、クロストリジウム・ディフィシル感染の5種類である。これらの感染症は、予防可能である。病院内での包括的な対応策について概要につき解説する。 【キーワード】 医療関連感染、院内感染、感染対策、インфекションコントロールチーム、医療安全	矢野晴美(自治医科大学・准教授、岡山大学・客員教授)	矢野晴美(自治医科大学・准教授、岡山大学・客員教授)
13	医療関連感染症② (感染経路別感染対策と職業予防)	医療現場の感染対策である標準予防策、感染経路別隔離予防策を解説する。病院職員に対する推奨ワクチンは、麻疹、ムンプス、風疹、B型肝炎、水痘である。ツベルクリン反応なども結核対策上、重要である。医療現場の職業感染予防で、針刺し・切創が挙げられる。血液や体液を介して感染する疾患の予防と暴露後予防について理解する。 【キーワード】 標準予防策、感染経路別隔離予防策、職業感染予防、針刺し・切創	矢野晴美(自治医科大学・准教授、岡山大学・客員教授)	矢野晴美(自治医科大学・准教授、岡山大学・客員教授)
14	予防接種と感染症	ワクチンは毒性を無くしたか、あるいは弱めた病原体から作られる。感染症から身を守るためには治療よりもワクチンによる予防の方が効果的である。ワクチンと予防接種の考え方について学ぶ。 【キーワード】 予防接種法、生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、社会防衛、個人防衛	北村義浩(国際医療福祉大学・教授)	北村義浩(国際医療福祉大学・教授)
15	21世紀の感染症の課題 ―国内と国際保健の観点からの考察―	わが国の感染症は、医学の進歩等により、急速に制圧されていった。しかしまた、これまで知られていなかった新たな感染症も出現している。感染症対策には医療体制の整備など発生時の的確な対応のみならず、法制度等の整備による事前対応型対策の展開、国際協力などの政策が重要となる。21世紀の感染症の課題を日本国内と国際保健の観点から、考察する。 【キーワード】 新興感染症・再興感染症、感染症法、ODA、ミレニアム開発目標	田城孝雄(放送大学・教授) 北村義浩(国際医療福祉大学・教授)	田城孝雄(放送大学・教授) 北村義浩(国際医療福祉大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518852	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ リハビリテーション （'13）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 金田嘉清（藤田保健衛生大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 臼井 永男（放送大学教授） 〕

講義概要

疾病構造の変化や高齢化社会をもたらした現代において、医療・福祉・健康の広い領域でリハビリテーション医療の必要性が高まっている。本講義では、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士にとどまらず、リハビリテーションチームとして関わる専門職種（看護師や義肢装具士、社会福祉士など）に向けてリハビリテーション医学の知識や技術を分かりやすく解説していく。

授業の目標

リハビリテーション医学の基礎知識を身につけ、リハビリテーション概念、評価およびアプローチと、実施上の留意点を理解する。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	リハビリテーション総論	リハビリテーションの定義、成り立ちの歴史、法律、障害モデルについて解説し、現在の医療・社会制度からみた学校教育の重要性に触れる。 【キーワード】 リハビリテーション、ICIDH、ICF	金田嘉清（藤田保健衛生大学教授）	金田嘉清（藤田保健衛生大学教授）
2	リハビリテーションにおけるチームアプローチとチームワーク	リハビリテーションはチームアプローチであり、チームワークが重要である。リハビリテーション専門職を紹介し、どのようにチームワークを創っていくかについて、能力観を踏まえて述べる。 【キーワード】 チーム、チームの成り立ち、チームワーク、チームの育成	澤 俊二（藤田保健衛生大学教授）	澤 俊二（藤田保健衛生大学教授）
3	急性期・回復期・維持期のリハビリテーション	急性発症した疾患のリハビリテーションの過程は、しばしば急性期・回復期・維持期の3期に分けて示される。各期におけるリハビリテーションの特徴および留意点について解説をする。 【キーワード】 急性期、廃用症候群、回復期、ADL、IADL、ゴール設定、維持期、障害受容	鈴木めぐみ（藤田保健衛生大学講師）	鈴木めぐみ（藤田保健衛生大学講師）

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	社会リハビリテーションと地域リハビリテーション	社会的リハビリテーションと地域リハビリテーションの概念を示し、どのようにしたら障害者(児)とともに生活できる社会を作っていけるのかについて考える。 【キーワード】 社会的リハビリテーション、職業リハビリテーション、地域リハビリテーション	澤 俊二(藤田保健衛生大学教授)	澤 俊二(藤田保健衛生大学教授)
5	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態と特徴的な機能障害を理解するとともに、機能障害、能力障害に対する評価法、急性期・回復期・維持期に対応したリハビリテーションについて学習する。また、運動学習に基づいた運動療法について学習する。 【キーワード】 運動麻痺、高次脳機能障害、SIAS、FIM、運動療法と運動学習、転倒	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)
6	運動器疾患のリハビリテーション	運動器疾患にみられる特徴的な機能障害と代表的な疾患の概要について理解するとともに、各疾患に対するリハビリテーションの進め方について学習する。 【キーワード】 関節可動域制限、廃用性筋萎縮・筋力低下、疼痛、脊髄損傷、肩関節周囲炎、変形性股・膝関節症、大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、前十字・内側側副靱帯損傷	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)
7	神経筋疾患のリハビリテーション	パーキンソン病などの変性疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患などを取り上げ、その病態についてまとめる。各疾患における評価およびリハビリテーションについて呈示する。 【キーワード】 変性疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患、筋疾患、神経筋疾患	鈴木由佳理(藤田保健衛生大学講師)	鈴木由佳理(藤田保健衛生大学講師)
8	内部障害のリハビリテーション	近年急増している「内部障害」の定義を明確にしたうえで、循環器疾患と呼吸器疾患について詳細に触れ、その評価およびリハビリテーションについて解説する。 【キーワード】 心臓機能障害、呼吸器機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸障害、小腸機能障害	鈴木由佳理(藤田保健衛生大学講師)	鈴木由佳理(藤田保健衛生大学講師)
9	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	摂食・嚥下のメカニズムを5期モデル、プロセスモデルを基に解説し、評価法および訓練法を間接・直接訓練に分けて紹介する。また、機能代償のための方略について述べる。 【キーワード】 摂食・嚥下、摂食・嚥下障害、スクリーニングテスト、間接訓練、直接訓練	鈴木めぐみ(藤田保健衛生大学講師)	鈴木めぐみ(藤田保健衛生大学講師)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	老年期・高齢者のリハビリテーション	加齢が心身に及ぼす影響および老年症候群について概観する。代表的病態である認知症と、寝たきりをもたらす転倒に対する評価およびアプローチについて呈示する。 【キーワード】 老年症候群、転倒予防、認知症、寝たきり	鈴木めぐみ (藤田保健衛生大学講師)	鈴木めぐみ (藤田保健衛生大学講師)
11	精神障害のリハビリテーション	精神疾患および精神障害の定義、精神障害の医療・保健・福祉の歴史を概観し、精神障害リハビリテーションについて学ぶ。 【キーワード】 精神疾患、精神障害、精神医学、精神医学史、社会学	澤 俊二(藤田保健衛生大学教授)	澤 俊二(藤田保健衛生大学教授)
12	小児のリハビリテーション	人間発達で重要なのは神経系の発達である。発達途上であること、療育者との関わりを考慮した小児のリハビリテーションの考え方について、脳性麻痺児を例に挙げて解説していく。 【キーワード】 発達段階、評価尺度、脳性麻痺	鈴木由佳理 (藤田保健衛生大学講師)	鈴木由佳理 (藤田保健衛生大学講師)
13	義肢・装具・支援機器	支援機器は、リハビリテーションにおいて欠かせない道具である。支援機器には、義肢装具、福祉機器が含まれ、失われた機能の補助、社会参加に役立てられる。本章では義肢・装具・支援機器の構造ならびに種類、また適応となる疾患・障害について理解するとともに適切な使い方について学習する。 【キーワード】 義手、義足、上肢装具、下肢装具、体幹装具、車いす、杖・歩行器、座位保持装置、環境制御装置	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)	大塚 圭(藤田保健衛生大学講師)
14	リハビリテーション看護	リハビリテーション看護とは、健康な生活という視点から、障害をもった人の可能性を見出し、困難に満ちているかもしれない人生の長い旅を支え続ける活動である。長期間の視野に立ち、生活機能障害をもつ人の日常生活に寄り添い、援助を行うという特徴を有する。ここでは、リハビリテーション看護の特徴と機能・役割について紹介する。 【キーワード】 看護、予防・回復、ADL	金城利雄(名桜大学教授)	金城利雄(名桜大学教授)
15	我が国におけるリハビリテーションの未来	我が国における少子・高齢化社会、医師不足、療法士教育の現状について概説するとともに今後、リハビリテーション医療が直面する問題とその対策について理解する。また、将来期待されているリハビリテーション分野における新しい治療について触れる。 【キーワード】 少子・高齢化社会、リハビリテーション科専門医、医師不足、療法士教育、臨床実習、OSCE、再生医療、リハビリテーションロボット	金田嘉清(藤田保健衛生大学教授)	金田嘉清(藤田保健衛生大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518313	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 今日のメンタルヘルス （'11）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦（放送大学教授）〕

講義概要

メンタルヘルス(=人の心の健康)を支える力は、ライフサイクルの中で養われ、人と人とのネットワークの中で維持されるものである。この科目では、そのような健康な力を育むメカニズムを学ぶとともに、破綻の結果として生じる精神疾患のあらましを知り、生活の場において生じるさまざまな問題の現状と対策を考えていく。メンタルヘルスの危機が叫ばれている今日、喫緊のテーマを扱うものである。

授業の目標

メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。

履修上の留意点

入門的な科目であるので、特にあらかじめ履修しておくべき科目はないが、関心に応じて精神医学や臨床心理学など関連分野について学習することを勧めたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	メンタルヘルスとは何だろうか	全体の導入として、メンタルヘルスという言葉の意味内容について検討する。疾病構造の変化や最近の統計データを概欄し、WHOの健康の定義やそこに現れている包括的な健康観などを学びながら、今日におけるメンタルヘルスの意義について考える。 【キーワード】 メンタルヘルス、包括的な健康観、精神疾患、身体的健康、健康なパーソナリティ	石丸 昌彦 (放送大学・教授)	石丸 昌彦 (放送大学・教授)
2	ライフサイクルとメンタルヘルス(1)－ 周産期	周産期は妊娠・出産といった身体的変化に伴い、心理的にも不安定になりやすい時期である。この時期に生じる心の問題について、母親の症状、母子の関係性にみられる症状について紹介し、母親のメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 妊娠、出産、愛着・愛着障害、認知療法、ソーシャルサポート	山口 創 (桜美林大学・准教授)	山口 創 (桜美林大学・准教授)
3	ライフサイクルとメンタルヘルス(2)－ 子ども時代	子どもは家庭と学校で多くの時間を過ごしているため、これらが子どものメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている要因となっている。本章では家庭と学校における子どもの心の問題に焦点を当て、親子関係や教師との関係からメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 幼児期、学童期、不登校、うつ病、ストレス	山口 創	山口 創

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ライフサイクルとメンタルヘルス(3)－ 少年・少女・青年	思春期・青年期は、子どもからおとなへと移行する過渡期である。第二性徴の発現による身体的成熟の開始から、社会的成熟に向かうおおきな変化の過程にあり、不安定な激動の時期といえる。それだけにリスクをはらんでおり、メンタルヘルス上のさまざまな問題がこの時期に顕在化する。 【キーワード】 思春期、青年期、第二性徴、心理的離乳、アイデンティティ、モラトリアム	森 和代（桜美林大学・教授）	森 和代（桜美林大学・教授）
5	ライフサイクルとメンタルヘルス(4)－ おとなの男性と女性	高度な情報社会である現代において、成年期は、変化し続ける社会環境の中核にあり、絶え間なく再適応を迫られるストレスフルな時期といえる。男性と女性の生理的・心理的相違や社会的役割をめぐる葛藤が、それぞれの性に特有の問題をもたらすことは見逃せない。本章は、性の視点、特に女性の視点からメンタルヘルスについての検討を行う。 【キーワード】 成人期、ストレス、ストレスラー、性役割	森 和代	森 和代
6	ライフサイクルとメンタルヘルス(5)－ 老年期と人生のしめくり	超高齢化社会を迎え、高齢者自身が人生で達成してきた事柄を肯定的に受け止め、それを次世代に受け継ぐことができれば、老年期のメンタルヘルスを保つことに大いに寄与する。また、「歳を取ったらさまざまな問題を抱えるのだから、多少、抑うつ的なになっても当然だ」といった社会が抱く高齢者に対する偏見を是正していくことも重要な課題となる。 【キーワード】 老年期、高齢者に対する偏見、英知と絶望、回想法	高橋 祥友（筑波大学教授）	高橋 祥友（筑波大学教授）
7	精神疾患(1)－ 心の病とはどんなものか	精神疾患はメンタルヘルスが破綻した結果として起きるものである。本章では精神疾患全般を広く見渡し、精神医療の現状や精神疾患の診断・治療・原因論などについて学ぶ。精神疾患の発症に対する遺伝や環境の影響についても正しく理解したい。 【キーワード】 精神疾患、DSM、遺伝と環境、薬物療法、精神療法	石丸 昌彦	石丸 昌彦
8	精神疾患(2)－ 脳の機能変調と精神疾患	脳の機能変調にもとづくと考えられる精神疾患として、統合失調症と躁うつ病をとりあげ、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。両者はかつて二大精神病と呼ばれた代表的な精神疾患であり、基本的なことからについてよく理解しておきたい。 【キーワード】 統合失調症、躁うつ病、気分障害、脳の機能変調	石丸 昌彦	石丸 昌彦
9	精神疾患(3)－ 不安とその周辺	「不安」は主要な精神症状であり多くの精神疾患に伴って認められるが、その表れ方や処理メカニズムは疾患によって異なり多様である。神経症やパーソナリティ障害に注目しながら、その概要を学ぶ。 【キーワード】 不安、恐怖、神経症、パニック障害、境界性パーソナリティ障害	石丸 昌彦	石丸 昌彦
10	精神疾患(4)－ ストレスとストレス反応	強いストレスに起因する精神障害として、適応障害、急性ストレス障害、外傷後ストレス障害(PTSD)などが挙げられる。心身症や摂食障害もストレスとの関連が深い。これらの疾患について、ストレスと精神症状との関連を学ぶ。 【キーワード】 ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害	石丸 昌彦	石丸 昌彦

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	精神疾患(5)－アルコール依存と薬物乱用	アルコール依存症や、覚醒剤その他の物質乱用は、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これら有害な物質に対する依存・乱用によって生じる症状や、そこから派生する問題などを展望する。 【キーワード】 アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存、身体的依存、覚醒剤	石丸 昌彦	石丸 昌彦
12	ストレスの理論	ストレス理論の歴史と現状について学ぶ。セリエからラザルスを経て今日に至る歴史的な流れを展望した後、現時点での代表的な考え方を紹介し、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性や将来への課題に触れる。 【キーワード】 ストレス、ストレッサー、セリエ、ラザルス	種市 康太郎 (桜美林大学・准教授)	種市 康太郎 (桜美林大学・准教授)
13	職場とストレス	厳しい経済情勢が続く中で、職場における勤労者のストレスがメンタルヘルスの重要な問題となっている。職場ストレスの現状について学ぶとともに対策を検討し、生活の場におけるメンタルヘルスとの関係についても考える。最後に、復職支援の現状についても触れる。 【キーワード】 職場ストレス、安全配慮義務、労働災害、職場－家庭間の葛藤	種市 康太郎	種市 康太郎
14	ストレス・コーピングの実践	前章まで学んだ理論的基礎を踏まえ、自分自身のストレスに適切に対処していくための実践的な方略について学ぶ。自らのストレスの原因を整理すること、ストレス対処には幅広い方法があることを意識していることが大切である。 【キーワード】 ストレス・コーピング、認知的評価	種市 康太郎	種市 康太郎
15	自殺とその予防	わが国では1998年以来、年間自殺者数3万人台という緊急事態が続いている。2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体の課題であると宣言された。自殺予防のために、その現状、予防のための基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応を取ることで、自殺予防の余地は十分に残されている。 【キーワード】 自殺、自殺予防、事前予防、危機対応、事後対応	高橋 祥友	高橋 祥友

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1887416	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 看護学概説 （'10）＝（R）

※この科目は「看護学概説（'05）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第2, 5, 12回です。

〔主任講師（現職名）：高崎 絹子（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤 禮子（兵庫医療大学副学長）〕

講義概要

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図している。

授業の目標

「看護学概説」の目標は、看護学を学ぶに当たっての基本的な知識や考え方を理解することである。内容は、看護ケアの本質、看護技術の意味、看護倫理、看護の歴史や教育制度の発展過程、家族・地域・社会と看護のつながり、看護の組織や活動の場など、内容は多岐にわたっている。なお、本書では統合科目の「看護管理」と「安全管理」の基礎的な内容を加えた。

履修上の留意点

看護概説の範囲は広いので、学習に当たっては関連の参考書や副読本などを参考にしながら学習することが必要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	看護の本質となるもの	看護は、人が幸せにして健康な生活を営むことができることを目指す、生物－心理－社会的存在としての人間の健康生活に焦点を当てた働きをなす実践の科学である。このような科学的看護の本質について理解を深めるために、看護のkey概念についてと看護実践とその基盤について詳述する。 【キーワード】	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)
2	看護の基盤と発展過程 (※改訂回)	看護ケアの本質や援助の特質は看護活動の基盤であり、それは時代とともに変わることはない。しかし、社会の変革や医療の発展とともに看護の果たす役割や機能は変化し、それに応えるために、看護の高度化と専門分化が図られてきた。看護の歴史や教育制度の変遷を概観するとともに、急速に発展する看護の実践・教育・研究の今後の方向を考える。 【キーワード】	高崎 絹子 (放送大学客員教授)	高崎 絹子 (放送大学客員教授)
3	生涯発達過程にある看護の対象者	人間はこの世に生を受けてから死に至るまで生涯発達の過程にある。看護は、人生のさまざまな局面にある人々に関わりながら、人々の健康や発達を支えることを目標としている。ここでは、看護の対象となる人々の健康との関連から、発達と看護について述べる。 【キーワード】	岩崎 弥生 (千葉大学教授)	岩崎 弥生 (千葉大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	健康を保つメカニズムと看護	健康とは何か、そして健康を保つために看護はどのような役割を果たしているのかについて解説する。これにより健康のあらゆるレベルに対する看護の役割、機能について考察する。 【キーワード】	宮崎美砂子 (千葉大学教授)	宮崎美砂子 (千葉大学教授)
5	ケアシステムの発展と看護の活動 (※改訂回)	健康を支える保健医療福祉制度は、社会情勢の変化、少子高齢化、医療の高度化等によって、国、地域レベルで急速な変革をとげてきた。総合的な視点から健康問題を捉え、生活に基盤においたケアシステムやサービスを提供する仕組みづくりと方法が求められている。そうした状況を背景にした看護職に期待されている役割や機能を考えるとともに、今後を展望した活動について考える。 【キーワード】	高崎 絹子 (放送大学客員教授)	高崎 絹子 (放送大学客員教授)
6	看護情報と看護過程の展開	看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。 【キーワード】	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)
7	看護技術の意味	看護実践は対象との関わりの中で発展させていくものであり、対象にもっとも適した看護実践には、看護する者のしつかりした看護観とともに科学的根拠に基づいた看護技術が要求される。具体例とともに看護技術の意味と看護の実践力について説明する。 【キーワード】	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)
8	関わりと看護技術	看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関わりの中で変容する。看護する者が全体的存在として患者と共にあることの意味を述べ、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護技術について紹介する。 【キーワード】	岩崎 弥生 (千葉大学教授)	岩崎 弥生 (千葉大学教授)
9	セルフケアを育てる看護	健康問題を解決し、健康を増進するために、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。 【キーワード】	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)	齋藤やよい (東京医科歯科大学大学院教授)
10	患者を含む一単位としての家族への看護	患者を含めた家族全体を一つの単位として看護の対象とする意義を概説し、個人の健康の回復と維持における家族の役割および家族成員の病気が家族全体に及ぼす影響について述べる。また家族全体を対象とした看護方法の概要を簡単に紹介する。 【キーワード】	岩崎 弥生 (千葉大学教授)	岩崎 弥生 (千葉大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	在宅療養を支える看護	在宅療養者及びその家族を支えるために、地域社会で機能している看護の諸活動の現状について説明する。また在宅療養を支える看護をさらに充実・発展させるための課題について述べる。 【キーワード】	宮崎美砂子 (千葉大学教授)	宮崎美砂子 (千葉大学教授)
12	看護チームアプローチと他職種との連携 (※改訂回)	保健医療の発展と多様化するニーズに対応し、予防からターミナルケアに至るまでの各段階における看護職の調整的な機能を果たすことが求められている。 看護サービスの提供システムや組織、看護管理、安全管理について理解するとともに、多機関・多職種とのチームケアの連携や退院調整の必要性を考える。 【キーワード】	高崎 絹子 (放送大学客員教授)	高崎 絹子 (放送大学客員教授)
13	地域住民と共働する看護	人々は、地域生活共同体の一員として、多様な人とつながりを持ちながら生活している。人々の健康や生活の豊かさを追究するために、看護が創出してきた、地域住民と共働する看護活動の方法及び意義について説明する。 【キーワード】	宮崎美砂子 (千葉大学教授)	宮崎美砂子 (千葉大学教授)
14	人の死と看護	人の死とはについて、生物学的な死の概念から導入し、人の死と死に行くことについて理解を深め、特に、人が人生途上において、突然に死に直面せざるをえない事態に陥った時の苦悩する人々および死に逝く人々にかかわる看護の働きについて説明する。 【キーワード】	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)
15	看護における倫理	倫理とは何かという基本的な意味について、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的な原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。 【キーワード】	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1887513	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 基礎看護学 （'10）＝（TV）

※この科目は「基礎看護学（'04）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第2, 8, 12, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：佐藤 禮子（兵庫医療大学副学長）〕

〔主任講師（現職名）：三上 れつ（慶應義塾大学教授）〕

【本学担当専任教員：戸ヶ里 泰典（放送大学准教授）】

講義概要

看護実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大することを意図している。

授業の目標

1. 看護専門職として役割を果たすための基本的な考え方について理解を深める。
2. 理論に裏打ちされた看護実践ができるよう学習方法を身につける。

履修上の留意点

内容の理解のみならず、経験や現実場面等と比較しながら自分の思考や看護観を発展できるようにしよう。また、積極的にグループディスカッションをして、あるべき医療や看護についても考えてみよう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	専門職として求められる看護の機能と役割	看護が自律した専門職として、人々の健康や幸福に貢献するには、看護サービス利用者や他職種者と協働して、ケア技術や保健医療福祉におけるケアシステムを変革していくことが必要である。看護の歴史を振り返り、人々のQOLの向上をめざして、対象のもつ力を強める看護の機能と役割について説明する。 【キーワード】 看護専門職、役割と機能	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)
2	患者の権利を擁護する方法 (※改訂回)	看護職者は、患者がもつ基本的な人権を尊重し、患者が自らの意思に基づき自己決定できるよう支え守る重要な役割を担っている。看護実践の場における患者の人権擁護に対しての多様な倫理的課題と看護職員としてのその対応方法について説明する。 【キーワード】 倫理綱領、自己決定、インフォームドコンセント、アドボカシー、セカンドオピニオン	大島 弓子 (京都橘大学教授)	大島 弓子 (京都橘大学教授)
3	看護行為と法の関係	看護は人の生命に関わる職業であり、法によって責任の在り方が問われる。どのような法令に基づき看護行為を遂行するのか、特に医事、薬事に関する法律を概説し、責任を問われる意味について述べる。また、看護行為の法的責任、看護師の医療行為の法的責任について具体的に説明する。 【キーワード】 看護行為、医療行為、法的責任、保健師助産師看護師法、医師法	石井 範子 (秋田大学大学院教授)	石井 範子 (秋田大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	患者となった人の対象理解とは	看護における対象理解は、対象を全体的に統合された人間として理解することである。病気によって患者は新たな役割が付与され、制限された生活を余儀なくされるが、身体的・心理的・社会的・霊的存在として変化しつづける。人間の生命・生活・健康に関わる人間理解について、具体的な事例を通して説明する。 【キーワード】 対象理解、発達課題、病者役割	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)
5	専門的援助関係を発展させるコミュニケーション技法	患者と看護師の関係は確かな意思によって結ばれる専門的援助関係である。このプロセスを通して看護師は自己理解と他者理解を深め、専門職者としての能力を高めていく。対人関係理論を概説し、患者との効果的なコミュニケーション技法を具体的に説明する。 【キーワード】 専門的援助関係、コミュニケーション、一般的援助関係	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)
6	看護判断の基盤となる身体的・心理社会的アセスメント	身体的・心理社会的アセスメントは、看護ケアの根拠と成果の測定、評価の指針となる情報を得るために欠かすことができない。身体的・心理社会的アセスメントの方法を概説し、特に身体的アセスメントの具体的方法について述べる。 【キーワード】 ヘルスアセスメント、看護データベース、情報収集方法、身体診査技法、聴診法	三上 れつ (慶應義塾大学教授)	三上 れつ (慶應義塾大学教授)
7	エビデンスに基づく看護過程	看護過程は、看護師が対象の健康回復・維持・増進をめざして、意図的・系統的に行われる問題解決方法である。看護過程の6段階について説明し、エビデンス(根拠)に基づく看護ケアを実践するために、正確な診断・評価を方向づける患者情報の重要性和活用法について述べる。 【キーワード】 看護過程、問題解決法、患者情報、看護診断、評価	三上 れつ (慶應義塾大学教授)	三上 れつ (慶應義塾大学教授)
8	セルフケアを促進させる教育指導方法 (※改訂回)	対象が健康的な日常生活を維持していくためには、看護師が一方的に援助するのではなく、患者・家族のセルフケア能力を高めていくことが不可欠である。セルフケア能力を促進するために必要な教育指導方法の実際について説明する。 【キーワード】 セルフケア、教育指導、セルフエフィカシー	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)	小松 万喜子 (愛知県立大学教授)
9	看護基本技術:「食事」を支える口腔・嚥下ケア	口腔内汚染や誤嚥は、致命的な肺炎を引き起こす。口腔の機能と嚥下のメカニズムから、体力の低下した高齢者や麻痺のある患者に対する「食事」を支える看護技術として、口腔ケアと嚥下ケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 摂食行動、摂食・嚥下障害、口腔ケア、嚥下訓練法	三上 れつ (慶應義塾大学教授)	三上 れつ (慶應義塾大学教授)
10	看護基本技術:「自尊心」を守る失禁ケア	尿失禁には様々な種類があるが、そのメカニズムを知ることによって、人々の排尿を適切にコントロールする介入が可能になる。これらの尿失禁のケアとして重要な「自尊心」を守る看護技術を中心に、トータルケアであるコンチネンスケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 尿失禁、自尊心、排尿システム、皮膚・排泄ケア	大島 弓子 (京都橘大学教授)	大島 弓子 (京都橘大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	看護基本技術:「自然治癒力」を促がす褥瘡ケア	新しい褥瘡ケアは、除圧、栄養、閉鎖式ドレッシング法、創の湿潤環境、デブリードメント法である。予防ケアの他、褥瘡の進行段階に応じた創の「自然治癒力」を増進するための看護技術として、創傷ケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 褥瘡、自然治癒力、発生要因、予防方法、褥瘡ケア	石井 範子 (秋田大学大学院教授)	石井 範子 (秋田大学大学院教授)
12	看護基本技術:「生命の危険」を回避する感染予防方法 (※改訂回)	医療・保健施設における院内感染に関する状況は厳しさを増しており、正しい知識の提供や予防手段を推進することが急務となっている。院内感染の現況と新しい感染管理の考え方について説明し、「生命の危険」を回避する看護技術として、具体的な感染予防方法について述べる。 【キーワード】 感染予防、院内感染、病原微生物、標準予防策、無菌操作	石井 範子 (秋田大学大学院教授)	石井 範子 (秋田大学大学院教授)
13	看護の情報化から電子カルテまで	身近な存在となった医療情報のコンピュータ化社会を概観する。看護情報の意味、活用法について確認し、情報をどのように管理し保護するかについて説明する。さらに、電子カルテの本質と実際を紹介する。 【キーワード】 看護情報、電子カルテ、看護用語、看護記録、NANDA, I CNP	大島 弓子 (京都橘大学教授)	大島 弓子 (京都橘大学教授)
14	チーム医療を発展させるリーダーシップのとり方 (※改訂回)	対象のニーズや疾病状況の変化に伴い、医療が専門分化し、看護師は他の専門職者とチームを組んでケアを提供している。チーム医療におけるリーダーシップについて概説し、看護独自の機能と看護師に期待される役割を説明する。 【キーワード】 チーム医療、多職種専門連携・協働、看護師リーダーシップ	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)
15	看護の質を保証するリスクマネジメントのあり方 (※改訂回)	看護が専門職として発展するために、提供する看護の質を保証し、組織全体のマネジメントの見直しを図ることについて概説する。また、臨床における看護のリスクマネージャーの活動を通して、看護管理として必須のリスクマネジメントのあり方を説明する。 【キーワード】 看護の質保証、安全管理	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)	佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518216	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 在宅看護論 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：福島 道子（国際医療福祉大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：河野 あゆみ（大阪市立大学教授）〕
 【本学担当専任教員：井出 訓（放送大学教授）】

講義概要

疾病や障害、虚弱のために看護ニーズをもつ居宅生活者とその家族を理解し、対象のクオリティ・オブ・ライフを向上させるために、問題や課題に合った方策を立て、在宅看護ケア提供に必要な知識と技術を習得する。

授業の目標

・居宅で生活する療養者や障害をもつ人、また虚弱な人を対象とする在宅看護の目的・理念を理解する。・同対象をめぐる社会背景、保健医療福祉制度・政策および看護提供システムを理解する。・同対象の特性とその特性をふまえた在宅看護の方法・技術を理解する。

履修上の留意点

本科目は学部一般にも役立つ内容としているが、同時に、看護師受験を目指し通信制で看護師養成学校にて学ぶ准看護師らもターゲットとしている。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	在宅看護の目的と理念	在宅看護の場をイメージし、病院看護との違い、在宅看護の目的、理念(QOL、自己決定など)について学ぶ。 【キーワード】 病院看護との違い、在宅看護の目的・理念	福島道子(国際医療福祉大学教授)	福島道子(国際医療福祉大学教授)
2	在宅看護の歴史と変遷	日本と諸外国(アメリカ合衆国やイギリス)における在宅ケアや在宅看護の歴史と変遷から在宅看護活動の機能や役割を理解し、わが国の在宅看護の課題を学ぶ。 【キーワード】 在宅看護の歴史、訪問看護制度化	河野あゆみ (大阪市立大学教授)	河野あゆみ (大阪市立大学教授)
3	在宅看護の対象としての家族	在宅看護において、療養者のみならず家族も援助対象であることを理解し、家族の特性とともに介護の現状、家族アセスメント方法などについて学ぶ。 【キーワード】 家族、家族介護、家族アセスメント	福島道子(国際医療福祉大学教授)	福島道子(国際医療福祉大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	在宅看護をめぐる法制度と社会資源	訪問看護制度、介護保険制度、障害者総合支援法、高齢者虐待防止法など、在宅看護をめぐる法制度およびフォーマル・インフォーマルな社会資源を学ぶ。特に介護保険制度は、サービス内容などを具体的に理解していく。 【キーワード】 訪問看護制度、介護保険制度、障害者総合支援法、高齢者虐待防止法	内田陽子(群馬大学大学院准教授)	内田陽子(群馬大学大学院准教授)
5	在宅看護の役割と機能	わが国において訪問看護を提供する医療機関、訪問看護ステーション、行政機関を概観した上で、訪問看護ステーションの機能や訪問看護活動などについて具体的に学ぶ。 【キーワード】 訪問看護提供機関、訪問看護ステーション、訪問看護活動	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)
6	在宅看護過程	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、評価を学ぶ。また、事例をとおして具体的な在宅看護過程の展開方法を理解する。 【キーワード】 アセスメント、看護課題、看護計画、情報収集、在宅看護過程	河野あゆみ(大阪市立大学教授)	河野あゆみ(大阪市立大学教授)
7	基本的な生活を支える看護技術	歩行、食事、排泄、保清など、療養者の基本的な生活を支える看護技術について、学ぶ。 【キーワード】 介護、活動、環境、自立支援	乙坂佳代(港北医療センター訪問看護ステーション管理者)	乙坂佳代(港北医療センター訪問看護ステーション管理者)
8	療養を支える看護技術	在宅療養を支える褥そうケア、ストマケア、経管栄養法、中心静脈栄養法、在宅酸素療法などについて、学ぶ。 【キーワード】 褥そうケア、ストマケア、栄養法、在宅酸素療法	乙坂佳代(港北医療センター訪問看護ステーション管理者)	乙坂佳代(港北医療センター訪問看護ステーション管理者)
9	感染症対策とリスクマネジメント	在宅看護において多くみられる感染症やインシデントを理解し、家族への予防指導、看護師の予防対策およびリスクマネジメントについて学ぶ。 【キーワード】 感染症、医療事故、ケア事故、予防・対策、リスクマネジメント	内田陽子(群馬大学大学院准教授)	内田陽子(群馬大学大学院准教授)
10	要介護高齢者に対する在宅看護	要介護高齢者と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 要介護高齢者、家族、看護	堀内ふき(佐久大学教授)	堀内ふき(佐久大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	認知症をもつ人に対する在宅看護	認知症をもつ人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 認知症をもつ人、家族、看護	堀内ふき(佐久大学教授)	堀内ふき(佐久大学教授)
12	精神障害をもつ人に対する在宅看護	精神障害をもつ人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 精神障害をもつ人、家族、看護	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)
13	在宅ターミナルケア	在宅ターミナル期にある人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 ターミナル期にある人、家族、看護	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)	角田直枝(茨城県立中央病院看護局長)
14	病院と家庭をつなぐ退院支援	退院支援の必要性やその展開システムのつくり方、支援方法を理解する。また、退院支援における訪問看護ステーションを始めとする地域の支援機関との連携の必要性を学ぶ。 【キーワード】 退院支援、退院調整看護師、退院支援システム、プライマリナーズ	福島道子(国際医療福祉大学教授)	福島道子(国際医療福祉大学教授)
15	在宅ケアの連携とケアマネジメント	ケアマネジメントの必要性と定義、効果およびプロセスを理解するとともに、在宅ケアの連携やケアシステムづくりについて学ぶ。また、介護保険制度におけるケアマネジメントの特徴を理解する。 【キーワード】 ケアシステムづくり、ケアマネジメント、ケアマネジャー、チーム連携	河野あゆみ(大阪市立大学教授)	河野あゆみ(大阪市立大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518909	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 災害看護学・国際看護学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Disaster Nursing and International Nursing ('14)]

〔主任講師（現職名）：小原真理子（日赤看護大学国際・災害看護学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：井上洋士（放送大学教授）】

講義概要

災害看護については、過去の大規模災害や東日本大震災における看護活動の経験知を基盤に、災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルや活動現場に応じた被災者の健康や生活のニーズに対する看護の果たす役割について学ぶ。国際看護では、途上国の多くの人々が満足な保健医療サービスを受けられずにいる現実を見つめ、さらに改善するための対策を世界的規模で実施するとともに、人口問題にも取り組まなければならない実状について理解する。このような状況において、講義では世界の保健医療の現状、国際保健医療協力の体制及び方法論等について学ぶ。

授業の目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。
3. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する。
4. 発展途上国における健康・生活上の問題について理解する。
5. 国際保健学の概念を基盤に、国際保健医療活動における国際看護の役割について理解する。

履修上の留意点

1. 23年3月11日に発生した東日本大震災に関する新聞記事やテレビ等の映像により、今、被災地で起こっている生活上の問題を把握し、対策について看護の視点から考える。
2. テレビ番組から、発展途上国に関する人々の健康や生活について知る機会を作る。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	近年における国内外の災害発生状況と災害看護の歩み	1. 近年の国内外におけるの災害の発生状況 2. 関東大震災、阪神淡路大新、東日本大震災に視る被害状況の特徴 3. 災害発生に伴う救護組織と災害看護の歴史的歩み 4. 災害の定義 5. 災害看護の定義 【キーワード】災害の定義、災害救護、災害看護の定義	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
2	災害看護の対象および災害時要援護者	1. 被災者とは、被災者の特性 2. 災害が被災者の健康や生活に与える影響 3. 行政的防災・減災対策と被害対応 4. 災害時要援護者の概念と行政的対策 【キーワード】被災者、防災・減災対策、被害対応、災害時	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)
3	災害の種類別疾病構造と災害サイクルから視る災害医療	1. 災害の種類別疾病構造 2. 災害サイクルから視る災害医療 ・災害医療と救急医療との違い ・災害医療活動の7つの要素(CSCA3T) ・災害医療救援チーム(DMAT)、災害拠点病院 3. 災害と情報 【キーワード】災害医療、災害サイクル、CSCA3T、DMAT、災害拠点病院	勝見 敦 (東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長)	勝見 敦 (東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	災害サイクルに応じた災害看護の役割	1. 災害サイクルに応じた災害看護の役割 2. 災害サイクルに伴う活動現場の特性 3. 映像シミュレーション「災害発生時における被災病院の看護職による入院患者への対応」 【キーワード】 災害看護の役割、災害看護の活動現場、被災病院	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
5	災害急性期・亜急性期の看護 ーその1:活動現場別の看護展開ー	1. 被災病院における初動体制の立ち上げと多数傷病者の受け入れ 2. 救護所の立ち上げと傷病者への対応 3. 避難所の立ち上げと被災者の受け入れ、生活環境の整備 4. 避難所で生活している要援護者の看護 【キーワード】 被災病院の初動体制、救護所、避難所	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
6	災害急性期・亜急性期の看護 ーその2:トリアージ・応急処置・搬送法ー	1. トリアージの定義と意義 2. トリアージを実施する現場の特徴 3. トリアージの方法 4. トリアージタグの記載方法 5. 主な外傷と応急処置 6. 搬送法、搬送の優先度 【キーワード】 トリアージ、トリアージタグ	勝見 敦 (東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長)	勝見 敦 (東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長)
7	災害中長期の看護	1. 仮設住宅における被災者の健康生活支援 2. 復興期における看護の役割 3. 復興とは 【キーワード】 仮設住宅、復興	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
8	災害静穏期の看護	1. 病院防災への備え 2. 災害看護教育 3. 地域防災への備え 【キーワード】 病院防災、災害看護教育、地域防災	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
9	災害と感染コントロール	1. 災害時に発生しやすい感染症とその機序 2. 感染症が発生しやすい災害時の環境的要因 3. 避難所アセスメントと感染症対策 【キーワード】 感染症、避難所アセスメント	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)
10	被災者特性に応じた災害看護	1. 小児に対する災害看護 2. 母性に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 身体障がい者 5. 精神障がい者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 【キーワード】 被災者特性	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)	伊藤尚子 (日本赤十字看護大学講師)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア 【キーワード】 災害とこころのケア	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)
12	国際看護学の概念	1. 国際看護学とは 2. 国際看護と取り巻く理念や戦略 3. 異文化看護;文化を超えた看護 4. 健康に関する指標(保健指標) 【キーワード】 国際看護学、看護の倫理要綱、ICN,MDGs,PHC,異文化看護、保健指標	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)
13	世界の健康課題	1. 世界の健康課題 2. 社会的要因と健康 3. グローバリゼーションと健康 【キーワード】 感染症、母子の健康、非感染性疾患、高齢者社会、複合人道危機、グローバリゼーション	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)
14	国際看護の実践とグローバル化社会における看護	1. 海外での国際看護 2. 日本国内での国際看護 3. グローバル化社会における看護の役割 【キーワード】 国際協力、国内における国際看護、これからの看護の役割	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)	大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)
15	国際救援活動における看護の役割	1. 国際救援の定義と活動の基本理念 2. 複合人道危機とは 3. 被災者の救援と看護 4. 最近の主な国際救援活動の実際 5. 他専門チームや国際機関との協働 6. 国際救援活動における看護の課題 【キーワード】 国際救援、複合人道危機	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)	小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518810	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 子どもの生活と児童福祉 （'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：田澤 あけみ（立正大学教授）〕

【本学担当専任教員：松村 祥子（放送大学教授）】

講義概要

経済・産業構造が変化しグローバル化がより加速する中において、子どもの生活拠点である家庭、地域、学校も大きく変化し、子どもを取り巻く問題や現象はさらに多様化・複雑化している。こうした中で、子どもがより健やかに成長しそれぞれの良き人生の機会を得るにはこれからの児童福祉はどうあるべきなのか、あるいは大人との対比において子どもとはどのような存在なのかについて、人生の基礎作りとしての子どもの生活環境整備を総合的に検討する。

授業の目標

現代社会における子どもの生活と福祉の考え方、実態、課題等について、「問題が顕在化した子ども」を中心にとりあげるだけでなくすべての子どもの福祉について、これからの社会における児童福祉の新たな考えや役割を総合的・多角的に理解する材料を提供することを目的とする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	現代社会における児童期の意味と児童の福祉	本講座全般の理解と導入として、現代社会における児童の意味づけや児童の生活と福祉をめぐる考え方や論点・課題について検討・問題提起する。 【キーワード】 児童期、児童の権利、親権、児童福祉、社会福祉	田澤 あけみ (立正大学教授)	田澤 あけみ (立正大学教授)
2	児童福祉の歴史的バックグラウンド	本章は、近現代における子どもの生活をめぐる国家政策、法制度の変遷を中心にとりあげる。産業化の進展、戦争、経済成長とその停滞など、児童福祉政策をそれぞれの歴史的背景とともに検討する。 【キーワード】 近現代、国民国家、産業化、戦争、児童福祉政策・法制度	大友 昌子 (中京大学教授)	大友 昌子 (中京大学教授)
3	児童期の社会福祉・社会保障政策	日本における児童期の社会福祉政策や社会保障政策の実際の仕組み、考え方、今後の方向性や問題点等を探る。 【キーワード】 児童福祉法、児童手当制度、児童扶養手当制度、特別児童扶養手当制度、子ども手当	田澤 あけみ (立正大学教授)	田澤 あけみ (立正大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	児童福祉サービスと 児童福祉援助実践	保護者、国民、地方公共団体は互いにパートナーとして子どもを育成する責任を担っている。この責任を実務レベルで果たす機関である児童相談所と市町村の現状と課題を中心に、児童福祉の援助実践について考える。 【キーワード】 児童相談所、市町村、相談と通告、アセスメント、ストレングス、要保護児童対策地域協議会	宮島 清(日本社会事業大学准教授)	宮島 清(日本社会事業大学准教授)
5	コミュニティ福祉と児童福祉施設の役割	子どもたちの福祉ニーズを満たす仕組みとしての児童福祉施設と里親制度の現状・課題・今後の方向性について子どもと家族と地域との関係を切り口にして考える。 【キーワード】 児童福祉施設、里親制度、地域(化)、分断、つながり、連続、自立支援計画、小規模化	宮島 清(日本社会事業大学准教授)	宮島 清(日本社会事業大学准教授)
6	家族支援と児童福祉	子どもは長らく親(母親)や家族問題の一環としてとらえられ、単独で政策対象としては見られてこなかったことをふまえて、今後の少子・高齢化、人口減少社会における児童の福祉と家族福祉を考える。 【キーワード】 少子化、子育て支援、ジェンダー、家族福祉	田澤 あけみ(立正大学教授)	田澤 あけみ(立正大学教授)
7	現代社会の児童貧困とインクルージョン	福祉国家政策の中で克服されたと考えられていた児童貧困問題が、20世紀末から21世紀始めにかけて改めて大きな社会問題となってきた原因や児童貧困状況の実態、対策・予防についてグローバルな視点から考える。 【キーワード】 児童貧困、排除、包摂、グローバリゼーション、ニート、ひとり親家族	田澤 あけみ(立正大学教授)	田澤 あけみ(立正大学教授)
8	児童ケアの歴史的展開—要養護問題に向き合う	本章では、現代社会における要養護問題の発生とその社会的背景についてとりあげ、次いで、児童養護施設に暮らす子どもの実態および児童ケアのあり方を、内外を例に検討する。 【キーワード】 児童養護問題、社会的背景、多様化する家族、児童ケア	大友 昌子(中京大学教授)	大友 昌子(中京大学教授)
9	児童の発達と保健福祉	いわゆる母子保健、児童の健全育成と各種の障害を持つ子どもたちの保健・教育・福祉政策・サービスの実態と課題について考える。 【キーワード】 母子保健、障害を持つ子ども、発達支援、障害児福祉サービス、特別支援教育	田澤 あけみ(立正大学教授)	田澤 あけみ(立正大学教授)
10	現代社会と反社会的・非社会的な子どもたち	戦後65年間の子どもの問題を概括しつつ、最近の子どもが引き起こしがちな反社会的、非社会的な行動の特徴を明らかにする。その中から、歴史を貫く普遍的な子どもの問題というものがあるのか、現代の特徴は何かについて検討する。 【キーワード】 非行、犯罪、触法、虞犯、不良行為、不登校、ひきこもり	藤原 正範(鈴鹿医療科学大学教授)	藤原 正範(鈴鹿医療科学大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	現代にみる児童の権利侵害と社会サービス	子どもへの人権侵害の最大のものが児童虐待である。実はこの問題の背景には、女性への暴力と支配、貧困、様々な理由による生活困難等がある場合が少なくない。児童虐待の本当の姿とこれへの対応・対策について考える。 【キーワード】 人権、児童虐待、DV、個人責任と社会的要因、生活弱者、社会サービスの不足、悪循環と連鎖、共感、当事者性	宮島 清(日本社会事業大学准教授)	宮島 清(日本社会事業大学准教授)
12	子どもと若者の自立と支援	自立した成人になるとはどういうことか、それを阻害する環境的要因は何かを明らかにし、現代社会において子どもと若者の自立を支援するシステムがどのように整えられており、今後どうすべきかを検討する。 【キーワード】 健全育成、自立支援、就労支援、更生、リービングケア、アフターケア	藤原 正範 (鈴鹿医療科学大学教授)	藤原 正範 (鈴鹿医療科学大学教授)
13	世界の児童福祉① アジアの子ども達の生活問題と福祉	本章では、アジアにおける「貧困の中の子ども」と「豊かさの中の子ども」という両側面に焦点をあて、「貧困」と「豊かさ」が子どもに与える影響や問題、そしてその実態と対策について、将来展望も含めて検討する。 【キーワード】 貧困、豊かさ、児童労働、衛生、医療、教育、国際支援	大友 昌子 (中京大学教授)	大友 昌子 (中京大学教授)
14	世界の児童福祉② スウェーデンの児童福祉	貧困予防・生活条件の均等化、出生率の維持、健全な生活環境と良い教育保障はスウェーデンの社会政策の根幹をなし、児童福祉政策は家族政策等の他の政策と連動して発展してきた。児童福祉の考え方、その仕組み、方法、現在の到達点と課題について概観する。 【キーワード】 生活条件の均等化、スウェーデンの社会政策、児童福祉政策、家族政策	訓覇法子(日本福祉大学教授)	訓覇法子(日本福祉大学教授)
15	児童福祉のエキスパートたち	制度政策が充実してもそれだけでは、それを必要とする人々には届かない。子どもと家族のニーズをつかみ、彼らに必要な関係の回復と創造を支援するソーシャルワーカーの働きが不可欠である。支援者に求められる力量、活躍の条件等について考える。 【キーワード】 共通基盤と専門領域、価値と技術、資源と訓練、公私の協働、セイフティネット、コミュニケーション能力、発信力	宮島 清(日本社会事業大学准教授)	宮島 清(日本社会事業大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518518	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 高齢者の生活保障 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：金子 勇（北海道大学大学院特任教授）〕

【本学担当専任教員：大曾根 寛（放送大学教授）】

講義概要

21世紀の日本では、三位一体の人口変化によって「少子化する高齢社会」が進行する。これは第一に高齢者の実数が増加して、高齢化率が上昇し、第二には年少人口数の減少とその比率の低下および合計特殊出生率の低迷による少子化の影響が大きく、第三として総人口数が漸減する事態を意味する。このような社会では、高齢者の生活も「老若男女共生社会」のなかで位置づけ直し、エイジズム（年齢差別）をやめ、全世代間で対等の関係を創造するしかない。それには基本的福祉構造を自助・互助・共助・公助・商助のなかに組み替えて、個人も行政も企業も団体も高齢者支援を実現していくことに尽きる。

授業の目標

高齢社会に生きる高齢者の生活構造を多様な観点から理解する。自らの力量での一人暮らしから、他者の支援を受けての施設の中での暮らしまで、その分野は広い。ここではサポートの種類を、自助、互助、共助、公助、商助に分けて、それぞれの事例をもとにした生活支援の問題を考える。個人と社会の間に福祉や介護や医療を位置づけ、さまざまな生活保障のあり方を描き出すことを目的にする。

履修上の留意点

高齢者の生活に密着した社会福祉論系の科目、および地域福祉論系の科目をできるだけ多く学んでおくことが望ましい。あわせて社会学と人口論に関する知識の習得は、本講義の深い理解に寄与することを知っておきたい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	少子化する高齢社会	「少子化する高齢社会」では、高齢者は「役割縮小過程の存在」として位置づけられる。高齢者は他人の手を必要とする約15%と、他人の手を必要としない自立した約85%とに分類できる。この分布を前提にして、自助・互助・共助・公助・商助として生活福祉構造を組み替えて、高齢者の生活を「老若男女共生社会」のなかで新しく位置づけ直す。 【キーワード】 高齢者の生活構造、小家族化、自助・互助・共助・公助・商助	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)
2	口からの健康づくり活動	健康は全身の状態を包摂した概念だから、手掛かりが歯であり、口であっても、その延長線上には個人全体の肉体と精神の健康がある。この点に着目したNPO「むなかた介護サービス研究会」の実践活動の事例を踏まえて、口の健康を考え、実践することで、元気で長生きできる高齢者生活のあり方を考えてみたい。 【キーワード】 QOL、8020運動、口の健康づくり、口腔ケア	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)
3	コミュニティビジネスと超高齢集落	過疎の超高齢集落が行政の補助金に頼り過ぎないむらおこしに取り組んでいる。元気な集落で暮らす高齢者は、なぜ元気で意欲的なのか。地域の活性化と高齢者の躍動化が共鳴しあうからだ。コミュニティビジネスに取り組む柳谷集落の模範事例を参考に、集落の高齢者が生き生きと活動する条件を学ぶ。 【キーワード】 感動、稼げる、カッコイイ、生きた福祉	片桐資津子(鹿児島大学教授)	片桐資津子(鹿児島大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ソーシャルキャピタルと暮らしやすさ	年齢を重ねたときに暮らしやすい地域社会とは、いったいどのようなものか。合計特殊出生率が高いことで有名な沖永良部島で、集落の子育てに関与する高齢者の姿を紹介する。活動的高齢女性の日常生活や、保育所と高齢者の交流事例を知ることで、多様なソーシャルキャピタルが存在することを示す。 【キーワード】 信頼、規範、ネットワーク	片桐資津子 (鹿児島大学 教授)	片桐資津子 (鹿児島大学 教授)
5	「孤独死」・「孤立死」防止の取り組み	自宅で一人、誰にも看取られないまま亡くなり、誰にも気づかれずに数日が過ぎた後に発見される高齢者の「孤独死」・「孤立死」に対しては、孤立状況の予防・解消が必要となる。この問題について、行政・民生委員や地域の諸団体が連携し、ネットワーク化することで見守りを進める孤立予防の地域的支援の可能性を明らかにしたい。 【キーワード】 「孤独死」・「孤立死」、孤立、予防、ネットワーク	松宮朝(愛知県立大学准教授)	松宮朝(愛知県立大学准教授)
6	個別ケアとユニットケア	施設の高齢者はどのような介護生活を送っているのか。施設で働く介護職員はどんな介護サービスを提供しているのか。一口に特養といっても相部屋を基本とする従来型と、個室完備でユニットケアがなされる新型とでは大きく異なる。しかし、どちらも理想は個別ケアである。その条件を役割、共同、安心、自由として整理する。 【キーワード】 個別ケア、役割、共同、安心、自由	片桐資津子 (鹿児島大学 教授)	片桐資津子 (鹿児島大学 教授)
7	要介護の現状とケアマネージャー活動	ケアマネジメントを、利用者の社会生活上でのニーズを充足させるため、利用者と適切な社会資源とを結びつける手続きの総体と理解して、課題について総括的に考えてみたい。支援計画を作成するケアマネジャーの日常生活から、介護支援担当者が抱える諸問題についてまとめる。 【キーワード】 ケアマネジメント、社会資源、支援計画	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)
8	地域医療の展開と医療過疎	医療は、高齢者の生活を支える必須の資源の一つである。今、地方での特色ある医療活動が注目されている。授業では、医師不足や医師偏在などの地域医療の現状をおさえた上で、保健・医療・福祉の拠点づくりや、医療機関内にとどまらない医療スタッフと住民とのかかわりの事例を紹介しつつ、地域医療を中心としたまちづくりの展開可能性をまとめる。 【キーワード】 地域医療、保健・医療・福祉の拠点、地域資源	青山泰子(自治医科大学講師)	青山泰子(自治医科大学講師)
9	大都市の家族と地域福祉	北海道も札幌でも小家族化が進み、「家族力」の低さが目立ってきた。そのなかで高齢化が着実に進み、地域福祉資源の充実が課題になっている。ここではそれをコミュニティ論の観点から整理してみたい。 【キーワード】 小家族化、地域福祉、コミュニティ、ボランティア	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)
10	「農」の活動による社会参加	近年、高齢者の生きがいづくりにおいて注目されているのが、「農」の活動による社会参加である。心理的効用・身体的効用とともに、環境保全や防災、コミュニティ形成、地域活性化等、様々な社会的機能を持つ「農」の活動の多様な展開とその可能性を明らかにしていきたい。 【キーワード】 生きがい、「農」の活動、社会参加	松宮朝(愛知県立大学准教授)	松宮朝(愛知県立大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	里親活動と高齢者	本講義の目的は、里親として活躍する高齢者に焦点をあて、高齢者が児童福祉の分野で今後重要な役割を果たすことを理解することである。講義では、①社会的養護と里親制度、②里親と里子、③里親活動と次世代育成について解説する。あわせて、里親として里子の養育にたずさわる高齢者の事例を紹介する。 【キーワード】 社会的養護、家庭的養護、里親制度	園井ゆり(活水女子大学准教授)	園井ゆり(活水女子大学准教授)
12	定年後の得意を活かす	団塊世代が定年を迎えるにつれて、定年後の高齢者の生き方に関心が高まってきている。再就職や趣味活動やボランティア活動など、選択肢は多岐にわたるが、ここでは特定の技術を得意とする高齢者の社会参加の姿を2つの事例を通して追いかけてみたい。 【キーワード】 生きがい、得意、趣味、社会参加	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)
13	児童養護施設での取り組み	本講義の目的は、児童養護施設の現状ならびに施設入所児童の状況を把握することで、今後、児童福祉の分野で高齢者の力が必要とされていることを理解することである。講義では、①児童養護施設、②入所児童の現状と要養護問題の背景、③高齢者と次世代育成について解説する。あわせて、児童養護施設の施設長として、児童の育成にたずさわる高齢者の取り組みを紹介する。 【キーワード】 施設養護、養育単位の小規模化、地域社会との交流	園井ゆり(活水女子大学准教授)	園井ゆり(活水女子大学准教授)
14	介護予防とリーダー養成	高齢者が要介護状態になる前後で、予防の対応は異なる。授業では、介護について予防重視のシステムが求められる社会背景と予防の概念を学ぶ。また高齢者自らが必要な知識、運動を修得し、実践するとともに、地域のリーダーとしてそれを伝える取り組みを紹介しつつ、自助・互助・公助のなかで高齢者の能力が活きる仕組みづくりをまとめる。 【キーワード】 介護予防、リーダー養成、地域ケア	青山泰子(自治医科大学講師)	青山泰子(自治医科大学講師)
15	日本一長寿県からの健康づくり	長野県高齢者(男性が日本一長寿)へのオリジナルな調査結果を使い、長寿生活に関連が深い複数の要因を、食事面、医療介護面、ライフスタイル面に整理して紹介する。特にPPKのライフスタイルに触れて、草の根の健康づくり活動の成果として、象徴的には「げ」(減塩)、「ん」(運動)、「き」(禁煙)を標榜した成果であるとまとめる。 【キーワード】 長寿日本一、PPKのライフスタイル、保健補導員	金子勇(北海道大学大学院特任教授)	金子勇(北海道大学大学院特任教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518860	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 障がいのある生活を支援する （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：吉川 雅博（愛知県立大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：朝日 雅也（埼玉県立大学教授）〕

【本学担当専任教員：大曾根 寛（放送大学教授）】

講義概要

障がいに関連する事項を取り上げる。障がいの意味づけは、本人の機能障害、活動制限、参加制約の程度だけでなく、本人自身の障がい者観、さらに世間の人々の障がい者観も影響する。この講義では、障がいの定義、障がい特性、障がい者観に影響与える思想、障害に関する法律や制度、障がい者への支援内容などを明らかにする。

授業の目標

障がい者と接したことがない健常者が多い。また、障がいを自分とは関係ない他人事と理解している人も多いが、実際は後天的に障がい者になることが多い。障がい者を知る人は少ない。共生社会を実現するためにも、障がい者を身近なものとして理解し、先入観をなくして積極的に接することが重要である。健常者が障がい者を、障がいのあるひとりの人間として理解する意識と障がい者を特別視しない意識をもち、健常者がもつ誤解や偏見をなくすことを本講義の目標とする。

履修上の留意点

受講生としては、福祉サービスの利用者、社会保障や社会福祉の専門職のほか、社会福祉に関心を持つすべての市民が対象である。本講義の履修にあたっては、基本的人権や国際人権規約、社会保障・社会福祉に関する他の関連科目を合わせて履修してほしい。

回・章	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	障がいのある人	障がい者と接したことがない健常者は多く、接したことがないために障がい者を知らない。健常者を上回る運動能力をもつ障がい者スポーツ選手、意思を確認することも困難な重症心身障害児者、ろう、犯罪を繰り返さざるを得ない累犯障害者を取り上げ、障がい者の多様性を理解する。 【キーワード】 多様性、重症心身障がい児者、累犯障がい者	吉川雅博 (愛知県立大学教授)	吉川雅博 (愛知県立大学教授)
2	障がいをめぐる思想の展開	障がいをめぐる思想は時代ともに変わってきた。実践を支える思想は生活を支援するうえで重要であり、また制度や政策を理解するためにも必要となる。障がいをめぐる思想として、基本的人権、優生思想、ノーマライゼーション、リハビリテーション、自立思想、エンパワメントなどを取り上げる。 【キーワード】 基本的人権、平等思想、自立思想	吉川雅博 (愛知県立大学教授)	吉川雅博 (愛知県立大学教授)
3	障がいの概念	「障がい」という状態が環境との関係でより困難になったり、軽減したりすることを世界保健機関の「国際生活機能分類」(ICF)を手がかりに理解する。同時に、医学的な問題を社会的な不利益にしないための働きかけを学ぶ。 【キーワード】 障がいの概念、障害構造論、国際生活機能分類(ICF)	朝日雅也(埼玉県立大学教授)	朝日雅也(埼玉県立大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	制度の歴史的発展	第二次大戦後の日本における制度の歩みを、障害者福祉政策とそれに関連する施策について学習する。第1章～第3章を踏まえて、日本の法律の制定過程と人権思想の関係について触れておくこととしよう。 【キーワード】 立法、歴史性、地域社会	大曾根 寛 (放送大学教授)	大曾根 寛 (放送大学教授)
5	障がいとリハビリテーション	リハビリテーションの発展や本質を押さえながら、医学、社会、職業、教育といった多面的な実践を理解する。同時に、それが医療機関や施設のみではない、地域リハビリテーションとして展開されることの意義を学ぶ。 【キーワード】 リハビリテーション、権利の回復、医学リハ、職業リハ、地域リハ	朝日雅也(埼玉県立大学教授)	朝日雅也(埼玉県立大学教授)
6	エンパワメント	障がい当事者が支援を受けるという受け身の問題解決だけでなく、本人が問題解決能力をつけていくことは重要である。言語の運用が困難である在宅失語症者の社会参加の現状と課題からエンパワメントについて考える。 【キーワード】 失語症、コミュニケーション支援、社会参加	吉川雅博 (愛知県立大学教授)	吉川雅博 (愛知県立大学教授)
7	雇用と就労の制度	一般企業に対する障害者雇用政策、就労支援、福祉的就労施設に対する労働法の適用に関する検討も行う。障害者の雇用政策については、雇用率制度や福祉的な就労施設に対する労働法の適用については、諸外国の動向を踏まえて学ぶ。雇用と就労の制度の現在と今後を考える。 【キーワード】 障害者雇用率制度、就労支援事業、労働者性	高橋賢司(立正大学准教授)	高橋賢司(立正大学准教授)
8	雇用と就労の実践	今日の障がい者就労支援は、当事者を取り巻く周囲の環境の改善や生活支援の一体的提供が特徴である。そこで、ジョブコーチ支援と障害者就業・生活支援センターでの取り組みに焦点をあて、その実際や課題を考えていく。 【キーワード】 ジョブコーチ、ナチュラルサポート、就業支援と生活支援	朝日雅也(埼玉県立大学教授)	朝日雅也(埼玉県立大学教授)
9	生活支援を担う人々	障がいのある方への生活支援には、当事者、医療職、介護職、相談支援の専門職、民生委員、ボランティアなどと多様な立場の人々が関わっている。ここでは、どのような人々が、どのような役割をもっているかを知り、担い手の教育や養成のあり方について理解を深める。 【キーワード】 市民、ボランティア、専門職、専門家	大曾根 寛 (放送大学教授)	大曾根 寛 (放送大学教授)
10	障がいのある人の住まいと移動	障がいのある人の「住まい」に関する権利は、十分な保障がなされてきたとは言い難い。また、移動の機会や手段が保障されなければ社会参加は実現困難である。地域生活を実現するための要となる住まいと移動について考える。 【キーワード】 地域で生活する権利、居住支援、バリアフリー	朝日雅也(埼玉県立大学教授)	朝日雅也(埼玉県立大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	個別支援計画Ⅰ	個別支援計画は、制度的にも実践的にも重要視されている。しかしその概念や意義が不明確で、作成方法が確立しておらず、実践を展開する現場職員に混乱を来している。実効性のある個別支援計画を作成するための基本的な考え方とアセスメントの実際を学ぼう。 【キーワード】 個別支援計画、アセスメント、ストレングス視点、コミュニケーション	沖倉智美(大正大学准教授)	沖倉智美(大正大学准教授)
12	個別支援計画Ⅱ	個別支援計画の基盤となるアセスメントができて、計画化の方法を誤ると当事者の意向を踏まえた計画は成立しない。また計画の実施にあたっては地域に存在する多様な社会資源との連携は必須であり、それらを開発、強化する地域自立支援協議会の役割に関する理解を深めよう。 【キーワード】 個別支援計画、プランニング、社会資源、地域自立支援協議会	沖倉智美(大正大学准教授)	沖倉智美(大正大学准教授)
13	権利擁護	自己決定を支援する際には、セルフアドボカシーとエンパワメントが重要となる。自らの力で権利主張できるようにその人がもともと有している力を引き出す支援をすることである。こうした目的の下に利用されるべき、成年後見制度、日常生活自立支援事業など権利擁護にかかわる法制度について検討する。 【キーワード】 セルフアドボカシー、エンパワメント、成年後見	高橋賢司(立正大学准教授)	高橋賢司(立正大学准教授)
14	障害者権利条約	2008年の国連の障害者権利条約は、障がいのある人の雇用、教育、法的能力、司法、手話・コミュニケーションなど多岐にわたる問題に関わる条約である。このため、日本でも様々な面での法改正が必要とされる。その意味で、同条約は障がいのある人の生活をめぐる今後のルールの指針になるようなものである。同条約の経緯と内容を概観し、今後の視座を探る。 【キーワード】 合理的配慮、インクルーシブ教育、コミュニケーション	高橋賢司(立正大学准教授)	高橋賢司(立正大学准教授)
15	共生社会の実現に向けて	共生社会の実現に向け、障害者基本法が改正され、障害者虐待防止法が施行され、差別禁止条例が制定されている。法律などが「絵に描いた餅」にならないためにはどうしたらよいのかについて考える。 【キーワード】 差別禁止条例、共助、新しい公共、共生社会	吉川雅博(愛知県立大学教授)	講師全員による座談会

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518925	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 地域福祉の展開 （'14）＝（TV）

英文名＝ [Development of Community-Based Welfare Policy and Practice ('14)]

〔主任講師（現職名）：平野隆之（日本福祉大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：原田正樹（日本福祉大学教授）〕

【本学担当専任教員：大曾根 寛（放送大学教授）】

※この科目は「地域福祉の展開('10)」の一部改訂科目です。
改訂回は1, 2, 10, 14, 15 回です。

講義概要

「地域福祉の展開」は、これまでの「地域福祉論」の内容と比較して、動態性を重視し、より実践的、より政策的な内容を加味する講義である。講義の体系としては、地域福祉を推進する主体に応じて構成し、市町村、都道府県、専門職、当事者・住民という順に、具体的に先駆的な事例を取り入れながら解説している。また、地域福祉による対応を年代別に整理し、今後の地域福祉の展開方向を示す。

授業の目標

- ①2000年の社会福祉法(第4条「地域福祉の推進」の導入)以降の地域福祉の動向を中心に学ぶ。
- ②地域福祉の推進主体別にその取り組みの方法を比較しながら学ぶ。
- ③今日的な地域福祉の課題に対応している実践のもつ先駆性を解釈するための能力を身につける。震災復興を視野に入れている。

履修上の留意点

「社会福祉入門」を学んでおくことが望ましい。映像教材で取り上げる事例を十分に理解した上で、テキストの学習に当たることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「地域福祉の展開」入門 【改訂回】	これまでの「地域福祉論」の講義とどこが違うのか、地域福祉の基礎的な定義を学ぶとともに、主体と空間、自発性と地域性といった地域福祉を捉えるための視点についての理解を深める。また、本書の構成の特徴についても解説する。 【キーワード】 地域福祉論、地域福祉の推進、活動主体、地域福祉の容器、地域福祉めがね	平野隆之・原田正樹	平野隆之・原田正樹
2	市町村行政と地域福祉行政 【改訂回】	社会福祉法によって「地域福祉計画」が法定計画として登場し、市町村行政が地域福祉計画にどのように取り組んでいるのか、その現状を紹介する。先駆的な市町村の策定動向を紹介するとともに、地域福祉計画の理解についての枠組みを示す。 【キーワード】 地域福祉計画、計画空間、住民参加、行政参加、実験福祉	平野隆之	平野隆之
3	地域福祉計画という「現場」 元科目('10)の3回に相当	地域福祉が現場どう展開しているのかをつかむ。その際の行政と地域住民の協働に焦点をあて、地域福祉計画策定とそれにもとづく施策と実際の地域福祉活動の様子を知ること、地域福祉のイメージとその必要性を理解する。 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革、地方分権、地域住民参加、協働	原田正樹	原田正樹

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日本の地域福祉の独自性 ―韓国との比較 元科目('10)の14回に相当	日本の地域福祉の独自性を韓国での地域福祉の取り組みと比較しながら明確にする。韓国における地域福祉計画と日本の地域福祉計画との比較を行い、それぞれの特徴を明らかにする。それぞれの国における地域福祉研究の課題を整理する。 【キーワード】 地域福祉計画、日本、韓国、社会福祉と地域福祉	平野隆之	平野隆之
5	都道府県による「共生型」プログラムの開発 元科目('10)の4回に相当	地域福祉を政策的に推進する主体として、都道府県に注目する。対象別の福祉ではなく、共生型の福祉を目指すプログラムの開発を紹介する。共生型のプログラムの全国的な普及の動向にも触れる。 【キーワード】 地域福祉プログラム、地域福祉支援計画、共生型ケア、都道府県	平野隆之	平野隆之
6	中山間地域からみた地域福祉の展開 元科目('10)の5回に相当	中山間地域を取り上げ、そこで必要となっている地域福祉の課題を明確にしつつ、その支援に取り組む都道府県の模索を紹介する。フィールドとしては高知県を取り上げる。 【キーワード】 中山間地域、限界集落、サロン活動、社会福祉協議会	平野隆之	平野隆之
7	大都市における地域福祉の推進基盤 元科目('10)の6回に相当	大都市をフィールドにして、地域福祉の推進基盤の政策的支援を学ぶ。大阪府が取り組んだコミュニティソーシャルワーク配置事業を分析するとともに、豊中市での事業展開の実際を学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーカー、地域福祉支援計画、小地域福祉組織、ゴミ屋敷	平野隆之	平野隆之
8	小地域福祉活動の展開と専門職支援 元科目('10)の7回に相当	地域をどの範囲でとらえるのかを明確にすることで、システムがつくりやすくなる。それには重層的な生活圏域の検討が必要である。住民主体による身近な地域福祉活動の組織化と、公的なサービスと近隣の支えあいによる総合的な支援のあり方が重要になる。こうした地域包括ケアのあり方についても学習する。 【キーワード】 福祉コミュニティ 地域包括ケア 地区社協 地域福祉型福祉サービス	原田正樹	原田正樹
9	地域福祉の展開と福祉教育による支援 元科目('10)の9回に相当	地域の福祉課題について知り、それを解決していくための方法を検討したりする過程は、地域住民にとって福祉の学習の機会である。どのような福祉教育プログラムを提供していくかは大切な地域福祉の実践課題である。 【キーワード】 福祉教育 地域福祉の主体形成 サービスラーニング	原田正樹	原田正樹
10	ボランティア・NPO活動の展開 【改訂回】	1995年は日本における「ボランティア元年」と呼ばれている。それは阪神・淡路大震災の救援活動を契機としている。その後、市民活動を支援することを目的に特定非営利活動促進法が制定されNPO法人が増加してきた。2011年の東日本大震災でもボランティアが重要な復興支援をしている。ボランティア・市民活動の変化や支援のあり方について検討する。 【キーワード】 ボランティア 市民活動 特定非営利活動促進法 NPO	原田正樹	原田正樹

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	当事者組織活動と地域福祉の推進－80年代 元科目（'10）の10回に相当	1980年代に展開された介護者家族の会の運動・活動の取り組みを素材にしながら、当事者組織を核とした地域福祉の推進方法を紹介する。高齢者福祉行政の展開に先行する自発的な福祉の意義に注目する。 【キーワード】 当事者組織、介護者家族の会、ボランティア・サービス、ネットワーク	平野隆之	平野隆之
12	障害者運動と地域福祉の展開－90年代 元科目（'10）の11回に相当	1990年代に展開された障害者の運動による地域福祉の展開を紹介するとともに、ノーマライゼーションの日本における普及の状況について触れる。障害者を中心に据えた地域福祉計画の策定を展望する。 【キーワード】 障害者運動、ノーマライゼーション、コンフリクト、共生文化	原田正樹	原田正樹
13	社会的排除と地域福祉の課題－2000年代 元科目（'10）の12回に相当	2000年代における新たな問題として、社会的排除を取り上げ、社会的包摂としての地域福祉の課題を整理する。具体的な取り組み事例を紹介するとともに、地域福祉プログラムとしての成立のための条件を検討する。 【キーワード】 社会的排除、社会的包摂、自立支援プログラム、NPO法人、釧路市	平野隆之	平野隆之
14	大震災と地域福祉の課題－2010年代 【改訂回】	東日本大震災の復興支援と生活支援、コミュニティづくりの現状と課題に触れる。被災の状況に対応し、どのように復興のためのコミュニティづくりに取り組まれているのか、復興に向けての段階に応じた地域福祉の役割・課題について解説する。 【キーワード】 震災復興、生活支援、仮設住宅支援、コミュニティ再生	平野隆之・原田正樹	平野隆之・原田正樹
15	これからの地域福祉の展開 【改訂回】	今日の地域福祉の課題を踏まえ、国の地域福祉政策の動向や新たな考え方を整理する。地域性を踏まえた今後の地域福祉の展開方向、とくにまちづくりとの関連性を示すとともに、地域福祉学習・研究のガイダンスを行う。 【キーワード】 地域福祉政策、生活支援戦略、地域再生、まちづくり	平野隆之・原田正樹	平野隆之・原田正樹

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518836	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会保険の現代的課題 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：田中 耕太郎（山口県立大学社会福祉学部教授）〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：大曾根 寛（放送大学教授）】

講義概要

医療、介護、年金、雇用、労災という、5つの領域の社会保険について、社会保険の母国といわれるドイツとの比較も交えながら、それぞれの仕組みの歴史的経緯、基本的な構造、特徴、働きを学ぶとともに、各制度の抱える課題や今後の改革の選択肢について一緒に考える。あわせて、各制度の違いを超えた、社会保険という基本枠組みの特徴とその理論的な背景を学ぶとともに、この仕組みが現在直面している構造的な課題とその将来展望について考察する。

授業の目標

社会人として、あるいは仕事上社会保険の知識を必要とする人たちが、この講義を受講することを通して、複雑な社会保険の各制度を成り立たせている基本的な枠組みや特徴を理解し、制度を積極的に活用できるようになるとともに、その直面している課題に関する理解を深め、これからのあるべき社会保険の姿、給付と負担のあり方について、自分の意見を持ち、発言できるようになることを目標とする。

履修上の留意点

高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉等に関連する科目は、隣接分野であるので同時に履修することが期待される。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	社会保険という仕組み	社会保険の仕組みについて、保険事故(リスク)、保険者、被保険者、保険料、保険給付などの基本となる概念、構成要素を説明し、民間保険および公的扶助との共通性と相違点の比較を通じて社会保険の特質を学ぶ。 【キーワード】 社会保険、雇用労働者、保険事故(リスク)、保険者、被保険者、保険料、保険給付、公的扶助	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)
2	医療保険(1) ー基本的な仕組みと被保険者、保険料、保険者ー	そもそも医療保険とはどういう仕組みか、現物給付などの支払方式について説明する。その上で、働き方や職場によって加入する制度が分立しつつすべての国民が加入する国民皆保険の下で、加入のルールや保険者、保険料などについて学ぶ。 【キーワード】 償還払い、現物給付、国民皆保険、健康保険、国民健康保険	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)
3	医療保険(2) ー医療保険の給付ー	医療保険から受けられる医療サービスの範囲、その際の患者負担のルール、そして高額療養費や診療報酬の仕組みについて学ぶ。また、保険診療と自由診療を組み合わせた混合診療の問題についてもふれるほか、金銭給付の概要も学ぶ。 【キーワード】 保険診療、患者一部負担、高額療養費制度、混合診療、傷病手当金、出産育児一時金	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)	田中耕太郎 (山口県立大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	医療保険(3) ー高齢者医療、国民医療費ー	高齢者の医療保障のあり方をめぐってなぜ様々な問題が生じているのか、その基本的な構造について学んだうえで、老人保健制度から新しい高齢者医療制度に至る経緯を振り返り、高齢者医療制度の概要を学ぶ。また、国民医療費の分析を通じて日本の医療の姿と費用の配分の現状と課題を考察する。 【キーワード】 医療費の3要素、老人医療、後期高齢者医療制度、広域連合、国民医療費	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
5	医療保険(4) ー医療保険の課題ー	これまで学んできた制度や国民医療費の分析などを通じて、現代の医療保険が抱える課題と、その改革に向けての選択肢を考察する。具体的には、医療費の増大と費用負担のあり方、高齢者医療改革、医療サービス基盤の改革について学ぶ。 【キーワード】 医療費負担の方向性、高齢者医療改革、医療計画	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
6	介護保険(1) ー基本的な仕組みと被保険者、保険料、保険者ー	介護保険の基本的概念を整理した上で、これが創設された背景とねらいを医療保険と社会福祉の措置制度との比較の中から考察するとともに、ドイツの介護保険とも比較しながらその基本的な仕組みの特徴を学ぶ。 【キーワード】 要介護状態、介護保険、第1号被保険者、第2号被保険者、特定疾病、要介護(要支援)認定	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
7	介護保険(2) ー介護保険の給付と制度の課題ー	介護保険の給付内容について、医療保険と比較しながらその特徴を学ぶとともに、制度発足後10年間の実施状況を検証し、その結果を踏まえて、介護保険が抱える現代の課題と改革の選択肢について考察する。 【キーワード】 居宅介護支援、介護支援専門員、居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス、地域包括支援センター、家族介護	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
8	年金(1) ー基本的な仕組みと構造ー	年金制度とはそもそもどういう制度なのか、対象とするリスク、その国民生活において果たしている役割などを学ぶ。その上で、長い経緯の中でどのような改正経緯で現在の仕組みが構成されるに至ったのか、その大きな枠組みの理由や背景について学ぶ。 【キーワード】 年金(保険)、国民年金、厚生年金、長生き、障害、死亡、基礎年金、国民皆年金	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
9	年金(2) ー被保険者、保険料、保険者ー	国民年金と厚生年金について、その被保険者の範囲、保険料負担のルール、そしてそれに対応して受け取れる年金額の算定ルールの基本を学ぶ。また、年金の保険者についても学ぶ。 【キーワード】 国民年金の第1号被保険者、第2号被保険者、第3号被保険者、保険料、厚生年金の被保険者、日本年金機構	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
10	年金(3) ー老齢年金ー	年金の中でも中心的な存在であり他の年金の算定の基本ともなる老齢年金について、給付の要件や算定のルール等を学ぶ。また、支給開始年齢や在職老齢年金、離婚時の年金分割についても学ぶ。 【キーワード】 受給資格期間、保険料免除期間、老齢基礎年金の繰上げ・繰下げ支給、支給開始年齢の引き上げ、在職老齢年金、年金分割	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	年金(4) ー障害年金と遺族年金ー	障害年金と遺族年金について、それぞれ老齢年金とは異なる特有のルールや働きについて学ぶ。また、世帯単位の所得保障の仕組みである遺族年金と個人単位化をめぐる論点についても考察する。 【キーワード】 障害基礎年金、20歳前障害、障害厚生年金、遺族基礎年金、遺族厚生年金、遺族の範囲	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
12	年金(5) ー年金制度の課題ー	少子高齢化の進展や雇用の不安定化、経済の低迷などの環境下で、日本を含めた各国で年金制度の持続可能性の問題や世代間公平などの課題が問われ、さまざまな改革の提案が行われている。これらの問題点を整理し、解決の選択肢を考察する。 【キーワード】 保険料水準固定方式、マクロ経済スライド、所得比例年金、消えた年金問題、税方式、支給開始年齢の引き上げ	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
13	雇用保険 ー基本的な仕組みと制度の課題ー	雇用保険(失業保険)の仕組みについて、他の社会保障との関連の深い雇用継続給付を含め、その基本的な仕組みを学ぶ。また、失業問題など労働市場との関連の深い雇用保険の固有の現代的課題についても考察する。 【キーワード】 失業、求職者給付、雇用継続給付、育児休業給付、介護休業給付	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
14	労働者災害補償保険 ー基本的な仕組みと制度の課題ー	事業主(使用者)の業務上災害に対する無過失責任を基礎にした労災保険の他の社会保険には見られない特殊なルールを学ぶとともに、業務上・外をめぐる認定の困難さや過労死・過労自殺などの現代的課題についても考察する。 【キーワード】 業務上災害、通勤災害、労災認定、過労死・過労自殺、労災かくし	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)
15	社会保険制度に共通の課題	グローバルな国際競争の激化等に伴う雇用形態の多様化・非正規化、急速な少子高齢化の進展、さらにはそれらの経済社会環境の変化の中での国や社会保険財政の悪化など、社会保険制度の持続可能性を揺るがす主要な課題について、考察する。 【キーワード】 非正規雇用、賃金付随コスト、少子高齢化、社会保障給付費、国民負担率	田中耕太郎 (山口県立大学教授)	田中耕太郎 (山口県立大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518933	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ アジアの社会福祉と国際協力 （'14）＝ （R）

英文名＝ [Asian Social Welfare and International Cooperation ('14)]

〔主任講師（現職名）：桂良太郎（立命館大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：西郷泰之（大正大学教授）〕

【本学担当専任教員：松村祥子（放送大学教授）】

講義概要

大きな経済変化を遂げているアジア諸国には、貧困人口の増加、慢性的な失業問題、スラム地域の拡大、保健衛生問題、児童労働やストリートチルドレン、障害者、ジェンダー問題などさまざまな社会福祉問題がある。この科目では、アジアの社会福祉の現状と課題を主要分野（貧困、不平等、子ども、女性、障害、難民など）ごとに取り上げる。対象国としては、中国、ベトナムのような経済発展国の他、タイ、シンガポール、マレーシアなども取り上げる。さらにアジア地域で展開されている国際機関・国際NGO活動と国際協力の状況を示し、課題を明らかにする。

授業の目標

この講義では、アジア諸国の社会福祉の課題を明らかにする。さらに、国境をこえた多くの生活問題への国際機関などの活動を示す。同じアジア地域にあるわが国の立場と使命についても学ぶことができる。急激に変化しているアジアの社会福祉問題はわが国とも大きな関連がある。経済的社会的発展に伴い、生み出される家族・地域の変容に対してどのような政策・制度が適用されているのか。アジアの社会福祉問題の特徴を示し、今後の方向を検討することは日本にとっても、国際社会にとっても重要な課題である。

履修上の留意点

欧米の社会福祉の歴史と展望('11)、現代の生活問題('11)と合わせて受講されるとより理解が深まる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	アジアの社会福祉の特徴と課題	アジア諸国の経済的・社会的・政治的背景と社会福祉の課題 【キーワード】 社会変化の様相、地球市民社会の到来、国際協力の未来像	桂 良太郎 (立命館大学 教授)	桂 良太郎 (立命館大学 教授)
2	貧困と格差	経済的貧困に加えて、社会的不平等が生活問題を拡大している。 【キーワード】 経済的貧困、社会的不平等、生活問題	王 文亮 (金城学院大 学 教授)	王 文亮 (金城学院大 学 教授)
3	子どもと社会福祉	アジアの子どもたちの置かれた状況とそれへの対応 【キーワード】 ユニセフ(UNICEF)、子どもの権利条約、ミレニアム開発目標、権利基盤アプローチ	西郷 泰之 (大正大学 教授)	西郷 泰之 (大正大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	女性と社会福祉	男性と女性の大きな格差が生み出す多様な問題への対応 【キーワード】 ジェンダー 性差別、性別役割分業	新保 美香 (明治学院大学 教授)	新保 美香 (明治学院大学 教授)
5	障害者と社会福祉	障害者のおかれた社会経済的状況とエンパワメント戦略 【キーワード】 障害者、障害者の権利条約、アジア太平洋障害者の十年、自立生活運動	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)
6	難民と社会福祉	アジアにおける難民の状況と難民への支援 【キーワード】 難民条約、難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、難民認定	桂 良太郎 (立命館大学 教授)	桂 良太郎 (立命館大学 教授)
7	アジア各国の社会福祉①中国	都市部と農村部の格差の広がる中国の社会福祉問題について 【キーワード】 経済体制、改革開放政策、一人っ子政策、二重構造	王 文亮 (金城学院大学 教授)	王 文亮 (金城学院大学 教授)
8	アジア各国の社会福祉②ベトナム	ドイモイ政策以降の変化する家族・生活様式と社会福祉の新たな課題 【キーワード】 社会主義体制からドイモイ政策へ、戦争と貧困、急激な高齢化、格差是正のための取り組み	桂 良太郎 (立命館大学 教授)	桂 良太郎 (立命館大学 教授)
9	アジア各国の社会福祉③タイ	貧困問題やエイズの問題に対するタイの社会福祉について 【キーワード】 タイ、仏教、ASEAN、社会的弱者	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)
10	アジア各国の社会福祉④シンガポール	限られた予算で拡大する社会福祉問題にどう向き合っているのかについて 【キーワード】 多民族国家、コムケア (ComCare) CPF	新保 美香 (明治学院大学 教授)	新保 美香 (明治学院大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	アジア各国の社会福祉⑤マレーシア	先住民問題などを含む独自の課題に対するマレーシア型福祉社会構想について 【キーワード】 ブピプトラ政策、先住民問題、ケアリング・ソサイアティ CBR	西郷 泰之 (大正大学 教授)	西郷 泰之 (大正大学 教授)
12	国際機関の活動① 国際連合	アジアの貧困と感性病問題に対する国際連合の取り組み 【キーワード】 国連、貧困、ミレニアム開発目標、感染症、人間の安全保障	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)	中西 由起子 (アジア・ディ スアビリティ・ インスティ テート代表)
13	国際機関の活動②世 界銀行	世界銀行による貧困の緩和と人々の生活向上に向けた支援活動を取り上げる。 【キーワード】 ブレトンウッズ協定、ケインズ経済学、IMF、貧困の撲滅	桂 良太郎 (立命館大学 教授)	桂 良太郎 (立命館大学 教授)
14	国際機関の活動③国 際協力NGO/JICA	国際協力NGOやJICAなどの活動をとりあげて活動実態と課題を示す。 【キーワード】 グローバリゼーション、緊急援助、開発援助、JICA、自助努力支援、人間の安全保障	西郷 泰之 (大正大学 教授)	西郷 泰之 (大正大学 教授)
15	グローバリゼーション の中でのアジアの社 会福祉の展望	グローバリゼーションの中で、アジアの今後の社会福祉を展望する。 【キーワード】 グローバリゼーション、人口移動、難民、移民、参加型地域開発、アジアモデル	西郷 泰之 (大正大学 教授)	西郷 泰之 (大正大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1518615	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 欧米の社会福祉の歴史と展望 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松村 祥子（放送大学教授）〕

講義概要

欧米の社会福祉は、人口構造・家族構造の変化に加えて経済停滞下の財政難に直面している。福祉国家体制を越えた社会福祉システムの構築がどのように実施されているのか、日本とは異なる歴史的過程の中から生み出される数々の試行を検証し、欧米の社会福祉の今後を展望する。

欧米の福祉先進国において20世紀に発達した社会福祉の転換が迫られている。現在、政策・制度の現状と課題だけでなく、歴史の中での制度形成も含めた検討が必要である。この科目では、欧米の歴史をふまえた専門的な講義を作り、欧米と我国の福祉改革の展望を示したい。

授業の目標

各国の社会福祉の歴史と現状について、制度の動向だけでなく、その背景にある経済的、社会的、思想的状況も含めて講義する。

生活と福祉コースの専門科目であるが、他コースの学生にとっても有効な講義となるだろう。

履修上の留意点

福祉領域の科目だけでなく、社会と産業コース、人間と文化コース及び大学院の関連科目（政治学、経済学、歴史学、社会学 等）も併せて学習すると理解が一層深まるであろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	スウェーデンの社会福祉(1)－スウェーデンモデルの仕組み－	スウェーデンの社会福祉を理解するためには、社会保障や福祉の制度だけではなく、雇用との相互関係を見る必要がある。この回では、社会保障制度と雇用制度の連携としての、スウェーデンモデルの仕組みを明らかにし、スウェーデンが大きな福祉国家であるにもかかわらず、安定した経済成長を実現できたのはなぜかを考える。 【キーワード】 積極的労働市場政策、現行所得代替原理、レーン・メドナーモデル、普遍主義、選別主義、翼の保障	宮本 太郎 (中央大学・教授)	宮本 太郎 (中央大学・教授)
2	スウェーデンの社会福祉(2)－スウェーデンモデルの形成－	スウェーデンの社会福祉が形成されてきた歴史を辿る。戦前期に少子化問題を契機に登場した普遍主義的な福祉政策は、戦後期に雇用政策とのむすびつきを強めていった。他方で普遍主義の中身は、均一給付型から所得比例型に変化し、また現物給付（公共サービス）の比重が高くなっていった。こうした歴史的プロセスを理解する。 【キーワード】 国民の家、人口問題、予防的社会政策、豊かな社会、支援型公共サービス、就学前教育、障がい者福祉	宮本 太郎 (中央大学・教授)	宮本 太郎 (中央大学・教授)
3	スウェーデンの社会福祉(3)－転機のスウェーデンモデル－	スウェーデンの社会福祉は大きな転換点に立っている。とくにグローバル化と脱工業化のなかで、労働市場のあり方が大きく変化し、これまで形作られてきた社会保障、福祉と雇用との連携が維持しがたくなっている。社会福祉の改革をめぐる、スウェーデンではいかなる課題が提起され、どのような取り組みがなされているのか。スウェーデンの社会福祉の将来を展望する。 【キーワード】 福祉改革、ワークフェア、ベーシックインカム、民営化、経済競争力	宮本 太郎 (中央大学・教授)	宮本 太郎 (中央大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ドイツの社会福祉 (1) - 貧困の拡大と 最低生活保障 -	貧困とエクスクルージョンとのたたかいを国の課題として、就労可能な生活困窮者500万人(65歳以下人口の10%)に最低生活保障給付と就労支援サービスを提供している現状を確認する。その上で、政策としてのワークフェアやサンクションと社会の人間観、社会秩序などについてのドイツの特色を示す。 【キーワード】 相対的所得貧困、最低生活保障、カテゴリー化	布川 日佐史 (法政大学・教授)	布川 日佐史 (法政大学・教授)
5	ドイツの社会福祉 (2) 労働政策と公的 扶助の交錯・求職者 基礎保障創設への過 程	1990年代末には、労働行政と福祉行政の重なりや負担の押し付け合いが問題になり、別々に失業者に対応するのではなく、「一つの手からの援助」(Hilfe aus einer Hand)が志向されはじめた。2005年の失業扶助廃止、求職者基礎保障創設へとつながり、従来の福祉制度は大きく様相を変えた。 【キーワード】 失業手当、失業扶助、就労扶助(Hilfe zur Arbeit)	布川 日佐史 (法政大学・教授)	布川 日佐史 (法政大学・教授)
6	ドイツの社会福祉(3) 求職者基礎保障制度 の特徴と自治体の役 割	求職者基礎保障は、基本的には、国の労働市場政策の手段と位置づけられた。生活保障金銭給付と就労支援の基本部分は国(連邦雇用エージェンシー)が担っている。ただし、世帯単位に最低生活を保障する制度でもあり、自治体も住宅費や福祉的支援サービスを担っている。 従来の最低生活保障と社会サービス給付の担い手である自治体が、この新制度においてどのような役割を果たしているのか、また、果たすべきなのかという視点から、この制度の特徴を検討してみよう。 【キーワード】 支援と要請、共同体(ARGE)、オプション自治体	布川 日佐史 (法政大学・教授)	布川 日佐史 (法政大学・教授)
7	フランスの社会福祉 (1) - 社会連帯を 実現する仕組み -	“自由・平等・博愛”は、長年にわたりフランス社会の目ざすところであるが、社会福祉の基本理念である“連帯”と“参入”もこれにつながる思想といえる。 個人の生活への介入は嫌うが、個人主義を支えるための社会的つながりを重視するフランス社会において“社会福祉”は重要な役割を果たしている。この回では、フランスの社会福祉がどのような理念と方法で実施されているのかについて明らかにしたい。 【キーワード】 社会保護制度、社会保障金庫、アソシアション、福祉専門職	松村 祥子 (放送大学・教授)	松村 祥子 (放送大学・教授)
8	フランスの社会福祉 (2) - 貧困と社会的 排除への対応 -	世界初の国民扶助の規定(1793年)から200年以上の経過の中で、フランスの社会福祉は独自の発展を遂げてきた。この回では、第一にフランスの社会福祉の歴史を概観し、第二に1980年以降のフランスにおける貧困と社会的排除への対応の現状と課題について検討したい。 【キーワード】 社会扶助、参入最低所得、就業連帯所得	松村 祥子 (放送大学・教授)	松村 祥子 (放送大学・教授)
9	フランスの社会福祉 (3) - 世界に誇る 家族政策 -	世界の最前衛といわれるフランスの家族政策は、人口の少子高齢化、家族の小規模化・多様化への対応と同時に女性の就労促進、賃金格差是正等を目指している。税制上の優遇措置、多種類高水準の家族手当給付及び保育サービス等の施策がどのような背景と仕組みによって実現されているかについて示す。 【キーワード】 出生率、家族の多様化、家族手当、保育サービス	松村 祥子 (放送大学・教授)	松村 祥子 (放送大学・教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	イギリスの 社会福祉 (1) ー福祉サービスの公 私関係の源流ー	イギリスの社会福祉は、「コミュニティ」と呼ばれる地域を基盤に展開されている。また、フォーマルなサービスは、公的部門、民間(非営利)部門、民間(営利)部門との相互関係の中で提供されている。ここでは、どのような経緯で公的部門による援助が行われたのか、どのような背景で民間部門の組織化が行われたのか、イギリスの社会福祉の歴史的検証を通じて分析する。 【キーワード】 救貧法、慈善組織協会(COS)	金子 光一 (東洋大学・教授)	金子 光一 (東洋大学・教授)
11	イギリスの社会福祉 (2) ー新救貧法から福祉 国家形成までー	イギリスは、第二次世界大戦後、福祉国家体制を構築するが、19世紀から20世紀に至る過程においては、依然として行き届いた援助は、それが公的部門の扶助であっても、民間部門の慈善活動であっても、その人間を浪費家に導き、自立心を損ねるという考え方が主流であった。ここでは、新救貧法の時代からベヴァリッジ体制が確立されるまでの課程で、その考え方がどのように変化したかを中心に考察する。 【キーワード】 劣等処遇、貧困調査、福祉国家	金子 光一 (東洋大学・教授)	金子 光一 (東洋大学・教授)
12	イギリスの 社会福祉 (3) ー福祉多元化主義と コミュニティケア改革 の展開ー	第2次世界大戦後に形成された福祉国家体制とそのゆらぎ、1970年代以降のコミュニティケア改革、サッチャーが行った政策とその後の労働党政権下の福祉改革を概観する。また、公的部門の役割に関する課題を明らかにし、近年の就労支援を柱とする福祉政策を検討する。 【キーワード】 福祉多元化主義、コミュニティケア、福祉改革	金子 光一 (東洋大学・教授)	金子 光一 (東洋大学・教授)
13	アメリカの社会福祉 (1) ーデモクラシーの実 践ー	社会福祉は困窮している人々を援ける。でも、だれが、だれを、なぜ？アメリカのデモクラシーは「共通の利益を共同で追求する」場であった。でも、どんな利益を、どのように？本講義の目的は、デモクラシーから社会福祉を照らすこと、また、社会福祉からデモクラシーを照らし返すことにある。この回はアメリカ連邦国家の揺籃期に焦点をあてて、両者の関係を探ろう。 【キーワード】 移民、産業資本主義、救貧制度、企業内福祉、民間福祉	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)
14	アメリカの社会福祉 (2) ー「機会の平等」の拡大と連邦福祉制度の成立ー	1930年代社会保障法成立期と1960年代公民権運動期に焦点をあてて、アメリカのデモクラシーの発展、特に「機会の平等」の拡大と連邦福祉制度の成立の歴史を追う。「機会の平等」は差別の禁止にとどまらず、差別の積極的な是正にも向かう一方で、普遍的な公的扶助を確立するには至らなかった経緯を解き明かす。 【キーワード】 社会保障法、公民権運動、貧困との戦い、コミュニティ・アクション、アフーマティブ・アクション	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)
15	アメリカの社会福祉 (3) ーアメリカ福祉国家の 基本スキームー	グローバルな市場経済システムのもと、ワークフェア政策を進める一方で、障害者福祉を進展させてきた1990年代以降のアメリカに焦点をあて、アメリカ福祉国家のスキームを描く。また、「生存権」規定をもつ日本との比較において、アメリカのデモクラシーの到達点と限界点を明らかにする。 【キーワード】 ワークフェア、障害をもつアメリカ人法、正義の二原理、生存権	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)	後藤 玲子 (一橋大学経済研究所・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528840	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代の生涯学習 （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 岩永雅也（放送大学教授） 〕
 〔主任講師（現職名）： 〕
 【本学担当専任教員： 】【

講義概要

広く人口に膾炙し、さまざまな場面で標語の一部とされることの多い生涯学習を基本概念から問い直し、人の一生におけるその意味と意義について、じっくりと考えることを目的とする。併せて、本科目を学ぶことにより、すでに履修者のほとんどがそのただ中にある自らの学習を振り返り、反省し、評価する機会を得ることを目指す。

授業の目標

人の生涯にわたる発達と生涯学習との関わりについて理解し、それによって自らの知的生活をより高めることを可能にする。また、社会教育主事資格に関連する科目として、社会教育行政に携わるにあたっての基本的な考え方と姿勢、および知識の提供もその目的とする。

履修上の留意点

大学院で開講されている『生涯学習の理論と実践('10)』が、生涯学習の社会との関わり、つまり生涯学習のマクロな側面を扱うのに対し、本科目は個としての人間の発達と生涯学習というミクロな視点から生涯学習に関する議論を進める。その意味で『生涯学習の理論と実践('10)』の基礎にあたる科目という位置付けも可能であるため、その履修に先だって本科目の履修を勧める。

本科目の履修にあたっては、『心理と教育を学ぶために('12)』を履修していることが望ましい。また、『教育と社会('11)』『博物館教育論('12)』『教育史入門('12)』なども併せて履修することを勧めたい。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	人と学習	人は学ぶ生物である。もちろん、学習は人だけでなく多くの生物に見られる行動である。しかし、将来の必要を予測しての学習、体系的な学習、そして学習そのものが自己目的化した学習は、ただ人類だけに与えられた行動特性である。そうした人と学習との基本的な関わりについて、まず教育の原理を踏まえた本質的なところからの考察を行う。 【キーワード】 社会化　本性としての学習　学ぶことの意味	岩永雅也 (放送大学・教授)	岩永雅也 (放送大学・教授)
2	生涯発達と学習	ハヴィガーストやエリクソンらによる発達課題研究は、ライフサイクルという概念を通じて、生涯にわたる発達と学習の関わりを明らかにしている。それらの知見を手がかりに、種々の社会的目標の達成、そして自己実現を目指す生涯学習の意味を検討する。とりわけ、学校教育における学習者とはさまざまに異なる特性を持つ成人の学習について、ノールズのアンドラゴジーを手がかりに考察する。また、高齢者の学習についても検討する。 【キーワード】 生涯発達　ライフサイクル　人生の午後　結晶性知力　マズロー　自己実現　アンドラゴジー　ノールズ	岩永雅也	岩永雅也
3	学びの源流	西欧社会の学びの源流は、遠く古代ギリシアまで遡ることができる。その後、中世キリスト教による宗教教育の時代を経て、現代の生涯学習につながる近代的な教育思想が形成されるに至った。また、日本もその一員である東アジアの社会では、伝統的に学ぶことに対して重要な意味を付与していた。西欧社会および東アジア社会における近代学校教育成立以前の学習概念を、代表的な思想家の学習観を通じて理解していく。 【キーワード】 プラトン　セネカ　儒教　四書五経『礼記』李栗谷　コメニウス　コンドルセ	岩永雅也	岩永雅也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	成人教育と生涯学習	成人教育は、現代の生涯学習に先行する学習のあり方であり、現在でもなおその存在意義を失っていない。本来的には教育の対象ではないはずの成人になぜ教育が求められたのか、それはどのような形態を持ち、どう実践されてきたのかを、広く世界に目を向けつつ明らかにし、その上でさまざまな成人教育を踏まえて提唱された生涯教育、生涯学習の概念について考察する。 【キーワード】 社会教育 ユネスコ ラングラン 生涯教育 OECD リカレント教育 フォール・レポート ハッチンス 学習社会	岩永雅也	岩永雅也
5	政策としての生涯学習	1980年代後半の臨教審答申と、それを受けて成立した90年の「生涯学習振興法」により、生涯学習体系への移行という国の政策はきわめて明確なものとなった。それに伴って、地域の現場では教育委員会による社会教育行政と、首長部局による生涯学習行政との並立という状況が出来た。そこで何が変わり、どのような状況が生じたのか、学習者にとってそれにはどのような意味があったのかを明らかにした上で、現在の生涯学習行政について検討する。 【キーワード】 臨教審 新自由主義 教育改革 セーフティネット論 「生涯学習振興法」 首長部局	岩永雅也	岩永雅也
6	社会教育の変容と公民館	戦後長らく日本の成人教育を担ってきた社会教育は、臨教審答申と「生涯学習振興法」により、大きな転機に立たされることとなったが、既にそれ以前から、社会情勢の変化を踏まえた社会教育不要論は展開されていたのである。しかし、現在においてもなお公的な生涯学習機会の必要性は決して減退しているわけではない。社会教育施設の象徴ともいべき公民館の動向と併せ、社会教育の変容と今後の可能性を探る。 【キーワード】 社会教育 社会教育法 『社会教育の終焉』 教育委員会 社会教育主事 公民館 コミセン	岩永雅也	岩永雅也
7	余暇活動と生涯スポーツ	高齢化や労働環境の変化、あるいは少子化などによる主婦のライフコースの変化に伴って、自由に使える時間というものがあり方が大きく変わってきている。それによって、われわれの生活における余暇のあり方も変化している。ここでは生涯学習とも非常に関わりの深い余暇と、さらに余暇に行われることの多い生涯スポーツ活動について、大局的な視点から考察していく。 【キーワード】 労働時間 余暇時間 余暇活動 レクリエーション 参加型スポーツ アクティブ・スポーツ人口 生涯スポーツ Sports for All スポーツ振興基本計画 総合型地域スポーツクラブ 社会体育施設	岩永雅也	岩永雅也
8	指導者とリーダーシップ	本来ボーダレスな生涯学習にあっては、指導者と学習者の境界も曖昧であることが多い。また、学習集団もピアグループとしての性格を持つため、そこに必ずしも明瞭なリーダーシップが見られるわけではない。しかし、今後生涯学習がより高度で持続的なものとなっていくためには、その二つの要素が何より必要不可欠である。ここでは生涯学習の指導者と学習集団におけるリーダーシップの問題を総括的に考えていく。 【キーワード】 学習グループ リーダーシップ 学習コーディネーター 地域人材の育成 社会教育主事 行政の役割 大学	岩永雅也	岩永雅也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	生涯学習の評価	生涯学習は、ややもすると施設や機会の提供、支援システムの構築といったインプットのみで語られがちであって、その成果や学習者の達成についての評価調査が見落とされる傾向にある。ここでは、生涯学習への評価および学習者の意識などを調査する具体的な方法について学習する。 【キーワード】 費用＝効果分析 自己評価 生涯学習調査 量的調査 質的調査 クロス表	岩永雅也	岩永雅也
10	生涯学習市場	「生涯学習振興法」の成立により、生涯学習分野への民間企業体の進出も可能となった。いわゆる生涯学習市場が大規模に形成されることとなったのである。それが何を变え、どのような活動が始まり、それがどう評価されているのかについて、実証的な考察を行う。 【キーワード】 市場の拡大 潜在需要 資格 キャリアアップ 教育訓練給付制度 通信教育	岩永雅也	岩永雅也
11	大学と成人学習者	日本の大学は、戦後長い間、18歳～25歳のいわゆる伝統的需要者層のみをその教育の対象としてきた。しかし、傾向的に進んだ少子化と景気の後退により、多くの大学が社会人学習者に対しても関心を持たざるを得なくなった。大学が社会人学習者をどのような存在と考え、どう対応してきたのか、主に1990年代から今日までの変遷を辿りながら考えていく。 【キーワード】 大学の社会貢献 大学開放 大学公開講座 社会人学生 大学院 eラーニング	岩永雅也	岩永雅也
12	家庭・学校・地域との関わり	核家族化と地域共同体の解体、そして社会の無縁化の進展により、現代の家族は十分な教育力を維持できなくなっている。また、それを取り巻く地域社会も、人間関係の希薄化と共同活動機会の喪失により、子どものみならずそこに住む全ての人々に対する教育力を失いつつある。ここでは、従来別々に考えられがちであった家族内における教育と地域の教育力、そして学校教育が関わるとされる生涯学習機会について考えていく。特に、近年の社会と学校との連携、融合について、その現状と課題を考察する。 【キーワード】 核家族 少子化 地域共同体の解体 学社連携 学社融合 放課後子育て支援 スクールパレット 地域学校協議会 まちづくり	岩永雅也	岩永雅也
13	海外の生涯学習(1)	日本の生涯学習について考える上で、他の諸国の生涯学習の現状を知ることは重要である。本章と次章では、海外の生涯学習の現状と歴史、およびその特色を紹介する。本章では、近代学校教育制度が発祥し、生涯学習理念もそこに起源を持つヨーロッパ諸国を中心に引き上げ、その伝統と社会変動との狭間で多様な可能性を模索する現状を紹介する。 【キーワード】 イギリスの成人教育 職工講習所 ポリテクニク チャーティスト運動巡回講義 大学拡張 WEA チュートリアル 公開大学 フランスの継続教育ランジュヴァン・ワロン改革案 有給教育休暇制度 コミュニ アソシエーション アニマシオン アニマトゥール 民衆教育普及協会 総合教育計画 市民大学(フォルクスホップシューレ)	岩永雅也	岩永雅也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	海外の生涯学習(2)	前回に引き続き、海外の生涯学習の状況を紹介する。現在生涯学習の最先進国と目されているアメリカ、さらに、ヨーロッパから100年以上も遅れて近代化の歩みを開始したアジアの二つの国、中国と韓国がその対象である。これらの国々では、社会経済的発展の過程もヨーロッパ各国とは大きく異なり、また、それ故に生涯学習を取り巻く環境も著しく違っている。それらの国々における生涯学習の状況を把握することによって、ヨーロッパの諸国とは異質の観点から生涯学習システムを見ることができる。 【キーワード】 成人教育 移民国家 新移民 ライシウム運動 アメリカ化プログラム 大学開放 モリル法 シャトウカ運動 成人基礎教育 成人中等教育 コミュニティカレッジ 継続教育単位 業余学校 電視大学 平生教育 セマウル運動 平生教育法 平生教育体制 平成学習社会	岩永雅也	岩永雅也
15	メディア利用とネットワーク	ICTに関わる技術の著しい進歩により、生涯学習者が利用できる教育デバイスの種類は飛躍的に増加した。その中心はインターネット関連の諸技術である。現在、どのような技術が生涯学習に利用されているのか、また近い将来、どのような技術の利用が可能なのか、多角的に検討する。さらに、そうした技術の進展を踏まえ、地域発の自発的、自律的な学習をどのように連合連帯してより効率的、効果的な学習実践にしていけるかについて、つまり生涯学習の有効なネットワークについても考える。 【キーワード】 メディア インターネット 放送 eラーニング 公開大学 バーチャル大学 ブレンディッド・メディア ハード・ソフト・ネット 社会教育主事 地域学習指導者 地域発学習 自律性と公共性 生涯学習社会	岩永雅也	岩永雅也

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528831	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) 地域社会の教育的再編 ('12) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 岡崎友典 (放送大学准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 夏秋英房 (國學院大學教授) 〕

【本学担当専任教員 : 〕

講義概要

本科目は、人間の成長・発達といった、社会的な作用(教育)を中心に、なう家庭と学校が、人間の共同生活の場としての「地域社会」とどのように関連しているかを「地域教育」および「コミュニティ教育」といった視点から明らかにすることにある。学校、家庭、地域の「運携・融合」の必要性が叫ばれているが、これは子どもだけではなくおとなを含め、人間形成に果たす地域社会の教育力が極端に弱体化した、というよりも、地域社会そのものが成立しなくなるなかで、日常生活の場としての地域社会がこれまで保有する「教育機能」を再生させることの必要性についてについて明らかにする。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐる、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではない。本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用(教育)を中心に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域社会」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、地域社会を教育の視点から再生・創造させるための条件について、全国各地の具体的な事例をととして、現代日本の教育課題として提示することを目的とする。

履修上の留意点

履修者が、身近な地域社会(出身地や現住地)での生活体験、とくに教育・学習体験を「対象化」してとらえることにより、そこに内在する社会的な課題・問題を認識し、その解決の方策を探索するための、「基本的知識」と「実践力」をつけることを目指す。そのため、以下の関連科目をも、並行して学習することを勧める。
「教育と心理の巨人たち('10)」、「道徳教育論('09)」、「児童・生徒指導の理論と実践 ('11)」

回	テ マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育環境としての地域社会(導入)～教育環境の類型～	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、そこに内在する学習上の課題について提起する。家庭、学校と地域社会の構造的性質について提示する。 【キーワード】 地域社会 都市化 地域開発 教育環境の構造 環境要因	岡崎 友典	岡崎友典 夏秋英房
2	地域教育の創造と展開(1)～近代学校の成立と通学区～	教育の中心的な役割を担う学校が、家庭と地域社会と一体となって、次世代を育成するうえで、地域社会の有する人間形成機能を「地域教育」といった新たな教育概念で捉え、近代学校の成立以降の学校と地域社会の基本的な関係について具体的な事例に沿って明らかにする 【キーワード】 近代学校 公教育 番組小学校 住民の自治組織 町組	岡崎 友典	岡崎友典 夏秋英房
3	地域教育の創造と展開(2)～学校統合と通学区の再編	人口の地域分布変動、とくに都市中心市街地の人口の急激な減少に伴い、義務教育学校(小中学校)統廃合が各地で行われている。子どもたちの通学区域の変更による地域コミュニティの変容過程について具体的な事例をもとに考察する。 【キーワード】 学校教育、学習社会、地域教育、コミュニティ・スクール	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	地域社会と学校 ～「開かれた学校」の 動向と展望～	学校教育制度は近代化のための社会的装置として地域社会と密接に関わりつつ、地域社会の差異を超えて平準化した教育を実現してきた。しかし、国際化や情報化に対応し個性化を進めるために、「開かれた学校」が臨時教育審議会で求められた。学校と地域社会が施設や資源を共有することから、学校の運営に地域住民が参画することへと移行してきた過程と現状を考える。 【キーワード】 社会化空間 学校開放 学校支援地域本部 学校運営協議会制度	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
5	少子社会における家族と子どもの地域生活	産業構造の転換により、家族のあり方と生活様式(ライフスタイル)が大きく変容し、子育てに係わる不安や教育の格差が広がり、多様な子育て支援が必要である。また、地域との関わりの低下や仲間集団の変化によって子どもの生活体験の不足が指摘され、その影響の大きさが懸念されている。現状と対策について考察する。 【キーワード】 家族 子ども・子育て支援 PTA 仲間集団 放課後子ども教室	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
6	地域福祉と教育(1) ～家族の教育機能の変容～	地域の福祉と教育の関係について、家族の教育機能の視点から考察する。とくに大都市地域における保育所や児童養護施設、自立支援施設、高齢者介護施設などの具体的な実践事例に即して分析し、教育と福祉と境界領域における課題を探る。 【キーワード】 子育て支援 児童福祉 保育所 児童養護施設	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
7	地域福祉と教育(2) ～誰もが住みやすい 地域づくり～	現代社会は「共生」を原則としている。高齢者福祉、障害者福祉など日常生活に支援を必要とする人々が、地域社会のなかで「共生」するためには、どのような施策と教育が必要か。誰もがより豊かな生活を送れる地域創りの条件について具体的な事例をとおして明らかにする。 【キーワード】 共生 高齢者福祉 障害者福祉 グループホーム	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
8	地域社会の活性化と 教育事業 ～都市と農山村の交 流～	地域社会がその自然的・社会的条件を生かして、自治体としてその活性化を目指して、全国各地でさまざまな実践を行っている。とくに「生涯学習とまちづくり」、「都市と農山村の交流事業」などが、地域社会の教育機能を生かして行われている。地域社会の活性化に際して、地域の各種行事が果たす役割について考察。 【キーワード】 まちづくり 山村留学 地域間交流	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
9	地域文化の継承と創 造(1) ～「伝統と文化」の継 承～	教育基本法第2条は「伝統と文化を尊重」と定め、平成20年の学習指導要領も「伝統を大切に」と定めている。(1)では、地域生活のなかから生み出されてきた地域文化のなかでも、祭礼行事や郷土芸能などの継承と教育の関係について、具体的な事例に即して考察する。 【キーワード】 郷土教育、地域社会の歴史・伝統・文化	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房(春日)
10	地域文化の継承と創 造(2) ～新たな文化の創造 ～	(2)では、急激に変動する地域社会のなかで、新たに創造される地域文化の果たす役割を、文化の基本的な概念をふまえ、文学や地域の産業(地場産業や観光)などの具体的な事例に即して考察。 【キーワード】 生活文化 社会規範 郷土カルタ 文化変容 地場産業	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	アートとスポーツによるまちづくり ～市民主体の芸術とスポーツ活動をととして～	本質的には遊びの要素を持つアートとスポーツが、地域住民の自主的な活動として行政や経済活動と連携しながら展開されることにより、新たな地域社会の創造に寄与する過程を考察する。地域文化を創造する営みとしてアートを取り上げ、つぎに地域スポーツの普及啓発活動について考えてゆく。 【キーワード】 地域文化 アート 生涯スポーツ マネジメント	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
12	地域文化による地域おこし ～地域資源の発見とグリーンツーリズム～	都市化が急速に進んだ現代社会にあって農山村における自然・社会体験が、子どもだけでなく大人の教育・学習にとって重要な役割を果たしている。そのようなニーズは地域資源の発見・利用による都市－農村間の交流人口の増加の増加と雇用の創出・集落再生につながるるとともに、場所それ自体を視覚的消費の対象としてゆく。 【キーワード】 交流人口 自然・社会体験 地域資源 グリーンツーリズム	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
13	人材の養成と移動 ～職能形成の過程～	社会人としての能力とくに職業人としての能力(職能)形成が、学校教育を土台としてどのような過程を経て行われるかについて、義務教育終了後の個人のライフコースに沿って具体的な形態・内容について明らかにするとともに 人口の地域間移動にともなう異文化体験について考察。 【キーワード】 人口の地域分布変動 新規学卒者 移動と定住 U・J・Iターン	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
14	多文化共生と地域教育 ～国際化する地域社会～	グローバル化が急激に進展するなかで、地域住民にはローカリティの再発見が求められている。学校における「国際理解教育」、また自治体や民間の手によるさまざまな「交際交流事業」の実践を検討することによって、教育上の課題を明らかにする。地域住民の国際化、異文化間交流・文化変容の過程と多文化共生について考察する。 【キーワード】 国際化 国際交流 異文化間教育 多文化共生	夏秋英房	岡崎友典 夏秋英房
15	学習社会の教育課題(まとめ) ～地域社会に果たす教育の役割～	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。社会における地域教育の役割と可能性について提示。 【キーワード】 学習社会 生涯教育 教育の再生 教育改革	岡崎 友典	岡崎友典 夏秋英房

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528866	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 家庭教育論 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：住田 正樹（放送大学教授）〕
 〔分担講師（現職名）：天童 睦子（名城大学教授）〕
 〔分担講師（現職名）：田中 理絵（山口大学准教授）〕

講義概要

家族は子どもが生まれると同時に所属する集団であり、子どもの発達にとっても最も基礎的、かつ重要な集団である。子どもが家族集団のなかで習得した価値・規範や思考・行動様式は、その後の子どもの発達を大きく規定し、方向づけていく。家族は子どものベースを形成し、一定の方向に向けていくのである。

この講義では、家庭教育を家族集団のなかでの子どもの発達に関わる事象として広義に捉え、子どもの発達過程およびその発達過程に関わる諸問題、また親の問題、家族の問題をも取り上げて実証的に考察していく。

授業の目標

子どもは、とくに幼少時の子どもは、家族集団が唯一の世界であるから家族集団のなかでのあらゆる事象からさまざまな社会化作用を受けつつ発達していく。だが、家族集団のなかでの子どもの発達過程は、家族集団の背後にある全体社会のあり方によって強く規定されている。

この講義では、家族集団のなかでの子どもの発達過程および諸問題を全体社会のあり方と関わらせて理解し、考察していくための社会的視点を得ることを目的とする。

履修上の留意点

発達心理学や家族心理学といった隣接科目をも履修しつつ、あるいは履修した上で、この講義を聞けば理解しやすいだろうし、また新聞、テレビ等で報道される家族や子どもに関する今日的な諸問題あるいは投書欄等の人々の、家族や子どもについての意見に関心を払いつつ講義を聞けば、より一層理解が深まるだろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
第Ⅰ部 現代家族と家庭教育				
1	子どもの発達と家庭教育	子どもの発達にとって家族は最も基礎的、かつ重要な集団である。だが子どもは家族を選べない。家族は子どもにとって運命的な集団である。家族集団の特徴および子どもの発達過程における家族集団の役割について考える。 【キーワード】 発達、社会化、家族集団、第一次集団、家庭教育	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
第Ⅱ部 家族における子どもの発達				
2	家族と子どもの発達 (Ⅰ) －母親の役割－	子どもが誕生して最初に接するのは母親である。母親は子どもの発達過程においてどのような役割をもっているのか。その母親の役割は子どもの発達とともにどのように変わっていくのか。 【キーワード】 口唇危機、口唇依存期、母子一体性、肛門位相、排泄の訓練、愛の相互作用	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
3	家族と子どもの発達 (Ⅱ) －父親の役割－	父親が父親の役割をもって子どもの前に登場するのはおよそ3歳前後からである。子どもの発達過程における父親の役割とは何か。また子どもの発達に伴い父親の役割はどのように変化していくのか。 【キーワード】 エディプス位相、性役割、手段的役割、表出的役割、同性モデル、父親の権威	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	家族と子どもの発達 (Ⅲ) ー性役割の学習ー	子どもは、家族内での初期的社会化を通して、その社会・文化において適切とされる性役割を学習する。これを「性の社会化」という。家族集団における性の社会化のメカニズムについて概観し、親の性役割意識のゆれと子どもの性の社会化との関係について考える。 【キーワード】 性役割、ジェンダー、性の社会化	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
第Ⅲ部 家庭教育の諸相				
5	育児観と子ども観の変容	育児意識や育児のあり方は時代とともに変化する。親の育児・教育観、子どもの意味と価値はどう変わったか。現代の育児問題や子育ての困難を相対化し、歴史的視点から江戸期から現代までの育児観、子ども観の変容を社会変動とのかかわりで考える。 【キーワード】 社会化エージェント、子どもの価値、子育ての社会史、家庭の誕生、近代家族	天童睦子(名城大学教授)	天童睦子(名城大学教授)
6	親になる過程 ー親役割の取得ー	子どもを持つこと、育てることが家族にとって、また女性の人生の一大イベントとして位置づけられる現代社会において、ライフコースの多様化とともに、親になることの意味、親アイデンティティのあり方も変化している。本章では、親役割の取得と「親になること」による親自身の社会化を検討する。 【キーワード】 女性のライフコース、未婚化・晩婚化、親アイデンティティ、親役割、親の社会化	天童睦子(名城大学教授)	天童睦子(名城大学教授)
7	母親の育児不安 ー夫婦関係を中心にー	誰しも育児に不安をもつ。だが育児肯定感を上回るほどの育児不安は問題である。育児不安にもさまざまなタイプがあるが、今日の母親が育児不安に陥る社会的背景は何かを考える。 【キーワード】 育児不安、夫婦関係、父親の育児態度、精神的サポート	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
8	父親の育児参加	父親の育児参加の重要性が言われて久しいが、日本の男性の育児休業取得率は依然として低い。父親の育児参加をめぐる言説と現実を整理し、父親たちの家族意識、子育て意識に注目しながら家族にやさしい社会のあり方を考える。 【キーワード】 父親の再発見、育児休業制度、パパ・クォータ制、ケアラーとしての男性、ワーク・ライフ・バランス	天童睦子(名城大学教授)	天童睦子(名城大学教授)
9	育児環境の変化と育児支援	子どもを産み育てやすい環境整備の充実は、家族にとって重要な課題である。本章では都市環境における子育ての困難に注目し、育児環境の変化を家族の育児資源の不充足の背景要因とともに考える。また、育児政策、家族政策の変遷をたどりながら、とくに少子化時代の子育て支援の課題を検討する。 【キーワード】 都市型コミュニティ、公園デビュー、育児資源、少子化、子育て支援	天童睦子(名城大学教授)	天童睦子(名城大学教授)
10	しつけの混乱 ー親の不安と戸惑いー	しつけは、社会化の一形態であり、家庭教育を考えるうえで欠かせない課題である。家庭のしつけ力の低下を危惧する向きがあるが、はたして現実はどうか。しつけをめぐる不安、混乱の背景をさぐり、社会統制としてのしつけの変容と、現代のしつけの課題を理解する。 【キーワード】 家庭のしつけ、社会化と社会統制、見えない教育方法、育児不安、祖父母力	天童睦子(名城大学教授)	天童睦子(名城大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	父親の不在	現代の産業社会は「父親なき社会」といわれている。その理由は何なのか。そして父親の不在は父親の物理的不在と精神的不在とに分けられるが、いったいに父親不在は子どもの発達にどのような影響を及ぼすかについて考える。 【キーワード】 父親不在、権威の喪失、夫婦関係、子どもの問題行動	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
12	ひとり親家族と子どもの生活	ひとり親家族とは、母親／父親と未成年の子どもからなる家族形態をさすが、その多くは母子家庭であり、離婚率の上昇を背景にその割合も増加傾向にある。ひとり親家族の背景・現状を踏まえながら、子どもの生活面における諸問題について考える。 【キーワード】 ひとり親家族、離婚、経済的困窮	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
13	児童虐待のメカニズム	1990年代以降、児童虐待に対する社会的関心が高まり、現在、国家的対策を要する社会問題として認識されている。児童虐待の発生のメカニズムと社会的対策について考える。 【キーワード】 社会問題、児童虐待、リスクアセスメント	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
14	親子関係と子どもの問題行動	子どもの問題行動の原因・責任は親、あるいは不適切な親子関係にあると考えられる傾向にある。一般少年と非行少年の調査結果を比較考察しつつ、親子関係と子どもの問題行動との関連について検討する。 【キーワード】 非行、重要な他者、親役割	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
第IV部 家庭教育の課題				
15	社会の変化と家庭教育	社会の変化とともに家族も大きく変化してきた。家族はどのように変化してきたのか。そして家族の変化に伴って親子関係はどのように変容し、また家庭教育にどのような問題が生じるようになったのか。今後の家庭教育の課題について考える。 【キーワード】 私生活化、少子化、個人主義、家族機能、子ども観、価値の多様化、家族の孤立	住田正樹 (放送大学教授) 天童睦子 (名城大学教授) 田中理絵 (山口大学准教授)	住田正樹 (放送大学教授) 天童睦子 (名城大学教授) 田中理絵 (山口大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1527614	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 児童・生徒指導の理論と実践 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：住 田 正 樹 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：岡 崎 友 典 （放送大学准教授） 〕

講義概要

児童・生徒指導は学習指導とともに学校教育の重要な機能であり、児童・生徒（幼児を含む）の人間性の発達を目的とする教育活動である。この講義では学校教育活動の基本的単位である学級集団に焦点を合わせ、学級集団において教師が児童・生徒を指導し、支援していくための諸方法について考察する。とくに児童・生徒理解の方法、学級集団活動、児童・生徒の問題行動、学校の指導体制といった実践的な問題を中心に考察していく。

授業の目標

児童・生徒指導を効果的に進めていくためには、児童・生徒の考え方や生活行動を理解するとともに、家庭や地域といった生育環境の状況についても把握しておかなければならない。児童・生徒を理解することは児童・生徒指導の基礎である。この講義は児童・生徒を理解し指導していく上での基礎的な知識の習得を目的としている。

履修上の留意点

児童・生徒を指導していくためには幼児期から児童期、青年期にいたる発達段階のそれぞれの心理的特徴や社会的地位・社会的状況について広く理解しておかなければならない。子ども・青年の発達に関する心理学や社会学、また教育学など幅広く学習し、人間の発達に関する理解を深めていただきたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
第Ⅰ部 児童・生徒の理解と方法				
1	児童・生徒指導と児童期・青年期の社会的地位	児童・生徒指導は学習指導とともに学校教育において重要な機能をもつ。ここでは児童・生徒指導の目的、対象、方法および児童・生徒指導の基本的な考え方について述べるとともに幼児、児童、青年の発達段階における社会的な特徴について述べる。 【キーワード】 個性化、社会化、規範的文化、認知的文化、自己意識、自己指導能力、発達課題	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
2	児童期・青年期の心理的特徴	児童期～青年期は子どもから大人へと心理的な変化も著しい時期である。児童・生徒指導においては、発達段階や発達課題の観点から問題を理解し、子どもの状態に見合った指導を行うことが重要である。ここでは、小学校低学年、中学年、思春期、中学校後半、高校と、心理的な特徴で区切った各時期について、その特徴と心理的課題について検討する。 【キーワード】 発達課題、児童期、思春期、青年期	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)
3	児童・生徒理解の方法	児童・生徒理解は児童・生徒指導の基盤である。児童・生徒理解のためには多様な資料を収集し、さまざまな視点から児童・生徒を理解しなければならない。児童・生徒理解の方法、資料収集の方法について述べ、また児童・生徒理解にもとづいた個別指導と集団指導について述べる。 【キーワード】 児童・生徒理解、観察法、検査法、調査法、ソシオメトリック・テスト、個別指導、集団指導	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
第Ⅱ部 学級活動と児童・生徒指導				
4	児童・生徒集団の構造	児童・生徒指導は児童・生徒理解の上になされるものであるが、そのためには児童・生徒個人の理解だけにとどまらず、児童・生徒集団をも理解することが必要である。児童・生徒集団は単なる集合体ではなく独自の構造・機能・文化をもつのであって、したがって児童・生徒集団をとらえるためには、その集団的特徴を理解することが必要となる。 【キーワード】 生徒集団の構造と機能、学校文化、生徒文化、逸脱的生徒集団	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
5	教師と児童・生徒の関係	教師と児童・生徒との関係は児童・生徒の学力や学習態度、学習行動に大きな影響を及ぼす。教師の、どのような感情的な態度や指導態度、また教師の、どのようなリーダーシップが児童・生徒の学力や学習態度、学習行動にどのような影響を及ぼすのかについて考える。 【キーワード】 教師期待、ピグマリオン効果、ハロー効果、自己成就的予言、教師のリーダーシップ、教師の勢力資源	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)
6	児童・生徒指導と教師集団の組織的対応	学校内での児童・生徒への支援には、組織的な対応が欠かせない。問題行動についても組織的な対応が有効な場合も多い。特別支援教育や不登校・いじめなど児童・生徒指導に関わるさまざまな支援について、組織的な対応の必要性和具体例を検討する。また、それらを支える同僚性や教職員間の連携・協働・チームでの支援についてもふれる。 【キーワード】 協働、チーム支援、同僚性	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)
7	児童・生徒指導と学級づくり	学級は子どもの学校生活の基本的単位であり、児童・生徒指導の中心である。学級を集団として指導(集団指導)するためには「学級づくり」が重要であり、これを学習指導からの側面と学級活動を通しての人間関係の側面から明らかにし、子どもが自立していく過程を事例を通して明らかにしていく。 【キーワード】 学級担任制度、学級王国、ティーム・ティーチング	岡崎友典 (放送大学准教授)	岡崎友典 (放送大学准教授)
第Ⅲ部 児童・生徒の問題行動と指導				
8	子どもの心の健康と指導 ～不登校を中心に～	不登校にはさまざまなタイプがあるが、心の健康に関する課題を背景として抱える例も少なくない。子どもの心の健康には、本人の発達課題や環境要因も関わっている。本章では、学校内で支援や配慮が必要になる心の健康について、不登校を中心に理解と配慮のこつについて検討する。 【キーワード】 メンタルヘルス、不登校、環境要因、危機理論、スクールカウンセラー	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)
9	いじめと非行	社会の急激な変化に伴い、児童・生徒の問題行動の様式も変化してきた。子どもの問題行動への対応は児童・生徒指導の中心的課題であるが、そのためには、問題行動の要因と背景を客観的に検討し、その対応方法について理解を深める必要がある。本章では、児童・生徒の問題行動のなかでも特にいじめと非行の問題に焦点を当てて考えていく。 【キーワード】 少年非行、いじめの進行プロセス、心の問題、原因論的アプローチ	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	児童虐待	近年、児童虐待は深刻な社会問題として広く認識されている。児童虐待防止に関連する各種法制度の整備に基づき、学校および教職員に対しても適切な役割を果たすよう、早期発見の努力義務や関係機関への通告義務などの役割が課されるようになった。本章では、児童虐待への社会的関心が高まった背景について理解した上で、学校に期待される役割についてみていく。 【キーワード】 児童虐待の「深刻化」「激増」、早期発見・早期通告、学校・教職員の役割と限界	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
11	教育相談と児童・生徒指導	かつて「教育相談」と「生徒指導」は相対立するものとして捉えられがちであったが、現在では、教育相談は児童・生徒指導の中心的な役割を担うものとされている。教育相談の基本的な考え方やすすめる方と共に、本章では教育相談と児童・生徒指導を統合した具体的な指導内容として、近年ますます強調されつつあるガイダンスに焦点をあてる。 【キーワード】 教育相談、ガイダンス、生徒指導 提要、キャリア教育	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子 (お茶の水女子大学大学院准教授)
第Ⅳ部 児童・生徒指導の体制				
12	学校と家庭 ～教師と親との関係～	児童・生徒指導は、すべての児童・生徒の人格発達を目指し、学校生活を充実させることを目的とするものであるが、そのためには教師と児童・生徒との関係のみならず、学校と家庭との連携も重要であり、教師にはその中心的役割を果たすことが期待されている。教師と親との関係は、児童・生徒指導体制にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 【キーワード】 学校と家庭の連携、学校観、教師に対する期待と不安	田中理絵 (山口大学准教授)	田中理絵 (山口大学准教授)
13	校外指導と地域社会	児童・生徒指導は学校内だけでなく、学校外＝放課後の生活においても行われる。子どもたちが生活している家庭・地域環境の実態はどうか。校外指導は地域社会の住民組織や教育関係団体・組織と連携しつつ行われなければならないが、その実態と指導上の課題について事例を通して明らかにする。 【キーワード】 校外生活、居場所、地域住民組織、コミュニティ・スクール	岡崎友典 (放送大学准教授)	岡崎友典 (放送大学准教授)
14	学校の指導体制	組織としての学校では「校務分掌」として生徒指導主任（主事）が置かれており、生徒指導に関わる「連絡調整及び指導・助言」を行っている。この主任を中心にした学校の指導体制の実態、また学校規模、学校段階、あるいは地域社会による指導体制の違いを事例を通して明らかにする。 【キーワード】 生徒指導主任、教育相談体制、PTAとの連携	岡崎友典 (放送大学准教授)	岡崎友典 (放送大学准教授)
第Ⅴ部 児童・生徒指導の現代的課題				
15	児童・生徒指導の現代的課題	社会の急激な変化にともなって児童・生徒の考え方や行動も多様化し、教師や保護者も今日の児童・生徒を理解することが困難になってきた。こうした状況に対して教師や保護者はどのような対応が可能であり、どのように対処していけばよいのか。またどのような対策が有効なのかについて考察し、今後の児童・生徒指導のあり方を考える。 【キーワード】 私生活化、児童・生徒指導体制、教師－児童生徒関係の信頼性、教師集団の統一 的対応、外部関連機関との連携	住田正樹 (放送大学教授)	住田正樹 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1527711	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア） 乳幼児の保育と教育 （'11）＝（R）
－子どもの最善の利益を求めて－

〔主任講師（現職名）：岡崎 友典(放送大学准教授) 〕

〔主任講師（現職名）：林 信二郎(埼玉大学名誉教授) 〕

講義の概要

乳幼児の保育が、「子どもの最善の利益」をもたらすものとなるためには、どのようにあるべきかを基本的視点として、保育所や幼稚園で働く保育者にとって必要と考えられる知識や理解、実践事例などを取り上げる。また、保護者や身近な地域住民などが、乳幼児期の保育と教育の基本原則を学び、それを実践につなげる方途を考える。さらには、少子化や国際化が進む日本の保育・教育の今日的な課題を、育児支援や多文化保育の視点から考察する。

授業の目標

児童虐待に代表される子育てをめぐる問題、少子化対策という国家的課題などの中で、保護者だけでなく、乳幼児の保育や教育にかかわる指導者が、子どもたちの存在をどのように受け止め、その可能性の実現のためにどのように援助すべきかについて明らかにする。あわせて、これから保育の仕事に就こうと志している方に、保育についての基本的知識や理解を提供する。

履修上の留意点

この機会に、身近にいる乳幼児の生活や育ちに目を向けるとともに、保育所や幼稚園の存在と、その意義などに関心を持ってほしい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	乳幼児を育てること	少子化対策ともかかわって、乳幼児を育てることの意味とそのあり方が、さまざまに論議されている。一方、教育基本法の中に、家庭教育と幼児期の教育が、新たに位置づけられるに至った。ここでは、乳幼児を育てることの意味と、家庭、保育所、幼稚園のあり方を、それにかかわる用語の整理を含めて取り上げる。 【キーワード】 種の持続、個体の保存、教育基本法、生命の再生産、エネルギーの再生産、子どもの社会化、保育と教育	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
2	乳幼児の発達理解と保育	保育の特質をもたらすものとして、その対象が乳幼児という未成熟な状態にあることが挙げられる。そのため、養護と教育が一体として進められなければならない。この乳幼児期の発達の特徴をどのように理解するかが、保育のあり方に大きく影響する。 【キーワード】 発達と発達観、未成熟性、相互依存性、発達課題、エリクソン、個人差と個性差	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
3	家庭での生活とそこでの育ち	子どもは、家庭に生まれ、そこで育つ。その家庭は子どもにとって運命的存在であるが、その家庭も、社会の諸条件や変化と無関係ではいられない。ここでは、家庭の教育的機能を社会学的視点からとらえ、統計や調査結果を援用して、明らかにしようとする。 【キーワード】 ライフサイクル、家族の役割と機能、マザリング、愛着、母子相互作用	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	保育所での生活とそ こでの育ち	保育所は、制度的には厚生労働省が管轄する「保育に欠ける乳児または幼児を保育する」児童福祉施設として位置づいている。その保育所が、乳幼児に対してどのような生活の場を用意しているのかを、その歴史を概観し、基本的考え方と保育の内容を取り上げる。 【キーワード】 保育所の歴史、児童福祉法、保育所保育指針、保育の内容、特別保育事業	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
5	幼稚園での生活とそ こでの育ち	幼稚園は、制度的には文部科学省が管轄する学校として位置づいている。その幼稚園が幼児に対してどのような生活の場を用意しているのかを、歴史を概観し、目的、内容、方法にわたって取り上げる。 【キーワード】 幼稚園の歴史、教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領、5領域、見える教育と見えにくい教育	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
6	地域での生活とそ こでの育ち	子どもの生活と育ちにかかわるものとして、家庭と保育所や幼稚園と地域とがある。その地域が社会の変化に伴った大きく変貌しており、それに伴って地域の持つ教育力も低下している。現在地域がどのような問題を抱えているのかを、その解決の方向を模索しながら考察する。 【キーワード】 社会化、地域社会、都市化、人口の流動性、核家族、地域の教育力	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)
7	環境を通しての保育	環境という概念は、きわめて広い意味を含んでいるが、保育所保育や幼稚園教育は、環境を通して行うことをその基本としている。ここでは、環境を通して教育を行うことの意味とその在り方を、主として幼稚園教育に視点を当てながら取り上げる。 【キーワード】 環境、間接教育の原理、自然環境、家庭環境、情報環境、保育環境、応答的環境	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
8	遊びを通しての保育	子どもの生活の中で遊びは大変大きな位置を占めるものであり、その遊びを通して多くのことを学んでいく。そのため、保育所や幼稚園において遊びを通しての指導が基本方針の一つとされている。ここでは、遊びの持つ教育的意味と、その指導のあり方について考える。 【キーワード】 遊びの諸理論、遊びの教育的意味、遊びを通しての総合的指導、カイヨワ	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
9	児童文学を通しての 保育	児童文学では、子どもの描写や子どもの世界の再現が、さまざまな形で試みられている。それらを読み解くことで、子どもに関して多様な観点があることを再確認するとともに、児童文学がどのように子どもの心を育てる助けとなってきたか、いくつかの事例を紹介する。 【キーワード】 絵本、おとぎ話、推薦図書、読み聞かせ、子ども観の変遷	芦田川祐子(文教大学准教授)	芦田川祐子(文教大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	保育にかかわる者に 求められるもの	乳幼児の生活と育ちが保障されるためには、家庭、保育所や幼稚園、さらには、地域での保育が望ましいものとしてあることが求められる。この、保育にかかわる者には、どのような資質や能力が求められるのかを、その専門性にも触れながら取り上げる。 【キーワード】 保育者の役割、行動特性的資質、状況対応的資質、カウンセリング・マインド、保育目標の人格化、保育職の専門性	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
11	乳幼児教育の遺産 (西欧、日本)	現在の保育の営みも、その歴史的遺産から学べるものが少なからずある。ここでは、乳幼児期の教育のあり方を系統的に論じ、その基礎付けをした先駆者と、社会的課題を受けつつ、そのもつ思想を実践し、保育施設を創設した先駆者を取り上げる。 【キーワード】 オーエン、フレーベル、モンテッソーリ、倉橋惣三、母親学校、恩物、子どもの家、誘導保育論	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
12	諸外国における保育 制度	それぞれの国が、その歴史的背景と、現代的諸課題の下に、特色ある保育制度を持っている。ここでは、アジアと欧米のいくつかの国を取り上げ、その理念とするものや制度、保育の内容や方法などについて明らかにする。 【キーワード】 保育理念、保育制度、保育内容、ヘッド・スタート、レッジョ・エミリア	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
13	国際化社会における 保育	子育てや保育の場における、多国籍化や多文化化が進行するなか、多様な文化や価値観が共存する多文化社会への質的転換が今日的課題となっている。ここでは、外国籍の乳幼児の言語や文化が尊重されると同時に日本の文化が習得しやすい保育環境のあり方を取り上げる。 【キーワード】 多国籍化、多文化社会、マルチ・カルチャリズム、アコモデーション、異文化間教育	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)
14	家族の多様化と子育て 支援	少子高齢化、家族の多様化、女性の社会進出の増加、価値観の変化などにより、家族のあり方や子育て環境に大きな変化が生じている。「子育てが困難な時代」といわれるなかで、育児不安や少子化に対する支援としてさまざまな取り組みや対策が講じられている。その背景や実態、今後の方向性を探る。 【キーワード】 合計特殊出生率、少子化、家族の多様化、子ども・子育て応援プラン、特別保育事業、地域子育て支援センター	井上清美(川口短期大学准教授)	井上清美(川口短期大学准教授)
15	保育の現状と課題	乳幼児の保育と教育をめぐって、これまでも見てきたようなさまざまな考え方や実践がある。また、社会の変化が子どもの育ちに新しい課題をもたらしてもいる。幼稚園と保育所の一元化の試み、家庭、保育所や幼稚園、地域、学校の連携の問題などを取り上げる。 【キーワード】 保育ニーズの多様化、認定こども園、幼保の連携、幼(保)と小の連携、保育の両義性、随伴的学習と意図的学習	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528858	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 学校と法 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：坂田仰（日本女子大学・教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：小川正人（放送大学・教授）】

講義概要

日本社会の価値観の多様化を受けて、学校教育の在り方、教員の言動等に対する法的視点からの異議の申立てが増加する傾向にある。「教育実践は全人格的な営みであり、法を媒介とした権利・義務的關係には馴染まない」という考え方は、少なくとも保護者や地域住民にとっては既に過去のものとなり、教育紛争を司法の場において解決しようとする傾向も勢いを増している。だがその一方で、教育現場を中心に、「学校運営に法は不要である」とする旧態依然とした考え方が依然として存在していることも事実である。本講義では、法的視点から学校教育の「現在」を分析することに主眼を置く。学校事故等、現実の裁判例を取り上げ、学校(教員)、保護者、地域住民という教育主体間の関係について、「法」というプリズムを通して分析を進めていく予定である。

授業の目標

全15回の講義を通じて、学校現場で生じる可能性の高い事件、事故等について、法的視点から理解するために必要な基本的知識を習得することを目標とする。教育紛争やスクール・コンプライアンス(法令遵守)に関心をもつ教育関係者(現職の教職員、行政職員)、保護者、市民等を主たる受講対象者に想定し、具体的な事例の分析を通して、メディアが報道する学校教育に関わる事件や事故等を理解し、整理する際に必要となる基本的な事項を学べるものとする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	学校教育の法化現象と教育訴訟の構造転換	学校教育の法化現象の現状を把握し、その影響を受けて教育訴訟の構造転換が生じていることを論じる。 【キーワード】 学校、学校教育の法化現象、教育訴訟、教育訴訟の構造転換	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
2	学校教育と子ども・保護者の権利	子どもの権利ブーム、モンスターペアレントといった現代的状況について、憲法学からみた学校教育の存在意義という視点から考える。 【キーワード】 学校教育の存在意義、子どもの権利、保護者の権利、国民統合	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
3	教育権論争と学習指導要領の法的拘束力	戦後の教育法学において中心的テーマを形成してきた教育権論争について、最高裁判所の動向に留意しつつ論じる。 【キーワード】 教育権論争、国民の教育権、国家の教育権、学習指導要領	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	学校教育における平等と法	男女共同参画社会, 特別支援教育等, 学校教育に関する平等問題について, 日本国憲法等, 法的視点から検討する。 【キーワード】 平等権, 教育基本法, 特別支援教育, 男女共同参画社会	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
5	学校教育における信教の自由・政教分離と法	日本国憲法の政教分離条項が適用される公立学校を中心に, 学校教育における宗教を巡る問題を考える。 【キーワード】 信教の自由, 政教分離, 宗教教育, 教育基本法	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
6	学校事故と法Ⅰ	法化現象の進展が特に顕著な分野である学校事故について, 基本的な法制度と学校側が責任を負うべき範囲について検討する。 【キーワード】 学校事故, 国家賠償法1条, 国家賠償法2条, 公権力の行使, 設置管理の瑕疵	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)
7	学校事故と法Ⅱ	学校事故について, 教育現場での場面や事故の類型ごとに, 裁判例を踏まえて, 学校側が責任を負うべき範囲について検討する。 【キーワード】 学校事故, 事故類型, 注意義務, 予見可能性, 回避可能性	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)
8	学校における体罰と法	明治期以来一貫して法令によって禁止されながらも, 依然として深刻な状況にある体罰について, 法的視点から検討する。 【キーワード】 有形力の行使, 教育的指導, 体罰判例, 裁判所の学校観, 生徒指導	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)
9	児童・生徒の懲戒と法	新しい荒れといわれる少年非行第4の波, 児童・生徒の問題行動の増加とともに再びクローズアップされつつある性行不良による出席停止, 懲戒処分の在り方について考える。 【キーワード】 児童・生徒に対する懲戒処分, 法的な懲戒, 事実上の懲戒, 出席停止措置, 児童・生徒の問題行動, 新しい荒れ	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)
10	学校と児童虐待防止法	児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)の改正を受けて重要性が増している学校, 教職員の役割について考える。 【キーワード】 親権者の懲戒権, 児童虐待の防止等に関する法律, 早期発見, 通告, 予防教育と啓発活動	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)	黒川雅子 (淑徳大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	学校教育と情報法制	近年注目されつつある学校において収集・生産・保有されている情報の管理と開示のあり方について、法的視点から検討する。 【キーワード】 学校情報, 個人情報, 情報公開, 個人情報保護法制, 情報公開法制	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)	岩橋健定 (弁護士・岩橋総合法律事務所)
12	教員の非違行為と法Ⅰ	近年, 社会的批判が高まっている教員の非違行為, 懲戒処分等について, 裁判例を織り交ぜながら, 法に基づく学校運営, 法令遵守という視点から論じる。 【キーワード】 教員の非違行為, 懲戒, 分限, 地方公務員法, 教育公務員特例法	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
13	教員の非違行為と法Ⅱ	第12回に引き続き, 社会的批判が高まっている教員の非違行為について, 裁判例を織り交ぜながら, 法に基づく学校運営, 法令遵守という視点から論じる。 【キーワード】 教員の非違行為, 懲戒, 分限, 地方公務員法, 教育公務員特例法	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
14	教員の非違行為と法Ⅲ	第13回に引き続き, 社会的批判が高まっている教員の非違行為について, 裁判例を織り交ぜながら, 法に基づく学校運営, 法令遵守という視点から論じる。 【キーワード】 教員の非違行為, 懲戒, 分限, 地方公務員法, 教育公務員特例法	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)
15	学校・法・社会	学校と社会の関係を「法」というプリズムを通じて考えるとともに, 訴訟リスクの低減という視点から何が必要かを考える。 【キーワード】 法的存在としての学校, 教育紛争, 教育訴訟	坂田仰 (日本女子大学・教授)	坂田仰 (日本女子大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1527819	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 子ども・若者の文化と教育 （'11）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 武内 清 （敬愛大学教授、放送大学客員教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 岩田 弘三 （武蔵野大学教授） 〕

講義概要

現代の子どもや若者（青年）は、どのように成長して一人前の大人になっていくのか。そこにどのような人やエージェント（機関）が関わり、子ども・青年の社会化や教育が行なわれるのか。また、子ども・青年は独自の文化を作り、自ら社会化する側面もある。この科目では、子どもや若者が成長し、教育される具体的な場面や集団（家族、友人、学校、大学等）を取り上げ、また学びの内容（学力や価値形成）にも言及しながら、子ども・若者の成長と教育の社会的側面を明らかにする。

授業の目標

広い視野に立ち、現代の子ども、若者の成長の過程を客観的に知ると同時に、どのような教育が必要なのかを考えるツールを身につけ、人間と教育に関する 思考力、実践力を身につける。

履修上の留意点

他の教育関連の科目、とりわけ教育社会学関連の科目も、合わせて履修することが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	子ども・若者の社会 化と教育	子ども、若者（青年）は、一人前の大人に向けての社会化や教育の対象であり、それには、さまざまな人が関わり、またさまざまな集団や組織が関与している。同時に、子どもや若者は独自の文化を形成し自ら変容し、社会変化の担い手となっている。講座の全体を概観する。 【キーワード】 子ども、若者、社会化、教育、文化	武内 清 (敬愛大学教 授)	武内 清 (敬愛大学教 授)
2	子どもの家庭生活	子どもを育てる家庭内の行事が衰退した。父親と母親の役割が不明になっている。子どもは家庭内で居場所を見出せなくなっている。かつて家庭で行われてきた子どもを一人前にする社会化機能がなくなっている。動物社会の子育てや江戸時代、明治時代の子育てを参考にしながらこれからの家庭教育のあり方について論じる。 【キーワード】 家庭内の年中行事、社会化、子育て	明石要一 (千葉大学教 授)	明石要一 (千葉大学教 授)
3	子どもと家庭教育	子どもの第一次社会化の場としての家族や家庭に注目し、そこでの教育のあり方を社会的格差の視点から捉える。貧困家庭における子どもの育ちや虐待問題、その一方で高階層家庭における幼児早期教育や「お受験」ブームなどを具体例として紹介する。 【キーワード】 第一次社会化、社会的格差、貧困と虐待、幼児早期教育・「お受験」	小針 誠 (同志社女子 大学准教授)	小針 誠 (同志社女子 大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	子どもの学校生活	子どもは小学校に入学し、生活の中心が家庭から学校に移行する。家庭と学校ではそこで働く原理が大きく違う。顕在的カリキュラムだけでなく、潜在カリキュラムも含めて、子どもたちはどのようなことを学んでいるのかを明らかにする。 【キーワード】 学校生活、潜在カリキュラム	武内 清 (敬愛大学教授)	武内 清 (敬愛大学教授)
5	子どもの遊び、校外生活	子どもの成長スタイルが変わってきた。仲間との遊びを通じた成長が見られなくなっている。そこから、今の子ども達の「弱さ」が生まれている。とりわけ男子の行動が気になる。それは何が原因か明らかにしていく。一言で言えば、利便社会の落とし穴であり、子どもの放課後が消えたからである。子ども社会での規範意識が育っていない。 【キーワード】 成長スタイル、利便社会、規範意識	明石 要一 (千葉大学教授)	明石 要一 (千葉大学教授)
6	子どもの勉強と学力	2002年以降のいわゆる「ゆとり教育」の実施以降、にわかに注目された学力問題について検討する。「ゆとり教育」の内容、子どもたちの学力低下・学力格差の実態、そして、その背景にある子どもたちの「学びからの逃走」の要因についても考える。 【キーワード】 ゆとり教育、学力低下・学力格差、 学びからの逃走	小針 誠 (同志社女子大学准教授)	小針 誠 (同志社女子大学准教授)
7	子どもの問題行動	現代の子どもと若者の問題行動を明らかにする。社会規範が変動している中で、何が問題かのとらえ方自体も揺らいでいる。少年犯罪、いじめ、不登校、高校中退など、問題行動といわれることの実態を考察する。 【キーワード】 規範 青少年犯罪、いじめ、不登校、 学級崩壊、高校中退、インターネット	武内 清 (敬愛大学教授)	武内 清 (敬愛大学教授)
8	高校生の生活と生徒文化	高校生の時期の生活と文化について考察する。高校生活は、勉強だけでなく、部活動、文化祭、体育祭、友人関係、異性関係の面でも活発になり、体力面でも精神面でも大きく成長する。若者独自の文化にもコミットし、生徒文化を形成し、大人に対峙する。 【キーワード】 高校生 文化祭、生徒文化	武内 清 (敬愛大学教授)	武内 清 (敬愛大学教授)
9	大学受験	若者にとって大学受験は、これまでどのような意味をもってきたのか、また高等教育が大衆化(マス化)・ユニバーサル化した現在において、それはどのように変わりつつあるのかを、現在の大学入試がもつ問題を含めて考察する。 【キーワード】 大学入試、 高等教育の大衆化(マス化)・ユニバーサル化	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)
10	ジェンダーによる進路選択と教育	教育には男女の平等を推進する機能があるが、その反面、固定的な性別役割規範を再生産するはたらきもある。ジェンダーによる教育機会や進路選択の差異は何によって決定されるのか。「ジェンダー・トラック」の背景として、家族におけるジェンダーの社会化や学校教育の顕在・潜在双方のカリキュラムなどに注目して議論する。 【キーワード】 進路選択、ジェンダー・トラック、 かくれたカリキュラム	小針 誠(同志社女子大学准教授)	小針 誠(同志社女子大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	大学生のキャンパスライフ	大学・短大進学率は5割を越え、若者の多くが大学で過ごすようになっていく。若者たちは、大学のキャンパスでどのような生活を送り、どのように知識や技術や価値観を学び、これからの社会を担う一員として育っているのか。その現代の実態を、大学生調査のデータやインタビューから明らかにする。 【キーワード】 キャンパスライフ、大学生調査、価値観	武内 清 (敬愛大学教授)	武内 清 (敬愛大学教授)
12	キャンパスライフの歴史	戦後日本における大学生のキャンパスライフ(学生文化)が、どのように推移してきたのか。まじめ(勉強)文化、遊び文化の盛衰といった観点を軸に、恋愛・デート文化、サークル文化の動向を含めて、その様相を取り上げる。 【キーワード】 キャンパスライフ、まじめ(勉強)文化、遊び文化、恋愛・デート文化、サークル文化	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)
13	学生とアルバイト	どのような変遷をへてアルバイトが、学生のなかに浸透し、いかなる意味をもつようになってきたのかを、印刷教材では、歴史的に考察するとともに、番組ではゲストを招き、現在の問題について、若者の就労体験とに関連で考える。 【キーワード】 学生アルバイト、就労体験	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)	岩田 弘三 (武蔵野大学教授)
14	ジェンダー・労働・再生産	若者の文化、生活、自立支援を考える上で、ジェンダー視点は欠かせない要素である。とくに女性労働、性別役割分業意識とその変化、再生産領域での男女の葛藤などに焦点を当てながら、若者にとっての自立の意味を現代のジェンダー構造とのかかわりで考える。 【キーワード】 性別役割分業、M字型労働曲線、親密圏、若者とシティズンシップ	天童 睦子 (名城大学教授)	天童 睦子 (名城大学教授)
15	子ども・若者文化と教育・支援	子ども・若者の生活と文化は、それぞれの時代の影響を受け変化する。現代の子ども・若者の生活と文化の特徴を、これまでの講義を整理する形でまとめ、子ども・若者文化の特質を明らかにすると同時に、現在に求められている教育や支援のあり方を明らかにする。 【キーワード】 子ども文化、若者文化、子ども・若者支援	武内 清 (敬愛大学教授)	武内 清 (敬愛大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1520202	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 授業研究と学習過程 （'10）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：秋田喜代美（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：藤江康彦（東京大学大学院准教授）〕

【本学担当専任教員：岩永雅也（放送大学教授）】

講義概要

授業は児童期・青年期における教育と学習の場の中心である。授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、授業が複雑な知的営みであることを理解し、具体的に教室でのやり取りや生徒の学習過程、教材等を分析的に見ることのできるための知識の習得をはかること、また授業を行う教師のデザイン、実施、評価の過程での認知過程と専門家としての専門的力量的学習過程についての理解を深めることを最終の目標とする。

履修上の留意点

予備知識は特に必要としないが、学校で現在行われている授業等に関心をもっていることが必要であり、受講しながら不明な点が生じた時には、その都度教育心理学や学習科学等の参考文献をあわせてよみすすめることが期待される。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学習の理論と知識社会の学校教育	人はどのように学ぶのかを行動主義、情報処理アプローチ、社会文化的アプローチなどの心理学的理論から説明すると共に日常生活での学習と学校という場での学習の相違から、授業における学習過程の特徴について理解を深める。 【キーワード】 キー・コンピテンシー、行動主義、構成主義、情報処理アプローチ、社会文化的アプローチ、知識統合、学習環境のデザイン	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)
2	学習過程と学習成果の質	教室での学習ではその後どこでも利用できる知識の習得が期待されている。では学習過程は成果にどのような影響をおよぼすのか、学習の質と学力や意欲の関係について考える。 【キーワード】 教育の質、学習の転移、信念、学習意欲、メタ認知、学力	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)
3	概念理解と知識の働き	教科の学習では特定の内容領域の概念の習得が求められる。その習得過程と知識が学習において果たす役割について考える。 【キーワード】 知識、転移、既有知識、概念変化、素朴概念、誤概念、領域固有性	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	テキストからの学習	教科書をはじめ活字を読み学ぶ過程はどのような認知過程であるのか、その熟達と支援について考える。 【キーワード】 既有知識、推論、状況モデル、文章の理解と文章からの学習、読解方略、熟達、メタ認知、内容を志向した学習指導	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)
5	問題解決の過程	授業ではさまざまな問題解決が求められる。問題とはどのような特徴をもち、その解決過程はどのような過程であるのか、日常生活における問題解決とはどのように異なるのかを考える。さらに、授業における問題解決を促す支援のあり方についても検討する。 【キーワード】 よく定義された問題、アルゴリズム、ヒューリスティックス、計算、文章題、教室談話、認知カウンセリング、プロジェクト	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
6	教室談話の特徴	授業における話しことばである教室談話に着目することで、教室の状況や子どもの学習についてどのようなことを明らかにするかを理解する。また、近年では教室談話をめぐりどのような点が着目されているのかについても学ぶ。 【キーワード】 教室、談話、対話、媒介、アプロプリエーション、声、多声、グラウンド・ルール	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
7	リテラシーの習得と談話コミュニティの形成	教科授業ではその教科固有の表記方法や推理、語り方の学習が行われる。授業における談話をとおしてどのように学んでいくのか、教師の支援と役割を考える 【キーワード】 リテラシー、談話コミュニティ、教師の実践的知識、教科書、インスクリプション、立ち戻り	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)
8	協働学習の過程	教師対生徒でのやりとりだけではなく、生徒同士が協働で学び理解を深めていく過程とはどのような過程であり、どのような方法が具体的にあるのか、その過程に影響を与える要因について考えていく。 【キーワード】 バズ学習、ジグソー学習、互惠的教授、理解深化、モニタリング、援助要請、徒党意識	秋田喜代美 (東京大学・教授)	秋田喜代美 (東京大学・教授)
9	協働学習支援の学習環境	協働とはどのような事象で、学習をどのように変えるかについて理解する。また、CSCLなどの協働学習の支援の手だてとして開発された学習環境のデザインやツールの理念と可能性について検討する。 【キーワード】 学習の社会性、参加、学び手の共同体、IT、CSCL	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
10	授業における学習評価	授業における評価は教師には実践を省察するための、学習者には学習をモニタリングするための手がかりをもたらす。今日のカリキュラムの多様化に応じよりよい学習環境を創出し学習支援につなげるための評価活動のあり方や方法を学ぶ。 【キーワード】 形成的評価、到達度評価、真正の評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	カリキュラムと授業の デザインと教師の専門性	授業は学習指導要領、教育課程、年間指導計画、単元計画等にもとづいて実施される。カリキュラムに基づく授業のデザインや学習環境のデザイン・実施の方法とそこにみる教師の専門性について理解を深める。 【キーワード】 カリキュラム、授業、学習環境、デザイン、専門性	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
12	授業の研究手法	授業の研究には、授業の過程を理解することを目的としたもの、授業の改善や創造を目的としたものがある。その方法について、個人の認知過程と学習集団における協働過程との統合をめざす研究、実践者と研究者が協働で取り組む研究の方法と課題を検討する。 【キーワード】 質的研究、相互作用分析、デザイン実験、アクション・リサーチ、コンサルテーション	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
13	授業研究による教師の 学習過程	授業研究は教師が相互に学びあう協働学習の過程として捉えることができる。学校という組織の中での専門的知識や思考様式を学ぶ過程について考える。 【キーワード】 レッスン・スタディ、事例研究、校内研修、同僚性、学校文化	秋田喜代美(東京大学・教授)	秋田喜代美(東京大学・教授)
14	教師の熟達化と生涯 発達	教師の知識や思考様式の特徴について理解する。そして教職への熟達の様相について理解し、支援するための方途を検討する。さらに、生涯発達の観点から教師の熟達をとらえる。 【キーワード】 適応的熟達化、定型的熟達化、よく考えられた練習、省察、メンタリング、ライフコース	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)	藤江康彦(東京大学大学院・准教授)
15	授業研究と学習研究の これから	これからの学校にはどのような機能が求められるのか、そのための教師と研究者の連携のあり方について国際的動向から考える。 【キーワード】 学ぶ組織としての学校、学びの共同体、学力、政策	秋田喜代美(東京大学・教授)	秋田喜代美(東京大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1520318	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 道徳教育論 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：林 泰成（上越教育大学大学院教授）〕

【担当専任教員：岩永 雅也（放送大学教授）】

講義概要

道徳教育とは、主として学齢期にある青少年に道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性の意味については、社会的、時代的背景によりさまざまに議論されてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりや、カウンセリングや人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討する。

授業の目標

15回の授業を通して、道徳の概念、歴史、指導要領、授業方法、家庭教育、諸外国の制度など、道徳教育に関連するさまざまな話題に言及する。それぞれの話題について理解することがねらいである。が、それだけにとどまらず、そうした理解をもとにして、自らが反省的考察を行い、道徳的に自律した人間として自らの道徳観を作り出すことが最終的な目標である。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	道徳教育とはなにか	道徳とは何か。道徳教育とは何をする事なのか。現代社会のなかで、道徳教育はどのような意味で重要なのか。道徳教育の諸問題の解明にはどんな学問分野が必要なのか。そうした基礎的な問題について説明する。 【キーワード】 道徳、道徳教育、倫理学、社会学、心理学、教育学	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
2	日本の道徳教育の歴史	明治時代に近代的な学校制度が始まって以降の日本の道徳教育の変遷について説明する。制度論や思想史などさまざまな観点から検討する。 【キーワード】 学制、教育勅語、修身、教科書国定制度、特設道徳、心のノート	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
3	学習指導要領と道徳教育	学校における道徳教育は、法的拘束力をもつと考えられている学習指導要領によってその目標や内容が定められている。その歴史的変遷と現行の学習指導要領の規定について考える。 【キーワード】 学習指導要領、目標、内容、評価	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	道徳性の発達	道徳性とは何か。また、それはどのように発達するのだろうか。ピアジェやコールバーグらの心理学的な研究に依拠して、そのメカニズムを説明する。 【キーワード】 心理学、発達段階、ピアジェ、コールバーグ	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
5	道徳的社会化	道徳的な成熟を、社会が望ましいと考える価値観や態度などを個々人が内面化する過程としてとらえ、そのメカニズムを社会学的な観点から検討する。 【キーワード】 社会学、社会化、デユルケム、フォークウェイズ	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
6	道徳授業の方法①～ 伝統主義的アプローチ～	道徳の授業にはさまざまなやり方があるが、まず、道徳的価値を伝達し、内面化するアプローチを取り上げ、検討する。 【キーワード】 インドクトリネーション、インカルケーション、道徳的価値、徳目	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
7	道徳授業の方法②～ 進歩主義的アプローチ～	前回に引き続き、道徳的価値の伝達というやり方以外の授業方法を取り上げ、概説する。それは、たとえば、モラルジレンマ授業や、価値明確化の授業である。 【キーワード】 モラルジレンマ、価値明確化、価値創造	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
8	教科教育と道徳教育	学校に限定して考えた場合でも、道徳教育は道徳の時間の中だけで行われているわけではない。教科の教育の中でも道徳教育は行われていると言うことができる。具体的にどのような形で行われているのかを説明する。 【キーワード】 国語科、社会科、実践三段論法、陶冶	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
9	特別活動と道徳教育	道徳教育は、学級活動や学校行事などの特別活動の領域でも行われている。そうした場で、いかにして人間関係を築いていくかということを考えながら、実践的指導としての道徳教育の在り方について考察する。 【キーワード】 学級活動、学校行事、クラブ活動、児童会活動、生徒会活動	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
10	教育臨床と道徳教育	教師が学校で直接子どもと接する活動としては、学習指導と生徒指導の2つがある。このうちの生徒指導の場面を念頭に置きながら、子どもと教師のかかわりを検討する。 【キーワード】 生徒指導、カウンセリング、受容、共感、個別指導	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	家庭・地域社会における道徳教育	道徳教育は、学校の中だけで行われるのではない。家庭におけるしつけもまた道徳教育の一部である。ここでは、望ましい家庭教育の在り方や、母子関係、父子関係について、さらには地域の教育力について検討する。 【キーワード】 家庭教育、しつけ、地域社会、集団	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
12	諸外国の道徳教育	諸外国において道徳教育はどのように行われているのだろうか。学校では実施していない国もあれば、一教科として行われている国もある。それぞれの国の文化の違いに触れながら、道徳教育についてのさまざまな考え方を紹介する。 【キーワード】 西洋と東洋、アメリカ、イギリス、フランス、中国、韓国	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
13	道徳教育と宗教	道徳と宗教は無縁ではない。各宗教の教えの中にも、道徳の教えと言ってよいものがたくさんある。しかし、政教分離の原則によって国公立学校では宗教的な儀式を行うことはできない。法律や学習指導要領の規定にも触れながら、道徳教育と宗教のかかわりについて検討する。 【キーワード】 仏教、キリスト教、宗教性の発達、政教分離、畏敬の念、いのち	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
14	人権教育と道徳教育	学校現場では、人権・同和教育が、道徳の時間を利用して行われることもある。人権は、道徳教育を考える上で基礎となる概念であるが、その重要性を取り上げ、道徳教育とのかかわりについて検討する。 【キーワード】 人権教育、同和教育、いじめ、エンパワメント	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
15	道徳教育の課題	第1回から第14回までの考察・検討などを振り返りながら、道徳教育の課題を考え、これからの時代・社会における道徳教育の在り方を展望する。 【キーワード】 いのち教育、キャリア教育、公共性、私事性	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528920	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 肢体不自由児の教育 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Education for the Physically Challenged ('14)]

〔主任講師（現職名）：川 間 健之介(筑波大学人間系教授) 〕

〔主任講師（現職名）：西 川 公 司(放送大学客員教授) 〕

【本学担当専任教員：岩 永 雅 也(放送大学教授) 】【

講義概要

近年、肢体不自由特別支援学校等においては、在学者の障害の重度・重複化、多様化の傾向が顕著になってきており、幼児児童生徒一人一人の実態に即した指導上の創意工夫がより一層求められている。本科目では、肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的事項について、全15回にわたって講義を行う。肢体不自由児の教育の実態を概観しながら、肢体不自由児の生理・病理と心理、教育課程、指導法等についての学習を進めていく。

授業の目標

肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的な事項について、全15回の講義を通じて学習する。障害の状態等の多様な肢体不自由児に対する教育の基礎的・基本的な知識を身に付けることを目標とする。

履修上の留意点

「特別支援教育総論('11)」及び「特別支援教育基礎論('11)」を学んでおくことが望ましい。特別支援教育全般についての基礎を習得するのに役立つ。また、「障害児・障害者心理学特論('13)」についても、肢体不自由児の心理を理解する上で参考になる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	肢体不自由児の教育—歴史と現状—	「肢体不自由」の用語の概念、我が国における肢体不自由教育の発足と発展の道筋を紹介する。また、近年の特別支援教育制度下における肢体不自由教育の現状と課題について解説する。 【キーワード】 肢体不自由、肢体不自由教育の歴史、養護学校教育の義務制、障害の重度・重複化	西川公司(放送大学客員教授)	西川公司(放送大学客員教授)
2	肢体不自由児が学ぶ場—特別支援学校を中心に—	肢体不自由児が学んでいる教育の場について解説する。また、肢体不自由特別支援学校を中心に、児童生徒の登校から下校までの様子を、実際の映像に基づいて紹介する。 【キーワード】 通常の学級、通級による指導、肢体不自由特別支援学級、肢体不自由特別支援学校	川間健之介(筑波大学人間系教授)	川間健之介(筑波大学人間系教授)
3	肢体不自由児の生理・病理—運動発達の仕組み	筋・骨の基礎的・基本的事項に関して、筋についてはドシェンヌ型進行性筋ジストロフィーを、骨については骨形成不全症と軟骨無形成症を取り上げて解説する。また、筋・骨の萎縮を防ぎ、運動機能を向上させる自宅での自主トレーニングについて紹介する。 【キーワード】 筋、進行性筋ジストロフィー、骨、骨形成不全症、ホームエクササイズ	君塚葵(心身障害児総合医療療育センター所長)	君塚葵(心身障害児総合医療療育センター所長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	肢体不自由児の生理・病理 2－脳性まひ、二分脊椎を中心に－	脳性まひと二分脊椎の治療・リハビリテーションを中心に解説する。また、脳性まひ児の望ましい姿勢づくりを取り上げて紹介する。 【キーワード】 脳性まひ、二分脊椎、座位姿勢	君塚葵(心身障害児総合医療療育センター所長)	君塚葵(心身障害児総合医療療育センター所長)
5	肢体不自由児の心理 1－発達を中心に－	乳幼児期の発達を中心に、社会性やコミュニケーション、認知などについての発達を取り上げて解説する。また、それぞれにおける発達の過程と、肢体不自由があることによって生じる課題を紹介する。 【キーワード】 発達、社会的かかわりの基礎、コミュニケーション、認知・思考	徳永豊(福岡大学教授)	徳永豊(福岡大学教授)
6	肢体不自由児の心理 2－障害特性を中心に－	肢体不自由児の障害特性を中心に取り上げて解説し、肢体不自由児に見られる心理・行動上の困難について考える。 【キーワード】 視知覚、知能、パーソナリティー、障害受容	川間健之介(筑波大学人間系教授)	川間健之介(筑波大学人間系教授)
7	肢体不自由教育の教育課程	教育課程に関する法令と特別支援学校の学習指導要領等を紹介しながら、幼児児童生徒の実態に即した肢体不自由特別支援学校及び肢体不自由特別支援学級における教育課程編成の在り方について解説する。 【キーワード】 教育課程、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、小・中学校における教育課程編成	西川公司(放送大学客員教授)	西川公司(放送大学客員教授)
8	肢体不自由教育の実際 1－自立活動の指導－	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導の意義と内容の取扱いの基本について解説する。また、重複障害児に対する自立活動を主とした指導について考える。 【キーワード】 自立活動の指導の意義、自立活動の内容と取扱い、個別の指導計画、自立活動を主とした指導	西川公司(放送大学客員教授)	西川公司(放送大学客員教授)
9	肢体不自由教育の実際 2－身体の動きの指導－	肢体不自由特別支援学校における身体の動きの指導内容を解説するとともに、授業に適した姿勢(ポジショニング)を紹介する。 【キーワード】 自立活動、身体の動き、ポジショニング	川間健之介(筑波大学人間系教授)	川間健之介(筑波大学人間系教授)
10	肢体不自由教育の実際 3－コミュニケーションの指導－	言葉や身振り、補助的手段を活用した肢体不自由児に対するコミュニケーションの工夫の重要性について解説する。また、他者からの働き掛けを受け止めて理解し、自分の意思を表出・表現する力を高めるための指導の要点を紹介する。 【キーワード】 言語的コミュニケーション、前言語的コミュニケーション、原初的コミュニケーション、補助的手段の活用、足場作り	徳永豊(福岡大学教授)	徳永豊(福岡大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	肢体不自由教育の 実際4—各教科の 指導—	肢体不自由児が抱えている各教科の学習における困難には、様々なものがあることから、国語、算数・数学等、教科ごとに見られる学習上の困難と、その困難への対応について解説する。 【キーワード】 肢体不自由、言語障害、視覚障害、視知覚認知障害、各教科の指導における支援	川間健之介 (筑波大学人間系教授)	川間健之介 (筑波大学人間系教授)
12	肢体不自由教育の 実際5—重複障害 児の理解—	重複障害児の概念について解説するとともに、重度の肢体不自由に併せて重度の知的障害がある重度・重複障害児の特性を紹介する。 【キーワード】 重複障害、重度・重複障害児、重度・重複障害児の特性	長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)
13	肢体不自由教育の 実際6—重度・重 複障害児の指導—	重度・重複障害児の指導内容について、健康の保持・増進を中心に、摂食指導、排泄指導、認知・コミュニケーション力を育む指導について解説する。また、指導計画の作成と評価の要点を紹介する。 【キーワード】 健康の保持、摂食指導、排泄指導、認知・コミュニケーション、指導計画	川間健之介 (筑波大学人間系教授)	川間健之介 (筑波大学人間系教授)
14	肢体不自由教育の 実際7—キャリア 教育と進路指導—	生きる力の伸長を目指すキャリア教育の視点から、肢体不自由児の進路指導について解説する。また、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うための重要なツールである、個別の教育支援計画を紹介する。 【キーワード】 キャリア教育、進路指導、生きる力、個別の教育支援計画、連携	長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)
15	新たな取組と今後の課題	障害者基本法の改正と障害者の権利条約の批准に向けた教育分野の取組について解説する。また、肢体不自由特別支援学校等における肢体不自由教育のセンター校としての活動等、新たな取組を紹介した上で、肢体不自由教育の充実に向けた今後の課題について考える。 【キーワード】 障害者の権利に関する条約、障害者基本法、特別支援教育推進体制、特別支援教育のセンター校	西川公司(放送大学客員教授)	川間健之介 (筑波大学人間系教授)、 西川公司(放送大学客員教授)、長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1527916	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 特別支援教育基礎論 （' 1 1 ）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：吉田昌義（聖学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：鳥居深雪（神戸大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：住田正樹（放送大学教授）】

講義概要

特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD・ADHD・高機能自閉症等を対象とすることとなった。本科目においては、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義、在り方等を理解し、一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	特別支援教育の現状	特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別の教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 【キーワード】	吉田昌義(聖学院大学教授)	吉田昌義(聖学院大学教授)
2	視覚障害児の理解	視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	神尾裕治(長野大学教授)	神尾裕治(長野大学教授)
3	聴覚障害児の理解	聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	落合 勇(国士舘大学非常勤講師)	落合 勇(国士舘大学非常勤講師)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	知的障害児の理解	知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	吉田昌義(聖学院大学教授)	吉田昌義(聖学院大学教授)
5	肢体不自由児の理解	肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
6	病弱児の理解	病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
7	重複障害児の理解	重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
8	LD児の理解	学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)
9	ADHD児の理解	ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)
10	自閉症児の理解	自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)	鳥居深雪(神戸大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
11	情緒障害児の理解	情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)
12	特別支援学校の教育の実際	特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 【キーワード】	岩井雄一(十文字学園女子大学教授)	岩井雄一(十文字学園女子大学教授)
13	特別支援学級の教育の実際	特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)
14	通級による指導の実際	通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 【キーワード】	吉田昌義(聖学院大学教授)	吉田昌義(聖学院大学教授)
15	小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際	通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528114	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 特別支援教育総論 （'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：宮崎 英憲（前東洋大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：山本 昌邦（横浜国立大学名誉教授）〕
 【本学担当専任教員：住田 正樹（放送大学教授）】

講義概要

平成19年度から「特別支援教育」が制度化され、全国の特別支援学校はもとより、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等においても障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。
 本科目では、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の概要や教育内容・方法等の基本的事項について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義や概要を理解し、一人一人のニーズに応じた教育が展開できるようにする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	特別支援教育の意義、概要	特別支援教育の意義、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画(重複障害・LD等を含む)、校内支援体制、特別支援学校、特別支援学級、教員免許等について解説する。 【キーワード】	山本昌邦 (横浜国立大学名誉教授)	同 左
2	一人一人のニーズに応じた教育 ー 視覚障害教育 I ー	視覚障害教育の歴史、視覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	田中良広 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	同 左
3	一人一人のニーズに応じた教育 ー 視覚障害教育 II ー	特別支援教育における視覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	田中良広 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	同 左

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害教育Ⅰ－	聴覚障害教育の歴史、聴覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	濱田豊彦 (東京学芸大学教授)	同 左
5	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害教育Ⅱ－	特別支援教育における聴覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	濱田豊彦 (東京学芸大学教授)	同 左
6	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害教育Ⅰ－	知的障害教育の歴史、知的障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	宮崎英憲 (前東洋大学教授)	同 左
7	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害教育Ⅱ－	特別支援教育における知的障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	宮崎英憲 (前東洋大学教授)	同 左
8	一人一人のニーズに応じた教育 －肢体不自由教育－	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における肢体不自由児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	木舩憲幸 (大谷大学教授)	同 左
9	一人一人のニーズに応じた教育 －病弱教育－	病弱教育の歴史、病弱・身体虚弱児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における病弱児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	山本昌邦 (横浜国立大学名誉教授)	同 左
10	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅰ－	重複障害教育の歴史、重複障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における重複障害児の教育の在り方等について解説する。 【キーワード】	木舩憲幸 (大谷大学教授)	同 左

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	一人一人のニーズに 応じた教育 ー重複障害教育Ⅱー	特別支援学校における重複障害児に対する教育(医療的 ケアを含む)の現状と課題及び今後の在り方等について解 説する。 【キーワード】	木船憲幸 (大谷大学教 授)	同 左
12	一人一人のニーズに 応じた教育 ー言語障害教育ー	言語障害教育の歴史、言語障害児に対する教育の内容・ 方法、特別支援教育における言語障害児の教育の在り方 等について解説する。 【キーワード】	松村勘由 (前国立特別 支援教育総 合研究所上 席総括研究 員)	同 左
13	一人一人のニーズに 応じた教育 ー情緒障害教育ー	情緒障害教育の歴史、情緒障害児に対する教育の内容・ 方法、特別支援教育における情緒障害児の教育の在り方 等について解説する。 【キーワード】	笹森洋樹 (国立特別支 援教育総合 研究所総括 研究員)	同 左
14	一人一人のニーズに 応じた教育 ー発達障害教育Ⅰー	発達障害の定義、これまでの発達障害児に対する教育の 経緯等について解説する。(ここでいう発達障害とは、自閉 症、LD、ADHD、アスペルガー症候群を含むものとする。) 【キーワード】	柘植雅義 (国立特別支 援教育総合 研究所上席 総括研究員)	同 左
15	一人一人のニーズに 応じた教育 ー発達障害教育Ⅱー	発達障害児のうち、特に学習障害、ADHD及び高機能自閉 症について、現状と課題及び今後の在り方等について解 説する。 【キーワード】	柘植雅義 (国立特別支 援教育総合 研究所上席 総括研究員)	同 左

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1521110	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 知的障害教育総論 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：太田俊己（植草学園大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：宮崎英憲（前東洋大学教授）〕
 【本学担当専任教員：岩永 雅也（放送大学教授）】

講義概要

近年、特別支援学校等への入学者が急増しており、特別支援学校、特別支援学級の在学者でも多くを占める知的障害のある児童生徒の教育について、心理・生理・病理の側面に加え、教育課程・指導法について具体的な実践場面を例に用いながら、初歩の学習者にもわかりやすく解説する。知的障害教育についての今日的で、かつ基礎的な内容について多面的に学ぶ科目である。

授業の目標

特別支援学校、特別支援学級等に在学する知的障害のある児童生徒の心理・生理的な特徴や特性を理解し、特別支援学校、特別支援学級における教育課程、具体的な指導法、個別の指導計画等について学ぶ。知的障害の周辺の障害のある児童生徒の心理・生理等、指導法等についても、関連して学ぶようにする。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	知的障害教育の特徴と教育課程	特別支援教育における知的障害教育の現状、特徴を述べ、併せて教育課程の特色について解説する。 【キーワード】 特別支援教育 知的障害教育 教育課程	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)
2	知的障害の心理と支援方法	知的障害の心理的な特徴、支援上ふまえるべき観点のあらましについて解説する。 【キーワード】 知的障害 心理 支援方法	太田俊己 (植草学園大学・教授)	太田俊己 (植草学園大学・教授)
3	自閉症のある場合の心理と支援方法 その1	自閉症を伴う児童生徒が実践現場には多く在籍する。自閉症の心理的な特徴、またそれをふまえた支援方法の原則や観点について解説する。 【キーワード】 自閉症 心理 支援方法	三苦由紀雄 (東洋大学・非常勤講師)	三苦由紀雄 (東洋大学・非常勤講師)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	自閉症のある場合の 心理と支援方法 その2	自閉症の心理的な特徴もふまえた支援方法、実践的な対応方法などについて具体的に解説する。 【キーワード】 自閉症 心理 支援方法	三苫由紀雄 (東洋大学・ 非常勤講師)	三苫由紀雄 (東洋大学・ 非常勤講師)
5	周辺の障害の心理と 支援方法	知的障害の周辺とされる障害(LD、ADHD等)の心理的な特徴とそれをふまえた支援方法について解説する。 【キーワード】 LD ADHD 発達障害 心理 支援方法	三苫由紀雄 (東洋大学・ 非常勤講師)	三苫由紀雄 (東洋大学・ 非常勤講師)
6	重度・重複障害の心理と 支援方法	重複の障害で知的障害を伴う場合の心理的な特徴とそれをふまえた支援方法について解説する。 【キーワード】 重度・重複障害 知的障害 心理 支援方法	太田俊己 (植草学園大学・教授)	太田俊己 (植草学園大学・教授)
7	生活単元学習とその 実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、特徴的な生活単元学習について取り上げ、その特徴ならびに実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 生活単元学習 実践方法	名古屋恒彦 (岩手大学・ 教授)	名古屋恒彦 (岩手大学・ 教授)
8	作業学習とその実践 方法	知的障害教育の実践方法のうち、作業学習について取り上げ、特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 作業学習 実践方法	中坪晃一 (植草学園短期大学・教授)	中坪晃一 (植草学園短期大学・教授)
9	日常生活の指導・遊びの指導とその実践 方法	知的障害教育の実践方法のうち、日常生活の指導および遊びの指導について取り上げ、それぞれの特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 日常生活の指導 遊びの指導 実践方法	中坪晃一 (植草学園短期大学・教授)	中坪晃一 (植草学園短期大学・教授)
10	教科別の指導とその 実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、教科別の指導を取り上げ、その特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 教科別の指導 実践方法	名古屋恒彦 (岩手大学・ 教授)	名古屋恒彦 (岩手大学・ 教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	自立活動の指導とその実践方法	知的障害教育における自立活動の位置づけ、特徴を解説し、あわせてその実践方法や留意事項について解説する。 【キーワード】 自立活動 知的障害 教育課程 実践方法	太田俊己 (植草学園大学・教授)	太田俊己 (植草学園大学・教授)
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画の実践	特別支援教育の中で位置づけを増してきている個別の指導計画と個別の教育支援計画を取り上げ、意義や位置づけ、それぞれの特徴や実践上の留意点などについて解説する。 【キーワード】 個別の指導計画 個別の教育支援計画 学習指導要領	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)
13	特別支援学級の教育と実践	特別支援学級の教育の現状と課題、教育課程、望ましい実践の方向性などについて解説する。 【キーワード】 特別支援学級 教育課程 実践方法	名古屋恒彦 (岩手大学・教授)	名古屋恒彦 (岩手大学・教授)
14	幼児期・就学前段階の対応と就学支援	知的障害のある幼児に対する就学前段階の対応の現状、支援のあり方について解説するとともに、就学支援の方向性等についても触れる。 【キーワード】 障害幼児 就学前段階 早期からの対応 就学支援	太田俊己 (植草学園大学・教授) 宮崎英憲 (前東洋大学・教授)	太田俊己 (植草学園大学・教授) 宮崎英憲 (前東洋大学・教授)
15	高等部段階の対応と進路支援	知的障害のある生徒の高等部段階の現状と課題について解説するとともに、卒業後を見通した進路支援のあり方等について触れる。 【キーワード】 高等部 進路支援 社会自立	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)	宮崎英憲 (前東洋大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528874	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 認知神経科学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：道又 爾 （上智大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：岡田 隆 （上智大学教授）〕
 【本学担当専任教員：星 薫 （放送大学准教授）】

講義概要

かつては人間の脳機能測定法に大きな制約があったため、認知心理学において脳はどうしてもブラックボックス視されがちだった。しかし、認知課題を遂行中の人間の脳活動を非侵襲的に測定する技法が開発されて以来、認知心理学においても精神機能を脳のはたらきと結びつけて研究しようとする機運が高まり、認知神経科学という学問分野に結実した。この講義では、記憶や言語など、人間の持つ高度な認知機能の基礎にある脳メカニズムを追究した諸研究を紹介する。

授業の目標

認知機能をなう脳メカニズムについて理解する。具体的には、(1) 脳の活動時に細胞レベル・分子レベルで起きていることを具体的に理解し、(2) さまざまな認知機能の生物学的基礎に関するこれまでの知見を学び、(3) それらの知見をうるために用いられた研究法、および今後重要になってくるとされる最新の研究法について理解する。

履修上の留意点

心理学の概論的講義を履修済みであることが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	認知神経科学とは何か	認知神経科学の目標は、認知機能を担う脳メカニズムを解明することである。この学問分野についてのイメージを捉えるため、認知神経科学が誕生するに至った歴史をたどると共に、この分野の研究に用いられる実験法の概略について学ぶ。 【キーワード】 認知心理学、脳機能画像技術、大脳機能の斉一説と局在説、神経心理学、刺激法、破壊法、記録法、分子生物学的方法	道又 爾 (上智大学教授) 岡田 隆 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授) 岡田 隆 (上智大学教授)
2	認知機能の解剖学的基盤	脳は私たちの認知機能を担う器官である。脳を構成する各要素について知り、情報処理を行う上でとりわけ重要といえる神経細胞の活動がどのような分子によって担われているのかについて理解する。 【キーワード】 神経細胞、グリア細胞、中枢神経系、末梢神経系、大脳皮質、膜電位、脱分極、過分極、イオンチャネル	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
3	神経細胞のはたらき	神経細胞の興奮とは、具体的は何がどうなることなのだろうか。ある神経細胞が信号を受け取ってから、別の神経細胞に信号を送り出すまでの過程を順にたどることにより、脳活動の実体について理解する。 【キーワード】 シナプス、受容体、シナプス後電位、加重、活動電位、全か無かの法則、軸索、髄鞘、神経伝達物質	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	知覚の心理学	われわれが日常的に行っている、知覚情報処理(見ることや聞くこと)の背後には、複雑な問題解決プロセスが存在する。知覚を支える脳の働きは、ふだん全く意識することのないものである。心理学における行動実験の例を通じて、この問題を具体的に考える。 【キーワード】 知覚の体制化、錯視、知覚の恒常性、ボトム・アップ処理、トップ・ダウン処理、物体認識、顔認識	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)
5	知覚と脳	知覚機能を実現している無意識的で複雑な脳の働きについて、近年fMRIなどの新技術や脳損傷の症例によってさまざまなことが明らかになってきた。知覚機能の基盤となる脳内メカニズムについて、視覚を中心に学ぼう。 【キーワード】 網膜像、受容野、一次視覚野、背側経路、腹側経路、失認症	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)
6	記憶の心理学	記憶研究は、心理学の研究史の中でもっとも古いテーマであり、現在でも認知心理学と認知神経科学の中心テーマであり続けている。心理学における行動実験を紹介することを通じて、記憶という問題の不思議さについて考える。 【キーワード】 短期記憶と長期記憶、意味記憶とエピソード記憶、記憶障害、誘導尋問、偽記憶	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)
7	記憶の生理学	何かが記憶されたとき、脳にはどのような変化が生じるのだろうか。シナプス部の形態的变化や伝達効率の変化など、記憶痕跡の候補として挙げられている可塑的变化の機序について学ぶ。 【キーワード】 シナプス可塑性、長期増強、海馬、グルタミン酸受容体、リン酸化、ニューロン新生	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
8	学習の神経機構	私たちは経験によって自身の行動を変化させることを通じて、環境への適応を実現している。本講では、非連合学習や連合学習をになう脳メカニズムについて学ぶとともに、依存との関連について考える。 【キーワード】 非連合学習、連合学習、条件づけ、脳内報酬系、側坐核、薬物依存	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
9	脳とホルモンからみた情動	喜怒哀楽は人生を彩るものであるが、自分の置かれた状況や今とるべき行動を生体に教えてくれる役割も果たす。情動の生物学的基盤を、神経系・内分泌系の両面から学ぶ。 【キーワード】 大脳辺縁系、扁桃体、自律神経系、視床下部、下垂体、ストレス	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
10	注意と意識	われわれは漫然と世界を知覚しているのではなく、常に能動的な情報の取捨選択を行っている。この「注意」の働きは、われわれの意識生活の基盤である。この問題について、日常的体験を行動実験やfMRI実験の知見と結びつけることで具体的に学ぶ。 【キーワード】 カクテル・パーティ効果、注意の分配、前注意的過程、有限資源、処理の自動化、注意と脳	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	言語と大脳左右半球機能	言語は人間を人間たらしめているきわめて重要な機能である。言語には謎が多く、未解決の問題がたくさんある。しかし近年、fMRIなどを通じて新たな知見が続々と得られている。この魅力的な問題について、研究史を参照しつつ考える。 【キーワード】 産出性と規則性、言語学的直感、言語と思考、左右半球と言語、分離脳、意味ネットワーク、聞くこと、話すこと、読むこと	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)
12	社会的認知	従来は社会心理学のテーマであった、共感性、助け合い、倫理的行動、などの研究が、近年急速に脳研究と結びついてきている。この新しい潮流を、具体的な実験例を上げつつ考察する。 【キーワード】 心の理論、自閉症、共感、社会的規範、ソマティック・マーカー仮説	道又 爾 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授)
13	概日リズムと睡眠	地球上に生きる生物として、1日24時間のサイクルに基づいた生理的・行動的リズムを有している。概日リズムを司る脳内メカニズムについて学ぶとともに、概日リズムを示すものの代表例として、精神機能と深く関わりのある睡眠について理解する。 【キーワード】 概日リズム、視交叉上核、レム睡眠、ノンレム睡眠、脳波、上行性網様体賦活系	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
14	脳の発達と進化	複雑な脳神経系は長い年月をかけた進化の結果できあがってきたものであり、また一個体のレベルにおいても劇的な発達を遂げる。脳の発達について、系統発生・個体発生 の両側面から検討する。 【キーワード】 胚、胎児、外胚葉、神経管、脳室帯、成長円錐、髄鞘化、神経成長因子	岡田 隆 (上智大学教授)	岡田 隆 (上智大学教授)
15	まとめと展望	認知行動を支える脳メカニズムをさらに明らかにするために、認知神経科学は今後どのような道を進めばよいのだろうか。本講座のこれまでの内容を振り返ると共に、今後の展望について論じる。 【キーワード】 CT、MRI、EEG、MEG、PET、fMRI、NIRS	道又 爾 (上智大学教授) 岡田 隆 (上智大学教授)	道又 爾 (上智大学教授) 岡田 隆 (上智大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528939	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 錯覚の科学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [The Science of Illusion ('14)]

〔主任講師（現職名）： 菊池 聡（信州大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 星 薫（放送大学准教授）】

講義概要

私たちの脳が認識する世界と、客観的な世界にズレが生じる現象が、「錯覚」である。心理学の諸研究は、視覚や聴覚といった知覚を中心として、記憶や思考などさまざまな心的過程で生じる錯覚の特徴やメカニズムを明らかにしてきた。これらの研究成果を、心理学だけではなく美術史などの多様な分野から紹介し、錯覚が私たちの日常生活や社会、文化、芸術に与える影響を学際的に検討する。これらを通して、人が世界を認識する独特の仕組みについて理解を深めていく。

授業の目標

錯覚とは客観的には「誤った」認知であるが、それは必ずしも人の認知の欠陥や能力不足のために起こるものではない。より効率的で適応的な認知を実現するために、人はあえて世界を歪めてとらえることがある。こうした「人間らしい」認知の性格を知り、人が世界を認識することとはどういうことなのかを理解することが第一の目標である。さらに、そうした認知の歪みが、あるときは芸術や文化を生み出し、同時に詐欺や欺瞞につながっていることもぜひ理解したい。最終的には、錯覚に関する多面的な理解を通して、心理学的なクリティカル・シンキングの基本を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

幅広く錯覚という現象を概観するので、本科目には特に予備知識は必要としない。さらに深く学ぶためには知覚や認知に関する心理学系の専門的な科目へ進んでいただきたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	錯覚への招待	私たちが認識している世界は、客観的な世界と正確に対応しているわけではない。いわば脳の中で無意識のうちに再構成された世界とも考えられる。その再構成の過程で、さまざまな「人間らしい」錯覚が生じる。これから学ぶ錯覚の世界について、基礎的な知識を概観する。 【キーワード】 心理的錯覚、物理的錯覚、認知、感覚、知覚	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
2	視覚の錯覚 見ることは考えること	人の眼はカメラとほぼ同じ仕組みを持っている。しかし、人はカメラのように、世界を忠実に認識するのではない。ヘルムホルツが、知覚とは「推論」することだと指摘したように、知覚体験は高度な認知情報処理の産物なのである。奥行き知覚や恒常現象は、この知覚の解釈的性格をよく表している。 【キーワード】 カメラアナロジー、知覚的推論、奥行き知覚、線遠近法、恒常現象	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
3	錯視の世界を体験する	視覚で生じるさバラエティ豊かな錯視現象の数々を実際に体験しながら、人の視知覚が情報を再構成する仕組みを理解する 【キーワード】 エイムズの部屋、縦断勾配錯視、マッハの本、幾何学錯視、リバースペースペクティブ	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	視覚の錯覚 知覚心理学と絵画芸術の接点	錯覚は人の基本的な世界の認識を反映した現象である。たとえば恒常現象は、対象の同一性を保持し、世界を安定して知覚する働きをする。こうした錯覚が持つ人間らしい性質は、線遠近法が学習される以前の子どもの絵や古代の絵画などを通して理解することができる。 【キーワード】 知的写実主義、エジプト絵画、やまと絵遠近法、印象派、現代絵画	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授) 金井直(信州大学准教授)
5	視覚芸術と錯覚	ゼウクシスの逸話からオブ・アートまで、西洋絵画史はまさに錯覚の歴史であるが、そもそも板や画布という物体を「絵画」とみなすこと自体、錯覚の最たるものかもしれない。本講義ではとくに遠近法の展開に着目しつつ、美術における錯覚とその機能について考察する。 【キーワード】 写実、ルネサンス、パースペクティヴ、トロンプルイユ	金井直(信州大学准教授)	金井直(信州大学准教授)
6	記憶の錯覚 人の記憶は確実なのか	想起された記憶とは過去の情報が再生されたと言うよりも、さまざまな記憶手がかりをもとに再構成されるものととらえられる。そのため、実際には存在しなかった事項が、あたかも真実の記憶のように思い出される虚偽記憶という錯覚が生じる。 【キーワード】 虚偽記憶、ソースモニタリング、目撃者証言	齋藤智(京都大学大学院准教授)	齋藤智(京都大学大学院准教授)
7	思考の錯覚と認知バイアス	客観的に正しく考えているつもりでも、人は誤った思い込みに陥ることがある。そこには、私たちの情報処理に生じる認知バイアスが働いている。人の持つバイアスが、どのような思考の錯覚をもたらすのかを身近な例から考える。 【キーワード】 錯誤相関、確証バイアス、迷信的思考	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
8	ヒューリスティックと行動経済学	私たちの日常的な思考は、論理的な厳密さよりも、効率性と一貫性を優先した簡便な方法で行われる。こうした方法はヒューリスティックと呼ばれ、身の回りで広く見ることができる。そこで起こる、特有の思考の錯覚を考察する。 【キーワード】 ヒューリスティック、代表性、利用可能性、アンカリングと調整、プロスペクト理論	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
9	自己の一貫性と正当化が引き起こす錯覚	心理学の古典的な理論として知られる認知的不協和理論は、一貫性への動機づけが無意識のうちに認知や行動を変容させる仕組みを体系的に説明している。その理論が応用できる範囲は、身近な思い込みからマインドコントロール技術に至るまで非常に広い。 【キーワード】 認知的不協和、入会儀礼効果、マインドコントロール、フット・イン・ザ・ドア・テクニック	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
10	身近な情報の錯覚	私たちは、身の回りの出来事からさまざまな情報を読み取って解釈し、判断や意思決定の材料としている。その際に、情報が持つ統計的な性質を見落とすと、そこに誤った因果関係を発見してしまうことがある。 【キーワード】 平均への回帰の錯誤、前後論法、同時発生の原因、サンプリングバイアス	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	錯覚の光と影 エンタ テイメントと悪質商法	「注意」の性質を利用した錯覚は、マジックをはじめとしたエンタテイメントに利用されるのと同時に、時には詐欺や悪質商法の手法として使われる。これらの手法に共通する注意と思考の錯覚を解き明かしていく。 【キーワード】 チェンジブラインドネス、注意、復帰抑制、共同注意、ミスディレクション、フォース	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
12	原因と結果をめぐる 錯覚 社会的認知	ものごとの原因はなんであるかを考える原因帰属の推論は、人の思考の中でも重要な過程である。この帰属推論で生じるいくつかのバイアスが対人認知の歪みを引き起こすことを理解し、よりよい帰属推論を行うためのポイントを考える。 【キーワード】 原因帰属、分散分析モデル、基本的帰属錯誤、行為者観察者効果、内集団バイアス、情動二要因理論	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
13	科学的思考と錯覚	科学としての要件を備えていなのに、科学的であるかのように装っている主張は、疑似科学と呼ばれる。そこには、科学的概念やデータ解釈の錯覚が生じている。血液型性格学など、現代の日本になじみの深い疑似科学をとりあげ、疑似科学の錯覚を明らかにする。 【キーワード】 血液型性格判断、バーナム効果、疑似科学、境界設定問題、反証可能性、アドホック仮説、立証責任の転嫁	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授)
14	自己の錯覚	健康な精神の持ち主は、現実を自分に有利に歪めて認識する傾向を持っており、これはポジティブイリュージョンと呼ばれる。こうした自己奉仕的な認知の歪みについて、その特徴と心理的適応に果たす意味を解説する。 【キーワード】 抑うつ現実主義、ポジティブ・イリュージョン、平均以上効果、制御幻想、非現実的な楽観主義	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授) 【ゲスト】 星薫(放送大学准教授)
15	錯覚とメタ認知 錯覚 とよいつきあいを築く	自分自身の認知を適切にモニターし、さらにそれを制御しようとする過程は、メタ認知と呼ばれる。このメタ認知は、論理的で偏りのない良質の思考であるクリティカル・シンキングを実現するために、重要な概念となる。本科目で学んだ錯覚についてのメタ認知を、今後の生活や社会にどう活かすべきかを総括的にふりかえる 【キーワード】 認知的経済性の原理、メタ認知、クリティカルシンキング	菊池聡(信州大学准教授)	菊池聡(信州大学准教授) 齋藤智(京都大学大学院准教授) 金井直(信州大学准教授) 【ゲスト】 星薫(放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528904	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 認知心理学 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：高野陽太郎（東京大学大学院・教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：星薫（放送大学・准教授）】

講義概要

認知心理学は、人間の心の働きを情報処理プロセスとして理解しようとする心理学です。人間は、目や耳などの感覚器官から環境についての情報を入力し、それを選別したり、貯蔵したり、加工したりして、環境に適応するための行動という形で出力します。この授業では、そうした情報処理のプロセスについて、認知心理学ではどのようなことが明らかになってきたのかを調べます。話の中心は、人間の情報処理の特色になっている高次認知（記憶・言語・思考など）です。また、目で見ることも手で触ることもできない心の働きをどのように研究するのかという研究方法の問題、あるいは、認知心理学の研究がどのように役立つのかという実用の問題についても考えてみることにします。

授業の目標

この授業の最大の目標は、人間の認知を実現している仕組み、および、その特性について、知識を広げ、理解を深めることです。何故そのような仕組みになっているのかという認知の適応的な機能についても考えてみたいと思います。また、欲を言えば、研究方法が適切かどうかという観点から学問的な知見を吟味する習慣も身につけることができればと思っています。

履修上の留意点

この科目では、放送教材と印刷教材の内容は、完全に同じではありません。「話の大筋は同じで、取り上げる研究例や実例が少し違う」という場合が多いのですが、内容がかなり異なる回も幾つかあります。1つ1つの事項について、できるだけ丁寧に説明をしようとする、どうしてもスペースが足りなくなってしまうので、この科目では、両方を合わせて、認知心理学の全体像が掴めるようにしたいと考えています。予習は必要ではありません。しかし、放送教材を視聴した後、印刷教材を読んで復習をすることは、理解を広げたり深めたりすることに役立つでしょう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	認知心理学のプロ フィール	第1回は、認知心理学の紹介です。認知心理学というのはどのような心理学なのか、大局的な視点から俯瞰します。研究の対象、認知研究の歴史、認知を理解するための概念的な枠組みなどについてお話をします。 【キーワード】 情報処理パラダイム 適応論パラダイム 概念装置	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
2	認知心理学の研究 方法	五官では直接捉えることのできない精神活動をどのようにして科学的に研究するのかは、心理学にとって、常に直面し続けなければならない重要で困難な問題です。五官では捉えられない精神活動の最たるものである心的イメージの研究を例にとって、この問題に認知心理学がどう対処してきたのかを調べます。 【キーワード】 研究法 反応時間 イメージ	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
3	知覚	この回から、認知プロセスを入力から出力まで順に追っていくことになります。まず最初は、情報を入力するプロセスである知覚です。主に視知覚を対象にした研究を取り上げ、環境についての有用な情報を得るために、知覚プロセスがどのような情報処理をしているのかを検討します。 【キーワード】 立体視 恒常性 補完 運動からの構造復元	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	注意	感覚器官からは絶えることなく大量の情報が流れ込んできます。とても全ての情報を処理することはできません。環境について重要な事柄を知らせてくれる情報を選び分ける必要があります。それが注意です。情報をどのように選別するのか、人間はどれぐらいの処理能力を持っているのかといった問題を検討します。 【キーワード】 選択的注意 分割注意 注意の容量 視覚的注意	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
5	記憶1: さまざまな記憶	人間の記憶は1つではありません。さまざまな種類の記憶があります。この回では、記憶の全容を概観するために、どのような種類の記憶があるのかを紹介します。 【キーワード】 長期記憶 作動記憶 手続き記憶 宣言記憶	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
6	記憶2: 記憶の適応的な特性	この回では、記憶がどのように適応に役立っているのかを考えます。記憶については、非常に多くの現象が知られていますが、その多くは、環境への適応という観点から見ると、その意味を理解することができます。 【キーワード】 符号化特定性原理 処理水準 目撃証言	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
7	記憶3: 知識の構造	宣言的記憶の中で、知識がどのように構造化されており、どのように想起され、どのように忘却されるのかを考えてみます。 【キーワード】 意味ネットワーク スキーマ カテゴリ 活性化 意味	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
8	思考1: 演繹的推論	環境を正確に認知するためには、複雑な情報処理が必要になる場合もあります。そのような情報処理が推論です。高度の推論能力は、人間の認知の際立った特色であり、非常に柔軟性の高い適応行動を可能にしています。その一方で、組織的な偏りが生じる場合もあることが知られています。 【キーワード】 三段論法 信念バイアス 選択問題	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
9	思考2: 帰納的推論	帰納的推論は、環境の中の規則性を見出すことによって、環境によりよく適応することを目的とした情報処理です。この回では、帰納的推論に関する代表的な研究を紹介します。 【キーワード】 確証バイアス 基準率無視 ヒューリスティクス	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
10	思考3: 意思決定と問題解決	この回では、推論以外で特に研究が進んでいる高度な情報処理として、意思決定と問題解決を取り上げます。複数の選択肢がある場合に、どれを選ぶかという情報処理が意思決定、記憶から答を探し出すことのできない問題について、答を得るための情報処理が問題解決です。 【キーワード】 フレーミング効果 プロスペクト理論 機能的固着	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	言語1: 心理言語学	言語については、言語学という分野がありますが、認知心理学には、言語を研究対象とする心理言語学という分野があります。この回では、心理言語学が言語のどのような面を研究しているのかを紹介します。 【キーワード】 言語習得 臨界期仮説 言語相対性仮説	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
12	言語2: 理解と産出	人間が言語をどのように理解し、どのように産み出すのかという問題についての心理学的な研究を紹介します。音声の知覚、文字の認知、単語の認知、文の理解、文の産出などのトピックを取り上げます。 【キーワード】 カテゴリーカル知覚 音素修復 単語優位効果	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
13	学習	認知心理学では、知識や技能を身につけていくプロセスも研究されてきました。高度の技能を身につけた熟練者と初心者と比較した研究も行われてきました。この回ではそうした研究を紹介します。また、学習を行なう神経回路のモデルについても簡単に紹介します。 【キーワード】 熟達化 熟練者 並列分散処理	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
14	社会的認知	人間にとって、他の人間、および、人間がつくる社会集団は、環境の中の非常に重要な部分です。人間の認知は、人間集団の中で適応的な行動をとるために発達してきたという側面もあります。この回では、認知心理学と社会心理学の境界領域で研究されてきた、人間についての認知を取り上げ、過去の研究成果を概観します。 【キーワード】 二過程モデル 帰属 対応バイアス ステレオタイプ	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)
15	実生活との接点	最後の回では、認知の研究が実生活とどのような関係を持っているのかを考えてみます。実生活と関係のあるさまざまな研究を概観した上で、外国語使用に伴う思考力の低下という現象を少し詳しく論じ、この研究が現実の国際交流の中で持つ意味を考えてみます。 【キーワード】 外国語副作用	高野陽太郎 (東京大学・教授)	高野陽太郎 (東京大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528882	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 乳幼児心理学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：山口 真美（中央大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：金沢 創（日本女子大学教授）〕
 【本学担当専任教員：森 津太子（放送大学准教授）】

講義概要

視覚と聴覚という基礎的なメカニズムの発達から、社会性の萌芽や言語の発現へと続く、乳幼児の心理の発達段階について、最新の知識を踏まえながら、学んでいく。実際の実験場面を検討しながら、子ども達の持つ意外な潜在能力について理解を深めつつ、発達にはなにが必要なのかを理解し、最後にはこれらの心理学の知識を生かした、発達健診について学習する。

授業の目標

乳幼児における心理メカニズムの発達を学び、あわせて乳幼児を対象とした心理学の方法を学ぶこと。視覚・聴覚という基礎的なメカニズムからどのように社会性と言語の萌芽へと続いて行くのか、その発現過程を詳細に検討した、さまざまな実験を学びながら、乳幼児の心理メカニズムについて学習して行く。

履修上の留意点

実験でわかった結果(乳幼児の心理の発達過程)だけを単純に覚えるのではなく、どのようにしてそれぞれの発達メカニズムが解明されたのかを、実験心理学の方法の理解を通じて、そのプロセスをしっかりと頭に入れてほしい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	乳幼児心理学の方法の概要	乳幼児の認知能力を計測する実験の方法について解説する。乳幼児は大人のように、言葉を駆使して自らの意思を表現することができない。こうした乳幼児を対象に、言語を使用せずに実験する方法が考えられてきた。 【キーワード】 選好注視法 馴化・脱馴化法	山口真美 (中央大学・教授) 金沢創 (日本女子大学・教授)	山口真美 (中央大学・教授) 金沢創 (日本女子大学・教授)
2	視力の発達	視覚にかかわる脳の発達に伴い、発達していく基礎的な視覚能力について解説していく。縞視力に代表される視力などはその典型であるが、視力以外にも、コントラスト感度の発達やチラツキに対する感度の発達など、脳の発達と直接リンクした視覚発達には物体の認知や社会性の認知の制約となる重要な能力である。 【キーワード】 視力 コントラスト感度 時間周波数	金沢創 (日本女子大学・教授)	金沢創 (日本女子大学・教授)
3	形と動き	動きを見ることから発達は始まり、形を見る能力を促進する効果がある。にもかかわらず、発達障害では動きを見ることに障害が見られることが多い。運動視の能力をささえる頭頂葉へと至る背側系と、形態視をささえる側頭葉へと至る腹側系の関係を解説する。 【キーワード】 腹側経路 背側経路 運動視	金沢創 (日本女子大学・教授)	金沢創 (日本女子大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	色がわかること	色を見る能力とそのメカニズム、そしてその発達について解説する。色を見ることは、単純に網膜レベルで成立するものではなく、照明と物体表面を分離し、面が持つ物理的な質感を推定するいわゆる色恒常性や明るさの恒常性の能力とかわる。ここでは、主に色恒常性の能力を中心に解説を行う。 【キーワード】 色の恒常性 錐体細胞	山口真美 (中央大学・教授)	山口真美 (中央大学・教授)
5	空間にかかわることの発達	運動発達に伴う、空間を見る能力の発達について解説する。網膜の2次元に限定された情報から、3次元に広がる世界を認知することは、自由に物をつかんで世界の中で動き回るために、不可欠な能力である。この発達過程を、脳の発達ともあわせて解説する。 【キーワード】 頭頂葉 奥行き知覚	山口真美 (中央大学・教授)	山口真美 (中央大学・教授)
6	顔をみること	顔の認知は、プリミティブなものであれば新生児にも可能といわれる。一方、目鼻の顔部分の詳細な配置に基づく人物同定は、人見知りの始まる7ヶ月ごろにようやく可能となる。近年発展してきた乳児の脳科学研究の成果も含め、社会性の基礎となる顔認知について解説する。 【キーワード】 顔認知 顔模式図形 顔の動き	市川寛子 (中央大学・助教)	市川寛子 (中央大学・助教)
7	音声知覚の発達	言語獲得は、生後わずか1年程度の間に音声知覚能力が大きく変化することに始まる。本講義では、乳児が母語の学習に適した音声知覚様式を獲得し、入力される音の流れの中から単語を抜き出し、さらにその意味を学習できるようになる一連の音声知覚発達過程について解説する。 【キーワード】 音声知覚の構造化 単語の抽出	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)
8	乳児の音楽認知	子どもたちは非常に早い時期から音楽に注意を向け、音楽的表現を楽しむ。こうした音楽と乳児との親和性に焦点を当て、乳児が音楽をどのように認知しているのかを科学的知見を引用しながら解説する。また、対乳児歌唱や未熟児に対する音楽療法を例に、音楽と発達に関わりについて概観する。 【キーワード】 音楽認知 対乳児歌唱 未熟児の音楽療法	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	知識の発達	近年の種々の研究から、乳児が、物体の基本的な性質や運動などの物理の領域、人間らしいふるまいや意図・目的の理解などの心の領域、数量の区別や初歩的な計算といった数の領域について、素朴な知識の集合を持っていることが示されている。乳児期におけるこれらの知識発達について、実証的な研究を交えながら解説する。 【キーワード】 知識領域 物理 こころ 数	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)	麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所・主任研究員)
10	社会性の発達(1)乳児期からの発達	乳児は他者の目や視線を敏感に検出し、情報を読み取る能力をもっている。他者が何を見ているか、いま何に注意を向けるべきかを理解する能力は、その後のコミュニケーション能力の発達の基盤となる。実験的研究を紹介しながら、その発達過程を解説する。 【キーワード】 視線 視線追従 共同注意 心の理論	市川寛子 (中央大学・助教)	市川寛子 (中央大学・助教)
11	社会性の発達(2)乳児期から幼児期へ	対人関係における社会的相互作用は、他者の認知、思考の制御、場面の推論能力、ふりなどの想像力など、多くの機能が複合することにより可能となる、総合的な発達にかかわる。自己像認知や抑制機能など、具体的な能力を検討した研究を紹介しながら、その発達を解説していく。 【キーワード】 自己像認知 表情認知 抑制機能	市川寛子 (中央大学・助教)	市川寛子 (中央大学・助教)
12	言語発達	言語獲得は、乳児期から幼児期にかけて生起する最も重要な精神発達である。子どもの初期の語彙獲得過程について自然発話データと親の質問紙による研究から概観する。さらに、いろいろな語の種類に対応する概念、特に名詞―動詞を子どもがどのようなメカニズムで推論しているかについての理論的背景と実験的研究を紹介する。 【キーワード】 語彙獲得 語意味の推測	小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)	小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)
13	言語発達の遅れと言語発達の評価	言語発達が遅れた子どもの診断、支援においては、子どもの状態を正しく評価することが重要である。言語獲得の基盤となる能力についての基礎的知識とその測定方法を概説する。 【キーワード】 言語発達の認知的基盤 言語発達の評価方法	小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)	小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	発達と障害	これまで学習してきた発達についての知見を乳児期の健診項目として導入することにより、より早期に障害を発見することが可能であること、また、知覚領域の障害がその後のコミュニケーション・言語の障害につながることを解説する。その際の尺度として注意の発達が重要であること、さらに基礎的な研究の成果を実際の発達健診の場で活用することについて紹介する。 【キーワード】 健診 知覚認知課題 探索課題	金沢創 (日本女子大学・教授) 小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)	金沢創 (日本女子大学・教授) 小椋たみ子 (帝塚山大学・教授)
15	まとめ:乳幼児心理学の現在と未来	従来の発達心理学の枠組みを超えて、脳科学、認知科学、工学などを総合した新しい乳幼児心理学を解説する。医療や教育に対し、実験室で得られた結果を展開する発達健診などを参考に、乳幼児心理学の展望を解説していく。 【キーワード】 脳科学 認知科学 教育学	山口真美 (中央大学・教授) 金沢創 (日本女子大学・教授)	山口真美 (中央大学・教授) 金沢創 (日本女子大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528211	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 交通心理学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：蓮花 一己（帝塚山大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：向井 希宏（中京大学教授）〕

【本学担当専任教員：星 薫（放送大学准教授）】

講義概要

車社会での事故防止が交通心理学の主たる目標である。事故リスクの高低には交通参加者の行動と意識が影響しており、交通安全には人的要因（ヒューマンファクター）の解明が求められる。本講義では、交通心理学の歴史と研究成果を踏まえつつ、事故に関わる行動としてハザード知覚やリスクテイキング行動の概説を行う。また、交通参加者の行動を分析するためのアイカメラなどの研究を紹介する。子どもや初心運転者、高齢運転者など対象別の行動特性と彼らに対する教育研究を紹介する。ITS技術など交通問題解決のための工学的アプローチと交通心理学との連携についても触れる。

授業の目標

1. 受講生が交通心理学の基礎的な概念と主要な研究について理解できるようになる
2. 観察法やフィールド実験法など交通心理学の分野で発達してきた心理研究方法について理解する
3. 事故防止など社会問題を解決するために心理学では何が重要かを学生が理解する

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	交通心理学総論(1)	①交通心理学の課題と歴史を振り返り、その意義について説明する。②人間のモビリティ(移動)の手段としての車社会が人間生活に与えた功罪を解説する。とくに、交通参加者の特徴別に事故という負の側面を概観する。③交通事故の発生メカニズムを解説し、その現状を紹介する。人的要因(ヒューマンファクター)の重要性と交通心理学の役割を述べる。 【キーワード】 モビリティ、車社会、交通事故、交通参加者、リスク、事故	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
2	交通心理学総論(2)	事故傾性と運転適性研究を取り上げる。①交通参加者の運転適性の考え方とその活用について内外の事例や運転診断手法について紹介する。②運転行動研究として、フィールド観察法や同乗観察法など、過去の研究手法を紹介しつつ、アイカメラなどの比較的新しい手法を解説する。③運転行動理解のためのモデルの意義について述べた後で、代表的なモデルを紹介する。 【キーワード】 事故傾性、運転適性、運転診断、観察、行動モデル	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
3	事故発生のメカニズムと人的要因(1)	①交通事故発生現況を類型、年齢、状態別に、事故原因を人的要因と環境要因別に解説する。②交通事故原因として、人的要因の占める割合は大きい。人間の情報処理過程とヒューマンエラーとの関係から、交通事故発生の人的要因を列挙し、解説を加える。③交通事故防止のための安全対策・交通安全教育プログラムについて紹介する。 【キーワード】 交通事故要因、ヒューマンファクター、環境要因、事故防止	向井 希宏 (中京大学教 授)	向井 希宏 (中京大学教 授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	事故発生メカニズムと人的要因(2)	①事故分析の手法を紹介する。②交通コンフリクトやインシデント事象の研究意義とその歴史、代表的な指標であるTTCやPET指標を用いた研究を紹介する。③自動車専用道路や都市高速道路でのリスク分析の実例を紹介し、運転行動や事故パターンに応じた安全対策の展開の紹介を行う。 【キーワード】 事故分析、交通コンフリクト、インシデント、自動車専用道路	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
5	注意と確認行動	①注意という現象の基礎的な説明を行う。人間の注意資源の限界が安全運転を阻害する理由を述べる。②交通参加者の注意の研究を紹介する。言語報告法やアイカメラ法によるこれまでの研究を紹介するとともに、その問題点に触れる。③ドライバーの安全確認行動の研究について、目視観察、ビデオでの解析やジャイロセンサでの調査研究の実例を交えて紹介する。 【キーワード】 注意、言語報告、眼球運動、アイカメラ、安全確認行動	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
6	ハザード知覚	①ハザード(hazard)やリスク(risk)などの危険概念の定義を行った後に、運転においてハザードとリスクがどのように関わっているかを解説する。②運転場面でのハザード知覚の特性について、初心者や高齢者のハザード知覚の特性について研究成果に基づいて説明する。③子どものハザード知覚について解説する。④運転技能の自己評価がリスクテイキングに与える影響について述べる。 【キーワード】 ハザード、リスク、ハザード知覚、自己評価	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
7	リスクテイキング	①ハザード知覚から行動までのリスクテイキング行動のモデルについて説明する。②リスク効用の例を紹介するとともに、スリルを求める欲求であるsensation-seeking(感覚追求)を説明する。③対策により安全性が高まればより危ない行動を取ろうとするリスク補償と呼ばれる行動傾向について紹介する。 【キーワード】 リスクテイキング、リスク効用、感覚追求、リスク補償	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
8	個人差と事故傾性	交通行動の規定要因には、人的要因と環境的要因とがあるが、8章では、事故原因としてのヒューマンファクター(人的要因)に注目する。特に、事故要因としての性格特性から考える「事故傾性」と、外的要因と人間行動の関連に注目する「リスクテイキング」の考え方を中心に、安全確保の方策について解説する。事故防止のために労働現場で行われる教育プログラムの例を紹介し、問題点や改善への課題についても述べる。 【キーワード】 個人特性 事故傾性 リスクテイキング 安全対策	向井 希宏 (中京大学教 授)	向井 希宏 (中京大学教 授)
9	交通参加者のリスク — 歩行者と自転車運転者	①車中心社会でのリスクと歩行者・自転車事故の特徴について解説する。②身近な交通手段として幼児から高齢者まで広く利用されている自転車について、交通事故発生の実況を紹介する。③中学校での自転車走行に関する効果的な教育プログラム実施例と、高齢者に対する行動観察結果も紹介する。④交通安全教育と同時に、環境整備や社会システム整備の必要性についても述べる。 【キーワード】 車社会とリスク、歩行者、自転車、交通安全教育	向井 希宏 (中京大学教 授)	向井 希宏 (中京大学教 授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	交通参加者のリスク ー初心運転者	①初心運転者が起こす事故の様式を解説する。技能が未熟であることと若さゆえの動機系の問題点を整理する。②若さゆえのリスクテイキング傾向、攻撃性、法規範の乏しさなどの問題点を概説する。運転行動として、わき見や違反傾向などの特性を具体的な研究に基づいて解説する③教育的対策について内外のアプローチを紹介する。 【キーワード】 初心運転者、技能、動機、攻撃性、運転者教育	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
11	交通参加者のリスク ー高齢運転者	高齢ドライバーによる交通事故増加傾向と事故類型の特徴について紹介するとともに、加齢にともなう生理的機能や行動特性の変化についても解説する。今後の事故防止に向けて、教育プログラムを開発し、効果測定に基づいて改善を試みている研究例もあわせて紹介する。 【キーワード】 高齢ドライバー 加齢 機能低下 交通安全教育	向井 希宏 (中京大学教 授)	向井 希宏 (中京大学教 授)
12	社会的行動としての 運転	①攻撃性の研究例を紹介し、運転者教育による態度変容の可能性について解説する。②交通場面でも、コミュニケーションの役割は重要であり、交通参加者による非言語的コミュニケーションの有効性と問題点について、法的規制との関連で考える。③効果的な教育プログラムを通してのよりよい交通社会を作り、安全文化構築に向けての方策を探る。 【キーワード】 カーコミュニケーション、攻撃性、法的規制、社会的行動	向井 希宏 (中京大学教 授)	向井 希宏 (中京大学教 授)
13	交通安全教育	①交通安全教育の意義と役割について子どもの行動実態を示しつつ述べる。②子どもへの交通教育の先進国であるドイツの『子どもと交通』計画を取り上げて、その心理学的背景と長所を述べる。日本での『あやとり』教育の紹介をしつつ、その課題と交通心理学の果たすべき役割を述べる。③日本の自転車事故の現状を紹介しつつ、中学生を中心とした交通教育への取り組みを述べる。 【キーワード】 交通安全教育、子ども、歩行者、自転車	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
14	運転者教育	①職業ドライバーへの教育訓練について述べる。②違反ドライバーへの処分者講習の実際について紹介する。③高齢運転者へのコーチング法を用いた教育プログラムの効果を検証した一連の研究を紹介する。 【キーワード】 運転者教育、職業ドライバー、処分者講習、高齢運転者	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)
15	交通システムと心理 学	①道路交通システムの向上への心理学の役割を研究に基づいて紹介する。②自動車のITS技術を紹介するとともに、リスク補償との関連について解説する。③地域の交通安全対策について奈良県での事例に基づいて解説する。 【キーワード】 道路交通システム、ITS、リスク補償、地域交通	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)	蓮花 一己 (帝塚山大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528319	履修 制限	無	単位 数	2

科目名(メディア) = 心理統計法 ('11) = (TV)

〔主任講師(現職名): 大澤 光(放送大学客員教授) 〕
 〔主任講師(現職名): 神宮 英夫(金沢工業大学教授) 〕
 〔分担協力講師(現職名): 池田 浩(福岡大学講師) 〕
 【本学担当専任教員: 森 津太子(放送大学准教授) 〕

講義概要

心理学とその関連領域の問題を、数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るための統計法の基本的な考え方と方法を、数式、例題、図などによって、できるだけ分かりやすく、代表的な表計算ソフトのExcelを利用して、実際に使えるように説明する。

授業の目標

全15回の授業を通じて、心理学とその関連領域における統計法の基本的な考え方と方法を理解すること、また、具体的な問題に対して、その目的に沿って問題を分析し、その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身につけること、さらに、より高度な統計法の学習への橋渡しとなることが目標である。

履修上の留意点

講師は、放送授業の受講の前に印刷教材を予習すること、全15回の放送授業を受講すること、放送授業で指示されたすべての演習問題に誠実に取り組むこと、不明の点は書籍・文献・ネット情報などによって自分の力で努力をすることを期待している。「心理学研究法('14)」を併せて履修すると、さらに理解が進むだろう。なお、この科目の履修には、高校卒業程度の数学の知識と、表計算ソフトExcelの基本的な操作に関する知識が必要となる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	心理統計法入門	「心理統計法」は、仕事の目的に応じて対象を特定し、その対象の“関心のある”性質について必要な「データ」を収集・調査して、これから必要な「情報」を導き出すための考え方と方法(道具立て)である。そして、「データ」は、それが表現する内容や出所などによって、導き出せる「情報」が違う。 【キーワード】 統計、統計法、目的、データ、情報、尺度基準、記述統計学と推測統計学	大澤光(放送大学客員教授)	大澤光(放送大学客員教授) 西川泰夫(上智大学名誉教授)
2	度数分布とその特徴	質的あるいは量的なデータの分布の性質や特徴は、その度数分布を棒グラフで表した「ヒストグラム」を描き、その形状を観察すれば掴める。データに異質なものが混じっている場合には、データを「層別」する。データの分布の集中具合は「パレート図」を描けば分かる。 【キーワード】 度数分布表、ヒストグラム、外れ値、単峰分布、二峰分布、層別、シンプソンのパラドックス、パレート図	大澤光(放送大学客員教授)	大澤光(放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	代表値とバラツキなど	データの分布の特徴をその代表値やバラツキなどの数値(統計値)で表すことを「数値要約」という。データの分布の「位置」は平均値、最大値、最小値などで、データの分布の「バラツキ」は範囲、標準偏差などで、データの分布の「形」は歪度、尖度などで表す。 【キーワード】 平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値、四分位数、範囲、四分位範囲、平均偏差、標準偏差、分散、歪度、尖度	大澤光(放送大学客員教授)	大澤光(放送大学客員教授) 安田康晴(広島国際大学教授)
4	確率変数、確率分布、正規分布	「統計法」では、標本は母集団から無作為(偶然)に抽出されたと想定して、その偶然を(数学的に)扱うことができる「確率論」を利用して、標本のデータから母集団の性質や特徴を検定・推定する。この章では、「確率論」の基礎として、確率変数、確率分布、二項分布、正規分布、中心極限定理などを理解する。 【キーワード】 確率変数、確率分布、二項分布、大数の法則、中心極限定理、正規分布、母集団、無作為な標本抽出	大澤光(放送大学客員教授)	大澤光(放送大学客員教授)
5	統計的仮説検定の考え方と手順	心理統計では、様々な分析方法が用いられているが、そのほとんどが統計的仮説検定の考え方に基づいている。ここでは、推測統計における仮説検定の考え方と具体的手順について概説しながら、統計的仮説検定を進めていく上での基本的事項を理解することを目指していく。 【キーワード】 統計的仮説検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準、両側検定、片側検定、棄却域、第1種の過誤、第2種の過誤	池田浩(福岡大学講師)	池田浩(福岡大学講師)
6	1つの平均値に関する検定	統計的仮説検定の考え方と手順に基づきながら、1つの標本から得られた平均値の検定を学習する。この1つの標本から得られた平均値の検定とは、標本から得られた平均値が母集団の平均値と比較し、検定するものである。この分析を通して、次章で取り上げるt分布と自由度の概念についても理解する。 【キーワード】 1つの平均値に関する検定、標準正規分布、t分布、自由度、母集団分散	池田浩(福岡大学講師)	池田浩(福岡大学講師)
7	2つの平均値の差の検定	心理統計で最も基本的な分析とは、複数の平均値の差を比較検討することである。そのなかで2つの平均値の差を検定する分析方法として「t検定」を学習する。さらに、t検定は、2つの平均値が対応のない独立したデータによるものか、あるいは対応したデータによるものかによって分析方法が異なってくる。これらの違いを適切に理解し、データの特徴に応じたt検定を行うことができるようになることを目指していく。 【キーワード】 t検定、対応のないt検定、対応のあるt検定、等分散の検定、ウェルチの検定	池田浩(福岡大学講師)	池田浩(福岡大学講師)
8	“対応のある”2つの変量の相関関係(1)	“対応のある”2つの変量の対応(相関)関係を分析するには、まず「散布図」で2つの変量の関係を見極め、データが均質であれば、相関関係の強さを表す「相関係数」を計算する。異質なデータが混じっていれば、「層別」する。ちなみに、相関関係と因果関係は同じではない。 【キーワード】 相関関係、散布図、層別、相関係数、擬似相関、因果散布図、相関関係、層別、相関係数、擬似相関	大澤光(放送大学客員教授)	大澤光(放送大学客員教授) 藤原純一(ソルクシーズ特別顧問)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
9	“対応のある”2つの 変量の相関関係(2)	相関係数の信頼性の相関の有無の「無相関検定」、相関係数の信頼区間の「推定」、順位尺度データに対する「順位相関係数」、質的なデータに対する「連関係数」と「 χ^2 検定」の考え方と計算方を理解する。 【キーワード】 無相関検定、相関係数の信頼区間、順位相関係数、 χ^2 検定、クラメールの連関係数	大澤光(放送 大学客員教 授)	大澤光(放送 大学客員教 授)
10	分散分析	分散を検定して多くの平均の違いを一度に検定するのが、分散分析である。実は、7章で取り上げた平均の差の検定(t 検定)と、意味的には同じ部類に入る。分散分析の基本となる「一要因の分散分析」を解説し、この検定の基本的な考え方を説明する。 【キーワード】 F 検定、要因と水準、バラツキの加法性、平方和、多重比較	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)
11	複雑な分散分析	心理学の実験対象では、人が常に関わっているので、複雑な要因が絡み合っている場合が多々ある。これらの要因を整理して、実験を計画して、これに対応する分散分析が行なえるように、多様な分散分析を紹介する。主に、Excelの分析ツールで計算できるものを中心に解説する。 【キーワード】二要因の分散分析、繰り返しあり、釣り合い型、交互作用、被験者内要因	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)
12	回帰分析	8・9章で取り上げた相関係数と回帰分析との関係を解説し、両者の違いを理解できるようにする。回帰分析を行うための最小自乗法を解説する。この分析を行うことの意味や利点について、事例を紹介しながら、解説する。 【キーワード】回帰係数、最小自乗法、相関係数、独立変数、従属変数	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)
13	回帰直線の当てはまり	回帰分析によって結果に直線を当てはめるが、当然その当てはまりの程度が問題となる。決定係数や分散分析など、当てはまりを議論するための指標を解説し、これらの適切な使い方を理解する。また、10・11章の分散分析との関係についても説明する。 【キーワード】決定係数、分散分析、 t 検定、偏相関係数、偏回帰係数	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)
14	多変量解析のすすめ	複雑な要因が絡み合っている心理学の研究で、これらの絡み合いを解きほぐす手法が多変量解析である。この手法の全体像を概観して、複雑性を解明する試みを性格や評価実験事例などの事例を交えて解説する。 【キーワード】主成分分析、因子分析、重回帰分析、相関係数、プロトタイプ論、因果論	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)
15	心理学と統計の関係	心理学でなぜ統計が使われるのかを理解することは、心理学そのものを理解するとともに、必要な統計やその適切な使い方を身につけるために必要である。今後実際に統計を使って心理学研究を行うための力を身に付けるために必要な知識を獲得することを目指す。 【キーワード】個人差、誤差、3つの”つまづき”、道具としての統計、統計の全体像	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)	神宮英夫(金 沢工業大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528416	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 比較行動学 （'11）＝（R）
－ヒト観の再構築－

〔主任講師（現職名）：藤田 和生（京都大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：森 津太子（放送大学准教授）】

講義概要

ヒト以外の動物の学習と認知や知性について、最新の知見を織り交ぜて講義する。まず学習の一般的原理を解説した後、そうした一般原理では理解することの難しい学習の諸現象を生物学的視点から意味づける。次いで、多様な動物の種々の認知機能を、比較的単純な情報処理過程から他者の心の理解に至るまで、紹介する。模倣などの社会的学習、チンパンジーの知性、イヌの知性、赤ちゃんの知性をトピックとして取り上げた後、意識や内省といった、動物たち自身の心的状態の認知に関する最新の研究を紹介する。最後にこれらの諸事実をもとに、ヒトとは何かを招へい講師とともに討論会形式で考える。

授業の目標

ヒトは動物界において特別な存在だと考えられてきた。道具を使う、道具を作る、言葉を話す、文化を持つ、これらはいずれもある時代のヒトの「定義」だった。しかし、ヒト以外の動物の研究が進むにつれて、これらはいずれも動物にも存在することが実証され、ヒトの定義はそのたびに作り替えられてきたのである。いまや最後の砦とも思われる意識や内省なども、動物にその萌芽が見られることが明らかにされた。こうした諸事実を前にして、我々はヒトという存在を動物界の中にいかに位置づけるのかを考え直さなければならない。本講義では、最新の研究成果に基づいて、ヒトとは何かを考え、地球化時代の新たなヒト観を提示する。

履修上の留意点

特に前提とする知識は想定していないが、実験心理学の基礎的知識があれば、理解がより進むであろう。
「乳幼児心理学（'12）」「学力と学習支援の心理学（'14）」「錯覚の科学（'14）」を併せて履修するとさらに理解が深まるだろう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学習1－行動の分類と反射行動の変容原理	まず本科目の概要とねらいを簡単に述べる。次に学習の定義を述べた後、行動の分類と、反射行動に関する最も基礎的な学習の原理を、刺激の単独提示で生じる非連合学習（馴化と鋭敏化）と、連合学習（古典的条件づけ）に分けて解説する。 【キーワード】 反射行動、馴化、鋭敏化、非連合学習、連合学習、古典的条件づけ、条件反射	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
2	学習2－オペラント条件づけと強化スケジュール	認知や知性により関連の深い随意的行動の変容原理であるオペラント条件づけと、オペラント条件づけされた反応の生起パターンを特徴的に制御する強化スケジュールの効果を解説する。 【キーワード】 随意的行動、オペラント条件づけ、強化、罰、強化スケジュール	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
3	学習3－学習の生物学	前2講で述べる一般的原理だけでは説明の難しい学習の諸現象を紹介し、学習の生物学的意義について解説する。 【キーワード】 学習の生物学的制約、選択的連合、プログラム学習、適応、進化	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	認知1－動物たちの 色の知覚	2講にわたり、動物たちの基礎的な環境認識について概説する。第4講では色の知覚を取り上げる。まず色はなぜ見えるのかを簡単に解説した後、多様な系統群の動物種の色覚を比較し、色覚の進化史を述べるとともに、ヒトの色覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 色彩視、色光、視物質、桿体、錐体、3色型色覚	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
5	認知2－動物たちの 形の知覚	基礎的環境認識の中から形の知覚を取り上げる。多様な動物が形をどのように見分けているかを解説し、錯視や情報処理に見られる種差を述べ、ヒトの形知覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 形態視、図形知覚、錯視、知覚的補間、全体・部分優位性	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
6	認知3－動物たちの 記憶	ヒトの記憶系の動作とそのモデルを簡単に解説した後、諸動物の記憶に関する多様な実証的研究を紹介し、その特徴について述べる。また種特異的に発達した記憶についても解説する。 【キーワード】 記憶、長期記憶、短期記憶、作業記憶、干渉、符号化、貯食	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
7	認知4－動物たちの コミュニケーション	ヒトの最も重要なコミュニケーション手段である言語の特徴を簡単に述べた後、諸動物の多様なコミュニケーションのありさまや動物に対する言語訓練の成果を紹介し、ヒトの言語との類似点や相違点を明らかにする。 【キーワード】 言語、コミュニケーション、生得的解発機構、象徴性、手話、言語習得実験	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
8	認知5－動物たちの 思考	思考の意義と比較認知研究における思考のとらえ方を簡単に述べた後、種々の動物たちの概念の形成や思考過程に関する実証的な研究を紹介し、ヒトの思考との連続性や相違点を明らかにする。 【キーワード】 思考、概念、推論、演繹、帰納	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
9	認知6－動物たちの 社会的知性	近年、ヒト以外の動物も、他者を欺いたり出し抜いたり、あるいは他者と協力したりすることが示されている。また簡単な他者の心的状態の読み取りも可能であることが示されている。本講では、諸動物のそうした社会的知性と呼ばれる心の働きを概説する。 【キーワード】 社会的知性、心の理論、欺き、協力、読心、共感、思いやり	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
10	トピック1－社会的学 習	ヒトの文化は、ヒト特有の社会的学習のメカニズム、とくに模倣を基盤とした学習能力によって成立してきたと考えられている。ヒト特有の模倣能力とはどのような性質をもつのか、進化史的にどのような適応的意義があったのか、ヒト以外の霊長類との比較を通してこれらの問題について考えてみたい。 【キーワード】 文化、チンパンジー、身体模倣、意図理解、社会的促進、刺激強調	明和政子(京都大学教育学研究科・准教授)	明和政子(京都大学教育学研究科・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	トピック2ーチンパンジーの知性	ヒトに最も近縁な動物であるチンパンジーの知性について、言語研究や道具使用の学習、社会的知性など最新の研究トピックをまじえて紹介し、ヒトとの比較のうえで考察する。 【キーワード】 チンパンジー、言語、道具使用、社会的知性	平田聡(京都大学霊長類研究所・特定准教授)	平田聡(京都大学霊長類研究所・特定准教授)
12	トピック3ーイヌの知性	最古の家畜であり、ヒトの最良の友とも言われるイヌの知性に関する最新の研究を紹介し、イヌの心の深い理解に基づくより良いヒトとイヌの関係を考える。 【キーワード】 イヌ、社会的認知、社会的知性、家畜化、オオカミ	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
13	トピック4ー赤ちゃんの知性	赤ちゃんは従来考えられてきた以上に豊かな世界に生きていることが、近年の実験的研究によって明らかになってきた。赤ちゃんの知的な振る舞いを、特に対人関係を中心に据えて紹介する。 【キーワード】 赤ちゃん、社会的認知、社会的知性、目標帰属、意図理解	板倉昭二(京都大学文学研究科・教授)	板倉昭二(京都大学文学研究科・教授)
14	認知7ー動物たちの意識と内省	心の内部で生じている事象に対する動物たちの認知について、最新の資料に基づき解説する。メタ認知とエピソード記憶に関する研究を紹介する。 【キーワード】 意識、内省、メタ認知、エピソード記憶、心的時間旅行	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)	藤田和生(京都大学文学研究科・教授)
15	討論ーヒトとは何か	本講義のまとめとして、4人の講師が、それぞれの立場からヒトとは何か、これから明らかにすべき課題は何か、等について論じ合う。最後に主任講師が、それらをまとめる。 【キーワード】 ヒト、動物、進化、心、知性、感情	藤田和生(京大文・教授) 板倉昭二(京大文・教授) 明和政子(京大教育・准教授) 平田聡(京都大学霊長類研究所・特定准教授)	藤田和生(京大文・教授) 板倉昭二(京大文・教授) 明和政子(京大教育・准教授) 平田聡(京都大学霊長類研究所・特定准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1526707	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理学史 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：西川 泰夫・上智大学・名誉教授 〕
 〔主任講師（現職名）：高砂 美樹・東京国際大学・教授 〕
 【本学担当専任教員：森 津太子・放送大学准教授】

講義概要

現代の心理学は、従来の哲学的・倫理的・道徳学的（思弁と思索を主とする）心理学から19世紀における自然科学の興隆に伴い、ことに生理学や物理学を手本として、つまり新心理学、科学的（実験）心理学として自立した。一方、わが国では幕末から明治初期にかけて世界の心理学と出会い、その移入と定着・拡大を図り、今日を作ってきた。この間、世界の心理学の変遷の影響を受けながらも、その動きに能動的に参画し、心理学ワールドに対して固有の貢献も果たしてきている。こうした心理学の歴史的背景と各種の展開をふまえ、心理学の対象である生き物全般に加えて、人工物（ことに機械類）の心や知性、行動を的確に理解するための基本概念、考え方の起源を呈示する。

授業の目標

現代心理学は、なぜ今あるようにあるのか。そのことの発端、黎明期・前夜から、自立し、成長し、成熟してきた学問自体の変遷の経緯を、現在入手可能な史資料や調査検討の結果を踏まえ、明らかにする。ことの変遷の背景には、それを担った先達を始め、後継者、そして将来の直接の担い手となる新たな学び手と人の輪が連なる。その輪の中核に置かれるのが、現在の心理学（いわゆる通常科学の一員として）に共通する範例となるもの、つまりパラダイムに他ならない。このパラダイムの変遷史の総体が、心理学の歴史に他ならない。現在の心理学を、それが包括する個々の諸専門分野から応用領域、技術にいたるまで学ぶのに不可欠な基本原理、共有概念などの習得を図る。

履修上の留意点

一般的に言って、歴史の学びというと、とかく暗記物といったイメージが強い。そのためか、ことの年号や人名を機械的かつ苦痛な暗記を強制されるという芳しくない受け止め方も流布されている。まず、こうしたイメージを払拭することから始めよう。一方、確かに歴史学は、ことの性格上、過去のことにこだわるという面を否定できないため、後ろ向きで将来に向けて生きる人々にはなじめないのであろう。しかしあいにくであるが、実現した将来は全て過去の上に成り立つことを忘れてはならない。この意味でものごとはすべて過去のことといえる。この瞬間にも実現した将来は、過去のことの経過の上でのこと。するとの確かな歴史的過去を把握するためには、実現した将来（実は現在）から、過去を復元するさきわめて困難な課題である。それだけに歴史の学びには知的関心と史資料などへの科学的実証精神が欠かせない。「教育と心理の巨人たち（'10）」を併せて履修すると、さらに理解が進むだろう。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	西欧における心理学の始まり	心理学の始まり。19世紀の心理学が近代学問として成立した過程。経験主義哲学・実験生理学・進化論の影響。心理学前史としてのスペンサーとバイン。フェヒナーの精神物理学。ヴェントの心理学実験室とその拡大。 【キーワード】 哲学的心理学から新心理学へ。精神物理学。心理学実験室。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
2	日本への心理学の導入	日本の心理学の前夜・黎明期を担った先達たち。「性理学」と「心理学」、学名の日本語表記と語源をめぐって。日本の「心理学」の制度化を可能にした大学の役割。西周・西村茂樹・外山正一。 【キーワード】 心理学という学名の由来と語源。筈般氏心理学。新心理学。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
3	アメリカ心理学の始まり	ジェームズ・ホール・ティチナー・ミュンスターバーグなど。20世紀初頭まで。 【キーワード】 アメリカ哲学。ハーバード大学。ジョンズ・ホプキンス大学など。	荒川歩・武蔵野美術大学・准教授	荒川歩・武蔵野美術大学・准教授

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日本における心理学の定着	大学心理学(新心理学)の成立過程。日本の心理学の背景史から。哲学的心理学から科学的心理学へ。G.S.Hall のもとで学んだ日本人留学生たち。日本の新心理学のルーツ。大学制度の整備に伴う心理学の位置づけ。元良勇次郎。松本亦太郎。 【キーワード】 新心理学。元良勇次郎。精神物理学。心理学実験室。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
5	日本における心理学の広がり(日本心理学会設立から現在へ)	日本における心理学の定着後の拡大過程。大学制度の整備拡充に重ねて。日本心理学会の設立の背景と変遷過程。戦後の復興から現状へ。京都アメリカ研究セミナー。国際心理学会議(ICP)。 【キーワード】 心理学の制度化。大学制度史。日本心理学会。ICP。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
6	知能検査と発達心理学	知能検査。ビネ・シモン。ターマン。IQ。偏差知能指数。ウェクスラー。言語性テスト・運動性テスト。発達・成熟過程。教育的対応。日本への導入。久保良英。田中寛一。鈴木治太郎。心理テスト理論。 【キーワード】 知能。検査。発達・成熟過程。学習と教育。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
7	臨床心理学という発想	フロイト。精神分析学。催眠術。自由連想法。夢の分析。イド・エゴ・スーパーエゴ。深層心理。ユング。心理分析。感情に色づけられたコンプレックス。集団無意識。元型。アドラー。劣等コンプレックス。補償。クレペリン。二大精神病の分類。森田正馬。森田療法。中村古峯。内田勇三郎。精神作業検査。 【キーワード】 精神分析。心理分析。心理療法。心理検査法。変態心理。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
8	比較心理学と行動主義	比較心理学・動物心理学。ダーウィンの進化論。ロマーニズによる「動物の知能」。モーガンの公準。ワトソンの行動主義。パヴロフの条件反射。ワトソン。ソーンダイクの試行錯誤学習。日本の比較心理学。増田惟茂・黒田亮。動物心理学会。 【キーワード】 比較心理学。進化論。モーガンの公準。行動主義。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
9	ゲシュタルト心理学	ブレンターノとグラーツ学派。マイノング・エーレンフェルス。シュトゥンプとフランクフルト/ベルリン学派。ヴェルトハイマー・コフカ・ケーラー・レヴィン。日本におけるゲシュタルト心理学の影響と佐久間鼎。仮現運動。トポロジー心理学。洞察学習。グループ・ダイナミクス。戦争の影響。 【キーワード】 20世紀の3大潮流。ゲシュタルト心理学。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	20世紀における日本の心理学の展開	大学令以降の私立大学における展開。研究室の主宰者など。慶應義塾大学。早稲田大学。日本大学。関西学院大学。同志社大学など。横山松三郎。中島泰蔵。渡辺徹。今田恵など。東京大学出身者。クラーク大学への留学、学位取得者。 【キーワード】 大学令。私立大学。東京大学出身者。クラーク大学留学 者。	荒川歩・武蔵野美術大学・准教授	荒川歩・武蔵野美術大学・准教授
11	社会心理学の展開	社会心理学とは。社会心理学の位置づけとその展開。応用心理学の一側面。社会調査。世論調査。意識調査。質問紙法。社会的認知。人間関係。偏見。集団と個。説得。同調。広告。流行。暴走。オルポート。フェスティンガーなど。 【キーワード】 社会心理学。応用心理学。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
12	実験心理学と認知心理学の展開	パラダイム・シフト。意識心理学から行動心理学へ。行動心理学から認知心理学へ。認知革命。新たな心の科学。行動論の内部での変化。認知心理学への道程から、新たな心の科学(認知科学)へ。 【キーワード】 認知(心的)過程を構成する機能実体。情報の流れと処理系。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
13	20世紀心理学史における論争	バート。福来友吉。古川竹二。念写・透視。血液型と性格。 【キーワード】 科学的説明と理解とは。見えないものを見る。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
14	女性心理学者の位置	日本の教育制度と女性に対する高等教育。アメリカ留学。アメリカにおける女性心理学者第一世代:コールキンズ・ラッド=フランクリン・ウオッシュバーン。日本における女性心理学者第一世代:原口鶴子・高良とみ・実生すぎ・久保艶子。 【キーワード】 日米における女性心理学者の登場。大学制度と学位規定。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
15	心理学史の意義と課題	心理学史の意義と方法論。資料保存・アーカイヴ。アメリカ心理学史アーカイヴ。古典的実験機器の動態保存と維持管理。心理学史の教育における展望と課題。大学院教育のあり方。心理学史を学ぶことへのメッセージ。 【キーワード】 心理学史の方法論。心理学史アーカイヴ。心理学史の教育。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528947	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理学研究法 （'14）＝ （R）

英文名＝ [Research Methods in Psychology ('14)]

〔主任講師（現職名）：大野木 裕明（仁愛大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：渡辺 直登（慶應義塾大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：森 津太子（放送大学准教授）】

講義概要

心理学の面白さは、もちろん、その成果を知ることにある。けれども、それだけではなく、別の面白さがある。それは、自らが心理学研究を実施したり、あるいは実施しなくても研究の考え方や手順を追体験したり、結果を考察することなどである。この醍醐味に触れるために、(1)心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、(2)研究法はどのように変遷してきたか、(3)方法や技法はどう工夫されてきたかを解説する。身近な例から基礎的抽象的な例まで、それぞれの研究事例には、研究法としてのそれぞれの意味がある。

授業の目標

実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理をしっかりと把握すること。さらに自然科学を始めとする隣接諸科学と比べて、心と行動を明らかにする心理学の実証性について、どのような工夫と限界があるのかを研究例に沿って理解すること。数多くの心理学的なアプローチや技法が次々と生まれているが、いっけん違うように見えてもそこには共通の論理があることを知ること。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	心理学研究の諸方法	〇〇心理学という時、〇〇には、発達とか認知とかの研究領域(専門分野)をあらわす場合と、実験とか質的とかの研究法やアプローチをあらわす場合がある。また、例えば、発達心理学の研究そのものに質問紙法や実験法などの研究法が使われる。このような表現法のわかりにくさは、心理学研究の歴史をたどることで明らかになる。先行科学や隣接科学との関わりに触れながら心理学研究法の発展と課題を解説していく。 【キーワード】 行動と心的過程の科学、実践の科学、観察法、実験法、質問紙法、面接法	大野木 裕明 (仁愛大学教授)	大野木 裕明 (仁愛大学教授)
2	研究の発信と目的を考える－研究入門－	心理学研究の開始から一区切りまでの流れを概観する。そして、なぜ心理学に研究法が必要なのか、研究法を無視すると何が起こるのかについても言及しつつ、何のために研究を発表するのか、先行研究と新研究との関係に典型的なパターンがあるのか否かを、知的共同体という視点から考えてみる。 【キーワード】 文献研究、研究発表の目的、学術的共同体、学術雑誌	大野木 裕明 (仁愛大学教授)	大野木 裕明 (仁愛大学教授)
3	因果関係を探る－実験法－	心理学における実験の論理について学ぶ。心理学実験は最初は自然科学系の方法論を基礎として始まったが、人間の心を対象とした時、しだいに心理学に独自の使い方・工夫が重ねられるようになってきた。その工夫の数々を学び、方法論の特徴と限界を解説する。 【キーワード】 実験計画、独立変数、従属変数、因果関係、統計学的検定	大野木 裕明 (仁愛大学教授)	大野木 裕明 (仁愛大学教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執筆担当 講　師　名 (所属・職名)	放送担当 講　師　名 (所属・職名)
4	モデルを使ってしくみ を探るーモデル論的 アプローチー	説明すべき現象を前にして、さまざまな手法でデータを獲得し、そのデータを論理的に説明できる概念モデルをたてて、データと整合する最適モデルを構築していくという方法について解説する。思考研究におけるACT-Rの研究を例として、こうしたモデルに基づく研究方法について検討していく。 【キーワード】 モデル、最適性、シミュレーション、ACT-R	田中 俊也 (関西大学教 授)	田中 俊也 (関西大学教 授)
5	集団の態度や意見を探るー質問紙法入門ー	ものの考えや態度や価値観などは人さまざまである。しかしながら、これを世代別や性別にみると、その集団に共通の態度や意見が浮かび上がってくることがある。これらの社会調査を行う時の質問票や、その心理面を探る質問紙法を紹介する。質問紙法は簡単そうに見えるが、そこには多くの留意点があることを解説する。 【キーワード】 質問紙、社会調査、実態調査、質問紙調査の流れ	大野木 裕明 (仁愛大学教 授)	大野木 裕明 (仁愛大学教 授)
6	「きく」ことによって態 度や意見を探るー面 接法ー	面接法 は心理学研究の中で最もよく使われている研究法のひとつである。面接法はその目的の観点から、臨床的面接法、調査的面接法、評価的面接法に分類できる。本授業では、さまざまな調査的面接法について学ぶ。 【キーワード】 面接者、インフォーマント、構造化面接、半構造化面接	渡辺 直登 (慶應義塾大 学大学院教 授)	渡辺 直登 (慶應義塾大 学大学院教 授)
7	「みる」ことから心を探 るー観察法ー	我々は、日常生活の中で、他人の行動を観察してその人を理解しようと努めます。これと同様に心理学者も人間行動を観察することを通して、その心理を理解しようとする。心理学における観察法は、主観や歪みをできるだけ統制して、客観的で科学的なデータを得る試みである。この章は、こうした科学的観察法の基本について学ぶ。 【キーワード】 時間見本法、事象見本法、参加観察法	林 洋一郎 (法政大学准 教授)	林 洋一郎 (法政大学准 教授)
8	現場から心を探るーフ ィールドワークと質 的データの分析	「事件は現場で起きている！」という言葉が示すように、心理学も実験室を出て、社会生活の現場に密着してデータを採取する質的研究がさかんに行われている。この章では、こうした心理学における質的研究の基本について学ぶ。 【キーワード】 フィールドワーク、質的データ、参加観察法、マルチメソッド	林 洋一郎 (法政大学准 教授)	林 洋一郎 (法政大学准 教授)
9	実践を通して研究するー アクションリサー チとプログラム評価ー	応用分野の心理学を探究する上で、科学者と実践者の特徴を合わせ持つことが重要である。本授業では、この両者を統合して行われる研究法の代表例として、アクションリサーチとプログラム評価を取り上げ解説する。 【キーワード】 社会システム、プロセス評価、アウトカム評価、ロジックモデル	渡辺 直登 (慶應義塾大 学大学院教 授)	渡辺 直登 (慶應義塾大 学大学院教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	心理学的な「ものさし」をつくる－尺度構成－	心理学が扱う概念は多くが「構成概念」であり、その概念を適切に評定するための「ものさし(尺度)」は、ある種社会的・文化的「まなざし」を背景にして構成されるものである。こうした尺度構成についての基本的な考え方、手法について概説する。本講義のさまざまな回で紹介される調査や検査で用いられる「ものさし」がどのように創られ利用されるのかについてみていく。 【キーワード】 構成概念、尺度構成、信頼性、妥当性	田中 俊也 (関西大学教授)	田中 俊也 (関西大学教授)
11	ものさしを使って能力やパーソナリティを測る－心理検査法－	心理検査は、能力・パーソナリティ・適性などの個人差を測ることで、意思決定や判断を行う道具として発展してきた。本授業では、心理検査の成り立ちを学ぶとともに、心理検査を研究の中でどのように用いるかについて解説する。 【キーワード】 知能検査、パーソナリティ検査、標準化、テスト理論、説明責任	渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授)	渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授)
12	個性の中から普遍性を見つける－事例研究法－	事例研究は一つないしは少数の事例を、深く記述・分析することによって、理論的な考察を行い、普遍的な法則性を発見する研究手法である。事例研究法は、条件の統制が難しい応用心理学の分野でよく用いられている。本授業では、事例研究の進め方とその適用領域について解説する。 【キーワード】 論理実証主義、解釈主義、社会生態学、フィールドワーク	渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授)	渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授)
13	感情の動きを読み取る－主観・行動・生理心理学的研究法－	喜怒哀楽などの感情の動きを測定する主観評定、生理心理学的指標、行動分析の手法について解説する。心拍、脳画像的解析、表情や視線の分析など、感情状態の測定に利用されている代表的手法について解説するとともに、その研究応用例を紹介する。 【キーワード】 感情、不安・緊張、主観評定、パフォーマンス、生理指標	樋口 貴広 (首都大学東京大学院准教授)	樋口 貴広 (首都大学東京大学院准教授)
14	心理学の研究手法を他領域に活かす	心理学研究の中で利用され発展してきた手法が、健康科学やリハビリテーション領域などの隣接他領域に寄与していることについて解説する。健康にかかわる研究事例に基づき、心理学の研究手法がもたらす社会的貢献の具体例を紹介する。 【キーワード】 運動イメージ、メンタルプラクティス、ミラーセラピー、視覚と運動、歩行の転倒予防	樋口 貴広 (首都大学東京大学院准教授)	樋口 貴広 (首都大学東京大学院准教授)
15	心理学の研究と教育を考える	メタ分析、研究倫理の重要性など、最近になって重要視されている諸問題と話題に触れながら、心理学関係の学部や学科が掲げる教育目標とその課題を探索。また、相変わらず誤解されている心理学の一側面についても話題提供を行う。 【キーワード】 心理学教育、研究パラダイム、研究と実践の統合、倫理綱領	大野木 裕明 (仁愛大学教授) 渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授) 田中俊也(関西大学教授)	大野木 裕明 (仁愛大学教授) 渡辺 直登 (慶應義塾大学大学院教授) 田中俊也(関西大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528955	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会心理学 （'14）＝ （R）

英文名＝ [Social Psychology ('14)]

〔主任講師（現職名）： 森 津太子 （放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】【

講義概要

人間は「社会的動物である」と言われるように、有史以来、人間は他者との関係性の中で生活をしてきたし、また他者の存在は常に人間の関心事だった。本科目では、著名な社会心理学の書籍とそこに記されている研究を、古典から最新のものまで幅広く紹介しながら、社会的動物である人間の行動や認知、他者と共に生活することの意味やその影響について考えていく。

授業の目標

社会心理学の主要な知見を、知識として習得するとともに、それを日常生活に応用し、日々の問題解決に社会心理学を利用できるスキルを身につける。

履修上の留意点

『心理と教育を学ぶために('12)』、『心理学概論('12)』、『教育と心理の巨人たち('10)』を履修していることが望ましい

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会心理学とは何か	社会心理学という学問の定義、特徴、成り立ちなど、社会心理学という学問の概略をつかみ、今後、学習を進めていく上での基盤となる知識を身につける。 【キーワード】 心理学的社会心理学、社会的動物（ザ・ソーシャル・アニマル）、現実世界との結びつき、実証性、多様性	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 田中 知恵 (明治学院大学・准教授) 高比良 美詠子 (中部大学・准教授) 大江 朋子 (帝京大学・専任講師)
2	服従の心理	スタンレー・ミルグラムによる社会心理学の古典的名著『服従の心理』を紹介し、私たちが権威を持つ者に対してどのような振る舞いをする傾向があるかを考えていくとともに、人間行動に及ぼす状況の力の強さについて学ぶ。また、“服従実験”を通じて、社会心理学的研究の特徴やそれがはらむ問題についても理解する。 【キーワード】 服従実験、権威への服従、状況の力、監獄実験、基本的な帰属のエラー、倫理的問題	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 大江 朋子 (帝京大学・専任講師)
3	冷淡な傍観者	ビブ・ラタネとジョン・ダーリーによる『冷淡な傍観者』を紹介し、緊急事態に居合わせた人がその事態に介入して援助するまでの心理過程、あるいは、援助しない心理過程について学ぶ。人が容易に気づくことのできない状況要因の力と、それを実証的に検討する社会心理学の重要性を学ぶ。 【キーワード】 援助行動、傍観者効果、責任の分散、集合的無知、利他的動機、利己的動機、共感性	大江 朋子 (帝京大学・専任講師)	大江 朋子 (帝京大学・専任講師) 森 津太子 (放送大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	予言がはずれるとき	レオン・フェスティンガーらによる『予言がはずれるとき』の概要を知ること、ある宗教集団の予言がはずれたとき、信者たちに一見すると不可思議な現象が起きた背景を、「認知的不協和理論」を手がかりに考察する。加えてこのような現象は決して特別なものではなく、私たちの生活の中には、類似の現象が多数見られることを、さまざまな実験例を通じて知ることを目指す。 【キーワード】 認知的不協和理論、不協和、認知の重要性、不十分な正当化、入会儀礼	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 大江 朋子 (帝京大学・専任講師)
5	影響力の武器	ロバート・チャルディーニ著の『影響力の武器』を紹介し、態度と説得の問題を考える。特に人間行動を導く基本的な心理の原理、すなわち返報性、一貫性、社会的証明、好意、権威、希少性のメカニズムに関する具体的研究事例を学ぶ。またこうした原理が働きやすい状況に関して考察する。 【キーワード】 社会的影響力、説得、承諾、二重過程モデル、自動的処理、統制的処理	田中 知恵 (明治学院大学・准教授)	田中 知恵 (明治学院大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
6	偏見の心理	ゴードン・オルポート著の『偏見の心理』を手がかりとして、社会心理学において大きな位置を占める偏見の問題について考える。個人のなかで生じる認知や感情、他者との相互作用、法や教育や慣習は、いずれも偏見を生成、維持、発達させる力を持ち、同時に、偏見を抑え、調和を導く力をもつ。この問題を通して、個人と社会との連動的な作用とそのあり方を考える。 【キーワード】 偏見、差別、ステレオタイプ、カテゴリ化、認知バイアス、接触仮説、集団間関係	大江 朋子 (帝京大学・専任講師)	大江 朋子 (帝京大学・専任講師) 森 津太子 (放送大学・准教授)
7	スヌープ	サム・ゴズリング著の『スヌープ！ーあの人の心ののぞき方ー』を取り上げ、持ち物から意味を読み取ってパーソナリティを知る方法(スヌープロジー)の紹介を通じてパーソナリティの問題を考える。さらにパーソナリティ研究の知見と、他者認知におけるバイアスのひとつとして検討されてきた仮説検証の概念との関連など、提示された問題に関して考察する。 【キーワード】 パーソナリティ、ビッグ・ファイブ、人ー状況論争、自己呈示、確証バイアス	田中 知恵 (明治学院大学・准教授)	田中 知恵 (明治学院大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
8	後悔を好機に変える	ニール・ローズ著の『後悔を好機に変えるーイフ・オンリーの心理学』を紹介し、過去の事実と反する状況を思考すること、すなわち反実思考から生じる後悔感情とその感情が導く行動について考える。さらに後悔というネガティブ感情の適応的意味や反実思考の活かし方に関して考察する。 【キーワード】 反実思考、後悔感情、後知恵バイアス、認知的再解釈、意思決定	田中 知恵 (明治学院大学・准教授)	田中 知恵 (明治学院大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
9	自分を知り、自分を変える	ティモシー・ウィルソンによる『自分を知り、自分を変える』を紹介し、社会心理学における自己研究の現状と、適応的無意識と呼ばれる心の働きについて学ぶ。あわせて自己理解、自己啓発という観点から、意識や無意識の問題について考える。 【キーワード】 自己、適応的無意識、進化心理学、心理的免疫システム、二重過程モデル	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 田中 知恵 (明治学院大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	それでも人は楽天的な方がいい	シェリー・テイラー著の『それでも人は楽天的な方がいい』の概要を知ること、私たちの日常的な思考方法と心身の健康との関係について考える。また、社会心理学の基礎的な知見を利用することで、心身の健康問題に新しい角度からアプローチしているポジティブ心理学や健康心理学の動向についても学ぶ。 【キーワード】 ポジティブ・イリュージョン、自己イメージ、コントロール能力、楽観性、心身の健康、クオリティー・オブ・ライフ	高比良 美詠子 (中部大学・准教授)	高比良 美詠子 (中部大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
11	オープニングアップ	ジェームズ・ペネバカー著の『オープニングアップ：秘密の告白と心身の健康』を読むことで、個人的な情報を打ち明ける自己開示が、心身の健康や社会適応に及ぼす影響について学ぶ。また、自己開示と、さまざまな研究領域との関係を知ること、領域横断的なアプローチの重要性について理解する。 【キーワード】 自己開示、抑制、ストレス対処、コミュニケーション、心身の健康、社会適応	高比良 美詠子 (中部大学・准教授)	高比良 美詠子 (中部大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
12	木を見る西洋人、森を見る東洋人	リチャード・ニスベット著の『木を見る西洋人、森を見る東洋人』を紹介し、西洋人と東洋人の思考様式や自己観の違いについて、さらには、「人間の心のしくみは文化を通じて普遍的である」とする、これまでの社会心理学の前提について、批判的に考察する。また、心と文化の相互作用に着目する文化心理学的アプローチについて学んでいく。 【キーワード】 心のしくみの普遍性、分析的思考、包括的思考、相互独立的自己観、相互協調的自己観、文化心理学	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 高比良 美詠子 (中部大学・准教授)
13	信頼の構造	山岸俊男による『信頼の構造』を紹介し、人間が社会的生活を営む上で欠くことができない「信頼」が、アメリカと日本ではどのように異なるかを考察するとともに、そのような違いを生み出す社会構造について理解を深める。 【キーワード】 信頼、安心、社会的不確実性、信頼の解き放ち理論、社会的知性、進化心理学	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授) 高比良 美詠子 (中部大学・准教授)
14	インターネットにおける行動と心理	アダム・ジョインソン著の『インターネットにおける行動と心理』について学ぶことで、インターネット・コミュニケーションの特徴を明らかにし、インターネットの利用が人の社会行動や心理に及ぼす影響を理解する。また、学際的な視点から、人とコミュニケーション・メディアの関係を考えるときの注意点について考察する。 【キーワード】 インターネット、メディア、コミュニケーション、つながり、対人行動、自己、情報収集、クオリティー・オブ・ライフ	高比良 美詠子 (中部大学・准教授)	高比良 美詠子 (中部大学・准教授) 森 津太子 (放送大学・准教授)
15	これからの社会心理学	社会心理学の特徴を改めて振り返るとともに、その将来的展望について、近年興隆しつつある3つの研究アプローチを通じて考える。また、社会心理学は、どのような「知」を私たちに提供しているかについて議論していく。 【キーワード】 メタ理論、社会的認知アプローチ、進化論的アプローチ、脳神経科学的アプローチ、実践知、人間観	森 津太子 (放送大学・准教授)	森 津太子 (放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528890	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 学力と学習支援の心理学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Psychology of Academic Competence and its Improvement ('14)]

〔主任講師（現職名）：市川伸一（東京大学大学院・教授）〕

【本学担当専任教員：小川正人（放送大学・教授）】

講義概要

教員志望の学生、あるいは、学習・教育に関心のある一般学生を対象とする。近年の学力低下論争と、学習指導要領の改訂を背景とし、学力と学習支援について、基本的な理論と実践を解説する。学習に関する基本的な考え方として、行動主義、認知主義、状況主義があるが、現在の教科指導に対しては、情報処理アプローチに立った認知主義を中心に考えることが有効であることを述べる。認知理論の基礎、動機づけ、学習方略、記憶・学習のメカニズム、文章の理解と生成、素朴概念の克服、教育的問題解決、協同学習などのテーマを、教科教育の実践ビデオをまじえて紹介していく。また、評価システム、学級運営、地域との交流など、学習者をとりまく環境づくりについても視野に入れる。

授業の目標

学習・教育に関わる認知心理学の基礎概念を理解し、それを通して、教育現象の説明やコミュニケーション、教育方法の評価・立案などができるようにすること。具体的には、授業を設計し、事後の検討会などを通じて改善を図ること、学習者の理解状態をとらえ、学習改善を図れること。

履修上の留意点

認知心理学、認知科学に関する講義は、心理学の領域では不可欠であり、現在の教育心理学の理論的基盤ともなっている。本科目がこれまでの認知心理学関係の科目と大きく異なる点は、実際に学校での授業改善や、教科学習にとりくんでいる児童・生徒に対する面談・個別指導などに研究者自身が関わるという実践的な研究を紹介していくところにある。これは、この10年ほどの大きな動きであり、認知心理学の一般的な理論や実験事実を紹介して、その教育への応用は学校に委ねるという姿勢とは大きく異なっている。また、教育工学とも大きく関連するが、新しいメディアの開発や利用というよりは、日常的な授業や学習行動を検討し、認知的視点にたった授業設計や指導技術の現実的な改善を図っている点が異なる。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	学力をとらえる視点	学力の概念と学力をめぐる議論を概観する。心理学は、学力の構造や機能について理論的裏づけとなったり、実験や調査による知見を提供したりしてきた。最近では、教科の基礎基本とともに、生活への活用をめざした学力の形成が重視され、学習指導要領の改訂へとつながっていった。 【キーワード】 認知モデル、新しい学力観、ゆとり教育、学力低下論争、生きる力	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
2	学力の診断と評価	評価の目的が、学習の改善にあることを踏まえて、学校におけるさまざまな学力評価の方法を整理する。また、現在の指導要録での評価の動向について押さえておく。さらに、新しい評価として、COMPASS、PISA、パフォーマンス評価などについて触れる。 【キーワード】 PDCAサイクル、指導と評価の一体化、指導要録、学力の3要素、ポートフォリオ、ルーブリック	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
3	学習意欲の理論	日本の子どもたちの学習意欲について、いくつかのデータで確認してから、心理学における学習動機の理論を概観する。外発と内発の動機づけを対比させつつ、どのように統合的に考えていくかを示す。また、学習指導においては、具体的にどのような方法があるか、個人差にどう配慮するかが必要である。 【キーワード】 外発と内発の動機づけ、学習動機の分類、随伴性の認知、学習性無力感、結果期待、効力期待、原因帰属	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	学習の自己調整	日本の学校教育では、「自ら進んで学ぶ力」の重要性が強調されるようになってきている。心理学では、主体的に学習を進めることを、「学習の自己調整」と呼ぶ。自己調整学習の代表的理論を紹介し、学習の自己調整を促すためには、どのような指導や支援が必要かについて解説する。 【キーワード】 自己調整学習, メタ認知, モニタリング, 学習方略, 動機づけ, 自己評価	瀬尾美紀子 日本女子大 准教授	瀬尾美紀子 日本女子大 准教授
5	個別学習相談による診断と支援	個別学習相談によって学習者の自立を支援する試みとして、「認知カウンセリング」と呼ばれる実践的研究活動がある。この活動では、学習方略、メタ認知、学習観といった様々な心理学の知見が生かされている。「なぜ学習につまずいてしまうのか」をこれらの知見を踏まえて考え、学習者の自立を支援する具体的な方法にもふれながら論じる。 【キーワード】 学習相談、認知カウンセリング、学習観、学習方略、学習法指導	植阪友理 東京大学 助教	植阪友理 東京大学 助教
6	習得の授業のデザイン	知識・技能の習得には、反復による習熟だけでなく、意味理解や思考過程を重視する必要がある。習得の授業のスタンダードな設計原理とした提案された「教えて考えさせる授業」では、心理学的な理論背景をもとに、「教師からの説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」という枠組みで授業を構成する。 【キーワード】 習得—活用—探究、受容学習、発見学習、先行オーガナイザー、視覚化、言語化、教えて考えさせる授業	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
7	言語活用力を育てる	学力調査などの結果から、日本の学習者の「言語活用力」に課題があることが指摘されている。読み書きの心理学的プロセスに関する知見をもとに、課題となる言語活用力とは何か検討し、育成のための実践的試みや研究知見を紹介する。 【キーワード】 言語活動、論理的な読み書き、読解プロセス、作文プロセス、方略	犬塚美輪 大正大学 講師	犬塚美輪 大正大学 講師
8	数学力を育てる	算数・数学は、苦手意識を持ちやすい教科の1つである。数学力を育てるためには、学習者がどのように思考しているか、その認知過程を理解することが重要である。数学的問題解決に関する研究成果を中心に紹介し、数学力を育てるためには、どのような指導や支援が必要か解説する。 【キーワード】 数学的問題解決、スキーマ、アルゴリズム、問題解決方略、算数的活動、学習法講座	瀬尾美紀子 日本女子大 准教授	瀬尾美紀子 日本女子大 准教授
9	科学的思考力を育てる	科学的思考力とは、自然の事物・現象について観察・実験など通して推論する能力を指す。科学的思考力の育成には、科学の知識と、知識を獲得する方法の両方の指導が不可欠である。指導の背後にある理論と具体的指導法について概説する。 【キーワード】 科学的思考、科学的知識、PISA調査、観察・実験、理科教育	小林寛子 東京未来大 学助教	小林寛子 東京未来大 学助教

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	社会認識力を育てる	社会科での学力のあり方を、事実に知識、社会的認識、社会的実践というモデルに沿って考える。暗記科目と見なされがちな実態に対して、知識の関連づけ、すなわち、理解を重視した学習が求められることを認知心理学的な背景から見ていく。カリキュラムや授業が展開されていく様子を実例から学ぶ。 【キーワード】 社会科教育、社会科学習のモデル、社会認識力、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、教育評価	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
11	英語力を育てる	日本の英語教育は、かつては、文法、語彙獲得、英文読解に重点が置かれすぎることが批判され、コミュニケーション重視の方向に転換された。しかし、結果的には、聞く、話す、読む、書くという4技能全般にわたって成果が見られていない。英語教育の基本的な方法と、それらが心理学的にどのように裏付けられるかを概観し、それらの長所と問題点を探る。 【キーワード】 TOEFL得点、文法訳読法、オーディオリンガル法、コミュニケーション・アプローチ、小学校英語	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
12	授業力と授業改善	教師の授業力向上のために、授業前、授業中、授業後にどのような活動が重要かを整理する。教材研究はいまでもないが、学習者の理解度や困難度をイメージすること、リアルタイムで診断しようとするのが重要である。また、小グループによる討論を入れたワークショップ型授業検討会を紹介する。 【キーワード】 教材研究、学習者理解、困難度査定、理解度診断、ワークショップ型協議会、三面協議法	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
13	探究の学習	近年、学習者の興味・関心に基づいてテーマを設定し、それを追究するような探究学習が重視されるようになってきた。教科の中での探究活動、「総合的な学習の時間」での探究等について、事例を参考にしながら、目標とする学力、指導・支援のポイントなどについて考えていく。 【キーワード】 批判的思考力、創造的思考力、総合的な学習の時間、習得—活用—探究、RLA	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
14	地域に広がる学習環境	近年、学力向上と並行して、生きる力、人間力といったキーワードが教育界でも使われるようになった。これらの力を伸ばすには、学校のカリキュラムだけでは無理がある。地域教育においては、多くの社会人と接することによって、子どもの夢や目標を育むことができるのが大きな長所である。その活性化の方策も考えていきたい。 【キーワード】 生きる力、人間力、家庭教育、学校教育、民間教育、地域教育、授業外学習ポイント制度	市川伸一 東京大学 教授	市川伸一 東京大学 教授
15	学力と学習支援のこれから	心理学から見た学力や学習支援のとらえ方について、今回のシリーズ全体を振り返る。認知心理学は学習者の情報処理プロセスを考慮することで、意味理解、思考過程を考える視点を提供してきた。また、能動的な表現活動や他者との関わりを授業に導入することは、教師にとって学習者の状態を把握しやすくするだけでなく、学習者自身にとっても自らの理解を確認し、促進することにつながる。 【キーワード】 学習方略、学習観、言語活用力、問題解決プロセス、教訓帰納、科学的思考、教育実践	講師全員	講師全員

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528980	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理臨床の基礎 （'14）＝（R）

英文名＝【Elementary Course on Clinical Psychology（'14）】

〔主任講師（現職名）：小野けい子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

臨床心理学の概論を講義する臨床心理学のコア科目である。善意や情熱のみに基づく援助とは異なる、人の心の理解に基づく心理臨床について、その歴史、基礎となる理論を学ぶとともに、臨床心理アセスメント、臨床心理面接、地域援助等の基礎を学ぶ。臨床心理学を学ぶすべての人に身に付けて欲しいまさに心理臨床の基礎を概説する。

授業の目標

臨床心理学の基礎的知識を身につけ、臨床心理学への理解を深める。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	心理臨床と臨床心理学	心理臨床と臨床心理学、心理臨床の専門性、心理臨床と臨床心理学の歴史、心理臨床の専門家資格と教育プログラムについても概説する。 【キーワード】 心理臨床、臨床心理学、臨床心理士、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
2	心理臨床の基礎理論 1-1 : ライフサイクル論1	人生の各時期にはその時期の特徴と課題が存在し、各時期に特徴的な臨床心理学的問題が生じる。このことから、第2章と3章では心理臨床の基礎理論としてのライフサイクル論を取り上げる。本章では、ライフサイクルの意義について概説するとともに、代表的なライフサイクル理論を紹介し、人生前半の心理臨床についても学ぶ。 【キーワード】 ライフサイクル、発達課題、フロイト、エリクソン	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
3	心理臨床の基礎理論 1-2 : ライフサイクル論2	前章に引き続き、心理臨床の基礎理論としてのライフサイクル論について学ぶが、本章では、人生の後半の意義とライフサイクル論を取り上げて概説し、成人期・高齢期各期の心理臨床について学ぶ。 【キーワード】 ユング、レヴィンソン、中年の危機、ターミナル・ケア、サクセスフル・エイジング	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	心理臨床の基礎理論 2 :新しい精神の科学と 精神医学	心理臨床の基礎理論としての精神医学について学ぶ。 【キーワード】 精神現象、精神症状、脳、神経回路網、心因、内因・器質 因、心の進化	豊嶋良一 (埼玉医科大学 教授)	豊嶋良一 (埼玉医科大学 教授)
5	心理臨床の基礎理論 3 :学習理論・認知理 論	認知行動療法の基礎理論としての学習理論・認知理論に ついて学ぶ。 【キーワード】 古典的条件付け、オペラント条件付け、観察学習、感情 ネットワーク理論	越川房子 (早稲田大学 教授)	越川房子 (早稲田大学 教授)
6	心理臨床の基礎理論 4 :深層心理学理論	フロイトの精神分析理論とユングの分析心理学理論につい て学ぶ。 【キーワード】 無意識、防衛機制、コンプレックス、内向・外向	小野けい子 (放送大学教 授)	小野けい子 (放送大学教 授)
7	臨床心理アセスメント 1	心理アセスメントの道具である心理検査について、その特 徴を知るとともに、心理検査の中でも、知能検査と質問紙法 人格検査について学び、理解を深める。 【キーワード】 心理検査、信頼性、妥当性、知能検査、質問紙法	小川俊樹(放 送大学教授)	小川俊樹(放 送大学教授) +ゲスト:広田 千織(土浦協 同病院臨床 心理士)・富 重正治(茨城 県土浦児童 相談所)
8	臨床心理アセスメント 2	構成概念妥当性による質問紙法、投影法、作業検査法、神 経心理学的検査について学び、各検査法、形式の特徴を 理解する。 【キーワード】 構成概念的妥当性、投映法、防衛機制、評定者刊信頼性、 作業検査法、神経心理学的検査、前頭葉脳機能	小川俊樹(放 送大学教授)	小川俊樹(放 送大学教授) +ゲスト:坂本 由紀子(済生 会鴻巣病院 臨床心理士)
9	心理療法1: 力動的心理療法	フロイトの精神分析理論を基礎にもつ力動的心理療法につ いて学ぶ。 【キーワード】 精神分析、抵抗、明確化、直面化、行動化、解釈、転移、逆 転移	小川俊樹(放 送大学教授)	小川俊樹(放 送大学教授)
10	心理療法2: ユング派心理療法	ユングの創始した分析心理学的心理療法は、日本ではユ ング派心理療法と呼ばれるが、その基本である、目的論的 視点、イメージの重視について、また、基本技法である夢分 析、箱庭療法などについて学ぶ。 【キーワード】 個性化、イメージ、夢分析、元型、箱庭療法	小野けい子 (放送大学教 授)	小野けい子 (放送大学教 授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	心理療法3: パーソン・センタード・ アプローチ	ロジャーズに始まるクライエント中心療法、エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチについて、発展過程に沿いながら、これらの心理療法の理論と方法、実践について概説する。 【キーワード】 自己理論、クライエント中心療法、エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチ	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授) + ゲスト: 田畑治(名古屋大学名誉教授)
12	心理療法4: 認知行動療法	認知行動療法の基本理論と主要技法について学ぶ。 【キーワード】 ABC理論、認知的再体制化、自己教示法、セルフコントロール法	越川房子 (早稲田大学教授)	越川房子 (早稲田大学教授)
13	心理療法5: 遊戯療法	主に子ども中心療法をベースにした遊戯療法の考え方やセラピストの役割について学ぶ。また、遊戯療法の過程における各時期の特徴や留意点について紹介する。 【キーワード】 遊び、子ども中心、8つの基本原理、制限、親面接	小林真理子 (放送大学准教授)	小林真理子 (放送大学准教授)
14	コミュニティ援助1 —基本姿勢と援助の方法—	コミュニティ心理学を基盤とするコミュニティ援助の理念やコミュニティで活動する心理臨床家の基本姿勢について学ぶ。また、コミュニティ心理学に基づく代表的な介入法について紹介する。 【キーワード】 コミュニティ援助、予防、危機介入、コンサルテーション、ソーシャルサポート・ネットワーク	小林真理子 (放送大学准教授)	小林真理子 (放送大学准教授)
15	コミュニティ援助2 —子育て支援—	現在の子育てをめぐる状況を概観し、予防という観点から、コミュニティにおける子育て支援活動について概説する。 【キーワード】 少子化、育児不安、コミュニティアプローチ、予防、親教育プログラム	小林真理子 (放送大学准教授)	小林真理子 (放送大学准教授) + ゲスト: 佐藤秀子(栃木県スクールカウンセラー)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1522310	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理カウンセリング序説 （'09）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大場 登（放送大学教授）〕

講義概要

臨床心理学における「カウンセリング」について、もっとも基本的なことを検討する。現在の日本においては、まだまだカウンセリングという言葉は、「受容的に話を聞くこと」程度の意味で使われることも稀ではない。本講では、臨床心理学的な問題や症状を抱えた方々（すなわち、クライアント）がセラピスト（＝カウンセラー）の許を訪ね、自らの問題や課題と取りくんでゆく専門的な「心理療法（サイコセラピー）」という意味での「心理カウンセリング」について系統的に学習する。

授業の目標

臨床心理学における「カウンセリング」、すなわち、「心理療法」というものは、長期間の専門的な研修を必要とするものであり、本学においても、大学院臨床心理学プログラムでようやくその初期研修が行なわれることになる。それでも、学部段階でも、一般心理学だけではなく、臨床心理学の基礎は身につけることが要請される。本講の印刷教材・放送授業両者と丹念に取り組んでいただければ、「臨床心理学におけるカウンセリング」のもっとも基本的なことは理解することができるのではないだろうか？

履修上の留意点

「心理臨床の基礎（'14）」の受講は前提である。本講「心理カウンセリング序説（'09）」を学ばれた受講生には、さらに「精神分析とユング心理学（'11）」へと進んでいただきたい。「心理カウンセリング序説」と「精神分析とユング心理学」は言わば姉妹科目であって、両科目を履修されると、理解が一層深まるはずである。なお、本講のアドヴァンスト・コースは大学院臨床心理学プログラム開講の「臨床心理面接特論」となることも申し上げておきたい。いつか挑戦していただくことを期待したい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	セラピストと「聴く」こと －「受けとめる」こと	カウンセリングの最重要な営みは、クライアントが「語ること」にセラピスト（カウンセラー）が耳を傾けることである。つまり、「聴く」こと。「聴く」ということは、クライアントによって語られる苦痛や訴えをセラピストの心身でもって「受けとめる」とことと言えよう。 【キーワード】 セラピスト、聴くこと、受けとめること	大場 登(放送大学教授)	大場 登
2	クライアントと「語る」こと －「表現する」こと	セラピストの「耳を傾ける」姿勢に支えられて、クライアントは自身が抱えている困難やいわゆる症状、そして、自らについて「語る」こととなる。「語る」こと、「表現する」ことは、そのこと自体に深い意味と働きがある。 【キーワード】 クライアント、語ること、表現すること	大場 登	大場 登
3	カウンセリングの「器」	カウンセリングのとても重要な特徴のひとつは、第1章・第2章で述べられた営みが、独特の「器」の中で行なわれるということである。この「器」によって守られているからこそ、カウンセリングは成立する。 【キーワード】 「器」、守り、治療構造	石本伸子(恵泉女学園大学准教授)	石本伸子
4	出会いと見立て	面接室での初めての出会い。あるいは、電話予約時点から既にして始まる出会い。クライアントもセラピストも、カウンセリングが可能であるか、カウンセリングが適切な営みであるか、この人とやってゆけるか、慎重に「見立て」が行なわれる。 【キーワード】 出会い、見立て、契約	森さち子(慶應義塾大学准教授)	森さち子

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	意識と無意識	カウンセリングには、様々の視点や立場、オリエンテーションがある。本講では、ロジャーズのクライアント・センタード・セラピーを尊重しながらも、人間の心には、意識されている領域の他に、深い無意識の領域が存在するとしたフロイトやユングの視点から学んでみることにしたい。 【キーワード】 意識、無意識、フロイト & ユング	石本伸子	石本伸子
6	クライアントとセラピストの「かかわり」	カウンセリングにおいては、クライアントの心の世界が次第次第に表現・展開されてゆくことになるが、この展開のプロセスは、あくまで「クライアントとセラピストの関係性」の中で生じることとなる。クライアントの意識と無意識、セラピストの意識と無意識、両者の深く、複雑なかかわりの中でカウンセリングは進行する。 【キーワード】 クライアントとセラピスト、関係性、転移 & 逆転移	森さち子	森さち子
7	セラピストの「読み」	カウンセリングにおいて、「耳を傾ける」ことは最も重要なことではあるが、しかし、クライアントが抱えておられる問題やいわゆる症状が少し難しいものになるにしたがって、セラピスト側での「読み」がどうしても必要となってくる。しっかりと「耳を傾ける」ことができるためにこそ、「読み」が大切と言えよう。臨床心理学に関する、広範で、深い知識が必要となってくる所以(ゆえん)である。 【キーワード】 読み、仮説、カウンセリングと理論	大場 登	森さち子
8	「読み」と「問いかけ」「語りかけ」	前章で検討した「読み」に基づいて、セラピストは、必要に応じて、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこととなる。「問いかけ」に対するクライアントのレスポンスによっては、セラピストは自らの「読み」の微修正をしてゆく。クライアント側は、セラピストの「問いかけ」「語りかけ」によって、新たに、自らの問題・課題と取り組んでゆくことになるだろう。 【キーワード】 問いかけ、読みの修正、問題との取り組み	大場 登	森さち子
9	カウンセリングのプロセス	初回面接以降、カウンセリング終結まで、クライアントとセラピストの間で「変容のプロセス」が展開することになる。このプロセスは、「器」の中で進行するので、ちょうどレトルトの中で進行する化学的変容のプロセスに喩えることもできる。火加減やコルク栓の微調整には職人の「技」も必要である。只、「変容のプロセス」は自律的でもある。 【キーワード】 変容のプロセス、プロセスの自律性、プロセスとセラピスト	大場 登	大場 登
10	コンプレックス	第7章の「読み」にも通じるが、カウンセリングを行なうにあたっては、臨床心理学の幅広く、深い知識が不可欠である。カウンセリングにおいては、クライアントの心に渦巻くさまざまなコンプレックスと向き合うことになると表現することもできるだろう。臨床心理学において、コンプレックスとはどのようなものとして理解されているのか、本章ではその基本のあたりから検討してみることにする。 【キーワード】 コンプレックス、フロイト、ユング	石本伸子	石本伸子

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	家族	カウンセリングにおいて向き合うことになるテーマとして、「家族」というものは、もともと頻度が高いもののひとつと言えよう。必ずしも、母親コンプレックス、父親コンプレックス、カイン・コンプレックス、エディプス・コンプレックスといった表現をとらないとしても、「家族」がテーマになることは実に多い。 【キーワード】 家族、母親コンプレックス、父親コンプレックス	石本伸子	石本伸子
12	性	フロイトが人間の心における「性」の重要性を指摘して以来、既に1世紀になるが、現代においても、「性」が人間にとって扱いの困難なコンプレックスのひとつであること、そして、人間にとって最重要なテーマのひとつであることにまったく変わりはない。それぞれの個人にとって、「性」、そして、自らのセクシュアリティとどのように向き合うことになるのか、カウンセリングにおける永遠のテーマのひとつと言えよう。 【キーワード】 性、エロス、セクシュアリティ	森さち子	大場 登
13	力・権力・権威	人間にとって、「力・権力・権威」というものもまた永遠のテーマのひとつと表現できよう。フロイトが「性」に強い関心を向けたように、アドラーは「力・権力」の問題を取りあげた。只、アドラー心理学ならずとも、権威・権力コンプレックスもまた、カウンセリングにおいて登場する最重要なテーマのひとつである。もちろん、「父」と「息子」の間に限らず、そして、「男」と「男」の間に限らず、「女性」と「女性」との間においても、当然のことであるが、「力・権力」をめぐる、人間は古来、苦闘を続けている。 【キーワード】 力、権力、パワー	大場 登	大場 登
14	死	「性」や「力・権力」が、人間にとって、そして、「カウンセリング」にとって、最重要なテーマであるのとまったく同様に、「死」というものもまた、人間にとって、カウンセリングにとって、最重要テーマのひとつと言えよう。フロイトもユングも「死」と集中的に取り組んできたし、そして、カウンセリングの実際においても、「死」は常に私たち人間が「向き合う」ことを要請する。 【キーワード】 死、喪、彼岸	森さち子	大場 登
15	別れ	カウンセリングは、やがて終結を迎え、かつて出会ったクライアントとセラピストは、「別れ」を経験することになる。そして、「別れ」「分離」もまた、人間にとって、実に困難にして、永遠のテーマと表現できるであろう。個人的な「別れ」。親やパートナー、師との「別れ」。時代や役割、思想・信条、ある生き方との別れ。意識と無意識の「分離」…。 【キーワード】 別れ、分離、終結	大場 登	大場 登 石本伸子 森さち子

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528610	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 精神分析とユング心理学 （'11）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大場 登（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：森さち子（慶應義塾大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

フロイト(Freud,S.)に始まる精神分析とユング(Jung,C.G.)に始まるユング心理学は、一方で、今日、臨床心理学の領域を越えて、広く人文科学の基本的教養となっていると表現できよう。他方、精神分析とユング心理学は、臨床心理学、とりわけ、心理療法の世界において、ひとつの根幹となる学派を形成している。精神分析とユング心理学は、あくまで、クライアントとの実際の心理療法から出発したし、今日においても心理療法として実践され続けていると言える。本講では、精神分析とユング心理学が持つ「人間に関する知」の側面と「臨床の知」の側面の両者を視野に入れながら、その基本を理解することを試みてみたい。

授業の目標

精神分析とユング心理学は「生きた人間の心」と関わるものであるだけに、奥はきわめて深いものである。本講は、放送大学「心理と教育」コースの専門科目であるが、通常の2単位科目、すなわち、15章という「器」を持つものである。精神分析とユング心理学の中で、「15章という『器』」の中に入る、もっとも基本的なことの理解を目標としたい。

履修上の留意点

「心理と教育」コースの専門科目「心理カウンセリング序説('09)」は、本科目の姉妹科目と理解していただきたい。「心理カウンセリング序説('09)」は、カウンセリングないし心理療法の実際に焦点をあてているが、その理論的背景は、この「精神分析とユング心理学('11)」にあると言えることができるであろう。単位取得も大事なことであるけれど、単位が取得できた後も、このふたつの科目は絶えず振り返って、相互に参照していただくことをお勧めしたい。理解が深まるはずである。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	精神分析とユング心理学:フロイトとユング	精神分析とユング心理学は、フロイトとユングによって、およそ20世紀の幕開けの頃創始された。フロイトは従来の心の探究法に比較して、「科学的」なアプローチであることを強調した。ユングは、むしろ、精神分析やユング心理学が関わっているところは、遠い古代ギリシャ、そして、中世には異端とされた錬金術やグノーシズムとも深いかわりを持つものであると捉えた。視点は異なるけれども、フロイトとユングが生涯をかけて取り組んだ「人間のこころ」への臨床的接近法は、今日、「臨床の知」と表現される新しい学問の創造であったと理解される。 【キーワード】 精神分析、ユング心理学、Freud,S. , Jung,C.G.	大場 登(放送大学教授) 森 さち子(慶應義塾大学准教授)	大場 登(放送大学教授) 森 さち子(慶應義塾大学准教授)
2	精神分析のなりたち	100年余前にフロイト,S.によって創始された精神分析は、どのような時代背景の中で、どのように生み出されたか、さらに現代にどのように引き継がれているかについて概観する。自由連想をその方法とし、心の無意識を探究する「精神分析とは何か」を解説する。 【キーワード】 フロイト、無意識の発見、自由連想、エディプス・コンプレックス、夢	森 さち子	森 さち子
3	精神分析における心の発達論	精神分析は、フロイトの精神-性的発達論を出発点に、現代に至るまで数々の心をめぐる発達論、ないし発達観を展開している。臨床家たちが提唱した発達論を紹介しながら、それらの理論と精神分析的な心理療法の実践とのつながりを見出し考察する。 【キーワード】 精神-性的発達、発達ライン、漸成説、ポジション、分離-個体化、自己感	森 さち子	森 さち子

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	精神分析の本質—現実と幻想—	精神分析の本質的なテーマとして、「現実と幻想」を取り上げる。人は現実と、幻想ないし願望を様々に調整し折り合いをつけながら適応をはかっているが、その相克が心の破綻をまねくこともある。ここでは精神分析がその対象とする「心の現実」を考察する。 【キーワード】 心の現実、原幻想、現実原則、快感原則、自己愛	森 さち子	森 さち子
5	精神分析の本質—対象喪失—	精神分析の本質的なテーマ「対象喪失」を取り上げ、大事な対象を失う心の痛みとそこからの回復過程を概説する。対象喪失による深刻な外傷体験は、病理を引き起こすこともあるが、一方ではその回復過程が創造性の発露ともなりうる。その可能性も考察する。 【キーワード】 外的な対象喪失、内的な対象喪失、喪の仕事、“いないいないばー”	森 さち子	森 さち子
6	症状をめぐる精神分析的“力動”の理解	様々な症状、訴えの背景にある、心の葛藤、抑圧をめぐる精神力動について、精神分析的観点に基づいて解説する。力動的解釈をおこなう上で必要となる、「自我」「エス」「超自我」「防衛機制」など、基本的な専門用語も説明する。 【キーワード】 意識、無意識、自我、エス、超自我、防衛機制、抑圧、葛藤、分裂	森 さち子	森 さち子
7	精神分析的治療論	精神分析的な心理療法を行う上で、クライアント/セラピスト関係の理解をめぐる重要な概念を解説する。とりわけ、精神分析的なかわりあいの営み、その空間がどのように創り出されていくかについて、さらにその治療機序について説明する。 【キーワード】 治療構造、基本規則、転移、逆転移、洞察、情緒的な絆	森 さち子	森 さち子
8	精神分析的な心理療法の実際	第7回までに概観してきた精神分析理論を踏まえ、実際の心理療法はどのように展開していくかについて解説する。現代精神分析の観点も取り入れ、クライアントとセラピストの関係性に焦点を置く、間主観的アプローチを具体的に説明する。 【キーワード】 フロイト的治療態度、フェレンツイ的治療態度、解釈、言葉化、相互交流、間主観性	森 さち子	森 さち子
9	ユング心理学：コンプレックスと元型	本章から、後半の「ユング心理学」に入ることとなる。意識と無意識の関係は？ ユングが使い始めた「コンプレックス」とはどのような意味であるのだろうか？ そして、ユング心理学でよく耳にする「元型」とは従来多くのユング心理学関連の「教科書」で紹介されているようなものであるのだろうか？コンプレックスと元型の関係は？ 【キーワード】 意識と無意識、コンプレックス、元型	大場 登	大場 登
10	ペルソナ(面・顔)とゼーレ・ソウル(心・たましい)	ペルソナとは「個における外界への心理的構え・姿勢」、そして、ゼーレ(ソウル)とは「個における内界への心理的構え・姿勢」と表現できる。ペルソナやゼーレ(ソウル)は、具体的に、そして、また、昔話や夢においてはどのようなイメージとして現れるのだろうか？ 実は、ユング心理学におけるペルソナとゼーレ(ソウル)は、かつて精神分析学派の土居健郎が注目した日本語の「オモテ」と「ウラ」と深い関連があることにも言及してみたい。 【キーワード】 ペルソナ、ゼーレ、オモテとウラ	大場 登	大場 登

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	カインとアベル	人類に共通のひとつの典型的な心の「葛藤・心理的『渦』」として、本章ではカイン・コンプレックスを取りあげてみることにしよう。「聖書」から現代に至るまで、愛情をめぐっての兄弟姉妹葛藤は殺意・殺害を伴う強烈なイメージに満ちている。 【キーワード】 コンプレックス、元型、カイン・コンプレックス	大場 登	大場 登
12	「母」なるもの: 「山姥」「魔女」	西洋における「魔女」、日本における「山姥」は、人々を呑み込み、「死」に至らしめるほどの恐ろしい「顔・面」と、そして、人々を産み、養い、育て、慈しむ「顔・面」というふたつの「顔・面」を持つ存在である。「魔女」「山姥」が持つふたつの「顔」は、実は、臨床心理学的に非常に深い意味を持ったイメージである。 【キーワード】 「母」なるもの、山姥、魔女	大場 登	大場 登
13	異類婚姻譚	異類婚姻譚と呼ばれる昔話にはさまざまな形の「男」と「女」のかかわりが見いだされる。グリム童話によく見られる「結合・結婚」イメージは、世界の異類婚姻譚の中では、ひとつのイメージにすぎない。日本の昔話では、「夕鶴」を思い起こすまでもなく、「分離」が圧倒的である。その他にも、実は、さまざまな可能性が見いだされる。「異類婚姻譚」という「男」と「女」のかかわりとは、臨床心理学的にはどのように理解することができるのであろうか？ 【キーワード】 異類婚姻譚、結合、分離	大場 登	大場 登
14	ユング派心理療法: 心理療法と「イメージ」「言葉」	いろいろな心理的課題を抱えられたクライアントとお会いして、語られるところにセラピストが「耳を傾けて」といって、不思議なことにクライアントの心が動き出し、この「動き」が言葉やイメージで表現されてゆくことになる。心理療法とは、「器」の中で動き出すこの自律的なプロセスに、セラピストが独特の形で同行し続けることとも表現できるであろう。 【キーワード】 心理療法、イメージ、言葉	大場 登	大場 登
15	ユング派心理療法: 「夢」と向き合う	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で見られたインキュベーション（「聖所」での眠り）という営みは、2千年の眠りを経て、フロイトの診察室にて新たな命を与えられたと言われている。この点で、ユング派心理療法は、もともとフロイト的心理療法と言うこともできるであろう。ユング派心理療法においては、実に深い関心が「夢」に注がれることになるからである。 【キーワード】 心理療法、インキュベーション、夢	大場 登	大場 登

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528963	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 認知行動療法 （'14）＝ （TV）

英文名＝ [Cognitive Behavioral Therapies ('14)]

〔主任講師（現職名）：下山 晴彦（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：神村 栄一（新潟大学教授）〕

【本学担当専任教員：齋藤 高雅（放送大学教授）】

講義概要

認知行動療法とは、クライアントの不適応状態に関連する行動的、情緒的、認知的な問題を標的とし、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、不適応な反応を軽減するとともに、適応的な反応を学習させていく治療法である。近年、エビデンス・ベースの考え方にに基づき、うつ病や恐怖症などに適応され、広く推奨されるようになったもので、その基本的な考え方と実際を学ぶものである。

授業の目標

認知行動療法の基本的な考え方と実際を学ぶものである。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	認知行動療法とは何か	認知行動療法が成立した歴史的過程と、その原理を解説 【キーワード】	下山晴彦 (東京大学大学院教授)	下山晴彦 (東京大学大学院教授)
2	認知行動療法の全体構造	認知行動療法の、さまざまな技法を体系化して解説 【キーワード】	神村栄一 (新潟大学教授)	神村栄一 (新潟大学教授)
3	認知行動療法のプロセス(1) ー協働関係の形成	共感的対応による協働関係と動機づけの方法を解説 【キーワード】	林潤一郎 (成蹊大学専任講師)	林潤一郎 (成蹊大学専任講師)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	認知行動療法のプロセス(2) ーケースフォーミュレーション	問題の成り立ちを明らかにする方法を解説 【キーワード】	下山晴彦 (東京大学大学院教授)	下山晴彦 (東京大学大学院教授)
5	認知行動療法の基本技法(1) ーモニタリング	自己モニタリングと行動活性化法を中心に解説 (ゲスト:松永美希) 【キーワード】	神村栄一 (新潟大学教授)	神村栄一 (新潟大学教授)
6	認知行動療法の基本技法(2) ーリラクセーション	リラクセーションとイメージ技法を中心に解説 (ゲスト:五十嵐透子) 【キーワード】	下山晴彦 (東京大学大学院教授)	下山晴彦 (東京大学大学院教授)
7	認知行動療法の技法群(1) ー応用行動分析1	機能的アセスメントを中心に解説 【キーワード】	武藤崇 (同志社大学教授)	武藤崇 (同志社大学教授)
8	認知行動療法の技法群(1) ー応用行動分析2	応用行動分析の実践を、SSTなどを例として解説 【キーワード】	武藤崇 (同志社大学教授)	武藤崇 (同志社大学教授)
9	認知行動療法の技法群(2) ー曝露法1	段階的曝露法を中心に解説 【キーワード】	神村栄一 (新潟大学教授)	神村栄一 (新潟大学教授)
10	認知行動療法の技法群(2) ー曝露法2	持続的曝露法を中心に解説 (ゲスト:岡嶋美代) 【キーワード】	神村栄一 (新潟大学教授)	神村栄一 (新潟大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	認知行動療法の技法群(3) —認知療法1	認知的概念化を中心に解説 【キーワード】	石丸径一郎 (東京大学大学院専任講師)	石丸径一郎 (東京大学大学院専任講師)
12	認知行動療法の技法群(3) —認知療法2	認知再構成法を中心に解説 (ゲスト:小林奈穂美) 【キーワード】	石丸径一郎 (東京大学大学院専任講師)	石丸径一郎 (東京大学大学院専任講師)
13	第3世代の認知行動療法 —ACTを中心に	アクセプタンスとコミットメントを中心に解説 【キーワード】	武藤崇 (同志社大学教授)	武藤崇 (同志社大学教授)
14	認知行動療法の介入手続き	認知行動療法の構造化された介入手続きを解説 【キーワード】	林潤一郎 (成蹊大学専任講師)	林潤一郎 (成蹊大学専任講師)
15	現代社会と認知行動療法	現代社会において認知行動療法が重要となる理由を解説 【キーワード】	下山晴彦 (東京大学大学院教授)	下山晴彦 (東京大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1625519	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 心理臨床とイメージ （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小野けい子（放送大学 教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤仁美（放送大学 准教授）〕

講義概要

深層心理学では、人の心に意識の領域と無意識の領域を仮定しているが、意識領域に関しては、言語化が比較的容易であるのに対し、本人も意識していない無意識領域に関しては、言語化が難しく、イメージを通して表現されることが多い。したがって、イメージで表現されたものから、無意識を含めた人の心の豊かな世界を見つめてゆくことが可能であるし、イメージを用いた自己表現自体が、治癒的な働きと深いかわりを持つことも知られている。本科目において、心理臨床の文脈の中で、描画、造形、身体表現といったイメージ表現や、夢、昔話、神話のイメージを取り上げ、イメージを通して心理臨床の世界について論じる。

授業の目標

イメージを媒介として、人の心への理解と心理臨床への理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

臨床心理学領域で開講されている科目をあわせ履修することを勧める。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	心的現実とイメージ	人のこころのあり方や経験によって、同じ物理的世界も、様々な見え方をすることを、錯視図形や絵画表現から見た後、心理臨床の現場におけるクライアントの訴える心的現実について、またイメージ表現と自己治癒力等について述べ、心理臨床とイメージの深いつながりについて論じる。 【キーワード】 イメージ、心的現実、無意識、錯視、図と地、ダブル・イメージ	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
2	昔話・御伽噺と心理臨床	昔話・御伽噺は長く人々によって語り継がれてきたものである。その意味で昔話・御伽噺は、人々に共通する心的現実と関係するものと思われる。物語ることと基礎づけること、昔話・御伽噺と心理臨床について論じる。 【キーワード】 昔話、無意識、普遍的無意識、グレート・マザー	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
3	ユングの個性化過程とイメージ	ユングがフロイトから離れて自分の理論を打ち立てるまでの間に経験したイメージを中心に、人々が無意識の中に普遍的に持っていると思われるイメージについて述べ、心理療法過程とイメージについて論じる。 【キーワード】 夢、描画、アクティブ・イマジネーション、普遍的無意識、元型	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
4	夢分析	夢は古代の人々にとっては神託であり重要な意味をもつものであった。現代の心理療法においても夢は重視され夢分析がなされているが、夢はどのような意義をもっているのだろうか。また、その意義は古代と現代ではどのように異なるのだろうか。 【キーワード】 夢の意義、インキュベーション、フロイト、ユング	川寄克哲(学習院大学教授)	川寄克哲(学習院大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
5	人間とイメージ表現	洞窟画から現代アートまで、人々のイメージ表現は、限りなく続いている。イメージ療法・アートセラピー・表現療法は、その流れの中でどのようにコミットして生まれてきたのか、歴史を俯瞰しながら考えていく。 【キーワード】 イメージ表現 アートセラピー アール・ブリュット	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)
6	バウムテスト	描かれた樹木のイメージが語りかけてくるメッセージ、心理臨床の現場で、クライアントにコミットするために描いてもらうコッホのバウムテストについて論じる。 【キーワード】	岸本寛史(京都大学准教授)	岸本寛史(京都大学准教授)
7	風景画(風景構成法)	描かれた風景のイメージが語りかけてくるもの、心理療法としての風景構成法について論じる。 【キーワード】 風景構成法、枠付け、空間象徴、配色、象徴解釈	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授)	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授)
8	絵画療法(自由画の描画療法)	自由絵による描画療法、MSSM療法等、描画を用いた心理療法の本質について述べる。 【キーワード】 自由画、交互色彩分割、スクリブルとスクイググル、MSSMとMSSM+C,ACDとRCD	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授)	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授)
9	箱庭療法	箱庭表現とメッセージ、箱庭療法における治療関係、箱庭療法の治癒力について述べる。 【キーワード】 箱庭療法、母子一体性、自由にして保護された空間	小野けい子(放送大学教授)	小野けい子(放送大学教授)ゲスト:酒井敦子(仁愛大学大学院教授)
10	コラージュ	箱庭と同等の効果があり、より簡便化された手法を求めて誕生した日本のコラージュ療法。その歴史と表現の可能性・心理療法の実際に迫る。 【キーワード】 コラージュ 開かれた設計思想 レディ・メイド	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)、ゲスト:西村喜文(西九州大学大学院教授)
11	イメージと身体～音楽・ダンス～	“病は気から”という言葉があるが、我々は気持ちから身体の調子を崩すこともあれば、身体の不調により気持ちも左右されるなど、心と身体は切っても切り離せない関係にある。本章では、心と身体の関係性をさまざまなアプローチを通して考えてみる。 【キーワード】 身体表現 コミュニケーション 音楽療法 ダンス・ムーブメント・セラピー 身体知	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)、ゲスト:横山千晶(慶應義塾大学教授)・武藤浩史(慶應義塾大学教授)・手塚千鶴子(慶應義塾大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	心理劇～ロール・プレイング法～	心理劇が教育の現場に取り入れられたロールプレイング法を取り上げる。保護された空間の中で、ある場面・ある役割をイメージして即興の劇を演じてみることで集団が、個人が変化していく方法を概観する。 【キーワード】 心理劇、ロール・プレイング法、即興劇、保護された空間	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授) ゲスト: 西村正司(植草学園大学教授)、渡辺憲明(真砂第四小学校教諭)
13	イメージから見る人生・1～エドヴァルト・ムンク～	美術・精神医学・臨床心理学の立場から、絵画表現についてアプローチする。ノルウェーの画家ムンクを取り上げて、生い立ち・その背景・家族を合わせ見ながら、自己表現の過程を紐解いていきたい。 【キーワード】 不安 魂の叫び 自己探求	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)、ゲスト: 徳田良仁(日本芸術療法学会名誉会長・精神科医)
14	イメージから見る人生・2～自然、特に河川の視点から～	人の一生とイメージについて、自然特に河川の視点から論じる。 【キーワード】 人の一生、川、夢、自然、身体	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授)	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授)
15	イメージと心理療法の器	心理療法の器について、イメージを用いた心理療法におけるセラピストの役割、治療枠の役割について取り上げる。放送教材では、表現療法の命名者で、イメージを用いた心理療法の権威である山中康裕教授をお迎えし、イメージと心理療法の器について、小野・佐藤と3人で討議する。 【キーワード】 心理療法の器、自由にして保護された空間、セラピスト	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授) 佐藤仁美 (放送大学准教授) ゲスト: 山中康裕(浜松大学大学院教授、京都大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1621360	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ スクールカウンセリング （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：滝口 俊子（放送大学名誉教授）〕

講義概要

児童生徒の発達の援助と、保護者の支援、先生方との連携を目差して、スクールカウンセラーは活動している。小・中・高校におけるカウンセリングに必要な理解や実際を紹介すると共に、幼児および大学生へのカウンセリングについても取り上げる。

授業の目標

教師・保護者・社会人である大人が、子どもと共に生き、すこやかな社会を創造することを目標とする。

履修上の留意点

子ども・教育・カウンセリングを深く理解するためには、本講義だけでは不十分である。本学で開講している関連科目の履修を強く勧める。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	スクールカウンセラーの専門性	本章では、日本におけるスクールカウンセリングの歴史、とりわけ、1995年から公立中学校を中心として始められたスクールカウンセラーの配置について概略を述べ、その専門性について論じる。人間の行動は、生理—心理—社会的要因によって決定されると見ることができ、スクールカウンセラーの中心点業務は心理的側面の理解にある。ここでは、臨床心理士などの資格を有するスクールカウンセラーを教師や医師と比較しながら、互いの専門性と境界領域について解説する。 【キーワード】 スクールカウンセラー 臨床心理士 専門性	倉光 修 (東京大学教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授) 倉光 修 (東京大学教授)
2	小学校のスクールカウンセリングⅠ いじめ	「いじめ」問題はスクールカウンセラーが対応を求められる最重要課題である。だが定義も難しく、さまざまな疑義が呈され、学校現場では混乱も見られる。そのような現状を踏まえて、子どもたちに「いじめ」についてどう分かりやすく語りかけるか、その予防と解消にスクールカウンセラーは何ができるのかについて、講師が行ってきた活動を参考にしながら述べる。 【キーワード】 いじめの定義 予防と解消 全員面接	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまへりこ心理室)	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまへりこ心理室)
3	小学校のスクールカウンセリングⅡ 発達障害	自閉症、ADHD(注意欠陥多動性障害)、LD(学習障害)などは、発達障害としてまとめられることがある。このような診断名・分類名を与えられた子どもは、そうした特徴を生涯にわたって持つと考えられるが、周囲のケアや関わり方によって社会的行動がかなり改善される。ここでは、こういった子どもたちの心に寄り添うスクールカウンセラーのアプローチについて概説する。 【キーワード】 自閉症 ADHD LD	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	中学校のスクールカウンセリングⅠ 不登校	公立中学校に配置されたスクールカウンセラーにとって中心的な業務の一つは、不登校ないし不登校傾向を示す子どもに対するカウンセリングである。中学生の段階では、言語だけでなく、絵画や箱庭などを通して、秘められた苦悩や願望が表現され、カウンセラーがその世界を分かち合うことによって問題の克服につながることが多い。ここでは思春期危機を呈した模擬事例を参考にしながら、そうしたアプローチのエッセンスを描写すると共に、不登校の子どもへの保護者や担任教師へのアプローチについても解説する。 【キーワード】 不登校 思春期危機 象徴的表現	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)
5	中学校のスクールカウンセリングⅡ 非行	非行に走る中学生にどうアプローチするかは、多くのスクールカウンセラーにとって難問である。カウンセリングに導入する際に非常に抵抗を示すケースや、非行の背景に過去の深刻な「心の傷」が窺われるケースも少なくない。非行傾向が深刻になるにつれて、本人とのカウンセリングだけでなく、保護者や担任、生徒指導担当教諭や管理職、教育委員会や警察などと連携する必要も高まってくる。模擬事例を参考にしながら、個々のケースの特殊性と普遍性について考えていく。 【キーワード】 暴力行為 心の傷 世代間伝達	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)
6	高等学校のスクールカウンセリング	高等学校においても、スクールカウンセラーを配置するところが次第に増えている。高校生の心理的問題は非常に多様で、その深刻さも個々人によって相違に異なっているが、ここでは、リストカット、無断外泊、衝動的な異性関係などを繰り返す女子生徒のケースを取り上げる。彼女は体調不良を訴えることも多かったので、スクールカウンセラーは養護教諭とも連携した。 【キーワード】 リストカット 性的逸脱行動 言語化	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)
7	大学におけるカウンセリング(学生相談)	大学における心理カウンセリングは、一般に「学生相談」と呼ばれている。一般の「学生相談室」等では学業や進路、研究室や家庭などでの対人関係、ハラスメントの問題、心身の健康、就職活動の支援など、実にさまざまな問題に対応しているが、中心的な活動は小中学校のスクールカウンセリング同様、学生に対するカウンセリング、保護者や教員に対するコンサルテーション、あるいは、学生や教職員に対する研修や啓発活動などである。ここでは、学習・研究意欲を失い、研究室でも疎外感や劣等感を感じている男子学生の事例を取り上げ、その対応について考える。 【キーワード】 学生相談 ハラスメント 学習研究意欲喪失	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	幼稚園・保育所のカウンセリング	幼稚園・保育所・こども園においても、カウンセリングが求められている。東京都日野市における保育カウンセリング事業を紹介し、保育カウンセリングの意義を考える。 【キーワード】 子どもの理解 保護者カウンセリング 保育者との連携	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)
9	緊急支援	スクールカウンセラーは、生徒や学生が災害や犯罪の被害に遭ったときに、緊急支援チームに参加し、子どもや保護者へのケアだけでなく、教員、教育委員会、警察、地域の人々などと連携していくことがある。一般的には、トラウマティックな出来事があったとき、子どもに生じやすいストレス反応について解説し、安心感をできるだけ回復すること、ストレス反応が長期化したとき(いわゆるPTSDが生じたとき)への対処などが課題になっていく。この章では、校内で起きた生徒自死の例をとり、スクールカウンセラーと関係者の連帯のあり方を考える。 【キーワード】 緊急支援チーム PTSD 被害者支援	倉光 修 (東京大学教授)	倉光 修 (東京大学教授)
10	保護者支援	児童生徒が示す気がかりな行動や困難な状況が、保護者の抱える問題に起因することは少なくない。また保護者からわが子への対応の工夫が、子どもの困難の改善に奏功することも多い。そのような保護者への助言や心理的援助もスクールカウンセラーの主要な仕事となる。スクールカウンセリングにおける保護者支援のあり方について考察する。 【キーワード】 保護者面接 親子関係 助言と援助	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)
11	教師との連携	児童生徒の学校生活の現実に日常的に関わっているのは教師であり、スクールカウンセラーは児童生徒と教師との関係を支える黒衣としての役割を担う。スクールカウンセラーが十全に機能するには、教師とのスムーズな連携が欠かせない。教師との役割分担のあり方や信頼関係の作り方、保護者対応の援助など、連携の際の留意点を講師の経験に基づいて述べる。 【キーワード】 関係を支える 役割分担 信頼関係	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)
12	医療との連携	児童生徒期のこころの問題の背景に、医療的な対応を必要とする疾患が存在することは少なくない。特に精神科領域の疾患では、医療との橋渡し役をスクールカウンセラーが担うことになる。ゲストに精神科医であり、養護教諭養成に当たる大学教員でもある花澤寿氏を迎えて、思春期および前思春期の精神疾患の基礎知識と学校現場における対応のあり方を学ぶ。 【キーワード】 精神疾患 医学的基礎知識 橋渡し役	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)	嘉嶋領子(スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	スクールカウンセラーの教育・訓練	スクールカウンセラーとして活動するためには、教育・訓練が不可欠である。実習の実際を紹介し、スクールカウンセラーの養成を考える。 【キーワード】 教育カリキュラム 心理臨床実習 スーパーヴィジョン 研究会	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)
14	スクールカウンセリングの課題と展望	国立大学法人政策研究大学院大学大学磯谷桂介運営局長をゲストに迎え、スクールカウンセリング事業の課題と展望、スクールソーシャルワーカーとの連携、スクールカウンセラーの展望などを取り上げる。 【キーワード】 スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)
15	カウンセリングと宗教性	スクールカウンセリング最終回は、カウンセリングに不可欠な深い人間理解について想い巡らす。宗教性にも開かれておられた故河合隼雄先生について、ゲストの藤原勝紀氏と語り合う。 【キーワード】 宗教性 人間理解	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528815	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 乳幼児・児童の心理臨床 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：山口義枝（日本大学准教授）〕

講義概要

子どものための援助の気持ちを、実際の心理臨床場面ではどのように実現しているのか。この授業では、①対象である、乳幼児期、児童期の子どもの何を感じ、どのように世界を体験しているのか、②援助者であるおとなが、子どものことを理解し、共感的な関わりをおこなうためにはどのような努力が必要なのかを学ぶ。

授業の目標

授業全体の目標として、子どもとの関わりについての考えを深めることを目的とする。

履修上の留意点

「発達心理学概論」「心理臨床の基礎」「心理カウンセリング序説」などは本講義の関連科目である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	子どもの心理臨床とは	子どもを理解し、子どもの成長を援助するとは、どのような働きかけなのであろうか。この章では心理臨床における援助者の成長過程について学ぶ。また、長年子どもの精神的な問題に携わられてこられた児童精神科医の小倉清先生にお話を伺い、子どもの援助者として大切な姿勢、視点を考える。 【キーワード】 援助者の成長過程、援助者の姿勢 子どもに寄り添う	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝(日本大学准教授) ゲスト: 小倉清(クリニックおぐら院長)
2	乳幼児期の発達を知る	乳幼児期は、生涯の中で最も変化が著しく、なおかつ人格の基礎を作る重要な時期と言われる。ここでは、誕生から就学前までを乳幼児期とし、子どもの発達の特性とその過程を、心理臨床に重要な事柄と共に概説する。 【キーワード】 発達過程 エコロジカルモデル 情動調整 心理的発達課題 愛着	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)
3	児童期の発達を知る	ここでは児童期を小学生の時期とし、子どもを理解するために必要な発達に関する基礎知識を学ぶ。そして、発達の概念が、子どもの心理臨床ではどのように意味づけられるのかを概説する。 【キーワード】 学びの時期、親子関係 友人関係 自分とはなにか	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝(日本大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	遊戯療法の理論	遊びを方法とした心理療法とは、どのようなものなのか。子どもが自分の心の世界をのびやかに表現するためには、どのような守りの設定を作る必要があるのか。遊戯や行動を通して交流する際の、基本的な概念と実際の遊戯療法について伝える。 【キーワード】 遊戯療法 非言語的交流 遊びの感覚	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝(日本大学准教授)
5	遊戯療法の実際	遊戯療法の具体的なやり取りを知ることで、遊戯療法に実際について理解し、遊びを使った交流の感覚を把握する。遊戯療法の初回は、子どもの未知場面への対応が端的に表われる。また、攻撃性は、遊戯療法で扱うべき大切な感情、欲求の表われである。本章で示す例を参考に、自分ならどのように対応するかを考える。 【キーワード】 初回の不安対応、遊戯療法の中での攻撃性 制限	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝(日本大学准教授)
6	箱庭療法の理論と実際	箱庭療法は、日本人の心性に合った優れた心理療法であり、ことに子どもの心理療法機関において多く用いられている。放送教材では、箱庭療法の創始者カルフ女史と、箱庭療法を日本の心理臨床に導入された河合隼雄先生から指導を受けられた、日本箱庭療法学会理事長岡田康伸先生を、京都文京大学心理臨床センターに訪問して、お話をうかがった。放送教材・印刷教材を通して、箱庭療法(Sandplay Therapy)について学ぶことを目的とする。 【キーワード】 河合隼雄 砂箱 砂 玩具 自由にして保護された空間	滝口俊子(放送大学名誉教授)	滝口俊子(放送大学名誉教授) ゲスト:岡田康伸(京都文教大学教授)
7	子どもとの関わりの実際(1) 親-乳幼児心理臨床	誕生から三歳前後の子どもの心理臨床は、親子が対象になる。こうした構造の心理療法に関する理論と技法の基礎を学ぶ。また、心理臨床の行われるフィールドの特性や、この時期に特徴的な親の心性についても触れる。 【キーワード】 親-乳幼児心理療法 親-乳幼児相互作用 関係性障害 母性のコンステレーション 情動調律	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)
8	子どもとの関わりの実際(2) 発達障害	発達障害についての基本的な特徴を理解する。そして、発達障害の特徴から生じる困難さと、二次的に起こる問題を概観する。また、発達障害の子どもの体験を感じとり、子どもに対する援助で気をつけることを学ぶ。 【キーワード】 発達障害、精神遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝 ゲスト:馬場裕子(臨床心理士)
9	子どもとの関わりの実際(3) 不登校	不登校は子どもの問題のひとつの現れ方である。本章では、不登校になった子どもの気持ち、不登校理解の枠組み等、不登校についての基本的な理解を行う。そして、子どもへの援助、養育者への支援、学校との連携について考える。 【キーワード】 不登校、不登校の子どもへの援助、養育者との関わり	山口義枝(日本大学准教授)	山口義枝 ゲスト:馬場裕子(臨床心理士)
10	子どもとの関わりの実際(4) 虐待	子どもの虐待について概観する。その一つとして、虐待を受けた子どもに現れる振る舞い方の特徴を知る。そして虐待の実態と支援の方法、およびそれらの背景について学ぶ。また虐待されることで子どもが体験する世界はどのようなものなのか。子どもがさまざまな傷から回復していくために、子どもに関わる心理臨床家は、この問題をどのように考えたらよいのか。こどものためにどのようなことができるのか、例を引用しながら学ぶ。 【キーワード】 虐待、育ち、認知発達、文脈、心理的支援	齋藤舘(恵泉女学園大学教授)	齋藤舘(恵泉女学園大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ひとり親・再婚家庭の子ども	近年、ひとり親家庭は母子・父子家庭ともに増加している。ひとり親家庭になった理由は離婚が大半を占めており、離婚の増加に伴い再婚も増加傾向にある。本章では、離別・死別によるひとり親家庭と再婚家庭の現状を概観したあと、このような家庭で育つ子どもたちが抱える心理・社会的問題、および親をはじめとする周囲の大人に求められる子どもへの対応について述べる。 【キーワード】 ひとり親家庭、再婚家庭、離婚が子どもに与える影響、再婚家庭の子育て、面会交流	小田切紀子 (東京国際大学教授)	小田切紀子 (東京国際大学教授)
12	教育委員会の活動	放送教材では、神奈川県海老名市教育委員会青少年相談センターを訪問し、所長の上田貴康氏に説明していただいた。放送教材の後半では、スタジオで、新潟県三条市教育委員会子育て支援課の蝶名林稔氏に三条市の子育て支援について、紹介していただいた。本章では、一人ひとりの子どもが生きてゆく基盤作りに取り組む、教育委員会の活動について学習する。 【キーワード】 海老名市青少年センター、三条市子育て支援課、来所相談、電話相談、学校訪問相談、スクールカウンセラー、臨床心理士	滝口俊子(放送大学名誉教授)	滝口俊子(放送大学名誉教授) ゲスト: 上田貴康(海老名市青少年相談センター所長)、蝶名林稔(新潟県三条市教育委員会)
13	子どもの心理臨床の現場	子どもの心理臨床に携わっている臨床心理士の活動の実際を通して、子どもの心理臨床の課題について考える。 【キーワード】 こども発達センター、教育センター、保健センター、協働	滝口俊子(放送大学名誉教授)	滝口俊子(放送大学名誉教授)ゲスト: 宗田美名子・西澤伸太郎・亀井洋子(全3名臨床心理士)
14	教育場面におけるカウンセリング	中学高校のスクールカウンセリングにおいて、面接の場で語られる幼児期・児童期体験を通して、子どもの育ちを考える。 【キーワード】 スクールカウンセリング 保護者面接 教員との連携	滝口俊子(放送大学名誉教授)	滝口俊子(放送大学名誉教授)ゲスト: 日永田美奈子(大阪府スクールカウンセラー・臨床心理士)
15	子どもの心理臨床のこれから	放送教材では、大正大学人間学部臨床心理学科准教授で、心理臨床経験豊かな青木聡(あきら)氏に登場いただいた。河合隼雄先生が所長を勤められた山王教育研究所のスタッフの一方、心理臨床のオフィスを開設し、心理臨床に教育に最前線で活躍しておられる。「乳幼児・児童の心理臨床」最終回の今回は、家族関係、教育環境、社会状況など、子どもが育つ環境が激変している中で、子どもの成長に関わる心理臨床の今後を、思いを巡らせたい。 【キーワード】 離婚後の親子の交流、片親阻害症候群、心理相談、保育カウンセリング、スクールカウンセリング	滝口俊子(放送大学名誉教授)	滝口俊子(放送大学名誉教授) ゲスト: 青木聡(大正大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528912	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 思春期・青年期の心理臨床 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）： 佐藤仁美 放送大学准教授 〕

〔主任講師（現職名）： 西村喜文 西九州大学大学院教授 〕

講義概要

思春期・青年期について、発達の側面・医学(病理)的側面などから捉え、その対応について概説する。大きく分けて、家庭・学校・社会のなかでの若者の姿を多角度からアプローチしていく。

授業の目標

思春期・青年期について、発達の側面、医学(病理)的側面などから理解につとめる。家庭・学校・社会において、思春期・青年期年代の特徴を内面と外面から理解すること。

履修上の留意点

関連科目として、「心理臨床の基礎」「心理カウンセリング序説」「スクールカウンセリング」「乳幼児・児童の心理臨床」をあわせて履修することをすすめる。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	思春期・青年期を生きる ー思春期・青年期の課題ー	思春期・青年期を心と体の両側面から捉え、大人と子どもの境目にあるこの時期であるからこそ、生きている楽しさと、生きにくさに迫っていく。 【キーワード】 思春期・青年期・アイデンティティ・自己との出会い	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤 仁美 (放送大学准教授)
2	思春期を生きる子どもたち	児童期後期より、親との距離をおき始め、親に向けられていた愛着がしだいに自分自身に向けられてくる。このように自意識(自分への関心)が高まる中、子どもたちは、それぞれの空間をどのように生きているのか学校(社会)、家庭での臨床像とその対応について考える。 【キーワード】 思春期の課題 思春期の不適応 思春期の理解と支援	西村 喜文 (西九州大学大学院教授)	西村 喜文 (西九州大学大学院教授)
3	青年期をいかに過ごすか ー大人になるということー	現代の高校生・大学生がおかれている社会的環境を視野に入れながら親からの分離、対人関係の問題等、子どもから大人への移行期における自我形成について考えていく。 【キーワード】 青年期の発達課題 アイデンティティ 大人になることの難しさ	西村 喜文 (西九州大学大学院教授)	西村 喜文 (西九州大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	軽度発達障害	学校現場において、軽度発達障害に対する支援が多方面からなされるようになってきた。しかし、中学、高校における軽度発達障害の理解や対応については十分とはいえない。ここでは、中学、高校における軽度発達障害の現状とその対応について考えていく。 【キーワード】 軽度発達障害 特別支援教育 思春期・青年期支援	西村 喜文 (西九州大学 大学院教授)	西村 喜文 (西九州大学 大学院教授)
5	学校コミュニティと心理臨床	学校現場において、事件、事故、被害など学校コミュニティの危機が問題となり、緊急支援の必要性が問われている。ここでは、学校コミュニティと心理臨床について考えていく。 【キーワード】 学校コミュニティ 学校臨床とスクールカウンセラー 危機介入	西村 喜文 (西九州大学 大学院教授)	西村 喜文 (西九州大学 大学院教授)
6	若者の異文化体験 ー揺らぎのマイナスとプラスー	自分らしさを自文化の中で育てること自身が難しい思春期・青年期に、異文化を体験することはそのアイデンティティの形成に複雑な課題を持ち込みマイナスに働くが、同時にそれをプラスに転じる力としても働く。その二つのせめぎあいの視点から考える。 【キーワード】 異文化適応 文化的アイデンティティ 異文化ストレス 帰国生 留学生	手塚千鶴子 (慶応義塾大 学国際セン ター非常勤講 師)	手塚千鶴子 (慶応義塾大 学国際セン ター非常勤講 師)
7	思春期・青年期の問題行動と課題 (1) ー非行臨床を中心にー	移行期におけるつまづき、自分でもあましてしまうもの・あふれ出る爆発的なエネルギーと、その発散方法、そして、収束に向かう時とは？ 非行臨床における少年たちの特徴と、彼・彼女たちとの付き合い方などを探求する。 ＊ ゲスト：田高誠(東京最高裁判所) 【キーワード】 非行 つまづき	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)
8	思春期・青年期の問題行動と課題(2) ー思春期心性と行動ー	なぜ、内側に向かってしまうのか？自分でもあましてしまうもの・繊細な心のひだにアプローチする。主に不登校、引きこもりの問題をとおして、この時期特有の内側に向かう心を探求する。 【キーワード】 不登校 引きこもり 思春期内閉 イニシエーション	北原知典(こ どもの城小児 保健部 臨床 心理士)	北原知典(こ どもの城小児 保健部 臨床 心理士)
9	ボディ・イメージと病理(1)	この時期特有の自己意識・ボディ・イメージから病理にかかわる全般について、ジェンダーや性の問題も含め、概説する。 【キーワード】 ボディ・イメージ 身体言語 性	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)
10	ボディ・イメージと病理(2)	思春期・青年期の心と身体の問題の中でも身体で表現するものとして、摂食障害・自傷行為を中心に上げ、それらと関係している境界性パーソナリティ障害についても触れてみる。 ＊ゲスト：川瀬公美子(メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士) 【キーワード】 摂食障害 自傷行為 パーソナリティ障害 境界例	大前玲子(大 阪大学大学 院講師)	大前玲子(大 阪大学大学 院講師)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	思春期・青年期の心理療法(1) ー総論と芸術療法・認知療法を中心にー	ちょっとした工夫が必要とされる思春期・青年期の心理療法を取り上げる。一つは、イメージを使った芸術療法としての箱庭療法・コラージュ療法ともう一つは、現実志向で歪んだものの見方・考え方を修正することを目指す認知行動療法という大きく志向の違う心理療法を紹介する。 ＊ゲスト:川瀬公美子(メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士) 【キーワード】 傾聴 イメージ表現療法 箱庭療法 コラージュ療法 認知療法	大前玲子(大阪大学大学院講師)	大前玲子(大阪大学大学院講師)
12	思春期・青年期の心理療法(2) ー遊戯療法的要素についてー	思春期・青年期の心の理解と付き合い方について、遊戯療法的な視点から考察し、「遊び」という表現方法の可能性について探求する。 【キーワード】 遊戯療法 遊び イメージ 治療的枠	北原知典(こどもの城小児保健部 臨床心理士)	北原知典(こどもの城小児保健部 臨床心理士)
13	思春期・青年期との付き合い方(1) ーメディアとコミュニケーションについてー	思春期・青年期のコミュニケーションの形や自己意識を考える上でインターネット等のメディアの存在は切り離して考えることができなくなっている。移行対象など心理学的な概念をキーワードに、メディアが持つ難しさ、そして可能性について考えていく。 【キーワード】 携帯電話 パソコン インターネット 移行対象 他者性	北原知典(こどもの城小児保健部 臨床心理士)	北原知典(こどもの城小児保健部 臨床心理士)
14	思春期・青年期との付き合い方(2) ー性別と組合せの問題を中心にー	樹木が上へ伸びると同時に、下への根が張られるように、思春期・青年期の成長を上下の軸から眺めてみる。 ＊ ゲスト: 大前玲子(大阪大学大学院講師) 岩岡真弘(大阪府立和泉支援学校) 川瀬公美子(メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士) 【キーワード】 ジェンダー・アイデンティティ 獲得する 受け容れる	佐藤 仁美(放送大学准教授)	佐藤 仁美(放送大学准教授)
15	思春期・青年期を生きぬく	思春期・青年期をどう生き抜くか。思春期・青年期を生きる姿、親や先生をはじめとする大人の役割、そして協働をめざしての試みを語り、まとめとする。 【キーワード】 居場所 安心感 信頼感	佐藤 仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)・西村喜文(西九州大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1528971	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 中高年の心理臨床 （'14）＝（R）
 英文名＝ [Clinical Psychology of the Middle-aged and Older Adults ('14)]
 [主任講師（現職名）： 齋藤 高雅（放送大学教授）]
 [主任講師（現職名）： 高橋 正雄（筑波大学大学院教授）]
 【本学担当専任教員：】

講義概要

少子高齢化の現在、中高年の心理臨床においては、様々な問題が社会問題として取り上げられている。「うつ病」の問題や、1998年より10年以上、自殺者が3万人も続いた「自殺」の問題、認知症やその介護の問題、さらに「死の問題」などについて論ずる。

授業の目標

ライフサイクルにおける中高年の臨床心理学的課題と知識を身につけ、中高年者の理解を目指す。

履修上の留意点

臨床心理学領域では、ライフサイクルの視点から「乳幼児・児童の心理臨床」「思春期・青年期の心理臨床」が開設されている。今回、その延長科目として「中高年の心理臨床」の位置づけであるので、ライフサイクルの観点から上記科目も学習していただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	中年期の心理と課題	中年期における主な発達理論としてユング, C.G.、エリクソン, E.H.、レヴィンソン, D. J.の理論を述べ、次に生物心理社会的な視点から中年期におけるそれぞれの変化と課題について検討し、臨床心理学的特徴について述べる。 【キーワード】 中年期、働き盛り、更年期、中年期の心理と課題	齋藤 高雅(放送大学教授)	齋藤 高雅(放送大学教授)
2	いつまでも大人にならない若者たち	若者から中年への移行期における心理と諸課題について検討する。 【キーワード】 若者ら中年への移行期、大人になること	倉本 英彦(帝京平成大学大学院教授)	倉本 英彦(帝京平成大学大学院教授)
3	人生の移行期における諸課題ー「人生半ばの過渡期」を中心にー	人生半ばの過渡期(40～45歳)における発達課題について検討する 【キーワード】 人生半ばの過渡期、発達課題	倉本 英彦	倉本 英彦

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	働き盛りの中年の心身の健康	中年期のストレス病と危機(クライシス)、うつ病、自殺などを中心に概説する 【キーワード】 中年期の危機(クライシス)、更年期障がい、うつ病、アルコール依存、自殺	倉本 英彦	倉本 英彦
5	病みながら生きるという生き方	病いを抱えて生きる人々の生き方や人生において病むことの意味などを検討する。 【キーワード】 病むことの意味	高橋 正雄(筑波大学大学院教授)	高橋 正雄(筑波大学大学院教授)
6	高齢期の心理と課題	高齢期に関する理論について述べ、次に高齢期の心理的特徴について生物学的要因、心理社会的要因など、さらに高齢期の精神保健、高齢者の心理臨床、パリアティブケア(緩和ケア)について述べる。最後にサクセスフル・エイジング、超高齢期について触れる。 【キーワード】 高齢者の心理臨床、パリアティブケア(緩和ケア)、サクセスフル・エイジング、超高齢期、老年的超越	齋藤 高雅	齋藤 高雅
7	高齢期のこころの病	高齢期のこころの病について概説する。 【キーワード】 高齢期のこころの病(認知症、神経症性疾患、うつ病、統合失調症、他)	高橋 正雄	高橋 正雄
8	正常加齢の理解:加齢による認知機能の変化	加齢による認知機能の変化(認知的加齢)について概説する。 【キーワード】 認知的加齢, 知能, 記憶, 意思決定	松田 修(東京学芸大学准教授)	松田 修(東京学芸大学准教授)
9	高齢者の心理アセスメント: 高齢者のこころを知るには	高齢者のこころを知るために行われる心理アセスメントの方法について概説する。 【キーワード】 心理アセスメント, 心理検査, 行動観察, 認知症スクリーニング, 権利擁護と能力評価など	松田 修	松田 修
10	高齢者に対する心理療法(1)	高齢者に対する心理療法について述べる。 【キーワード】 認知症に対する心理療法	黒川 由紀子(上智大学教授)	黒川 由紀子(上智大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	高齢者に対する心理療法(2) 回想法	回想法とライフレビューの理論と実際について概説する。 【キーワード】 回想法、ライフレビュー、グループ回想法	黒川 由紀子	黒川 由紀子
12	高齢者に対する心理療法(3) 認知症高齢者と家族の心理と支援	認知症高齢者と家族の心理と支援について概説する。 【キーワード】 心理教育, 認知リハビリテーション	松田 修	松田 修
13	文学にみる老いと病	文学作品を中心に、高齢者や病者、障害者の生き方、並びに周囲の対応を検討する。 【キーワード】 高齢者、病者、障害者の生き方と対応	高橋 正雄	高橋 正雄
14	死と心のケア	死の準備、ターミナルケア、グリーフ・カウンセリング、死生観などについて論ずる。 【キーワード】 死の準備、ターミナルケア、グリーフ・カウンセリング、死生観	黒川 由紀子	黒川 由紀子
15	老いを生きるーまとめにあたって	印刷教材では、老いをどのように生きるか、老いの心性と特徴、すなわち喪失体験、孤独と不安、社会的機能・役割の変化、さらに高齢者と心理的適応について概観した。放送授業では講師全員で座談する。 【キーワード】 老いの心性、高齢者像、高齢者観、高齢者と心理的適応	齋藤 高雅	齋藤高雅, 高橋正雄, 倉本英彦, 黒川由紀子, 松田修

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639145	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 都市社会の社会学 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：森岡清志（放送大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：】

講義概要

都市社会に関する社会学の基礎的概念を分かりやすく説明し、その上で、戦後日本の大都市における都市化とそれに伴う地域社会の変動を、都市化、郊外化、再都市化の過程に即して説明する。また、東京圏における都市空間の変容過程、地域社会内部の構造変動、人びとのつながりの変化、格差の拡大、社会的孤立の深化、エスニシティといった諸側面について具体的に論じる。現代都市社会の諸問題を幅広く捉える視点を養うとともに、問題の相互関連についての理解を深めることができるような講義をおこなう。

授業の目標

この科目では、都市社会の中で主体的に生きるための手がかりを受講生が得るために、都市社会の歴史的変動過程を捉え、それに基づいて現代的都市問題にアプローチすることのできる知識を提供し、問題を検討する能力が育成されることを目標とする。

履修上の留意点

「社会学入門('10)」「現代都市とコミュニティ('10)」も合わせて学んでおくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	都市・都市化・都市 的生活様式	科目全体の導入回として、都市という居住地の特質、都市化の諸過程、都市的生活様式に関する理論など、都市社会学の基本的概念について説明する。また、都市化に伴う社会変動という視点が、この科目の中で一貫して重要であることも説明する。 【キーワード】 都市、都市化、都市的生活様式、人口量、人口密度、処理システム	森岡清志(放送大学教授)	森岡清志(放送大学教授)
2	都市化の歴史的展開	都市化の歴史的な展開について、その概略を整理して、提示する。主に、欧米における近代以降の都市化の諸段階とそれぞれの時期の特徴を、資本主義の諸段階やグローバル化の状況などとの関連で、一連の歴史過程としてモデル的に整理する。 【キーワード】 都市化、郊外化、資本主義、フォーディズム、グローバル化	玉野和志(首都大学東京教授)	玉野和志(首都大学東京教授)
3	日本都市の歴史的展開	日本における都市化の歴史的な展開について、欧米を中心に整理したモデルとの比較で、どのような具体的な時期の違いや特殊性が見られるかについて、全般的な解説を行う。 【キーワード】 都市化、郊外化、再都市化、高度経済成長、バブル経済	玉野和志(首都大学東京教授)	玉野和志(首都大学東京教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日本都市の地域形成	日本における都市化の歴史的な展開を前提として、それぞれの時期に都市の地域集団や社会構造が具体的にどのような変遷を経て、どのような地域社会を形成してきたかについて、解説する。 【キーワード】 町内会・自治会、住民運動、市民活動、コミュニティ	玉野和志(首都大学東京教授)	玉野和志(首都大学東京教授)
5	社会調査としての地図づくり	オフィスビルや工場・倉庫、商店街、住宅地など、空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えるための手法として、社会地図が用いられてきた。日常の生活世界を「地図」という表現手段で表すために、どのような工夫がなされてきたかを学び、社会地図を用いて都市社会全体を俯瞰する視点を得る。 【キーワード】 空間構造、社会構造、主題図、社会地区分析、社会地図	浅川達人(明治学院大学教授)	浅川達人(明治学院大学教授)
6	大都市の社会・空間構造の変化:郊外化	東京大都市圏には、戦後一貫して大量の人々が流入している。就学・就業のチャンス求めて集まった大量の人々は、ひとまず、そのチャンスが集中している都心近くに居住する。しかしながら、結婚し、子供が生まれるようになると、より広い住空間を求めて、郊外へと移住することが多い。郊外化という社会現象を、都市の発展の時間と家族の時間という2つの時間軸によって考察する。 【キーワード】 東京大都市圏、チャンス、都心、郊外化、2つの時間軸	浅川達人(明治学院大学教授)	浅川達人(明治学院大学教授)
7	大都市の社会・空間構造の変化:再都市化	東京都の社会動態を見ると、1960年代後半から1990年代前半までは、ほぼ一貫して、転出数が転入数を上回っていた。しかしながら、それ以降転出数が転入数を下回るようになった。これが、再都市化という社会現象である。再都市化という社会現象を、グローバル化、IT化などの、日本社会全体が経験した大きな社会変化とともに考察する。 【キーワード】 社会動態、再都市化、グローバル化、IT化	浅川達人(明治学院大学教授)	浅川達人(明治学院大学教授)
8	近代の都市化と工業地域の形成－「月島」の出現	東京都中央区月島を事例に、近代東京において工業地域や労働者集住地区が形成された過程を概説する。近代都市の空間構造の形成と、社会構造が密接に関連していることを理解してもらうことをめざす。 【キーワード】 都市化、東京湾埋立、工業地域、佃島、月島、工場労働者、自営業者、月島調査	武田尚子(武蔵大学教授)	武田尚子(武蔵大学教授)
9	住商工地域の生活世界と文化的資源－「もんじゃ」の進化	都心部の住商工混在地区としてローカル・アイデンティティを維持してきた月島の、ローカルな食文化のシンボルの1つ「もんじゃ」に焦点をあて、高度成長期後に、アイデンティティの変化に直面せざるを得なくなった状況を概説する。 【キーワード】 住商工混在地区、ローカル・アイデンティティ、もんじゃ、集合的記憶、ローカル文化、脱工業化	武田尚子(武蔵大学教授)	武田尚子(武蔵大学教授)
10	都市再開発とローカル・アイデンティティの変容－「もんじゃの街」	東京ウォーターフロントの再開発にともなって、湾岸エリアの都市交通網の再整備、もんじゃ店経営者に特化した同業者組合の結成、メディア・広報戦略の的確な利用が、月島で新たなローカル・アイデンティティを生み出していった過程を概説する。 【キーワード】 都市再開発、ウォーターフロント、都市基盤整備、サービス業就業者集住地域、同業者組合、メディアと地域社会	武田尚子(武蔵大学教授)	武田尚子(武蔵大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	都市化とパーソナル・ネットワーク	初期シカゴ学派が提起した「都市化に伴う第一次的関係の衰退」という仮説をめぐる、どのような議論が展開されてきたのか、また第一次的関係に替えて、パーソナル・ネットワークという言葉がどのように使われてきたのか、これらの諸点について分かりやすく説明する。 【キーワード】 第一次の関係、第二次の関係、社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、友人ネットワーク、都市度	森岡清志(放送大学教授)	森岡清志(放送大学教授)
12	都市社会の階層化	近代都市の形成過程は、人びとが様々な社会的地位に組み込まれ、移動していく過程でもあった。それは国内はもとよりグローバルな社会の動きとも連動して生じてきた。こうした過程によって都市には階層・階級構造が形成される。それを都市社会学はどのように描きだしたのか。主に日本での事例を交えて概説する。 【キーワード】 社会階層、社会移動、都市の構造分析、都市の権力構造、新都市社会学、世界都市	稲月 正 (北九州市立大学教授)	稲月 正 (北九州市立大学教授)
13	都市社会の貧困と社会的排除	急速な産業化・都市化は、様々な都市問題を生み出した。その一つが貧困と社会的排除の問題である。それらは90年代後半の野宿者の顕在化を契機として大きくクローズアップされている。社会的排除と都市政策の展開について、北九州市での「ホームレス」の調査と支援活動を事例として考える。 【キーワード】 貧困、社会的排除、都市下層、ハウスレス、ホームレス、新しい公共	稲月 正 (北九州市立大学教授)	稲月 正 (北九州市立大学教授) ゲスト:奥田知志(NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長)
14	都市社会のエスニック関係	都市は、多様なエスニシティを持つ人が出会う場所である。その一方でエスニシティの違いは、階層的な地位とも絡み合いながら、都市内部での紛争や対立も生み出してきた。そうした中で多文化共生はいかにして可能か。事例をもとに考える。 【キーワード】 エスニシティ、初期シカゴ学派都市社会学、トランスナショナル・コミュニティ、バイパス結合、顔の見えない定住化、多文化共生、統合	稲月 正 (北九州市立大学教授)	稲月 正 (北九州市立大学教授)
15	コミュニティ形成と新しい都市的生活様式	コミュニティ形成とは、地域社会ごとに共同の生活問題进行处理するシステムを改革し、最適な処理システムを構築してゆく営みであること、そのことが専門処理への高度依存から脱却し新しい都市的生活様式を形成する営みでもあることを説明する。 【キーワード】 共通・共同の生活問題、専門処理、問題処理システムの改革、住民力	森岡清志(放送大学教授)	森岡清志(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1530518	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代都市とコミュニティ（'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：浅川 達人（明治学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：玉野 和志（首都大学東京教授）〕

【本学担当専任教員：森岡 清志（放送大学教授）】

講義概要

交通機関の発達および情報化の高度な進展により、人びとは空間的に離れた場所で暮らす他者と容易に社会関係を形成・維持することができるようになった。それに伴い、自らが居住しているコミュニティへの関与は縮小することとなった。その一方でコミュニティの重要性が指摘され、コミュニティへの期待が高まっている。本科目では、まず、コミュニティ概念を整理するとともに、コミュニティの諸相について概説する。次いで、コミュニティに変容をもたらす、社会・空間構造の変化について検討する。それらの理論的な検討を踏まえたうえで、各地のコミュニティに出かけ、現地の映像と住民の声に身を置きながら、コミュニティへの帰属の今日的意味について考察する。

授業の目標

私たちは、私たちが普段目にしている社会が、日本の各地に広がっているかのように思い込みがちです。しかしながら、個人の耳目が見聞きする範囲は極めて限られており、それを一般化して考えるのは誤解に過ぎない可能性が高いといえます。知っているようで知らない、コミュニティで展開されている日常生活世界を、都市社会という大きな社会の動きと合わせながら考える。それが本科目の目標です。

履修上の留意点

本科目は、「現代コミュニティ論('06)」の後継科目です。したがって、内容的に重複する部分も少なからず含んでいますが、ここではとりあげることができなかった、より豊かな内容を含むように再構成しなおしました。「現代コミュニティ論('06)」を既に学習された方にもお薦めできる科目です。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	都市を眺め、生活を見つめる	現代都市の特徴を捉えるためには、ヘリコプターから地上を眺める視点と、地上を散策する人の視点の両方が必要である。ヘリコプターからの視線は、空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えることができる。一方、人々は社会の構造に縛られながら、しかし巧みに利用しつつ生き抜いている。そのような人々の日常生活世界は、散策する人のまなざしによって捉えることができる。 【キーワード】 空間構造、社会構造、都市の定義	浅川達人 (明治学院大学・教授)	浅川達人 (明治学院大学・教授) 玉野和志 (首都大学東京・教授)
2	「コミュニティ」が意味したもの	社会学者は西欧社会における日常生活用語であったコミュニティを、社会学の専門用語である「コミュニティ」として用いた。両者はどこが同じでどこが異なるのか。なぜ「コミュニティ」という用語を用いる必要があったのか。「コミュニティ」について検討するためには、何が必要か。社会学の歴史を紐解いてみる。 【キーワード】 日常生活用語、専門用語、コミュニティ、マクロな視点、ミクロな視点	浅川達人	浅川達人
3	21世紀のコミュニティ	交通機関の発達および情報化の高度な進展により、人びとは空間的に離れた場所で暮らす他者と容易に社会関係を形成・維持することができるようになった。そのような21世紀のコミュニティの特徴を明らかにしつつ、コミュニティに寄せられる期待の可能性と限界を指摘する。 【キーワード】 コミュニティ解放仮説、ヴァーチャル・コミュニティ、社会関係資本、地域性と共同性	浅川達人	浅川達人

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会地図と社会地区 分析	空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えるための手法として、社会地図が用いられてきた。日常の生活世界を「地図」という表現手段で表すためには、どのような工夫が必要かを学び、社会地図を用いて都市社会全体を俯瞰する。 【キーワード】 社会地区分析, 空間構造, 社会構造, 社会地図	浅川達人	浅川達人
5	大都市の社会・空間 構造とコミュニティ	東京大都市圏の社会・空間構造を社会地図を用いて描き出す。都市の発展という時間軸と、人々が営む日常生活によって紡ぎ出される時間軸が交差しつつ多様なローカル・コミュニティができていく過程を紹介する。 【キーワード】 東京大都市圏, 郊外化, 再都市化, 都市の発展, 家族の時間, 工業型社会, 脱工業型社会	浅川達人	浅川達人
6	郊外化と再都市化	郊外化と再都市化という流れの中でできあがった、都心のコミュニティと郊外のコミュニティを実際に訪れ、街の様子を観察する。都心のコミュニティとして神田を、郊外のコミュニティとしてつくばエクスプレス沿線を訪れる。 【キーワード】 再都市化, 郊外の重層性	浅川達人	浅川達人
7	都市の歴史的変遷と ローカル・コミュニティ の変容	これまで検討してきた都市全体の空間構造の変動の中で、今度はそこに住む人々の地域生活がどのように変容してきたかをとらえるコミュニティ・スタディの方法について検討する。ここではあるまちを訪れ、散策する視点から具体的にどのようなことが読み取れるかについて紹介する。 【キーワード】 ローカル・コミュニティ, コミュニティ・スタディ, 空間	玉野和志	玉野和志 浅川達人
8	コミュニティを枠づける 制度と組織	まず、コミュニティ・スタディの前提として、ローカル・コミュニティをその外側から枠づける制度や組織について検討する。この点を頭に入れておかないと、都市全体の空間構造の変動との関連で具体的なコミュニティの変容を位置づけることができなくなってしまうのである。 【キーワード】 土地, 空間, 制度, 組織, 自治体	玉野和志	玉野和志
9	コミュニティにひろがる 集団とネットワーク	制度や組織に枠づけられたコミュニティの中で、人々はさまざまなネットワークを結び、集団をなしている。このような小さな意味での社会を大きな意味での社会構造との関連で理解することが重要なのである。ここでは次回以降に細かく検討していく個々の領域の全体的な位置づけを確認しておきたい。 【キーワード】 社会的ネットワーク, 集団, 組織, 機関, 制度	玉野和志	玉野和志
10	町内社会と町内会	日本の都市には自治会・町内会とよばれる基本的な地域集団が存在する。これらは自治体の制度や政策とも密接に関連していて、非常に重要な役割を果たしている。ここではその歴史的な成り立ちと経緯、現状と課題について検討する。 【キーワード】 自治会, 町内会, 地域住民組織	玉野和志	玉野和志

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	自営業者たちとコミュニティ	自治会・町内会を中心とした日本の都市地域の社会構造を中心的に支えてきたのが、まちの自営業者たちである。ここでは東京下町のある地域を訪ね、その特質について具体的に学び、考えてみたいと思う。 【キーワード】 自営業, ニッチ, 起業家	玉野和志	玉野和志 ゲスト:小浜ふみ子(立正大学・教授)
12	学校とコミュニティ	自治会・町内会を中心とした地域社会の構造は、比較的都心に近い地域に典型的に見られたものである。これにたいして郊外などを中心に最近の変化の中で重要な意味を持つようになったのが、小学校や中学校である。ここでは学校と地域社会の関係について、そこでの女性の活躍を中心に検討する。 【キーワード】 学校, PTA, 教育委員会, 教育改革	玉野和志	玉野和志
13	民族集団とコミュニティ	さらに最近になって日本でも注目されてきたのが、異なる民族が集住していたり、多様な民族がこれまで共生してきたコミュニティである。ニューカマーとよばれる外国人の流入により、オールド・タイマーとされる在日のコミュニティも、改めて注目されるようになっている。ここでは大阪のそのようなコミュニティを訪ねてみたい。 【キーワード】 民族集団, エスニシティ, 移民	玉野和志	玉野和志 浅川達人 ゲスト:谷富夫(甲南大学・教授)
14	高齢化とコミュニティ	少子高齢化は日本のほぼ全ての地域社会においてみられるが、特に西日本においてその傾向が強い。高齢化と過疎によって疲弊する地域社会が多い中で、高齢者の力を生かした村おこしに成功した地域がある。鹿屋市串良町柳谷を訪れ、「やねだん」の活力の源について考える。 【キーワード】 少子高齢化, 過疎, 行政に頼らない地域再生	浅川達人	浅川達人
15	都市コミュニティのゆくえ	これまでの講義のまとめを行う。そのうえで、現代都市とコミュニティを捉えるために必要な2つの視点である、社会地区分析とコミュニティ・スタディを結合した研究の可能性について検討する。 【キーワード】 社会地区分析, コミュニティ・スタディ	浅川達人	浅川達人 玉野和志

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639285	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 社会と銀行 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [The Role of Banks in Modern Society ('14)]

〔主任講師（現職名）：吉野 直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）〕

【本学担当専任教員：坂井 素思（放送大学教授）】

講義概要

1980年代後半のバブル経済から1990年代にかけて、日本の金融機関は混乱から大変革の時代を経験した。変化は不良債権処理、金融再編、情報化という技術進歩、それに金融規制の局面において著しかった。2008年からの、アメリカのサブプライムローン問題、最近のユーロ危機が加わった。そうした変化の中で、この科目では、消費者にとっての銀行、企業にとっての銀行、決済ネットワークのノードとしての銀行、資産運用市場における銀行、グローバル競争下の銀行、ヨーロッパの銀行によるギリシャ国債などの保有、財政危機と銀行行動など、銀行の役割と社会の中での機能について考える。

授業の目標

この科目では、伝統的な金融論の枠組みを越えて、幅広い視点から銀行の業務と社会的役割について再考し、ダイナミックに変化する現代社会における銀行の存在意義と公共性について考察することを目標とする。受講者は、金融論の文献に登場する銀行ではなく、生身の人間の集団としていまに生きる銀行の姿を理解し、その将来を展望する作業に参加して欲しい。

履修上の留意点

放送大学の科目としては「経済学入門」と「現代経済学」を履修していることが望ましいが、預金や住宅ローンを通じて銀行と取引のある人、企業経営において日常的に銀行と接している、政策的視点から銀行業に関心のある人、資産運用について考えている人など、銀行に何らかの関心のある人はすべてこの科目の受講資格がある。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	日本の資金循環－お金の流れ	多くの人は経済といえばお金を連想するが、お金とはいったい何だろうか。わたしたちが銀行に預け入れたお金はどこへ行くのだろうか。金融機関はビジネスであると同時に、どのような公共的役割を担っているのだろうか。金融機関は何を仲介しているのだろうか。金融の流れと実体経済とはどのように関連しているのだろうか。銀行が国債を購入したり、企業に資金を貸し出す動きと、経済への影響を考察する。 【キーワード】 お金とは何か、金融仲介機能、実体経済と金融	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
2	金融システムにおける銀行の役割	多くの金融機関や金融市場とそれを支える法律や制度が集まって金融システムは構成されている。その中で銀行が果たしている役割は何だろうか。銀行が扱うサービスはなぜ金融商品と呼ばれているのか。金融システムを特徴づける言葉としての直接金融と間接金融とはどのような意味なのだろうか。金融市場と銀行の関係についても言及したい。 【キーワード】 金融システム、銀行が扱う金融商品、直接金融、間接金融	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
3	消費者と銀行	消費者にとって銀行はお金を預ける場所であり、お金を借りる場所でもある。銀行の消費者向けのサービスにはどのようなものがあるのか。銀行が扱う預金商品と投資信託商品はどうか。住宅ローンや個人向けローンを借りるときの注意点はどのようなことだろうか。ATMでの送金はどうに行われているのだろうか。 【キーワード】 預金商品、投資信託商品、住宅ローン、個人向けローン、利用上の注意	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	信託ビジネスとは	信託ビジネスとは何だろうか。高齢社会において消費者の資産運用ニーズはどう高まっているのだろうか。それに信託商品はどこまで応えられるのだろうか。なぜ預金と信託は区別された別の商品となっているのだろうか。信託サービスに必要な専門性とは何だろうか。信託勘定の収益状況を分析し、今後の課題を探ってみよう。 【キーワード】 専門的な業務、増加する資産運用需要、収益状況、今後の課題	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
5	企業と銀行	銀行とまったく取引のない企業は存在しない。企業に対して銀行はどのようなサービスを提供してくれるのだろうか。銀行の企業向け貸出にはどのような種類と特徴があるのだろうか。地方自治体など公共法人と銀行はどのような取引をしているのだろうか。外国にある商業銀行と投資銀行の区別は日本ではどうなっているのだろうか。企業の投資活動と銀行による貸出の関係についても解説する。 【キーワード】 企業向け貸出、資金決済サービス、公共法人等との取引	前多 康男 (慶應義塾大学教授)	前多 康男 (慶應義塾大学教授)
6	資金決済ネットワーク	たとえ個別の銀行は倒産することがあっても、資金決済ネットワークは崩壊してはならないと言われる。小切手、手形、銀行間の資金決済、日本銀行との関係など、資金決済ネットワークはどのような仕組みで、誰によって担われているのだろうか。電子マネーの利用はどの程度進んだのだろうか。また、今後銀行以外の企業による送金業務への新たな参入は起こるのだろうか。 【キーワード】 為替取引、日銀ネット、システムリスク、預金保険、電子マネー	翁 百合 (日本総合研究所主席研究員・理事)	翁 百合 (日本総合研究所主席研究員・理事)
7	短期金融市場	短期金融と長期金融とは何に基づく区別だろうか。短期金融市場にはどのような種類があり、どのような構造を成しているのだろうか。ドルなどの外国為替市場には誰が参加し、その意義はどう評価できるのだろうか。短期金融市場における銀行の役割とは何だろうか。日本銀行の金融政策は短期金融市場にどのような影響を及ぼすのだろうか。 【キーワード】 短期金融市場の種類と構造、外国為替市場の意義、市場における銀行の役割	福田 慎一 (東京大学教授)	福田 慎一 (東京大学教授)
8	日本銀行と金融政策	日本銀行は発券銀行であり、銀行の銀行であり、政府の銀行だと言われる。日本銀行の仕事は何だろうか。日本銀行は自由にお金を発行できるのだろうか。日本銀行の貸借対照表を見よう。日本銀行はどのような政策手段を用いて、何を目標として金融政策を行うのだろうか。 【キーワード】 日本銀行の仕事、日本銀行の貸借対照表、金融政策の目的、金融政策の手段	福田 慎一 (東京大学教授)	福田 慎一 (東京大学教授)
9	バブル・不良債権・預金保険機構	1980年代後半からの日本経済のバブル現象とそれに続くバブル崩壊はどのように進化したのだろうか。金融機関が抱えた大量の不良債権はどう処理され、金融機関の破綻処理はどう進められたのだろうか。公的資本増強はどのような効果を持っていたのだろうか。預金保険機構に求められる新たな役割とは何だろうか。バーゼル自己資本比率規制の強化とは、どのような内容かを解説したい。 【キーワード】 バブルの生成と崩壊、金融機関の破綻処理、不良債権問題、公的資本増強、預金保険機構の役割	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	デリバティブー新しい金融手法の発達	不動産貸付、企業向け貸出、債券、株式などを食材になぞらえれば、金融派生商品(デリバティブ)は華麗な料理に例えられるかもしれない。リスク分散や資産の流動化など、どのような目的でデリバティブは作られ、金融工学理論はどのような役割を果たしたのか。デリバティブの構造に立ち入り、新しい金融手法の発達が銀行にもたらす役割の変化に注目する。 【キーワード】 資産流動化市場、貸出債券市場、デリバティブの構造、市場における銀行の位置	前多 康男 (慶應義塾大学教授)	前多 康男 (慶應義塾大学教授)
11	金融再編とメガバンク	2000年以降の日本では、大型金融再編が相次ぎ、4大メガバンクが誕生した。銀行に規模の利益はあるのだろうか。金融持株会社の意義はどこにあるのだろうか。メガバンクはどのような国際的な活動を行っているのだろうか。メガバンク化は国際的にも進展しているのだろうか。メガバンクの収益率を見てみよう。 【キーワード】 金融再編、メガバンクグループ、国際的な活動、収益状況	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
12	インターネット銀行	90年代以降金融機関に起こった大きな変化の1つは情報化だった。銀行と消費者や企業の間にはどのようなネットワークが拡大し、情報化によって店舗やアクセス市場はどう変化してきたのだろうか。インターネット銀行の新しさはどこにあるのだろうか。対面取引が減っていくことで、信用基盤や金融機関の安全性に心配はないのだろうか。セキュリティ(安全性)の確保のためには、インターネット金融取引では、どのような注意が必要であるかを解説する。 【キーワード】 情報化と銀行、インターネット銀行、ネットワークの拡大、信用と安全性、決済手段	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
13	地域金融の役割と中小企業金融	日本の企業の99%以上は中小企業だと言われる。中小企業貸出は大企業貸出や定型化された債券市場とどのように異なるのだろうか。地域銀行にはどのような種類があり、どのような特徴を持っているのだろうか。リレーションシップバンキングはなぜ見直されているのだろうか。この分野における公的金融機関の役割は何だろうか。 【キーワード】 地域銀行の種類、リレーションシップバンキング、公的金融機関の役割、中小企業金融	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
14	金融監督と金融制度改革	日本の金融市場にとって1990年代は混乱から大変革に至った激動の時代だった。規制緩和はどう進められ、その効果はどう評価されるのだろうか。バブル崩壊後、日本の金融制度改革はどう進められたのだろうか。経営健全性規則、金融商品取引法などは何を目指し、どのような市場の姿を期待しているのだろうか。 【キーワード】 不良債権問題、自己資本比率規制、早期是正措置、金融検査、業務範囲規制の緩和、金融商品取引法	翁 百合 (日本総合研究所主席研究員・理事)	翁 百合 (日本総合研究所主席研究員・理事)
15	グローバル競争時代の銀行	グローバルな決済の動きについて概観する。その中でも、海外との外国為替取引について説明する。日本から海外への資金の流れ、海外直接投資、ポートフォリオ投資(債権・株式)、銀行貸出の動きを見る。また、アジア地域とアメリカ・ヨーロッパとの間の資金の流れについて説明し、アジアの高い貯蓄を如何にアジア域内で循環させるか、さらに、日本の金融業が、アジアを含む海外で活発に活動できるための方策について説明する。 【キーワード】 グローバル化、日本から世界への資金の流れ、直接投資、ポートフォリオ投資、金融規制、アジア戦略	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)	吉野 直行 (慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639218	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代経済学 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 依田高典（京都大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【 本学担当専任教員： 高木保興（放送大学 教授）、坂井素思（放送大学 教授） 】

講義概要

現代の経済学の内容と歴史をアルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞（いわゆるノーベル経済学賞）の歴史を振り返る形で概観していく。ノーベル経済学賞は、1968年にスウェーデン国立銀行が設立300周年祝賀の一環として、ノーベル財団に働きかけ、設立された賞である。スウェーデン王立科学アカデミーにより選考され、ノーベル財団によって認定される。ノーベル経済学を振り返れば、現代の経済学の色々な顔が見えてくるはずである。

授業の目標

経済学の理論の細部には立ち入らず、ノーベル経済学賞受賞者の生い立ちと研究業績の現代社会的意義について、分かりやすく解説していきたい。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ノーベル経済学賞の誕生 －フリッシュとサミュエルソン－	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1969年 ラグナル・フリッシュ「経済過程の分析に対する動学的モデルの発展と応用を称えて」 1970年 ポール・サミュエルソン「静学的小および動学的経済理論の発展に対する業績と、経済学における分析水準の向上に対する積極的貢献を称えて」 【キーワード】 ノーベル経済学賞、理論経済学、数理経済学	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
2	現代ミクロ経済学の構築 －ヒックス、アロー－	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1972年 ジョン・ヒックス、ケネス・アロー「一般的経済均衡理論および厚生理論に対する先駆的貢献を称えて」 【キーワード】 一般均衡理論、厚生経済学、社会選択理論	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
3	社会経済学の射程 －ミューダー、ハイエク－	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1974年 グンナー・ミューダー、フリードリヒ・ハイエク「貨幣理論および経済変動理論に関する先駆的業績と、経済現象・社会現象・組織現象の相互依存関係に関する鋭い分析を称えて」 【キーワード】 社会経済学、開発経済学、制度経済学	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	アメリカ・ケインジアン の活躍 ークライン、トービンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1980年 ローレンス・クライン「景気変動・経済政策を分析する 上での経済的なモデル・手法の開発に対して」 1981年 ジェームズ・トービン「金融市場とその支出決定・雇 用・生産物・価格との関連性の分析を称えて」 【キーワード】 景気循環論、経済政策、ケインズ経済学	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
5	反ケインズ革命のの ろし ーフリードマン、ルーカ スー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1976年 ミルトン・フリードマン「消費分析・金融史・金融理論の 分野における業績と、安定化政策の複雑性の実証を称えて」 1995年 ロバート・ルーカス「合理的期待仮説の理論を発展、 応用し、1970年代以降の財政・金融政策などマクロ経済理論 に大きな影響を与えた事を称えて」 【キーワード】 マネタリズム、合理的期待形成学派、サプライサイド経済学	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
6	シカゴ学派の繁栄 ースティグラー、ベッ カーー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1982年 ジョージ・スティグラー「産業構造や市場の役割・規制 の原因と影響についての独創的な研究を称えて」 1992年 ゲーリー・ベッカー「非市場に於ける行動を含めた広 範にわたる人間の行動と相互作用へのミクロ経済学分析の応 用を称えて」 【キーワード】 産業組織論、人的資本理論、シカゴ学派	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
7	動学的マクロ経済学 の発展 ーソロー、プレスコッ トー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1987年 ロバート・ソロー「経済成長理論への貢献を称えて」 2004年 エドワード・プレスコット「動学的マクロ経済学への貢 献:経済政策における動学的不整合性の指摘と、リアルビジ ネスサイクル理論の開拓を称えて」 【キーワード】 経済成長論、景気循環論、リアルビジネスサイクル理論	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
8	金融経済学の革新 ーマーコヴィッツ、 ショールズー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1990年ハリー・マーコヴィッツ「資産形成の安全性を高めるた めの一般理論形成を称えて」 1997年マイロン・ショールズ「金融派生商品(デリバティブ) 価 格決定の新技术」に対して。オプション評価モデルであるブ ラック-ショールズ方程式の開発と理論的証明」 【キーワード】 ポートフォリオ理論、金融工学	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
9	国際経済学の精緻化 ーオリーン、マンデル ー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1977年ベルティル・オリーン「国際貿易に関する理論および資 本移動に関する理論を開拓した業績を称えて」 1999年 ロバート・マンデル「さまざまな通貨体制における金 融・財政政策(「マンデル・フレミング・モデル」)と、「最適通貨 圏」についての分析を称えて」 【キーワード】 国際経済学、貿易論	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)
10	市場と組織の経済学 ーコース、ウィリアム ソンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1991年 ロナルド・コース「制度上の構造と経済機能に於ける 取引コストと財産権の発見と明確化を称えて」 2009年オリヴァー・ウィリアムソン「経済的なガバナンスに関 する分析を称えて」 【キーワード】 取引費用経済学、制度経済学、組織経済学	依田高典(京 都大学大学 院教授)	依田高典(京 都大学大学 院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ゲームと情報の経済学 -ナッシュ、アカロフ-	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1994年ジョン・ナッシュ「非協力ゲームの均衡の分析に関する理論の開拓を称えて」 2001年ジョージ・アカロフ「情報の非対称性を伴った市場分析を称えて」 【キーワード】 ゲーム理論、ナッシュ均衡、情報経済学	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
12	行動経済学の流行 -サイモン、カーネマン-	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1978年 ハーバート・サイモン「経済組織内部での意思決定プロセスにおける先駆的な研究を称えて」 2002年ダニエル・カーネマン「行動経済学と実験経済学という新研究分野の開拓への貢献を称えて」 【キーワード】 限定合理性、行動経済学、プロスペクト理論	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
13	歴史と倫理の経済学 -ノース、セン-	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1993年ダグラス・ノース「経済理論と計量的手法によって経済史の研究を一新したことを称えて」 1998年 アマルティア・セン「所得分配の不平等にかかわる理論や、貧困と飢餓に関する研究についての貢献を称えて」 【キーワード】 経済史、経済倫理学	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
14	ノーベル賞経済学者の活躍 -スティグリッツ、クルーグマン-	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 2001年ジョセフ・E・スティグリッツ「情報の非対称性を伴った市場分析を称えて」 2008年 ポール・クルーグマン「貿易のパターンと経済活動の立地に関する分析の功績を称えて」 【キーワード】 情報非対称性、空間経済学、新貿易論	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)
15	ノーベル経済学賞の忘れもの -ハロッド、森嶋通夫-	長年、ノーベル賞候補に挙げられながら、授賞がかなわなかった、授賞に値する経済学者 ロイ・ハロッド「経済動学・経済成長論の創始を称えて」 森嶋通夫「広範な分野における数理経済学上の貢献を称えて」 【キーワード】 経済動学、経済成長論、数理経済学	依田高典(京都大学大学院教授)	依田高典(京都大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639137	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 労働経済 （'12）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松繁 寿和（大阪大学教授）〕

【本学担当専任教員：高木 保興（放送大学教授）】

※この科目は「労働経済（'08）」の一部改訂科目です。
改訂回は1, 5, 8, 9, 10, 11, 15回です。

講義概要

この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実には起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。

授業の目標

第一に、労働経済の基礎理論を理解し、労働問題に接近するための経済学的考え方を身につける。第二に、現実の問題に関する理解を深める。第三に、政府やエコノミストが唱える政策がどのような理論・実証的背景を持っているのかを理解する能力を身につける。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	労働力 [改訂]	労働力に関する用語や労働市場の状況を捉えるための指標を紹介する。また、指標は、生活のどのような側面を反映しているかを学ぶ。 【キーワード】 労働力、失業、非労働力化	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
2	賃金と労働供給	労働市場の分析は、労働供給の動きと労働需要の動きによって決定されることを理解する準備として、労働供給がどのように決定されるかを説明する。なかでも重要な要因である賃金と労働供給の関係を考える。 【キーワード】 労働供給曲線、余暇、名目賃金、実質賃金	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
3	賃金以外の要因と労働供給	勤労所得以外の所得の存在が、労働供給に与える影響を考える。例えば、宝くじに当たったような場合、労働者の働き方がどのように変化をするかを理論的に考える。 【キーワード】 非勤労所得、所得税	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
4	労働需要	企業が利潤をもとめて行動することにより、労働への需要がどのように導きだされるかを理論的に説明する。労働供給の議論と対比しながら、賃金と労働需要の関係を考える。 【キーワード】 生産関数、利潤最大化、労働需要曲線	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
5	労働時間 [改訂]	労働時間の決定に影響をおよぼす要因を、経済的要因と制度的要因の両方から探る。また、それぞれの要因によってどのようなことが労働市場で起きているのかを分析する。 【キーワード】 長時間労働、超過勤務手当、裁量労働	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
6	機械と労働	生産要素としての労働と資本、すなわち労働と機械設備との関係を取り上げる。最初に基礎的な理論を紹介し、その後、機械化がそれぞれの需要にどのような影響を与えるかを議論する。例えば、IT化がどのような労働者の需要を増加させているかなどを議論する。 【キーワード】 労働生産性、生産要素間の代替、資本と技能の補完	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
7	海外との競争	企業が世界規模での競争を余儀なくされていることに注目し、日本企業の海外移転がどのような影響を日本の労働市場に与えているかを検討する。また、たとえ企業が海外に移転しなくても、生産物の競争によって、間接的に海外の労働価格が国内の労働価格に影響をおよぼすことを説明する。 【キーワード】 グローバル化、海外移転、産業空洞化	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
8	若者と労働 [改訂]	若者の就労意識の変化や不安定な就労の恒常化などの問題を、労働経済学の視点から供給面での変化と需要面での変化に分けて整理し、どのような要因によってそれらが生じているかを検討する。 【キーワード】 ニート、フリーター、就職活動	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
9	女性と労働 I [改訂]	男女間に存在する経済格差に注目し、それがどのように生じるかを考える。また、最近増加している非正規雇用の問題を、特に女性就労の点から取り上げる。 【キーワード】 男女間格差、統計的差別、非正規化	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
10	女性と労働 II [改訂]	まず、結婚出産で仕事を辞め家庭に入るといった現象を紹介する。また、少子化がどのように進んできたのかを観察し、女性の労働力化との関係を探る。さらに、近年注目されている均等施策や両立支援策を紹介し、どのような効果が期待されているのかを議論する。 【キーワード】 M字カーブ、少子化、両立支援策	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
11	高齢者と労働 [改訂]	年功に経済合理的意味を与えた労働経済学の理論も紹介する。一方、そのような人事・処遇制度において生じる高齢者雇用の問題を取り上げる。 【キーワード】 年功、定年、年金	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	人事制度と労働意欲	まず、人事・処遇制度の中身を説明し、年功的賃金や昇進がどのように生じるかを説明する。また、労働意欲を向上させるための、報酬・処遇制度における工夫も紹介する。 【キーワード】 労働意欲、報酬、成果	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
13	中小企業、開・廃業	まず、日本における賃金の規模間格差を観察する。さらに、開業率や廃業率の推移をみることで、経済の新陳代謝の問題を考える。 【キーワード】 中小企業、開業、廃業	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
14	コーポレートガバナンスと労働組合	企業経営におけるさまざまなステークホルダーの存在をみることで、企業は一体誰のものであるかを考える。また、従業員の利益を守ってきた組合を取り上げ、その行動様式を理論的に説明するとともに、歴史的変遷と現在抱えている問題を議論する。 【キーワード】 コーポレートガバナンス、ステークホルダー、組合	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)
15	格差とセーフティーネット [改訂]	これまでに見てきた各テーマを格差の視点から捉え直すことで、格差が発生しているメカニズムを明らかにする。また、セーフティーネットに関する政策と、その影響を検討する。 【キーワード】 ジニ係数、格差拡大、機会の不平等、セーフティーネット	松繁寿和 (大阪大学・教授)	松繁寿和 (大阪大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成24年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639129	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 日本経済史 （' 1 2 ） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 宮本 又郎（大阪大学名誉教授） 〕

【本学担当専任教員： 高木 保興（放送大学教授） 】【

※この科目は「日本経済史('08)」の一部改訂科目です。
改訂回は1, 3, 13, 14, 15回です。

講義概要

江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。

授業の目標

全15回の講義を通じて、江戸初期以降今日までの約400年において、日本の経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような節目があったのか、そして、今日我々はどのような到達点に立っているのかについて、理解できるようになることを目標とします。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	日本の経済発展の長期的概観―世界との比較― ※改訂回	まず最初に、世界経済の歩みのなかでの日本経済の位置を明らかにすることを目的として、西暦1年～2001年における世界各国の人口、実質GDP(国内総生産)、1人当たりGDPの動きを観察します。次いで、有史以来の日本の人口動向とその地域分布を明らかにし、最後に19世紀末以降現代にいたる日本の近代経済成長の過程を概観します。 【キーワード】 世界経済2000年史、人口、実質GDP、1人当たりGDP、人口変動の4つの波、日本の近代経済成長、人口変動の4つの波、人口重心の移動	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)
2	江戸時代の経済と社会	歴史学上「近世」と呼ばれる江戸時代が、古代・中世と比べてどのような歴史的特質をもっていたかを解説します。次に、人口、耕地面積、石高、物価などの動きから、江戸時代の経済発展の過程を観察し、江戸時代は大きく3つの局面に分けられることを明らかにします。また、この経済発展の過程で、農村や都市でどのような変化が生じたのかを検討することにししましょう。 【キーワード】 近世、人口爆発、大開墾、貨幣経済、物価、経済成長、三都	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)
3	幕末開港・明治維新から近代経済成長へ ※改訂回	ペリー来航を契機に日本は開国し、開放経済体制へ移行しました。開港が日本経済にどのような影響を与えることになったのかを検討し、ついで明治維新期の諸変革について解説します。その後第一次世界大戦までの経済成長の要因、貿易の役割などについて論じます。 【キーワード】 日米修好通商条約、開港、貿易と諸産業への影響、廃藩置県、秩禄処分、地租改正、藩債整理、金融制度改革、殖産興業政策、近代経済成長、貿易の役割、日清・日露戦争	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	近代化の進展と伝統的要素	江戸時代以来の伝統的要素が近現代の日本経済にいか に継承され、変容していったのかを考察します。それは衣 食住などの個人消費や、企業経営のあり方などに大きな 影響をもたらし、日本の経済発展に個性を加えました。 【キーワード】工業化、在来産業、近代産業、農村工業、 織物業、醸造業、工芸品的工業	阿部 武司 (大阪大学大 学院教授)	阿部 武司 (大阪大学大 学院教授)
5	産業革命	1880年代後半に始まる「企業勃興」以降、日本経済は資 本主義的な企業が主導する経済発展を始めます。躍動 的な資本主義経済を支えたのは資本市場、金融市場、労 働市場といった市場制度と、効率的な生産組織でした。そ れらの形成と相互関係を検討します。 【キーワード】 製糸業、紡績業、鉄道業、制度の効率性、組織の効率 性、誘因の制御	中林 真幸 (東京大学社 会科学研究 所准教授)	中林 真幸 (東京大学社 会科学研究 所准教授)
6	戦間期における長期 不況とその克服	第1次大戦期から戦間期の日本の経済発展をマクロ的側 面から解明します。大戦中・後のバブル、その崩壊と長期 不況、そこからの回復という景気動向、それと深く関わる 政府の経済政策、長期不況下で顕在化した二重構造など が主なトピックです。 【キーワード】第1次大戦、長期不況、関東大震災、金融恐 慌、昭和恐慌、金解禁、井上準之助、高橋是清、二重構 造	阿部 武司 (大阪大学大 学院教授)	阿部 武司 (大阪大学大 学院教授)
7	戦間期の産業と企業	第1次大戦期から戦間期のミクロ経済の動向を考察しま す。まずこの時代の重化学工業化の状況を解説し、次い で大企業体制とはどのようなものだったのか、財閥はどの ような行動をとったのかを検討し、最後に電鉄・デパート・新 消費財などの都市型ビジネスの台頭について論じます。 【キーワード】 重化学工業化、大企業体制、財閥の多角化、新興コンツ エルン、都市型ビジネス、小林一三	宮本 又郎 (大阪大学名 誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名 誉教授)
8	経済発展の担い手ー 企業組織と企業家	まず会社制度、とくに株式会社制度が江戸時代から明治 時代において、どのようにして生まれ、展開したかを明ら かにします。次いで、明治期の株式会社の特質、企業統 治のあり方を検討し、最後に、財閥と株式制度との関係に ついて論じます。 【キーワード】共同企業、株式会社、合資会社、合名会 社、三井大元方、総有、所有と経営の分離、有限責任 制、商法、専門経営者	宮本 又郎 (大阪大学名 誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名 誉教授)
9	戦前日本の技術発展	明治期から昭和戦前期にいたる技術と労働のあり方につ いて、技術導入と自主開発の関係、技術教育の展開、技 術者の技能形成、間接的管理から直接的管理への移 行、労働運動の展開と協調的労使関係の形成などを中心 に検討します。 【キーワード】 高等工業学校、帝国大学、研究開発、国立研究所、試験 研究機関、間接的管理、直接的管理	沢井 実 (大阪大学大 学院教授)	沢井 実 (大阪大学大 学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	戦時統制経済と戦後改革	日中戦争期から高度成長前夜までの経済統制の時代＝「動員」と「復員」および市場経済への復帰の時代を対象にして、日本経済と日本企業はいかに変貌したのか、その際にアメリカ主導で遂行された戦後改革がどのような影響を与えたのかを考察します。 【キーワード】 戦時経済統制、戦時増産政策、戦後経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮戦争ブーム、産業合理化政策、企業合理化政策	沢井 実 (大阪大学大学院教授)	沢井 実 (大阪大学大学院教授)
11	高度経済成長	1950年代なかごろから70年代初頭にかけて、日本は世界に類例をみない高度経済成長を達成しました。本章では、まず高度成長の過程とその間におきた景気循環を年代記的に振り返ります。ついで、高度経済成長の要因を需要サイドと供給サイドの両面から検討します。最後に、高度成長の帰結について考察することにしめよう。 【キーワード】神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気、投資主導型成長、大衆消費社会、三種の神器、技術革新、エネルギー革命、成長のひずみ	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)	宮本 又郎 (大阪大学名誉教授)
12	技術革新と労働の変化	国公立試験研究機関、大学、民間企業によって構成されるナショナル・イノベーション・システムの変化、科学技術政策の展開と通産省・文部省・科学技術庁の役割、技術導入から自主開発への動き、戦後労働運動の変遷、技術革新と労働過程の変化などについて論じます。 【キーワード】 科学技術政策、工業技術院、科学技術庁、技術導入、共同研究、職務給、職能給、労働運動	沢井 実 (大阪大学大学院教授)	沢井 実 (大阪大学大学院教授)
13	世界経済の統合と日本経済※改訂回	1970年代以降、国際市場の統合が進むなか、製造業大企業は持続的な技術進歩によって輸出を拡大し、安定成長を牽引しました。1980年代までの成長を支えた企業統治と労働組織の構造と、1990-2000年代におけるその変化を分析するとともに、2010年代における展望を示します。 【キーワード】 日本的経営、長期雇用、内部労働市場、間接金融体制、産業政策、メインバンク	中林 真幸 (東京大学社会科学研究所准教授)	中林 真幸 (東京大学社会科学研究所准教授)
14	日本企業の成熟と金融制度改革※改訂回	1960年代、日本がまだ発展途上国であったときには、政府が計画的に資金を割り当てる産業政策は一定の役割を果たしました。しかし、1970年代以降、製造業大企業が著しく発展すると、金融制度もそれに合わせて自由化することが求められました。1980-1990年代における金融制度改革と、それが2000年代以降の日本経済に及ぼしている影響を分析します。 【キーワード】 バブル経済、橋本龍太郎内閣、金融ビッグバン、構造改革	中林 真幸 (東京大学社会科学研究所准教授)	中林 真幸 (東京大学社会科学研究所准教授)
15	日本経済のゆくえ※改訂回	はじめに、21世紀に入ってから日本経済の短期的な変動を振り返ります。次いで、エネルギー、地球環境、高齢社会など現在の日本経済が抱える課題について整理します。そして最後に、50年後の日本経済に思いを馳せ、ケインズが「わが孫たちの経済的可能性」を語ったように、未来へ向けての日本経済史を想像してみましよう。 【キーワード】 世界同時不況、エネルギー、地球環境、高齢社会、50年後の日本経済、人口動態、超国籍経済	林 敏彦 (大阪大学名誉教授)	林 敏彦 (大阪大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639153	履修制 限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 市民生活と裁判 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 来生 新 （放送大学副学長） 〕

〔主任講師（現職名）： 川島 清嘉 （川島法律事務所 弁護士） 〕

講義概要

本講義は、(法曹を志すのではない)一般市民を対象として、一般市民が広く遭遇する可能性のある代表的な紛争を取り上げて、紛争の発生からその解決に至るまでのプロセスを具体的に説明し、裁判の機能、裁判の基本構造、手続の特徴等についてわかりやすく解説する。

授業の目標

一般市民が広く遭遇する可能性のある代表的な紛争について、その予防や解決のために必要とされる基本的な法律知識を修得させて、受講者が実際に何らかの紛争に遭遇した場合に、その紛争を法的枠組みによる解決の土俵に乗せることができる能力を身につけさせることを目標とする。また、授業を通じて、紛争とは何か、法律とは何か、法律による紛争解決とは何か、裁判とは何か、実体的正義と手続的正義の区別、法的なものの考え方、日本社会の法的な特徴などについて、受講生の理解を深めることができれば望ましい。

履修上の留意点

必要は予備知識や他の科目の事前履修は不要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	市民生活と裁判への いざない	「市民生活と裁判」という授業が、何をねらいにして、どのような内容の授業を、誰が、どのように進めるかを説明します。また、それに合わせて、この授業の各章に共通の関心である「紛争とその解決」について、皆さんの理解を深めるための一般的な解説を施す。 【キーワード】 裁判員 訴訟法 市民生活 裁判 紛争解決 手続的正義 実体的正義 法曹三者 ADR(Alternative Dipute Resolution)	来生 新 (放送大学・副学 長)	来生 新 (放送大学・副学 長) 川島 清嘉 (川島 法律事務所・弁 護士) 徳江 義典 (徳江法律事務所・ 弁護士) 川島 志保 (川島法律事務所・ 弁護士) 岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金 法律事務所 ・弁 護士)
2	司法への市民の参加	一般市民が参加する制度として、新しくスタートした裁判員制度について、裁判の基本的仕組みを理解したうえで、裁判員制度の仕組みや裁判員が関与する内容などについて考察する。 【キーワード】裁判員制度 裁判員が参加する対象の事件 裁判員選任手続 裁判員の権限 裁判員の保護	徳江 義典 (徳江法律事務所・ 弁護士)	徳江 義典 (徳江法律事務所・ 弁護士)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
3	刑事事件に関する問題	刑事事件の被疑者及び被告人の立場から、刑事事件の手続の流れについて説明するとともに、弁護人の活動を説明する。 【キーワード】司法警察員 検察官 弁護人 被害者 勾留 接見 保釈 冒頭陳述 論告 弁論	徳江 義典 (徳江法律事務所・弁護士)	徳江 義典 (徳江法律事務所・弁護士)
4	家族間の紛争とその解決(その1) 離婚にかかわる問題	夫婦関係の解消に伴い、夫婦間、親子間における身分及び財産について、様々な法律問題が生じること、夫婦間の紛争が、どのように解決されているのか、法律の仕組みや家庭裁判所の役割について説明する。 【キーワード】婚姻費用 算定表 家庭裁判所 調停委員 家庭裁判所 調査官 調停前置主義 DV 子の奪い合い 離婚 親権 養育費 財産分与 慰謝料 調停 家事審判官 人事訴訟	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)
5	家族間の紛争とその解決(その2) DVと離婚訴訟	深刻なドメスティックバイオレンス(DV)の実態を統計資料を基に明らかにし、DV等が原因で夫婦が離婚にいたるケースの多くが離婚訴訟を経ることから、離婚訴訟について、その手続きや、訴訟の内容等について明らかにする。 【キーワード】DV モラル・ハラスメント DV防止法 保護命令 離婚理由 破綻主義 有責配偶者 証拠 財産分与 特有財産 年金分割	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)
6	家族間の紛争とその解決(3) 相続にかかわる問題	人が亡くなった場合、その人の財産がどのように引き継がれていくのかについて考える。 【キーワード】遺産分割 相続人 法定相続 非嫡出子の相続分 特別受益 寄与分 遺産分割協議 遺産分割調停 遺言 自筆証書遺言 公正証書遺言 検認	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)
7	家族の紛争とその解決(4) 高齢者を巡る紛争	高齢化に伴い判断能力が不十分になったお年寄りが、不必要なものを大量に買わされたり、家中のリフォームをしたり、投機性の高い株に投資したりする等の被害を受けることが後を絶たない。判断能力が不十分な人について、民法には、成年後見の規定がある。どのような制度なのか概観し、実際の事例についても検討する。 【キーワード】判断能力 成年後見制度 補助 保佐 後見 鑑定 高齢者虐待 財産管理 身上配慮義務 任意後見契約 任意後見監督人 代理権 同意権	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)	川島 志保 (川島法律事務所・弁護士)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
8	住まいに関する紛争とその解決	新築住宅の雨漏りに関する事例を素材として、契約書で合意した事項と新築住宅の品質に関する法律の定め(強行法規)との関係について検討した上で、法律上認められた権利を実現するための方法やプロセスについて理解する。 【キーワード】 売買 契約書 任意法規 強行法規 隠れた瑕疵(かし) 瑕疵担保(かしたんぽ) 責任 損害賠償 期間制限 一級建築士 宅地建物取引業者 証拠 訴訟 調停 支払督促 建築紛争審査会	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)
9	日常生活で生じる事故による紛争とその解決ー交通事故を例として	交通事故で重大な後遺障害が生じた被害者の事例を素材として、誰に対し、どのような内容の損害賠償請求ができるかを検討する。また、交通事故が原因で生じる損害について、これを補償するための保険の種類やその機能について理解する。 【キーワード】 自動車 交通事故 症状固定 後遺障害 後遺障害等級 高次脳機能障害 飲酒 少年 損害賠償 自動車損害賠償保障法(自賠法) 運行供用者 過失 過失割合 責任 無能力 人身事故 強制保険 自動車保険(任意保険) 賠償責任保険 対人賠償保険 人身傷害保険 支払限度額(保険金額) 訴訟 民事調停 交通事故紛争処理センター 通勤災害	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)
10	消費者倒産	クレジット・サラ金問題、住宅ローンの滞納による抵当権の実行などの市民を当事者とする金融取引から生じる問題について、紛争処理の方法について検討する。任意整理と法的整理の違い、法的整理の諸制度(自己破産、民事再生)、過払金の返還請求、ブラックリストの問題等についても説明の対象とする。 【キーワード】 強制執行 担保不動産の競売 所有権留保特約 預金債権 差押 倒産 任意整理 私的整理 清算型手続 再建型手続 破産 民事再生 任意整理 債権者平等の原則 清算価値補償原則 過払金 ブラックリスト	岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金法律事務所・弁護士)	岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金法律事務所・弁護士)
11	雇用をめぐる紛争とその解決	従業員が会社を解雇された事例を取り上げ、従業員と会社とが、それぞれの弁護士に相談をする場面を設定して、弁護士が依頼者に対して助言を行う場合のプロセスを紹介するとともに、各当事者が置かれた立場によって、物事の理解や判断に違いが生じることを理解する。新しく始まった裁判所の労働審判において、紛争がどのように解決されかの過程についても説明する。 【キーワード】 正社員 雇用契約 就業規則 懲戒処分 停職処分 人事異動 懲戒解雇 労働契約法 権利の濫用 労働審判 顧問弁護士 解決金 調停案	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
12	会社の支配を巡る紛争とその解決	老舗のイタリアンレストランの経営方針を巡る紛争を素材として、取締役会や株主総会などの仕組みと役割について学習し、会社の経営方針は、最終的には多数決による株主の意思により決定されることを理解する。 【キーワード】 株式会社 株式 定款 取締役 監査役 取締役会 新株株主総会 経営方針 出資者 フランチャイズ 弁護士倫理 利益相反 株主構成 発行済株式 議決権 取締役の解任 株主総会の招集 少数株主 過半数 3分の2 経営権 株主名簿 委任状争奪戦	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)
13	市民と行政の紛争とその解決	市民と行政(国または地方公共団体)との間で利益対立や紛争が生じ、その解決手段として、行政に対する不服の申立てや裁判が用いられることがあることを説明する。 【キーワード】 行政救済法 行政争訟 行政事件訴訟法 行政不服審査法 適法・違法 妥当(当)・不当 行政訴訟 主観訴訟 法律上の利益 客観訴訟 民衆訴訟 国家補償 国家賠償 損失補償 国家補償の谷間 苦情処理 オンブズマン	来生 新 (放送大学・副学長)	来生 新 (放送大学・副学長)
14	弁護士へのアクセス、法律扶助、過疎地における弁護士の実情	弁護士へのアクセス、法律扶助、過疎地における弁護士の活動などについて紹介し、市民が紛争解決のための手段として弁護士や司法の利用をしやすくするための取り組みが行われていることを紹介し、弁護士の利用方法について説明する。さらに、過疎地のひまわり事務所等で奮闘する弁護士の活躍ぶりを紹介する。 【キーワード】 司法アクセス 市民と司法との距離 司法制度改革 法律相談センター ひまわり基金法律事務所 弁護士偏在解消のための経済的支援 都市型公設事務所 法テラス(日本司法支援センター) 民事法律扶助 関係各機関との連携	岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金法律事務所・弁護士)	岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金法律事務所・弁護士)
15	市民生活と裁判の過去、現在、未来	過去14回のテーマを振り返り、この授業の目的について再度確認する。また、司法改革による弁護士数の急増や市民の司法への参加によって弁護士や裁判所の置かれた環境に変化が生じていることを説明した上で、弁護士の上手な利用法についても解説する。 【キーワード】 ひまわり基金法律事務所 法テラス(日本司法支援センター) 弁護士の広告 プロフェッション 弁護士人口 競争原理 法科大学院 弁護士報酬 司法制度改革審議会 国民の社会生活上の医師 利息制限法 事件の依頼 守秘義務 客観的な視点	川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士)	来生 新 (放送大学・副学長) 川島 清嘉 (川島法律事務所・弁護士) 徳江 義典 (徳江法律事務所・弁護士) 川島 志保 (川島法律事務所・弁護士) 岡本 吉平 (鴨川ひまわり基金法律事務所・弁護士)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1532405	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代の犯罪と刑罰 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：大越 義久（神奈川大学教授）〕

【担当専任教員：來生 新（放送大学教授）】

講義概要

本講義は、犯罪と刑罰の現実の姿を、【犯罪→捜査→起訴→裁判→判決→刑務所→出所】という一連のプロセスの下で明らかにした上で、我が国の刑事司法が抱える問題点を指摘し、それらに検討を加えようとするものである。多くの人が平成21年5月より導入された裁判員制度に大きな不安を抱いていると新聞報道されていたが、本講義がその不安を払拭するための一助になれば幸いである。

授業の目標

全15回の講義を通じて、我が国の刑事司法システムがどのようなものであり、どのように運用されているのか、を理解することを目標とする。我が国の刑事司法の問題点を批判的に検討できるようになることを最終の目標とする。

履修上の留意点

法律の条文は六法全書で確認し、可能であれば、検討の対象となっている判決に、判例集・判例時報・判例タイムズなどを紐解いて、直接あたってみることが、望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ガイダンス	犯罪の法的定義とその意義、罪刑法定主義の柱の一つである法律主義をめぐる問題、刑罰の定義と種類、刑事裁判はどのように進行するのか、という点について説明・検討する。 【キーワード】 罪刑法定主義、構成要件、該当性、違法性、有責性、残虐な刑罰の禁止、白地刑罰法規、罰則つき条例、刑事判決の確定、起訴前手続、公判手続	大越義久 (神奈川大学 教授)	大越義久 (神奈川大学 教授)
2	犯罪と刑罰の現状	捜査段階での処理件数・人員、地方裁判所の処理件数・人員、上級審での処理件数・人員、裁判確定人員を通じて、我が国の刑事司法システムにおける犯罪と刑罰の現実を確認する。 【キーワード】 認知件数、検挙件数、発生率、検挙率、処理人員	同上	同上
3	刑事手続の基礎	捜査の柱である「証拠の収集」と「犯人の身柄確保」を説明し、私的な「当番弁護士」と公的な「起訴前国選弁護」、「起訴」、平成17年11月から施行されている「公判前・期日間整理手続」、平成18年10月から施行されている「即決裁判手続」について説明・検討する。 【キーワード】 令状主義、職務質問、所持品検査、強制捜査、任意捜査、逮捕、勾留、起訴独占主義、起訴便宜主義、検察審査会、公判前、期日間整理手続、即決裁判手続	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	事実の認定	刑事裁判での事実認定をめぐる主要な問題は、「証拠能力」、「自白の補強法則」、「事実の縮認定」である。これらについて、判例分析をしたりして、説明・検討を加える。 【キーワード】 自白の任意性、伝聞法則、違法収集証拠、自由心証主義	大越義久 (神奈川大学 教授)	大越義久 (神奈川大学 教授)
5	刑法の解釈①	食器放尿事件、事務所ビラ貼り事件、ガソリンカー転覆事件、都教組事件、福岡県青少年保護育成条例違反事件の検討を通して、「拡張解釈」、「縮小解釈」について検討する。 【キーワード】 拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、合意限定解釈、実体的デュー・プロセスの理論	同上	同上
6	刑法の解釈②	公文書写真コピー事件、電気窃盗事件、車庫とばし事件、テレホンカード事件、熊本水俣病事件、梅田事件の検討を通して、「類推解釈」、「違法阻却事由についての解釈の歪み」、について検討する。 【キーワード】 類推解釈のいろいろ、類推解釈と立法的措置	同上	同上
7	刑法の解釈③	「窃盗罪」と「過失犯」の成立要件について、検討を加える。地方裁判所での処理件数で第1位を占めるのが窃盗罪であり、第2位につけるのが業務上過失致死傷罪であるからである。 【キーワード】 財物、占有、旧過失論、新過失論、予見可能性	同上	同上
8	死刑①	律令時代から現代にいたるまでの我が国における「死刑の歴史」と、現行法の死刑犯罪、死刑執行の手続、死刑の運用、死刑囚の実態など「死刑の現在」を説明する。 【キーワード】 死刑違憲論、死刑合憲論、死刑犯罪、死刑囚と無期囚、死刑の執行	同上	同上
9	死刑②	死刑存置論の根拠、死刑廃止論の根拠、死刑を刑罰とすることの意味、「死刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は法定の手続の保障に反しないか」、「死刑選択の基準は何か」を論じた最高裁判例に検討を加える。 【キーワード】 人道主義、威嚇力、応報感情、誤判の恐れ	同上	同上
10	死刑③	死刑と社会契約説は調和するのか、社会契約説を批判する死功利主義は死刑をどのように捉えるのか、刑罰を科学的に捉えようと試みた立場は死刑をどのように考えたのか、について説明する。 【キーワード】 社会契約説、ベッカリーア、ルソー、カント、ラードブルフ、コーエン、ベンサム、ロンブローゾ、フェリー	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	自由刑①	明治時代の刑罰体系の中で自由刑はどのように捉えられていたのか、処遇制度は明治以降から現在に至るまでどのような歩みを辿ってきたのか、自由刑の現在(実態)はどのようなものか、について説明する。 【キーワード】 旧刑法、監獄則図式、監獄法、刑事施設・受刑者処遇法、刑事施設・刑事被告人収容法、分類処遇、累進処遇	大越義久 (神奈川大学 教授)	大越義久 (神奈川大学 教授)
12	自由刑②	「無期懲役刑は残虐な刑罰か」、「禁錮刑は勤労の権利・義務に反するか」を問題にした最高裁判例に検討を加え、さらに現在の自由刑の課題をいくつか指摘する。 【キーワード】 無期懲役刑、禁錮刑、単一刑論、刑務所での作業、過剰収容、高齢受刑者の増加	同上	同上
13	刑罰の理論	犯罪者に刑罰を科すのは何のためか、我が国の再犯防止教育はどのようなものか、それは効果的か、犯罪防止対策はどのような観点から考えるべきか、について検討を加える。 【キーワード】 追放、隔離、矯正、再犯防止教育、改善指導、性犯罪者処遇プログラム、犯罪防止対策	同上	同上
14	現代社会の犯罪と刑罰①	少年法は近時3度改正されたが、その経緯、内容について検討を加え、犯罪を犯した精神障害者についての新たな処遇制度を規定する心神喪失者等医療観察法に検討を加える。 【キーワード】 少年院、児童自立支援施設、保安処分、精神障害犯罪者、措置入院	同上	同上
15	現代社会の犯罪と刑罰②	刑法の環境保護に果たす役割は何かについて検討し、迷走を続ける共謀罪の新設の経緯とその問題点を明らかにし、近時の刑事立法ラッシュの意味するものは何か、について検討を加える。 【キーワード】 環境保護、特別刑法、行政訴訟、行政的措置、国際犯罪防止条約、共謀罪、治安の悪化	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639234	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 民法 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）： 円谷峻（明治大学法科大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 来生新（放送大学副学長） 】【

講義概要

民法は、我々の日常生活に生じるさまざまな法的問題を規律する法律であり、財産法と家族法に大きく分けられる。本授業は、我々の生活においてとくに問題となる諸問題を取り上げて判りやすく論じることとする。なお、本授業では、財産法だけではなく、家族法についても論じることとする。とくに、結婚・離婚、相続は、契約や不法行為などの財産法上の問題と同様に我々のもとで生じ得る問題であり、民法という授業のもとで欠かすことができない問題だからである。本授業では、第1回～第13回で財産法について論じ、第14回、第15回で家族法について論じる。

授業の目標

本授業を通じて、民法のあらまし、概要を理解することが本授業の第一次的な目標である。また、民法の範囲はとても広いので、本講義で民法全体を詳しく説明することはできない。しかし、本授業によりここでは論じられなかった問題についても自ら考え、解決の道筋をつけられる法知識と法的素養を育成することを目標とする。これが第二の目標である。

履修上の留意点

現行民法典は、平成16年の現代語化による改正の結果、相当に読みやすくなっている。民法を理解するためには、条文を正しく把握することが必要である。そこで、前もって関連する民法典の条文を十分に読んでおいていただきたい。また、教科書（印刷教材）の注で文献を指摘するにあたっては、なるべく入手しやすいものを挙げるように配慮した。また、教科書で指摘した最高裁判決についても、受講者自らが入手して判決文を読んでみることを有益である。これらの判決については、最高裁判所ホームページから「裁判例情報」を通じてインターネットを活用することで入手可能である（無料）。これらの情報を積極的に取得して、民法の十分な理解と把握に努めてほしい。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	市民生活と民法	「市民生活と民法」というテーマのもとに、民法に関する全体像（民法とは何か、民法典の構成、基本原理など）を説明する。具体的には、1. 民法とは何か、2. 民法の法源、3. 民法典の構成と基本原理、4. 民法典を補充する特別法などについて論じる。 【キーワード】 民法の法源、財産法の基本原則、家族法の基本原則	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
2	権利の主体(民法の担い手)	民法の担い手を論じる。制限行為能力者制度、任意後見制度は、新たな制度であるが、その創設目的、現状と課題についてゲストスピーカーと対談方式で講義する。ここでの授業内容は、家族法の親族(親子)部分の説明をも兼ねている。また、法人、権利能力なき社団についても言及する。 【キーワード】 親権、成年被後見人、被保佐人、被補助人、任意後見制度	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)、[ゲスト・スピーカー] 本山敦(立命館大学教授)
3	法律行為	法律行為というテーマのもとで、主として契約(典型契約・非典型契約、有償契約・無償契約、双務契約・片務契約、諾成契約・要物契約など)、契約が公序良俗に違反する場合、錯誤などにより契約が無効である場合または取り消される場合について論じる。 【キーワード】 公序良俗違反、心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	代理による法律行為	「代理による法律行為」のテーマのもとで、法定代理、任意代理および無権代理を中心にして代理制度とその内容を論じる。まず、代理の要件と効果が論じられる。無権代理は、表見代理と狭義の無権代理に分けて論じられる。後者では、表見代理と無権代理の関係、無権代理人と相続の問題が取り上げられる。 【キーワード】 頭名主義、授權、表見代理、無権代理、無権代理と相続	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
5	取引の対象(民法上の権利)	「物」について説明し、そのうえで財産権を論じる。まず物権の効力とその種類を説明し、物権法定主義、例外的としての慣習法上の物権についても説明する。さらに、債権と物権との相違を明瞭にし、他の財産権として身分権、人格権にも言及する。 【キーワード】 土地の定着物、用益物権、担保物権、物権の絶対性、債権の相対性	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
6	物を占有、所有する権利	占有権、所有権を論じる。占有権では、占有訴権・即時取得を論じる。所有権では、とくに所有権の効力、相隣関係、区分所有権について論じる。また、わが国の物権変動を説明し、これに関連する背信的悪意者論、94条類推適用論についても説明する。 【キーワード】 占有訴権、相隣関係、区分所有権、物権変動、背信的悪意者	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
7	売買と法	市民生活に最重要な売買契約を取り上げ、まず、契約の拘束力と契約からの脱退を認める手付け制度のほか、専門家によるクーリング・オフ制度を説明してもらう。次に、売買契約当事者の権利義務を説明し、さらに、双務契約上の牽連関係という観点から危険負担、同時履行の抗弁権について論じる。 【キーワード】 手付け、クーリング・オフ、善管注意義務、債務者主義、債権者主義、危険負担、同時履行の抗弁権	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)[ゲスト・スピーカー] 枝窪歩夢(国民生活センター職員)
8	契約違反と救済	契約違反に対する法的救済に関し債務不履行責任と担保責任を論じる。債務不履行では、債務不履行の種類、債務不履行に対する救済を、担保責任については、契約解除・代金減額型と契約解除・損害賠償型の担保責任を論じる。また、債務不履行による契約解除について説明する。 【キーワード】 代物給付、修補請求、追完請求、損害賠償、解除の遡及効	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
9	不動産利用と法	市民生活にとって重要な借地、借家の法律関係を説明する。ここでは、民法上の規定(賃貸借、地上権)だけではなく、借地借家法の規律を理解することが必要である。放送では、同法については、ゲストスピーカーとともに制定の社会的背景や問題点について討論する。 【キーワード】 売買は賃貸借を破るの原則、地震売買、賃貸借、借地借家法	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)[ゲスト・スピーカー] 三林宏(明治大学教授)
10	担保	担保制度は物的担保と人的担保に大別される。物的担保に位置づけられる各種の担保制度を解説する。さらに、人的担保としての保証、連帯保証、共同保証、物上保証の内容を説明する。ゲスト・スピーカーを招き、わが国の担保制度の特色、最近の担保事情について検討する。 【キーワード】 法定担保物権、約定担保物権、人的担保、非典型担保	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)[ゲスト・スピーカー] 三林宏(明治大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	時効による権利取得・権利行使の制限	時効制度とは、社会の一般的常識から法の常識が食い違ってもいえる制度である。そのために、時効制度の存在理由や時効援用の意味をよく理解しなければならない(時効と実態的権利、時効援用権者の範囲等)。時効には取得時効と消滅時効があるが、その具体的内容を説明する。さらに、消滅時効と類似の除斥期間の相違について論じる。 【キーワード】 時効制度の存在理由、時効援用権者、時効中断、時効援用と権利濫用・信義則、除斥期間	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
12	不法行為	709条に基づく損害賠償請求訴訟を想定して、一般的不法行為法を説明する。被害者側の主張立証すべき事項、損害賠償請求の方式、損害賠償の算定、損害賠償支払いの方式について説明する。また、損害賠償請求権の相続、損益相殺・過失相殺、差止請求についても説明する。 【キーワード】 違法性、包括請求、一律請求、損益相殺、過失相殺	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
13	特殊不法行為と特別法における不法行為責任	特殊不法行為責任を説明する(責任無能力者の監督義務者の責任、使用者責任、土地の工作物責任、動物の占有者等の責任、共同不法行為の責任)。また特別法における不法行為責任として、自動車損害賠償保障法、製造物責任法等の責任を論じる。 【キーワード】 特殊不法行為責任、報償責任主義、危険責任主義	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)
14	家族と法	「家族と法」というテーマのもとに、婚姻、離婚について論じる。この領域では、離婚(裁判上の離婚、調停離婚、協議離婚)に関する現状と課題、財産分与の実態、離婚後に父母のどちらが親権者・監護者になるか、面接交渉等について実態の把握が重要である。そこで、これらの点についてゲスト・スピーカーとの対談という方式で講義する。 【キーワード】 裁判上の離婚、調停離婚、協議離婚、監護権者、面会交渉	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)、[ゲスト・スピーカー] 本山敦(立命館大学教授)
15	相続と法	「相続と法」というテーマのもとに、相続に関する諸問題(たとえば、事実婚の場合の相続問題、特別受益、寄与分など)、遺言(自筆証書遺言、公正証書遺言など)、遺留分に関して論じる。わが国における相続法の課題については、ゲスト・スピーカーによる補足説明をしてもらう。 【キーワード】 相続財産、法定相続、遺言、遺留分	円谷峻(明治大学法科大学院教授)	円谷峻(明治大学法科大学院教授)、[ゲスト・スピーカー] 本山敦(立命館大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639161	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 行政法 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：磯部 力（國學院大學法科大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：來生 新（放送大学副学長）】

講義概要

行政法は、六法科目と異なり中心となる法典が無いこともあって、その全体像をイメージしにくいといわれることがあります。この講義では、警察、公害環境、福祉、公共事業など多種多様な現代行政作用の法制度を個別に説明するのではなく、それら諸制度に横断的に共通する一般的な行政法のしくみとして、行政立法、行政処分、行政強制、行政指導などの行政作用類型を体系的に概観するとともに、それら行政活動の適正手続的な統制、ならびに行政活動を対象とする行政事件訴訟や国家賠償訴訟など、裁判的統制のしくみを解説します。

授業の目標

この授業では、現代の行政の多様な各領域について各論的な知識を得ることよりも、それらの領域を横断して「あらゆる行政に共通の基本的なしくみ」をひとつおり理解できるようになることが主眼となります。それによって、市民の日常の生活条件がいかに関行政に依存しているかが正確に認識されるとともに、行政を的確に法によって規律することの重要性が理解されることになるでしょう。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	行政法の世界	行政法とは、どんな法分野なのか、イメージがつかみにくいと言われがちな行政法ですが、まずは我々の身近なところに行政法的な法現象が、いかに沢山含まれているかということに気づくことから始めて、現代社会における行政法の重要性と、さらにその基本的な特性について考えてみます。 【キーワード】 公共性、公益性、公共サービス、公権力、公法	磯部力	磯部力
2	行政を規律する基本的な法原理	「行政は法律によって行われなければならない」という行政法の基本原理の意義とその具体的な機能の仕方について、法原理的な視点から考察を加えます。また法治主義、法律による行政の原理、法律の留保に関する考え方のほか、行政を規律する法の一般原則についても学びます。 【キーワード】 法治主義、法律による行政の原理、法の一般原則	磯部力	磯部力
3	行政活動の主体－行政組織法概説	行政法は「行政の組織と活動」を規律する法にほかなりませんが、まずは、行政活動を行う主体である国や地方公共団体の「行政組織」について、基礎的なしくみを説明します。また特に地方公共団体については「地方自治・地方分権」の意義についての理解が必須です。 【キーワード】 行政主体、行政機関、行政庁、国家行政組織法、地方自治法、分権改革	磯部力	磯部力

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	行政活動の諸形態; 行政立法	現代行政は、命令・強制という権力的手法を用いる場合もあれば、指導や契約などのソフトな手法を用いる場合もあります。多種多様な行政の類型と手法を、概観した上で、まず行政が法律の委任を受けて政省令などを制定する行政立法について、その必要性や限界などについて学びます。 【キーワード】 権力的行為と非権力的行為、法行為と事実行為、委任立法、法規命令、行政規則、意見公募手続	磯部力	磯部力
5	行政処分	行政処分とは、運転免許や営業許可、課税処分や年金の支給決定など、法律の執行として、市民の権利や義務に直接関わる個別具体的な法的効果を発生させる行政の決定のことを指します。行政作用法の中心になる概念であり、その法的な特質、効力、類型、違法な行政処分の取り扱いなどについて正確に理解することが課題となります。 【キーワード】 行政処分、行政処分の効力、行政処分の瑕疵、無効と取消、取消と撤回	磯部力	磯部力
6	行政契約;行政指導	行政契約、行政指導などの非権力的な手法は、相手方の同意を獲得しながら行政目的を実現していこうとするソフトな手法であるということが出来ます。前半で「行政契約」の概念や特徴について検討し、後半では「行政指導」について、定義や類型、行政指導の効用と問題点、さらにはその限界について学びます。 【キーワード】 行政上の契約、公害防止協定、行政指導、助言・勧告、任意性の原則	磯部力	磯部力
7	行政上の実効性確保	租税の滞納、公共物の不法占拠、違反建築など、法律や行政処分によって課せられた義務が自発的に履行されない場合には、行政代執行のような強制手段が用いられることもあります。これら各種の行政上の義務履行確保を通じて、行政の実効性を確保する手段について勉強します。 【キーワード】 行政上の強制執行、行政代執行、強制徴収、行政サービスの提供拒否	磯部力	磯部力
8	行政罰、即時強制・ 行政調査、行政計画	ここまでの講義では取り扱うことのできなかったその他の行政手段として、行政上の義務違反行為に対する制裁としての「行政罰」、行政が直接に実力を行使して行政目的を達成する手法である「即時強制ならびに行政調査」、さらに都市計画など多様な「行政計画」の問題について、その主要な論点を学びます。 【キーワード】 行政刑罰、秩序罰、即時強制、行政調査、行政計画	磯部力	磯部力
9	行政手続法	行政を手続的な側面から規律することは現代法治主義の中心的な課題にほかなりません。適正な事前手続の基本理念について考察するとともに、行政の裁量的な判断過程を公正でかつ透明なものにするために行政手続法に規定されている裁量基準の公表、理由付記、聴聞手続などについて学びます。 【キーワード】 行政手続法、適正手続、住民参加、裁量基準、理由提示、聴聞	磯部力	磯部力
10	情報公開・個人情報 保護	行政情報の適正な管理に関する法制度として、行政が保有する情報の原則的な開示を通じて、行政の透明性を確保し行政の監視をする情報公開制度、ならびに国民が行政の保有する自己情報の開示や訂正を請求する手続を整備するしくみである個人情報保護制度について学びます。 【キーワード】 情報公開、説明責任、個人情報、不開示情報、プライバシー、訂正請求権	磯部力	磯部力

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	行政不服審査と行政 事件訴訟	行政活動に不服を持つ市民が、訴訟よりも簡易迅速に、救済を求め行政の適法性を確保することを可能にする制度である行政不服審査制度と、行政事件訴訟の基本理念、現行法にいたるまでの制度的変遷のほか、同法に定める基本的な訴訟類型など、行政事件訴訟法制の基本的なしくみについて学びます。 【キーワード】 行政不服審査、審査請求、異議申立て、行政事件訴訟、抗告訴訟、主観訴訟、客観訴訟	磯部力	磯部力
12	取消訴訟	各種の行政訴訟の中で最も中心的な位置を占める抗告訴訟である取消訴訟について、その意義、訴訟の対象、原告適格などの訴訟要件、審理、判決の効力、執行停止など、主要な論点に関して、それぞれ典型的な訴訟事例を扱いながら、具体的に検討します。 【キーワード】 抗告訴訟、取消訴訟、執行停止制度、仮の救済、判決の効力	磯部力	磯部力
13	取消訴訟以外の行政 事件訴訟	まず取消訴訟以外の抗告訴訟である無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟の4類型について、その特質や役割について検討し、さらに抗告訴訟以外の訴訟類型とである公法上の当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟について、その特徴を解説します。 【キーワード】 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟	磯部力	磯部力
14	国家補償法(その1)	何らかの行政活動が原因となって国民の側に損害が生じた場合、その行政活動が違法な場合には国家の不法行為として国家賠償責任が問われることになります。まず国家賠償法の基本的な構造を理解した上で、特に公権力行使にともなう責任に関する基本的な論点を検討します。 【キーワード】 国家補償法、国家賠償法、公権力の行使、公務員の責任、職務行為、違法性	磯部力	磯部力
15	国家補償法(その2)	道路や河川など公共的な施設が安全性を欠いていたために生じる事故の国家賠償責任につき、判例法を中心に略説します。また公共事業用地を強制収用する場合などに公益と私益を調整するしくみとしての損失補償法について学び、最後に国家賠償とも損失補償ともいいきれない国家補償の第三の類型について、検討します。 【キーワード】 営造物責任、設置管理の瑕疵、土地収用、公用制限、損失補償、結果責任	磯部力	磯部力

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639242	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代環境法の諸相 （'13）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：北村喜宣（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：原島良成（熊本大学准教授）〕

【本学担当専任教員：来生新（放送大学副学長）】

※この科目は「現代環境法の諸相('09)」の一部改訂科目です。
改訂回は第1, 2, 4, 5, 9, 15回です。

講義概要

本講義では、廃棄物問題を始めとする日本国内の身近なトピックを複数取り上げて、汚染者、近隣住民、政府、裁判所といった各アクターの「果たすべき役割」という観点から、現代環境法の姿を複眼的に浮かび上がらせる。具体的には、廃棄物処理法等個別の環境実体法のほか、環境リスクの探知と管理（環境計画法、PRTR法、環境影響評価法）、行政的な義務付けとエンフォース（行政手続法、行政強制法）、司法的な義務付けとエンフォース（民事訴訟・執行法、行政訴訟法）を中心に、ケースを挙げて解説を加え、環境税制や景観保護といった最新の環境政策課題も含めて、今後の議論の方向を展望する。

授業の目標

20世紀後半、激甚公害の発生で一躍脚光を浴びることとなった環境法は、今日、一つの転換点を迎えている。気候変動のような複雑なメカニズムによる大規模な環境影響への対応を迫られるようになり、また、化学物質への微量・長期・複合暴露によるリスク評価のように、相当程度の不確実性を織り込んだ判断が求められるようになった。単純に環境破壊行為を取り締まる規制法システムでは、現代的環境問題の解決は望み難く、様々な経済活動に伴う環境影響を評価し汚染リスクを緩和する仕組み、すなわち「環境法政策」の発想が必要である。本講義では、現行法令の表面的理解にとどまらず、具体の法政策の策定・実施過程も視野に入れた、現代環境法の諸相への習熟を目指す。

履修上の留意点

放送教材と印刷教材とは、それぞれのメディア特性に配慮して内容を関連付けながら構成されているので、両教材で学習すれば効果的である（第1～2回、第3～5回、第6～8回、第9～12回という大きな内容的区分があり、それぞれ、第1～2章、第3～5章、第6～8章、第9～12章と対応している。第10回のみ、第11章前半を先取りしているのに注意されたい）。ただし、印刷教材で学習することが放送教材の予習になるかという点、そのようなことを意識して構成・制作・執筆されているわけではない。上述の内容的区分にしたがって放送教材を視聴した後に印刷教材を読むと、テキストの内容をイメージしやすいであろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	環境問題発生 のメカニズムと法 【改訂回】	環境法は、実定法の科目である。ただ、体系らしきものがない。法律ばかり多い。その法律も、技術性の程度が高い。これまでの法律学習においては、こうした法律を対象にすることは少なかったために、いきなり環境実定法にふれると、理解にとまどうことがある。環境法とはどのようなもので、どのような特徴があるのだろうか。 【キーワード】 環境法の存在意義、環境法の存在形態、環境法の動態把握	北村喜宣(上 智大学教授)	北村喜宣(上 智大学教授) 原島良成(熊 本大学准教 授)
2	環境法が生まれる 【改訂回】	環境法というのは、私たちが自由を満喫する過程で貴重な自然や風景が失われてしまうといった問題に直面し、持続可能な発展、また社会的に望ましい状態の実現に向けて悩む中で、生まれてくる。それは法律という形をとることもあれば、裁判や、あるいは難解な正義論の中に現れることもある。法はいかにして環境影響をコントロールしうるのか。民事訴訟や行政の仕組みを概観する。 【キーワード】 自然環境、人工環境、民事訴訟、行政法システム	北村喜宣(上 智大学教授)	北村喜宣(上 智大学教授) 原島良成(熊 本大学准教 授)
3	環境法政策～政府の 役割(1)	環境法政策は、環境に関する責任を、法律や条例として制度化している。その目指すところは、当初は経済発展を阻害しない限りでの環境保護であったが、やがて、持続可能な発展を目指す国際的潮流が意識されるようになり、また、環境権の議論と裁判の蓄積は、公益としての環境を保護する必要性を、強く印象付けることとなった。現代環境法の目標、責任の制度化の方向を解説する。 【キーワード】 持続可能な発展、環境公益の実現、PPP(汚染者支払原則)、EPR(拡大生産者責任)	北村喜宣(上 智大学教授)	北村喜宣(上 智大学教授) 原島良成(熊 本大学准教 授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	環境法政策～政府の 役割(2) 【改訂回】	環境法政策を眺めるとき、そもそも対応しなければならない課題の性質が、公害国会の時代と持続可能な発展を追求する現代とでは、変わってきている。より複雑な因果関係による、不確実な環境被害を想定しなければならない。環境法政策は、環境リスクを管理する、という現代の困難にどう対処しているのか。またそうした法政策は、いかんして形成され、実施されているのか。 【キーワード】 未然防止的／予防的アプローチ、環境リスク、環境比例原則	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
5	環境法政策～政府の 役割(3) 【改訂回】	環境法政策の形成と実施を担当する組織に注目し、環境保護のどの部分を中央政府が担い地方政府が担うのか、また市民参画はどうあるべきかという、環境ガバナンスの大きな枠組に焦点を当てる。環境法政策概観の締めくくりとして、環境法がどういう仕組みでその目的を達成しようとしているのか、人の意思決定へのアプローチを、具体例に即して分類・整理する。 【キーワード】 地方分権、環境ガバナンス、市民参画	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
6	法は環境を守れるか ～市民の役割(1)	環境汚染を通じてある人の健康が損なわれる、財産が失われるといったことを、正義・不正義の問題として捉え、裁判をつうじてその救済を図る法理論はないのか。環境法の理論は、「法政策」に関する理論と、法的に保護されるべき利益を析出しその救済を可能にする「法解釈」の理論と、両方相まって完成されるものと言える。今回から3回、訴訟の仕組みと現実の裁判例に注目する。 【キーワード】 不法行為責任、受忍限度、疫学的因果関係	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
7	法は環境を守れるか ～市民の役割(2)	環境利益は個人的利益に集約されない側面がある。そこで、環境訴訟における「被害者救済」にとどまらない裁判の機能を俯瞰する。環境民事訴訟において発展してきた共同不法行為理論を取り上げ、民事訴訟による環境保護の可能性と困難性について考える。すると、環境行政訴訟の存在意義が浮かび上がってくる。 【キーワード】 関連共同性、違法性段階説、抽象的差止請求、原告適格、行政裁量	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
8	法は環境を守れるか ～市民の役割(3)	裁判外の紛争処理制度について、解説する。訴訟に比べ利用者の負担が軽いなどの利点があり、その実態に注目してみたい。最後に、実体法解釈・訴訟法論の締めくくりとして重要な環境法判例を取り上げ、これまでに見てきた議論がどのように現実の環境紛争において立ち現れるのか、確認する。 【キーワード】 ADR、公害紛争処理制度、公害健康被害補償制度	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
9	環境法システムを設計する(1) 【改訂回】	環境法システム設計の要点は、①目的、②規制対象、③規制内容、④規制手法である。それぞれの内容を具体的に理解することで、既存の環境法を分析するだけでなく新たに設計する力を身につけたい。法制度の目的設定、規制対象設定について概説した上で、規制内容としての基準設定のあり方を解説する。 【キーワード】 環境規制の法的アプローチ、環境基準、規制基準	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
10	環境法システムを設計する(2)	規制というのは、国民の権利や自由に制限を課すものであるから、国会が制定する法律という形式、あるいは、地方議会が制定する条例という形式において、根拠づけられなければならない。では、環境規制を法律や条例として書き起こすとしたら、どのような内容の文書にしたらよいだろうか。義務付けの手法に注目する。 【キーワード】 届出制、許可制、誘導的手法、合意的手法	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	環境法システムを設計する(3)	前回の続きで、規制の手法について解説する。的確な環境行政実施のためには、情報の収集が不可欠である。そのような情報収集の仕組みも、法政策に組み込まなければならない。そのほか、環境汚染・破壊を回復するための事業や基金の制度化、環境保護のため誰かに特別の犠牲を負わせる際の損失補償の仕組みも、必要となる。 【キーワード】 報告徴収、立入検査、指定法人、損失補償、受益者負担／原因者負担	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
12	環境法システムを設計する(4)	規制の最終局面、義務履行確保の手法について解説する。環境法規制についても、他の規制と同様、刑事罰を背景とした履行確保が中心となるが、そのほかに、許可取消や制裁的公表といった仕組みも、用いられている。さらに、市民参画も、義務履行確保において重要な意味を持つようになってきている。 【キーワード】 命令前置制／直罰制、行政罰、制裁的公表、権限発動促進制度	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
13	環境法の実施主体と活動の実際(1)	環境管理は、国、自治体、事業者、市民がそれぞれの役割を適切に果たすことで実現される。義務付けられる事業者のみの問題としてではなく、規制を運用する行政組織やその執行の実際にまで目を配って環境法を捉えなおすことは、より良い環境法システムの設計につながるであろう。まずは、環境法過程における各主体の位置づけを再確認する。 【キーワード】 自治体の事務、法律に基づく権限、環境コンプライアンス、環境行政手続法制	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
14	環境法の実施主体と活動の実際(2)	法律や条例に環境保護の仕組みを書き込んだとしても、それがどのようにエンフォース(enforce: 執行、強制)されるかは、また別の問題である。水質汚濁防止法、廃棄物処理法等、環境法の執行実態から、生きた環境法の姿に迫り、あるべき環境法システムの姿を展望する。特に、青森岩手県境産廃不法投棄事件を素材として、廃棄物処理法の執行過程を詳しく取り上げる。 【キーワード】 廃棄物の定義、不法投棄と行政代執行、産業廃棄物税、監視体制	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)
15	現代日本の環境法～その特徴と課題【改訂回】	外国の環境法と比較して、日本環境法は、強制的アプローチが中心となっている。また、行政裁量が広く、行政のエラーに対する手当てが乏しい。より良い環境法システムを構築するためには、こうした現代日本の環境法の特徴を実証的に明らかにする作業が必要となる。補論的に、日本環境法の特徴を指摘しその改善策を展望することで、本講義の総括とする。 【キーワード】 規制コストへの無配慮、行政無謬論、広範な行政裁量、財産権尊重の過剰、国と自治体の役割分担問題	北村喜宣(上智大学教授)	北村喜宣(上智大学教授) 原島良成(熊本大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639056	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 企業・消費者・政府と法 （'11）＝ （R）
－消費生活と法－

〔主任講師（現職名）： 来生新（放送大学副学長） 〕

〔主任講師（現職名）： 山本裕子（大東文化大学教授 法学部） 〕

講義概要

横浜に住む還暦を過ぎた夫婦が、日常生活で経験するさまざまな消費体験を、法律学の視点から整理する。それを、これまで法律学を本格的に学んだことのない聴講生にも興味を持ってもらえるように、平易に解説する作業を通じて、「企業」、「消費者」、「政府」という現代の消費生活=社会生活の主要なステイク・ホルダーが、それぞれどのような性格のもので、その相互関係がいかなるもので、今後どのようにその関係を築いていくべきかを法律学の立場から考える。伝統的な法律学の分野でいえば、経済法、商法、行政法の領域にかかわる諸現象を、歴史的な視点を含めて総合的に取り扱う。

授業の目標

団塊の世代に属し、現役を引退しつつある夫婦が、日常の消費生活で経験するさまざまな出来事を具体的な素材とし、聴講生に消費生活をめぐる法知識を身につけてもらうことが第一の目標である。第二の目標は、この講義を通じて、法律あるいは法的なものの見方・考え方について理解を深めてもらうことである。この講義の最後の目標は、21世紀の中葉に向けて、企業と消費者と政府のあるべき関係について考察することである。

履修上の留意点

法的な知識を持つことを要求はしない。法律学の初心者が理解できる平易な解説を心がけるつもりである。しかし、取り扱う対象が消費にかかわる経済活動であり、それを分析する手法が伝統的な法律学で築かれた方法であるので、履修者は過去から今日に至る日本社会の経済問題、消費者問題に基本的な関心を有し、ねばり強く、なじみのない法的な概念・考え方を習得しようとする意欲を持つことが重要である。取り扱う問題それ自体は、非常に複雑な政策選択や、高度な研究の対象となる問題であることを十分に認識されたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	谷原潤太郎さんの朝	谷原潤太郎さんが朝5時に起きて10時に職場に出かけるまでに、何をどのような消費しているのか、それらの日常の消費生活を法的なメガネをかけてみると、どのような世界が見えるのかを示す。 【キーワード】 新聞、電気、インターネット、自動販売機、ミネラルウォーター、電話、水道、ガス、テレビの視聴、下水道、化粧品、バス、電車	来生新(放送大学・副学長)	来生・山本
2	朝の法律学:さまざまな現象を法で見る枠組み	事実の世界を法律のメガネを通してみるために必要な、基本的な概念がどのようなものかについて解説する。 【キーワード】 事実行為、法律行為、人(自然人)、法人、政府、合意と強制	来生新(放送大学・副学長) 山本裕子(大東文化大学・教授)	来生・山本
3	企業を法で見る	組織に法的な人格を与えることがなぜ行われたのか、その効果がどのようなものであるのか、歴史的な背景を踏まえて企業(法人)を法的に理解し、企業と国家の関係についての基本認識を得る。 【キーワード】 株式会社、持分会社、合名会社、合資会社、合同会社、定款、機関、所有と経営の分離、機関設計自由の原則	山本裕子(大東文化大学・教授)	来生・山本

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	消費者を法で見る	なぜ法が「人」と区別して「消費者」という範疇を設けるのか。現代の売り手の多くを占める企業と消費者のどのような違いが、人と人の取引を律する民法の原理の修正を求めるのか、そしてその内容がどのようなものかの基本的認識を得る。 【キーワード】 消費者、約款、情報の非対称性、消費者の権利、消費者の保護と自立、消費者基本法、消費契約法	來生新(放送大学・副学長) 山本裕子(大東文化大学・教授)	來生・山本
5	市場と政府を法で見る	今日の社会における政府の役割を歴史的視点で整理し、法律学的に政府とはどのように規定されるのか、その経済的な役割が何で、企業や消費者とどうかかわるかを見る。 【キーワード】 市民革命、市場の失敗、政府の失敗、三権分立の法制度、法律による行政、競争政策、産業政策、セーフティネット	來生新(放送大学・副学長)	來生
6	谷原浩子さんの昼と夜	谷原潤太郎さんの奥さんの浩子さんが、主婦として日常的に経験するさまざまな消費にかかわる事象の中から、訪問販売、催眠商法への法的対応、スーパーや百貨店の店舗規制、食品衛生法の規制などに着目し、以後の各章の具体の議論を導入する。 【キーワード】 訪問販売、キャッチセール、催眠商法、訪問販売、等特定商取引法、大店法、食品衛生法	來生新(放送大学・副学長)	來生
7	昼の法律学:市場への政府の介入と消費者(1)―政府の強い介入のある市場	政府の直営事業、公益事業規制と呼ばれた分野での法制度はこの20年間で最も激しく変化した分野である。なぜ政府とこのような産業が深くかかわるのか、歴史的視点で分析し、消費者とのかかわりで、今後のあり方について論ずるための基本的な認識を示す。 【キーワード】 政府直営、公益事業、規制緩和、民営化	來生新(放送大学・副学長)	來生
8	市場への政府の介入と消費者(2)―身体的安全と消費者	食品衛生、薬、医薬部外品、化粧品の法的な違い、なぜ薬に強い規制がかかるのか、薬屋と病院の法的規制と競争の実態等を検討し、消費者の生命・健康に直結する商品、サービスに対する法の現状、医療に関する社会保障の充実とコスト負担のあり方等を分析する。 【キーワード】 薬事法、医療法、距離制限、情報の非対称性、明白性の基準、勧告、参入制限	來生新(放送大学・副学長)	來生
9	市場への政府の介入と消費者(3)―経済的安全と消費者	銀行や保険に対する政府の介入、金融機関の競争と消費者の保護、セーフティネットなどについて論ずる。 【キーワード】 決済システム、護送船団方式、参入規制、事業免許、価格規制、金融ビッグバン、セーフティーネット、ペイオフ、モラルハザード	山本裕子(大東文化大学・教授)	山本
10	市場への政府の介入と消費者(4)―小売業と消費者	スーパーや百貨店の大規模な商業施設での営業と、魚屋や飲食店といったいわゆる警察許可の対象となるような営業とを対照させて、競争と競争者の保護、その展開の歴史的把握を通じて、規制緩和や消費者保護のあるべき姿を考える。 【キーワード】 大店法、食品衛生法、警察規制、規制緩和、社会的規制、消費者の利益、競争者の保護、ブランド間競争、ブランド内競争、流通系列化	來生新(放送大学・副学長)	來生

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	市場への政府の介入と消費者(5)—悪質商法規制と消費者	訪問販売、ねずみ講、キャッチセール、催眠商法といった各種の悪徳商法の歴史、それに対する規制の展開の歴史を振り返り、現行法の問題点、消費者保護のあるべき姿、消費者教育の重要性を考える。 【キーワード】 特定商取引法、訪問販売、過量販売、特定継続的役務提供、連鎖販売取引、役務提供誘引販売、クーリング・オフ、割賦販売法、クレジット、抗弁の接続	山本裕子(大東文化大学・教授)	山本
12	夜の法律学—独禁法・競争法と消費者(1)	独占禁止法の概要と競争による消費者利益の確保の問題を論ずる。 【キーワード】 独禁法、不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、課徴金、差止、損害賠償、公正取引委員会	來生新(放送大学・副学長)	來生・山本
13	独禁法・競争法と消費者(2)	独占禁止法と消費者にかかわる審決・判例の代表的なものを紹介して、法の運用の現実を理解する。 【キーワード】 不当廉売、再販売価格維持行為、抱合せ、民事的救済、消費者による損害賠償請求	山本裕子(大東文化大学・教授)	來生・山本
14	企業対企業・消費者	企業から見た競争と消費者対応の問題を、独禁法や不正競争防止法、知的財産権の保護、競争の国際化に伴う消費者対応の問題といった観点から分析する。 【キーワード】 カルテル、流通系列化、支配従属関係、資本的結合、合併、不正競争防止法、知的財産権、ダンピング、フェアトレード	山本裕子(大東文化大学・教授)	來生・山本
15	企業・消費者・政府と明日の日本	前章の議論を受けて、現代のわが国における企業、消費者、政府のそれぞれが抱える課題を明らかにし、21世紀の中葉に向けてその解決の方向がいかなるものであり、政府と企業と消費者が今後どのような関係を形成すべきかを論ずる。 【キーワード】 政府の実定法的構造 消費者主権 個としての消費者 集団としての消費者	來生新(放送大学・副学長) 山本裕子(大東文化大学・教授)	來生・山本

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639307	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 国際法 （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [International Law ('14)]

〔主任講師（現職名）：柳原 正治（九州大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：来生 新（放送大学副学長）】

講義概要

主権国家間を規律する法としての国際法は、近代ヨーロッパに生まれた。その規律内容は、とくに第2次世界大戦以降急激に変化している。また、国家が国際法の主体の中心であることには変化はないとしても、非国家主体（国際組織、個人など）が果たす役割は飛躍的に増大してきている。さらには、近代国際法概念そのものの歴史的制約性もいろいろな形で指摘されてきている。本講は、こうした国際法の歴史的変遷を踏まえ、現段階における国際法についての基礎的な知識を提供するものである。

授業の目標

国際法の各分野における重要な基礎概念について、その歴史的背景を踏まえつつ、現段階でのあり方について理解することを目指す。さらには、現行の制度が今後も現在のようなかたちで存続できるのか、そうでないとしたらどのようなかたちがありうるのかについても、構想できるようになってもらいたい。

履修上の留意点

法学、とくに民法に関する科目を事前に、あるいは同時に履修していることが望ましい。ただし、本講履修の条件ではない。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	近代国際法の成立	現在の国際社会に妥当する国際法は、19世紀中葉にヨーロッパにおいて完成した近代国際法（伝統的国際法）が発展し、19世紀後半以降世界に広がっていったものである。時代や地域を異にすれば、これとは異なる形での、広い意味での「国際法」が存在していた（礼、ダルマ、スィヤルなど）。 【キーワード】 礼、ダルマ、スィヤル、万国公法、近代国際法	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
2	現代国際法の諸特徴	国際法は、今なお分権社会である国際社会の特質によって規定されている。法規範としての国際法規範は、国内法規範とは異なる特色を持っている。こうした特色のある国際法をどのように学ぶのがよいかについても解説する。 【キーワード】 国際社会、社会規範、法規範、国際法規範	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
3	国際法の形成と適用と解釈	国際法は、その形成・適用・解釈のいずれについても、国内法とはかなり異なる独自の原理をもっている。また、国際法の形成・適用・解釈の3つが厳格に区別されるのかとときとして曖昧な場合もある。これらの原理を正確に理解することが国際法の理解にとってなによりも重要である。 【キーワード】 国際法の法源、条約、慣習国際法、特別国際法、一般国際法	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	国際法と国内法の関係	国際法と国内法の関係については19世紀後半から一元論と二元論の理論的な対立がみられた。これは、国際法が国内法と同じ意味での法といえるかという問いを含むものでもあった。現在では、国際法秩序と国内法秩序を分けて、実質的な場面での関係が問題とされる。 【キーワード】 一元論、二元論、編入と変型、直接適用可能性、間接適用	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
5	国際法の主体—国家と非国家主体—	国家の資格要件はどのようなものであり、どのようにして他国から国際法上の国家として受け入れられるか(国家承認)について解説する。国際組織や個人などの非国家主体も一定の範囲で国際法の主体とみなされるようになってきている。 【キーワード】 国際法上の国家、国家承認、国家承継、非国家主体	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
6	国家の基本的権利義務と国家管轄権	国際法上の国家であればすべて、国家主権、国家平等、不干渉義務といった、基本的権利義務をもつ。これに対して、国家が人・事物に対して行使する権限をその作用の側面からとらえたのが国家管轄権の概念である。 【キーワード】 国家主権、国家平等、不干渉義務、属人主義、属地主義、国家免除	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
7	国家の国際責任	国家の国際責任は従来国際違法行為責任とされ、民事責任との類似でとらえられる側面もあったが、国内法におけるような民事責任と刑事責任の厳格な区別は存在しなかった。現在では、国家の「国際犯罪」が存在するかがとくに問題となっている。 【キーワード】 国際違法行為責任、違法性阻却事由、外交的保護、国家責任の履行と追及	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
8	国家領域	国家が排他的に支配する地域、いいかえれば領域主権が及ぶ地域が国家領域である。そして、一定の地域がどこの国家の領域に帰属するかという問題は、従来領域権原という法的枠組みのなかで論じられてきた。領域をめぐる紛争(日本の領域問題を含む)の解決についても解説する。 【キーワード】 領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任原則、領域権原、領域紛争の解決	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
9	海洋およびその他の地域・空間	国家領域である陸地以外の地域・空間、すなわち、海洋、空域、宇宙空間、南極、国際河川・国際運河、委任統治・信託統治などについては、それぞれに固有の制度が存在する。とくに海洋に関する規律はここ30年の間に激変した。 【キーワード】 公海、領海、排他的経済水域、大陸棚、深海底、海洋の境界画定、国際化地域、空域、宇宙空間	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
10	国際法における個人	時代により異なるものの、国際法はいろいろな形で個人についての規律をおこなっている。個人(自国民や外国人)との関係での国家の権利義務、国境を越える個人の活動や移動についての基準、個人の権利そのもの、個人の犯罪などである。人権は次の章で扱う。 【キーワード】 国籍、外国人の法的地位、犯罪人引渡、難民の保護、個人の国際犯罪	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	人権の国際的保障	人権の保障は元来それぞれの国家によって行われてきたが、20世紀の半ば以降、人権の国際的保障についてのいくつもの枠組みが生み出された。人権条約には特有の履行確保制度もみられる。また、自由権や社会権とは異なる、新しい人権概念も主張されている。 【キーワード】 人権概念、第三世代の人権、人権条約、人権保障の国際的システム	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
12	国際経済活動と国際環境保護に関する国際法	国際経済や国際環境の分野では、ここ半世紀の間に、じつに多くの新しいルールが生まれてきている。既存の国際法の枠組みとはいろいろな点で異なるために、「国際経済法」や「国際環境法」という新しい分野として主張されることもある。 【キーワード】 WTO、国有化、国際通貨制度、IMF、予防原則、共通だが差異のある責任	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
13	国際紛争の解決	国際紛争の解決についての法的規律は時代により大きく変化し、現在では個々の国家が戦争という形で紛争を解決することは認められていない(紛争の平和的解決義務)。ここでは国際紛争の伝統的な解決方法を概観する。とくに国際司法裁判所の現状と課題を解説する。 【キーワード】 自力救済、交渉、周旋、審査、仲介、調停、仲裁裁判、司法裁判、国際司法裁判所	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
14	武力行使の規制と国際安全保障	伝統的国際法の下で認められていた戦争は、20世紀を通じて「違法化」が進められ、現在では武力不行使原則が確立している。そして、国家が個別に安全を保障するという体制ではなく、集団安全保障体制が設立された。しかし、現状はかならずしもこうした理念通りには動いていない側面があることも解説する。 【キーワード】 戦争の違法化、武力不行使原則、集団安全保障、国連平和維持活動、多国籍軍	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)
15	武力紛争法	武力紛争において、どのような武器を用いて良いか、捕虜をどのように扱うべきかなどについての法的規制(武力紛争法)が存在している。どのようなルールが現在存在するか、さらにはこのような状況下で中立はありうるのかについて解説する。 【キーワード】 戦時国際法と武力紛争法、戦闘の手段と方法の規制、武力紛争犠牲者の保護、中立概念	柳原 正治 (九州大学教授)	柳原 正治 (九州大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639315	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 著作権法概論 （'14）＝ （R）

英文名＝ [Basics of Copyright Law ('14)]

〔主任講師（現職名）：作花 文雄（文化庁長官官房審議官）〕

〔主任講師（現職名）：吉田 大輔（文部科学省研究振興局長）〕

【本学担当専任教員：来生 新（放送大学副学長）】

講義概要

情報社会あるいは知識基盤社会と呼ばれる今日において、知的財産の創造を促進し、その有効かつ適切な活用を図る上で、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たす。知的財産権制度の中にあつて、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、プログラムなどの著作物等を保護する著作権法は、特定の職業に携わる方々のみならず、全ての人々にかかわる法律であり、この講義では、著作権制度の基本的な事項及び実際の課題について総合的に学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、具体的な事例を踏まえつつ、著作物を利用するに当たり著作権法がどのようにかかわっているかということの的確に理解し、日常生活の中で法に基づく適切な判断ができるようにするとともに、職業生活において著作物の創造及び利用を行う上で必要となる法的素養を培う。

履修上の留意点

民法の不法行為について事前に又は並行して学習することにより、著作権侵害についての理解が深められる。また、印刷教材の巻末に掲げている参考図書を活用して幅広く学習をすることが期待される。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	著作権制度の仕組み	著作権法の目的や知的財産権制度全体における位置づけを解説するとともに、著作権制度において保護の対象となるものや権利の主体となる者、権利の内容、権利の制限など、第2回目以降の講義の導入として、制度全体の仕組みについて概説する。 【キーワード】 知的財産権、排他的権利、情報社会における著作権法の役割、著作権制度の仕組み	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
2	著作物	知的成果物には文芸作品や学術作品、娯楽作品、あるいは産業技術関係のものなど様々なものがあるが、著作権法の保護対象となる「著作物」とは何か、保護の対象でないものは何かについて解説する。また、翻訳物や編曲などの二次的著作物、新聞や百科事典などの編集著作物、そしてデータベースの著作物について解説する。 【キーワード】 著作物の定義、創作性、表現物、著作物の種類、二次的著作物、編集著作物、データベース	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
3	著作者	著作権法により権利の主体となる「著作者」とはいかなる者であるのかについて解説する。また、複数の者が共同して一つの作品を創作する場合があるが、共同著作者となる場合の要件や職務上作成される著作物について法人著作が成立する場合の要件について解説する。 【キーワード】 創作者、共同著作、法人著作、映画の著作者	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	著作者人格権	著作物は著作者の思想・感情の表現であり、著作権制度では著作物の利用にあたって著作者の人格的利益を保護するために著作者人格権を定めている。著作者人格権の内容、限界、その他の特色について解説する。 【キーワード】 公表権、氏名表示権、同一性保持権、名誉声望を害する利用、著作者死後の人格的利益の保護	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)
5	著作権(その1)	著作物の利用に関して著作者の経済的利益を確保するために設けられている財産権としての著作権のうち、複製権並びに複製物等の流通に関わる頒布権、譲渡権及び貸与権について、判例等にも触れながら、その具体的内容を解説する。 【キーワード】 権利の束、複製権、頒布権、譲渡権、貸与権	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)
6	著作権(その2)	財産権としての著作権のうち、著作物の上演、演奏、上映等に関する諸権利、放送、有線放送、インターネット送信等に関する権利、著作物の翻訳・翻案等に関する権利、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 上演権・演奏権、上映権、口述権、展示権、公衆送信権 送信可能化、翻案権	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)
7	著作隣接権	著作者と並んで、著作権法では実演家、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者を著作隣接権制度によって保護を与えており、著作隣接権の重みは増しつつある。著作者の権利と比較しつつ、実演家等の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 実演家、レコード製作者、放送事業者、有線放送事業者	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)
8	権利の制限(その1)	著作権制度においては、著作物を権利者の許諾を得ることなく利用できる様々な場合が規定されており、それぞれの場合における適法な利用の要件や留意点について、2回にわけて解説する。この回では、私的使用のための複製、図書館での複製、引用、教育機関での複製などについて解説する。 【キーワード】 私的使用、図書館、引用、教科用図書、拡大教材、学校教育番組、教育機関、試験問題、点字、聴覚障害者	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
9	権利の制限(その2)	前回に続き、著作物の自由利用ができる場合として、非営利目的の上演等、裁判手続き等のための複製、公開の美術の著作物の利用、プログラムの所有者による複製、情報の処理・送信の過程における蓄積などについて解説する。 【キーワード】 非営利の上演等、報道、裁判手続等、情報公開、美術作品の展示、一時的複製、情報の処理・送信、検索エンジン	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
10	著作権の保護期間と登録制度	著作権及び著作隣接権は法定の保護期間内に限って存続する。著作権・著作隣接権の保護期間とその算定方法、外国著作物に係る特例等について解説する。また、著作権法上の登録制度の趣旨、効果及び登録手続について解説する。 【キーワード】 保護期間、外国著作物、相互主義、戦時加算、実名の登録、第一公表・発行年月日の登録、移転等の登録	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局長)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	著作物の利用	著作物等の利用に際しては、利用許諾契約等により正当な利用権原を取得することが原則である。著作物等の利用に関する各種の方法を解説するとともに、著作権等の管理を業とする者を対象とする著作権等管理事業法の仕組みを解説する。 【キーワード】 利用許諾契約、著作権の譲渡、出版権、裁定、著作権等管理事業	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局 長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局 長)
12	権利侵害に対する 救済・制裁	著作権等が侵害された場合は、民事上の救済を受けることができるとともに、侵害者に対して刑事上の制裁も科せられる。著作権制度においては、民法に加えて、損害賠償や差止請求についての特別な規定が設けられており、その内容を解説するとともに、著作権制度上の刑事罰の内容について解説する。 【キーワード】 差止請求、損害賠償請求、不当利得返還請求、名誉回復請求、刑事制裁	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
13	著作権に関する条約	著作物等の国境を越えた利用に対応するため、国際的な保護規範を定めた条約の整備改善が続けられてきており、その流れは国内法制の整備にも大きな影響を与えている。著作権及び著作隣接権に関する主要な条約の経緯、内容等を解説する。 【キーワード】 ベルヌ条約、内国民待遇、TRIPS協定、WCT、ローマ条約、WPPT	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局 長)	吉田 大輔 (文部科学省 研究振興局 長)
14	著作権制度の歴史	著作権制度の発展の歴史を全体的に捉えるとともに、近年において、貸レコード問題への対応やプログラム・データベースの保護、インターネット送信への対応、コピー・プロテクション回避への規制、還流レコードへの規制など、我が国の著作権制度は間断なく改正がなされてきているところから、これらの改正動向について解説する。 【キーワード】 著作権制度の確立、我が国の著作権法制の整備、時代の進展に対応した著作権法の整備	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)
15	現代社会における課題	現代社会においてはインターネットなど情報伝達技術の飛躍的な発展を背景として、また、中古ソフト販売や漫画喫茶など著作物の多様な利用形態が登場してきたことにより、著作権制度は様々な課題に直面している。これらの課題についての概況や論点について解説する。 【キーワード】 カラオケ、貸レコード、中古ソフト、還流レコード、私的録音録画、インターネット、P2P、フェアユース	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)	作花 文雄 (文化庁長官 官房審議官)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1591401	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 西洋政治理論の伝統 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学教授）〕

講義概要

「政治とは何か?」「より善き政治を構想し、実現するためにはどうすればよいのか?」といった問いを、本講義の基本的な関心として設定する。西洋の政治理論という営みの歴史を、「一つの伝統」としてとらえつつ、主要な思想家たちの理論を、いくつかの典型的な議論の原型ないしは範例として、検討する。古代ギリシアから始めて現代アメリカに至る政治理論のなかから、歴史的な影響と現代的な意義の観点から重要だと思われる議論をとりあげ、それらの歴史的、哲学的理解に努める。こうした試みによって、理論の解釈自体を理論化の営みとして提示し、政治理論の学習そのものを政治理論の伝統への参与として理解する。

授業の目標

「政治的なもの」や「政治的な価値」の理解を深め、最終的には現代政治に関する認識力と判断力を涵養することを目指す。そのために、代表的な政治理論の議論や概念に馴染みをもつようにし、その結果、学生が自分自身の力で政治に関する批判的な意見をもてるようにする。政治的知識に限らず、現代社会を生きていく上で必要な「教養」の獲得に貢献するような講義としたい。

履修上の留意点

あらかじめ履修しておくべき科目はないが、政治学だけでなく、西洋の哲学や歴史学に関連する科目を学んでおくと、より充実した学習が望めるであろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	西洋政治理論という伝統	西洋政治思想史という学問を大学の学部レベルで学ぶ方法として、西洋における政治の理論化の営みを、複数の伝統からなる「一つの伝統」としてとらえる、という方法を本講義では採用する。学問的な方法としての歴史主義的アプローチと実在論的アプローチを紹介しながら、そうした方法と実践をいかにして有機的に総合するべきかを考える。その鍵概念として、「伝統」の概念そのものについても検討する。	山岡龍一	山岡龍一
2	政治哲学の起源——ソクラテスの問い	西洋における政治哲学の始原として、古代ギリシアの政治哲学、とりわけソクラテスの議論をとりあげる。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』の解釈から、政治哲学的な問いの原型を抽出する。特にソクラテスの政治観を、彼の哲学観との対比で考える。	山岡龍一	山岡龍一
3	哲学と政治——プラトンの哲人王	プラトンの『国家』を主に取り上げる。正義とは何か、正義と利益の関係はどうあるべきか、といった問題を中心に、プラトンの議論を再構成し、彼の教育論、イデア論、哲人王思想に関する解説を試みることで、プラトン主義的な政治理論の諸特徴を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	徳と政治——アリストテレスの倫理学	アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を主に取り上げる。徳(卓越性)をめぐる議論を中心に、道徳的完成に関するアリストテレスの議論を検討する。プラトンとの方法論的な対比によってアリストテレス主義と呼べる政治理論の諸特徴を明らかにし、特に慣習と政治の関係について考察することで、「徳の政治」論の原型を探る。	山岡龍一	山岡龍一
5	ポリスの政治——アリストテレスの政治学	アリストテレスの『政治学』を主に取り上げる。ポリスの本性に関するアリストテレスの議論を検討し、「人間は本性的にポリス的動物である」という言葉の意味を、完成主義の立場から明らかにする。アリストテレスの正義論とともに、政体論、理想国家論も検討しながらアリストテレス主義政治理論のエッセンスを明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
6	自然法と共和主義——キケロにおける政治の理想	キケロの『義務について』を主に取り上げる。古代ローマ共和主義思想の代表として、キケロを検討する。財産をもった有徳な政治家による政治という、キケロの政治観を明らかにしつつ、法や所有に関する彼の議論を検討する。同時に、後代へ多大な影響力をもつことになる自然法をめぐる議論も、キケロの徳論との関係を考慮しつつ検討する。	山岡龍一	山岡龍一
7	キリスト教と政治——アウグスティヌスの政治観	西洋政治理論の伝統における重要な要素として、キリスト教の政治観を紹介する。キリスト教政治思想の範例としてアウグスティヌスの政治思想を、彼の時代の文脈にそって理解し、キリスト教的な政治的現実主義と、政治権力の正当化原理を検討する。	山岡龍一	山岡龍一
8	信仰と理性——トマス・アクィナスと共通善の政治	キリスト教思想とアリストテレス主義を総合した思想家として、トマス・アクィナスの政治理論を検討する。『君主統治について』における政治論と、『神学大全』における自然法論を中心に、アクィナスの思想を、中世政治思想史のなかに位置づける仕方で検討する。	山岡龍一	山岡龍一
9	統治術と共和主義——マキアヴェッリと自由の政治	近代国家の維持に不可欠とされる「統治術」を弁証した著作として、マキアヴェッリの『君主論』を取り上げ、近代政治における権力と権威の問題を検討する。同時に近代共和主義思想の代表として、マキアヴェッリの『ディスコルシ』を取り上げる。「自由な国家」をめぐるマキアヴェッリの議論を検討し、彼の共和主義思想の特徴を理解する。	山岡龍一	山岡龍一

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	近代国家と個人の自由——ホッブズの社会契約論	近代国家の正当化の原理として、社会契約論の論理を検討する。ホッブズの思想を、その思想史的位置づけに留意しつつ解釈することによって、近代的な個人主義の政治理論の論理を明らかにし、その主権論の意味を検討する。	山岡龍一	山岡龍一
11	自然法と抵抗権——ロックの社会契約論	ホッブズと対比する仕方で、ロックの社会契約論を検討する。ロック自身の文脈に留意しつつ、彼の政治理論を、自然法観念を中心に解釈し、その政治理論の方法的特質を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
12	自由の喪失と回復——ルソーの社会批判と社会契約論	ルソーの『人間不平等起源論』を取り上げ、文明社会論に対する批判を、自由の喪失という観点から展開した思想家としてルソーを検討する。かかる問題に対するルソーの応答として『社会契約論』を、社会契約論と一般意志論によって、近代社会のなかに自由を回復させる試みとして検討する。	山岡龍一	山岡龍一
13	自由と歴史——ヘーゲルにおける倫理の構想	カントの義務論に対する批判を展開しながら、自律としての自由の原理を、歴史哲学のなかに新たな仕方で展開した思想家として、ヘーゲルを取り上げる。主として『法の哲学』の議論を、ヘーゲルの政治論や論理学に目を配りつつ、自由の政治理論を提示した著作として検討する。	山岡龍一	山岡龍一
14	功利主義と自由——J. S. ミルと実践的判断力	近代国家の政府と法に関する、最も影響力のある一般理論として、功利主義思想を取り上げる。ベンサム議論を簡単に紹介し、それを批判的な仕方で発展させたものとして、J.S.ミルの『功利主義論』を検討する。同時にミルの『自由論』を取り上げ、功利の原理と自由の原理の関係を検討することによって、ミルによる自由の弁証の論理を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
15	政治理論の死滅と復活——ロールズの契約主義的正義論	20世紀における政治理論の死滅と復活という文脈を前提としつつ、功利主義批判という論点から現代の契約論的政治理論を展開した著作として、ロールズの『正義の理論』を取り上げる。20世紀後期アメリカにおいて、ロールズが引き受けた問題をあきらかにし、それを「反照的均衡」という方法によってとりくんだロールズの理論的営みを明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639110	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代日本の政治 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：久米 郁男（早稲田大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：河野 勝（早稲田大学教授）〕
 【本学担当専任教員：山岡 龍一（放送大学教授）】

講義概要

現代日本の政治を、政治学の理論を用いて説明します。そのために、選挙制度や、政党、議会、官僚制など日本の政治制度都政時アクターについて説明を行った上で、それらの制度や政治アクターが、具其他的な政策過程においてどのような働きをし、どのような形で日本政治の特徴を形作ってきたのかを説明します。

授業の目標

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	日本政治を見る視点	現代日本政治を政治学の理論に従って理解することの意味について説明します。ロケによるインタビュー含む。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男・河野勝
2	政府への期待	人々は政府にどのようなことを期待してきたのかを世論調査データを用いて説明した上で、政府の守備範囲に関する理論(小さな政府・大きな政府)について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
3	民意とは何か: 世論と選挙	人々がどのようにして自分たちの代表としての政治家を選んできたのか、政治家はどの程度民意を反映してきたのかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	政党と政治	日本の政治における政党の役割、政党を支持しない無党派の出現が日本政治に及ぼしている影響について説明します。ロケによるインタビュー含む。 【キーワード】	河野勝	河野勝
5	選挙制度と政党システム	選挙制度のあり方が日本の政党システム、ひいては政治のあり方にどのような影響を与えてきたかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
6	議会の役割	日本の政治における議会の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
7	日本における執政府	本章では、日本における政治的リーダーシップの在り方、執政府政時について考える。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
8	官僚制と政治	日本の政治における官僚の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
9	地方自治と政治	本章では、地方自治がなぜ必要とされているかを検討した後で、戦後日本の地方自治がどのように発展してきたかを説明する。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
10	利益団体と政治	日本の政治における利益団体の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	マスメディアと政治	本章では、マスメディアが日本政治においてどのような役割を果たしてきたかを考える。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
12	福祉国家と政治	本章では、戦後日本における福祉政策の発展の過程をを説明する。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
13	公共事業と政治	日本の政治において公共事業がどのような意味を持っていたのかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
14	外交政策	戦後日本の外交政策について説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
15	外交と内政	戦後日本に於いて外交と内政がどのような関係にあったかを説明します。ロケインタビュー。 【キーワード】	河野勝	河野勝

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639188	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本政治外交史 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：御厨 貴（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：牧原 出（東京大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

明治以降の日本「列島」を中心とした地域で生じた政治、外交についての諸問題を歴史的に考察する。特に、太平洋戦争前は、戦争と民主主義の關係に焦点を置き、太平洋戦争後は世界経済の中の日本政治の変容に関心を振り向ける。領土、地域、都市、資源といった政治を形作る社会条件にも目配りしつつ、この時期の政治を立体的に把握していく。

授業の目標

現在の日本と世界の政治は混沌たる状況にある。だが、過去の政治の歴史は、混沌を生き抜き、これを克服する人々の営みであった。日本の政治史を見渡すことで、21世紀の政治を考える知的滋養を養うことが本講義の目標。

履修上の留意点

教科書を読み、映像教材を見た上で、参考文献などを各自渉猟することが求められる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	日本政治と政治史学	本講義のイントロダクション。明治維新から現代までの日本の政治外交を、様々な視点からとらえなおし、戦前と戦後を比較しながら俯瞰する。日本の政治とは何かを考察し、政治史学の可能性を追求する。 【キーワード】 戦争、経済、リーダーシップ、権力	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
2	戊辰戦争と西南戦争	明治維新から西南戦争までの明治国家の基礎固めは、どのような特質をもつのか。初期の明治政府の施策、大久保政権、議会開設をめぐる論争を見渡し、明治10年代までの政治指導の質的転換を考えていく。 【キーワード】 廃藩置県、西郷隆盛、大久保利通、伊藤博文	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
3	日清戦争と立憲政友会の成立	初期議会から日清戦争を経て、立憲政友会の成立に至る過程について、大日本帝国憲法下の藩閥と政党の対立と提携を見渡ししながら、戦争と政治の関係を考える。 【キーワード】 大日本国憲法、初期議会、日清戦争、立憲政友会	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)

回		内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日露戦争と大正政変	日露戦争により、朝鮮半島への影響力を確保した日本は、藩閥政治家の桂太郎と政友会との安定した政権授受の時代を迎える。これが、大正政変によって崩れる過程を追跡する。 【キーワード】 桂園時代、西園寺公望、原敬、立憲同志会	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
5	第一次世界大戦と政党政治	第一次世界大戦の終結後、国際連盟の設立、ワシントン体制による多国間の協調体制が形成された。普通選挙運動を柱とする護憲運動は、本格的な政党政治の時代を生み出した。戦前の政権交代の政党史を振り返る。 【キーワード】 憲政擁護運動、憲政の常道、加藤高明、浜口雄幸	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
6	一五年戦争の時代	満州事変の勃発から太平洋戦争までの戦争の時代に焦点を当て、軍部、官僚制、宮中の変容に留意しつつ、「昭和の動乱」の時代を検討する。 【キーワード】 満州事変、統制経済、二・二六事件、近衛文麿	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
7	占領と復興	太平洋戦争の敗戦は、海外の領土を失っただけではなく、国土と経済に壊滅的な打撃をもたらした。アメリカによる占領下で進む民主化と経済復興に焦点を当て、日本国憲法の成立、朝鮮戦争を経て経済成長へと至る過程で、吉田茂首相の政治指導について検討する。 【キーワード】 公職追放、日本国憲法、ドッジ・ライン、吉田茂	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
8	日米安全保障条約の改定	占領終結後の政治的混乱は1955年の左右社会党統一と保守合同による自由民主党の結党によって、一時的な「二大政党制」となった。自民党結党を主導した岸信介は、日米安全保障条約の改定によりアメリカとの対等に近い関係を目指した。その政治指導の意義を考える。 【キーワード】 岸信介、日米新時代、アイゼンハワー	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
9	高度経済成長の政治	1960年の池田勇人内閣成立と国民所得倍增計画の策定により、高度経済成長が政府の政策として進められた。河川開発、道路事業、港湾建設などの地域開発が列島を覆う。国土の変貌と政治の変容とを追跡していく。 【キーワード】 経済計画、地域開発、池田勇人	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
10	佐藤栄作内閣と沖縄返還	池田内閣を継いだ佐藤栄作内閣は7年を超える戦後最長の政権となった。沖縄返還を実現し、高度経済成長の負の成果である公害防止のために環境政策に着手する佐藤内閣を、これと緊張関係に立った大学紛争、革新自治体、司法権との関係で検討する。 【キーワード】 佐藤栄作、沖縄、美濃部亮吉、ニクソン・ショック	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)

回		内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	列島改造と保革伯仲の時代	日本列島改造計画を掲げて首相に就任した田中角栄内閣は金脈政変により、保革伯仲の時代を招来した。この時代の自民党政治の特質を検討する。 【キーワード】 派閥、日本列島改造計画、ロッキード事件、椎名裁定	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
12	地方の時代と東京一極集中	派閥抗争が続いた1970年代後半の自民党政治は、1980年代の中曽根康弘内閣によって、ひとまず安定化する。他方、1970年代には国からは大平正芳首相の「田園都市構想」、地方では独自の政策形成が進む。この国と地方の重層的な政治指導を検討する。 【キーワード】 大平正芳、中曽根康弘、田園都市構想、民営化	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
13	政治改革と細川護熙内閣	竹下登内閣は盤石の基盤があるかに見えたがリクルート事件に端を発する政治不信を生み出し、それは1993年の細川護熙非自民連立内閣の成立に至る。この冷戦後の政権交代を追跡する。 【キーワード】 湾岸戦争、小沢一郎、武村正義、連立政権	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
14	小泉純一郎内閣と自民党政権の崩壊	橋本龍太郎・小渕恵三内閣を通じて、自民党政権は復権したかに見えた。また、小泉純一郎内閣は、自民党を壊す身振りを示しながら、2005年の総選挙で大勝した。しかし安倍晋三内閣以降自民党政権は急速に失速し、2009年の総選挙で敗北する。橋本行革、沖縄問題、経済構造改革の失敗といった諸課題に対応しえなくなった自民党政権の変質を検討する。 【キーワード】 省庁再編、構造改革、官邸主導、参議院	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)
15	「政権交代」の後	1996年に誕生した民主党は、次第に自民党に対抗する党としての影響力を高め、2009年の総選挙で大勝し、政権を組織した。衆議院における小選挙区選挙の積み重ね、デフレ経済、IT化による新しい政治的コミュニケーションの登場の中で、伝統的な自民党政治とは異なる政治が登場する。21世紀の政治はどこへ向かうのか、展望する。 【キーワード】 政権交代、マニフェスト、政治主導、東日本大震災	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)	御厨 貴(放送大学・教授)・牧原 出(東京大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639196	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代行政学 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：西尾隆（国際基督教大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：山岡龍一（放送大学教授）】

講義概要

行政の活動は、上下水道から安全保障まで社会のあらゆる領域に浸透し、市民生活を支えている。他方、行政は正常に機能することが当然視され、機能不全が現れて初めてその存在や課題に気づくことも少なくない。本コースでは、行政が日常的に作動するメカニズムを理解し、その基礎にある考え方について多面的に学ぶ。環境変化の中で行政の役割は刻々と変質し、その改革や社会との関係の組換えが世界共通の潮流となっている。不正、ムダ、非効率などの是正を含め、市民がいかに行政の舵取りをするかは避けて通れない課題である。そこで、行政学・政策学の基礎的知識を提供すると共に、市民教育の視点から責任ある市民に必要な「教養」とは何かを考えつつ、共生のアートを学んでいきたい。

授業の目標

社会科学の他の分野と同じく、まず基本的な概念・理念を正確に理解し、それらを現実の制度や出来事と結びつける知識と想像力が必要である。次に、どんな課題にも単一の解答がなく、求められる政策対応や制度設計が国や政治文化の違いや時代により変化することへの文脈的・状況的理解力を養う。第3に、物事の因果関係の把握・分析を超えて、課題解決のために目的と手段を自由に構想する政策型思考を鍛えたい。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	行政学への誘い(行政について学ぶ意義、行政学の視点と方法)	行政学とはどのような対象に向き合い、どのようなアプローチをとる学問か。また、行政について学び、研究することにはどのような意義があるのか。行政学という社会科学の特徴および周辺の学問領域との関係を説明し、この学問を山門から道案内する。 【キーワード】 批判的思考と実践、書斎型と現場型と比較研究、プロフェッショナル・アプローチ、臨床の知	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
2	行政の守備範囲(行政の概念、行政の発達および行政改革の諸相)	行政とは何か。またその守備範囲はどこまで及び、他の諸活動との境界はどの辺りにあるのか。行政の概念を明らかにした上で、近代以降の行政の発達と変化の過程を跡づける。立法・司法との関係、政治との関係、市場との関係を整理し、行政国家・福祉国家の由来と行方、および行政改革の諸相を概観する。 【キーワード】 立法・司法と行政、政治と行政、市場と政府、行政国家、福祉国家、新公共管理(NPM)、行政管理と行政改革	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
3	政治と行政(政と官の関係の整理、学説史、日本の制度と実態)	政治と行政の関係について、基本的な考え方、行政学説史、日本の制度と実態、改革の方向という順で解説する。特に国会・内閣と官僚機構、政治家と行政官、いわゆる「政と官の改革」にフォーカスを当てる。 【キーワード】 政治行政二分論と融合論、統制・分離・協働の規範、官僚内閣制と議院内閣制、政官接触の制限、官主導から政治主導へ	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	政府と市場(公共財の理論、公的規制改革、公共サービスの提供主体)	市場経済における政府の役割として、民間ではできない公共財の供給や、民間企業等に対する公的規制の妥当性について考える。さらに、公共サービスの担い手として、民間主体の「新しい公共」についても論じる。 【キーワード】 公共財、外部経済・不経済、参入規制、民営化、PFI、市場化テスト、構造改革特区	八代尚宏(国際基督教大学教授)	八代尚宏(国際基督教大学教授)
5	中央政府と地方政府(地方自治の理念と分権改革)	地方自治の理念、補完性の原理、権力分割にかかわる立憲主義の考え方を理解した上で、中央政府と地方政府、集権と分権の関係を把握する。比較と歴史の視点から多層の政府間関係について学び、日本の分権改革の意義と動向を検証する。 【キーワード】 立憲主義と地方分権、政府間関係、補完性の原則、地方分権一括法、機関委任事務、受け皿論、市町村合併、三位一体改革、地域ガバナンス	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
6	議院内閣制と官僚制(議院内閣制の原理、中央省庁の組織)	議院内閣制を理解するためには、政治と行政の関係を知る必要があり、大統領制との比較も交えて解説する。内閣制度の原則と、内閣のもとで政策形成を担う中央省庁の行政組織の編成を、官僚制の問題とともに理解する。 【キーワード】 政治と行政、内閣主導、省庁再編、内閣機能強化、行政改革会議、セクショナリズム、ウェーバーの官僚制、機能と逆機能	出雲明子(東海大学専任准教授)	出雲明子(東海大学専任准教授)
7	公務員制度と人事管理(日本の公務員制度と人事管理の特徴)	行政学の中心的研究対象となる公務員について、日本の公務員制度の歴史を踏まえたうえで、国家公務員の人事管理の特徴を採用、昇進、給与、退職などの点で理解し、今後の公務員制度改革の方向性を考える。 【キーワード】 民主的統制、閉鎖型・開放型任用制、メリット・システム、官吏制度の民主化、キャリアとノンキャリア、身分保障、再就職規制	出雲明子(東海大学専任准教授)	出雲明子(東海大学専任准教授)
8	公共政策と政策型思考(公共政策の意義・構造・概念と問題解決型思考)	公共政策の概念・構造・類型、および政策と制度の関係について基礎から学ぶ。政策学が提供する新しい視点を、政策型思考と制度型思考の相互補完関係から理解し、具体的な政策領域において検証する。 【キーワード】 政策学、メガポリシーとメタポリシー、政策型思考と制度型思考、目的と手段の設計、政策転換と制度改革	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
9	公共政策過程の理論(政策サイクルとその各過程、政策サイクル論への批判)	公共政策過程の種々の理論とその特徴について概説する。政策サイクルと各過程の説明。代表的な政策形成過程の理論。鉄の三角形、多元主義など。政策サイクルへの批判とその代表的な政策過程の理論から連携唱道ネットワーク論等を説明する。 【キーワード】 政策サイクル、政策過程、連携唱道フレームワーク、政策ネットワーク	大森佐和(国際基督教大学准教授)	大森佐和(国際基督教大学准教授)
10	国の意思決定と予算過程(稟議など合意形成手法と予算改革)	国レベルの意思決定過程をパターン別に理解し、稟議制に代表される合意形成のあり方とその変型、および問題点を明らかにする。また、予算編成過程に見られる積み上げ方式と、政治主導による予算改革、および事業仕分けの動向を理解する。 【キーワード】 意思決定と政策形成、政策の流れと手続、稟議制、予算編成過程、経済財政諮問会議、事業仕分け	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	財政と社会保障(財政の意義、財政再建の必要性、年金や医療制度改革)	公共事業や社会保障等への歳出と、その費用を賄う税・社会保険料の役割を解説する。先進国の内で突出した日本の債務累積の要因とその改善、年金や医療制度改革における官民の役割分担の考え方に焦点をあてる。 【キーワード】 費用便益分析、社会保障目的税、世代間格差、負の所得税、プライマリーバランス、モラル・ハザード	八代尚宏(国際基督教大学教授)	八代尚宏(国際基督教大学教授)
12	自治体政策と市民(都市化、自治体の政策と総合計画、市民参加)	都市化の諸相とそれに伴う自治体政策の展開と変容、まちづくりと市民参加のあり方を考える。とくに自治体総合計画の意義と政策再編の必要、財政逼迫下での自治体と市民、および市民・NPOとの協働について展望する。 【キーワード】 都市型社会、発見・発明と計画、シビルミニマム、市町村基本計画、参加と協働、NPO、情報公開	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
13	国際公共政策の世界(国際公共政策とは、国際公共政策の政策過程、アクター、事例)	国際公益とは何か、国際公共政策とは、についての説明。国際公共政策の多面的なとらえ方と自分たちとの関わりについて。人権や開発等の地球規模の諸課題を解決するための、多様なアクター(国際機関・各国政府代表・NGO等)の存在。 【キーワード】 国際公共政策、国際公益、国際機関、NGO、地球規模の課題	大森佐和(国際基督教大学准教授)	大森佐和(国際基督教大学准教授)
14	行政統制と行政責任(行政統制の類型、行政責任確保の変化と展望)	行政への期待のタイプを基礎に、統制と行政責任の関係を概観する。次に、その類型と責任確保のあり方を整理し、特に説明責任と国会による行政統制の重要性を明らかにする。その上で、公務員個人に焦点を当てて行政倫理の問題を考える。 【キーワード】 無責任の倫理、政治的責任と機能的責任、外在的・内在的責任、制度的・非制度的責任、説明責任(アカウンタビリティ)、市民性、対市民規律	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)
15	行政の将来と行政学の展望(環境変化の中の行政と行政学)	環境変化への行政の対応を理解するために、リスク社会の見方と安全学の視点を紹介する。また、行政学説上の論争から理論と実践の関係を考え、文化理論に基づく対応のパターンを紹介する。その上で、学と実務の対話の必要性について展望する。 【キーワード】 変化のタイプ、リスク社会、安全学、文化理論、グループとグリッド、学と実務の対話、権力の必要性	西尾隆(国際基督教大学教授)	西尾隆(国際基督教大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639250	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代の国際政治 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：高橋和夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

国際政治の風景を太いタッチで描く。本書の二つのキーワードは、アメリカとイスラムである。アメリカという視点からイスラム世界を、イスラムという視点からアメリカを語る。両者の視点の交わった点に浮かび上がってくる風景は、アメリカの一極覇権の衰退である。

その衰退の大きな要因はイラクとアフガニスタンの戦争の負担である。イラクとアフガニスタンの経験を踏まえて、戦争の新しい形を紹介する。全体を通じて21世紀の国際政治の新しい風景を描きだす。

授業の目標

一番目の目標は国際政治への興味を引き起こす。

二番目にニュースを批判的に受け取る姿勢を養う。つまり、誰が、どういう目的で、いかにしてニュースを「制作」したかを考える習慣を養うきっかけを提供する。そのためにニュース映像を多用し、その背景を解説する。

三番目に論理的な思考の習慣を養うきっかけを提供する。そのために適切な分量の印刷教材を提供し、読むと言う行為を通じての思考を求める。さらには、記述式にこだわった通信添削と試験を通じて、一貫性と連続性のある論理的な思考の訓練の場を受講生に与える。書くという行為が考えるという行為を助けるからである。

履修上の留意点

『国際理解のために('13)』、『現代南アジアの政治('12)』、『初歩のアラビア語('11)』、『イスラーム世界の歴史的展開('11)』、『世界の中の日本('09)』などの関連する分野の科目の履修が望ましい。

回	テ　　マ	内　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	テレビと国際政治/ もうだまされないために	テレビの国際政治に対する影響と為政者による映像操作の例を提示する。またユーチューブなどの新たなメディアの意味を考える。 【キーワード】 主観と客観、部分と全体、ニクソンの罠(わな)、ユーチューブ	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
2	アメリカの世界戦略 (1)スーパー・パワーへの道	アメリカの「普通」の国から超大国への成長の過程を振り返る。 【キーワード】 小国としてのアメリカ、リンカーン、南北戦争、奴隷制度、総力戦	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
3	アメリカの世界戦略 (2)唯一のスーパー・パワーへ	第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦という三回のアメリカのヨーロッパへの介入を解説し、唯一の超大国への軌跡をたどる。 【キーワード】 ウィルソン大統領、フランクリン・ルーズベルト大統領、スプートニック・ショック、核の傘	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	次のスーパー・パワーは？	スーパー・パワーの条件を検討しつつ、アメリカの次の「アメリカ」を考える。 【キーワード】 軍事力、経済力、人口、政治制度、インダストリー、イノベーション	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
5	アメリカの中東政策	アメリカの中東政策の目標は何か？アメリカは、なぜイスラエルを支持するのか？こうした疑問を考える。 【キーワード】 シッポが犬を振る、三つの目標、親イスラエル・ロビー、AIPAC、キリスト教原理主義勢力、Jストリート	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
6	アフガニスタン(1) 大国のはざまで	アフガニスタンの歴史を紹介する。その焦点は、19世紀からのイギリスとロシアの対立であり、1979年から1989年までのソ連の軍事介入である。 【キーワード】 グレート・ゲーム、ワハン渓谷、デュランド・ライン、冷戦	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
7	アフガニスタン(2) 戦争から戦争へ	タリバンの支配の確立後のアフガニスタン現代史を語る。アメリカの対タリバン戦争、いわゆるアフガン戦争が話題の中心となる。 【キーワード】 タリバン、ビンラーディン、アメリカ同時多発テロ、オバマ	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
8	パキスタンの苦悩	パキスタンという国家の直面する構造的な問題点を分析する。 【キーワード】 紀尾井町とパキスタン、三つのA、二つのパキスタン、ターレバン化、中国	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
9	イラク(1) 同盟者フセイン	イラク国家の成立からイラク戦争までの時期を振り返る。また1980年代のアメリカとイラクの友好関係に光を当てる。 【キーワード】 椅子取りゲーム、バース党、ラムズフェルドの過去	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
10	イラク(2) 「戦後」の風景	イラク戦争後に悪化した治安は、アメリカ軍の撤退までに劇的に改善した。その理由を語る。そしてアメリカ軍撤退以降のイラクの政治の現状を語る。焦点は二つである。第一にイラク中央政界の混乱、第二に北部のクルド地域の安定と繁栄である。 【キーワード】 湾岸戦争、イラク戦争、ペトレイアス、KDPとPUK、キルクーク	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	アラブの春	2011年に起こったアラブ諸国での民主化運動を振り返り、その動向を分析し、将来を展望する。 【キーワード】 人口爆発、孤独でなくなった群集、ピラミッド崩し、撃つか撃たないか、腐敗の構造	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
12	イランとアメリカ/ 「世界の中心」と超大国	イランの核開発をめぐる国際的緊張を近現代史の流れに位置づける。焦点はアメリカ・イラン・イスラエルの錯綜する関係である。 【キーワード】 核の平和利用、核兵器開発疑惑、ウラン濃縮、アメリカ・イラン関係の過去、制裁か戦争か、ネタニヤフ	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
13	アメリカのイスラム/ 文明の衝突を越えて	アメリカとイスラムの対決という図式が、しばしば描かれる。しかし、アメリカ国内にイスラム教徒が増えている。現実にはスローガンより複雑である。このアメリカのイスラム教徒について論じる。 【キーワード】 11分47秒後の驚き、白人のイスラム、ブラック・ムスリム、マルコムXの旅、移民のイスラム、「寿司」イスラム、ムスリムのアメリカ兵	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
14	ロボットの戦争	イラクやアフガニスタンでのロボット兵器の利用の実態を紹介し、戦争の将来におけるロボットの役割を考える。 【キーワード】 空を飛ばないパイロット、大ロボット軍団、人工知能、ロボットの「自立」	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)
15	国際政治の新しい風景	国際機関、多国籍企業、「国内」官庁、NGO、個人などが国際関係の新しいアクターとして活躍している。この多様なアクターの織り成す万華鏡のような国際政治の風景を描写する。 【キーワード】 焼酎と人道、主権、グリーン・ピース、ODANGOとDANGO、eデモ	高橋和夫 (放送大学教授)	高橋和夫 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1533100	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代東アジアの政治と社会 （'10）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：西村 成雄（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：小此木政夫（九州大学特任教授）〕

講義概要

21世紀東アジア世界の政治共同体（ここでは中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮をとりあげる）は大きな変容と変動を経験しつつある。この東アジア世界を理解するには、少なくとも20世紀全体を眺望するような奥行きのある歴史認識と、それぞれの社会がどのような政治を生みだし、政治が社会をどのようにつくりかえてきたのかという政治体制論的分析視角が必要となろう。この講義では、それぞれの政治と社会の相互依存関係のダイナミズムと政治体制、さらに国際的諸条件から各政治共同体の特徴を解明したい。

授業の目標

現代東アジアの各政治共同体の歴史的展開と現代の諸課題を解明し、21世紀の今後を考えるうえでのいくつかの「支点」を提供したい。第一に、各政治共同体をその政治と社会の相互依存関係から政治体制の特徴を再定義し、それぞれの歴史的意義をとらえなおす。第二に、国際的諸条件をどのようにとらえ内部化してきたのか、国際秩序認識の特徴をとらえなおす。こうした「支点」を置くことで、新たな21世紀東アジア世界像を再構成する。

履修上の留意点

政治学、国際関係論、および他の地域世界に関連する講義を履修されることを期待する。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「現代東アジアの政治と社会」を学ぶ	現代東アジア世界の政治共同体のうち、中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮を中心に、その政治と社会の歴史的特徴と相互依存関係を解明し、さらに国際環境の東アジアにおける特徴を分析し、政治体制からみた新たな東アジア世界像を検討する。というのも、第一に、「東アジア共同体」論にみられるように東アジア世界は新たな段階に入りつつあり、この段階に照応した歴史認識と現状認識が要請されているからであり、第二に、それぞれの政治共同体の当面する諸課題の解明にとって、ますます日本との関係性が濃密となっているからでもある。 【キーワード】 東アジアの国民国家群、国民国家、政治と社会の相互浸透性、20世紀中国の政治と社会	西村成雄(放送大学教授)	西村成雄(放送大学教授)
2	中国(1)20世紀前半期・清朝から中華民国へ	20世紀中国の前半期を眺望したとき、政治体制の変容は、清朝「皇帝制」から「立憲君主制」(1907年以降)へ、そして1911年辛亥革命を経て1912年「立憲共和制」中華民国の樹立となり、さらに1928年中国国民党による国民政府の組織化によって「党を以て国を治める(以党治国)」体制へと移行し、近代的国民国家建設が進展した。国際的条件からみると、帝国主義列強による中国分割の危機を経て、第2四半世紀は中国からみた「抗日時代」となり、戦後は中国共産党による新たな政治体制が創出された。 【キーワード】 中華民国、中国国民党(孫文・蒋介石)、国民政府(以党治国)、「抗日時代」、二つの政権とその帰趨	西村成雄(放送大学教授)	西村成雄(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	中国(2)―中華人民 共和国の27年―	第二次世界大戦後、中国大陸では中国革命のなかから中華人民共和国が成立した。この政治体制は、中国共産党の指導する社会主義的国民国家としての政治経済政策を推進した。1956年以降、毛沢東の権力が増大し、1956年から10年にわたる「文化大革命」を経て、中国社会は新たな政治権力への移行を生みだした。この間の国際的条件は、冷戦から中ソ対立へと転換をとげ、1972年には米中国交回復を実現した。 【キーワード】 中華人民共和国、毛沢東、文化大革命、米中国交回復	西村成雄(放送大学教授)	西村成雄(放送大学教授)
4	中国(3)―改革開放 政権とグローバリゼーション(鄧小平時代)	毛沢東の死後、中国が鄧小平のリーダーシップの下で改革開放政策を推進した事情をとらえなおす。中国共産党がイデオロギーを柔軟に変更したことにより、経済改革が深化して成果を上げた一方で、政治改革は停滞した経緯について理解を深める。 【キーワード】 鄧小平、改革、開放、趙紫陽、第2次天安門事件、南方談話、社会主義市場経済	高原明生(東京大学大学院教授)	高原明生(東京大学大学院教授)
5	中国(4)―21世紀中国の新段階	21世紀に入り、WTO(世界貿易機関)にも加盟した中国は、高度成長を続けた。それによって多くの人々の生活水準が向上したが、格差の拡大や環境汚染など、成長のひずみも大きかった。深刻化する社会問題について学び、共産党政権の対策や経済運営をめぐる意見の不一致、政治改革の展望について理解を深める。 【キーワード】 WTO加盟、世界の工場、成長のひずみ、「和谐社会」、「共産党の平和」	高原明生(東京大学大学院教授)	高原明生(東京大学大学院教授)
6	台湾(1)―国民党一 党独裁体制の成立と強化―	中国共産党との内戦に敗れた中国国民党は、冷戦の展開と米国の支援によって台湾で復活した。国民党は蒋介石の個人的権力を極端に強化し、党組織を社会の隅々までに浸透させ、市民を抑圧し、台湾本省人の政治的地位を極端に低く抑えた一党独裁体制を実現した。 【キーワード】 2.28事件、省籍矛盾、中国国民党、一党独裁、レーニン主義体制	松田康博(東京大学大学院情報学環教授)	松田康博(東京大学大学院情報学環教授)
7	台湾(2)―民主化・ 台湾化と台湾問題の国際化―	米中国交正常化の中で蔣経国政権は国際的孤立と民主化運動への対処に悩まされた。後の李登輝政権は民主化、台湾化、実用主義外交、新大陸政策を推進した。台湾独立派である後継の陳水扁政権は、台湾化路線をさらに深化させ、中国の反発により台湾問題の国際問題化を招いた。 【キーワード】 台湾関係法、平和統一政策、民主化、台湾化、台湾独立	松田康博(東京大学大学院情報学環教授)	松田康博(東京大学大学院情報学環教授)
8	香港(1)―総督から 行政長官まで	英領植民地・香港の成立から、返還後の香港特別行政区までをとりあげる。英領植民地香港は十九世紀、イギリスと清朝との間に締結された三条約から形成されていった。中華人民共和国の成立後、香港をめぐる対外環境は大きく変化し、そのなかで香港社会は中国大陸や台湾とは異なる独自の発展を見せた。「香港らしさ」を有した香港に、一九七〇年代末に返還問題が浮上した。二年余りの中英交渉を経て、香港は一九九七年に中国に一括返還され、その後「一国二制度」方式で五十年間統治されることとなった。 【キーワード】 香港、英領植民地、特別行政区、返還問題	谷垣真理子(東京大学大学院准教授)	谷垣真理子(東京大学大学院准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	香港(2)―「華人の都」と「中国の一都市」の共存	香港は歴史的にみて、中国世界の一部であり、一九九七年返還後は「中国の一都市」として中国国内との関係を緊密化している。しかし、香港を周辺地域との関係性のなかでとらえなおすと、香港は中国と外部を仲介する存在であり、華僑・華人のネットワークの結節点であったことに改めて気づかされる。本章では、華僑・華人の概要からときおこし、「華人の都」である香港が「中国の一都市」として今後の発展を模索しているのかを整理する。 【キーワード】 華僑・華人、プッシュ要因とプル要因、ディアスポラ、グローバリゼーション、後背地	谷垣真理子 (東京大学大学院准教授)	谷垣真理子 (東京大学大学院准教授)
10	朝鮮半島(1)―解放と分断と戦争	日本の植民地支配下にあった朝鮮半島は、第2次世界大戦後、米ソによって分割占領された。朝鮮解放は即時独立を意味しなかったのである。それどころか、大戦中に連合国によって合意されていた信託統治が挫折すると、独立への熱望と「冷戦」と呼ばれた米ソ対立が、1948年夏、38度線の南側と北側に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という二つの国家を成立させ、さらに朝鮮戦争(統一戦争)への道を準備した。 【キーワード】 カイロ宣言、ヤルタ会談、38度線設定、信託統治反対運動、金日成の台頭、米ソ共同委員会の流産、2つの国家の成立、朝鮮戦争	小此木政夫 (九州大学特任教授)	小此木政夫 (九州大学特任教授)
11	朝鮮半島(2)―分断国家の二つの道	朝鮮休戦後も、冷戦の全期間を通じて、南北朝鮮間の体制競争が継続した。それは双方の命運を賭ける激しい権力闘争(生存競争)であった。その過程で、韓国は学生革命やクーデターを経験したが、朴正熙、全斗煥政権の軍事体制の下で輸出指向型の経済開発戦略を採り当てた。他方、北朝鮮は重工業優先の大衆動員型経済建設方式を採用し、独自の社会主義の下で南朝鮮革命を追求したが、経済的な難局に直面せざるを得なかった。 【キーワード】 千里馬運動、学生革命、軍事革命、反帝民族解放革命、輸出指向型工業化、日韓国交正常化、維新体制、光州事件	小此木政夫 (九州大学特任教授)	小此木政夫 (九州大学特任教授)
12	朝鮮半島(3)―韓国民主化と冷戦終結	韓国では重化学工業化に続いて民主化が達成され、1988年にソウル・オリンピックが開催された。他方、北朝鮮は韓国との経済競争に敗北し、ベルリンの壁が崩壊(1989.11)すると、社会主義陣営という「後ろ盾」を失った。したがって、北朝鮮の核兵器開発には体制の「生き残り」が賭けられたのである。しかし、非核化を実現するための二国間交渉、六者会談などは、朝鮮半島に新しい平和体制を構築するための交渉でもある。 【キーワード】 民主主義への移行、民主化宣言、民主主義の定着、七・七宣言、北方外交、南北基本合意書、「合意された枠組」、南北首脳会談、日朝平壤宣言、六者会談、核実験	小此木政夫 (九州大学特任教授)	小此木政夫 (九州大学特任教授)
13	現代東アジア国際関係とアメリカ・ロシア	建国以来の中国外交と安全保障政策の展開を概観し、とくに改革、開放政策を推進し始めて以降、国力の増大とともに米、ソ(ロ)との関係がダイナミックに変遷を遂げた事情を解説する。外交、安全保障政策の要点を学習し、中国の生存と発展にとって鍵となる大国との関係について理解を深める。 【キーワード】 平和な国際環境の構築、中米関係、中ソ(ロ)関係、中国脅威論、「和諧世界」	高原明生(東京大学大学院教授)	高原明生(東京大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
14	東アジア共同体論と 中国・日本	21世紀に入り、EU, NAFTAなどの地域統合の質的发展とともに、1997年アジア通貨危機を経て、日本も含めてアジア各地で「東アジア共同体」構想が提起されている。中国は東アジア外交を積極的にすすめるとともに、「アセアン+3」、「FTA」などの多国間ネットワークを通じ、東アジア世界での存在感を増大させている。今後、東アジアで日本がどのような役割を果たすべきかを含め、現状と課題を解明する。 【キーワード】 「東アジア共同体」構想、アセアン、中国と日本	西村成雄(放送大学教授)	西村成雄(放送大学教授)
15	「現代東アジアの政治と社会」の研究課題	現代東アジアの各政治共同体とその相互依存関係の現状からみて、いくつかの今後の研究課題を例示したい。第一に、東南アジアにおける国際組織アセアンの到達点とその課題を解明する。第二に、中国のみならず他の政治共同体の支配の正統性の再生産の特徴をとらえる。第三に、21世紀段階における国際公共財の創出をどのように構想するかを検討する。 【キーワード】 アセアンの政治的輻射力と東アジア国際関係、中国における支配の正統性の再生産、新たな国際公共財の創出	西村成雄(放送大学教授)	西村成雄(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639170	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代南アジアの政治 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：堀本武功（京都大学大学院特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：三輪博樹（放送大学客員准教授）〕

【本学担当専任教員：高橋 和夫（放送大学教授）】

講義概要

本科目は、インド亜大陸とその周辺にある南アジア諸国の過去・現在・将来を政治的な側面から明らかにすることを目的としている。南アジア諸国は、第二次世界大戦後から1980年代までとその後の1990年代以降とでは大きく様変わりしている。特に1990年代以降について見ると、世界的なグローバル化との関係とは切っても切れない関係にある。特にその傾向を顕著に示しているのが、南アジアの大国インドである。そこでインド政治を中心にしつつ、現代南アジアの実態解明を重点に置く。最終回には、日本は南アジアとどのような関係をもっているのか、今後の展望がどうなりそうかという講義で締めくくりたい。

授業の目標

全15回の講義を視聴することで、インドをはじめとする南アジア諸国がどうなっているのかを政治の側面から解明することを主目的とする。日本では、南アジア情報がまだまだ不十分なので、できる限り、専門用語を避け、平易な講義を目ざしつつも、「高度な入門的講義」を目ざしたい。本講義を学ぶことで、インド・南アジアの理解が大幅に増進することを期待している。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	南アジア政治の見取り図	南アジアとはどんな地域なのか(周囲を山脈とインド洋に取り囲まれた地域)。他のアジア地域との比較(類似性と相違性)。イスラーム支配と英国支配が与えた影響、独立後の状況、グローバル化、民主主義と経済発展。 【キーワード】 南アジア、歴史(イスラーム支配と英国支配)、多民族国家と国民国家、グローバル化、民主主義と経済発展	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)
2	現代インド政治の見取り図	インドは民主主義の国か。インドの民主政治にはどのような特色があるのか(政治制度―三権分立と連邦制)、政治プロセス、インド政治史)、1990年代以降におけるグローバル化はインド政治にどのようなインパクトを与えたのか。今後の展望。 【キーワード】 民主主義、政治機構、議院内閣制、連邦制、貧困問題、暴力主義、インド・モデル	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)
3	インドにおける民主主義と経済政策の展開	現在、世界経済を牽引する存在として注目を集めるインドであるが、1980年代までは貧困の代名詞であった。イギリスから政治的独立を果たしたインドが最優先課題としたのは経済的自立であり、これを民主主義を維持したまま達成しようと試みた点がインドの特色である。独立インドの経済政策の展開を、経済成長と民主主義のジレンマという観点から解明することを目的とする。 【キーワード】 経済成長と民主主義のジレンマ、統制経済、輸入代替工業化、貧困追放、経済自由化	中溝和弥(京都大学准教授)	中溝和弥(京都大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	インド民主主義の担 い手	前半では、インドの民主主義体制の特徴と、そのような民主主義体制のもとで政党の果たしている役割について明らかにする。インドでは、団体活動に対する人々の参加度が他の国々と比べて低く、そのような状況の中で、国家と社会との間をつなぐ存在として、政党が重要な役割を果たしている。後半では、独立後のインドにおける政党政治の状況についてまとめる。 【キーワード】 民主主義、政治参加、選挙政治、政党政治、労働組合、学生組織、インド国民会議派、インド人民党、会議派システム、競合的多党制	三輪博樹(放送大学客員准教授)	三輪博樹(放送大学客員准教授)
5	国内政治とインド社会	前半では、インド社会を構成する諸要素のうち、カースト・宗教・言語の3つについて整理した後、カーストと政治との関係、および宗教と政治との関係について検討する。後半では、インドにおいて「留保制度」という形で行われている弱者優遇政策と、その問題点についてまとめる。 【キーワード】 カースト、カーストと政治、留保制度、指定カースト、その他の後進階級、宗教、ヒンドゥー・ナショナリズム、言語	三輪博樹(放送大学客員准教授)	三輪博樹(放送大学客員准教授)
6	インドにおける治安問題	前半では、インドにおける治安問題として、イスラム過激派によるテロと、極左武装集団の活動について検討する。後半では、2008年に発生したムンバイ同時多発テロ事件以降の、連邦政府によるテロ対策についてまとめる。また、政府のテロ対策に対して、インドの有権者がどのような評価を下したかという点についても検討する。 【キーワード】 イスラム過激派、ムンバイ同時多発テロ、カシミール問題、印パ関係、極左武装集団、マオイスト、テロ対策	三輪博樹(放送大学客員准教授)	三輪博樹(放送大学客員准教授)
7	インドにおける中央・州関係の展開	カースト、宗教、言語、人種などに基づく多様な社会集団から構成される大国インドにおいて、国民を「インド人」として統合するために採用された政治制度の一つが、連邦制である。インドの連邦制は、準連邦制と呼ばれるように中央集権的性格の強い連邦制であるものの、地方(州)政府の権限の強さが中央政府に対抗しうる地方権力の出現を支えた側面は否めない。本章においては、インド連邦制の起源を植民地時代にまで遡りその特徴を明らかにした上で、独立後の中央・州関係の展開を連邦制を通じて分析することを目標とする。 【キーワード】 連邦制、準連邦制、中央・州関係、地域政党、競合的多党制	中溝和弥(京都大学准教授)	中溝和弥(京都大学准教授)
8	インドにおける農村の政治と民主主義	2001年の時点で人口の約72%が農村に居住する農業国インドにおいて、政治権力の構成に大きな影響力を持っていたのは、農村票であった。農村と言っても、農村社会には上位カーストの大地主から指定カーストの農業労働者まで存在し、階級・階層の大きな違いが存在した。このような格差の大きな社会に導入された民主主義、そして地方自治制度は農村社会の権力構造をどのように変えたのだろうか。農村社会の変化は、インドの政治にどのような影響を及ぼしたのだろうか。本章では、これらの問いを念頭に置きながら、インドの最貧州の一つであるビハール州の事例に基づき農村の民主主義について学習することを目標とする。 【キーワード】 農村社会、カースト制、階級構造、民主主義、中間層の台頭、下克上	中溝和弥(京都大学准教授)	中溝和弥(京都大学准教授)
9	現代南アジアの国際政治—その見取り図とインド外交	南アジアの国際政治の特色。ガリバー的なインドの存在と周辺国という構図、米国や中国などの域外主要国は南アジアにどのような関心と狙いを持つのか。インド洋が現代国際政治に持っている意義は何か。 【キーワード】 インドの中心性、インドと周辺国の関係、印パ関係、カシミール問題、SAARC(南アジア地域協力連合)、印米関係、印中関係	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
10	なぜインドとパキスタン は対立するのか？ ーカシミールをめぐる 戦い	戦争や紛争を繰り返し、核を持って対峙するに至ったインドとパキスタン(印パ)両国の関係について、旧カシミール藩王国と印パ分離独立という歴史の重みから学習するとともに、分断されたカシミールのうち、インド側カシミールで続いていた中央政府と分離勢力の紛争の要因を明らかにする。 【キーワード】 印パ関係、分離独立、藩王国、カシミール問題、印パ戦争、カルギル紛争、2001-02年危機、ジャンムー・カシミール州、和平プロセス	伊藤 融(防衛大学校准教授)	伊藤 融(防衛大学校准教授)
11	パキスタン軍と印パ の核問題	パキスタンではインドと異なり、たびたびクーデターが起きるなど、軍が政治に大きな影響力を行使してきた。そうした背景のもとで、核開発や反印活動支援が進められてきたことを学んだうえで、これらの政策がパキスタンを安全にしたといえるのかどうかを考える。 【キーワード】 印パ関係、パキスタン軍、クーデター、核開発、核の闇市場、テロ、タリバーン、アフガニスタン、戦略的縦深性、核抑止	伊藤 融(防衛大学校准教授)	伊藤 融(防衛大学校准教授)
12	南アジア東部地域の 動きーインド北東地 域・バングラデシュ・ ネパール・ブータン	アッサム州などインド北東地域を間に、バングラデシュ、ネパール、ブータンが位置する南アジア東部。インドと中国という二つの大国の狭間にあるこの地域の固有の歴史、現在、未来について、民主化の動きを中心に概観します。 【キーワード】 インド北東地域、バングラデシュ、ネパール、ブータン、インド、中国、民主化、王制、不法移民、コネクティビティ	村山真弓(日本貿易振興機構アジア経済研究所 新領域研究センター次長)	村山真弓(日本貿易振興機構アジア経済研究所 新領域研究センター次長)
13	スリランカの政治と外 交	前半では、スリランカの政治制度、政党政治、民族問題などについて検討する。スリランカでもインドと同じく、民主主義的な制度や手続きが維持されているが、その一方で、スリランカでは民主主義がある程度機能しているがために、民族対立がかえって激化してしまっているという側面もある。後半では、スリランカと近隣諸国との関係の中でも特に、スリランカとインドとの関係と、スリランカと中国との関係について検討する。 【キーワード】 スリランカ、統一国民党、スリランカ自由党、執行大統領制、スリランカの民族問題、タミル・イーラム解放のトラ、スリランカとインド、スリランカと中国	三輪博樹(放送大学客員准教授)	三輪博樹(放送大学客員准教授)
14	南アジアの地域協力 ー繁栄と平和の礎 か？	紛争を繰り返してきた南アジアにおける地域協力枠組み、南アジア地域協力連合(SAARC)がいかなる経緯から誕生し、今日までいかなる成果を残してきたかを紹介したうえで、その可能性と限界を探索。とくに地域紛争と地域協力の関係や、地域覇権国インドの姿勢に焦点を当てる。 【キーワード】 南アジア地域協力連合(SAARC)、地域紛争、地域協力、平和、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ	伊藤 融(防衛大学校准教授)	伊藤 融(防衛大学校准教授)
15	日本とインド・南アジ アの関係	明治時代に始まる日本と南アジア諸国(特にインドとの関係)。第二次世界大戦を経て、日本と南アジアはどのような関係を持つに至ったのか。日本の戦略的な南アジア関心とは何か。今後の日本・南アジア諸国との関係はどのように展望できるか。 【キーワード】 仏教、日印関係、原綿、鉄鉱石、ボース、東京裁判とパル判事、中国要因と日印関係	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)	堀本武功(放送大学客員教授・京都大学大学院特任教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639200	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ マーケティング（'13）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：橋田洋一郎（専修大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：須永努（関西学院大学准教授）〕

【本学担当専任教員：齋藤正章（放送大学准教授）】

講義概要

マーケティングと一口に言っても、そこで扱われる範囲は多岐にわたっている。製品、価格、流通、プロモーションというマーケティング・ミックスの問題だけでなく、戦略的マーケティング、リサーチ、消費者行動、サービス・マーケティングなどのトピックも含まれてくる。本講義ではこのようなマーケティングの広がりをつかりやすい事例でもって説明していきたい。講義の終わりでは近年の関心事にもなっているブランド戦略、ソーシャル・マーケティング、リレーションシップ・マーケティングの在り方についても触れていく。

授業の目標

マーケティングの担い手の中心はもちろん企業であるが、企業以外の組織や消費者などにおいてもマーケティングの考え方を活用することができる。本科目ではビジネスの枠だけに留まらないマーケティングの広い視座を獲得するのが目標となる。

履修上の留意点

「経営学入門（'12）」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	マーケティングとは	マーケティングとは何だろうか。ここではマーケティングを理解するためにセリング（販売）と対比させうえて、中心となるマーケティング・コンセプトを見ていく。また、マーケティングの適用範囲についても考えていく。 【キーワード】 マーケティングとセリングの違い、マーケティング・ミックス、マーケティング・コンセプト、マーケティング・マイオピア	橋田洋一郎 (専修大学准教授)	橋田洋一郎 (専修大学准教授) 須永努 (関西学院大学准教授)
2	顧客価値と顧客満足	マーケティングにおける顧客価値および顧客満足の考え方について説明する。顧客価値の構成要素や顧客満足の形成メカニズムを理解し、顧客価値を高める方法、現代の顧客満足度の特徴などについて考察する。 【キーワード】 顧客価値、顧客満足(CS)、期待不一致	須永努 (関西学院大学准教授)	須永努 (関西学院大学准教授)
3	戦略的マーケティング	マーケティングにおける競争の次元はどのようなものか理解したうえで、5つの競争要因(five forces)、ポートフォリオ分析、SWOT分析など戦略的マーケティングにおける主要な分析ツールについて説明する。 【キーワード】 5つの競争要因、ポートフォリオ分析、SWOT分析、成長ベクトル	須永努 (関西学院大学准教授)	須永努 (関西学院大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	セグメンテーション、 ターゲティング、ポジ ショニング	マーケティングの定石とも言えるSTP(セグメンテーション、 ターゲティング、ポジショニング)について説明する。市場細 分化の考え方や標的市場に対するアプローチ方法、ポジ ショニングの重要性について指摘する。 【キーワード】 STP、市場細分化、無差別型マーケティング、差別化型 マーケティング、集中型マーケティング	須永努 (関西学院大 学准教授)	須永努 (関西学院大 学准教授)
5	マーケティング・リ サーチ	漠然とアンケートを実施して回収し、集計をしても、有益な 結果は通常得られない。ここでは、データの種類やデータ 収集の方法など、マーケティング・リサーチを行う上で知っ ておくべき基本的な事柄、およびデータ分析の基礎知識に ついて説明する。 【キーワード】 1次データ、2次データ、標本抽出、測定尺度	須永努 (関西学院大 学准教授)	須永努 (関西学院大 学准教授)
6	消費者行動	消費者ニーズの充足、顧客満足度の向上を目指すマー ケティングにとって、消費者を理解することは不可欠であ る。ここでは、消費者の心理的なメカニズムに焦点を当て、 消費者行動の基本原則について説明する。 【キーワード】 消費者知覚、情報処理モデル、購買意思決定プロセス、購 買行動	須永努 (関西学院大 学准教授)	須永努 (関西学院大 学准教授)
7	製品戦略	マーケティングは製品を中心にして進められることが多 い。ここでは製品を捉える際の基本となる製品ミックスの概 念を紹介した後、新製品開発のプロセスを見ていく。さらに 製品ライフサイクル、参入順位、共同開発といったトピックに も触れる。 【キーワード】 製品ミックス、新製品開発のプロセス、製品ライフサイクル、 参入順位、共同開発	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)
8	価格戦略	いかにして、どのような価格を設けるべきだろうか。ここ では価格設定の方法について消費者、競争、コストの3つの 側面から考えていく。また、価格変化によって販売量が左 右される際の価格弾力性という概念にも触れる。 【キーワード】 価格弾力性、消費者にもとづく価格設定、競争にもとづく価 格設定、コストにもとづく価格設定	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)
9	流通戦略	スーパー、ドラッグストア、コンビニエンス・ストアなどは、い ずれも流通業者であると言える。多くの流通業者がいかに 分類され、どのような特徴を持っているのか説明する。とりわ け流通を捉える際に重要となるパワーとコンフリクトの考え 方について学ぶ。 【キーワード】 流通業者、3つの流通政策、垂直的マーケティング・システ ム、集中度、パワーとコンフリクト、延期一投機	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)	橋田洋一郎 (専修大学准 教授)
10	プロモーション戦略	マーケティング・ミックスの一要素であるプロモーションに 焦点を当て、主要なプロモーション方法(広告、パブリシ ティ、販売促進、人的販売)の特徴を理解する。また、値引 きなどの販売促進が生じる効果についても検討する。 【キーワード】 プロモーション・ミックス、広告、パブリシティ、販売促進、人 的販売	須永努 (関西学院大 学准教授)	須永努 (関西学院大 学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	マーケティング・コミュニケーション	マーケティングとコミュニケーションは密接に関係している。ここでは、コミュニケーションとは何かを理解した上で、消費者がコミュニケーションにどのように反応するのか、マーケティング・コミュニケーションはどうあるべきかを説明する。 【キーワード】 コミュニケーション・モデル、コミュニケーションの反応モデル、統合型マーケティング・コミュニケーション、プッシュとプル	須永努 (関西学院大学准教授)	須永努 (関西学院大学准教授)
12	サービス・マーケティング	無形のサービスについては有形の製品とは異なったマーケティングが求められる。ここでは数多く存在するサービスを分類し、その特性と戦略の在り方を考えていく。さらに、サービス業に見受けられる3つのマーケティングについて説明する。 【キーワード】 サービスの分類、サービス業の3つのマーケティング、サービスの5つの特性、サービスのマーケティング戦略	橋田洋一郎 (専修大学准教授)	橋田洋一郎 (専修大学准教授)
13	ブランド戦略	マーケティングにおけるブランドの重要性について説明する。特にブランドを形作るブランド要素、特定のブランドを他の製品にも用いるブランド拡張、ブランドの資産価値を表すブランド・エクイティなどを紹介していく。 【キーワード】 ブランド要素、ブランド拡張、ブランド・エクイティ、ブランド・コミュニティ、地域ブランド	橋田洋一郎 (専修大学准教授)	橋田洋一郎 (専修大学准教授)
14	ソーシャル・マーケティング	ソーシャル・マーケティングで言及されるのは、非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティングである。社会志向のマーケティングに関しては、さらに社会責任のマーケティングと社会貢献のマーケティングを説明していく。 【キーワード】 非営利組織のマーケティング、社会責任のマーケティング、社会貢献のマーケティング、CSRマーケティング、コンシューマリズム	橋田洋一郎 (専修大学准教授)	橋田洋一郎 (専修大学准教授)
15	リレーションシップ・マーケティング	取引を中心とする考え方から、関係性を中心とする考え方へとマーケティングは進化してきた。ここでは、顧客との関係性を重視するリレーションシップ・マーケティングの考え方について説明する。 【キーワード】 顧客関係性のレベル、市場シェアと顧客シェア、リレーションシップ・マーケティング	須永努 (関西学院大学准教授)	橋田洋一郎 (専修大学准教授) 須永努 (関西学院大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	多国籍企業の参入戦略 -M&Aとは何か-	合併・買収などによって他企業の経営権を取得する、いわゆる、M&A (mergers and acquisitions) がわが国の企業でも一般化している。M&Aには、新技術やノウハウなどの経営資源を自社開発する代わりに既にそれを保有している企業を買収することによって時間と労力を節約できるところにその積極的な意義が認められる。M&Aの意義と企業の対応についての内容を理解する。 【キーワード】 M&A、吸収合併、敵対的企業買収、ポイズン・ピル、信託型ライツ・プラン、ホワイト・ナイト	齋藤正章 (放送大学 准教授)	齋藤正章 (放送大学 准教授)
5	多国籍企業と知識・技術・イノベーション	多国籍企業が経営資源を蓄え、高度化するための方法としての知識管理について、その考え方を説明する。記号、情報と知識との関係、ポランニーの『個人的知識』、暗黙知と形式知、創発といった概念を説明し、多国籍企業の活動との関連を説明する。また、暗黙知依存の危険性や集合知といった知識管理の近年の発展についても概説し、多国籍企業とイノベーションとの関係を学ぶ。 【キーワード】 記号、情報、知識、暗黙知、創発、形式知、知識創造理論、暗黙知依存の危険性、集合知	洞口治夫 (法政大学 教授)	洞口治夫 (法政大学 教授)
6	移転価格	経済活動がグローバル化していくことにより、日本企業とその国外関連者との移転価格に関する問題については、ますます、大型化、複雑化していくことになると予測される。そこで、本章では移転価格の問題を検討・整理する。 【キーワード】 移転価格税制、独立企業間価格、独立価格比準法、再販売価格基準法、原価基準法、事前確認制度 (APA)	齋藤正章 (放送大学 准教授)	齋藤正章 (放送大学 准教授)
7	国際経営と外国為替レート	多国籍企業の参入形態が異なるのに応じて、為替レートの変化は異なった影響を与える。円高・円安など為替レートの変動がどのような理由によって起こるのかについての学説を紹介する。購買力平価、金利平価などの説明のほかに、ランダムウォークの説明では、ブラウン運動とウィーナー過程についても触れ、オーバーシュートとニュースの役割について説明する。 【キーワード】 購買力平価、ビッグマック指数、金利平価、ランダムウォーク、オーバーシュート、ニュースの影響	洞口治夫 (法政大学 教授)	洞口治夫 (法政大学 教授)
8	国際経営とリスク・リアルオプションと投資の意思決定	為替の直物、先物、オプションについて理解する。為替の先物を利用した投機が生まれるメカニズムについて説明したのち、オプションが先物の保険としての役割を果たすことを理解する。さらに、オプションの応用として発達してきたリアル・オプションの考え方による投資意思決定についても説明する。合弁事業、ライセンス、フィージビリティ・スタディといった活動がリアル・オプションとしての役割を果たし、国際経営リスクへの対処方法となっていることを説明する。 【キーワード】 直物と先物、投機、ヘッジファンド、オプション、ブラック＝ショールズ・モデル、リアルオプション、延期、フィージビリティ・スタディ	洞口治夫 (法政大学 教授)	洞口治夫 (法政大学 教授)
9	資金調達の国際化	企業活動がグローバル化していくと、それに応じて資金調達もグローバル化してくる。つまり、金融市場のグローバル化である。各国の金融市場は真の国際化を余儀なく迫られる。金融市場の国際化の現状と将来について解説する。 【キーワード】 国際金融取引、国際金融市場、フリー・フェア・グローバル、金融商品会計基準、デリバティブ取引、先物取引、先渡取引、オプション取引、スワップ取引、ヘッジ取引	齋藤正章 (放送大学 准教授)	齋藤正章 (放送大学 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	会計の国際化	国際的金融市場へむけての整備は、企業活動の透明性・比較可能性を高めるための世界共通の会計基準の開発を必要とする。「単一の高品質な一組の会計基準」すなわち国際会計基準が必要とされる背景とその内容について解説する。 【キーワード】 国際財務報告基準(IFRS)、国際会計基準審議会(IASB)、米国財務会計基準審議会(FASB)、企業会計基準委員会(ASBJ)、コンバージェンス、東京合意	齋藤正章 (放送大学 准教授)	齋藤正章 (放送大学 准教授)
11	産業空洞化と産業集積	日本において産業空洞化が進展しているといわれて久しい。生産機能のみならず、研究機能、本社機能までも海外に移転する日本企業が出現している。国の競争優位の源泉である知識フローや地域イノベーションと関連の深い「産業クラスター論」「ローカル・ミリュー論」を含めて学習する。 【キーワード】 産業空洞化、ポーター、産業クラスター、ローカル・ミリュー、ものづくり	原田順子 (放送大学 教授)	原田順子 (放送大学 教授)
12	人材の国際化と地域特性	経済活動の国際化が進むとともに、人材の国際化も進展している。しかし人は文化、地域特性などに影響をうける。本章では多文化と経営について解説する。 【キーワード】 ソフトウェア・オブ・ザ・マインド、異文化シナジー効果、企業文化	原田順子 (放送大学 教授)	原田順子 (放送大学 教授)
13	日本的人的資源管理と国際化	人材の国際化が効果的に行われるか否かは、企業業績に密接に関連する重要なことからである。人的資源管理の枠組みにおいて、日本企業の人的資源管理について国際化の観点から学ぶ。 【キーワード】 日本的職務観、長期雇用、内部育成、評価システム	原田順子 (放送大学 教授)	原田順子 (放送大学 教授)
14	国際人材の育成	国際人材の育成にはどのような課題があるのだろうか。産業人材育成の考え方は国によって異なるのだろうか。人材面から国際化のパターンを学習し、多国籍企業の人的資源管理の諸課題について解説する。 【キーワード】 社会的文脈、MBA、職業資格、多国籍企業、グローバル企業	原田順子 (放送大学 教授)	原田順子 (放送大学 教授)
15	行政と国際経営	国際的な制度の整備や、貿易・投資の促進・支援など、民間企業の国際経営を促進するための行政(国、地方自治体)の役割について包括的に論じる。 【キーワード】 対外経済(通商)政策、WTO、FTA/EPA、TPP、公企業、政府系ファンド、民営化	原田昌彦 (三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング主任研究員)	原田昌彦 (三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング主任研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639323	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 管理会計 （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [Management Accounting ('14)]

〔主任講師（現職名）： 齋藤正章（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：

講義概要

管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。

授業の目標

管理会計の意義や役立ちについて理解し、意思決定と業績評価という2つの役割に資する管理会計情報の生成と利用について習得する。

履修上の留意点

理解を深めるために、電卓等を脇に置き、実際に手を動かして体で覚えるように努めてほしい。各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	管理会計総論 ー管理会計情報の役立ちー	管理会計の意義と目的 企業の目的とエイジェンシー問題 経営管理プロセスと管理会計の実践主体 意思決定プロセスと管理会計の体系 会計情報基準 財務会計との相違点 【キーワード】 管理会計情報、エイジェンシー問題、意思決定プロセス、経営管理プロセス	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
2	原価の諸概念と原価 計算の基礎	原価の諸概念 全部原価計算 個別原価計算 総合原価計算 直接原価計算 【キーワード】 形態別分類、製品との関連による分類、製造間接費、配賦	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	原価の測定と原価情 報の活用(1) ー標準原価計算ー	標準原価計算の意義 標準原価計算の目的 標準原価計算の手続き 標準原価の分類 原価差異の算定と分析 【キーワード】 標準原価、原価標準、許容標準原価、原価差異	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	原価の測定と原価情報の活用(2) ー活動基準原価計算と品質原価計算ー	活動基準原価計算の意義 活動基準原価計算の目的 活動基準原価計算の手続き 活動基準管理 【キーワード】 活動基準原価、コストプール、コストドライバー、ABCとABM	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	原価の測定と原価情報の活用(3) ー意思決定のための原価分析ー	機会原価・埋没原価 CVP分析 在庫管理 品質原価計算 【キーワード】 機会原価、埋没原価、CVP分析、損益分岐点比率、在庫管理、品質原価計算	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	予算管理システム	予算の意義と体系 予算編成のプロセス 予算システムと組織設計 予算と実績の差異分析 予算の反機能とエイジェンシー・コスト 【キーワード】 予算、予算システム、組織設計、差異分析、予算の反機能、エイジェンシー・コスト	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
7	資本予算(1) ー投資決定ルールー	資本予算の意義と目的 貨幣の時間価値 将来価値と現在価値 現在価値法と内部利益率法 投資案の順位づけ その他の投資決定ルール 【キーワード】 貨幣の時間価値、将来価値、現在価値、NPV法、内部利益率法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	資本予算(2) ー資本コストー	資本コストの意義 源泉別資本コスト 加重平均資本コスト 部門別資本コスト 【キーワード】 資本コスト、源泉別資本コスト、加重平均資本コスト、部門別資本コスト	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	業績指標の選択	企業の目的と業績評価指標 企業価値と株主価値 株主価値を映し出す業績指標 【キーワード】 会計的利益率法、回収期間法、株主価値、EVA、MVA	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	株主価値を高める事業戦略	企業価値に適合する業績指標 EVAを増加させる4つの類型 リストラの経済分析 【キーワード】 NOPAT、企業価値、業績指標、EVA、リストラ戦略	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	部門別業績管理	責任会計と責任センター コスト・センターの業績管理 収益センターの業績管理 プロフィット・センターの業績管理 インベストメント・センターの業績管理 管理可能性原則と情報有用性原則 【キーワード】 責任会計、責任センター、コスト・センター、収益センター、 プロフィット・センター、インベストメント・センター、管理可能性原則	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
12	振替価格	事業部間取引と振替価格 振替価格の実務的ルール 市場価格 限界費用 【キーワード】 内部振替価格制度、事業部間取引、振替価格、市場価格	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	非財務情報の活用	非財務情報の重要性 バランスト・スコアカード 業績指標と報酬システム 【キーワード】 先行指標、事後的指標、BSC、学習と成長の視点	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	意思決定会計の理論	意思決定モデル 予測情報の価値 決定権限の配分とコントロール・システム デシジョン・マネジメントとデシジョン・コントロール 【キーワード】 デシジョン・マネジメント、デシジョン・コントロール、期待効用	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
15	業績管理会計の理論	分析の枠組み プリンシパル・エイジェント・モデル リスク・シェアリング 動機づけ 業績情報の価値 【キーワード】 プリンシパル・エイジェント・モデル、リスク・シェアリング、動機づけ、業績情報の価値	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1540726	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 初級簿記 （'10）＝（R）

〔主任講師（現職名）：齋藤 正章（放送大学准教授）〕

講義概要

簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。

授業の目標

まず、営業活動を理解する。続いて、これを仕訳→転記→検証→決算の順に従って正しく記録する方法を習得する。

履修上の留意点

簿記のルールはきわめて単純明快であり、その習得はさほど難しいものではないと思われる。簿記は技術であるので、ただ単に教科書を読んでいるだけではダメである。実際に手を動かして体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	簿記の意義と目的	簿記の目的や意義とその役割や種類について解説する。また、簿記の特徴やその沿革についても併せて説明する。 【キーワード】 帳簿記入、複式簿記、資本の循環過程、期間計算、勘定計算、スンマ、帳合之法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
2	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書について解説し、その構成要素である資産・負債・純資産、収益・費用について説明する。さらに、財産法と損益法という2つの利益計算法を明らかにする。 【キーワード】 貸借対照表、損益計算書、資産・負債・純資産、収益・費用、財産法、損益法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	勘定記入と仕訳・転記	簿記における取引の定義を示し、勘定および勘定記入のルールについて述べる。さらに具体的な取引の記録方法である仕訳と転記について解説する 【キーワード】 勘定、借方、貸方、会計取引、取引要素の分解、仕訳、転記、仕訳帳、元帳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	試算表の作成と帳簿決算	仕訳帳、元帳へののが正しかったかどうかを確認するための合計残高試算表について解説し、続いて決算手続きまでの一連の流れについて説明する。 【キーワード】 合計残高試算表、合計試算表、残高試算表、損益勘定、振替仕訳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	現金・預金に関する記帳処理	今回より具体的な勘定科目の記帳処理方法に関する解説を行う。まず、貸借対照表の資産項目である現金・預金の定義およびその記帳処理について説明する。 【キーワード】 現金、通貨代用証券、小切手、郵便為替証書、当座預金、当座借越、現金過不足	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	商品売買に関する記帳処理(1)一分記法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である分記法について、その短所と長所について説明する。また、商品有高帳についても説明する。 【キーワード】 分記法、商品勘定、商品売買益勘定、値引、返品、商品有高帳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
7	商品売買に関する記帳処理(2)三分法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である三分法について、その短所と長所について説明する。 【キーワード】 三分法、仕入勘定、売上勘定、繰越商品勘定	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	売掛金・買掛金に関する記帳処理	商品売買において重要な勘定科目である売掛金と買掛金について解説する。また、統括勘定、貸倒れの処理についても説明する。 【キーワード】 売掛金、買掛金、統括勘定、貸倒損失、貸倒引当金、償却債権取立益	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	その他の債権・債務に関する記帳処理	営業外取引に関する債権・債務について、その内容と記帳処理について解説する。 【キーワード】 営業外取引、未収金、未払金、貸付金、借入金、仮払金、仮受金、立替金、預り金	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	手形に関する記帳処理	まず、手形について説明し、貸借対照表の資産の部に記載される受取手形と負債の部に記載される支払手形の記帳処理について解説する。その他、営業外手形や金融手形、手形の決済や不渡時の処理等についても言及する。 【キーワード】 受取手形、支払手形、営業外手形、金融手形、手形の決済、手形の不渡	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	有価証券および 固定資産に関する記 帳処理	貸借対照表の資産項目である有価証券について、その分類、取得価額と評価方法、評価基準等について解説し、有価証券売買の記帳処理について説明する。また、固定資産の取得、減価償却、売却についても併せて解説する。 【キーワード】 有価証券、固定資産の取得、減価償却、固定資産の売却	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
12	純資産および収益・ 費用に関する記帳処 理	貸借対照表を構成する純資産に関する諸取引の記帳処理について解説する。また、損益計算書を構成する収益・費用の認識・測定についても説明する。 【キーワード】 資産・負債・純資産、収益・費用、貸借対照表、損益計算書	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	決算の簿記	第4回の決算手続きについて復習し、それから精算表の作成方法について述べ、一連の決算予備手続に関する説明する。また、決算本手続(決算仕訳と帳簿締切)について解説する。 【キーワード】 精算表、決算予備手続、決算本手続、決算仕訳、帳簿締切	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	財務諸表の作成	これまでの決算手続きを受けて、財務諸表の作成について解説する。また、財務諸表作成を取りまく会計諸法規についても説明する。 【キーワード】 財務諸表、企業会計原則、会社法、金融商品取引法、法人税法、国際会計基準	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
15	帳簿組織	帳簿システムの意義について触れ、補助記入帳、補助元帳、伝票会計について解説する。 【キーワード】 補助記入帳、補助元帳、伝票会計	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548425	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = ファイナンス入門 (' 1 2) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 齋藤正章(放送大学准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 阿部圭司(高崎経済大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 】【

講義概要

好むと好まざるに関わらず、ファイナンスは私たちの暮らしと密接な関係を持っている。たとえ会社勤めをしていなくても、である。その一方で、「お金の話はちょっと・・・」と敬遠する人が多いのも事実である。本科目は、より多くの人にファイナンスをより身近に感じ、理解してもらうことを目的としている。そのために、①ファイナンスと市場(第2～7回)、②ファイナンスと企業(第8～12回)、③ファイナンスと情報(第13回～15回)という3つのテーマで講義を構成し、内容の充実と理解の促進を図っている。

授業の目標

ファイナンスの理論は、ノーベル経済学賞を数多く受賞しています。一例を挙げれば、ポートフォリオ理論、CAPM、MM理論、ブラックショールズモデル、行動ファイナンスがあります。これら理論のエッセンスは、各回で紹介されます。こうした理論を身につけ、避けることが出来ない経済社会での活動に関する理解を深めることを目標としています。

履修上の留意点

日頃読み飛ばしている新聞や雑誌等の経済記事に関心を持ちましょう。また、計算式が出てきたら、自分でも解いて確認してみましょう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ファイナンス概論	ファイナンスとは何か。ファイナンスは私たちの暮らしと密接な関係を持っている。本章ではファイナンスと経済・社会との関係を概観し、ファイナンスを学ぶ意義について確認する。 【キーワード】 企業活動、投資家(家計)、市場(マーケット)、間接金融、直接金融、金融機関	齋藤正章(放送大学准教授) 阿部圭司(高崎大学教授)	齋藤正章(放送大学准教授) 阿部圭司(高崎大学教授)
2	時間の価値と割引現在価値	今日の1万円と1年後の1万円は同じ価値を持たない。それは時間の価値が反映されるべきだからである。時間の価値を表象したものが金利である。金利を用いてわれわれは現在の価値を将来の価値へと変換可能となる。逆に金利を使って将来の価値を現在の価値へと変換することもできる。本章ではファイナンスにおける重要な概念である時間の価値と割引現在価値の関係、およびその応用として株式や債券の理論価格について学ぶ。 【キーワード】 時間の価値、金利、割引計算、割引現在価値	阿部圭司(高崎大学教授)	阿部圭司(高崎大学教授)
3	リスクとリターン	将来、どのような出来事が起こるかは不確実である。その結果、経済的な不利益が生じることもあり、これをリスクという。本章では一般的なリスクを定義すると同時に、ファイナンスで扱うリスクの特徴について説明する。本章ではリスクとその報酬たるリターンの関係と計測方法について学び、無差別曲線によるリスク資産の選択を考察する。 【キーワード】 リスク、リターン、期待値(平均値)、分散・標準偏差、無差別曲線	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ポートフォリオのリターンとリスク	複数の資産からなる資産全体をポートフォリオと呼ぶ。ポートフォリオへ分散投資することによりポートフォリオ全体のリスクを減少させることができることが知られている。本章ではこのポートフォリオのリターンとリスクの持つ性質について学び、最適なポートフォリオ選択とは何かを考える。 【キーワード】 ポートフォリオ, 分散投資, 投資機会集合, 有効フロンティア, 共分散, 相関係数, ポートフォリオのリスクとリターン	阿部圭司(高崎大学教授)	阿部圭司(高崎大学教授)
5	CAPM－資本資産評価モデル	市場が正しく機能しているとき、資産のリターンはそのリスクに応じて決定される。資本資産評価モデル(Capital Asset Pricing Model :CAPM)は市場の均衡状態において資産のリスクとリターンの関係を明らかにしたモデルである。本章ではリスク指標あるベータをはじめとしたCAPMの含意について学ぶ。 【キーワード】 環境変化とその分類、外部環境と内部環境、環境分析	同上	同上
6	デリバティブ－派生証券－(1)	デリバティブとは派生証券とも呼ばれ、その価格が株式や債券など、別の資産の価格に依存して変動する性質を持つ資産のことを総称したものである。デリバティブには仕組みや計算が難しい、リスクが大きく投機性があるなどのイメージがあるが、その本質は意外に簡単に便利な道具でもある。本章では先物取引、オプション取引など基本的なデリバティブの種類と性質について学ぶ。 【キーワード】 先物取引, スワップ取引, オプション取引	同上	同上
7	デリバティブ－派生証券－(2)	デリバティブは本来、投機ではなくリスクヘッジの道具である。本章では先物やオプションを用いたヘッジの仕組みや投資手法、さらにデリバティブの評価方法について学ぶ。 【キーワード】 先物取引, オプション取引, ヘッジ	同上	同上
8	資金調達	企業は事業活動を行うために資金を調達しなくてはならない。この資金調達源が企業内部にあるか外部にあるかで、内部金融と外部金融に分けられ、さらに外部金融は直接金融と間接金融に分類される。また、内部金融等その他の金融手段についても解説する。 【キーワード】 資本市場, 外部金融, 直接金融, 株式発行, 銀行, 借入金, 企業間信用, 内部金融	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)
9	財務諸表と財務業績の測定	資金の調達と運用の結果である財務諸表(貸借対照表, 損益計算書, キャッシュフロー計算書)について学ぶ。さらに、財務諸表の分析手法についても学習する 【キーワード】 貸借対照表, 損益計算書, キャッシュフロー計算書, 収益性の分析, 安全性の分析, 効率性の分析	同上	同上
10	資本コスト	資本コストとは、企業側から見れば、資金(資本)を調達するためのコストであると解釈される。また、出資者側から見れば、差し出す資金に対する見返りであるとも考えられる。第3回で紹介した割引計算の割引率にも資本コストが利用される。資本コストの概念はファイナンス理論において最重要であると同時にわかりづらい側面もある。本講義では、この資本コストについて明らかにする。 【キーワード】 資本コスト, 株式資本コスト, 負債資本コスト, 加重平均資本コスト(WACC), MM理論	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
11	資金運用 ー投資決定ルールー	企業では調達した資金を効率よく運用(経営)することが求められる。そのための投資意思決定の理論について学ぶ。 【キーワード】 代替案, 機会原価, 内部利益率法, 現在価値法	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)
12	企業価値評価	企業価値とは, 将来の企業の経営活動の成果を映し出すものに他ならない。これまでの議論をもとに企業価値評価の技法について学習する。 【キーワード】 キャッシュフロー, 配当割引モデル, 企業付加価値(EVA)	同上	同上
13	情報非対称	市場における参加者が持つ情報に差がある、つまり当事者間に情報格差があるとき、情報の非対称性が存在するという。情報の非対称性によって、情報優位者は情報不利者の犠牲のもと、自身にとって有利な取引結果を引き出すことができる。本講義では、その問題点を指摘し、解決策を考察する。 【キーワード】 情報非対称, 代理関係, モラル・ハザード, アドバース・セレクション	同上	同上
14	市場と情報	市場で価格が変動するのは資産価値の見通しが変化するからであり、それをもたらすのは新情報である。本章では情報が市場で公表された際に、価格はどのように変化するのか、価格に織り込まれるスピードを観察することにより、情報と市場との関係を考察する。 【キーワード】 市場効率性, イベントスタディ, アノマリー, 行動ファイナンス	阿部圭司(高崎大学教授)	阿部圭司(高崎大学教授)
15	ファイナンスと今日的課題	市場とは本来、市場参加者の自由に委ねられるべきものである。しかし、需要と供給に基づいた単純なルールでは、不都合を生じるようになるのも事実である。現代の市場がどのような変容を繰り返し、それに対応する形でどのように規制も変化してきたのかについて学び、これからの市場と規制のあり方について考える。また、比較的新しい技法であるリアル・オプションについても紹介する。 【キーワード】 証券市場, 市場に対する規制, M&A, 経営上の柔軟性	齋藤正章(放送大学准教授) 阿部圭司(高崎大学教授)	齋藤正章(放送大学准教授) 阿部圭司(高崎大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548433	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ケースで学ぶ現代経営学 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：小倉行雄（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤善信（関西学院大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

今日の企業経営について受講者が実際に把握できるようにする。このため、経営戦略やマーケティングの枠組み、あるいは財務計数情報はいかに用いるかなど、今日の企業が抱える実践的課題に即して講義する。また、特定企業に焦点をあてた本格的なケースから課題を解くためのミニ・ケースなど、多様なケースも織り交ぜて講義する。

授業の目標

今日の企業が抱える実践的課題に即して学ぶ。これにより、受講者が現実の経営課題はどのような構造をなしているかつかみややすくする。また、各自が経営課題に立ち向かう際、そうしたことを自らの力で解く経験の一助にしたい。

履修上の留意点

「経営学入門('12)」により、企業経営に関する基礎的な見方を身につけた上での受講が望まれる。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	実践課題から経営を理解する	経営のような実践的世界で物事をつかむには、理論的なアプローチだけでなく、現実から出発する実践経営的なアプローチも有効である。そこではケース手法が有力なツールになる。これを踏まえ、理論と現実を関連づけて理解する。また、今日の企業が行きあたる経営課題を実践経営の学びの中に位置づける。 【キーワード】 実践経営的なアプローチ、ケースメソッド、ケース的手法、戦略展開の手順化、戦略の見える化、見通しと構想を持つ、構造変化、創造的な解決	小倉行雄(放送大学教授)	小倉行雄(放送大学教授)
2	ビジネスフレームワークの理解	各種のビジネスフレームワークを理解し、今日の企業課題を実践的に解くための一助にする。 【キーワード】 PEST分析、3C、5F分析、SWOT分析、成長マトリックス、4P、4C、ライフサイクル、ライフサイクル戦略	同上	同上
3	製品開発と市場優位の獲得	市場において優位性を獲得するための有力な方策である製品開発について検討する。 【キーワード】 製品開発の手順、開発の手がかり、開発方式の類型化	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	市場と顧客の変化に対応するマーケティング	市場や顧客はどのように変化しているか。それにより、業界の勢力図はどう変化するか。そこで、どのようなマーケティング手法が有効となるか。 【キーワード】 関係性マーケティング(CRM)、データベースマーケティング、インターネットマーケティング、デジタルマーケティング	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)
5	戦略的コストダウンの方法	今日のコストダウンは、どのように理解すべきか。コストダウンの主要な方法を検討する。また、主要企業におけるコストダウンの実際事例も検討する。 【キーワード】 源流からのコストダウン、コストのつくり込み、許容原価、生産方式の転換、部品点数削減、部品の共通化、集中購買、海外調達、拠点の再編	小倉行雄(放送大学教授)	小倉行雄(放送大学教授)
6	グローバル化への対応	海外進出はどのようなプロセスを経て進むか。海外進出する企業のタイプ分け、海外で成功するための要件などを検討する。 【キーワード】 ターゲット市場の特定、BOP、ハイコンテキスト文化、ローコンテキスト文化、5つの文化判断基準、国際企業組織の分類	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)
7	ヒューマン・パワーの育成	人を伸ばす組織は、競争優位性の基となる。こうした組織をつくるには職業能力の形成が重要である。人的資本に関する理論的フレームワーク、マクロ的フレームワークを学習する。さらに、現代企業の人材育成の方策と課題を解説する。 【キーワード】 Beckerの人的資本理論、一般的技能、企業特殊的技能、OJT、Off-JT、自己啓発、組織のフラット化	原田順子(放送大学教授)	原田順子(放送大学教授)
8	情報化対応とIT経営	経済社会の環境変化要因の何がIT経営を浮上させるのか。ITを活用する利点、メリットはどこにあるか。ITを活用して業務効率を飛躍的に向上させるためのポイントは何か。 【キーワード】 IT、ICT、CIO、IT経営力指標、IT経営ロードマップ、見える化、共有化、柔軟化	齋藤正章(放送大学准教授)	齋藤正章(放送大学准教授)
9	戦略的アライアンス経営	企業は競争しつつも、他方で提携、協調、協力の関係をつくりながら活動している。そこで、企業がとっているアライアンスという提携などの戦略に注目していきたい。戦略的アライアンスの考え方とその手法を具体的に説明する。 【キーワード】 戦略的アライアンスの意味、M&Aとの関連性、ライセンスリング、クロス・ライセンス、ジョイント・ベンチャー、アウトソーシング、サプライチェーン・マネジメント	齊藤毅憲(横浜市立大学名誉教授)	齊藤毅憲(横浜市立大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	低迷からの復活要因を探る	旭山動物園をケースに取り上げ、同園がなぜ低迷期から脱することができたのか、そして2004年以降、なぜ入園者数を激増させるようになったのかを考察する。 【キーワード】 顧客価値、サービス・マーケティングの3角形、人的資源開発、経験学習、PDCAサイクル、アプリシエイティブ・インクアイアリー(AI)、リーダーシップ	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)	佐藤善信(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)
11	いい会社とは何か	中堅優良企業の伊那食品工業を取り上げ、同社の長期持続的発展経営の中核となるものが何か明らかにする。 【キーワード】 成功のコア・セオリー、研究開発体制、市場開拓、企業成長マトリックス、日本型経営の長所と短所、上場を目指すしない経営	同上	同上
12	市場参入戦略を考える	目指す市場において圧倒的なシェアの上位企業が存在する場合、新規に市場参入するにはどのようなことが留意点となるか。これについて事業的な共通性は欠くが、ロングライフパンのパイオニア企業であるコモとFAセンサー市場で高収益を誇るキーエンスをケースとして取り上げる。 【キーワード】 マーケティング発想、事業コンセプト、市場の切り取り方、ニッチ市場のとらえ方、強みの源泉、「新製品」かソリューションか	同上	同上
13	衣料品専門店チェーンの経営 その1	実用衣料専門店チェーン企業のしまむらをケースとして取り上げ、財務的な側面も視野に入れながら、経営全体を取り扱う総合ケースとして検討する。本章は、その1である。 【キーワード】 デリーファッション、トレンドィー路線、仮説検証型経営、全量買い取り型の仕入れ、売り切り型のビジネス、パートの戦略化と活用、業務改善提案	小倉行雄(放送大学教授)	小倉行雄(放送大学教授)
14	衣料品専門店チェーンの経営 その2	本章では、路線転換をしたしまむらの経営において、なお変わらないものを明らかにする。このため、しまむらの基本戦略がどのような財務的特徴や財務構造と結びつくかみていく。 【キーワード】 ローコストな出店、店舗運営の標準化、現場からの情報発信・コミュニケーション、小売業の技術開発、現場から売上をつくり込む	同上	同上
15	公開情報から企業実態をつかむ	公開情報を基本にして企業実態をつかむ。公開情報からいい会社をつかむ方法を検討する。また、『会社四季報』を例にとり、その情報について経営的観点からの読みとりを行う。 【キーワード】 公開情報、いい会社、経営トップのあり方、事業のあり方、設立、事業構成、海外売上高比率、上場スピード、株主構成、外国人持株比率、従業員の平均年令・年収、業績欄、財務比率欄	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639277	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 組織運営と内部監査 （'13）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 齋藤正章（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 蟹江章（北海道大学大学院教授） 〕

※この科目は「組織運営と内部監査（'09）」の一部改訂科目です。
改訂回は第2，7，10，11，13，14，15回です。

講義概要

組織運営の成否を決めるのは内部監査の成否であると言っても過言ではない。本講義では、組織の外にいてはなかなか実感する機会がない内部監査について、その目的や手続きの実際について多面的に検討することによって、内部監査の重要性を理解することを目的とする。また、すでに組織運営に携わっている人には、内部監査についての再整理と新たな知見を与えるものと期待される。

授業の目標

内部監査は会計と同様、「縁の下の力持ち」的な存在である。組織運営が順調な時には、改めてそれを意識することはないが、一旦、不祥事等問題が生じたときには、その存在がクローズアップされるのである。しかし、問題が生じてからでは遅いのである。日頃から内部監査に対する意識を高め、それに磨きをかけることが大切である。本講義の目標は、内部監査の意義と役割を踏まえ、様々な組織における内部監査のあり方について理解を深めることにある。

履修上の留意点

本講義は経営や法律、会計、技術といった多面的な要素を含んでいるため、関連科目についても広く学ぶことが重要である。よって、「経営学入門」、「ケースで学ぶ現代経営学」、「企業・消費者・政府と法」、「社会のなかの会計」、「NPOマネジメント」といった科目の履修が望まれる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	組織運営における内部監査の重要性の高まり	組織は、活動後、その運営が目的に適ったものであったかどうかを確かめなくてはならない。あるいは、より積極的に事前にルールを踏み外すことがないように仕組みを作ることが重要である。これらの機能を担う内部監査の意義・内容について解説する。 【キーワード】 経営者の役割、コーポレート・ガバナンス、内部監査、経営環境の変化	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章 北海道大学 大学院教授 蟹江章
2	内部監査の歴史と内部監査基準 【改訂回】	内部監査はいつ発生し、どのように発展してきたか。内部監査の歴史について解説する。また、内部監査の指針となる国内外の内部監査基準についても説明する。 【キーワード】 内部監査人協会、国際基準、日本内部監査協会、内部監査基準	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
3	内部監査と法定監査	内部監査の役割を鮮明にするために、内部監査と法定監査(外部監査、監査役監査)の異同について考察する。また、この三様監査の役割と関係の変化について解説する。 【キーワード】 内部監査、外部監査、監査役監査	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	内部統制と内部監査	内部統制概念の変遷と法制化された財務報告に係る内部統制評価・監査基準について解説し、それと内部監査との関わりについて考察する。 【キーワード】 内部統制、SOX法、金融商品取引法	早稲田大学 教授 鳥羽至英	早稲田大学 教授 鳥羽至英
5	内部監査の要件	内部監査の要件とは何か。内部監査人の備えるべき資質、責任と権限、専門的能力、品質評価といったの切り口から多面的に検討する。 【キーワード】 倫理、独立性、客観性、品質評価	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
6	内部監査の手続①	内部監査の手続きについて、内部監査の構成要素と流れについて解説し、事前準備、監査計画の策定、リスクの評価および予備調査について説明する。 【キーワード】 制度設計、監査計画、リスクの評価	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
7	内部監査の手続② 【改訂回】	内部監査の手続きについて、前回の流れを受けて、往査、現地講評会および監査報告といった各種手続きの実際について解説する。 【キーワード】 往査、現地講評会、監査報告会	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
8	内部監査の手続③	前2回の内部監査の手続の流れを事例にもとづいて説明する。 【キーワード】 リスク・アプローチ監査、システム化、効率化	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
9	内部監査のケース・スタディ	国内の企業における内部監査のケース・スタディを行う。成功事例を通じて内部監査のあり方を検討する。 【キーワード】 総合監査、コミュニケーション、コンプライアンス	北海道大学 大学院教授 蟹江章	北海道大学 大学院教授 蟹江章
10	中小企業と内部監査 【改訂回】	中小企業の内部監査と、大企業の内部監査は基本的な思考は共有しつつも、規模等の違いによって手続面で大きく異なってくる。そこで、中小企業の内部監査はどうあるべきかについて中小企業の内部監査について検討する。 【キーワード】 中小企業、コーポレート・ガバナンス、会計参与、アカウントビリティ、利害調整	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	情報システム監査 【改訂回】	情報システムに係るリスクとコントロールを明らかにし、情報システム監査の必要性・意義・目的および情報システム監査の実施方法と要点について解説する。 【キーワード】 情報システム、情報システム監査、リスクとコントロール	埼玉りそな銀行常勤監査役 吉武 一	埼玉りそな銀行常勤監査役 吉武 一
12	コンプライアンスと内部監査	国内外を問わず、企業の不祥事が後を絶たない。こうした行為を未然に防ぐにはどうしたよいのであろうか。コンプライアンス概念の変化について解説し、コンプライアンスに係る内部監査の役割について明らかにする。 【キーワード】 コンプライアンス、CSR(企業の社会的責任)、社会的規範、企業倫理	北海道大学大学院教授 蟹江章	北海道大学大学院教授 蟹江章
13	リスク・マネジメントと内部監査 【改訂回】	組織は様々なリスクに晒されている。組織運営上の様々なリスクについて明らかにし、危機管理の思考とビジネス・リスク・マネジメントについて検討する。 【キーワード】 組織運営上の様々なリスク、危機管理、ビジネス・リスク・マネジメント	放送大学准教授 齋藤正章	放送大学准教授 齋藤正章
14	非営利組織における内部監査 【改訂回】	営利組織同様、非営利組織についても内部監査は重要である。営利組織と非営利組織の内部監査の異同を明らかにしながら、非営利組織の内部監査について検討する。 【キーワード】 国、官公庁、自治体、学校、NPO	早稲田大学教授 大塚宗春	早稲田大学教授 大塚宗春
15	組織運営と内部監査の将来像 【改訂回】	今後、組織運営における内部監査はますます重要になってくると考えられる。そこで内部監査の課題や国際的潮流、職業的専門家としての内部監査人の養成等について検討する。 【キーワード】 内部監査の課題、国際的潮流、内部監査人	放送大学准教授 齋藤正章	放送大学准教授 齋藤正章 北海道大学大学院教授 蟹江章

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1547224	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ NPOマネジメント（'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：河合 明宣（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤 正章（放送大学准教授）〕

講義概要

1998年にNPO法が施行されてから10余年が経過した。団塊の世代が退職し、職場で身につけた知識や技能を持って積極的にボランティア活動に参加する事例は広範に見られる。人材と組織力を持つ法人化した団体は、資金を確保し様々な事業を展開し、経験を蓄積してきている。法人化しない任意団体の活動も多岐にわたる。企業の社会的責任（CSR）に対する関心の高まりが、人材派遣や寄付などを通して、企業がNPOと連携する機会が増えてきている。こうしたNPOの現状と積み上げられた経験を理解する。

他方で、グローバル化した金融市場により、国内での雇用機会の減少と所得格差の拡大とがもたらされた。貧困や教育などの社会問題や環境問題に対処する社会企業的活動への関心が高まっている。このように、NPOの活動領域は拡大している。初版で検討した事例の発展を辿ると共に、こうした新たな潮流や制度にも注目する。

授業の目標

公的サービスの担い手として日々重要性を増しているNPOの設立、経営、業績評価等について、具体例の紹介を通して説明する。NPO活動の経験と新しい展開を重視する。

履修上の留意点

「NPOマネジメント（'07）」の単位修得者は履修不可。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	非営利組織とは	わたしたちの生活において、町内会や自治会等の地縁組織を媒介して、行政が提供する様々なサービスを受け取っている。一方、行政という既成の枠組に囚われずに、ボランティア活動や、市民（住民）活動を進める組織が誕生し、時には行政と連携し様々な活動を行い、その存在が大きくなっている。こうした市民（住民）活動が生まれる背景を述べる。 【キーワード】 NPO法人化、ボランティア、有志型NPO	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
2	行政連携型非営利組織	公益目的で非営利活動を行う法人に、公益法人とNPO法人などがある。改正された公益法人法の要点にふれる。社会福祉協議会（社協）は、行政の一部として、わが国におけるボランティア活動を育成した。NPO法施行により、行政から独立し、行政との強い連携の下で事業を展開する新しい団体が誕生した。地球温暖化防止活動を推進する、「環境ネットワーク埼玉」を事例にして、その流れを紹介する 【キーワード】 民生委員、社会福祉協議会、地球温暖化防止活動推進センター	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
3	特定非営利活動法人の経営	特定非営利活動促進法（いわゆるNPO法）に基づく狭義のNPOの特徴を捉える。NPO法が定める法人の要件、非営利の内容、組織構成、人材の確保やマーケティング活動等組織の経営について述べる。 【キーワード】 特定非営利活動法人、社員、役員、認定NPO法人	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	特定非営利活動法人の事業とその評価	前回の議論を受けて、内閣府国民生活局等のデータを使いながら、NPO法人の活動を明らかにし、業績、経営内容の分析を行う。 また、申請受理数の推移、組織の規模、活動領域別法人数、活動内容、財政規模、及び収支の状況等の分析も併せて行う。 【キーワード】 法人数の推移、活動の種類、情報公開、CUP分析	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)
5	非営利組織のアカウンタビリティ	非営利組織が社会に広く受け容れられるには、その目的(活動理念)を明確にし、その活動の成果を開示する説明責任があると考えられる。また、非営利組織といえども必要経費をカバーする位の採算性が求められるであろう。 会計学のアプローチを用いて非営利組織の特徴をお金の面から明らかにしていく。 【キーワード】 アカウンタビリティ、市民への説明、経理的基礎、会計基準	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)
6	まちづくり等地域に密着した活動	6回から8回までは、主たる活動分野別にNPOの具体例を通して、非営利組織の経営や運営の特色を考える。身近な生活の場においてNPOが設立された背景、活動実績、他の組織との連携などを見る。6回では、景観の保全やまちづくり、地域の活性化などを主たる活動分野とするNPOを扱う。 【キーワード】 農林業と地域づくり、NPO・行政連携、地域通貨	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
7	保健・医療・福祉の増進	保育所、老人ホームなどの介護老人保健施設、障害者(児)福祉施設などの社会福祉に関するサービス供給型の経営について概観する。事例として、障害者(児)福祉施設を経営するNPOについて述べる。 【キーワード】 社会福祉、介護保険制度、地域社会	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
8	環境の保全と適正技術	尾瀬の自然環境保護に関わる団地を取り上げる。また、環境と調和した適正技術や社会技術の研究・普及などを主要活動分野とするNPOについて経営の現状と課題を語る。 事例で地域の中小規模水道に対する水道技術サービス提供や運営支援を行うNPOを取り上げる。 【キーワード】 自然環境保護、社会技術、尾瀬の環境保護、緩速ろ過	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
9	ボランティア・グループ、市民(住民)活動団体	9回から10回までは、NPO法により法人組織化されたものとは別の組織形態による非営利組織の特色を考える。 9回は、主に住民の日常生活の範囲で生活に根ざした活動を行う任意団体を取り上げる。佐渡において、トキとその生息地の保護活動を目的とする団体について、地域住民組織の特徴と意義を述べる。 【キーワード】 新穂トキ愛護会、里地・里山の環境保全、有機農業	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
10	公益法人改革後の活動とその特徴	社団法人として活動してきた日本山岳会(自然保護委員会)と財団法人として活動してきた日本自然保護協会を事例として、公益法人改革への対応やその後の変化を中心に今度の課題を述べる。 【キーワード】 公益法人改革、日本山岳会、日本自然保護協会	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	生活協同組合	消費者が自らの生活向上を目指し、資金を出し合い生活物資の購買等の事業を運営する協同組合組織がある。これは1948年施行の消費生活協同組合法により設立された。地域生協と職域生協がある。改訂協同組合法の要点にも触れる。 【キーワード】 消費生活協同組合法、組合員、総代会、生協の事業	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)
12	NGOとは何か ー国際協力NGOを中心にー	貧困や開発、気候変動や生物多様性などの環境問題、ジェンダーや人権、紛争や平和などの国際的な課題で活動するNPOは、NGO(非政府組織)と呼ばれている。日本の国際協力NGOの現状、歴史、課題について述べる。 【キーワード】 NGO、国際協力、開発、アドボカシー	大橋 正明 (恵泉女学園大学教授)	大橋 正明 (恵泉女学園大学教授)
13	国際協力NGOの事例 ーシャプラニールの活動を中心にー	日本に数百ある国際協力NGOの中から、70年代初頭に設立されたシャプラニール=市民による海外協力の会を取り上げる。このNGOがどのように発展し、バングラデシュやネパールを中心にどのような協力活動を行ってきたかを振り返る。 【キーワード】 開発、貧困、市民による海外協力、バングラデシュ、フェアトレード	大橋 正明 (恵泉女学園大学教授)	大橋 正明 (恵泉女学園大学教授)
14	非営利組織の経営改革	任意団体であれ、法人格を取得した組織であれ、構成員が主体的に参加し、組織が目的としている活動を持続させるのは容易ではない。構成員が生き生きと活動し、組織が再生産されるために財政上の安定と魅力ある理念を掲げるリーダーシップが必要である 今日の非営利組織経営改革の課題について述べる。 【キーワード】 業績評価、PDCAサイクル、経営資源(ヒト、モノ、カネ、情勢)	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)
15	非営利組織の課題と展望	日本の町内会や自治会などの既成の住民組織や地縁組織でなく、非営利で社会貢献を目的とする新しい組織の凝集力や持続性は何に依存するのか。事例のまとめを通して非営利組織経営の課題を整理し、地域社会の展望を考える。 【キーワード】 地域社会、非営利組織の課題、コミュニティ	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639340	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 大学マネジメント論 （'14）＝（R）

英文名 ＝ [University Management ('14)]

〔主任講師（現職名）：山本眞一（桜美林大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：田中義郎（桜美林大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：坂井素思（放送大学教授）】

講義概要

近年、経済・社会・文化の変化の中で、大学問題に対する社会的関心が高まりつつある。また、大学関係者においては、迫り来る大学経営危機にいかに対処すべきか、知識基盤社会の中の大学はいかにあるべきか、大学運営において役員、教員、職員はどのように関わるべきか、など大学マネジメントに関する多くの課題を抱えている。このような状況を踏まえ、この講義では、大学というシステムの特質を捉えとともに、大学マネジメントの知識や考え方を、大学事務職員を始め幅広い関係者に身に付けさせることを目的とする。

授業の目標

受講者が、大学問題に関心のあるすべての人々に加え、現職の大学職員あるいは役員や管理職にある教員であることが多いとの前提の下、従来の大学論を超えて、できる限り実践的かつ実質的な教育内容を提供するよう努める。このことにより、受講者に広く大学マネジメントに関する知識を提供するとともに、彼らが現実直面している経営・管理・運営上の諸課題を適切に解決するための、幅広い実践力を身に付けさせるようにする。

履修上の留意点

この科目は、大学マネジメントに関する知識と実践力を身に付けさせることを目標としているが、そのためには高等教育に関する知識や社会の動きを分析する能力を幅広く身に付けることが重要である。この科目の履修と前後して、高等教育に関する科目および受講者が適宜選択する関連科目を履修することが望ましい。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	大学と私たち	進学率の上昇に伴い、大学はわれわれ国民にとって身近な教育機関となってきた。受験勉強、学生生活、就職活動などを通じて、大学というものを考える機会が増える一方、わが国では、18歳人口の減少や国際化、知識基盤社会の到来などの社会変化の中で、大学を巡る諸環境は大きく変化してきている。これらが大学に及ぼす影響をさまざまな角度から考える。 【キーワード】 18歳人口減少、国際化、外国大学との競争、知識基盤社会、大学教育の大衆化、科学技術、競争的環境の進展、国立大学の法人化	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
2	大学とは何か	この章では、まず、日本の大学の性格を、日本の古代から近世までつづいた伝統と、近代化以降に手本をされた欧米のユニバーシティの本質の把握を通じて、理解する。次に、日本の法制度における大学の概念について吟味し、国際的な視野のもとで、それが抱えている課題を認識する。 【キーワード】 大学、ユニバーシティ、大学寮、律令制、國士監、ギルド、学位、自治、学校教育法、教育基本法、大学院、短期大学、高等教育、中等後教育、第三段階教育	館 昭(桜美林大学大学院・教授)	館 昭(桜美林大学大学院・教授)
3	大学と政府	ここでは、日本の大学の設置形態と設置認可の在り様を概観した上で、私立大学の現状について、法制度的、統計数値的に考察し、私立本来の自主性から生まれる個性的な展開のバイオニアという側面と、国公立に対する補助的位置づけからくる変化に対するバッファーという側面という2面性を明らかにし、今後の課題を検討することによって、大学と政府との関係への理解を深める。 【キーワード】 国立大学、公立大学、私立大学、設置認可、私立学校法、私立学校振興助成法、構造改革特別区域法、宗教教育	館 昭(桜美林大学大学院・教授)	館 昭(桜美林大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	大学経営を支える人材	近年、大学経営を支える事務職員の役割に関心が高まっている。これまでのアンケート調査等から見た彼らの現状を紹介するとともに、関心が高い「教職協働」のあり方やこれに関連して役員・教員の役割にも触れつつ、大学を経営する人材の養成のあり方を考える。 【キーワード】 事務職員、大学の意思決定、教授会、大学経営、職員の役割、職員の能力開発、学長のリーダーシップ、国立大学の法人化	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
5	外国の大学マネジメント	大学のマネジメントをより効果的にするには、外国の大学事例にヒントを求めることも意味がある。ここではアメリカ大学のマネジメント事例を取り上げ、組織化、意思決定、管理運営の方策など大学経営の諸側面について論じる。また、必要に応じてヨーロッパの現状にも触れる。 【キーワード】 CEO学長、エグゼクティブズ、理事会、職務記述書、大学経営、大学組織、多様性、競争的環境、アドミニストレーター、ファンレイジング、大学の大道具	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)
6	大学広報・学生募集戦略	競争的環境が進む中で、大学経営にとって重要なことは、大学の認知度を高め、優秀で意欲ある学生を多数集めることである。ここでは、1980年代にアメリカの大学で広まったマーケティングとエンrollment・マネジメントの手法の導入とその後、そして今日的課題について、我が国の大学事情に照らして論じる。 【キーワード】 学生募集、大学広報、戦略的思考、个性的大学、競争的環境、多様性、優秀性、大学教育のユニバーサル化、マーケティング、エンrollment・マネジメント、大学のブランディング	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)
7	国公立大学の人事・労務・財務	大学の教職員に関する人事・労務管理や、施設・財産・資金に関する財務管理は、大学マネジメントの基盤として押さえておかねばならない事項である。国公立大学の人事・労務・財務については、法人化を契機に、各大学の主体的判断や効率の実施が求められるように大きく変容した。これらに関する制度の枠組みや実際の運用を解説する。 【キーワード】 国公立大学の法人化、弾力的な人事システム、人件費の削減、教職員の業績評価、運営費交付金、外部資金の獲得、戦略的な予算配分、財務指標	工藤敏夫(木更津工業高等専門学校長)	工藤敏夫(木更津工業高等専門学校長)
8	私立大学の人事・労務・財務	私立大学について、その経営にとって欠かせない人事・労務・財務の知識とその運用の実際を、専門的・実務的立場から眺め、実務者として必要な知識やノウハウについて、戦略的観点から教授する。 【キーワード】 ポジション制度、業務管理、法適合組合、職員人事、労使協調、目的別予算編成、財務比率、人件費比率、学生生徒納付金比率、経営診断	井原 徹(学校法人実践女子学園理事長)	井原 徹(学校法人実践女子学園理事長)
9	大学の教務・学生サービス	近年の大学教育を巡る環境変化の中で、大学教育の質的向上や学生支援の充実がますます重要性を増している。ここでは、大学経営の根幹である教務および学生サービス・プロフェッションについて、その現状と今後のあり方を論じる。 【キーワード】 教育活動支援、アカウントビリティ、成績管理、履修管理、カリキュラム管理、研究活動支援、学修指導、学生生活支援、職務記述書、大学の小道具、教育者マインド、大学教育のユニバーサル化、プロフェッショナル化	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)	田中義郎(桜美林大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	大学の研究管理	科学技術の振興が重要な国家戦略となる中、大学における研究活動の役割に注目が集まるようになってきた。産業界との連携、知財関係なども含めて、効率的な研究管理のあり方について実態を踏まえて考える。 【キーワード】 研究資金、大学院、研究室運営、インキュベータ、知財法制、研究マネジメント、産業界との連携、イノベーション	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
11	評価と大学マネジメント	本章では、多様な評価の中にあつて、国、公、私立の別なく、すべての機関が対象になり、かつ、各機関が法的に存続していく上で必須のものとして制度化された認証評価について、原点にもどって、その意義と実施上の課題について検討し、合わせて、その評価が機能するベースともなる大学マネジメントの課題について考察する。 【キーワード】 認証評価、認証評価機関、設置認可、質保証、適格認定、大学マネジメント	館 昭(桜美林大学大学院・教授)	館 昭(桜美林大学大学院・教授)
12	大学の危機管理	大学マネジメントにとって危機管理のノウハウは必要不可欠である。各種の不祥事、教育・研究上の事件・事故、また長期的には財務上の問題など、大学経営を脅かす各種の要因を如何に軽減し、解決するかについて論じる。 【キーワード】 理事長・学長のリーダーシップ、迅速な意思決定、管理運営組織、広報、危機管理のノウハウ、問題認識	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
13	大学の社会貢献	大学には、教育、研究と並んで社会貢献という大きな機能がある。しかしその実態は複雑であり、これを総括的に捉えることは、大学経営に欠かせない。ここでは、いわゆる地域貢献や産業界との共同を含め、さまざまな側面から大学の社会的貢献について論じる。 【キーワード】 大学と社会、産業界との共同、地域社会、社会人学生、生涯学習	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
14	近年の大学改革	政府財政の緊縮、経済のグローバル化、18歳人口の減少など大学をめぐる環境の変化の中で、政府はさまざまな改革政策を打ち出し、また大学はこれを大学発展戦略に結び付けつつ、積極的に対応することが求められている。1990年代以降に生じた主な大学改革政策を概観し、その意味するところを解き明かす。 【キーワード】 18歳人口の減少、法人化、大学教育のユニバーサル化、全入時代、教育接続、教育プログラム、GPグッドプラクティス、リーダーシップ、競争的環境、個性が輝く大学、教育改革	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)
15	21世紀知識社会と大学のマネジメント	これからの知識社会において大学は、知識の生産(研究)・伝達(教育)・活用(社会貢献)において大きな役割が期待されている。経営環境の変化の中で先行き不透明な側面があるが、これらの側面を克服しつつ役割を果たすべき大学の将来とそのマネジメントについて論じる。 【キーワード】 知識社会、生涯学習、雇用環境、科学技術、グローバル社会	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)	山本 眞一(桜美林大学大学院・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639331	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ アグリビジネスと日本農業 （'14）＝（R）

英文名 ＝ [Agribusiness and Agriculture in Japan ('14)]

〔主任講師（現職名）：河合明宣（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：堀内久太郎（東京農業大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

食料は、多くの産業によって供給されている。今日、社会的分業が高度に進み、食料供給に関わる産業の種類、分野が著しく拡大した。農業生産の過程も細分化され、分業・協業や専門化が進んだ。産業全体でも、多数の産業間の相互関連性を重視するアグリビジネス（農業関連産業）が形成されるようになってきた。一方、農林水産業は、自然生態系の中で動物や植物と共存し、その生態系の維持・存続に努力することが求められる。農業や農村は、精神的、教育的、福祉的、文化的な価値を人々に与えるかけがえのない機能を有する。これらの根幹的な役割を積極的に維持し、高揚することも重要である。

授業の目標

農業のグローバル化が進む中で、変化の目覚ましい日本の農業経営及び関連産業である食品製造業、外食産業の現状を理解する。グローバル化した競争的環境下で産業としての農業発展の観点及び地球環境問題や人口増加と信頼できる食料の供給確保という観点から、日本農業の現状と課題を把握する。合わせて、人口爆発と言われる人口増加の中で世界で最も高齢化した日本における農業担い手の考察から、稲作を中心とするアジアの農業を理解する糸口も探りたい。

履修上の留意点

「グローバル化と日本のものづくり('11)」等のグローバル化が進む今日の日本の産業を考察する科目の履修と「環境と社会('09)」等の人間と自然という観点から地球環境問題の把握の参考になる科目の履修が望まれる。

回	テ　　マ	内　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	豊かな食生活を持続させるために	「アグリビジネス」を科目名に含む4回目の改訂。日本農業における「農業経営」(学)を基本にする流れの中で、今回の「アグリビジネス」の意味内容、「日本」農業の説明。全体構成を紹介する。 【キーワード】 アグリビジネス、日本農業、農業経営、産業および国土の均衡発展	河合明宣(放送大学・教授) 堀内久太郎(東京農大・教授)	河合明宣(放送大学・教授) 堀内久太郎(東京農大・教授)
2	日本農業の家族経営(農家)	家族経営の歴史的意義、その経営的特色、農業経営の多様化や新しい農業経営の出現を踏まえ今後の課題を述べる。 【キーワード】 家族経営(農家)、太閤検地、経営と家族の結合体、農家の再生産過程、家族協定農業	堀内久太郎(東京農大・教授)	堀内久太郎(東京農大・教授)
3	職業として魅力ある法人経営	2章と関連させて、家族経営から法人経営への流れとその意義、魅力ある2、3の事例の説明。 【キーワード】 マネジメント、経営理念、経営者の条件、経営者の役割、日本農業賞・天皇賞	堀内久太郎(東京農大・教授)	堀内久太郎(東京農大・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	農業経営の多角化と経営戦略	農業経営の多角化・6次産業化の理論とその事例を説明する。価値連鎖と価値システムや農業経営の戦略を述べる。 【キーワード】 価値連鎖、バリュー・チェーン、価値システム、競争優位の戦略、6次産業化	堀内久太郎 (東京農大・教授)	堀内久太郎 (東京農大・教授)
5	農業経営の異業種間連携	農業経営の異業種との連携に関して、食料産業クラスター論や農商工連携論を説明する。食料産業クラスターの具体的事例を紹介する。 【キーワード】 多角化(統合)、連携(連結・提携)、農商工連携、産学官連携、食料産業クラスター	堀内久太郎 (東京農大・教授)	堀内久太郎 (東京農大・教授)
6	農業と資材産業	種苗、肥料、農薬、農業機械、施設などの土地と労働以外で農業生産に関わる資材産業がある。資材産業の概要を種苗を中心に述べる。 【キーワード】 栽培植物と伝統的育種、「緑の革命」、遺伝子組み換え、バイオメジャー、モンサントレーダー	河合明宣(放送大学・教授)	河合明宣(放送大学・教授)
7	食品製造業の展開と農業	加工食品、調理済み食品、飲料品などの食品は今日の食生活を支える重要なアイテムである。これらを製造する食品製造業とはどのような産業だろうか。本章では業種の構成と関連、部門ごとの成長率などを学び、さらに現代の食品製造業が抱える課題についても考える。 【キーワード】 産業の二重構造、原材料調達	新山陽子(京都大学大学院農学研究科教授) 清原 昭子(中国学園大学・准教授)	清原 昭子(中国学園大学・准教授)
8	外食産業と食生活	外食産業は今日の食生活に欠かせない産業である。また、「中食」もわれわれの食生活に欠かせないアイテムになりつつある。本章では、外食産業の構造と成長、「中食」産業の成長を部門別に学ぶ。さらに、外食、中食それぞれの社会的役割について学び、今後の食生活への貢献について考える。 【キーワード】 外食産業、中食、食材調達、外食の役割	清原 昭子(中国学園大学・准教授)	清原 昭子(中国学園大学・准教授)
9	食品の安全、信頼とフードシステム	アグリビジネスの発展により、農業から、食品製造業、小売業、外食産業にいたる高度なフードシステムを築いたが、食品中の病原微生物や化学物質などによる健康への悪影響の防止が社会的課題になっている。ここでは、食品安全確保のために欠かせない食品由来リスク、リスクアナリシスの考え方について学び、食品事業者や政府、消費者の役割について考える。 【キーワード】 リスクアナリシス、HACCP、トレーサビリティ	新山陽子(京都大学大学院農学研究科教授)	新山陽子(京都大学大学院農学研究科教授)
10	生産と消費を結ぶ流通	生産と消費を結ぶ流通の役割を明らかにした上で、農産物流通システムを4類型(原基型、小売業者主導型、卸売業者介在型、大口需要型)に区分し、それらの内容を具体的に説明する。 【キーワード】 へだたり、商的流通、物的流通、農産物流通、流通システム	藤島廣二(東京農大・教授)	藤島廣二(東京農大・教授)

回		内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	農産物流通の変化と 農業への影響	農産物流通のこれまでの変化(流通の広域化・グローバル化、業務用需要者向け供給比率の上昇、等)を明らかにし、それが国内農業に及ぼした主な影響(食料自給率の低迷、農産物価格の低位収斂化)を説明する。 【キーワード】 農産物輸入、スーパー・マーケット、加工食品、高齢化、価格の低位収斂化	藤島廣二(東京農大・教授)	藤島廣二(東京農大・教授)
12	日本の食料自給	食料自給をどう考えるか。国内における生産が食品製造業及び外食産業の展開を受けどう対応しているか。国際市場(グローバル化)の動向にもふれる。 【キーワード】 食料自給率の指標、食料自給率の計算方法、自由貿易交渉、GATT・WTO、TPP	堀内久太郎 (東京農大・教授)	堀内久太郎 (東京農大・教授)
13	農業の多面的機能 ー生物多様性を中心にー	二次的自然(里地、里山、里海など)における生物多様性とは何か、またその保全の現状を説明する。「水源林の保全」、世界農業遺産(GIAH)、自然農法・有機農業等による生物多様性保全が産業と国土の均衡的発展とどう関連するか考察する。 【キーワード】 二次的自然、生態系の多様性、EUの農業環境政策	河合明宣(放送大学・教授)	河合明宣(放送大学・教授)
14	都市と農村の交流	農業多角化(6次産業化)の中で生産ー製造ー流通・外食を捉えた。それを前提に、ここでは消費者や地域生活者の立場からの農村空間の意味を捉える。様々な形態の都市農村交流を事例を挙げて説明する。 【キーワード】 都市問題、農業・農村問題、限界集落、都市と農村の交流、グリーン・ツーリズム	堀内久太郎 (東京農大・教授)	堀内久太郎 (東京農大・教授)
15	国際化の中での日本 農業の将来像	産業としての農業、信頼における食料の確保、生物多様性と共存する農村環境が、グローバルな国際状況下においてどうあるべきかについて考える。 【キーワード】 世界の人口・食料問題、地球環境問題、「食」と「農」をめぐる国家理念、宇宙船・地球号の視点、小欲知足	河合明宣(放送大学・教授) 堀内久太郎 (東京農大・教授)	河合明宣(放送大学・教授) 堀内久太郎 (東京農大・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548212	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ グローバル化と日本のものづくり （'11）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 藤本隆宏（東京大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 中沢孝夫（福井県立大学特任教授） 〕

【本学担当専任教員： 河合明宣（放送大学教授） 】【

講義概要

国際的な市場競争の激化のなかで、日本の「ものづくり」が岐路に立っている、といわれている。しかし構想、研究・開発からはじまり、「もの」が実際につくりこまれてゆくプロセスは意外と知られていない。

この授業では、中小企業から大企業までの、技術や経営の実際を概観しながら「ものづくり」の全体像をスケッチしつつ、日本(企業)の強さと弱さや、国際的な競争と協調の内実を明らかにする。

その作業はアメリカとの貿易摩擦から現地への工場進出の歴史の点検であったり、東アジアを中心とする途上国との国際分業の進展の分析であったりする。

またそのことは「ものづくり」を媒介として、世界の諸国とともに歩む日本の「優位性」や「課題」を浮き彫りにすることでもある。

授業の目標

大切なことは事実を知ることである。製造業に関する毀誉褒貶を排し、日本経済を支える「ものづくり」の過去と現在を、グローバル化を軸につぶさに点検しながら、私たちの社会の「今」を等身大で理解する。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	グローバル化と日本のものづくり	グローバル化、という言葉が近年になってからことさら強調されるようになったのは、旧ソ連を中心とした社会主義が崩壊し、ヒト、モノ、カネ、そして情報が一挙に国境を超えるようになったからである。特に「もの」や「サービス」の流通が、お互いの国の経済や暮らしに大きな影響を与えるようになってきた。とりわけ「ものづくりの国」といわれる日本は、海外への直接投資を拡大している。この章では主に「ものづくり」の意味と、技術の歴史を点検する。 【キーワード】 「グローバル化」「貿易依存度」「日本の大きさ」「模倣工学」	中沢孝夫(福井県立大学経済学部・特任教授)	中沢孝夫(福井県立大学経済学部・特任教授)
2	「ものづくり論」とは何か	①機械・電気・材料・化学といった「工学」はそれぞれの固有技術を支えるが、それぞれの技術を動員して東ね、人工物(もの・製品)をつくり、消費者(お客)に届けるプロセスの総体が「ものづくり」である。 ②国際的な日本の立ち位置をふまえ、ものづくり経営論の意義を考える。 【キーワード】 「ものづくり」「設計情報」「媒体」「組織能力」「競争力」	藤本隆宏(東京大学大学院経済学研究科・教授)	藤本隆宏(東京大学大学院経済学研究科・教授)
3	トヨタ生産方式と日本のものづくり	トヨタ生産方式を例にとり、情報の転写やプロセスフロー、組織能力の構築やシステム全体の進化などの諸観点から日本のものづくりの1つの特徴を示す。 【キーワード】 「多能工」「ジャストインタイム」「自動化」「改善」「正味作業時間」	藤本隆宏	藤本隆宏

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	設計構想としての アーキテクチャ	①製品の設計思想、アーキテクチャ論はものづくり経営論の骨格をなす理論である。インテグラル(擦りあわせ)型とモジュラー(組み合わせ)型はどう違うか、アーキテクチャ論の視点からの説明。 ②クルマ、家電、パソコンなど、製品によって「つくり方」は異なる。日本が得意なものと下手なもの。製造業の中の強い業種と弱い業種などを説明。 【キーワード】 「インテグラル」「モジュラー」「つくりこみ」「アーキテクチャの位置取り」「アーキテクチャの地政学」	藤本隆宏	藤本隆宏
5	日本製造業の競争 力の変遷	戦後、日本の製造業は輸出で発展してきたが、輸出産業は繊維から鉄鋼、電機、半導体へと変遷してきた。急激な輸出増は日米貿易摩擦や急速な円高を招いた。日本企業はその環境変化に合理化等で対応するとともに、既存産業に新規の技術を取り込む脱成熟を実施することで競争力を強化していったプロセスを概説する。 【キーワード】 「貿易摩擦」「脱成熟」「比較優位」「プロダクト・ライフサイクル仮説」	新宅純二郎 (東京大学大学院経済学研究科・教授)	新宅純二郎 (東京大学大学院経済学研究科・教授)
6	日本製造業の苦境と 海外生産の展開	1980年代半ばに絶頂期を迎えた日本の製造業に対して、海外でも日本的経営が着目されるようになった。しかし、1980年代後半以降の円高と90年代のバブル崩壊で日本企業は大きな苦境に立たされた。その中で、国際競争力を失っていく産業も出てくると同時に、この時期に急速に進んだのが海外生産の拡大とその影響について説明する。 【キーワード】 「顕示比較優位」「日本的経営」「海外生産」「生産性」	新宅純二郎	新宅純二郎
7	「ものづくり」の基盤を 支える中小企業	たくさんの「素材」や「技術」がかかわってものはつくられている。トヨタやホンダといった完成品のメーカーの周辺には、一次協力、二次協力と、さまざまな専門技術をもった中小のメーカーが存在する。この章では「相談」しながらものをつくる日本の特徴を明らかにしつつ、中小企業の役割の意味や、ソフトとハードの関係、そしてものづくりにまつわる多くの誤解をただす。 【キーワード】 「協力メーカー」「関係的技能と承認図」「中小企業基本法の旧法と新法の違い」	中沢孝夫	中沢孝夫
8	中小企業の海外進 出とその特徴	中小企業の海外展開は大企業よりも少しおそい。まず完成品のメーカーが進出し、次に協力メーカーがいく。「もの」は消費地に近いところで作った方がよいので、途上国の経済発展とともに、海外への直接投資(工場をつくったりする)もまた増大する。本章では中小企業の移転の理由やそのことによる国内への影響の積極的な意味を通して明らかにする。それは必ずしも空洞化ではない。 【キーワード】 「海外投資件数の推移」「現地仕様」「工場が減る意味」	中沢孝夫	中沢孝夫
9	ものづくりの活性化と 東アジア諸国の発展	日本の中小企業の技術はどこにいても通用し、かつ優れている。しかし近年は途上国にも現地のメーカーが登場し、日本のメーカーのネットワークに参加しつつある。かつては部品を日本から運んだが、だんだん現地での調達率が高まっている。そして現地での完成品が各国に輸出されるようになり、日本への逆輸入もはじまっている。そうしたなかで中小企業も積極的に海外で経営を展開させつつある。 【キーワード】 「現地調達比率」「技術移転」	中沢孝夫	中沢孝夫

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	ものづくり発展のプロセスと現在	どこの国もマネからスタートする。もちろん日本も。大切なことは学ぶ能力と応用する力である。輸入代替から輸出産業へと発展させてきた日本のものづくりを、主にマザーマシンといわれる工作機械に焦点をあてて説明する。そして、エレクトロニクスの発展が、日本のものづくりのあり方を大きく変えつつある現状を点検しながら、今日の課題を明らかにする。 【キーワード】 「工作機械」「残留応力」「製品の境界」	中沢孝夫	中沢孝夫
11	東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり	① 直接投資を受け入れた東アジア諸国は急速に経済成長。20年間のアジアを中心とする国際分業の構図を整理。② アジアとの国際分業を前提にものづくりのあり方を見直す必要性。その際、アーキテクチャ論をふまえ日本に何を残し、何を外へ出すべきか、ものづくりの比較優位論をベースに国際分業論を展開する。 【キーワード】 「国際分業」「アジア」「アーキテクチャ」「国際ビジネスモデル」	天野倫文(元 東京大学大学院 経済学研究科・准教授)	天野倫文(元 東京大学大学院 経済学研究科・准教授)
12	アジアへの日本的経営とものづくり能力の移転	① アジアの生産現地で「擦り合わせ」型組織能力構築の必要性。2000年代に日本的経営や組織能力を移転した国との間に差が現れた。②タイは、今ASEANやインドも含む戦略的拠点化した。タイトヨタの事例で日本的経営をどう受容し、国際競争力の土台を築いたかを見る。③ 販売、生産、開発、人事が一体化した組織能力の構築・移転と現地化のモデル。 【キーワード】 「海外現地法人」「組織能力」「経営の現地化」「日本的経営」「ものづくり」	天野倫文	天野倫文
13	新興国市場戦略とものづくり	① 製造業ベースで、中国、東南アジア、インドなどが大きく経済発展し、1人当たりGDPも伸びた。地域間格差は存在するが、貧困層比率が減少し、都市部は成長力ある市場へ。②サービス業進出、生産拠点だけでなく市場でもある新興国市場での製販一体化したものづくりの定着を論じる。③各国多国籍企業との競争になるが、日本の優位性はどこかを探る。 【キーワード】 「新興国市場」「イノベータのジレンマ」「製品戦略」「ボリュームゾーン」「非連続な市場への適応と創造」	天野倫文	天野倫文
14	新時代の技術経営とものづくり-知的財産や標準化戦略など-	① 現代の競争は複雑化してきており、知的財産をどう扱うか、世界的な標準化戦略をどう構築していくのかということが、ものづくりの存続においても、クリティカルな要素となってきた。②日本企業のこれまでのものづくり経営は、そうした観点からどう評価されるのか、また今後環境や新技術が到来するなかでどのような課題を抱えているかを述べる。 【キーワード】 「イノベーション」「コンセンサス標準」「モジュラー化」	新宅純二郎	新宅純二郎
15	日本のものづくりの今後の展望と課題	①グローバル化と日本の産業、②擦りあわせ優位論の可能性と注意点、③産業の垣根を越える「開かれたものづくり」、④実践的な含意-「良い現場」を日本に残そう。 【キーワード】 「グローバル競争」「良い現場」「設計の比較優位説」「ものづくりインストラクター」	藤本隆宏	藤本隆宏

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548441	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会技術概論 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：小林 信一（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：岡田 光正（放送大学教授）】

※この科目は「社会技術概論('07)」の一部改訂科目です。
改訂回は1, 3, 6, 7, 15回です。

講義概要

科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究のための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。

授業の目標

いくつかの事例や歴史の理解を通じて「社会のための科学技術」の考え方を学ぶとともに、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー、科学技術と市民参加、科学技術と倫理などの横軸となる視点を理解する。また、これらの基盤となる理論側面についても理解を促す。これらのテーマを通じて、社会技術の基本的事項について理解することを目指す。

履修上の留意点

必要となる予備知識はとくにない。本科目の履修後には「生活知と科学知('09)」、「バイオテクノロジーと社会('09)」などの科目を履修することで理解を深めることを推奨する。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	社会の中の技術、社会のための技術 ※改訂回	科学技術は人々に利便性をもたらすと同時に、生活や環境に悪影響を及ぼす可能性もある。また、社会的問題の解決に科学技術の貢献が求められる場合も少なくない。ここに「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」が登場する。 【キーワード】 社会技術、科学技術、社会の中の技術、社会のための技術、公共	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)
2	BSEの経験	科学技術と社会の相互関係の事例として、1990年代にイギリスで発生したBSE問題を取り上げる。BSE問題において科学者・行政はどのような役割を演じたのであろうか。また、その後、日本で発生したBSEについての対応にも触れることにする。 【キーワード】 不確実性、リスク、対話、政策決定、予防原則	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
3	安全な社会をデザインする ※改訂回	人々が安全に生活する上で、食品、医薬品、化学物質の安全、交通安全、災害対策、感染症対策など多様な安全対策のためのシステムが必要である。これらのシステムを構築するために科学技術はどのような形で貢献しているのだろうか。 【キーワード】 安全、リスク評価、規制、レギュラトリ・サイエンス、リサーチ・サイエンス	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	先端科学技術と社会	先端的な科学技術は、ときとして人々の価値観とのあいだで葛藤を引き起こす。ナノテク、バイオ、脳科学、ユビキタス技術などの分野で危惧されていることは何か。それらの問題に対して科学技術自身、社会はいかに対処すべきか。遺伝子組換え食品、ナノテクノロジーを例に考える。 【キーワード】 NIMBY問題、テクノロジー・アセスメント、ELSI、技術と社会の共進化	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)
5	社会のための科学技術—その歴史	冷戦の終焉により、社会における科学技術の位置づけは大きく変わった。1999年の世界科学会議では科学技術者自身が「社会の中の／社会のための科学」を提唱するにいたった。社会技術の考え方を歴史的に捉える。 【キーワード】 冷戦型科学技術、環境問題、リスク社会、世界科学会議	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)
6	科学技術と社会のコミュニケーション・デザイン ※改訂回	科学技術は高度な研究活動であるが、同時に多くの人々の生活に大きな影響を与える。専門家は社会とどのようなコミュニケーションを図っていくべきであろうか。日本で始まったいくつかの取り組みを具体的に紹介する。 【キーワード】 公衆の科学理解、市民参加、コーステップ、サイエンス・カフェ、社会リテラシー、科学技術コミュニケーション	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
7	これからの科学技術リテラシー ※改訂回	科学技術が生活に浸透した社会で一般市民にはどのような科学技術リテラシーが求められるだろうか。それは従来のリテラシー観とどこが異なるのか。これからの科学技術リテラシーを考えることは、どのような市民社会を標榜するかということと強い関係があることも含めて考える。 【キーワード】 リテラシー、スローガン、意思決定、市民参加	小川正賢(東京理科大学教授)	小川正賢(東京理科大学教授)
8	科学技術への市民参加	科学技術が社会で利用される際に、市民はどのような関わり方をすべきであろうか。日本で行われたコンセンサス会議や市民と専門家の間のさまざまな対話の試みを紹介し、その現状と課題を考える。 【キーワード】 市民参加、トランスサイエンス、テクノロジーアセスメント、コンセンサス会議	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
9	科学技術と民主主義	科学および技術と民主主義がそもそもどのような関係にあるのかを理論的に考えてみる。さまざまな利害関係者によって構築される「公共空間」の考え方を示し、第8回の授業で扱った「市民参加」の意味をもう一度とらえ直す。 【キーワード】 民主主義、社会的意思決定、グレーゾーン、公共空間、市民参加	藤垣裕子(東京大学大学院教授)	藤垣裕子(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	知識・権力・政治	科学者にとっても解明途中であり、科学者にも長期影響が予測できないようなグレーゾーンで、何らかの公共的意思決定を行う必要がでてきている。知識が権力として作用することの意味、知識政治学について概説する。 【キーワード】 知識政治学、フレーミング、妥当性協会、状況依存性、変数結節、ローカル・ノレッジ、科学に対するイメージ	藤垣裕子(東京大学大学院教授)	藤垣裕子(東京大学大学院教授)
11	社会に役立つ知識とは	グレーゾーンにおける社会の意思決定において役立つ知識とは、どのようなものなのか。モード論、社会的に頑強な知識、サービス科学、規制科学、といったいくつかの概念を紹介しながら考え、これら知識のもつ責任についても考察する。 【キーワード】 社会的に頑強な知識、モード論、意思決定において信頼できる知識、PAモデル、PUSモデル	藤垣裕子(東京大学大学院教授)	藤垣裕子(東京大学大学院教授)
12	科学技術と公共政策	社会技術と政策との関係について検討する。社会技術の実現のためには、従来の科学技術振興政策とは別に、「政策のための科学技術」の振興や「社会の中の／社会のための科学技術」そのものの振興が必要になってくる。 【キーワード】 科学のための政策、政策のための科学、ミッション指向研究、科学技術公共政策	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)
13	海外の社会技術	「社会の中の／社会のための科学技術」を指向したさまざまな活動が世界中で展開されている。それらを紹介しながら、「社会の中の／社会のための科学技術」の意味を再評価する。 【キーワード】 参加型TA、市民陪審、市民フォーサイト、シナリオ・ワークショップ、サイエンス・カフェ、サイエンス・ショップ	藤垣裕子(東京大学大学院教授)	藤垣裕子(東京大学大学院教授)
14	科学技術と倫理の新次元	科学技術の発展と人々の価値観や倫理観とのあいだの葛藤は科学技術の発展に抑制的に働くこともあれば、新しい倫理観の構築が必要になる場合もある。科学技術と社会の調整過程に出現する新しいタイプの倫理問題とその実現のための方策について考える。 【キーワード】 脳科学、消費者の権利、倫理観の共有、道徳的想像力、専門家倫理、コンプライアンス	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)
15	社会技術のこれから ※改訂回	これまでに紹介されなかった論点について概観するほか、「科学技術は誰のものか」「誰が専門家か」といった、社会技術が既存の科学技術活動、社会経済活動に投げかける問題について総合的に論ずる。あわせて残された課題を指摘する。 【キーワード】 学際性、イノベーション、媒介の専門家、専門家の責任、市民の責任	小林信一(放送大学客員教授)	小林信一(放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度 (第2学期)	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548417	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 物質・材料工学と社会 (' 1 1) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 東 千秋 (放送大学名誉教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 〕
 【本学担当専任教員 : 岡田 光正 (放送大学教授) 】

講義概要

人間活動の基盤である科学・技術を支えているのが材料である。それは社会においてどのように使われているのか、社会のシステムを構成する製品の中に使われている材料について知る。そして、その材料の素材である金属材料、半導体材料、陶器やセメント、ガラスなどのいわゆる無機材料、プラスチックなど炭素を中心とする有機材料、さらには生命を対象とする生体材料など、幅広い材料がどのように創出されるのかを学ぶ。

授業の目標

この科目は放送大学に学ぶ学生の専門科目として深い教養を養うこと目的とするだけでなく、一般の大学の工学部や高等工業専門学校に将来の展望を描く上で役立ててもらいたいことも目的とする。現代の産業社会、個人生活に有用な、施設、設備、製品などがどのような材料により、構成されているか、その機能は何か、それを支える原子分子との関連を概観することを目的とする。

履修上の留意点

理数系科目の素養が無くても理解できるように、身近なところから説き起こし、楽しく学習できるように配慮する。一般的な章では、対象とする製品、設備などのうち、学ぶべき材料を特定し、何故その材料が使われているかを、その機能の面から解説し、それがどのように製造されたかを述べ、最後に、それを支える分野の基礎にも触れようと努める。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	現代社会と物質、 材料工学	日本産業の実勢を述べ、その中で鉱工業の役割の大きさを認識し、そこで行われている生産はほとんど材料に関係していることを知る。それらの材料は、製品、機能、分子の3つのカテゴリとして認識することが出来る。いわゆる3段階認識論、現象、実態、本質、として材料を認識することを試みる。本講義では、現象から本質へ、トップダウンすることにより、材料に対する認識をしやすくすると論ずる。分子や結晶を理解するために、周期律表の重要性を解説する。 【キーワード】材料産業、技術の伝承、材料の機能、結晶と分子、周期律表	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 中島 秀人 (東工大教授)
2	橋梁、船舶、プラント	「橋梁、船舶、プラント」の代表として「橋梁」の形体やそれにかかる応力についてとりあげ、次にその部材である鉄鋼の製造や性質を解析し、最後に元素の性質に関連づける。資源的に豊富な鉄は、堅牢であるため、多くの生産業や、都市施設、交通設備として用いられている。橋の美しい形は鉄の機能とどう関連するのか？耐久性や寿命は使用条件、環境でどう変わるのか？鋼材の力学的性質と機能との関連を学ぶ。鉄鋼の製造法を学び、耐熱、耐久、剛性、弾性など種々の機能を持たせるための合金化などを学習する。最後に結合論の基礎を学ぶ。 【キーワード】応力、降伏点、アーチ型、引っ張り強度、圧縮強度、鉄鋼、精錬、合金、表面不動体、共有結合、イオン結合、金属結合、配位結合、分子間力、水素結合	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 三木 千尋(東工大教授) 三島 良直(東工大教授)
3	住居、衣料	一般的な住宅材料(コンクリート、木材、セラミックスなど)の機能、特徴を理解する。古来より利用されている自然資源、木材の特徴を学ぶ。衣料材料、木綿、絹、の製造法、構造、機能を探求する。化学繊維については、ポリエステル、ナイロンの合成法、特徴を学ぶ。材料に関連する分子の構造、元素の性質を検討する。セラミックスなどの無機化合物に関して、イオン結合の特性を知る。 【キーワード】木材の構造、繊維の構造、セルロース、熱伝導度、紡績、機織、セラミックス、ケイ酸塩鉱物、電気陰性度	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	住宅のエネルギー設備	白熱灯、蛍光灯、LEDなどの省エネ照明機器を学習する。LED(電気から光へ)と太陽電池(光から電気へ)は、半導体のp-n接合での光電変換を利用したものであることを学ぶ。これらの材料となる半導体、バンドギャップの関係を学習する。将来、太陽光のエネルギーを化学的に貯蔵することが求められる。太陽光による水分解プロセスの原理を学ぶ。家庭に導入の始まった燃料電池の仕組み、原理を化学的に解説する。 【キーワード】蛍光灯、LED、シリコン太陽電池、色素増感太陽電池、水分解、省エネ、分子や結晶のエネルギー準位	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 堂免 一成 (東京大学教授)
5	エアコン、冷蔵庫	エアコンと冷蔵庫は同じ原理のヒートポンプである。これらに使われている冷媒、ヒートポンプの熱力学などを学ぶ。ポンプを動かすモーターの原理、そこに使われる磁石材料などを学ぶ。原子構造と磁性の関係、磁石材料はどのように見出されてきたかなどにも触れる。 【キーワード】ヒートポンプ、代替フロン、家庭用交流モーター、磁石用合金、スピンと磁性	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 桂井 誠(同東京文京学習センター所長) 三島 良直(東工大教授)
6	自動車1:燃焼システム	日本の自動車技術の中で、環境技術は高い評価を得ている。燃費が良いことに加え、有害物質、NOxを出さない技術を発達させてきた。SOxを出さない技術は、低硫黄ガソリンの合成が重要で、これは石油産業での成果である。まず、燃焼方式と燃料についてはじめ、NOxはなぜできるのか、どのように分解するのか、NOxを分解する触媒について述べる。NOxを最小化する燃料の供給を制御するためのセンサーについて説明する。環境燃料として、バイオジーゼルにも言及する。触媒を構成する材料について、基礎を学ぶ。 【キーワード】ガソリンとディーゼルエンジン、低硫黄ガソリン、バイオディーゼル、NOの生成と除去、環境触媒、酸化物、金属、ナノパーティクル、セラミックス	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 春田 正毅(都立大教授)
7	自動車2:化学素材	自動車の化学素材を取り上げ、その材料の役割、どのような基礎に支えられているかを述べる。注目されているハイブリッド自動車に重要な2次電池をとりあげる。更に自動車に使われている合成プラスチックについて、バンパー、燃料タンク、フロントガラスを取り上げ、それらが様々な異なる機能を持ち、それが分子の構造に根ざしていることも学ぶ。 【キーワード】電池、2次電池、高分子重合、ゴム弾性、可塑性、剛直性	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 山崎 陽太郎 (元東工大教授 平成24年2月ご逝去)
8	情報機器1:電子材料	テレビ、パソコン、携帯電話など高度に発達している情報機器のうち、電子材料を学ぶ。基盤単結晶の生成、半導体素子の蒸着、電子回路焼付け、などがどのようなプロセスで行われているかを紹介する。基本的なシリコントランジスタ素子の機能、原理を学ぶ。強誘電体メモリーの原理を探究する。 【キーワード】半導体物性、p-n接合、微小化、レジスト、レーザー、強誘電体	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 石原 宏(東工大教授)
9	情報機器2:ディスプレイ材料	テレビ、パソコンにおけるディスプレイ材料の現状を知る。液晶は電気信号に応じて分子の配向を変える。液晶の分子構造と、熱、電圧、光特性を学ぶ。液晶の前後に90度向きの異なる偏光フィルムが存在する。電気信号で配光変化が生じた場所だけ光が通過する。偏光フィルムの構造について探究する。光の偏光原理も学ぶ。 【キーワード】偏光、分子配向、物質の相、液晶、高分子膜	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一(放送大学客員教授) 竹添秀男(東工大教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	情報機器3:複写機、印刷機	複写機の仕組みと、開発段階での省エネルギーへの取り組みを知る。トナーに用いられる色素分子の特性を探究する。印刷技術は大型化するディスプレイに対応したカラーフィルターの製作にも貢献している。関連する有機EL、導電性高分子の構造や機能なども解説する。 【キーワード】フォトニクス材料、色素、インクジェット、LCA	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 山本 隆一 (東工大教授)
11	農漁業と食品保存、健康	農業、漁業においては自然環境と調和する材料が求められる。その1つである生分解性ポリマーを学習する。また保水にも使われる吸水性ポリマーの機能を学ぶ。食品や医薬の包装に必要な密封性ポリマーにも触れる。特に健康維持に重要な歯科治療用材料などの生体適合性材料についても学ぶ。 【キーワード】生分解性ポリマー、吸水性ポリマー、食品包装複合フィルム、歯科治療、生体適合性材料	東 千秋 (放送大学名誉教授)	東 千秋 (放送大学名誉教授)
12	先進医療技術	X線CTやMRI、PETなど患者に苦痛を与えずに患部を見る画像診断技術も材料の進化によって実現した。さらに人工透析に使う分離膜や人工心臓などの人体機能の代替を目的とする人工臓器も材料の進歩がもたらしている。一方、人工臓器と臓器移植の欠点を補うため再生医療が材料工学の支えによって目覚ましい進歩を遂げている。さらにナノバイオからの創薬などこれらの先進医療技術と材料との係わりを学ぶ。 【キーワード】画像診断技術、人工臓器、再生医療、ナノバイオからの創薬、先進医療技術	東 千秋 (放送大学名誉教授)	東 千秋 (放送大学名誉教授)
13	原子炉、飛行体	飛行体に必要な堅牢で軽量な材料として炭素繊維が開発されている。その製法、機能を学ぶ。人工衛星は測位、電波利用に欠かせない装置となっている。それを打ち上げるロケットの耐熱材料などを探究する。原子炉を攻勢する材料(制御棒、被覆材、冷却材、など)と核燃料について学ぶ。 【キーワード】炭素繊維、耐熱セラミックス、原子炉材料、放射線計測、使用済み燃料の処理、有効利用、処分	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 藤井 靖彦 (東工大名誉教授)
14	材料評価とコンピュータ設計	分析装置の進歩が著しい。機能に関連する表面の構造や原子の分布を評価して材料設計に反映している。これらの分析の手法、原理を学ぶ。また、材料は一般に複数の化合物を使用し、最適な構造や機能を果たしている。目的とする機能に対し、最適な設計をするために、化合物分子の構造や動的挙動を計算したり、シミュレートすることが行われている。その方法を触媒材料などを例として学ぶ。 【キーワード】XRD、TEM、SEM、IR、分子軌道法、分子動力	秋鹿 研一 (放送大学客員教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 宮本 明(東北大学教授)
15	明日の材料開発	資源問題、リサイクルを見据えた新しい材料設計の研究事例を探究する。材料設計における環境規制、安全規制の重要性を認識する。省エネ、省資源に関して現在の材料の問題点を指摘し、望まれる未来の材料を論ずる。 【キーワード】都市鉱山、汎用元素の利用、膨潤接着剤、REACH規制、省エネ法	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 東 千秋 (放送大学名誉教授)	秋鹿 研一 (放送大学客員教授) 東 千秋 (放送大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1544420	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ バイオテクノロジーと社会 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：武田 穰（名古屋大学教授）〕

【担当専任教員：岡田 光正（放送大学教授）】

講義概要

基礎生物学の急速な進展に伴い、生命現象の理解が進んだ。その研究成果を人類社会のために活用する試み、特に、長寿社会に向けた医療・健康産業、環境に配慮した産業構造への変革等に対する期待はきわめて大きいものがある。その一方で、先端科学技術に対する不安が一般社会に広まっている。一般消費者としても、科学的根拠に基づく、自己責任による判断が必要とされる時代になっていると言える。本科目では、遺伝子組換え作物と遺伝子診断という具体的事例に基づき、自己責任で判断するための情報提供を行う。

授業の目標

遺伝子組換え作物と遺伝子診断について、基本的な技術を理解する。更に、その技術のもたらすメリット・デメリットを十分に理解し、科学的根拠に基づいて、自分としての判断を下すことができるようになる。また、科学以外の分野でも、この科目での学んだ経験を活かし科学的根拠を基にした情報を選択・収集し、論理的に考え、意思決定の場面で応用できるようになる。

履修上の留意点

高校生物程度の知識は必要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	はじめに	バイオテクノロジー周辺の事例を提示して、今何が問題になっているのか、個人として何を判断しなければならないのかについて考える。もっとも身近な例として、食品の表示を見て選択できること、遺伝子診断の同意書に署名できることの2点については、以後の講義で具体的に検討するが、ここではそれ以外の事例を挙げ、簡単に説明する。 [事例] 健康食品・化粧品の効能、生殖補助医療 【キーワード】 バイオテクノロジー、パブリックエンゲージメント	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
2	育種と遺伝子組換え技術への期待	途上国での人口増加・食糧不足が指摘されており、農業不適地の増加とあいまって、世界全体として、食糧不足を補うための技術開発が必要である。遺伝子組換え技術と従来の育種方法を比較して、なぜ、遺伝子組換え技術に期待が集まるのかについて開設する。 【キーワード】 食糧生産、耕作不適地、人口増加、従来型育種	田部井 豊 (独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井 豊 (独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
3	植物における遺伝子組換え技術	植物の遺伝子組換えに関する基本技術を理解する。外来遺伝子の発現の調べ方やその影響についても説明する。 【キーワード】 アグロバクテリウム、Tiプラスミド、パーティクルガン、カルス、体細胞突然変異、外来遺伝子の発現	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	遺伝子組換え作物の栽培の現状	世界にいて、遺伝子組換え作物の栽培面積が急増している現状について理解させる。遺伝子組換え作物が生産者にもたらす利益について説明する。更に、EU・インド・ブラジル・中国等で遺伝子組換え作物の認可が始まっていることを説明し、国際貿易の枠組み内で、日本だけが遺伝子組換え作物を排除することはできないことを理解する。 【キーワード】 除草剤耐性、害虫抵抗性、トウモロコシ、ダイズ、ナタネ、ワタ	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
5	遺伝子組換え作物の開発の現状	ウイルス抵抗性、多収性、ストレス耐性等、生産者にメリットをもたらす遺伝子組換え作物の開発に加えて、消費者にメリットをもたらす第2世代の遺伝子組換え作物の開発が進んでいる。その事例について紹介する。 【キーワード】 食中毒予防バナナ、ゴールデンライス、花粉症緩和米	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
6	遺伝子組換え作物・食品に対する市民の反応	遺伝子組換え作物に反対するグループの論点について整理し、よく引用される科学的根拠といわれるものの信頼性について説明する。食品としての安全性についてはレクチンジャガイモを食べたネズミの免疫不全、英国食品規格庁の発表、環境安全性についてはオオカバマダラ蝶の話、次世代への影響についてはネズミの生殖実験等がよく引用されているが、科学的に信頼できるのかどうか検証が必要である。 【キーワード】 食品安全性、環境安全性、次世代への影響、パブリックエンゲージメント	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
7	遺伝子組換え食品の安全性	食品の安全性がどのように担保されているか 食品安全委員会等の議論を基に説明する。天然物や国産品だからと言って安全とは限らないこと、個人差があること 等を説明し、実質的同等性が認められていることの意味を理解させる。 【キーワード】 食品安全委員会、コンフリー、実質的同等性	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
8	遺伝子組換え農作物の生物多様性影響評価	遺伝子組換え作物が認可されるために必要な実験結果および認可システムについて、理解させる。 【キーワード】 隔離栽培、開放系栽培、花粉飛散距離、自生種との交雑、カルタヘナ法	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	ヒトゲノムと遺伝子診断技術	ヒトゲノムの解読に伴い、多くの突然変異の持つ意味が理解されるようになってきた。その中でも、先天性遺伝病に関する原因遺伝子が数多く発見されている。こうした遺伝病等に関連する遺伝子を受精卵や胎児の段階で診断する基本技術について説明する。 【キーワード】 ヒトゲノム、突然変異、遺伝子疾患、疾患原因遺伝子	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
10	遺伝子診断Ⅰ	髄様ガンは、遺伝的に起きる甲状腺ガンであり、思春期までにほぼ確実に発病する。発見後、甲状腺摘出手術によって治癒するが、転移・再発の危険は残る。遺伝子診断により、原因遺伝子を持つことが明らかになれば、発病前に甲状腺摘出手術を行うことで、発病を防ぐことができる。 【キーワード】 遺伝子診断、髄様ガン、発症前診断	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
11	遺伝子診断Ⅱ	出生前診断(羊水診断・絨毛診断)によって、ダウン症等の診断が可能になっているが、すべての遺伝病で治癒の可能性があるわけではない。また、羊水診断等は母体に悪影響を与える可能性もある。女性の見地を加え、ダウン症等を対象とした出生前診断について考察する。 【キーワード】 出生前診断、ダウン症、着床前診断、遺伝カウンセリング	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
12	遺伝子診断の現状	一般市民も遺伝子診断で用いる個人遺伝情報の持つ意味と特徴を理解し、身近になりつつある体質検査、親子鑑定などに対しても、適切な利用と判断ができなくてはならない。特に、遺伝情報は個人だけでなくその家族と本人の将来の健康情報も含んでいる。究極のプライバシーといわれる個人遺伝情報の意味と特徴と理解し、インターネットなどで安易に入手できる体質検査、親子鑑定などに対しても適切な判断ができるようになることが重要である。 【キーワード】 罹患性診断、体質診断、個人遺伝情報保護	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
13	科学・技術と市民の関わり(パブリックエンゲージメント)	科学・技術の進歩とそれを応用した産業の発展には、それを支える市民の理解がなくてはならない。そして、政策決定プロセスにも市民が関わり、議論することが重要である。新しい科学・技術と社会が健全な関係を築くためには、科学者だけでなく様々な人々の関与の中で透明性のある議論が行われなくてはならない。情報提供と透明性のある議論の中で、パブリックアンダースタンディングが高められていくと考えられる。 【キーワード】 リスクとベネフィット、パブリックアンダースタンディング、安全と安心	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	サイエンスコミュニケーション	市民が科学・技術に関わる政策決定に関与していくには、学校教育ばかりでなく、サイエンスコミュニケーションを通じ、市民のサイエンスリテラシーの向上が求められる。 【キーワード】 コンセンサス会議、サイエンスカフェ、サイエンスリテラシー、サイエンスコミュニケーション	佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	田部井 豊 (独立行政法人 農業生物資源研究所) 佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
15	まとめ	今までの講義を受け、バイオテクノロジー関連の問題について、最近の事例を基に、総括的討論を行う。特に、消費者個人による自己責任、そのための専門家による情報の提供、橋渡しをするサイエンスコミュニケーションの必要性等について強調したい。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、サイエンスコミュニケーション、パブリックエンゲージメント	武田 穰(名古屋大学教授)	武田 穰(名古屋大学教授) 佐々義子 (NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1548450	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 産業とデザイン （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：仙田 満（東京工業大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：若山 滋（名古屋工業大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：梅干野 晃（放送大学教授）】

【分担協力講師：森山明子（武蔵野美術大学教授）
紺野 登（多摩大学大学院教授）
渡邊知子（弁理士 渡邊知子国際特許事務所代表）】

講義概要

産業における技術とデザインは車の両輪のようなものである。製品も、地域も、環境もデザインによってその経済的な波及効果は異なる。
町づくりや企業経営に参画し、関心を持つ人々に、町づくりと産業におけるデザインの重要性について認識してもらう事を目的とした講義とする。

第1編(第1回) 産業とデザインの歴史
第2編(第2回～第6回) デザインの展開
第3編(第7回～第8回) デザインの戦略
第4編(第9回～第11回) デザインの社会性
第5編(第12回～第15回) デザイン価値の創造

授業の目標

産業におけるデザインの重要性を認識する。

履修上の留意点

「環境デザイン論('09)」を学んでおくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	歴史から学ぶ産業デザイン	初回であるため、本講義の主題を各回の要点を紹介しながら解説する。本論としては、安土桃山時代からの我が国の造形の伝統がどのように現代まで継承されているかに触れつつ、明治期、戦前昭和、1950年代、1970年前後といったエポックを辿る。欧州、次いで米国との影響関係も視野に入れて、脱工業化後の産業デザインの課題について考える。 【キーワード】 デザイン日本の源流、資生堂、サントリー、バウハウス、ロシア構成主義、ウィリアム・モリス、ソニー、ホンダ、第三のイタリア	森山明子(武蔵野美術大学教授)	森山明子(武蔵野美術大学教授) 仙田 満 若山 滋
2	インダストリアルデザイン	近代デザインは、近代工業(インダストリー)と歩みをともにしてきた。工業製品の幅は広いので、ここでは特に輸送機器と電気製品に話題を絞り、その代表として自動車と電子情報製品を採り上げ、技術的イノベーションとデザインの変化との関係を具体的に例示して論説する。製品機能とデザイン、生産システムとデザイン、情報社会のデザインなどに焦点を当てる。 【キーワード】 プリウス、フォード・システム、フォルクスワーゲン・ビートル、アイパッド、ウォークマン、パーソナル・コンピューター	若山 滋	若山 滋 ゲスト:喜多俊之(プロダクトデザイナー)
3	コミュニケーションデザイン	昭和初期の商業美術確立以降のグラフィックと広告の流れ、我が国のグラフィックデザイン山脈と欧米を含む広告の名品を概説する。次いで、1980年代以降の新たな広告の動向に言及し、コミュニケーションデザインの役割を社会環境形成、コミュニティとその風景の維持・発展に求める。 【キーワード】 近代広告代理業構想、松下電器産業、西武百貨店、CI、ベネトン、ザ・ボディショップ、デンマークのCI、ストックホルムの地下鉄、九州大学小児医療センター、一次産業×デザイン＝風景	森山明子(武蔵野美術大学教授)	森山明子(武蔵野美術大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	空間デザインの内と外	ここでは産業の基幹となる、人間生活空間のデザインについて、内部空間(インテリア・デザイン)、外部空間(ランドスケープ・デザイン)の立場から説明する。都市、建築、造園、環境、照明などの分野を包括し、空間デザインが人間生活と産業に及ぼす影響を、生理的、精神的、文化的側面から追求する。 【キーワード】 東京再開発、都市集約、庭園と公園、瞑想の環境、住空間の西洋化と近代化、椅子のデザイン	若山 滋	若山 滋
5	ファッションデザイン	人間に最も密接に関わる繊維・アパレル産業は糸から小売りに至る幅広い裾野を有する。絹と木綿は昭和初期に世界を制し、ファッションデザインは1980年代に世界から脚光を浴びた。ソリューションとエモーションをキーワードに、ニット編機、リボン、化粧筆といったファッション関連企業にも言及する。 【キーワード】 SENSEWARE展、テキスタイル、インテリア、ユニクロ、東京ガールズコレクション、島精機、木馬、白鷗堂	森山 明子 (武蔵野美術 大学教授)	森山 明子 (武蔵野美術 大学教授) ゲスト:尾原蓉子(東京ファッションインスティテュート名誉会長)
6	エンターテインメントデザインとレジャー産業	博覧会、サーカス、お祭り、テーマパーク、遊園地など多様なエンターテインメントのデザインの展開と産業としてのエンターテインメントビジネス、レジャービジネスの関係性について論ずる。それにおける満足度とリピート性のデザイン構造について考える。 【キーワード】 キッザニア、エプコットセンター、テーマパーク、博覧会、非日常性、迷路性、体験の多様性	仙田 満	仙田 満
7	デザインとブランド戦略	ブランドは企業の生み出す価値を顧客や市場・社会に伝達・提供・共有するための記号である。商品・サービス、事業、企業、公的組織など広くブランドは重要だが、それは顧客との共有資産でもある。そのためにデザインが果たす役割は大きい。本講ではこうした資産としてのブランドの形成をデザインという視点から考える。 【キーワード】 記号、場、共有資産、アップル、ソニー、パナソニック、グローバルゼーション、ローカルブランド	紺野 登(多摩 大学大学院 教授)	紺野 登(多摩 大学大学院 教授)
8	デザインの経済的効果	デザインは大きな経済的効果をもたらしているが測定は困難とされる。ではその効果を理解し、活用するにはどのような視点が求められるだろうか。本講では、歴史的な経緯を振り返りながらデザインが人間や社会にどのような作用を生みだし、それが経済的効果に結びついてきたかを考察する。 【キーワード】 サービス経済化、デザインと経営の関係史、デザインの作用、経済的効果、マーケティング、市場創造、イノベーション	紺野 登(多摩 大学大学院 教授)	紺野 登(多摩 大学大学院 教授)
9	エコデザインとエコライフ	地球環境時代のエコロジーデザインについて考える。大量生産、大量消費、経済成長の限界が指摘され、産業とデザインの在り方が根本的に問い直されている。地球環境、人間環境を基準にした、物づくりと生産システムと生活スタイルの在り方を追求する。低炭素社会、リサイクルなどの問題を、産業デザインの立場から考える。 【キーワード】 地球環境、低炭素社会、リサイクル、地産地消、自然素材、ゼロ・エミッション、ロハス、バイオ・テクノロジー、シンプルな生活	仙田 満	仙田 満

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	ユニバーサルデザインとデザイン開発	ユニバーサルデザインはバリアフリーデザインから始まったが、それがより広いデザイン戦略、マーケット戦略として世界的な広がりを見せている。高齢化社会はユニバーサルデザインのより広い展開を期待できる。ユニバーサルデザインの背景とその理論について実例を挙げながら論ずる。 【キーワード】 アクセシビリティ、ユーザビリティ、ハートビル法、バリアフリー	仙田 満	仙田 満
11	デザインのグローバリズムとリージョナリズム	文明の進展につれて、インターナショナルからグローバルへと、産業もデザインも変化している。また逆に地域と場所に即したアイデンティティとデザインが求められている。ここでは北陸の金沢と、北欧のフィンランド、スウェーデンを採り上げ、その風土と歴史の中に醸成されたデザインを論じながら、デザインのリージョナリズムに力点を置いて論説する。 【キーワード】 情報、金融、場所、風土、伝統、工芸、文学、木材、アアルト、イケア、アスプルンド	若山 滋	若山 滋 ゲスト: マリメッコ社デザイン部長、アアルト大学広報部長
12	デザイン価値を守る方法	デザインは、商品価値やブランド価値を高めるために重要な役割を担っているが、模倣されやすい特性を持つ。デザイン価値を経営資源として活かすためには、知的財産権によるデザインの法的保護が必要である。本講では、事例を参照しながら、デザイン価値を守る方法について解説する。 【キーワード】 デザイン模倣、知的財産権、意匠権、著作権、不正競争防止法、権利侵害、権利行使、デザイン係争事件	渡邊知子(弁理士 渡邊知子国際特許事務所代表)	渡邊知子(弁理士 渡邊知子国際特許事務所代表) ゲスト: 本田技研工業(株) 知的財産部 ゲスト: 藤沼祐介(パブリックデザイン代表)
13	デザインの競争力を高める知的財産権	デザインを活用して、商品価値やブランド価値を高めるためには、それぞれのビジネススタイルに適した形でデザイン価値を保護し、かつデザインの競争力を高める知財戦略が必要である。本講では、異なるビジネス分野の事例を参照しながら、デザインの競争力を高める知的財産権の活用方法について考察する。 【キーワード】 デザイン開発、知財戦略、国際商標登録、部分意匠権、商標権、キャラクターデザイン・ビジネス、キャラクターライセンス契約	渡邊知子(弁理士 渡邊知子国際特許事務所代表)	渡邊知子(弁理士 渡邊知子国際特許事務所代表) ゲスト: (株) LIXIL商品開発部 ゲスト: 柴田文江(インダストリアルデザイナー)
14	デザイナーと組織	デザイン戦略実践のために不可欠な組織的能力はいかに獲得、実践されるのか。それはどのような能力、組織によって具現化できるのか。本講では、デザインマネジメントの観点からデザイナーとその組織について、デザインの資産としての活用とそのための知の方法論の面にハイライトをあてて考察する。 【キーワード】 IDEO、デザインマネジメント、知識資産としてのデザイン、インハウスデザイン組織、イノベーション、デザインという知の方法論、プロデューサー	紺野 登(多摩大学大学院教授)	紺野 登(多摩大学大学院教授) ゲスト: 大澤隆男(元日立デザイン本部長)
15	日本のデザイン価値の創造	資源のない日本においてデザイン、技術、素材は、世界競争の時代における機動力の両輪である。日本のデザインの強みはその精緻さと遊びという2つの要素にあることを明らかにしつつ、将来における日本のデザインの課題と展望について論ずる。 【キーワード】 デザイナーの規模、デザインの評価、創造力を喚起する社会システム、アワード、コンペ、デザインミュージアム、デザインフェア、MUJI、あそびとデザイン	仙田 満	仙田 満 若山 滋

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1545809	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 環境デザイン論 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：仙田 満（東京工業大学名誉教授）〕

講義概要

環境デザインの視点から建築、造園、都市設計にまたがる新たな分析手法、デザイン手法を解説し、その応用例を示しながら、展開例について論述する。

第1編 環境デザインの視点	第1章～第2章 環境デザインの座標について
第2編 歴史から学ぶ環境デザイン	第3章～第5章 歴史から学ぶ環境デザインの伝統について
第3編 行動から学ぶ環境デザイン	第6章～第10章 人間行動の環境デザイン論について
第4編 地域から学ぶ環境デザイン	第11章～第15章 地域からの文脈をとらえた現代的な課題であるサステナブルな環境デザインについて

授業の目標

従来の建築計画、建築空間デザインから環境デザイン学への展開を学術的な展開過程を示しながら、新たな都市、地域、建築の計画・設計の視点を獲得することを目標とする。分野横断的な考え方により、新たな分析能力と総合調整力を育てると同時に、高度技術化した複合的プロジェクトの価値を見出し、批評性を養い、21世紀のサステナブルな環境建築と環境デザインへの興味を高め、基礎学力をつける。

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	環境デザインとは何か	環境デザインとは何か、環境デザイン学とは何かということについて、歴史的に考察する。環境心理学、環境行動学、環境工学との関係性について、環境デザイン学の位置づけを示す。環境デザインの視点を明確に方向づける。 【キーワード】 環境の意匠、関係のデザイン、境界と関係、環境デザインの座標、地球環境デザイン、環境工学、環境デザイン学	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
2	環境デザインの方法	環境デザインの手法、あるいは方法について論ずる。環境デザインにおけるデザイン組織論、及び環境デザインのプロセス論として3段階論、その中で環境デザイナーあるいは環境建築家としての統括者としての役割について論じ、環境デザインの実践としての具体例を挙げながら、コンセプトから都市デザイン、建築、造園、ディスプレイデザインの流れと統合化して環境デザインを論じる。 【キーワード】 設計仮説、設計の3段階、か・かた・かたち、KJ法、ワークデザイン手法	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
3	伝統住居から学ぶ環境デザイン	日本の建築はアジアの中でも極めて特異な構造的進化を遂げてきた。それが環境に対する応答性である。床、天井、可動間仕切り等による空間構成体の二重性は極めて現代的である。もてなしと労働と子育ての空間としての伝統住居を学ぶ。 【キーワード】 竪穴と高床、土間と板敷、軸組と組積、床座とイス座、二重性、母屋と庇、間面記法、建具、天井、もてなしと労働、室礼、床の間	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日本の都市環境デザインの伝統	江戸期における日本は庭園都市と言われて、園芸文化が興り、100万を超える人口をもちながら、清潔で循環型の社会を実現できたと言われる。その持続可能なシステムと文化から現代我々が学ぶべき事象について探る。 【キーワード】 風水、陰陽五行法、家相、環水都市、循環都市、庭園都市、回遊都市、名所性、愛でる文化	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
5	環境をデザインした人たち	日本の近世以前の建築家、環境建築家的存在について論述し、日本の環境建築家としての存在の有様について概観する。近代デザイン、現代デザインの中で環境デザインという新しいデザイン領域が生まれてきた流れと、そこで活躍した人々を論じる。 【キーワード】 建築家的存在、重源、小堀遠州、夢想疎石、クリストファー・アレキザンダー、ローレンス・ハル普林、ケンブリッジセブン	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
6	子どものあそび環境	子どものための環境デザイン領域について論ずる。子どもの成育環境、あそび環境とは何か、子どもの原風景の調査をもとに、子ども達の成育空間について6つの原空間を示す。またあそびを体験することによって、獲得する能力について考察し、子どものあそび環境における多様性の重要性について論ずる。 【キーワード】 子ども、遊び環境、原風景、6つの原空間	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
7	あそびやすい空間の構造ー遊環構造ー	遊具のデザインを通して子ども達の遊びやすい空間の構造があることを示す。その遊環構造を応用した遊具、建築、造園について例示し、その展開性を学ぶ。 【キーワード】 遊び空間、遊具における遊びの発展段階、遊環構造	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
8	子どもの成育環境の変化と環境デザイン	子どもの成育環境の時代的变化及び国際的比較調査によって、現代日本の子どもの成育環境が極めて貧しく、そのためさまざまな子どもの劣化現象が現れている危機的状況について論じ、その成育環境の悪化の循環を断ち切るための戦略について論じる。 【キーワード】 あそび環境の悪化の循環、意欲の低下、群れる場、多くの大人によって育まれる場、自然体験の場、コレクティブハウジング、プレーパーク、中低層中庭型住宅、あそび道の復活、長期自然体験、自然学校、学社融合型学校	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
9	歩行線形と街路・廊下のデザイン	歩きやすいということが、町のデザインにとっていかに重要か、歩行しやすい歩道の断面形状、平面形状について論じ、ストリートファニチャー、ベンチ、植栽の配置についても学ぶ。 【キーワード】 歩行線形、歩きやすさ、近道、廊下の形状、滞留、待ち合わせ、パフォーマンス	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	建築の個体距離と景観デザイン	建築には個体距離があり、その個体距離と緑とデザインが相互に関連して景観を形成している。この関係性を明らかにした上で、都市におけるより良い景観形成のための手法を提示する。 【キーワード】 個体距離、景観、十字式設計法、社会距離	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
11	内部空間と外部空間の中間	環境デザイン領域において重要な領域である、内部空間と外部空間の中間体としての廊空間について論じる。廊下の出現はどのようになされたのか、廊下とはどのような役割をもつ空間なのか、歴史的、地理的な廊空間の展開を踏まえて、環境デザインの重要なツールとしての廊空間を論じる。 【キーワード】 廊、廊空間、廊下、廊の公私性、庇、縁、簀子	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授) 高木 真人 (京都工芸繊維大学助教)
12	都市における廊空間の展開	廊空間は主体的な空間に付属的な位置であったが、それが公共性をもつことによって、その主従関係が逆転していく。世界における廊空間の展開から、現代都市における廊空間のあり方について分析的に論述する。 【キーワード】 都市廊、雁木、こみせ、亭仔脚、騎楼、ポルチコ、ベランダウェイ、ショップハウス、スーク、パサージュ	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
13	満足度と集客性の環境デザイン	人間は満足という尺度によって選択し、行動する。満足を与えるためには空間的な質と量、デザイン、サービスが必要である。満足度という視点からデザイン、計画を検証する。 【キーワード】 満足度、満足を与える空間の量と質、科学館、集客効率、入館者数予測	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
14	環境調和と建築形態	自然環境の中で現代建築がその環境的調和を破壊しているときがある。自然環境の中でいかに建築景観はあらねばならないかを事例を挙げながら、分析、論述する。 【キーワード】 斜面緑地、屋根と環境、景観形成、周辺環境とのおさまり、水景、おちつきとにぎわい	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
15	地球環境建築と5つの目標	現代において最も重要な環境デザインの課題は、サステイナビリティ（持続可能性）である。それを実現するため、地球環境に配慮したビルドエンバイロメントの構築が求められる。長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、継承という5つの課題について論述し、これからの環境デザインの目標とする。 【キーワード】 建築の長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、継承、風の道、ダブルスキン、気候同調建築	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1639358	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 都市・建築の環境とエネルギー （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Cities, Buildings, Environment and Energy ('14)]

〔主任講師（現職名）：梅干野 晃（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

これからの地球環境時代、環境負荷の小さい安全で快適かつ健康的な環境共生社会を実現しなければならない。それには、これまでの機能性、利便性優先の都市生活に対するパラダイムシフトと、バナキュラー建築を原点とした環境と共生した都市・建築のあり方が求められてくる。本講義では、このような視点に立って、環境共生社会の実現のために、街づくりに焦点を当てて、環境、特に熱環境とエネルギーについて考える。

第1章～第7章：はじめに都市・建築と気候・風土との関係を概観する。そのうえで、都市環境問題、特にヒートアイランド現象と日常の生活空間における熱環境の実態を明らかにし、今なぜ熱環境が問題なのかを考える。さらに、都市及び建築を支えるエネルギー施設について理解しながら、都市から建築におけるエネルギーの流れを把握する。

第8,9章：都市生活のライフスタイルのパラダイムシフトは必須である。この2章では、都市・建築環境の主体である人間と環境のかかわりについて理解を深める。そしてさらに、これからの都市・建築環境とのかかわり方について考える。

第10章～第15章：環境共生社会を実現するために、建築外部空間に着目し、街づくりの基本的な考え方と設計規範を述べたうえで、日射・日照調整、通風計画、都市・建築緑化、クールスポットの形成などの具体的な手法やスマートコミュニティなどについて必要な知識を取得する。

放送教材では、日本の気候風土と大きく異なる砂漠地域の沿岸都市アブダビとオアシスのアル・アイル（アラブ首長国連邦）を比較対象として紹介しながら講義を進める。

授業の目標

街づくりにあたっては、今まで慣れ親しんでいるその土地の気候・風土や、その土地の持つポテンシャル見抜かねばならない。そのために人間と環境とのかかわりと、環境、すなわち、気候・風土、自然エネルギーについての深い理解を得ることを目標とする。環境負荷の少ない快適な街づくりを実現するための具体的な技術を理解しながら、地球環境時代の街及びライフスタイルはどうあるべきかを自分の問題としてとらえ、街づくりに活かしてほしい。

履修上の留意点

具体的な建築外部空間の写真や3D-CADに加えて、熱環境を可視化した赤外線放射カメラによる熱画像やシミュレーション結果の3D画像などを示しながら講義を進める。目に見えない熱環境やエネルギーを少しでも感性を奮い立たせて理解していただきたいと思う。この授業を通して、都市・建築、そして街の環境には、目に見えない熱、空気、音などが日常の生活を大きく規定し、街づくりと深く関わっていることに気づいてほしい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	都市・建築を環境とエネルギーから考える	はじめに本講義のねらいと全体の構成を説明する。 本講義の問題提起として、都市に着目し、日本の都市環境の実態を明らかにしたうえで、今なぜ、熱汚染なのかを考える。さらに、今日の地球環境時代における環境共生社会を実現するうえで、街づくりのために建築外部空間に焦点を当てる意義について述べる。 【キーワード】 環境共生社会、都市環境問題、街づくり、建築外部空間、バナキュラー建築、国際建築様式	梅干野 晃 (放送大学教授)	梅干野 晃 (放送大学教授)
2	気候と都市・建築	都市・建築はもともと地域の気候・風土に根ざしたものである。環境共生社会の実現には、この原点に帰る必要があろう。地域の気候・風土を理解し、そのポテンシャルを最大限に生かした街づくりが求められる。 はじめに、日本の位置を確認するとともに、世界の都市と比較しながら日本の気候特性を把握し、さらに環境設計の視点から、地域性も踏まえて気候特性を読み解く。 【キーワード】 緯度、日照時間、気温・湿度、降水量、積雪量、クリモグラフ	梅干野 晃	梅干野 晃

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	都市気候とヒートアイランド	都市に形成される特有な気候，都市気候について，その形成要因と特徴を概観する。 次に，ヒートアイランド現象に着目し，衛星と航空機リモートセンシングによる画像を示しながら，大都市と小都市におけるヒートアイランド現象の実態をとらえる。ヒートアイランド現象の主要因が土地被覆の改変であることを示すとともに，今なぜ，ヒートアイランド現象なのかを考える。 【キーワード】 都市気候，ヒートアイランド，リモートセンシング，熱画像，土地被覆の改変，人工排熱	梅干野 晁	梅干野 晁
4	生活空間の熱環境	はじめに，人体の熱平衡と熱的な快適性との関係について考え，熱放射の評価指標として平均放射温度について理解する。その上で，生活空間における熱環境の実態を熱画像によって可視化するとともに，建築外部空間に放出される人工排熱について把握する。さらに，冷房がヒートアイランド現象の形成要因になるのかどうかを議論する。 【キーワード】 生活空間，熱的快適性，平均放射温度，人工排熱，熱中症	梅干野 晁	梅干野 晁
5	生活を支える都市エネルギー施設	都市で生活を営むには様々なエネルギーが必要であり，安定的に供給して需要に供し，不要物を確実に排出するには都市固有の都市施設が社会のルールに基づいて建設整備される必要がある。 5章から7章にかけては様々な角度から都市施設について解説する。特に，5章では，人間生活の基本であると同時にエネルギー供給とも関係の深い水と廃棄物の都市内施設について紹介し，都市の熱エネルギー利用の側面からこれらの施設との関係を日本と欧州の比較をしながら解説する。 【キーワード】 都市施設，地域冷暖房，欧州の熱供給施設，複合エネルギー利用	金島 正治 (日本大学特任教授)	金島 正治 (日本大学特任教授)
6	建築を取巻くエネルギー施設	建築で利用されるエネルギーは都市に設置された各種のエネルギー施設を通じて個別の建築に導入される。建築サイドでは，安全で安定してエネルギーを受けるとともに，建築内で発生する不要物を適切な方法で都市の施設に戻す必要がある。そのため，建築内には様々な建築設備が設置され，居住者が安全で健康な生活を営めるような仕組みが構築されねばならない。各エネルギーがどのように取り入れられて利用されているか，効率的に利用するためにどのような工夫がなされているか，エネルギー利用を削減する工夫にどのようなものがあるかを解説する。 【キーワード】 建築設備，エネルギー変換，運営管理，自然エネルギー利用	金島 正治	金島 正治
7	都市・建築におけるエネルギー利用	都市のエネルギー消費の変遷を通して，生活の質の変化とエネルギー消費量の変化を確認する。さらにエネルギーを利用する場所や利用レベルの調整により様々な施設感の相互融通利用などの可能性について確認する。 【キーワード】 エネルギー消費動向，省エネルギー，エネルギー利用の流れ，エネルギーの安全・安定供給	金島 正治	金島 正治

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	人間と環境	環境の定義を明確にした上で、環境の基本的な性質を述べ、もっとも身近な環境―建築環境―と人の身体との関係を概観して、人間と環境とがどのような関係にあるかを考える。 【キーワード】 入れ子構造, 建築環境, 体内環境, 脳環境情報, 学習	宿谷 昌則 (東京都市大学教授)	宿谷 昌則 (東京都市大学教授)
9	熱と人の振る舞い― エクセルギーで読む 環境づくり	本章では、エクセルギーと呼ばれる熱力学概念を紹介し、人の体温調節機構がエクセルギーの観点から見て、どのように理解することができるかを概説する。 【キーワード】 エクセルギー, 資源性, 環境, 消費, 放射温度	宿谷 昌則	宿谷 昌則
10	熱環境・エネルギーの 基本―太陽放射	建築外部空間の熱環境を規定するもっとも主要なものが太陽放射である。はじめに太陽放射について基礎知識を得たうえで、建築外部空間における微気候形成の基本となる太陽放射の熱収支について理解する。さらに日常生活と太陽放射との関わりを日射と日照として認識したい。最後に街づくりと深く関わる太陽位置を知る方法を習得する。 【キーワード】 太陽放射, 熱収支, 日照と日射, 建築外部空間, 日影図	梅干野 晃	梅干野 晃
11	街づくりのための環 境設計	環境共生社会における街づくりのための環境設計について、その基本的な考え方を確認したうえで、具体的な設計手法として最も基本的な日射・日照調整と街の通風計画をとりあげ、それぞれの設計規範、具体的な方法とその効果などについて解説する。 【キーワード】 地域の気候特性, 環境設計, 日射調整, 照り返し, 通風計画	梅干野 晃	梅干野 晃
12	都市・建築緑化と街 づくり	気候・風土と都市・建築緑化との関係を考えながら、都市・建築緑化の意義を明確にする。さらに、具体的な手法を整理し、それぞれの環境調整効果をまとめる。最後に、屋上緑化をとりあげ、屋上緑化の具体的方法と、断熱効果・焼け込み防止効果との関係を定量的に議論する。 【キーワード】 都市緑化, 建築緑化, グリーンアーキテクチャ, 街づくり, 環境調整効果, 屋上緑化	梅干野 晃	梅干野 晃
13	街にクールスポットを つくる	日本の夏の生活環境を理解した上で、街に涼しい生活空間(クールスポット)をつくり出すための設計の規範を示す。クールスポットをつくり出すための具体的な方法として、蒸発冷却, 冷熱源としての大地の利用, 蓄冷, 大気放射冷却に着目し、それらの効果についての知識を得る。さらに蒸発冷却による具体的な事例を取り上げ、その効果を議論する。 【キーワード】 クールスポット, 蒸発冷却, 大気放射冷却, 蒸発冷却壁体	梅干野 晃	梅干野 晃

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	これからのエネルギー利用を考える	施設の全運営期間について評価するライフサイクルによる考え方を紹介し、エネルギー使用量の評価にとどまらず、地球温暖化に大きな影響を及ぼすCO₂ガスに代表される温暖化ガス排出量による評価についても解説する。さらに社会的な評価の動向についても学ぶ。 【キーワード】 ライフサイクル(LCC.LCCO₂)、温室効果ガス(GHG)、スマートコミュニティ、企業の社会的責任(CSR)	金島 正治	金島 正治
15	これからの街づくりに向けて	これからの街づくりに向けて、今日の都市を改めて問い直し、そのキーワードのひとつにヒートアイランド現象があることを提起する。さらに、これからの街づくりの具体的アプローチとして、都市・建築緑化による街づくりの提案事例をとりあげて、街の熱環境の予測・評価について議論する。なお、放送教材では、実験都市マースダール(アブダビ)などの新しい街づくりの事例も紹介する。 【キーワード】 環境共生都市・建築、脱ヒートアイランド、都市・建築緑化、街づくり	梅干野 晃	梅干野 晃

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1551906	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 実存と現象学の哲学 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：山口 一郎（東洋大学客員教授）〕

【担当専任教員：佐藤 康邦（放送大学教授）】

講義概要

人が生きることは、さまざまな問いとともに生きることです。具体的な生活上の諸問題、そのなかでも、家族や学校や職場などでの人間関係は、日々の生活の中で、もっとも重要な問題として、生きる喜びや苦しみの根源となっています。この講義では、人と人との応対の仕方に重点を置き、他の人といかに喜びや悲しみを共にしながら生きていくのか、その現実と理想を、多角的に考察してみたいと思います。現代哲学の中でも、「実存主義」や「現象学」という哲学は、この問題について考える上で、もっとも豊かな内容をわたしたちに与えてくれます。「他者の痛みに触れることができるのか」、「人と人との真の出会いとは可能か」といった問題をめぐり、二つの哲学から多くを学びたいと思います。

授業の目標

日々かかえて悩み、解決をさぐっているいろいろな諸問題を、「自分の心の痛み」を解消せずには、一時間をも耐え切れない場合の痛切さで、徹底して考えつくそうとする哲学者達と共に、問題解決を求めて、その歩みを共にすること、これが、この授業の目的です。考えるとは、もともと全身全霊でおこなうものです。しかし、思い悩んでいるときは、えてして、周りがみえなくなるものです。同じように悩んでいる人にはまったく気づかず、一人、暗闇の穴の中でもがくものです。現象学とそれを基礎にした実存主義の哲学は、一人一人の暗闇のただなかで苦しんでいる、まさにそのことが、他の人と、生きる最も深い根源において結びついていることを指し示しています。明らかにすべきは、このことです。

履修上の留意点

この講義で解決が求められる諸問題は、人それぞれによって、関心の持ち方が異なっているのは当然のことです。いわゆる、人間関係の問題に何の悩みもない人がいたり、それは自分個人の問題として、学問として公に論ずるべきものではない、とする人もいます。しかし、「人と人との応対の仕方」を問うとは、人生相談への解答とは違います。公の学問研究をすすめる自然科学者であれ、精神科学者であれ、どんな職業についている人であれ、また、子供であれ、大人であれ、人が生きることの、多くの場合、隠れて働いている秩序というものがあります。生きることそのものの自覚としての哲学の探求は、いままでの自分の生き方に、気づかずに働いていた構造や規則性に気づける、自覚できるものにしていきます。履修上の留意点は、まさに、それに気づけるようになるには、それ相応の忍耐が必要とされるということです。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	出会いについて問う	この講義全体で取り上げられる問題は、簡単にいえば、「人と人との真の出会いとは可能であるか」という問題です。いったい「真の出会い」とは何か、生存競争の現実において、出会いなど幻想ではないのか、いったい、現実とはなにか、感覚は確かといえるか、知覚、想起、時間、空間、身体、心、人格、他者、社会といったテーマのつながりの中で出会いの可能性が問われることになります。 【キーワード】 出会い、疑いえないこと(明証性)、「汝」と「それ」としての相手、実存と現象学の哲学の方法	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
2	「ただただ感じること」と「自分の感覚」、そして知覚	私の感じるあなたの手の温かみは、私が感じる温かさであって、人は、各自、触覚において、自分の皮膚感覚の内に閉ざされていて、他者が受け取る触感覚との間には、超えられない深淵が横たわり、他者との触れ合いとは、結局、自分の思い込みなののでしょうか。人との出会いの可能性を、感覚をどう理解するか、レヴィナスとブーバーの見解の違いを通して問いの形にしてみます。 【キーワード】 自分の感覚、他者の感覚、共感、確かとはどういうことか(明証性)、意識作用と意識内容の相関関係	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	「過ぎ去りつつ残るもの」と「気づかれない予感」	「現実、確実、幻想、思い込み、真実と偽り」など、いったい確かということの絶対的な保証は、どこにあるのでしょうか。これがはっきりしていなければ、つまり、お互いに確かと思える基準が見当たらなければ、結局、何を論じても、終着点は、みつからず、結論を導きだせません。その基準をはっきりさせ、瞬間に限られていた意識の明証性は、生き生きとした現在の幅をもつことになります。 【キーワード】 感覚の変化と時の経過、気づかない以前が残ること(「過去把持」)、気づかずに予感する「未来予持」	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
4	「出会いのとき」から生まれる心の時間と時計の時間	いわゆる誰もが基準にしている「時計の時間(客観的な時間)」は、学ばれて共有されるようになった時間です。約束のときに使える時間ですが、自分の体験に即した時間ではありません。自分にとっての今、過ぎ去るとき、まだ来ていない未来のとき、これらの自分の時間は、どのように感じられ、意識されているのでしょうか。これが明らかになれば、他者と共有する時間の確かさも確信できます。 【キーワード】 客観的時間、体験の時間、いきいきした現在、瞬時という幻想、ゼノンのパラドクス(逆説)	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
5	身体をめぐる脳科学と現象学、因果と志向性	同じ場所に居合わせるときに身体を介して広がっている雰囲気や気分は、人と人との応対の状況をまえもって決めています。この場の雰囲気を感じる敏感さは人それぞれです。歩く、走る、座る、道具を手にする、などなど、身体の動きに即して広がっている身の回りの空間はどのように生きられ、意識されているのでしょうか。現象学の「志向性」による身体の解明と脳科学の「因果性」による身体の解明の違いを明らかにしたいと思います。 【キーワード】 触れる身体と触られる身体、随意運動と不随意運動、脳科学と現象学の方法	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
6	心と身体の相互関係:過去の記憶と現在の知覚の関係から考える	物から見た身体と心から見た身体の関係を、「幻影肢」という事例ではっきりさせてみたいと思います。その際、手術して、もうないはずの腕が痛むという幻影肢と、その幻影肢の痛みが取れた症例を通して、身体は、物とも心とも単純に理解できないことが示されます。身体の痛みは、今感じる痛みであっても、過去の記憶と密接に繋がっていることが明らかにされます。そして過去の記憶というのは、視覚や聴覚など他の感覚野との繋がりが(リンク)という相互作用において「痛んでいた」ということが明らかにされます。 【キーワード】 幻影肢、感覚野の間の相互作用の記憶、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	現象学の方法と自然科学の方法	現代哲学は、単に自然科学の研究成果をまとめる論理にかなったまとめ役なのではありません。現象学は、各自の意識に疑いきれない必然性において与えられている明らかさ「必然的な明証性」を真理基準とし、さらに、どのようにしてそのような必然的な与えられ方になっているのか、その「いかに」を問い、その「どのように」が、十分に明らかになる「十全的明証性」を目指します。この回では、このような現象学の探求方法が、脳科学の最近の研究成果をどのように受け止め、現象学の真理基準に照らし合わせて、どのように統合しているかを論述します。 【キーワード】 必然的な明証性、十全的明証性、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
8	無意識の現象学への導入	意識された過去把持と無意識に働いている過去把持の疑いきれなさ、つまり、必然的な明証性の関係を十全的明証性にもたらそうとするのが、今回の重要な課題です。意識の明証性の中心に置かれる「自分が自分であること」の明白性は、実は、無意識に働く「身体の自己中心性」を前提にしてのみ、働かうのです。しかし、無意識の身体性は、物の因果によって説明できない、生命の生きる動機、無意識の生命の動機によって、目的づけられて働いています。今回は、無意識の現象学に入る導入の役割を果たします。 【キーワード】 現実の世界と論理の世界、無意識的及び意識的動機づけ、無意識の過去把持の疑いのなさ、自我の同一性と身体の自己中心性	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
9	感情・本能・衝動:無意識の現象学の課題	現象学は、通常「意識の明証性」に即した、また、その領域だけに限られた哲学であるという誤解が広がっています。この誤解は、無意識に働く過去把持や、その過去把持の内容が、無意識の受動的綜合を通して成立していることを論証することを通して、完全に払拭されます。わたしたちにそのつどの現在に与えられている無数の感覚内容は、無意識の受動的綜合の規則性である連合や触発に即して働く本能や衝動や感情を通して、選択されつつ与えられています。ここに、無意識の現象学の領域を確定することができます。 【キーワード】 ミラー・ニューロン、感情、本能、衝動、連合と触発、無意識に働く受動的綜合	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
10	わたしの感覚とあなたの感覚の区別の源泉としての間身体性	この回の講義で、初めて立てた出会いの可能性の問いに明確な解答が与えられます。自分と他の人の感覚という超えられない断絶が、各自の感覚が感覚になった源泉に遡って、自他の身体の違いが生成する以前の幼児と養育者との情動的コミュニケーションの場が、現象学の反省にもたらされることを通して、根底から克服されるからです。共有体験は、共有する時間と空間において共に生きられる人と人との根源的コミュニケーションが成立している領域なのです。しかし、この領域の獲得と、大人の出会いの実現そのものとは、同じではありません。 【キーワード】 母と子の間の情動的コミュニケーションと言語を介したコミュニケーション(能動的相互主観性)、原共感覚からの個別的感觉野の生成、自他の身体の違いの成立、感覚内容の形態化	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	客観的時間と空間の 成り立ち	前章の講義を通して、母子関係においてどのように乳幼児の身体感覚の世界が形成されてくるのかが明らかにされてきました。本章では、このことを基礎にして、乳幼児が、他の人々とともに、周りの世界の中を生きること、どのようにして、共有する時間と空間を自覚できるようになるか、そのプロセスを考えます。そのさい、自分のしたことを覚えておける、再び思い起こす「再想起」の働きが働きだすのでなければなりません。同じものが同じものであるという事物の同一性が分かるようになり、言葉が使え、数を数えることができるようになることも、必要とされます。 【キーワード】 母と子の間の共有体験と情動交換、再想起(長期記憶)の働き、言語使用、事物の同一性、客観的時間と空間の意識の成立	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
12	幼児期の「生得的汝」との 関係と成人の「我汝関係」	出会いは、まず、幼児期に幼児が養育者を中心にした世界に対して、「生まれながらに与えられている生得的汝」として直向きに関わるとき、生成します。次に出会いは、自我が形成され、知覚や言語使用という能動的能力が発展してのち、世界を利用する対象とみなす「われ-それ」関係が中心となる成人の生活の中で、「我汝関係」として実現します。この幼児期の出会いと成人の出会いとの共通性は、自我に囚われないその「無私性」にあります。フッサールの語る「我汝関係」は、受動的綜合を通して、その基礎が確定され、人格的態度において実現されます。 【キーワード】 受動的綜合としての対化、幼児期の生得的汝との出会い、自己中心性から解放された無私性、人格的態度と出会い	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
13	出会いと倫理	日常生活において社会のルールに即して生きている私たちにとって、常に社会倫理に対応した生活が求められています。その社会倫理の基礎は、人々の間の「思いやりや支え合い」を中心にした人間関係の基盤です。この倫理の基礎は、親子間の情動的コミュニケーションを通して形成されてきます。人生の節目にあつて、自分の全体をかけた倫理的決断の際、人は、自分の感性と知性の全体をかけて、その問題に取り組むことが求められます。自分に気づいているだけでなく、気づかれていない無意識の自分にまで遡ってはじめて、自分の全体が問いへの「答え」となるのです。 【キーワード】 幼児の対人関係、倫理の基礎の形成、間身体的感覚と感情、感情の自覚と言語化、人間の全体が問われる倫理的な問い	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。
14	異文化に育った人々の 出会いの可能性	第2次大戦後、実存哲学とマルクス主義の哲学とが互いに拮抗する現代哲学の二大思潮となった際、人間を具体的に歴史性を担う全体として捉える「実存の哲学」は、意識主体としての個我ではなく、全体的な人格として理解しようとしてきました。フッサール現象学が他者経験に哲学的根拠を与えようとして、受動的綜合としての「対化」を提示しました。この論点をめぐり論議された人格と、仏教倫理における無我の「無私性」とは、自己中心性から解放されているという共通性を持っていることが明らかにされます。 【キーワード】 異文化に育つこと、人格と実存、受動的志向性としての対化、人格的態度、「我-汝-関係」と仏教の無我(無私性)	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
15	問いの道筋を振り返って(まとめ)	これまでの、感覚、時間、空間、知覚、心身関係、間身体性、相互主観性等々考察の歩みを振り返り、出会いの可能性の問いがどこまで明らかになったのか、確認してみます。そのさい、「出会いの問い」、「現象学と実存の哲学の真理の基準」、「時間の意識の解明」、「身体的実存の現象学」、「現象学の方法と自然科学の方法」、「自・他の身体の違いの成立と自他の感覚の区別の源泉」、「幼児期における「生得的汝」への関係と成人における我汝関係、という順番でまとめていきたいと思います。 【キーワード】 上記、参照。	山口一郎 (東洋大学客員教授)	左に同じ。

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1551914	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 功利主義と分析哲学 （'10）＝（R）
－経験論哲学入門－

〔主任講師（現職名）：一ノ瀬正樹（東京大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：佐藤 康邦（放送大学教授）】

講義概要

「功利主義と分析哲学」という二つの思潮を整理基軸として、近世から現代に至るまでの英語圏の主な哲学・思想の歴史的展開とその意義について、経験論、とりわけその「計量化への志向性」という側面に集約させる形で、分かりやすく論じる。理論哲学と実践哲学とが交差しあうことによって発展してきた英語圏の哲学の躍動性を伝えたい。

授業の目標

経験論という発想の意義について、ベーコン、ホブズ、ロック、ヒュームといった古典的な哲学者の考え方に沿って正確に理解する。そして、社会契約論の基本を押さえた上で、ベンサムやJ.S. ミルに発する功利主義の考え方の歴史的および現代的意義を正確に捉える。功利主義は、ときどき利己主義と誤解されているので、正確な理解は重要である。その後、経験論の延長線上にある、現代の分析哲学について、ウィトゲンシュタイン、クワイン、グッドマンなどに沿いながら跡づけ、最後に今日の「ベイズ主義」について紹介する。

履修上の留意点

特にないが、英語圏の哲学についてたくさんの書籍が刊行されているので、興味のあるものをどしどし読んでゆくことをお勧めする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	経験論の源流	経験概念の意義を確認し、ベーコンとホブズの思想を解説する。 【キーワード】 イドラ、リヴァイアサン、帰納	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
2	ロック哲学の衝撃	ジョン・ロックの哲学および所有権論について、『人間知性論』の観念説を中心に解説する。人格概念との相関が軸となる。 【キーワード】 観念、人格、確率	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
3	ロックの所有権論	ジョン・ロックの政治哲学および所有権論について、『統治論』に即して解説する。 【キーワード】 自然法、労働、人格	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 今村健一郎 (埼玉大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ジョージ・バークリの 非物質論	ジョージ・バークリの非物質論について解説する。経験論の広がりを跡づけたい。 【キーワード】 エッセ・イズ・ペルキピ、抽象観念、モリヌクス問題	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
5	ヒュームの因果批判	デイヴィッド・ヒュームの因果批判について解説する。その上で、ヒュームの道徳論の特徴にも触れる。 【キーワード】 原因と結果、習慣、コンヴェンション	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
6	ベンサム思想	ジェレミー・ベンサムの功利主義について解説する。そして、功利主義と義務論の対比を整理する。 【キーワード】 最大多数の最大幸福、義務論、死刑論	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 児玉聡 (京都大学准教授)
7	ミルと功利主義	J.S.ミルの功利主義と自由論について、ベンサムとの対比のもと、解説する。 【キーワード】 質的功利主義、他者危害原則、自然主義的誤謬	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
8	論理実証主義と言 語分析	20世紀はじめに起こった論理実証主義の運動、そしてそのイギリスでの展開者A.J.エアの議論を解説し、その上で言語行為論について触れる。 【キーワード】 検証主義、センス・データ、言語行為	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
9	論理学の展開	フレーゲ、ホワイトヘッド、ラッセルをめぐる、現代論理学の草創期の動向を跡づけ、集合論や意味論のパラドックスについて解説する。 【キーワード】 論理主義、ラッセルのパラドックス、嘘つきのパラドックス	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 長田 怜 (埼玉大学講師)
10	ウイットゲンシュタイン の出現	ルトヴィヒ・ウイットゲンシュタインの前期哲学と後期哲学について解説する。 【キーワード】 語りえぬもの、言語ゲーム、規則のパラドックス	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 大谷 弘 (武蔵野大学講師)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	現代の功利主義	シジウィック、ヘアなどの現代功利主義について解説し、その上でピーター・シンガーの動物解放論にも触れる。 【キーワード】 行為功利主義、規則功利主義、選好功利主義	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
12	帰納の謎	ネルソン・グッドマンの「グルーのパラドックス」を題材にして、帰納法にまつわる現代分析哲学の議論、およびポパーやクーンなどの現代科学哲学、そして生物学の哲学について解説する。 【キーワード】 帰納と演繹、反証主義、パラダイム論	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
13	自然主義の興隆	ウィラード・オーマン・クワインの「自然化された認識論」について解説する。そして、倫理学への自然主義の拡張の問題についても触れる。 【キーワード】 ホーリズム、行為の因果説、脳神経倫理	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
14	認識の不確実性	確率と曖昧性めぐる、現代分析哲学の議論を解説する。 【キーワード】 確率的因果、ソライティーズ・パラドックス、ラムジー・テスト	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
15	ベイズ主義の展開	ベイズ主義的な認識論と意思決定理論について解説する。これは、功利主義と分析哲学が見事に融合した典型的な議論展開である。 【キーワード】 実践的推論、義務論理、ベイズの定理、ニューカム問題	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 鈴木聡 (東京大学研究員)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554115	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代哲学への挑戦 （'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：船木 亨（専修大学教授）〕

【本学担当専任教員：佐藤 康邦（放送大学教授）】

講義概要

現代の思想状況は、とくに時代を主導する哲学的思潮もなく、流動的な世界情勢や激変する社会環境や増殖する魔術的な知を背景にした多様な思考によって混沌としている。1950年代に、フランスの哲学者、M・メルロ＝ポンティが「われわれの非哲学」といういい方をしたが、それは19世紀にはじまった心理学の人間像、社会学の人間像の非哲学的探求のなかで、近代までの哲学的姿勢が見失われていく趨勢のことであった。「現代哲学への挑戦」とは、20世紀の哲学と非哲学の関係を総括し、現代の思想状況に参照しつつ、これからの哲学の確かな道筋を発見しようとする試みである。

授業の目標

現代哲学を学びたいと希望するひとは、現在の文化的社会的状況についての確かな認識と、それを超え、そのなかで生きる指針となるようなものを求めているのではないだろうか。そうした問題意識のもとに、現代思想の全体を一覧するような導入ではなく、現代を駆け抜けて未来へと向かう思考の方向性の提示ができればと思う。情報や一覧表や系統樹や結論や道徳を求めるよりも、「問と思索をどのように進めて問題の在りかを発見していくか」という哲学的な姿勢を学び、自分なりに「いま」を見つめるのに役立ててもらいたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	哲学の黄昏	哲学とは、元来は愛知という「情念」である。哲学を、思想史の流れのなかだけでなく、現代的状況から捉えなおす必要がある。哲学は、西欧近代において樹立された思考の伝統であり、近代的諸価値に基づく知識が消滅し、情報が中心になりつつある現代的状況とともに終焉しつつある。 【キーワード】 愛知・分かること考えること・哲学史・講壇哲学・歴史・情報・人間の終焉・価値の相対化	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
2	現代という概念	モダンという呼び名は、単なる一時代ではなく、直線状に未来の進歩へと向かう「ひとつの世界」の歴史における一時代だった。そうした歴史観が発明された時代であり、その前後に向かって歴史対象が拡張され、やがて普遍的登記簿として、森羅万象が登記される説明原理となった。 【キーワード】 モダン・ルネサンス・現代化・19世紀・普遍的登記簿・博物誌・歴史上の存在・歴史の歴史	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
3	歴史の終焉	ルネサンスにおいて発見されたのは、世界がひとつであるということ、人間が意識をもった人格であるということであった。それは定時法的時間や大衆を社会に結びつけるメディアの普及によるものだった。しかし歴史の方向性がなくなり、時間における現在が多面的になりつつある。 【キーワード】 ブルーノ・ロック・客観的時間・メディア・マクルーハン・帝国・植民地・大衆・反歴史と汎歴史	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ポストモダニズム	ポストモダニズムは、建築にはじまり、文学芸術の分野にもそれと似た傾向が見いだされて一般化された。そこにある共通の思想に関し、ポストモダン思想としてリオタールやデリダの思想がアメリカでとりざたされたが、そこで生まれたものは、ローティによると哲学ではなく文化批評であった。 【キーワード】 モダニズム・スタイル・ポストモダン思想・リオタール・ボードリヤール・ローティ・デリダ・脱構築	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
5	哲学と政治のキアスム	ポストモダン思想の源泉であるリオタールとデリダの哲学は、権力を前提した近代哲学の伝統にあって、ポストモダン状況を、近代を推進する前衛運動から区別できなかった。ポストモダン状況では、新しい政治哲学が必要であり、それを究明しようとしていたのはフーコーであった。 【キーワード】 前衛・サブカルチャー・フーコー学・脱構築・マンフォード・ハッチオン・近代国家・デジタルメディア	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
6	現代哲学の条件	ダーウィンの進化論によって、人間精神も自然科学によって説明されるようになり、哲学に深刻な問題が生じた。歴史のあらたな捉えなおしと、生命と人間と機械の関わりを論じる必要が生じたが、現代哲学はそれに成功しなかった。機械一元論の哲学が必要である。 【キーワード】 進化論・文明・スペンサー・カンギレム・人間機械論と機械一元論・サイボーグ・エレホン・ホップズ	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
7	現代哲学者たち	19世紀後半にはじまる現代哲学は、生命と精神の関係の難しさをふまえて、哲学を再興しようとする試みであった。進化論直後に現れた、生命に優位性を置く「生の哲学」に対し、その後のシェーラーの「哲学的人間学」は、問題はそのようには解決できないことを指摘した。 【キーワード】 現代哲学・普遍性・西田・生の哲学・ディルタイ・ギュイヨー・人類学・シェーラー・哲学的人間学	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
8	実存主義	実存主義は、サルトルの「実存は本質に先立つ」という定義によって与えられたが、ハイデガーは存在こそ先立つとして否定した。両者とも、生から出発するよりも、未来や死から出発することによって、個々の人間の、科学的定義とは一線を画すあり方を示そうとした。 【キーワード】 サルトル・実存と本質・存在論・現存在・脱自・ハイデガー・メルロ＝ポンティ・死・神・ヒューマニズム	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
9	フッサール現象学とベルクソニズム	意識から出発した二人の哲学者、フッサールとベルクソンは、前者が合理性の故郷を意識の経験のものと生活世界に求めたのに対し、後者は生の哲学へと舵を切った。ベルクソンは、時間を主題にして、デカルト的世界像をひっくりかえし、フランス現代哲学の源流となった。 【キーワード】 現象学・エポケー・純粋持続・イマージュ・創造的進化・ホワイトヘッド・メルロ＝ポンティ・記憶	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
10	5つの非哲学	哲学とはいえないが、実証科学でもなかった思想を「非哲学」と呼ぶことにするが、それが19世紀後半にいくつも生まれてきた。そのなかで、現代思想に大きな影響を与えた5つの非哲学、進化論、マルクス主義、精神分析、ニーチェ思想、構造主義について、概要とその意義を述べる。 【キーワード】 マルクス・労働・無意識・ライヒ・フロイト・ニーチェ・ソシュール・差異の体系・レヴィ＝ストロース	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	構造主義	ゾシユール構造言語学における「差異の体系」を、部分適用したり拡張適用したりすることによって、20世紀なかばに構造主義と呼ばれた一連の、しかしばらばらな思想が生まれてきた。それらが対決していたのは、一方では科学の素朴实在論であり、他方では哲学の歴史主義であった。 【キーワード】 エクリチュール・バルト・フーコー・ラカン・レヴィ＝ストロース・アルチュセール・超越的シニフィアン	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
12	生命政治	フーコーは、18世紀後半に起こった出来事として、こころの扱いの変化については『狂気の歴史』を書き、からだの扱いの変化については『臨床医学の誕生』を書く。かれは、近代哲学の政治思想からは説明できない、科学知と結合したあらたな権力による生命政治的社会体制を解明しようとした。 【キーワード】 人口(ポピュレーション)・厚生権力・権力と結びついた知・監禁と排除・フーコー・ベンタム・臨床	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
13	フランクフルト学派と『アンチ・オイディプス』	アメリカに亡命したユダヤ系ドイツ人哲学者たちは、精神分析とマルクス主義を使って、ファシズムの成立と先進資本主義を批判的に解明し、近代文明の行方を論じた。フランスでは、五月革命後、ドゥルーズとガタリが、ラディカルに精神分析とマルクス主義を結合して資本主義社会を論じた。 【キーワード】 ホルクハイマー・アドルノ・批判・フロム・マルクーゼ・ドゥルーズ・ガタリ・欲望する機械・スキゾ分析	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
14	近代哲学の再検討	近代哲学と、その復興をめざした現代哲学は、ヒューマニズムの哲学であったが、いまやそうしたイデオロギーは崩壊している。人間という概念を構成していた心身の分離、こころとからだの関係を再考し、科学からも排除されてきた「もの」の概念について考察する。 【キーワード】 真理・健康と病気・物体と力・ニーチェ・ハイデガー・思考・こころとからだ・メルロ＝ポンティ	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)
15	サイボーグたちの哲学	進化論的な系統樹の分類とは異なって、女性でもあれば動物でもあり、機械でもあれば植物でもあるようなリゾーム的思考がもし可能であるならば、サイボーグとしてのわれわれにとって、ポストモダン状況を生きる哲学となるのではないか。 【キーワード】 生への信任・男性の消滅・ハラウェイ・サン＝テグジュペリ・樹木・ドゥルーズとガタリ・リゾーム	船木亨(専修大学教授)	船木亨(専修大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554735	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ドイツ哲学の系譜 （'14）＝ （R）

英文名＝ [A Genealogy of German Philosophy ('14)]

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：湯浅弘（川村学園女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

近代哲学の中心の位置を占めるドイツ哲学を、それぞれの分野の専門家とともに学ぶ授業である。一方では、その内容がどのようなものであったのかを学ぶとともに、他方では、その現代的意義、さらに日本人にとっての意義を探究する。まず始めは、ドイツ哲学の源流を探り、次に、カントの『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』、続いてフヒテ、シェリング、ヘーゲルのドイツ観念論の哲学の古典、さらにショーペンハウアー、ニーチェの生哲学を学ぶ。続いて、フッサール、ハイデッガーを通じて、20世紀のドイツ哲学を学ぶ。これらの哲学者の思想は、今日なお一般にも人気のあるものであるだけでなく、哲学という学問のことを考える時、内容を理解することが必須のものである。

授業の目標

近代哲学の歴史を飾るドイツ哲学の理解を通じて、哲学という学問がどのような問題を扱うのかの理解に達することが第一の目標である。カントに即すれば、『純粋理性批判』で認識問題、『実践理性批判』で道徳問題、『判断力批判』で美と有機体の問題が、それぞれ、哲学という場面でどのような扱いをされるかが理解される。続いて、この哲学的問いが、今日の学問、今日の社会、今日の文化の理解にどのように適用されるかを考えることが、第二の目標である。そこで、現代科学というものを、人間の知恵という立場から振り返り、現代人の生き甲斐というものを、知性に即して考えるということが探究される。

履修上の留意点

現在開講している、哲学の専門科目のうち西洋哲学に関するものとしては、「功利主義と分析哲学('10)」、「現代哲学への挑戦('11)」があり、また共通科目として「西洋哲学の誕生('10)」、「近代哲学の人間像('12)」がある。本科目は、それらと直接重ならないものであるため、履修上の問題は少ない。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ドイツ哲学の誕生— カントに先立つドイツ 哲学—	「ドイツ哲学」と言っても、カントの先行者や同時代人にとってのドイツは今日のそれと同じではないし、ドイツ語で思索した人ばかりでもない。英仏の哲学の影響も無視できない。カントの登場を「ドイツ哲学」のこうしたオープンな性格の豊かな実りとして捉えたい。 【キーワード】 ルター、ライプニッツ、ヴォルフ、ヘルダー、ハーマン	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)
2	カント『純粋理性批判』の考察	カントは、近代科学の進歩を強く意識しながら、人間の認識能力は何を・どこまで学問的に厳密に認識できるのかを吟味する批判的な方法によって、哲学の中枢を担ってきた形而上学の再構築を試みた。『純粋理性批判』を中心に理論哲学の諸問題を概観する。 【キーワード】 形而上学、認識能力、コペルニクスの転回、ア・プリオリな総合判断	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)
3	カント『実践理性批判』の考察	カントは、感性的な欲望を理性的に統御することが「できる」点に人間の自由を認める自律的人間観を打ち出した。それは、互いの人格を目的として尊重する理想的共同態を説く点で、社会哲学への射程も有している。平和論を含む実践哲学の諸問題を概観する。 【キーワード】 定言命法、意志の自律、目的の国、永遠平和	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)	山根雄一郎 (大東文化大 学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	カント『判断力批判』の考察	カントは、理性・悟性と並ぶ上級認識能力である判断力を扱うにあたり、「自然の合目的性」の概念を問題にする。これを「美しいもの」と有機体とに適用して、自然の全体を、美と目的の観点から一個の体系として判定しようとする『判断力批判』の諸問題を概観する。 【キーワード】 趣味判断、目的なき合目的性、有機体、神学	山根雄一郎 (大東文化大学教授)	山根雄一郎 (大東文化大学教授)
5	倫理的観念論から芸術的観念論へ	カントの超越論哲学の徹底化を図りながらも、図りきれないフイヒテの倫理的観念論、および、この主観性の限界の打破を目ざしつつも、蹟くシュリングの芸術的観念論の哲学的特質を検討する。 【キーワード】 観念論、物自体、自我、非我、絶対的無差別	山田忠彰(日本女子大学教授)	山田忠彰(日本女子大学教授)
6	「クモの巣」としての『エンチュクロペディー』?	ドイツ観念論の集大成といわれるヘーゲルの哲学体系『エンチュクロペディー(哲学的諸学の百科事典)』の内実および方法論を瞥見しながら、先行者たちとの差異ないしこの体系の独自性と問題性を検討する。 【キーワード】 理念、弁証法、反照運動、相互承認、自由	山田忠彰(日本女子大学教授)	山田忠彰(日本女子大学教授)
7	最後の哲学体系のその後	ヘーゲル哲学への対応の仕方を、イタリアの思想家たち、抽象芸術の先駆的芸術家ならびに芸術終焉論を唱える現代の芸術哲学者に探りながら、この哲学の影響力、射程の広さについて考える。 【キーワード】 弁証法、思惟の行為、ブギウギ、芸術終焉論、ポップ・アート	山田忠彰(日本女子大学教授)	山田忠彰(日本女子大学教授)
8	ショーペンハウアーの人間論	最近のショーペンハウアー研究には、従来のショーペンハウアー像の修正の必要性を指摘する新しい動向がある。本講義では、その点も紹介しながらショーペンハウアー哲学についてその人間論を中心に考究する。 【キーワード】 意志、表象、苦しみ、芸術、アイデア、観照、同情、諦念	湯浅弘(川村学園女子大学教授)	湯浅弘(川村学園女子大学教授)
9	ニーチェの伝統批判	ニーチェの思想的営みは、ヨーロッパのキリスト教的伝統に対する批判と自らの生肯定の哲学の構築に分けられる。前者を取り上げる本講義では、批判的視点の形成過程を紹介した上で『道徳の系譜』を中心に彼のキリスト教批判について考究する。 【キーワード】 神の死、ニヒリズム、系譜学、ルサンチマン、良心のやましさ、禁欲主義的理想	湯浅弘(川村学園女子大学教授)	湯浅弘(川村学園女子大学教授)
10	ニーチェの生肯定の哲学	ニーチェの生肯定の哲学は永遠回帰思想をはじめとする後期ニーチェ哲学に結実しているが、本講義では、初期ニーチェの『悲劇の誕生』の世界観とも絡めてニーチェの生肯定の哲学について考究する。 【キーワード】 ディオニュソス、芸術家形而上学、永遠回帰思想、運命愛、ツァラトゥストラ	湯浅弘(川村学園女子大学教授)	湯浅弘(川村学園女子大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ニーチェと20世紀の思想	20世紀から現在に至るまで、ニーチェの影響には甚だ大きなものがある。それは哲学者や文学者に対してばかりではないが、本講義では、20世紀の思想に与えたニーチェのインパクトを検証する。 【キーワード】 ジンメル、ウエーバー、レーヴィット、ヤスパース、ハイデガー、フランクフルト学派、ドゥルーズ、フーコー	湯浅弘(川村学園女子大学教授)	湯浅弘(川村学園女子大学教授)
12	フッサール現象学—事象そのものへ—	フッサールは一方では、学問の基礎付けを目指して、自然的態度をエポケーし、純粹意識に遡源する。しかし他方では、学問の危機という立場から科学的世界の基盤として生活世界の重要性を説く。今回は、この二面性を他者問題と関連づけながら考察する。 【キーワード】 エポケー、現象学的還元、自然的態度、生活世界、他我	寿卓三(愛媛大学教授)	寿卓三(愛媛大学教授)
13	ハイデガーの存在論—現象学者ハイデガー—	ハイデガーは、現存在を世界内存在、関心(Sorge)として考察し、その存在体制である時間性を析出する。また、不安、退屈を手がかりに現存在の有り様を本来性と非本来性へと二分する。今回は、ハイデガーの現存在把握の基本特徴を考察する。 【キーワード】 世界内存在、関心、不安、本来性	寿卓三(愛媛大学教授)	寿卓三(愛媛大学教授)
14	ハイデガーの思索と現代	環境問題の深刻化、科学技術への信頼の揺らぎ、ことばへの不信、不安の時代といったことが、今日しばしば話題となっている。これらはまさにハイデガー哲学の基本テーマに他ならない。今回は、一見無味乾燥な存在の思索としてのハイデガー哲学の今日性について考察する。 【キーワード】 集—立、在庫品、四者連関、ことば	寿卓三(愛媛大学教授)	寿卓三(愛媛大学教授)
15	ドイツ哲学と日本	明治以来、哲学を学ぶ日本人にとってドイツ哲学は、第一に学ぶ対象であった。そのことをめぐっての座談会をもとに、ドイツ哲学と日本との関係について考える。 【キーワード】 カント、ハイデガー、超越論、人格、生	佐藤、湯浅、山田、寿、山根	佐藤、湯浅、山田、寿、山根

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554654	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 仏教と儒教 （'13）＝ （R）

—日本人の心を形成してきたもの—

〔主任講師（現職名）：竹村 牧男（東洋大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：高島 元洋（お茶の水女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：佐藤 康邦（放送大学教授）】

講義概要

日本の思想、哲学、むしろ日本人のものの見方・考え方の背景に、仏教と儒教が大きな役割を果たしていることは誰もが知っていることである。この二つの思想は、ともに外来思想である。それを日本人は古来、深く学んできたのであるが、日本仏教・儒教として表現されたものはもとの姿とかなり異なるものとなったことも事実である。この授業では、まず仏教と儒教の源流がどのようなものであるのかを明らかにし、ついでそれらが日本においてどのような変遷をたどったのか、それぞれの時代の思想を辿りつつ検討する。さらに、これらの外来思想に対抗する、日本古来の思想と見なされる国学や神道思想に関しても検討を加える。

授業の目標

仏教と儒教という、東洋思想を代表する二大思想について、基本的な理解を有するに至るとともに、それらが、どのような道筋をたどって日本の思想になっていったのかについて深く理解し、他の者に伝えることが出来るようになる。そのことをふまえ、現代の日本人の道徳・倫理観や死生観について新たな観点を拓く。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	序論 仏教の成立と広がり	日本仏教の思想を学ぶに当たり、仏教および日本仏教の概要について解説する。まず、インドにおいて仏教が釈尊によって開かれたあと、特に大乘仏教がどのような特徴を持って成立し、かつ広がっていったのかについて解説し、ついで中国の仏教を一覧し、さらに日本仏教の形成過程とその特質について概観する。なお、日本仏教の文化への影響について、簡単にふれておく。 【キーワード】 釈尊・部派仏教・大乘仏教・中国仏教・日本仏教	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)
2	仏教の日本への伝来	仏教の公伝は、552年と言われる。その後、聖徳太子は深く仏教を研鑽したとされ、太子独特の思想も唱えられた。奈良時代に入ると、三論宗・成実宗・法相宗・俱舍宗・華厳宗・律宗の六宗が成立し、大乘仏教の深い哲学が研究された。特に、法相宗の唯識思想や華厳宗の華厳思想の内容は現代的でさえあり、それらの思想について解説する。 【キーワード】 聖徳太子・南都六宗・中観・唯識・華厳・戒律	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)
3	平安時代の仏教	平安時代には、比叡山に拠った最澄と高野山に拠った空海という二人の巨人が出て、順に天台宗、真言宗の思想を唱えた。天台宗は『法華経』に基づき、真言宗は密教という独特の立場を展開する。二人の思想は大変、奥深く、またのちの日本仏教の母体となるものであった。この平安仏教の双璧のコスモロジーについて、分け入ってみたい。 【キーワード】 最澄・空海・一乗・即身成仏・比叡山・高野山・密教	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	鎌倉時代の仏教(1) 源信・法然	平安末期になると、時代の不安定な状況や末法思想の浸透等にもない、阿弥陀仏の浄土への往生を願う信仰が普及していく。そうした中で、易行としての念仏によりどんな人でも救われるという新しい仏教を唱えたのが法然であり、その下地を作ったのが源信である。仏教が日本に移植され、定着してきて、さらに民衆の仏教となったありようを源信・法然に探る。 【キーワード】 源信・法然・念仏・往生・極楽浄土・易行	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)
5	鎌倉時代の仏教(2) 親鸞・一遍	法然によって創始された浄土教は、さらにその易行の救いを徹底させていく。親鸞によっては信のみよる救いが唱えられ、一遍によってはただ名号による救いが唱えられた。親鸞と一遍とは、さまざまな点で対照的であるが、いわば絶対他力による救いという点では一致している。そこに見られる日本的霊性を考えてみたい。 【キーワード】 親鸞・一遍・信・他力・名号・遊行	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)
6	鎌倉時代の仏教(3) 栄西・道元・日蓮	鎌倉時代には、中国の影響を受けて禅宗がさかんになってくる。栄西の臨済宗と道元の曹洞宗が成立し、武家などを中心に広まり、また墨絵や茶道等さまざまな文化を生み出していった。一方、日蓮は最澄の教えを独自に磨き上げ、『法華経』の題目を唱える唱題による仏教を国家・社会に訴えた。これらに見られる日本独特の仏教思想を紹介する。 【キーワード】 栄西・道元・日蓮・坐禅・悟り・公案・題目・本門	竹村 牧男 (東洋大学教授)	竹村 牧男 (東洋大学教授)
7	近世・近代仏教	近世の仏教の特徴は、世俗倫理を補完するものとして仏教が機能したことにある。ここでは、鈴木正三、盤珪などの仏教者の思想について言及しつつその特徴を具体的に説明する。近代仏教としては、清沢満之、田中智学などを手がかりとして、西洋思想と仏教との出会いや仏教とナショナリズムについて説明する。 【キーワード】 現世肯定的 無常観、生々観、鈴木正三、『万民徳用』、盤珪永琢、不生、清沢満之、精神主義、田中智学、国柱会	頼住 光子 (分担協力講師・東京大学大学院教授)	頼住 光子 (分担協力講師・東京大学大学院教授)
8	仏教と日本文化	仏教が、日本文化に与えた影響は広く深い。ここでは仏教文学と「道」の思想という、観念と身体に関わる二つのテーマを中心に仏教思想が文化現象をどのように形作っているのかを具体的に検討する。仏教文学としては和歌・物語文学・随筆等を扱う。「道」の思想としては武道・茶道を扱う。 【キーワード】 茶の湯・千利休・わび茶・武士道・いろは歌・弓道・ヘリゲル・葬祭と仏教	頼住 光子 (分担協力講師・東京大学大学院教授)	頼住 光子 (分担協力講師・東京大学大学院教授)
9	中国文化と儒教	儒教は古代中国において成立する。春秋戦国時代、諸子百家といわれる思想家群が出現する。これらの諸学派は、陰陽家・儒家・墨家・法家・名家・道家の六家などとも分類される。このひとつが儒教である。儒教が思想としてまとまるのは孔子・孟子においてである。儒教が成立する意味、仁・義という思想について考える。また儒教が体系として完成するのは、12世紀の朱子による。今日のいわゆる儒教文化圏が形成される所以である。ここでは朱子学・陽明学の構造を理解する。 【キーワード】 孔子・孟子・仁・朱子学・陽明学	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	日本文化と儒教	日本文化はつねに中国文化の影響を受けていた。儒教の受容も一般的には仏教以前であるといわれている。しかし思想自体は日本独自の受容をする。一例として、中世の五山文学における仏教と儒教の関係、近世における武士道と儒教について考える。朱子学は五山において受容された。山鹿素行の思想は、武士道に対して土道とよばれ赤穂義士などに影響をあたえた。 【キーワード】 五山文学・武士道・山鹿素行・赤穂義士	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)
11	日本における儒教の受容(朱子学・陽明学)	日本社会において本格的に儒教が必要になったのは近世においてである。儒教の受容は藤原惺窩にはじまり、日本朱子学は林羅山・山崎闇斎において形成される。また日本陽明学は中江藤樹・熊沢蕃山と継承される。これらの思想がどのようなものであったかを考える。 【キーワード】 日本朱子学・日本陽明学	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)
12	日本儒教の完成(古学)	朱子学・陽明学の受容が一段落すると、日本独自の儒教が形成される。伊藤仁斎の古学である。古学の思想を考えながら、なぜ日本独自の思想が生まれたかを、検討する。 【キーワード】 人倫・拡充・生生観・伊藤仁斎	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)
13	日本儒教の完成(古学)	日本独自の儒教は、伊藤仁斎だけではない。荻生徂徠の古学が、これもまたまったく構造の異なる思想であった。仁斎にせよ徂徠にせよ、むろん朱子もそうであるが、同じ『論語』を解釈しながら、まったく違う読み方をする。なぜそうなるのかを考えたい。 【キーワード】 聖人・道・活物・荻生徂徠	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)
14	日本社会における儒教の影響	日本社会においては江戸時代以降儒教の影響が強くはたらい。まづ社会的機能がどのようなものであったかを考えてみたい。教育的啓蒙的な意味もあるし、また近代的な合理主義を形成する側面もある。さらにこのような儒教の考え方を「漢意」として批判する本居宣長のような思想家もいた。 【キーワード】 儒家神道・心学・懷徳堂・漢意	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)
15	日本の思想:神道・仏教・儒教と近代化	日本の思想で重要なところは習合思想という形態を考えることである。古代では「神仏習合」、中世では「本地垂迹説」とか「禅儒一致・儒仏不二」、近世になると「儒家神道」が成立する。習合思想の中心となる神道について、どのような問題があるかを考え、基本となる神観念から理解する。近世思想になると、仏教も神道も世俗化し、習合思想は崩壊する。そして本格的な近代化がはじまる。 【キーワード】 習合思想・本地垂迹・神道・世俗化と近代化	高島元洋(お茶の水女子大学教授)	高島元洋(お茶の水女子大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554727	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本美術史 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [History of Japanese Art ('14)]

〔主任講師（現職名）：佐藤康宏（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：青山昌文（放送大学教授）】

講義概要

人間の作る物の形、イメージのありさまは、時代とともに変わり、地域によっても違う。どう変わり、なぜ違うのか、と美術史学は問いかける。日本の美術史についてその問題を考えてみよう。原始から現代まで、縄文土器から球体関節人形まで、日本列島で作られたさまざまな造形と関連する歴史事象とをたどる。主要な作例について映像を活用しながらその特徴を明らかにし、どのような力の働く場で造形が生きていたのかを考察する。

授業の目標

過去の日本美術というのは、いまの私たちにとってはどうかすると西洋美術よりもなじみのない、しかし新鮮な魅力に富んだ対象だといえる。その魅力を発見し、ただ美しさを讃嘆するだけでなく、それが抱える問題を冷静に理解してもらうことを目標にする。造形について、形や色に着目するところから始めて歴史的に考えていく——そういうおもしろさを知ってもらいたい。

履修上の留意点

印刷教材と放送教材の内容は、同一ではない。印刷教材の本文は各時代的美術史の概説であり、放送教材は特に重要な作例をいくつか取り上げて、映像を使用しながらやや詳しく解説する。両方を合わせて学ぶ必要があり、印刷教材を読むだけでは単位認定には至らない。また、なるべく寺社や博物館・美術館に足を運んで日本美術の実物を見るように心がけてもらいたい。が、それができない場合は、近くの図書館にある美術全集や図録類を見たり、インターネットで画像を検索したりして、自分自身の目で対象の全体と細部をよく観察するとともに、どういう特徴があるのかを分析する習慣をつけてほしい。教材で図示・説明できる作例の数には限りがあるので、受講者の努力に期待している。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	形の生命——縄文時代・弥生時代	縄文土器と土偶の美に触れ、日本列島で独自に発生し展開したその造形の特徴を特に中期の作例について瞥見する。次に弥生土器と銅鐸を例に、農耕の開始が社会のあり方を変え、それに伴い別の種類の造形感覚が普及した様子をたどる。 【キーワード】 縄文土器と土偶、弥生土器と銅鐸、原始の造形が教えてくれること	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
2	権力の形象——古墳時代・飛鳥時代	社会の中で身分格差が拡大し、大きな権力を持つ者に奉仕する造形が発達していったありさまを、古墳とその副葬品に見る。6世紀になって仏教の受容が日本の視覚文化を大きく変えたことを、法隆寺を中心とする仏教美術をもとに考える。 【キーワード】 古墳の造形、視覚文化としての仏教、高松塚古墳壁画	同上	同上
3	シルクロードの終点にて——奈良時代	遣唐使や鑑真の来日によって当時の国際様式というべき唐の美術の刺激が日本に伝わり、仏像や絵画の様式を変えていった軌跡を、3つの時期に分けて振り返る。特に正倉院の「鳥毛立女屏風」について、中国の美人画の歴史と関連させて論じる。 【キーワード】 薬師寺と興福寺、東大寺と正倉院、唐招提寺	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	異形の神のいる場所 ——平安時代前期	平安時代を3期に分け、この回は8世紀末から9世紀を扱う。まず、奈良時代からの伝統を引いて作られた一木造の仏像の彫刻的な魅力と信仰上の意義を神護寺の「薬師如来立像」を中心に論じ、次に空海らがもたらした真言密教美術の特色について考える。 【キーワード】 神護寺の「薬師如来立像」、真言密教美術の開花、神像	佐藤康宏(東京大学教授)	佐藤康宏(東京大学教授)
5	浄土の顕現——平安時代中期	10世紀と11世紀を対象にする。日本が輸入し蓄積してきた唐の文化を編集する作業を通じて、いわゆる国風文化は形成された。「平等院鳳凰堂」というモニュメントを中心に、その前後の柔和な表現に傾いていった造形の様子を観察し、やまと絵の発生を論じる。 【キーワード】 平明な意匠、平等院鳳凰堂、唐絵とやまと絵	同上	同上
6	装飾への耽溺と離反 ——平安時代後期 (1)	古代から中世への転換期として興味深い12世紀を話題にする。繊細優美な仏像、仏画、料紙装飾、装飾経、工芸品を概観するとともに、運慶の初期作品「大日如来坐像」(円成寺)などに見られるそれらと異質な傾向を指摘する。 【キーワード】 院政期の優美と機知、風流、新様式の胎動	同上	同上
7	絵巻は語る——平安時代後期(2)	12世紀は最もすぐれた絵巻が作られた時代でもある。「源氏物語絵巻」(五島美術館・徳川美術館)、「信貴山縁起」(朝護孫子寺)、「伴大納言絵巻」(出光美術館)、「病草紙」(京都国立博物館ほか)などの表現を分析する。 【キーワード】 「源氏物語絵巻」、「信貴山縁起」、後白河法皇をめぐる絵巻群	同上	同上
8	新しい現実感——鎌倉時代	武家政権となっても、文化の主たる担い手は貴族や社寺だった。だが、貴族たちの美意識も変質する。世俗画が前代とは異質な造形感覚を宿し、宗教画は聖域を実際の場所らしく描写し始める。「一遍聖絵」(清浄光寺)などの新しい種類の現実感を考察する。 【キーワード】 仏教美術の復古と新様、やまと絵と絵巻の展開、現実の人間と土地の姿	同上	同上
9	描かれた都市——室町時代	宋元画の刺激が漢画を発達させるとともに大和絵のあり方も変えていった。禅宗寺院や将軍邸の建築とその室内を飾った絵画・工芸品の様相を概観し、そこから登場した都市を主題とする絵画、雪舟「天橋立図」(京都国立博物館)や洛中洛外図へと議論を進める。 【キーワード】 バサラと唐物数寄、墨色の空間、装飾の領分、都を描く	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	かぶきのデザイン— —桃山時代	戦国武将の過剰なエネルギーは、城郭と障屏画、変わり兜や奇抜な衣装に発現した。侘び茶の空間もそれと拮抗すべく設えられ、異様な風体は陶磁器の姿にも及ぶ。イエズス会の布教活動や南蛮貿易に伴って作られた絵画や南蛮ファッションも話題にする。 【キーワード】 金色／黒色、南蛮ファッション、〈傾く〉造形	佐藤康宏(東京大学教授)	佐藤康宏(東京大学教授)
11	転形期の精神——江戸時代前期	江戸時代を3期に分け、この回は17世紀から18世紀初めまでを扱う。桃山の遺風と、秩序を重んじる新体制の嗜好とが衝突するところに生まれた魅力的な造形のうち、特に狩野山雪、岩佐又兵衛、俵屋宗達らの絵画に焦点を合わせる。 【キーワード】 桃山から江戸へ、浮世絵の誕生、町衆の意匠、造仏聖	同上	同上
12	市民たちの美的欲望——江戸時代中期(1)	18世紀には、長崎を通じてもたらされた明清の文化が新たな刺激となって、絵画を刷新した。南画では池大雅、与謝蕪村、その周囲では伊藤若冲、曾我蕭白、円山応挙、長澤蘆雪など、町人出身の画家たちが創造力を競い合った京都画壇を中心に論じる。そこに導入された洋風技法とともに、洋風画・銅版画にも触れる。 【キーワード】 明清文化の流入、18世紀京都画壇の革新、洋風技法の広がり	同上	同上
13	早過ぎた近代——江戸時代中期(2)・後期(1)	江戸中期の江戸では、多色摺り木版画を媒体に浮世絵の表現の幅が広がった。春信、清長、歌麿、写楽らの画業を一覧する。19世紀、武士と町人それぞれから強烈な自己表現を見せる画家が現われ、明治以降の絵画を思わせる斬新な作品を遺したことに言及。 【キーワード】 錦絵の展開、武士と町人の自己表現、19世紀江戸画壇	同上	同上
14	美術の明治維新——江戸時代後期(2)・明治期	寛政の改革を契機とする文化の大衆化が浮世絵に及ぼした影響を論じ、文化財調査や画史画伝の編纂など、明治期への遺産となったできごととも検討する。明治の美術は江戸時代の枠組みをもとに作られ、西洋風の表現を加えていった。その軋みから生まれるおもしろさを紹介し、近代国家の表象としてイメージが利用される事例についても考察する。 【キーワード】 文化の大衆化と浮世絵・工芸、江戸の残照、国家のための美術	同上	同上
15	モダニズムの諸相——大正・昭和期(戦中まで)	ヨーロッパの芸術運動がただちに伝わるようになった時代に、それらに同調し、あるいは反発して、注目すべき造形が作られた。代表的な作例を論じ、版画・写真・ポスターといった大衆向けのメディアの発達、そして十五年戦争と美術との関わりについて説く。 【キーワード】 大正アヴァンギャルド、複製技術の時代、自由の希求とその敗北	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554646	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 西洋音楽史 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：岡田 暁生（京都大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：青山 昌文（放送大学教授）】

講義概要

本授業ではヨーロッパ芸術音楽の中世から現代に至る歴史を辿る。私たちが「クラシック」と呼んでいる音楽は、およそ18～19世紀のヨーロッパ芸術音楽であるが、この授業ではクラシック音楽の歴史を、その前史および後史も含めて論じると考えてもよい。

授業の目標

西洋音楽がもつアクチュアリティおよび本質を、様々な音楽に実際に触れつつ理解する。音楽を単に感覚的な印象や好き嫌いで論じるのではなく、その仕組みを客観的に理解したうえで、その背景となる精神構造や社会などをそこに読み取ることが、本授業の目的である。

履修上の留意点

CD等によって出来るだけ多くの実際の音楽に触れること。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	西洋音楽の歴史を学ぶ意味	西洋音楽とはいわゆるクラシックとほぼ同義だと考えてよいが、それを二一世紀の日本において学ぶことにどのようなアクチュアリティがあるのかについて、考える。 【キーワード】 西洋音楽 クラシック音楽	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
2	古楽・クラシック・現代音楽-西洋音楽史の三つのエポックについて	西洋音楽の大きな本質の一つが楽譜である。音の長さや高さを正確かつ科学的に記す楽譜システムを例に、西洋音楽を特徴づける合理主義について論じる 【キーワード】 楽譜 合理主義 西洋	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
3	多声的音楽の始まり-西洋音楽の夜明け	西洋音楽は中世のグレゴリオ聖歌とともに始まり、そこからポリフォニー音楽(多声的音楽)が生まれることによって爆発的な発展を遂げた。論じるのはおよそ8世紀から11世紀。 【キーワード】 グレゴリオ聖歌 ポリフォニー	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	中世音楽の黄金時代と黄昏	中世音楽の黄金時代は、いわゆるノートルダム楽派であり、これは12世紀から13世紀にかけての十字軍の時代に重なる。それに続くのが、ある種マニエリスムの時代とも言うべき、14世紀のアルス・ノヴァと呼ばれる様式である。 【キーワード】 ノートルダム楽派 アルス・ノヴァ	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
5	ルネサンス前期と無伴奏合唱	音楽のルネサンスは15世紀に始まる。その中心は、今のフランス北部からベルギーに至るフランドル地方。オケゲムやジョスカンといったこの時代の作曲家の中心ジャンルは、無伴奏宗教合唱曲であった。 【キーワード】 ルネサンス ミサ フランドル楽派	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
6	ルネサンス後期と劇化する音楽	新大陸が発見され、多くの科学発明が成される16世紀のルネサンス後半は、西洋音楽が爆発的な発展を遂げる時代であった。ジャンルの的にも世俗音楽や器楽曲などが飛躍的に増加し、音楽の中心もイタリアに移る。 【キーワード】 器楽曲 世俗音楽	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
7	バロック音楽と絶対王政の時代	17世紀に始まるバロック時代は、政治的にはいわゆる絶対王政の成立とほぼ軌を一にしている。それは通奏低音とコンチェルトの原理、そしてオペラの誕生によって特徴づけられるエポックであった。 【キーワード】 バロック 通奏低音 オペラ コンチェルト	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
8	「音楽の父」としてのバッハ	バロック音楽の最も偉大な作曲家であるバッハは、必ずしもバロックを典型的な形で代表する作曲家ではなかった。バロックは音楽が宮廷における瀟洒な娯楽としてどんどん世俗化していった時代であるが、むしろバッハはそのような時代潮流に背を向けるように、中世的な「神に捧げる音楽」の理念を追求した人だったといえる。 【キーワード】 バッハ	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
9	ウィーン古典派と近代市民音楽の始まり	市民階級が台頭し始める18世紀後半、彼らによって支えられる、バロックとは別のタイプの音楽が生まれる。それがウィーン古典派と呼ばれる時代であり、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンがその代表である。ソナタ形式、交響曲、弦楽四重奏、リートなどは、この時代になって初めて生まれた。 【キーワード】 ウィーン古典派 ソナタ形式	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
10	ベートーヴェンの偉大さ	ベートーヴェンは18世紀後半のウィーン古典派の時代と19世紀のロマン派の時代をつなぐ偉大な存在である。作曲家の独創性と主観の表出としての音楽は、彼によって創造されたといっても過言ではない。また市民の集う新しい共同体としての「コンサート」という制度が生まれたのも彼の時代であり、ベートーヴェンはそのシンボルとしての交響曲のジャンルを確立した。 【キーワード】 ベートーヴェン 交響曲	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ロマン派音楽の制度 と美学	19世紀のロマン派音楽は、私たちが「クラシック音楽」としてなじんでいるジャンルの中心をなす。音楽学校やコンサート・マネージメントや音楽批評といった、今なお私たちの音楽生活を規定している諸制度は、すべてこの時代に創出された。また感情表出(とりわけ苦悩のそれ)や独創性を重視するクラシックの美学もまた、19世紀に確立されたものである。 【キーワード】 ロマン派 演奏会制度	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
12	ロマン派と芸術宗教	ニーチェいうところの「神が死んだ」19世紀において、音楽はいわば擬似宗教的な機能を果たし始める。コンサートやオペラが、一種のミサ体験のような性格を帯びてくるのである。こうした19世紀ロマン派の芸術宗教を最も端的な形で実現したのが、ワーグナーである。彼はバイロイトに自分の作品だけを上演する劇場を建てたが、これは聴衆に一種の巡礼を要求する、新しい宗教の創成であったといえる。 【キーワード】 ワーグナー 芸術宗教	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
13	前衛への越境	第一次世界大戦の直前、一九〇〇年代はロマン派爛熟の時代であると同時に、クラシック音楽の伝統の崩壊の予兆が見え始めた時代でもあった。そこからシェーンベルクやストラヴィンスキーといった作曲家は、もはや市民社会の娯楽であることを拒絶するような、実験的な音楽を作り出した。いわゆる前衛音楽は、この時代に始まる。 【キーワード】 前衛音楽 第一次世界大戦	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
14	第一次世界大戦の後	第一次世界大戦が終わった一九二〇年代、クラシック音楽はモダニズムとアヴァンギャルドへと、決定的に越境する。シェーンベルクらは調性を用いる音楽を拒絶し、またストラヴィンスキーは歴史上のスタイルのパロディのみで作品をつくる、いわゆる新古典主義を開始する。それはまた、コンサートのレパートリーが過去の名作のみに次第に固定されていく「クラシックのクラシック化」のプロセスでもあった。 【キーワード】 無調 新古典主義	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)
15	クラシックと現代音楽 とポピュラーと	20世紀音楽史は、第一次大戦の直前に始まった前衛音楽、第一次大戦後からラジオやレコードといったメディアによって世界中に伝播するようになったアメリカ・ポピュラー音楽、そして同じくラジオやレコードによって世界に広まる「大演奏家」による「クラシック音楽」へと、従来のクラシックが三分した時代と見る事が出来る。そのなかにあって、第二次大戦後のモダン・ジャズは、ポピュラー音楽の中から生まれてきた、極めて高度の作曲技法を駆使する一種の芸術音楽として注目される。 【キーワード】 ポピュラー音楽 ジャズ 現代音楽	岡田暁生(京都大学教授)	岡田暁生(京都大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554018	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 舞台芸術への招待 （'11）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：青山昌文（放送大学教授）〕

講義概要

舞台芸術には、オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇などがありますが、この講義では、近年日本において大いに成熟してきたオペラ・バレエに一つの力点を置いて、その魅力の根源を探り、更にオペラ・バレエと深い関わりをもつダンス・ミュージカルについても考察します。また、演劇についても、日本や諸外国の古典演劇や現代演劇について、その魅力の根源を探ります。講義では、日本を代表する世界的演出家である蜷川幸雄氏に詳しいインタビューも行い、芸術創造の奥義の一端を具体的に明らかにしていきます。

授業の目標

舞台芸術は、演出家・指揮者・歌手・ダンサー・俳優・衣装係・照明係等の多数の芸術実践者が集団で作り上げる芸術であり、極めて社会的な芸術です。また、その時その場に観客が居合わせることも根本的な条件であって、芸術実践者と観客の双方で作り上げて行くという面をもっています。このような、総合的かつ一期一会的な舞台芸術の醍醐味を、単に楽しむだけのレベルではなく、深くその魅力の根源に迫って行くことが、この講義のめざしていることです。

履修上の留意点

演劇芸術と音楽芸術は、言うまでもなく、極めて重要な芸術ですが、様々な事情により、以前に比べて開講科目数が減少しています。この「舞台芸術への招待('11)」は、演劇芸術と音楽芸術の双方に亘る講義ですので、これらの芸術に関心をお持ちの方は、是非履修してください。また、共通科目の「芸術史と芸術理論('10)」と、総合科目の「社会の中の芸術('10)」は、芸術そのものについての様々な解明を行っていますから、これらの科目も、是非お採りになってみて下さい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	舞台芸術の魅力―その原理的・歴史的根源―	生身の人間が歌い、演じ、踊り、それを同じ場で見聞きする観客がいる舞台芸術の独特の魅力を明らかにします。演出家・役者・ダンサーと観客の双方が作り上げる現場性の芸術哲学的意味の解明が考察のめざすところです。歴史的考察も行います。日本を代表する演出家への詳しいインタビューも行います。 【キーワード】 舞台、場、上演芸術、演劇、＜つながり＞、一体性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
2	オペラの古典―社会との深い関わり―	フィレンツェのカメラータグループが生み出したオペラという芸術が、いかにその時々社会と深く結びついてきたか、ということをフランスの歴史的オペラハウスの現場にも立って、具体的に明らかにします。複数のオペラハウスでのロケを行います。 【キーワード】 ガルニエ、バロック、ロココ、社交、馬蹄形劇場	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
3	オペラの現在―ヴァーグナーの現代性―	ヴァーグナーの《ニーベルングの指環》を例にとって、古典的なオペラ作品を、現代において上演することの、現代的意味を、演出の観点を主にして、芸術論的かつ社会論的に考察します。ヴァーグナーの音楽美学の現代的意義についても考察します。《ニーベルングの指環》の音楽もお聴かせします。 【キーワード】 ヴァーグナー、トーキョーリング、バイロイト、現代、演出、社会	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	バレエの古典	バレエとはいったいどのような芸術なのかを、具体的な作品に沿って考察します。また、バレエはヨーロッパで生まれ育った芸術ですが、そのバレエがどのような社会から生まれたのか、他の芸術(たとえばオペラ)との関係はどうだったのか、などについて歴史的に考察します。 【キーワード】 舞踊、舞台芸術、ヨーロッパ社会、ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ	鈴木晶(法政大学教授)	鈴木晶(法政大学教授)
5	バレエの現在	19世紀に生まれたいわゆる近代バレエは20世紀に大きく変貌を遂げましたが、具体的にどのように進化・変貌したのかを振り返り、21世紀初頭における現状について世界的な視野で考察します。 【キーワード】 20世紀芸術、現代芸術、現代バレエ	鈴木晶(法政大学教授)	鈴木晶(法政大学教授)
6	ダンスの現在	「ダンス」という言葉が名指す範囲は現在とても広がっています。20世紀に身体芸術の可能性を探る試みが各国で行われたからです。それはまるで大航海時代の冒険家たちが未知の領土を求めて七つの海へ散って行ったようでした。この授業では、その中から現在のダンスに大きな影響を及ぼしたアメリカ・ヨーロッパ・日本の舞踊家を紹介します。 【キーワード】 現代芸術、前衛芸術、身体芸術、コンテンポラリーダンス、舞踏	尼ヶ崎彬(学習院女子大学教授)	尼ヶ崎彬(学習院女子大学教授)
7	ミュージカル―その社会性と人間性―	アンドリュー・ロイド＝ウェッバーの諸作品等を例にとり、ミュージカルが、如何に時代と社会の本質を、現代的かつ大衆文化的に表現するものであるか、ということを明らかにします。特に《オペラ座の怪人》について、詳しく論じます。《オペラ座の怪人》の音楽等もお聴かせします。 【キーワード】 アンドリュー・ロイド＝ウェッバー、《オペラ座の怪人》、社会	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
8	世界の現代演劇―演劇における「20世紀」の意味―	20世紀における世界の現代演劇の展開が、何を問題とし、どのように展開していったのかを、具体的な作品の映像資料などを基にしながら考察します。ヨーロッパの19世紀半ば以降における「演劇」それ自体への根源的な問いかけが、どのように表現の質を変え、「現代」にふさわしいテキストにおけるドラマツルギーの変革やテクノロジーの刷新をもたらしたのかを歴史的な視点から検証していきます。 【キーワード】 20世紀、演出、戯曲、前衛、1960年代	森山直人(京都造形芸術大学准教授)	森山直人(京都造形芸術大学准教授)
9	日本の現代演劇―「近代化」の彼方へ―	日本における演劇と社会の「近代化」のプロセス(新劇等の誕生)をふまえて、1960年代の前衛演劇を経た日本の「現代演劇」が、どのような地平を獲得したのかを、具体的な作品の映像資料などを基にしながら分析します。テント劇場、市街劇など、既存の劇場空間を離れた上演のもつ社会的意味にも言及します。 【キーワード】 日本、近代化、戯曲、劇場、演出、前衛	森山直人(京都造形芸術大学准教授)	森山直人(京都造形芸術大学准教授)
10	日本の伝統演劇―能、到来する者の劇―	能の基本的枠組を民俗・歴史的形成に遡って提示し、また能舞台や能面の考察をつうじて「到来する者の劇」としての独自の価値を明らかにします。これは広く演劇全体の成立条件に光を当てることにも通じます。また複式夢幻能「井筒」を取り上げて鑑賞するとともに、基本からの能入門ともなるよう配慮しています。 【キーワード】 能、到来する者の劇、能舞台、能面、複式夢幻能、「井筒」	竹森佳史(放送大学非常勤講師)	竹森佳史(放送大学非常勤講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	日本の伝統演劇―人形浄瑠璃、境界線上の演劇―	叙事詩にほかならない浄瑠璃がいかにして世界でも特異な演劇へと発展することができたのか。叙事詩と浄瑠璃テキストの言語分析を行い、人形操りとの協働のメカニズムを明らかにします。文楽の「寺子屋」を取り上げて鑑賞します。 【キーワード】 浄瑠璃、叙事詩、人形操り、「寺子屋」	竹森佳史(放送大学非常勤講師)	竹森佳史(放送大学非常勤講師)
12	日本の伝統演劇―歌舞伎、色っぽさと童心―	一つの演劇理念には解消することのできない歌舞伎の複雑性・多様性を、「和事」と「荒事」の視点から解きほぐすことをこころみ、現代の舞台と観客にも継承されているその魅力のありかを探ります。舞台映像として「廓文章」と「暫」を取り上げます。 【キーワード】 歌舞伎、複雑性・多様性、和事、荒事、色っぽさ、童心、「廓文章」、「暫」	竹森佳史(放送大学非常勤講師)	竹森佳史(放送大学非常勤講師)
13	世界の古典演劇―シェイクスピアはなぜ「古典」なのか―	ヨーロッパの演劇史において「古典」とされているテキストが、なぜ今日でも世界的に「古典」としての意義を保ちつづけているのかをめぐって、主としてシェイクスピアの諸作品を中心に考察します。テキストの紹介だけでなく、エリザベス朝演劇を成立させていた社会構造や劇場構造も射程に入れながら、それらが19世紀、20世紀においても多様な解釈のもとに上演されつづけていることを、さまざまな資料映像等を参照しながら検討していきます。 【キーワード】 シェイクスピア、エリザベス朝演劇、ロマン主義、古典、劇場と社会	森山直人(京都造形芸術大学准教授)	森山直人(京都造形芸術大学准教授)
14	世界の古典演劇―フランス古典主義とディドロ演劇美学―	フランス古典主義演劇美学を見てみた後、ラシーヌの作品を採り上げて、フランス古典主義演劇の魅力の根源を考察します。また、そのあとを受けて、市民劇の理念を掲げたディドロの演劇美学に着目して、ディドロの演技論が、現代にも通じる有益なものであることを明らかにします。 【キーワード】 古典主義、ラシーヌ、《フェードル》、ディドロ、演技、逆説	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
15	世界の古典演劇―ギリシア悲劇とアリストテレス演劇美学―	アリストテレスの演劇美学の諸概念を考察します。また、具体例として、ソフォクレスの作品《オイディプス王》を採り上げて、ギリシア悲劇の魅力の根源についても考察し、更に、ギリシア悲劇の哲学的普遍性についても考察して行きます。複数のギリシア野外劇場でのロケも行います。 【キーワード】 悲劇、ソフォクレス、アリストテレス、カタルシス、普遍性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554212	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本古代中世史 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤 信（東京大学大学院教授）〕

講義概要

日本の古代と中世の歴史を、基本になる史跡や史料のあり方や現代との関わりから探る。時代は原始時代から16世紀までの、国家が形成されて整備され、やがてその仕組みが衰退し、地域社会が形成されるなか、再び統一政権が登場するまでを扱う。特に 日本列島の古代中世史像は、発掘調査の成果や様々な新資料の発見によって変わりつつある。活発に越境した国際関係、各地域の歴史の実像が掘り起こされ、古代中世史が多面的に見直されている。こうした動向をふまえ、東アジアの国際関係のもと史跡や史料に焦点をあてながら、あたらしい日本列島の古代中世史をたどりたい。

授業の目標

日本の古代から中世にかけての流れを理解し、史跡や史料を調べるなかで歴史的事実をどう捉えてゆくのかを理解する。

履修上の留意点

自分の手で歴史の史料を調べて読み、史跡を自分の目で見て歩き、歴史への理解を深めてゆくことを求めています。また、日本史の関連科目もあわせて学習することを希望する。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	古代中世の歴史を考える	日本の歴史はこれまで古代・中世・近世・近現代の四つに時期区分して考えられてきた。しかしこの講義では、古代と中世をまとめて長期的な視点から考えることにする。講義の編成と目的を語り、古代から中世の歴史を概観し、扱う史跡・史料の特性について述べる。 【キーワード】 時期区分、古代史、中世史、史跡、史料	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
2	列島の原始から倭国へ	岩宿・三内丸山・吉野ヶ里遺跡など、旧石器・縄文・弥生時代の発掘成果から列島の社会像を見直し、中国史書が伝える歴史像とつぎ合わせる。また、古墳時代の稲荷山古墳鉄剣銘や「宋書倭国伝」が語る列島像を、磐井の戦いにみる国際関係とともに再検討し、地方豪族と大王との関係を複眼的に見直す。 【キーワード】 岩宿・三内丸山・吉野ヶ里遺跡・稲荷山古墳鉄剣・「宋書倭国伝」・磐井の戦い・地方豪族と大王	佐藤信(東京大学大学院教授)	佐藤信(東京大学大学院教授)
3	飛鳥の王権から律令国家へ	隋・唐が成立する国際関係の中で、7世紀前半の倭王権の支配構造や仏教受容の文化動向を明らかにする。また7世紀後半の国際的緊張の下、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱を経て天武・持統天皇により藤原京・律令が作られ、天皇制や律令国家が形成される過程をたどる。 【キーワード】 倭王権、飛鳥時代、大化の改新、白村江の戦い、壬申の乱、藤原京、律令、天皇制、律令国家	佐藤信(東京大学大学院教授)	佐藤信(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	律令国家の実像	平城宮の発掘成果や木簡から平城京の実像を明らかにし、奈良時代の政治史を皇位継承や藤原氏の動向からたどる。地方官衙の遺跡などから中央と地方の関係に焦点をあてる。 また、遣唐使の実像をたどり、天平文化の広がりを考える。 【キーワード】 平城宮、奈良時代、木簡、遣唐使、藤原氏・正倉院御物	佐藤信(東京大学大学院教授)	佐藤信(東京大学大学院教授)
5	平安王朝への道	新しい皇統の桓武天皇が、対蝦夷戦争や新都造営などにより平安新王朝を確立した歩みを整理するとともに、嵯峨天皇が新しい政治・文化を展開した過程を平安京・平安新仏教・仮名などにたどって、後の日本文化に影響を与えた平安初期文化について明らかにする。 【キーワード】 桓武天皇、対蝦夷戦争、平安京、嵯峨天皇、平安新仏教、仮名	佐藤信(東京大学大学院教授)	佐藤信(東京大学大学院教授)
6	摂関政治と貴族社会	9世紀後半に成立した摂関政治の特徴を探り、その変遷をあとづける。また、天皇・摂関を頂点とする貴族社会の構成を概観し、あわせて朝廷で行われた様々な儀式や政務の運営のしくみについてみていく。 【キーワード】 摂関政治、藤原道長、叙位、除目、日記、年中行事、寝殿造	佐々木恵介(聖心女子大学教授)	佐々木恵介(聖心女子大学教授)
7	平安時代の対外関係と国風文化	9世紀後半から11世紀にかけての対外関係を、当時の国際的環境に留意しながら説明する。また、いわゆる国風文化について、「国風」の意味を問うことによって、その特徴に対する理解を深める。 【キーワード】 遣唐使、入宋僧、唐物、国風文化、本朝意識、浄土教	佐々木恵介(聖心女子大学教授)	佐々木恵介(聖心女子大学教授)
8	受領と武士	9世紀末以後、朝廷や貴族の財政を支え、また都と地方との交流にも大きく寄与した受領の活動を具体的にみていく。また、武士の発生や、武士と貴族との関係についても考える。 【キーワード】 受領、郎等、境迎え、侍、承平・天慶の乱、安和の変	佐々木恵介(聖心女子大学教授)	佐々木恵介(聖心女子大学教授)
9	中世のはじまりと院政というシステム	11世紀になると、摂関政治に代わり、皇位を退いた上皇が政治の実権を掌握する院政が行われた。上皇やそれに連なる女性・貴族・寺社のもとに膨大な荘園が寄進され、京都を中心とする物流が整備されていく。軍事を管掌する武士が中央政界に参入し、政争の帰趨を定める重要な役割を担いはじめる。本章は、院政の政治構造を明らかにし、日本における中世のはじまりを考察する。 【キーワード】 院政、女院、荘園、武家	本郷和人(東京大学准教授)	本郷和人(東京大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	鎌倉幕府と武士の成長	関東に産声をあげた武士の政権は、源平の合戦、数々の内紛、承久の乱などを経て次第に成長していく。北条氏を首班とする幕府は統治者としての自覚をもち、法を定め、朝廷や大寺社と交渉し、撫民政策を展開していく。本章では、武家文書も参照しながら、そうした幕府の歩みを跡づけ、「武力を根底に有する政治」の特質を探る。また、荘園における武士たちの日常がどういったものであったか、絵巻などを用いて復元を試みる。 【キーワード】 鎌倉幕府、執権政治、承久の乱、武家文書、武士、絵巻	本郷和人(東京大学准教授)	本郷和人(東京大学准教授)
11	中世前期の神仏と文化	中世前期の段階では、仏教はきわめて大きな役割を果たしていた。天台・真言両宗は朝廷でも幕府でも崇敬され、それに対応するかたちで禅や律の教派が現れ、また念仏や題目を唱える易行・他力の新宗派が生まれた。本章では、こうした仏教のありようを学ぶとともに、仏教思想に色濃く影響を受けた当時の文化も概観する。このとき、思想や文化を受容する存在として、貴族や武士ばかりでなく、庶民のすがたを探してみたい。 【キーワード】 天台、真言、禅律、念仏、題目、他力、神仏習合	本郷和人(東京大学准教授)	本郷和人(東京大学准教授)
12	中世社会の変質と南北朝内乱	14世紀に入ると、荘園制的な土地支配、惣領制的な武士団組織など、社会を律する様々なシステムの変質が進行し、鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱を引き起こす。本章では、14世紀の政治過程をたどるとともに、そうした社会の変質の実相を提示していく。また、時代を象徴するキーワードとして「バサラ」に注目し、そのような文化が生まれた背景として、中世前期の対外交流と大陸文化の受容のあり方にも言及する。 【キーワード】 鎌倉幕府滅亡、悪党、惣領制、南北朝の動乱、倭寇	中島圭一(慶應義塾大学教授)	中島圭一(慶應義塾大学教授)
13	地域社会の形成と応仁の乱	南北朝内乱が終結し、室町幕府の下に再統一が達成されてから1世紀と経たないうちに応仁の乱が勃発し、日本はいよいよ長い内乱期に突入する。この事実、室町幕府が樹立した秩序が、14世紀以来の社会構造の変化に十分対応していなかったことを示すものである。本章では、15世紀の政治過程をたどるとともに、これを当該期に顕在化する列島の分断と地域社会の自立の所産と位置付け、その背景として生産様式の変化に注目しながら、解説していく。 【キーワード】 室町幕府 足利義満、生産革命、湊町	中島圭一(慶應義塾大学教授)	中島圭一(慶應義塾大学教授)
14	近世を準備する戦国社会	応仁の乱と明応の政変を経て、列島は本格的な戦国時代に突入する。16世紀には日本全国が大名たちの地域国家に分断され、それぞれの戦国大名の下で、地域的な政治的・社会的統合と地域経済の発展が進み、地方文化が形成されていく。本章では、近世の幕藩制社会への連続性を意識しながら、戦国大名領国の政治構造や経済・文化の展開について明らかにしていく。あわせて、そうした地域国家を媒介とした当該期の対外交流にも目配りする。 【キーワード】 応仁の乱、明応の政変、戦国大名、地域国家	中島圭一(慶應義塾大学教授)	中島圭一(慶應義塾大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
15	地域史への展望	日本の古代中世の歴史を探ってきたところで、そのまとめと次の時代への展望を考え、日本列島の北と南の地域の歴史を改めて探って、日本史上における地域の特質や地域に蓄えられた力を考え、古代中世の歴史を学ぶ意義についてみる。 【キーワード】 蝦夷地、十三湊、琉球、坊津、地域史、全体史	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554670	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本近世史 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：】

講義概要

日本の歴史は古代・中世・近世・近代という4つの時代に区分して捉えるのが一般的であり、本科目はこのうち近世（16世紀後期～19世紀中期）という時代について講義を行う。近世は、日本が近代化する直前の時代であり、現代に生きる私たちが良きにつけ悪しきにつけ伝統的であると感じることの多くが形作られた時代である。本科目では、政治史主体の通史という形式とはらず、都市や村落などの地域社会に視点をすえ、史料の丁寧な読解を通して近世という時代の特徴を探るという形式で講義を行う。

授業の目標

日本の歴史のなかで近世がどのような時代であるのかについて、正確に理解することを基本的な目標とする。あわせて現在の近世史研究の成果や課題についても、理解することができるようにする。

履修上の留意点

本科目とあわせて、「日本古代中世史('11)」「日本近現代史('09)」などの日本史関連科目、さらに「北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)」「歴史からみる中国('13)」などのアジア史関連科目を履修することが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	都市社会の構造	まず最初に、本講義の視点と課題について述べる。次に第1回のテーマとして、都市社会の構造について講義する。具体的には京都を取り上げ、特に町人地を中心にその構造的特徴を明らかにするとともに、基礎単位である町および町々によって形成されている組町や町組の運営について検討する。 【キーワード】 都市社会、都市的要素、町、町組、重層構造	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)
2	近世都市の社会問題	近世の都市で発生した社会問題について講義する。多くの人口を擁した近世の都市では、様々な社会問題が発生していた。今回はこのうち捨子という問題を取り上げ、それがどのように発生し、どのように取り扱われたのか、そしてその社会的背景などの問題について考える。具体的な事例として、幕末の京都で起きた捨子の一件を取り上げ、詳しく検討する。 【キーワード】 社会問題、捨子、捨子養子制度、生類憐れみ政策	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)
3	近世の都市災害	近世の都市災害について講義する。具体的な事例として、近世の京都で起きた次の三つの都市災害、すなわち火災として天明8(1788)年の京都大火、震災として文政13(1830)年の京都地震、戦災として元治元(1864)年の禁門の変を取り上げる。これらの災害について、史料に即してその状況を見るときともに、都市住民が災害にどのように対処したのか、また災害が都市社会にどのような影響を与えたのかなどについて考える。 【キーワード】 都市災害、天明大火、文政京都地震、禁門の変	杉森哲也(放送大学教授)	杉森哲也(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	武家屋敷と都市社会	城下町は、前近代の日本における代表的な都市類型の一つであった。従来、城下町の歴史は、町人の成長に注目して語られてきたが、幕末に至るまで、城下町において武家は重要な存在であった。ここでは、最大規模の巨大都市へと発展した江戸について、都市の治安維持や消防、出入商人、邸内社の公開をとりあげ、武家と都市社会の諸関係をみていく。 【キーワード】 城下町、江戸、武家地、武家屋敷、辻番、火消、出入商人、邸内社、地域社会	岩淵令治(学習院女子大学教授)	岩淵令治(学習院女子大学教授)
5	江戸勤番武士と都市社会	江戸には、参勤交代に随行して、各地から藩士が集まった(江戸勤番武士)。彼らは、江戸っ子から田舎者と馬鹿にされた。また、現代の研究者からは、余暇をもてあまし、節約をしながら江戸中をくまなく探訪したと評価されている。ここでは、彼らの日記や江戸案内書から、こうした非日常的存在というイメージを批判し、彼らによって成り立っている江戸、あるいは彼らが江戸をどのように見ていたのかを考えていく。 【キーワード】 江戸勤番武士、浅黄裏、勤務、外出制限、生活圏、遠出、買物、江戸像の相対化	岩淵令治(学習院女子大学教授)	岩淵令治(学習院女子大学教授)
6	近世考古学の進展と都市江戸研究	武家地の研究は、1980年代後半以降に本格化した江戸遺跡の発掘調査に端を発している。ここでは、近世考古学のあゆみとその成果、そして現状についてみていく。 【キーワード】 近世考古学、巨大都市の造成、水害、清潔都市・リサイクル都市幻想、裏店の人々の死、文化財保護法改正	岩淵令治(学習院女子大学教授)	岩淵令治(学習院女子大学教授)
7	大名家臣団と城下町	萩藩領(現・山口県)における支配の拠点だった城下町・萩のあり方を考える。なかでも萩藩家臣団の動向と関連づけ、武家屋敷地の動向をとりあげる。軍事的な緊張関係のなかで建設されたあと、幕府国目付の派遣をきっかけにして、武家地の拡充がなされてゆく経緯を観察したい。 【キーワード】 城下町、武家屋敷、大名家臣団、武士の役	森下徹(山口大学教授)	森下徹(山口大学教授)
8	山口町と地域経済	萩藩領の在町だった山口町を取り上げる。近世中期には大坂へ向けた木綿の移出拠点として繁栄したものの、やがて産地間競争に敗北。かわって市の開催や地元向け産物などを取り扱うようになった。近世後期になると瀬戸内の地域経済に密着することで存立を図っていった様子をのべる。 【キーワード】 在郷町、木綿流通、市、瀬戸内地域	森下徹(山口大学教授)	森下徹(山口大学教授)
9	瀬戸内地域の労働社会	萩藩領の瀬戸内沿岸部には、近世後期においても新田開発が盛んに行われていた。その建設には広域を移動する石工が関わっている。地元の業者など重層的な請負構造を介して雇用されていたことを明らかにする。それを通して瀬戸内各地を移動する職人・労働力のあり方を考えたい。 【キーワード】 新田開発、石工、請負、出稼ぎ	森下徹(山口大学教授)	森下徹(山口大学教授)
10	房総の相給村落と用水	近世房総地域(現・千葉県)の平野部の村のあり方を、九十九里平野内部の村である、台方村(現・千葉県東金市)を具体例として、明らかにする。複数の領主・知行主が支配する相給という支配のあり方や村々の用水利用のあり方を通して、農村の基本的な存在形態を理解してもらうことが目的である。 【キーワード】 房総地域、相給、旗本、用水、年貢皆済目録	後藤雅知(立教大学教授)	後藤雅知(立教大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	房総の海付村落	海に囲まれた房総半島の特徴をよく示す事例である海に面した村々＝海付村落のありようを、その内部構造に注目しながら検討する。房総の沿岸村々を概観した上で、具体例として、金谷村(現・千葉県富津市)を取り上げて、漁業社会の実態にせまることにする。 【キーワード】 房総地域、海付村落、漁業、岡方・浜方関係、小買商人、一割船、日本橋四組魚問屋	後藤雅知(立教大学教授)	後藤雅知(立教大学教授)
12	林産物の生産と輸送	丘陵地ながら山深い房総半島内部の社会構造を明らかにするとともに、そうした社会における林産物生産が江戸でのエネルギー需要と強く結びついたことを論じる。具体例として、筒森郷奥山御林での林産物生産と、林産物を輸送する養老川水運とを取り上げて、検討していく。 【キーワード】 房総地域、山間村落、炭、真木、御林、養老川水運、勝浦藩、岩槻藩	後藤雅知(立教大学教授)	後藤雅知(立教大学教授)
13	寺院・僧侶の組織	近世の地域社会において、宗教者がどのように存在し、ひとびとどのような関係を取り結んでいたのか。これから三回の講義で、仏教教団・僧侶について、関東の事例から、具体的に考えていく。今回は、寺院・僧侶の編成のありかた、地域的な教団組織の実態、多様な寺院の、住職の選定・決定方法、などについて、具体的にみていく。 【キーワード】 本末関係、触頭、檀林(談林)、色衣、寺領、末寺、門徒、地域的な教団組織	朴澤直秀(日本大学准教授)	朴澤直秀(日本大学准教授)
14	在地寺院の実態と運営	地域社会における寺院の多様なありさまについて、関東の具体的な事例をとりあげ、検討していく。まずは寺院が果たす諸機能について注目し、その寺院が村や檀家組織の関与をうけながらどのように運営されていくのか、住職のいない寺院はどのように維持管理されていくのか、といった点についてみていく。さらに、僧侶の京都留学や、村の寺院とは対照的な、寺院領主の様相も紹介する。 【キーワード】 寺院の機能、寺院組織、僧侶集団、寺院の管理・運営、無住契約、僧侶の修学、寺院領主	朴澤直秀(日本大学准教授)	朴澤直秀(日本大学准教授)
15	寺檀制度をめぐる	近世の仏教を特徴付けた、一つの大きな要素である「寺檀制度」について、関東の、地域での実態や、幕府による対応などに即して考えてみる。一般的な葬祭・宗判に関する寺檀関係だけでなく、祈禱をめぐる寺檀関係にも着目する。また、「半檀家」という慣行への、村・寺院・幕藩領主それぞれの対応にも着目し、「寺檀制度」の特質について考えていく。 【キーワード】 寺檀制度、葬祭寺檀関係、宗判寺檀関係、祈禱寺檀関係、檀家組織、半檀家、一家一寺制、偽法令	朴澤直秀(日本大学准教授)	朴澤直秀(日本大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1555006	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 北東アジアの歴史と朝鮮半島 （'09）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 吉田 光男（放送大学副学長） 〕

講義概要

日本にとってもっとも密接な関係をもってきた北東アジア地域の歴史を、朝鮮半島を中心にして、古代から現代までを15回にわたって通史的に講義していく。とりわけ政治の動きに注目して、諸国家・諸民族の興亡や相互の関係などを中心としてこの地域の歴史を読み解いていく。また、あわせて経済・社会・文化など人間活動の諸側面に注意を払いながら、総合的な学習を行っていく。

授業の目標

古代から現代までという2000年におよぶ長い時代をあつかい、この地域の歴史がどのように展開して現代にまで至っているかという理解を作りだす。諸国家・諸民族の興亡や相互の関係など、地域史理解の基礎的知識を朝鮮半島の歴史を中心として習得する。日本史や中国史の学習と総合することにより、この地域史のみならず、東アジア史を全体的に理解する基盤を形成することを目標とする。

履修上の留意点

日本史・中国史なども合わせて学ぶことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	総説：北東アジアの中の朝鮮半島	北東アジアの中で朝鮮半島の存在を歴史的にどのように考えるのかについて総説的にあつかい、学習の指針を与える。古代から現代までの歴史の流れと自然環境などを概観し、朝鮮半島の歴史的な位置づけを北東アジアの国際関係の中でとらえる視点を提示する。 【キーワード】 東アジア、朝鮮半島、日本列島、地理、気候	吉田光男 (放送大学副学長)	吉田光男 (放送大学副学長)
2	北東アジアにおける古代国家の形成	扶余・三韓・加耶諸国・高句麗・新羅・百済・など、古代の北東アジアで形成発展した諸国家を中心として、古代の歴史の特質について考察する。各地域・国家の歴史を、一国的ではなく、北東アジアのみならず、アジア史・世界史の中で意味づけ、この地域の歴史的な特色を考えていく。 【キーワード】 古代国家、高句麗、新羅、百済	李成市 (早稲田大学教授)	李成市 (早稲田大学教授)
3	古代の朝鮮半島と北東アジアの変動	隋・唐国家の発展という中国における北東アジアの変化とを、国家や民族・種族の動きを中心として考察する。高句麗・百済・新羅・渤海という諸王国の興亡と中国や日本との関係を、域内交流に注目しながら分析していく。 【キーワード】 国家、民族、高句麗、新羅、百済、渤海	李成市 (早稲田大学教授)	李成市 (早稲田大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	古代北東アジアの社会と文化	古代朝鮮半島三国や渤海の社会と文化について考える。高句麗・新羅・百済の古代社会の様相や文化がもっている特色を考察し、古代北東アジアの社会と文化の特質を浮き彫りにして、古代日本との比較の視点を提示する。 【キーワード】 社会、文化、高句麗、新羅、百済	李成市 (早稲田大学 教授)	李成市 (早稲田大学 教授)
5	高麗と北東アジア	中世の北東アジアの歴史について、朝鮮半島の国家である高麗の動きを中心として概観する。10世紀に成立した高麗ははじめて朝鮮半島全体を掌握した国家であり、金・遼という遊牧民族国家が興亡し、宋を圧迫する北東アジアの新しい秩序に参加した。これらの動きを検討する。 【キーワード】 高麗、唐、五代十国、宋、金、遼	吉田光男 (放送大学副 学長)	吉田光男 (放送大学副 学長)
6	モンゴル勢力と北東アジア・高麗	チンギス・カンによるモンゴル帝国の建設から、13世紀に大都(現北京)を都として元王朝が成立することによって朝鮮半島で起きた変化を北東アジア的視点から考察する。 【キーワード】 モンゴル、元、高麗、クビライ、武臣、三別抄、元寇、李成桂	吉田光男 (放送大学副 学長)	吉田光男 (放送大学副 学長)
7	朝鮮王朝の成立と北東アジア	1368年、中国で元と明の王朝交替があった。この影響は北東アジア全体に及んだが、とりわけ朝鮮半島では、元と深い関係にあった高麗の滅亡から新たな王朝としての朝鮮の成立へと結びつく大きな変動をもたらす要因の一つとなった。この章では14世紀末から、15世紀ごろまでの北東アジアの動きを背景として朝鮮半島の歴史を考える。 【キーワード】 元、明、高麗、朝鮮王朝、儒教、李成桂、両班、士大夫	吉田光男 (放送大学副 学長)	吉田光男 (放送大学副 学長)
8	近世の北東アジアと朝鮮半島	北東アジアでは、中国も含めて古代から盛んな地域間交流が行われ、政治・経済・文化・社会の諸分野に大きな影響を与えてきた。16世紀末から17世紀初頭にかけて、日本軍による朝鮮侵略、明から清への王朝交代、徳川政権の成立など、北東アジアにおきた大きな政治変動を背景にした交流について、その実態を検討する。 【キーワード】 通信使、燕行使、冊封、豊臣秀吉、江戸幕府、明、清	吉田光男 (放送大学副 学長)	吉田光男 (放送大学副 学長)
9	朝鮮半島の近世社会	朝鮮近世(17～19世紀)の社会と文化の様相について、総合的な考察を加える。身分・血縁・地域などに焦点をあてて、住民の生活像と意識を探る。朝鮮半島の人々が作りだしてきた文化をうかがうことにより、北東アジアの中で歩んできた独特の歴史を検討する。 【キーワード】 身分、血縁、氏族、士族、両班	吉田光男 (放送大学副 学長)	吉田光男 (放送大学副 学長)
10	開化政策と近代世界への編入	19世紀のウェスタン・インパクトによる北東アジアの変化を、朝鮮半島を中心として考える。アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・ドイツなど西欧列強による圧迫に対して、中国や日本と比較しながら朝鮮がどのような対応をしたのか、その歩みを追いかけて、「近代化」の意味を考える。 【キーワード】 開国、開化、文明、近代化、西欧列強	橋谷弘 (東京経済大 学教授)	橋谷弘 (東京経済大 学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	植民地帝国日本と朝鮮半島	1910年8月、日本は韓国との間で「併合条約」を締結し、台湾につづいて朝鮮半島を植民地にした。この植民地帝国日本が、朝鮮半島においていかなる目的と方法によって植民地支配を行ったのか、また北東アジア全体でその支配がどのような位置づけにあったのか、考察を行う。 【キーワード】 植民地、台湾、帝国主義	橋谷弘 (東京経済大学教授)	橋谷弘 (東京経済大学教授)
12	戦時下の朝鮮と冷戦下の朝鮮	1945年8月15日、朝鮮は日本の敗戦によって植民地からの独立(解放)を果たした。しかし、現在、世界唯一の分断国家と称されるように、南北二つの国家が分立している。このような状況をもたらした歴史的背景を、第二次世界大戦前後の朝鮮をめぐる国際関係の中から歴史的に考察してみる。 【キーワード】 解放、分断国家、東西冷戦	橋谷弘 (東京経済大学教授)	橋谷弘 (東京経済大学教授)
13	北朝鮮社会主義のアジア的特徴	第二次世界大戦後のアジア各地で社会主義政権が生まれたことの背景を考え、その一つとして北朝鮮の社会主義を位置づける。アジア社会主義の世界史的意味や金日成と北朝鮮の社会主義建設を検討し、主体思想と金正日体制への移行の歴史的意味について考察する。 【キーワード】 社会主義、北朝鮮、主体思想、金日成、金正日	橋谷弘 (東京経済大学教授)	橋谷弘 (東京経済大学教授)
14	アジアNIESとしての韓国	1960・70年代の工業化による経済成長で、韓国がアジアNIESの一つとして注目された経緯と、80・90年代に入って民主化など先進国化への変化が生まれた背景について考察する。アジアNIESとしての韓国が成長してきた要因を分析し、民主化と先進国化の内容を検討する。 【キーワード】 工業化、韓国、アジアNIES、民主化	橋谷弘 (東京経済大学教授)	橋谷弘 (東京経済大学教授)
15	現代の朝鮮半島と北東アジア	21世紀の東アジアの中で、朝鮮半島がどのように変化していくかを論じる。『世界の工場』としての東アジア、97年危機と韓国経済のグローバル化、IT化の進展と韓国経済、北朝鮮の食糧問題と核開発など、この時期の重要な歴史的トピックを考察する。 【キーワード】 グローバル化、韓国経済、北朝鮮経済	橋谷弘 (東京経済大学教授)	橋谷弘 (東京経済大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554662	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 歴史からみる中国 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：吉澤誠一郎（東京大学大学院准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：吉田光男（放送大学教授）】

講義概要

古代から現代に至る中国史について、今日の日本人が知っておくべき事柄を時代順に紹介していく。その際には、中国社会の地域的・民族的な多様性が歴史にどのような影響を与えたかという視点を重視して、今日のナショナリズムに基づく歴史観から離れた柔軟な見方をもてるようにしたい。

授業の目標

古代から現代に至る中国の歴史について全体像を把握することをめざしたい。中国の歴史的展開が、日本とはスケールの異なるというべき多様な要素にもとづいていることを、具体的に理解できるようにする。

履修上の留意点

特別な予備知識は必要はない。隣接する地域の歴史について、「北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)」も履修するとよい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	中国史について考える	今日では自明とみなされがちな中国史という考え方が、近代ナショナリズム史観のものであることを指摘したうえで、それでも中国史について考える意味は何かについて論じる。中国史を形作ってきた地域的・民族的な多様性についても、留意したい。 【キーワード】 中国史、ナショナリズム、漢民族、多様性と統一性	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)
2	東部ユーラシアの環境と多様性	東部ユーラシアの多様な自然環境は、各地にさまざまな先史文化を育んだ。気候や社会・経済の変動に影響されながら、諸地域文化が交流や抗争を繰り返し、その中から新たな制度や思想が生まれてきたことを理解する。 【キーワード】 共工伝説、禹貢、甲骨文字、郢爰、諸子百家、都江堰	阿部幸信(中央大学教授)	阿部幸信(中央大学教授)
3	漢王朝の「海内一統」	東部ユーラシアにはじめて長期に互る政治的安定をもたらしたのは、漢王朝である。東方諸侯との角逐や北方の匈奴との対峙を経て、漢の「海内一統」が実現され、地域性を越えた新しい「中国」が形成された過程について考える。 【キーワード】 皇帝信璽、諸侯王、匈奴、漢武帝、塩鉄官、三皇説	阿部幸信(中央大学教授)	阿部幸信(中央大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	南北朝のもたらしたものの	漢王朝の崩壊に続く魏晋南北朝時代の動乱は、ユーラシア全体の民族移動と関係していた。大規模な人口移動を背景としながら、北朝・南朝において文化の融合が進行したことを把握する。 【キーワード】 公孫氏政権、長沙呉簡、法頭、淝水の戦い、北魏太武帝	阿部幸信(中央大学教授)	阿部幸信(中央大学教授)
5	唐王朝とその世界性	遊牧民族と漢人の協働によって支えられた唐王朝は、東西を結ぶソグド人のネットワークに組み込まれ、都の長安では国際色豊かな文化が開花した。その具体的様相と、安史の乱によって生じた変化を理解する。 【キーワード】 拓跋国家、唐長安城、トゥルファン文書、阿倍仲麻呂、黄巢の乱	阿部幸信(中央大学教授)	阿部幸信(中央大学教授)
6	東アジアの大変容と宋王朝	唐の弱体化の中で勢力をのばした五代十国とキタイは、中国にその後3世紀続く分裂をもたらした。五代を継いだ宋は、遼・西夏・金と対峙するため、軍事・財政の仕組みを発達させる一方、官僚制度を整え、文化を飛躍的に発展させた。 【キーワード】 キタイ、徽宗、士大夫、科挙、朱子学、宋銭	櫻井智美(明治大学准教授)	櫻井智美(明治大学准教授)
7	モンゴル時代の中国	モンゴル帝国はユーラシアに広大な支配域を広げ、中国にも多大な影響を及ぼした。大都を中心とする帝国の交通圏に組み込まれた中国の様相を、繁栄する商業と元朝の財政、そして後代の中国に与えた影響を中心に解説する。 【キーワード】 大都、クビライ、ケシク、ジャムチ、マルコ=ポーロ、「商業指南」	櫻井智美(明治大学准教授)	櫻井智美(明治大学准教授)
8	明朝と東アジア	明朝初期は、元の制度を受け継ぎながらも、農村社会を安定化させるための里甲制、対外貿易の統制など新施策をとった。しかし、16世紀の国際的経済変動は、明朝にも大きな刺激を与え、その体制を動揺させていく過程を把握する。 【キーワード】 里甲制、北虜南倭、銀、農村手工業、足利義満	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)
9	清朝の覇権	清朝は、女真の人々に由来する国家である。17世紀に明朝が反乱によって滅亡したあと、清朝は明朝の版図をおさえるとともに、次第にモンゴル・新疆なども支配下にいれていった。清朝の対外姿勢や文化の特徴についても理解を深めたい。 【キーワード】 女真、八旗、ジュンガル、新疆、乾隆帝	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)
10	近代世界のなかの清朝	19世紀はじめ清朝は統治の再建のため積極的施策を試みた。19世紀半ばには清朝は連鎖的に起こる反乱に苦しめられたが、結局は地方の紳士たちの支持と海外貿易にもとづく財源によって体制を立て直した。 【キーワード】 アヘン戦争、太平天国、曾国藩、ムスリム反乱、海関	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎(東京大学大学院准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
11	中国ナショナリズムの形成	康有為らの変法運動は1898年にピークに達したが、挫折した。彼らと孫文は複雑な対抗関係を持ちながら、欧米・日本の近代国家観を受け止め、中国ナショナリズムの考えを作っていた。清朝は立憲制導入によってこれに対抗した。 【キーワード】 康有為、梁啓超、孫文、科挙の廃止、日本留学、辛亥革命	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)
12	模索する中華民国	中華民国は、豊かな可能性をもつ模索の時代を提供した。前半は軍人が各地に政権を築く不安定な政権のもとで、知識人たちは思索の試みを続けた。南京に国民政府が成立してから、意欲的な政権運営のもとで国家統合・国権回復が試みられた。 【キーワード】 五四運動、蔣介石、関税自主権の回復、貨幣の統一	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)
13	国民政府と日中戦争	南京国民政府の施策は、日本の侵略によって阻止された。国民政府は重慶に移転して抗戦を進めるとともに、英米と協力しつつ戦時体制を構築した。戦後になると国民党と共産党の内戦が始まり、最終的には共産党を中心とする新国家が成立した。 【キーワード】 日中戦争、重慶、延安、中華民国憲法、台湾	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)
14	中国社会主義の展開	1949年に成立した中華人民共和国は、朝鮮戦争でアメリカとの敵対を余儀なくされ、社会主義建設の急進化の道を選んだ。しかし、共産党内にも、安定した統制経済をめざす方針と大衆運動を重視する方針との対立があり、社会主義建設は紆余曲折を経た。 【キーワード】 毛沢東、劉少奇、朝鮮戦争、大躍進、文化大革命	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)
15	現代中国をみる	1972年代から中国は社会主義圏以外とも交渉を深めていった。1990年代以降には、大胆な市場経済原理の導入によって急激な経済発展を果たしてきたが、国家の統合・安定のもとでいかに人々の多様な願いを実現させるか、大きな課題に直面している。 【キーワード】 国際連合、鄧小平、社会主義市場経済、北京オリンピック	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)	吉澤誠一郎 (東京大学大学院准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554310	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ イスラーム世界の歴史的展開 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：三浦 徹（お茶の水女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：吉田 光男（放送大学副学長）】

講義概要

イスラーム世界は、アジア・アフリカのみならず地球規模に広がり、イスラームという統合性と地域や時代による多様性とをあわせもち、他の文化圏との交流を通じて、ダイナミックな歴史を展開している。第一部(1－9回)では歴史的な発展を軸にイスラーム世界を縦に通観し、第二部(10－14回)では社会文化のしきみをテーマに横断する。対象地域は中東(アラブ、トルコ、イラン)を主とするが、他の地域との交流や比較を重視し、イスラーム世界を学ぶことから、歴史と現代を読み解くことを目標とする。

授業の目標

毎回の授業では、主題をしぼり、人物・地域・歴史資料など具体的な題材をとりあげて、講義をする。イスラーム世界と一口にいても、地域や時代による違いが大きいが、本講義では、事項の羅列をさけ、核心となる主題の理解に集中する。そのうえで、発展的な学習課題を自習することによって、知識を広げ、深める。

履修上の留意点

イスラーム世界に関連する地域の科目として、「ヨーロッパの歴史と文化」「地中海世界の歴史」が開講されている。また「現代の国際政治」は、9/11事件以降の国際社会について、アフガニスタンやイラクとアメリカの問題を焦点に論じる。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	イスラーム世界と日本	世界のムスリム人口は16億人ともいわれ、アジア、アフリカから欧米にもひろがり、民族や文化、また政治経済も多様である。他方、9/11事件以降、イスラームやムスリムに対する怖れや敵意が拡大している。なにが理解の壁となっているのか？日本とイスラーム世界との関わりをたどり、理解の鍵をさぐる。 【キーワード】 イスラーム世界、ムスリム、日本、ヴェール、モスク	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
2	イスラームの生誕と拡大:7－8世紀	イスラームは、メッカの商人ムハンマドが創唱し、信者は契約によって共同体国家を創った。カリフをリーダーとし各地に征服軍を送り、8世紀初めまでに西はイベリア半島から東はアフガニスタンまで拡大した。征服地では都市を拠点に統治体制を整え、キリスト教徒やユダヤ教徒も納税とひきかえに安全を保障された。イスラームが急速に広まった歴史的社会的な理由を考える。 【キーワード】 アラビア半島、ムハンマド、コーラン、ハディース、ヒジュラ、カリフ、ハラージュ	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
3	カリフの時代:8－10世紀	アッバース朝は、イスラームにもとづく統治体制を確立し、首都バグダードを中心とする国際商業が繁栄する。イスラーム法(シャリーア)に基づく政治の執行権は、カリフなどの支配者に委ねられ、ウラマー(イスラーム知識人)がコーランやハディースにもとづきシャリーアを体系化した。政治の安定と国際商業の繁栄のもとで、アラブ・イスラーム文化が広まっていく。 【キーワード】 アッバース朝、バグダード、シャリーア、ハディース、ウラマー、インド洋貿易、イスラーム科学	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	軍人政権の分立:9-11世紀	騎馬戦術にすぐれたトルコ人兵士の導入によって、マムルーク(奴隷軍人)や遊牧軍人が軍事力をにぎり、各地に政権を樹立する。異民族出身の軍人は、カリフから統治権を委ねられ、イクター制を基幹に都市と農村を支配し、ウラマーを行政官としてその協力のもとに統治体制をかためていった。 【キーワード】 軍人政権、スルタン、アミール、マムルーク、騎士、ウラマー、イクター制、マドラサ	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
5	交流するイスラーム世界:12-15世紀	12世紀から14世紀にかけ、イスラーム世界は、サハラ以南、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国へと拡大した。ヨーロッパから十字軍、東方からモンゴルの侵攻をうけるが、軍人支配者のもとでイスラーム諸国家の統治制度は整えられ、ユーラシアとアフリカをまたぐ商人やウラマーの交流はさらに活性化し、農村と都市が発展する。 【キーワード】 十字軍、ジハード、モンゴル、サラディン、マムルーク朝、イブン・バットゥータ、マリ王国、スワヒリ	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
6	トルコ・モンゴル系国家とペルシア語文化:13-18世紀	トルコ・モンゴル系の遊牧部族の流入により、イラン・中央アジアに遊牧国家が出現した。そこでは、イラン系定住民が行政を掌握し、ペルシア語文化が栄えた。遊牧民の軍事力と定住民の経済力に基づく社会は、ティムール朝下のサマルカンドやヘラートの繁栄に結実し、さらに、サファヴィー朝やムガル朝という近世の大帝国を誕生させた。 【キーワード】 セルジューク朝、イルハン朝、ティムール朝、サファヴィー朝、ムガル朝、バーブル、アッバース1世、イスファハーン	近藤 信彰(東京外国語大学准教授)	近藤 信彰(東京外国語大学准教授)
7	オスマンの平和:14-19世紀	アナトリアの最西端に興ったオスマン朝は、バルカンやアラブ地域を征服し、地中海をまたぐ一大帝国に発展した。スルタンのもとに、軍人、文官、ウラマーの力を集め、多宗教・多言語の共存する統治体制を築いた。農牧を基盤とした地方社会には名士が台頭して経済を牽引し、国際交易が繁栄した。オスマン朝の発展を導いた政治・経済体制と、オスマン経済を実質的に支えていた遊牧民、農民、都市民の活動とを検討する。 【キーワード】 バルカン、イスタンブル、地中海、ティムール制、徴税請負、シパーヒー、イエニチェリ、デヴシルメ、カプクル、宮廷、イスラーム法廷、検地(タプ)、コーヒー	江川 ひかり(明治大学教授)	江川 ひかり(明治大学教授)
8	近代の出会いと衝突:19-20世紀	ナポレオンのエジプト遠征は、世界の覇権を争うヨーロッパの近代国家と中東・イスラーム世界が会う近代を象徴する事件となる。ムハンマド・アリー朝、オスマン帝国、カージャール朝などで近代化にむけた改革が進み、イスラームの改革思想が生まれ、新たな政治体制をめざす立憲運動はヨーロッパ諸国の干渉のまにに挫折し、植民地化が進行する。 【キーワード】 ナポレオン遠征、ムハンマド・アリー朝、タンジマート改革、ミドハト憲法、オラービー運動、イラン立憲革命、不平等条約、東方問題、サラフィーヤ	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
9	植民地化とナショナリズム:ふたつの世界大戦	西欧列強による植民地分割に対し、各地でこれに抵抗する運動が起きる。第一次世界大戦後には、西欧列強との妥協を重ねながら、エジプト、シリア、イラク、サウジアラビア、トルコ、イランなどの諸国家が樹立される。しかし、分断された植民地体制から政治的独立を求める運動は、内部に民族と宗教と階級という亀裂を抱え、さらにパレスティナ問題が国際問題として浮上していく。 【キーワード】 統一と進歩委員会、トルコ革命、アラブ反乱、エジプト革命、パフラヴィー朝、パレスティナ問題、ナショナリズム、中東諸国体制	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	家族と女性	アラブ社会では父系の系譜が家族関係の基本となるが、個々人が相続権や財産権をもち、血族や姻族以外の実力者を取り込みながら、実践的な家や家族という集団がつくられた。女性は、信徒としては平等な地位をもったが、社会的には男性の庇護におかれ、ヴェールやハレムといった特有の生活形態を生み出した。 【キーワード】 家族、家、婚姻、女性、相続、中庭式住宅、ヴェール	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
11	都市と商人	中東では農業と牧畜と商業を連結した経済システムを特徴とした。経済的分業が進み、イスラーム法は私有権にもとづく公正な取引を保証し、国家や地域をこえた普遍法として適用された。都市では、ワクフ制度によって宗教施設と経済施設が整備された。都市と商業が興亡する理由を考える。 【キーワード】 灌漑農業、市場(スーク)、職人、ムフタシブ、ワクフ、私有権、国際商業	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
12	契約と裁判	イスラーム法は、借金や相続や売買の際に証人をたて文書で契約を交わすことを定め、イスラーム法廷で承認・登記された。カーディー(裁判官)のもとには、多種多様な訴訟が持ち込まれ、利害調停の役割を果たした。社会秩序の基礎となっていた契約と裁判のあり方を考える。 【キーワード】 イスラーム法廷、法廷文書、カーディー、公証人、インシャラー	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)
13	スーフィーと聖者と教団	修行によって内面的な神の追究をめざすスーフィズムが発展し、スーフィー、聖者、スーフィー教団(タリーカ)はイスラームの拡大・浸透に大きな役割をはたした。同時に民衆の生活と密接に結合していた。スーフィー・聖者崇拜・スーフィー教団を介して民衆イスラーム社会の実態を考える。 【キーワード】 禁欲、スーフィー、スーフィズム、神秘主義、タリーカ、聖者、ナクシュバンディー教団、ティジャーニー教団	私市正年(上智大学・教授)	私市正年(上智大学・教授)
14	イスラームの造形文化	イスラームにおける偶像崇拜の禁止は、文字、植物、幾何学的形態によって華麗に装飾された宗教建築をうみだした。一方、宗教とは直接関係しない建築や美術・工芸品には、人物や動物の生き生きとした描写がみられた。オスマン朝を中心に建築、美術、工芸を概観する。 【キーワード】 偶像崇拜の禁止、モスク、建築、装飾、写本絵画	山下 王世(立教大学准教授)	山下 王世(立教大学准教授)
15	グローバル化時代のイスラーム世界	グローバル化はイスラーム世界の重要度を加速する。国際政治のみならず、欧米のムスリム移民は数百万規模をこえ、石油エネルギー資源とオイルマネーは世界経済の鍵を握り、イスラーム諸国ではイスラーム復興の潮流が強まっている。人類文化としてのイスラームをどう理解するかは私たちの共通課題である。 【キーワード】 パレスティナ問題、イラン・イスラーム革命、イスラーム復興、イラン・イラク戦争、フセイン、サウジアラビア、イスラーム主義運動(団体)、9/11事件、アフガニスタン侵攻、イラク戦争、ムスリム移民	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)	三浦 徹(お茶の水女子大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1557203	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ヨーロッパの歴史と文化 （'09）＝（TV）
－中世から近代－

〔主任講師（現職名）： 草光 俊雄（放送大学教授） 〕
〔主任講師（現職名）： 河原 温 （首都大学東京教授） 〕

講義概要

ヨーロッパの歴史を中世から現代まで概観する。各講義はそれぞれテーマをたてて（「城」、「都市」、「キリスト教」、「帝国」など）今日のヨーロッパを築いてきた道のりが理解できるように工夫されている。

授業の目標

現代に生きる私たちが一体どのような過程を経て今ある姿になったのか。またこの日本という国が近代に大きな影響を受けたヨーロッパがどのような歩みをたどってきたのか。私たち自身を理解するために歴史は多くのことを教えてくれる。ヨーロッパの歴史を中世から現代に至るまで学ぶことによって今という時代を考えることを目標とする。

履修上の留意点

他の歴史科目、例えば「地中海世界の歴史（'09）」「歴史と人間（'14）」などを学んでおくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 （所属・職名）	放 送 担 当 講 師 名 （所属・職名）
1	ヨーロッパの歴史と文化を考える	イントロダクションと問題意識を提示 【キーワード】 森、キリスト教	草光 俊雄 河原 温	草光 俊雄 河原 温
2	古代から中世へ	西ヨーロッパでは、古代ローマ帝国が5世紀後半に崩壊する一方、同時期のガリアでは、フランク王国というゲルマン人国家が成立し、西ヨーロッパ世界の中核地域を形成するとともに、次第に中世独自の社会制度や文化を生み出していった。この時代のキリスト教の定着の問題も合わせて概観する。 【キーワード】 ローマ帝国、民族大移動、フランク王国、教会国家体制、キリスト教	堀越 宏一 （早稲田大学教授）	堀越 宏一 （早稲田大学教授）
3	封建社会の形成とヨーロッパ世界の拡大	10世紀末以降、ヨーロッパ世界では、城の建設が進み、社会支配のあり方は一変した。城は周辺農村支配の拠点となると同時に、城を媒介にして、貴族間で封建的主従関係が結びつけられたからである。また、このような時代である11～13世紀の西ヨーロッパ諸王国の統治を概観すると同時に、レコンキスタや十字軍運動を通してヨーロッパ世界が周辺部に拡大していく様子を確認する。 【キーワード】 城、城主支配領域、封建制、貴族、十字軍	堀越 宏一	堀越 宏一

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	中世ヨーロッパの農村	11世紀以降、西欧の農業は『中世農業革命』と呼ばれる発展を遂げて、人口も耕地も農業生産も拡大していった。一方、農民もまた農業生産の発展を受けて、村落共同体と呼びうる組織を生み出し、現在に至る農村景観を作り出していく。このような11～15世紀の中世ヨーロッパ農村の変遷を辿る。また農村では、農作物以外の様々な物資が生産されて、中世社会を支えていたことも重要である。 【キーワード】 中世農業革命、農村、村落共同体、牧畜、階層分化	堀越 宏一	堀越 宏一
5	都市の発展と文化	中世農村社会の中に現れた中心地としての都市はどのような経済的、政治的、文化的機能を果たし、近世以降のヨーロッパ社会に何をもたらしたのかを考える。 【キーワード】 司教座、中心地機能、自由と自治、仲間団体、文字文化	河原 温	河原 温
6	キリスト教と教会・修道院	中世中期以降のヨーロッパ社会におけるキリスト教を支えた修道院とカトリック教会の活動をたどるなかで、異端運動や聖人崇敬など人びとの信仰の在り方を考える。 【キーワード】 クリュニー、シトー、托鉢修道会、異端、ゴシック建築、公会議	河原 温	河原 温
7	中世後期の社会変動	14～15世紀(中世後期)のヨーロッパ社会が、ペストや百年戦争などの災厄を通じていかに変容していったか、政治、経済、人々の心性の各側面から考える。 【キーワード】 ペスト、死の舞踏、一揆、身分制議会	河原 温	河原 温
8	ルネサンスとヨーロッパ	中世後期の社会変動の中でイタリアを中心に生じ、やがて全ヨーロッパに広がったルネサンスの文化運動を中世社会との関係でとらえなおす。特に北仏・ネーデルラントにおける「北方ルネサンス」の意義を再考する。 【キーワード】 人文主義、万能人、遠近法、ブルゴーニュ公国、宮廷文化	河原 温	河原 温
9	ルネサンスの終焉と近代の始まり	ルネサンスはある意味で中世の延長であった。確かに新しいヨーロッパを準備したが、ルネサンス的な枠組みが終わらなければ近代は始まらない。近代の始まりを告げる新しい枠組みが何かを考える。 【キーワード】 ルネサンス、大航海時代、文芸復興、人文主義、宗教改革、軍事革命、主権国家、全般的危機、新旧論争	草光 俊雄	草光 俊雄
10	宗教改革以降のヨーロッパの宗教と政治	カトリックが支配してきた中世ヨーロッパはプロテスタントの登場によって分断される。そして宗教を巡る地域的あるいは国家的な争いがその後のヨーロッパの歴史に大きな陰をもたらすことになる。16世紀から20世紀にいたる宗教紛争などを概観しながら宗教を巡る言説や政治を考える。 【キーワード】 ウィクリフ、フス、宗教改革、プロテスタント、カトリック、宗教戦争、ルター、カルヴァン、三十年戦争	草光 俊雄	草光 俊雄

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	海洋帝国とヨーロッパの海外膨張	ローマ帝国は基本的に陸地の帝国であった。大航海時代以降のヨーロッパは海に出て行くことによって覇権を競うものとなった。人びとの目はヨーロッパ大陸だけではなく、アジアやアメリカそしてアフリカに向けられていった。ヨーロッパと非ヨーロッパとの関係がどのように展開したかを概観する。 【キーワード】 海洋帝国、大航海時代、東洋の富	草光 俊雄	草光 俊雄
12	新しい学問:科学、技術、商業	16世紀に始まった科学革命は自然認識についての新しい知見をもたらしたが、また科学や技術を社会や国家の繁栄に貢献させようとする意識が出てきた。豊かで強い国作りが求められ、商業や工業が発展し、新たな社会構造が創出された。このことによって現代まで続く西欧優位の世界が成立したといつてよい。 【キーワード】 科学革命、商業革命、産業革命	草光 俊雄	草光 俊雄
13	啓蒙思想と近代ヨーロッパ	新しい学問はまた新しい人間についての考え方をもたらした。政治を誰が担当するのか、信仰についてどう考えるのか、人間社会はいかに関係を作っていくべきか、などが議論され、学問が専門化し、細分化されていく。 【キーワード】 啓蒙主義、経済学、フランス革命	草光 俊雄	草光 俊雄
14	新しい帝国意識と非ヨーロッパとの関係	ヨーロッパの覇権は19世紀にはいると新たな段階に到達する。帝国主義が世界を分割し植民地が増大する。20世紀になるとヨーロッパから始まる世界を巻き込む戦争が起こり、社会主義革命が広がる。 【キーワード】 帝国主義、世界大戦、全体主義、民主主義	草光 俊雄	草光 俊雄
15	まとめ:ヨーロッパにおける統合と分離	まとめ。新しい歴史学によってヨーロッパの歴史がどのように書きかえられてきたか、いくつかの例を紹介しながら歴史の方法について話す。またヨーロッパの統合の問題についても長いスパンで見るとどうなるか、検討する。 【キーワード】 新しい歴史学、グローバル・ヒストリー、統合、分離、EU	草光 俊雄 河原 温	草光 俊雄 河原 温

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554743	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 南北アメリカの歴史 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [History of the Americas ('14)]

〔主任講師（現職名）：網野徹哉（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：橋川健竜（東京大学准教授）〕

【本学担当専任教員：草光俊雄（放送大学教授）】

講義概要

南北アメリカの歴史を先史時代から現代まで概観する。先住民社会の征服、植民地化の過程で南北両地域ともに先住民とヨーロッパ・アフリカの出身者が接触し、空間的・社会的な線引きや混淆を繰り返しつつ、旧世界とは異なる独特な世界が形成されていった。独立後、苦難に満ちた国家形成の歴史を示したラテンアメリカ諸国に対して、北米は奴隷制問題を、南北戦争という多大な犠牲を払って解決し、再出発する。そして20世紀にはアメリカ合衆国が超大国化する一方、ラテンアメリカ諸国はさまざまな危機を克服すべく模索した。今世紀に入り、米国・ラテンアメリカ諸国間で共通の問題が浮上しつつあることも検討したい。

授業の目標

これまで別々に語られてきたアメリカ合衆国とラテンアメリカの歴史を、地域史としての個々の研究蓄積に配慮しつつ、南北アメリカ全体の相互関係を視野に入れて論じる。独立以前の社会の重要性、とりわけ歴史形成における先住民の担った役割に注意しつつ、18世紀については、大西洋・ヨーロッパ世界を含む大きな世界史的枠組みの中でアメリカを理解する可能性を示したい。また20世紀に擡頭したアメリカ合衆国が世界に及ぼした政治・経済・文化的影響力と、それに対するラテンアメリカ側の、反発を含めた応答の諸相についても取り上げたい。

履修上の留意点

とくになし

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	はじめに:アメリカ世界とは	本科目のねらいについて、主任講師が共同討議という形で論じる。南北アメリカの地理的多様性を確認するとともに、先住民、ヨーロッパ系入植者(移民)、黒人奴隷、アジア系移民が接触した、という新大陸全体に共通する点と、地域ごとに異なった社会が形成された点に注目する。 【キーワード】 世界史、自然と風土、遭遇と発見、多様な民族、奴隷制	網野徹哉(東京大学教授)、橋川健竜(東京大学准教授)	網野徹哉(東京大学教授)、橋川健竜(東京大学准教授)
2	アメリカ世界の古代文明	コロンブスが到来する以前の南北アメリカ世界について、アジア大陸からの人間集団の到来を経て、農耕や牧畜がはじまり、各地にさまざまな文化が栄え、アステカやマヤ、インカなどの高度に発達した古代文明が生成するまでの過程を講ずる。 【キーワード】 南北アメリカ、DNA、アジア、農耕・牧畜、アステカ、マヤ、インカ	網野徹哉(東京大学教授)	網野徹哉(東京大学教授)
3	アメリカ《発見》と征服	コロンブスがアメリカに到来する1492年までのイベリア半島における歴史的背景、スペイン人による、カリブ海、メキシコ、ペルーなどにおける征服行動の実態、そしてアステカ社会、インカ帝国などの先住民社会が崩壊する局面、その要因を論ずる。 【キーワード】 コロンブス、1492年、イベリア半島、征服、人口減少、ピサロ、コルテス、ブラジルの発見	網野徹哉(東京大学教授)	網野徹哉(東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ラテンアメリカ植民地社会とは何であったか	征服後に成立したスペイン人／インディオ／黒人の共生空間としての中南米植民地について、統治システムの確立、居住空間の再編成、先住民の労働力を基にした経済的開発の実態、大西洋・太平洋における通商・物流のあり方などを論じる。 【キーワード】 エンコミエンダ、都市、スペイン人、インディオ、黒人、統治システム、経済的搾取、鉱業、海の道	網野徹哉(東京大学教授)	網野徹哉(東京大学教授)
5	異文化の相克:ラテンアメリカ植民地における複数文化の融合・共存・葛藤の諸相	先住民に対するキリスト教会の精神的支配が確立し、経済的搾取が常態となった植民地時代において、伝統的な価値観に基づきつつ、外来文化の圧力に対して抵抗・交渉する先住民のあり方を、混血、黒人の問題を含め、多様な側面から照射する。またブラジル植民地社会の発展についても論じる。 【キーワード】 先住民の反乱、人種の混雑、カトリック教会、修道会、マリア信仰、偶像崇拜、異端審問、ブラジル	網野徹哉(東京大学教授)	網野徹哉(東京大学教授)
6	北米先住民と植民地社会:比較の視座から	高度に発達した先住民社会とスペイン人入植者が接触した南米と対比させて、より流動的な性格をもつ先住民社会とフランス、さらにはプロテスタントであるイギリス系入植者が接触した北米の植民地社会を18世紀中葉まで論じる。 【キーワード】 タバコ、ピューリタン、土地、毛皮交易、七年戦争(フレンチ・アンド・インディアン戦争)	橋川健竜(東京大学准教授)	橋川健竜(東京大学准教授)
7	スペイン領アメリカ植民地社会から見た18世紀:繁栄の光と影	スペイン王室は1700年以降、中央集権化のためにブルボン朝諸改革と呼ばれる一連の改革を実施する。それはアメリカ植民地の民衆に増税を、クリオーリョ中・上層には自律性の喪失をもたらした。表面上の繁栄の下、諸階層の不満は高まり、1808年のナポレオンによるスペイン進行を契機に、イダルゴやボリーバルによる独立運動へとつながる。 【キーワード】 中央集権化、ブルボン朝諸改革、クリオーリョ、スペイン侵攻、イダルゴ、ボリーバル	安村直己(青山学院大学教授)	安村直己(青山学院大学教授)
8	アメリカ合衆国の形成と変容:独立から南北戦争・再建まで	七年戦争以降のブリテン帝国の統合を拒否して成立した分権的連邦制国家アメリカ合衆国が、西部への領土及び入植の拡大をへて南北戦争を迎え、国家としての集権性を強めるまでを、奴隷制の問題を中心に論じる。 【キーワード】 アメリカ独立革命、奴隷制、綿花、連邦制、白人青年男子、奴隷制廃止運動、南北戦争	橋川健竜(東京大学准教授)	橋川健竜(東京大学准教授)
9	ラテンアメリカ諸国の独立と19世紀の発展	19世紀の独立革命を経て、ラテンアメリカ諸地域はひとつひとつが独立国家となり、それぞれ国家形成に苦闘しつつも、やがて19世紀末の相対的安定期を迎える。その間の動向を政治・経済・社会面から論じる。 【キーワード】 独立(ラテンアメリカ諸国の)、カウディリョ、米墨戦争、輸出経済、ポピュリズム(ラテンアメリカの)	高橋均(東京大学教授)	高橋均(東京大学教授)
10	アメリカ合衆国国民像の変容:1880年代～1920年代	1880年代から1920年代のアメリカ合衆国において、先住民、アフリカ系アメリカ人、南北ヨーロッパ系に加えアジア系も含む移民の存在を受けて、さまざまな線引きをへて「アメリカ市民」の定義が変容する過程を論じる。 【キーワード】 大陸横断鉄道、保留地制度、同化教育、人種隔離制度、移民排斥、海外植民地、市民権	中野由美子(成蹊大学准教授)	中野由美子(成蹊大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	豊かさの軌跡:工業 国化から冷戦まで のアメリカ合衆国	19世紀後半に本格化する工業化ののち、1929年以來の大恐慌を第2次世界大戦への参戦を通じて克服し、世界でも群を抜く豊かな社会となったアメリカ合衆国が、その自己像を携えて冷戦に臨むが、1960年代後半にベトナム戦争で行きづまるまでを論じる。 【キーワード】 自動車、大恐慌、総力戦、冷戦、大衆消費社会、リベラリズム、軍産複合体、大きな政府、ベトナム戦争	橋川健竜(東京大学准教授)	橋川健竜(東京大学准教授)
12	1960年代以降のアメリカ合衆国:多文化社会の挑戦	1950年代に本格化する公民権運動を契機として、少数派集団の尊厳を承認する気風がアメリカ合衆国社会に浸透する過程、またそれへの反発を、先住民・アジア系移民なども含めて20世紀末まで論じる。 【キーワード】 公民権運動、ブラックパワー、レッドパワー、条約上の権利、移民法改正、アフーマティヴ・アクション(積極的差別是正措置)	中野由美子(成蹊大学准教授)	中野由美子(成蹊大学准教授)
13	保守の時代:1970年代以降のアメリカ合衆国	オイルショックや日本などの追い上げの中、IT技術などで世界をリードしつつも経済的地位が下がりつつあるアメリカ合衆国が、国内で政治的に保守性を強め、それが社会経済面にも浸透する過程を、9.11後の対テロ戦争まで論じる。 【キーワード】 デタント、保守化、レーガン、小さな政府、冷戦終結、9.11テロ	橋川健竜(東京大学准教授)	橋川健竜(東京大学准教授)
14	米州関係と今日のラテンアメリカ	20世紀を迎え、いまや超大国となったアメリカ合衆国の強大な影響をそれぞれに受け止めつつ、ラテンアメリカ諸国は試行錯誤を経つつも政治社会を成熟させていく。その経緯を跡づけ、かつ21世紀中葉への展望を示す。 【キーワード】 米州関係、モンロー主義、キューバ革命、債務危機、民主化(ラテンアメリカの)	高橋均(東京大学教授)	高橋均(東京大学教授)
15	動きゆくアメリカ	講義の最後にあたり、主任講師が共同討議というかたちで、人間の移動や人種・エスニシティという観点から、これからの南北アメリカを考えていくためのいくつかの鍵を示していきたい。日本とラテンアメリカとのあいだの人間集団の移動の様態、アメリカ合衆国の政治・経済を大きく左右しつつあるヒスパニック系移民の実態とその存在意義、そして先住民集団が現代社会において置かれている状況などを論じつつ、動きゆくアメリカ世界をとらえてみたい。 【キーワード】 移民、多文化主義、ヒスパニック、グローバル化、インディヘニスモ、先住民運動	網野徹哉(東京大学教授)、橋川健竜(東京大学准教授)	網野徹哉(東京大学教授)、橋川健竜(東京大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1574400	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本文学の読み方 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：島内裕子（放送大学教授）〕

講義概要

この講義は、次の2点に重点を置いて構成している。すなわち、ほぼ年代順に作品を配列することによって、コンパクトな日本文学史としての側面を持つこと。と同時に、原文や歌句の選択に意を用いて、名文選・名歌選・名句選としてのアンソロジー的な側面を持つことの2点である。さらに、以上の2点に加え、個々の作品をいかに読み解き、研究するか、その方法論や研究史にも触れて、日本文学を総合的に、かつ深く読み込むことを目指す内容になっている。

授業の目標

第1に、比較的長い分量で抄出した文学作品の原文を通して、その文体・表記・表現を十分に会得することを目標とする。第2に、古代から現代にいたる日本文学の消長と潮流を、巨視的に把握することを目指す。第3に、外国文学も含めた他の作品との影響関係や、思想・絵画・音楽なども視野に入れて、作品の読み方や研究法を提示し、卒業研究に向けての準備学習も兼ねる。

履修上の留意点

国語・国文学関係の他の科目を受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、ぜひとも勧めたい。さらに、外国文学・哲学・思想・美学・歴史など、どの分野も日本文学と直接・間接に関わるので、これらの科目も広く学ぶことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	『古事記』『万葉集』と現代	『古事記』と『万葉集』を中心に、文学の始発としての上代作品を取り上げる。『古事記』の名場面や万葉名歌選を通して、原初の文学表現に触れるとともに、それらが近現代にも繋がっていることを再認識し、本科目の序章としての役割も担う。 【キーワード】 『古事記』、『万葉集』、本居宣長、正岡子規	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
2	『古今和歌集』の影響	最初の敕撰和歌集である『古今和歌集』が、日本の文学・文化に与えた影響力を概説するとともに、『古今和歌集』の名歌を鑑賞する。さらに、和歌の表現や技法、歌の贈答と独詠など、和歌文学の全体像を視野に納め、『百人一首』や中世和歌にも触れる内容である。 【キーワード】 『古今和歌集』、『新古今和歌集』、和歌の技法、詩歌アンソロジー	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
3	『枕草子』の優雅と辛辣	名文・名場面の宝庫である『枕草子』。その中から、「優雅と辛辣」という観点で、選りすぐりの原文を読む。さらに、『枕草子』の作品としての画期性や影響力にも触れ、随筆文学の内実を検討し直す。 【キーワード】 『枕草子』、清少納言、あはれ、をかし、随筆文学	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	『源氏物語』と日本文化	今や『源氏物語』は、日本文学の傑作にとどまらず、翻訳研究も盛んな世界文学である。国内外での評価、日本文化における位置づけなど、巨視的にその全体像を把握し、ぜひ原文で読んでみたい名場面を収める。本科目の眼目となる章の一つである。 【キーワード】 『源氏物語』、紫式部、物語文学、翻訳	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
5	『和泉式部日記』と『更級日記』の近代性	平安時代の日記文学を、堀辰雄・室生犀星など近代文学との響映の観点から読む読み方を概説する。歌日記としての『和泉式部日記』では恋歌を、『更級日記』では人生の各時代の感慨に焦点を当てて、原文を講読する。 【キーワード】 『和泉式部日記』、『更級日記』、堀辰雄、室生犀星、古典と近代	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
6	『方丈記』を読み直す	『方丈記』とは、本当に無常観の文学なのだろうか。近代の文学者たちによる『方丈記』の読み方を通して、近現代にまで強く息づく『方丈記』の本質を見きわめる。「行く川の流れば絶えずして」以下、『方丈記』の名調子を堪能しつつ、鴨長明の内奥を追体験する。 【キーワード】 『方丈記』、鴨長明、夏目漱石、評論文学	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
7	『徒然草』の表現力	現代まで広く読み継がれ、高い人気を誇る『徒然草』の魅力とは何か。『徒然草』こそは、和歌・俳句に匹敵する、「瞬間記憶型名短文」の宝庫である。多様なスタイルの原文を豊富に収め、『徒然草』の本質が、抒情性に裏打ちされた思想性にあるという読み方を提示する。 【キーワード】 『徒然草』、兼好、韻文と散文、思想と抒情	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
8	『平家物語』の人間観	『平家物語』の名場面を取り上げながら、その表現と構造のダイナミズムに触れる。無常観や人間観、戦さと鎮魂の文学は、『平家物語』の前後の時代で、どのように展開してゆくの か、近代にいたるまでの長い射程で考える。 【キーワード】 『平家物語』、軍記物、『太平記』、戦記文学	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
9	謡曲というスタイル	先行文学との関わりに力点を置きながら、謡曲の原文に特有な重層的表現や、深い心情の発露を味読する。和歌・『伊勢物語』、『源氏物語』、『平家物語』などが謡曲の中でどのように変容したか、さらには近代文学者や外国における謡曲の受容にも射程に入れる。 【キーワード】 謡曲、世阿弥、『風姿花伝』、幽玄、三島由紀夫	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
10	連歌と連歌師の世界	中世の時代に隆盛を極めた連歌の世界を概観する。古典文化の伝播者としての宗祇やその弟子たちの活動や、各地の武士たちと文学の関わりに注目する。さらに、中世から近世への時代の転換を俯瞰し、この時代に古典学が集大成されたことの意義を考察する。 【キーワード】 連歌、宗祇、武士と文学、注釈書、古典学	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	松尾芭蕉の旅と人生	現代人にとって、芭蕉の人間性と文学性は、単なる古典の世界を越えて、今を生きる指針とさえなっている。その魅力と親しみは、どこから来るのか。芭蕉における発句・俳文・紀行文など、ジャンルの多様性、外国における受容なども絡めて、幅広く考察する。 【キーワード】 松尾芭蕉、『おくのほそ道』、旅と草庵、俳文	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
12	近松と西鶴に見る文学の変容	近松門左衛門と井原西鶴は、元禄時代のみならず、近代日本文学への影響も無視できない文学者である。彼らの文学世界に表れた、大きな変容に焦点を当て、人間を見る目の確かさや、現代にも通ずる文学観などを概観しながら、近松と西鶴の名文・名場面を取り上げる。 【キーワード】 近松門左衛門、井原西鶴、写実、武士と町人	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
13	本居宣長の文学と学問	『古事記伝』や「もののあはれ」論によって名高い国学者・本居宣長を中心に提起し、文学研究とは何であるかを考える。宣長が提起した『源氏物語』の読み方の画期性や、彼の和歌論を原文で読むことは、新鮮な感動と驚きを体感させてくれることだろう。 【キーワード】 本居宣長、『古事記伝』、『玉の小櫛』、『もののあはれ』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
14	和漢洋の体現者・森鷗外	森鷗外は、和漢の教養と、留学体験によって世界に開かれた学識を兼備した文学者である。日本と西洋の文学・芸術のせめぎ合いから生まれた近代文学の始発を、鷗外の翻訳と創作の双方を視野に入れつつ、原文の味読によって捉え直す。 【キーワード】 森鷗外、ドイツ三部作、『即興詩人』、史伝	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
15	夏目漱石と近代文学のゆくえ	夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは、何であったのか。彼の文学的関歴や交友、人生など、さまざまな側面からのアプローチを通して考える。現代でも多くの人々の心をとらえてやまぬ漱石文学の淵源とゆくえを見きわめ、本科目の総まとめを兼ねる。 【キーワード】 夏目漱石、『硝子戸の中』、書簡、英国体験、『草枕』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554751	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 和歌文学の世界 （'14）＝ （TV）

英文名＝ [The World of Waka Poetry ('14)]

〔主任講師（現職名）： 島内裕子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 渡部泰明（東京大学大学院教授）〕

講義概要

日本文学の根幹とも言える和歌について、総合的に学び、理解を深めることを目指す。それと共に、和歌文学を学ぶことによって、長い伝統を持つ日本文学を貫いて存在する本質を洞察する。古代から現代まで、1300年以上にわたる長い和歌の歴史の中で、和歌の表現や和歌に託された人々の心はどのように変遷し、どのように深まってきたのか。著名な歌人、名歌や秀歌、勅撰和歌集、歌物語、歌論など、さまざまな角度から、わかりやすく、かつ具体的に講義する。現代社会を生きるうえで、ぜひとも身につけておきたい日本文学の教養基盤を、和歌を通して提示する。

授業の目標

第一に、歌人や歌集、歌物語や歌論など、広く和歌に関わる文学の全体像を、「和歌文学の世界」としてトータルに把握する。第二に、和歌の表現技法や歌ことば、和歌の鑑賞の仕方を具体的に学び、和歌文学に対する理解を深める。第三に、和歌文学の背景にある歴史や風土、思想・美術などと関連づけることで、和歌を通して日本文化の根底に触れる。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目をあわせて受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、それらの履修をぜひとも勧めたい。特に、「日本文学概論('12)」や「日本の物語文学('13)」などである。「日本文学概論」は、和歌と散文の双方を視野に収めて、日本文学の全体像を提示している。「日本の物語文学」は、散文の領域を詳しく取り上げている。この「和歌文学の世界」は、和歌の領域を詳しく取り上げるので、前記二科目と合わせれば、トータルに日本文学を学ぶことができる。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接的あるいは間接的に関わるので、これらの科目を広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	歌枕の世界	歌枕は、歌に詠まれる地名のことである。和歌の世界の広がり、歌枕の発達と密接に結びついている。代表的な歌枕「吉野」を通して、歌枕の展開について考察する。 【キーワード】 歌枕、地名、吉野、『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』、南朝和歌	渡部泰明（東京大学大学院教授）	渡部泰明（東京大学大学院教授）
2	霞と時雨の風景	和歌に詠まれる自然の風景は、どのような心情と結びついているのか。春の霞と初冬の時雨を取り上げて、それぞれの素材が担っている意味や機能について、和歌史の展開に即して考察する。 【キーワード】 霞、春、時雨、冬、風狂	渡部泰明（東京大学大学院教授）	渡部泰明（東京大学大学院教授）
3	和泉式部の抒情	平安時代を代表する女流歌人和泉式部の家集、『和泉式部集』の和歌を読解する。特に、独特な方法の見られる彼女の贈答歌を中心に考察する。 【キーワード】 和泉式部、『和泉式部集』、恋歌、贈答歌、哀傷歌	渡部泰明（東京大学大学院教授）	渡部泰明（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	『伊勢物語』の和歌	『伊勢物語』には、在原業平の詠んだ和歌が、多数織り込まれている。それらの絶唱が詠まれた場所に注目すると、日本全国の山・川・野・海などの歌枕が浮かび上がってくる。その中から、いくつかを取り上げ、それらの空間に込められた業平の思いを理解する。あわせて、『伊勢物語』の歌が後の時代にどのように本歌取りされて、普遍性を獲得していったかというプロセスをたどる。 【キーワード】 『伊勢物語』、春日野、宇津の山、小塩山、隅田川、本歌取り	島内景二(電気通信大学 教授)	島内景二(電気通信大学 教授)
5	『源氏物語』の和歌	日本文学の最高峰と目される『源氏物語』には、795首もの和歌が含まれている。それらの和歌の魅力を、近代・現代の歌人の作品や、江戸時代の日常生活などから探る。あわせて、これらの和歌を詠んだ紫式部の思想性に富んだ個性が、どのような『源氏物語』の達成につながったのかを明らかにする。 【キーワード】 『源氏物語』、源氏取り、日常生活への浸透、紫式部、思想性、生きる意味	島内景二(電気通信大学 教授)	島内景二(電気通信大学 教授)
6	西行の恋歌	西行は、かなりの恋の歌を詠んでいる。遁世者である西行が、なぜ多くの恋歌を残しているのか、その意義について、『山家集』の作品を読みながら考える。 【キーワード】 西行、恋歌、遁世者、『山家集』	渡部泰明(東京大学大学院 教授)	渡部泰明(東京大学大学院 教授)
7	藤原定家の方法	藤原定家は、本歌取りをはじめとした、古典作品の表現を取り入れる方法によって、『新古今和歌集』の中心的存在となった。その方法とはどのようなものか、考察する。 【キーワード】 藤原定家、『新古今和歌集』、本歌取り、漢詩文、『源氏物語』	渡部泰明(東京大学大学院 教授)	渡部泰明(東京大学大学院 教授)
8	叙景歌の系譜	心情を直接に表さず、風景表現だけから成り立っている和歌を、叙景歌という。叙景歌を詠んだ歌人の系譜をたどりながら、その意義について考察する。 【キーワード】 叙景歌、山部赤人、源経信、宗尊親王、京極派	渡部泰明(東京大学大学院 教授)	渡部泰明(東京大学大学院 教授)
9	九相図の和歌	中世には、九相図という絵画・漢詩・和歌が一体となった作品が生まれた。その作品の和歌に注目しながら、さまざまな形で利用される中世の和歌の生命力について考える。 【キーワード】 九相図、中世和歌、無常観、人称性	渡部泰明(東京大学大学院 教授)	渡部泰明(東京大学大学院 教授)
10	和歌・連歌・俳諧	勅撰和歌集が途絶えて以後、韻文の世界にはどのような変化が生じたか。和歌から連歌へと展開し、さまざまな韻文のジャンルが並存する文学状況を概観しながら、中世から近世へと及ぶ和歌文学の水脈と命脈を見届ける。 【キーワード】 勅撰和歌集、連歌、俳諧、『集外三十六歌仙』、古今伝授、芭蕉	島内裕子(放送大学 教授)	島内裕子(放送大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	武家文化と和歌	近世において、大名たちが担った和歌文学の諸相を、文学作品だけでなく、大名庭園などの造形芸術の分野にも注目しながら考察する。あわせて、近世の文化人のネットワークの形成に、大名たちが果たした役割も考える。 【キーワード】 武家文化、柳沢吉保、大名庭園、小石川後楽園、松平定信、酒井抱一	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
12	橘守部と歌論	平戸藩の江戸藩邸の大名庭園である蓬萊園に関する『蓬萊園記』を著した、近世後期の国学者で歌人の橘守部に注目し、近世から近代への変革期に、和歌がどのように人々に浸透していったかを考察する。 【キーワード】 橘守部、松浦静山、松浦熙、『蓬萊園記』、『心の種』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
13	樋口一葉の和歌	近世から近代への転換期において、和歌はどのように機能して、新しい文学者を生み出したのか。近代文学を切り開いた樋口一葉の日記から小説におよぶ文学世界を、和歌という観点から考えてみたい。 【キーワード】 樋口一葉、萩の舎、一葉の日記、一葉の小説、『一葉歌集』	島内裕子(放送大学教授)	島内裕子(放送大学教授)
14	近代短歌の世界	旧派和歌から近代短歌への大きな変化を生み出したのは、何か。さまざまな結社が誕生した近代短歌の中から、その主流となった『アララギ』に注目して、その文学精神の本質を考える。正岡子規・伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉などの作品を読み解き、『アララギ』の文学運動が近代詩歌をどのように変革したのか、明らかにする。 【キーワード】 猿渡容盛、近代短歌、『アララギ』、正岡子規・伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉	島内景二(電気通信大学教授)	島内景二(電気通信大学教授)
15	現代短歌の挑戦	歌壇のみならず、詩壇・文壇などにも衝撃を与え、戦後日本社会に強烈なアンチテーゼを突きつけたのが、「前衛短歌」である。その代表者である塚本邦雄に焦点を当て、現代短歌の可能性について考察する。あわせて、原子爆弾投下という世界の不条理と、短歌の創作によって対峙した竹山広の「長崎短歌」をも考える。 【キーワード】 現代短歌、前衛短歌、塚本邦雄、長崎短歌、竹山広	島内景二(電気通信大学教授)	島内景二(電気通信大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554689	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 日本のお話文学 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：島内裕子（放送大学教授）〕

講義概要

『竹取物語』を最初の物語文学として、その後、『伊勢物語』が生まれ、さらには「日本文学の至宝」とまで呼ばれている『源氏物語』が出現した。この『源氏物語』を大きな源流として、後世、数々の物語文学が書き継がれ、豊かな日本文学の潮流を形成した。そのことを、15回の講義を通して、詳しく、わかりやすく解き明かす。日本の物語文学の全体像を学び、『源氏物語』などの個々の物語の魅力に触れることを、大きな眼目とする。また、『源氏物語』という偉大な達成の後に、どのような新展開が可能であり、どのようにして現代文学につながったのかを、江戸時代以降の物語状況によって見届けることも、大きな特徴である。

授業の目標

第一に、『源氏物語』をはじめとする豊富な物語作品に触れることによって、物語文学の全体像と、日本文学の精髓を学ぶ。第二に、それぞれの物語の内容と原文を、具体的に学ぶ。第三に、物語文学を通して、広く日本文化の本質を実感し、科目群履修認証制度の「日本の文化と社会」の基盤を構成する科目とする。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目を、あわせて受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、それらの履修をぜひとも勧めたい。特に、「日本文学概論」や「和歌文学の世界」などである。「日本文学概論」は、和歌と散文の双方を視野に収め、「和歌文学の世界」は韻文の領域を詳しくとらえている。この「日本のお話文学」は、散文領域の中から物語文学を詳しく扱うので、前記2科目とあわせれば、トータルに日本文学を学ぶことができる。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接的あるいは間接的に関わるので、これらの科目を広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	物語文学へのいざない	「物語」とは何であり、何でないのか。そして、これから何でありうるのか。物語に影響を及ぼした古代神話や歴史記録などとの比較を通して、「物語」の輪郭を浮き彫りにする。 【キーワード】 物語、作り物語、語り、草子地、神話、歴史	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
2	始まりとしての『竹取物語』	「物語の親」とされる『竹取物語』は、超越的主人公に人間の最高の「価値＝宝物」が何であるかを探究させ、愛こそすべてという結論に達した。これが、以後の物語文学の主題と「ストーリー＝話型」に大きな影響を与えた。そのような文化的・文学史的な観点に立って、『竹取物語』の世界を読み解く。 【キーワード】 『竹取物語』、話型、宝物、如意宝、真実の愛	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
3	愛の文学 ――『伊勢物語』を読む(1)――	『伊勢物語』は、『竹取物語』のたどり着いた「愛こそすべて」という主題を検証すべく、「男と女のさまざまな愛のパターン」を描き尽くした。そのために、在原業平という「色好み」の主人公が要請された。この回では、「愛のカatalog」としての『伊勢物語』の意義を明らかにする。 【キーワード】 『伊勢物語』、在原業平、さまざまな恋愛、色好み、筒井筒、狩の使	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	人生という旅 ー『伊勢物語』を読む(2)ー	『伊勢物語』は、短編の集合体というスタイルであるが、「昔男＝在原業平」の一代記でもある。ここに造型された「人間の生き方」は、「東下り」をはじめとする各地への「旅」として描かれることになった。いわゆる「貴種流離譚」の意味するものを、『伊勢物語』から読み解く。 【キーワード】 『伊勢物語』、在原業平、貴種流離譚、旅、死	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
5	『源氏物語』への道 ー前期物語の試みー	日本文学の最高峰とされる『源氏物語』が書かれるためには、さまざまな試行錯誤が必要だった。この回は、「源氏物語前史」という観点から、『うつほ物語』『大和物語』『落窪物語』『住吉物語』などの物語群を考察する。 【キーワード】 『うつほ物語』、『大和物語』、『落窪物語』、『住吉物語』	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
6	真実の自己を求めて ー『源氏物語』第一部を読むー	『源氏物語』は、光源氏という貴種がさまざまな愛と遠くへの旅を体験することで、人生の真実をつかみ取ろうとした「心の旅路」だと考えられる。この回は、光源氏が「自分が自分ではない苦しみ」を通して、「自分が自分である喜び」を謳歌するに至るプロセスをたどる。 【キーワード】 『源氏物語』第一部、愛、旅、家、自己実現	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
7	遠ざかる自己実現 ー『源氏物語』第二部を読むー	光源氏の40歳以後は、一転して「自分が自分ではない、もどかしさ」を描き始める。青年期・壮年期とは異なる「老年期の人生」の価値とは何か。光源氏が自分という存在を超えようとして出家するまでの「心の旅路」を凝視した第二部の世界をたどる。 【キーワード】 『源氏物語』第二部、老年期、出家、幸福とは何か	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
8	『源氏物語』を超える ー『源氏物語』第三部を読むー	「宇治十帖」と呼ばれる『源氏物語』第三部は、『源氏物語』を超える『源氏物語』である。作者の紫式部は、なぜ光源氏の登場しない物語を書き継いだのか。「物語作者」の執念を感じさせる第三部を概観しながら、作者と読者の「心の通路」について考察する。 【キーワード】 『源氏物語』第三部、宇治十帖、紫式部、作者、作中人物、読者	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
9	『源氏物語』の重力 ー後期物語の苦闘ー	『源氏物語』以後の物語は、『源氏物語』の重力に強く縛られることになった。読者は『源氏物語』の「再現＝模倣」を期待し、作者は『源氏物語』の重力からの解放を願う。その種々相を、『狭衣物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『堤中納言物語』などの後期物語から観察する。 【キーワード】 『狭衣物語』、『夜の寝覚』、『浜松中納言物語』、『堤中納言物語』	島内景二 (電気通信大学教授)	島内景二 (電気通信大学教授)
10	鎌倉時代の擬古物語 ー『松浦宮物語』を読む	「擬古物語」と総称される、鎌倉時代に書かれた物語文学を概観し、平安時代の物語との相違点や新たな達成を明らかにすると共に、擬古物語の中から『松浦宮物語』を取り上げて、内容や表現の工夫などを詳しく考察する。 【キーワード】 擬古物語、『無名草子』、『風葉和歌集』、『松浦宮物語』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	室町時代の御伽草子	室町時代の後期から江戸時代の初期にかけて、御伽草子という「物語」が短編として誕生した。現世的な視点からの人間社会への接近が、大胆に試みられた。『鉢かづき』や『さいき』、『長生の帝物語』などの御伽草子を取り上げて、物語が新しい時代に適応して変化したようすを見届ける。 【キーワード】 御伽草子、長編と短編、『鉢かづき』、『さいき』、『長生の帝物語』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)
12	仮名草子	近世は、印刷技術の進歩と読者層の拡大に伴い、さまざまな物語のジャンルが生まれた。近世初期の仮名草子から代表的な作品を取り上げて読み、中世の物語文学に連続する側面と、新たに萌芽した近世文学としての側面について理解する。 【キーワード】 出版文化、雅と俗、古典の受容、翻案	佐藤至子 (日本大学准教授)	佐藤至子 (日本大学准教授)
13	浮世草子・前期読本	井原西鶴の『好色一代男』に始まる浮世草子は、現実を見つめ、人間の本質を描いた文学である。前期読本は、漢学・国学を基盤とする知識人が生みだした文学である。代表的な作品に即して、それぞれの特色をとらえつつ、王朝文学がこれらのジャンルにおいてどのように受容されているかを理解する。 【キーワード】 浮世、知識人、主題、文体	佐藤至子 (日本大学准教授)	佐藤至子 (日本大学准教授)
14	後期読本・合巻・人情本	近世後期には江戸の地でさまざまな文学ジャンルが花開く。読本は内容・文体ともに変化して幅広い読者層を獲得した。挿絵を主体とする合巻、恋愛小説である人情本も人気を集めた。それぞれの主題と素材について理解するとともに、幕府による出版統制の影響について考える。 【キーワード】 商業出版、大衆化、勧善懲悪、天保の改革	佐藤至子 (日本大学准教授)	佐藤至子 (日本大学准教授)
15	物語文学のゆくえ	『竹取物語』以来、過去の読者たちが「物語」に対して求め続けたものは、何だったのか。そして物語は、読者の熱い要望に応えることができたのか。近代文学の夜明けを告げた樋口一葉の作品を読みながら、物語と小説との関係を捉え直す。 【キーワード】 近代文学、樋口一葉、『恋百首』、『花ごもり』、『源氏物語』、『伊勢物語』	島内裕子 (放送大学教授)	島内裕子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554760	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ヨーロッパ文学の読み方―古典篇（'14）＝（R）

英文名＝ [Reading European Literature: From Antiquity to the Renaissance ('14)]

〔主任講師（現職名）：宮下志朗（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：井口篤（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

ヨーロッパの古典作品を対象として、その作品の本質に迫る一節を(いくつか)取り上げて、具体的に解説・評釈をほどこす試み。今回は「古典編」と題して、ギリシア・ローマからルネサンスまでのテキストを選んでいる。なお、広義の「文学」作品を対象としており、哲学・歴史学などの架橋もめざしている。

授業の目標

単なる概説ではなく、テキストの一節の濃密な読みから出発して、その作品の全体像に、あるいはその作品を生んだ時代の様相に迫ることで、学習者に対して、この作品を読んでみたいという強烈な動機付けを与え、古典と主体的に接してもらうこと。

履修上の留意点

英語の作品に関しては、原文の引用がなされることもあろうが、それ以外の言語による作品については、基本的には、もっぱら日本語訳を介しての解説・評釈となる。関連科目としては、「世界の名作を読む('11)」などがある。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	ギリシア・ローマ(1) ホメロス『イリアス』	「怒りを歌え、ムーサよ」という呼びかけで始まる『イリアス』は戦いの文学ととらえられることが多いが、名誉・祖国・友情等のための戦いと殺戮の果てには大いなる赦し合いが輝いている。至高の叙事詩をとおしてギリシア人の人間理解を考える。 【キーワード】 長編物語の方法、リング・コンポジション、遅延の技法	中務哲郎(京都大学名誉教授)	中務哲郎(京都大学名誉教授)
2	ギリシア・ローマ(2) ヘロドトス『歴史』	小国ギリシアはなぜ大帝国ペルシアに勝てたのか。ヘロドトスはペルシア戦争の記述を軸に、全世界の地理・歴史・風俗・伝承を語りつつ、自然界人間界を覆う神の叡智を明らかにしていく。トゥキュディデスの個別史の対極にあるヘロドトスの魅力を味わう。 【キーワード】 物語的な歴史、神の嫉妬、運命の車輪	中務哲郎(京都大学名誉教授)	中務哲郎(京都大学名誉教授)
3	ギリシア・ローマ(3)ソ ポクレス『アンティゴ ネ』	「逆賊を葬ってはならぬ」という国の掟を犯して兄を埋葬したため、アンティゴネは生きながら穴蔵に閉じ込められる。この劇に「自然法と国の掟の対立」を見たヘーゲルはじめ、様々な解釈を誘う問題劇を鑑賞する。 【キーワード】 国家の法と自然の法、オイディプス伝説、破滅する人間	中務哲郎(京都大学名誉教授)	中務哲郎(京都大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ギリシア・ローマ(4) ギリシアの小説	叙事詩・抒情詩・演劇・散文(哲学・歴史・弁論)と次々に新ジャンルを開拓してきたギリシア文学は、最後に古代小説を生み出した。その起源を考察した後、現存する五作品の中、牧歌小説『ダフニスとクロエ』と最高傑作『エチオピア物語』を中心に味わう。 【キーワード】 若者の恋愛の発見、牧歌小説の祖、in medias res	中務哲郎(京都大学名誉教授)	中務哲郎(京都大学名誉教授)
5	ギリシア・ローマ(5) ウェルギリウス『アエネイス』	『アエネイス』は、『イリアス』や『オデュッセイア』を徹底的に研究し、模倣した叙事詩ですが、そのすぐれた独自性は歴史と神話を融合した点にあります。本作品のなかで、ローマの歴史がどのように扱われているかについて注目します。 【キーワード】 ローマ、叙事詩、歴史と神話の融合、予言	日向太郎(東京大学准教授)	日向太郎(東京大学准教授)
6	ギリシア・ローマ(6) オウィディウス『変身物語』	『変身物語』は神話の宝庫であり、ヨーロッパの諸芸術の形成に深くかかわってきました。今も多くの読者を惹き付けてやまない理由は、変身という主題の面白さもさることながら、巧みな物語叙述にあります。作品中、変身場面がどのように扱われているかについて注目します。 【キーワード】 叙事詩、神話、叙述の技法	日向太郎(東京大学准教授)	日向太郎(東京大学准教授)
7	中世・ルネサンス(1) 『トリスタンとイゾー』	ケルトの伝説に起源を有するという、マルク王の妻イゾーと、マルク王の甥トリスタンの、媚薬ゆえの愛は、ヨーロッパ中に伝承されていった。「騙し」に着目して、ベルール『トリスタン』を読むが、各国版の差異にも注目しつつ、この物語の本質に迫ってみたい。 【キーワード】 トリスタン伝説、ケルト、アーサー王伝説、曖昧な宣誓	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
8	中世・ルネサンス(2) ダンテ『神曲』	どうしてダンテは『神曲』を書いたのか。そして、どうして読み継がれたのか。この作品の魅力の広がりや、恋愛論と知性論としての読み方の可能性を、21世紀の読者の視点から考えてみたい。具体的には、地獄編冒頭、フランチェスカ、ウリッセの物語とベアトリーチェ像をとりあげたい。 【キーワード】 恋愛、知性、幸福、中世の宇宙観、彼岸	村松真理子(東京大学准教授)	村松真理子(東京大学准教授)
9	中世・ルネサンス(3) ボッカッチョ『デカメロン』	ダンテから下ることわずか一世代で書かれた『デカメロン』だが、共同体の危機の時代にこそ、女性読者のための娯楽文学という設定が生まれ、豊かな文体と多様な人間的価値観が可能もしくは必要となったことの意味を、今日の状況から読み直してみたい。具体的には特に、第一日序と、女性主人公の物語をいくつか紹介したい。 【キーワード】 危機、笑い、物語の力	村松真理子(東京大学准教授)	村松真理子(東京大学准教授)
10	中世・ルネサンス(4) ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』	14世紀後半のイングランドにおいて多様なジャンルの詩作品を生み出したジェフリー・チョーサーの作品群には、同時代の社会状況やヨーロッパ文学・思想の先達たちの刻印が消しがたく押されている。この講義ではチョーサーの代表作『カンタベリー物語』を大きな歴史的コンテクストの中で創造的な翻訳をする作家として位置づけつつ読む。 【キーワード】 ジェフリー・チョーサー、『カンタベリー物語』、古典古代、翻訳	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	中世・ルネサンス(5) 『マージェリー・ケンプ の書』	15世紀のイングランドに生きた敬虔な女性マージェリー・ケンプの自伝『マージェリー・ケンプの書』を読むことで、中世後期ヨーロッパの神秘主義について知識を深めるとともに、敬虔な一般信徒の女性が自らの信仰を实践する際にどのような困難が付きまとったのかについて考察する。 【キーワード】 号泣、神秘主義、ロラード、トマス・アランデル	井口篤(放送 大学准教授)	井口篤(放送 大学准教授)
12	中世・ルネサンス(6) フランソワ・ヴィヨン	パリ大学出のインテリでありながら、さまざまな事件・犯罪にかかわり、たびたび入獄するも、その都度釈放を勝ち取った男。しかも、その間、『形見分け』『遺言』『隠語詩篇』など、わすれがたい作品を残してくれた男。ヴィヨンの謎と魅力にせまる。 【キーワード】 詩人・犯罪者、二重言語、恩赦嘆願、バラッド	宮下志朗(放 送大学教授)	宮下志朗(放 送大学教授)
13	中世・ルネサンス(7) 『ティル・オイレンシュ ピーゲル』	各地に出没しては、ことばの表層をとらえていたずらをしてかし、放逐されて、どこかに去っていくティル・オイレンシュピーゲル。このトリックスターの物語の成立の謎を探ると同時に、フラマン語・フランス語・英語という、もう一つの系統についても紹介する。 【キーワード】 トリックスター、ことばの表層ゲーム、スカトロロジー	宮下志朗(放 送大学教授)	宮下志朗(放 送大学教授)
14	中世・ルネサンス(8) ラブレール『ガルガン チュアとパンタグリュ エル』	巨人王と家来たちを主人公とした、言語遊戯や目録などの一見すると雑ばくな要素に満ちた、この物語のおもしろさを伝えるとともに、その背後にいかなる思想やアクチュアリティが込められているのかについて、『第一の書 ガルガンチュア』を読みながら考えたい。 【キーワード】 ユマニスト作家、巨人親子の物語、香具師の口上	宮下志朗(放 送大学教授)	宮下志朗(放 送大学教授)
15	古典を読む喜び	担当講師はいずれも、よの古典作品を対象にして研究・翻訳を实践している。各人の経験に基づいて、古典を読むことの喜びや、苦しさについてざっくばらんに語りあう。なお、「印刷教材」には、古典を読むことについての、各人のエッセイを掲載する。 【キーワード】 古くて新しい「古典」、原点と翻訳	担当講師全 員	担当講師全 員

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554778	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 文化人類学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Cultural Anthropology ('14)]

〔主任講師（現職名）：内堀基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：奥野克巳（桜美林大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1回(章)ごとにテーマに沿って概略的な学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。

授業の目標

全15回の講義をととして、文化人類学の諸概念と用語が理解できるようにする。それをととして文化人類学に特有の調査法を学ぶ。それとともに、世界の諸地域に暮らす人々の生活の多様性を知り、地球大的な諸問題と地域的な諸問題の関わりを人類的視野で見る素養を養うことを目標とする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	文化人類学のめざすもの	文化人類学という学問に特有の現実を見る眼はどういうものか、文化人類学が今日の世界のなかで実践的に果たしうる役割にはどのようなものがあるかという問題から出発し、この学問の対象としてきた人類の文化と社会の研究法を見てゆく。 【キーワード】 文化、社会、フィールドワーク、民族誌、公共性	内堀基光(放送大学・教授)	内堀基光(放送大学・教授)
2	人類の社会性と文化	人間は社会的動物であるという言い回しがある。だが動物行動学の研究によって、人間以外の動物にも、人間と同じように社会性が認められることが、明らかにされてきている。人間の社会性は、他の動物のそれとどのように異なるのだろうか。さらには、文化は、はたして、人間だけのものだろうか。人間以外の動物にも文化はあるのだろうか。本章では、人類の社会性と文化について学習する。 【キーワード】 家族、集団、文化、言語、霊長類	奥野克巳(桜美林大学・教授)	奥野克巳(桜美林大学・教授)
3	多様な「人間」のあり方	子が複数の父親をもつとされる社会がある一方で、父子の間にはつながりがないとされる社会がある。ホモセクシュアルといっても、それが、人生の一時期に儀礼的に行われる社会もあれば、性自認の変更に伴い、あるいは、社会への適応の必要から、それをやめてしまうことができる社会もある。地球上の「人間」のあり方はじつに多様である。本章では、多様な「人間」のあり方の諸事例を紹介した上で、そのことをどう理解すればいいのかについて考える。 【キーワード】 ジェンダー、セクシュアリティ、老い、文化相対主義、存在論	奥野克巳(桜美林大学・教授)	奥野克巳(桜美林大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	文化的他者とは誰か	文化人類学の中心的な考え方である文化相対主義の意義、その歴史的背景と効果、普遍主義的価値観との関係などを概観する。現代の人類学における「他者を見る眼」はどのようにして可能か、「他者」はどのようにして構築されるかを考え、多文化共存・共生の可能性などのトピックを考察していく。 【キーワード】 文化相対主義、普遍主義、人権、ポストコロニアル、民主主義	内堀基光(放送大学・教授)	内堀基光(放送大学・教授)
5	民族というものと現代性	人類の下位集団である「民族」という概念は社会的に構築される概念である。その点では「人種」も同様である。そうした構築概念で把握される人間の下位集団のあり方は、時代とともに変化し、また状況次第で多様な様態をとる。生成・消滅・融合、分離する民族、および人種の位相の変遷を、現代という時代背景のもとにとらえる。 【キーワード】 民族、人種、民族集団、ネーション、エスニシティ	内堀基光(放送大学・教授)	内堀基光(放送大学・教授)
6	超越者と他界	人間の認知能力は、現実領域だけでなく、超現実領域にまで広がっている。それが、人間の環世界の特徴である。人間は、どのように、そのような認知能力を手に入れたのだろうか。そこから出発し、アニミズムとは何か、神とは何かを検討しながら、人間が、目の前の現実と目に見えないその裏側の現実、あるいは、世界のあちら側とこちら側をうまく操作し、また統合することによって、世界を組み立ててきたことを学習する。 【キーワード】 環世界、宗教、アニミズム、神々、超越性	奥野克巳(桜美林大学・教授)	奥野克巳(桜美林大学・教授)
7	文化と身体	デカルト以来の心身二元論のもとで、身体は外界から入る情報を処理し、意味を与える精神の容器としての役割しか与えられてこなかったが、近年それを乗り越える新たな身体論が提出されつつある。この回(章)では、ことば、表象、身ぶりを形成し、私たちの自己や社会の変容を用意する身体について考察する。身体が反復的に他者と関わっていくなかで、文化的な資源となっていく過程をとらえる。 【キーワード】 身体、言葉、表象、記憶、身ぶり	岩谷彩子(広島大学・准教授)	岩谷彩子(広島大学・准教授)
8	遊びと芸術	ホモ・ルーデンス(「遊ぶヒト」としての人間は、遊びのなかで文化を生み出してきた。遊びがもつ特徴のひとつである模倣は、芸芸や学習の根本でもある。日本の能や浮世物真似、インドのカールベリヤに見られる模倣を中心に、「他者になる」真似事が、芸術として人々に与える喜びと、さらなる創造的な次元を生み出す過程について考察する。 【キーワード】 遊び、模倣、眩暈、能、舞踊	岩谷彩子(広島大学・准教授)	岩谷彩子(広島大学・准教授)
9	文化と情報メディア	人と人との挨拶や、家族や隣人、仕事仲間とコミュニケーションなど、日常場面の何気ないことから、文化の問題に深く関わっている。また現代では、声や身ぶりといった身体的能力にくわえ、地球規模で整備されたインターネット網など、さまざまな装置や制度によってコミュニケーションが成りたっている。こうしたコミュニケーション一般に着目し、情報メディアという観点から詳しく考える。 【キーワード】 コミュニケーション、対面的、文字、デジタルメディア、高度メディア社会	飯田卓(国立民族学博物館・准教授)	飯田卓(国立民族学博物館・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	「もの」の人間世界	人類はその歴史のなかで技術を獲得し、さまざまな「もの」を生み出してきた。生み出されたものは人々の生活を支えるとともに、その生活を大きく変えることがある。人間は「もの」にはたらきかける主体であると同時に、はたらきかけられる客体でもある。「もの」は人間の身体と環境のあいだを往来しつつ、その境界を定めたり、社会関係をつくりあげていく。ここではそうした動態に焦点を当て、「もの」から見た世界へのアプローチを示す。 【キーワード】 「もの」、物質文化、環境、身体、エージェンシー	岩谷彩子 (広島大学・准教授)	岩谷彩子 (広島大学・准教授)
11	環境と開発	人類は、自然環境に働きかけて主要な食料を収穫し、環境に依存しつつ生きてきた。自然環境との関わりを意識的に制御しながら村落部の潜在力を高めるといふ開発の試みもある。環境も開発も、人びとが生きて生活世界に深く関わった問題といえる。またグローバル化した現代では、他者からの力も借りながら生活世界を良くしていく動きがある。こうした同時代的な多様な要求について、ローカルな視点を軸に見てゆく。 【キーワード】 生活世界、生態系、援助、同時代性、グローバル化	飯田卓 (国立民族学博物館・准教授) 石井洋子 (聖心女子大学・准教授)	飯田卓 (国立民族学博物館・准教授) 石井洋子 (聖心女子大学・准教授)
12	人と人のやりとり	「豊かな社会」とは何だろうか。商品経済が優先されるあまり、過剰開発による環境破壊が起き、地域の伝統や文化的活動が軽視され、高齢者や障害者が暮らしにくくなる社会を、果たして豊かな社会と言えるのだろうか。ここでは、私たちの経済とはまったく別のやり方でものを手に入れる社会の事例を紹介し、人類社会の多様な経済のあり方と、それに対するグローバル化による影響を見る。 【キーワード】 経済人類学、贈与交換、互酬性、貨幣、ネオリベリズム	石井洋子 (聖心女子大学・准教授)	石井洋子 (聖心女子大学・准教授)
13	争いと平和	社会には様々なルールがあり、それを犯すと「もめごと」が起きる。世界は争いに満ちており、内戦や民族紛争、戦争も絶えない。そうした出来事を捉えるために、文化人類学はどのように貢献できるか。断絶した人びとが、和解という社会的治癒力を発揮して、社会再生に向けて努力する営みについても具体的に見ていく。 【キーワード】 法と秩序、民族紛争、戦争、もめごと、和解	石井洋子 (聖心女子大学・准教授)	石井洋子 (聖心女子大学・准教授)
14	災害と回復	災害は、個人的な生命の危険だけを意味するわけではない。災害には、個人の社会的生活中断から始まり、社会全体の機能不全にいたる社会的問題という側面もある。本章では、日常的ルーチンの阻害、公共サービスの機能の破壊、コミュニティ機能の破壊、ローカルな経験知の損失などの側面を検討し、こうした負の効果を避けるしくみ、あるいは被害を受けても復興するようなくみについて考える。 【キーワード】 公共サービス機能、コミュニティ機能、ローカルな経験知、伝統とモダンティ、レジリエンス	飯田卓 (国立民族学博物館・准教授)	飯田卓 (国立民族学博物館・准教授)
15	人類文化の未来について	最終回(章)では、本講義全体に関わるまとめとして、人類の文化と社会、その持続可能性の射程など、現代の状況を人類史的な長期的視野のもとに収め、人類のありようを鳥瞰的に考察する。21世紀という時代の文化と人類社会の将来を見据えるために、20世紀という時代の特性を回顧する。 【キーワード】 暴力、科学技術、持続可能性、人類の将来、進化	内堀基光(放送大学・教授)	内堀基光(放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554514	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ グローバリゼーションの人類学 （'11）＝（TV）
－争いと和解の諸相－

〔主任講師（現職名）：本多 俊和（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：大村 敬一（大阪大学准教授）〕

講義概要

人類は、昆虫や群生ほ乳類とは異なり、理論的に「単独者」として生きる選択肢があり得る。そのため、人類が「人種」や「民族」、「国家」、「親族」、「家族」などの想像の共同体を生み出して維持する際には、さまざまなストレスが生じる。国家や民族はもとより、さまざまな社会集団の内外で無数に絶え間なく繰り返されるさまざまな種類と規模の「争いと和解」のプロセスに、そうしたストレスが見てとれる。「独りであること」を選択することができる人間がさまざまな争いと和解の過程を経て社会集団を生成する様子を分析する。

授業の目標

本授業では、さまざまな種類と規模の「争いと和解」の過程の具体例を検討することで、人類が生成して維持しているさまざまな社会集団の現状を知り、その未来を考える。現在、世界にはどんな種類と規模の「争いと和解」が見られ、その過程でどのような社会集団が生成され維持されているのか。そして、生成されて維持される人類の社会集団にどのような可能性が秘められているのか。各講師の人類学的な現地調査を踏まえた理論的な考察を中心に、「争いと和解」の諸相について検討することを通して、人類が生成して維持する社会集団の特質を追究する。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	導入:グローバル化による社会の流動化と凝縮	グローバル化が進んだ今日の世界では、近代国民国家の枠組みを超えた社会の流動化がすすむとともに、さまざまな種類と規模でローカルな社会への凝縮も生じていることを紹介し、「争いと和解」の諸相を理解するための理論を概観する。 【キーワード】 グローカル化、国民国家、争い、和解	本多俊和 (放送大学客員教授) 大村敬一 (大阪大学准教授)	本多俊和 大村敬一 湖中真哉 竹沢泰子 中谷文美
2	暴力と社会生成:「争いと和解」の人類史的基盤	人はなぜ争い、和解するのかについて考えながら、「争いと和解」の過程と社会の生成と維持との関係についての理論的な枠組みを提示する。 【キーワード】 暴力、排除の構造、社会生成	大村敬一 (大阪大学准教授)	大村敬一 (大阪大学准教授)
3	グローバリゼーションをめぐる論争	グローバリゼーションとは何だろうか。グローバリゼーションはいつ始まったのだろうか。グローバリゼーションをめぐる論争にはどのようなものがあるのだろうか。こうした課題を考えながら、グローバリゼーションという概念とそれをめぐる様々な議論を検討していく。 【キーワード】 国際化、グローバリズム、肯定論と否定論、急進論と懐疑論、排除	湖中真哉 (静岡県立大学准教授)	湖中真哉 (静岡県立大学准教授)
4	近代と人種の生成	「コーカソイド」、「モンゴロイド」、「ネグロイド」という用語がなぜユダヤ＝キリスト教文化圏中心の世界観を表すのか、植民地支配・国民国家形成と人種をめぐる科学言説はどのように結託していたのかを検証する。 【キーワード】 「人種」、差別、相対主義、進化論	竹沢泰子(京都大学教授)	竹沢泰子(京都大学教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	現代におけるグローバリゼーションと人種	最近の科学的な情報、とくにDNA内のミトコンドリアに関する近年の研究成果によって古典的な「人種」観念が否定されているにもかかわらず、欧米の歴史の中で社会的に構築されてきた古典的な「人種」観念が現在も強い影響力をもっていることを示し、その観念が差別などの社会問題の背景にあることを示す。 【キーワード】 DNA、人種論、差別、構築主義	竹沢泰子(京都大学教授)	竹沢泰子(京都大学教授)
6	民族・国家・植民地: グローバリゼーションの視点から	「民族」と「国民国家」の背後にある問題を解明し、植民地主義を背景に人類学の本質主義による支配と管理を明らかにする。国民国家と民族の関係、民族生成、民族独立運動、多文化主義など、「民族」と「国民国家」の関係がグローバル化と結びついていることを明らかにし、その関係が新たな段階にあることを指摘する。 【キーワード】 国民国家、民族生成、植民地主義、本質主義	本多俊和 (放送大学客員教授)	本多俊和 (放送大学客員教授) ゲスト 謝 黎(東北芸術工科大学講師)
7	民族と権利	先住民、移民など、「民族」と「国民国家」をめぐる問題を現地調査を踏まえて具体的に紹介し、遺跡に対する権利、伝統的な生業活動を行なう権利、知的財産権の問題など、現在問題となっているさまざまな権利の問題を紹介する。 【キーワード】 国民国家、先住民、マイノリティ、移民、民族生成	本多俊和 (放送大学客員教授)	本多俊和 (放送大学客員教授) 大村敬一 (大阪大学准教授)
8	家族をめぐる「自然」と「文化」	養子縁組があたりまえの社会、家族を一言では言い表せない社会など、さまざまな社会の事例を通して、家族のあり方の多様性を提示するとともに、現代日本において当然と考えられている家族の姿も特定の歴史的背景を持つものであることを明らかにする。 【キーワード】 家族、血のつながり、養子縁組、性別役割分業	中谷文美(岡山大学教授)	中谷文美(岡山大学教授)
9	グローバリゼーションの中の国家と家族	「家族」とジェンダーの諸相の背後にある問題を検討し、「自然」な所与であると思われる核家族やジェンダーも、「自然」と「文化」を折り合わせる中で生成される現象であることを明らかにし、親族や婚姻などの社会人類学的問題を検討する。 【キーワード】 家族計画、児童虐待、DV、国際養子縁組、トランスナショナル家族	中谷文美(岡山大学教授)	中谷文美(岡山大学教授)
10	開発と環境をめぐる争いと和解	地球は、グローバルな開発プロジェクトのための環境なのだろうか。それとも地域住民がそこで生きていくための環境なのだろうか。貧困、開発、環境をめぐる様々な議論を概観し、ケニアとエチオピアの事例をとりあげて、開発と環境をめぐる争いと和解について考えてみたい。 【キーワード】 MDGs、持続可能な開発、人間の安全保障、コモンズの悲劇	湖中真哉(静岡県立大学准教授)	湖中真哉(静岡県立大学准教授) ゲスト:西崎伸子(福島大学行政政策学類准教授)
11	ポストコンフリクト状況を生きる:アフリカの紛争・難民・和解	グローバリゼーションによって紛争は増加するのか、減少するのか。頻発するアフリカの紛争の主因とは何か。難民や国内避難民はどのように暮らしているのか。ケニアとエチオピアの事例を紹介しながら、課題を検討し、争いから和解への道を探る。 【キーワード】 アフリカ、低強度紛争、新家産制国家、難民、真実委員会	湖中真哉(静岡県立大学准教授)	湖中真哉(静岡県立大学准教授) ゲスト:佐川徹(日本学術振興会 特別研究員)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
12	グローバル・ネットワークをめぐる争い	現在、「科学／宗教」、「近代科学／在来知」など、多様なかたちをとってあらわれている合理性をめぐる争いと和解を具体的に検討して、その背景に、世界を一つのネットワークで覆うテクノサイエンスのプロジェクトがあることを明らかにし、テクノサイエンスの問題を明らかにする。 【キーワード】 テクノサイエンス、宗教、専門家、在来知、ネットワーク	大村敬一 (大阪大学准教授)	大村敬一 (大阪大学准教授) ゲスト 山崎吾郎
13	グローバル・ネットワークと共生するためのイヌイトの闘い	前回での議論で明らかにしたテクノサイエンス・ネットワークに対して、極北の先住民のイヌイトが打ち出している対抗策をとりあげ、そのイヌイトの対抗策を検討することによって新たな社会関係のあり方について考える。 【キーワード】 カナダ・イヌイト、マルチチュード、知識の権利	大村敬一 (大阪大学准教授)	大村敬一 (大阪大学准教授)
14	日本で生きること	長らく単一民族国家とされてきた日本におけるアイヌ民族や沖縄の民族の多様性、「日本人」とは何かを問うとともに、身近な争いと和解の諸相を検討し、グローバル化の中での日本について考える。 【キーワード】 日本人論、アイヌ民族、沖縄	本多俊和 (放送大学客員教授)	本多俊和 (放送大学客員教授) ゲスト: 謝黎 (東北芸術工科大学講師)
15	グローバリゼーションの功罪: アイデンティティをめぐる争い	まとめ: 主任講師と分担講師による討論を通じて、それぞれの立場による争いと和解の諸相の総括と今後の課題を明らかにする。 【キーワード】 紛争、和解、グローバル化	本多俊和 (放送大学客員教授) 大村敬一 (大阪大学准教授)	本多俊和 大村敬一 湖中真哉 竹沢泰子 中谷文美

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554638	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館教育論 （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：寺島洋子（国立西洋美術館主任研究員）〕
 〔主任講師（現職名）：大高 幸（東京造形大学非常勤講師）〕
 〔分担協力講師：端山聡子（横浜美術館学芸員）〕
 【本学担当専任教員：稲村 哲也（放送大学教授）】

講義概要

20世紀における博物館は主に資料(モノ)のためにあったが、21世紀の博物館は利用者(ヒト)のためにあると言われている。今日、博物館は資料の収集、保管、調査研究、展示を含む教育、広報を含む運営など、博物館機能のすべてにおいて、教育的役割を重視する必要性に迫られている。本講座では、博物館利用の教育的意義と今日の課題を学び、教育的役割を中心に据えた利用者のための博物館のあり方について考察する。

授業の目標

利用者が主体となる博物館のあり方の可能性およびその一層の充実化を図る上での課題を考察するための能力、さらに博物館を有効に活用する能力を育成することを目的とする。

履修上の留意点

〔博物館概論('11)〕を始めとする一連の博物館諸論や、「教育と社会('11)」などの教育学・社会学に関する領域を学ぶとともに、自己の研究領域における博物館の役割を常に意識しながら本講座を学ぶことが望ましい。特に、受講者は様々な博物館を利用し、講義内容を考察することが必要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	博物館教育の理念	我が国の博物館法に規定される博物館には、美術館や動植物園、水族館を含む多種多様な公共教育施設が含まれる。本章では、博物館を通して行われる教育(博物館教育)の理念と特徴、今日における意義について考察した上で、本講座の構成とアプローチ法について概観する。 【キーワード】 博物館法 経験 教育 活動と学習 鑑賞 構成主義教育	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同
2	博物館教育の歴史と今日における意義	博物館教育の歴史は、社会の要請に応じた博物館概念の変遷の歴史と呼応する。本章では、近代的な博物館概念の国際的な推移と日本の博物館教育に支配的な概念的枠組みの転換を概観した上で、いくつかの事例を検証し、歴史を学ぶことの難しさとその意義について考察する。 【キーワード】 社会教育 生涯学習 博物館学 博物館三代論	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同
3	博物館展示の教育的意義	博物館教育において、まず最初に検討すべき普遍的な方法は、展示である。本章では、展示の本質から導き出されるその教育的意義について、利用者の側と博物館の側の双方における努力に触れながら考察する。 【キーワード】 コミュニケーションの媒体 エノラ・ゲイ展示 構成主義教育の展示	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	展示と来館者をつなぐ 補助教材	展示は資料(生物を含むモノ)を核として、そこに言語や映像という二次資料を介在させた複合的なメディアとして構成される。本章では、メッセージの伝達媒体である二次資料を、モノの鑑賞を軸とする学習を補助する教材としてとりあげ、具体的な事例も紹介しながら考察する。 【キーワード】 補助教材、学習の文脈モデル、教材の評価基準	寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)	左同
5	人文科学系博物館の プログラム	今日、博物館を利用する人々は、展示を鑑賞するだけでなく、博物館のプログラムに参加することによって多様な学習を体験することができる。本章では、人を介して行われるプログラムの意義について考え、人文科学系博物館において実施されているプログラムの具体的な事例を紹介しながら考察する。 【キーワード】 コミュニケーション 学習スタイル 参加体験型プログラム	寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員) 端山聡子(横浜美術館学芸員)	左同
6	自然科学系博物館の プログラム	本章では自然科学系博物館の教育プログラムを取り上げる。フィールドに出て活動する自然観察会がその代表的なものである。プログラム参加者がさらに学習し、ネットワークを広げる友の会や同好会についても紹介する。 【キーワード】 教育プログラム、自然観察会、友の会、同好会	端山聡子(横浜美術館学芸員)	左同
7	資源の蓄積と公開	博物館の資源には資料(モノ)や作品がまずあげられる。加えて収集保存、調査研究、展示教育などの博物館活動を通じて集積した情報や成果、データベースもある。博物館の資源を蓄積し、教育的に活用すること、さらに資料の整理や調査活動のプロセスが教育プログラムである事例などを紹介する。 【キーワード】 博物館教育の資源、図書室、閲覧室、情報やデータの蓄積と公開	端山聡子(横浜美術館学芸員)	左同
8	学校と博物館	博物館にとって学校は、重要な利用者であり、学校にとって博物館は、学校とは異なる学習体験が可能な教育の場である。本章では、近年の教育改革を踏まえて、学校と博物館の効果的な連携の在り方について、具体的な事例を紹介しながら考察する。 【キーワード】 教育改革 生涯学習 学習指導要領 連携 研修	寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)	左同
9	家族と博物館	家族という社会集団における教育(家族内教育)は、人の生涯に渡って日常的に展開される。家族内教育と、博物館における教育が効果的に連携するとき、そのことは、家族以外の様々な博物館利用者にとっても効果的な教育のモデルとなる。本章では、家族と博物館の効果的な連携を可能にする博物館教育のあり方について検討する。 【キーワード】 メディエーター 家族内教育 教育的スタイル 学習の転移 対話	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	地域と博物館	現代において博物館と地域ないしは地域資源との関わりは大きなテーマである。博物館があることで地域の歴史や文化が掘り起こされ、地域の人々が活躍する場や学習の場が生み出されている。本章では特に地域博物館をひとつの軸として述べる。 【キーワード】 地域博物館、遠足博物館、放課後博物館、街と博物館	端山聡子(横浜美術館学芸員)	左同
11	アクセス可能な博物館教育:その理念と実践	公共教育機関としての博物館は、社会の多様な構成員の中で特定の集団を排除することのないよう、不断の努力をする必要がある。特に、障害を持つ人々のニーズに対応する博物館教育は、知覚や学習法などの知見を必要とし、このことは、あらゆる人向けの教育にも通ずる。本章では、アクセス可能な博物館教育への先進的な事例とその社会的な文脈、理論的な根拠について考察する。 【キーワード】 民主主義 インクルーシブ教育 障害 差別 触覚による知覚	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同
12	博物館におけるボランティア	本章では利用者と博物館との関わりから、博物館ボランティアを取り上げる。近年多くの博物館でボランティアが活動しているが、その活動内容を具体的な事例を交えて紹介し、さらにその課題についても考察する。 【キーワード】 博物館ボランティアの特徴、学習、ボランティア	端山聡子(横浜美術館学芸員)	左同
13	教育活動の評価	近年、博物館は教育施設としての存在意義を、社会に対して示すために、その活動の評価が求められるようになってきた。本章では、欧米の来館者研究の流れと評価の方法を紹介し、その意義と課題について具体的な事例をもとに考察する。 【キーワード】 来館者研究 プログラム評価 学習評価	寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)	左同
14	博物館の連携	博物館が教育施設としての役割を遂行し、さらなる活動の向上を目指すためには、個々の博物館の努力だけでなく、横の連携による組織作りが必要である。本章では、国内外における博物館や博物館教育に関わる主な団体をとりあげ、その活動を紹介する。 【キーワード】 ICOM 日本博物館協会 学芸員研修 エducator	寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)	左同
15	利用者主体の博物館教育:展望と課題	本章では、博物館教育の理念と事例についてこれまで学んできたことを総括し、日本の博物館の特徴および現状の問題点を概観した上で、日本における今後の博物館教育の展望とその実現のための博物館の運営体制の要諦について考察する。最後に、受講者の今後の博物館利用への提言で本講座を締めくくる。 【キーワード】 教育普及から教育へ 生涯統合教育 博物館運営 教育のための施設	大高幸(東京造形大学非常勤講師)	左同

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554590	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館資料論 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：佐々木利和（北海道大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：湯山賢一（奈良国立博物館長）〕

【本学担当専任教員：稲村 哲也（放送大学教授）】

※「博物館資料論('08)」の一部改訂科目です。
改訂回は第2, 8, 11, 12回です。

講義概要

博物館には、博物館法によって資料を保管し、後世に伝えることが決められている。いってみれば博物館の基本は収蔵している資料にあるといっている。そしてそれは博物館が拠って立つ所以ともなる重要な存在である。資料はまた「モノ」ともいい、「文化財」でもある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場ではない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した資料のあり方について考える。

授業の目標

資料とは博物館の根幹を成す存在で「モノ」と称され、近年では「文化財」と呼称される場合が多い。「文化財」は宝物であったり骨董、珍物であったりもするが、博物館ではこれらのほかに実際の生活に根ざした品々も「文化財」である。こうした観点から博物館の資料について考えていく。講義にあたってはそれぞれの博物館・研究所の学芸員、研究者の先生方をゲストにお招きしお話をうかがう。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	博物館における資料とは	博物館における資料の多様性について考える。 各地の特色ある博物館の例で考える。第一回目は日銀貨幣博物館が所蔵する貨幣関係資料と旧大塚盲学校が保管する近世・近代の視覚障害者教育資料について考察する	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)
2	博物館資料を展示する ※改訂回	沖縄県立博物館は2007年11月に開館。開館前に撮影した旧来の資料をいかに陳列するかなどの取材を含めて、博物館のその後の展開を追う。 【キーワード】 資料の整理と公開、アクセス権、調査研究活動	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)
3	博物館資料の修復	博物館で収蔵する資料は損傷があるものが少なくない。装填師(そうこうし)連盟関西支部にお邪魔して修理の実態に触れ、資料にとっての修理とはいいかなることかを学ぶ。 【キーワード】 資料の修復と保存、修復の技術と技法	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	大学における博物館	近年旧帝国大学系を中心に大学博物館が設立されている。大学博物館はその教育の中で蒐集された資料類が多くある。それらはどのように整理され、博物館教育に役立てているか、京都大学総合博物館の例で学ぶ 【キーワード】 博物館資料の収集・整理・活用、調査活動の意義と内容	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)
5	博物館資料としての古文書	古文書をいかに調べ、展示するかは大きな課題である。ここでは京都・醍醐寺における資料調査の実態に触れ、あわせて古代・中世の文書について考える。 【キーワード】 資料の種類、古文書の扱い方、古文書の保存と展示	湯山賢一 (奈良国立博 物館長)	湯山賢一 (奈良国立博 物館長)
6	博物館資料としての絵画	絵画資料から何を読み取るか、そしてそれを展示にいかにかに生かしていくかを考える。 【キーワード】 資料の種類、絵画資料の整理と展示、絵画資料の意義	湊信幸 (東京国立博 物館名誉館 員)	湊信幸 (東京国立博 物館名誉館 員)
7	博物館資料としての個人収集品	幕末の蝦夷地探検家である松浦武四郎が収集した資料と同じ幕末の鷹見泉石収集の資料を中心に個人の収集品と博物館について考える。 【キーワード】 個人資料の収集理念と方法、個人資料の整理、個人資料の展示の課題、資料の登録、受け入れ手続き	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授)
8	博物館資料としての「近代文化遺産」 ※改訂回	近年、大きな問題となりつつある近代化遺産の資料性、保存の問題を国立科学博物館の例に考えてみる。 【キーワード】 近代産業資料とは、巨大な資料の展示、資料に関する研究	鈴木一義 (国立科学博 物館科学技 術史グルー プ長)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授) 鈴木一義 (国立科学博 物館科学技 術史グルー プ長)
9	博物館資料としての考古遺物 —小規模展示施設の 模型作り—	考古遺物は発掘されたままか、それを復元した形での展示が多いが、羅臼町立郷土資料館は非常にユニークな展示法を試みている。その方法について学ぶ。 【キーワード】 考古資料とは、考古資料の整理と保存、考古資料の修復、考古資料の展示	涌坂周一 (羅臼町郷土 資料館長)	佐々木利和 (北海道大学 特任教授) 涌坂周一 (羅臼町郷土 資料館長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	博物館資料としての写真	博物館には古い写真類を収蔵するところが少なくない。その保存、複写、展示等の方法について学ぶ。 【キーワード】 写真資料の整理と保存、写真資料の展示、写真の肖像権と課題	岡塚章子 (江戸東京博物館学芸員)	佐々木利和 (北海道大学特任教授) 岡塚章子 (江戸東京博物館学芸員)
11	デジタル写真撮影法 ※改訂回	博物館資料は多岐におよぶ。そしてそれぞれにあった撮影の方法について学ぶ。博物館における資料整理とコンピュータの関係について学ぶ。 【キーワード】 写真撮影の技術、写真撮影機材、写真撮影・資料の分類・整理	城野誠治 (東京文化財研究所職員/写真家)	佐々木利和 (北海道大学特任教授) 城野誠治 (東京文化財研究所職員/写真家)
12	博物館資料と展示ケース論 ※改訂回	博物館資料は多くの場合、露出展示することではなく、ケースに収めて観客に供するのが通例である。そのケースも近年いろいろな場合を想定して設計されている。モノに合わせてのケースの使用法を学ぶ。 【キーワード】 展示の歴史的変化、ケースの設計と設置、資料の保存	湯山賢一 (奈良国立博物館長) 内藤栄(奈良国立博物館学芸部長補佐)	湯山賢一 (奈良国立博物館長) 内藤栄(奈良国立博物館学芸部長補佐)
13	博物館資料の調査	日本国内におけるアイヌ民族資料の調査法および近世資料の調査法について学ぶ。 【キーワード】 調査研究活動の意義と内容、調査研究成果の整理と還元	佐々木利和 (北海道大学特任教授)	佐々木利和 (北海道大学特任教授)
14	博物館資料としての民俗	民俗資料は種類や数が多いだけにその整理や保存法は多岐にわたる。各地の民俗資料の特徴について学ぶ。 【キーワード】 民俗資料の整理と保存、民俗資料の展示、目録作成	佐々木利和 (北海道大学特任教授)	佐々木利和 (北海道大学特任教授)
15	民族資料論 —博物館における民族表象—	博物館とは 1. ものを展示する→イメージを醸し出す 2. アイヌ民族をめぐる展示を中心に講義を進める 【キーワード】 資料公開の理念と方法、展示の方法、展示の目的、展示が伝えるもの	本多俊和 (放送大学客員教授)	本多俊和 (放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554620	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館資料保存論 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 本田光子（九州国立博物館特任研究員） 〕

〔主任講師（現職名）： 森田 稔（九州国立博物館副館長） 〕

【 本学担当専任教員： 稲村 哲也（放送大学教授） 】

講義概要

博物館資料「もの」の「保存」について、その考え方を理解し、知識を学び、技術に触れる。「もの」の保存は、その材料や製作技法を捉え、伝えてきた人や時代の判断を知り、「もの」に適した環境を整え、必要に応じて繕うことにより成り立つことを確認する。最新の科学技術による調査や環境整備ならびに日本の風土で育まれた「もの」をまもりつたえる考え方と手法を組み合わせ総合的な博物館資料の保存をめざす九州国立博物館の取り組みを中心として講義を展開する。

授業の目標

博物館学芸員として、資料保存に関する基本的な考え方ならびに基礎的な知識を修学し、学芸員自身が行うべきことと、専門家に依頼することを見極める力を養うこと。あわせて、博物館資料の保存は、博物館等施設における直接的な学芸業務以外の部門である事務、来館者サービス、警備や清掃他、およびボランティア活動等との連携の上に成り立つことをあらためて実感すること。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	博物館資料保存論の導入	博物館資料保存論の趣旨を具体的に説明する。博物館資料の保存は、①日常管理による環境維持、②資料に関する知識と丁寧な扱いに基づく点検・調査・研究・公開③歴史をふまえた保存修理により成り立つこと、博物館というステージで管理すべき危機(災害、温湿度、光、空気質、虫カビ、塵埃、輸送等の影響因子)について整理する。 【キーワード】 博物館資料 保存 環境維持 知識と扱い 点検・調査・研究・公開 保存修理 影響因子 災害防止	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員
2	文化財保護の歴史	日本の博物館資料の多くはかつて信仰が守り伝えてきた伝世の文化財である。いかにしてまもってきたか、説明する。(1) 奈良時代から明治時代初めの「廃仏毀釈」までを概観する。(2) 武家等の寄進により文化財がいかに保存されてきたか。(3) 武家・公家・町衆による文化財修理の需要と修理技術者の育成。 【キーワード】 正倉院 曝涼 延喜式 修理 寄進 武家 公家 町衆	三輪嘉六 九州国立博物館 館長	三輪嘉六 九州国立博物館 館長
3	災害対策と保存論	我が国は「地震列島」と呼ばれるほど地震が発生しやすい。その対策を中心に概説する。 【キーワード】 地震 免震 耐震 展示方法 収蔵方法	森田稔 九州国立博物館 副館長	森田稔 九州国立博物館 副館長

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	博物館の成り立ちと機能	文化財保護の歴史をふまえ、我が国の博物館の成立と機能について概説する。(1) 明治時代初期における万国博覧会の意義 (2) 古社寺保存法による文化財保護と国立博物館に役割 (3) 文化財の保存と活用 【キーワード】 万国博覧会 悉皆調査 古社寺保存法 国宝 保存 活用	森田稔 九州国立博物館 副館長	森田稔 九州国立博物館 副館長
5	博物館資料の収蔵と保管	博物館収蔵庫の集大成ともいえる九州国立博物館の収蔵庫を例として収蔵と保存を解説。(1) ゾーニング (2) 構造 (3) メンテナンス (4) 危機管理 【キーワード】 ゾーニング 構造 メンテナンス 危機管理 環境	森田稔 九州国立博物館 副館長	森田稔 九州国立博物館 副館長
6	博物館資料の科学調査	博物館における科学調査事例について、九州国立博物館の最新設備の紹介もまじえて解説。分析科学と美術史・工芸史との共同研究の必要性を説明する。(1) 現状調査 (2) 材料調査 (3) 構造調査 (4) 環境調査 【キーワード】 現状調査 材料調査 構造調査 技法調査 環境調査 学芸員との協働	今津節生 九州国立博物館 博物館科学課長	今津節生 九州国立博物館 博物館科学課長
7	博物館資料の保存修理	博物館における文化財保存修理事業について、九州国立博物館の事例や施設紹介をもまじえて解説。博物館における文化財修理の意義、学芸員と修理技術者の協働の意義を考える。また博物館の役割としての修理技術者育成についても解説する。 【キーワード】 学芸員 修理技術者 博物館の役割	藤田励夫 九州国立博物館 博物館科学課 保存修復室長	藤田励夫 九州国立博物館 博物館科学課 保存修復室長
8	装飾技術による文化財修理(1)	文化財としての書画に関する伝統的な修理技術を概説する。古来より行われてきた装こう技術による文化財修理の歴史を概観し、伝統保存技術の意義を解説する。また近年進んできた最新技術との関係について概説する。 【キーワード】 装こう技術 伝統保存技術 修理技術者 電子線劣化絹すき嵌め	岡岩太郎 国宝修理装飾師連盟理事長	岡岩太郎 国宝修理装飾師連盟理事長
9	装飾技術による文化財修理(2)	書画、表具の材料、収納用具等、紙・絹文化財をまもり伝える周辺の歴史的背景について概説する。(1) 文化財の構造 (2) 劣化の特徴 (3) 修復の方法 (4) 修理後の注意点 【キーワード】 紙・絹文化財 文化財の構造 劣化の特徴 修復の方法 メンテナンス	岡岩太郎 国宝修理装飾師連盟理事長	岡岩太郎 国宝修理装飾師連盟理事長

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	正倉院宝物の保存	「もの」の保存の原点である正倉院宝物の保存の在り方について解説。①正倉院は校倉の校木の開閉によりまもられてきたといわれてきたが、実際はどのようなものであったか。②正倉院宝物の定期的な曝涼と修理は明治期から本格的に行われてきたが、その内容と変遷について。③正倉院宝物の保存と点検に関する現在の基本的な考え方と取り組みについて紹介する。 【キーワード】 正倉院宝物 保存 修理 点検 校倉 曝涼	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員
11	曝涼・曝書の歴史	博物館資料の多くを占める日本の美術工芸品は、この国の風土により育まれた資料管理システムである「扱い・収納・曝涼・修理」によりが正倉院から現代まで続いていることをとおして「もの」の保存の意味を考える。 【キーワード】	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員
12	文化財生物被害対策の歴史	博物館ガス燻蒸の歴史と臭化メチル全廃の経緯およびIPM導入の背景について解説。高度経済成長期に急増した博物館の虫菌害対策として短期間で処理できるガス燻蒸が行われてきたが、その弊害も指摘されてきた。その後の臭化メチル全廃に至る考え方を説明する。 【キーワード】 高度経済成長期 ガス燻蒸 臭化メチル オゾン層 環境保護	森田稔 九州国立博物館 副館長	森田稔 九州国立博物館 副館長
13	博物館におけるIPM: 総合的有害生物管理 (1)	IPMとは何か、九州国立博物館の取り組みをとおして解説。臭化メチル全廃を受けた博物館の虫菌害対策として導入された「総合的有害生物管理(IPM)」の考え方を整理し、九州国立博物館の取り組みを具体的に説明する。 【キーワード】 ガス燻蒸 総合的有害生物管理(IPM) 環境配慮	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員
14	博物館におけるIPM: 総合的有害生物管理 (2)	IPMの担い手について、九州国立博物館の取り組みをとおして解説。IPMを有効に実現するためには多くの人の目や行動が必要となる。九州国立博物館を例としてIPM実現に向けた取り組みを通し、その担い手たちのあり方、役割分担について説明する。 【キーワード】 IPM 担い手 役割分担	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員
15	博物館危機管理としてのIPM	博物館資料保存の根幹はあらゆる影響因子を総合的に管理することであり、IPMの考え方によることでより理解と実践がしやすいことを伝える。 【キーワード】 IPM 危機管理 災害 温湿度 光 空気質 虫カビ 塵埃 輸送 自然との共生 市民協同	本田光子 九州国立博物館 特任研究員	本田光子 九州国立博物館 特任研究員

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554603	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館展示論 （'12）＝ （TV）

※この科目は「博物館概論（'07）」を一部改訂した科目です。

〔主任講師（現職名）：佐々木利和（北海道大学特任教授）〕
 〔主任講師（現職名）：松原茂（根津美術館学芸部長）〕
 〔主任講師（現職名）：原田一敏（東京芸術大学教授）〕
 【本学担当専任教員：稲村 哲也（放送大学教授）】

講義概要

博物館が拠って立つ所以は「モノ」にある。「モノ」とはあるいは「資料」といい、「文化財」といい、「展示品」などといわれる。この「モノ」を如何に有効に生かすかが、展示の基本となる。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場ではない。こうした観点にたつて、博物館の展示について考えていく。実際に活動している諸博物館において、資料取り扱いを中心とした博物館展示の業務について講義し、あわせて「モノ」の取り扱い方など博物館の現実的なあり方を考える。なお、この授業においては動物園・植物園・水族館等の生き物を扱う館は対象としない。性格が全く異なるからである。

授業の目標

博物館員の資質は「モノ」について熟知していることである。「モノ」の熟知とは、そのもののもつ特性、来歴等をよく知り、かつ、十分に安全で確実な取り扱いができることである。加えて、そのものを現実の展示の中で、よく生かすことである。展示の基本である「モノをして語らしめよ」という視点から、モノと展示に関して過不足のない知識の享受してほしい。

履修上の留意点

回	テ　　マ	内　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	博物館展示論とは ～“もの”に語らせる ために	博物館のさまざまな形態およびその運用の実践について講義する。博物館の拠って立つ基盤は「モノ」にあるということを意識しながら、博物館のありかたについて考える。 【キーワード】 展示の諸形態、展示の意義、展示の目的、展示解説活動	佐々木利和 (北海道大学) 原田一敏 (東京芸術大学) 松原 茂 (根津美術館)	佐々木利和 (北海道大学) 原田一敏 (東京芸術大学) 松原 茂 (根津美術館)
2	博物館史の中の展示概論	日本の博物館の歴史について略述する。この場合、日本の中央博物館として、特殊な存在形態であった帝室博物館について述べ、ついで、日本で最初の人類学博物館であった銅駄坊陳列館に触れて、日本初期博物館について考える。 【キーワード】 展示と展示論の歴史、展示目的の変遷	佐々木利和 (北海道大学)	佐々木利和 (北海道大学)
3	絵画	博物館の展示を行うにはモノの取り扱いが適切にできなければならない。ここでは日本美術や日本史の基礎資料である卷子(巻物)や掛幅(掛軸)、屏風などの取扱法と展示作業の基本を学び、あわせてそれらの調書の取り方についても学習する。 【キーワード】 巻物・掛幅・屏風の取扱法、巻物・掛幅の展示法、作業の連係	松原茂 (根津美術館)	松原茂 (根津美術館)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	彫刻	日本彫刻は仏像によって代表されるが、それが信仰の現実的な崇拝の対象であることに考えが及ばないことがままある。ここでは仏像の取り扱い方法について講義する。あわせて調書の取り方についても考える。 【キーワード】 仏像の保存、仏像の展示法、調書の取り方と活用法	岩田茂樹 (奈良国立博物館)	岩田茂樹 (奈良国立博物館)
5	書	日本美術や日本史の史資料として書にであう機会は多くある。しかし博物館の展示という観点からはこれほどむづかしいものはない。どのように鑑賞するのか、展示をする際にその文字が読めない場合はどうするのか、釈文は必要かなどでまずつまづく。そして、軸や卷子、冊子や帖などはどうするか。書のてんじについて考える。 【キーワード】 書、書跡、書の鑑賞法、書の展示法	島谷弘幸(東京国立博物館)	島谷弘幸(東京国立博物館)
6	工芸品 ～金工・刀剣～	日本工芸の一方を代表する金工品に着目し、その取り扱い方を講義する。あわせて、刀剣の取り扱い方、手入れについても論じ、効果的な展示方法についても述べる。金工品や刀剣の調書の取り方についてもふれてみたい。 【キーワード】 金工品の修復と保存、金工品の展示法と課題、調書の意義、展示の制作	原田一敏 (東京芸術大学)	原田一敏 (東京芸術大学)
7	工芸品 ～陶磁・漆工～	日本工芸の代表するものとして人気の高い陶磁器を取り上げ、その取扱いについて講義する。あわせて、漆工品についての取扱方法を講義する。そして調書の取り方についても触れる。 【キーワード】 陶磁器の保存と活用、漆工品の修復と保存、展示法、解説活動	伊藤嘉章 (九州国立博物館) 原田一敏 (東京芸術大学)	伊藤嘉章 (九州国立博物館) 竹内奈美子 (東京国立博物館)
8	工芸品 ～甲冑・染織～	日本を代表する工芸のひとつでありながら、意外に取り扱いがむづかしい甲冑の取扱方法および展示法について講義する。 また染織とりわけ小袖についての取扱法を論ずる。そしてこれらの調書の取り方についても触れる。 【キーワード】 甲冑と染織の展示法、甲冑と染織の調書、調査成果の提示	池田宏 (東京国立博物館) 原田一敏 (東京芸術大学)	池田宏 (東京国立博物館) 小山弓弦葉 (東京国立博物館)
9	考古・歴史資料	日本考古学において比較的取り扱いがむづかしい土器および金属器について講義する。調書の取り方についても述べる。 歴史資料という範囲は広いが、その資料の多くは絵画や工芸と共通する取り扱いである。ここでは地図・絵図の取り扱いを中心に版本・写本についても述べる。また調書の取り方についても考える。 【キーワード】 考古資料の展示法、考古学調査資料の整理と保存、調査成果提示	井上洋一 (東京国立博物館) 佐々木利和 (北海道大学)	井上洋一(東京国立博物館) 日高慎(東京学芸大学) 佐々木利和 (北海道大学)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	近現代美術	近年、絵画・工芸などの近現代美術を収蔵する博物館が増加している。これらの資料は古美術資料とはその扱いも異なる。近現代美術の展示法について北海道立近代美術館の例で考える。 【キーワード】 古美術、近代美術、美術品の展示法、解説活動	五十嵐聡美 (北海道立近代美術館) 水田順子 (北海道立近代美術館)	水田順子 (北海道立近代美術館) 五十嵐聡美 (北海道立近代美術館)
11	保存修復	資料の保存について臨床保存学という観点から講義する。臨床保存学とは損傷した資料を安全に修理し、輸送や展示に際して環境変化から安全を確保する予防措置を施すことであるが、その具体例をあげながら保存、保護について考えていく。 【キーワード】 臨床保存学、関係者との協力	神庭信幸 (東京国立博物館)	神庭信幸 (東京国立博物館)
12	展示照明	資料を展示し終わった後の大きな仕事は、“モノ”に雄弁に語らせるための光のあてかたが重要となる。現代の最先端の照明器具を扱いながら、展示照明について考える。 【キーワード】 展示照明の種類、展示照明の機能、展示照明の効果	木下史青 (東京国立博物館)	木下史青 (東京国立博物館)
13	地域博物館の活動 ～北海道白老町・アイヌ民族博物館～	地域博物館にはさまざまな活動を行っている博物館がある。それらの活動を紹介しながら博物館活動のありかたについて考えていく。 ここでは北海道白老町にある財団法人アイヌ民族博物館をとりあげ、日本における異文化とその伝承、展示について考えていく。 【キーワード】 展示の解説活動、展示の政治性と社会性、展示解説書	佐々木利和 (北海道大学)	佐々木利和 (北海道大学)
14	地域博物館の活動 ～利尻町立博物館・にかほ市象潟郷土資料館～	日本最北の博物館である利尻町立博物館を訪れ、その地域に根ざした活動および学芸員の仕事についてみていく。また、にかほ市立象潟民俗資料館は芭蕉との関連で著名な存在であるが、意外な地域活動を持っている。 【キーワード】 関係者の協力、調査研究の成果の提示、人による解説	佐々木利和 (北海道大学)	佐々木利和 (北海道大学)
15	地域博物館の活動 ～沖縄 八重山博物館・与那国民俗資料館～	日本最南端の八重山博物館および与那国民俗資料館にうかがい、琉球の先島の文化について考える。また、与那国民俗資料館はもともと西に位置する私立博物館であり、その運営法についても学んでいきたい。 【キーワード】 展示の評価と改善・更新、展示評価資料の収集	佐々木利和 (北海道大学)	佐々木利和 (北海道大学)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554700	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館情報・メディア論 （'13）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：西岡 貞一（筑波大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：篠田 謙一（国立科学博物館・グループ長）〕

【本学担当専任教員：稲村 哲也（放送大学・教授）】

講義概要

コンピュータ、ネットワークの発達によりデジタル技術は自動化や省力化のための道具としてだけでなく、コミュニケーションのためのメディアとして利用されている。

博物館においても研究、展示、教育を中心にメディアとしてのデジタル技術の利用が行われている。本講義では文化、技術、経営等の視点から博物館における情報やメディア・コンテンツの活用を考察する。

具体的な事例紹介を交えることで、理論や知識の獲得に加え、実践力の向上を目指す。

授業の目標

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	博物館情報・メディア論を学ぶ	博物館情報・メディア論のねらいと、その位置づけについて概説する。情報とは何か、メディアとは何かを博物館の視点から定義する。デジタル技術の発達により博物館における情報技術やメディアの活用が増大している。本章では「博物館情報・メディア論」でとりあげるトピックスを俯瞰的に紹介する。 【キーワード】 学芸員の業務、情報通信技術、メディア論	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
2	博物館における情報・メディアの意義	博物館では展示資料に加え文字、画像、映像、音声など様々な形で来館者に情報が伝達されている。博物館はまさに総合的なメディアといえる。本講では博物館において活用されている視聴覚メディアの代表例として、展示映像と音声ガイドを取り上げ、デジタルメディアの特性や、その活様における学芸員の果たす役割について学ぶ。 【キーワード】 メディアとコンテンツ、デジタルメディア、展示映像	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
3	博物館の機能からみた、情報の蓄積と活用	我が国ではICTを活用したネットワーク社会の形成や、知的財産であるデジタル・コンテンツの創生と活用を国家戦略として推進する中で、博物館コンテンツのデジタル・アーカイブ化の推進も明記されている。 本講では博物館の基本的機能ごとに情報化の流れを概観する。 【キーワード】 ICT社会の中の博物館	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	メディアで学ぶ、メディアを学ぶ 情報教育の意義と重要性	学芸員として来館者に質の高い展示や教育を提供するためには、メディアの特性を理解し使いこなす能力が求められる。本章では映像メディアの表示サイズに着目し、その特性を学ぶ。またインタラクティブメディアの活用やコンテンツの制作についても学習する。 【キーワード】 メディアリテラシー、メディア教育、インタラクティブメディア、コンテンツ制作	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
5	研究部門における 情報化ーデータベースの構築とその運用ー	博物館活動の情報化とは何を意味するのか。本講ではICT社会の中で、研究活動と展示業務、収蔵品の管理といった学芸員の日常業務と情報テクノロジーの関わり、特にデータベースの構築について解説する。 【キーワード】 博物館活動の情報化、データベース	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)
6	博物館標本のデジタル化の技法	博物館の活動の中で大きな比重を占め、最も情報技術の導入が期待される、収蔵品や資料のデジタル化やドキュメンテーションについて、現場でどのような導入がなされているのかを解説する。 【キーワード】 デジタル化、ドキュメンテーション	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)
7	デジタルミュージアム	魅力的な展示・教育を行うために、新しいメディアの活用は大きな武器となる。学芸員には先端技術に対する好奇心と情報収集能力が求められる。博物館・美術館の研究・保存・展示・教育機能を拡大する取り組みはデジタルミュージアムと呼ばれている。本講ではデジタルミュージアムを構成する基本技術を理解するとともに、先駆的な取り組みを題材に、その活用のための方法論を学習する。 【キーワード】 文化財のデジタル化、博物館機能の拡大、新たなメディア経験、バーチャルミュージアム	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
8	デジタル・アーカイブの現状と課題	デジタル・アーカイブは、博物館資料や文化財をデジタルデータの形で記録・保存し、これをデータベース化することにより検索性を付与し、調査・研究や二次利用を可能にするための文化の保存・公開の手段である。デジタル・アーカイブは学芸員自らの研究を支える道具として、そして博物館利用者に対する情報サービスの手段として、学芸員にとって無くてはならない情報通信技術である。本章ではデジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを学習する。 【キーワード】 文化財のデジタル化、資料の継続的保存・管理、MLA連携、長期保存性、カラーマネージメント	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
9	博物館における情報通信技術の活用	情報端末の効果的な導入により、視聴覚メディアを活用した多様な利用者のニーズに応える情報提供が可能となる。 本講では、情報機器の活用や管理、利用者の属性に応じた情報発信の手法について、主に近年の博物館展示における情報端末の活用事例をもとに解説する。 【キーワード】 情報機器の活用	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)
10	開かれた博物館にむけて インターネットを活用した情報発信	人々と博物館のつながりは博物館の中だけにとどまらない。ホームページによる展覧会の告知はもとより、様々な収蔵品情報や学芸員の研究成果がインターネットを介して社会に提供されている。最近ではSocial Mediaを用いた情報発信・共有も始まっている。本講では博物館における情報発信力を高めるための情報通信技術の活用法を学ぶ。 【キーワード】 インターネットの活用、情報発信、知のオープン化、デジタルオーディエンス、ソーシャルメディア	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	博物館と知的財産	博物館にとって、知的財産権や肖像権等の保護と活用のバランスを図ることは、重要な課題となっている。情報通信技術の発展により、情報の伝搬スピードと範囲は劇的に拡大した。その結果、博物館の情報収集・発信手段は多様化した。他方、博物館で扱う情報をめぐる法的処理も複雑化し、高度な知識が求められるようになった。そこで、この回では、博物館の業務と著作権を中心に、その問題を考えることとする。 【キーワード】 著作権、肖像権、権利処理	石井 夏生利 (筑波大学・准教授)	石井 夏生利 (筑波大学・准教授)
12	博物館と市民をつなぐ情報メディア	博物館が収集した資料からは様々な情報が引き出される。それらは調査研究の成果となってあらわれるだけではなく、展示や教育活動を通して生涯学習という形で社会に還元される。 本講では、博物館の展示や学習支援といった市民と直接つながる事業において情報をどのように活用し社会へ発信しているかについて、具体的事例とともに解説する。 【キーワード】 博物館と教育、評価	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)	有田 寛之 (国立科学博物館事業推進部学習企画・調整課 専門職員)
13	展覧会と情報メディア	展覧会の企画段階から、展示品の決定、会場デザインにいたるまで、現在の展覧会ではあらゆる段階でデジタル技術が利用されており、その傾向は更に加速していくことは間違いない。特に特にVirtual Realityの発展は、これまで標本の展示に限定されていた展覧会そのものの形を変える力を持っている。ここでは展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解し、この技術が将来的にどのように使われていくのかを考える。また、デジタル時代の学芸員に求められる要件についても理解する。 【キーワード】 展覧会企画、展示映像、立体映像、超高精細映像、デジタルキュレーター	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長) 西岡貞一 (筑波大学・教授)	篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長) 西岡貞一 (筑波大学・教授)
14	常設展示のイノベーション 博物館における情報メディアの活用	これからの学芸員にはデジタルメディアの活用能力と利用アイデアを生み出す発想力が求められる。 本講では、情報技術やメディアを常設展示に取り入れることで、鑑賞や来館者支援に成果をあげている各地の博物館の成功事例を基に、博物館の情報メディアの活用について学ぶ。 【キーワード】 テンプルミュージアム、ユニバーシティ・ミュージアム、ミュージアムシアター、デジタル復元、実物大復元、モバイルガイド	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)
15	博物館情報・メディア論の未来	本講ではこれまでの講義で学んだことを総括すると共に、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。情報の活用や発信を目的として、情報技術やメディアを博物館と利用者の接点に応用することに焦点をあて考察する。 【キーワード】 アクティブシニア、デジタルオーディエンス、インタラクティブメディア、ビデオテーク、リサーチデスク	西岡貞一 (筑波大学・教授)	西岡貞一 (筑波大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554719	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 博物館経営論 （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）：佐々木亨（北海道大学大学院文学研究科 教授）〕

〔主任講師（現職名）：亀井修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事）〕

【本学担当専任教員：稲村 哲也（放送大学 教授）】

講義概要

博物館は、建物や資料、学芸員を含む職員が存在するだけでは、成り立ちません。日々、実際にお客様をお迎えし、みなさま方に展示や教育プログラムを体験していただき、満足してお帰りいただくことが大切です。そして、また来館し、家族や友人に来館を勧めるといった行動につながる事が重要です。

そのためには、博物館経営は必須の概念です。ここでは、博物館の組織、施設と人材の在り方、経営手法としてのマーケティングと評価、市民や地域社会との連携など、博物館経営に欠かせない事柄について学びます。また、海外の博物館経営の事例なども併せて紹介します。

博物館学芸員資格の取得を目指す方は、この科目が必須となります。

授業の目標

博物館の管理・運営について体系的に理解し、「博物館経営」という枠組みの中で博物館をみるできるようになります。併せて、学芸員として博物館経営を実践する際の基礎的な能力を養います。

履修上の留意点

学芸員資格取得を目指す方は、「博物館経営論」を履修する前に「博物館概論」を履修することが望ましいです。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	博物館になぜ経営が必要か	博物館にとって「経営」は必要不可欠な概念であることと、その特性を説明する。それとともに、博物館の使命、経営資源、ステークホルダーという、経営を考える際に必須となる基本的な要素について考察する。また最後に、この科目全体の構成について紹介する。 【キーワード】 経営、博物館経営論、使命、目標、経営資源、ステークホルダー	佐々木亨 (北海道大学 大学院文学 研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学 大学院文学 研究科教授)
2	博物館を取り巻く人々と社会	博物館の価値と公共性について整理した上で、博物館への公的支援の根拠を説明する。併せて、博物館の価値を納税者や社会に広く伝えるための、広報活動の実態と今後を考察する。さらに、博物館の年報と企業のCSRレポートを比較検討し、博物館広報のあり方を検討する。 【キーワード】 博物館の価値、公共性、広報、年報、ステークホルダー、CSR	佐々木亨 (北海道大学 大学院文学 研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学 大学院文学 研究科教授)
3	博物館の組織と人材、行財政	博物館が使命を遂行し社会的な機能を果たするためには、それに適した制度、組織、あるいは人材が必要となる。博物館に関する一般の人々の認識、それを反映する行財政制度や個別の予算システムも重要な要素となる。それらについて、現状と課題を説明する。 【キーワード】 文書主義、行政組織、非営利組織、非常時や変化への対応	亀井修 (国立科学博 物館産業技 術史資料情 報センター 参事)	亀井修 (国立科学博 物館産業技 術史資料情 報センター 参事)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	博物館倫理・行動規範	博物館には、人類にとって貴重な資料や文化遺産を取り扱い、新しい知識や情報の創造に役立てるといいう使命がある。そのため、博物館関係者には極めて高い職業倫理が求められる。ここでは、代表的な倫理規程とその考え方について紹介する。 【キーワード】 倫理基準、行動規範、ICOM、専門職としての行為	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)
5	博物館の経営手法 ①:マーケティング、利用者調査の手法	マーケティングの定義や基本的な枠組みについて紹介し、博物館で求められている経験について検討する。併せて、博物館利用者の行動や潜在的な期待を把握するための利用者調査について、具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 マーケティング、博物館での経験、利用者調査、第三世代の博物館	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)
6	博物館の経営手法 ②:使命と評価	実施した事業にどのような成果があったのかを検証し、今後の改善に活かすことは、使命達成に向けて必要なことである。ここでは、博物館に評価が導入された背景、評価の際の使命の重要性、および博物館を評価する手法およびシステムについて紹介する。 【キーワード】 使命、評価の設計、自己点検、外部評価、PDCAサイクル	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)
7	ミュージアムショップとレストランの経営	博物館活動に必要な諸設備とともに、博物館の機能として経営の一部となっているミュージアムショップやレストランといった付帯施設の今日的在り方について説明する。 【キーワード】 ミュージアム経営、利用者サービス	山下治子 (雑誌「ミュゼ」編集長)	山下治子 (雑誌「ミュゼ」編集長)
8	指定管理者制度	2003年の法改正により新たに導入された指定管理者制度は、博物館経営にも大きな影響を与えている。指定管理者制度のしくみと制度導入の現状と課題について、いくつかの事例とともに解説する。 【キーワード】 地方自治法、指定管理者制度、官民連携、長崎歴史文化博物館、島根県立古代出雲歴史博物館	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)
9	博物館における危機管理	生起確率の減少や発生時被害の軽減といったリスク・マネジメントの基本的考え方や、因果関係がはっきりしない事象への対処や予想される損益の評価に対応する意思決定等について、博物館が直面する事象をもとに説明する。 【キーワード】 リスクの認知、不確実性、意思決定	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)
10	博物館における連携 ①:ボランティア・市民・地域社会その1	博物館運営の充実に欠かせないボランティアや市民、地域社会との連携のありかたについて、歴史系の地域博物館の事例を踏まえて解説する。 【キーワード】 市民、ボランティア、地域社会、地域連携、ネットワーク、生涯学習、まちづくり、地域振興	竹内有理 (長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー)	竹内有理 (長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	博物館における連携 ②:ボランティア・市民・地域社会その2	ボランティア・市民・地域社会といった博物館における連携について、連携・相乗効果・新たな価値の創造といった視点から、科学系博物館での活動事例を中心に説明する。 【キーワード】 地域連携、国際連携、相乗効果、新たな価値の創造	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事)	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事)
12	博物館における連携 ③:他館、他機関、学協会	他館・他機関・学協会といった博物館における連携について、連携の相乗効果や新たな価値の創造の視点から、科学系博物館の事例を中心に説明する。 【キーワード】 連携、相乗効果、目的・手段・成果	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事)	亀井修 (国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事)
13	事例紹介①:海外の博物館経営(イギリス)	博物館経営の重要性が注目されるようになった1980年代後半から現在にいたる、イギリスの博物館経営の取り組みについて、文化政策、経営戦略、資金獲得、社会的役割の視点から解説する。 【キーワード】 文化政策、経営戦略、資金獲得、社会的役割	竹内有理 (長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー)	竹内有理 (長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー)
14	事例紹介②:海外の博物館経営(アメリカの美術館)	アメリカでは多くの博物館が、非営利組織として経営されている。ここでは、非営利組織としての美術館に注目し、美術館経営に際して、最も重要視される使命(ミッション)や経営を支える「アーツ・アドミニストレーション」(芸術運営学)について説明する。 【キーワード】 ミッション(使命)、非営利組織、アーツ・アドミニストレーション、ファンドレイジング、寄附	鈴木一彦 (公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京準備機構プログラムオフィサー)	鈴木一彦 (公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京準備機構プログラムオフィサー)
15	事例紹介③:大学博物館の歴史と経営	大学博物館の歴史と日本におけるその現状を解説する。その上で、1990年代後半より整備され始めた、我が国のユニバーシティ・ミュージアム設置の経緯、その使命、および活動の現状を見ていく。現状については、北海道大学の総合博物館および植物園を事例に紹介する。 【キーワード】 大学博物館、ユニバーシティ・ミュージアム、北海道大学総合博物館、北海道大学植物園	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570013	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 問題解決の数理 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：大西 仁（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）： 〕

講義概要

本講義では、身の回りを含めて社会に遍在する問題、特に決定問題を数理モデルを用いて解く方法を解説する。問題の目的や制約条件を数理モデルで定式化することにより、計算機に問題を解かせることが可能になり、手計算では解けない複雑な問題でも解けるようになる。このような方法は工学のあらゆる場面で使われているだけでなく、経営や行政の場面でも広く使われている。実用レベルの問題は計算機で解く必要があり、そのためのソフトウェアも普及していることから、解法の数学的詳細より、具体的な問題を簡単な数式により定式化することに重点をおく。理解を助けるために多様な分野の応用例を交え解説する。

授業の目標

問題を解く計算は計算機に任せることができるが、問題を数理モデルとして定式化するのは問題を解決する人間が行う必要がある。したがって、具体的な問題を数理モデルとして定式化できるようになることが、全受講生の最初かつ最大の目標である。問題の解法の特徴を理解していると、より効率的に解を得られることがある。また、より専門的な学習を円滑にすることから、解法の考え方と特徴を理解し、問題に対して適切な方法を選択できるようになることが、特に問題の解法に興味を持つ受講生の一歩進んだ目標となる。

履修上の留意点

高校で習う数学のうち、主に一次連立方程式、連立不等式、幾つかの章では初歩的な微分法と確率を用いる。これらの分野の学習には、高校数学の教科書・(初等レベルの)参考書やオンライン学習システム(UPO-NET)の「リメディアル数学」等を利用するとよい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	数理的アプローチによる問題解決	数理モデルによる問題解決の意義と手順の概要について述べる。次いで、本講義の中核となる数理計画法の概要について述べる。さらに、計算量の概念について簡単に解説する。 【キーワード】 数理モデル、最適化、意思決定、オペレーションズ・リサーチ (OR)、計算量	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
2	線形計画法(1):一次式による問題の定式化	線形計画法は、目的と制約条件を一次式で記述し、制約を満たす最適解を求める手法である。制約のある資源で最大の効果を得たり、最小のコストで目的を達成するために用いられる。線形計画問題について応用例を交え解説する。 【キーワード】 線形計画問題、生産計画問題、輸送問題	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
3	線形計画法(2):線形計画問題の解法	形計画問題の最適解を求める代表的なアルゴリズムであるシンプレックス法について解説する。 【キーワード】 線形計画法、標準形、シンプレックス法、2段階シンプレックス法	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ネットワーク計画法	ネットワーク計画問題は、点と点が線で結ばれたネットワーク上で、特定の目的に関する最適解を求める問題で、最短経路の発見や通信ネットワークの設計などがそれにあたる。ネットワーク計画問題とその解法について応用例を交え解説する。 【キーワード】 グラフ、ネットワーク、最短路問題、最大流問題	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
5	スケジューリング:プロジェクトの管理	プロジェクトとは特定の目的を達成するための作業群のことであり、プロジェクトを構成する各作業の開始時刻を定めた計画をスケジュールと呼ぶ。本章では、プロジェクトを効果的・効率的に遂行するためのスケジュールを作成する方法について解説する 【キーワード】 プロジェクト、スケジューリング、PERT	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
6	在庫管理	在庫管理問題とその解法について解説する。工場や小売店で在庫を余計に抱えることは、保管コストの増加や時間経過による商品の価値低下を招く。一方、在庫切れは利益を得る機会の損失である。在庫を適切に管理することが経営において重要である。 【キーワード】 在庫管理、経済発注量、定量発注方式、定期発注方式、ABC分析、ロットサイズ決定問題	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
7	階層分析法:主観と勘を有効活用する意思決定	階層分析法の代表的な方法について解説する。階層分析法(Analytic Hierarchy Process; AHP)は、複数の選択基準からなる代替案の選択問題において、問題を目標、選択基準、代替案の3階層に分け、各階層において比較評価を行い、総合評価にまとめる。客観評価ができずに、決定者の主観や勘に頼らざるを得ない場面で特に威力を発揮する。 【キーワード】 階層分析法、AHP (Analytic Hierarchy Process)、一対比較	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
8	ゲーム理論:協調と競合の数理(1)	ゲーム理論の初歩的な事項について解説する。ゲーム理論は、利害の必ずしも一致しない状況における合理的意思決定や合理的配分方法を数理的に分析する方法である。政治、経済、軍事、経営、社会など幅広い応用分野を持つ。 【キーワード】 ゲーム理論、ナッシュ均衡解、マックスミニ戦略、混合戦略	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
9	ゲーム理論:協調と競合の数理(2)	前回に引き続きゲーム理論について解説する。展開型ゲーム、無限繰り返しゲームによる協調の出現、ゲーム理論によるオークションの分析について述べる。 【キーワード】 展開型ゲーム、先読み推論(逆向き推論)、繰り返しゲーム、協調、オークション	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
10	統計的決定:不確実状況下での決定	統計的意思決定の方法について解説する。現実世界では、決定に関わる状況に不確実性が伴うことが多い。不確実性が伴う状況で合理的に決定を行うためには、統計的なアプローチが必要である。統計的決定法として期待効用最大化原理について解説する。次いで、パタン認識と信号の検出について統計的決定の観点から述べる。 【キーワード】 効用、主観確率、期待効用最大化原理、パタン認識、信号検出理論	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	問題の状態空間モデルと探索	問題の解決の状態空間モデルと状態空間を含むグラフの探索法について解説する. 問題解決は, 状態空間を探索して初期状態からゴールへ至る系列を発見することと定式化することもできる. パズルやゲームなどを状態空間の探索により解くことは, 人工知能の最初期からの研究課題であったが, 1990年代にはチェスの世界チャンピオンに勝利するほど探索の技法は高度化した. 探索技法はパズルやゲームに限らず, 様々な問題解決のツールとして利用できる. 【キーワード】 状態空間モデル, 系統的探索, ヒューリスティック探索	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
12	組み合わせ計画法	組み合わせ計画問題とは, 条件を満たす変数の組み合わせの中で最適なものを求める問題である. 組み合わせ計画問題は実世界にあふれている. その多くは解くための計算量が莫大になり, 素朴な探索では解くことができないが, 様々な工夫が施され, 年々規模の大きな問題を解くことができるようになっていく. 代表的な組み合わせ計画問題と解法について解説する. 【キーワード】 組み合わせ最適化問題, 分枝限定法, 貪欲法, 計算量	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
13	非線形計画法	非線形計画法は, 目的と制約条件を表す数式に非線形なものを含むものについて, 制約を満たす最適解を求める手法である. 現実世界の問題では線形計画法で定式化できない問題は多い. また, 統計モデルのパラメタ推定や機械学習でも非線形計画法は利用されている. 非線形計画法のうち, 制約のない非線形計画法の代表的な方法について解説する. 【キーワード】 非線形計画法, 最急降下法, ニュートン法	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
14	統計モデル	統計モデルは, 誤差を含むデータの背後にある規則性, そのようなデータを発生させる仕組みを数式で表したものである. 統計モデルにより誤差を含む観測データから現象を分析したり, 予測を行うことができる. 統計モデルの構築法と代表的な統計モデルについて解説する. 【キーワード】 統計モデル, 回帰モデル, パラメタ推定, 最小二乗法, 尤度, 最尤推定法	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)
15	メタヒューリスティクス	メタヒューリスティクスの代表的な手法を解説する. 数理的な問題を解くための計算技術や計算機の性能向上により, 複雑な問題を解くことができるようになった. しかし, 現実の問題にはさらに複雑な問題があふれている. そこで, 質の良い近似解を高速に得る方法であるメタヒューリスティクスが盛んに研究されている. 【キーワード】 メタヒューリスティクス, 局所探索法, タブー探索法, 遺伝的アルゴリズム	大西仁(放送大学准教授)	大西仁(放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570021	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ コンピュータと人間の接点 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：黒須正明（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：暦本純一（東京大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

ヒューマンインタフェースという領域は、情報科学を中心にして比較的最近発達してきたものです。ここでは、その領域について、まずインタフェースという基本概念を、次いで人間についてその多様性や社会的側面などを学びます。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30年ほどの間に開発されてきた様々な技術について学びます。

授業の目標

人間とコンピュータとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につけます。

履修上の留意点

関連授業として「情報機器利用者の調査法」を履修することが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	概念: インタフェースとは	＜目標&ポイント＞ インタフェースというのは、異質なものが接する場のことで、ヒューマンインタフェースという用語は、人間と機械、人間とコンピュータのような異質なものが接する場を意味する言葉として使われている。そうしたインタフェースの構造をモデルによって表現することもある。この回では、それらを概観し、さらに本コースの全体の説明を行う。 ＜キーワード＞ マンマシンインタフェース(MMI)、マンコンピュータシンバイオシス、ユーザインタフェース(UI)、ヒューマンインタフェース(HI)、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)、界面、接面、第一接面と第二接面、ノーマンモデル、ラスムッセンモデル、メンタルモデル	黒須正明(放送大学、教授) 暦本純一(東京大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授) 暦本純一(東京大学、教授)
2	人間1: 身体・生理的特性	＜目標&ポイント＞ ヒューマンインタフェースを適切なものにするためには、人間の特性を知っておく必要がある。ここでは、それらの特性のうち、主に動作や行動に関連する身体特性や生理的特性、感覚的特性などを研究してきた人間工学の成果を学ぶ。 ＜キーワード＞ 人間工学、労働科学、規格、ガイドライン、身体計測、疲労、タスク分析、ヒューマンエラー、フィッツの法則、ヒックの法則、覚醒水準、視認性、機能割り付け	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
3	人間2: 認知的特性	＜目標&ポイント＞ ヒューマンインタフェースを適切なものにするためには、人間の特性を知っておく必要がある。今回は身体・生理的特性に関して人間工学の成果を説明したが、今回は感覚・知覚・認知に関する認知心理学の成果について学ぶ。 ＜キーワード＞ 感覚、知覚、認知、ウェーバー、フェヒナー、スティーブンス、ゲシュタルトの法則、順応水準、マジックナンバー、アフオーダンス、メタファ、一貫性、学習曲線、転移、再生、再認、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、宣言的記憶、手続的記憶、マッピング、行動スキーマ、メンタルモデル	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ものづくり1: インタフェースデザイン	<目標&ポイント> インタフェースを設計するために欠かすことができないのは、デザインのアプローチである。それは単に外観形状をつくるものではなく、モノやコトのコンセプトをデザインすることである。そうしたデザインアプローチの特徴や多様なアプローチについて学ぶ。 <キーワード> グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、インタラクションデザイン、タスク分析、課題分析、動作分析、メタファ、アフォーダンス、プロトタイピング、マルチメディア、マルチモーダル、ノンバーバルインタフェース	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
5	ものづくり2: ユーザビリティとUX	<目標&ポイント> 人々が利用するものは、ユーザビリティつまり利用品質が高く使いやすいものでなければならないが、そうした品質の水準を向上させるだけでなく、結果的にユーザに満足を与えるものでなければならない。そうした考え方をユーザエクスペリエンス(UX)の立場から学ぶ。 <キーワード> ユーザビリティ、ISO9241-11、ISO13407、ISO9241-210、ユーザエクスペリエンス、UX、感性	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
6	ものづくり3: 人間中心設計	<目標&ポイント> 人間に適したインタフェースを設計するためには、人間中心設計という考え方にもとづき、ヒトから情報を得て、理解を深めながら作業を進めてゆく必要がある。その考え方はPlan Do Check ActというPDCAサイクルと共通したもので、そうしたものづくりプロセスの基本を学ぶ。 <キーワード> 人間中心設計、HCD、ISO9241-210 (ISO13407)、ウォーターフォール、反復、RFP、アジャイルHCD、PDCA、PDSA、設計プロセス、ISO16982	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
7	ものづくり4: 設計プロセス	<目標&ポイント> ここでは第6回で説明した設計プロセスを具体的に推進するための手法について説明する。具体的にはISO9241-210で提示された、利用状況の理解と明確化、ユーザの要求事項の明確化、デザインによる解決案の作成、評価という四つの段階における具体的な活動の進め方を学ぶ。なお、これは前回学んだISO/TR16982(表6-1)とも関係している。 <キーワード> ユーザ調査、フィールドワーク、インタビュー、観察、ペルソナ、シナリオ、ペーパープロトタイプ、評価、ユーザビリティテスト、エキスパートレビュー	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
8	ものづくり5: 人工物ライフサイクル	<目標&ポイント> 人工物のヒューマンインタフェースは設計したら終わりではない。デザインされたものが実際に使われる最中が重要であり、最後は環境や資源枯渇に配慮して廃棄されなければならない。そうした長期間における人工物のあり方や設計開発のあり方について、ライフサイクルマネジメントの考え方を基軸にして、人工物発達学の考え方も取り入れながら学ぶ。 <キーワード> ライフサイクル、長期的ユーザビリティ、ユーザーズアワード、サステイナビリティ、ユーザビリティ成熟度、UMM、人工物発達学	黒須正明(放送大学、教授)	黒須正明(放送大学、教授)
9	技術1: コンピュータとのインタラクション	<目標&ポイント> この章からは、人間とコンピュータとのインタラクションを構成する技術について学んで行く。この章ではまずコンピュータと人間の接点の歴史を振り返り、現在のようなコンピュータがどうやって成立していくのかを理解する。 <キーワード> インタラクション、Memex、知的拡張・メディアとしてのコンピュータ、ハイパーテキスト、GUI、直接操作	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)
10	技術2: 入力	<目標&ポイント> インタフェース技術の基本要素は、人間の意図をコンピュータに伝えるための入力技術と、コンピュータが情報を人間に伝えるための出力技術である。その組み合わせによってインタフェースは成立するが、人間とコンピュータそれぞれに得手不得手がある。どんな入出力の組み合わせによって目的を達成するかがインタフェースデザインの要といえる。 <キーワード> インタラクションモデル、インプットデバイス、自由度、フィードバック、フィッツの法則、マルチタッチ、ジェスチャー	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	技術3: コミュニケーション	<目標&ポイント> 人間の社会的側面を支援するコミュニケーション技術は、ヒューマンインタフェースのなかでも重要なものである。コンピュータやネットワークによって、空間的にはなれた人どうしでコミュニケーションをはかったり共同作業を行ったりすることができるようになっている。また、ロボットを介した遠隔地とのコミュニケーションなど、さまざまな形態のコミュニケーションが登場している。この章では、コミュニケーションのユーザインタフェースについて学んで行くことにする。 <キーワード> コミュニケーション、非言語情報、共同作業、テレプレゼンス、テレイグジスタンス、臨場感通信、サロゲート、アバター	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)
12	技術4: 新しいインタフェースⅠ: 仮想現実感(VR)と拡張現実感(AR)	<目標&ポイント> われわれは現実世界の中で生活しているが、同時にインターネットや情報機器が作り出す情報世界の中で活動を行っているとも言える。コンピュータの中にあたかも現実のような環境を作り出す技術が仮想現実感(ヴァーチャルリアリティ)であり、現実世界にコンピュータの情報を付与してさらに拡張しようとするのが拡張現実感(オーグメンティッド・リアリティ)である。この章では、二つの現実感に関するインタフェースとその応用について学んで行くことにする。 <キーワード> 仮想現実感(VR)、拡張現実感(AR)	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)
13	技術5: 新しいインタフェースⅡ: 情報に対するUI	<目標&ポイント> われわれの生活や社会は、膨大なデジタル情報に取り囲まれている。この膨大な情報をわかりやすく利用者に提示する情報視覚化技術など、情報に対するインタフェースをこの章では学んで行く。また、人間がものを記憶し思い出す行為をインタフェースによって強化しようという記憶強化型のインタフェースについてもいくつかの事例を通じてその可能性を考えて行くことにする。 <キーワード> 情報視覚化、記憶の強化、ライフログ、Focus+Context、集合知、ソーシャルフィルタリング	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)
14	技術6: 新しいインタフェースⅢ: 環境	<目標&ポイント> 従来のユーザインタフェースは単一の装置と人間の間の問題として考えられることが多かった。しかし、今後の世界では、我々の生活環境全体をインタフェースとして考えることが必要になる。この章では、このような、われわれを取り囲む現実世界全体とコンピュータが浑然一体となって機能する、ユビキタスコンピューティングの世界におけるインタフェースについて学んで行く。 <キーワード> ユビキタスコンピューティング、パーベイシブコンピューティング、複数機器の連携、RFID、位置認識、位置や物体に応じたインタラクション	暦本純一(東京大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授)
15	まとめと今後の展望	<目標&ポイント> この章では、いままでの講義で学んできたことをふりかえり、これからの「コンピュータと人間の接点」がどのように発展するかについて考えてみることにする。従来、人間がコンピュータを使う際のユーザビリティ向上として進展してきたユーザインタフェースだが、コンピュータと人間の関わりはそれにとどまらず、さまざまな広がりを持つようになってきている。コンピュータを使うことが目的だけでなく、社会や実世界の構成基盤としてのコンピュータと人間との接点が重要になる。また、人間の能力を向上・補完するためのコンピュータや、健康促進のためのインタフェースなどの可能性が生まれている。この章では、コンピュータと人間の関わりと産業の進展を俯瞰し、コンピュータと人間の接点は、産業の発展段階を逆にたどりながら、人間や社会のより基盤的レベルにまで浸透していくことをみていく。そして、今後の発展が期待される新しい分野についていくつか紹介していくことにする。 <キーワード> コンピュータと人間の接点、インタフェース、人間の拡張、情報、身体、健康、空間、ファブリケーション	暦本純一(東京大学、教授) 黒須正明(放送大学、教授)	暦本純一(東京大学、教授) 黒須正明(放送大学、教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570030	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ メディアと学校教育 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 中川 一史（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 苑 復傑（放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

初等中等教育におけるメディア、高等教育におけるメディアを活用した授業、教育に係る著作権の問題、メディアを活用した障害者のための教育、教育におけるeラーニングなど、メディアと学校教育に関する基礎知識を幅広く扱う。
授業では、インターネット上のツールなどを活用したインタラクティブな実習を可能な限り取り入れる。

授業の目標

学校教育におけるメディアの位置づけや活用に関する知識を習得し、他の関連科目でさらに学習を深めるようにする。

履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	オリエンテーション及び初等中等教育におけるICT活用の考え方	15回の解説をするとともに、学習指導要領などでICT活用についてどのような現状であるか解説する。 【キーワード】 初等中等教育、学習指導要領、ICT活用	中川一史・教授	中川一史・教授
2	初等中等教育におけるICT活用の事例	初等中等教育における各教科各校種でインターネットや電子黒板等のICT機器がどのように活用されているか解説する。 【キーワード】 初等中等教育、ICT活用、各教科、各校種	中川一史・教授	中川一史・教授
3	初等中等教育における情報モラルの指導	情報社会における児童・生徒の関わり方の状況や、初等中等教育における情報モラル教育に関する概要について解説する。 【キーワード】 初等中等教育、情報モラル、学習指導要領	中川一史・教授	中川一史・教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	高等教育におけるICT利用ーアメリカの事例	ICTを利用した高等教育は、その技術的な形態のみに直目するのではなく、その背後にある、高等教育機会の需要と供給という構造的な視点から考察する必要がある。本章ではまず、高等教育におけるICT利用の概念を整理し、ICT利用が急速に進行するアメリカの事例を、ICTの補完機能、代替機能、拡張機能を考察する。 【キーワード】 情報通信技術、ICT、大学教育、遠隔高等教育、OCW、グローバル化、市場化、補完機能、代替機能、拡張機能	苑 復傑・教授	苑 復傑・教授
5	高等教育におけるICT利用ー日本の事例	ICTという技術は各国に大きな違いはないが、その高等教育での利用は各国の社会と大学の在り方を反映して大きく異なる。本章では日本の大学の授業におけるICT利用、インターネットを経由した授業、教育課程の現状と問題を外観し、それをもとに日本の高等教育におけるICT利用の特質と課題を考える 【キーワード】 情報通信技術、ICT、ソーシャル・ネットワーク、LMS、eポートフォリオ、インターネット授業、インターネット教育課程、OCW	苑 復傑・教授	苑 復傑・教授
6	高等教育におけるICT利用ー中国の事例ー	中国においてはICTやデジタル化された教育資源の活用が高等教育の発展戦略の一つの焦点となっている、本章では改革・開放政策後の中国高等教育のダイナミックな拡大、遠隔高等教育の第一世代としての広播電視大学、第二世代としてのネット教育学院の概要を紹介し、市場化とグローバル化の中での中国遠隔高等教育の将来を展望する。 【キーワード】 中国の高等教育、遠隔高等教育、広播電視大学、ネット教育学院(原語: 網絡教育学院)、グローバル化、市場化、支援組織	苑 復傑・教授	苑 復傑・教授
7	障害のある子どもの教育	特別支援教育の考え方と意義、その導入の経緯をおさえた上で、特別支援学校におけるメディア活用に焦点をあてる。 【キーワード】 特別支援教育・特別支援学校・小・中学校のメディア活用	広瀬洋子・教授	広瀬洋子・教授
8	障害のある子どもの教育とメディア活用	それぞれの障害特性をふまえた上で、どのようなメディア機器やメディア活用によって、サポートできるのか、実際の情報支援機器を紹介しながら考えてみたい。 【キーワード】 障害特性・特別な教育的ニーズ	広瀬洋子・教授	広瀬洋子・教授
9	高等教育における障害者とメディア活用	日本の高等教育における障害者支援の変遷を概観しつつ、メディアを活用した支援のあり方を視覚障害・聴覚障害への支援の観点から学ぶ。学習の根幹にかかわる「読む」「聞く」「書く」の困難を乗り越えるメディア活用について理解を深めていく。 【キーワード】 大学・障害学生・メディア活用	広瀬洋子・教授	広瀬洋子・教授
10	学校教育と著作権その1	学校教育においては、様々な教材が使用され、様々な作品が作成されているが、その多くは著作権法により保護される著作物である。そのため、どのようなものが著作物か、著作物を創作した著作者はどのような権利を有しているか解説する。 【キーワード】 著作物、著作者、著作者人格権、著作権、保護期間	尾崎史郎・教授	尾崎史郎・教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	学校教育と著作権その2	著作権法では、著作物だけでなく、実演、レコード、放送等も保護対象としている。学校教育においては、既存の実演を利用するだけでなく、生徒自ら実演することも多い。そのため、実演家等はどのような権利を有しているか解説する。また、日常生活や学校教育に関係深い権利制限である私的使用のための複製や引用について解説する。 【キーワード】 実演家の権利、レコード製作者の権利、放送事業者の権利、権利制限	尾崎史郎・教授	尾崎史郎・教授
12	学校教育と著作権その3	教育機関における複製等、試験問題としての複製等、営利を目的としない上演等など、学校教育に関係深い権利制限を中心に、どのような条件を満たせば著作物等が利用できるのかなど、著作物等の利用について解説する。 【キーワード】 権利制限、教育機関における複製等、試験問題としての複製等、営利を目的としない複製等、利用の許諾	尾崎史郎・教授	尾崎史郎・教授
13	学習コンテンツの種類と特徴	国内のICT活用教育の俯瞰的な実施状況を学習コンテンツと交えて述べる。続いて、授業で用いるメディアについて、どのような種類があるか、その特徴を交えて取り上げ、それらの形態を踏まえて、学習コンテンツの種類と特徴について紹介する。 【キーワード】 ICT活用教育の実施状況、コンテンツの種類、コンテンツの特徴	辻 靖彦・准教授	辻 靖彦・准教授
14	コンテンツの制作と配信	学習コンテンツを制作するための素材の準備、コンテンツ編集、インターネットを利用した共有・配信方法について解説する。さらに、インターネット上の学習コンテンツ共有・配信サービスを取り上げる。 【キーワード】 コンテンツ制作、インターネット配信、コンテンツ共有、オープンコースウェア	辻 靖彦・准教授	辻 靖彦・准教授
15	eラーニングのツールとシステム	eラーニングやICT活用教育を行う上で基盤となるLMS(Learning Management System)の基礎について解説する。 【キーワード】 eラーニング、Web、LMS、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、eポートフォリオ	辻 靖彦・准教授	辻 靖彦・准教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	連結リスト	連結リストへのデータの探索、挿入、削除等の基本的な操作について学ぶ。また、連結リストと配列との操作効率の違いや、連結リストを拡張した環状リストや双方向連結リストの仕組みについて学習する。 【キーワード】 連結リスト、探索、挿入、削除、分割、マージ、環状リスト、双方向連結リスト	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
5	ツリー	ツリー構造とツリーに関する用語について学ぶ。特に基本的なデータ構造であるバイナリツリーとバイナリサーチツリーの特徴や性質について学習する。 【キーワード】 ツリー、ノード、エッジ、バイナリツリー、バイナリサーチツリー、ツリーの走査、最小値、最大値	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
6	バイナリサーチツリー	バイナリサーチツリーに対する基本的な操作、探索、挿入、削除について学ぶ。また、バイナリサーチツリーの特徴、バイナリサーチツリーの操作に関する計算量について学習する。 【キーワード】 バイナリサーチツリー、探索、挿入、削除、順序内後継者、順序内前任者、計算量、平均計算量、最悪の計算量	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
7	ツリーの応用	マルチウェイツリー(多分木)の特徴について学ぶ。例として、クアドツリー(四分木)やオクトツリー(八分木)の構造を理解する。また、平衡木(バランストツリー)の仕組みと性質について学習する。 【キーワード】 マルチウェイツリー、多分木、クアドツリー、四分木、オクトツリー、八分木、平衡木、Bツリー	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
8	ハッシュテーブル	ハッシュ法はデータの数に関係なく定数計算量で、データの探索、挿入、削除を行うことができる最速の探索手法である。本章では、ハッシュテーブル、ハッシュ関数、ハッシュ値の衝突について学ぶ。また、連鎖法、オープンアドレス法の特徴について学習する。 【キーワード】 ハッシュ法、ハッシュ関数、ハッシュ値の衝突、連鎖法、オープンアドレス法、線形探査、平方探査、ダブルハッシング	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
9	再帰	再帰の仕組みと再帰プログラムについて学ぶ。再帰プログラムは自分自身を繰り返し呼び出し、そのたびに異なる引数を渡していくものである。末尾再帰、再帰とスタックの関係、末尾再帰プログラムと反復プログラムの関係について学習する。 【キーワード】 再帰、再帰呼び出し、末尾再帰、スタック、反復プログラム、フラクタル図形	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
10	基本的なソーティング	データをキーの値の大小関係に従って並べ替える操作であるソーティング(整列)について学習する。基本的な3つのソーティング、バブルソート、選択ソート、挿入ソートの特徴について学ぶ。 【キーワード】 バブルソート、選択ソート、挿入ソート、昇順・降順、安定なソート、計算量の比較	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	高度なソーティング	高度なソーティングの例として、クイックソート、マージソートの特徴について学ぶ。 【キーワード】 クイックソート、マージソート、計算量の比較	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
12	ヒープ	ヒープはツリーの一種であり、ノードの挿入と削除を高速に行うことができる。本章ではヒープの基本的な仕組みについて学ぶ。また、ヒープを応用した優先度つきキューとヒープソートについて学習する。 【キーワード】 ヒープ、ヒープ条件、挿入、削除、ヒープと配列、優先度付きキュー、ヒープソート	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
13	グラフ	グラフのデータ構造について学習する。グラフに関する用語と意味、そして、コンピュータにおけるグラフの表現方法、深さ優先探索 (DFS)、幅優先探索 (BFS) 等のグラフの探索アルゴリズムについて学ぶ。 【キーワード】 頂点、エッジ、隣接リスト、隣接行列、深さ優先探索 (DFS)、幅優先探索 (BFS)	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
14	グラフの応用	最小全域木や有向無循環グラフについて学習する。そして、最小全域木を求めるプリム法の概要を理解する。最短経路問題を解くアルゴリズムには、どのようなものがあるか学習する。 【キーワード】 最小全域木、MST、有向無循環グラフ、DAG、プリム法、クラスカル法、最短経路問題、ダイクストラ法	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)
15	データ構造の選択とプログラミング	基本的なデータ構造の仕組みと特徴を理解する。そして、与えられた問題に対し、適切なデータ構造を選択できるようにする。代表的なソーティング手法の長所と短所について理解する。グラフのアルゴリズムに関する計算量を比較する。 【キーワード】 プログラミング、データ構造、計算量、ソーティング、オブジェクト指向、ソフトウェアエンジニアリング、抽象データ、デバッグ、最適化	鈴木一史(放送大学・准教授)	鈴木一史(放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570056	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ コンピュータの動作と管理 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 葉田 善章（放送大学准教授） 〕
 〔主任講師（現職名）： 〕
 【本学担当専任教員： 】【

講義概要

コンピュータはハードウェアとソフトウェアが組み合わさって初めて動作が実現される装置である。コンピュータの利用やソフトウェアの開発では、ハードウェアを管理し、アプリケーションソフトウェアの動作に必要な機能を提供するオペレーティングシステム（OS、基本ソフトウェア）と呼ばれるソフトウェアが用いられることが多い。本科目では、パソコンや家電に組み込まれるマイコンなどを例にしながら、コンピュータの基本的な動作、オペレーティングシステムが持つ機能、コンピュータの利用について学ぶ。

授業の目標

コンピュータの基本的な演算のしくみや動作、コンピュータが持つ計算機資源の管理について学ぶことを通して、コンピュータのしくみについて理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

履修は必須ではないが、関連する科目は、「コンピュータのしくみ('14)」、「情報の世界('10)」である。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
1	コンピュータの動作と管理	コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成されている。本回では、コンピュータを構成するソフトウェアとハードウェアの概要について説明するとともに、本科目の概要について述べる。 【キーワード】 ソフトウェア, ハードウェア, オペレーティングシステム, 計算機資源	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
2	演算装置のしくみ	コンピュータのハードウェアの違いを考えることを目的として、主要装置の一つである演算装置のしくみを直感的に考える。演算装置は論理回路により構成されており、性能向上のためにさまざまな工夫がなされている。コンピュータの性能を決めるプロセッサの動作や構成について理解する。 【キーワード】 プロセッサ, ALU, 論理演算	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
3	演算装置による命令実行	プロセッサはプログラムを構成する命令をどのように実行するのだろうか。コンピュータの演算装置で命令を実行するしくみについて学習する。プログラムを記述する言語、命令の構成や種類について概説し、プロセッサの命令に対するアプローチの違いであるCISCとRISCについて紹介する。 【キーワード】 命令, 機械語, 命令実行, レジスタ, 実行サイクル, 命令の種類	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
4	プロセッサと周辺機器の通信	コンピュータは、接続された周辺機器の制御や、データの受け渡しをするため、入出力インターフェースが備わっている。本回では、規模の小さなプロセッサで採用されることが多い、レジスタを入出力ポートに使う方式に注目し、そのしくみを考える。また、プロセッサと周辺機器を接続し、データのやりとりを行うバスについて理解する。 【キーワード】 周辺機器、プロセッサ、入出力ポート、バス	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
5	効率的なプログラム実行	コンピュータの命令は、通常、アドレスの小さい順に実行される。一方で、キーボードやマウスなどの入力機器やモニターやプリンタなどの出力装置への対応、データ転送の待ち受けなどの対応によって、プログラム実行の流れが変更されることがある。本回では、コンピュータに接続されたデバイス等に対する処理を効率的に行うしくみである、割り込みについて説明する。 【キーワード】 割り込み、タイマー割り込み、スケジューリング	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
6	補助記憶装置とデータ記憶	コンピュータで作成したデータは、ハードディスクやSSD、USB メモリなどの補助記憶装置に保存されることが一般的である。保存するデータは抽象化され、ファイルと呼ばれる形で取り扱われることにより、補助記憶装置に保存される。抽象化やファイルの取り扱い、補助記憶装置のデータ記憶について学ぶ。 【キーワード】 抽象化、ファイル、フォルダ、補助記憶装置	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
7	OS構造と周辺機器	コンピュータは、周辺機器と組み合わせて利用されることが一般的である。OSは、周辺機器を利用するためにデバイスドライバを組み込み、周辺機器を利用可能にする。デバイスドライバの組み込みや、OS が周辺機器を利用するしくみを学ぶため、ソフトウェアの構造化やOS のアーキテクチャを学ぶ。また、データ転送を高速化する方法について学ぶ。 【キーワード】 OS の構造、ソフトウェア構造化、周辺機器の利用、デバイスドライバ、データ転送の高速化	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
8	プログラム実行の管理	OS が提供するプログラムを実行するしくみについて考える。プロセスやスレッドと呼ばれる単位で実行するしくみや、仮想プロセッサをプロセスやスレッドに割り当て、マルチタスク処理と呼ばれる同時実行を行うしくみについて学ぶ。また、ハードウェアやOS によるプロセスやスレッドの管理について学ぶ。 【キーワード】 プロセス、スレッド、プログラム処理、スケジューリング	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
9	プロセスの協調動作とメモリ	OS が実行するプロセスやスレッドを協調して実行するしくみについて考える。プロセスが資源を利用する場合などに必要となる相互排除やセマフォ、デッドロック、プロセス間で実行状況をデータ交換で使われるプロセス間通信について学ぶ。また、プログラム実行で必要となるメモリ管理や仮想メモリについて学ぶ。 【キーワード】 プロセスの協調、メモリ管理、仮想記憶	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
10	記憶装置とOS起動	コンピュータで使われる記憶装置である半導体メモリや、リムーバブルメディアについて考える。メインメモリに使われるRAM やUSB メモリなどのフラッシュメモリなどの働きや、リムーバブルメディアの記録方式や利用について学ぶ。また、OS の起動や終了、コンピュータの省電力動作モードであるサスペンドやハイバネーションについて学ぶ。 【キーワード】 半導体メモリ、リムーバブルメディア、起動、省電力動作モード	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
11	OSの種類と基本動作	OS は、コンピュータで目的とする処理を実現するために利用される。OSの種類や、プログラム実行を制御するスケジューリングについて学ぶ。また、パソコンなど利用者を対象とする汎用OSや、機器の制御を対象とする組み込みOS についても学ぶ。 【キーワード】 OS の種類、スケジューリング、汎用OS、組み込みOS、リアルタイム処理	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
12	OSとソフトウェア開発	ソフトウェア開発は、効率的に進めるためにOSを用い、必要な機能を持つプログラムを組み合わせて行うことが多い。パソコンや組み込み機器の開発を例に、OS の利用や選択、プログラムからOS機能を利用する方法について学ぶ。また、開発環境や、プログラムの互換性、環境に依存しないプログラム、サービスの変化に対応するしくみについても学ぶ。 【キーワード】 OS の利用や選択、プログラム開発、ソフトウェア再利用、プログラムの動作環境	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
13	ユーザーインターフェース	OS やハードウェアが提供するユーザーインターフェースについて学ぶ。コンピュータ利用形態の移り変わりの概要や、本科目で学ぶインターフェースの分類、GUI の設計やキーボード、マウスなどの入出力インターフェース、モバイル端末のインターフェース、ウェアラブルコンピューティングについて紹介する。 【キーワード】 コンピュータ利用の遷移、ユーザーインターフェース、GUI	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
14	OSとセキュリティ	コンピュータのOS は、複数の利用者が利用できるマルチユーザー機能を持つことが多い。OS が管理するファイルなどの資源を保護するアクセス制御について学ぶ。また、コンピュータを安心して利用するためセキュリティについて考えるとともに、暗号化について学ぶ。 【キーワード】 マルチユーザー、アクセス制御、セキュリティ、暗号化	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)
15	コンピュータの利用形態とOS	本科目のまとめとして、ネットワークを利用したコンピュータの利用形態である、ユビキタスコンピューティングや、クラウドコンピューティングについて学ぶ。ユビキタスコンピューティングで用いられることがある特定用途向けOS について、IC カードやセンサネットワークを構成するセンサを例にして学ぶほか、クラウドコンピューティングで用いられる、1 台のコンピュータで複数のOS を同時に動作可能とする仮想化技術について学ぶ。 【キーワード】 ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング、IC カード、センサ、仮想化技術	葉田善章 (放送大学・准教授)	葉田善章 (放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570102	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ コンピュータのしくみ （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [How Computers Work ('14)]

〔主任講師（現職名）：岡部 洋一 （放送大学長） 〕

※この科目は「コンピュータのしくみ（'08）」の一部改訂科目です。
改訂回は第1回と第15回です。

講義概要

現在、コンピュータは、各種電算機処理のみならず、インターネット上のサーバーや一般家庭にもパソコン、家電製品内のマイコンという形で、オールマイティの情報処理を行う正に頭脳の役割をしているが、その内容についてはあまり理解されていない。ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシーケンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、一見複雑そうに見える情報処理機械が実は簡単な回路の大規模な合成によって構成されていることを理解し、またコンピュータを動かすプログラムとの関連を理解することを目標とする。コンピュータを単なるブラックボックスとして理解するのではなく、その原理を理解することにより、どんな情報処理機械でも設計できるようになることを最終の目標とする。

履修上の留意点

※この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	デジタルとアナログ (第1章) 【改訂回】	わかっているようでわかっていない「デジタル」という用語を「アナログ」との比較から説明し、デジタルでは各種の物理的情報をどう表現し、どう処理するかについて概念的な理解を深める。さらに、現在、急速にデジタル処理が増えてきた理由、デジタル処理の歴史について説明する。 【キーワード】 デジタルとアナログ、連続量と不連続量、トランジスタとLSIの発展	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
2	スイッチ素子(第2章 - 第3章 3.2節)	論理回路の要素となるスイッチ素子について紹介し、現在のコンピュータがトランジスタの集合体である集積回路で構成されていることを学ぶ。さらに、論理を作るための基本構成要素であるNOT、AND、ORについて、その動作を理解し、基本論理回路でもっとも重要なNOTをトランジスタを使ってどう実現するかを示す。 【キーワード】 スイッチ素子、トランジスタ、集積回路、基本論理、NOT、AND、OR	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
3	基本論理回路と組合 せ論理回路(第3章残 り - 第4章 4.3節)	ANDとORに対し、トランジスタで実現しやすいNAND、NORの回路の動作と構成を学ぶ。さらに、こうした機能要素を組み合わせて実現できる組合せ論理回路という概念をEORや加算器を例に理解する。 【キーワード】 基本論理回路、NAND、NOR、組合せ論理回路、EOR、加算器	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	組合せ論理回路の構成法(第4章 残り)	多入力多出力を持った任意の論理回路を実現する一般的方法を示し、これらがNOT、AND、ORの組合せだけで構成できることを示す。さらにAND、ORをNANDで置き換えることにより、どんな組合せ論理回路もNANDだけで構成できることを示す。 【キーワード】 ドモーガンの法則、組合せ論理回路、真理値表、AND-OR回路、NAND-NAND回路	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
5	状態遷移図、状態遷移表とシーケンス回路(第5章 5.2節まで)	回路が内部状態を持ち、出力が入力のみでなくその内部状態に依存して決定される回路をシーケンス回路と呼ぶが、その原理を理解する。またどんなシーケンス回路も状態遷移図および状態遷移表を作成することにより、組合せ論理回路および遅延回路の組み合わせで実現できることを示す。 【キーワード】 シーケンス回路、内部状態、遅延回路、状態遷移図、状態遷移表	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
6	遅延回路とパストランジスタ(第5章 残り)	1クロックだけ遅延させる遅延回路として、Dフリップフロップの動作原理を学ぶ。また、Dフリップフロップと同じような原理で動作する記憶回路である各種レジスタ、プリチャージ論理回路などについても説明する。 【キーワード】 Dフリップフロップ、パストランジスタ、レジスタ、プリチャージ論理回路	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
7	二進加減算(第6章 6.3節まで)	コンピュータの中では数値データはどう扱われるのか。また加減算といった算術計算は二進数でどうなされるのか、それに必要なコンピュータのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 内部表現、二進表現、符号なし整数、符号あり整数、算術計算、加算、減算	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
8	二進乗除算とデータの内部表現(第6章 残り)	前回到引き続いて、算術計算の乗除算が二進数でどうなされるのか、それに必要なしくみについて学ぶ。さらに小数、文字、文字列はどのように扱われるのかを理解する。 【キーワード】 乗算、除算、小数、文字、文字列	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
9	コンピュータの概要(第7章)	コンピュータの構成の概要について学び、中央処理装置を中心に、外部メモリー、周辺装置のあることを学ぶ。また中央処理装置の中にはデータ処理部と制御部があるが、データ処理部に必要な部分回路、データ処理部と制御部の関係について理解する。 【キーワード】 コンピュータの構成、中央処理装置、外部メモリー、周辺装置、データ処理部、制御部	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
10	プログラム(第8章)	コンピュータの動作になくてはならない機械語のプログラムとは何か。それを構成している命令にはどのようなものがあるか。コンピュータはこれら命令をどのように実行していくのか。現在のコンピュータの基本である蓄積プログラム方式とは何か、その特長と合わせて説明する。 【キーワード】 プログラム、機械語、命令、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	データ処理部1 (第9章 9.5節まで)	コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造について学ぶ。バス、レジスタ、入出力、シフトといった部分回路について詳細な説明を行う。 【キーワード】 バス、レジスタ、入出力回路、シフト	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
12	データ処理部2 (第9章 残り)	前回に引き続き、コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造、特にその中核となる算術論理回路ALUの構成法や構造について詳細な説明を行う。 【キーワード】 算術論理回路、ALU	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
13	制御部1 (第10章 10.3節まで)	コンピュータ全体の頭脳ともいべきデータ処理部を動かす制御部の役割について学ぶ。特に歴史的進化を追って、電卓の動作までを説明する。 【キーワード】 命令レジスタ、プログラムカウンタ、フェッチ、電卓	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
14	制御部2 (第10章 残り)	コンピュータを大きく進化させた蓄積プログラム方式について、その動作を学ぶ。さらに、その後のコンピュータに大きな影響を与えたマイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMDといった概念とともにアーキテクチャの意味を習得する。 【キーワード】 蓄積プログラム方式、マイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMD、アーキテクチャ	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)
15	今後の発展 (第11章) 【改訂回】	コンピュータは今までのようにどんどん進化していくのか。何らかの限界があるのかといったコンピュータの進化論と合わせて、将来のコンピュータについて概説する。 【キーワード】 コンピュータ、進化、スケール則、汎用コンピュータ、専用コンピュータ	岡部 洋一 (放送大学長)	岡部 洋一 (放送大学長)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570099	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ ソフトウェアのしくみ （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [How Software Works ('14)]

〔主任講師（現職名）：岡部洋一（放送大学長）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

ソフトウェアはどのような原理でハードウェアであるコンピュータを動かすのであろうか。そのしかけについて、説明する。C, Javaといった高水準プログラム言語とコンピュータの動きの関係を中心に据え、マルチメディア、データベースなどとの関係を説明し、さらによく使われる応用ソフトウェアのしくみ、大規模ソフトウェアの開発法などについて解説する。

授業の目標

ソフトウェアと、それによって動かされるコンピュータの関係を理解する。
高水準プログラム言語の構造と直接コンピュータに結びついている機械語の関係を理解する。
応用ソフトウェアと大きな関わりをもっているマルチメディア、データベースなどとの関係を理解する。
さらに、代表的な応用ソフトウェアの動作原理を理解するとともに、大規模ソフトウェアの開発法を知る。

履修上の留意点

前後は問わないが「コンピュータのしくみ」を履修すると理解が深まる。また、プログラム言語を多用する講義との関連が深い。
※この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	ソフトウェアとコンピュータ(1, 2章)	ソフトウェアとは何か、ハードウェアとの比較、ハードウェアとの関連の説明から始め、コンピュータというハードウェアに対するソフトウェアであるプログラムについて概説する。また、コンピュータの機能と概念を理解し、プログラムとどう関わりうるのかを学習する。 【キーワード】 ソフトウェア、ハードウェア、コンピュータ、プログラム、機械語、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
2	プログラムと構造化プログラミング(3, 4章)	プログラムの概念を理解する。機械語と高水準プログラムとの関係を理解すると共に、コンパイラ、インタプリタの存在を知る。また、ジャンプ命令で実現される分岐、ループといった作業と、それを読みやすくするための工夫である構造化プログラミングについて述べる。 【キーワード】 機械語、アセンブラ言語、アセンブラ、高水準プログラム言語、コンパイラ、インタプリタ、応用ソフトウェア、構造化プログラミング	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
3	制御構造と構造化プログラム(4章残り)	分岐、ループといった作業と、それを読みやすくするための工夫である構造化プログラミング、さらに構造化されたいくつかのプログラム構造である制御構造について述べる。 【キーワード】 制御構造、構造化プログラミング、ジャンプ命令、ジャンプ、分岐、ループ、goto文	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	サブルーチン(5章)	ジャンプ命令で実現される制御構造と並ぶもう一つの重要な概念がサブルーチンである。ある程度まとまった仕事、特に同じような仕事を繰り返すような場合、その仕事を主な流れから括り出してブロック化したものであり、将来、オブジェクト指向言語などにつながっていく重要な概念である。 【キーワード】 サブルーチン、関数、引数、戻り値、アドレス演算子、ポインタ、主プログラム	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
5	サブルーチンの実装とアルゴリズム(5章残り, 6章)	サブルーチンの実装法を述べる。続いて、プログラミング作成の基礎的な流れであるアルゴリズムについて解説する。実際にプログラミングする際には、計算速度、記憶の占有量、読み易さなど、いろいろなことを意識して作成する必要があることを示す。 【キーワード】 サブルーチン、アルゴリズム、計算速度、ステップ数、メモリー、構造化プログラミング	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
6	高水準プログラム(7章)	高水準プログラム言語にもいろいろな種類がある。どのような種類の言語があるか、また、それを実行するしかけについて説明する。 【キーワード】 高水準プログラム言語、宣言型プログラム言語、関数型プログラム言語、論理型プログラム言語、コンパイラ、インタプリタ、ライブラリー、ロード、実行プログラム	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
7	オブジェクト指向プログラム言語(8章)	プログラムを擬人化して、相互に分担する仕事を分類し、互いに仕事を頼み合うという形で作成するオブジェクト指向言語についてその概念を説明する。 【キーワード】 オブジェクト指向言語、OOP、オブジェクト、メソッド、メッセージ	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
8	オブジェクト指向プログラム言語の例(8章残り)	オブジェクト指向言語についてその実例を示す。 【キーワード】 オブジェクト指向言語、OOP、オブジェクト、メソッド、メッセージ	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
9	マルチメディア(9章)	音声、静止画、動画といったマルチメディアの情報をどう扱うかを解説する。また、印刷機とのやりとり、電子ブックなどのしくみについても説明する。 【キーワード】 データ圧縮、音声、画像、静止画、動画、印刷、電子ブック	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)
10	オペレーティングシステム(10章)	現在のコンピュータでは、複数のプログラムが置いてあり、また、それを同時に動かすことも可能である。また、仕様の異なる入出力装置と接続することも可能である。こうした仕事を行っているオペレーティングシステムについて解説する。 【キーワード】 オペレーティングシステム、OS、ドライバ、メモリー割付	岡部洋一 (放送大学長)	岡部洋一 (放送大学長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	リスト構造(11章)	ある程度多くのデータを処理するとき、これらのデータを探しやすくし、かつ効率よく記憶しておく工夫が必要である。こうした場合に威力を発揮するのが、リスト構造である。 【キーワード】 リスト, ツリー	岡部洋一 (放送大学 長)	岡部洋一 (放送大学 長)
12	リスト構造とデータ ベース(11章残り)	適切に管理されたデータの集合はデータベースと呼ばれる。これらについてリスト構造と関連して解説する。 【キーワード】 データベース, XML	岡部洋一 (放送大学 長)	岡部洋一 (放送大学 長)
13	応用プログラム(12 章)	ソフトウェアの一例として、ワープロのようなテキストを扱うプログラム、表計算ソフトウェア、プレゼン表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアなどの動作原理、プログラミングを概観する。 【キーワード】 応用プログラミング, テキストエディタ, ワードプロセッサ, 表計算ソフトウェア, プレゼンテーションソフトウェア	岡部洋一 (放送大学 長)	岡部洋一 (放送大学 長)
14	Web(13章)	世界中に存在するデータへのアクセスを容易にした Web のしくみについて概観する。また、近年、多くのプログラムが Web 上で実施できるようになったが、そのしくみについても解説する。 【キーワード】 Web , ハイパーリンク, HTML , Web アプリケーション, XML	岡部洋一 (放送大学 長)	岡部洋一 (放送大学 長)
15	ソフトウェア工学(14 章)	巨大なソフトウェアの開発に当たっては、一人で書くソフトウェアとは異なる智慧が必要である。どのように連携をとるかなどについて解説する。 【キーワード】 ソフトウェア工学, 構造化分析, 設計, テスト, バグ, プロジェクトマネジメント	岡部洋一 (放送大学 長)	岡部洋一 (放送大学 長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	パケット伝送	ネットワークの中でパケットは目的に応じて様々な伝わり方をする。ここではその例として多数のホストに同時に伝えるためのマルチキャスト、LANの内部、外部を区別するファイアウォールとNATについて学び、またオープンなインターネットを安全に使うVPNの基礎にも触れる 【キーワード】 マルチキャスト、ブロードキャスト、IGMP、ファイアウォール、NAT、DMZ、VPN、IPSec	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)
5	無線とLAN	無線による接続はコンピュータの自由な利用を可能とする一方、干渉、漏洩などの問題を生じやすく、干渉や雑音に強い高効率な変調方式としてOFDMなど広帯域変調方式が注目されている。ここでは変調方式、無線LANの接続法など無線環境の基礎を学ぶ 【キーワード】 無線LAN、搬送波帯域伝送、多値変調、周波数拡散変調、OFDM、WiMAX	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)
6	マルチメディアの利用	ネットワークを介してデータ、テキストだけでなく、音声、動画も送ることができる。しかしマルチメディアコンテンツは情報量が多いため、圧縮技術が重要である。ここでは、圧縮の方法と、音声、動画を用いるビデオ会議、ストリーミングについて学ぶ 【キーワード】 標本化定理、画像圧縮符号、空間周波数、離散コサイン変換、フレーム間相関、ビデオ会議、Web会議、ストリーミング	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)
7	コンピュータの連携	コンピュータは連携して必要なサービスを提供している。ここでは、様々な情報を提供するWebサーバと、個々のコンピュータが独立して連携し一定の目的を満たすP2Pの仕組み、またマルチメディアセッションを構築するSIPの考え方を学ぶ。 【キーワード】 クライアント・サーバモデル、Webサーバ、HTML、HTTP、CGI、SIP、UA、P2P、DHT	近藤喜美夫 (放送大学・教授)	近藤喜美夫 (放送大学・教授)
8	インターネットとネットワーク	コンピュータを活用するには、インターネットへの接続が必須となりつつある。インターネットはネットワークが集まって構成されている。本章では、インターネットを構成するネットワークについて規模によって分類し、有線・無線に分けて、その役割やネットワーク接続のための方法について説明する。 【キーワード】 ネットワーク、WAN、MAN、LAN	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
9	ネットワークの通信方式	さまざまなコンピュータをネットワークに接続するために使われる通信方式について説明する。機種が異なるコンピュータを同一のネットワークに接続するには、標準化と呼ばれる通信方式の共通化が必要であることについて学ぶ。そして、ネットワーク通信の考え方を表したOSI参照モデルについて説明した後、インターネット上で標準的な通信プロトコルとして使われているTCP/IPについて、OSI参照モデルの第1層から第3層の各階層と実際の機器とを対応して理解する。 【キーワード】 通信方式、標準化、OSI参照モデル、TCP/IP	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	有線ネットワーク	有線ネットワーク構築と運用の基本的な知識について理解することを目指す。ネットワークに接続される機器の種類と役割、ネットワークに機器が接続されることで構築される機器間の通信路や、伝送路の通信速度について考える。 【キーワード】 有線ネットワーク, 通信経路, 伝送路, 通信速度	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
11	無線ネットワーク	無線ネットワークの構築と運用について理解することを目的とする。無線通信での通信経路, 通信で利用される電波の周波数と通信速度, 無線通信の利用形態について説明する。 【キーワード】 無線ネットワーク, 通信経路, 周波数帯, 通信形態	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
12	ネットワークとアドレス	ネットワークの構築で機器に割り当てるアドレスと、ネットワーク同士を接続するルータの働きについて理解する。アドレスは、有線や無線を問わず、ネットワークに設置される機器の数や用途を考慮して準備される。インターネットに接続されるネットワークで使われているTCP/IPによるアドレスについて説明する。また、ネットワーク同士の通信をするためのルータの働きについて説明する。 【キーワード】 WAN, LAN, IPv4, IPアドレス, ルータ, ルーティング	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
13	ルータを使ったネットワーク構築	ルータを使ったネットワークの構築方法とネットワークを便利に利用するためのサービスについて理解することを目指す。ルータが新しく構築するネットワーク(LAN)と、インターネット側にあるネットワーク(WAN)の2つのネットワークをつなぐ方法・しくみについて説明する。また、インターネットで提供されるサービスである、DNS、DHCP、NTPについて説明する。 【キーワード】 ルータ, WAN, LAN, NAT, DNS, DHCP, NTP	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
14	ホームネットワーク	コンピュータを活用したネットワークの例として、ホームネットワークについて理解することを目指す。ルータを例に、コンピュータが小型化されてさまざまな機器に搭載されていることについて説明する。また、ホームネットでは、イーサネットをはじめ、Bluetooth等さまざまな技術によってネットワークが構成されることについて説明する。そして、コンピュータをはじめ、家庭内に設置されたAV機器、白物家電、電話などを接続し、統合的なサービスの利用を実現するしくみの提供について説明する。 【キーワード】 組み込みコンピュータ, ホームネットワーク, シームレス, プラグアンドプレイ, ECHONET, UPnP, Bluetooth	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)
15	ネットワークコンピューティング	ネットワークによりコンピュータの利用はどのように変わるのだろうか。15章を総括し、ネットワークにより提供される将来のサービスについて考察する。 【キーワード】 ネットワークコンピューティング, 近距離ネットワーク, ネットワークサービス, IPv6	葉田善章(放送大学・准教授)	葉田善章(放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554522	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ データからの知識発見 （'12）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：秋光 淳生（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

近年では、多くのデータが以前より容易に集めることができるようになってきた。そうした氾濫するデータの中から目的にあった知識をいかに抽出するのかが非常に重要になってきている。そこで、こうしたデータの中から情報や知識を抽出する手法やそのプロセスについて説明する。

授業の目標

データマイニングの代表的な手法について理解することによって、近年増大するデータを処理活用する技術についての理解を深めるとともに、そうしたデータを扱う上で必要となる素養を身につけること。

履修上の留意点

実際に計算機で演習を行う方法についても説明する。実際に自分で試してみることによって、より理解が深まると考えられる。また、手法の理解にあたっては、大学初年度程度の数学の知識があると、理解しやすいと思われる。

関連科目：身近な統計('12)、解析入門('14)、統計学('13)、心理統計法('11)、情報のセキュリティと倫理('14)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	データマイニングとは	講義の全体の概要について述べる。この講義の主題であるデータマイニングについて説明する。 【キーワード】 データマイニング、データベース、データウェアハウス	秋光 淳生(准教授)	秋光 淳生(准教授)
2	Rによる基本統計量の計算	この講義では計算機による演習としてRというソフトウェアを用いて説明をする。そこで、導入としてRを用いて簡単な計算を行う。そこで、基本的な統計量について説明し、コンピュータにおける数値計算について説明する。 【キーワード】 R言語、誤差、数値計算、n進法、平均、分散	同上	同上
3	線形代数の基本	線形代数について、特に、固有値や固有ベクトルについてのイメージを持ってもらうことを目的として、基本的な事柄についてまとめる。 【キーワード】 行列、固有値、固有ベクトル、対角化	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
4	データの視覚化	データをグラフにすることによって、特徴を視覚的に把握し多くの情報を得ることができる。しかし、グラフの表現によっては、誤った理解が得られることもある。ここで、グラフの種類について、また気をつけるべき事柄についてまとめる。 【キーワード】 視覚化、相関係数、分散、共分散、オブジェクト	秋光 淳生(准教授)	秋光 淳生(准教授)
5	主成分分析	ここでは主成分分析について説明する。主成分分析とは、多次元の成分の中で主となる成分を見つけ出す手法のことであり、それによって、多次元のデータを低次元で表現することも可能になる。 【キーワード】 主成分、情報の損失、標準化、寄与率	同上	同上
6	回帰分析	回帰分析とは、データの中のある変数を他の変数の線形結合によって表現しようとする方法である。ここでは、まず回帰分析について、また主成分分析との違いについて説明する。 【キーワード】 回帰係数、目的変数、説明変数、最小2乗法	同上	同上
7	多次元尺度法	距離をもとに座標を計算する方法である多次元尺度法について説明する。まず、尺度や距離について説明したのち、手法について説明する。 【キーワード】 尺度、距離、質的データ、量的データ、可視化	同上	同上
8	クラスター分析	データの集まりの中で似た特徴をもつまとまりのことをクラスターという。最初に近い特徴を持つものから順にクラスターを結合する階層的クラスター分析について説明し、次に非階層的クラスター分析の方法として、k-means法について説明する。 【キーワード】 階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、k-means法	同上	同上
9	アソシエーション分析	データの関係として関係があるかどうかを表すのが相関であった。ここでは、データを元に「AであればBである」といった因果関係を導く方法であるアソシエーション分析について説明する。 【キーワード】 支持度、信頼度、リフト値	同上	同上
10	決定木	決定木とは条件の分岐を木構造で表現したものである。それは、データのある条件をもとに分割していく手法である。そこで、まず木構造について説明し、次にどのようにデータを分割するかという判断基準について説明する。 【キーワード】 二分木、分類木、ジニ係数、不純度	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
11	ニューラルネットワーク	第11回から3回にわたって、ニューラルネットワークについて説明する。その第一段階として、ニューラルネットワークとは何かについて説明する。 【キーワード】 ニューロン、ニューラルネットワーク、学習、線形分離	秋光 淳生(准教授)	秋光 淳生(准教授)
12	バックプロパゲーション	例題と正解が与えられた場合に、それに基づいて学習を行う教師あり学習について説明する。例題をもとに学習することで例題以外の問題にも対応できるようなネットワークを作ることである。学習の手順について説明した後、汎化と過学習について説明する。 【キーワード】 教師あり学習、バックプロパゲーション、最急降下法、汎化、過学習	同上	同上
13	自己組織化マップ	自己組織化マップとは、教師なし学習の一種で、競合を行い、特定の結合を強化することによって、高次元のデータから、データが本来持っている特徴を抽出した低次元のマップを作成してくれる方法のことである。この手法について説明する。 【キーワード】 教師なし学習、自己組織化マップ、競合	同上	同上
14	テキストマイニング	この章ではフリーのソフトウェアを利用して、文書から定量的なデータを手順について説明し、それに今まで説明した手法を組み合わせることで文書の分類を行う。 【キーワード】 形態素解析、形態素	同上	同上
15	まとめ	まとめとして、今までの講義の内容を振り返る。 【キーワード】 知識発見、前処理、クッキー、パーソナライズ	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554530	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 情報機器利用者の調査法 （' 1 2 ）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：黒須正明(放送大学教授) 〕

〔主任講師（現職名）：高橋秀明(放送大学准教授) 〕

【本学担当専任教員： 〕

講義概要

コンピュータやインターネットが普及するにつれて、私たちはさまざまなハードウェアやソフトウェア、サービス、そしてシステムに取り巻かれて生活するようになった。こうしたものを私たちにとって便利で使いやすいものとするためには、まず、それらを利用する情報機器利用者（ユーザ）についての的確な理解を得ることが大切であり、そうした情報を得たうえでシステムの設計を行うことが必要である。本科目では、そのための調査法を多面的に取扱い、情報学のための研究方法の基礎として位置づける。

授業の目標

コンピュータやインターネットの技術をつかってハードウェアやソフトウェアなどの設計(たとえばウェブサイトの設計など)を行うとき、それを利用する情報機器利用者(ユーザ)について、その特性やニーズ、利用状況を的確に把握したうえで、使いやすく有用性の高いものづくりを進めてゆく方法論について理解し、実際にその方法を利用して情報システムの設計に取り組めるようにする。

履修上の留意点

この科目では、心理学的な概念や手法を利用することが多いので、受講者は、「心理学研究法」「学力と学習支援の心理学」などを受講しておくことが望ましい。また、統計的な手法を利用することもあるので「心理統計法」を受講しておくことも望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ユーザを知る：考え方(1)	・使いにくい、分かりにくい情報機器は、情報機器の利用者(ユーザ)のことを考えずに開発されたことが大きな原因であることを理解する。 ・情報機器のユーザについてきちんと調べてからものづくりをするという、人間中心設計の考え方の必要性を理解する。 ・ユーザ調査法が認知心理学の研究法を応用していることを理解すると同時に、ユーザを調査する際の注意点を理解する。 【キーワード】 ユーザ、人間中心設計、認知心理学	黒須 正明 (放送大学・教授) 高橋 秀明 (放送大学・准教授)	黒須 正明 (放送大学・教授) 高橋 秀明 (放送大学・准教授)
2	ユーザを知る：考え方(2)	・情報機器のユーザを知ることは、本来的に困難であることを理解する。 ・ユーザについて考える際には、認知心理学における人間についての捉え方が参考になることを理解する。 【キーワード】 内省、人間工学、情報処理系、生態心理学、社会文化的アプローチ	高橋 秀明 (放送大学・准教授)	高橋 秀明 (放送大学・准教授)
3	ユーザを知る：人間の多様性	・情報機器のユーザとなりうる人々が、どのような側面に関して異なっており、その多様性の広さがどの程度であるかを理解する。 ・また、その多様性が、情報機器のユーザとしてどのような場合に問題になるのかを理解する。 【キーワード】 多様性、特性、障害、性別、志向性、状況、環境	黒須 正明 (放送大学・教授)	黒須 正明 (放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ユーザの感情・感性を知る: 心理学的測定	・近年の研究で重要性が明らかになりつつある感情と感性に関する性質、および感情や感性を測定する手法について説明する。 ・本章の学習目標は、(1) 感情が認知に与える影響の例を挙げることができる、(2) 感性情報の例を挙げることができる、(3) 感情、感性の測定・評価課題に対して、適切な方法を構成できることである。 【キーワード】 感情、感性、認知、心理学的測定	大西 仁 (放送大学・准教授)	大西 仁 (放送大学・准教授)
5	ユーザの心理を知る: 質問紙調査法	・ユーザの心理・背景・態度・意見・好み・動機・認知度等を知るにあたってよく使われる手法である質問紙調査法について説明する。 ・本章の学習目標は、(1) 質問紙調査におけるデータ収集方法について理解し、調査を具体的に設計することができる、(2) 質問票を適切に作成する際の注意点について学び、既存の質問票を評価することができるとともに、適切な質問票が作成できる、(3) 質問紙調査の対象者の選定方法について理解し、質問紙調査での結果の一般化の可能性について説明できることである。 【キーワード】 質問紙調査、アンケート調査、データ収集、質問票	青木 久美子 (放送大学・教授)	青木 久美子 (放送大学・教授)
6	ユーザの心理を知る: インタビュー法・面接法	・情報システムや情報サービスの利用における文脈や状況をユーザの視点に立って把握するために実施するインタビュー法・面接法を紹介する。 ・本章の学習目標は、(1) 構造化、半構造化、非構造化の違い、単独インタビューとグループインタビューの違いを理解し、調査目的に応じて適切なインタビュー手法を選択することができる、(2) 調査の準備や協力者とのコンタクト方法、合意書の作成方法を含む、インタビュー調査に必要な手続きを理解し、手順を踏んでインタビュー調査を進めることができる、(3) インタビュー調査結果の分析方法を理解し、適切な方法により内容分析を実施することができることである。 【キーワード】 インタビュー調査、データ収集、内容分析	三輪 眞木子 (放送大学・教授) 青木 久美子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授) 青木 久美子 (放送大学・教授)
7	ユーザの認知を知る: 言語プロトコル法・視線分析法	・情報機器のユーザ調査にあたり、課題分析を行う必要性を理解する。 ・ユーザ調査において、課題解決の結果と過程とについてそれぞれデータを収集できることを理解する。 ・課題解決の過程に関するデータ収集法として、言語プロトコル法と視線分析法とについて理解する。 【キーワード】 課題分析、結果と過程、言語プロトコル法、眼球運動、視線分析法	高橋 秀明 (放送大学・准教授)	高橋 秀明 (放送大学・准教授)
8	ユーザの認知を知る: 実験法	・実験の方法について説明する。実験から合理的に結果を得るためには、適切な実験を計画する必要がある、そのためには実験の考え方を理解することが重要である。 ・本章の学習目標は、学習者自身が興味ある事象について、具体的な実験を計画できるようになることである。 【キーワード】 因果関係、独立変数、従属変数、剰余変数、倫理的配慮	大西 仁 (放送大学・准教授)	大西 仁 (放送大学・准教授)
9	ユーザの日常生活を知る: ログ解析	・ログデータとは計算機や通信機器の利用状況や処理を記録したデータのことであり、それに類したデータは身の回りに溢れている。 ・本章では、ログデータとその利用法、およびログデータの解析法の概要について説明する。 ・本章の学習目標は、ログデータから必要な情報を抽出する方法を提案できるようになることである。 【キーワード】 ログ、ライフログ、テキストマイニング、時系列解析	大西 仁 (放送大学・准教授)	大西 仁 (放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	ユーザの日常生活を知る: 談話分析・日記法・観察法	・本章では、日常生活のさまざまな場面でユーザの心理や行動を知るための方法として、談話分析、日記法、観察法をとりあげる。 ・本章の学習目標は以下の4点である。(1) 談話分析のデータ収集方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、(2) 日記法のデータ収集手法を理解し、協力者に日常生活を記録してもらう方法を選択できる、(3) 観察法によるデータ収集の手順を理解し、チェックリストを作成することができる、(4) 質的研究を評価する視点を理解し、それを用いて先行研究を評価することができることである。 【キーワード】 談話分析、日記法、観察法、質的調査法、研究の評価	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)
11	ユーザの日常生活を知る: 事例研究・エスノグラフィー	・本章では、事例研究とエスノグラフィーの2つの研究アプローチを紹介する。 ・本章の学習目標は以下の3点である。(1) 事例研究のデータ収集とデータ分析の方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、(2) エスノグラフィーのデータ収集とデータ分析の方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、(3) 収集した多様なデータを一括管理して分析プロセスを記録する方法を説明できることである。 【キーワード】 事例研究、エスノグラフィー	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)
12	ユーザを知りつくす: 多面的観察	・多面的観察の必要性を理解する。多面的観察では、さまざまなデータを時間推移表にまとめ分析することを理解する。 ・多面的観察の応用問題として、エラー分析・事故分析について学ぶ。 【キーワード】 多面的観察、時間推移表、エラー分析、事故分析	高橋 秀明 (放送大学・准教授)	高橋 秀明 (放送大学・准教授)
13	情報機器の設計に活かす	・ユーザに関するイメージを設計に活かすための手法として近年注目をあびているペルソナの手法と、それを用いたシナリオの手法について説明する。 ・具体的に、どのようにしてペルソナを作成するか、またそれをどのように活用するかを説明する。 【キーワード】 ペルソナ、シナリオ	黒須 正明 (放送大学・教授)	黒須 正明 (放送大学・教授)
14	情報機器の設計を評価する	・ユーザビリティの評価法に関する概要を説明する。 ・これらは、設計中のハードやソフトのユーザビリティを向上させる目的でも利用されるが、現在、生活や仕事の場面で使っているものにどのような問題があるかを把握するためにも利用されるものである。 【キーワード】 ユーザビリティ評価、ユーザビリティテスト、インスペクション法、有効さ、効率、満足度	黒須 正明 (放送大学・教授)	黒須 正明 (放送大学・教授)
15	ユーザを知る: まとめ	・ユーザを知るためには、心理学や社会学、ユニバーサルデザインなど、さまざまな分野で開発されてきた手法がある。 ・これらを活用して、どのようにハードウェアやソフトウェアを設計すべきかについて、科目内容の全体をまとめながら整理する。 【キーワード】 ISO13407, ISO9241-210	黒須 正明 (放送大学・教授) 高橋 秀明 (放送大学・准教授)	黒須 正明 (放送大学・教授) 高橋 秀明 (放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554549	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 映像メディアとCGの基礎 （'12）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：近藤 智嗣（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：浅井 紀久夫（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

マルチメディア領域の基礎知識として、映像メディアとコンピュータグラフィックス(CG)について概説する。映像メディアとしては、撮影技法、映像理論、編集技法などについて扱い、応用分野として放送大学のバーチャルスタジオを事例にするなど、放送大学の特色を活かした構成にする。CGとしては、図形表示の幾何学や投影方法、三次元(3D)形状の作成および描画手法、写実的な表現、アニメーション手法などCGの基礎を扱い、CAD(コンピュータ支援設計)や3Dアニメ作成に必要な基礎知識を得る。その他の応用として、バーチャルリアリティ、ミクストリアリティについても解説する。授業では、インターネット上のツールなどを活用したインタラクティブな実習を可能な限り取り入れる。また、各分野でのインタビューを取り入れるなど、映像メディアやCGに関する応用がイメージできるように工夫する。講師の他に、学生の視点のアシスタントが授業に参加し、受講者がスモールステップで徐々に課題をこなせるような工夫をする。

授業の目標

マルチメディア領域の専門科目として、映像メディアとCGについての基礎的な知識・技能を習得し、他の関連科目でさらに学習を深めることができるようにする。

履修上の留意点

関連する科目は、コンピュータのしくみ('14)である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	映像メディアとコンピュータグラフィックス	映像メディアとコンピュータグラフィックス(CG)の学習内容について概説する。映像メディアとして映画を、CGとしてゲームを取り上げ、情報通信技術の進展により急速に変容を遂げたことを示す。また、映像制作の過程を3つに分け、その最初の過程について学ぶ。 【キーワード】 映像メディア、コンピュータグラフィックス、応用分野	近藤智嗣・ 教授 浅井紀久夫・ 准教授	近藤智嗣・ 教授 浅井紀久夫・ 准教授
2	映像の誕生	静止画像の集まりである動画が動いて見える仕組みについて、心理学的な原理を解説し、映像が誕生するまでの歴史上のエピソードについて概観する。 【キーワード】 仮現運動、連続写真、映画、マンガ	近藤智嗣・ 教授	近藤智嗣・ 教授
3	撮影技法1	マニュアル撮影をするための基礎知識として、アイリス、シャッタースピード、ゲインについて学び、これらの操作によって可能な表現や被写界深度等について知る。また、画角の違いによる映像表現についても学ぶ。 【キーワード】 キーイング合成、アイリス、シャッタースピード、ゲイン、被写界深度、画角、色温度	近藤智嗣・ 教授	近藤智嗣・ 教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	撮影技法2	カメラの構造的な基礎知識として、画角や被写界深度等について映像表現の観点から解説する。また、映像制作に必要な撮影技法の基礎として、画面サイズ、カメラアングル、カメラワーク、カメラの配置方法などを学ぶ。 【キーワード】 被写体のサイズ、アングル、イマジナリーライン、カメラワーク	近藤智嗣・ 教授	近藤智嗣・ 教授
5	映像の編集	撮影した映像素材から作品にする時の映像編集について、その基本になる理論と場面転換、時間経過、状況説明を表現する編集技法について学ぶ。具体的はオーバーラップ、ワイプ、エスタブリッシングショットなどの映像構成を取りあげる。 【キーワード】 モンタージュ、クレショフ効果、オーバーラップ、ワイプ、エスタブリッシングショット	近藤智嗣・ 教授	近藤智嗣・ 教授
6	コンピュータによる3次元形状の描画	コンピュータグラフィックスの描画手順、カメラモデル、座標系について概説する。現実世界でカメラを使って写真を撮るとき、光が物体を照らし、その光が反射して、カメラの撮像素子に到達する。コンピュータグラフィックスでも同様の仕組みを考えることができる。 【キーワード】 描画手順、カメラモデル、ビューイングパイプライン	浅井紀久夫・ 准教授	浅井紀久夫・ 准教授
7	図形の変換	三次元形状を作成するために二次元図形を利用したり、三次元形状を二次元面に表示したりするには、二次元図形および三次元図形に対する幾何学的変換が必要である。平面上と空間内における基本的変換について解説する。 【キーワード】 座標系、幾何学的変換、合成変換、投影変換	浅井紀久夫・ 准教授	浅井紀久夫・ 准教授
8	3次元形状の作成	コンピュータでもものの形を表現しようとするとき、数値で記述する必要がある。これを、モデリングという。このモデリングの手法を紹介する。頂点、稜線、面が組み合わされた三次元形状である多面体の表現法、曲線・曲面の表現法、立体形状を多角形の集合であるポリゴンで表す方法を示す。 【キーワード】 モデリング、立体形状、表現法、ポリゴン	浅井紀久夫・ 准教授	浅井紀久夫・ 准教授
9	3次元モデルを2次元画像に	三次元形状を二次元画像に変換して絵として描画する手法について解説する。この描画のための処理をレンダリングという。レンダリングを構成する処理過程を示し、図形に対応する画像の色を描くラスタ化、見えない面を消去する隠面消去の手法について説明する。また、デジタル画像では実際には存在しない模様が現れる現象についても取り上げる。 【キーワード】 レンダリング、ラスタ化、隠面消去、エイリアシング	浅井紀久夫・ 准教授	浅井紀久夫・ 准教授
10	質感表現	光に物体が照らされたとき、物体に陰影ができる。その陰を計算する手法を紹介する。その計算モデルをシェーディングモデルといい、環境光による反射成分、拡散反射成分、鏡面反射成分を足し合わせて面の明るさを計算する。また、物体の背後にできる影付けの手法について説明する。 【キーワード】 シェーディングモデル、環境光、拡散反射、鏡面反射、影付け	浅井紀久夫・ 准教授	浅井紀久夫・ 准教授

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	コンピュータアニメーション	アニメーションは、静止画を連続的に表示することにより動きを表現する。カメラを動かすことで動きを生み出す方法、複数枚の絵の中で中心となるものを補間して動きを生成するキーフレームアニメーションや軌跡を指定して動きを与えるパスアニメーション、骨格構造の動きを自動的に補完して生成する手法について説明する。 【キーワード】 アニメーション、カメラワーク、キーフレームアニメーション、パスアニメーション、インバースキネマティックス	浅井紀久夫・准教授	浅井紀久夫・准教授
12	写実性とリアルタイム性	三次元形状を写実的に表現するには、形状表面の明るさを精密な照明計算モデルに基づいて算出する必要がある。間接光の影響を考慮したグローバルイルミネーションについて説明する。一方、利用者の入力情報に基づいてCGが描画され次の入力が行われる、インタラクティブな表現には、実時間でCGを描画する必要がある。質感向上のために形状表面に模様や凹凸などの効果を付加するマッピング処理について説明する。 【キーワード】 グローバルイルミネーション、マッピング	浅井紀久夫・准教授	浅井紀久夫・准教授
13	立体視システム	立体視の基礎知識である奥行き知覚について、心理学的要因と生理学的要因に分類して学ぶ。また、両眼視差が応用されている立体視システムについて解説する。 【キーワード】 奥行き知覚、両眼視差、運動視差、立体視システム	近藤智嗣・教授	近藤智嗣・教授
14	ミクストリアリティ	ミクストリアリティは、私たちが生活している現実空間にバーチャル空間を融合させる技術である。この技術はバーチャルリアリティとは異なる新しい映像メディアである。本章では、この概念と基本的なしくみについて学ぶ。 【キーワード】 ミクストリアリティ、複合現実感、拡張現実感、レジストレーション、トラッキング	近藤智嗣・教授	近藤智嗣・教授
15	仮想と現実の狭間で	近年、映像とCGの融合が進んでいる。2次元画像から3次元構造を復元したり、映像とCGの合成で光学的整合性を考慮したりすることにより、創作物とは思えない程に写実性が向上している。一方で、ネットワーク上の仮想的なコミュニティにおけるコミュニケーションや仮想的に体験・体感するシミュレータにおけるインタラクションはその臨場感を増している。こうした仮想と現実が混じり合う状況を示し、映像メディアとCGの社会的潮流について議論する。 【キーワード】 映像メディアとコンピュータグラフィックスの融合、社会的潮流	近藤智嗣・教授 浅井紀久夫・准教授	近藤智嗣・教授 浅井紀久夫・准教授

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1554573	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ デジタル情報の処理と認識 （'12）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：柳沼良知(放送大学准教授) 〕

〔主任講師（現職名）：鈴木一史(放送大学准教授) 〕

【本学担当専任教員： 〕

講義概要

コンピュータは、計算する機械である一方で、文字、画像、音声、映像といった情報も扱うことができる。しかし、これらがどのように扱われているかは、外からは見えにくい。このため、本講義では、文字、画像、音声、映像といった情報の処理がコンピュータ上で実際にどのように行なわれているかについて概説する。また、これらの認識の例として、発話の認識を行う音声認識や、図形や写真の認識を行う画像認識等がどのように行われるかについて、具体例を交えながら述べる。

授業の目標

コンピュータによる画像認識や音声認識の仕組みを知るとともに、それらの基礎となる情報の処理手法について習得する。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	音の表現	音声認識は、コンピュータ上で発話の認識を行う技術である。本章では、コンピュータ上で音声情報を扱うために必要となる音のデジタル化や、音の大きさ、高さ、音色といった音の属性について述べる。 【キーワード】 標本化、量子化、音の大きさ、音の高さ、音色	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
2	音声周波数の分析	音声認識の第一段階としては、話者が「あ」と発音しているのか、「お」と発音しているのかの違いを認識する必要がある。本章では、人の発声の仕組みについて述べるとともに、このような音素を識別する方法として周波数分析について学習する。 【キーワード】 音色、基音、倍音、フーリエ変換	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
3	音声認識	音声認識のうち、コンピュータにあらかじめ登録された単語やコマンドを認識するものは、単語認識やコマンド認識と呼ばれる。また、コンピュータに対して、制限のない自由文を連続的に認識させるのがディクテーションである。本章では、このような音声認識について述べるとともに、音声による話者同定についてもあわせて述べる。 【キーワード】 単語認識、ディクテーション、話者同定	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	文字の表現	本章では、文字の情報がコンピュータ上でどのように扱われているかについて述べる。具体的には、コンピュータ上で文字を表現するために用いられる文字コードや文字のデザインであるフォント、Web文書の記述に用いられるHTML等について述べる。 【キーワード】 文字コード、フォント、DTP、HTML	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
5	自然言語処理	音声認識により、発話された音声を文章へと変換することができる。そしてこのような文章の処理を行うのが自然言語処理である。本章では、自然言語と人工言語について述べるとともに、日本語処理の基礎となる、文章を単語に分割する形態素解析や文章の構造を解析する構文解析等の処理について述べる。 【キーワード】 形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
6	自然言語処理の応用	自然言語処理の応用として、日本語から英語といった言語間の翻訳を機械的に行う機械翻訳や、多量のテキスト情報を検索するための全文検索の実現方法について述べる。また、音声インタフェースの構築の際に不可欠となる音声合成についてあわせて述べる。 【キーワード】 機械翻訳、全文検索、音声合成	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
7	色の表現	コンピュータ上で画像や映像を表現するための基礎になるのが色の表現である。本章では、色の物理的な性質について述べるとともに、コンピュータ上での色の表現や画像の表現について述べる。 【キーワード】 色の表現、画像の表現	柳沼 良知 (放送大学・准教授)	柳沼 良知 (放送大学・准教授)
8	デジタル画像	デジタル化された2次元画像のしくみや、画像の性質を表す画像統計量、画像ヒストグラムについて解説する。また、画像反転、画像コントラスト等について学習する。 【キーワード】 デジタル画像、画像統計量、ヒストグラム、画像反転	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
9	画像とフィルタリング	デジタル画像データは数値データの集合であり、様々な数値演算を行うことで画像を加工することができる。画像の加工や特徴抽出に用いられるフィルタリング処理について学習するとともに、フィルタを利用したノイズ除去の例について解説する。 【キーワード】 モザイク、フィルタリング、平滑化、ノイズ除去	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
10	デジタル画像とモーフォロジー	デジタル画像の加工処理のひとつであるモーフォロジー演算について学習する。モーフォロジー演算による、膨張、収縮を応用したノイズの除去や輪郭抽出についてもあわせて学ぶ。 【キーワード】 モーフォロジー、膨張演算、収縮演算、ノイズ除去、輪郭抽出	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	クラスタリング	認識等の処理に必要となる、データを複数のグループに分類するクラスタリング手法について学習する。階層的クラスタリングと非階層的クラスタリングについて学ぶとともに、階層的クラスタリングによる樹形図の作成や非階層的クラスタリング手法であるk平均法について学ぶ。 【キーワード】 クラスタリング、樹形図、k平均法、領域分割、減色	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
12	パターン検出と画像特徴	画像内のパターンを検出する手法であるテンプレートマッチングについて学習する。また、デジタル画像からの特徴計算の例について説明するとともに、局所特徴を利用したBoF(Bag of Features)モデルによる画像分類や検索の概要について学ぶ。 【キーワード】 テンプレートマッチング、特徴点、画像特徴、BoFモデル	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
13	データの分類	データの分類手法について学習する。基本的な分類手法のひとつであるk近傍法について解説するとともに、k近傍法の問題点や応用例を示す。 【キーワード】 類似度、距離、k近傍法、分類、数値予測	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
14	検索システムの評価	検索システムの評価方法として、データベースの検索システムの評価で広く使われている適合率と再現率の計算方法、適合率-再現率グラフについて学習する。また、システム評価に用いられるベンチマークデータの事例について解説する。 【キーワード】 適合率と再現率、適合率-再現率のグラフ、ベンチマーク	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
15	画像特徴の計算と応用	画像特徴を画像索引として利用する内容検索について学習する。画像特徴の一つであるLBP(ローカル・バイナリー・パターン)を例として画像特徴の計算法を学ぶとともに、画像の類似度、画像データベースの類似検索について解説する。 【キーワード】 画像特徴、内容検索、類似度、類似検索、LBP	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570064	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 記号論理学 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Symbolic Logic ('14)]

〔主任講師（現職名）：加藤浩（放送大学 教授）〕

〔主任講師（現職名）：土屋俊（大学評価・学位授与機構 教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

記号論理学とは、論理を論理式という数式のような記号で表して、厳密なやりかたで処理する方法の体系です。推論、すなわち、ある事態が成り立っている（真である）とき、そこから別の確実に成り立っている事態を導き出したり、また、その推論の正しさを証明したりするのが記号論理学の役割です。記号論理学は、数学をはじめとして、哲学、計算機科学などの基礎となるほか、論文執筆や議論やプレゼンテーションなどのコミュニケーションの基礎として重要です。本科目では、命題論理、一階述語論理などの意味を理解して自然言語と対応付けられるようにし、さらに論理式の計算方法を学びます。

授業の目標

一階述語論理の表現の意味の理解、日本語の表現の翻訳、および推論の妥当性の点検ができる。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	論理学とは何か	論理学は推論について研究する学問であり、日常生活や学問において重要な役割をはたしている。 【キーワード】 推論、前提、結論、命題、議論、論争、常識、学問、科学、経験	土屋俊(大学 評価・学位授 与機構教授)	土屋俊(大学 評価・学位授 与機構教授) 加藤浩(放送 大学教授) ゲスト： 久木田水生 (京都大学研 究員) 大西琢朗(日 本学術振興 会特別研究 員PD・首都大 学東京)
2	記号を使う	推論を厳密に表現し、検討するために記号を使う。 【キーワード】 自然言語、形式言語、普遍言語	土屋俊(大学 評価・学位授 与機構教授)	土屋俊(大学 評価・学位授 与機構教授)
3	記号・式・命題	一階述語言語の文法を導入し、式や代入や閉じた式を定義する。 【キーワード】 記号、式、代入、閉じた式、命題、構文論	加藤浩(放送 大学教授)	加藤浩(放送 大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	命題の意味	一階述語言語の式の真偽と、それにもとづいて、一階述語言語の意味論を定義し、理論とモデルの概念について解説する。 【キーワード】 意味論、モデル、解釈、真偽	加藤浩(放送大学教授)	加藤浩(放送大学教授)
5	推論の妥当性を厳密に定義する	前提となる命題のすべてが同時に真であるとき、かならず帰結の命題も真であるならば、その推論は妥当であることを知る。しかしそもそも妥当な推論とは何であるか、それはどのように確かめられるのかを理解する。 【キーワード】 妥当性、論理的同値	加藤浩(放送大学教授)	加藤浩(放送大学教授)
6	タブローによる妥当性のチェック(1)	推論の妥当性をチェックするための手続きであるタブローの方法を導入する。 【キーワード】 妥当性、タブロー	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
7	タブローによる妥当性のチェック(2)	量化記号や同一性述語を含んだ推論をチェックするタブローについて解説する。 【キーワード】 タブロー、量化、同一性述語	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
8	多重量化	$\exists x \exists y Wxy$ や $\forall y \exists x Wxy$ のように量化記号が多重に使われているような命題を取り上げて検討する。量化記号を組み合わせることで、日本語としては意味の違いがわかりにくい命題が、一階述語論理では命題の形式的な違いとして明確に区別できる。 【キーワード】 多重量化、全称量化記号、存在量化記号、量化の順番、スコープ、翻訳	加藤浩(放送大学教授)	加藤浩(放送大学教授)
9	日本語から形式言語への翻訳	日本語で書かれた命題を一階述語言語に翻訳する方法を学ぶ。日本語命題はその意味するところをモデルにあてはめて表現し、そこから命題に翻訳する。その 控に陥りやすい誤りや注意すべき点を解説する。 【キーワード】 翻訳、自然言語、集合、個体	加藤浩(放送大学教授)	加藤浩(放送大学教授)
10	数を数える命題	「少なくともn個ある」「ちょうどn個ある」「多くともn個である」など個体の数量を表す命題について学ぶ。一階述語言語には数字を一切用いないで、自然数の個体の存在について述べる記述能力がある。 【キーワード】 全称量化、存在量化、同一性、翻訳	加藤浩(放送大学教授)	加藤浩(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	日本語の推論の妥当性(1)	日本語で表現された推論を形式言語に置き換え、その妥当性をタブローによってチェックする。 【キーワード】 タブロー、日本語での推論、妥当な推論のパターン	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
12	日本語の推論の妥当性(2)	日本語の推論の妥当性をチェックする。とくに推論の際に暗黙のうちに前提される命題を特定する練習をする。 【キーワード】 タブロー、隠された前提	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
13	日本語の推論の妥当性(3)	誤りやすい推論、論証について学び、それをタブローによってチェックする練習をする。 【キーワード】 タブロー、誤謬	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
14	タブローの方法の健全性と完全性	論理体系の健全性、完全性、決定可能性の概念について解説する。 【キーワード】 健全性、完全性、決定不可能性	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)
15	役立つ記号論理学	これまで学んだ範囲を越えて、記号論理学とその背景となる考え方がどのように活用されてきたか、また、どのように活用することができるかということについて検討する。数学の証明、コンピュータ科学の発達、科学的理論の構造、批判的思考という4つの側面がもつ背景と課題を学ぶ。 【キーワード】 証明、不可能性、コンピュータ、人工知能、観察、理論、反証、検証、論理と修辞、合成性の原則、曖昧さ、隠された前提	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授)	土屋俊(大学評価・学位授与機構教授) 加藤浩(放送大学教授) ゲスト: 久木田水生(京都大学研究員) 大西琢朗(日本学術振興会特別研究員PD・首都大学東京)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570072	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 情報社会のユニバーサルデザイン（'14）＝（TV）

英文名＝ [Universal Design in the Information Society（'14）]

〔主任講師（現職名）： 広瀬 洋子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 関根 千佳（同志社大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

人間が生きていく上で、社会との接点を確保することは非常に重要である。しかし、現代社会においては、多様なニーズを持つ人々が、情報、教育、放送メディア、社会活動などに「アクセス」することは、困難な場合もまだある。この講義では、情報や教育のアクセシビリティを中心に、国内外の状況、支援技術やユニバーサルデザインの状況を理解し、高齢化、情報化の進む21世紀における人間と情報の在り方について考える。

授業の目標

- ・ユニバーサルデザインやアクセシビリティの概念と世界的な流れを把握し、企業や社会活動において、多様なユーザーのニーズを考慮した情報発信やユーザー支援が行えるようになる。
- ・グローバルな観点から、人間の多様性と、今後の情報社会の在り方について自分の意見を持つようになる。

履修上の留意点

インターネット接続が可能であること。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	アクセシビリティおよびユニバーサルデザインとは	全体の説明 アクセシビリティ、およびユニバーサルデザインの定義、概要、歴史的背景、分類について説明する。「アクセシビリティ」という概念の誕生や、モノ・人間をとりまく環境・メディア環境の変化、および社会・文化・歴史的背景について解説する。ユニバーサルにデザインという考え方・社会の在り方を強調 【キーワード】 アクセシビリティおよびユニバーサルデザインの定義	広瀬洋子(放送大学・教授)	広瀬洋子(放送大学・教授) 関根千佳(同志社大学・教授)
2	ユニバーサルデザインを支える概念	ユニバーサルデザインに関連するノーマライゼーション、インクルージョン、デザインフォーオールなどの概念の整理と、国内外におけるその流れについて解説する。ユニバーサルデザインの主要な要素であるアクセシビリティとユーザビリティとの概念整理を行う。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン関連概念の整理	関根千佳(同志社大学・教授)	関根千佳(同志社大学・教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)
3	ユニバーサルデザインのまち・もの・サービス	アクセシビリティは、情報のみならず、建築・公共交通といったハード部分でも重要な概念であり、かつ公共サービス・公民権行使・教育体制・放送メディアなどのソフトやサービス部分においても重要である。ここではその広がりやカバーする範囲について解説する。 【キーワード】 ハードウェアのアクセシビリティ、ソフトやサービスのアクセシビリティ	関根千佳(同志社大学・教授)	関根千佳(同志社大学・教授) 広瀬洋子(放送大学・教授) ゲスト講師(川内美彦東洋大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	アクセシビリティやユニバーサルデザインに関する条約・法律・国際標準	国連の障害者権利条約、各国の法律、国際標準などにおいて、アクセシビリティがどのように扱われ、確保されているかを解説する。 【キーワード】 障害者権利条約、リハビリテーション法、ISO、JIS	関根千佳(同志社大学・教授)	関根千佳(同志社大学・教授) 広瀬洋子(放送大学・教授) ゲスト講師(長瀬修 立命館大学・客員教授)
5	ユーザー理解(障害者)	アクセシビリティやユニバーサルデザインを理解するためには、ユーザーが具体的にどのような問題を抱えているかを知る必要がある。ここでは、障害の特性と問題点を中心に解説する。 【キーワード】 ユーザー理解、障害学、ダイバーシティ	近藤武夫(東京大学・准教授)	近藤武夫(東京大学・准教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)
6	ユーザー理解(高齢者)	アクセシビリティやユニバーサルデザインを理解するためには、ユーザーが具体的にどのような問題を抱えているかを知る必要がある。ここでは、高齢者の問題点を中心に解説する。 【キーワード】 ユーザー経験、ジェロントロジー、加齢変化	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員)	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員) 関根千佳(同志社大学・教授)
7	ICTのアクセシビリティ	コンピュータ、モバイル機器、オフィス機器、家電、公共端末などの様々なICTデバイスは、多様な人の利用を考慮し、アクセシブルに作られるべきものである。ここでは機器やサービスのアクセシビリティを中心に解説する。 【キーワード】 ICTアクセシビリティ、デジタルデバイド	近藤武夫(東京大学・准教授)	近藤武夫(東京大学・准教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)
8	情報のアクセシビリティとその確保	IT機器やWebサイト、広報物や駅のサイン計画にいたるまで、社会にあふれる「情報」に対し、どのようにアクセシビリティを確保し、確実に伝えるべきなのか、概観する。また、アクセシビリティの向上のために、企業や自治体がどのように取り組んでいるか、実例を挙げて解説する。 【キーワード】 情報のアクセシビリティ、ユーザー経験、Webアクセシビリティ	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員)	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員) 関根千佳(同志社大学・教授)
9	Webアクセシビリティ概要	Webサイトのアクセシビリティを確保するために必要な、ユーザーの多様性に関する知識と、スクリーンリーダーなどの支援技術についての基礎知識を解説する。また国内外の法律や標準化動向、および、その基盤となる技術や自治体等における改善プロセスについて説明を行う。 【キーワード】 Webアクセシビリティ、スクリーンリーダー、X8341	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員)	榊原直樹((株)ユーディット取締役主任研究員) 広瀬洋子(放送大学・教授)
10	高等教育におけるユニバーサルデザイン	世界的に、社会があらゆる人々に教育の機会を提供する努力が広がりつつある。あらゆる事が刻々と変化する現代において、多様な人々が人生のあらゆるステージにおいて高等教育で学ぶことを求めている。前半では、障害者の高等教育について、米国・英国・EU・日本の状況について焦点をあてる。後半は高齢者の学びに関する新しい動きを紹介する。 【キーワード】 高等教育、ユニバーサルデザイン、障害者支援、米国、EU、高齢者	広瀬洋子(放送大学・教授)	広瀬洋子(放送大学・教授) 関根千佳(同志社大学・教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
11	教育のアクセシビリティにおける合理的配慮	ICTや人的支援を活用することは、多様な学生が学びの場に参加するためには不可欠なものとなるケースがある。こうした配慮は、莫大にコストがかかったり、配慮の提供により他の学生に極端に不利に働くなど、度を越えたものとならない範囲（合理的な範囲）で、提供する義務があることが国際的に定められつつある。教育での合理的配慮とは何か、試験や教室での配慮の実例を題材として紹介する。 【キーワード】 教育のアクセシビリティ、合理的配慮	近藤武夫(東京大学・准教授)	近藤武夫(東京大学・准教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)
12	遠隔教育のアクセシビリティ	eラーニングを使った教育は、地域や通学範囲といった物理的な制約のみならず、病院や家庭から療養中などの理由で離れることができない学生にもメリットをもたらす。ここでは、英国のオープンユニバーシティを中心に、遠隔教育におけるアクセシビリティの事例とそこで用いられている解決策について解説する。放送大学のアクセシビリティについても紹介する。 【キーワード】 遠隔教育、eラーニング、英国オープンユニバーシティ、放送大学	広瀬洋子(放送大学・教授)	広瀬洋子(放送大学・教授) 関根千佳(同志社大学・教授)
13	放送メディアのアクセシビリティ	欧米ではテレビやビデオ、ラジオやインターネット放送において、字幕や音声解説が義務付けられ、多様な人がリアルタイムに情報にアクセスできるようになっている。日本でもその動きは加速している。字幕はテキストがあれば、映像資料の検索や外国語への変換なども簡単にでき、今後その重要性は増していくだろう。本章では、その仕組みや技術、カバーする法律や制度について、社会歴史的背景も交えて解説する。 【キーワード】 字幕、音声解説、デコーダ法、CVAA、音声認識技術	広瀬洋子(放送大学・教授)	広瀬洋子(放送大学・教授) 関根千佳(同志社大学・教授)
14	図書のアクセシビリティ	図書(書籍や教科書なども含む印刷物)を読む上で求められるアクセシビリティについて解説する。読むことをサポートする対面朗読や拡大図書、録音図書などを取り上げるほか、著作権法についても解説する。電子書籍のアクセシビリティ向上となった事例などを紹介する。 【キーワード】 読むことの権利、Daisy、著作権法、電子書籍アクセシビリティ	近藤武夫(東京大学・准教授)	近藤武夫(東京大学・准教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)
15	ユニバーサルデザインの未来	世界各国で研究が行われている、触覚や視線入力などの新たなユーザーインターフェースによるアクセシビリティの動向や、高齢者が増える中で、アクセシビリティが今後の企業経営や、社会のあり方に対して果たす大きな役割について解説する。 【キーワード】 次世代ユーザーインターフェース、ジェロントロジー、ソーシャルイノベーション、企業経営とアクセシビリティ	関根千佳(同志社大学・教授)	関根千佳(同志社大学・教授) 広瀬洋子(放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570080	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 情報のセキュリティと倫理 （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Information Security and Ethics ('14)]

〔主任講師（現職名）：山田 恒夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

情報化は社会のさまざまな側面で進行し、多くの利便性を人類社会に提供する一方、コンピュータやインターネットを使った犯罪が増加するなど、「影」の部分への対応が日々必要になっている。また、情報化が広範に、そして基幹的な部分に拡大するほど、それが機能しなくなった場合のリスク管理は不可欠となる。一方、情報技術と情報リテラシーの高度化にともない、ユーザひとりひとりが被害者にも、そして意図せず加害者になる可能性も増している。本科目では、情報セキュリティの問題を、システム開発運用および利用者（ユーザ）教育の2つの観点から解説し、その全体像を明らかにする。

授業の目標

- ・情報セキュリティのシステムの・運用的な課題を理解する。
- ・情報リテラシー（フルーエンシー）教育における情報倫理の課題を理解する。
- ・社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につける。
- ・本分野は、技術革新の著しい分野であり、その表現型は短期間で変化する。このため、最新の動向を、継続的に学習するためのコンピテンシー（能力）を身につける。

履修上の留意点

- ・パソコンとインターネットを利活用できるリテラシーを有することががのぞましい。特に、パソコンやインターネットの未経験者は、面接授業、基礎科目「初歩からのパソコン」を履修しておくことががのぞましい（ただし、履修の要件とはしない）。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	情報化社会における光と影2014	高度情報化社会の進展とともに、情報のセキュリティと倫理に関して、どのような問題が生じているか、概観を得る。こうした現象を理解するための基本的な概念と事例を学ぶ。本科目の構成および発展学習の指針を知る。 【キーワード】 情報化社会、情報セキュリティ、情報倫理、リスク、脅威、脆弱性、情報セキュリティマネジメントシステム、情報モラル教育、本科目の学び方	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授)
2	サイバー犯罪の諸相と問題解決1:利用者の視点から	インターネットの一般利用者の立場から、サイバー犯罪とは何かを学ぶ。次にそれらの犯罪から身を守るために、マルウェアの種類や感染経路を学習し、パソコンやネットワークを利用・管理する際の注意点を確認する。 【キーワード】 パスワード管理、コンピュータウイルス、ワーム、不正アクセス、マルウェア、パソコンや記憶媒体の廃棄、無線LANの管理	中西通雄(大阪工業大学・教授)	中西通雄(大阪工業大学・教授)
3	サイバー犯罪の諸相と問題解決2:子どもに対する視点から	ネット詐欺以外のネットワーク利用犯罪と、インターネットの利用者間で生じる様々なトラブルについて学ぶ。この回で紹介する事件やトラブルでは、子どもが被害者や加害者になることが多く、情報社会が抱えた大きな問題といえる。事例を示しながら、問題解決のために、その社会的背景と問題の所在について検討を加える。 【キーワード】 ネットワーク利用犯罪、出会い系サイト、ネット犯行予告、著作権、ネットいじめ、セクスティング、炎上	村田育也(北海道教育大学・准教授)	村田育也(北海道教育大学・准教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	サイバー犯罪の諸相と問題解決3:管理者の視点から	サーバクライアントモデル，サーバ管理の立場から，スパイウェアやインジェクションなどのサーバを攻撃する手法，サイバー犯罪などについて学ぶ。また，ハクティビズムについても理解を深める。 【キーワード】 サーバ管理，インジェクション，クロスサイトスクリプティング，サーバOS，ファイアウォール，アクセス制限，サイバー犯罪，ハッカー，ハクティビズム	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)
5	情報セキュリティの基盤技術1:暗号と認証の基礎	情報セキュリティの基盤技術としての暗号と認証について学ぶ。暗号と認証の基本的な考え方および両者の関係，古典暗号と現代暗号の違い，現代暗号の標準化プロセス，暗号の危殆化，代表的現代暗号について学ぶ。 【キーワード】 暗号，認証，古典暗号，現代暗号，暗号の危殆化	上原哲太郎(立命館大学・教授)	上原哲太郎(立命館大学・教授)
6	情報セキュリティの基盤技術2:公開鍵暗号系	暗号応用として最も重要な公開鍵暗号系について学ぶ。共通鍵暗号と公開鍵暗号の違い，中間者攻撃，DH鍵交換の仕組み，公開鍵暗号と電子署名，公開鍵認証基盤(PKI)の仕組み，PKIの運用について知る。 【キーワード】 公開鍵暗号，電子署名，中間者攻撃，DH鍵交換，公開鍵認証基盤(PKI)	上原哲太郎(立命館大学・教授)	上原哲太郎(立命館大学・教授)
7	情報セキュリティの基盤技術3:さまざまな認証技術	ID管理，パスワード，生体認証，機器認証などの認証技術について，その運用もあわせ学ぶ。また，不正アクセスを防ぐためのファイアオール技術や，IDSなどの攻撃検出技術について知る。 【キーワード】 ID管理，パスワード，生体認証，機器認証，IDS	上原哲太郎(立命館大学・教授) 山田恒夫(放送大学・教授)	上原哲太郎(立命館大学・教授) 山田恒夫(放送大学・教授)
8	情報セキュリティマネジメント	情報セキュリティを維持するために必要となる危機管理の考え方，情報セキュリティポリシー情報セキュリティ管理者，情報セキュリティ教育などについて学ぶ。また，情報セキュリティを評価する方法について理解する。 【キーワード】 情報セキュリティポリシー，機密性，完全性，可用性，情報セキュリティ担当者，監査，法令	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)
9	情報通信技術とプライバシー	情報通信技術の進展に伴い変化したプライバシーについて学ぶ。プライバシー観の歴史的変遷，情報通信技術がプライバシーに及ぼした影響および行動トラッキングや固定IDに代表される新しいプライバシー問題について考える。 【キーワード】 プライバシー，個人情報保護法，行動トラッキング，固定ID問題	上原哲太郎(立命館大学教授)	上原哲太郎(立命館大学教授)
10	セキュリティと法	情報セキュリティで守られる対象となる知的財産権や個人情報などに関する法令について，その内容と目的，法令の存在意義，ジレンマ状況などについて学習する。また，サイバー犯罪などに関連する法令については，具体的に理解を深める。 【キーワード】 著作権法，個人情報保護法，出会い系サイト規制法，不正アクセス禁止法，プロバイダ責任法，迷惑メール防止法，ジレンマ	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)	辰己丈夫(早稲田大学・招聘研究員)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	インターネットの特性 と子どもによるイン ターネット使用の問題	インターネットには高い匿名性があり、それを理解して適切に利用するには、豊かな人生経験に裏付けられた社会性が必要である。また、インターネットを利用する際に用いるパソコンや携帯電話などのインターネット端末には高い個人性があり、利用者は一人で判断して操作する必要がある。今回は、これらのインターネットの特性に関する内容を学び、その後、子どもによるインターネット使用の問題について考える。 【キーワード】 匿名性、個人性、子ども、責任能力、社会性、匿名でのコミュニケーション	村田育也(北海道教育大学・准教授)	村田育也(北海道教育大学・准教授)
12	初等中等教育における情報倫理教育	初等中等教育における情報倫理教育は、情報倫理を学ぶのではなく、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成する情報モラル教育として位置づけられている。情報モラル教育を考えるために必要不可欠な子どもの社会性と責任能力の発達過程を十分に考慮した上で、その内容と方法について考え、インターネットを適正に利用するには情報モラルと責任能力と社会性が必要であることと、そのため情報モラル教育とともに年齢に応じた情報メディアの使用制限が必要であることを学ぶ。 【キーワード】 初等中等教育、子ども、社会性、責任能力、情報モラル、使わせ方の4段階	村田育也(北海道教育大学・准教授)	村田育也(北海道教育大学・准教授)
13	生涯学習における情報倫理教育	初等中等教育における情報教育の普及によって、若い世代では問題が高度化する一方、高等教育以降の情報倫理教育のあり方が問われている。教育の国際化にともない、既習内容そして文化的背景も多様な留学生に向けた教育も必要になっている。海外の状況も視野に入れながら、生涯学習における情報倫理教育の主要なトピックについて学ぶ。 【キーワード】 高等教育、生涯学習、情報倫理教育、情報セキュリティ教育、教育の国際化、留学生教育	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授)
14	技術者倫理と情報セキュリティ人材育成	情報技術者は情報通信技術に直接関わらない問題にも直面する。技術者として倫理的な考察が必要となったときどのような段階を踏んで考えればよいか、内部告発の問題点は何か、倫理綱領には何が定められているかを学ぶ。これらを踏まえ、情報通信技術に関わるいくつかの問題を見ることで、技術者としてのアプローチ方法を考える。最後に、セキュリティ人材の育成についても動向を見る。 【キーワード】 技術者倫理、内部告発、倫理綱領、情報セキュリティ人材育成	中西通雄(大阪工業大学・教授)	中西通雄(大阪工業大学・教授)
15	まとめと展望	インターネット依存症(インターネット中毒)など、高度情報通信社会の近未来を左右しかねない社会的現象を学びながら、今後の学問分野としての展望と、継続学習のポイントを考察する。ICTやインターネット技術の将来を占うことは大変困難なことであるが、近未来の情報セキュリティや情報倫理の分野において顕著になるであろう課題を検討する。 【キーワード】 インターネット依存症、ネットいじめ、個人情報保護、サイバー社会、仮想社会、批判的公共圏、ビッグデータ、プライバシー、情報フルーエンス、ハッカー、クラッカー	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授)・全員

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	変調の方法	データを伝送するための変調、また信号の歪みによる符号間干渉や、SN比を最大にするための整合フィルターの考え方を理解し、変調信号の誤り率について学ぶ。 【キーワード】 ベースバンド、搬送波通信、ナイキスト間隔、符号間干渉、整合フィルター、誤り率	近藤喜美夫	近藤喜美夫
5	アンテナ	無線通信で用いられる電波について、空間における電磁波の性質を理解するとともに、アンテナの特性や給電方法、また代表的アンテナ形式についてその基礎を学ぶ 【キーワード】 変位電流、マクスウェル方程式、アンテナ利得、導波管、パラボラアンテナ、配列アンテナ	近藤喜美夫	近藤喜美夫
6	伝搬特性と通信	電波が伝搬することにより遮蔽、減衰の他、様々なところで反射、回折された波と相互に重なり合い、信号レベルの変動を生じる。この変動特性とこのような状況での通信の基礎を学ぶ。 【キーワード】 隠れ端末問題、マルチパス波、フェージング、ダイバーシチ、MIMO	近藤喜美夫	近藤喜美夫
7	誤り訂正符号	伝送途中で生じた誤りを検出、あるいは訂正する仕組みを、線形符号と線形符号の一つである巡回符号、また畳み込み符号を通して学ぶ。 【キーワード】 線形符号、巡回符号、畳み込み符号、生成行列、パリティ検査行列、シンドローム、ビタービ復号	近藤喜美夫	近藤喜美夫
8	通信の高速化	動画など高密度な情報伝送や伝搬路での複数の反射波への対応特性に優れた変調方式として、周波数拡散変調と複数キャリア変調などの基礎を学ぶ。 【キーワード】 多値変調、周波数拡散変調、M系列、マルチキャリア変調、OFDM、ガードインターバル	近藤喜美夫	近藤喜美夫
9	光の利用	光の信号を遠距離まで伝送できる光ファイバーや、光を効率的に発生する半導体レーザなどを用いて可能となっている光通信の基礎を学ぶ 【キーワード】 全反射、光変調、半導体レーザ、光ファイバー、シングルモード、フォトダイオード	近藤喜美夫	近藤喜美夫
10	音、動画の符号化	動画など情報量が大きいとき、耳や目の特性、また画像の特性を利用して情報量を圧縮する方法について、空間周波数による表現方法など、その考え方の基礎を学ぶ。 【キーワード】 情報源符号化、非線形量子化、知覚符号化、空間周波数、DCT、フレーム間相関、エントロピー符号化、動きベクトル	近藤喜美夫	近藤喜美夫

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
11	衛星通信	広い範囲での通信を可能とする衛星通信について、静止衛星、中継器特性などの基礎を理解するとともに、複数の局が同時に衛星を利用する多元接続などの考え方を学ぶ 【キーワード】 静止衛星、通信衛星、中継器、回線設計、C/T、多元接続、VSATシステム	近藤喜美夫	近藤喜美夫
12	放送	広い範囲に存在する不特定多数の受信者に信号を配信する放送について、デジタルテレビ放送の伝送方式とデータ放送の仕組みを学ぶ 【キーワード】 MPEG-2システム、PES、TS、PS、ISDB、HDTV、DRM、HDCP	近藤喜美夫	近藤喜美夫
13	インターネット通信	コンピュータ間を相互に接続して信号の交換を行うネットワークについて、その信号のやりとりの方法とこれを可能にする信号の宛先情報、また宛先に応じて転送をおこなう仕組みを学ぶ 【キーワード】 パケット交換、LAN、イーサネット、MACアドレス、IPアドレス、アドレス解決、TCP/IP、ルータ	近藤喜美夫	近藤喜美夫
14	インターネット応用	ネットワークにおいて複数のコンピュータに信号を届ける通信方法、また複数の利用者にサービスを提供する仕組みなど、ネットワークを介してコンピュータが連携する方法を理解する 【キーワード】 ブロードキャスト、マルチキャスト、サーバ・クライアント方式、ブラウザ、HTTP、ストリーミング	近藤喜美夫	近藤喜美夫
15	安全な通信	情報漏洩など意図しない信号伝送、あるいは情報の変更に対してこれを防ぐ方法について、ファイアウォール、暗号、電子署名などの工夫とその考え方の基礎を学ぶ。 【キーワード】 ファイアウォール、VPN、暗号、共通鍵、公開鍵、ハッシュ値、電子署名 認証	近藤喜美夫	近藤喜美夫

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570137	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 数値の処理と数値解析 （'14）＝（R）

英文名＝ [Numerical Computing and Analysis ('14)]

〔主任講師（現職名）： 櫻井 鉄也（筑波大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 大西 仁（放送大学准教授） 】【

講義概要

数学や物理で現れる方程式は、式が複雑になると答えを与える公式がない、あるいは簡単には答えが得られない場合も多い。このようなとき、コンピュータを用いて数値計算で解を求めるのが数値解析である。数値解析は、自然現象のシミュレーションやデータの分析、製品の設計や開発、信号処理や画像解析など、幅広い分野で利用されている。本講では、コンピュータを用いて数値計算を行うときに必要となる数値の表現や処理について理解する。また、各種の問題に応じた計算方法について基本的な手法を修得する。計算方法を記述するためのアルゴリズムやそれをコンピュータに指示するためのプログラムについても概説する。

授業の目標

本講では、コンピュータを用いた数値解析によって数学や物理で現れる問題を解くために、そこで表れる数値計算の仕組みやアルゴリズムの基本的な性質を理解することを目標とする。あわせて、数値計算のためのアルゴリズムをどのように記述するかや、プログラミングの基礎的な考え方についても修得する。

履修上の留意点

計算法の説明では線形代数や微積分が現れるため、これらの基礎知識があることが望ましい。講義中で扱う例は線形代数や微積分の応用例にもなっており、これらの理解にも役立つ。数値計算は実際にコンピュータ上で実行して結果を確認することがより深い理解につながるため、実際に数値計算を経験してみることを勧める。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	コンピュータと数値計算	数値解析と数値の処理に関する概観と、数値計算の手順を示すアルゴリズムや計算量などの基本的な概念を説明する。また、コンピュータを使って計算をするときによく現れる漸化式や直接法、反復法といったことについても説明する。 【キーワード】 アルゴリズム、漸化式、計算量、反復計算	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
2	計算アルゴリズムの表現	数値計算のアルゴリズムをどのように記述するかについて説明する。コンピュータで計算を実行するために用いるプログラム言語や、アルゴリズムを表すための擬似コードについて述べる。計算結果のグラフ表示についても説明する。 【キーワード】 数値計算のプログラム、変数と代入、条件分岐と繰り返し、計算結果の表示	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
3	コンピュータにおける数値の表現と処理	コンピュータの中で数値がどのように表現され、処理されるかについて説明する。数学で現れる実数はいくらでも多くの桁を考えることができるが、コンピュータでは有限のデータ量で表す必要がある。そのために起こる計算上の問題点や、数値計算をする上で知っておくとい知識などについて解説する。 【キーワード】 2進数と10進数、整数と浮動小数点数、オーバーフローとアンダーフロー、計算誤差	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	行列とベクトルの計算	行列やベクトルは数値計算においてよく現れるため、これらについて習熟しておく必要がある。ここでは、行列やベクトルについて、基本的な概念や性質について説明する。また、行列やベクトルを用いた数値計算の方法についても述べる。 【キーワード】 行列とベクトル、行列の演算、ノルム、基本線形代数プログラム	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
5	連立一次方程式の解法	与えられた条件をみたすようないくつかの値を決める問題で、とくに線形の関係がある場合には連立一次方程式が現れる。このような方程式をコンピュータで解くときに用いる方法について説明する。まず、人が手で計算できるような少ない変数の例題から始め、より一般的に多くの変数の場合の扱いについて示す。 【キーワード】 連立一次方程式の解法、LU分解、前進後退代入	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
6	多項式と有理式	コンピュータでは、四則演算の組み合わせで、より複雑な計算を行っている。このとき、多項式や有理式がよく用いられる。ここでは、多項式や有理式の表現や計算方法について述べる。また、近似や積分などの計算で重要な役割を果たす直交多項式についても説明する。 【キーワード】 多項式、多項式の演算、直交多項式、有理式	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
7	関数の近似	与えられた関数やデータに対して、それを表す近似式の計算方法を紹介する。高階導関数を用いたテイラー展開による近似や、与えられた点を通る多項式を求める多項式補間などについて説明する。また、有理式による近似についても示す。 【キーワード】 多項式補間、標本点と標本値、有理関数近似	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
8	非線形方程式の解法	非線形の関数では、変数の値が2倍になったときに、その関数の値は2倍になるとは限らない。非線形方程式の解は、一般には直接求める解の公式が存在しない。そのため、適当な近似解から始めて反復改良を行うことで解に近づけていく。このような反復法の基礎について説明する。 【キーワード】 代数方程式、反復法、不動点、ニュートン法	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
9	行列の固有値問題	固有値問題は、与えられた行列に対してある性質をもった特別なベクトルと値の組を求める問題である。人気のあるWebページの推定やナノレベルのシミュレーションなどは固有値問題に帰着する。固有値問題の考え方や基本的な解法について紹介する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、相似変換、ベキ乗法	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
10	最小二乗法と特異値分解	測定データなどが与えられたときに、そのデータの分布を近似的に表す直線や2次式などを求める問題は最小二乗問題となる。この問題は一般の次数の多項式によってデータの分布を表す問題へと拡張できる。ここでは、多項式補間や連立一次方程式と関連づけて計算方法を説明する。 【キーワード】 最小二乗法、QR分解、特異値分解、データ解析	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	数値積分法	定積分をコンピュータで数値計算する方法について説明する。多くの数値積分の計算法は、あらかじめ決められた点で求めた関数の値に対して適当な数をかけて足し合わせる形で表される。このとき、関数を計算する点や関数にかける値を変えることでさまざまな公式が得られる。 【キーワード】 定積分、台形則、補間型積分則、ガウス積分則	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
12	常微分方程式の解法	時間に依存する物体の運動など、さまざまな現象が常微分方程式で表され、これを解くことで結果の予測や制御などが可能となる。ここでは最初の状態を与えて微分方程式の解がどのように変化するかを求める初期値問題の解法について説明する。 【キーワード】 常微分方程式、オイラー法、ルンゲクッタ法、硬い方程式	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
13	偏微分方程式と差分法	熱や波の伝播、液体や気体の流れ、構造物の変形、分子や原子の状態などの現象は偏微分方程式で表され、それを解くことでさまざまな現象の解明につながる。ここでは板に熱が伝わる現象を例にして、偏微分方程式の基本的な解法について説明する。 【キーワード】 偏微分方程式、ラプラス方程式、差分法、定常反復	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
14	疎行列の計算法	シミュレーションなどを行うとき、行列の要素の多くが0となるような疎行列が現れることが多い。このような疎行列の効率的なデータ表現方法や計算法について説明する。また、疎行列を係数行列とする連立一次方程式の解法について紹介する。 【キーワード】 疎行列、行列ベクトル積、共役勾配法、前処理	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)
15	スーパーコンピュータによる数値計算	理論や実験による科学の手法に対して、コンピュータによる計算によって現象の解明や予測を行う分野を計算科学という。このとき現れる計算は大規模になることが多く、スーパーコンピュータが用いられる。ここでは、スーパーコンピュータを用いた高速な計算がどのようにして行われるのか基礎的な内容について説明する。 【キーワード】 逐次計算と並列計算、速度向上率、アムダールの法則、分散処理	櫻井鉄也(筑波大学教授)	櫻井鉄也(筑波大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1570145	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 情報化社会と教育 （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [Education in the Information Society ('14)]

〔主任講師（現職名）： 苑 復傑（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 中川 一史（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

この授業は情報化社会における教育のあり方と問題点を、多角的な視点から考えるものである。まず第1章では、情報と教育との間の関係を、その基礎的な意味に立ち戻って考える。続く第2章から第5章までは、高等教育を中心として、情報化社会のもつ意味と問題点を考える。さらに第6章から10章までは、初等教育、中等教育の情報化社会への対応、授業での取り組み、そして第11章から15章までは、情報化社会における各学校段階でのメディア教育の内容と実態、メディア・リテラシーの実際とその意味を論じる。

授業の目標

情報化社会における教育の現状や課題に関する知識を習得する。情報技術の応用に関して用いられる様々な新しい用語について基本的な知識を得る一方で、情報技術との関連を通して教育および学習の意味について考えなおす機会とする。

履修上の留意点

※この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	情報と教育	情報化社会の進展が教育に大きな可能性を拓いているが、教育は情報化社会の発展に重要な役割をもっている。しかしそれだけではなく、情報化社会がもたらす問題にも教育は対処しなければならない。この第1回の授業ではまず、①情報化社会とは何かを整理し、②その教育との基本的な関係を考えたうえで、③とくに高等教育と情報化社会との関係を概観して、第2回から第5回の授業での論点を紹介する。 【キーワード】 情報通信技術、情報化社会、情報、知識、教育、学校、大学教育	苑 復傑 (放送大学・教授)	苑 復傑 (放送大学・教授)
2	大学の授業改革と情報通信技術	情報通信技術は、旧来からの大学の組織や授業の方法をより効果的なものとするのに大きな役割を果たす。しかしその一方でそれを促進するためには多大な費用と組織的な努力が必要となる。この授業ではまず、①現代の高等教育の問題点とその改革の方向、②授業のあり方における情報通信技術の活用の具体的な形態、③組織的な授業改革の中での情報通信技術の役割を考える。 【キーワード】 ICT、授業改革、学習管理システム、LMS、ファカルティ・ディベロップメント、FD、教育力	苑 復傑 (放送大学・教授)	苑 復傑 (放送大学・教授)
3	インターネット大学	情報通信技術の発展は、従来の組織的な制約を乗り越えて大学がその教育機能を発展させることを可能にしている。それは伝統的な形態の大学に代替するものとして、バーチャルな大学が可能となることを意味する。この授業ではまず①伝統的な大学の社会的な制約を整理し、②一部の授業をインターネットで配信する大学、③インターネットによって完全に大学教育課程を提供する大学の事例を紹介し、そうした大学についての質保証、社会的認証などいくつかの問題点を指摘する。 【キーワード】 バーチャル大学、インターネット大学、インターネット授業、混合型学習	苑 復傑 (放送大学・教授)	苑 復傑 (放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	大規模公開オンライン授業	2000年代に入ってから、伝統的な研究大学においては、その授業を公開する運動が広がってきた。この授業では、まず①オープンコースウェアと称する公開授業教材(OCW)を取り上げ、②2010年ごろ発生した大規模公開オンライン授業ムーブ(MOOC)の実態について紹介し、そして③その背景、MOOCの可能性、そしてその潜在的な問題点を論ずる。 【キーワード】 公開授業教材、オープン・コース・ウェア(OCW)、大規模公開オンライン授業、ムーブ(MOOC)	苑 復傑 (放送大学・教授)	苑 復傑 (放送大学・教授)
5	情報化社会と高等教育の未来	高等教育における情報化の発展は、多様な可能性を切り開くものであった。しかし他方で、これまでの高等教育になかった問題点をも作りだす。この授業では情報通信技術の進展とその高等教育への導入が、高等教育にもたらす基本的な課題を、①対面授業を中心とする授業のあり方、②大学を支える市場メカニズムと質保証の枠組みに関して論じ、さらに③情報化社会において必要とされる人間像と学習のあり方について考える。 【キーワード】 コンピテンシー、学習成果の評価、市場メカニズム、質保証、学生の主体性、相互作用としての学習	苑 復傑 (放送大学・教授)	苑 復傑 (放送大学・教授)
6	学校における児童・生徒をとりまく情報化社会の対応	児童・生徒が情報化社会に対応する力を育むには、学校において、情報社会に参画する態度形成だけでなく、言語活動の充実、コミュニケーション力の育成、そしてそれらを支える環境整備も重要になってくる。この授業では、これらを視野に入れて、学校における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応について検討する。 【キーワード】 児童・生徒、情報化社会、ネット環境	中川 一史 (放送大学・教授)	中川 一史 (放送大学・教授)
7	情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	情報化社会への対応とは、必ずしも、インターネットでメールを送ったり、有害情報の対処をしたりすることだけではない。この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と小学校の授業の実際および情報化社会に対応する小学校の取り組みについて紹介する。 【キーワード】 小学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川 一史 (放送大学・教授)	中川 一史 (放送大学・教授)
8	情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と情報化社会に対応する中学校の取り組み、および中学校での情報化社会に関する授業の実際やカリキュラムのあり方について紹介する。 【キーワード】 中学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川 一史 (放送大学・教授・教授)	中川 一史 (放送大学・教授)
9	情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と情報化社会に対応する高等学校の取り組み、および高等学校での情報化社会に関する授業の実際やカリキュラムのあり方について紹介する。 【キーワード】 高等学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川 一史 (放送大学・教授)	中川 一史 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	家庭・地域における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応	これまで学校種による授業の実際やカリキュラムについて紹介してきたが、この授業では、情報化社会への家庭・地域における対応や、研修会・教材の配信等について論じていく。 【キーワード】 家庭、地域、児童・生徒、情報化社会	中川 一史 (放送大学・教授)	中川 一史 (放送大学・教授)
11	メディア・リテラシーの概要	この授業では、メディア教育によって育まれるメディア・リテラシーという能力の概要について解説する。まず、メディア・リテラシーという言葉の定義について先行研究を取り上げて整理する。また、ICTによるコミュニケーションの変化やデジタルネイティブという世代の登場を踏まえ、ICT時代、あるいはソーシャル・メディア時代のメディア・リテラシーを研究する重要性について検討する。 【キーワード】 メディア、リテラシー、定義、ICT、デジタルネイティブ	中橋 雄 (武蔵大学・教授)	中橋 雄 (武蔵大学・教授)
12	メディア教育の歴史的展開	この授業では、時代や社会に応じたメディア・リテラシーのあり方を問い直していく必要があることについて考える。例として、イギリス、カナダ、日本の歴史的な系譜について扱う。また、日本でメディア・リテラシーが注目された理由のひとつといえる情報教育の展開を確認することから、「情報活用能力」の育成を目指す情報教育と「メディア・リテラシー」の育成を目指すメディア教育の接点を探る。 【キーワード】 歴史的系譜、イギリス、カナダ、情報教育、情報活用能力	中橋 雄 (武蔵大学・教授)	中橋 雄 (武蔵大学・教授)
13	メディア教育の内容と方法	この授業では、メディア教育が何をどのように学ぶものとして捉えられてきたか、ということについて整理する。メディア教育として学習者が理解すべき内容である「メディアの特性」とはどのようなものか、これまでどのように整理され、どのように学ばれてきたのか、先行研究を取り上げて紹介する。その上で、メディアを活用して子どもたちが表現する授業デザインを探究してきたD-projectの取り組みを事例として取り上げる。 【キーワード】 メディア、リテラシー、メディアの特性、教育内容、教育方法	中橋 雄 (武蔵大学・教授)	中橋 雄 (武蔵大学・教授)
14	学校教育におけるメディア教育	この授業では、日本の学校教育においてメディア教育がどのように位置付けられているのか解説する。特に学習指導要領における指針、学力テストの内容に見られる位置付け、教科としての実践開発研究の取り組みについて紹介する。 【キーワード】 学校教育、学習指導要領、学力テスト、研究開発学校	中橋 雄 (武蔵大学・教授)	中橋 雄 (武蔵大学・教授)
15	メディア教育を支援する教材とガイド	この授業では、わが国の学校教育におけるメディア教育が、学校外の機関によってどのように支援されてきたかについて学ぶ。メディア教育用の教材は、総務省、公共放送、研究者など、様々な立場のもとで開発されてきた。これらは、どのような学習内容を取り上げ、どのような方法で学習を促進させようとしてきたのか確認する。また、こうした支援を継続的に行う上での課題について検討する。 【キーワード】 教材、リソースガイド、総務省、学校放送、研究者	中橋 雄 (武蔵大学・教授)	中橋 雄 (武蔵大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562622	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 生命分子と細胞の科学 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：二河 成男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

生物は、細胞を基本単位としている。そして、細胞は自身の持つ遺伝情報を基に、自らの活動に必要な生体高分子を作り出す。これらの生体高分子の働きにより、細胞が様々な機能を発現し、生物の生命活動は維持される。本講義では、生命活動の基となる個々の分子の働きを見るときにも、多数の分子が協調的に働くことによって生み出される様々な機能について、遺伝情報の発現、細胞分裂、情報伝達、分化等の細胞に特徴的に見られる現象を中心に紹介する。これらの理解を基に発展してきた、遺伝情報や細胞を利用する新たな技術についても解説する。

授業の目標

DNAに記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が作られるのか、タンパク質がどのように働いて細胞の活動が維持されるのかを理解することにある。これらの生物に共通のしくみに関する知識の習得を通して、生命科学を基盤とする新たな技術やその倫理的な側面について、自分自身で考える力を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

初歩からの生物学('14)を学んでおくことが望ましい。動物の科学('09)、植物の科学('09)もあわせて学ぶことにより、分子や細胞の働きによって生物個体が維持されていることを総合的に理解できる。バイオテクノロジーと社会('09)を理解する基礎となる。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	分子と細胞の世界	細胞や分子の視点から生物学を理解する利点を解説する。また、細胞の基本構造、細胞を構成する分子である、核酸、タンパク質、脂質、糖についてその基本的な特徴を説明する。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、生体高分子、多量体、サブユニット	二河成男 (放送大学・教授)	二河成男 (放送大学・教授)
2	タンパク質の構造と機能	タンパク質は、細胞内での化学反応や、細胞構造の維持、情報の伝達といった、細胞の機能的分子として、多様な役割をになっている。このようなタンパク質の構造と機能の全体像を概説する。 【キーワード】 タンパク質、アミノ酸、折りたたみ、酵素、酵素反応速度論	石浦 章一 (東京大学大学院・教授)	石浦 章一 (東京大学大学院・教授)
3	遺伝子とDNA	DNAの構造と機能の全体像を明らかにし、遺伝子の分子実体はDNAの特定領域であることを説明する。また、親から子への遺伝情報を伝達するためのDNAの複製反応についても紹介する。 【キーワード】 DNA、ヌクレオチド、塩基対、二重らせん構造、半保存的複製、DNAポリメラーゼ、染色体、遺伝子	藤原 晴彦 (東京大学大学院・教授)	藤原 晴彦 (東京大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	DNAからRNAへの転写とその調節	遺伝情報が生体で利用されるためには、DNAに記された遺伝情報がいったんRNAにコピーされる必要がある。この過程は転写と呼ばれ、遺伝情報の発現量や発現時期を調節する重要なステップである。転写機構、転写に関わる酵素、転写を調節する因子などについて述べる。 【キーワード】 転写、mRNA、RNAポリメラーゼ、オペロン、調節領域、転写因子	藤原 晴彦	藤原 晴彦
5	RNAプロセッシング	真核細胞では、転写されたRNAがそのまま働くことは少なく、核の中で様々な修飾・加工（プロセッシング）を受ける。スプライシングやキャッピングなどの真核細胞のmRNAに特有なプロセッシング、さらには転写後の発現調節のしくみについて解説する。 【キーワード】 エキソン、イントロン、スプライシング、選択的スプライシング、キャッピング、ポリA付加	藤原 晴彦	藤原 晴彦
6	翻訳 mRNAからタンパク質へ	遺伝情報がタンパク質に変換される最後の過程が翻訳である。mRNAを鋳型にして正しくタンパク質が作られるしくみを学ぶ。またその後、翻訳されたタンパク質が機能を持つように修飾される機構についても解説する。 【キーワード】 翻訳、遺伝暗号、コドン、リボソーム、rRNA、tRNA、アミノアシルtRNA、終止コドン、フォールディング、翻訳後修飾	石浦 章一	石浦 章一
7	ゲノムとゲノム科学	ある生物の持つ遺伝情報の総和をゲノムという。ヒトをはじめ、多くの生物のゲノム情報が明らかとなり、あらゆる生物学の分野に大きな影響を与えている。ゲノムが持つ情報を解説し、そこから何がわかるかを示す。 【キーワード】 ゲノム、ゲノム解析、トランスクリプトーム	二河成男	二河成男
8	細胞膜 その構造と機能	細胞膜は、細胞を囲む膜であり、細胞の内と外を区別する。一方、細胞膜を通して、細胞の生命活動に関連する分子だけが膜を通過できる選択性を持つ。このような細胞膜の構造と機能について説明する。 【キーワード】 脂質二重層、リン脂質、選択(的)透過性、小胞の働き	二河成男	二河成男
9	細胞内の化学反応	細胞内での化学反応は、酵素によって制御されている。生体内のエネルギーの基となるATPも、複数の酵素やその他の分子の働きによって合成される。このような一連の酵素反応は、代謝経路という。この回では、細胞内での代謝経路の役割と制御について解説する。 【キーワード】 代謝、代謝経路、解糖系、代謝の制御	二河成男	二河成男
10	細胞分裂と細胞周期	細胞は繰り返して分裂することによってその数を増やす。細胞周期とは、その分裂から次の分裂までの1周期のことをいう。この回では、細胞分裂や細胞周期がどのように制御されているかを解説する。 【キーワード】 細胞分裂、細胞周期、サイクリン、サイクリン依存性キナーゼ、チェックポイント	二河成男	二河成男

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	細胞のシグナル伝達	細胞は、ホルモンや成長因子、あるいは近隣の細胞との接触といった、外部からの様々なシグナルを受け取り、それを内部に伝えて、自身の増殖や分化を制御している。これらの機構について解説する。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、タンパク質リン酸化	二河成男	二河成男
12	細胞分化	動物や植物といった生物は、様々な種類の細胞からその個体が形成されている。これは受精卵に由来する全く同じ遺伝情報を持つ細胞が、異なる性質を持つ細胞へと変化していくためである。この細胞分化という現象について解説する。 【キーワード】 細胞分化、全能性、幹細胞、細胞死	二河成男	二河成男
13	ウイルス	ウイルスは、細菌とは異なり、生物の細胞内でなければ増殖できない。一方で、DNAあるいはRNAに自身の遺伝情報を保持し、タンパク質や脂質によって粒子状の形態を形作っている。このような生物ともいえる性質を持つウイルスについて、その基本的な特徴、分子生物学への利用、新たなウイルス誕生の可能性について、解説する。 【キーワード】 ウイルス、ウイルスの利用、ウイルスの脅威	渡邊 雄一郎 (東京大学大学院・教授)	渡邊 雄一郎 (東京大学大学院・教授)
14	遺伝子の検出と操作	DNA型鑑定や遺伝子検査といった遺伝子検出の技術や、遺伝子組み換え生物を作出する遺伝子操作の技術はどのようなものか、その実例や将来の可能性を紹介する。 【キーワード】 PCR法、遺伝子検査、遺伝子組み換え技術、遺伝子治療	渡邊 雄一郎	渡邊 雄一郎
15	生命科学の現在と未来	21世紀は生命科学の時代であり、分子あるいは細胞レベルの生物学はその基礎として重要性を増すにいたっている。ここでは、ゲノムから明らかになった生命のしくみ、病気の治療法の開発など私たちのまわりの問題と、それにまつわる生命倫理について講義する。 【キーワード】 遺伝子と老化、歴史学とDNA、遺伝子と環境の相互作用	石浦 章一	石浦 章一

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562410	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 生物界の変遷（'11）＝（TV）
－進化生物学入門－

※この科目は「生物界の変遷（'06）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第3, 4, 5, 7, 9回です。

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：二河成男（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

生命体は様々な地球環境のもとで、40億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そもそも生命はどのようにして誕生したのであろうか。そして、いかにして進化し変遷していったのであろうか。また、生物体の姿はゲノムの中の遺伝情報が、発生過程を経て表現型として現れたものであるが、その仕組みは進化とどのように関係しているであろうか。さらに、分子レベルの進化はどのようなものであろうか。本講義では、進化生物学の入門として、多様な生物界の変遷および分子レベルでの進化を総合的にみることにする。

授業の目標

生命科学における最も基礎的な概念としての生物の進化とはどのようなことか、そして、生物の進化は遺伝情報の変化でもあるが、それらはいかにして成立したかについて学んでもらう。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での基礎科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。また、学部での専門科目の「動物の科学」、「植物の科学」は、生物科学関係の関連した科目として設置されているので、できるだけ参考にして欲しい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「生物界の変遷」のねらい	地球上に生命体が誕生して約40億年、その間に実に様々な生物が進化し、今日に至っている。 この回ではそれらの様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。また、生物の進化はどのようにして調べられてきたのかの方法、さらに、生物が進化するに至った原動力などを説明する理論を紹介する。さらに、生物界の分類の方法についても考察する。 【キーワード】 生命史40億年、化石、地層の歴史、年代測定、形質の比較、生物の系統、進化	松本 忠夫 (放送大教授)	松本 忠夫 (放送大教授)
2	生命の誕生、そのメカニズム	今から約40億年前に、地球上で生命は誕生した。現在の最も単純な細胞であっても非常に複雑である。どのように生命は準備され、誕生したのであろうか。まず生体を構成する物質が無生物的に合成され、地球上に蓄積した。それが集合して、やがて最初の細胞が誕生した。それが誕生するまでの過程を概観する。 【キーワード】 生命の誕生、化学進化、DNA、RNAワールド、高分子の重合	山岸 明彦 (東京薬科大・教授)	山岸 明彦 (東京薬科大・教授)
3	生物界の3ドメインの誕生と進化 (※改訂回)	現在の生物の共通祖先が地球上に現れ、その後、真正細菌、古細菌、真核生物という3つのグループに分岐した。それら3つのドメインは独自の進化を遂げて現在に至っている。ここでは、その3つのドメインの進化的な関係を示し、さらには、真正細菌と古細菌について、その進化と多様化そして地球環境との関係について解説する。 【キーワード】 共通祖先、真正細菌、古細菌、真核生物、3ドメイン説	二河 成男 (放送大教授)	二河 成男 (放送大教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	真核生物の誕生と進化 (※改訂回)	真核生物の持つ真核細胞には、原核細胞とは異なり、細胞の中に核やミトコンドリアといった膜に包まれた構造が存在する。ここでは、どのような進化の過程を経て、真核細胞が内部の構造を獲得してきたかを解説することによって、真核生物の誕生と進化の過程を示す。また、いくつかの興味深い真核生物の特徴について概観する。 【キーワード】 真核細胞、細胞小器官、細胞骨格、細胞内膜系、有性生殖、多細胞化、内生説、共生	二河 成男	二河 成男
5	動物の誕生と爆発的な進化 (※改訂回)	真核生物の誕生後、水中では多細胞動物が現れて大型化していった。そして約6億年前から数千万年間ほどエディアカラ生物が大繁栄したがやがて絶えてしまい、先カンブリア時代末からカンブリア紀初期には節足動物などの爆発的な多様化がみられた。その間には地球環境に様々な変動があった。本章では、生命進化史のなかで、動物がどのようにして誕生し、なぜ急速に多様化したかについて説明する。 【キーワード】 動物の誕生、多細胞生物、エディアカラ生物、カンブリア生物、動物の大型化、眼の誕生	松本 忠夫	松本 忠夫
6	植物の上陸と多様化	最初に陸上に進出した生物は何か、現在の陸上生態系を支える生産者である植物はいつどのようにして上陸したのか、祖先は何か、上陸によって地球はどのように変化したのかなどについて解説する。 【キーワード】 陸上植物、植物の上陸、維管束植物、被子植物、裸子植物	西田 治文 (中央大学・教授)	西田 治文 (中央大学・教授)
7	魚類の進化と動物の上陸 (※改訂回)	カンブリア紀に動物は爆発的に多様化した。そして、魚類の祖先が出現し、やがて様々な系統へと分化して行った。デボン紀になると、植物が上陸した後を追いかけるように、水中で大きく多様化した動物の一部も上陸した。そして、それらは陸上植物の進化とともに多様化していった。本章では魚類の誕生とその進化、そして脊椎動物はどのようにして陸上に進出したのか、また、上陸するにあたっては、どのような形質の獲得が必要だったのか、そしてどのように多様化していったのかについて解説する。 【キーワード】 魚類の進化、脊索動物、脊椎動物、顎の進化、動物の上陸、硬骨魚類、四足動物、両生類	松本 忠夫	松本 忠夫
8	昆虫類の適応放散	昆虫類は現在の地球の陸上においてもっとも種類数が多く、特に熱帯域において種数、現存量ともに大繁栄している。その昆虫類の起源は古生代にさかのぼるが、現生の昆虫類は被子植物の進化と共に適応放散した系統が大勢を占めている。この章では、昆虫類の特徴を見ると共に、その適応放散の様相を解説する。 【キーワード】 節足動物、外骨格、昆虫類、適応放散、昆虫の翅、エラ起源説	松本 忠夫	松本 忠夫
9	四足動物の適応放散 (※改訂回)	脊椎動物は実に多様な生活型に適応放散した。海洋などの水界においては、祖先的な遊泳型として硬骨魚類が大勢を占めているが、哺乳類も種々の遊泳型のものが進化している。陸上では、歩行型として爬虫類や哺乳類、飛翔型として鳥類が繁栄しているが、哺乳類にも飛翔型のコウモリ類がいるし、鳥類には歩行型のダチョウ類、遊泳型のペンギン類などもある。この章では脊椎動物の適応放散の様相およびその意味を解説する。 【キーワード】 四足動物、爬虫類の進化、適応放散、恐竜、鳥類の進化、哺乳類の進化	松本 忠夫	松本 忠夫

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
10	分子レベルの進化	分子生物学の進展により、生命現象をDNAやタンパク質といった分子から説明できるようになった。この結果、生命の進化における形や性質の変化や多様化を分子レベルで説明する試みが注目を集めている。この回ではDNAやタンパク質の進化と多様化のしくみについて解説する。 【キーワード】 突然変異、自然選択、分子進化の中立説、遺伝的浮動、分子時計	二河 成男	二河 成男
11	分子で探る生物の系統関係	約40億年前に地球上に現れた祖先生物が種分化を繰り返してきた結果、多種多様な生物種が進化してきた。この生物進化の歴史は系統樹として表現される。系統樹とは何か、分子データから系統樹をどのように推定するかについて説明する。 【キーワード】 生物の分類、2名法、系統樹、系統関係の推定	二河 成男	二河 成男
12	ゲノムの進化	多数の生物種においてそのゲノム情報が解読されたことにより、生物進化に伴いゲノム自身も大きく変化してきたことが明らかになってきた。様々なゲノム進化の様式について説明する。 【キーワード】 ゲノム、遺伝子重複、遺伝子シャプリング、遺伝子水平転移、遺伝子喪失	二河 成男	二河 成男
13	発生と進化(植物)	生物の多様な形はどのように進化したのだろうか。形は多くの遺伝子によって制御される発生過程の結果できあがる。従って、発生過程に関わる遺伝子の進化が生物の多様な形を生み出す原因である。植物の生殖器官である「花」の進化を題材に、生物の形の多様性がどんな遺伝子の変化によって引き起こされるのかを探究する。 【キーワード】 発生進化学、植物の生殖器官、ABC機能遺伝子、LEAFY遺伝子、植物の花	長谷部 光泰 (基礎生物学 研究所教授)	長谷部 光泰 (基礎生物学 研究所教授)
14	発生と進化(動物)	動物が植物と異なる点は、なんと言っても「行動」を行えることであろう。その行動を可能にするためには、筋肉や神経などを用いて機能的な運動を可能とするためのボディプランの構築が必須である。そのような精巧なボディプランがどのようなメカニズムの上に成り立ち、そしてそれがいかにして進化してきたかについて概説する。 【キーワード】 進化発生学、体節、Hox遺伝子、翅原基、表現型可塑性、カースト分化	三浦 徹(北 海道大学大 学院准教授)	三浦 徹(北 海道大学大 学院准教授)
15	生物界の変遷と人類	人類は約5百万年前に誕生し、つい数万年前から地球上に大きく拡散した。そして、現在では地球上において極めて大きな影響力を持つに至った。類人猿の祖先から人類が誕生した道筋、そして他の生物に与える影響の大きさを様々な側面から説明する。 【キーワード】 霊長類、人類の特徴、人類の化石、人類の誕生、アフリカ単一起源説、人類の世界拡散	松本 忠夫	松本 忠夫

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1564900	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 植物の科学 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：塚谷 裕一（東京大学・教授）〕
 〔主任講師（現職名）：荒木 崇（京都大学・教授）〕
 【担当専任教員：松本 忠夫（放送大学・教授）】

講義概要

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、他の生物との相互作用について説明する。さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。『動物の科学』とペアになる講義である。

授業の目標

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、動物や微生物など他の生物との相互作用について説明する。
 さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など、人間の暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。

履修上の留意点

『動物の科学』とペアになる講義である。『動物の科学』と合わせて履修することで、生物界全体に対する理解を深める。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	さまざまな植物たち	この講義全体を通じて、植物の暮らしそのものの理解と共に、私たち人との関わりにも理解を深めてもらうことを目指している。その最初の導入として、いかにさまざまな植物が、地球上で私たちの身の回りにいるかを紹介し、生物多様性の理解を進める。 【キーワード】 生物多様性、形態多様性、植物学の概観	塚谷 裕一 (東京大学・教授)	塚谷 裕一 (東京大学・教授)
2	光合成と一次代謝	植物の生の営みの特色の1つは、光のエネルギーを化学エネルギーに変換する光合成過程である。植物が光エネルギーを受け取り、化学エネルギーに変換するしくみとその多様性、さらに、光合成産物が呼吸等の一次代謝により利用されていく関係を学ぶ。 【キーワード】 光合成、光合成の電子伝達系(光化学系)、カルビン・ベンソン回路(還元的ペントースリン酸回路)、C3植物、C4植物、一次代謝	佐藤 文彦 (京都大学・教授)	佐藤 文彦 (京都大学・教授)
3	発生・成長(1) ～胚発生～	植物の発生と成長について、この回から6回にわたって紹介する。第1回は、種子の中にあつて外からはうかがい知ることがむずかしい胚発生の仕組みについて学ぶ。胚発生の過程で形成される植物体のおおまかな体制(ボディープラン)やその形成に関わる植物ホルモンについて紹介する。 【キーワード】 種子、胚発生、ボディープラン、分裂組織、植物ホルモン	荒木 崇 (京都大学・教授)	荒木 崇 (京都大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
4	発生・成長(2) ～発芽と伸長～	完成した胚を含む種子は、水分を失い乾燥種子として休眠状態に入るが、水、酸素、光といった適切な環境刺激のもとで発芽が可能になる。発芽した芽生えは光環境に応じた成長をおこなう。種子の休眠と発芽の仕組み、それに関わる植物ホルモン、芽生えの伸長成長、種子や芽生えが光を感じる仕組みなどについて学ぶ。 【キーワード】 種子休眠、発芽、伸長成長、植物ホルモン、光受容体	荒木 崇 (京都大学・教授)	荒木 崇 (京都大学・教授)
5	発生・成長(3) ～根～	根は土壌から水分や養分を吸収して植物の地上部に与えている。その発生と成長は独特のものであり、重力や栄養欠乏を感知して形を変化させる可塑性や、土壌中の障害物を巧みに回避して成長する特性等を備えている。それらの仕組みを、関連の深い植物ホルモンとあわせて紹介する。 【キーワード】 根、根端分裂組織、可塑性、重力屈性、植物ホルモン	川口 正代司 (基礎生物学研究所・教授)	川口 正代司 (基礎生物学研究所・教授)
6	発生・成長(4) ～シュート～	植物の地上部は、茎の周りを葉が取り巻く「シュート」という構造から成っている。その形作りの仕組みを紹介し、どのようにして植物のシュートが発達していくのかを学ぶ。特に、シュート頂分裂組織から葉ができる仕組み、その配置のルール、さらに葉の形態の多様性とその遺伝的な仕組みなどについても紹介する。 【キーワード】 SAM(シュート頂分裂組織)、葉序、葉、花	塚谷 裕一 (東京大学・教授)	塚谷 裕一 (東京大学・教授)
7	発生・成長(5) ～花芽形成～	植物は適切な環境条件におかれると、シュートを変形させて花を作り出す。その切り換えを花芽形成という。特に日の長さは花芽形成を促す重要な環境要因である。植物が日の長さを感じて花芽形成を開始する仕組みや花を構成する器官、ABCモデルと呼ばれる花の形づくりのしくみなどについて学ぶ。 【キーワード】 花芽形成、日長、光受容体、生物時計、フロリゲン、ABCモデル	荒木 崇 (京都大学・教授)	荒木 崇 (京都大学・教授)
8	発生・成長(6) ～受粉と受精～	花は生殖器官を含み、受粉と受精の場として機能する。生殖器官の形成、自己と他者の花粉を区別する仕組みや卵細胞を含む胚嚢まで花粉管を導く仕組みなど、受粉から受精にいたる過程を紹介し、このシリーズの初回で学んだ胚発生の出発点である受精卵ができるまでを学ぶ。 【キーワード】 花粉、胚嚢、受粉、花粉管、受精、自家不和合性	荒木 崇 (京都大学・教授)	荒木 崇 (京都大学・教授)
9	形態の可塑性 ～環境適応～	植物は固着性の生活をしているため、予め決められた発生プログラムの他に、環境に合わせて随時、可塑的に形態を変化させる仕組みを持っている。その仕組みとその生態学的意味について学ぶ。さらに、外界の環境に応じてどのようにその姿を変えるのかについて、重力応答や頂芽優勢など、具体例を紹介する。 【キーワード】 可塑性、環境適応、重力、光環境、頂芽優勢	塚谷 裕一 (東京大学・教授)	塚谷 裕一 (東京大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	動物との相互作用 ～食害・送粉・種子 散布～	植物はさまざまな動物とかかわり合って生きている。植物は多様な植食性昆虫の食害を受けており、一方でそれに対する対抗進化を遂げている。また、多くの植物は報酬を支払って、動物に送粉(受粉や授粉)や種子散布を託している。植物と動物との間に見られるこのような搾取や共生の関係について俯瞰する。 【キーワード】 食植性昆虫、化学防衛、送粉共生、ハナバチ、種子散布共生	加藤 真 (京都大学・ 教授)	加藤 真 (京都大学・ 教授)
11	植物間の相互作用 ～競争・寄生・交雑 ～	隣接する植物同士は、光や水をめぐって競争関係にある。寄生植物や着生植物のように、他の植物に依存して生きる植物もあれば、アレロパシーによって他の植物の生育を阻害するものもある。このような植物間の多様な相互作用を概観したのち、近縁種間に見られる生殖隔離の強化や、交雑を介した種分化についても紹介する。 【キーワード】 競争、寄生植物、着生植物、生殖隔離、交雑	加藤 真 (京都大学・ 教授)	加藤 真 (京都大学・ 教授)
12	微生物との相互作用 ～病害・共生・寄生 ～	動くことのできない植物は、菌類やバクテリア、ウイルスなどの病原微生物から身を守るために、独自のシステムを進化させてきた。一方で、アーバスキュラー菌根菌という不思議な生命体や根粒菌と共生し、地球の生態系を変えてきた。植物と微生物の多様な相互作用の仕組みとともに、その進化史を紹介する。 【キーワード】 病原抵抗性、共生、根粒菌、アーバスキュラー菌根菌	川口 正代司 (基礎生物学 研究所・教 授)	川口 正代司 (基礎生物学 研究所・教 授)
13	暮らしと植物(1) ～二次代謝～	植物はもちろん、我々人間とも密接な関係にある。最後の3回にわたるシリーズでは、その詳細を見ていく。第1回は、食料やパルプ繊維、燃料としての利用とともに、香辛料、染料、医薬品など、植物がつくり出す様々な低分子量の二次代謝産物を通して人間の暮らしに関わる面について学ぶ。 【キーワード】 二次代謝産物、フラボノイド、テルペノイド、アルカロイド、医薬品、機能性食品成分、工業原料	佐藤 文彦 (京都大学・ 教授)	佐藤 文彦 (京都大学・ 教授)
14	暮らしと植物(2) ～作物の未来～	植物を人間の役に立つよう品種改良するという作物育種の歴史は古い。育種の歴史と最近開発されつつあるゲノム育種、遺伝子組換え技術について、その実例を紹介しつつ、その利点と可能性、特に、環境保全あるいは環境修復において植物が持つ可能性に関する正確な理解を目指す。 【キーワード】 育種の歴史、作物、ゲノム育種、遺伝子組換え、環境修復	佐藤 文彦 (京都大学・ 教授)	佐藤 文彦 (京都大学・ 教授)
15	暮らしと植物(3) ～園芸と植物学～	ふだんの市民生活において、最も身近な植物のあり方の一つは、園芸であろう。最後に、私たちの暮らしに最も近い植物の素顔を、原産地あるいは街中におけるそのあり方として振り返る。ここまで学んできたことを復習しつつ、私たちと植物との関係を、もう一度まとめて理解し直すことをめざす。 【キーワード】 園芸、品種改良、相互作用、適応、人との関わり	塚谷 裕一 (東京大学・ 教授)	塚谷 裕一 (東京大学・ 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1565419	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 動物の科学 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：星 元紀（放送大学客員教授）〕

講義概要

動物とは、他の生物が作った有機物を摂食して生きている多細胞生物の総称である。生物界を構成している6界の生物の中で、もっとも後に進化したものたちで、極めて多様な生活様式が見られる。本講義では、私たち人間を含めての動物たちの基本的な生活様式を見るときに、生殖、発生、運動、行動、内分泌、生体防御、感覚などのメカニズムを紹介する。そして、動物の姿を科学することは、人間自身の理解の上で極めて有用であることを知っていただく。

授業の目標

現代における生物科学あるいは生命科学は、極めて大きく発展してきている。そして、生命現象の解明で明らかにされてきたことは、非常に複雑かつ高度な物質系であって、全面的な理解のためにはまだまだ多くの謎解きをしなければならないことである。生物以外の他の物質系にはない特徴として、生命の設計図であるゲノム情報の伝達とその変革（進化）があるが、動物ではその様相は複雑きわまりない。本講義は、自らが動物である限り、動物に関しての知識をもっておくことは、現代人の素養であり生活を豊かにしていく上で必須であると考えて作成されている。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、共通科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。本講義と専門科目の「植物の科学」は、いわば姉妹講義の関係となっている。さらには、専門科目の「生物界の変遷」は、生物科学関係の関連した科目として設置されている。

	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	多様な動物の世界	動物とはどのような生物をさすのか、その生活メカニズムの基本的な様相、そして進化上の変遷を説明する。また、現在の地球上での動物たちの適応放散と過去での適応放散を比べることにより、動物の生活の本質を考える。さらには、島嶼に隔離された鳥類における特異的な適応について紹介し、動物の進化において捕食・被食関係の重要性を挙げる。 【キーワード】 動物の定義、動物の誕生、系統分類、捕食・被食関係、適応放散、ニュージーランドの生物	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
2	野外における動物集団	動物は従属栄養の生物であり、野外における生活の基本として食物資源の獲得がある。また、さまざまな無機環境に適応している。本章ではその基本的な姿を説明する。さらに、人間活動によって絶滅ないし絶滅危惧に至った動物たち、絶滅危惧動物の保全、そして有害動物の防除など具体例を紹介する。 【キーワード】 従属栄養、ニッチ、絶滅危惧動物、動物の保全、有害動物の除去、ニュージーランドの固有鳥類	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	飼育、養殖される動物たち	人間は自然界の様々な動物を、自身の生活向上のために様々に改変してきた。その改変は品種改良としてとらえることができるが、ヒツジ、ウシ、ウマ、イヌ、ネコ、カイク、ミツバチ、魚類など多数種がいて、家畜動物、愛玩動物、実験動物等に分類される。これら品種改良のポイントはどのようなことだったのか、動物の本性との対比で考えてみることにする。また、養殖される魚介類の様相に関しても説明する。 【キーワード】 家畜動物、養殖、品種改良、遺伝学の応用、ニュージーランドの家畜	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
4	動物の子孫の残し方	生殖は種の存続を保証する営みである。生殖には、遺伝子の混合を伴わない無性生殖と、遺伝子の混合を伴う有性生殖とに大別される。それぞれの仕組みの概略と、有性生殖の鍵となる減数分裂および受精について述べるとともに、生殖医療の現状について検討する。 【キーワード】 無性生殖、有性生殖、減数分裂、受精、生殖医療	星 元紀(放送大学・客員教授)	星 元紀(放送大学・客員教授)
5	個体形成のメカニズム	受精卵という1個の細胞が、胚、幼生を経て成体となり、やがて老化して死に至るまでの複雑な過程が、どのようにして営まれているのか述べる。また、この過程に大きな影響を与える薬剤等について触れるとともに、再生医療の現状について検討する。 【キーワード】 初期発生、細胞の増殖と分化、体軸の決定、形態形成、幹細胞、再生医療	星 元紀(放送大学・客員教授)	星 元紀(放送大学・客員教授)
6	動物の発生様式と進化	発生様式の変更は進化の重要な要因である。ここでは、進化とのかかわりにおいて、発生を制御する主要な遺伝子群について述べるとともに、遺伝子レベルでのわずかな変化がもたらす形態の変化について概観する。 【キーワード】 進化発生学、発生関連遺伝子、Hox遺伝子、モジュール、大進化	星 元紀(放送大学・客員教授)	星 元紀(放送大学・客員教授)
7	動物における表現型可塑性と進化	動物は生存や繁殖のために、変動する環境の中で多様な戦略をとり、適応している。このような環境適応は、動物の成長過程をいかにして修飾するか依存する。このような適応的な表現型の変化を「表現型可塑性」というが、本講義ではその仕組みと進化過程について概説する。 【キーワード】 表現型可塑性、環境応答、反応基準、表現型多型、発生拘束、進化	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)
8	動物の感覚生理	動物は生存・繁殖のため、外界の環境を視覚や聴覚、嗅覚、味覚、触覚等(「五感」)の感覚受容により感知し、適応的な応答や行動を示す。本章では神経細胞(ニューロン)の構造と機能、主要な感覚を担う感覚受容器と動物による多様性、感覚情報を処理する脳の構造、一部の動物に見られる特殊な感覚の例について解説する。 【キーワード】 感覚受容、メカニズム、脳の構造、種による多様性	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	個体間のコミュニケーション	同種または異種の動物が交信のために用いるコミュニケーションには、フェロモン等による化学コミュニケーション(嗅覚)、音声(聴覚)や色彩(視覚)を用いたコミュニケーションの他、ヒトの言語に代表される記号的コミュニケーションなどがある。特に社会性動物では、様々なコミュニケーションが発達している。それらのコミュニケーションの神経基盤や生物学的意義を解説する。 【キーワード】 化学コミュニケーション、視覚や聴覚によるコミュニケーション、ミツバチの尻振りダンス、弱電気魚のコミュニケーション	久保 健雄 (東京大学大学院理学系研究科・教授)	久保 健雄 (東京大学大学院理学系研究科・教授)
10	親子関係と性選択	動物界には多様な繁殖戦略が見られる。動物の親子関係においては、子を産みっぱなしで何ら世話をしないものから、少数の子を極めて親密に養育するものまで多様である。また、親子関係とともに繁殖をめぐる雌雄の関係も多様である。一般に雌は子を残すにあたって、雄を慎重に選好することから性選択が起こっている。この回では、そのような子孫を残すにあたっての性行動、子の養育に関する形質の進化を説明する。 【キーワード】 生殖様式、繁殖戦略、親による子の保護、育児行動、雌の選好性、ニュージーランドの鳥類	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
11	動物の社会生態	動物には集団を形成し、その個体間で様々な協力行動をするものたちがいる。そのような協力行動はいかなる背景の元に成立しているのだろうか。そして、協力行動の結果、それぞれの種固有の社会生態が成立しているが、その進化はどのようなものだろうか。ここでは、最近、大きく進展をとげた社会生物学の要点を講義する。 【キーワード】 協力行動、利他行動、社会進化、血縁選択、分業、カースト分化	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)
12	動物の脳とその機能	脳が大きくなることによって、動物は知能や行動というすばらしい能力を獲得してきた。また、サルからヒトに進化することによって「精神」と呼ばれるものも兼ね備えてきた。この章では、神経の機能、ヒトが持つ特殊な能力、モデル動物を用いた遺伝子と各能力との関係などについて、例とともにわかりやすく紹介する。 【キーワード】 神経細胞、脳機能、精神活動、言語野、記憶	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)
13	動物の行動とホルモン	動物の行動は、ホルモンと呼ばれる細胞が分泌した物質によって規定される場合がある。性に応じた行動や、ストレス応答などがその代表例である。脊椎動物を例にとり、内分泌器官のはたらきと動物の行動との関係を紹介する。 【キーワード】 ホルモン、自律神経、神経伝達物質、ヒトの行動、アセチルコリン、ドーパミン	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	動物と感染症	動物は、傷を負ったり、微生物の攻撃を受けることがあるが、それらを軽減するしくみを持っている。この生体防御のはたらきをヒトを例にとり説明するとともに、それを回避するしくみや薬剤についても紹介する。 【キーワード】 感染症、鳥インフルエンザ、プリオン病、ワクチン、薬剤耐性菌、免疫、抗生物質	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)
15	応用動物科学の課題	動物の科学を学ぶことは、現代人の生活にとって必須となっている。それは、人間自身が動物であることから自明であり、また、応用生命科学が高度に進展してきていて、現代人の生活のあらゆるところで、それらは関係してきているからである。この回では、最近の応用動物科学のいくつかのトピックスに関して、ゲストと座談する。 【キーワード】 畜産革命、スーパーカウ、人工授精、人畜共通症、食肉の安全性、昆虫機能、カイコ、有用物の生産	松本忠夫 (放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)、ゲスト (唐木英明、竹田敏先生)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562630	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 力と運動の物理 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 米谷民明（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 岸根順一郎（放送大学教授） 〕

【 本学担当専任教員： 〕

講義概要

近代物理学の出発点は、ガリレイとニュートンに始まる「力学」にある。それ以来、19世紀までに発展しつづけた古典物理学は、20世紀に入って相対論と量子論を柱とする「現代物理学」によって乗り越えられ、現在の物質と宇宙の理解のための土台になっている。しかし、現代物理学においても、古典力学の展開の過程で生み出された数々の概念と方法論が、展開のための基礎として生きている。また、我々が日常親しんでいる物理現象の理解には、依然として古典力学が欠かせない。本科目では、運動と力の捉え方から始めて、運動方程式の意味、取り扱い方、典型的運動の解析、さらに解析力学と呼ばれる力と運動のより一般的な見方と数学的方法を学び、最後に古典力学と相対性理論と量子論との関係についても触れる。

授業の目標

力学の基礎概念に親しむだけでなく、運動方程式を具体的な問題に応用して運動を解く手法を習得すること、典型的運動の詳しい解析を通じて、様々な異なったスケールで出現する多様な運動の特徴に親しむこと、さらに、相対論や量子論を理解するのに必要な基礎概念を習得すること、などを目標とする。

履修上の留意点

力学は物理学を学ぶ上で土台になる科目である。放送大学学部共通科目「物理の世界」を履修していることが望ましい。「物理の世界」を履修していない場合でも、同程度以上の知識を持つことを前提とした講義であることを念頭におくこと。また、数学については、微分積分、ベクトルと線形代数の初歩に関しての理解および計算力を前提とする。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	力と物理学の世界	力は自然界で起こっているすべての現象を支配している。この章では、力と運動についての認識の歴史を概観するとともに、力と運動の物理学を学ぶことの意味を考える。どんな問題を調べるにして、力と運動は物理学への出発点だ。これから物理学を本格的に学ぶための基礎的事項について最初の土台固めから始めよう。 【キーワード】 プリンキピア、力、座標系と位置ベクトル、次元と単位	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
2	運動をどう表現するか	運動を調べるという観点から、ベクトルをどう扱うかについてさらに立ち入って調べる。運動を表すには、異なった座標系の間の関係をできるだけ明確に表現することが大事である。座標系の変換を通して、ベクトルの2種類の積(内積と外積)を導入し、その役割や応用を学ぶ。 【キーワード】 ベクトルの合成、座標系の変換、基底ベクトル、内積と外積	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
3	力とはどういうものか	力に関する経験を調べ直すと、力もベクトルであることがわかってくる。力とは何か、どのような種類があるのか、どう扱うのか、を考えながら、力と運動の関係を理解するための準備を進める。 【キーワード】 力のつりあい、内力と外力、力のモーメント、仮想仕事の原理	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	力と運動の法則	前章までで力と運動の関係を調べる準備が整った。この章では、ニュートンがまとめあげた運動の基本法則を学び、力が満たす一般的性質である作用反作用の法則と、万有引力やクーロン力が満たしている性質である中心力について、運動の立場からの意味を考えよう。それが運動量と角運動量の保存則だ。 【キーワード】 慣性の法則、ガリレイ変換、運動方程式、運動量と角運動量の保存則	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
5	仕事とエネルギー	運動量と角運動量に加えて、力と運動を特徴づけるのに重要な概念がエネルギーだ。仕事とエネルギーの関係、運動方程式とエネルギーの関係について学ぶ。そこから、エネルギーの保存則を理解し、さらにこの立場から仮想仕事の原理を拡張した運動を調べるための新たな見方に進む。 【キーワード】 仕事、エネルギー、保存力、安定と不安定、ラグランジュ方程式	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
6	典型的な粒子運動を調べる1	自然界に遍在する運動形態である振動現象について系統的に学ぶ。調和振動(単振動)から出発し、摩擦による減衰振動、外力による強制振動の運動方程式の解析法を学ぶ。さらに、非線形振動の具体例とその意義にも触れる。 【キーワード】 調和振動、減衰振動、強制振動、非線形振動	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)
7	典型的な粒子運動を調べる2	人工衛星や天体の運行の問題の解析を通して万有引力が引き起こす運動を詳しく調べる。ケプラー問題はクーロン斥力による散乱現象にも応用できる。本章では、科学的にも極めて重要な意義を持つこれらの問題を解析する。 【キーワード】 ケプラー問題、天体の軌道、ラザフォード散乱	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)
8	典型的な粒子運動を調べる3	静電ブリズム、ローレンツ顕微鏡、小惑星探査機のイオンエンジンなどの応用例を題材として、電磁場中での荷電粒子の3次元運動について学ぶ。また、電磁場中の荷電粒子の運動をラグランジュ形式に基づいて捉えなおす。これによって、磁場がベクトルポテンシャルによって記述される必要性を学ぶ。 【キーワード】 ローレンツ力、サイクロトロン運動、ベクトルポテンシャル	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)
9	多粒子系の運動	星団や銀河に代表される重力多体系の運動を題材として、相互作用する多粒子からなる系の運動を解析する方法を学ぶ。特に、保存則の重要性を強調する。また、燃料ガスを噴射しながら推進するロケットの加速機構についても触れる。 【キーワード】 重心運動と相対運動、ビリアル定理、ロケットの推進	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)
10	剛体の運動	変形しないマクロな連続体である剛体の運動を、前章で展開した多粒子系の論理に基づいて解析する。特に回転運動の記述法を詳しく学び、角運動量の意味を理解する。一般論を学んだあと、おもちゃやコマの動きといった身近ではあるが複雑な剛体運動の理解を試みる。 【キーワード】 剛体、慣性モーメント、コマの運動	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	連続体の力と運動	変形する物体に働く力と運動を連続体近似で調べる。弾性体の歪と応力、弾性体を伝わる波、非圧縮性流体のつりあいと流れ、などについて考え方の基礎を学び、具体例で日常親しんでいる現象を理解する。 【キーワード】 歪テンソル、応力テンソル、波動方程式、流体のオイラー方程式、ベルヌーイの定理	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
12	運動する座標系	非慣性系での運動方程式を座標系の変換により導く。遠心力やコリオリ力などについて、具体例で理解を深める。また、等価原理の意味を理解し、一般相対性理論とのつながりについて知る。 【キーワード】 慣性力、回転座標系、遠心力、コリオリ力、等価原理	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
13	作用原理の展開	5章で触れたラグランジアンの方法の発展として、作用原理に基づき、運動についての新たな見方(一般に「解析力学」とよばれる)に進むための基礎を述べる。この方法をいくつかの応用、および、保存則と対称性との関係の理解などへの応用を通じて学ぼう。 【キーワード】 ラグランジアン、一般化座標、相空間、ハミルトン方程式、対称性と保存則	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
14	力と運動の見方を発展させる	作用原理の展開によって学んだ見方をさらに発展させ、相空間やハミルトンの方程式の取り扱いを拡張し、ハミルトン・ヤコビの方法という運動の取り扱いに関する新しい考え方に進む。 【キーワード】 拘束条件、ハミルトン・ヤコビ方程式、作用変数と角変数	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
15	古典力学の深まりと現代物理	前章に続き、古典力学の見方のさらなる展開を学ぶ。最後に「力と運動の物理」のまとめとして、古典力学の到達点と限界は何かを理解し、現代物理学への飛躍とは何か、そこにおいてこれまで学んできた考え方が果たす役割を学ぶ。 【キーワード】 正準形式、ポアソン括弧、正準変換、相対性理論、量子力学	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562681	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 場と時間空間の物理 （'14）＝ （TV）
－電気、磁気、重力と相対性理論－

英文名 ＝ [Physics of Fields and Spacetime ('14)]

〔主任講師（現職名）：米谷民明（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：岸根順一郎（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

電気・磁気の法則を出発点として、自然界の基本的な力と物質の性質を正確に記述し、数学的に調べるための出発点である「古典場」の考え方を取り扱う。電磁場と荷電粒子の相互作用、物質中の電磁場、特殊相対性理論、一般相対性理論と重力場の理論、およびその応用に向けた基礎的な考え方と数学的方法論について、具体例を多く扱い、論理の筋道を明確にした上で物理的意味を重視した講義を行う。

授業の目標

本科目では、基礎科目「初歩からの物理学」から出発し共通科目「物理の世界」へと進んで概観してきた物理学の基礎について、古典的な電気・磁気、場の理論、相対性理論などの考え方と応用を、専門科目としてより深く追求する。電気と磁気の法則を古典場の物理として扱うための数学的方法としてのベクトル解析、電気・磁気の法則を正しく捉えるために必要な時間と空間そのものについての法則である特殊相対性理論、および、特殊相対性理論を拡張した一般相対性理論とテンソル解析の初歩、さらに重力の場の理論の考え方の基礎と初歩的応用を会得することを目標とする。

履修上の留意点

物理学全般について「物理の世界」程度以上の知識を前提する。また、本科目は、物理関係の専門科目として「力と運動の物理」の次に学ぶべき科目として位置づけられている。数学の予備知識としては、「微分と積分」、「入門線型代数」、「微分方程式への誘い」で学ぶ程度の知識と運用力を前提とする。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	力と場、場と粒子	力を場とみなす考え方、粒子と場の違いと互いの関係などについて、歴史的な発展も含めて概観し、本科目の位置づけ動機づけを与える。古典場の最も典型的な例である電場と磁場がどう定義されるかを学ぶ。そして、電磁場の力学を扱うための数学的方法であるベクトル解析の初歩を学ぶ。 【キーワード】 ローレンツ力、電場、電気力線、磁場、磁力線、電荷、電流、ベクトル場の回転と発散、ガウスの公式、ストークスの公式	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
2	電磁場とマックスウェル方程式	電気磁気の現象に関する日常経験および、静電気、静磁場、電流、電磁誘導などの電磁場の基礎的法則を復習しながら、電磁場の発散と回転の性質を調べる。それらの基本法則を、マックスウェル方程式として整理する。 【キーワード】 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、マックスウェル方程式、電磁ポテンシャル	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
3	導体と静電場	時間変化しない電荷密度が真空中に作る静電場をマックスウェル方程式に基づいて解析する。さらに導体と静電場の関係を調べる。 【キーワード】 スカラーポテンシャル、導体、ラプラス方程式、鏡像法	岸根順一郎(放送大学教授)	岸根順一郎(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	定常電流と静磁場	定常電流が真空中に作る静磁場を解析し、電流と磁場を結びつけるビオ・サバールの法則を導く。さらに電流間のローレンツ力について考える。 【キーワード】 ベクトルポテンシャル、定常電流、ビオ・サバールの法則、オームの法則、電流間相互作用	岸根順一郎 (放送大学教授)	岸根順一郎 (放送大学教授)
5	時間変化する電磁場と保存則	荷電粒子と電磁場を合わせてひとつの閉じたシステムと捉える見方を学ぶ。この見方を通して荷電粒子の運動エネルギー、運動量、角運動量といった力学量が電磁場に受け継がれ、システム全体として大局的な保存則が成り立っていることを導き出す。これによって独立な物理的実体としての電磁場の意味が明らかになる。 【キーワード】 電磁場のエネルギー、電磁場の運動量、電磁場の角運動量	岸根順一郎 (放送大学教授)	岸根順一郎 (放送大学教授)
6	時間変化する電磁場と電磁波	マクスウェル理論の大きな成果は、光を電磁波として記述することに成功したことである。本章ではまず、電磁波の基本的性質を学ぶ。ついで時間変化する電荷密度、電流密度が電磁波を生み出すメカニズムを学ぶ。 【キーワード】 平面電磁波、遅延ポテンシャル、電磁波の放射	岸根順一郎 (放送大学教授)	岸根順一郎 (放送大学教授)
7	物質中のマクスウェル方程式	物質中に電磁場が入り込むと、内部のイオンや電子の状態が変化する。特に、身軽な電子は敏感に応答して物質の性質(物性)を大きく変える。本章では、物質の成り立ちを踏まえながら物質中の電磁場が満たすべき基本方程式を導く。 【キーワード】 ミクロな電磁場、自由電荷、束縛電荷、電気分極、磁化	岸根順一郎 (放送大学教授)	岸根順一郎 (放送大学教授)
8	物質中の電磁場	前章で導いた物質中のマクスウェル方程式に基づいて、マクロな物質中の電磁場の振る舞いを調べる。特に電場・磁場に対する物質の応答がそれぞれ電気感受率と磁化率によって記述されることを学ぶ。さらに誘電体、導体中の電磁波の振る舞いを調べる。 【キーワード】 電気感受率、磁化率、磁性、電磁波の反射と屈折、偏光、表皮効果、プラズマ振動	岸根順一郎 (放送大学教授)	岸根順一郎 (放送大学教授)
9	時間空間と電磁場：特殊相対性理論	電磁場を相対性原理の立場から見直し、特殊相対性理論へといたる。アインシュタインがニュートンの絶対時間、絶対空間を乗り越えて切り開いた、時間と空間の現代的な捉え方を学ぶ。 【キーワード】 マイケルソン・モーリーの実験、光速不変の原理、相対性原理、ローレンツ変換、同時性の相対性、ミンコフスキー空間	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
10	電磁場の相対論的定式化	電磁場、および電磁場と荷電粒子の相互作用を扱うための道具であるテンソル解析の初歩を学び、マクスウェル方程式を作用原理に基づき相対論的に定式化する。 【キーワード】 4元ベクトル、テンソル、電磁場テンソル、電磁場のローレンツ変換、ドップラー効果、光向差	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
11	電磁力学の相対論的定式化	荷電粒子の運動と電磁場の相互作用を、作用原理により相対論的に定式化する。それに基づき、粒子の相対論的エネルギー運動量、電磁場のエネルギー運動量テンソルを定義し、応用をいくつかの例で学ぶ。 【キーワード】 固有時間、4元運動量、エネルギー運動量テンソル、放射圧	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
12	古典電磁場理論の展開と限界	相対論的な電磁場理論の応用として荷電粒子からの制動放射およびチェレンコフ放射を導く。また、電磁波の荷電粒子による散乱と輻射を具体例により調べる。最後に電磁場の古典理論の限界について触れる。 【キーワード】 制動放射、シンクロトロン輻射、チェレンコフ放射、レイリー散乱、プラズマ振動、自己エネルギー	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
13	重力と相対性原理	特殊相対性理論の拡張としての重力と時間・空間の理論である一般相対性理論の考え方の基礎を学ぶ。また、曲がった時空の幾何学(リーマン幾何学)に入門する。 【キーワード】 等価原理、一般座標不変性、一般共変性、計量テンソル、局所慣性系、リーマン幾何学、クリストッフェル記号、測地線	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
14	一般相対性理論 I	一般相対性理論にとって重要なリーマン幾何学の基礎概念を学び、重力場の作用原理に進む。アインシュタインの重力場の方程式を導き、その意味を考察する。 【キーワード】 共変微分、曲率テンソル、アインシュタインテンソル、アインシュタイン・ヒルベルト作用、重力場の方程式	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
15	一般相対性理論 II	重力場の方程式の電磁場理論との類似、ニュートン近似、重力波、シュワルツシルト解、ブラックホール、など一般相対性理論の帰結について学ぶ。最後に古典重力場の理論の限界と課題についても触れる。 【キーワード】 ニュートン近似、重力波、シュワルツシルト時空、近日点移動、重力レンズ効果、赤方偏移、ブラックホール、宇宙定数	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1663402	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 量子物理 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生井澤 寛(放送大学客員教授) 〕

〔主任講師（現職名）：小形 正男(東京大学教授) 〕

講義概要

古典的な世界で成り立った物理法則が、ミクロの世界で、成り立たないことを見て行きながら、なぞを解く鍵を探る。鍵は、エネルギーが飛び飛びになることにあった。さらに、波と考えられた光に粒子性が現れ、粒子とみなされた電子に波動性が発見された。これらのなぞを解く鍵は、ミクロの世界の論理である量子力学によって解かれることを見てゆく。そして、実験と量子力学を用いて、さらにミクロの世界を探ると、基本粒子としてのクォークとレプトンおよび力の媒介粒子からこの世界が成り立つという、自然観に行き着く。この自然観は、宇宙の初期の世界とも密接に結びつくことを示そう。さらに、量子力学は、半導体などの日常生活に欠かせない量子素子の開発にこれから活躍するに違いない。関連科目:「物理の世界」

授業の目標

現代物理の中核をなす量子力学の基本を理解させる。少し数学を使うが、順に説明してゆく。量子の論理は、演習無しではなかなか理解できないので、基本的な課題を用意する。ぜひ自分で汗を流して解いてほしい。履修者が、課題を解き、悩みながら進むことを、励ましてゆきたい。

履修上の留意点

物理の基礎、とくに力学、電磁気学、熱力学・統計力学を核とする古典物理をある程度学んでいることを前提にする。そのために、「初歩からの物理学」、「物理の世界」を履修することが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ことの始まり	人間が培ってきた、自然界で起こる現象や法則性について振りかえり、20世紀末前後にかんせいした古典物理の主要な考え方をまとめる。そして、古典物理では理解できない謎のいくつかに触れる。 【キーワード】 科学的考えの芽生え、ニュートン力学、光をどう捉えたか、電磁気学、熱の物理 陰極線の発見	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
2	深まる謎:古典物理の限界	実験技術の進歩と精度の上昇により、低温現象や、溶鉱炉の温度と光の色の関係、光電子効果などが、前回のなぞをさらに深める内容を持つことを示す。 【キーワード】 電子の発見、放射能と原子の崩壊、線スペクトル、熱力学第3法則と低温比熱、物体の温度と色、光電子効果	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
3	謎を解く鍵:エネルギーがとびとび	なぞを解くきっかけとなった、プランクの大胆な発想、飛び飛びのエネルギー(エネルギーの量子化)を導入し、温度と色の関係を解く。エネルギー量子の概念は、光電効果のなぞも解き、光は、量子(光量子、光子)として粒子のように振舞うことを見る。 【キーワード】 プランクの放射式、エネルギー量子、光量子、コンプトン効果	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	量子の考えが広がる	エネルギー量子の考えはさらに、音の振動しにも適用され、低温比熱のなぞが解ける。また、原子にも適用されて、古典論との対応をつけながら、原子の飛び飛びのスペクトルのなぞが解け、周期表と原子の構造がだんだんに明らかになる。 【キーワード】 低温比熱、ボーアの原子模型、対応原理、電子スピン、排他原理、周期表	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
5	ミクロの世界の論理: 量子力学 I:波動的 見方	量子の世界で、状態はどうあるべきか。光が波であると同時に粒子のように振舞えば、粒子である電子も波として振舞ってよいだろう。この考えに立って、波としての電子が従う波動方程式を立て、水素原子の問題が解かれ、実験を見事に説明した。波動力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ドブロイの考え、シュレーディンガーの見方、波動方程式	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
6	ミクロの世界の論理: 量子力学 II:粒子的 見方	エネルギー量子によって開かれた量子の世界における物理量の時間変化はどう決まるのだろうか。振動数が時間変化を与える古典物理のフーリエ成分に注目すると、物理量は、状態の間を結ぶ行列と考えることができる。行列力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ハイゼンベルグの見方、物理量は行列、行列力学と固有値問題	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
7	平面波とその性質	シュレーディンガー方程式の最も基本的な解である平面波を調べ、波動関数の基本的性質を見てゆく。平面波によって表される粒子(例えば電子)がどのような振る舞いをするかについて、いくつかの特徴的な現象を調べる。平面波の直交関係から、 δ 関数を導入する。 【キーワード】 平面波、干渉、波の重ね合わせ、運動量演算子、 δ 関数	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)
8	平面波の反射や透過	前回調べた平面波を用いて、それが壁で反射した場合にどのようなことが起こるか具体的にシュレーディンガー方程式を解いて考える。また、透過するときの、反射波・透過波などについて量子力学の特徴をみる。 【キーワード】 壁による反射、壁での境界条件、位相、反射波と透過波、確率流れの密度	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
9	トンネル効果、束縛 状態	前回に引き続いて量子力学の奇妙な現象を平面波を例に考える。 とくに量子力学特有のトンネル効果について調べる。さらに井戸型のポテンシャル中に束縛された状態など、いくつかの典型的な例について考える。また特異性がある場合の波動関数の境界条件についても説明し、それを用いて δ 関数のポテンシャルの場合のシュレーディンガー方程式を解く。 【キーワード】 トンネル効果、井戸型ポテンシャル、束縛状態、零点振動、波動関数の対称性、 δ 関数ポテンシャル	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	調和振動子	今までは直線運動に対応する平面波を調べた。今回は、もう1つの代表的な運動である単振動の量子力学を調べる。単振動(調和振動子)は、古典力学でいろいろな場面において基準振動として現れた。量子力学においても様々な局面で調和振動子が重要な役割を果たす。とくに調和振動子のエネルギーは、とびとびの値だけを持つという非常に特徴的な振舞いをする。これをエネルギーの量子化という。 【キーワード】 調和振動子、エルミート多項式、エネルギーの量子化、調和振動子の波動関数、零点振動と不確定性原理、期待値の計算	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
11	粒子のように振舞う波	実験では、粒子は波と同じような性質を示すとともに、その名の通り粒子的な性質も示す。たとえば電子が電場・磁場中で運動する様子を調べるときには、質量m 電荷$-e$を持つ粒子がニュートン方程式に従って運動するとして実験をうまく説明することができる。実は平面波を重ね合わせることで、”粒子的な振舞いを示す波”というものを作ることができる。これを一般に波束という。電子や素粒子が粒子的に振る舞うように見えるときは、この波束状態となっていると考えればよい。 【キーワード】 波束、重ね合わせ、不確定性原理、波数空間、波束の広がり、波束の時間発展、エーレンフェストの定理	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
12	角運動量	実際には3次元空間でのシュレーディンガー方程式を解く必要がある。この回から、球対称ポテンシャルがある場合のシュレーディンガー方程式を解く。とくに水素原子についてシュレーディンガー方程式を正確に解くことができ、その結果、原子構造での1s, 2s, 2pなど物質を構成する基本的な量子力学状態がわかる。まず今回は、角度方向の波動関数を調べる。 【キーワード】 ラプラシアン、角運動量演算子、球面調和関数、磁気量子数、方位量子数	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
13	水素原子の波動関数	前回、角運動量の2乗の固有値は量子化されて、とびとびの値しか持たないことを示した。これを用いてシュレーディンガー方程式の動径方向の波動関数を調べることができる。この結果、水素原子の波動関数がすべてわかったことになる。 【キーワード】 遠心力ポテンシャル。ラゲール多項式。主量子数。さまざまな電子の軌道。水素原子のスペクトル線。	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
14	角運動量の代数とスピン	微分演算子として角運動量演算子を表すと、演算子間の交換関係に非常に単純な関係がある。これを角運動量の代数という。この関係を使うと、微分方程式を解かなくてもいろいろと有益な事柄が代数計算によって得られることがわかる。さらに、この性質を一般化することによって、新たにスピンという量子力学特有の物理量が理解できることも示す。 【キーワード】 交換関係、昇降演算子、角運動量の一般化、スピン、フェルミ粒子とボース粒子	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
15	深まる量子の世界	量子力学は、ミクロの世界で、どこまで通用するのだろうか。原子から、原子核、素粒子とどんどん小さい世界の物理を、量子力学と相対性理論で探求してゆこう。量子力学は、ごく小さな世界でも成り立つことがわかる。しかし、実験的には、素粒子がいっぱい現れて、手に負えない。では、基本粒子はないか。これらを探ると、ミクロの世界が、宇宙というマクロな世界とつながることが見えてくる。また量子力学は、半導体など日常に欠かせない量子素子の開発を可能にした。 【キーワード】 原子核、いろいろな素粒子、相互作用の階層性と保存則、複合粒子模型、標準模型、ビッグバンと宇宙の初期、物質の性質	生井澤 寛 (放送大学客員教授)	生井澤 寛 (放送大学客員教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1666002	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 量子化学 （'09）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：濱田 嘉昭（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大野 公一（東北大学名誉教授）〕

講義概要

自然現象は物質の示す性質と変化の現われである。したがって、物質のミクロの単位である分子の性質と運動を理解することは自然現象の基本法則を理解することにも通じる。さまざまな原子からどのように作られるのか。その結果、どのような性質を発現することになるのかについて、量子論に基づいて解説する。また、そのような分子の運動や性質をどのようにして観測するのかについて解説する。

授業の目標

量子力学の初歩的な事柄を復習し、さらに分子へ応用する場合の理論の基礎について学ぶ。分子の見せる量子的な性質と分子を観測する実験方法との間にどのような理論的基礎があり、観測によって何がわかるのかについて理解する。

履修上の留意点

量子力学(放送大学の教材では「量子物理」)、微分積分学や線形代数学などの基礎を理解しておくことが望まれるが、本教材の道筋と結果の概要を知った上で、前記の関連の科目を履修することも可能と思われる。分子の形状や性質については「基礎化学」などで学んでおくことが重要である。簡単な計算問題などを解きながら勉強することが理解を深める上で有効である。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1. ミクロの世界への導入				
1	量子の世界(1):量子性の現れ	われわれの日常生活はさまざまな物質を使うことで成り立っている。生体も、タンパク質や核酸、脂質など多くの物質の成す複雑な系である。目にする自然現象すべてが物質の生々流転である。これらの物質は固有の性質をもっているのであるが、その物質の性質の源泉として最小単位としての分子に至る。この章では物質、特に分子の性質を理解する量子化学の立場を解説する。 【キーワード】 水の特徴、量子性、トンネル効果、水素結合、量子論の言葉	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授) 大野公一 (東北大学名誉教授)
2. ミクロの世界の記述				
2	量子の世界(2):粒子性と波動性	熱放射、光電効果、原子スペクトル、電子回折などの実験結果から、どのようにして量子論が誕生したかを概観する。物質中の電子が授受するエネルギーと電磁波のエネルギー量子とが、どのような関係にあるかを学ぶとともに、ミクロの世界の粒子性と波動性について代表的な実験事実を通して理解する。 【キーワード】 熱放射、エネルギー量子、原子スペクトル、電子波、電子回折	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
3	量子の世界(3):シュレーディンガー方程式	ミクロの世界の基礎方程式、シュレーディンガー方程式(波動方程式)がどのようにして発見され、それをどのように解くのか、そして解いた結果から、どのようなことがわかるのかについて学ぶ。ハミルトニアン の作り方を学んで、箱の中の粒子について、波動方程式の解き方を詳しく学ぶ。また、調和振動子や剛体回転子の量子論的取り扱いや量子状態の特徴を理解する。 【キーワード】 シュレーディンガー方程式、定常状態、演算子、固有値	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	電子の役割(1):原子中の電子	原子核とそれを取り巻く電子からできている原子において、電子がどのような役割を担うのか、シュレーディンガー方程式の解についてふれ、原子軌道のエネルギーおよび空間的な形の特徴を学ぶ。また、原子番号とともに電子配置がどのように変わるかを調べ、原子の化学的個性の量子論的由来を探求する。 【キーワード】 原子軌道、量子数、電子配置、周期性	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
5	電子の役割(2):分子中の電子	分子中の電子がどのような役割を担い、化学結合ができるのか、その量子論的な由来を知るとともに、シュレーディンガー方程式から出発して、どのように分子の問題が取り扱われるのか、主な近似法を学び、分子軌道法の基礎を習得する。 【キーワード】 電子密度、分子軌道、結合性軌道、反結合性軌道	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
6	二原子分子	軌道どうしが互いに近づいて分子軌道を形成する仕組みを、永年方程式の解に基づいて理解し、分子軌道の定性的な組み立て方を学ぶ。二個の原子からなる分子について、その化学結合が形成される仕組みを系統的に学び、結合の強さや、分子の磁性の量子論的由来を明らかにする。 【キーワード】 軌道の重なり、 σ と π 、結合の強さ、極性、磁性	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
7	多原子分子	3個以上の原子の集団から、どのようにして多原子分子ができるのか、その仕組みを学ぶとともに、分子構造がどのようにして決まるのか、その量子論的由来を学ぶ。 【キーワード】 多原子分子、結合角、混成軌道、原子価	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
8	電子配置と反応性	化学的反応性は何に支配されているのか、電子配置と関連付けて学ぶとともに、結合の形成や組み換えが起こる量子論的仕組みを探求する。 【キーワード】 遊離基、HOMO-LUMOの原理、フロンティア軌道、結合の組み換え	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授)
3. ミクロの世界の観察				
9	電子の分光	化学結合の形成や組み換えを担う電子の役割を実験で観測する研究手法の例として、電子分光について学び、光電子スペクトルの実験結果と分子軌道法による計算結果とを比較考察する。また、原子の励起状態とスペクトル項について学習し、電子エネルギー損失スペクトルとの比較を行う。 【キーワード】 光電子分光、解離エネルギー、スペクトル項、選択則	大野 公一 (東北大学名誉教授)	大野 公一 (東北大学名誉教授) 濱田 嘉昭 (放送大学教授)
10	ミクロの世界の観測	原子や分子の形や運動は、目で直接に観測できない。このようなミクロの世界を観測する方法として、回折法、電子顕微鏡および分光法がある。それぞれ、電磁波の干渉効果、電子という粒子の示す波動性および電磁波と物質の相互作用を利用したもので、後の2つは量子性に深く関わっている。この章では、後の章に関わる分光法に関する一般的な事柄を学んでおく。 【キーワード】 計測における分解、電子顕微鏡、回折法、分光法、ボルツマン分布、遷移モーメント、選択則	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	分子の回転	気体状態になっている分子は、他の分子と衝突する前には一定速度の直線運動と回転運動を行っている。このうち、回転運動は量子化され、分子固有の飛び飛びのエネルギー準位が生じる。このエネルギー準位の間の遷移に対応する電磁波はマイクロ波から遠赤外線である。この回転スペクトルを測定することによって何がわかるのかを学ぶ。 【キーワード】 角運動量、マイクロ波、慣性モーメント、回転定数、分子構造	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授)
12	分子の振動	化学結合は結合長の数%から10%近くの大きさで伸縮しており、結合角は変形する。これらの分子振動のエネルギー準位は結合に関係する原子の質量とその化学結合の強さによって決まる。このエネルギー準位の間隔は赤外分光法およびラマン分光法で調べられ、分子の結合に関する情報を得ることができる。また分子振動は分析の目的に使用することができる。 【キーワード】 調和振動、赤外吸収、ラマン散乱、化学結合	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授)
13	電子スピンと核スピン	量子化学で扱う粒子の運動である電子スピン・核スピンの伴うエネルギーは、振動や回転、電子遷移などに比べて圧倒的に小さいにも拘らず、スピンの状態は粒子の存在に関わる本質的に重要な役割を果たしている。またスピンは物質の示す磁性の原因でもある。この章ではスピンと磁気モーメントの関係、スピンが化学の分野で果たす挙動について解説する。 【キーワード】 角運動量演算子、磁気モーメント、Zeeman効果、NMR	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授)
4. 分子の量子性の応用				
14	レーザー	レーザーは20世紀に人類が発明した新しい光であり、これなくして現代の生活は成り立たない。CDやDVDのデータを取り出しているのはレーザーであり、その高い空間分解能を利用している。高速・大容量の通信システムは、その高い時間分解能を利用している。レーザーは原子や分子のもつエネルギーの量子性を利用したものである。本章ではレーザーの発振原理と化学への応用について学ぶ。 【キーワード】 誘導放出、レーザー光の特徴	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授)
5. 分子から物体へ				
15	分子間相互作用	われわれが日常、目にしたり触れたりする物体は膨大な数の分子が集合したものである。これらの分子の間には分子間相互作用と総称される力が働いており、その結果、集合した分子は独特の構造と性質をもつことになる。分子集合体を扱う量子化学の現状を紹介する。 【キーワード】 分子間相互作用、ファンデルワールス力、クラスター	濱田 嘉昭 (放送大学教授)	濱田 嘉昭 (放送大学教授) 大野 公一 (東北大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562690	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 生活と化学 （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [Chemistry in Daily Life ('14)]

〔主任講師（現職名）：濱田嘉昭（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：花岡文雄（学習院大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

私たちは、衣食住のあらゆる段階で、様々な物質に囲まれあるいは利用して生活をしている。それらの物質は使用法によっては益にもなるし、害にもなる。それは物質と私たちの体の間で何らかの相互作用があるからである。別の言い方をすれば、物質にはそれぞれに異なる性質があるからである。この物質の性質を理解するには、物質を構成する原子や分子のミクロの観点から考察するのが、最も近道になろう。この講義では、化学の立場から、日常生活にある物質の性質を理解し、正しい扱い方を知る手がかりを伝えたい。そして、化学研究の未来についても考えを膨らませたいと考える。

授業の目標

化学物質、すなわち分子の成り立ちとその性質を学ぶと同時に、生活の様々な場面で現れる化学物質についての正しい理解を得ることを目標とする。

履修上の留意点

「初歩からの化学」および「基礎化学」など、放送大学が提供する基礎科目、共通科目などを学んでおくことが望まれるが、この教材を学習してから、その内容のさらなる基本的な学習に、前記の科目を履修する方法も考えられる。本教材の化学的な理解が完璧でなくとも、化学物質の生活上の意義を深く理解した上で、化学の基礎の学習を始めるのも重要であると考え。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	化学が関わる世界	日常生活において、どのようにたくさんの”化学物質”に囲まれあるいはそれらを利用しているかを、改めて見直してみよう。それらは化学物質のさまざまな機能を利用したものである。機能があるとは、他の物質あるいは生物に化学的な性質を通じて働きかけていることでもある。生物、特に人にとっての有益性は、使用法によっては害毒にもなる。これらのことを理解するための化学の基本について学ぶことにする。 【キーワード】 分子、構造式、分子式、分子の性質	濱田嘉昭 (放送大学・教授)	濱田嘉昭 (放送大学・教授) 花岡文雄 (学習院大学・教授)
2	分子の構造と性質	マクロの物質の性質を発現する基本の物質が分子である。分子の大きさや形、性質を理解するためには、それらが形成された仕組みを知っておくことが重要である。生体分子を理解するための基礎を確認しておく。 【キーワード】 原子の構造、電子雲、化学結合、立体構造、光学異性体	濱田嘉昭	濱田嘉昭
3	溶液の性質と化学反応	生体内の分子の反応は、主に水溶液中で起こっている。溶媒としての液体の性質を理解しておくことは、その中の分子の性質と反応挙動を理解する上で重要である。特に酸性・アルカリ性、酸化・還元について、基礎的なことを学習する。 【キーワード】 溶液構造、水素イオン濃度、酸と塩基、酸化・還元	濱田嘉昭	濱田嘉昭

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	大気環境と化学物質	地球温暖化に関係すると言われる二酸化炭素、オゾン層破壊の元凶と考えられているクロロフルオロカーボン、その他、環境問題に関連する化学物質について、自然環境とどのようなメカニズムで関係するのかを説明する。 【キーワード】 温室効果、オゾン層、二酸化炭素、クロロフルオロカーボン	濱田嘉昭	濱田嘉昭
5	水環境と化学物質	地球上の自然現象に水がどのように関わっているかを、水の物理的、化学的な機構をもとに理解する。また水を汚染する化学物質と規制に関して学ぶ。 【キーワード】 水の分布、淡水、水の性質とミクロの機構、水環境と化学物質	濱田嘉昭	濱田嘉昭
6	土環境と化学物質	ヒトを含め、地球の陸上生物がよって立つ基盤である、地殻と土壌について学ぶ。地下資源に関して学ぶ。また、土壌に生きる微生物の織り成す生態系について理解する。 【キーワード】 地殻構造、地下資源、土壌生態系	濱田嘉昭	濱田嘉昭
7	食品添加物の化学	私たちが毎日口にする食品や飲料の多くは、品質の劣化を防ぐため、味を良くするため、見た目を良くするためなどの目的で様々な添加物が加えられている。このような食品添加物にはどのようなものがあり、それらはどのような分子構造をしているのか、またどのようなメカニズムで作用を發揮するのかなどについて学ぶ。 【キーワード】 食品添加物、甘味料、酸化防止剤、着色料、香料、食品衛生法	中村 洋 (東京理科大学薬学部嘱託教授)	中村 洋 (東京理科大学薬学部嘱託教授)
8	香粧品の化学	化粧品や香水は身の回りを清潔にしたり、見た目を美しくしたりすることなどに使用され、特に女性においてはクオリティーオブライフを向上させるのに有用である。ここでは、香粧品の種類、化学構造、作用機構などについて学習する。 【キーワード】 化粧品、香水、オーデコロン、クリーム、シャンプー、口紅	中村 洋	中村 洋
9	洗剤の化学	私たちの毎日の暮らしの中で、洗剤は入浴、洗濯、食器洗いなどに欠かせないばかりか、工業製品の洗浄にも大変重要である。ここでは、洗剤の種類と分子構造の特徴、汚れが落ちるメカニズム、人体への影響、排水による環境汚染などについて学ぶ。 【キーワード】 石鹼、界面活性剤、表面張力、合成洗剤、排水問題	中村 洋	中村 洋
10	放射線と化学	放射線とは何か、どのような性質をもち、どの程度、どこにあるのかの基本を確認しておく。さらに、放射線の生体への影響のメカニズム、生体の防御機構について学ぶ。放射線についての正しい知識と、間違った情報に惑わされないことは、現在の日本の私たちにとって特別に重要なことと考える。これらについて学び、考える基本的な情報を提供したい。 【キーワード】 放射線の種類と性質、放射線の起源、放射能汚染、生物濃縮、内部被ばく、外部被ばく	濱田嘉昭 花岡文雄	花岡文雄

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	微生物と化学	微生物と人間の付き合いは長い。納豆や味噌などの発酵食品は消化を助け、酒は生活の楽しみをもたらしている。一方で、病原体は人類に大きな恐怖を与え続けている。抗生物質などの医薬品は人類と微生物の戦いの歴史を反映している。生態系での微生物の役割も忘れるわけにはいかない。ここでは微生物の働きを化学の立場から考えてみる。 【キーワード】 抗生物質、微生物、発酵、腐敗	濱田嘉昭	花岡文雄 ゲスト 川松正孝(発酵学研究者)
12	光学活性分子と生命	地球上の生命体を形づくる基本分子のうち、アミノ酸や糖では、鏡像関係にある立体配座のうち、ほぼ1つのみが用いられている。これらの分子の違いは光の偏光面を傾けることのみが異なっており、化学的な性質は同じである。一方で、生体における働きはまったく異なる場合が多い。場合によると、薬と毒の関係にもなる。この光学活性分子に関して、基礎的な事柄、生命との関係を学ぶ。 【キーワード】 対掌体、光学活性、毒と薬	濱田嘉昭	濱田嘉昭
13	タンパク質の働き	タンパク質の構造はどのようにして決められるのか。その実験的方法とタンパク質の動的な姿を紹介する。アミノ酸の配列がどのように自然淘汰されてきたのかについて、進化との関係で考察する。自己防衛、免疫を司るタンパク質についても考えたい。 【キーワード】 ペプチド結合、1, 2, 3, 4次構造、自己と非自己	濱田嘉昭	花岡文雄
14	高分子が開く世界	天然の繊維は通常の化学結合で結ばれた高分子である。このことがどのような経緯でわかったのか、それを人工的に作るためにどのような努力がなされてきたのかを歴史的に振り返りながら、新たな機能をもった高分子、プラスチックの生活上の意義を考える。 【キーワード】 ゴム、人造繊維、合成繊維、構造材料、機能性材料	濱田嘉昭	濱田嘉昭
15	知的冒険としての化学	化学は物質を原子・分子のミクロの観点から捉えると同時に、目で見て、手で触ることのできるマクロの物質に関する理解と技術であり、人間の想像力と実践力を確かめる知的冒険の行いであることを紹介する。 【キーワード】 物質観、自然科学のなかの化学、知的探究としての化学、グリーンケミストリー	濱田嘉昭	濱田嘉昭 花岡文雄

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562649	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 現代化学 （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：濱田 嘉昭（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：菅原 正（東京大学名誉教授・神奈川大学教授）〕

】

講義概要

自然の環境や生命活動を解明するには、様々な視点が求められる。その作動機構を原子・分子といったミクロな階層から理解し、さらに人間の生活に欠かせないエネルギー材料や新機能をもつ物質の生産技術開発に活かすという能動的な学問が化学である。化学はすでに堅牢な体系を確立しているが、現代社会においても活発かつ柔軟に新領域を開拓し続けている。現代の化学は何を解明しようとしているのか？その息吹を平易に解説すると共に、環境・生活とのかかわりについても考えたい。

授業の目標

人類は自然を利用しながら自然から学び、人工物質を合成することで天然物質より効率の良いエネルギー源や機能性に優れた物質を生産してきた。本教科では、エネルギー、機能物質、生命と健康を3つの柱として、化学という学問がそれらとどのように関わってきたかを学ぶ。また、どのような手段で原子の配列や分子の形を決定できるかについて、分光法、回折法、理論、計算機シミュレーションの基礎を修得する。さらに、人類を含めた生物は物質とどこが異なるのか、その機能はどこまで分子のレベルで理解できるようになったか、健康の問題に化学がどのように関わっているかを理解する。

履修上の留意点

共通科目「基礎化学」、専門科目の「量子化学」を履修することが望ましい。

章／回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	化学の目指すところ	化学とはどのような学問であり、どのような役割を果たして来たかを歴史的に跡付けると共に、「現代化学」が現代および将来に、どのように係っていくのかを考察する。 【キーワード】化学と文明、化学の成り立ち、エネルギー、機能性物質、生命と健康	濱田 嘉昭 (放送大) 菅原 正 (神奈川大学理)	濱田 嘉昭 (放送大) 菅原 正 (神奈川大学理) 久保 貴哉 (東大 先端研) 石井 菊次郎 (学習院大学理) 太田成男 (日本医科大学)
2	エネルギーと化学_1 ～現代社会を支える エネルギー～	エネルギーは様々な形態で存在することを確認し、それらが相互に変換する場合のプロセスや効率について解説する。化学エネルギーから熱エネルギーを取り出す過程の代表例として燃焼過程をとりあげ、電気エネルギーへ変換する技術として火力発電技術を解説する。現代社会を支えるエネルギーの今後として、非在来型化石資源や再生可能エネルギーなどエネルギー源の多様化の重要性を解説する。 【キーワード】エネルギー変換、一次エネルギー、二次エネルギー、天然資源、再生可能エネルギー	久保 貴哉 (東大 先端研)	久保 貴哉 (東大 先端研)
3	エネルギーと化学_2 ～天然物質と加工燃料～	天然物質(化石資源)を加工して利用価値を高めるための知恵について、石油精製技術、ガスの液化技術、水素製造技術について解説を行う。一方で、燃料の持つ化学エネルギーを運動エネルギーへ効率良く変換させるための人々の知恵と工夫を、自動車エンジンの高性能化の経緯を眺めながら解説する。 【キーワード】効率的なエネルギー利用、触媒、GTL、水素、非在来型資源	久保 貴哉 (東大 先端研)	久保 貴哉 (東大 先端研)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	エネルギーと化学_3 ～電気エネルギーへ の変換とその貯蔵技 術～	光エネルギーを電気エネルギーへ直接変換する過程や、化学エネルギーから燃焼過程を経由せずに電気エネルギーを取り出す過程について解説する。それらの具体例として、太陽電池、燃料電池、リチウムイオン電池を取り上げる。今後益々重要性が高まるこれらの発電技術や蓄電技術の現状と課題についても解説する。 【キーワード】 光電変換、蓄電、リチウムイオン電池、太陽電池、燃料電池	久保 貴哉 (東大 先端研)	久保 貴哉 (東大 先端研)
5	エネルギーと化学_4 ～自然に学ぶエネル ギー変換技術～	緑色植物などが行う光合成には、エネルギー移動過程や電子移動過程など複数の反応過程が含まれており、それらは100%に近い効率で進行している。このすぐれたエネルギー変換過程との類似性に着目しながら、太陽電池と光触媒材料を解説する。 【キーワード】 光合成、電気化学、光合成模倣型太陽電池、光触媒、半導体材料、水素発生	久保 貴哉 (東大 先端研)	久保 貴哉 (東大 先端研)
6	機能性物質の化学_1 ～物質の機能とは～	現代社会で用いられている多様な「機能性物質」を衣・食・住などをキーワードとして分類し、天然の物質と比較する。また、化学物質の優れた面と共に、新たに生じた問題についても紹介する。 【キーワード】 日常の化学、物質の機能、天然物質と化学物質、繊維、医薬	石井 菊次郎 (学習院大 理)	石井 菊次郎 (学習院大 理)
7	機能性物質の化学_2 ～物質の微視的構造 と巨視的性質～	物質の特徴的な性質が、その物質を構成する原子・分子の組み合わせといったミクロな構造から導かれていることを学ぶ。また、ナノテクノロジーなど、物質に関わる現代的な視点についても触れる。 【キーワード】 化学結合、分子間力、親水性、疎水性、光と電磁波、ナノテクノロジー	石井 菊次郎 (学習院大理)	石井 菊次郎 (学習院大理)
8	機能性物質の化学_3 ～光と電子に注目し て～	現代社会で用いられている「機能性物質」のいくつかを光や電子との関連に注目して取り上げ、それらの特徴などを解説するとともに、それらが実用化されるに至った「知恵」に触れる。 【キーワード】 LED、光ファイバー、レーザー、液晶、半導体、超伝導、誘電体、磁性体	石井 菊次郎 (学習院大理)	石井 菊次郎 (学習院大 理)
9	機能性物質の化学_4 ～快適で安全な暮らし のために～	まず、水との関係に注目していくつかの機能性物質を取り上げ、さらに、新たな機能性物質の開発のために化学が行っている努力について触れる。また、省エネルギー、資源の有効利用、環境保全、廃棄物処理など、これからの社会のために化学が担うべき役割について考える。 【キーワード】 多孔質物質、界面活性剤、ゲル、ナノテクノロジー、グリーンケミストリー、省エネルギー	石井 菊次郎 (学習院大 理)	石井 菊次郎 (学習院大 理)
10	化学における計測	分子や物質の構造は基本的には実験によって決められる。そのために、現代では様々な機器を用いた測定を行っている。まず、この測定の質を決める感度、分解能やダイナミックレンジといった要素を考察する。分子を測定を行う3つの異なる方法として分光法、回折法、および顕微鏡の原理を説明しつつ、それぞれの代表的な手法を紹介する。それぞれの方法でわかる分子や物質の構造と性質に関して例を挙げ解説する。 【キーワード】 計測とは、分光法、回折法、顕微鏡	濱田 嘉昭 (放送大)	濱田 嘉昭 (放送大)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	化学と生命・健康_1 ～物質と生命をつなぐソフトマター～	物質から生命への架け橋として注目されているのが、ソフトマターである。物質としてのソフトマター、生体材料としてのソフトマターについて概観し、ソフトマターとしての性質が、どのように我々の生活に役立っているか、また食品として利用されているかについて述べる。 【キーワード】 ゴム弾性、高分子ゲル、コロイドゲル、液晶、膜	菅原 正 (神奈川大理)	菅原 正 (神奈川大理)
12	化学と生命・健康_2 ～生命の本質:化学からみた生命とは何か?～	生物(生命体)は、化学物質で構成されているが、単なる物質の集合体とどこが違うのだろう。生物は、物理化学の法則にしたがって、エネルギーを消費しながら秩序を形成し、生物特有の営みをしている。非生物と比較して生物の挙動の特徴について考察する。 【キーワード】 生命の3要素、エントロピー、共役輸送、能動輸送、不可逆反応 エネルギー通貨、アデノシン三リン酸	太田 成男 (日本医科大)	太田 成男 (日本医科大)
13	化学と生命・健康_3 ～生体分子と生体反応を見る～	様々な技術を駆使することによって、生体を構成する物質や生体内反応を見ることができるようになった。「見る」ことは、生命現象を理解するのに大いに貢献する。直接的な感覚に訴えることにより、生物の中で行われている反応を理解するのを助ける。 【キーワード】 緑色蛍光タンパク質、鍵と鍵穴、立体構造、X線結晶回折、NMR、天然変性タンパク質	太田 成男 (日本医科大)	太田 成男 (日本医科大)
14	化学と生命・健康_4 ～医療における化学の役割～	現代化学の叡智は広く病気の診断、創薬につかわれている。新しい薬を作り出すためには化学の知識が必須であり、酵素の立体構造解析が利用されている。病気になると体内の代謝物が増加することを利用して病気の早期発見や病因の究明がなされようとしている。 【キーワード】 バイオセンサー、創薬、質量分析機、メタボロミクス、グライコミクス	太田 成男 (日本医科大)	太田 成男 (日本医科大)
15	社会の発展と物質の進化	人類は化学を進歩させることで人工のエネルギーや機能物質を創り上げ、文明を飛躍的に進化させた。一方で、エネルギーの枯渇、環境汚染の出現などの問題が顕在化した。今や人工物質の新しい設計指針が示されつつある。化学の対象が生命や健康にも広がりつつあることを踏まえ、本教材の内容を復習しつつ、化学の将来について考える。 【キーワード】 再生可能エネルギー、非汚染型機能性物質、生体システムに学ぶ、人間社会と化学、ノーベル賞と化学	濱田 嘉昭 (放送大) 菅原 正 (神奈川大学理)	濱田 嘉昭 (放送大) 菅原 正 (神奈川大学理) 久保 貴哉 (東大 先端研) 石井 菊次郎 (学習院大学理) 太田成男 (日本医科大学)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562517	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 進化する宇宙 （'11）＝ （TV）

※この科目は「進化する宇宙('05)」を一部改訂した科目です。
改訂回は、第1, 2, 5, 10, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：吉岡一男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：海部宣男（国立天文台名誉教授）〕

講義概要

宇宙とその進化について、最新の知見に重点をおきながら論じる専門科目。共通科目の「宇宙を読み解く('13)」が文科系学生にも配慮した宇宙への入門編であり、専門科目の「太陽系の科学('14)」が太陽系を扱うのに対して、本科目では太陽系を超える広大な宇宙に現われるいろいろな天文現象についてその本性を解明し、そこで起こっている物理過程を考慮しながら進化のドラマを構成することに重点をおく。そのため、全体の構成を星、銀河、宇宙の3つの階層に分け、それぞれの最先端における研究者が分担して講義する。

授業の目標

人間を生み出した宇宙の活動と進化について、統一性・一貫性を重視して系統的に講義することにより、受講生が現代の教養ある社会人にふさわしい統一的宇宙観を得ることを目標とする。

履修上の留意点

本科目では、宇宙の進化に重点を置いて講義されている。まずは「宇宙を読み解く('13)」を受講して宇宙の全体像や観測について把握した上で本科目を受講すると理解しやすいであろう。また、扱われる内容によってはかなりの物理的知識を前提とするものも含まれる。しかし、それぞれの担当講師はなるべく平易に講義しており、高度な知識を必要とする箇所を飛ばしてもあまり支障がないように努めているので、全体の把握はできるであろう。逆に、本科目の履修後に、必要な物理的知識を扱った科目を履修すると本科目の理解がさらに深まるであろう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	宇宙とはどういうものか (※改訂回)	本講義の導入として、宇宙とその進化について基礎から考える。人間が宇宙の始まりにどのように迫ろうとしたかを概観しつつ、科学の対象としての宇宙について考え、宇宙に向き合う基本的認識を得る。次に宇宙における変化がどのように認識されたかについて、望遠鏡とニュートン力学から物理学革命に至る認識を追う。恒星物理学の発展で、恒星の必然的で不可逆的な変化の道筋が把握され、「変化し続ける宇宙＝進化する宇宙」の最初の科学的認識となった。最後に私たちの宇宙観に衝撃を与えた宇宙膨張の発見と相対論的宇宙論に触れ、膨張宇宙で起きる物質の「進化」について考察する。 【キーワード】 天地開闢神話、望遠鏡、物理学革命、恒星物理学、宇宙膨張、進化論、エントロピー	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)
2	宇宙の観測手段 (※改訂回)	本章では、宇宙の情報を与える宇宙の観測について学ぶ。また、観測に用いる観測装置などの手段や観測結果から必要なデータを得るための手段やデータを表示する手段についても学ぶ。とくにその例として、HR図や超新星の観測や宇宙膨張の観測について取り上げる。 【キーワード】 望遠鏡、大気窓、ニュートリノ、HR図、超新星、宇宙膨張	吉岡一男(放 送大学教授)	吉岡一男(放 送大学教授)
3	星の誕生と主系列星	恒星はどのようにして誕生するのか。また、太陽系のような惑星系や2つの星からなる連星系がどのようにして生まれるのかを解説し、恒星の光り輝く原因が水素の核融合反応によることを示す。見えない恒星の内部をどのようにして理解することができるのかについても触れる。 【キーワード】 原始星、降着円盤、主系列星、ppチェーン、CNOサイクル	蜂巢 泉 (東京大学大 学院准教授)	蜂巢 泉 (東京大学大 学院准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	恒星の進化と終末	恒星は時間が経つにつれてどのように進化するのか、その基礎を解説する。とくに、質量の比較的小さい中小質量星が赤色巨星へと進化し、ガスの一部を放出し、最終的に白色わい星になることが、散開星団や球状星団などの観測によって検証されることを示す。赤色巨星や白色わい星がどのような構造を持つかについても解説する。 【キーワード】 電子の縮退圧、赤色巨星、惑星状星雲、白色矮星	同上	同上
5	超新星爆発と元素の進化 (※改訂回)	質量の大きい大質量星の進化とその最終段階としての超新星爆発について解説する。恒星の進化の過程をととして恒星内部で合成された重元素が、超新星爆発をととして宇宙空間に供給される。それが新しい星に取り込まれて現在の地球などで見られる元素組成になった。以上の化学進化とともに、ガンマ線バーストなど超新星に関する現象について解説する。 【キーワード】 中性子星、ブラックホール、I a型超新星、極超新星	同上	同上
6	連星の進化と終末	連星系は、その進化の途中で相手の星へガスを供給したり、また、相手の星からガスを受け取ったりすることで、単独星とは異なる進化の道を歩む。連星系における質量の交換を説明し、それが連星系の進化にどのような影響を及ぼすかを解説する。その結果、活動的な天体の多くが、ガスをやりとりする連星系であるとして説明可能なことを示す。 【キーワード】 ロッシュ・ローブ、共通外層、古典新星、超軟X線源	同上	同上
7	われわれの銀河系	私たちの住んでいる銀河系がどのような天体なのかをまず理解する。銀河系に存在する星やガス星雲、星団などの性質を合わせて理解する。銀河系の中心部に何があるかについても考える。 【キーワード】 天の川銀河、銀河円盤、バルジ、ハロー、銀河中心核	谷口 義明 (愛媛大学大学院教授)	谷口 義明 (愛媛大学大学院教授)
8	一般の銀河	いろいろな形を持つ銀河の世界を探訪し、宇宙に存在する多様な銀河を理解する。銀河の力学的性質を理解し、銀河の構造の多様性について理解する。銀河の年齢について考え、銀河の進化について理解する。 【キーワード】 楕円銀河、円盤銀河、密度波理論、相互作用銀河	同上	同上
9	宇宙の大規模構造	銀河が集団になって存在している様子を調べる。連銀河(バイナリ銀河)、銀河群、銀河団などを例にとり、銀河の集団としての特性について理解する。また、銀河の性質がどのような影響を受けるかについて考える。さらに、宇宙における銀河の空間分布の様子を一般的に調べ、宇宙における構造形成について考える。 【キーワード】 銀河群、銀河団、化学進化、力学進化、大規模構造	同上	同上
10	活動銀河 (※改訂回)	銀河の中で起こる高エネルギー現象の現場を調べる。大質量星がバースト的に生まれている銀河を調べ、それが銀河の進化に与える影響について考える。銀河中心核に何があるかを考え、超大質量ブラックホールの存在を理解する。超大質量ブラックホールを起源とするさまざまな高エネルギー現象を概観する。また、銀河間の相互作用と活動銀河の関係についても述べる。 【キーワード】 スターバースト銀河、活動銀河中心核、クェーサー、統一モデル	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	膨張宇宙	1915年の一般相対性理論の誕生によって、宇宙全体の進化を数式によって記述することが初めて可能になった。一般相対性理論に基づくフリードマン宇宙モデルについて解説し、その進化が宇宙の物質の量などによって、どのように異なることになるかを見る。併せて、膨張宇宙の特徴である赤方偏移やハッブルの法則などについても述べ、宇宙膨張の観測的証拠についても紹介する。 【キーワード】 アインシュタイン方程式, フリードマン宇宙, スケール因子	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)
12	ビッグバン	膨張宇宙を逆に辿っていくと、非常に高密度な初期宇宙であったことが想像される。ガモフによって考え出された高温、高密度であった宇宙初期の状態こそビッグバンである。ビッグバンとその観測的証拠である宇宙マイクロ波背景放射について解説し、宇宙の辿ってきた熱史を紹介する。 【キーワード】 ビッグバン, 宇宙マイクロ波背景放射, 晴れ上がり, インフレーション	同上	同上
13	宇宙の階層構造	現在の宇宙は、惑星、星、銀河、銀河群、銀河団、そして宇宙の大規模構造と、非常に多様かつ階層的な構造を示している。ここでは、銀河より大きいスケールの構造がいつ、どのように膨張宇宙の中で形成されてきたかについて、数値シミュレーションの結果も交えて解説する。それらを、最新の観測成果と比較する。 【キーワード】 階層構造, 量子揺らぎ, コールド・ダークマター	同上	同上
14	宇宙の進化と運命 (※改訂回)	膨張宇宙の進化を決定づける物質密度、空間曲率、宇宙項などがどのように決められてきたかを解説する。とくに、宇宙マイクロ波背景放射の温度揺らぎや、遠方の超新星の探査などについて述べる。また、ダークエネルギーの最新の知見についても述べる。その結果、私たちの宇宙が今後どのような運命をたどるのかについて、見ていく。 【キーワード】 宇宙論パラメータ, 宇宙マイクロ波背景放射, COBE, WMAP	同上	同上
15	宇宙の物質進化と生命 (※改訂回)	まとめとして、膨張宇宙で起きた構造形成と進化を概観し、その上で星間物質から惑星・生命に至る物質進化について述べる。最近、星間物質からの恒星の形成はほぼ必然的に惑星系の形成を伴うことが知られるようになった。すなわち惑星も宇宙の物質進化の一つの帰結だが、では地球とその上の生命は、宇宙史の中でどのような存在か。太陽系の他の惑星や衛星、他の恒星を回る惑星系ではどうか。生命を、宇宙の物質進化の中に位置付ける。 【キーワード】 構造形成、階層、星間物質、惑星形成、太陽系外惑星、地球の生命、宇宙の生命	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562703	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 太陽系の科学 （'14）＝（TV）

英文名＝ [Modern View of Our Solar System ('14)]

〔主任講師（現職名）： 吉岡一男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 海部宣男（国立天文台名誉教授）〕

※この科目は「太陽系の科学('10)」の一部改訂科目です。

改訂回は5, 6, 7, 8, 9, 13, 15回です。

講義の概要

太陽系と惑星の理解は、急速に進んでいる。数多くの無人探査機によって各惑星や衛星の詳しい様子が分かってきたことに加え、地上からの観測で冥王星の仲間である太陽系外縁天体が多数発見され、惑星軌道の外側に広大に広がる太陽系の外縁部が見えてきた。そうした新しい知見をもとにいまや太陽系の形成と46億年にわたる歴史が具体的に理解されるようになった。その中で、地球を他の諸惑星との比較でとらえる比較惑星学が新たに確立してきた。さらに1990年代から夜空に輝く恒星を回る太陽系外の惑星が続々と発見されている。この発見によって、われわれの太陽系を無数の惑星系の中のひとつとして考え、その特徴や位置づけを研究する比較惑星学論も、生まれつつある。本講義はこれら科学の新しい発展を広く総合的に見わたし、太陽系と惑星について現代科学が獲得した斬新な見方と理解を提供するものである。学生諸子は本講義を履修しながら、われわれの太陽系と地球、そして人間存在そのものについても、科学的な視点で捉え、また考えていただきたい。

授業の目標

放送大学では太陽系についてのまとまった講義は一時途絶えていたが、その間、太陽系の理解は急速に進んだ。地球環境の変動や文明社会の未来が世界的に大きな関心と呼ぶようになったいま、太陽系の物理的・歴史的な理解は、地球市民が持つべき基本的教養としても、また人類社会の現在と未来を科学的に考える上でも、重要である。本講義は、一新された太陽系の構造や起源、歴史の理解に加え、新たに成立しつつある比較惑星学・比較惑星系学をも基礎に、宇宙の中の地球とその上の生物・人間を見直すことを目標としている。現代社会に生きる教養人・地球市民として、本講義により新しい太陽系像を身につけ、宇宙の大きな空間・時間のスケールで、地球とその上で進化してきた生物・私たち人間を考える視野を育てて欲しい。

履修上の留意点

本講義は、2010年度開講『太陽系の科学』の部分改訂版である。放送授業も含め比較的大きな改訂を行ったのは、5章、6章、7章、8章、9章、13章、15章である。以前開設されていた『太陽系の科学（'95）』（小尾・吉岡）は力学を中心とした内容だったが、本講義では、最近の太陽系探査や観測の前進によって獲得された太陽系と惑星についての物理学的理解を展開する。力学の理解を深めたい受講生は、上記旧教科書を参考にされたい。本講義の内容にかかわる参考書としては、「シリーズ現代の天文学」（評論社刊）第1巻『人類の住む宇宙』および同第9巻『太陽系と惑星』がある。やや専門的になるが『惑星地質学』（東京大学出版会）も、参考になるだろう。天文学一般に関しては、放送大学教材『宇宙を読み解く』が一般的入門として、また同『進化する宇宙』がやや専門的な参考となる。大学院教材『宇宙・自然システムと人類』は、より高度な理解の参考になるだろう。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	太陽系の「発見」	本講義の導入として、人間による太陽系の認識の発展を、「発見」をキーワードとして整理する。古代の人々にとって、日月五惑星は神だった。惑星と太陽系はどのように発見され、認識され、理解されてきたか。惑星の動きの観察や占星術から発展した天文学は、人間が生んだ最初の科学だったともいえる。望遠鏡の登場とともに急速に進んだ太陽系像の拡大をたどり、冥王星問題の背景ともなった大きな発見まで、太陽系についての基本的な認識をまず確保しよう。 【キーワード】 星座、惑星の運動、占星術、望遠鏡、天体力学、冥王星問題、太陽系外縁天体	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)
2	天体力学と惑星の運動	惑星の運動は、天体間に働く万有引力という概念の成立によってどのように理解されただろうか。彗星の運動や惑星をまわる衛星の運動も同様に説明されることなど、太陽系を支配する力学について、入門的に概説する。さらに、太陽系の惑星の軌道が長い年月にわたって安定であることやその理由を理解する。 【キーワード】 力と運動、ケプラーの法則、万有引力、天体力学、太陽系の安定性	吉岡一男 (放送大学教 授)	吉岡一男 (放送大学教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	地球と月	私たちが住む惑星・地球について、その形成、構造、プレートテクトニクス概念の成立などによって理解されてきた内部運動、海洋、気候などを理解する。また地球に一番近い天体である月について最新の探査データを元にその真の姿に触れ、その誕生についての考え方を知る。さらに、地球と月の相互作用や、暦との関係を理解する。 【キーワード】 地球の内部構造、地球の歴史、プレートテクトニクス、大陸と海洋、月、巨大衝突説	吉川 真 (JAXA宇宙科学研究所准教授)	吉川 真 (JAXA宇宙科学研究所准教授)
4	太陽と地球	太陽系の中心である太陽がどのような天体であるかを、その内部構造の理解を通して把握する。また、外層構造や太陽表面で磁気プラズマが引き起こす諸現象について俯瞰し、これらの太陽活動によって表面から放たれる放射や粒子の風である太陽風が周りを取り巻く惑星にどのような影響を及ぼしているかについて考える。そうした例として、特に地球の気候変動に及ぼす太陽の影響をとり挙げる。 【キーワード】 核融合反応、水素燃焼、太陽表層の活動、磁気プラズマ、太陽の放射、地球の気候、ミランコヴィッチ・サイクル	吉岡一男 (放送大学教授)	吉岡一男 (放送大学教授)
5	無人探査機が広げる惑星観 ロケ：JAXA宇宙科学研究所（相模原） 【改定回】	1960年代から打ち上げが始まった数多くの太陽系無人探査ロケットにより、惑星や衛星についての理解は非常に大きな飛躍を遂げた。地球型の小型岩石惑星、特に金星と火星については驚くべき発見が相次ぎ、地球を含めた比較惑星学が発展しつつある。木星や土星など巨大惑星の衛星も、それぞれに特徴的な活動を示すことが明らかになり、惑星物理学の理解の飛躍をもたらした。ここではまず、そうした惑星探査機の活躍を概観する。 【キーワード】 宇宙開発、無人探査機、バイキング、ボイジャー、ガリレオ、ホイヘンス、はやぶさ、比較惑星学	長沼 毅 (広島大学准教授)	長沼 毅 (広島大学准教授)
6	火星： 地球に似ていた惑星 ロケ：屏風ヶ浦（千葉県）または神奈川県・三浦半島 【改定回】	火星の探査が、近年急速に進められている。火星表面では探査車が砂だらけになって地質調査を行い、上空からは数十センチメートルの大きさを判別できるカメラを搭載した探査機が、徹底的に表面を調査している。現在では凍りつき、極度に乾燥しているこの星は、かつては温暖湿潤気候を持ち液体の水を豊富に蓄えていたようだ。最新の火星探査の成果を、美しい画像と共に概観する。 【キーワード】 火星探査、流水地形、火山地形、海、惑星地質学	宮本英昭 (東京大学准教授)	宮本英昭 (東京大学准教授)
7	地球型惑星の比較 【改定回】	外国を旅することで、かえって自国について理解が深まることもある。同様に、地球と似た天体を調べることは、地球の深い理解へとつながるはずだ。ここでは特に、地表面の痕跡や熱損失などのキーワードで地球型惑星を比較し、地球の特異性と他天体との類似性について考察する。なぜ地球に人類が存在するかという究極的な問いに対するヒントを探りたい。 【キーワード】 水星、金星、火星、火山、プレートテクトニクス、気候変動、衝突現象	宮本英昭 (東京大学准教授)	宮本英昭 (東京大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	巨大惑星の世界 【改定回】	地球型の小型岩石惑星の外側を公転する木星、土星、天王星、海王星の4つの惑星は、地球型惑星よりはるかに大きな質量を持つ巨大惑星である。それらは木星型(巨大ガス惑星)と天王星型(巨大水・氷惑星)に分けられるが、内部構造や表面活動その他の面で地球型惑星とは大きな違いを示す。また巨大惑星は、それが及ぼす重力で太陽系の天体の運動にさまざまな影響を与えている。ここでは、これら巨大惑星の世界を訪ねよう。 【キーワード】 太陽系の構造、巨大ガス惑星、巨大水・氷惑星、質量と角運動量の分布	吉岡一男 (放送大学 教授)	吉岡一男 (放送大学 教授)
9	巨大惑星の衛星たち： 驚くべき多様な世界 ロケ：鳴子温泉（宮城県）または川俣温泉・日光 【改定回】	太陽系で最も火山活動が活発な天体は、地球ではなく巨大惑星の衛星である。地下に海が存在するもの、温泉が噴き出ているもの、さらには極度に歪なものや表面が無数の断層で引きちぎられているものなど、驚くべき多様性を持つ衛星について、近年の探査で次々と明らかにされた新事実を整理し、この多様性の持つ意味合いについて議論する。 【キーワード】 イオ、エウロパ、エンケラドゥス、潮汐加熱、間欠泉、カッシーニ探査機	宮本英昭 (東京大学 准教授)	宮本英昭 (東京大学 准教授)
10	小惑星と彗星、 隕石と流星	小惑星や彗星のような「太陽系小天体」というものがどのような天体なのかを、最近の観測や探査の結果を参照しながら概観する。また、これらの天体の分布や軌道運動、物理的性質を知り、小惑星や彗星が太陽系の起源を調べる鍵になっていることを理解する。さらに隕石、流星そして天体の地球衝突問題について知識を深める。 【キーワード】 小惑星、彗星、太陽系小天体、隕石、流星、オールト雲	吉川 真 (JAXA宇宙科学 研究所准教授)	吉川 真 (JAXA宇宙科学 研究所准教授)
11	太陽系の果て	海王星の軌道付近やその外側に、近年、多数の小天体が発見されている。これらを太陽系外縁天体と総称するが、冥王星もその1つである。また、冥王星については、2006年に惑星ではなくて準惑星と定義された。さらに、より遠方にも天体が発見され始めた。このような太陽系外縁天体について現在までに分かったことを理解する。 【キーワード】 冥王星、太陽系外縁天体、カイパーベルト、オールトの雲、太陽系のサイズ	吉川 真 (JAXA宇宙科学 研究所准教授)	吉川 真 (JAXA宇宙科学 研究所准教授)
12	太陽系の誕生	太陽系がどのように形成されたのかについて、まず歴史的な考察を行う。ついで、理論と太陽系外縁天体の発見などの観測から得られた現代の太陽系形成論を概観し、最新の理解を述べる。講義で見てきた太陽系の諸天体や多彩な特徴がかなり見事に説明できることがわかり、われわれが住む地球という天体の位置付けについても、理解が深まるだろう。 【キーワード】 暗黒星雲、星間分子雲、京都モデル、原始惑星系円盤、雪境界線、微惑星、原始惑星、雪境界線、惑星の成長時間	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	無数の惑星系の中で 【改定回】	太陽系外の恒星を回る惑星が続々と発見され、太陽系はこの宇宙に満ちる無数の惑星系の一つにすぎないことが分かった。ドップラー法による1995年の第一発見をはじめ、観測の目覚ましい成果を概観する。その結果、太陽系をもとに考えられてきた惑星の概念には、大きな変化がもたらされた。太陽系外惑星の特徴、惑星系形成論の新たな発展、またその中で進む「第二の地球」検出への歩みと生命存在発見の可能性など、形成されつつある新しい惑星観について述べる。 【キーワード】 太陽系外惑星、ドップラー法、灼熱巨大惑星、楕円軌道惑星、原始惑星系円盤、軌道安定性	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)
14	他の惑星・衛星に 生物は存在するか？	太陽系外の無数の恒星を回る惑星が普遍的に存在することが分かった現在、地球外生命の探求も現実味を帯びて論じられている。ここでは、地球外生命が存在する可能性が議論されている太陽系天体として、火星、エウロパ、タイタン、エンケラドゥス等について考察する。その上で地球外生命の発見の意義を考察し、さらに太陽系外惑星の生命探査計画についても述べる。 【キーワード】 火星、エウロパ、タイタン、エンケラドゥス、系外惑星、ハビタブル・ゾーン	長沼 毅 (広島大学准 教授)	長沼 毅 (広島大学准教 授)
15	地球の生物： 過去・現在・未来 【改定回】	地球の生物史は、地球そのものと同じくらい長い。地球史の中で進化を重ねてきた地球生物を、これまでの講義で得られた太陽系についての知見を踏まえながら概観し、理解の整理を試みる。さらに地球生物系の中での人類を進化の中で位置付け、未来にはどのような可能性があるかについても、時間スケールも含めて考察してみよう。これは本講義のまとめであるとともに、地球と私たち人間という存在を見直す作業でもある。 【キーワード】 初期地球、生命の起源、原核細胞生物、真核細胞生物、多細胞生物、第四生物、環境変動、人類文明	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)	海部宣男 (国立天文台 名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1566512	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 地球のダイナミックス （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：鳥海 光弘（東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長）〕

【本学担当専任教員：吉岡 一男（放送大学教授）】

講義概要

地球科学の基本は地球の表層にみられるさまざまな物質のすがた、性質、そしてその起源を探ること、さらにそれらを基にして地球の内部や表層で起こったプロセスを理解し、社会の基盤となる地殻や海洋、そして大気の状態を的確に理解し、その応用を図ることにある。そこで、本講義はその基礎である、地球表層にある自然物質の理解とその起源がどのように理解できるのか、そして起源を異にする物質が近接する理由と、それから読み取られる地球のダイナミックスを講義する。

授業の目標

固体地球のさまざまな現象の基本的理解とそれから地球のダイナミックスがどのように擦れるのかを学ぶ。

履修上の留意点

専門科目である本科目では、とくに熱力学の知識が使われる。したがって、その内容を扱っている科目、たとえば基礎科目の「初歩からの化学('12)」を履修してから本科目を履修すると理解しやすいであろう。また、本科目の履修とともに基礎科目の「身近な気象学('10)」や共通科目の「惑星地球の進化('13)」を履修すると地球科学分野の理解が深まるであろう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1. 地球の表層にある物質の多様性				
1	地球の表層をつくる物質	日本列島や大陸の大地にはどのような物質があるのか。それは岩石であり、いろいろな鉱物の集合体である。日本列島では西日本と東北日本では異なり、前者は石英と長石が主の花崗岩や変成岩が多く、後者は長石や輝石のほかガラスが主となる火山岩が多い。これらの岩石がどのように分布するのか、そしてそれをつくる鉱物は何かをみる。 【キーワード】 島弧、大陸、鉱物、岩石、多様性	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
2	海洋地殻の岩石	海洋では海水とその下に広がっている海洋底の物質がある。海底の表層部分は海洋地殻といい、泥や生物の遺骸が溜まった堆積物と、その下に輝石、長石、そしてカンラン石などの鉱物をもつ玄武岩と呼ばれる火山岩がある。海洋底をつくる岩石は、太平洋でも大西洋でもほとんど同じであり、この点で大陸や島弧の岩石と異なる。 【キーワード】 海洋地殻、堆積物、火山岩、玄武岩、一様性	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
3	化学組成からみた地殻	地殻物質である岩石やそれを作る鉱物とガラスは酸素とさまざまな金属元素やアルカリ元素がつくる酸化物の化合物である。そこで多様な岩石と鉱物を主な酸化物のSiO ₂ , TiO ₂ , Al ₂ O ₃ , Fe ₂ O ₃ , CaO, MgO, FeO, MnO, Na ₂ O, K ₂ O, H ₂ O, P ₂ O ₅ の量比で表す。すると、玄武岩から流紋岩、かんらん岩から花崗岩、かんらん岩、そして堆積岩などの組成変化をきちんと区別できる。 【キーワード】 化学組成、主要成分、酸化物、組成変化	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
2. 地球内部の温度と圧力				
4	地球表層付近の温度構造	地球表層にある物質はその場でできたものとは限らない。地球内部で作られて、表面に出ていることが頻繁にある。地表にある物質がどこで出来たかを探るには、地球の中がどのような温度と圧力か知る必要がある。そこで、まず地表から穴を掘ってどのような圧力と温度かを知る必要がある。また、地球のいろいろな地域で温度がどのように変化するかを調べる。 【キーワード】 温度勾配、圧力、地球表層、地熱地帯	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
5	地球内部の構造と圧力	地球の内部は、地震波速度の分布から、同心円状に、地殻、上部マントル、マントル遷移層、下部マントル、外核、内核にわかれる。地球の内部の圧力は地球の重力で決まる。内部の重力は、地球内部で密度が変化するので、密度、重力、そして圧力を同時に求めるのである。 【キーワード】 地球内部の圧力、重力、地球内部の構造、地震波の不連続	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
6	地球内部の鉱物の安定性	地球内部の温度がどのくらいであるかを決めるのは難しい。直接温度計を差し込むことが出来ない時、地表付近の温度変化から推定するか、温度に敏感な物質の性質から間接的に推定するしか方法がない。有力な方法は、地震波の速度が不連続的に変化する深さで、鉱物が別の鉱物に変化することを利用して、地球の深いところでの温度を決定するのである。このような物質の変化を利用した温度計の利用を考える。 【キーワード】 地球内部の温度、層構造、鉱物変化、温度計	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
3. 地球物質の変化と性質				
7	ダイヤモンドの話と変成岩	人はダイヤモンドを採集して、宝飾品としても工業品としても利用している。ところがダイヤモンドは炭素から出来ている。そして地表付近で安定なのはグラファイトであるし、酸素がたくさんあると炭酸ガスとなってしまふ。そこでダイヤモンドとグラファイトがどのような安定な温度と圧力の範囲をもっているのか。その関係は相図で示される。そして両者の変化を相転移という。そこで地表でダイヤモンドが出現することはどういうことかを探る。 【キーワード】 ダイヤモンド、炭素、グラファイト、相転移	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
8	地球内部の温度と鉱物の生成温度	地球内部のやや深い部分の温度は、岩石に含まれている鉱物の元素分配に関する熱力学的平衡関係を用いて、鉱物の化学組織を測定することで推定出来る。マントルで生成された岩石は世界各地の火山岩に取り込まれているものがあり、それらに含まれているカンラン石や輝石などの化学組成から上部マントルの200km程度までの温度構造がわかる。 【キーワード】 鉱物の元素分配、地質温度計、他成分係、化学平衡、上部マントル	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	地球内部の温度構造	地球内部の温度構造は、浅い部分では地表付近での温度勾配や地質温度計から推定されたが、深部は推定が難しい。地球内部の熱エネルギー分布と、運動が未知だからである。そこで、地震波速度の深さ分布から得られた層構造と推定された鉱物の相転移曲線を用いて、層境界の圧力と温度を推定する。この結果660kmでは1500度程度を通過する温度構造が推定される。 【キーワード】 温度構造、相転移温度、断熱圧縮、熱伝導、熱源	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
10	MgO-SiO ₂ を成分とする物質の融解とマグマ	氷から水になることは融解という。地球表層ではしばしば岩石が融けた状態の液体が噴きでる。これをマグマと言う。地球内部では温度と圧力が高い。これがマグマを作る原因である。そこで、地球物質の主な成分であるMgOとSiO ₂ 酸化物の混合物がどのような鉱物に変化し、融解するかを相図で調べよう。 【キーワード】 融解、マグマ、相図、結晶作用、分化	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
4. 地球のダイナミクス				
11	マグマと火山	地球の内部は地震波から見ると固体であり、マグマで満たされているわけではない。では地球表層に噴出するマグマはどこで作られ、どのように噴き出すのか。それを火山から調べて見よう。日本列島やインドネシア、フィリピンでは火山が一行に並んでいる。このほか、地球上で火山噴火が著しいのは、大西洋や太平洋の海嶺と呼ばれる地域である。マグマの温度は直接測ると1100度C程度である。それを地球内部で実現しているのは深さ100-200kmである。マグマはそこで生まれたのだろうか。 【キーワード】 マグマの発生、火山活動、地球の温度、火山列島	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
12	地球内部の破壊と地震発生	地震は日本列島のような海溝のそばに多く、大陸の中ではあまり起こらない。地震の揺れは横揺れと縦揺れがある。横揺れは縦揺れより遅く始まる。前者は横波で後者は縦波である。そうした揺れは岩石が横に歪んだり、縮みと伸びを起こすからだ。1mでわずか1mmぐらいのずれでも1kmでは1mものずれとなる。そしてそれが1秒程度で右へ左へとずれるのである。それは地下では割れ面が作られ、それを境に左右へとずれが発生することに等しい。地表では岩石の中の断層である。 【キーワード】 地震活動、断層、地球内部の破壊、地球内部の歪	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
13	マントル対流と地球の歴史	地球の深部では温度の上昇率が、地表付近に比べて格段に小さい。それは深部では温度や物質について攪拌が起こっているためである。浅いところでは攪拌がないために熱がゆっくりと地表にまででるので勾配がきつい。攪拌はお風呂の中と同じく対流によるものである。これをマントル対流と言う。マントル対流はマントルの最深部からの上昇流とそれが浅いところで冷やされて沈んで行く下降流にわかれ、効率的にマントルを冷やしている。両者では温度が違い、地球内部に温度不均質が発生する。また、対流はマントルを掻き混ぜることで垂直方向に均質化している。 【キーワード】 温度上昇率、マントル対流、地球の冷却、マントルの攪拌	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	プレートテクトニクス	世界の主要な場所が互いにどのくらいの距離にあるか、そしてその距離は年々どのくらい変化するかということはGPSで精密に計測すると分かるようになった。それによると日本列島はハワイに近づいている。北米大陸にも年に10cmという速さで接近している。驚くことに、この速度は1968年に太平洋や大西洋などの拡大速度から求めた速度と一致していた。このことは現在の10年ほどの運動と100万年程の平均の運動が一致していることであり、プレートテクトニクスを実証したことになる。 【キーワード】 プレートテクトニクス、大陸間距離、拡大速度、地球のダイナミクス	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)
15	日本周辺の地殻とマントル	日本列島は活動的地球の表舞台である。活発な地震活動と火山活動、急激な地殻の上昇運動、海溝の厚い堆積、活動的な断層帯や褶曲帯などで特徴付けられる。そして、プレートテクトニクスの枠組みから外れる事が起こっている。つまり、地殻が作られて、それが変形し、大陸地殻となっている。さらに重大なことには作られた大陸地殻は40億年もの歴史をもつことである。海洋地殻が2億年より新しい事とは著しいコントラストなのである。 【キーワード】 日本列島、プレート境界、活動的地球、大陸地殻の形成	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)	鳥海 光弘 (東京大学名誉教授・海洋研究開発機構領域長)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1568116	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 代数の考え方 （'10）＝（R）

〔主任講師（現職名）：梅田 亨（京都大学大学院准教授） 〕

【本学担当専任教員：隈部 正博（放送大学教授） 〕

講義概要

「代数」という言葉は中学校以来なじみのあるものだが、それが現代数学において意味する内容は、遙かに広い。本講義では、ごく初歩の中学・高校の内容から始めるが、見方としてはより高度な視点からそれを捉え直し、現代につながる内容へと導いていく。考え方の一つの柱は「幾何」との関係で、その代数化が「環」という代数構造と関わるさまを説明する。もう一つの柱は「代数方程式」から発した「群」という概念で、対称性の記述の道具としての位置づけをもつ。最後にそれらが融合され、物理などで応用されることを説明する。

授業の目標

代数という概念の広がり、それが数学の発展に、どう関わってきたかを説明することで、代数の考えの基本的な捉え方を紹介していく。素材は初歩的なものも含めつつ、現代数学の要所を占める基本概念を採り上げ、それらの概念が活用される様子を、例などを通じ、説明する。代数のもつ「形式性」について、その発展の必然性と、応用力の広さについて重点を置いて述べる。

履修上の留意点

関連した数学の科目。特に、線型代数、微積分を扱ったものを予め履修しておくのが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	代数という言葉	代数という言葉について、その語源であるアラビア語に遡り、日本語も含めて、基本的な考え方について説明する。 【キーワード】 代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
2	未知数という方法 -- 方程式	方程式という考え方の基本について説明する。 【キーワード】 方程式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
3	1次方程式	中学校以来、なじんできたものだが、大学では線型代数として組織的に学んだ。そのポイントについて説明する。 【キーワード】 線型性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	2次および3次・4次方程式	2次方程式は中学校・高校で習ったものだが、解法について、少し違う立場から説明し、3次・4次の方程式についても根の公式という代数的解法があることの説明をする。 【キーワード】 根の対称式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
5	量の自立 --- 恒等式の世界	代数は文字を扱う。文字式の計算という形式性について説明する。 【キーワード】 恒等式, 形式性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
6	幾何学の代数化 --- デカルト以降	数式が図形を表わす方法についての重要な進歩はデカルト以来であるが、その意味と内容について説明する。 【キーワード】 図形と方程式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
7	複素数	複素数(虚数)が数として認知される歴史の説明と、複素数の威力について説明する。特に Gauss の貢献に重点を置く。 【キーワード】 複素数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
8	四元数	平面図形に対しては、複素数が威力を発揮した。同じことが空間図形に対してできないだろうか。その発想から Hamilton は四元数というものに到達した。これについて説明する。 【キーワード】 四元数, 幾何代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
9	グラスマン代数	幾何学を代数化する、より一般の代数として Grassmann の代数がある。これは行列式を機械的計算にし、従って一次方程式も形式的な計算にしてしまうものである。これが一般の非可換な環=代数の重要な例として現われた。これについて説明する。 【キーワード】 グラスマン代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
10	非可換環	現代では代数というのは、結合的な非可換環の代名詞となっている。その威力と、基本的な考えを説明する。 【キーワード】 環, 加群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	群という対称性	代数方程式の根本的分析は Galois によって群という概念が産み出され、本質的な展開を見せた。しかし、群概念は代数方程式にとどまらず、対称性記述の方法として、今日まで重要性を保って来た。この基本的な考えを説明する。 【キーワード】 群, 対称性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
12	群と代数方程式	Galois の考えた群が、どのように代数方程式を分析するのかについて説明する。 【キーワード】 Galois 群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
13	群と不変性	群概念のもつ幾何学的内容の一端について説明する。 【キーワード】 不変式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
14	微分方程式	解析学の基本的概念である微分方程式も、代数の観点から捉えられる。その一端を説明する。 【キーワード】 微分作用素環, D-加群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
15	物理と代数	物理学もまた代数的概念の発展に寄与してきた。相対性理論や量子力学に関係した代数について紹介する。 【キーワード】 群の表現, スピン	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1860704	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 空間とベクトル （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本 幸夫（学習院大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：川崎 徹郎（学習院大学教授）〕
 【担当専任教員：限部 正博（放送大学教授）】

講義概要

幾何であつかう長さや角度はベクトルの内積を用いて記述することができる。内積を変えない変換として合同変換が捉えられる。このように、ベクトルの内積は幾何学において重要な役割を演じている。この講義では、内積を基本的なキーワードとして、合同変換の分類、曲線論、曲面論を展開する。さらに、ベクトル場の微分積分、いわゆる「ベクトル解析」でも、やはり内積が不可欠であることを見る。最後に、通常の内積と異なる「擬内積」を伴ったミンコフスキー空間を考えることにより、非ユークリッド幾何と相対性理論の入口まで誘う。

授業の目標

ユークリッド空間の概念に親しむことにより、合同変換が鏡映変換の合成で書けることを理解する。合同変換で移りあう曲線の形は「曲率」と「捩率」で決まること、また、曲面に伴って、自然に第1基本形式、第2基本形式が定義され、それらが曲面の形と深く関わることを理解する。ベクトル場の基本的な操作である「勾配」「発散」「回転」などの微分操作とその幾何学的な意味を学び、種々の積分定理を理解する。「擬内積」を導入することにより、非ユークリッド幾何や相対論がすっきりと記述できることが分ると思う。

履修上の留意点

微分と積分('10)、入門線型代数('14)を学んでおくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ユークリッド空間と合同変換	平面幾何学を中学、高校で学んだ。そこでは、長さや角度などの計量、また平行移動や回転などの合同変換を考えた。合同変換は長さや角度を変えない。ここでは座標とベクトルの考えを使って空間で同様のことを考えてみよう。 【キーワード】 ベクトル、長さ、内積、ユークリッド空間、合同、鏡映	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
2	合同変換の分類	3次元ユークリッド空間の合同変換にはどのようなものがあるだろうか。鏡映、回転、平行移動、などさまざまなものがあるが、それらは全て鏡映を合成することによって表せる。この事実を使って合同変換の分類ができる。 【キーワード】 鏡映、回転、平行移動、写像の合成、螺旋運動	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
3	ベクトルと行列	合同変換は行列を使って表すことができる。そのような行列はどんな特徴を持っているだろうか。ベクトルと内積を用いて考えてみよう。それらの行列には「標準形」がある。標準形を用いると回転角などを求めることができる。 【キーワード】 行列、内積、外積、直交行列、回転行列	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
4	標準形の応用	標準形を用いて、いろいろな合同変換を表す行列を求める。応用として、立方体の対称性を調べよう。対称軸や、対称面にはどんなものがあるだろうか。それらを行列を用いて調べることができる。 【キーワード】 回転軸、回転角、対称面	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
5	空間内の曲線	空間内の点が動くとき曲線ができる。空間の合同変換で移りあう2つの曲線を同じ形と見て、曲線の形を分類することを考える。その準備として、曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、向きの変化、及び曲率について説明する。 【キーワード】 曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、弧長、曲率	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
6	フレネ・セレーの公式	前回の続き。曲率のみでは曲線の形は決まらない。曲線の振れ具合を表す量として「振率」が定まる。曲線の形は、曲率と振率を含んだフレネ・セレーの公式で記述され、この式を調べると、曲率と振率の二つで曲線の形が決まることが分る。 【キーワード】 振率、フレネ・セレーの公式	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
7	いろいろな曲面	曲線は1個のパラメーターで表されるが、曲面は2個のパラメーターで表すことができる。ここでは、球面を始めとする空間内のいろいろな曲面の例について考えてみよう。 【キーワード】 曲面のパラメーター表示、球面、2次曲面、トーラス	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
8	接平面と第1基本形式	空間内の曲面の各点に対して、その点で曲面に接する平面が定まる。この平面内のベクトルには自然に長さがあり、二つのベクトルには内積がある。各点でこの内積を考えたもの(第1基本形式)と曲面の形との関係を調べる。 【キーワード】 接ベクトル、接平面、第1基本形式、懸垂面、螺旋面	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
9	第2基本形式	曲面の形状は第1基本形式だけでは決まらない。曲面の各点において曲面に直交するベクトル(法ベクトル)の変化を調べるのが重要である。法ベクトルの変化と曲面の曲がり方の関係を記述するために第2基本形式を考える。 【キーワード】 法ベクトル、ガウス写像、第2基本形式	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)
10	曲面の種々の曲率	曲面の1点において、その点における法ベクトルを含む平面で曲面を切ると、曲線が現れる。この曲線の曲率は第2基本形式で表せる。この曲率から主曲率、ガウス曲率、平均曲率など種々の曲率が導かれる。 【キーワード】 主曲率、ガウス曲率、平均曲率、楕円点、双曲点、放物点	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)	松本 幸夫 (学習院大学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	ベクトル場	例えば、平面の上の水の流れを数学的に記述しようとする と、各点ごとに流れの向きと速さを考えなければならない。 これは、平面の各点にベクトルを対応させること相当する。 このようなベクトルの対応をベクトル場という。この回では、 関数やベクトル場についての種々の微分操作を考える。 【キーワード】 ベクトル場、勾配、発散、回転	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)
12	ベクトル場の線積分	前回学んだ種々の微分操作は互いに密接に関連してい る。例えば、勾配ベクトル場には「渦」がない。逆に、渦のな いベクトル場は勾配ベクトル場である、などの事実が示され る。この事実は「線積分」の考えを使って証明される。 【キーワード】 線積分、ガウスの発散定理、グリーンの定理	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)
13	空間のベクトル場	前回までは平面上のベクトル場について学んできた。 今回は3次元のユークリッド空間内のベクトル場について考 える。例えば、空間内の空気の流れは空間内のベクトル場 で記述される。平面のベクトル場についての微分操作はほ ぼそのまま空間のベクトル場に拡張される。後半でベクトル 場の面積分への準備として、曲面の面積について考える。 【キーワード】 空間のベクトル場の勾配、発散、回転、曲面の面積	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)
14	ベクトル場の面積分	ベクトル場に渦があるかないかは、「風」を背にうけたまま1 周できるかどうかで判断される。また、空気の湧き出しがあ るかどうかは、その点を囲む面を通過する風の総量で分か る。このような事実は、空間のベクトル場の積分に関する定 理として記述される。 【キーワード】 面積分、ストークスの定理、ガウスの定理	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)
15	「擬内積」とミンコフスキー空間	これまで考えてきた内積は、ゼロでないベクトルについて、 それ自身の内積が正で正であった。このような内積は「正 定値内積」と呼ばれている。ミンコフスキー空間は正定値で はない「擬内積」を伴った空間で、双曲幾何や相対性理論 の枠組みとなる。 【キーワード】 擬内積、ミンコフスキー空間、双曲幾何、相対性理論	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)	松本 幸夫 (学習院大 学・教授) 川崎 徹郎 (学習院大 学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562614	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 微分方程式への誘い （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 熊原 啓作（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）： 室 政和（岐阜大学教授）〕

【担当専任教員： 石崎 克也（放送大学教授）】

講義概要

自然現象や社会現象を数理的に表現し研究する大きな道具として、あるいは工学研究に必要な道具として微分方程式がある。微分方程式は微積分の誕生以来数学解析の中心的な役割のひとつをになってきた。この講義では微分積分学の続編として、常微分方程式の初歩を中心に分かり易く講義する。線形微分方程式が中心話題となる。

授業の目標

微分方程式の簡単な解法を解説するが、求積法で解が求まる方程式はごく限られたものであることも強調したい。それでもどのような場合に解が求まるか。解の性質が分かるのはどのようなときかなど理解することは重要である。2階までの微分方程式を通して微分方程式の基礎を理解することが目標となる。

履修上の留意点

微分積分学を勉強した上でこの講義を履修されることをおすすめする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	微分方程式とは何か (1)	微分方程式とは何か、解とは何かを不定積分から始めて、マルサスの人口論、ニュートンの運動方程式、追跡線、曲線群などの例をもとに解説する。簡単な微分方程式の立て方とその解き方を見るときにこの講義の概観を与える。 【キーワード】 微分方程式、解、積分定数、一般解、特殊解、階数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
2	微分方程式とは何か (2)	1階の微分方程式の解の意味を方向場と関連させ幾何学的に説明する。また初期値と解の関係を考え、コーシー・リプシッツの条件を満たせば、解の存在が保証されると共に、解が初期値で決まることを見る。 【キーワード】 方向場、解曲線、初期値、リプシッツ条件、ピカールの逐次近似法、解の存在、一意性	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
3	1階の微分方程式を解く(1)	解が存在してもその解を既知の関数を用いて表すことが出来るとは限らない。特別な形の方程式はそれが可能であることを見る。まず1階の微分方程式で変数分離形、同次形、1階線形微分方程式の解を求める。 【キーワード】 求積法、変数分離形、特異解、同次形、1階線形微分方程式、ベルヌーイの微分方程式、リッカチの微分方程式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	1階の微分方程式を 解く(2)	全微分方程式の解について考える。その方程式が完全微分の時解を持つことを見、そうではないときは積分因子とをかけることによって完全微分に帰着させることを説明する。さらに解曲線群と包絡線についても言及する。 【キーワード】 偏微分と全微分, 全微分方程式, 完全微分形, 積分因子, 包絡線, 特異解	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
5	例で学ぶ(1)	マルサスの人口方程式とフェルフルストの人口方程式, 放射性同位元素の崩壊の方程式と年代測定法など1階の微分方程式で表される事象をいくつか取り上げ, その解を調べる。 【キーワード】 マルサスの方程式, ヴェルファルストの方程式, ラザフォードの方程式, 半減期, 炭素年代測定法	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
6	定数係数線形微分 方程式(1)	定数係数の2階線形微分方程式を扱う。斉次形の時の解空間の構造, 求積法, 特性方程式を用いた解法できるだけ具体的に解説する。 【キーワード】 複素変数の指数関数, 解空間, 基本解, ロンスキアン, 斉次方程式, 特性方程式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
7	定数係数線形微分 方程式(2)	非斉次2階線形方程式のについて定数変化法, 未定係数法を解説する。次に高次線形微分方程式の記号解法を説明する。 【キーワード】 非斉次方程式, 定数変化法, 未定係数法, 微分作用素, 記号解法	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
8	例で学ぶ(2)	今まで学んだことをばねの振動の解析に応用する。摩擦がないとき単振動, 線形摩擦と呼ばれる摩擦があるときは減衰振動になることを見る。外力として振動を考えると共鳴現象が起きることを見る。線形ではないふりこ運動についても触れる。 【キーワード】 振動, 振幅, 周期, 振動数, 減衰振動, 強制振動, 共鳴, タコマ橋の崩壊, ふりこ, 線形化ふりこ	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
9	変数係数線形微分 方程式	変数係数の線形微分方程式で階数低下法, 定数変化法について述べ, 変数変換によって定数係数に帰着できる場合を考える。また高階でも2階と同様の性質をもつことを見る。 【キーワード】 標準形, 階数低下法, オイラーの微分方程式, ロンスキアン	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
10	連立線形微分方程式(1)	単独の高階の線形微分方程式は連立1階線形微分方程式の特別な場合であることを見る。連立微分方程式の初期値問題は素解(解核行列)を用いて解けることを見る。次に定数係数の場合は解核行列が係数行列の指数関数で表されることを見る。 【キーワード】 連立微分方程式, 素解, 解核行列, 行列の指数関数, 行列の標準形	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	連立線形微分方程式(2)	前章に続いて2階の定数係数連立線形方程式を係数行列の標準形を用いて解を求める。さらに係数行列の固有値と解軌道の関係を見る。 【キーワード】 固有値, 固有ベクトル, 行列の標準形, 相空間, 解軌道, 平衡点, 安定平衡点と不安定平衡点	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
12	解の挙動	連立1階非線形方程式の平衡点の近くでの線形化安定性解析について解説する。次に線形であるばね質点系の相平面解析, 非線形ふりこ, ロトカ・ヴォルテラ方程式の解曲線を考察する。 【キーワード】 平衡点, 線形化安定性解析, ロトカ・ヴォルテラ方程式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
13	級数による解法	解析関数を係数にもつ微分方程式は解析関数解をもつ。整級数展開して, 未定係数法により解を求める方法を説明し, 具体的なルジャンドル, エルミート, チェビシェフの微分方程式の解を求める。さらにベッセルの微分方程式, ガウスの微分方程式も紹介する。 【キーワード】 整級数解, ルジャンドルの, エルミートの, チェビシェフの, ベッセルの, ガウスの微分方程式, 確定特異点型微分方程式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
14	偏微分方程式へ(1)	例によって偏微分方程式とは何か, どのようなとき偏微分方程式が現れるか, その解とは何か, どんな手法が使われるかを簡単に紹介する。2階の放物型である熱伝導方程式と, 双曲型である波動方程式を取り上げる。 【キーワード】 偏微分方程式, 1階の偏微分方程式, 放物型, 双曲型, 熱伝導方程式, 波動方程式, フーリエ級数	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)
15	偏微分方程式へ(2)	前回に続き偏微分方程式についての紹介を行う。2階楕円型であるラプラスの方程式と, その解である調和関数の性質を説明する。 【キーワード】 楕円型, ラプラスの方程式, 調和関数, デイリクレ問題, ポアソンの積分公式	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学名誉教授) 室 政和(岐阜大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562665	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 統計学 （'13）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：藤井良宜（宮崎大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：〕
 【本学担当専任教員：隈部正博（放送大学教授）】

講義概要

記述的な統計手法についてはすでに学習していることを前提として、統計解析の基本的な概念を深く理解したり、これから統計解析を実際に行ったりすることを目指す人々をターゲットとする。内容としては、母集団と標本の関係をベースにして、信頼区間による推定方法や統計的検定などの統計的推測の基本的な概念について詳しく解説するとともに、回帰分析や因子分析などの多変量解析の手法の基本的な考えについて、その手法の特徴に焦点を当てて説明をする。

授業の目標

確率の基本的な性質や様々な確率モデルの特徴を把握する。そして、ばらつきをもった現象に対して適切な確率モデルを選択し統計的推測を行うことや、複雑な現象に対して統計モデルを活用して表現し、その特徴を見出すことができるようになることを目標とする。

履修上の留意点

「身近な統計」の内容を学習しておくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	データのバラツキとモデル化	統計データに含まれるばらつきを把握するために必要な確率モデルや統計モデルについて概説する 【キーワード】 確率分布モデル, 統計モデル, 問題解決	藤井良宜 (宮崎大学教授)	藤井良宜 (宮崎大学教授)
2	確率の基本性質	確率の基本的な性質を説明し, 具体的な事象のばらつきを確率モデルを使って表現する 【キーワード】 確率モデル, 排反, 独立, 条件付き確率	同上	同上
3	確率分布の捉え方	データのばらつきを把握するために必要な確率分布の概念とその特徴のつかみ方について説明する。 【キーワード】 確率変数, 確率分布表, 累積分布関数, 平均, 分散, 確率変数の和の分布	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	2項分布モデルと割合の推定	2項分布モデルやそれを適用できる現象の特徴について解説し、このモデルのもとでの割合の信頼区間の構成方法について説明する。 【キーワード】 2値データ, 2項分布, 割合の推定, 信頼区間	藤井良宜 (宮崎大学教授)	藤井良宜 (宮崎大学教授)
5	多項分布モデルと統計的検定	多項分布モデルの特徴を解説し、クロス表解析を例に統計的な検定の基本的な考え方について説明する。 【キーワード】 クロス表, 統計的検定, 帰無仮説, 有意水準, p値	同上	同上
6	ポアソン分布モデル	計数データに対するモデルとしてのポアソン分布モデルについて、その特徴や解析方法について説明する。 【キーワード】 平均, 分散, 散布度の検定, 罹患率, 標準化死亡率比	同上	同上
7	正規分布モデル	連続的な測定データに対するモデルである正規分布モデルの特徴について説明する。 【キーワード】 尺度の変換, 独立な確率変数の和, 標準化, 偏差値	同上	同上
8	正規分布モデルでの統計的推定	正規分布モデルでの標本分布の特徴を把握し、それに基づいた統計的推定の方法について説明する。 【キーワード】 平均の推定, 分散の推定, 標準化, カイ2乗分布, t分布, 中心極限定理	同上	同上
9	正規分布モデルでの群間の比較	正規分布モデルでの統計的検定方法や一元配置分散分析法について説明する。 【キーワード】 2標本問題, t検定, 分散分析表, 群内変動, 群間変動, F分布, 多重比較	同上	同上
10	回帰分析	2つの変量の間関係をつかむために必要な相関関係や直線による回帰分析の方法について説明する。 【キーワード】 相関係数, 因果関係, 寄与率, 残差平方和, 回帰平方和, 全平方和, 回帰直線	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	重回帰分析	単回帰分析の拡張として重回帰分析を導入し、重回帰分析の特徴と、結果の解釈方法について説明する。 【キーワード】 偏相関係数, 3つの平方和, 寄与率, 多重線形性, 分散分析表	藤井良宜 (宮崎大学教 授)	藤井良宜 (宮崎大学教 授)
12	モデル選択	重回帰分析の場合に用いられる変数の選択問題について説明する。 【キーワード】 ステップワイズ法, 情報量規準, AIC, 最尤法, クロスバリ デーション	同上	同上
13	ロジスティック回帰分析	結果変数が2値の場合への重回帰分析の拡張としてロジスティック回帰分析について説明し、一般化線形モデルについても簡単に触れることにする。 【キーワード】 ロジット変換, オッズ比, モデルの適合度	同上	同上
14	主成分分析と因子分析	多くの変数の間の関係を把握するための手法として因子分析について説明し、その拡張でもある共分散構造分析についても簡単に触れることにする。 【キーワード】 主成分, 因子, 固有値, 共分散行列, 相関行列, 因子数の選択	同上	同上
15	複雑なデータと統計モデル	これまで説明してきた手法を利用して解析できる具体的なデータを紹介し、統計解析の流れや確率モデルや統計モデルの選択について考え、全体のまとめとする。 【キーワード】 問題解決, 統計的な見方	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	専門科目	科目 コード	1562673	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 数学の歴史 (' 1 3) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 〕
 【本学担当専任教員 : 隈部正博 (放送大学・教授) 】

講義概要

数学の歴史を、西欧のみならずアラビア世界や日本など非西欧世界をも視野において講義する。その際、数学の中身にはもちろん触れるが、発想の源泉や理論の受容の社会的・文化的背景をも常に視座に置いて講じていく。とりわけ数学の文化・社会依存性の具体的有様を提示する。

授業の目標

文化における数学の歴史的具體相をみることによって、数学が孤立した学問ではなく、さまざまな要因のもとで展開していったこと、また多くの学問領域に影響を与えたことを学ぶ。さらに高校時代までに学んできた数学の成立の背景を知り、数学が本来持つ多様性を再発見するとともに、今日私たちが抱く数学や科学のイメージを根本的に再検討する契機を与える。

履修上の留意点

従来の数学史ではあまり取り上げることのなかった題材、つまりアラビアや西洋中世の数学、教育との関係、女性と数学などにも言及するので、単に数学のみならず、広く文化史に関心のある学生にも参考となるであろう。取り上げる数学は17世紀頃までであるので、微積分学初歩の知識があれば十分である。講義内容はさまざまな学問領域にかかわるので、むしろ数学を超えて広く学問一般に関心のある学生の受講を期待する。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	古代エジプトの数学	古代エジプトの計算法を、文字に注目しながら具体的に紹介する。また誰がどのような目的で計算を行ったか、という文化的社会的背景にも注目する。 【キーワード】 ヒエログリフ、単位分数、リンド・パピルス、円周率	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)
2	古代ギリシャの数学	前半は古代ギリシャの数学の発生と展開を概観し、古代ギリシャ数学の特徴を明らかにする。後半はアルキメデスの数学の発見の方法について検討する。さらに古代数学の行き着く先にも言及する。 【キーワード】 マテマティカ、アルキメデス、円錐曲線	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)
3	エウクレイデス『原論』と論証数学	論証数学のモデルであるエウクレイデス『原論』の内容と構造を、比例論などを取りあげながら具体的に紹介し、ギリシャにおける論証数学の成立について考える。 【キーワード】 エウクレイデス、『原論』、論証数学、比例論	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫 (神戸大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	アラビア数学の成立と展開	アラビア数学の成立とその展開を、文化的背景を視野に置きながら述べていく。またアラビア数字やゼロの意味とそれを用いた計算法を紹介する。 【キーワード】 アルゴリズム, 小数, アラビア数字, 遺産分割計算	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
5	アラビアの代数学	アラビア数学の中でもっとも発達した代数学を、ギリシャ数学との関係で理解する。そしてその成立から高度に展開するまでを概観する。また2次方程式, 3次方程式の具体的解法にも言及する。 【キーワード】 ジャブルの学, フワーリズミー, 不定方程式, オマル・ハイヤーム	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
6	中世西洋の数学	12世紀にアラビアから西洋中世に数学が伝達されていく様子を紹介し、その数学が今度はいかに中世大学で展開していくかを、運動論と無限論を中心に論じていく。 【キーワード】 12世紀ルネサンス, 中世大学, 無限論	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
7	中世算法学派	中世西洋で数学の展開に寄与したのは商人たちであるが、彼らの数学史上の意義について考察する。また紙の普及により、数学に用いられる記号が変遷していく様子を見る。 【キーワード】 フィボナッチ, 紙の普及, 省略記号, コス式規則, アバクス	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
8	イタリアの3次方程式	数学史上有名なイタリアのカルダーノとタルターリャにおける3次方程式解法を紹介し、さらに発見を巡る優先権問題について考える。また方程式解法の中から新しい数概念が成立していったことを見る。 【キーワード】 3次方程式, 優先権問題, ボンベッリ, カルダーノの公式, 数学試合	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
9	ルネサンス数学	ルネサンス期イタリアにおける古代ギリシャ数学の復興を概説し、当時の人文主義者たちと数学との関係を考える。さらに数学の実用性と新たな応用の具体的有様を、計算術師や画家たちの活動を通じて見ていく。 【キーワード】 数学讃歌, デューラー, 計算術師, 数秘術	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
10	デカルトの時代の数学	17世紀科学革命期における数学の役割を概観し、なかでもデカルトとヴィエトの記号数学の成立と展開を見ていく。さらにデカルト『幾何学』のオランダにおける影響と、接線法や求長法への適用を理解し、微積分学成立前夜の様子を見る。 【キーワード】 科学革命, 記号法, 方程式論, 求長法, 接線	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
11	対数の発見	ネイピアとビュルギによる対数の発見と展開を、両者の置かれた社会的位置をも視野に置きながら比較検討する。さらに対数が単なる計算法から解析学に発展していく様子を見る。 【キーワード】 三角法, 対数表, ネイピア, ビュルギ	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
12	ニュートン	ニュートンの若き時代の数学的アイデアの源泉と、その展開を検討する。さらにニュートンの数学観にも触れ、主著『プリンキピア』の数学史上の位置付けを確認し、英国におけるニュートン数学の受容を考える。 【キーワード】 流率法, 『プリンキピア』, 大学教授ニュートン	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
13	ライプニッツ	ライプニッツの微積分学の誕生と特徴を見ていき、それがニュートンの微積分学とどこが異なるのかを明らかにする。その際、両者の間の微積分学優先権論争にも言及する。さらに当時の微積分学の批判者たちの意見も視野に入れながら、微積分学が徐々に認知されていく様子を見ていく。 【キーワード】 無限小解析, 優先権論争	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
14	18世紀英国における数学の大衆化	18世紀英国では、アマチュアの数学愛好家がたくさん排出した。彼らの数学の特徴と役割を、数学器具や数学教育について言及しながら明らかにする。また、18世紀は少なからずの女性が数学に関心を持っていたが、その要因を具体的に見ていく。 【キーワード】 数学愛好家, 数学器具, 数学と女性, 数学と教育	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)
15	和算	日本の伝統数学である和算は西洋数学とどのように異なるのかを比較検討し、西洋数学理解の一助とする。まず初期の和算である『塵劫記』の内容を紹介し、次いで盛期の和算の特徴を取りあげる。数学内容というよりは、むしろ文化や社会の中で和算がどのように展開していったかに重点を置く。 【キーワード】 算額、洋算、西洋と日本、算博士	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)	三浦伸夫(神戸大学大学院・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847457	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 安全・安心と地域マネジメント（'14）＝（TV）

英文名＝ [Safety, Security, and Regional Management（'14）]

〔主任講師（現職名）：堀井秀之（東京大学大学院・教授）〕

〔主任講師（現職名）：奈良由美子（放送大学・教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

地域社会の安全・安心の実現は重要な今日的課題のひとつである。この科目では、安全・安心を阻害する要因として自然災害に焦点をすえ、地域においてこれに対応することの意義、具体的手法、具体的事例、課題を扱う。
講義は大きく2部から構成される。前半では東日本大震災の実態、解釈、そして教訓を検討する。それらを受けて後半では、わが国の地域防災の向上のために今後何をすべきかについて、具体的事例も交えながらその課題と可能性を考える。安全・安心と信頼の意味を再考し、地域において災害対応のマネジメントシステムを構築することが、本科目の全体テーマである。

授業の目標

本科目の修学上の目標は、地域の安全・安心の実現の要件は何かを理解したうえで、実際の具体的事例を見ながら、災害対応のための地域マネジメントシステム構築の手法について知識を得、その意義と課題について検討する力をつけることである。できれば学習者には、本科目の内容を、住民、自治体職員、企業の一員といった立場で関わっている自分の地域にあてはめて考察することを試みていただきたい。

履修上の留意点

関連する科目として、「社会技術概論（'12）」、「地球のダイナミクス（'10）」、「生活リスクマネジメント（'11）」（大学院科目）の履修により、本科目の内容についての理解と考察が一層進むと思われる。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	地域の安全・安心と社会技術	地域社会の安全・安心の実現は重要な今日的課題の一つである。この科目では、安全・安心を阻害する要因として自然災害に焦点を据え、地域においてこれに対応することの意義、具体的手法、具体的事例、課題を扱う。 講義は大きく2部から構成される。前半では東日本大震災の実態、解釈、そして教訓を検討する。それらを受けて後半では、わが国の地域防災の向上のために今後何をすべきかについて、具体的事例も交えながらその課題と可能性を考える。安全・安心と信頼の意味を再考し、地域において自然災害対応のマネジメントシステムを構築することが、本科目の全体テーマである。社会技術という概念を基盤として安全・安心のための地域マネジメントを論じる。 【キーワード】 安全・安心、自然災害、東日本大震災、地域防災、信頼、マネジメントシステム、社会技術	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)
2	東日本大震災にみるわが国の防災の課題	東日本大震災では、なぜ”津波常襲地域”と呼ばれた三陸沿岸地域で1万8,000人を超える死者・行方不明者がでたのか。津波警報が発表されても避難しないことが常態化していた沿岸地域の実態と、その背景にある避難できない住民の心理、およびわが国の行政と住民の関係にみる防災の課題を解説するとともに、子どもへの教育を通じて地域に災害に備える文化を醸成しようと試みた釜石市津波防災教育の取り組み背景を紹介する。 【キーワード】 住民避難、津波警報、オオカミ少年効果、正常化の偏見、認知的不協和、災害対策基本法、災害過保護、防災教育、災害文化	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	災害に備える主体的 姿勢を育む防災教育	東日本大震災において、岩手県釜石市の児童・生徒は、市街地を壊滅させるような大津波から、自らの主体的な避難行動をもって命を守り抜いた。ここでは、そのとき釜石市の子どもたちがとった行動とその背景にあった「避難三原則」に基づく当市での津波防災教育を紹介し、自然と正しく向かい合い、災いから命を守る主体的姿勢を育む防災教育について紹介する。また、子どもを中心に学校、家庭、地域に対して津波防災教育の波及を試みた取り組み事例を紹介する。 【キーワード】 避難三原則、津波ハザードマップ、脅し・知識・姿勢の防災教育、学校・家庭・地域での防災教育、津波てんでんこ、津波防災教育の手引き	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)
4	これからの津波防災 のあり方ー自然と共存 する地域社会の構築ー	東日本大震災を契機に、各地で大地震・大津波に関する新たな想定が発表されている。こうした想定に対し我々はどう理解し、備えればよいのか。大規模地震・津波の想定に対する国民理解の実態をみながら、そのあり方を考える。また、過去の津波被災地における復興過程、および各地にある防災に関わる伝統祭祀を紹介しながら、大津波の教訓を災害文化として次世代へ継承し、自然と共存しながら生きるこれからの地域社会のあり方について考える。 【キーワード】 災害想定、段階的避難所計画、災害復興、忘却と風化、災害文化の継承、伝統祭祀(ナーバイ)、自然との共存	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)
5	原子力発電所事故の 要因(1)	地域社会の安全・安心を実現することを考えるうえで、自然災害に対処するのと原子力事故等の人為的な危機に対処するのでは、大きな違いが存在するはずである。東日本大震災では、その両者が起こってしまった。地域社会の安全・安心を実現するために何が重要であるのか、何を行わなければならないのかを明らかにするために、東日本大震災で起こったことを直視し、その本質を理解することによって、学ぶべき教訓を導き出さなくてはならない。 ここでは、福島第一原子力発電所事故に焦点を当て、人為的危機に地域社会として対処するための原点を明らかにすることを試みる。そのためには、なぜあのような事故が起こってしまったのかを理解し、そこから地域社会の安全・安心を実現するための社会技術の要件を考える。 【キーワード】 福島第一原子力発電所事故、津波対策、シビアアクシデント対策、政府事故調中間報告、要因抽出	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)
6	原子力発電所事故の 要因(2)	前章ではなぜ、福島第一原子力発電所の津波対策、シビアアクシデント対策が不十分であったのかを分析した。抽出された、対策が不十分にとどまった要因に対して因果分析を行い、冷温停止の失敗に至る因果関係図を描く。その結果に基づき、専門分化・分業の弊害、絶対安全を求める心理という二つの本質的な要因が抽出される。後者に焦点を当て、不安喚起モデルを用いて不安が解消される過程に基づき、対策が不十分にとどまった経緯との関係、信頼の役割、地域マネジメントの意義と役割を論ずる。 【キーワード】 因果分析、低温停止の失敗、専門分化・分業の弊害、絶対安全を求める心理、不安喚起モデル、信頼の役割、地域マネジメントの意義と役割	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)	堀井秀之 (東京大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	自主解決の支援	第2章から第6章では、東日本大震災における津波防災教育に関わる事例と、原子力発電所事故の要因分析を取り上げた。自然災害である津波を引き起こすのは自然であり、人間がコントロールすることはできない。一方、原子力発電所は人間が造り出したものであり、事故自身を引き起こしたのが津波であったとしても、放射性物質の放出の源を造り出したのは人間である。一見、両者は無関係に思われるが、その背後には本質的な要点が存在している。本章では両者に共通する事柄を抽出し、地域社会の安全安心を確立するために重要な論点を導き出す。 【キーワード】 住民の心理、不安喚起モデル、自主解決、他社依存、思考停止、存在しない絶対安全、制御可能性、社会技術としての防災教育	堀井秀之 (東京大学大学院・教授) 片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)	堀井秀之 (東京大学大学院・教授) 片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)
8	リスクコミュニケーションと地域防災－安全・安心科学技術プロジェクト(1)－	地域の安全・安心の実現には地域のステークホルダーの連携が不可欠となる。その際、具体的なリスク低減のための管理過程としてのリスクマネジメントに加えて、リスク情報を共有し意思疎通を図るための過程であるリスクコミュニケーションが重要な役割を果たすことになる。本章(回)では、リスクコミュニケーションを通じてステークホルダーが連携して取り組んだ地域防災の事例を紹介する。この時、特に情報の受信者・発信者という立場で住民をとらえ、円滑な情報の受発信を促進する技術とシステム、リスクコミュニケーションのあり方を検討する。 【キーワード】 ステークホルダー、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全・安心科学技術プロジェクト、住民・行政協働ユビキタス減災情報システム、地域防災SNS	奈良由美子 (放送大学・教授)	奈良由美子 (放送大学・教授) スタジオゲスト:鈴木猛康 (山梨大学)
9	水害リスク軽減方策のコーディネーション－安全・安心科学技術プロジェクト(2)－	ハード対策のみならずソフト対策をも組み合わせた総合的水害リスク軽減の取り組みを進めるためには、関係主体を巻き込んだ計画立案が必要である。この回では、このような総合的水害リスク軽減に関する、滋賀県や熊本大学・熊本市を中心としたグループの取り組みを取り上げ、マネジメントプロセスやコミュニケーションシステムの設計を中心に解説する。そのうえで、今後の発展の方向性や課題などについて議論していきたい。 【キーワード】 リスクガバナンスプロセス、住民参加、コミュニケーション、場づくり	多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授)	多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授) スタジオゲスト:山田文彦 (熊本大学)
10	平常時・非常時の連動と地域防災－安全・安心科学技術プロジェクト(3)－	非常時限定の防災はコストが大きすぎて形骸化しやすい。また、災害発生後は、住民の安否確認や被害状況の把握など情報管理のありようが損害最小化や迅速復旧の成否を分ける。発災後の情報管理を機能させるには平常時からの地域での情報システムの構築が欠かせない。この章では、平常時と非常時とを連動させた情報システムを構築することの意義と手法を、北海道遠軽町の取り組みを中心に具体的事例を示しながら解説する。 【キーワード】 情報システム、平常時から非常時へのシームレスな移行、資源兼用、コスト、安否確認、自治体、住民	奈良由美子 (放送大学・教授)	奈良由美子 (放送大学・教授) スタジオゲスト:角本繁(東京工業大学)、畑山満則(京都大学防災研究所)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
11	わが国の防災課題と今後のあり方―人が死なない防災を目指して―	災害対策基本法に基づき行政主体で進められてきたわが国の防災は、阪神・淡路大震災や東日本大震災を除けば、災害犠牲者をここ最近の100人程度に激減させることに成功した一方、国民の災害に備える主体性の欠落をもたらした。ここでは、わが国の防災に対する国民意識にみる課題を整理するとともに、災害大国であるわが国において、国民一人ひとりが持つべき姿勢のあり方について考える。これをふまえ、災害に備える主体的姿勢を持つ国民を少しでも増やしていくための住民との防災教育、コミュニケーションのあり方について、事例を提示しながら考える。 【キーワード】 災害対策基本法、災害過保護、受け身の自助と内発的な自助、コミュニケーション、内部観察	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)	片田敏孝 (群馬大学理工学研究院・教授)
12	大規模災害と防災計画―総合防災学の挑戦―	「想定」を超える災害の発生可能性は常にあることに正面から向き合い、どのようにそのような事態に対処すべきなのか。本章では、まず、東日本大震災を現時点で振り返り、災害による影響の連鎖が被害を拡大していった過程を考察する。次いで、我が国における構造物の計画や設計の考え方を整理し、「想定」の果たす役割に関して考察する。さらに、想定を超えた場合の施設機能の付与に関する考え方を考察し、今後の防災施設整備の在り方に関して言及する。その上で、今回の災害がもたらした課題として、システムないしは地域総体としての災害に対する備えを構築すること、すなわち、総合的な災害リスク管理に関する方法論の構築が求められているという認識の下、この種のプロジェクトの評価を実施するための整合的被害評価の方法論を示して議論を締めくくる。 【キーワード】 超過外力、総合防災、整合的被害評価	多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授)	多々納裕一 (京都大学防災研究所・教授)
13	災害と生活	地域マネジメントの最小単位の構成要素は生活者である。地域全体の防災力の向上という観点から、個々の生活者は防災の行為者であり、その能力と実践の向上は重要といえる。本章では、災害に対する生活リスクマネジメントについて考えていく。この時、被災の時間経過の中で生活が変化することを前提として、自助と共助の可能性と課題をとらえ直す。また、生活者の自らの防災に対する信頼、さらには地域に対する信頼の意義についても押さえたい。 【キーワード】 生活者、生活リスクマネジメント、被災と時間、自助と共助、地域への信頼	奈良由美子 (放送大学・教授)	奈良由美子 (放送大学・教授)
14	現場で役立つ防災技術―プロセスの技術の重要性―	防災の現場で実際に役立つためには、技術はどのような要件を充足しなくてはならないのであろうか。本章では、現場で役立つ防災技術―プロセスの技術について、その概念や実践について検討したい。亀田弘行京都大学名誉教授は地震工学の権威であり、防災技術の研究・開発に永く関わってきた。文部科学省の安全・安心科学技術プロジェクトの立ち上げについてもリーダーとして関わり、その推進委員会の委員として現場で役立つ防災の技術、知恵、現場への適用戦略、プロセスの技術の重要性を常に指摘してこられた。ここでは、亀田名誉教授へのインタビューに基づき、プロセスの技術の重要性に関する亀田名誉教授の持論を紹介するとともに、防災技術の実装の課題について考える。 【キーワード】 現場で役立つ防災技術、プロセスの技術、現場への適用戦略、阪神・淡路大震災、アジア防災科学技術情報基盤(DRH)、災害情報システム、リスク対応型地域管理情報システム(RARMIS)、時空間GIS、安全・安心科学技術プロジェクト	堀井秀之(東京大学大学院・教授)	堀井秀之(東京大学大学院・教授) スタジオゲスト: 亀田弘行(京都大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	地域社会の安全・安心を実現するための社会技術	前章までの内容をふまえて、設計基準外力を超える自然外力に対して人命を守る、避難等のソフト対策が有効に機能するようにするために必要な社会技術の要件を検討する。組織体制としては、行政と住民に支援組織を加えた3者モデルが必要である。支援組織が行う活動には、防災教育の支援、避難訓練等の支援、防災情報システムの研究開発があるが、それらの活動を進める際には、住民、行政の支援組織に対する信頼を醸成し、リスク認知やソフト対策への理解を深め、住民の行動変容を実現するように配慮しなければならない。防災教育や防災情報システムを個別に取り扱うのではなく、それらの要素を統合したシステム技術、すなわち社会技術としてとらえることが重要である。 【キーワード】 社会技術、3者モデル、支援組織、信頼、防災教育、避難訓練、防災情報システムの研究開発、住民の行動変容、システム技術	堀井秀之(東京大学大学院・教授)	堀井秀之(東京大学大学院・教授) 奈良由美子(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847481	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 死生学入門 （'14）＝（R）

英文名＝ [Introductory Lectures on Life and Death ('14)]

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

超高齢社会を迎え、人生の終わりを見つめこれに向かって歩んでいく時間は著しく長くなった。巨大な災害が一瞬にして数多くの人命を奪うありさまに直面したこともあって、「死」と隣り合わせの「生」についての人々の関心はこれまでに高く高まっている。本科目では、不可避の宿命である「死」を人間がどのように受け止め、それをどのように「生」のあり方に反映しているかに注目し、さまざまな角度からこのテーマについて考える。執筆者一同の専門とする医療・看護領域を中心としつつ、幅広い文化領域を展望することを目ざしている。

授業の目標

「死」と「生」の意味づけはきわめて個人的なものである一方、社会的な背景や伝統の影響を強く受けている。本科目の履修を通じて受講者が「死」と「生」のそのような二面性を明確に意識し、社会の広がりや自己の内面とをバランス良く見渡しつつ、それぞれの死生観を育んでいくことを期待する。そうした作業に役立つ基礎知識と素材を提示し、考える機会を提供することが本科目の目標である。知識を習得すること以上に、考える姿勢を養うことを重視したい。

履修上の留意点

受講に先立つ予備知識は特に必要ないが、おのおのの関心に応じて広く関連事項を学んでいただきたい。自分自身の考えを明確にしていく主体性と共に、異なる立場や考え方に対して耳を傾ける謙虚な姿勢が、このテーマでは特に重要である。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	死生学とは何か	死生学は、複雑化した死生の問題に対応すべく生まれた新しい学問である。近代社会の進展は、人の死を隅々まで把握し公にすることを可能にした。また、医療者等の専門家は、死を自らの範疇に囲い込み、人々の日常生活から遠ざけた。加えて、都市化により伝統社会の解体が進み、病や死に応ずる集合的慣習が失われた。死生の問題は、当人や近親者等の私的な範囲か医療者等の専門家に頼ることによって対処されることになった。さらに、死を囲い込んだ医療者は、近代医療の進展がもたらした新たな命の問題に直面することになった。これら死生をめぐる社会的状況が、死生学の登場と発展を促した。本章では、死生学の展開、定義、射程についても概観する。 【キーワード】 近代化の進展、公的な死と私的な死、死生観、終末期医療、死別悲嘆、デス・エデュケーション	山崎 浩司(信州大学准教授)	山崎 浩司(信州大学准教授)
2	死生観と宗教	死生観に関する人々の問いに答えを与えることは、宗教の重要な役割である。宗教の発信するメッセージが人々の死生観を支えるいっぽう、宗教の側でも他界を求める人々の心の求めに応じて教義を発展させてきた。今日の世界では、地域や文化によって宗教に対する人々の態度には大きな開きがあるが、宗教の影響は依然として死生観を考えるうえで重要な要因である。また、生命倫理に関する諸問題が浮上するにつれ、あらためて宗教の意義が問われている。本章では死生観と宗教のこのようなかわりについて考察する。 【キーワード】 宗教、他界、キリスト教、仏教、神道、生命倫理	石丸 昌彦(放送大学教授)	石丸 昌彦(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	日本人の死生観	本章では日本人の死生観を歴史的に展望する。突発的に災害をもたらす自然条件や、仏教・神道と先祖の祭り、儒教と武士道などの文化的背景は、日本人の死生観に強い影響を与えてきた。明治維新以降の日本人は、開国に伴う大量かつ急速な情報の流入によってアイデンティティの動揺を来し、その中で死生観も大きく揺さぶられた。戦時体制下には偏った死生観が個人に押しつけられ、戦後はその反動として死生観に対する関心の低い時期が長く続いたが、近年ようやく冷静な目で生と死を見つめ考える機運が醸成されつつある。 【キーワード】 自然災害、固有信仰、武士道、文学、死生観の復権	石丸 昌彦(放送大学教授)	石丸 昌彦(放送大学教授)
4	喪と追悼: 逝きし人(死者)と生者のつながり	死生観は自分自身の死に対する思索を深めるだけではなく、生きていく間に他者の死、死んだ人間と生きている自分がどのような関係を構築していくか、という課題も問いかけてくる。本章では、伝統的な喪、追悼、喪葬などの儀式を概観しながら、生者がどのように逝きし人(死者)との新たなつながりを作ろうとしているかを考えたい。 【キーワード】 葬儀・葬送、喪、看取り、死者と生者、回想	中山 健夫(京都大学教授)	中山 健夫(京都大学教授)
5	死生観: 国と地域の視点から	死生観は「他人の死のありさま」に大きな影響を受ける。本章では国と地域の視点から、死亡を扱う統計で明らかにされる死の原因・理由、死の場所など死の態様、その延長として近年深刻化している孤立死の問題を考える。さらに「多くの人の死」が生じる災害という非日常でありながら、避けて通ることのできない問題を通して、苛烈な体験から死生観を問うことの困難さに触れたい。 【キーワード】 寿命、死因、在宅、孤立死、ソーシャルキャピタル(社会関連資本)、災害、PTSD	中山 健夫(京都大学教授)	中山 健夫(京都大学教授)
6	マスメディアで死生について考える	死生の問題は、老いた時、病いや障害に直面した時にだけ考えさせられるものではない。人は何気ない日常生活の中でも死生について考えさせられる。特にマスメディアには死生に関する情報が溢れており、読者や視聴者は実体験せずとも、それらを死生観や人生観を問いなおすべく活用できる。しかし、そもそも死生を題材にしたマスメディアの特徴は、どんなふうにつ(と)えられてきたのだろうか。そして、どのようにマスメディアを活用すれば、死生に関する考察を深められるのだろうか。本章では、あるマンガを題材に死生の考察の具体例を示し、最後にその手順と留意点を確認する。 【キーワード】 マスメディア、死のポルノグラフィー、死のガイドライン、マンガ、メディア・リテラシー	山崎 浩司(信州大学准教授)	山崎 浩司(信州大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
7	「生と死」を生きる本人からの発信	1991年に誕生した根拠に基づく医療(evidence-based medicine: EBM)は世界の医療の大きな潮流となった。それに続き、一般論としてのエビデンスへの対照から、患者個人の内面的体験を重視するナラティブ・物語に基づく医療(narrative based medicine: NBM)が1999年に提唱され、多くの関心を集めている。今回は病気とともに生きる人々の手による「闘病記」の分析、がん患者の語りをデータベース化しインターネット上で公開する取り組みや、医療者教育への可能性などを通して、「生と死」を生きる本人からの発信という視点から死生学を考える。 【キーワード】 患者の語り・体験、ナラティブ、闘病記、インターネット、医療者教育	中山 健夫(京都大学教授)	中山 健夫(京都大学教授)
8	老いと死	老いとともに人は肉体的な衰えを自覚し、死に対する覚悟と準備を求められる。いっぽうで老いはエリクソンが指摘したとおり、発達最終段階としての成熟と完成に至るプロセスであり、英知という肯定的な意味を獲得しうる段階でもある。こうした老年期を生きる人々が、目の前に迫る死とどのように向き合い、何を想い、いかなる最期を迎えているのか。超高齢社会を迎えた日本社会における老いの現状をふまえつつ、老いという生の成熟と、死という生の完成について考えてみたい。 【キーワード】 超高齢社会、老い、成熟、サクセスフルエイジング、健康な死	井出 訓(放送大学教授)	井出 訓(放送大学教授)
9	病い経験と「生」	病いがある人は、そうでない人々に比べて、「死」を意識したり様々な困難に直面したりすることが多いだろう。その病い経験は、その人の「生」に混乱を生じさせ、場合によっては将来展望や生きがい感を喪失させ、精神健康を悪化させるなど、ネガティブな影響を健康面にもたらす。しかしながら一方で、人生の再構築を図り、あるいはストレスをあたかも糧にするかのごとくに、家族や友人との関係の強化、自分自身の成長など、ポジティブな影響をもたらす場合も多いとされる。本章では、病い経験の中で、「病い」が「生」に対してもたらす影響について、ネガティブな面とともにポジティブな面について考えていく。 【キーワード】 病い経験、慢性疾患、人生の再構築、ストレス関連成長	井上 洋士(放送大学教授)	井上 洋士(放送大学教授)
10	遺族の喪失体験とグリーフワーク	家族や友人など近い関係の人と死別し喪失した後の経験については、悲嘆やグリーフワークとしてしばしば論じられる。ここではまず、グリーフワークの基本的な考え方や歴史的動向について紹介する。また、犯罪被害などviolent deathによる死別と疾患などnatural deathによる死別との違いをはじめ、どのような死別であったのかによって遺族の悲嘆やグリーフワークの様相が大きく異なることを紹介する。特に、段階的に進むとしばしば指摘されていたグリーフワークだが、そう考えるのは必ずしも適切ではないと近年では指摘されていることも紹介する。さらに、遺族への接近や支援の仕方の一端についても学ぶ。 【キーワード】 死別、悲嘆、グリーフワーク、グリーフケア	井上 洋士(放送大学教授)	井上 洋士(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	自己決定権	現代社会においてはさまざまな領域で、自己に関連する決定はあくまでも本人自身に委ねられるという自己決定権が強く叫ばれている。本章では医療における自己決定権に焦点を当てる。歴史を振り返ってみて、自己決定権をまったく無視したヒトを対象とする科学研究がどのように行われてきたのだろうか。そして、その反省をもとに成立した現代医療における自己決定権について考えていく。 【キーワード】 自己決定権、ヒポクラテスの誓い、人体実験、ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント	高橋 祥友(筑波大学教授)	高橋 祥友(筑波大学教授)
12	ターミナルケア	医療技術が画期的に進歩した現代社会においても、人はいつかかならず死を迎える。人生の終末期において、単に延命を図るのではなく、身体的苦痛や心理的苦痛を和らげ、生活の質を保ちつつ、穏やかに死を迎えられるようにするには、どのような点について考えていかなければならないのだろうか。誰にもいつか迫り来る死とその際にどのような治療を望むかについて考えていく。 【キーワード】 ターミナルケア、緩和ケア、終末期医療、ホスピス、QOL	高橋 祥友(筑波大学教授)	高橋 祥友(筑波大学教授)
13	自殺予防	わが国では1998年以来、年間自殺者数約3万人という緊急事態が続いている。このような現状を直視して、2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体で取り組むべき課題であると宣言された。本章では自殺予防のために、その現状、予防の基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応をとることで、自殺予防の余地は十分に残されている。 【キーワード】 自殺、自殺未遂、危険因子、事故傾性、自殺対策基本法	高橋 祥友(筑波大学教授)	高橋 祥友(筑波大学教授)
14	尊厳死	最近では、安楽死という言葉を用いずに、尊厳死がしばしば使われているが、尊厳のある死を迎えるというのはどのような意味があるのだろうか。世界に見られる尊厳死の合法化の動きを追いながら、消極的尊厳死、積極的尊厳死、医師の幫助による尊厳死などさまざまな概念を解説する。 【キーワード】 消極的尊厳死、積極的尊厳死、医師の幫助による尊厳死	高橋 祥友(筑波大学教授)	高橋 祥友(筑波大学教授)
15	死生学の理論と展望	本コースのまとめとして、死生学の基本的な共通言語たるべき理論をいくつか概観しつつ論じる。取り上げるのは、死のタブー化論、公認されない悲嘆論、環状島理論、共感都市理論であり、いずれも死生学原産とはいえないが、この学際的な学問の基盤を固め、今後の発展を促すと考えられる理論である。最後に死生学の展望についても若干考察し、核・原子力の問題に取り組んでいくことが、特に日本の死生学にとってひとつの重要な役割であることを示唆したい。 【キーワード】 死のタブー化、公認されない悲嘆、環状島、共感都市、核・原子力	山崎 浩司(信州大学准教授)	山崎 浩司(信州大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847422	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会福祉と権利擁護 （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大曾根寛（放送大学教授）〕

〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本教材は、社会福祉の領域と法の世界の接点において、どのようなことが問題となるのか、いかなる解決策が考えられるのか、を探っていくことを課題としている。その意味で、この科目は、社会福祉に関する基本的な学習終え、また法学に関する基礎知識を有する学生のための「総合科目」である。社会福祉が大きな改革の時代を迎えている今日、社会福祉がかかわる領域において、人権や権利の概念を想起すべきことが多くなっている。そこで、この教材は、基本的人権を踏まえながら、社会福祉の権利を再構成しようとしている。

授業の目標

本教材は、社会福祉と法がどのようにかわるのかを考えるために、具体的な活動や事例を取り上げながら、制度・事業を活用する当事者、家族、あるいは専門職や市民の立場を多面的に取り上げ教材に反映させるという手法を用いている。このような授業により、現代的な権利侵害に対する解決方法を考えたり、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする目的をもっている。

履修上の留意点

社会福祉の権利構造に関する記述が多いので、福祉に関する科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。また、生活者として、市民としての権利と国家・自治体の責任に関係することも多いので、法律関係の科目も受講していることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	基本的人権と社会福祉	社会福祉の世界において、人間の尊厳、個人の尊厳が基本的な価値として、語られるようになっている。それらの概念を踏まえながら、基本的人権の尊重が社会福祉領域でどのように機能するのかを再検討することによって、社会福祉における権利概念を再構築する手がかりをうる。 【キーワード】 人間の尊厳、個人の尊厳、個人の尊重	大曾根寛(放送大学教授)	大曾根寛(放送大学教授)
2	人権の歴史と社会福祉	諸外国および日本における人権の発展の歴史を概観するとともに、憲法上の人権の類型とその相対化について学習する。福祉国家の発展の類型とともに、日本型福祉社会の問題と変容を跡づけながら、とりわけホームレスの問題を中心に現代の生存権論がかかえている課題と展望について考察する。 【キーワード】 人権の歴史、憲法上の人権の類型、福祉国家の類型	近藤敦(名城大学教授)	近藤敦(名城大学教授)
3	国際的な人権保障と社会福祉	国際的な人権保障の発展を概観し、国際的な人権の類型とその相対化について検討する。社会福祉に関連する諸権利の保障を、国内人権機関と国際的な人権保障の仕組みとともに学習し、人権侵害救済機関や個人通報制度をめぐる課題と展望について考察する。 【キーワード】 国際的な人権の類型、国内人権機関、個人通報制度	近藤敦(名城大学教授)	近藤敦(名城大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会福祉の構造改革と契約	2000年前後に展開した社会福祉の構造改革が、どのようなものであったのかを確認すると共に、社会福祉体系の基礎となる、福祉契約の概念、特徴、問題点などについて検討する。契約論を学習することが、権利擁護の現代的な課題と密接に関連していることを学習する。 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革、介護保険法、福祉契約	大曾根寛(放送大学教授)	大曾根寛(放送大学教授)
5	成年後見制度	判断能力の不十分な高齢者、障害者、児童などへの支援の方向を模索する。2000年に実施された後見制度が活用されるようになっているが、制度としては多くの残された問題を抱えている。親族後見、専門職後見、市民後見などと共に、法人による後見についても課題を整理する。 【キーワード】 成年後見、保佐、補助	大曾根寛(放送大学教授)	大曾根寛(放送大学教授)
6	社会的後見	成年後見制度とは別に、福祉法制上、福祉サービス利用援助事業がある。地域福祉権利擁護事業から、日常生活自立支援事業へと変化しているが、これは、成年後見とどのような違いがあり、特徴を持っているのかについて学習しよう。成年後見制度との連動性にも言及する。 【キーワード】 福祉サービス利用援助事業、日常生活自立支援事業	大曾根寛(放送大学教授)	大曾根寛(放送大学教授)
7	サービスの質を高める制度	福祉サービスでは利用者の要望をかなえることが必ずしも質の高いサービスであるとは限らない。このように一般のサービスとは異なる福祉サービスの質の特徴と評価の難しさについて考える。社会福祉法78条や82条で規定されている、サービスの質を高める公的な制度と苦情解決制度について説明する。 【キーワード】 サービスの質、外部評価、苦情解決	吉川雅博(愛知県立大学教授)	吉川雅博(愛知県立大学教授)
8	サービスの質を高める取り組み	サービスの質を高める取組例として、平成20年度から始まった東京都の事業(リスクマネジメント、情報管理、人材育成マネジメント)と、福祉分野にも導入されているQC活動や品質マネジメントシステムであるISO9001を紹介する。福祉サービスの質の向上に関する現状のまとめと今後の展望を考察する。 【キーワード】 リスクマネジメント、情報管理、福祉QC活動、ISO9001	吉川雅博(愛知県立大学教授)	吉川雅博(愛知県立大学教授)
9	虐待・DVの防止	児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、DVのそれぞれの実情と防止法の特徴について理解しよう。虐待やDVの件数は毎年増え続けている。なぜ、虐待やDVが発生するのか。その防止対策について考えてみよう。 【キーワード】 虐待防止法、DV防止法	吉川雅博(愛知県立大学教授)	吉川雅博(愛知県立大学教授)
10	グローバル化における社会福祉	グローバル化、労働力不足を背景に1980年代後半以降、「単純労働者」として中国人、日系ブラジル人等移民が増加してきた。移民の多くは非正規雇用で社会的に排除される傾向にある。不安定な生活を営んでいる移民を支援する社会福祉の役割について考察したい。 【キーワード】 グローバル化、生活問題、社会福祉	朝倉美江(金城学院大学教授)	朝倉美江(金城学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	地域福祉とコミュニティ	近年コミュニティから排除される人びとが増加しつつある。孤独死や児童・高齢者の虐待、ホームレスなど深刻な問題を地域で解決することが求められている。地域福祉とは何かを明らかにした上で、社会的排除の問題を解決するために求められるNPOや福祉コミュニティについて考察したい。 【キーワード】 地域福祉、社会的排除、福祉コミュニティ	朝倉美江(金城学院大学教授)	朝倉美江(金城学院大学教授)
12	社会福祉と行政法制	福祉サービスの提供過程で行われる行政活動の類型を、その性質とともに概観する。そして、これらの諸活動が適法であるためのルールについて定めている行政法の基本を論ずる。具体的には、行政法に属する法令のうち、行政手続法、情報公開法、個人情報保護法という主要法令が定めるルールについて説明し、これらと社会福祉の関係について論ずる。 【キーワード】 行政手続、申請に対する処分、情報公開、個人情報保護	豊島明子(南山大学大学院教授)	豊島明子(南山大学大学院教授)
13	社会福祉と行政争訟	適法に行われるべき行政活動が、時には違法に行われ、サービス利用者らの権利を害する場合がある。このような場合には、すでに行われた行政活動を是正し、人々の権利を救済するため、行政争訟制度が有効に働くことが求められる。ここでは、行政不服審査・行政訴訟・国家賠償という行政争訟制度の現状と課題について、いくつかの裁判例とともに、論ずる。 【キーワード】 権利救済、行政不服審査、行政事件訴訟、国家賠償	豊島明子(南山大学大学院教授)	豊島明子(南山大学大学院教授)
14	行政の公的責任	福祉サービス提供の仕組みは、現行法上、契約と措置の並存状態にある。このような現状では、行政の公的責任の曖昧化が懸念される反面、公的責任の理解のあり方も次第に変わらざるを得ない面がある。また、近年の国と地方の役割分担の見直し論も、行政の公的責任のあり方に影響を与えている。以上を踏まえ、社会福祉の公的責任の全体像の把握を試みる。 【キーワード】 供給主体、民営化、公的規制、国と地方の役割分担	豊島明子(南山大学大学院教授)	豊島明子(南山大学大学院教授)
15	権利擁護の担い手	変容し続ける社会福祉制度との関係で、市民の権利はどのように守られていくか、今後の課題が論じられる。福祉と医療にまたがる分野で、専門職と市民、行政機関がどのような機能を果たしうるのか、権利擁護の担い手の役割についても展望してみよう。 【キーワード】 専門職、担い手、市民の役割	大曾根寛(放送大学教授)	大曾根寛(放送大学教授) 朝倉美江(金城学院大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1828312	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 格差社会と新自由主義 （'11）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：坂井 素思（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：岩永 雅也（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

1970年代、急速に台頭してきた経済理論としての新自由主義は、財政赤字を拡大させた「大きな政府」の行政システムを見直す潮流に乗り、サッチャー保守党政権、レーガン共和党政権の政策展開とともに全世界に広まった。日本においても、中曽根内閣以来、濃淡の違いはあれ社会の各分野で新自由主義が政策の基調となっていた。変化は政治経済的な場面に止まらない。JR、NTT、道路公団、郵政会社、国立大学法人など組織の変革は社会のあらゆる分野に及んでいる。一方、新自由主義が社会の成長のための最重要ファクターとしてきた「市場化」「競争化」は、また社会に各種の格差をもたらしてもいる。競争は「勝者」とともに「敗者」も生むことを、われわれは身を以て感じている。本講義では、新自由主義的政策の一つの結果とされる社会のさまざまな格差に焦点をあて、それらを多様な視点から多角的に捉えて具体的に考えていく。

授業の目標

格差は、今日の日本社会において最大の関心事の一つである。現在の格差のありようは、形態的、表面的には多岐にわたっているが、実はすべてそのおおもととところで新自由主義という共通の要因と関わりを持っている。本講義ではそれを理解することを目的とする。新自由主義自体は既に見直しの時期に入っているが、そうした時期であるからこそ、前世紀末から今世紀初頭にかけて世界を席卷した新自由主義とその結果としての格差社会を冷静に検証していくことが重要なのである。

履修上の留意点

本講義は、社会科学全体に関係する総合科目である。そのため、各コースの基礎的な関連科目、例えば、『教育と社会('11)』といった諸科目を履修していることが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	平成という時代	1989年1月、元号が平成に替わった。それは、昭和という、おそらくわが国の有史以来最長の帝期の終焉というだけでなく、戦後諸体制の大きな転換期とも重なっていた。この時期の前後を境に日本は平等重視の社会から競争に主眼を置く社会、つまり新自由主義の社会へと大きく舵を切ったのである。しかしそれにより、自由と表裏一体となった社会格差をはじめとする負の結果も顕在化してきた。ここでは、そうした平成の時時代背景の概略を全体像として把握する。 【キーワード】 自由主義経済、経済ナショナリズム、フォードイズム、ポストフォードイズム、新自由主義、新保守主義、格差、格差社会	岩永雅也(放送大学教授)	岩永雅也・坂井素思(放送大学教授)
2	冷戦の終わりと新自由主義	政治学・政治理論の観点から、新自由主義の特徴を捉える。新自由主義を、イデオロギー、統治様式、政策パッケージの三次元で捉えることができることを理解し、そのうえで、とりわけイデオロギーとしての新自由主義が、冷戦の終わりという時代的背景において、その効力を得た原因を考察する。いくつかの具体的な政策をみながら、新自由主義のイデオロギーが生まれ、説得力を得る歴史的な構造と、そのレトリックを明らかにする。最後に、新自由主義的な統治のあり方について、批判的な視座を獲得する。 【キーワード】 イデオロギー、統治性、D-L-P公式、歴史の終わり、福祉自由主義、過重国家、正統性の危機、グローバリゼーション、新保守主義、ガバナンス	山岡龍一(放送大学教授)	山岡龍一
3	新自由主義の台頭	1970年代から80年代にかけて起こった、欧米日における「新自由主義の台頭」の経緯をみていく。新自由主義の理念はどのような性格のものであり、いかなる時代背景のもとに成立してきたのかについて展望する。最終的にここで問題となるのは、なぜ新自由主義はこの時代に世界を支配するほどの力をもち得たのかという点である。 【キーワード】 新自由主義、個人の自由、ハイエク、フリードマン、ケインズ主義、私的所有、取引の自由、企業活動の自由	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	規制緩和と市場化	新自由主義の経済政策の中心は、規制緩和政策と民営化政策であるが、これらがどのような背景で出現してきたのかについて考えていく。この中で、財政赤字、政府の失敗などの問題を振り返りながら、新自由主義経済政策の意味を考察する。新自由主義政策と、社会民主主義政策、保守主義政策、共同体主義政策との対比において、市場化政策の功罪についても検討を行う。 【キーワード】 規制緩和、民営化、NTT、郵政民営化、サッチャー、レーガン、航空産業、電気通信産業、労働規制	坂井素思	坂井素思
5	所得と格差規準	経済格差はいかに生ずるか。特に、1980年代以降の経済格差がどのように推移したのかについてみていく。問題となるのは、社会における格差がどのような性格のものであるか、という点である。社会の格差には、その社会に対応した格差規準が存在しており、それらの規準がどのように定まっているのかを認識する必要がある。経済格差の現実についても注目したい。高齢化社会、ポスト産業社会における経済状況の違いは、いかにわたしたちに経済格差をもたらすのだろうか。 【キーワード】 所得格差、複合的平等、貢献原則、必要原則	坂井素思	坂井素思
6	階層間格差の拡大	日本社会は、戦後数十年間にわたり、一貫して平等化を進展させてきた世界でもまれな存在であった。ジニ係数や流動性指数などの諸指標は、1980年代初め頃まで継続して平等化が進展してきたことを示している。しかし80年代半ばを境に、そのベクトルは逆転する。階層間格差の拡大と世代間の階層固定化が進み始めたのである。その時期に推し進められ始めた新自由主義的政策によってどのような状況が生じたのか、それが現代日本の階層構造にどのような影響を与え、現実の階層状況をどう変えているのかという視点に立ち、国民生活基礎調査やSSM調査の結果から、ジニ係数をはじめとする諸社会指標の変化を検討して、そこから階層化社会日本の状況を明らかにしていくことにしよう。 【キーワード】 社会的地位、階級、階層、属性原理、業績原理、地位の非一貫性、所得分位、ジニ係数、貧富の差、SSM調査、階層移動、階層の固定化	岩永雅也	岩永雅也
7	変わる労働市場	新自由主義路線の中で進行した市場化、競争化の流れは、雇用というものを流動的で不安定なものにし、職場の喪失、所得の喪失、住まいの喪失に陥る人々を生み出した。不安定就労は、社会的ネットワークを奪い、諸権利へのアクセスを困難にする原因となっている。このような現象は日本に限らず、途上国にも先進国にもみられる。その実態を整理しながら労働市場の改革の方向を考える。 【キーワード】 日本型経営、派遣労働、非正規雇用、賃金格差、新しい貧困、若年失業、フレキシキュリティ、パートタイム労働、ワーク・ライフ・バランス、積極的労働市場政策	宮本みち子	宮本みち子
8	教育の自由化と学力格差	中曽根政権下に設置された臨教審は、実質的に教育分野における自由化、多様化、国際化そして市場化を数次にわたって答申した。それが実行に移されたことにより、戦後長らく平等主義的に進められてきた世界でもまれな日本の学校教育体制は、大きな転機を迎えることとなった。それは、同時に、学力低下問題をはじめとする教育問題論議の幕開けでもあった。ここでは、過去四半世紀の教育改革の動向、そして学校教育、家庭教育、教師、子どもの学力といった教育事象の動きをみていく。 【キーワード】 教育改革、46答申、臨教審答申、新自由主義、学校週五日制、「ゆとり」教育、TIMSSインパクト、PISAショック、学力低下、学力格差、教育機会格差	岩永雅也	岩永雅也

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	社会に背を向ける 人々	社会における競争の激化と行き過ぎた能力主義の進展は、失業率を上昇させ、一面で生活者の将来への展望も奪ってしまうという結果をもたらした。若年失業率は上昇し、多くのニート、フリーターが生み出されることとなった。若年者に限らず、人々の生活はさまざまな困難に直面している。そうした状況が社会規範に与える影響は決して小さなものではない。犯罪や非行、薬物依存、社会からの逃避的行動など、社会に多発する逸脱を競争社会というコンセプトから検証する。 【キーワード】 逸脱、規範、規範意識、逃避的行動、社会的緊張論、刑法犯、自殺、失業率、格差	岩永雅也	岩永雅也
10	子どもと女性の貧困	グローバル化と新自由主義による社会的格差の拡大は、子どもと女性に大きな影響を及ぼしている。若年労働市場の悪化、女性労働市場の悪化が背景にある。離婚の増加によって増加する母子家庭は、女性の不安定雇用と福祉削減政策の中で、最も貧困化する社会集団となりつつある。雇用と家族/結婚の不安定化の中で、貧困化する子どもと女性の問題を考える。 【キーワード】 貧困、貧困の測定、非正規雇用、賃金格差、非婚化、母子家庭の貧困、子どもの貧困、能動的社会政策	宮本みち子	宮本みち子
11	高齢者と格差	現代日本では、超高齢社会の到来とともに、高齢者の間にみられる格差が新しい特徴を見せ始めている。福祉国家による再分配にはこうした格差を是正することが求められるが、この間の新自由主義的な福祉国家の再編は、とくに経済的な格差を強める方向に作用したと考えられる。所得格差、健康格差などの諸側面について、データを概観しながら、我が国の高齢者と格差の問題について論じる。 【キーワード】 高齢化、ライフコース、累積的な有利/不利、所得格差、貧困、健康格差	田渕六郎 (上智大学准教授)	田渕六郎
12	福祉における格差	近年の福祉国家の再構築における新自由主義的な潮流の中で、福祉へのアクセスをめぐる格差が顕著になっている。保育と介護をめぐるどのような地域間格差が生じているのかを概観する。公的福祉をめぐる地域間格差が社会的に排除されるリスクを高めるのかどうか、ナショナルミニマムという観点に立つときどのような制度の見直しが求められるかなどを論じる。 【キーワード】 社会保障制度改革、地域格差、社会的排除、ナショナルミニマム	田渕六郎	田渕六郎
13	格差社会と正義	格差社会の問題を、平等と正義の観点から考察する。平等と正義の一般的な関係の考察をし、その古典的な議論の概略を捉える。そのうえで、新自由主義的な正義論の代表としてハイエクの議論と、自由主義的な正義論の代表としてのロールズの議論を概観する。重要なのは、それぞれの正義観の背後にある人間や社会についての考え方の把握であり、こうした理解を通じて、現代社会を正義の観点から理解する視点の獲得と、理解力の強化を目指す。 【キーワード】 平等、正義、配分的正義、ルール、自生的秩序、社会正義、公正、協働、互惠性、格差原理	山岡龍一	山岡龍一

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	国際化と自由化の克服	世界市場ではグローバリゼーションという国際化の影響が進展しており,日本の国内経済では空洞化が進み,経済停滞が起こっている。この中で,海外では外国人労働者の国際移動や,国際的な金融危機による新たな貧困問題,格差問題が生じている。この章では,世界や日本にとって,このようなグローバリゼーション問題をいかに認識し克服することができるのかについて考えていくことにする。 【キーワード】国際化, グローバリゼーション, 外国人労働者, 国際金融危機, 労働の柔軟性	坂井素思	坂井素思
15	新たな連帯と共生の創造	現代社会の諸環境の変化の中で,これまでの雇用や社会保障が想定していなかった生き難さを抱える人々が増加しているが,従来の社会保障制度は,このような人々のニーズに対応できない状態にある。現状を打開し,新自由主義のマイナスを克服するためには,どのような社会作りをめざすべきかを検討する。とくに,新しい社会保障制度や包括的社会サービスを展望する。 【キーワード】 社会関係資本, 社会的包摂, 社会的排除, 共生社会, 不平等の世代間継承, 不平等社会, 新しいセイフティ・ネット, 人生前半期の社会保障制度	宮本みち子	宮本みち子・坂井素思・岩永雅也

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847414	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 消費者と証券投資（'11）＝（TV）

※この科目は「消費者と証券投資（'07）」の一部改訂科目です。
改訂回は第2, 7, 9, 10回です。

〔主任講師（現職名）：林 敏彦（大阪大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐賀 卓雄（公益財団法人 日本証券経済研究所理事兼主任研究員）〕

講義概要

日本の金融システムは1990年代以降、グローバル化と度重なる制度変更によって直接金融の比重が高まり、金融商品と自由な金融市場が発達し、情報通信技術の導入が進むなど大きな変化を遂げてきた。他方、日本の家計部門は安定的な経済成長の中で高貯蓄率を維持しながら、金融資産の蓄積を進めてきた。いま少子高齢社会の到来を迎え、社会保障制度も改革が迫られている中、消費者はどのような金融市場を活用した資産運用を心がければよいのだろうか。この科目では、社会人にとって不可欠な証券投資の問題を、消費者の生活設計の視点から考えてみる。

授業の目標

履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	証券とは何か	証券にはどのような形と種類があり、どのような金融機関が取り扱っているのでしょうか。ネット証券で買った株式の株券を見たことがありますか。証券を売買するとき、私たちは、本当は何を売買しているのでしょうか。 【キーワード】	林 敏彦	林 敏彦
2	日本の家計資産に何が起きているのか (※改訂回)	1400兆円とも言われる日本の家計金融資産で、いま何が変化しているのでしょうか。少子高齢化、金融経済の浸透などの社会変化によって、日本人の貯蓄意識は変化し、そのため資産の保有状況も変わってきています。この回では、金融資産保有と循環の現状と問題点について、家計の視点から見てみましょう。 【キーワード】	坂井素思	坂井素思
3	生活に潜むリスクに向かい合う	消費生活は多種多様な純粋リスク・投機的リスクを伴っています。この回では、生活の諸場面で消費者がどのようなリスクに直面するのかを考えると同時に、リスクを管理する局面における実態と課題についても検討します。 【キーワード】	奈良由美子	奈良由美子

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ライフプランと資産運用	個人や家計は人生設計をどのように行い、それを実現するためにはどのような資金的裏付けを必要とするのでしょうか。豊かな暮らしを実現するための資金調整のあり方を、資産運用の視点から考えてみましょう。 【キーワード】	戸井佳奈子	戸井佳奈子
5	投資を考える基礎	資金を投下し、一定期間後にその成果を回収しようとする行為が、投資です。投資には、リスクが伴いますが、そのリスクをどう把握し、いかに対処したらよいのでしょうか。こうした点を考える基礎となる視点と概念の枠組みを説明します。 【キーワード】	池尾和人	池尾和人
6	投資と証券市場	それぞれの個人が投資をすることは、社会や経済全体の中でどんな役割を果たすことになるのでしょうか。一人一人は自覚していなくても、投資を通じた経済活動への貢献があることと、それを実現する仕組みについて説明します。 【キーワード】	池尾和人	池尾和人
7	バブルの教訓 (※改訂回)	株式や土地などの資産の価格は、100年に一度ぐらいの割合でバブルと呼ばれる異常な動きを示すことがあります。バブルには功罪があるのでしょうか。現代の金融市場のルールには、過去のどのようなバブルの教訓が生かされているのでしょうか 【キーワード】	林 敏彦	林 敏彦
8	証券販売チャネルの拡大と投資者保護	今や、個人投資家の株式売買注文の80%以上がインターネット経由で行われています。また、証券仲介業の導入により、会計事務所、フィナンシャル・プランナーに止まらず、コンビニエンス・ストア、自動車ディーラーなど、あらゆる業態が証券販売に参入し始めています。郵便局での投資信託の販売も始まりました。他方では、チャネルの拡大に伴い、悪質な業者の参入も予想されます。証券取引に対する投資者保護の制度・仕組みの整備・強化が必要であることはもちろんですが、投資家は正確な金融・投資知識を身につけ自己防衛に努める必要性も高まっています。 【キーワード】	佐賀卓雄	佐賀卓雄
9	株式投資の魅力を考える (※改訂回)	株式に投資すると、他の金融商品と比べて、どのようなメリットがあるのでしょうか。株価はなぜ大きく変動するのでしょうか。株価は企業の業績とどのように関係しているのでしょうか。株式投資の基本的な特徴を説明し、株式投資の魅力について考えます。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	どのような株式に投資すべきか (※改訂回)	株式投資には長期的に高いリターンが得られるという魅力とともに、株価が低下するリスクもあります。価格変動のリスクを必要以上にとらずに、高いリターンを得るためには、どのような点に着目して銘柄を選択すべきかについて考えます。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
11	債券投資の基礎	国債や社債などの債券は、預金や株式と並んで、個人投資家にとって重要な投資対象の一つです。債券価格はどのような要因によって決まるのか、債券の利回りはどのように計算されるのか等、債券投資の基礎知識について説明します。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
12	債券投資のリスクとは	債権投資は株式投資に比べると安全性が高いと言えますが、それでも景気や金利の影響を受けて債券価格は変動します。また、個々の債券の安全性が違えば、価格や利回りの水準が異なります。債券投資のリスクをどのように考えるべきかについて説明します。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
13	投資信託の基礎	投資信託は、共同投資により少額の資金にも分散投資の機会を提供します。近年は販売チャネルが拡大し、私たちにとって身近な存在となりつつあります。今回は投資信託の歴史、制度、仕組み、商品の種類や選択基準などを眺め、その国民経済的な意義を考えてみましょう。 【キーワード】	高橋 元	高橋 元
14	新しい金融商品の登場	金融の自由化を背景に、多様な金融商品が出現しています。その多くは金融理論の進歩や投資技術の高度化などを背景としていることから、一般には仕組みを理解することが難しく、思わぬリスク負担を伴うものもあります。それらに投資する際の留意点を考えてみましょう。 【キーワード】	高橋 元	高橋 元
15	証券投資を取り巻く新たな動き	証券投資に関する法律や制度は時代やテクノロジーとともに変化を続けます。取引ルール、商品開発、販売チャネルなど、最新の動きはどうなっているのでしょうか。消費者が証券投資のことをもっと良く知るためには、どうすればよいでしょうか。 【キーワード】	佐賀卓雄	佐賀卓雄

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1839012	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 世界の中の日本 （'09）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：高橋 和夫（放送大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：林 敏彦（大阪大学名誉教授）〕

講義概要

情報通信技術と交通手段の発達で世界は小さくなり、グローブ（地球）全体の姿が私たちの意識に上らない日はなくなった。そうしたグローバル化の潮流の下で、国々や地域の間で政治体制、経済制度、文化、価値観などの収斂は必然だろうか。それとも、生物界における種の多様性のように、多様な社会の間の競争と共生こそが、未知の大変動から人類を守る方策なのだろうか。この科目では、グローバル時代に生きる私たちの基礎知識として、経済、法文化、民主主義、外交、化学、教育、科学技術、スポーツ、メディアなどの視点から「世界の中の日本」の位置を見定め、次いで、人口、日本国内のイスラム教徒、外国人労働者などの視点から「日本の中の世界」を考える。最後に海外で暮らすオーバークラス・ジャパニーズの実態とその背景を考察し、科目全体としてグローバル時代の日本の位置・役割と将来の方向性について考えてみたい。

授業の目標

グローバル化は、世界の中に「日本」が入り込み、日本の中に「世界」が入り込むという「入れ子構造」を伴って進展している。その入れ子構造の実態を理解し、さまざまな境界が内と外から溶けていくかに見える社会変化の中で、変化の方向性を見据え、日本のアイデンティティや日本の役割について考える。

履修上の留意点

この科目は学部における学習の総仕上げを目指す総合科目です。経済学、政治学、法学、教育学、科学技術、メディア、スポーツ、国際関係など、幅広い領域の基礎知識をもって臨んでください。また、ここで取り上げたトピックについて、さらに大学院で研究を深めたいという動機付けになることも願っています。

回	テ マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	日本の位置	この科目が必要となった時代背景について、一人当たりGDP、直接投資、貿易依存度、平均寿命、高齢化率、日本に在住する外国人の数など、さまざまな角度から世界における日本の位置を見定めてみよう。 【キーワード】 人間(じんかん)距離、GDP、購買力平価、平均寿命、高齢化率	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授)
2	国境を超えるビジネス	世界192カ国の中で、日本経済はどのような位置にあるのだろうか。成長率、エネルギー消費等に関する国際連合、国際通貨基金などの統計を参照し、海外に展開する日本企業(YKK)、日本に展開する外資企業(P&Gジャパン)の現場からのレポート交えながら日本経済の相対的位置を探ってみる。 【キーワード】 各国の成長戦略、エネルギー消費、対外直接投資、外国資本	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授) ゲスト: 吉森賢(横浜国立大学名誉教授)
3	日本の憲法と法文化	日本国憲法について、制定過程を振り返り、ドイツ基本法やアメリカ合衆国憲法との比較を通じて、その特徴を考えてみよう。また、新しく導入された裁判員制度の問題を通して日本の法文化の特徴についても考えてみよう。五百旗頭真(防衛大学校長)氏には憲法第9条の意味について、佐藤幸治(京大名誉教授)氏には日本の法文化と裁判員制度導入の意義について、インタビュー出演していただく。 【キーワード】 近代立憲主義、人権、平和主義、裁判員制度	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林 敏彦(大阪大学名誉教授) ゲスト: 井上典之(神戸大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	日本の民主主義	第2次世界大戦前の日本の民主主義、戦後の民主主義を通観し、政治体制としての日本の民主主義の特徴を、諸外国との比較の中で考えてみよう。 【キーワード】 大正デモクラシー、立憲民主主義、議院内閣制、地方自治	天川晃(放送大学客員教授)	天川晃(放送大学客員教授)
5	外交/軌跡と針路	排他的経済水域を含めた日本の広さを強調する。また憲法、自衛隊、日米安保、ODAなど日本の外交の課題について様々な立場を提示し、考える材料を提示する。さらに日本が、第二次世界大戦後いかに世界に評価されてきたかを紹介する。 【キーワード】 排他的経済水域、憲法九条、日米安保、自衛隊、ODA	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
6	人間の安全保障	「人間の安全保障」概念は、日本が国際社会でイニシアチブを発揮した数少ない貢献の一つである。国家安全保障や国際的人権問題とは異なるこの概念の意味やねらいは何だろうか。また、世界銀行の仕事について、小寺清(世銀合同委員会事務局長)にインタビュー出演していただき、鈴木基之教授には地球環境問題について日本が果たすべき役割についておうかがいする。 【キーワード】 人間の安全保障、恐怖と欠乏からの自由、世界銀行、地球環境問題	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授) ゲスト:鈴木基之(東京大学名誉教授)
7	グローバル化する教育	グローバル化、少子高齢化、産業構造の転換、価値の多様化などの中で、日本の教育政策は大きな転機を迎えている。諸外国の教育政策との比較の中で、日本がとるべき国家100年の計は何だろうか。 【キーワード】 日本教育史、基本問題と技術的課題、教育産業、人的資本論	岩永雅也(放送大学教授)	岩永雅也(放送大学教授)
8	日本の科学技術	20世紀の20大イノベーションを振り返り、経済成長と科学技術の発展との関係を検証する。アイデアの海から科学技術の卵がダーウィンの海での生存競争を通じて人類社会に役立つようになるまでのステップ&ループ・モデルによって、各段階における政府の科学技術政策の意義について考える。日本発の科学技術がどのようなグローバルな課題の克服に貢献しようとしているのかを、いくつかの実例とともに紹介する。 【キーワード】 科学技術、知識社会、新しい科学技術の役割、イノベーション政策	林敏彦(大阪大学名誉教授)	林敏彦(大阪大学名誉教授) ゲスト:有本建男(独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター長)
9	エリートスポーツのグローバル化	世界で活躍する日本人アスリートの数は年々増加の一途をたどっている。また、その競技分野も、野球、サッカー、ゴルフ、テニス、陸上等々と非常に多岐にわたっている。それとは反対に、日本国内で競技を行う外国人プレーヤーも増えている。国技とされる大相撲も、上位力士のうちの2〜3割が外国人力士である。古代ギリシャ以来、スポーツは万国共通のコミュニケーション手段であったが、昨今特に日本でボーダレス化が進んでいる背景には何があるのか、大局的な視点から捉えてみたい。 【キーワード】 国際関係、スポーツの役割、競争の意味、産業としてのスポーツ	平野裕一(国立スポーツ科学センター主任研究員・前東京大学准教授)	平野裕一(国立スポーツ科学センター主任研究員・前東京大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	メディアの風景	日本のメディア状況は、どうなっているのだろうか。その問題点を指摘する。次に外国語の放送局、インターネットによるニュース配信の試み、さらにフリー・ペーパーなどメディアの新しい風景を紹介する。そして新しいメディア状況での新しい課題を提示する。 【キーワード】 フリー・ペーパー、インターネット、外国語の放送局、記者クラブ、クロス・オーナーシップ	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
11	三丁目の日没後、または人口動態と国際政治	日本の人口動態を解説し、その現状と将来を展望する。次に、その社会的なインパクトを考える。最後に日本の周辺諸国における人口動態を紹介する。 【キーワード】 長期的人口動態、人口構成、高齢化社会、限界集落	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
12	異邦人か、隣人か？ 外国人労働者	日本の少子高齢化が続き、労働者の不足が予想される中で、外国人労働者への期待も高まっている。日本における外国人労働者の実態をみる。外国人労働者受け入れ賛成の立場と、反対派の議論を紹介し、この問題に関して考える材料を提供する。 【キーワード】 鎖国派、開国派、インドネシア人看護師候補者、日本語教育	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
13	イスラム教徒	米国での同時多発テロ以来一方でイスラム教徒に対する恐怖心が煽られているが、他方では日本に生活するイスラム教徒の数は増加している。日本においてイスラム教徒は、いかに生活し、何を考えているのか。その実情を見る。 【キーワード】 日本のイスラム教徒、モスク、査証の相互免除協定、ハラール、埋葬	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
14	オーバークイズ・ジャパニーズ	今や、海外で生活する日本国籍を持つ人々の数は62万人に達している。これは、20年前の約3倍にあたる数である。日本人は海外でどのような活動をし、どのような毎日を過ごし、相手国や地域どう溶け込み、また、どんな問題を抱えているのか。世界の中の「日本人」の現状について、広い視野から俯瞰してみることにしよう。 【キーワード】 在外日本人、グローバルビジネス、グローバルリビング	岩永雅也(放送大学教授)	岩永雅也(放送大学教授) ゲスト:大塚正明(JICA)
15	グローバル化の意味	グローバル化とは何なのか。その進展で利益を得るのは誰か。誰が被害を受けるのか。両者を分かちつのは変化への対応のスピードであろう。物、情報、人のグローバル化の意味を考える。 【キーワード】 グローバル化、普遍性、時差	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1637339	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） = Political Economy of Japan:
Growth, Challenges and Prospects （'10） = （TV）
for a Well-Being Nation

By Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)

Abstract:

After a decade In the 21st century, some argues the once economically successful Japan already belongs to history. Others say that there may be a resurgence of interest in the Japanese model in the aftermath of the worldwide financial turmoil. How exactly did the Japanese economy perform from the days of high-growth period to the present, where does she stand today, what are the most serious challenges she faces, can the political regime cope with increasing demand for domestic and global public goods? Will technological progress be a solution for a sustainable Japan? What are the prospects and the roles of Japan with a peace Constitution, U.S. and China in a turbulent world? Can Japan be a role model of well-being nation in Asia?

The Purpose of Lecture:

The aim of this course is to expose students with various academic backgrounds and language proficiencies to a brief history of the macroeconomic performance of Japan, to understand the nature of challenges she currently faces, and to develop a sense of direction to which Japan is headed.

Remarks:

All lectures will be conducted in English and the accompanying textbook will also be in English. Students are advised to have some basic knowledge of economics and access to statistical databases, and to be alert on media coverages on Japan and the Japanese economy.

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
1	Lecture 1: Japan in the World Today	Some statistics suggests that the Japanese economy ranks only the third in the world GDP share. Where exactly does Japan stand today? Let us take a look at comparative statistics in life expectancy, natural disaster, criminal records, demography, growth rate and per capita GDP.	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)
		【Keywords】 demography, PPP, governance, globalization		
2	Lecture 2: The High Growth Epoch	The High Growth Epoch of 1955-1973 is already a history. One can now place the "Japanese miracle", or the seemingly unique development path of Japan into a global perspective. What factors, exogenous and endogenous, prompted the high growth? Will they be repeated in other times and in other regions of the world?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)
		【Keywords】 favorable circumstantial conditions, engine of growth, investment, household saving		

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
3	Lecture 3: The Bubble Economy and Its Aftermath	The 1980s saw a resurgence of confidence, in fact, an excess confidence that culminated in the bubble economy. Why did asset prices rise so sharply while consumer price index stayed stable, leading to a big misjudgement by Bank of Japan? What was the aftermath of the bubble burst in financial market regulations and real economic growth?	Takeo Hoshi (UC San Diego)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Takeo Hoshi (UC San Diego)
		【Keywords】 asset price, monetary policy, financial reorganization		
4	Lecture 4: Fiscal Reconstruction or Fiscal Realignment	The heaviest debtor sector today is the government, national and local combined. Fiscal debt accumulated over the 15 years of slow growth. With aging population social security and health care demand are climbing. How can we reconcile the fiscal austerity and the increasing demand for public services?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Motohiro Sato (Hitotsubashi U)
		【Keywords】 structural reform, bureaucracy, fiscal reform, local finance		
5	Lecture 5: What Has Happened to Japan's Household Saving?	The household saving rate came down from 15% in the 60's to a mere 3% in 2007. Where has the Japanese virtue of frugality gone? Has she become a spendthrift, or, are there any other reasons behind the statistics? What are the implications of the low household saving rate for financial markets, government deficit, and economic growth?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Charles Horioka (Osaka U)
		【Keywords】 disposable income, saving hypotheses, demographic change		
6	Lecture 6: The Aging Population and Growing Disparity	In many countries population is aging. But the speed is most conspicuous in Japan. With aging population and the declining younger cohort, what will become of the mandatory pension plan, public health program, and the productivity growth? Will a slower growth inevitably bring about disparities between generations, between sectors of labor market and between megalopolises and rural areas? Can the society tolerate the disparity?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Sawako Shirahase (U of Tokyo)
		【Keywords】 demographic trend, social security, labor supply, income disparity		

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
7	Lecture 7: The Life-time Employment Gone Forever?	The Life-time employment system was once believed to be a cornerstone of the Japanese industrial prowess. Whatever has happened to it? Will the new labor market for temporary workers and NEET be a transitory phenomenon? Or, does it reflect some deeper change which is taking place in the way advanced economies compete with emerging economies?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Yuji Genda (U of Tokyo)
		【Keywords】 labor mobility, turn-over, NEET, labor market policy		
8	Lecture 8: The Information- Based Economy	Advanced information society became a buzzword for the new economy. What was the role of government policies in bringing about increased internet penetration and the broadband infrastructure? Is ICT transforming Japan's companies and economy? Will a new and unknown value be created by ICT? Will ICT be instrumental for the resurgence of the Japanese economy?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Takuo Imagawa(MI C)
		【Keywords】 ICT, infrastructure, platform, content, industrial productivity		
9	Lecture 9: Energy: Constraint or Opportunity?	In a country where energy self-sufficiency is but a dream, efforts have been made to change technology, social framework and life-style to better fit for reality. Will it be possible for Japan to sustain the current standard of living in an energy-constrained world? What are the possible alternative sources of energy for Japan? How should industrial configuration, mode of transportation, urban design and lifestyle be adjusted for the emerging reality?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Hiroshi Ozaki (Osaka Gas Co.)
		【Keywords】 self-sufficiency, new energy sources, low-carbon society		
10	Lecture 10: Sustainable Society under Global Environment Constraint	Suffering from all kinds of environmental deterioration including air pollution, water pollution, noise, toxic wastes, efforts have been made in Japan to enhance technology and environmental management. Now that the problem extends over the entire globe, what lessons can the world learn from Japan and what sort of global leadership is expected of her? Will Japan maintain a sustainable growth in the future?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Motoyuki Suzuki (U of Tokyo, Emeritus)
		【Keywords】 sustainable society, paradigm shift, zero-emission		

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
11	Lecture 11: Isn't It Happiness That Counts?	Is not sustainable growth a euphemism for slow death? Or is it really an ideal of harmonious symbiosis? Does history end and the world converge to a single political and economic regime? Or, diversity is the nature's wisdom for sustainability? Will the world be better off having a Japanese model of political economy? What do happiness studies reveal? Under what conditions will Japan be able to enjoy a happy life?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Takayoshi Kusago (Kansai U)
		【Keywords】 Easterlin paradox, human development index, diversity, happiness studies		
12	Lecture 12: Is Japan a Civil Society?	While the global landscape of value creation is constantly shifting, political economy is dominated by indigenous politics in any nation. Who can fill the gap between governments, family and market in providing domestic as well as international public goods? Are NPOs and NGOs making a difference? Is Japan a civil society after all?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Yutaka Tsujinaka (U of Tsukuba)
		【Keywords】 NPO, NGO, informal association, civil society		
13	Lecture 13: Globalization and the Constitution of Japan	With the advent of globalization, no country can insulate itself from foreign influences on the economy, policy making, indigenous institutions, and in the international involvement. Does this mean that the notion of sovereign nation has dissolved as some hyperglobalists would have us believe? If not, what are the possibilities and limitations for Japan which has Article 9 in the Constitution regarding the so called international contribution?	Shigenori Matsui (UBC Canada)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Shigenori Matsui (UBC Canada)
		【Keywords】 globalization, new responsibility, constitution, article 9		
14	Lecture 14: Japan, U.S. and China in a Turbulent World	Are there any common threads among the high-speed growth of Japan, China, India and other Asian countries and regions? Is it just the Heckscher-Ohlin factor price equalization at work? Can Japan join in the Asian conviviality? What will be the political outcome of a rich Asia? Which direction should Japan be headed for in a turbulent world of post-cold war and post-worldwide economic recession?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University) with Takashi Inoguchi (U of Niigata Prefecture)
		【Keywords】 market economy, human, developmentalism, global currency		

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
15	Lecture 15: Toward a Well-Being Nation	There is a long forgotten question for the Japanese. it has been postponed until the day when Japan becomes an ordinary country, attains a healthy living standard, and recovers the sense of pride. The question is: what kind of social contract fits best for the Japanese people in the age of globalization? A Scandinavian welfare state, a European conservatism or an American libertarianism? Or can it be one of a kind well-being nation? Is there any time left for the Japanese to postpone it again?	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)	Toshihiko Hayashi (Professor Emeritus, Osaka University)
		【Keywords】 social contract, gross domestic happiness, well-being nation		

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1839250	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 進化する情報社会 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：児玉晴男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：小牧省三（大阪大学名誉教授）〕

講義概要

「情報と社会(06)」に引き続き、情報通信技術(ICT)の進歩が社会、経済、産業、科学研究、医療、政治、地方自治、生活、コミュニケーション、国際関係などにもたらしている変化を確認し、情報社会の将来を展望するとともに、人間の幸福に資する技術発展のあり方について考えます。

授業の目標

科学技術的な知識の習得を主な目的とするのではなく、社会科学の視野から、総合的に、情報通信技術(ICT)と社会とがどのようにダイナミックな相互作用のもとに進化しているかを理解することを目標とします。すでにICTがなければ成り立たなくなっている産業や暮らしの局面、いま大きく変化しつつある領域、ICTが破壊し淘汰しつつある分野などに注意を払い、進化する情報社会の中でICTの適切な利活用の仕方を探求してみましょう。

履修上の留意点

情報そのものの理解については「情報の世界('10)」、大学院レベルの情報科学や計算科学の基礎知識については「基礎情報科学(09)」で学習して下さい。この科目では、技術系だけでなく文系あるいは社会科学系の履修者も対象としています。「情報と社会(06)」の既習者も履修可能です。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報通信技術(ICT)と社会	コンピュータの進展、ハードウェア・ソフトウェアの進展、ネットワークの進展について、それぞれ情報通信技術と社会(政策、制度)との相互のかかわりから概観する。わが国と欧米および東アジアの中の日本という二つの観点から、情報通信技術と社会について考える。 【キーワード】 技術情報、コンピュータアーキテクチャ、半導体集積回路、プログラミング言語、コンピュータネットワーク	児玉晴男 (放送大学教授)	児玉晴男 (放送大学教授)
2	メディア融合と社会	情報通信技術の進展が社会に与える影響は、近年、飛躍的に大きくなってきている。本講では、メディア発展の歴史とそれを支える技術を振り返り、現在進んでいるインターネットを中心とするメディア融合の位置づけとその社会への影響を理解する。 【キーワード】 マスメディア、ニューメディア、マルチメディア、メディア融合、ブロードバンド、ユビキタスネットワーク	小牧省三(大阪大学名誉教授)	小牧省三(大阪大学名誉教授)
3	将来通信網はどのようなものか	将来通信網の特徴はどのようなものだろうか？また、そのオープン化がなぜ可能になっているのだろうか？オープン化によってもたらされる社会的効果はどのようなものであろうか？これらを理解することにより、これから到来するポスト情報化社会がどのようなものになるのかを考える。 【キーワード】 レイヤ、ストラタム、コアネットワーク、アクセスネットワーク、FTTH、オープン化、競争施策、3.5/3.9世代移動通信	小牧省三(大阪大学名誉教授)	小牧省三(大阪大学名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ネット中立性を巡る議論	情報通信分野では、かつて通信の送り手から受けてまでのエンドエンドを通信会社が担ってきた。しかし、ブロードバンド化やインターネットの普及に伴い、複数のプレーヤーが相互に協力し、協働(コラボレーション)によるサービス提供が増加している。ネット上を流れる情報量が増加する中、ネットワークを維持するためのコスト負担をどのように分担するのか。また、ネット利用者がコンテンツやサービスに自由にアクセスする環境を維持するためにはどのようなルール作りが求められるのか。本講では、こうした「ネット中立性」と呼ばれる議論を整理し、今後の議論の方向性について概観する。 【キーワード】 インターネット、ネット混雑、プロバイダー、ピアリング、トランジット、CDN、P2P、レイヤー、帯域制御	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)
5	クラウドコンピューティングと社会	クラウドコンピューティングの登場は、ICTを「所有」する時代から「利用」する時代へと変えるパラダイムシフトを巻き起こす可能性がある。クラウドコンピューティングの普及は社会の在り方を大きく変え、ICTの利活用を低廉なコストで容易に実現する一方、サービス自体が国境を越えて提供されることから、プライバシーやデータ保護の在り方を巡って国際的なルールを整備する必要性も指摘されている。本講では、クラウドコンピューティングの普及に伴う社会的な課題について整理し、今後の議論の方向性について概観する。 【キーワード】 仮想化技術、大規模並列分散処理技術、行政・医療・教育の情報化、スマートグリッド、データセンタ、個人情報保護法	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)
6	ユビキタスネットワーク社会	いつでも、どこでもだれとでも情報がやり取りできる、ユビキタスネットワーク社会の実現が進んでいる。ここでは、ユビキタス技術の黎明からその進展に触れながら、ユビキタスネットワーク社会とはどのようなものか、その技術と問題点について触れる。 【キーワード】 ユビキタス、P2P、位置情報、ICカード、ICタグ	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授)	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授) ゲスト:寺西裕一(大阪大学准教授)
7	大学の情報化	大学の教務の情報化と大学教育の情報化について、遠隔教育を推進する放送大学が取り組む事例を中心に、学生へのICT活用教育、学習環境、学習コンテンツの整備の試みについて紹介する。 【キーワード】 学習管理システム、学習環境、オープンコンテンツ、学習コンテンツ、ネット配信	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
8	セキュリティとプライバシー	ネットワーク社会のセキュリティはどのようにして守られているのだろうか？また、プライバシー権とは何か、それが将来社会に果たす役割はどのようなものだろうか？それにかかわる技術と仕組みを理解することにより、ネットワーク社会の課題と社会構成員の責務を理解する。 【キーワード】 セキュリティ、共通鍵方式、公開鍵方式、セキュリティホール、バックドア、プライバシー権、データ・プライバシー、インフォメーション・プライバシー、個人情報、公共的共通利用	小牧省三(大阪大学名誉教授)	小牧省三(大阪大学名誉教授) ゲスト:中西浩(大阪大学教授)
9	情報通信技術(ICT)と産業	ICTにはムダを可視化(見える化)することを通じて効率化を可能にする力や、情報を新たな資源とする新価値創造をする力を持っている。その本質と産業への応用可能性について概観する。 【キーワード】 効率化、BPR、可視化、新価値創造、情報資源	國領二郎(慶應義塾大学教授)	國領二郎(慶應義塾大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	情報通信と地域再生	情報通信技術(ICT)分野において、日本は光ファイバー網などのネットワーク整備の面では世界最高水準にあるにもかかわらず、国際競争力ランキングは世界第21位(世界経済フォーラム調査)と低い。その背景には、各方面においてICTの利活用が遅れている面が大きい点が挙げられる。行政、医療、教育などの様々な分野でICTの利活用を促すことにより、地域社会の活性化や国際競争力の向上を実現することができる。本講ではICTを活用した地域再生を実現するための課題を整理し、今後あるべき政策の方向性について概観する。 【キーワード】 電子行政、ワンストップ行政サービス、医療の情報化、遠隔医療、ソーシャルメディア	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)	谷脇康彦(内閣官房内閣審議官)
11	情報技術によって変貌を遂げる科学	情報通信技術を最初にどん欲に取り入れ始めるのは、科学そのものである。このような情報通信技術による科学をする方法論の変貌のことをe-scienceとよぶ。ここでは、e-scienceの様々な例に触れながら、最先端の情報通信技術により科学の方法論がどのように変わりっていくかを展望する。 【キーワード】 e-science, 学術研究ネットワーク、グリッド	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授)	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授) ゲスト:大石雅寿(国立天文台准教授)
12	情報社会の生き方	進化する情報社会を市民はどう生きればいいのか。日米の大学における文系学部のICT活用状態の比較を通じ、市民生活、コミュニケーション、エンターテインメント、教育、知的生産の現場における情報社会の歩き方を考える。 【キーワード】 リテラシー、自己防衛、ウィキペディア、地球ブレイン活用術	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授)	下條真司(情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授) ゲスト:林健太(甲南大学准教授)
13	デジタルコンテンツと著作権	デジタルコンテンツは、どのように創造されて、保護されて、活用されているかを著作権制度とのかかわりで概観する。電子書籍、コンピュータグラフィックス(CG)や音楽、映画がどのように創作されて、それらがどのような権利の関係によって保護され、そして活用されるときの問題点について考える。 【キーワード】 著作物、著作者人格権、著作権、著作隣接権、デジタル権利管理、補償金制度	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授) ゲスト:タケカワユキヒデ(作曲家)
14	情報倫理と知的財産	印刷技術と情報通信技術との対比から、情報社会におけるメディア環境を理解する。そして、保護される情報の性質について、情報倫理と知的財産の関係から考える。さらに、情報社会における社会文化的な多様性が持続されるための情報の性質を理解する。 【キーワード】 知的財産権、コモンズ、アクセス、プライバシー、倫理綱領	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
15	持続可能な情報社会を目指して	技術、政策、制度、経済、文化、国際関係などの分析からのそれぞれの価値観から、進化する情報社会の光と影を超えて、情報通信技術、情報通信政策、情報通信法制と地球環境との関わりから総合し、持続可能な情報社会を展望する。 【キーワード】 持続可能性、地球環境、グリーンIT、新たな情報通信技術戦略、情報通信法	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授) 小牧省三(大阪大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847643	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 観光の新しい潮流と地域 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：原田順子（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）〕

講義概要

2003年の『観光立国宣言』から、2008年には「観光庁」が設立され、いまや観光はわが国の基本政策となった感がある。この背景には、モビリティの進展、新興国の台頭などによる、地球規模で生じている人流の活発化という国際的状況と、国内においては、定住人口減少の中での都市や農山村の振興という、内外の事情が存在する。こうした国の政策的動きの一方で、近年、地域主導のまちづくりや活性化策として、観光振興が注目され、全国各地で、盛んに取り組まれている。そこで、本科目では、持続可能な地域づくりのためには、都市と農山村といった土地利用、自然や歴史といった地域資源の特性と観光との関係はどうあるべきかを中心に、各地の事例を交えて、論じていく。

授業の目標

本科目では、地域からの視点で観光を考える基本知識を提供することと、受講者自身が生活する地域でまちづくりとして観光に取り組む場合の基礎的な検討能力を育成することを目的とする。

履修上の留意点

15回の講義をつうじて、履修者が放送教材の解説・説明を視聴し、かつ印刷教材を熟読することを望む。さらに理解を深めるため、印刷教材の各章末に記した参考文献を活用してほしい。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	基礎知識編－観光とは－	科目全体の導入として、今、なぜ観光が注目されているのかについて、国の政策的強化の話を交えながら概説する。次に、では「観光」とは何かについて、「ツーリズム」や「リゾート」といった類似語との比較を交えて語源や用法から解説する。また学問としての観光学について、観光学には様々な学問領域からのアプローチがあることを述べ、本書の視点を位置づける。最後に、現状での観光市場の特徴を旅行回数や志向に関する統計を用いて概説する。 【キーワード】 観光立国、観光庁、観光の語源、ツーリズム、リゾート、観光学、観光旅行市場	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）
2	基礎知識編－日本の観光史－	観光を学ぶ上での基礎知識の一つである、わが国における観光の発展の歴史について簡単に述べる。近世以前の観光史を概観した上で、近代日本における観光やリゾートの歴史を、時々の海外での観光やリゾートの隆盛や関係性を踏まえながらトピック的に解説する。 【キーワード】 宇治、講、湯治、避暑、転地療法、鉄道網、探勝景、国際観光政策	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	基礎知識編―戦後観光史と現代の観光―	最初に、戦後日本の観光・リゾート史を、1964年(昭和39年)の東京オリンピック開催を境に大きく二つの時代に分け、観光／リゾート、国際／国内を切り口に解説する。その際、経済成長、国の地域振興策の変遷、国民の価値観の変化、との関係に注意を払いながら論じる。最後に、現在、マス・ツーリズムからオルタナティブ・ツーリズムと呼ばれるスタイルが主流になりつつあることを提示する。 【キーワード】 ソーシャル・ツーリズム、東京オリンピック、ディスカバージャパン、リゾート法、マス・ツーリズム、オルタナティブ・ツーリズム	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
4	都市と観光 その1―都市をとりまく環境変化―	まず、これまでのわが国の人口変化と人口減少社会の到来について、特に都市人口に着目しながら概観する。次にこれまでの人口増加時代の都市づくりの特徴について解説し、都市づくりが転機を迎えていることを述べる。最後に今後の人口減少時代の都市づくり・まちづくりの考え方について観光との関係を踏まえながら論じる。 【キーワード】 高度成長期、都市基盤整備、人口減少社会、成熟社会、観光まちづくり	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
5	都市と観光 その2―タウン・ツーリズムの実践と課題―	まず、オルタナティブ・ツーリズムの一形態としてのタウン・ツーリズムの概念と特性について解説する。続いて、タウン・ツーリズムではどのようなテーマや地域資源が観光的魅力を有するかを事例紹介しながら説明する。最後に、タウン・ツーリズムの課題の一つとして、既存観光地の再生問題について触れ、成功例として別府を取り上げる。 【キーワード】 大都市、地方中小都市、まちあるき、交流、体験、観光地再生	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
6	農山村と観光 その1―農山村を取り巻く環境変化―	まず、農山村における観光・交流の歴史を、時々の過疎化への地域振興策を踏まえながら概観する。次に、農山村(過疎地域)の現状を主に人口構造の変化から捉え、その深刻な現況を把握した上で、農政の転換など農山村を取り巻く環境変化、及び自然回帰、食への関心など消費者側の志向の変化をグリーン・ツーリズムが注目される背景として概説する。 【キーワード】 過疎化、地域間格差、食料・農業・農村基本法、都市住民、故郷、自然回帰	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
7	農山村と観光 その2―グリーン・ツーリズムの実践と課題―	わが国でのグリーン・ツーリズムの定義や特性及び国主導による関連施策の流れを捉えた上で、グリーン・ツーリズムのコンテンツを、多種多様な活動の類型や変遷により整理する。次に、海外でのグリーン・ツーリズムを紹介し、わが国との違いを交えながら、わが国のグリーン・ツーリズム振興の課題について論じる。 【キーワード】 農山村、農山漁村休暇法、体験・交流、フランス、ドイツ、飯山市	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
8	歴史・文化と観光 その1―文化遺産の保護と観光―	近代以前より、歴史・文化遺産は人々を惹き付け、観光行動の動機付けとなってきた。戦後に文化遺産保護の制度が国際的、国内的に整えられてきたこと、またその中で遺産の概念が変化してきていることを概説した上で、文化遺産と観光との関係について述べる。 【キーワード】 文化遺産、保護、ハイカルチャー、生活文化、文化観光、ニューツーリズム	羽生冬佳(立教大学・准教授)	羽生冬佳(立教大学・准教授)
9	歴史・文化と観光 その2―歴史・文化資源の活用と課題―	歴史・文化を資源とする観光地の事例として、白川村荻町と伊勢市おはらい町を取り上げ、それぞれの地域で実践されている文化資源の保全や形成への取り組み、また観光客受け入れの取り組みを紹介する。その中で発生する課題と、解決に向けた指針について論じる。 【キーワード】 白川郷、おはらい町、集落保全、まちなみ整備、観光客受け入れ	羽生冬佳(立教大学・准教授)	羽生冬佳(立教大学・准教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	自然環境と観光 その1-自然環境を守り、地域振興に寄与する観光ー	現代における新しい観光の潮流として「エコツーリズム」が登場したのはなぜか。その背景・歴史と考え方について紹介する。また小笠原諸島の取り組みを通して日本の自然地域での展開例を学び、エコツーリズムの要件とは何かを整理する。受講生が環境保全と観光の結びつきの重要性について理解を深めることをねらいとする。 【キーワード】 エコツーリズム、持続可能な開発、環境保全、地域振興、危機遺産	海津ゆりえ (文教大学・准教授)	海津ゆりえ (文教大学・准教授)
11	自然環境と観光 その2-エコツーリズムの実践と課題ー	日本に上陸したエコツーリズムは、環境保全のみならず、まちづくりと結びつくことによって、里山や里海の資源の保全と深い関わりをもつ日本型発展を示している。事例を通してエコツーリズムが新しい観光の潮流としてどのような役割を果たすかを学ぶ。 【キーワード】 エコツアー、インタープリテーション、ガイドライン、地域組織、運営	海津ゆりえ (文教大学・准教授)	海津ゆりえ (文教大学・准教授)
12	新しい観光と地域づくり その1-地域資源の発掘・再構築と仕立てー	新しい観光と地域づくりは、地域資源の発見・再構築や観光対象としての仕立てを通じて双方向に恩恵をもたらさうことを解説する。また観光のまなざしの概念について説明し、地域資源の観光対象としての成立可能性をニッチ・ツーリズムの近年の発展にみることで紹介する。さらに地域資源の観光対象としての「仕立て」には、対象となる市場やアピールする観光テーマの検討といったマーケティングの思考が必要であることを説明し、資源のパッケージ化により仕立てに成功している先行事例2つから、その要点について考える。 【キーワード】 観光まちづくり、地域資源、観光のまなざし、ニッチ・ツーリズム、まちぐるみ博物館、オープンガーデン	津々見崇(東京工業大学大学院・助教)	津々見崇(東京工業大学大学院・助教)
13	新しい観光と地域づくり その2-人的資源の活用と展開ー	観光まちづくりは地域の資源を活用して観光客を呼び、経済的利益や交流・地域再認識などの効用がある半面、コントロールを失うと意図せざる方向へ地域が変化してしまう危険性がある。本章では観光の発展周期モデルを概観して観光地化に対する住民の意識の変化を整理した後、地域から発信するイメージとメディアで解釈されるイメージの相違について検討する。そしてそれらの対応策の例として、着地型観光の実践と観光まちづくりへの住民参加の間口を広げる取り組みについて紹介し、観光まちづくりを地域が主体的・主導的に行うことの重要性を解説する。 【キーワード】 観光地の発展周期(TALCモデル)、地域イメージ、着地型観光、地域イベント、まちづくり学習	津々見崇(東京工業大学大学院・助教)	津々見崇(東京工業大学大学院・助教)
14	人づくりと観光	本章では、観光に関連する人々を解説した上で、それを念頭にいくつかの面から人づくりについて概観する。 観光の利害関係者としては、観光事業者、旅行者、地域を守る人々、その他に分類できる。本節では独自にこれらを定義し、それぞれの関連を含めて説明する。従来の利害関係者に加えて、MICEやインターネット空間上の関係者等も紹介する。そして、これらの利害関係者の構図を念頭に、民間の観光事業者、自治体職員、高等教育機関における観光教育の面から、人づくりについて述べる。 【キーワード】 観光事業、観光産業、旅行者、MICE、産業観光、自治体職員	原田順子(放送大学・教授)	原田順子(放送大学・教授)
15	観光の新しい潮流と今後の観光振興の課題と方向性	最後に、観光の新しい潮流の中で、各々の地域が観光振興をまちづくりとして成功に導くための様々な課題と今後の方向性を示す。 【キーワード】 外客誘致、休暇制度、政策連携、規制緩和、ツーリズムインパクト、ディスティネーション・マネジメント	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1839020	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 環境と社会 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）：鈴木基之（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：植田和弘（京都大学教授）〕

講義概要

環境問題の歴史的な流れを概観し、その変遷の中でどのような解決の努力が払われてきたのかを解説する。環境問題を解決するとはどういうことか、環境というものの価値をどのように評価するのか、そこにおいて経済学はどのような役割を果たすのか、そして法はどのような使命を有しているのかを考える。わが国は、そして世界は、どのような努力をしているのかを概観し、持続可能な社会の実現に向けた現在の取り組みについて解説を行う。

授業の目標

人間活動が現在直面している温暖化の問題など、将来ますます深刻化していく地球環境の変化は、人間活動に起因するものであり、その結果が生態系の劣化や人間生存の危機をもたらすという深刻な事態に至ることが危惧されている。このようなリスクを解決し、真に持続可能な人間社会を実現するための諸々の考え方を身に付け、現在、社会的にどのような手法がとられているのか、国際的な対応はどのようになされているのかなどの概要を理解する。

履修上の留意点

環境問題の解決に向けた技術的な取り組みの詳細については、他の講義に譲り、本講義においては社会科学からの環境問題への取り組みを理解してもらうことを主眼とする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	環境問題とは何か	環境とはなにかを考え、環境問題が起こってきたころの先駆的考え方の例としてレイチェル・カーソン、ギャレット・ハーディン、リン・ホワイトJrの紹介をし、これらの考え方と現在の主要課題となっている「持続可能性」の関連を理解する。環境問題の基本が、有限容量しか有しない地球上における人口増大に象徴される急激な人間活動の拡大に起因することを理解する。 【キーワード】 エンバイロメントとエコロジー、人間活動の拡大、有限条件	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)
2	環境問題の歴史－公害問題、地域環境問題	人間活動の展開とともに生じてきた種々の環境問題の変遷に関し、初期の公害問題の例として足尾鉍毒事件、イタイタイ病、水俣病、地域環境問題の例として水域の富栄養化などを概観し、環境問題が人間活動の活発化から生じ、その影響が人間の健康、生活環境に及ぶものであることを理解する。 【キーワード】 産業公害、地域環境問題、水俣病、足尾鉍毒事件、富栄養化	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)
3	環境問題の歴史－地球環境問題	地球の有限環境内で拡大の一途をたどっている人間活動の影響が地球規模に及ぶこととなった。地球環境問題の典型的な例として、オゾン層の劣化、地球温暖化の二つに関して、問題の流れを概観する。 【キーワード】 地球環境問題、オゾン層劣化、地球温暖化、二酸化炭素、持続可能性	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・ 名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	環境問題と経済学	経済学の目的と内容の説明から始まり、環境問題が経済学においてどのように取り扱われてきたか、その主要な源流・学説と理論的枠組みを解説する。また市場経済制度が環境制御に失敗する原因を考察し、外部不経済の内部化論の意義と限界を明らかにする。環境経済学の展開過程と課題を説明する。 【キーワード】 環境経済学、外部不経済、資源環境制約、市場の失敗	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
5	環境の経済価値と評価	環境は価格のつかない価値物である。環境の価値とは何か。環境の価値は経済的にどのように評価されるか、環境の評価に関する考え方、具体的な評価の例を紹介し、環境評価における課題について考える。さらに、環境影響評価の意義と課題を確認する。 【キーワード】 環境と経済、環境の経済価値、環境評価、環境影響評価	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
6	環境政策の目的と手段	環境政策の生成と発展についてまず概説する。環境政策の目的を達成するための政策目標と政策手段はいかにあるべきか。目標設定の考え方について解説するとともに、多様な環境政策手段を分類して、各々の政策手段の機能と特徴を明確にする。 【キーワード】 環境政策、政策目標、政策手段	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
7	気候変動問題と炭素経済	気候変動問題の深刻化から明らかになるように、低炭素社会への移行が求められている。温暖化を緩和する方策としての二酸化炭素排出削減を推進するための炭素経済はどのように考えられているか、地球温暖化防止の難しさの原因はどこにあるかを確認する。さらに、スターン・レビューに依拠しつつ炭素経済を解説する。 【キーワード】 炭素経済、低炭素社会、環境経済戦略、スターン・レビュー	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
8	「環境と経済の両立」から持続可能な発展へ	環境保全と経済のトレードオフ関係の克服を目指す議論を紹介し、経済発展の方向を明らかにする。「環境と開発に関する世界委員会」が提示した持続可能な発展の理念を具体化する方向性について、P.ダスグプタの理論を紹介しつつ、資本資産と制度の役割について考える。 【キーワード】 持続可能な発展、ダスグプタ理論、資本資産、制度	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
9	環境税	環境税の基礎理論をピグー及びボーモル＝オーツの議論によりつつ概説する。環境税は、租税政策手段としての側面と財源調達手段としての側面を併せ持つことを確認する。さらに、エネルギー税との関連について考える。 【キーワード】 租税の体系、環境税、ピグー税、ボーモル＝オーツ税、エネルギー税	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)
10	森林環境税と産業廃棄物税	地方分権一括法に基づく地方税法改正以降、多くの自治体で導入された地方環境税の中から、森林環境税と産業廃棄物税を取り上げる。課税の目的、税率、課税対象について整理するとともに、導入の効果について検証し、今後の課題について説明する。 【キーワード】 地方環境税、森林環境税、水源税、産業廃棄物税	植田和弘 (京都大学・教授)	植田和弘 (京都大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	環境における法規制の役割	法とはなにか、環境問題対応における法の役割は何かを考察する。社会における公平性確保のため法はどのようなものであるべきか、環境問題に対する法的対応はどのような変遷を遂げてきたか、法規制と経済的誘導策の役割の分担は如何にあるべきか、法規制の果たす技術革新への機能などについて説明を行う。 【キーワード】 法規制、公平性、財産権、不確実性、比例原則、マスキーマ	大塚直 (早稲田大学・教授)	大塚直 (早稲田大学・教授)
12	環境法の仕組み	環境基本法の成り立ち、環境基本計画との関係に関する解説を行う。環境権とは何か、環境法の理念としてはどのようなものがあるかについて考察する。環境法の仕組みについてイメージをつかむとともに、環境行政における自治体の役割について説明する。 【キーワード】 環境基本法、環境基本計画、環境権、環境法の理念、地方自治体の役割	大塚直 (早稲田大学・教授)	大塚直 (早稲田大学・教授)
13	国としての環境政策	我が国において、環境行政はどのような体制で環境問題に取り組んでいるか、国の環境政策を決定しているのはどのような仕組みか、環境庁・環境省の成り立ち、中央環境審議会などの役割、21世紀環境立国戦略の意味などについて考えてみよう。 【キーワード】 環境省、環境基本法、中央環境審議会、21世紀環境立国戦略	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)
14	持続可能な発展に向けた国際的取り組み	環境問題はこれまで多くの国際的に共通する課題を抱えるようになっており、国際的な取り扱いの場も活発になってきた。国際連合がキッカケを作った場や機関などの流れとして、ストックホルムの人間環境会議、リオデジャネイロの環境開発会議、ヨハネスブルグの持続可能な開発サミットなどの意味も考えてみよう。 【キーワード】 気候変動枠組条約、IPCC、アジェンダ21、途上国の環境、多国間環境条約	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)
15	持続可能な社会の評価	全体を概観し、問題点を再確認する。持続可能な社会像を考える上で、持続可能性を測る総合的な指標として、「真の進歩指標」、「エコロジカル・フットプリント」の二つについて考え方の紹介を行う。 【キーワード】 持続可能性、GPI、GDP、エコロジカル・フットプリント	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)	鈴木基之 (東京大学・名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847589	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ エネルギーと社会 （'11）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：鈴木基之（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：柏木孝夫（東京工業大学特命教授）〕

講義概要

- ・ 人類社会の進展に伴って生じたエネルギー消費を概観し、現在の社会におけるエネルギー問題の重要性を認識する。問題の根源はどこにあり、その解決のためにどのような方向を意識することが必要かを解説する。
- ・ 持続可能性の概念をしっかりと身に付け、その構成要素としての自然共生社会、循環型社会、低炭素社会について理解し、安全・安心な社会の構築においてエネルギーの占める位置を理解する。
- ・ エネルギー問題に対する社会的な対応に於いて、経済学的な考え方、法的な考え方の基本をより根本的な意味でそのあるべき姿を考察する。
- ・ 一方において、種々試みられている対応策を概観し、現状の市場中心的社会における種々の手法の有効性についての理解を深める。

授業の目標

エネルギーに関する国内外の状況を把握すると共に、将来ますます深刻化してゆく地球環境の変化とエネルギーについて、多角度からその関連性を解説する。化石燃料から非化石燃料へ、さらには化石燃料の高度利用やグリーン化技術など、真に持続可能な社会を実現するための基本的な考え方を身につけ、国内のみならず、国際的にも対応できる種々の知識を修得することを目指す。

履修上の留意点

エネルギーを取り巻く社会的背景や国際動向並びに技術の現状や将来展望まで含め、複眼的視点で習得できるように留意し、エネルギーと環境とを一体化して捉える能力を養うことに主眼をおく。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	私たちの社会におけるエネルギー	エネルギーは生活と産業の基盤である。人間活動や産業の進展と共に、これまでエネルギーを取り巻く視点がどう変化してきたか、また、どのような問題が生じ、どのような解決の方案がなされてきたのかを理解し、今後の講義の基礎的知見を修得する。 【キーワード】 エネルギーセキュリティ（安定供給）、環境問題、人口問題	鈴木基之	鈴木基之
2	エネルギーを身近なものに	これまでの歴史を踏まえ、今世紀の最大の課題である低炭素エネルギー社会の将来像を明確にすると共に、持続可能なエネルギー選択の考え方などについて多角度から概説し、将来の着地点を探る。 【キーワード】 持続可能性、低炭素社会、公平性と衡平性	鈴木基之	鈴木基之
3	世界のエネルギー需給とエネルギー資源	国際的なエネルギー需給の現状と今後の動向並びにエネルギー資源の確認埋蔵量の現況や石油ピーク論などについて習得する。国境を越えたエネルギー、資源に対する持続可能性の考え方についても言及する。 【キーワード】 世界のエネルギー需給、エネルギー資源、石油ピーク論	柏木孝夫	柏木孝夫

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	主要国のエネルギー事情	エネルギー事情は各国により大きく異なり国家戦略そのものである。米国、ロシア、EV主要国、中国、インドなどの現状並びにエネルギー選択の社会的背景について述べる。 【キーワード】 欧米のエネルギー状況、新興国のエネルギー選択、エネルギー政策	柏木孝夫	柏木孝夫
5	日本のエネルギー需給	我が国に目を向け、エネルギー需給構造の現状やエネルギー自給率、並びに、ライフスタイル、社会構造の変化との関連性などを解説する。さらにクールアース50をはじめとする今後の展開について言及し、低炭素社会に対する我が国の考えた方を述べる。 【キーワード】 日本のエネルギー需給、用途別エネルギー需要、エネルギー自給率	柏木孝夫	柏木孝夫
6	原子力と核燃料サイクル	原子力に対する国内外の現状と今後の動向について社会的受容性(PA)の観点も踏まえ解説する。特に高レベル放射性廃棄物や核燃料サイクルなど今後解決すべき課題や技術開発を含め今後を展望する。さらに、夢のエネルギーと言われている核融合についても述べる。 【キーワード】 原子力発電、プルサーマル、高速増殖炉、核融合、社会受容性	柏木孝夫	柏木孝夫
7	化石エネルギーのグリーン化技術とCCS	石炭をはじめとする化石資源のグリーン化利用は低炭素エネルギー需給構造の実現には欠かせない。埋蔵量が豊富な石炭に焦点をあて、ガス化やクリーンコール技術の概要、並びに、CO₂の分離・貯蔵技術(CCS)の現状や今後を展望する。さらに石油のグリーン化利用や海洋バイオマスによるCO₂資源化にも言及する。 【キーワード】 石炭ガス化複合発電、クリーンコール技術、CO₂分離・貯蔵(CCS)、グリーンリファイナリー、海洋バイオマス	柏木孝夫	柏木孝夫
8	省エネルギーとエネルギーマネジメント	エネルギーの合理化、高効率利用の観点から、省エネルギーの社会的意義やその重要性並びに政策の動向について述べ、産業用から民生用に至るまで効果の大きい省エネルギー技術を概観する。特にこれからの省エネルギーは、個々の技術はもとより、ICTを駆使したエネルギーマネジメントによる効果が大きく、その現状と今後を展望する。 【キーワード】 革新的省エネルギー技術、コージェネレーション、エネルギーマネジメント、省エネルギー政策	柏木孝夫	柏木孝夫
9	ヒートポンプとその応用	期待度の大きなヒートポンプの作動原理、特徴など基本的知識を述べた後、産業用から民生用に至るまでその利用システムや効果について概説する。特に産業用では、究極の省エネルギー技術であるVRC(蒸気圧縮)、民生用では給湯用ヒートポンプにも言及する。 【キーワード】 省エネルギー、ヒートポンプサイクル、産業用ヒートポンプ、給湯用ヒートポンプ	柏木孝夫	柏木孝夫

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	再生可能エネルギーシステム	低炭素社会の実現に欠かせない再生可能エネルギーに着目し、その定義、種類、特徴などを述べ、技術開発や政策の現状、並びに多様化する再生可能エネルギー技術に対する経済性の予測や太陽熱発電など海外の事例も含め、今後を展望する。バイオマス系の廃棄物発電や、熱利用にも言及する。 【キーワード】 太陽エネルギー、風力、バイオマス、水力、地熱、潮力、廃棄物エネルギー	柏木孝夫	柏木孝夫
11	太陽電池とスマートハウス	世界で注目を集めている太陽電池に焦点を当て、発電原理からシリコン系太陽電池開発の技術動向や経済性、並びに非シリコン系の動向も展望する。日照に左右され不安定な発電をする太陽電池が家屋に標準装備されるとホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)を活用したハウスのスマート化が必要となり、そのコンセプトを述べると共に、メガソーラの海外事例も紹介する。 【キーワード】 太陽電池の原理と種類、逆潮流、蓄電池、スマートハウス(HEMS)、メガソーラ	柏木孝夫	柏木孝夫
12	燃料電池と水素社会	電気化学的反応を利用した燃料電池による発電システムの原理と実用化されている種類について概観する。高効率な固体電解質(SOFC)や給湯器の代わりに導入される固体高分子(PEFC)などの導入システムを紹介する。さらに大型発電システムへの応用(IGFC)をはじめ、将来の都市エネルギーを牽引する水素社会を展望する。 【キーワード】 燃料電池の原理と種類、水素社会、燃料電池複合発電システム(IGFC)	柏木孝夫	柏木孝夫
13	自動車とエネルギー	石油に依存していた自動車も電化に向けて変化し始めた。ハイブリッド車からプラグインハイブリッド車、電気自動車の現状と今後を展望する。更に、石油に代替するバイオ燃料の開発や海外の動向も紹介する。 【キーワード】 自動車の電化(PHV, EV)、蓄電池(リチウムイオン電池他)、バイオ燃料	柏木孝夫	柏木孝夫
14	スマートエネルギーネットワークシステム	これまで築いてきた送配電網の中に、太陽電池や風力発電など自然エネルギー系発電システムを最大限取り込むためには、次世代型送配電システム(スマートグリッド)の整備が必要になる。欧米での事例を紹介しながらスマートグリッドの概念を解説すると共に、都市部では電力だけでなく、熱や水素までも統合的に制御するスマートエネグリーネットワーク構想にも言及する。 【キーワード】 次世代送電網(スマートグリッド)、スマートエネルギーネットワーク、スマートシティ	柏木孝夫	柏木孝夫
15	低炭素型社会とエネルギー	持続可能な低炭素エネルギー社会の実現に向け、産業から民生に至るまでを総括する。これからの暮らしとエネルギーを統合的に考えることにより、本講義のまとめとする。 【キーワード】 低炭素社会と排出権、資源循環と逆工場、スマートコミュニティー	鈴木基之 柏木孝夫	鈴木基之

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847430	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 色を探究する （'13）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）： 佐藤仁美 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 〕

講義概要

ヒトは、視覚的生き物とも言われている。また、色を通して、様々な表現をし、色彩によって多種多様な影響を受けている。ヒトの言葉には、色を用いた感情や状態を表す言葉も少なくない。たとえば、「腹黒い」「赤っ恥」「黄色い声」「気持ちがブルー」など、数多くの言語表現が存在する。本科目では、「色」というものに、自然科学的視点・社会文化的視点・生活環境的・心理的視点など多角度からアプローチし、色の持つ意味を解き明かしていき、最終的に、我々が住み心地・生き心地をよくする色の活用に結び付けていきたい。多領域にも携わるテーマのため、広い領域・分野層の学生に受講を勧めたい。

授業の目標

1. 色彩と言う多様な分野を包括する1つの概念を通し、物事を多方面から立体的に捉えられるような柔軟な視点でものを見、考える姿勢を身につける。
2. 本科目を学ぶことで、居心地や生きやすさの工夫などを試みるなど、日常生活の場にも発展させていく。
3. 本科目をきっかけに、広く学ぶ姿勢を身につけ、すべての学問は関係ないように関係していることを知る。

履修上の留意点

本科目とあわせて受講を勧める。
和歌文学の世界、文化人類学、芸術史と芸術理論、社会の中の芸術、日本美術史、環境デザイン論、産業とデザイン、心理臨床とイメージ

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	色のいろいろ	「色」に関する日常的出来事から研究法まで、学生の興味をそそる映像を使いながら色のさまざまな要因について簡単に説明し、本科目の全体像をガイダンス的に構成する。色を捉える立体的視点・科目を通して流れる縦糸と横糸を概説していく。 【キーワード】 色 色相 彩度 明度 色環 色立体 色彩学	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤 仁美 (放送大学准教授)
2	色の物理的・心理的体験	「色を見る」「色を感じる」ということについて概説し、視知覚としての色の見え方・感じ方・捉え方、見えているのに見えていない色、見えているのみ見えない色などを、心理学的視点から追究していきたい。 【キーワード】 視覚 色覚 視知覚	佐藤仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) ゲスト:西川泰夫(上智大学客員教授)
3	自然界と色Ⅰ ～色の起源・物体の色の原因～	オーロラは、どうして様々な色を放つのか、青空や夕焼けの色を考える。通常の意味での色は太陽光の発する光の波長からの違いに対するわれわれの感覚の応答の仕方であること、物質により特定の波長の光への応答が違ってくるこの理由を、自然科学の立場で学ぶ。 【キーワード】 電磁波、吸収と発光のメカニズム、物質のもつ量子性	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授) 佐藤仁美(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	自然界と色Ⅱ ～動植物や鉱物の色とその働き～	動植物や鉱物は豊かな色彩に溢れている。それらの物質的な原因を探ると共に、特に生物においては色が生命活動においてどのような意味をもっているかを考える。 【キーワード】 生体分子とその色、鉱物の成分とその色	濱田嘉昭 (放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授) 佐藤仁美(放送大学准教授)
5	色と言葉	色を言葉で捉えるとはどういうことかを、様々な色の呼び方や色を表現するときに使われる語を通して考察すると共に、日本語に最も古くからある色の名称の語源や色名の含む日本語の慣用句などから、色と言葉の関連について検討する。 【キーワード】 系統色名、慣用色名、固有色名、伝統色名、流行色名、言語決定説、言語相対説、名付けの機能	大橋理枝 (放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授) 佐藤仁美(放送大学准教授)
6	文化と色	色の変化は連続的であるため、色の区別は文化によって異なる。文化による色の区切り方の差や、英中における色の象徴性などを検討することを通じて、文化による色の捉え方の違いを考察する。 【キーワード】 虹の色、分節化、基本色彩語、色の象徴性	大橋理枝 (放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授) 佐藤仁美(放送大学准教授) ゲスト:本多俊和(放送大学客員教授)
7	社会の中の色 ～ジェンダーの視点を中心に～	我々が生まれてから当たり前のように、男子の色・女子の色が使い分けられてきている。その区分は、どこから生まれたのか？ 社会文化的色意識について探る。 【キーワード】 ジェンダー・ジェンダー意識・二項図式・社会的規範	佐藤仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) ゲスト:宮本みち子(放送大学教授)
8	生活の中の色	日常生活の中には、メイク・服装・食品など、さまざまな色が存在する。我々がふれている日常の色について、主に食にかかわる色にアプローチする。 【キーワード】 安全色 流行色 五味・五色・五法	佐藤仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) ゲスト:大谷貴美子(京都府立大学 生命環境学部教授)
9	日本の伝統色～漆器の色を中心に～	漆塗りは日本の伝統工芸の代表的なものである。日本の色を漆器から俯瞰し、時の移ろいとともに変化する漆の色を味わう。 【キーワード】 伝統工芸(伝統的工芸) 漆 漆器	佐藤仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) ゲスト:宮崎清(千葉大学名誉教授)
10	古典文学に見る色	色について語られた文学作品、わが国最古のものは、万葉集にあるといわれている。また、源氏物語・枕草子など、色を象徴的に用いた作品は数ある。襲色目をもとに、古典文学の中に表現された色について考察する。 【キーワード】 位階 襲 襲色目 女房装束 濃し 淡し	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	黒い聖母	ヨーロッパ・キリスト教美術における色の意味について考察する。伝統的に、聖母マリアに相応しい色は、純潔を意味する白である。しかし、ヨーロッパには、黒い聖母像も存在している。なぜ黒い聖母が生み出されたのか、ということ明らかにして、ヨーロッパ文化の戦略的ダイナミズムを明らかにする。 【キーワード】 キリスト教美術、聖母マリア、黒い聖母、異教的生命力、黒	青山昌文 (放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
12	『ベアトゥス黙示録注解』写本挿絵	芸術についての近代的偏見について述べ、『ベアトゥス黙示録注解』写本挿絵のもっている真の芸術的価値を明らかにする。『ヨハネ黙示録』のラテン語に基づいて、赤の意味を明らかにして、『ベアトゥス黙示録注解』の特にファクンドゥス写本における、素晴らしい赤の意味などについて考察する。 【キーワード】 『ベアトゥス黙示録注解』、写本挿絵、ファクンドゥス写本、赤	青山昌文 (放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
13	環境の中の色彩Ⅰ (建築学的視点)	建築における基本原理と色彩の機能側面について概説する。さらに建築の色彩の外部環境に与える影響、すなわち景観およびデザインエレメントとしての色彩の重要性等について利用する側、見る側、つくる側からの視点を通して考察する。 【キーワード】 マンセル表色系、三属性、対比、同化、色彩の機能、建築の色彩、環境デザインとしての色彩、建築家と色彩	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授) ゲスト:田邊大学 (武蔵野美術大学講師)
14	環境の中の色彩Ⅱ (都市環境的視点)	都市を構成する色について概説する。美しい都市はその固有の色彩を有しているが、現代都市の基盤の構成材料が多様化され、化学塗料等の開発によって土地固有の色を失いつつある。景観法も整備され、都市の色彩を新たに調整する必要性について考察する。 【キーワード】 色彩の秩序、地色、図色、慣例色、誘目性、記号色、地域色、騒色、景観法、突出色	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)	仙田 満 (東京工業大学名誉教授) ゲスト:田邊大学 (武蔵野美術大学講師)
15	色と生きる	さまざまな視点から俯瞰した色を通して、我々が普段経験している色について再考する。さらには、色を用いたセラピーなども含み、色に関する心地よさを探求する。 【キーワード】 陰陽 五行 陰陽五行説 コーディネート	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授) 濱田嘉昭(放送大学教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 青山昌文(放送大学教授) 仙田 満(東京工業大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847449	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 文学のエコロジー （'13）＝（R）

〔主任講師（現職名）： 宮下志朗（放送大学教授） 〕
 〔主任講師（現職名）： 〕
 【本学担当専任教員： 】【

講義概要

本講義では、通常の文学論やテキスト読解とは異なり、「文学」を取り囲み、支えてきた秩序や制度について、その歴史を視野に収めながら、考察していきます。たとえば「口承文学」、「写本」と「活字本」、「著作権」、「識字率」、「読書」、「電子本時代の出版」といったトピックを通じて、文学の「生態学(エコロジー)」について、さまざまな角度から考える試みといえましょう。「エコロジー」という命名には、現在、変革と危機の状況に置かれている「文学」の「環境保護」という願いも込められています。なお、「放送教材」では、「武勲詩」を講談師に朗読してもらうなど、工夫を凝らしてあります。

授業の目標

「文学」について、いわば搦め手から攻めることで、あらためてこの言語芸術作品に興味をいだいてもらおうと同時に、「文学」が、たとえば法律や経済など、さまざまな領域と密接に関連した存在であることを実感してください。

履修上の留意点

扱う主な対象は、ヨーロッパと中国ですが、特に外国語の深い知識は必要としません。基礎科目「世界の名作を読む('11)」とは、アプローチが異なりますが、それゆえに相互補完的な科目となると思います。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	口承文学と写本	まず、エコロジー(生態学・環境学)という視点から「文学」を見ることについて、説明をおこなう。次に、中世フランスで成立した叙事詩『ロランの歌』を鑑賞しつつ、口承性、作者の問題といったことについて考えてみる。 【キーワード】 エコロジー(生態学)、武勲詩、口承性(オラリティ)、作品と固有名	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
2	中世の読書とその変容	ヨーロッパ中世の時代、文学は徐々に音声やパフォーマンスの現場を離れていくことになる。読みのふるまいの変容を、聖と俗、大学とスコラ学といった観点から考察してみる。 【キーワード】 韻文と散文、音読と黙読、写本文化、修道院、大学、スコラ学	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
3	中世文学とパトロネー ー謹呈と恩赦	文学・芸術とパトロネージ(パトロン・システム)は、切っても切れない関係にある。中世の作者は、特定の庇護者を第一の読者と想定して、物質的な見返りや赦免を期待して作品を執筆していた。そうした実情を探る。 【キーワード】 パトロン、謹呈、想定読者、恩赦、シャルル・ドルレアン、ヴィヨン	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	ルネサンス人の読書のエコロジー	ペトラルカ、マキアヴェッリ、モンテーニュという、ルネサンスを代表する3人の著作家の、読みのふるまいと、その象徴性について具体的に考察する。 【キーワード】 外と内の往還、政治と隠遁、書斎、閑暇(otium)、小型本	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
5	著作権前史	近代的な著作権の前身としての「特認」システムについて学び、次いで私信の公刊をめぐる裁判を通して、著作権のモノからの離陸について解説する。 【キーワード】 「特認」、版元vs作者、手紙と著作権、「書簡裁判」	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
6	アジア漢字圏における本と読書(1)明末における白話小説の成立	『三国志演義』や『水滸伝』などの白話小説は、中国明代の後期に突然のように出現した。この現象はなぜ起こったのか。この問題について、その精神的及び物理的背景について考える。 【キーワード】 『三国志演義』、『水滸伝』、白話、民衆の発見、出版文化	大木康(東京大学教授)	大木康(東京大学教授)
7	アジア漢字圏における本と読書(2)——明清時代における文学作品の出版と流通	明清時代における文学作品の出版と流通をめぐる状況を、より広い観点から解説する。 【キーワード】 詩文集、写本、刊本、『金瓶梅』、『聊齋志異』、『紅樓夢』、李漁、版權	大木康(東京大学教授)	大木康(東京大学教授)
8	読み書きの民主化——識字率について	書かれたものとしての「文学」を受容する前提は、文字を読むことである。「識字率」とその変遷について、過去の人々の読み書き能力を知る方法などについて学ぶ。 【キーワード】 識字率、婚姻署名、性差、フィレンツェの「カタスト」	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
9	バルザックのメディア戦記	出版業、活字製造業、ブッククラブと、さまざまな試みをしたあげく借金まみれとなったおかげで《人間喜劇》を残せた、バルザックの戦いの人生をたどり、19世紀の「文学のエコロジー」が抱えていた諸問題を浮き彫りにする。 【キーワード】 「市場の芸術家」、バルザック、実業家と作家、著作権、「人物再登場の手法」	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
10	文学と金銭—フロベールのジレンマ	「文学」と「金銭」とは、両立可能なものなのだろうか？ 一度も職業につくことなく、ひたすら小説の書き直しを続けたフロベールが、原稿料に対すして示した逆説的なふるまいについて、具体的に解説する。 【キーワード】 買い取り制と印税、純文学、フロベール『書簡集』、「辻芸人」	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	「文芸家協会」「アカデミー」「文学賞」	読者マーケットと対峙することになった作家たちの、象徴的なふるまいとして、「文学」をめぐる保護や顕彰のシステムの成立について解説する 【キーワード】 「文芸家協会」、「アカデミー・フランセーズ」、「ゴンクール賞」	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
12	近代中国における文学出版の環境	中国における近代文学という制度の成立およびその政治との関係の過程、加えてその背景となった大都市におけるマスメディア・出版社の発展過程、また著作権制度や原稿料制度の動きについて解説する。 【キーワード】 近代文学、マスメディア、職業作家、原稿料、政治と文学	尾崎文昭(東京大学名誉教授)	尾崎文昭(東京大学名誉教授)
13	「手紙と著作権」再考、そしてインターネットの世紀へ	第5回で、イギリスにおける書簡の著作権をめぐる裁判を紹介したが、わが国では、ごく最近もこの問題が裁判沙汰となっている。「三島由紀夫手紙事件」について、判決を読んでみる。最後に、電子媒体としての文学について簡単にふれる。 【キーワード】 手紙と著作権、「書簡裁判」、著作権法、紙媒体と電子媒体	宮下志朗(放送大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)
14	出版の経済学	出版とはどういう仕事なのか。出版業界とはどういう仕組みで動いているのか。本作りから編集～印刷・製本を経て取次・書店から読者へ。本のコストとは？ 出版には企画立案、初版部数と定価決定など、さまざまな局面があり、そうした諸問題について出版現場から報告する。 【キーワード】 専門書と一般書、出版企画、編集技術、出版流通	西谷能英(未来社、社長)	西谷能英(未来社、社長)
15	文学のこれから、出版のこれから	14回までの内容に関して、おたがいに疑問点を出して、理解を深める。また、紙の本の文化の大切さを基調としながら、電子ブックなど、インターネット環境における、文学・人文書のあり方について話し合う 【キーワード】 電子ブック、紙の本、本の過去と未来	宮下志朗(放送大学教授)、西谷能英(未来社、社長)、尾崎文昭(東京大学名誉教授)、大木康(東京大学教授)	宮下志朗(放送大学教授)、西谷能英(未来社、社長)、大木康(東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1550314	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 社会の中の芸術 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：青山 昌文（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：坂井 素思（放送大学教授）〕

講義概要

この講義は、芸術のもっている様々な深い社会的意味を明らかにするものです。「芸術が分かる」ことの感動が、「社会が分かる」ことの感動につながっているのです。また、この講義では、従来の芸術概念を超えて、料理をも芸術の一つとして捉え、それぞれの料理の違いが、それぞれの社会の違いを見事に表していることについても言及しています。この講義は、社会学の一分野である芸術社会学に属するものではなく、より広く、芸術学・経済学・歴史学等の交差する地平において、芸術の様々な深い社会的在り方を明らかにするものです。

授業の目標

芸術を、単に芸術家個人の自己表現として捉えるのではなく、より広くその芸術家が生活している社会全体の中で捉えるのが、この講義の基本的な視点です。芸術を生み出す社会的な深いダイナミズムを、政治的な観点等をも踏まえながら、美学芸術論・経済学・美術史学・哲学・表象文化論等の知見を駆使して明らかにしてゆきます。この講義を受講することによって、芸術が、単に好き嫌いの趣味の次元で語られるようなものではなく、より深い社会的な意味をもっているものであることが分かるようになることが、この講義の目標です。

履修上の留意点

「芸術史と芸術理論('10)」が、主として芸術の哲学的・思想的な意味を明らかにしているのに対して、この講義は、主として芸術の社会的意味を明らかにしており、両者は、相まって芸術の様々な意味を明らかにしている科目群です。尚、以前の放送大学講義「芸術・文化・社会('03)」「芸術・文化・社会('06)」と、貴重なインタビュー映像などを再びお見せしたいなどの理由で内容の重複している回がありますが、全体としては新しい内容の回が多くを占めているので、再履修不可とはしていません。この点をご注意の上、履修登録をしてください。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	多様性の織物としての芸術	芸術は、実に様々なものの折り重なった多様性の織物です。その芸術の本質を、デイドロの芸術哲学を基に明らかにし、その上に立って、要素還元主義的ではない、全体論的な立場から、芸術の社会的意味を考えてゆきます。 【キーワード】 デイドロ、存在の連鎖、関係の美学、多様性、全体論	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
2	芸術文化と卓越性	社会のなかで、欲望が芸術文化を通じてどのように顕在化されるのかをみます。芸術文化には、卓越性を求める傾向があります。今回は、嗜好品文化としてのコーヒーを取り上げます。「UCC」、「カフェパッパ」、「ミ・カフェート」などを取材しながら、嗜好品文化がどのように作り出されるが、それがどのようなプロセスを辿り、社会的な作用を及ぼすかについてみていきます。 【キーワード】 コーヒー、卓越性、趣味、ブルデュー	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
3	広告美術と共通感覚	日本ポスターの変遷を見ながら、産業の中に、積極的に芸術が取り入れられていく現象についてみていきます。「資生堂」を取材しながら、どのようなスタイル・流行が主導するのかについて見ていきます。また、広告論などの影響についても考えます。 【キーワード】 ポスター、コマーシャルイズム、文化産業	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	地域文化と固有性	芸術文化は社会の地域性と密接な関係を持っています。素材や対象物のもつ固有の意味について考えます。今回は、山梨県甲州市勝沼のぶどう酒醸造家を取り上げて考えていきます。 【キーワード】 地域性、固有性	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
5	芸術価値と経済価値	芸術文化産業は、生産性が低いという特性があります。芸術の集団、団体、組織などの組織的対応がどのように変化するのかという問題と、サービス経済化と社会の問題について考えます。ここでは、川崎ミューザの「東京交響楽団」を取材して、オーケストラの経営を取り上げて考察します。 【キーワード】 産業のサービス経済化、芸術の生産、生産性の違い、コスト病、ボウモル	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
6	職人技と社会美	今日、手仕事による職人技が見直されてきています。なぜ現代においても、職人技は必要とされるのでしょうか。今回は、有田の「今泉今右衛門窯」を訪ねて、美術・工芸品もつ社会美の特性について考えます。また、現代における伝統や徒弟制の意味、消費者にとっての芸術の意味についても考えます。 【キーワード】 職人技、伝統の価値、怠惰な好奇心、共通資産、ヴェブレン	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
7	文学と社会-文化変容論-	或る文学作品が別の文化圏に受容されるとき、受容する側の社会の特質がその文学作品に鋭い変化を与えることがあります。この受容における変容の社会的意味を、『日本文学史序説』の著者である加藤周一へのインタビューを交えながら考えてみます。 【キーワード】 受容、変容、加藤周一、日本文化、安藤昌益	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
8	美術館の誕生-社会における美術の位置-	近代的な意味での最初の市民的大美術館であるルーヴル美術館の誕生の歴史をたどりながら、日本とフランスの社会における美術の位置の違いを考察します。その違いは、芸術の社会的意義の両者における大いなる違いを明るみに出すのです。 【キーワード】 展覧会、アンシャン・レژیーム、革命、美術館、国家戦略	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
9	宗教と美術-カトリック改革と美術	もっとも西洋的といわれる17世紀のバロック芸術を生み出したのは、ローマを中心とするカトリック改革(反宗教改革)でした。この運動は日本にも及びました。聖年、巡礼、海外布教、殉教といった宗教運動がいかに芸術と結びつき、豊かな成果をあげたのかを概観します。 【キーワード】 カトリック改革、ローマ、バロック、南蛮美術	宮下規久朗(神戸大学准教授)	宮下規久朗(神戸大学准教授)
10	カラヴァッジョにおける芸術と社会	宗教画を刷新して近代リアリズムの祖となったカラヴァッジョは、カトリック改革期のイタリアが生み出した天才で、当時の宗教や思想と深く結びついていました。この画家の革新的な作品の成り立ちや意味を、17世紀初頭の時代と社会から考えます。 【キーワード】 カラヴァッジョ、宗教画、リアリズム、革新	宮下規久朗(神戸大学准教授)	宮下規久朗(神戸大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	食と西洋美術	西洋には食を扱った美術がきわめて多いのですが、これは西洋の特殊性といってもよいことです。「最後の晩餐」や「聖餐の秘跡」という思想が大きく関係し、それが変奏していったのです。食の表現を通して西洋芸術の特質に迫ります。 【キーワード】 食、西洋美術、最後の晩餐、聖餐の秘跡	宮下規久朗 (神戸大学准教授)	宮下規久朗 (神戸大学准教授)
12	食材と静物画	静物画は古代に始まり、近世に復活した重要なジャンルで、そのほとんどが食材を扱ったものでした。それは、リアリズムの追求から、教訓的意味を持つものを経て、19世紀に造形的実験の舞台となり、戦後のアメリカでも流行しました。静物画を通して西洋の美術のあり方を考えます。 【キーワード】 静物画、トロンプ・ルイユ、造形的実験、ポップ・アート	宮下規久朗 (神戸大学准教授)	宮下規久朗 (神戸大学准教授)
13	料理美学序説	料理を、芸術の内の一分野として捉え、料理における美味の本質を哲学的・芸術学的に考察します。カント美学の限界を乗り越えて、存在の連鎖と生命の連鎖の直中にあるものとしての料理芸術の本質を、現代的な見地から明らかにしてゆきます。 【キーワード】 存在の連鎖、生命の連鎖、存在強度、自然への敬意	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
14	料理芸術における普遍性と特定性	料理芸術は、他の芸術と同様に、それぞれの社会において異なる特質を持っています。フランス料理と日本料理を例にとり、その料理の特質の違いが、各々の社会の文化的特質の違いに由来していることを明らかにしてゆきます。 【キーワード】 普遍性、特定性、細部の洗練、多様性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
15	料理芸術についての言説	料理についての原理的考察の歴史において特に名高いブリヤ・サヴァランの言説と、日本の北大路魯山人の言説を採り上げて、料理芸術についての考察の歴史の一端を振り返り、その文化論的な意味などを明らかにしてゆきます。 【キーワード】 料理、文化、実在論、サヴァラン、魯山人	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847465	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 途上国を考える （'14）＝ （TV）

英文名 ＝ [Reconsidering Development ('14)]

〔主任講師（現職名）：高木保興（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河合明宣（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

これまで当たり前と思われていた途上国開発に関する分析や提言をもう一度考え直してみると、異なった考え方もできる、別の提言も可能になることを示すこと。それによって、学者の意見や国際機関から発せられる提言について、一人ひとりが鵜呑みにせず、考えてみることの重要性を明らかにしたい。

授業の目標

一部の地域事情や成長率の推移、あるいは、個別の援助プロジェクトなどは各自で勉強してもらい、ここではもっと根本的と思われる問題を議論する。前半は途上国が直面する問題を、後半は先進国や国際機関、あるいは、国際NGOや大企業が「途上国のため」と判断して実行する「援助」について考える。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	イギリスの産業革命を考える	今日の南北格差の主原因は産業革命を達成したか否かによる。多くの途上国はなぜ産業革命を達成できないのか。この問題を考えるために、なぜ18世紀にイギリスで産業革命が起きたのかを調べ、途上国に欠けている条件は何かを考える。 【キーワード】 産業革命、市民革命、宗教改革	高木保興(放送大学教授) 河合明宣(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授) 河合明宣(放送大学教授)
2	途上国「国家」を考える	多くの途上国に共通する特徴は、政治に不安定要素を抱えていることである。植民地統治の「負の遺産」の中で、宗主国による国境画定と民族・部族・宗教等のアイデンティティの強調政策を採りあげ、独立後の国民統合の困難さを考える。政府が安定性維持を最優先にすると、社会変化をもたらす産業革命は敬遠されるのではなかろうか。 【キーワード】 植民地時代の負の遺産、国家のまとまり	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
3	国際政治経済環境を考える―戦後から債務問題まで	途上国の置かれた戦後の国際政治経済環境は途上国の開発にとって望ましい状況を提供してくれたのであろうか。戦後から債務問題までの期間を検討する。 【キーワード】 国連開発の10年、石油危機、債務問題	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	国際政治経済環境を 考えるー構造調整から 通貨危機まで	途上国の置かれた戦後の国際政治経済環境は途上国の 開発にとって望ましい状況を提供してくれたのであろうか。 構造調整から通貨危機までの期間を検討する。 【キーワード】 構造調整、冷戦崩壊、グローバリゼーション	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
5	第一次産業の開発を 考える	産業革命において、第一次産業の果たす役割を考える。 農業部門の成長に大きく貢献したと思われる3つの挑戦を 紹介し、産業革命に先だって、あるいは、産業革命と並行し て求められる農業改革について考える。 【キーワード】 農業余剰、余剰労働、慣習の打破	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
6	第二次産業の開発を 考える	農業よりも生産性の高い雇用機会の提供が第二次産業に 課された役割であるが、未成熟な国民国家という途上国に 共通した特徴がなぜ工業化の阻害要因となるのか考える。 【キーワード】 社会(関係)資本、民族・部族間所得格差	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
7	第三次産業の開発を 考える	第二次産業と平行して、あるいは、第二次産業の後に比重 が大きくなると考えられてきた第三次産業であるが、インド のIT産業の目覚ましい発展は第二次産業とは独立に第三次 産業の発展が可能であることを示した。途上国には、工業 化(第2次産業化)を走り続ける中国と「知価革命」を進める インドとの2つの選択肢が示された。どちらの道を目指すべ きなのかを考える。 【キーワード】 インド型発展、輸出可能なサービス産業	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
8	工業化に伴う問題を 考える	途上国の首都によく見られる交通渋滞とスラム、それに環 境問題。それぞれの問題に個別に対応しようとすると適切 な対策が採用されにくい。急速な工業化に伴って発生して きた問題と考えると、対処が異なってくることを議論する。 【キーワード】 首都一極集中、スラム、環境問題	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
9	国際社会のサポート を考える	1980年代の世界銀行や国際通貨基金(IMF)による構造調 整やアジア通貨危機後にIMFが求めたコンディショナリティ は多くの途上国には不適切なものであった。なぜ国際機関 による提言や勧告は的を外れるのであろうか。政策が効果 を発揮しうる「場」について考える。 【キーワード】 ワシントン・コンセンサス、コンディショナリティ	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	貧困削減を改めて考える	貧困削減という言葉は2通りの意味合いに使用される。8項目からなるミレニアム開発目標にも両者が混在している。絶対的貧困と相対的貧困の間にはどのような関係があるのか考える。 【キーワード】 南北問題、ミレニアム開発目標	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
11	BOPビジネスを考える	1日2ドル以下で暮らす社会の底辺階層の人たちは、これまで民間企業の顧客とはみなされてこなかった。しかし、地球全体で40億人にも上るので、この人たちをターゲットにしたビジネスもうまくやれば利潤をあげることができるのではないかとアイデアがアメリカの経営大学院の先生から生まれた。事例として紹介されているBOPビジネスを検討し、援助関係者が途上国の開発にも役立つのではと力を入れ始めたBOPビジネスを考える。 【キーワード】 BOPビジネス、貧困層優先成長	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
12	政府開発援助を考える	1つの途上国の1つの地域に10年から20年継続して政府開発援助(ODA)を注ぎ続けることは困難である。ODAによって有効な効果を期待することはできるのだろうか。どのような分野であれば、少なくとも望ましい効果を期待できるのだろうかを考える。 【キーワード】 ODA、説明責任、援助効果の持続性	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
13	企業の社会的責任、非政府組織、そして、社会的企業を考える	政府、あるいは、国際機関以外に途上国の開発に関係しているアクターとして、民間企業と非政府組織(NGO)と非営利の社会的企業の長所と短所を比較し、今後大きな成果を上げるにはどうすれば良いかを考える。それぞれのアクターが個別に活動するよりも、各アクターの長所を生かせるような協力関係の構築も1つの選択肢である。 【キーワード】 企業の社会的責任(CSR)、NGO、社会的企業	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
14	途上国政府の役割像を考える	国際社会は途上国に対してどのような政府の役割を期待し、勧告・提言を行ってきたか。1960年代から2000年代までその役割像の変遷を概観し、今後の途上国政府に期待される役割について考える。 【キーワード】 成長から生活保護へ、大きな政府から小さな政府へ、人間の安全保障	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣
15	途上国の明日を考える	国際社会の提言からの教訓は、途上国政府自ら自国に適した開発政策を考えることができる体制の構築である。ミレニアム開発目標に盛り込まれた目標は多くの途上国にとって実現不可能な目標ではないか。実現に必要な財源をいかにして捻出するのか。現在世代の生活保護か将来世代の生活水準アップか、どちらも重要で優劣付けがたいが、持続性を考えれば政策を継続できる財源確保を優先すべきではないかというのが著者の見解である。そのための政策の選択肢について考える。 【キーワード】 ブミプトラ政策、国営企業	高木保興 河合明宣	高木保興 河合明宣

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847473	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 国際ボランティアの世紀 （'14）＝ （TV）
 英文名 ＝ [The Century of International Volunteers ('14)]
 [主任講師（現職名）： 山田 恒夫（放送大学・教授）]
 [主任講師（現職名）：]
 【本学担当専任教員： 】

講義概要

国際ボランティア活動は、グローバル化した21世紀の市民社会の形成に大きな役割をはたすものと考えられている。国際ボランティア研究のトピックとその実践における多様な側面を紹介することで、国際ボランティア活動に対する理解を深めると同時に、国際ボランティアを自らのキャリアとのかかわりの中で考えられるようにする。国際ボランティアは市民の参加する活動であり、市民が世界の課題に目を向け、その課題解決に自らが関わることを目指すものである。国際ボランティア活動とその体系化には我が国が大きな貢献を果たしており、その実践活動と学問内容を知ることには大きな意味がある。国際ボランティアは、東日本大震災をはじめ、最近の巨大災害で社会で注目を浴び、企業や中高年層が大きな関心を持っている分野である。

授業の目標

- ① 知識としての国際ボランティア活動ではなく、自らも参加できる国際ボランティア活動であることを知る。
- ② 国内外における国際ボランティア活動の多様な実践を知り、身の回りでも自分のできることがあることを知る。
- ③ そのためのいろいろな組織があり、学ぶ場があることを知る。
- ④ ボランティア活動は、他者を支援する機会というばかりでなく、ボランティア自身が人として学ぶ場、相手からたくさんのことを教えてもらう場であることに気づく。

履修上の留意点

特になし

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	国際ボランティア学とは	ボランティアおよびボランティア活動の定義と特徴、国際的な文脈でのボランティア活動の意義を説明しながら、学問としての国際ボランティア学の概要を紹介する。隣接領域の学問と関連させながら、国際ボランティア学の学問的な特徴とその体系、基本的な方法論について説明する。本科目の構成とその学び方を解説する。 【キーワード】 国際ボランティア活動、国際ボランティア学、国際ボランティア、自発性、カリキュラム、キャリアデザイン	山田恒夫(放送大学・教授) 内海成治(京都女子大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授) 内海成治(京都女子大学・教授)
2	保健医療協力と国際ボランティア	保健医療協力においては、国連ミレニアム開発目標(MDGs)に掲げられている感染症対策や母子保健分野が重要課題である。同時に、地域での保健医療を支える人材の育成や仕組みづくりにも必要である。インドネシアやスーダンでの事例を中心に、健康を守るボランティア活動について考えてみる。 【キーワード】 プライマリヘルスケア、保健システム強化、感染症対策、母子保健、母子健康手帳	中村安秀(大阪大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)	中村安秀(大阪大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)
3	教育協力と国際ボランティア	開発途上国への教育協力は日本人にとって最も関心が高い分野の一つである。国際協力においても教育は最も重要な分野である。本章では、国際教育協力の現状を述べ、次に国際ボランティア活動におけるこの分野を検討する。海外からの教育支援やボランティア活動が実際に役に立つようにするには様々な工夫が必要である。例えば、その国の教育政策や文化的背景・風土、教育の方法などを考えねばならない。ケニアの乾燥地域での学校作りを例として、何が行われ、どのような工夫が必要なのかを考える。 【キーワード】 教育協力、教育政策、学校建設、ケニア	内海成治(京都女子大学・教授)	内海成治(京都女子大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	村落支援と国際ボランティア	いくつかの事例を紹介しながら、多くの困難を抱える開発途上国の農漁山村への国際ボランティア活動を考える。グローバル化の恩恵から取り残された地域には、さまざまな「周縁化(marginalization)」の問題が山積する。国際ボランティア活動にも、個別地域に応じた、独創的できめの細かい対応が求められる。村落支援活動の多面性、活動の持続性に関わる要因について解説する。 【キーワード】 村落支援、少数民族、地域経済、周縁化、開発途上国	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授)
5	フェアトレードと国際ボランティア	フェアトレードとは開発途上国の人々への支援の一環として、より公正な価格での取引を目指す活動である。フェアトレードは比較的新しい言葉であるがすでに市民権を得ていると思われる。そしてフェアトレードは市民が国際ボランティアに関わる手軽で、かつ大きなインパクトを与える活動である。しかし、実際にどのようなことが行なわれているのか、フェアトレードを行っている団体は何をしているのか、あまり明らかではない。本章ではフェアトレードは何かを概説し、特に重要な商品であるコーヒーについて説明し、実際に東ティモール支援としてコーヒーのフェアトレードを行っているNGO(ピース・ウインズ・ジャパン)の活動を紹介し、フェアトレードと国際ボランティアについて考えることにしたい。 【キーワード】 フェアトレード、コーヒー、東ティモール、国内でできる国際ボランティア活動	内海成治(京都女子大学・教授)	内海成治(京都女子大学・教授)
6	子どもを守る国際ボランティア	子どもが生まれ、健康に育ち、教育を受ける機会を得て、大人に成長する。その成長の過程が、安全に保障されている国や地域は決して多くはない。「子どもの権利条約」がめざすものは何か、世界のなかで、子どもたちを守るために、どのような取り組みが行われているのか。そして、グローバル世界の活動を知ることにより、日本において子どもは守られているのだろうかという問いかけを返してみたい。 【キーワード】 子どもの権利条約、子どもの参画、子どもの保護、児童労働	中村安秀(大阪大学・教授)	中村安秀(大阪大学・教授)
7	緊急支援と国際ボランティア	地震や水害等緊急支援では多くの国際ボランティア活動が行われる。緊急人道支援は他の支援と異なりスピーディな支援と現地政府や国際機関との連携が必要である。インドネシア・アチェにおける地震・津波災害支援をもとに緊急災害救援の仕組みや課題を紹介しつつ、東日本大震災の支援についても考えてみたい。 【キーワード】 自然災害、人道支援、インドネシア、東日本大震災、心理社会的ケア	中村安秀(大阪大学・教授)	中村安秀(大阪大学・教授)
8	国内の外国人に対する国際ボランティア	日本には多くの外国人が暮らしている。地域住民である外国人の保健医療福祉などの環境はどうなっているのだろうか？ 国籍や民族などの異なる人びとが、地域社会の構成員として対等な関係性の中で、ともに暮らしていける社会をめざすには、何が求められているのか。保健医療に焦点をあてるなかで、共生のあり方を考えていく。 【キーワード】 在住外国人、保健医療、医療通訳士	中村安秀(大阪大学・教授)	中村安秀(大阪大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
9	キャリアとしての国際ボランティア:成長過程とコンピテンシー	国際ボランティア活動を国際ボランティアという、それに従事する人間の視点から考察する。ひとりの人間において、国際ボランティア活動が実現されるとき、どのような成長過程をたどるのか、国際ボランティアとして成熟する過程でどのような知識や技能、その総体としての能力(コンピテンシー)を必要とするか、国際ボランティアとしてのキャリアパスにはどのようなものがあるか、検討する。 【キーワード】 生活史(ライフ・ヒストリー)、ライフ・ストーリー、コンピテンシー、キー・コンピテンシー、ESDコンピテンシー、キャリアパス	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)
10	NGOと国際ボランティア	NGOは国際ボランティア活動を担う組織であり、国際ボランティアへの市民の参加のための、最も重要な組織である。しかし、広く認知されるようになったとはいえ日本におけるNGOはまだ発展途上である。財政面、人材面において大きな課題を抱えている。NGOとはどのような組織であり、何を目指しているのか、そしてNGO活動の現状と課題とは何か、紹介する。 【キーワード】 NGO、ピース・ウィンズ・ジャパン、ジャパン・プラットフォーム、南スーダン	内海成治(京都女子大学・教授)	内海成治(京都女子大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)
11	企業CSRと国際ボランティア	企業の国際ボランティア活動の現状と課題を取り上げる。企業による国際ボランティア活動は企業の社会的責任(CSR)として近年活発になっているが、必ずしもCSRに関する論点は明確になっていない。またCSRが効果を発揮するためには、現地での適切な活動と国内及び企業内での適切な広報活動が不可欠である。こうした課題を東ティモールでのトイレ支援を例として検討する。 【キーワード】 CSR、CRM、東ティモール、トイレ	内海成治(京都女子大学・教授)	内海成治(京都女子大学・教授)
12	青年海外協力隊(JOCV)とシニア海外ボランティア(SV)	青年海外協力隊は政府の行う国際ボランティアの代表的事業であり、また40歳以上のシニアを派遣するシニア海外ボランティア事業は市民の参加する国際ボランティアとして重要性を増している。2015年には創設50周年という節目の年を迎える青年海外協力隊事業は、その派遣分野や、派遣国など、近年、青年海外協力隊をめぐる状況にも大きな変化が見えている。本章では政府開発援助による国際ボランティア派遣事業の設立経緯、現状、課題を解説する。 【キーワード】 青年海外協力隊(JOCV)、シニア海外ボランティア(SV)、政府開発援助(ODA)、海外技術協力事業団(OTCA)、国際協力機構[旧称、国際協力事業団](JICA)、コロンプラン、平和部隊(Peace Corp)、非営利組織(NPO)、非政府組織(NGO)	小川寿美子(名桜大学・教授)	小川寿美子(名桜大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
13	世界の国際ボランティア	先進国を中心とした世界の政府支援による国際ボランティア組織の設立目的とその取り組みを紹介する。具体的には、米国のPeace Corp（平和部隊）、カナダのCanadian University Service Overseas - Volunteer Service Overseas (CUSO-VSO)、フランスのFrance Volontaries (FV)、英国のVolunteer Service Overseas United Kingdom (VSOUK) を例に、それぞれの国際ボランティア組織の変遷、形態、活動内容、帰国後の活動、国内での活躍の場などを学び、日本における今後の国際ボランティア活動の発展形態を考える。 【キーワード】 平和部隊、CUSO-VSO、FV、VSO、ディアスポラ・ボランティア、帰国ボランティア、キャリアパス、無償のボランティア活動と契約に基づくボランティア活動、社会のつながり、パブリック・エンゲージメント(市民参加、公的関与)	小川寿美子(名桜大学・教授)	小川寿美子(名桜大学・教授)
14	学校と国際ボランティア活動	小中学校、高等学校等における学校教育では、総合的な学習の時間や特別活動において、ボランティア活動など社会奉仕体験活動が導入されている。大学等高等教育機関では、ボランティア関連科目が開講され、ボランティアセンター等を中心に、国際ボランティア活動が教育活動の一環として組み込まれているケースがある。生涯学習の視点から、国際ボランティア活動の学習とその支援について解説する。 【キーワード】 学校教育、高等教育、学習指導要領、社会奉仕体験活動、総合的な学習の時間、ボランティア学習、市民性教育、サービス・ラーニング、生涯学習、成人教育	山田恒夫(放送大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授)
15	国際ボランティア活動の新展開:まとめにかえて	日本の国際ボランティア活動に与えた東日本大震災の影響を振り返りながら、国際ボランティア学の、学問としての体系化について総括しつつ、高度情報化社会、生涯学習社会における国際ボランティアの社会的意義と将来について展望する。 【キーワード】 東日本大震災、ICTと国際ボランティア活動、生涯学習者と国際ボランティア活動、高齢化時代の国際ボランティア	山田恒夫(放送大学・教授) 内海成治(京都女子大学・教授) 中村安秀(大阪大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)	山田恒夫(放送大学・教授) 内海成治(京都女子大学・教授) 中村安秀(大阪大学・教授) 小川寿美子(名桜大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847490	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 技術マネジメントの法システム （'14）＝ （R）

英文名 ＝ [Law Systems of Technology Management ('14)]

〔主任講師（現職名）： 児玉晴男（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【 本学担当専任教員： 】

講義概要

産業、看護、情報などの教科科目の中の多くが、法規との関連の内容を含む。それらが対象とする法規を一つにまとめて総合科目として知識を提供することは、それら科目に関連する法規を重点的に理解するうえからも効率的である。本講義は、技術分野で関与する人間、情報、環境に関連する法システムの知識を技術マネジメントとの関連で提供する。本講義は、人的資源マネジメント、情報マネジメント、社会環境マネジメント等に関する法システムの個別な内容の解説とともに、それらを横断した観点からの説明も加える。

授業の目標

本授業は、とくに理工系や学際系の視点から、人間、情報、環境に関連する法システムに関する内容を編成したものである。本授業の目標は、人的資源マネジメント、情報マネジメント、社会環境マネジメント等に関わる労働法、情報法、環境法などの知識をの社会技術の観点から習得し、さらにそれらを科学技術法の観点から総合的に理解することにある。本授業は、専門科目から大学院科目へとスムーズに展開する内容とする。

履修上の留意点

知的財産権法（著作権法、産業財産権法）と情報法に関しては「情報社会の法と倫理（'14）」を、労働法に関しては「多様化時代の労働（'10）」、環境法に関しては「現代環境法の諸相（'13）」で学習してください。この科目では、技術系だけでなく文系あるいは社会科学系の履修者も対象としています。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	技術マネジメントと倫理	技術マネジメントを行ううえで、法的な判断だけでなく、倫理・モラルが問われることが生じうる。倫理と法は、本来、相互に入り込むものではないが、倫理も法も道徳規範にかかわりをもつ。本講は、技術者が技術マネジメントの倫理で必要とされる倫理的な側面を学ぶ。 【キーワード】 科学技術倫理、生命倫理、情報倫理、環境倫理、コンプライアンス、ソフトロー	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)、加藤 浩(日本大学教授)、山川隆一(東京大学教授)
2	技術マネジメントと法	技術マネジメントと法とは、企業と法務とのかかわりを要している。その法律は、消費者保護関連法、労働関係法、情報法、環境関連法と関連する。本講は、経済性マネジメントと消費者保護関連法を説明したのち、人的資源マネジメントと労働関係法、情報マネジメントと情報法、社会環境マネジメントと環境関係法について概観する。 【キーワード】 経済性、人的資源、情報、安全、社会環境、科学技術法、社会技術	児玉晴男(放送大学教授)、加藤 浩(日本大学教授)、山川隆一(東京大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)、加藤 浩(日本大学教授)、山川隆一(東京大学教授)
労働法				
3	人的資源マネジメントと労働法の基礎・労働契約(労働法1)	労働法の意義や体系など総論的な事項を把握したうえで、使用者と個々の労働者との間の個別的労働関係に焦点を当て、労働契約の概念や成立要件、労働条件の設定等の機能をもつ就業規則の法的効力、人事管理における配転・出向・懲戒処分等の法的根拠や限界、労働契約の終了をもたらす解雇の効力など、主に労働契約法にかかわる項目について検討を行う。 【キーワード】 労働契約、就業規則、配転、出向、懲戒、解雇	山川隆一(東京大学教授)	山川隆一(東京大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属・職 名)
4	人的資源マネジメントと賃金、労働時間、安全衛生、労災補償(労働法2)	労働契約法と並び個別的労働関係にかかわる主要な法律である労働基準法を中心に、賃金の支払義務や支払方法にかかわる法律問題、労働時間規制の原則や例外にかかわる法律問題などについて学ぶ。進んで、職場における労働者の安全や健康の確保にかかわる労働安全衛生法のしくみを理解するとともに、現実には労働災害が起きた場合につき、労働者災害補償保険法による保険給付と安全配慮義務違反を理由とする損害賠償請求についても学習する。 【キーワード】 賃金、労働時間、安全衛生、労災補償、労災保険、安全配慮義務	山川隆一(東京大学教授)	山川隆一(東京大学教授)
5	人的資源マネジメントと雇用平等、ワーク・ライフ・バランス、非典型雇用(労働法3)	労働市場への女性の進出などを背景に重要性を増している雇用平等問題、また、少子高齢化の中で取組みが不可欠になっているワーク・ライフ・バランスの法政策について学び、進んで、期間の定めのある契約に基づく労働(有期労働)、派遣労働、パートタイム労働など、いわゆる非典型雇用形態をめぐる法的規律につき考える。 【キーワード】 雇用平等、ワーク・ライフ・バランス、有期労働契約、派遣労働、パートタイム労働	山川隆一(東京大学教授)	山川隆一(東京大学教授)
6	人的資源マネジメントと労使関係・紛争解決(労働法4)	使用者と労働組合との間の集団的労働関係を規律する労働組合法につき、その基本的枠組みを理解したうえで、労働組合の加入と結成、団体交渉、労働協約、不当労働行為制度などの事項について学ぶ。あわせて、労働審判制度や個別労働紛争解決促進制度など、労働紛争の解決システムの概略を理解する。 【キーワード】 労働組合、団体交渉、労働協約、不当労働行為、労働紛争、労働審判、個別労働紛争解決促進制度	山川隆一(東京大学教授)	山川隆一(東京大学教授)
情報法				
7	情報マネジメントと著作権(情報法1)	創作され開発される著作物(コンテンツ)にはどのような権利が発生し、だれに帰属を学ぶ。そして、著作物が活用されるうえでどのような権利が情報マネジメントの権利管理の対象になり、または対象とならないかについて考える。また、コンテンツの権利の保護と制限から、オープンコンテンツや権利の侵害について考える。 【キーワード】 著作物、著作物の伝達行為、著作権と関連権、職務著作、著作権等管理、著作権等の不正利用	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
8	情報マネジメントと特許権・実用新案権(情報法2)	研究開発によって得られた発明に付与される特許権には、どのような効力があり、どのように活用することができるかについて考える。また、特許戦略を構築するうえで、情報マネジメントとして、特許権をどのように経営に活かしていくべきかについて考える。さらに、実用新案権についても、同様に、経営に活かすための活用方法について考える。 【キーワード】 特許権、実用新案権、発明、考案、ライセンス、職務発明	加藤 浩(日本大学教授)	加藤 浩(日本大学教授)
9	情報マネジメントと意匠権・商標権(情報法3)	デザインに対する意匠権やブランドに対する商標権には、どのような効力があり、どのように活用することができるかについて考える。また、デザイン戦略やブランド戦略を構築するうえで、情報マネジメントとして、意匠権、商標権をどのように経営に活かしていくべきかについて考える。 【キーワード】 意匠権、商標権、デザイン、ブランド、ライセンス	加藤 浩(日本大学教授)	加藤 浩(日本大学教授)

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
10	情報マネジメントと秘密情報管理(情報法4)	秘密情報は、どのように管理し、どのように保護されるのかについて考える。とくに、不正競争防止法に規定される営業秘密について、保護を受けるための要件を整理したうえで、営業秘密の管理方法及び活用方法について考える。また、営業秘密の要件の一つである秘密管理性について、この要件を満たすための具体的な管理のあり方について考察する。 【キーワード】 不正競争行為、営業秘密、秘密管理性、有用性、非公知性、秘密保持義務、競業避止義務	加藤 浩(日本大学教授)	加藤 浩(日本大学教授)
11	情報マネジメントと知る権利(情報法5)	情報ネットワークとウェブ環境では、情報の自由な流れとプライバシー保護との相反する価値が共存する。それは、情報の開示と不開示情報との関係に見られる。その関係は、知る権利に対する情報マネジメントになる。不正アクセス禁止や迷惑メールの防止、通信内容の保護・規制、ウェブ環境の名誉や信用の保護のための規範、人為的な情報リスクとの対策と関わりから考える。 【キーワード】 情報公開、個人情報保護、不開示情報、不正アクセス、プロバイダ責任、メール爆弾	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)
環境法				
12	社会環境マネジメントと環境権・環境保全(環境法1)	社会環境の問題として、地球環境問題がある。科学技術の進歩や経済成長は、地球環境問題を招いたといわれ一方で、地球環境問題を実際に解決していく条件にもなりうる。本講は、社会環境マネジメントの対象となる環境権について考え、環境問題への対応である環境基本法、地球環境問題への対応である地球温暖化対策推進法について学ぶ。 【キーワード】 環境権、環境保全、環境負荷、汚染者負担原則、地球温暖化、京都議定書	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授) ゲスト:勝田悟(東海大学教授)
13	社会環境マネジメントと環境物質(環境法2)	循環型社会の形成を推進するためには、資源の有効利用と、廃棄物の適正な処理や化学物質等の管理が求められる。社会環境マネジメントの対象となるのは、環境物品、廃棄物、化学物質などの環境物質になる。本講は、循環型社会の形成、資源の有効活用、リサイクルに関する資源有効利用の促進とリサイクル関連、廃棄物の適正な処理から化学物質の製造・輸入・排出などの管理について学ぶ。 【キーワード】 循環型社会、省資源、リサイクル、環境物品、廃棄物、化学物質、ライフサイクルアセスメント(LCA)	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授) ゲスト:勝田悟(東海大学教授)
14	社会環境マネジメントと環境アセスメント・環境基準(環境法3)	環境保全のためには、環境アセスメントの評価対象と手続きおよび評価方法が必要になる。その環境アセスメントの評価方法は、環境基準に基づく。環境アセスメントと環境基準の関係が、社会環境マネジメントの対象になる。本講は、環境アセスメントの評価対象と手続きと、環境アセスメントの評価方法である大気汚染、水質汚濁、土地汚染の防止について学ぶ。 【キーワード】 環境アセスメント、大気汚染、水質汚濁、土地汚染、環境基準	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授) ゲスト:勝田悟(東海大学教授)
15	技術マネジメントシステムと国際動向	技術マネジメントと法システムの関係をつなぐものがマネジメントシステムである。そのマネジメントシステムは、労働安全衛生マネジメント、情報セキュリティマネジメント、環境マネジメントなどに見られる。本講は、マネジメントシステムと国内・国際規格について概観し、国際動向を展望する。 【キーワード】 労働安全衛生マネジメントシステム、情報セキュリティマネジメントシステム、情報セキュリティ管理基準、環境マネジメントシステム、環境アカウンタビリティ	児玉晴男(放送大学教授)	児玉晴男(放送大学教授)、 加藤 浩(日本大学教授)、 山川隆一(東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	夏季集中 (司書教諭)	科目 コード	1527231	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 学校経営と学校図書館 (' 1 3) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 野口武悟 (専修大学准教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 前田稔 (東京学芸大学准教授) 〕
 【本学担当専任教員 : 岡崎友典 (放送大学准教授) 】

講義概要

この授業では学校図書館にかかわる基本的事項を取り上げる。いわば、「学校図書館概論」ともいうべき内容の授業である。具体的には、学校教育における学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展過程、教育行政と学校図書館、学校図書館経営のあり方、学校図書館の施設と設備、学校図書館メディアの選択と提供、学校図書館の諸活動、学校図書館経営の中核を担う司書教諭の任務と役割、養成と研修、学校図書館の評価と改善などの基本的事項について概説していく。また、今日その重要性を増している学校司書、公共図書館との連携・協力やネットワークなどにも言及する。同時に、学校図書館の今日的な課題、研究動向にも触れ、これからの学校図書館を展望する。

授業の目標

学校教育における学校図書館の理念、教育的意義、発展過程、教育行政との関わり、経営のあり方など、学校図書館全般の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。学校図書館は図書が置いてあるだけの部屋という意識の受講生も少なくないものと思われるが、この授業を通して、学校図書館は学校教育の目的の達成と教育課程の展開のためになくてはならない機能を果たす重要な存在であることを知り、学校図書館に対するこれまでの意識をぜひ刷新してもらいたい。

履修上の留意点

上記の「講義概要」でも述べたように、この科目は学校図書館に関する概論的性格をもつものである。したがって、司書教諭の資格取得に資する科目5科目のなかで最初に履修することをお勧めする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	学校図書館の理念と教育的意義	学校図書館の理念と教育的意義、生涯学習社会・知識基盤社会における学校教育のあり方などを検討し、今日の学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにする。 【キーワード】 学校教育、学校図書館の理念、学校図書館の役割	野口武悟 (専修大学・准教授)	野口武悟 (専修大学・准教授)
2	わが国の学校図書館: その歴史的経緯	学校図書館の発展過程について、主にわが国の歴史を中心に論じる。今日の学校図書館制度が確立した第二次世界大戦後の時期、とりわけ、学校図書館法の成立とその後の展開を中心に取り上げる。 【キーワード】 日本の学校図書館史、学校図書館法の成立と改正	野口武悟	野口武悟
3	教育行政と学校図書館	学校教育法と学校図書館法、教育サービスとしての学校図書館施策 (国・地方自治体) など、学校経営と学校図書館を取り巻く行政上、法制上のかかわりや仕組みについて、歴史的展開も踏まえたうえで、現実の課題も取り上げて論じる。 【キーワード】 学校図書館行政、子どもの読書活動の推進に関する法律、国民読書年	前田稔 (東京学芸大学・准教授)	前田稔 (東京学芸大学・准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	学校図書館の経営	学校図書館経営について、目標管理を通じたマネジメントサイクルを参照しながら、企業における組織形態との比較をしつつ、学校図書館の組織作りを学ぶ。さらに、学校図書館の経営計画と運営について概観することで、次回以降で学ぶ各論的事項を経営の観点で位置づけていく。 【キーワード】 学校経営、校務分掌、マネジメントサイクル	前田稔	前田稔
5	学校図書館の施設、設備および備品	学校図書館が、学習情報センター、読書センターの役割を十分に果たすためにもよりよい環境を整備し、設備や備品を設置する必要がある。この回では、子どもたちの読書環境・学習環境を現代のニーズに合わせて整えるための施設・設備の基本的な考え方と具体例について解説する。 【キーワード】 学校図書館の設備、学校図書館の環境、学習環境デザイン	岩崎れい(京都ノートルダム女子大学・教授)	岩崎れい(京都ノートルダム女子大学・教授)
6	学校図書館メディアの選択と管理、提供 (1)印刷メディアを中心に	学校図書館メディアの意義について概観し、教育の中で期待される役割について論じる。図書、逐次刊行物などの印刷メディアについて、種類と特徴を踏まえた選択と構成、提供の際の留意点にも言及する。なお、この回では、印刷メディアを中心に論じる。 【キーワード】 学校図書館メディア、印刷メディア、選択と構成	前田稔	前田稔
7	学校図書館メディアの選択と管理、提供 (2)視聴覚メディアおよび電子メディアを中心に	前回の続きとして、この回では、視聴覚メディアおよび電子メディアを中心に、学校図書館メディアの選択と管理・提供について考えていく。新しいメディアを導入することの教育的意義を取り上げ、視聴覚メディアの種類と構成、電子メディアとインターネットについて論じる。教育の情報化と学校図書館の未来についても言及する。 【キーワード】 視聴覚メディア、電子メディア、インターネット	前田稔	前田稔
8	司書教諭の任務と役割	司書教諭は、学校図書館経営の中心者であり、その任務は多岐にわたる。管理・運営に関する業務、児童生徒の学習活動や読書活動への支援と指導、さらには教員の教育活動への支援などであり、それらの活動の推進には校内の協力体制づくりが大切である。ここでは、多岐にわたる任務と役割について論じる。 【キーワード】 メディアの専門家、司書教諭の任務、司書教諭の役割	対崎奈美子(東京学芸大学・特任教授)	対崎奈美子(東京学芸大学・特任教授)
9	司書教諭の養成と研修	司書教諭となることの形式的意味と実質的意味について述べたうえで、司書教諭講習について教員養成全体の観点から検討する。また、学校における研修の企画・運営と自己研修について言及し、学校図書館関係諸団体も紹介する。 【キーワード】 司書教諭講習、教員養成、研修	前田稔	前田稔
10	学校図書館活動:概論	学校図書館活動は、主に児童生徒と教職員を対象に展開する図書館サービスである。この回では具体的な内容と方法について論じるとともに、学校図書館活動の拡大についても取り上げる。また、学校図書館活動の展開に際して考慮すべき著作権についても触れる。 【キーワード】 学校図書館活動、資料提供サービス、情報提供サービス	対崎奈美子	対崎奈美子

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	学校図書館活動の事例(小・中学校)	今回と次回は、学校図書館活動の実際について具体的事例を通して紹介する。今回は、小学校と中学校の学校図書館活動を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館活動、小学校の学校図書館、中学校の学校図書館	野口武悟	野口武悟
12	学校図書館活動の事例(高等学校・特別支援学校)	前回に引き続き、学校図書館活動の実際について具体的事例を通して紹介する。今回は、高等学校と特別支援学校の学校図書館活動を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館活動、高等学校の学校図書館、特別支援学校の学校図書館	野口武悟	野口武悟
13	図書館協力とネットワーク	ひとつの学校図書館が単独で児童生徒、教職員の求めるメディア、情報を余すところなく提供することは施設や予算の制約から難しい。そこで重要になってくるのが図書館協力とネットワークである。この回では、図書館協力のねらいと意義、図書館ネットワーク形成の必要性とその実際などについて論じる。 【キーワード】 図書館協力、図書館ネットワーク、学校図書館支援センター	野口武悟	野口武悟
14	学校図書館の評価と改善	学校図書館の経営・運営は、計画的・組織的に行われる。学校図書館の問題点・課題等は年度末の評価によって明らかにし、次年度以降の経営計画、運営計画はそれらに対する改善策を盛り込んで立案する。どのように評価し、その結果をもとにどのように改善に結び付けていくかについて論じる。 【キーワード】 学校図書館の評価、評価基準、学校図書館の改善	森田盛行(全国学校図書館協議会・理事長)	森田盛行(全国学校図書館協議会・理事長)
15	研究および課題と展望	司書教諭は、スキルの研修だけでなく、学校図書館および隣接領域を俯瞰し、未来を見据えた学校図書館の課題解決のための研究活動に取り組みたい。この回では、学校図書館の研究領域、方法を取り上げる。また、研究に必要な基本的な文献等も紹介する。 【キーワード】 学校図書館の課題、研究の意義、基本文献	森田盛行	森田盛行

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	夏季集中 (司書教諭)	科目 コード	1527223	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 学校図書館メディアの構成 (' 1 2) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 北 克一 (相愛大学特任教授) 〕
 〔主任講師 (現職名) : 平井 尊士 (武庫川女子大学准教授) 〕
 【本学担当専任教員 : 岡崎 友典 (放送大学准教授) 】

講義概要

学校図書館メディアの構成についての理解と運営能力の取得を目ざしながら、学校図書館メディアの専門職である司書教諭として基礎的な知識の獲得を目的とする。まず高度情報社会に伴う学習環境の変化を学習し、そこでのメディアの教育的意義と役割について取り上げ、併せて各種学校図書館メディアの種類と特性を理解する。続いて、学校図書館メディアの構築のために適切な資料・情報の選択と収集・提供を目的に、多様なメディアの評価を行う能力を得る。さらに、司書教諭は、学校図書館メディアの維持と展開に責任を負うものとして、メディアの選択・収集・更新・廃棄を企画、実行する能力を獲得する。後半では、メディアの組織化についてその目的・意義と業務プロセスを理解したうえで、学校図書館の当分野における現在の展開と今後の方向性を学習し、学校図書館メディアの構成についての総合的な理解を進める。

授業の目標

学校図書館経営の中心となる専門職である司書教諭として、学校図書館メディアの構成についての基本的な知識の獲得を目的とし、さらに当該分野についての継続的な自己学習の遂行の基礎を養成することを目的とする。

履修上の留意点

学習者の身近にある学校図書館、公共図書館を見学し、資料・情報がどのように提供されているのかを把握しよう。また、そのような図書館サービスを持続的に成立させるには、どのような業務がバックヤードで必要かを考えてみよう。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	学校図書館メディアの意義と役割	高度情報社会における学校と学校図書館について、その学習環境の変化とそこでの学校図書館メディアの現状を取り上げる。さらに、教育課程の変化と学校図書館メディアの意義について講義する。 【キーワード】 高度情報社会、学校図書館メディア、教育課程の変化	北 克一 (相愛大学特任教授) 米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)	北 克一 (相愛大学特任教授) 米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)
2	学校図書館におけるメディアの種類・特性と活用	学校図書館メディアの種類について取り上げる。さらに学校図書館メディアの特性を学習した後、その学習への活用を論じる。 【キーワード】 学校図書館メディアの種類、学校図書館メディアの特性、学校図書館メディアの学習への活用	平井 尊士 (武庫川女子大学准教授)	平井 尊士 (武庫川女子大学准教授)
3	学校図書館メディアの構築	学校図書館のメディア構築に関する業務の基本を学習する。学校図書館メディアの収集方針の基本を述べ、併せて学校図書館メディアの選択指針を取り上げる。さらに、学校図書館メディア「蔵書」の評価についても基本的な視点を論じる。 【キーワード】 学校図書館メディアの収集方針、学校図書館メディアの選択指針、学校図書館メディア「蔵書」の評価	平井 尊士 (武庫川女子大学准教授)	平井 尊士 (武庫川女子大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	学校図書館メディア の収集方針と選択	学校図書館メディアの収集方針と、それに基づく選択と収集、学校図書館図書標準を取り上げる。さらに、学校図書館メディアの選択のための情報源を解説すると共に、独自の情報ファイル資料の構築も講義する。そして、学校図書館メディアの維持に必要な除籍・廃棄について学習を進める。 【キーワード】 学校図書館メディアの収集方針と選択・収集、学校図書館図書標準、選択のための情報源、情報ファイル資料、学校図書館メディアの除籍・廃棄	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)
5	学校図書館メディア の組織化の意義	学校図書館メディア(デジタルネットワーク情報資源を含む)の組織化の意義とそのプロセスを講義する。続いて、学校図書館メディアの配架について学習を進める。さらに、学校図書館メディアの組織化の新しい展開を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館メディアの組織化、資料組織化の意義、記述目録法、主題索引法	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)
6	学校図書館メディア の組織化(1)	学校図書館メディアの配架の基礎を論じ、さらに、必要に応じた学校図書館メディアの別置を取り上げる。そして、学校図書館のサイン計画を総合的に考える。 【キーワード】 学校図書館メディアの配架、学校図書館メディアの別置、学校図書館のサイン計画	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)	平井 尊士 (武庫川女子 大学准教授)
7	学校図書館メディア の組織化(2)	学校図書館メディアの目録(典拠コントロール機能を含む)の意義と機能を講義する。続いて、目録の構成と種類を論じ、さらに、カード目録からコンピュータ目録へ流れの中で、現在のコンピュータ目録の検索機能、ネットワーク機能、総合目録などを取り扱う。 【キーワード】 目録の意義と機能、典拠コントロール、目録の構成と種類、コンピュータ目録の検索機能、コンピュータ目録のネットワーク機能、総合目録	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 川瀬綾子(京 都精華大学 特任講師)	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 川瀬綾子(京 都精華大学 特任講師)
8	学校図書館メディア の記述目録法(1)	学校図書館の目録政策を遂行するための基本的事項を解説し、さらに学校図書館の目録の水準の考え方を取り上げ、最後に、学校図書館のための目録[規則]を論じる。 【キーワード】 学校図書館の目録政策、学校図書館の目録水準、学校図書館のための目録[規則]	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)
9	学校図書館メディア の記述目録法(2)	記述目録法と書誌レコードについて講義する。続いて、書誌レコードの構成要素と検索の手がかりであるアクセスポイントの付与を論じる。さらに、MARCの利用、OPACからのダウンロードについて、学校図書館での活用の側面を述べる。 【キーワード】 記述目録法と書誌レコード、書誌レコードの構成要素、アクセスポイントの付与、MARCの利用、OPACからのダウンロード	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)	北 克一 (相 愛大学特任 教授) 米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)
10	学校図書館メディア の主題索引法(1)	学校図書館メディアの主題索引法の基礎概念と実際を講義する。続いて、学校図書館メディアの分類法・件名標目法及び分類目録、件名目録の意義と機能について取り上げ、学校図書館での実際を学習する。 【キーワード】 学校図書館メディアの主題索引法、学校図書館メディアの分類法・件名標目法、分類目録・件名目録の意義と機能	米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)	米谷 優子 (園田学園女 子大学 特任 准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	学校図書館メディア の主題索引法(2)	学校図書館メディアの分類法として、分類表の特性とその構成を講義する。続いて、学校図書館での分類指針と分類作業を論じ、さらに、分類標目と所在記号について学習を行う。 【キーワード】 分類表の特性とその構成、分類指針と分類作業、分類標目と所在記号	米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)	米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)
12	学校図書館メディア の主題索引法(3)	学校図書館メディアの件名標目法として、件名標目表の特性とその構成を講義する。続いて、学校図書館での件名指針と件名作業を論じ、さらに、件名標目と参照、細目などについて学習を行う。 【キーワード】 件名標目表の特性とその構成、件名指針と件名作業、件名標目と参照、細目	米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)	米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)
13	学校図書館の情報資源 の管理と運用	学校図書館総合システムの選定、管理、運用の基礎的な事項を取り上げる。続いて、地域総合目録と相互協力から全国総合目録までを解説する。さらに、学校図書館でのネットワーク情報資源の組織化と活用を概観する。 【キーワード】 学校図書館総合システムの選定・管理・運用、地域総合目録と相互協力、全国総合目録、ネットワーク情報資源の組織化と活用	北 克一 (相愛大学特任教授) 川瀬綾子(京都精華大学 特任講師)	北 克一 (相愛大学特任教授) 川瀬綾子(京都精華大学 特任講師)
14	特別な支援を要する 児童生徒と学校図書館 メディア	特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディアの構成を講義する。視覚や聴覚などの障害のある児童生徒への支援、学習障害のある児童生徒への支援、日本語を母語としない児童生徒への支援などについて、学校図書館メディアの構成のあり方を学習する。 【キーワード】 特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディアの構成	前田 章夫 (佛教大学非常勤講師)	前田 章夫 (佛教大学非常勤講師)
15	学校図書館の機能を 支えるメディア組織化 の将来	講義のまとめとして、学校図書館と地域図書館総合目録、相互協力、物流体制等の整備などの課題と将来を論じる。続けて、学校図書館でのネットワーク情報資源の組織化と活用を考え、さらに、学習環境の変化と学校図書館の役割、司書教諭の任務についてまとめる。 【キーワード】 地域図書館総合目録、相互協力、物流体制等の整備、ネットワーク情報資源の組織化と活用、学習環境の変化と学校図書館の役割、司書教諭の任務	北 克一 (相愛大学特任教授)	北 克一 (相愛大学特任教授) 米谷 優子 (園田学園女子大学 特任准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	夏季集中科目 (司書教諭)	科目 コード	1527118	履修 制限	有	単位 数	2

科目名(メディア) = 学習指導と学校図書館 (' 1 0) = (T V)

〔主任講師(現職名) : 堀川照代(青山学院女子短期大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 岡崎友典(放送大学准教授) 】【

講義概要

学校図書館は「読書センター」と「学習情報センター」という、大きくいえば2つの機能をもつ。本科目は、このうちの「学習情報センター」の機能について解説するものである。学校図書館は、「学校のエデュケーションの展開に寄与する」(学校図書館法)ものであり、それによって児童生徒の情報活用能力を培う役割がある。この情報活用能力の育成について、15回にわたって、その歴史、理論および実践の面から解説していく。

授業の目標

高度通信情報社会・生涯学習時代といわれる現代において、生涯にわたって必要な情報活用能力を、小・中・高校において実際にどのように育成していったらよいのかを理解し、将来、司書教諭として勤務する場合、この情報活用能力の育成の重要性を学校全体の教職員に認識させ、学校全体の情報活用能力カリキュラムの実施のリーダーシップをとることのできる力を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

なし

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育課程と学校図書館	学校図書館の意義・目的を明確にし、学校図書館が教育課程の編成にどう関わるのか、そして学習指導の展開にどう寄与していくかを明らかにする。また、発達段階に応じて、小中高等学校図書館のメディアにはどのような特徴があるかについて述べる。 【キーワード】 教育課程の編成、学習指導要領、新学力観、情報リテラシー	高鷲忠美 (八洲学園大学 人間開発教育課程 教授)	高鷲忠美 (八洲学園大学 人間開発教育課程 教授)
2	図書館活用教育と学校図書館	図書館活用教育とはどういうものかについて、具体例を示しながらその実際について理解を深める。図書館活用教育を支える図書館スタッフの役割についても触れ、図書館活用教育を学校全体で進めることの成果や課題について述べる。 【キーワード】 図書館活用教育、調べ学習、校長のリーダーシップ、司書教諭	高鷲忠美 (八洲学園大学 人間開発教育課程 教授)	高鷲忠美 (八洲学園大学 人間開発教育課程 教授)
3	学校図書館利用指導から情報リテラシー教育へ	学校図書館担当者が、学校図書館に軸足を置いて図書館利用指導を行っていた時代から、学校全体の教育の基盤となる情報リテラシーの教育へ関わり、主導的立場をとるようになってきた変化について、米国の歴史を踏まえながら理解を深める。 【キーワード】 図書館利用指導、情報リテラシー、学校図書館員の役割	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	情報リテラシーの理論	学校図書館担当者が指導する情報リテラシーの教育について、その理論を説明する。情報リテラシーの育成の必要性や情報リテラシー研究の動向、代表的な情報リテラシーモデル等に関して、説明する。 【キーワード】 利用者研究、情報リテラシー研究、情報リテラシーモデル	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)
5	情報リテラシー育成の計画・実践・評価	情報リテラシーを育成するには、教科担当教員が個々に実施するよりも、全校で組織的体系的に取り組む方が効果的である。まず、学校内の教職員の情報リテラシーに関する共通理解を図り、その教育の推進組織を明確にし、全体計画や年間指導計画等を作成する必要がある。 【キーワード】 全体計画、年間指導計画、指導事項体系表、学習指導案、評価	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学教授)
6	情報リテラシーの育成(1) テーマの設定と情報探索の計画	情報活用プロセスを6段階にとらえると、第1段階はテーマを設定する段階、第2段階は今後の情報活用について見通しをたてる段階である。この2つの段階について、実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。 【キーワード】 テーマの設定、ウェビング、情報探索の計画、学習活動の見通し	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)
7	情報リテラシーの育成(2) 情報・資料の探索と収集	情報活用プロセスの第3段階目の情報や資料の探索と収集について、実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。まず学校図書館の利用指導について押さえた上で、さまざまなメディアを用いた情報探索について説明する。 【キーワード】 学校図書館利用指導、分類、目録、情報探索、参考図書、オリエンテーション	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)
8	情報リテラシーの育成(3) 情報・資料の活用	情報活用プロセスの第4段階の情報・資料の利用について実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。具体的には、要約・抜き書き・引用の方法、参考図書の使い方、インタビューの仕方などが含まれる。 【キーワード】 要約、抜き書き、引用、目次、索引、インタビューの仕方、電話のかけ方	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)
9	情報リテラシーの育成(4) 情報・資料のまとめと学習指導の評価	情報活用プロセスの第5段階「情報・資料のまとめと伝達・保存」と、第6段階目「学習活動の評価」について説明する。取り出した情報を整理・分析して組み合わせ、自分の考えを加えて新たな情報として発信し、それまでの学習を振り返って情報活用プロセス全体とその成果を評価する。 【キーワード】 情報のまとめ方、レポート、発表会、振り返り、評価	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)	塩谷京子 (関西大学初等部 教諭)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	教科における 学校図書館活用	さまざまな教科学習において、学校図書館および資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、事例を紹介しながら考察する。とくに、授業展開のなかで、児童生徒・教員・司書教諭・学校司書の動きを把握していく。 【キーワード】 教科との連携、教師への支援、調べ学習	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)
11	総合的な学習の時間 における学校図書館 利用	総合的な学習において、学校図書館および資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、事例を紹介しながら考察する。とくに、司書教諭がどのようなリーダーシップをとり得るか、その可能性について考える。 【キーワード】 総合的な学習、調べ学習、司書教諭のリーダーシップ、 情報リテラシーの育成	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)
12	特別支援教育における 学校図書館活用	特別な支援を必要とする児童生徒の学習に関して、学校図書館をどのように整備し、司書教諭や学校司書はどのように関わればよいかについて述べる。 【キーワード】 特別支援教育、盲学校図書館	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)	鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学 科准教授)
13	学校／教育活動のイン フラとしての学校図 書館	学校図書館が学校全体の学習／教育活動においてインフラとして位置づき、機能してこそ、真に「教育活動の展開に寄与」することができる。このようなインフラとして機能している事例を紹介しながら、学校図書館活用が学びの豊かさにつながり、情報リテラシーを培うことを確認する。 【キーワード】 情報リテラシー、情報教育、国語科教育、言語活動の充実	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)
14	学習／教育活動を支援する 情報サービス	学校図書館は、児童生徒の学習活動に対しても教職員の教育活動に対しても、その情報要求に対応する。レファレンスサービスをはじめとした情報サービスについて説明し、利用者に適切な情報提供をするためには、どのように準備が必要かを考える。 【キーワード】 情報サービス、レファレンスサービス、情報源、レファレンスプロセス	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)
15	学習指導における司 書教諭の役割	学習指導における司書教諭の役割について、これまでの回を踏まえて、学校全体に対して、児童生徒に対して、教職員に対して、地域に対してなど、さまざまな面から検討して、本科目のまとめとする。 【キーワード】 司書教諭の役割、教科との連携、学校司書との協働	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)	堀川照代 (青山学院女子短期大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	夏季集中 (司書教諭)	科目 コード	1291858	履修 制限	有	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 読書と豊かな人間性 （'09）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：朝比奈 大作（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：米谷 茂則（東京成徳大学特任教授）〕

講義概要

子どもの読書活動の推進は、現在では最も重要な文教政策のひとつとなっており、都道府県、市町村、それぞれのレベルで、多くの読書推進計画が立案されている。が、肝心の学校図書館が貧弱なままではそれらも画餅に帰すであろう。ここでは有効な読書推進活動を行うための学校図書館のあり方を考え、司書教諭の果たす役割を理解すると共に、実際の読書指導の内容と方法について具体的に学習していく。

授業の目標

「本を読むことは面白い」と子どもたちに思ってもらえることを前提に、そのためには、どのような学校図書館が必要か、どのような学校図書館活動が有効かを理解した上で、具体的な発達段階に合わせた読書指導の方法を学習する。狭義の読書指導を自己完結的に捉えるのではなく、学習指導との関わりをも重視し、また、家庭や地域との連携をも考えて、子どもたちをむしろ学外の社会へ送り出すような学校図書館のあり方を考えたい。

履修上の留意点

自分なりに子どもの本に興味を持ち、実際の読書材を数多く見ておいてほしい。

回	テ　　マ	内　　　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
1	読書活動の意義と目的	読書は人間形成に重要な意味を持つ。読書の喜びを知ってもらうために、教科教育とは異なる観点から、適書に出合う機会を作ること、良好な読書環境を整備することなどが読書指導の第一歩である。 【キーワード】 教科書、一斉授業、直接経験と間接経験、読書と人間形成、読書指導、適書・不適書、除籍・廃棄・更新、読書環境の整備	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)
2	読書能力の発達	読書能力とは、ことば(書かれた言葉)からイメージを喚起する想像力のことである。一般的な読書能力の発達をおさえた上で、その発達を刺激しうる指導のあり方を考えてみる。 【キーワード】 識字(リテラシー)、機能的な不識字、イメージ化、レディネス、ストーリー、社会化、発達段階、読書能力	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)
3	読書興味の発達	読書指導の中心は、児童生徒の読書興味の発達に応じて、読書への動機付けを行うことにある。一定の年齢までは共通性が高いといわれる読書興味の発達段階を理解しておく。 【キーワード】 読書興味の発達、動機付け、読書材、ヤングアダルト、自由読書、軽読書	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	読書の導入的な指導 ー楽しむ読書を中心 にー	健全な読書活動のために、各校種ごと、学校全体として読書環境を整え、児童生徒の読書の効果ある指導法を考えて、まず読書を楽しめるような具体的な指導内容を解説する。 【キーワード】 児童生徒と本を結ぶ、学校図書館の整備、読書の時間の確保、読書の習慣化、朝の読書、読書活動集会	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)
5	読書の展開的な指導 ー調べ学習を中心 にー	各教科や総合的な学習における調べ学習は、本来的な意味での児童生徒の学習の中心となる活動である。その自主的な学習を進めていくための具体的な指導内容について解説する。 【キーワード】 自分の学習目標、参考図書等の整備、調べ学習の具体的な学習過程、教科・総合における調べ学習	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)
6	読書の発展的な指導 ー考える読書を中心 にー	主体的な読書活動を展開するためには、児童生徒自身が読書の目標や計画を持てるようにできるとよい。読書によって自らの考えを深め、質を高めていく具体的な方法について解説する。 【キーワード】 絵本の絵を読む読書、テーマ読書、複数の資料の比較、読書レポート、読書感想を深める指導、読書会	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)
7	発達段階に対応した 読書	小学校、中学校、高等学校の児童生徒は、戦後において、どのような作品を中心に読書してきたのかを提示し、校種ごとに、児童生徒が読み継いできた作品の傾向を解説する。 【キーワード】 自由読書で読み継いできた作品、考える読書で読み継いできた作品、ノンフィクション読書、自然科学分野の読書のすすめ	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)
8	集団読書と個人別読 書	小学校下学年の読書会の実際として、千葉県船橋市内の3年生の学級における『泣いた赤おに』の読書会の中心部分を取り上げる。授業者のインタビューを含む。 【キーワード】 小学校下学年の読書会、話し合いの柱、構成劇と読書、読書コミュニティ	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大 学特任教授)
9	読書資料の多様化と 活用	読書の本質は想像力を駆使した結果、「ああ面白かった」という感動を得る点にある。とすれば、現代においては類似の活動は多様に存在する。マルチメディア時代における読書活動の問題を、本質的に整理し直しておく。 【キーワード】 克己と勉強、童心主義、通俗書、マルチメディア化、子どもの読書傾向、不読児、娯楽としての読書	朝比奈 大作 (放送大学客 員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客 員教授)
10	図書資料の選択	司書教諭の最も重要な仕事の一つは「子どもたちに新しい本を沢山買ってあげる」ことである。出版界の実状や問題点を把握し、地域の実態や児童生徒の要望をもふまえて、選択・収集していくことが重要である。 【キーワード】 現代の出版流通、多品種少量生産、委託販売、読書の習慣化、ブラウジング、ブックリスト、図書の紹介、フロアワーク	朝比奈 大作 (放送大学客 員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客 員教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	読書体験の表現	「豊かな人間性」を培うための読書の観点とそのための作品を提示する。また、小学校上学年と中学校における読書会をどのように進めていったらよいのかを具体作品で解説する。中学校の読書指導実践者へのインタビューを含む。 【キーワード】 読書体験の表現の方法、読書感想画、『何をどう読ませるか』、豊かな人間性の育成、読書会の進め方、読書会における教師の役割、チェーン読書	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)
12	読書体験の交流	読書活動を活発にするために、読書体験の交流を多くしていきたい。「読書週間」「読書会」など、全校、学年、学級レベルでの交流について解説する。高等学校の読書指導実践者へのインタビューを含む。 【キーワード】 読書週間の活動内容、読書集会、読書週間設定の意義、親子読書、ボランティア読書活動、合同読書会	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)
13	家庭読書との連携	児童生徒の読書活動を発展させ、豊かな人間形成を図っていくためには、家庭や地域との連携が欠かせない。日頃から積極的、継続的な協力関係を取っていくことが司書教諭には求められる。 【キーワード】 読解から通読・多読へ、選択能力、読書調査、家庭への働きかけ、地域との連携、ボランティア総合的な学習	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)
14	公共図書館などの活用	子どもの読書活動を学校の中だけで豊かにすることはできない。公共図書館を利用し、自ら図書を選択購入するなど、学外の活動に誘い、卒業後も豊かな読書活動を継続させていくことが、読書指導の本質である。 【キーワード】 社会教育、生涯学習、公共図書館、公民館、博物館、子どもの読書活動の推進に関する法律(子どもの読書活動推進法)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)	朝比奈 大作 (放送大学客員教授)
15	今後の司書教諭の役割	現状の司書教諭の実態を明らかにし、そこから、どのように教育課程の編成に関わる専門性を高めていくのかについて提示し、司書教諭への期待について考察していく。 【キーワード】 教育課程編成と司書教諭、読書に関連した業務、児童生徒と共にある司書教諭、学校司書との連携、読書相談	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)	米谷 茂則 (東京成徳大学特任教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	夏季集中科目 (司書教諭)	科目 コード	1527215	履修 制限	有	単位 数	2

科目名 (メディア) = 情報メディアの活用 ('10) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 山本 順一 (桃山学院大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 気谷 陽子 (前聖学院大学講師) 〕

【本学担当専任教員 : 岡崎 友典 (放送大学准教授) 】

講義概要

デジタル・ネットワーク社会の現代が学校教育に求めている情報メディアにかかわる具体的な知識とスキルについて論じるとともに、その歴史的背景や社会規範として遵守しなければならない情報倫理などについて講述する。情報リテラシー能力の涵養が強く求められている生涯学習社会の今日において、学校教育活動の要としての役割が期待されている学校図書館の整備拡充の方向とそこで働く専門的職員である司書教諭が備えるべきハードウェアとソフトウェアに関する基礎的知識・スキルと今後の研修のあり方までを射程に含めたい。

授業の目標

学校図書館の専門的職員である司書教諭に求められる高度情報通信社会の構造とその特質、およびそこで要請される情報倫理に対する理解、ならびに各種の情報メディア、具体的には図書や雑誌などの伝統的な紙媒体資料とインターネットやデジタル・コンテンツに関する知識とそれら情報メディアを活用する場合に必要なスキルの修得がこの科目の授業が目標とするところである。

履修上の留意点

印刷教材、放送教材で取り上げた事項については、たんなる知識として頭の中だけで理解しようとするのではなく、実際にPCなどを操作して関係知識を確認し、スキルの修得に努めてほしい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	‘情報’という視点から みた人類社会の過 去・現在・未来	古代から現在までの情報メディアの歴史を概観し、デジタル・ネットワーク社会の今後の推移を考える。 【キーワード】 文字、写本、活版印刷術、コンピュータ、インターネット	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)
2	高度情報通信社会の 構造と特質	デジタル・ネットワーク社会における現実世界と仮想空間との交錯が引き起こす様々な問題を論じる。 【キーワード】 サイバースペース、衆知と衆愚	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)
3	高度情報通信社会の 倫理と法	インターネット社会における種々の逸脱行為とそれに対するモラル、倫理、規範意識のあり方、および関係する法的諸制度について解説する。 【キーワード】 ネット・プライバシー、個人情報保護、有害情報、サイバー犯罪	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)	山本 順一 (桃山学院大 学・教授)
4	情報通信技術と学校 教育	わたしたちの社会で生きていくのに必要な情報・知識はかつてないほど質的にも高度となり、量的にも格段に増加している。学校教育に期待されるのは大きく、情報通信技術の活用が求められている。 【キーワード】 生きる力、PISA、調べ学習、学習の階段	二村 健 (明星大学・ 教授)	二村 健 (明星大学・ 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
5	学校教育と情報メディア	図書、雑誌等の歴史を述べ、図書や雑誌の情報メディアとしての成熟のプロセスを解説するとともに、文献情報の取扱いに関する知識について論ずる。 【キーワード】 図書、教科書、学術雑誌、文献情報	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)
6	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館で取組まれるべき情報リテラシー教育について、具体的に論ずる。児童生徒の発達段階を考慮するとともに、特別な支援を必要とする子どもたちについての情報リテラシー教育に関しても考察を加える。 【キーワード】 情報リテラシー、情報活用能力、特別支援教育	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)
7	学校図書館と情報検索	情報検索の基礎知識とそのスキルについて解説する。学校種ごとに児童生徒の発達段階に見合った情報検索指導についてふれる。 【キーワード】 精度と再現率、論理演算、文献データベース、サーチエンジン	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)
8	学校図書館とコンテンツ	コンテンツを様々なメディアに組み込んで提供される情報内容と定義し、パッケージ型、ネットワーク型、放送番組に分けて解説する。 【キーワード】 Web-OPAC、リンク集、ポータルサイト、主題ゲートウェイ	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)
9	教科教育と情報メディア	教員の教材準備や児童生徒の探究的学習に役立つレファレンスツールは重要であり、レファレンスツールに関し、教科教育との関連で解説する。 【キーワード】 レファレンスツール、教科教育、探究的学習	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)	気谷 陽子 (前聖学院大学講師)
10	情報コンテンツの制作とそのツール	メディア専門職である司書教諭は、時代にふさわしい電子文房具を活用する能力を備えなければならない。また、それらの功罪も認識しながら、授業におけるプレゼンテーション技術の向上を図らなければならない。 【キーワード】 電子文房具、電子黒板、プレゼンテーション、フィンランド・メソッド	二村 健 (明星大学・教授)	二村 健 (明星大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	情報発信とコンテンツの制作	現代社会は情報受信の力のほかに情報発信の能力が求められている。伝統的な手段、および遠隔学習手法を含むデジタル・ネットワーク社会が可能とした情報発信の技術について解説し、演習を行う。 【キーワード】 ホームページ、ブログ、タグ、Eラーニング	二村 健 (明星大学・教授)	二村 健 (明星大学・教授)
12	適切妥当な情報利用	日常生活において、情報を収集利用する場合、著作物の複製、利用が必要不可欠である。著作権により保護されない情報や著作物にふれるとともに、私的使用、引用の仕方について解説する。 【キーワード】 著作物、私的使用、引用	山本 順一 (桃山学院大学・教授)	山本 順一 (桃山学院大学・教授)
13	著作権制度の基本的仕組み	著作権制度の生成と展開を述べたうえで、デジタル化への対応を含め、日本の著作権制度を概観する。 【キーワード】 近代的著作権制度、ベルヌ条約、デジタル著作権	山本 順一 (桃山学院大学・教授)	山本 順一 (桃山学院大学・教授)
14	学校図書館をめぐるネットワーク	学校図書館が学校教育において期待される機能を現実に発揮するには学校内外、地域社会に存在する様々な機関と連携、ネットワークを形成しなければならない。 【キーワード】 ピア・ネットワーク、学校図書館ネットワーク、ネットワーク・アイデンティティ、コミュニティ	二村 健 (明星大学・教授)	二村 健 (明星大学・教授)
15	学校図書館と情報メディア教育の将来	高度情報通信技術はWeb2.0という考え方をすでに陳腐なものとし、このフィロソフィーの延長上に図書館ではLibrary 2.0、教育の世界ではEducation 2.0なるコンセプトを呼び起こしている。人間の主体的思考と所与の外在的存在となっているネットワークの資源と技術のかかわりを踏まえ、将来を展望する。 【キーワード】 Web 2.0、Library 2.0、Education 2.0、デジタルネイティブ、ネットジェネレーション	二村 健 (明星大学・教授)	二村 健 (明星大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	夏季集中科目 (看護師)	科目 コード	1887262	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 成人看護学 ('14) = (R)

英文名 = [Adult Nursing ('14)]

[主任講師 (現職名) : 井上洋士 (放送大学教授)]

[主任講師 (現職名) :]

※この科目は「成人看護学 ('10)」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1, 3, 4, 8, 10, 11, 13, 15回です。

講義概要

成人期にある人々を対象に、その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ。成人期は期間が長く、人口も多いため、成人看護学も看護学のなかで重要な位置を占めるが、その幅はきわめて広い。そこで本科目では、特に内容を精選する工夫をしており、また全15回から全体を構成・網羅しているが、お互いに関連し一貫性のある構造になるよう工夫している。

授業の目標

青年期から中年期に至る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や慢性的な障害、突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持のための具体的な看護援助方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護支援について、その概要を知ること。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	成人期にある人の特徴と健康問題 (※改訂回)	成人看護学が対象とする成人について概説する。具体的には、成人とはどのような人のことを指すのか、成人期の人の心身の変化と各期の特徴と発達課題、わが国の成人を取り巻く状況とライフスタイル、成人期にある今日の健康動向、そして成人期の人を対象とする看護の基本的考え方について、紹介する。 【キーワード】 ライフサイクル、成人期、発達課題、健康動向	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)
2	手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助	手術療法を受ける患者は、その選択までの意思決定、術前の心身の準備や術後の侵襲からの回復、さらには家庭や社会への復帰、術後の自己管理や定期受診など、治療や生活の過程で多くの課題に直面する。ここでは、周手術期看護の理念、意思決定を支援する看護、術前患者の身体的・心理的準備を整えるための看護、術後患者の心身の回復を促進する看護、そして手術患者の家庭・社会復帰を支援する看護について説明する。 【キーワード】 手術、意思決定、術前、術後、退院指導	佐藤まゆみ (千葉県立保健医療大学 教授)	佐藤まゆみ (千葉県立保健医療大学 教授)
3	慢性的な経過をたどる健康障害と看護 (※改訂回)	成人期に発症する疾患や受傷による健康障害は、多くの場合慢性に経過する。そこで、こうした慢性的な経過をたどる健康障害、それらと共に生きる患者の特徴、生活習慣病とそれらに対する近年の対策、慢性病をもつ患者への看護援助方法、慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の生活支援における看護の役割について説明する。アドボケートやリハビリテーションについても紹介する。 【キーワード】 慢性疾患、セルフケア、人生再構築	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	呼吸機能障害のある 成人への援助 (※改訂回)	「呼吸をすること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。この回では、呼吸機能とその障害、呼吸機能障害による生命や生活への影響、呼吸機能障害のある患者の主な検査と治療およびその看護、そして呼吸機能障害のある患者の看護について詳説する。 【キーワード】 呼吸機能障害、呼吸管理、生活調整	林 優子 (大阪医科大学看護学部 長・教授)	林 優子 (大阪医科大学看護学部 長・教授)
5	循環機能障害のある 成人への援助	循環機能障害は、生命の危機的状態から日常生活における生活調整の必要性といった様々な健康問題に影響を及ぼす。ここでは、循環機能障害の病態および原因となる疾患、循環機能障害患者が受ける検査・治療、再発・悪化予防のための生活調整に関する看護援助について、教授する。 【キーワード】 循環機能障害、生活習慣、心臓リハビリテーション	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)
6	消化・吸収機能と栄養代謝障害のある成人への援助	消化・吸収および栄養代謝にかかわる身体機能と、それらの障害のある患者への看護援助方法のポイントについて、胃がん、食道がん、ウイルス性肝炎、肝硬変症などを例に紹介する。さらに、関連して出現しやすい主な症状と、それらの発現している患者への看護援助方法を説明する。 【キーワード】 栄養摂取障害、食事、消化器	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)
7	生体防御機能障害のある成人への援助	成人の生体防御機能障害について概説し、二次バリア障害による主な疾患としてアレルギー、膠原病、HIV感染症などをとりあげ、特徴およびそれらのある成人への看護援助のポイントを説明する。さらに、看護における感染防御として、スタンダードプリコーションとそれに基づく感染予防策についても紹介する。 【キーワード】 生体防御機能障害、免疫機能低下、感染症	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)
8	感覚機能障害のある 成人への援助 (※改訂回)	感覚機能と、それが人間の生活にもたらす影響について説明した上で、特殊感覚機能の特徴とその障害をもつ成人への援助の説明へと進める。さらに、聴覚・視覚機能の障害を学び、中途視覚障害への理解を深め、基本的な援助方法についても紹介する。 【キーワード】 感覚機能、特殊感覚、聴覚、視覚、中途視覚障害者、ロービジョンケア	高柳 千賀子 (千葉県立保健医療大学 講師)	高柳 千賀子 (千葉県立保健医療大学 講師)
9	糖・脂質代謝障害のある成人への援助	糖・脂質代謝障害は、生活習慣に起因する疾患の発症や糖尿病や心疾患などの増悪・合併症の出現に大きく関連している。そこで、糖尿病と脂質異常症を軸に、それぞれの症状や治療について概観した上で、看護アセスメント、看護目標、看護援助のポイントを説明する。 【キーワード】 療養支援、糖尿病、生活習慣、行動変容	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
10	内部環境調節障害のある成人への援助 (※改訂回)	生命を維持するためには内部環境を一定に保持することが重要である。この回では、内部環境調節とその障害について扱う。具体的には、内部環境調節障害による生命や生活への影響、内部環境調節障害のある患者の主な検査と治療およびその看護、内部環境調節障害のある患者の看護について紹介する。 【キーワード】 体温調節障害、腎機能障害、腎不全、自己管理	林 優子 (大阪医科大学看護学部長・教授)	林 優子 (大阪医科大学看護学部長・教授)
11	脳・神経機能障害のある成人への援助 (※改訂回)	脳・神経機能障害は、日常生活上の困難性や、意欲の低下ならびに社会生活における不安や孤立といった影響をもたらす。ここでは、脳・神経機能障害の特徴、脳・神経機能障害を引き起こす原因疾患、そして脳・神経機能障害を持つ患者の安全を配慮し日常生活自立へ向けた援助方法について説明する。 【キーワード】 意識障害、高次脳機能障害	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)
12	運動機能障害のある成人への援助	運動機能障害は、運動器系、神経系、運動調節系など様々な原因により起こり、人の活動や参加などに影響を与える。活動性の低下は、新たな合併症の併発につながる危険性がある。ここでは、運動機能障害の基本的特徴、運動機能障害が生活機能に及ぼす特徴とアセスメント方法、そして運動機能障害に伴って起こりやすい合併症を予防し生活を整える看護について紹介する。 【キーワード】 運動機能障害、活動、生活機能	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)	野澤 明子 (前浜松医科大学教授)
13	排泄機能障害のある成人への援助 (※改訂回)	「排泄すること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。この回では、排泄機能とその障害について、排泄機能障害による生命や生活への影響、排泄機能障害のある患者の主な検査と治療およびその看護について、そして排泄機能障害のある患者の看護について紹介する。 【キーワード】 排便機能障害、排尿機能障害、ストーマ造設、排泄管理	林 優子 (大阪医科大学看護学部長・教授)	林 優子 (大阪医科大学看護学部長・教授)
14	性・生殖機能障害のある成人への援助	性行動・性機能の障害はセクシュアリティの障害として広く人々の生活や人生に影響を及ぼす。そこで、これらの特徴と看護援助について説明する。また、セクシュアリティの障害の原因となる疾患の代表的なものと看護のポイントについても説明する。さらに主な性感染症についても紹介する。 【キーワード】 性・生殖機能障害、セクシュアリティ	井上 洋士 (放送大学教授)	井上 洋士 (放送大学教授)
15	がん罹患及び人生の終末期を生きる人への援助(※改訂回)	わが国のがん政策の動向とがんの疫学、がん患者の特徴と主たるがん治療の概要を説明する。また、がん患者を看護するうえで必要な概念を説明する。終末期のがん患者が呈する症状、特にがん性疼痛に対する治療原則、ターミナルステージの各期の患者の特徴と患者・家族に対するケアについても紹介する。 【キーワード】 がん、がん対策、がんサバイバー、意思決定、終末期、緩和ケア、症状マネジメント、家族ケア	林 直子 (聖路加看護大学教授)	林 直子 (聖路加看護大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	夏季集中 (看護師)	科目 コード	1887238	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 老年看護学 (' 1 3) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 井出訓 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 〕

講義概要

本科目は、老年期を生きることの意味と価値との理解を深め、生物学的な老化から高齢者施策を含む社会的な視点に立ちつつ高齢者を捉えながら、老いを生きる人々への看護を考えていく授業である。授業の構成としては、老年看護学が対象とする高齢者の生活と健康を、高齢期に体験される「老い」という視点から理解したうえで、加齢に伴う心身の変化の特徴を、全人的な多角的観点から学習する。さらに、高齢者の権利擁護、老年期における生活機能の管理、老年期に特有の疾病・症候と看護支援、認知症高齢者へのケア、要介護高齢者へと家族への支援、最後に高齢者の終末期ケアについて学習する。

授業の目的

老年期を生きる高齢者の理解を深め、看護者として高齢者にかかわるために必要とされる知識、技術と理念の統合に向けた基盤づくりを図る。また、一般的な高齢者に対する固定観念にとらわれることなく、個性豊かな高齢者の姿をとらえる視点を学習する。さらに、老年期における特徴的な心身の変化への理解を深めるとともに、生涯発達という視点から人間としての豊かな暮らしを成就していく老年期を生きる高齢者の姿を学習し、終末期をも含めた高齢者の健康生活を支える看護実践にむけた基本的知識の習得を目的とする。

履修上の留意点

看護師国家試験の試験科目ともなる老年看護学の基本的事項に焦点を当てている。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	老年期を生きる高齢者の理解と老年看護の理念	老年看護学を学び始める入り口として、老いとはどのようなことを紐解きながら今日の社会で老年期を迎える人々への理解を深めていくとともに、高齢者の生活を支援する看護のありかたを解説する。また、老年看護における対象者の特性、ならびに老年看護の理念と目標について述べる。 【キーワード】 加齢と老い、発達、老年期、人生の統合、健康維持	井出 訓 (放送大学教授)	井出 訓 (放送大学教授)
2	わが国の高齢者と高齢者施策(高齢者保健施策と高齢者ケア施設)	高齢社会における保健医療福祉の動向を、老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン、介護保険法を中心に概説する。また、高齢者ケアを支える諸施設および職種とその役割について学び、高齢者をとりまく社会の変化とそれに対応した看護の場、看護職の役割を考察する。 【キーワード】 保健医療福祉制度、介護保険法、看護の場と役割、高齢者ケアにかかわる他職種	勝野 とわ子 (首都大学東京教授)	勝野 とわ子 (首都大学東京教授)
3	加齢に伴う心身の変化と看護の支援	加齢に伴って変化する高齢者の身体的、精神的、社会的機能の特徴を概説するとともに、加齢変化が高齢者に与える影響について解説する。また、高齢者の加齢変化を理解するうえで重要となるヘルスアセスメント方法の原則とポイントを述べる。 【キーワード】 加齢に伴う諸機能の変化、ヘルスアセスメント	同 上	同 上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	高齢者の権利擁護と倫理課題	今日の社会における高齢者への差別や偏見を考えながら、高齢者へ権利擁護を解説する。また、在宅や施設に暮らす高齢者への虐待、身体拘束など、倫理的な課題を学習するとともに、看護者としての支援の在り方を考察する。 【キーワード】 権利擁護(アドボカシー)、虐待、身体拘束、成年後見	井出 訓 (放送大学教授)	井出 訓 (放送大学教授)
5	老年期の生活機能マネジメント1ー生活リズム	高齢者が日常生活を営む上での生活リズムの特徴とリズム調整の意義とを説明し、リズムの乱れを生み出す行動のアセスメントや、睡眠と覚醒の変化について学習する。また、高齢者の生活リズムを整える看護支援について考察する。 【キーワード】 生活リズム、睡眠、覚醒	萩野悦子 (北海道医療大学准教授)	萩野悦子 (北海道医療大学准教授)
6	老年期の生活機能マネジメント2ー活動	老年期に生じがちな身体運動機能の障害について説明するとともに、その影響として現れる行動範囲、活動性の変化、廃用症候群、転倒・骨折の危険性等について学習する。また、高齢者の運動機能に関するアセスメントと看護、および予防について説明する。 【キーワード】 日常生活動作、ロコモティブシンドローム、廃用症候群、転倒・転落、機能維持、機能回復	原 等子 (新潟県立看護大学准教授)	原 等子 (新潟県立看護大学准教授)
7	老年期の生活機能マネジメント3ー食事	高齢者に見られる特徴的な歯・口腔の変化や、咀嚼、摂食・嚥下のプロセスにおける障害の発生と影響要因を解説し、摂食と嚥下、また栄養状態のアセスメントとともに、高齢者の食事に関する看護ケアについて学習する。 【キーワード】 低栄養、摂食・嚥下障害、口腔機能低下	同 上	同 上
8	老年期の生活機能マネジメント4ー排泄・清潔	高齢者の排泄(排便・排尿)能力がどのように障害されていくか、その特徴と影響要因について解説し、排泄のアセスメントと看護の援助について学習する。また、高齢者に特徴的な皮膚の変化について解説し、清潔に関するアセスメント、およびスキンケア、褥瘡対策の方法について述べる。 【キーワード】 失禁、便秘、排泄コントロール、ドライスキン、褥瘡、疥癬、スキンケア	同 上	同 上
9	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援1ー呼吸・循環	高齢者の呼吸機能、循環機能とその障害、ならびに影響要因について解説し、呼吸・循環機能のアセスメントについて学習するとともに、疾病に伴う生活障害にむけた看護支援について考察する。 【キーワード】 呼吸・循環機能の加齢変化、機能アセスメント、呼吸不全、心不全	井出 訓 (放送大学教授)	井出 訓 (放送大学教授)
10	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援2ー脳神経・認知機能	高齢者の脳神経系、認知機能系障害と影響要因について解説し、高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的、社会的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また、疾病に伴う高齢者の生活障害にむけた看護支援について述べる。 【キーワード】 脳卒中、パーキンソン病、せん妄、うつ	萩野悦子 (北海道医療大学准教授)	萩野悦子 (北海道医療大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援3ーリハビリテーション	老年期におけるADLと生活意欲の捉え方について述べ、ADLの拡大、生活意欲の向上に向けた看護支援のあり方について解説するとともに、高齢者の自律した生活をめざす看護援助の意義について述べる。 【キーワード】 リハビリテーション、生活機能障害、ADL、生活意欲、QOL	井出 訓 (放送大学教授)	井出 訓 (放送大学教授)
12	認知症の基本構造とケアの理解	認知症とは何かという基本構造を解説し、認知症高齢者を中心としたケアのあり方について述べる。また、認知症高齢者が急増する時代の中で看護師が果たす役割と担うべきケアとを確認しつつ、実例を交えながら認知症の人への先駆的ケアを紹介する。 【キーワード】 認知症ケア、中核症状と周辺症状、ステージ別アプローチ	永田 久美子 (認知症介護研究研修東京センター研究部副部長)	永田 久美子 (認知症介護研究研修東京センター研究部副部長)
13	認知症高齢者への看護ケア実践	なじみの関係、なじみの環境といった認知症高齢者のケアの基盤となる環境調整とコミュニケーションのあり方を説明する。また、認知症の人の安定した暮らしの継続に向けたチームアプローチについて解説し、看護師の具体的な活動の様子を実例から紹介する。 【キーワード】 なじみの関係作り、なじみの環境作り、日常生活支援、地域支援、チームアプローチ	同 上	同 上
14	在宅で生活する高齢者、およびその家族への看護	家族とは何か、家族アセスメントモデルなどについて解説するとともに、在宅で暮らす要介護高齢者、特に認知症高齢者と家族への看護活動の重要性を説明する。また、家族への看護援助のプロセスを事例を通して学習し、他職種との協働による支援のありかたについて考察する。 【キーワード】 家族、家族アセスメント、家族支援、他職種との協働	勝野 とわ子 (首都大学東京教授)	勝野 とわ子 (首都大学東京教授)
15	終末期における看護支援	生まれ、成長し、老いて、死ぬ人の人生において、老年期という人生の終盤をいかに豊かに生きるか。人間の発達という視点から老いを考えつつ、発達の最終段階としての老年期を生きる高齢者の支援について、また看とる家族へのかかわりについて解説し、高齢者の終末期看護について考察する。 【キーワード】 老年期、発達、終末期ケア、リビングウィル、看取り	井出 訓 (放送大学教授)	井出 訓 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	夏季集中 (看護師)	科目 コード	1887114	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア） ＝ 小児看護学 （'10）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：筒井 真優美（日本赤十字看護大学教授）〕

【本学担当専任教員：井上 洋士（放送大学教授）】

講義概要

近年の子どもと家族を取り巻く社会環境の変化は子どもの心身の健康状態に影響を及ぼし、また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で入院している子ども達の病気は重症化している。

こうした状況の中で、21世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学び、さらに、子どもと家族に対する今後の課題や私達の役割について考える。

授業の目標

変化する社会環境を認識し、子どもの最善の利益を守るための看護の役割が明らかになる。

履修上の留意点

社会環境は変化し続けているので、出生率、死亡率、死亡順位、受療率など統計数値は最新のものを各自確認すること。

また、予防接種、小児特定慢性疾患治療研究事業の対象となっている疾患群など、法律の改正にも各自確認すること。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	小児看護の動向と看護の役割	子どもと家族が置かれている状況を、社会環境と医療環境から考える。子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護の役割を説明する。 【キーワード】 子どもの最善の利益、小児看護の役割、社会環境、医療環境	筒井 真優美 (日本赤十字看護大学教授)	筒井 真優美 (日本赤十字看護大学教授)
2	乳児と家族	乳児は生理的適応過程にあり、身体機能が著しく成長・発達しながら栄養・睡眠・排泄リズムや言語を獲得し、基本的信頼関係を築いていくという過程でもある。乳児の成長・発達を育む家族の役割、乳児と家族への支援について説明する。 【キーワード】 成長・発達、基本的信頼関係、家族の役割、乳児を持つ家族への支援	江本 リナ (日本赤十字看護大学准教授)	江本 リナ (日本赤十字看護大学准教授)
3	幼児と家族	幼児期は心身の発達が著しく、基本的生活習慣を習得していくプロセスでもある。運動機能の発達により行動範囲が広がり、認知や言語の発達によりコミュニケーション能力が向上する。この発達プロセスと子どもを育むための家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。 【キーワード】 幼児の心身発達の特徴、基本的習慣、コミュニケーション、幼児への支援、幼児を持つ家族への支援	筒井 真優美	筒井 真優美

回	テ　　マ	内　　　　　　　　容	執　筆　担　当 講　師　名 (所属・職名)	放　送　担　当 講　師　名 (所属・職名)
4	学童期・思春期の子どもと家族	学童期は学校生活を中心として友達との関わりの中で達成感や有能感を獲得していく時期である。また、思春期は身体の劇的な成長や性的な変化を体験し、精神的な動揺の大きい時期であるが、その中で自我同一性を模索し、獲得していく。このような成長発達の特徴と家族関係の変化について説明する。 【キーワード】 第二次性徴、学校生活、子どもと家族関係の変化、学童期・思春期の子どもへの支援	川名　るり (日本赤十字看護大学准教授)	川名　るり (日本赤十字看護大学准教授)
5	病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	病気や入院が子どもと家族に与える影響は大きく、様々な因子によって変化する。子どもの発達段階別、入院形態別などによる援助、および面会や付き添いについて説明する。 【キーワード】 病気・入院・病棟環境の影響と看護、面会、付き添い	筒井　真優美	筒井　真優美
6	急性期にある子どもと家族 その1	急性期疾患を抱える子どもの場合、症状の悪化を防ぎ、安定した状態になることを目指す。そこで、発熱・脱水・呼吸困難・けいれんなど急性期の主な症状とその病態、観察ポイント、症状緩和に対する援助、家族への支援について説明する。また、乳幼児に多くみられる乳幼児突然死症候群についても触れる。 【キーワード】 発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、症状緩和と家族への支援、乳幼児突然死症候群	江本　リナ	江本　リナ
7	急性期にある子どもと家族 その2	小児期に発症する主な感染症の特徴、観察ポイント、発症と伝播を防ぐ予防接種について説明し、感染症の子どもと家族への援助について述べる。また、緊急度の把握、受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減に対する援助についても説明する。 【キーワード】 感染症、予防接種、感染症への対応、感染症の子どもと家族への援助	江本　リナ	江本　リナ
8	慢性期にある子どもと家族／外来における看護	現在、小児慢性特定疾患治療研究事業の対象となっている疾患は11疾患群ある。慢性疾患を抱えながら学校や幼稚園・保育園に通い、地域で生活している子どもと家族への継続的な援助について説明する。さらに、外来における看護の役割について述べる。 【キーワード】 小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性疾患を持つ子どもと家族の生活、子どものセルフケア、慢性疾患を持つ子どもと家族への援助、外来看護	川名　るり	川名　るり
9	子どもへの説明	子どもが医療を受ける際、説明を受けることで自ら取り組むことが出来るようになる。そのためには、インフォームド・アセントが重要である。インフォームド・アセントに必要な子どもの能力、アセントの要素、家族や医療者の役割について、説明する。 【キーワード】 説明と納得、子どもの取り組み、インフォームド・アセント、家族や医療者の役割、子どもの力	筒井　真優美	筒井　真優美

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	先天性の疾患を持つ 子どもと家族の看護	子どもの先天性の疾患は、その原因が発生した時期の違いから、「遺伝子病」「配偶子病(染色体異常症)」「胎芽病」「胎児病」に分けられる。それぞれの代表的な疾患を挙げ、その治療、予後、また、出生後からの子どもと家族への援助について説明する。 【キーワード】 先天性の疾患の種類と特徴、マス・スクリーニング、治療と予後、先天性の疾患を持つ子どもと家族の理解と援助	川名 るり	川名 るり
11	手術を受ける子どもと 家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助について説明する。また、近年増加している日帰り手術について述べる。 【キーワード】 子どもの手術の特徴、手術の決定、手術を受ける子どもと家族の思いと援助、日帰り手術	川名 るり	川名 るり
12	子どもの事故と救急	乳幼児死亡原因ともなる不慮の事故の特徴を発達段階別に概観し、その予防策について述べる。また、気道内異物、消化管異物、溺水、熱傷などの救急法と心肺蘇生法、救急処置を受ける子どもと家族への援助について説明する。 【キーワード】 子どもの事故、事故防止、気道内異物、誤飲、溺水、熱傷、救急法	江本 リナ	江本 リナ
13	障害のある子どもと家 族／在宅ケア	障害児のなかでも特に、医療的ケアを必要とする長期入院児とその家族が置かれている状況を考え、生活場所の意思決定、在宅に移行するための準備など、退院に向けた支援について説明する。さらに、子どもが成長・発達に応じた通常の生活をするために、在宅ケアにおける看護師の役割を説明する。 【キーワード】 障害と障害受容、肢体不自由、発達障害、重症心身障害児、超重症児、医療的ケア、療養場所の選択と意思決定、在宅への移行支援、在宅療養、在宅ケア、訪問看護	鈴木 真知子 (京都大学大 学院教授)	鈴木 真知子 (京都大学大 学院教授)
14	隔離・活動制限／痛 み	子ども自身や周囲の人を感染から防ぐために隔離が必要な場合や、治療・検査のために一時的に体動が制限される場合の子どもへの影響と、子どもと家族への支援について説明する。また、子どもが体験する痛み、影響する要因、痛みの客観的評価、痛みの緩和への援助について説明する。 【キーワード】 隔離、活動制限、隔離や活動制限による子どもへの影響、子どもの痛み、痛の緩和援助	江本 リナ	江本 リナ
15	子どもの死と家族へ の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族にどのような援助が必要かを考える。死に対する子どもの反応や、他人の死を子どもにどのように伝えるかなど、死をめぐる課題を説明する。また、災害(自然災害及び人為的災害)時の子どもと家族への援助について考える。 【キーワード】 死に行く子ども、死の概念、他人の死、災害、子どもと家族への援助	筒井 真優美	筒井 真優美

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	夏季集中科目 (看護師)	科目 コード	1887254	履修 制限	無	単位 数	2

科目名 (メディア) = 母性看護学 (' 14) = (TV)

英文名 = [Maternity Nursing (' 14)]

〔主任講師 (現職名) : 齋藤いずみ (神戸大学大学院 保健学研究科 教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 井出 訓 (放送大学 教授) 】

講義概要

母性看護学は、妊産褥婦および新生児に関する基礎的知識と看護について学ぶマタニティサイクルと、女性の生涯にわたる性と生殖に関する健康を支援に関わるライフサイクルを主とした学習に大別される。周産期(妊娠・分娩・産褥・新生児期)を中心に、女性の一生においては思春期から更年期・老年期までの女性とそのパートナー、子供、家族を主な看護の対象とする。それらの人々に、社会・国内外の動向をたえず考慮しながら、科学的根拠に基づき、適切な看護を提供可能とするための知識を学ぶ。また母性看護学および関連分野の研究成果を十分に反映した内容とする。

授業の目標

マタニティサイクル、およびライフサイクル各期の基礎的メカニズムとその看護について科学的根拠に基づき理解できること、およびウィメンズヘルスの視点からの女性の性と生殖に関する健康支援に関する方策を理解できること、さらに国際的視野からわが国の少子化および育児支援に関する社会システムや政策を考える機会となることを目標とする。

履修上の留意点

妊娠・出産・産褥・新生児期に関する医学的基礎知識を、参考書や市販の教科書で補完することにより、母性看護学本来の看護部分への理解が深まり、母性看護学の楽しさも一層味あえるものとなる。また受講生の皆様の居住する地域の自治体や職場の母子保健制度を調べることによって、一層身近な問題としてとらえることが可能となり、また市民として賢く制度を利用できると思われる。看護職以外の視聴者の皆さまにも、現代のあるいは将来の、妊娠・分娩・子育て期の人々に、役立ち楽しめる科目構成となることも一部念頭に置く。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	母性看護学の概要	母性という基本的概念を学び、マタニティサイクル、ライフサイクル各期に関する考え方を理解する。母性看護学の学問としての成り立ちと変遷を学び、学問体系を理解する。セクシュアリティやジェンダーの視点について概観し、母性看護学に深く影響する理論について学ぶ。 【キーワード】 母性の概念 マタニティサイクル ライフサイクル ウィメンズヘルス セクシュアリティ ジェンダー リプロダクティブヘルスアンドライツ 母性看護学 助産学	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)
2	統計値から見る日本の母子保健水準	統計値を読み理解し、将来の政策や作戦を考える宝庫が、母子保健統計である。母子保健統計を読むために必要となる用語の定義を理解し、人口動態統計を概観する。ベビーブーム、ひのえうま現象、人口減少局面にある日本の現状、周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率、合計特殊出生率等から日本の母子保健水準の概要を理解する。 【キーワード】 人口動態 周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率 合計特殊出生率 ひのえうま現象	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)
3	統計値から見る諸外国の母子保健水準	世界各国の母子統計統計値と日本の値を比較検討し、世界の中で日本の置かれている状況を理解する。各国の母子保健政策を学び、将来の日本の方向性を考える基礎的知識を学ぶ。視聴覚教材においては、後発開発途上国の母子保健の現状について学び、わが国の医療職の海外における活動について理解する。 【キーワード】 諸外国における周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率・合計特殊出生率 日本との比較 後発開発国の母子保健の現状	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	生殖のメカニズム	女性生殖器の構造、月経周期とホルモン調節の関わりを理解し、月経周期におけるホルモン分泌と子宮内膜の変化を学ぶ。射精、排卵、受精、着床、妊娠にいたる妊娠の成立にいたる過程を学ぶ。 【キーワード】 女性生殖器 性周期 女性ホルモン 卵子 精子 受精 着床 妊娠の成立	定方美恵子 (新潟大学大学院保健学研究科・教授)	定方美恵子(新潟大学大学院保健学研究科・教授)
5	妊娠期	妊娠の進行に伴う全身の変化と胎児の成長、並びに胎児発育に関わる胎盤ホルモンの作用を理解し、妊娠各期に生ずる身体的、心理社会的変化を学ぶ。この時期の女性におこりやすい健康課題に対する看護の援助方法を学ぶ。 【キーワード】 妊娠初期・中期・末期 妊娠期の健康診査 保健指導 育児・出産準備	定方美恵子 (新潟大学大学院保健学研究科・教授)	定方美恵子(新潟大学大学院保健学研究科・教授)
6	分娩期	分娩開始と分娩経過を理解し、分娩進行に伴う産婦の身体的・心理社会的変化と胎児に対する看護の援助方法を学ぶ。また、分娩に伴い起こりやすいリスクと医療による対応について解説する。 【キーワード】 分娩経過 分娩の三要素(娩出力・産道・娩出物) 産痛緩和 周産期医療システム	定方美恵子 (新潟大学大学院保健学研究科・教授)	定方美恵子(新潟大学大学院保健学研究科・教授)
7	産褥期	産褥0日から7日までの母体の正常な進行性・退行性変化について理解し、その時期の女性が抱えやすい健康問題や不安とそれに対する看護の援助方法を学ぶ。また退院後1か月健診までの経過についても概観する。 【キーワード】 進行性変化 母乳 乳汁分泌 ポジショニング ラッチオン 退行性変化 子宮復古 悪露 親役割	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)
8	新生児期	出生直後、および生後0日から生後7日未満までを中心に新生児の正常な生理的・身体的変化を理解する。正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護の援助方法を学ぶ。また生後28日未満までの変化についても概観する。 【キーワード】 出生時体重 週数相当 低出生体重児 アプガール・スコア 成熟兆候 肺サーファクタント 胎児循環 生理的体重減少	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)
9	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児	妊娠・分娩・産褥期、新生児期の代表的異常事例を学ぶ。また、身体的ハイリスクのみならず、母親や子どもの社会的ハイリスクについても理解し対応を学ぶ。 【キーワード】 周産期 身体的異常 心理的ハイリスク 社会的ハイリスク	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)	三隅順子(東京医科歯科大学・講師)
10	ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の事例	既往疾患、精神疾患などを合併し妊娠・分娩・産褥期を経過する複雑な困難事例に対する母性看護専門看護師のアプローチの実際を学ぶ。 【キーワード】 母性看護専門看護師 他分野の専門看護師・認定看護師との協働	佐藤陽子(昭和大学/昭和大学病院・講師/母性看護専門看護師)	佐藤陽子(昭和大学/昭和大学病院・講師/母性看護専門看護師)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	周産期の安全と質の保証	医療事故、医療の安全と質に関する基礎的知識を学び、周産期における医療の安全と質に関する理解を深める。また助産外来と院内助産の概要を学び、産婦人科医師が減少した状況下における、安全と質について考察する。分娩期の看護事例を基に、分娩曜日、時刻、疾患のグレードの違いなどの視点から、安全な分娩時の看護体制についてデータから導き出す方法を学ぶ。 【キーワード】 医療事故 医療の安全と質 産婦人科診療ガイドライン 周産期の安全と質に関する研究事例	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)
12	母性看護学における倫理的諸問題	母性看護学分野の実践において、かかわることが多い倫理的課題について理解し、医療倫理と看護倫理の視点からの検討について学ぶ。生殖にかかわる生命倫理の話題として不妊治療の場面を通して看護倫理の在り方を学ぶ。 【キーワード】 不妊治療 生命倫理 出生前診断 看護倫理	定方美恵子 (新潟大学大学院保健学研究科・教授)	定方美恵子(新潟大学大学院保健学研究科・教授)
13	ライフサイクル思春期	思春期における心身の変化と特徴について理解する。思春期に起こりやすい心身の異常や性の問題について学び、健全な成長への支援について考える。 【キーワード】 第二次性徴 月経異常 ボディイメージ やせ・肥満 人工妊娠中絶 学校保健	千場直美 (神戸大学大学院保健学研究科・准教授)	千場直美 (神戸大学大学院保健学研究科・准教授)
14	ライフサイクル更年期・老年期	更年期における女性の心身の変化と特徴を理解する。更年期女性に起こりやすい様々な症状や疾患を理解し、予防法、健康維持方法、及び治療法等について学ぶ。 【キーワード】 更年期 閉経 更年期症状 ホルモン補充療法 健康寿命	千場直美 (神戸大学大学院保健学研究科・准教授)	千場直美 (神戸大学大学院保健学研究科・准教授)
15	世界の周産期医療システムと日本の課題	世界の医療システム・周産期医療システムについて概観し、各国の周産期に関わる看護職の果たす役割について学ぶ。アメリカ、イギリス、オランダ、フランス、カナダなどと日本のシステムの比較検討を行う。院内助産システムなどを例に、日本の周産期を中心に母子保健における課題と対策を考察する。 【キーワード】 世界の医療・周産期医療システム 周産期に関わる看護職の活動 アメリカ、イギリス、オランダ、フランス、カナダ 日本の現状と課題	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)	齋藤いずみ (神戸大学大学院保健学研究科・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	夏季集中 (看護師)	科目 コード	1886916	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 精神看護学 （'09）＝（R）

〔主任講師（現職名）： 出口 禎子（北里大学教授） 〕

【担当専任教員： 戸ヶ里 泰典（放送大学准教授） 〕

講義概要

精神看護の対象は精神疾患を持った人に限らず、年齢も発達段階も多様である。最近では精神看護学は、広く人間を理解するための精神保健と、精神疾患を持った人へのケアの方法を学習する精神看護学の2領域で構成されている。ここでは、ライフサイクルに伴うストレスやその対処法、家族内の人間関係、歴史や法律、人権擁護などについての基礎知識を習得した上で、主な精神疾患の理解とケアの方法を学習する。さらに日本の精神医療における課題となっているリハビリテーションの現状や触法医療についても学習を進める。

授業の目標

精神看護学は看護の対象である人間の心理と行動を理解するための基礎となる科目である。その基礎知識をもとに疾患や障害を持っている人とその家族をめぐる人間関係を理解し、精神疾患患者と看護師との援助関係を築きながら、彼らが自分らしく生きるために看護が果たす役割と支援方法について理解する。

履修上の留意点

最近の精神医療の動向や法律の改正などにも関心を持ち、メディアからの情報にも注目しながら学習を進める。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	精神看護学の考え方	単に病気や障害のあるなしに関わらず、すべての人に自己実現を目指して自分らしく生きる権利がある。精神看護はそのような生き方を支援する役割を持つ。また人は人と人との関わりの中で傷つくことも多いが人との関わりを通して癒されるという対人関係の基本的な考え方を学習する。 【キーワード】 健康の概念 自己理解	出口禎子 (北里大学教授)	出口禎子 (北里大学教授)
2	人間の精神活動と防衛機制	危機状況下で自然に起こる感情反応である不安は、解決への道筋で、人間の心的生活にポジティブな影響を与えるものでもある。精神活動を精神機能と身体の観点から捉えた上で、不安や脅威が生じたときに無意識的に働く自我の防衛機制に焦点を当て学習する。 【キーワード】 精神活動 不安 防衛機制	榊恵子 (昭和大学准教授)	榊恵子 (昭和大学准教授)
3	ライフサイクルとメンタルヘルス	人はそれぞれ成長に伴う発達課題を乗り越えながら生きている。私たちの人生とメンタルヘルスは切り離せないものであるが、各年代の発達課題の特徴とそれらが人生に与える影響を説明する。 【キーワード】 ライフサイクル、発達課題、メンタルヘルス	若狭紅子 (横浜市立大学教授)	若狭紅子 (横浜市立大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
4	精神医療の歴史	精神医療は、精神障害者に対する隔離や拘束の時代からノーマライゼーションが推進される時代へと変遷をとげている。ここでは、欧米・日本の精神医療について解説する。 【キーワード】 欧米の歴史、日本の歴史、精神障害者の処遇	岡田佳詠(筑波大学准教授)	岡田佳詠(筑波大学准教授)
5	人権擁護と法律	精神医療には、入院形態や施設、拘束など強制的な行為が伴う。だからこそ精神医療には人権擁護の考えが必要である。様々な制約が患者の心理や生活に与える影響を、インフォームドコンセントや自己決定の視点から考える。 【キーワード】 精神保健医療福祉に関連する法律、精神保健医療福祉施策、精神科看護師の倫理的役割	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)
6	精神障害をもつ人の生活	心を病む体験は、精神症状、日常生活、個々の生活史、家族や地域あるいは看護師を含む医療者との人間関係などから、さまざまな影響を受けている。こうした視点から体験を捉えながら、精神障害者の生活理解を図る。 【キーワード】 精神症状 生活史 人間関係	榊恵子 (昭和大学准教授)	榊恵子 (昭和大学准教授)
7	精神障害者と家族	家族関係は、精神障害者の生活や生きる困難さに直接関与している。そのため、障害者を支える家族への心理・社会的支援が必要である。家族の障害者への影響、障害者の家族が置かれている状況を知り、さらには家族支援のあり方を学習する。 【キーワード】 家族関係 家族の抱える困難 心理・社会的支援	榊恵子 (昭和大学准教授)	榊恵子 (昭和大学准教授)
8	精神科におけるケアの方法	入浴の介助や洗髪など日常生活行動やプログラム参加への支援は重要なケアである。それぞれの援助は精神療法的な関わりの場となり、対人関係を深める機会となる。その役割と根拠について説明する。 【キーワード】 日常生活行動 プログラム学習 社会学習	出口禎子 (北里大学教授)	出口禎子 (北里大学教授)
9	精神科における治療の概要とケア①	精神科では、薬物以外にも精神療法、社会療法など多くの治療がある。ここでは、特に精神療法のなかでも、近年うつ病や統合失調症などに効果があるとされる認知行動療法について解説する。 【キーワード】 精神療法、認知行動療法、社会療法	岡田佳詠 (筑波大学准教授)	岡田佳詠 (筑波大学准教授)
10	精神科における治療の概要とケア②	薬物療法が導入されて以後、精神障害者を苦しめる精神症状はコントロールできるようになった。特に急性期における薬物療法の意義は大きい。その一方で向精神薬には深刻な副作用もあり、患者の日常生活や予後にも大きな影響を与えている。ここでは薬物療法の考え方と援助方法の基本を学習する。 【キーワード】 精神科における薬物療法、服薬を支える看護、服薬自己管理	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
11	統合失調症の人への援助	統合失調症は、現在、人口の0.5～2%の有病率と決して珍しい疾患ではなく、精神病院の入院患者のうち最も多くを占める。ここでは、統合失調症の症状、病因、診断、予後、治療、看護等について解説する。 【キーワード】 統合失調症、セルフケア援助、服薬・症状管理	岡田佳詠 (筑波大学准教授)	岡田佳詠 (筑波大学准教授)
12	気分障害の人への援助	近年、うつ病や躁うつ病等の気分障害で悩む人々が増加する傾向にある。病気の特徴を理解した上で、より患者の状況に適した治療および看護援助について学習するとともに、気分障害の人々が社会の中で自分らしさを保ちながら回復過程を歩むことができるように、社会資源の活用や予防対策について学習する。 【キーワード】 うつ病、躁うつ病、セルフケア援助	若狭紅子 (横浜市立大学教授)	若狭紅子 (横浜市立大学教授)
13	精神科リハビリテーションの考え方	精神科におけるリハビリテーションは、社会復帰という意味に留まらず、全人的復権を意味する。就労の機会や自分で自分の住む場所を選択し、自分らしい生き方を支援する看護の役割と、現在のリハビリテーションの課題について学習する。 【キーワード】 精神科リハビリテーションの概念、施設で行われる精神科リハビリテーション、地域で行われる精神科リハビリテーション	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)	荻野雅 (国際医療福祉大学准教授)
14	地域ケアとソーシャルサポート	障害を持ちながら社会の中で生きるためには、様々な居宅支援や就労支援に関するソーシャルサポートの方法がある。その種類と実際の活用の実態、および社会生活を支援する看護師の役割について学習する。 【キーワード】 ソーシャルサポート 居宅生活支援 就労支援	出口禎子 (北里大学教授)	ゲスト:千葉信子さん 出口禎子 (北里大学教授)
15	精神看護専門看護師と看護活動	精神看護および精神科看護における、より高度な知識と技術を用いて看護ケアの質の向上を図る目的で専門看護師／認定看護師が誕生し、看護現場で活躍している。ここでは、認定看護師／専門看護師に関する教育・制度・看護活動の実際について学習する。 【キーワード】 精神看護、認定看護師、専門看護師	若狭紅子 (横浜市立大学教授)	若狭紅子 (横浜市立大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	夏季集中 (看護師)	科目 コード	1887220	履修 制限	無	単位 数	2

科目名（メディア）＝ 看護管理と医療安全 （'12）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大島 弓子（京都橘大学教授）〕
 〔主任講師（現職名）：飯島佐知子（順天堂大学教授）〕
 【本学担当専任教員：井上 洋士（放送大学教授）】

講義概要

臨床における看護管理とは、患者や家族に看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために看護職員が行う仕事の過程である。本科目ではマネジメントサイクル、組織構造、看護提供システム、目標管理、キャリア開発、リーダーシップ理論、労務管理、看護の質の評価と管理、情報管理等について講義する。医療安全では、医療事故の定義、看護業務における医療事故の分類、看護事故防止の考え方、注射、輸液、内服、経管栄養、チューブ管理、転倒・転落、入浴中の事故の防止など看護関連事故の具体的方法について講義する。

授業の目標

「看護管理」は医療施設などの組織で働く看護職が専門職業人として社会情勢の変化や医療政策の変化に対応し責任を持って働く姿勢を身につけるために必要な知識の獲得を目標とする。「医療安全」は、組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、看護職に多い医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶことを目標とする。

履修上の留意点

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	看護管理学とは、看護職と法制度	看護管理とは何かの概念と意義を理解し、看護管理の発達と学問的な位置づけを概括的に知る。看護の活動・教育・研究を担う看護専門職の概念と定義を理解し、看護が専門的な活動であることの概観をつかむ。その活動は、看護に関わる法制度に則り、患者・家族のニーズにそった質の高い看護を提供するシステムであることを理解する。また、看護専門職として患者・家族の自律と権利を尊重するなどの倫理規範を持っていること、その育成の教育制度についても概括を理解する。 【キーワード】 看護管理学の定義、看護職の定義、専門職の定義、看護にかかわる法制度、看護システム、患者の権利の尊重、職業倫理、看護職の教育制度	大島弓子・京都橘大学教授	大島弓子・京都橘大学教授
2	健康保険制度	保健医療サービスの提供組織の管理を行うためには、医療保険制度についての知識が不可欠である。本講義では、他の先進国との比較から我が国の医療制度の現状と課題について学び、我が国の健康保険制度について学習する。 【キーワード】 健康保険制度、看護政策	飯島佐知子・順天堂大学教授	飯島佐知子・順天堂大学教授
3	診療報酬制度と看護の報酬	我が国の診療報酬制度について学び、そのどのような仕組みで医療行為に報酬が支払われているのかを学ぶ。また、どのような看護行為に診療報酬の対価が支払われているのかを学び、診療報酬制度の課題について考える。 【キーワード】 診療報酬制度、看護の診療報酬	飯島佐知子・順天堂大学教授	飯島佐知子・順天堂大学教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	看護組織の管理	患者のニーズに沿った医療を提供するためには、看護師や医師など保健・医療サービスの提供者を組織化する必要がある。病院では看護師は最も人数の多い専門職集団であり、患者に直接接することから、常に組織の構成員である看護職員の仕事へのモチベーションを高め、質の良い看護を提供できる組織づくりが求められる。ここでは、組織の成り立ちと構想、動機づけ理論などの基礎理論について学ぶ。 【キーワード】 組織とは、看護部門の組織構造、組織の理念と目標、「科学的管理法」「人間関係論」「目標による管理」動機付け理論	勝山貴美子・ 横浜市立大学医学部看護学科教授	勝山貴美子・ 横浜市立大学医学部看護学科教授
5	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントは対象者に提供されるケアを対象者ごとに個別にマネジメントすることである。対象者の状態を目標に近づけるために医師や医療従事者などの提供するサービスも含めて、全ての資源を活用し、確認、評価、調整することである。 【キーワード】 看護基準、看護手順、看護ケア提供システム、他職種との協働、クリニカル・パス	勝山貴美子・ 横浜市立大学医学部看護学科教授	勝山貴美子・ 横浜市立大学医学部看護学科教授
6	リーダーシップ	リーダーシップは、組織を活性化させ、目標・目的に向かって人を導いていくことであり、より具体的には目標達成に向けて他の人達の行動について指導、教育、動機付け、指示を行うことである。また、特定の個人のもつ資質や能力によるものではなく、学習によって習得可能な行動であるとされている。 【キーワード】 リーダーシップ、特性理論、パス・ゴール・モデル、SL理論、変革理論、PM理論	田中幸子・東 京慈恵会医 科大学教授	田中幸子・東 京慈恵会医 科大学教授
7	看護師のキャリア開発	キャリアとはホールによれば、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。組織の一員として働く看護職が、生涯における職業を通じての組織内で自己実現を果たし、どのように組織の発展への貢献していく仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 キャリアの定義、キャリア開発、キャリア発達、クリニカルラダー、セカンドキャリア	田中幸子・東 京慈恵会医 科大学教授	田中幸子・東 京慈恵会医 科大学教授
8	病院の財務会計と管理会計	我が国の医療施設の経営は厳しい状況にあり、その中で質の良い医療サービスを提供することが求められている。看護職も例外ではない。本章では病院の費用の管理に関する基本的な用語について学ぶ。 【キーワード】 病院会計准则、財務諸表、原価計算、費用効果分析	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授
9	情報管理(1)	看護管理における情報管理の目的は、看護管理に関わる様々な状況で意思決定を行えるように、情報を活用することである。情報管理のもう一つの目的はセキュリティにある、そこで本章では、情報活用とそのために必要な知識・技術であるリテラシーと、セキュリティを維持向上する方法と患者のプライバシーを扱う医療者としての作法としての情報倫理について学ぶ。 【キーワード】 情報、情報活用、リテラシー、セキュリティ、プライバシー、情報倫理	波多野 浩道 鹿児島大学 医学部保健 学科地域看 護・看護情報 学講座 教授 兒玉慎平 同 講師	波多野 浩道 鹿児島大学 医学部保健 学科地域看 護・看護情報 学講座 教授

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	情報管理(2)	看護管理における情報管理には、情報技術(IT)が強力なツールとして活用される。情報のIT化によるシステム構築が、看護部門独自に、医療施設単位で、さらには地域レベルで、現在試みられている。そこで、医療情報システムについて、オーダリングシステム、電子カルテシステム等を概観する。看護情報の標準化と看護管理にどのように情報システムが活用できるかを看護必要度等により学び、最後に、情報管理の現状と看護師の役割を総括する。 【キーワード】 医療情報システム、オーダリングシステム、電子カルテ、標準化、看護必要度	波多野 浩道 鹿児島大学 医学部保健 学科地域看護・看護情報 学講座 教授 兒玉慎平 同 講師	波多野 浩道 鹿児島大学 医学部保健 学科地域看護・看護情報 学講座 教授
11	看護の質の評価と管理	質の良い看護を提供することはこれまでも看護職の目標であったが、今日、医療・看護を基準に基づいて評価し、改善を図ろうとする統合したシステムが取り入れられている。その概念枠組みや評価基準の実践について学ぶ。 【キーワード】 医療の質の定義、構造、過程、結果の指標、第三者評価、看護の質の評価指標	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授
12	医療事故と事故防止の考え方	1999年のY大学病院の医療事故以来我が国でも医療事故防止への組織的な取り組みが社会的要請となり、医療の質と安全性の向上のためにリスクマネジメントが行われるようになった。ここでは、医療事故の定義や発生の現状について学ぶ。 【キーワード】 医療事故の定義、医療事故の発生件数、事故防止の考え方	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授
13	診療補助に伴う事故の防止	注射や投薬など看護職が行う診療補助業務における事故は医療提供者側の要因で発生することが多い。診療補助業務には、医師の指示から実施までに複雑なプロセスが存在する。各プロセスにおける危険要因を整理し、それらの要因の背景にある危険因子について学ぶ。 【キーワード】 注射業務、輸液ポンプ、輸血業務、経管栄養、内服与薬業務、チューブ管理の事故防止	森田恵美子・ 公立陶生病 院 看護管理 部長 医療安全 管理室主 幹	森田恵美子・ 公立陶生病 院 看護管理 部長 医療安全 管理室主 幹
14	療養上の世話における事故の防止	療養上の世話における事故の中で最も多い事故は転倒・転落によるものである。本章では転倒・転落のについて、発生状況、患者側のリスクアセスメント、予防対策について具体的に説明する。 【キーワード】 転倒の定義、発生率、発生状況、転倒リスクアセスメント、転倒予防対策	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授	飯島佐知子・ 順天堂大学 教授
15	組織としての医療安全対策	1つの不幸な事故の背景には何十、何百もの同様のニアミスが存在するといわれている。事故防止に組織的に取り組むためにはそのような、ニアミスや事故の情報を的確に収集し分析し、対策立案、評価するシステムの構築が必要である。 【キーワード】 安全管理指針、ヒヤリ・ハット、事故報告による情報収集と事故分析、国の対策	森田恵美子・ 公立陶生病 院 看護管理 部長 医療安全 管理室主 幹	森田恵美子・ 公立陶生病 院 看護管理 部長 医療安全 管理室主 幹

この冊子に掲載した 2014 年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。



古紙配合率100%再生紙を使用しています